高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第161集

若宮ノ東遺跡Ⅲ

都市計画道路高知南国線建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅲ

2025.1

高　知　県

(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

若宮ノ東遺跡Ⅲ

都市計画道路高知南国線建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅲ

2025.1.

高　知　県

(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

序

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターでは，平成 28 年度から高知県中央東土木事務所の業務委託を受けて都市計画道路高知南国線の建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施しています。計画路線内には若宮ノ東遺跡と忠兵衛遺跡が所在しています。調査成果の一部については令和４年３月に『若宮ノ東遺跡Ⅰ』，令和５年３月に『若宮ノ東遺跡Ⅱ』の公刊を通して公開してきたところです。

一連の発掘調査により当遺跡は弥生時代から近世までの遺跡であることが明らかになるとともに，南国市篠原が辿ってきた歴史を具体的に語ることができるようになりました。弥生時代では後期後葉～古墳時代初頭の拠点的な集落跡，飛鳥時代～平安時代では評衙跡・正倉跡その他官衙に関連する施設，中世では有力者の屋敷跡群が見つかっており，長きにわたって政治的・経済的に重要な地であったことを示しています。まだ明確にできず課題として残されたものもありますが，今回の発掘調査による成果は南国市の歴史のみならず，高知県の歴史を復元するうえでも欠くことのできない遺跡の一つに数えられます。

最後になりましたが，今回の調査では高知県中央東土木事務所，南国市教育委員会をはじめ地元の皆様には多大なご理解とご協力を得ることができました。また，発掘作業・整理作業に従事してくださった作業員の皆様に対しましても厚く御礼を申し上げます。

令和７年１月

公益財団法人高知県文化財団　埋蔵文化財センター
所　長　山下　英雄

例　言

1．本書は都市計画道路高知南国線の建設に伴い，平成30年度，令和元・2年度に実施した4区・8～11区の発掘調査報告書である。

2．本調査は，高知県中央東土木事務所から受託し，公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した。

3．若宮ノ東遺跡は長岡台地の縁辺部に立地する弥生時代から近世までの複合遺跡で，弥生時代後期の集落跡，古代の官衙関連遺構，中世の屋敷群など多くの遺構・遺物が確認されている。調査面積は平成30年度(8－1区)が570㎡，令和元年度(4区東・9－1区・9－2区・11－2区東)が2,639㎡，令和2年度(4区西・8－2区・9－1区・9－3区・10－1区・10－2区・10－3区・11－1区・11－2区西・11－3区)が2,403㎡である。

4．発掘調査・整理作業は次の体制で行った。

平成30年度

総　　括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長　松田直則
総　　務：同次長兼総務課長　和田安弘，同総務係長　吉森和子
調査総括：同調査課長兼調査第一班長　吉成承三
調査担当：同調査第二班長　坂本憲昭，同専門調査員　久家隆芳，同調査員　下木千佳
　　同調査補助員　坂本憲彦・大賀幸子・岡林真史・野﨑益範
事務職員：今田琴美
事務補助員：北村幸絵・笹野女怜

令和元年度(平成31年度)

総　　括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長　松田直則
総　　務：同次長兼総務課長　和田安弘，同総務係長　吉森和子，同主査　門田香織
調査総括：同調査課長兼調査第一班長　吉成承三
調査担当：同調査第二班長　坂本憲昭，同専門調査員　西村豊史・久家隆芳
　　同調査補助員　大賀幸子・岡林真史・田上修造
事務職員：今田琴美
事務補助員：北村幸絵

令和2年度

総　　括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長　松田直則
総　　務：同次長兼総務課長　橋田歩，同主査　門田香織
調査総括：同調査課長兼調査第一班長　吉成承三
調査担当：同調査第二班長　坂本憲昭，同専門調査員　久家隆芳，同調査員　綾部侑真
　　同調査補助員　大賀幸子・岡林真史・幾野雄也
事務職員：今田琴美
事務補助員：北村幸絵

令和3年度

総　　括：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長　松田直則
総　　務：同次長兼総務課長　橋田歩，同主査　門田香織
調査総括：同調査課長　吉成承三

例言

調 査 担 当 ：同チーフ　坂本憲昭・久家隆芳, 同調査員　綾部侑真・宮地啓介
同調査補助員　大賀幸子・岡林真史
事 務 職 員 ：今田琴美
事務補助員 ：北村幸絵

令和４年度
総　　括 ：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長　松田直則
総　　務 ：同次長兼総務課長　橋田歩, 同主査　門田香織
調 査 総 括 ：同調査課長　吉成承三
調 査 担 当 ：同チーフ　久家隆芳, 同調査員　下木千佳・宮地啓介
同調査補助員　大賀幸子・松田克純
事 務 職 員 ：今田琴美
事務補助員 ：北村幸絵

令和５年度
総　　括 ：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長　山下英雄
総　　務 ：同次長兼総務課長　森本由香, 同主査　門田香織
調 査 総 括 ：同調査課長　吉成承三
調 査 担 当 ：同チーフ　久家隆芳, 同専門調査員　徳平涼子, 同調査員　宮地啓介
同調査補助員　大賀幸子・大原直美
事 務 職 員 ：今田琴美
事務補助員 ：北村幸絵

令和６年度
総　　括 ：公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センター所長　山下英雄
総　　務 ：同次長　今田充, 同次長兼総務課長　森本由香, 同総務係長　門田香織
調 査 総 括 ：同調査課長　吉成承三
調 査 担 当 ：同チーフ　久家隆芳, 同専門調査員　徳平涼子, 同調査員　宮地啓介
同調査補助員　大賀幸子・坂本憲彦・大原直美
事務補助員 ：北村幸絵・奥宮千恵子

５．４区西・８－２区・９－１区・９－３区・10－１区・10－２区・10－３区・11－１区・11－２区西・11－３区：綾部が基礎整理, 実測遺物の選び出しを行った。４区東・８－１区・９－１区・９－２区・11－２区東：久家が基礎整理, 実測遺物の選び出し, 遺物実測図の点検を行った。８－２区の遺物実測図の点検は下木が行った。８区は下木が執筆した。４区・９～11区は主に久家が執筆し, 一部については綾部が執筆した。なお, 執筆者間で表現等の統一は行っていない。

現場写真については各担当調査員が撮影し, 遺物写真については久家が撮影した。

また, 編集は久家が行った。

６．遺構についてはST（竪穴建物跡）, SB（掘立柱建物跡）, SA（柵跡）, SK（土坑）, SG（土器棺墓）, SD（溝跡）, P（柱穴）, SX（性格不明遺構）, SH（屋敷地）等で表記した。掘立柱建物跡の復元については, 大賀幸子（同調査補助員）の協力による。また, 掲載している遺構平面図の縮尺はそれぞれに記しており, 方位Ｎは世界測地系のGNである。遺構の主軸方位については, 真北から計測した。

７．遺物については弥生土器は縮尺1/4, 須恵器・土師器・土師質土器・陶磁器・土製品・石製品・

金属製品は縮尺 1/3 を基本として掲載し，一部の遺物については適宜縮尺を変えているが，各挿図にはスケールを表記している。

8．調査にあたっては，高知県中央東土木事務所のご協力をいただいた。また，地元住民の方々には遺跡に対するご理解とご協力をいただき，厚く感謝の意を表したい。

9．発掘作業・整理作業について，多くの方々に労を厭わず作業に従事していただいた。厚く感謝の意を表したい。

10. 現地調査および報告書作成にあたっては，多くの方々のご協力やご教示を賜った。記して感謝の意を表したい。(順不同，敬称略)

植地岳彦，氏家敏之，川尻秋生，田中史生，出原恵三，原芳伸，平川南，宮里修，矢野雅子，油利崇，李成市

(公財)徳島県埋蔵文化財センター，南国市教育委員会，(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センターの諸氏

11. 出土遺物は平成30年度を「18－1NW」，令和元年度を「19－1NW」，令和2年度を「20－1NW」と注記し，高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

本文目次

第Ⅰ章　調査の経過 1
第Ⅱ章　調査成果 3
第1節　調査の方法と基本層序 3
1. 調査の方法 3
2. 基本層序 3
第2節　4区 11
1. ST 11
2. SB 37
3. SA 57
4. SK 57
5. SG 69
6. SD 71
7. SE 77
8. ピット 81
9. 遺構外出土遺物 82
第3節　8区 83
1. ST 83
2. SB 103
3. SA 108
4. SK 108
5. SD 125
6. SE 127
7. SX 129
8. ピット 129
9. 遺構外出土遺物 130
第4節　9区 131
1. SB 131
2. SA 175
3. SK 183
4. SG 207
5. SD 210
6. SE 233
7. ピット 235
8. 遺構外出土遺物 238
9. 立会部 240
第5節　10区 241

1. ST 241
2. SB 256
3. SA 258
4. SK 258
5. SD 270
6. SE 278
7. SX 279
8. ピット 281
9. 遺構外出土遺物 282
第6節　11区 283
1. ST 283
2. SB 286
3. SA 294
4. SK 295
5. SD 319
6. SE 329
7. ピット 332
8. 遺構外出土遺物 332
第7節　小結 333
1. 古代の掘立柱建物群 333
2. 溝で囲まれた屋敷地群 333
3. 若宮ノ東遺跡出土の刻書土器 341
第Ⅲ章　自然科学分析 345
第1節　放射性炭素年代測定 345
第2節　若宮ノ東遺跡出土炭化材の樹種同定 348
第3節　若宮ノ東遺跡の花粉分析 351
第4節　堆積物中の珪藻化石群集 353
第5節　若宮ノ東遺跡出土井戸枠の樹種同定 358

挿図目次

図 1　南国市位置図 1
図 2　各報告書所収範囲及び本報告書所収調査区位置図 2
図 3　グリッド設定図(S=1/2,500) 4
図 4　4区　調査区壁断面図 5
図 5　8区　調査区壁断面図 6
図 6　9－1・2区　調査区北壁断面図 8
図 7　10区　調査区北壁断面図 10
図 8　4区　ST1　平面図・断面図 11
図 9　4区　ST1　出土遺物実測図_1 12
図10　4区　ST1　出土遺物実測図_2 13
図11　4区　ST2　平面図・断面図 14
図12　4区　ST2　出土遺物実測図 14
図13　4区　ST3　平面図・断面図 16
図14　4区　ST3　出土遺物実測図_1 17
図15　4区　ST3　出土遺物実測図_2 18
図16　4区　ST4　平面図・断面図 19
図17　4区　ST4　出土遺物実測図 20
図18　4区　ST5　平面図・断面図 22
図19　4区　ST5　出土遺物実測図 22
図20　4区　ST6　平面図・エレベーション図 23
図21　4区　ST7　平面図・断面図 24
図22　4区　ST7　出土遺物実測図_1 26
図23　4区　ST7　出土遺物実測図_2 27
図24　4区　ST8　平面図・断面図 28
図25　4区　ST8　出土遺物実測図 30
図26　4区　ST9　平面図・断面図 31
図27　4区　ST9　出土遺物実測図 32
図28　4区　ST10　平面図・断面図 33
図29　4区　SB1　平面図・エレベーション図 34
図30　4区　SB2　平面図・エレベーション図 34
図31　4区　SB3　平面図・エレベーション図 35
図32　4区　SB4　平面図・エレベーション図 35
図33　4区　SB4　出土遺物実測図 35
図34　4区　SB5　平面図・エレベーション図 36
図35　4区　SB5　出土遺物実測図 36
図36　4区　SB6　平面図・エレベーション図 37

図37　4区　SB7　平面図・エレベーション図 37
図38　4区　SB8　平面図・エレベーション図 38
図39　4区　SB9　平面図・エレベーション図 38
図40　4区　SB9　出土遺物実測図 38
図41　4区　SB10　平面図・エレベーション図 39
図42　4区　SB11　平面図・エレベーション図 39
図43　4区　SB12　平面図・エレベーション図 40
図44　4区　SB13　平面図・エレベーション図 40
図45　4区　SB13　出土遺物実測図 40
図46　4区　SB14　平面図・エレベーション図 41
図47　4区　SB15　平面図・エレベーション図 41
図48　4区　SB16　平面図・エレベーション図 42
図49　4区　SB16　出土遺物実測図 42
図50　4区　SB17　平面図・エレベーション図 42
図51　4区　SB18　平面図・エレベーション図 43
図52　4区　SB19　平面図・エレベーション図 43
図53　4区　SB20　平面図・エレベーション図 44
図54　4区　SB21　平面図・エレベーション図 44
図55　4区　SB22　平面図・エレベーション図 45
図56　4区　SB23　平面図・エレベーション図 45
図57　4区　SB23　断面図 46
図58　4区　SB23　出土遺物実測図 46
図59　4区　SB24　平面図・エレベーション図 47
図60　4区　SB24　断面図 47
図61　4区　SB25　平面図・エレベーション図 47
図62　4区　SB25　出土遺物実測図 48
図63　4区　SB26　平面図・エレベーション図 48
図64　4区　SB27　平面図・エレベーション図 48
図65　4区　SB28　平面図・エレベーション図 49
図66　4区　SB28　断面図 50
図67　4区　SB28　出土遺物実測図 51
図68　4区　SB29　平面図・エレベーション図・断面図 51
図69　4区　SB30　平面図・エレベーション図 52
図70　4区　SB31　平面図・エレベーション図 52
図71　4区　SB32　平面図・エレベーション図 53
図72　4区　SB32　出土遺物実測図 53
図73　4区　SB33　平面図・エレベーション図 53
図74　4区　SB33　出土遺物実測図 54

図75　4区　SB34　平面図・エレベーション図……54
図76　4区　SB34　出土遺物実測図……54
図77　4区　SB35　平面図・エレベーション図……55
図78　4区　SB36　平面図・エレベーション図……55
図79　4区　SB36　断面図……55
図80　4区　SB36　出土遺物実測図……56
図81　4区　SB37　平面図・エレベーション図……56
図82　4区　SB37　出土遺物実測図……56
図83　4区　SA1　平面図・エレベーション図……57
図84　4区　SA1　出土遺物実測図……57
図85　4区　SK1　平面図・断面図……58
図86　4区　SK2　平面図・断面図……58
図87　4区　SK3・4　平面図・断面図……59
図88　4区　SK3　出土遺物実測図……59
図89　4区　SK5　平面図……60
図90　4区　SK10　平面図・エレベーション図……60
図91　4区　SK10　出土遺物実測図……60
図92　4区　SK11　平面図・エレベーション図……60
図93　4区　SK11　出土遺物実測図……60
図94　4区　SK12　平面図・エレベーション図……61
図95　4区　SK12　出土遺物実測図……61
図96　4区　SK13　出土遺物実測図……61
図97　4区　SK14　平面図・エレベーション図……61
図98　4区　SK14　出土遺物実測図……61
図99　4区　SK15　平面図・エレベーション図……62
図100　4区　SK15　出土遺物実測図……62
図101　4区　SK16　平面図・エレベーション図……62
図102　4区　SK16　出土遺物実測図……62
図103　4区　SK18　平面図・断面図……63
図104　4区　SK18　出土遺物実測図……63
図105　4区　SK21　平面図・断面図……63
図106　4区　SK21　出土遺物実測図……63
図107　4区　SK22　平面図・エレベーション図……64
図108　4区　SK22　出土遺物実測図……64
図109　4区　SK23　平面図・エレベーション図……64
図110　4区　SK23　出土遺物実測図……64
図111　4区　SK24　出土遺物実測図……65
図112　4区　SK25　出土遺物実測図……65

図113　4区　SK29　平面図・エレベーション図 66
図114　4区　SK29　出土遺物実測図 66
図115　4区　SK31　平面図・エレベーション図 66
図116　4区　SK31　出土遺物実測図 66
図117　4区　SK34　平面図・エレベーション図 66
図118　4区　SK34　出土遺物実測図 66
図119　4区　SK35　平面図・エレベーション図 67
図120　4区　SK35　出土遺物実測図 67
図121　4区　SK42　平面図・断面図・エレベーション図 68
図122　4区　SK42　出土遺物実測図 69
図123　4区　SG1・2_土器棺位置図 70
図124　4区　SG1　平面図・断面図 70
図125　4区　SG1　出土遺物実測図 71
図126　4区　SG2　平面図・断面図 72
図127　4区　SG2　出土遺物実測図 72
図128　4区　SD1　断面図 73
図129　4区　SD1　出土遺物実測図 73
図130　4区　SD2　断面図 73
図131　4区　SD2　出土遺物実測図 73
図132　4区　SD3　エレベーション図 74
図133　4区　SD4　エレベーション図 74
図134　4区　SD5　断面図 74
図135　4区　SD6　平面図・エレベーション図 74
図136　4区　SD6　出土遺物実測図 74
図137　4区　SD7　エレベーション図 74
図138　4区　SD8　断面図 74
図139　4区　SD8　出土遺物実測図 74
図140　4区　SD10　平面図・エレベーション図 75
図141　4区　SD10　出土遺物実測図 75
図142　4区　SD11　エレベーション図 76
図143　4区　SE1　平面図・断面図 76
図144　4区　SE1　出土遺物実測図 76
図145　4区　P222　平面図・エレベーション図 77
図146　4区　P222　出土遺物実測図 77
図147　4区　ピット　出土遺物実測図 78
図148　4区　遺構外出土遺物実測図_1 79
図149　4区　遺構外出土遺物実測図_2 80
図150　8－1区　ST1　平面図・断面図 83

図151　8－1区　ST1　出土遺物実測図……84
図152　8－1区　ST2　平面図・断面図……85
図153　8－1区　ST2　出土遺物実測図……85
図154　8－1区　ST3　平面図・断面図……86
図155　8－1区　ST3　出土遺物実測図……86
図156　8－1区　ST5・6　平面図・断面図……88
図157　8－1区　ST5・6　遺物出土状態図……89
図158　8－1区　ST5　出土遺物実測図_1……90
図159　8－1区　ST5　出土遺物実測図_2……91
図160　8－1区　ST5　出土遺物実測図_3……92
図161　8－1区　ST6　出土遺物実測図……93
図162　8－1区　ST7　平面図・断面図……93
図163　8－1区　ST7　出土遺物実測図……94
図164　8－1区　ST8　出土遺物実測図……95
図165　8－2区　ST9　平面図・断面図……96
図166　8－2区　ST9　出土遺物実測図……97
図167　8－2区　ST10　平面図・断面図……98
図168　8－2区　ST10　出土遺物実測図……98
図169　8－2区　ST11　平面図・断面図……98
図170　8－2区　ST11　出土遺物実測図……98
図171　8－2区　ST12　平面図・断面図……99
図172　8－2区　ST12　出土遺物実測図……99
図173　8－2区　ST13　平面図・断面図……99
図174　8－2区　ST13　遺物出土状態図……100
図175　8－2区　ST13　出土遺物実測図……100
図176　8－2区　SB1　平面図・エレベーション図……101
図177　8－2区　SB2　平面図・エレベーション図……101
図178　8－2区　SB3　平面図・エレベーション図……101
図179　8－2区　SB4　平面図・エレベーション図……102
図180　8－2区　SB5　平面図・エレベーション図……102
図181　8－2区　SB6　平面図・エレベーション図……103
図182　8－1・2区　SB7　平面図・エレベーション図……103
図183　8－1・2区　SB8　平面図・エレベーション図……104
図184　8－1区　SB9　平面図・エレベーション図……104
図185　8－1区　SB10　平面図・エレベーション図……105
図186　8－1区　SB11　平面図・エレベーション図……105
図187　8－1区　SB10　出土遺物実測図……105
図188　8－1区　SB11　出土遺物実測図……105

図189　8－1区　SB12　平面図・エレベーション図……106
図190　8－1区　SB12　出土遺物実測図……106
図191　8－1区　SB13　平面図・エレベーション図……106
図192　8－1区　SA1　平面図・エレベーション図……107
図193　8－1区　SA2　平面図・エレベーション図……107
図194　8－1区　SK1　平面図・断面図……107
図195　8－1区　SK1　出土遺物実測図……107
図196　8－1区　SK2　平面図・断面図……107
図197　8－1区　SK2　出土遺物実測図……107
図198　8－1区　SK3・4　平面図・断面図……108
図199　8－1区　SK3　出土遺物実測図……109
図200　8－1区　SK4　出土遺物実測図……109
図201　8－1区　SK6　平面図・断面図・エレベーション図……109
図202　8－1区　SK6　出土遺物実測図……109
図203　8－1区　SK7　平面図・断面図……110
図204　8－1区　SK7　出土遺物実測図……110
図205　8－1区　SK9　平面図・断面図……110
図206　8－1区　SK11　平面図・断面図……110
図207　8－1区　SK12　平面図・断面図……110
図208　8－1区　SK17　出土遺物実測図……110
図209　8－1区　SK18　平面図・断面図……110
図210　8－1区　SK18　出土遺物実測図……110
図211　8－2区　SK21　平面図・断面図……111
図212　8－2区　SK22　平面図・断面図……111
図213　8－2区　SK23　平面図・断面図……111
図214　8－2区　SK24　平面図・断面図……111
図215　8－2区　SK25　平面図・エレベーション図……112
図216　8－2区　SK25　出土遺物実測図……112
図217　8－2区　SK26　平面図・エレベーション図……113
図218　8－2区　SK26　出土遺物実測図……113
図219　8－2区　SK28　平面図・エレベーション図……114
図220　8－2区　SK28　出土遺物実測図_1……115
図221　8－2区　SK28　出土遺物実測図_2……116
図222　8－2区　SK28　出土遺物実測図_3……117
図223　8－2区　SK29　平面図・エレベーション図……118
図224　8－2区　SK29　出土遺物実測図……118
図225　8－2区　SK31　平面図・エレベーション図……119
図226　8－2区　SK31　出土遺物実測図……119

図227　8－2区　SK40　平面図・エレベーション図……120
図228　8－2区　SK40　出土遺物実測図……120
図229　8－1区　SD1・2　断面図……120
図230　8－1区　SD1　エレベーション図……120
図231　8－1区　SD1　出土遺物実測図……120
図232　8－1区　SD2　エレベーション図……120
図233　8－1区　SD2　出土遺物実測図……120
図234　8－2区　SD3　平面図・断面図……121
図235　8－2区　SD3　出土遺物実測図……121
図236　8－1区　SE1　平面図・断面図……122
図237　8－1区　SE1　出土遺物実測図_1……123
図238　8－1区　SE1　出土遺物実測図_2……124
図239　8－1区　SE2　平面図・断面図……124
図240　8－1区　SE2　出土遺物実測図……124
図241　8－1区　SX1　平面図・断面図……125
図242　8－1区　SX1　出土遺物実測図……125
図243　8－2区　SX2　平面図・断面図……126
図244　8－2区　SX2　出土遺物実測図……126
図245　8区　ピット　出土遺物実測図……126
図246　8区　遺構外出土遺物実測図……128
図247　9－1区　SB1　平面図・エレベーション図……131
図248　9－1区　SB2　平面図・エレベーション図……131
図249　9－1区　SB3　平面図・エレベーション図……132
図250　9－1区　SB4　平面図・エレベーション図……132
図251　9－1区　SB5　平面図・エレベーション図……133
図252　9－1区　SB6　平面図・エレベーション図……133
図253　9－1区　SB7　平面図・エレベーション図……134
図254　9－1区　SB8　平面図・エレベーション図……134
図255　9－1区　SB9　平面図・エレベーション図……135
図256　9－1区　SB10　平面図・エレベーション図……135
図257　9－1区　SB11　平面図・エレベーション図……136
図258　9－1区　SB12　平面図・エレベーション図……136
図259　9－1区　SB13　平面図・エレベーション図……137
図260　9－1区　SB14　平面図・遺物出土状態図・エレベーション図……137
図261　9－1区　SB14　出土遺物実測図……137
図262　9－1区　SB15　平面図・エレベーション図……138
図263　9－1区　SB16　平面図・エレベーション図……138
図264　9－1区　SB17　平面図・エレベーション図……139

図265　9－1区　SB17　出土遺物実測図……139
図266　9－1区　SB18　平面図・エレベーション図……140
図267　9－1区　SB19　平面図・エレベーション図……140
図268　9－1区　SB20　平面図・エレベーション図……141
図269　9－1区　SB21　平面図・エレベーション図……141
図270　9－1区　SB22　平面図・エレベーション図……142
図271　9－1区　SB23　平面図・エレベーション図……143
図272　9－1区　SB23　出土遺物実測図……143
図273　9－1区　SB24　平面図・エレベーション図……144
図274　9－1区　SB25　平面図・エレベーション図……144
図275　9－1区　SB26　平面図・エレベーション図……145
図276　9－1区　SB27　平面図・エレベーション図……145
図277　9－1区　SB28　平面図・エレベーション図……146
図278　9－1区　SB28　出土遺物実測図……146
図279　9－1区　SB29　平面図・エレベーション図……147
図280　9－1区　SB29　出土遺物実測図……147
図281　9－1区　SB30　平面図・エレベーション図……148
図282　9－1区　SB30　出土遺物実測図……149
図283　9－1区　SB31　平面図・エレベーション図……149
図284　9－1区　SB32　平面図・エレベーション図……150
図285　9－1区　SB33　平面図・エレベーション図……150
図286　9－1区　SB34　平面図・エレベーション図……151
図287　9－1区　SB35　平面図・エレベーション図……151
図288　9－1区　SB36　平面図・エレベーション図……152
図289　9－1区　SB37　平面図・エレベーション図……152
図290　9－1区　SB38　平面図・エレベーション図……153
図291　9－1区　SB38　出土遺物実測図……153
図292　9－1区　SB39　平面図・エレベーション図……154
図293　9－1区　SB39　出土遺物実測図……154
図294　9－1区　SB40　平面図・エレベーション図……154
図295　9－1区　SB41　平面図・エレベーション図……155
図296　9－1区　SB41　出土遺物実測図……155
図297　9－1区　SB42　平面図・エレベーション図……155
図298　9－1区　SB42　出土遺物実測図……155
図299　9－1区　SB43　平面図・エレベーション図……156
図300　9－1区　SB44　平面図・エレベーション図……156
図301　9－1区　SB44　出土遺物実測図……156
図302　9－1区　SB45　平面図・エレベーション図……157

図303　9－1区　SB46　平面図・エレベーション図……157
図304　9－1区　SB47　平面図・エレベーション図……158
図305　9－1区　SB48　平面図・エレベーション図……158
図306　9－1区　SB49　平面図・エレベーション図……159
図307　9－1区　SB50　平面図・エレベーション図……159
図308　9－1・2区　SB51　平面図・エレベーション図……160
図309　9－1・2区　SB51　出土遺物実測図……160
図310　9－1・2区　SB52　平面図・エレベーション図……160
図311　9－1・2区　SB52　出土遺物実測図……160
図312　9－2区　SB53　平面図・エレベーション図……161
図313　9－2区　SB53　出土遺物実測図……161
図314　9－2区　SB54　平面図・エレベーション図……161
図315　9－2区　SB55　平面図・エレベーション図……162
図316　9－2区　SB56　平面図・エレベーション図……162
図317　9－2区　SB56　出土遺物実測図……162
図318　9－2区　SB57　平面図・エレベーション図……163
図319　9－2区　SB57　出土遺物実測図……163
図320　9－2区　SB58　平面図・エレベーション図……163
図321　9－2区　SB59　平面図・エレベーション図……164
図322　9－2区　SB60　平面図・エレベーション図……164
図323　9－2区　SB61　平面図・エレベーション図……165
図324　9－2区　SB61　出土遺物実測図……165
図325　9－2区　SB62　平面図・エレベーション図……165
図326　9－2区　SB62　出土遺物実測図……165
図327　9－2区　SB63　平面図・エレベーション図……166
図328　9－2区　SB64　平面図・エレベーション図……166
図329　9－2区　SB65　平面図・エレベーション図……166
図330　9－2区　SB65　出土遺物実測図……166
図331　9－2区　SB66　平面図・エレベーション図……167
図332　9－2区　SB66　出土遺物実測図……167
図333　9－2区　SB67　平面図・エレベーション図……167
図334　9－2区　SB68　平面図・エレベーション図……168
図335　9－2区・11－1区　SB69　平面図・エレベーション図……168
図336　9－2区　SB70　平面図・エレベーション図……169
図337　9－2区　SB71　平面図・エレベーション図……169
図338　9－2区　SB72　平面図・エレベーション図……169
図339　9－2区　SB73　平面図・エレベーション図……170
図340　9－2区　SB74　平面図・エレベーション図……170

図341　9－2区　SB75　平面図・エレベーション図……171
図342　9－2区　SB76　平面図・エレベーション図……171
図343　9－2区　SB77　平面図・エレベーション図……172
図344　9－2区　SB78　平面図・エレベーション図……172
図345　9－2区　SB79　平面図・エレベーション図……172
図346　9－2区　SB79　出土遺物実測図……172
図347　9－3区　SB80　平面図・エレベーション図……173
図348　9－3区　SB81　平面図・エレベーション図……173
図349　9－3区　SB82　平面図・エレベーション図……173
図350　9－3区　SB83　平面図・断面図・エレベーション図……174
図351　9－3区　SB84　平面図・エレベーション図……174
図352　9－3区　SB85　平面図・エレベーション図……174
図353　9－1区　SB86　平面図・エレベーション図……175
図354　9－1区　SA1～4　平面図・エレベーション図……176
図355　9－1区　SA5～8　平面図・エレベーション図……177
図356　9－1区　SA9～12　平面図・エレベーション図……178
図357　9－1区　SA11　出土遺物実測図……179
図358　9－1区　SA13～16　平面図・エレベーション図……180
図359　9－1区　SA17～19　平面図・エレベーション図……181
図360　9－1・2区　SA20～22　平面図・エレベーション図……182
図361　9－1区　SK3　平面図・断面図……183
図362　9－1区　SK3　出土遺物実測図……183
図363　9－1区　SK4　平面図・断面図……183
図364　9－1区　SK5・8，SD7　平面図・断面図・エレベーション図……184
図365　9－1区　SK8　出土遺物実測図……184
図366　9－1区　SK9　平面図・断面図……184
図367　9－1区　SK9　出土遺物実測図……184
図368　9－1区　SK10　平面図・断面図……185
図369　9－1区　SK10　出土遺物実測図……185
図370　9－1区　SK13・14　平面図・断面図……185
図371　9－1区　SK15　平面図・エレベーション図……186
図372　9－1区　SK15　出土遺物実測図……186
図373　9－1区　SK17　平面図・断面図……186
図374　9－1区　SK17　出土遺物実測図……186
図375　9－1区　SK18（SE1）　平面図・断面図……187
図376　9－1区　SK18（SE1）　出土遺物実測図……187
図377　9－1区　SK20　平面図・エレベーション図……187
図378　9－1区　SK20　出土遺物実測図……187

図379　9－1区　SK22　平面図・断面図……188
図380　9－1区　SK22　出土遺物実測図……188
図381　9－1区　SK26　平面図・断面図……189
図382　9－1区　SK26　出土遺物実測図……189
図383　9－1区　SK27　平面図・断面図……189
図384　9－1区　SK28　平面図・エレベーション図……189
図385　9－1区　SK28　出土遺物実測図……189
図386　9－1区　SK29　平面図・石積検出状況図・断面図……190
図387　9－1区　SK30　平面図・エレベーション図……190
図388　9－1区　SK30　出土遺物実測図……190
図389　9－1区　SK31　平面図・礫出土状態図・断面図……191
図390　9－1区　SK31　出土遺物実測図……191
図391　9－1区　SK33　平面図・遺物出土状態図・断面図……191
図392　9－1区　SK33　出土遺物実測図……192
図393　9－1区　SK34　平面図・断面図……192
図394　9－1区　SK34　出土遺物実測図……192
図395　9－1区　SK36・43　平面図・礫出土状態図・断面図……193
図396　9－1区　SK36　出土遺物実測図……194
図397　9－1区　SK37　平面図・断面図……194
図398　9－1区　SK37　出土遺物実測図……194
図399　9－1区　SK38　平面図・礫出土状態図・断面図……195
図400　9－1区　SK33・38，SD25　配置図……195
図401　9－1区　SK41　平面図・断面図……196
図402　9－1区　SK41　出土遺物実測図……196
図403　9－1区　SK44　平面図・断面図……196
図404　9－1区　SK45　平面図・断面図……196
図405　9－1区　SK47　平面図・エレベーション図……196
図406　9－1区　SK47　出土遺物実測図……196
図407　9－2区　SK51・52　平面図・断面図……198
図408　9－2区　SK52　出土遺物実測図……198
図409　9－2区　SK53　平面図・断面図……199
図410　9－2区　SK57　平面図・エレベーション図……199
図411　9－2区　SK57　出土遺物実測図……199
図412　9－2区　SK61　平面図・断面図……200
図413　9－2区　SK61　出土遺物実測図……200
図414　9－2区　SK62　平面図・断面図……200
図415　9－2区　SK64　平面図・断面図……200
図416　9－2区　SK66　平面図・断面図……200

図417　9－2区　SK67　平面図・断面図……201
図418　9－2区　SK67　出土遺物実測図……201
図419　9－2区　SK68　平面図・エレベーション図……201
図420　9－2区　SK68　出土遺物実測図……201
図421　9－2区　SK71　平面図・断面図……202
図422　9－2区　SK71　出土遺物実測図……202
図423　9－2区　SK72　平面図・エレベーション図……202
図424　9－2区　SK72　出土遺物実測図……202
図425　9－2区　SK74　平面図・遺物出土状態図・エレベーション図……203
図426　9－2区　SK74　出土遺物実測図……203
図427　9－3区　SK81・83　平面図・エレベーション図……204
図428　9－3区　SK81　平面図・断面図……204
図429　9－3区　SK82　平面図・エレベーション図……205
図430　9－3区　SK82　出土遺物実測図……205
図431　9－3区　SK84・87　平面図・エレベーション図……206
図432　9－3区　SK85　平面図・断面図……206
図433　9－3区　SK85　出土遺物実測図……206
図434　9－3区　SK88　平面図・エレベーション図……206
図435　9－3区　SK86　平面図・断面図……207
図436　9－3区　SK90　平面図・エレベーション図……207
図437　9－3区　SK90　出土遺物実測図……207
図438　9－3区　SK95　平面図・エレベーション図……208
図439　9－3区　SK95　出土遺物実測図……208
図440　9－3区　SK96　平面図・エレベーション図……208
図441　9－3区　SK98　平面図・断面図……208
図442　9－3区　SK102　平面図・エレベーション図……208
図443　9－3区　SK102　出土遺物実測図……208
図444　9－2・3区　ハンダ土坑配置図……209
図445　9－3区　SK103，SD41　平面図・断面図……209
図446　9－3区　SG1　平面図・断面図……210
図447　9－3区　SG1　出土遺物実測図……211
図448　9－1区　SD1　エレベーション図……212
図449　9－1区　SD2　断面図・エレベーション図……212
図450　9－1区　SD2　出土遺物実測図……212
図451　9－1区　SD3　エレベーション図……212
図452　9－1区　SD3　出土遺物実測図……212
図453　9－1区　SD4　断面図……213
図454　9－1区　SD5　エレベーション図……213

図455　9－1区　SD6　エレベーション図……213
図456　9－1区　SD7　平面図・エレベーション図……213
図457　9－1区　SD7　出土遺物実測図……213
図458　9－1区　SD8　断面図……213
図459　9－1区　SD8　出土遺物実測図……213
図460　9－1区　SD9　断面図……214
図461　9－1区　SD10　エレベーション図……214
図462　9－1区　SD11　断面図……214
図463　9－1区　SD11　出土遺物実測図……214
図464　9－1区　SK9，SD11　出土遺物実測図……214
図465　9－1区　SD12　エレベーション図……214
図466　9－1区　SD13　エレベーション図……214
図467　9－1区　SD15　断面図……215
図468　9－1区　SD15　出土遺物実測図……215
図469　9－1区　SD16・17　断面図……215
図470　9－1区　SD16　出土遺物実測図……215
図471　9－1区　SD17　出土遺物実測図……215
図472　9－1区　SD18　断面図……216
図473　9－1区　SD19　断面図……216
図474　9－1区　SD19　出土遺物実測図……216
図475　9－1区　SD21　エレベーション図……216
図476　9－1区　SD22・23　断面図……216
図477　9－1区　SD22　出土遺物実測図……216
図478　9－1区　SD24　エレベーション図……217
図479　9－1区　SD25　エレベーション図……217
図480　9－1区　SD26　エレベーション図……217
図481　9－1区　SD27　断面図……217
図482　9－1区　SD28　エレベーション図……217
図483　9－1区　SD28　出土遺物実測図……217
図484　9－1区　SD29　エレベーション図……218
図485　9－2区　SD32　断面図……218
図486　9－2区　SD32　出土遺物実測図……218
図487　9－2区　SD33　断面図……219
図488　9－2区　SD33　出土遺物実測図……219
図489　9－2区　SD35　断面図……219
図490　9－2区　SD36　断面図……219
図491　9－2区　SD37　断面図……219
図492　9－2区　SD37　出土遺物実測図……219

図493　9－2区　SD38　断面図……220
図494　9－2区　SD38b　出土遺物実測図……220
図495　9－2区　SD39　エレベーション図……221
図496　9－2区　SD40　断面図……221
図497　9－3区　SD41　断面図……222
図498　9－3区　SD41，SK100　平面図・断面図……222
図499　9－3区　SD41　出土遺物実測図_1……223
図500　9－3区　SD41　出土遺物実測図_2……224
図501　9－3区　SD42　エレベーション図……225
図502　9－3区　SD43　エレベーション図……225
図503　9－3区　SD43　出土遺物実測図……225
図504　9－2区　SE2　平面図・断面図……226
図505　9－2区　SE2　出土遺物実測図_1……227
図506　9－2区　SE2　出土遺物実測図_2……228
図507　9－2区　SE2　出土遺物実測図_3……229
図508　9－2区　SE2　出土遺物実測図_4……230
図509　9－2区　SE2　出土遺物実測図_5……230
図510　9区　ピット　出土遺物実測図……231
図511　9区　遺構外出土遺物実測図_1……232
図512　9区　遺構外出土遺物実測図_2……233
図513　9区　遺構外出土遺物実測図_3……234
図514　9区　遺構外出土遺物実測図_4……235
図515　9区　遺構外出土遺物実測図_5……236
図516　9区　遺構外出土遺物実測図_6……237
図517　9区　立会部SD　断面図……238
図518　9区　立会部　出土遺物実測図_1……238
図519　9区　立会部　出土遺物実測図_2……239
図520　10－3区　ST1　平面図・遺物出土状態図・断面図……242
図521　10－3区　ST1　出土遺物実測図_1……243
図522　10－3区　ST1　出土遺物実測図_2……244
図523　10－3区　ST1　出土遺物実測図_3……245
図524　10－3区　ST1　出土遺物実測図_4……246
図525　10－3区　ST2　平面図・遺物出土状態図・エレベーション図……247
図526　10－3区　ST2　出土遺物実測図……248
図527　10－3区　ST3　平面図・断面図……249
図528　10－3区　ST4　平面図・焼土及び炭化物出土状態図・断面図……249
図529　10－3区　ST4　出土遺物実測図……250
図530　10－3区　ST5　平面図・遺物出土状態図・断面図……251

図531　10－3区　ST5　出土遺物実測図_1 252
図532　10－3区　ST5　出土遺物実測図_2 253
図533　10－2区　ST11　平面図・断面図 254
図534　10－2区　ST11　出土遺物実測図 254
図535　10－1区　SB1　平面図・エレベーション図 254
図536　10－1・2区　SB2　平面図・断面図・エレベーション図 255
図537　10－1区　SB2　出土遺物実測図 256
図538　10－2区　SB3　平面図・断面図・エレベーション図 256
図539　10－2区　SB4　平面図・エレベーション図 257
図540　10－3区　SB5　平面図・断面図・エレベーション図 258
図541　10－3区　SB5　出土遺物実測図 258
図542　10－3区　SB6　平面図・断面図・エレベーション図 259
図543　10－3区　SB6　出土遺物実測図 259
図544　10－3区　SB7　平面図・エレベーション図 259
図545　10－1区　SA1　平面図・断面図・エレベーション図 260
図546　10－2区　SK5　平面図・断面図 260
図547　10－2区　SK6　平面図・エレベーション図 260
図548　10－2区　SK9　平面図・断面図 260
図549　10－2区　SK11　平面図・エレベーション図 261
図550　10－2区　SK11　出土遺物実測図 262
図551　10－3区　SK12　平面図・断面図 262
図552　10－3区　SK13　平面図・断面図 263
図553　10－3区　SK13　出土遺物実測図 263
図554　10－3区　SK14　平面図・遺物出土状態図・エレベーション図 263
図555　10－3区　SK14　出土遺物実測図 263
図556　10－3区　SK15　平面図・遺物出土状態図・断面図 265
図557　10－3区　SK15　出土遺物実測図 265
図558　10－3区　SK16　平面図・エレベーション図 265
図559　10－3区　SK17　平面図・エレベーション図 265
図560　10－3区　SK19　平面図・断面図 265
図561　10－3区　SK22　平面図・断面図 265
図562　10－1区　SK101　平面図・断面図 265
図563　10－1区　SK101　出土遺物実測図 265
図564　10－1区　SK103　平面図・エレベーション図 266
図565　10－1区　SK103　出土遺物実測図 266
図566　10－1区　SK105，SD11　平面図・断面図 267
図567　10－1区　SK105　出土遺物実測図 267
図568　10－2区　SD2・3　断面図 267

図569　10－2区　SD4として調査した範囲……267
図570　10－2区　SD4　断面図……267
図571　10－2区　SD4　出土遺物実測図……268
図572　10－2区　SD5　エレベーション図……268
図573　10－2区　SD6　エレベーション図……268
図574　10－2区　SD7　断面図……268
図575　10－2区　SD7　出土遺物実測図……268
図576　10－2区　SD8　エレベーション図……268
図577　10－1区　SD11　断面図……268
図578　10－1区　SD11　出土遺物実測図……269
図579　10－1区　SD11～13　エレベーション図……270
図580　10－1区　SD12　出土遺物実測図……270
図581　10－1区　SD13　断面図……270
図582　10－1区　SD13　出土遺物実測図……270
図583　10－1区　SD41　出土遺物実測図……271
図584　10－1区　SE11，SX11　平面図・断面図・エレベーション図……272
図585　10－1区　SX11　出土遺物実測図_1……273
図586　10－1区　SX11　出土遺物実測図_2……274
図587　10－1区　SX11　出土遺物実測図_3……275
図588　10－1区　SX11　出土遺物実測図_4……276
図589　10－1区　SX11　出土遺物実測図_5……277
図590　10－1区　SX11　出土遺物実測図_6……277
図591　10－1区　SX11　出土遺物実測図_7……278
図592　10－1区　P101　平面図・出土遺物状態図・断面図……279
図593　10－1区　P101　出土遺物実測図……279
図594　10区　ピット　出土遺物実測図……280
図595　10区　遺構外出土遺物実測図……281
図596　11－2区　ST1　平面図・断面図……283
図597　11－2区　ST1　出土遺物実測図……284
図598　11－3区　ST11　平面図・断面図……285
図599　11－2区　SB1　平面図・断面図・エレベーション図……285
図600　11－2区　SB2　平面図・エレベーション図……286
図601　11－2区　SB3　平面図・エレベーション図……286
図602　11－2区　SB4　平面図・エレベーション図……287
図603　11－2区　SB5　平面図・エレベーション図……287
図604　11－2区　SB5　出土遺物実測図……287
図605　11－2区　SB6　平面図・エレベーション図……288
図606　11－2区　SB7　平面図・エレベーション図……288

図607　11－2区　SB8　平面図・断面図・エレベーション図……289
図608　11－2区　SB9　平面図・エレベーション図……289
図609　11－2区　SB10　平面図・エレベーション図……289
図610　11－2区　SB11　平面図・エレベーション図……290
図611　11－2区　SB12　平面図・エレベーション図……290
図612　11－2区　SB13　平面図・エレベーション図……291
図613　11－3区　SB14　平面図・エレベーション図……291
図614　11－3区　SB14　出土遺物実測図……291
図615　11－3区　SB15　平面図・エレベーション図……291
図616　11－3区　SB16　平面図・エレベーション図……291
図617　11－3区　SB17　平面図・エレベーション図……292
図618　11－1区　SA1　平面図・エレベーション図……293
図619　11－2区　SA2　平面図・断面図・エレベーション図……293
図620　11－2区　SA3　平面図・エレベーション図……295
図621　11－2区　SA4　平面図・エレベーション図……295
図622　11－2区　SA5　平面図・エレベーション図……295
図623　11－2区　SA6　平面図・エレベーション図……295
図624　11－2区　SK1　平面図・断面図……296
図625　11－2区　SK2　平面図・断面図……296
図626　11－2区　SK6　平面図・エレベーション図……296
図627　11－2区　SK6　出土遺物実測図……296
図628　11－2区　SK7・8　平面図・断面図……297
図629　11－2区　SK9　平面図・断面図……297
図630　11－2区　SK9　出土遺物実測図_1……297
図631　11－2区　SK9　出土遺物実測図_2……298
図632　11－2区　SK10　平面図・エレベーション図……299
図633　11－2区　SK12　平面図・エレベーション図……299
図634　11－2区　SK15　平面図・エレベーション図……299
図635　11－2区　SK18　平面図・エレベーション図……299
図636　11－2区　SK18，SD11　出土遺物実測図……299
図637　11－2区　SK20　平面図・エレベーション図……300
図638　11－2区　SK20　出土遺物実測図……300
図639　11－2区　SK21　平面図・断面図……300
図640　11－2区　SK22　平面図・断面図……300
図641　11－2区　SK22　出土遺物実測図……300
図642　11－2区　SK23　平面図・断面図……300
図643　11－2区　SK24　平面図・断面図……301
図644　11－2区　SK24　出土遺物実測図……301

図645　11－2区　SK27　平面図・エレベーション図……302
図646　11－2区　SK27　出土遺物実測図……303
図647　11－2区　SK28　平面図・エレベーション図……304
図648　11－2区　SK28　出土遺物実測図……305
図649　11－3区　SK31　出土遺物実測図……305
図650　11－3区　SK32　平面図・断面図……306
図651　11－3区　SK32　出土遺物実測図……306
図652　11－3区　SK33　平面図・エレベーション図……306
図653　11－3区　SK33　出土遺物実測図……306
図654　11－3区　SK34～36・38　平面図・エレベーション図……306
図655　11－3区　SK34　遺物出土状態図……307
図656　11－3区　SK34　出土遺物実測図……307
図657　11－3区　SK35　遺物出土状態図……308
図658　11－3区　SK35　出土遺物実測図……308
図659　11－3区　SK36　遺物出土状態図……308
図660　11－3区　SK38　遺物出土状態図……309
図661　11－3区　SK38　出土遺物実測図……309
図662　11－3区　SK39・40　平面図・エレベーション図……309
図663　11－3区　SK39　出土遺物実測図……309
図664　11－1区　SK42～45　平面図・エレベーション図……309
図665　11－1区　SK42　平面図・エレベーション図・遺物出土状態図……310
図666　11－1区　SK42　出土遺物実測図……310
図667　11－1区　SK43　平面図・遺物出土状態図・断面図……310
図668　11－1区　SK43　出土遺物実測図……311
図669　11－3区　SK42　平面図・断面図……312
図670　11－3区　SK43　平面図・エレベーション図……312
図671　11－3区　SK43　出土遺物実測図……312
図672　11－1区　SK44　平面図・遺物出土状態図・断面図……312
図673　11－1区　SK44　出土遺物実測図……312
図674　11－3区　SK44　平面図・エレベーション図……313
図675　11－3区　SK44　出土遺物実測図……313
図676　11－1区　SK45　平面図・断面図……313
図677　11－1区　SK45　出土遺物実測図……313
図678　11－1区　SK47　平面図・遺物出土状態図・断面図……314
図679　11－1区　SK47　出土遺物実測図……314
図680　11－1区　SK48　平面図・断面図……315
図681　11－1区　SK48・49　出土遺物実測図……315
図682　11－1区　SK51　平面図・エレベーション図……317

図683　11－1区　SK51　出土遺物実測図……317
図684　11－1区　SK52　平面図・遺物出土状態図・エレベーション図……318
図685　11－1区　SK52　出土遺物実測図……318
図686　11－1区　SK54　平面図・エレベーション図……318
図687　11－1区　SK54　出土遺物実測図……318
図688　11－2区　SD1　断面図……319
図689　11－2区　SD1　出土遺物実測図_1……320
図690　11－2区　SD1　出土遺物実測図_2……321
図691　11－2区　SD3　エレベーション図……322
図692　11－1区　SD4　断面図……322
図693　11－1区　SD4　出土遺物実測図……323
図694　11－1区　SD5・6　断面図……324
図695　11－1区　SD5A　出土遺物実測図……324
図696　11－1区　SD5B　出土遺物実測図……324
図697　11－1区　SD6　出土遺物実測図……325
図698　11－1区　SD7　断面図……326
図699　11－1区　SD8　出土遺物実測図……326
図700　11－3区　SD11　エレベーション図……327
図701　11－2区　SE1（R1）　平面図・エレベーション図……327
図702　11－2区　SE1（R1）　出土遺物実測図……327
図703　11－2区　SE1　平面図・エレベーション図……328
図704　11－3区　SE1　平面図・遺物出土状態図・エレベーション図……328
図705　11－3区　SE1　出土遺物実測図……328
図706　11－3区　SE2　平面図・エレベーション図……329
図707　11－3区　SE2　出土遺物実測図……329
図708　11区　ピット　出土遺物実測図……330
図709　11区　遺構外出土遺物実測図……331
図710　西部官衙群掘立柱建物跡等配置図……334
図711　屋敷地跡配置図……336
図712　SH7～12　変遷図……338
図713　SH5　復元案……339
図714　SH6　復元案……339
図715　SH13　復元案……340
図716　若宮ノ東遺跡出土の文字が刻まれた可能性のある土器片……341
図717　387・388　土器片位置図……342
図718　387　文字数の推定図……342
図719　279・387・1302　筆順案……343
図720　試料写真……345
図721　暦年較正結果……346

図722　炭化材の走査型電子顕微鏡写真……350
図723　プレパラートの状況……352
図724　堆積物中の珪藻化石分布図……356
図725　堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真……357
図726　井戸枠の光学顕微鏡写真……359

表目次

表 1　屋敷地跡一覧……337
表 2　測定試料および処理……345
表 3　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果……346
表 4　炭化材の樹種同定結果……348
表 5　分析試料一覧……351
表 6　産出花粉胞子一覧……352
表 7　堆積物中の珪藻化石産出表……355
表 8　木製品の樹種同定結果……358
表 9　ST 計測表……363
表 10　SB 計測表……364
表 11　SA 計測表……369
表 12　SK 計測表……371
表 13　SG 計測表……381
表 14　SE 計測表……382
表 15　SX 計測表……382
遺物観察表（土器・陶磁器類）……385
遺物観察表（土製品）……430
遺物観察表（石製品）……432
遺物観察表（木製品）……434
遺物観察表（金属製品）……435
銭貨計測表……437
若宮ノ東遺跡出土の緑釉陶器・灰釉陶器集成……438

図版目次

図版1　4区　空中写真(北東より)
4区　空中写真(南西より)
図版2　4区　遺構完掘状況(東より)
4区　遺構検出状況(東より)
図版3　4区　空中写真(北より)
4区　遺構検出状況(南より)
図版4　4区　遺構完掘状況(南より)
4区　調査前風景(東より)
図版5　4区　調査区北壁断面(南西より)
図版6　4区　ST1　完掘状況(垂直)
4区　ST1　床面検出状況(西より)
図版7　4区　ST1　断面(西より)
4区　ST1　断面(南より)
4区　ST1_ 中央Ｐ　断面(西より)
4区　ST1　遺物(18)出土状態(東より)
4区　ST2　完掘状況(南より)
図版8　4区　ST2　断面(南より)
4区　ST2　遺物(28・29)出土状態(南東より)
4区　ST2　遺物(35)出土状態(南西より)
4区　ST2　焼土検出状況(南東より)
4区　ST2　焼土断面(南西より)
図版9　4区　ST3　完掘状況(垂直)
4区　ST3　完掘状況(東より)
図版10　4区　ST3　断面(西より)
4区　ST3　断面(南より)
図版11　4区　ST3　遺物(45)出土状態(南西より)
4区　ST3　遺物(59)出土状態(南西より)
4区　ST3　遺物(60)出土状態(南西より)
4区　ST3　遺物(65)出土状態(北東より)
4区　ST4　完掘状況(北東より)
図版12　4区　ST4　断面(西より)
4区　ST4_ 中央Ｐ　断面(西より)
4区　ST4_P5　遺物(77)出土状態(西より)
4区　ST4　遺物(86)出土状態(北東より)
4区　ST5　完掘状況(垂直)
図版13　4区　ST7　完掘状況(垂直)
4区　ST7　断面(西より)
4区　ST7　断面(東より)
4区　ST7　断面(南より)
4区　ST7_SK1　断面(東より)
図版14　4区　ST7　遺物(126)出土状態(北より)
4区　ST7　遺物(116)出土状態(北より)
4区　ST7　遺物(136)出土状態(北より)
4区　ST7　遺物(142)出土状態(北より)
4区　ST7　焼土検出状態(北西より)
図版15　4区　ST8　完掘状況(東より)
4区　ST8　断面(南西より)
図版16　4区　ST9　完掘状況(垂直)
4区　ST9　断面(北より)
4区　ST9　断面(西より)
4区　ST9　断面(東より)
4区　ST9　断面(南東より)
図版17　4区　ST9　遺物(162・163・166・171)
出土状態(北東より)
4区　ST9_ 中央Ｐ　断面(東より)
4区　ST9　遺物(173)出土状態(北より)
4区　ST9　赤色顔料検出状態(東より)
4区　ST9_SK2　遺物(174)出土状態(北より)
図版18　4区　ST10　完掘状況(垂直)
4区　ST10　断面(北より)
図版19　4区　SB6_P277　断面(東より)
4区　SB8_P371　断面(東より)
4区　SB13_P321　断面(東より)
4区　SB13_P322　断面(東より)
4区　SB14_P320　断面(東より)
4区　SB16_P323　断面(北より)
4区　SB23_P2　柱痕跡検出状況(北より)
4区　SB23_P9　柱痕跡検出状況(北より)
図版20　4区　SB23　完掘状況(西より)
4区　SB23　柱痕跡検出状況(北より)
図版21　4区　SB28　完掘状況(東より)
4区　SB28_P167　断面(西より)
4区　SB28_P168　断面(西より)
4区　SB29_P133　断面(南より)

4区　SB36_P209　断面(西より)
図版22　4区　SK1　完掘状況(北より)
4区　SK1　断面(南より)
図版23　4区　SK3　完掘状況(北西より)
4区　SK3　断面(北より)
図版24　4区　SK21　完掘状況(北より)
4区　SK21　断面(南西より)
図版25　4区　SK27　礫出土状態(北西より)
4区　SK42　遺物(247)出土状態(北より)
図版26　4区　SG1　土器棺(250)完掘状態(南より)
4区　SG1　断面(南より)
図版27　4区　SG2　土器棺(251)完掘状態(西より)
4区　SG2　断面(南より)
図版28　4区　SD9　完掘状況(北より)
4区　SE1　断面(東より)
図版29　4区　P147　遺物(281)出土状態(東より)
4区　P222　遺物(274)出土状態(西より)
4区　P222　遺物(277)出土状態(西より)
4区　P294　礫出土状態(南より)
4区　P295　断面(北より)
4区　P329　断面(北より)
4区　P352　断面(北より)
4区　P396　断面(南東より)
図版30　8－1区　空中写真(北東より)
8－2区　空中写真(西より)
図版31　8－1区　遺構検出状況(東より)
8－1区　遺構完掘状況(東より)
図版32　8－1区　空中写真(垂直)
8－2区　遺構検出状況(東より)
図版33　8－2区　空中写真(垂直)
8－2区　調査前風景(南西より)
図版34　8－1区　調査区南壁断面(北より)
8－1区　調査区南壁断面(北東より)
図版35　8－1区　ST1　完掘状況(垂直)
8－1区　ST1　断面(北より)
図版36　8－1区　ST3　完掘状況(垂直)
8－1区　ST3　断面(南東より)
図版37　8－1区　ST5・6　完掘状況(北より)
8－1区　ST5　床面検出状況(北東より)
図版38　8－1区　ST5　遺物出土状態(北より)
8－1区　ST5　遺物(368・373)出土状態(北東より)
8－1区　ST5　遺物(374・375)出土状態(南西より)
8－1区　ST5　遺物(380・381)出土状態(南西より)
8－1区　ST5　遺物(387)出土状態(北東より)
図版39　8－1区　ST5　断面(南より)
8－1区　ST6　断面(東より)
図版40　8－1区　ST7　完掘状況(東より)
8－1区　ST7　遺物(401)出土状態(東より)
図版41　8－2区　ST9　完掘状況(北より)
8－2区　ST9　断面(東より)
図版42　8－2区　ST10　完掘状況(北より)
8－2区　ST10　断面(東より)
図版43　8－2区　ST10　遺物(424)出土状態(北より)
8－2区　ST12　完掘状況(南より)
図版44　8－2区　ST13　完掘状況(南より)
8－2区　ST13　遺物(440)出土状態(南より)
図版45　8－2区　ST13　遺物(441～443)出土状態(南より)
8－2区　ST13_P1　断面(南より)
図版46　8－2区　SB5_P148　断面(東より)
8－1区　SB11_P63　断面(東より)
8－1区　SK3・4　完掘状況(北より)
8－1区　SK3　断面(西より)
8－1区　SK4　断面(西より)
図版47　8－2区　SK21　完掘状況(東より)
8－2区　SK21　断面(北より)
図版48　8－2区　SK22　断面(南より)
8－2区　SK23　断面(南より)
図版49　8－2区　SK24　完掘状況(東より)
8－2区　SK24　断面(東より)
図版50　8－2区　SK25　遺物(473)出土状態(北より)
8－2区　SK26　断面(南より)
8－2区　SK27　断面(南より)
8－2区　SK28　断面(東より)
8－1区　SD1・2　完掘状況(北より)
図版51　8－1区　SE1　完掘状況(南東より)
8－1区　SE1　断面(北西より)
図版52　8－2区　SX2　石組検出状態(北より)
8－2区　SX2　断面(西より)
図版53　8－1区　柱穴列完掘状況(北より)
8－1区　柱穴列完掘状況(東より)

図版目次

図版54　9－1区　空中写真(南東より)
9－1区　空中写真(東より)
図版55　9－1区　遺構完掘状況(西より)
9－1区　空中写真(垂直)
図版56　9－1区　遺構検出状況(西より)
9－2区　空中写真(北より)
図版57　9－2区　空中写真(垂直)
9－3区・10－1区　空中写真(垂直)
図版58　9－3区　遺構検出状況(東より)
9－3区　遺構完掘状況(東より)
図版59　9－2区　調査前風景(南西より)
9－1区　調査区北壁断面(南西より)
図版60　9－2区　調査区北壁断面(南より)
9－3区　調査区西壁断面(東より)
図版61　9－1区　SB14_P118　遺物(599～602)出土状態(北西より)
9－1区　SB28_P213　断面(南西より)
9－1区　SB28_P318　遺物(607)出土状態(北より)
9－1区　SB30_P349　遺物(610)出土状態(北より)
9－3区　SB83_P912　断面(北より)
図版62　9－1区　SK9　完掘状況(北東より)
9－1区　SK9　断面(西より)
図版63　9－1区　SK10　完掘状況(南東より)
9－1区　SK10　断面(南より)
図版64　9－1区　SK12　断面(東より)
9－1区　SK13　完掘状況(北より)
9－1区　SK14　礫出土状態(北より)
9－1区　SK15　礫出土状態(北より)
9－1区　SK22　断面(東より)
9－1区　SK23　完掘状況(北より)
9－1区　SK26　遺物(651)出土状態(北より)
9－1区　SK27　断面(東より)
図版65　9－1区　SK29　石積検出状態(東より)
9－1区　SK29　石積検出状態(南東より)
9－1区　SK29　石積検出状態(南より)
9－1区　SK29　断面(東より)
9－1区　SK29　断面(北より)
図版66　9－1区　SK33・SD25　完掘状況(垂直)
9－1区　SK33　遺物(663～667)出土状態(東より)
図版67　9－1区　SK33　遺物(663～667)出土状態(南東より)
9－1区　SK33　断面(南より)
図版68　9－1区　SK34　完掘状況(南より)
9－1区　SK36・43　完掘状況(西より)
図版69　9－1区　SK36　礫出土状態(南より)
9－1区　SK36　断面(南より)
図版70　9－1区　SK37　完掘状況(南より)
9－1区　SK37　断面(北より)
図版71　9－1区　SK38　完掘状況(西より)
9－1区　SK38　礫出土状態(南より)
図版72　9－1区　SK41　検出状況(南より)
9－1区　SK41　断面(南より)
図版73　9－1区　SK43　完掘状況(西より)
9－1区　SK43　断面(南より)
9－1区　SK45　完掘状況(西より)
9－1区　SK45　断面(北東より)
9－2区　SK51　完掘状況(西より)
9－2区　SK51　断面(西より)
9－2区　SK51　断面(南より)
9－2区　SK51　完掘状況(西より)
図版74　9－2区　SK52　完掘状況(北西より)
9－2区　SK52　断面(西より)
9－2区　SK52　断面(南より)
9－2区　SK52　完掘状況(西より)
9－2区　SK53　完掘状況(西より)
9－2区　SK53　断面(西より)
9－2区　SK53　断面(南より)
9－2区　SK61　遺物(686・687)出土状態
図版75　9－3区　SK81　完掘状況(北より)
9－3区　SK81　断面(北より)
9－3区　SK84　完掘状況(北より)
9－3区　SK85　断面(南より)
9－3区　SK86　断面(西より)
9－3区　SK87　断面(西より)
9－3区　SK95　遺物(703)出土状態(北東より)
9－3区　SK96　完掘状況(北東より)
図版76　9－3区　SK98　完掘状況(北より)
9－3区　SK98　礫出土状態(南より)
9－3区　SK98　断面(西より)
9－3区　SK103　断面(東より)

9－3区　SG1　土器棺(708)完掘状態(東より)
図版77　9－3区　SG1　土器棺(708)完掘状態(西より)
9－3区　SG1　検出状況(北より)
図版78　9－3区　SG1　断面(北より)
図版79　9－1区　SD2　断面(南より)
9－1区　SD4　断面(南西より)
9－1区　SD8　断面ａ－ａ'(西より)
9－1区　SD9　断面(南より)
9－1区　SD11　断面(西より)
9－1区　SD15　断面(南西より)
9－1区　SD16・17　断面ａ－ａ'(南より)
9－1区　SD16・17　断面ｂ－ｂ'(南より)
図版80　9－1区　SD17　礫出土状態(南より)
9－1区　SD18　断面(南より)
9－1区　SD19　断面(西より)
9－1区　SD22・23　断面(西より)
9－2区　SD40　断面(北より)
図版81　9－2区　SD32　完掘状況(北より)
9－2区　SD32　断面(南より)
9－3区　SD41，SK100断面(東より)
9－3区　SD41　中央バンク断面(西より)
9－3区　SD41　東バンク断面(東より)
図版82　9－2区　SE2　完掘状況(北東より)
9－2区　SE2　断面(南より)
図版83　9－1区　P323　遺物出土状態(北より)
9－1区　P435　礫出土状態(南より)
9－1区　P448　礫出土状態
9－1区　P607　遺物(801)出土状態(南より)
9－2区　P672　遺物(809)出土状態(北より)
9－2区　P723　根石出土状態(北より)
9－2区　P740　礫出土状態(北より)
9－2区　P861　遺物(802)出土状態
図版84　9－2区　包含層　遺物(821)出土状態
9－2区　包含層　遺物(826)出土状態
9－1区　包含層　遺物(829)出土状態
9－2区　包含層　遺物(831)出土状態
9－2区　包含層　遺物(833)出土状態
9－2区　包含層　遺物出土状態
図版85　10－1区　遺構検出状況(東より)
10－1区　遺構完掘状況(東より)
図版86　10－2区　遺構検出状況(北より)
10－2区　遺構完掘状況(北より)
図版87　10－3区　空中写真(垂直)
10－3区　遺構検出状況(西より)
図版88　10－3区　調査前風景(西より)
10－1区　調査区南壁断面(北西より)
図版89　10－2区　調査区南壁断面(北より)
10－3区　調査区北壁断面(南東より)
図版90　10－3区　ST1　完掘状況(南東より)
10－3区　ST1　断面(南西より)
10－3区　ST1　断面(北東より)
10－3区　ST1_SK1　断面(北西より)
10－3区　ST1_P2　断面(北西より)
図版91　10－3区　ST1　遺物(896・897・899・900・902・904・905・916・918)出土状態(北東より)
10－3区　ST1　遺物(898・901・904・906)出土状態(南東より)
図版92　10－3区　ST1　遺物(903・908・921・923)出土状態(北西より)
10－3区　ST1　遺物(910・912・919・930)出土状態(北より)
図版93　10－3区　ST2　完掘状況(北より)
10－3区　ST4　完掘状況(北西より)
図版94　10－3区　ST5　完掘状況(北より)
10－3区　ST5　断面(北東より)
10－3区　ST5　断面(南東より)
10－3区　ST5　断面(南西より)
10－3区　ST5　断面(北西より)
図版95　10－3区　ST5　遺物(941～945・947・949・951・952・955・957～959・961・966)出土状態(北より)
10－3区　ST5　遺物(970)出土状態(北西より)
図版96　10－2区　ST11　完掘状況(北より)
10－2区　ST11　床面検出状況(南より)
図版97　10－1区　SB2　完掘状況(東より)
10－1区　SB2_P102　完掘状況(北より)
10－2区　SB3_P7　断面(北より)
10－3区　SB5_P20　断面(東より)
10－3区　SB5_P26　断面(東より)
図版98　10－3区　SB6_P44　遺物(976)出土状態(北より)
10－3区　SB6_P44　断面(北より)
図版99　10－2区　SK11　完掘状況(北西より)

10－3区　SK13　完掘状況(北より)
図版100 10－2区　SK5　断面(南より)
10－2区　SK10　断面(東より)
10－3区　SK13　断面(南より)
10－1区　SK101　断面(北より)
10－1区　SK103　遺物(993・998・1001)
出土状態(北より)
図版101 10－1区　SD11～13　完掘状況(北東より)
10－1区　SD11，SK104　断面(東より)
図版102 10－1区　SE11・SX11　完掘状況(東より)
10－1区　SE11・SX11　完掘状況(北より)
図版103 10－1区　SX11　断面(北東より)
10－1区　P101　遺物(1072・1073)
出土状態(北東より)
図版104 11－2区　空中写真(南東より)
11－3区　空中写真(南より)
図版105 11－1区　空中写真(垂直)
11－1区　遺構検出状況(東より)
図版106 11－2区　空中写真(垂直)
11－2区　遺構検出状況(東より)
図版107 11－2区　遺構検出状況(南より)
11－2区　遺構完掘状況(南より)
図版108 11－3区　下層遺構検出状況(南より)
11－3区　遺構完掘状況(南より)
図版109 11－1区　調査前風景(北東より)
11－2区　調査前風景(南東より)
図版110 11－1区　調査区南壁断面(北より)
11－3区　調査区南壁断面(北より)
図版111 11－2区　ST1　完掘状況(北より)
11－2区　ST1　床面検出状況(北より)
図版112 11－2区　ST1　断面(東より)
11－2区　ST1_中央P2　断面(南より)
図版113 11－2区　ST1　遺物・焼土出土状態
(北より)
11－2区　ST1　遺物(1089)出土状態
(西より)
11－2区　ST1　遺物(1094)出土状態
(西より)
11－2区　ST1_中央P1　断面(西より)
11－2区　ST1_中央P1　遺物出土状態
(東より)
図版114 11－3区　ST11　完掘状況(北より)
11－3区　ST11　断面(西より)
図版115 11－2区　SB8_P51　柱痕跡検出状況
(東より)
11－2区　SB8_P51　断面(西より)
11－2区　SB8_P86　断面(南より)
11－2区　SB8_P91　断面(西より)
11－2区　SA4_P41　遺物出土状態(東より)
11－2区　SK9　遺物(1110)出土状態
(西より)
11－2区　SK1　完掘状況(北より)
11－2区　SK1　断面(西より)
図版116 11－3区　SK34～36・38　遺構完掘状況
(北より)
11－3区　SK34　完掘状況(北より)
図版117 11－3区　SK34　遺物(1145・1146)出土状態
(南より)
11－3区　SK35　完掘状況(北より)
図版118 11－3区　SK36　完掘状況(北より)
11－3区　SK38　完掘状況(北より)
図版119 11－1区　SK42・43　完掘状況(北より)
11－1区　SK42　断面(北より)
図版120 11－1区　SK42　遺物(1161～1163)
出土状態(北より)
11－1区　SK43　遺物(1166・1167・1178・
1181・1189)出土状態(北より)
図版121 11－1区　SK43　遺物(1165)出土状態
(北より)
11－1区　SK44・45　完掘状況(北より)
図版122 11－1区　SK44　遺物(1191・1192)
出土状態(北より)
11－1区　SK45　断面(北より)
図版123 11－1区　SK47　遺物(1198)出土状態
(北より)
11－1区　SK48，SD8～10　断面(東より)
図版124 11－1区　SK52　遺物(1201～1203)
出土状態(北より)
11－1区　SD4　東バンク断面(西より)
11－1区　SD4　西バンク断面(西より)
11－1区　SD4　遺物(1234)出土状態(西より)
11－1区　SD7　断面(東より)
図版125 11－1区　SD4　石積検出状況(北西より)
11－1区　SD4　石積検出状況(北東より)

図版126 11－2区　SD1　完掘状況(南東より)
11－2区　SD1　断面ｉ－ｊ(南より)
11－2区　SD1　断面ｋ－ｌ(北より)
11－2区　SD1　礫出土状態(南東より)
11－2区　SD1　遺物(1225・1226)出土状態(北東より)
図版127 出土遺物写真
(331・332・1056・1057・1112・1158)
図版128 出土遺物写真(1296～1301)
図版129 出土遺物写真
(1063・1064・1147～1150)
図版130 出土遺物写真(1066～1071)
図版131 出土遺物写真
(1152～1155・1157・1168・1169・1171～1174・1178～1182・1184～1187)
図版132 出土遺物写真
(883～886・797・927～929・970・1227)
図版133 出土遺物写真(38・370・888・890)
図版134 出土遺物写真(893・899・944・985)
図版135 出土遺物写真(28・34・36・48・59・76)
図版136 出土遺物写真(86・105・136・173・191)
図版137 出土遺物写真(237・247・277)
図版138 出土遺物写真(279・298・365・371・424・480)
図版139 出土遺物写真(493・537・683・697・708・795)
図版140 出土遺物写真(796・824・887・889)
図版141 出土遺物写真(891・895・920・924・931・943)
図版142 出土遺物写真(961・997・998・1012・1047)
図版143 出土遺物写真(1052・1054・1055・1072・1073)
図版144 出土遺物写真(1109・1110・1129・1200)
図版145 出土遺物写真(1130・1137・1194・1195・1225)
図版146 出土遺物写真(1242・1243・1289・1295・1302)
図版147 出土遺物写真
(18・32・34・37・58・109・125・141)
図版148 出土遺物写真
(142・174・249・273・383・462・509・512)
図版149 出土遺物写真
(518・529・588・618・667・684・707・728)
図版150 出土遺物写真
(754・767・801・802・829・831・863・923)
図版151 出土遺物写真(950・952～955・957～959)
図版152 出土遺物写真
(972・981・1041・1050・1051・1053・1081)
図版153 出土遺物写真
(1097・1108・1119・1120・1139・1189・1198)
図版154 出土遺物写真
(1222～1224・1239・1253・1262・1263・鉄滓)
図版155 出土遺物写真
(21・23・90・127・264・274・600・601・610・646)
図版156 出土遺物写真
(662～666・687・752・799・820・822)
図版157 出土遺物写真
(946・948・993・1023・1033・1145・1146・1161・1162・1165)
図版158 出土遺物写真
(1191・1196・1201～1203・1215・1237・1251・1289・1291)

付図目次

付図1　若宮ノ東遺跡　4・8～11区遺構平面図(S＝1/200)
付図2　若宮ノ東遺跡　4・8～11区遺構平面図①(S＝1/100)
付図3　若宮ノ東遺跡　4・8～11区遺構平面図②(S＝1/100)
付図4　若宮ノ東遺跡　4・8～11区遺構平面図③(S＝1/100)
付図5　若宮ノ東遺跡　4・8～11区上層遺構平面図(S＝1/200)
付図6　若宮ノ東遺跡　4・8～11区SB・SA遺構平面図①(S＝1/300)
付図7　若宮ノ東遺跡　4・8～11区SB・SA遺構平面図②(S＝1/300)
付図8　若宮ノ東遺跡　4・8～11区SB・SA遺構平面図③(S＝1/300)

第Ⅰ章　調査の経過

第1節　調査の経過

高知県が計画している都市計画道路高知南国線の南国市篠原地区・小籠地区の建設予定地内には若宮ノ東遺跡と忠兵衛遺跡が所在することが知られていた。このため，開発部局と文化財保護部局が協議を行い，平成27年度から高知県教育委員会(平成27年度当時)によって試掘確認調査が実施された。その結果をもとに建設工事に先だち記録保存を目的とした発掘調査を行う必要があると判断された。都市計画道路高知南国線建設に伴う若宮ノ東遺跡及び忠兵衛遺跡の発掘調査は，事業主体である高知県から公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターが業務委託を受け，平成28年度から発掘調査を実施している。

平成28年度には1区・1E区・2－1区・3区，平成29年度には2－2区・2－3区・3区・6－1区・7－1－1区・7－1－2区・7－3区，平成30年度には2－4区・3区・5区・7－4区・8－1区，令和元年度には4区東・9－1区・9－2区・11－2区東，令和2年度には4区西・8－2区・9－1区・9－3区・10－1区・10－2区・10－3区・11－1区・11－2区西・11－3区，令和3年度には7－1－3区・7－2区，忠兵衛遺跡1～3区，令和5年度には12－1区の発掘調査を実施した。

また，整理作業も並行して行っており，現在までに1区・2区・3区を所収した『若宮ノ東遺跡Ⅰ』を令和4(2022)年3月に公刊し，5区・6区・7区を所収した『若宮ノ東遺跡Ⅱ』を令和5(2023)年3月に公刊している。

今回の報告書では4区・8区・9区・10区・11区までを所収している。これらの調査区は若宮ノ東遺跡の概ね西半部に該当する。平成30年度は8－1区，令和元年度は4区東・9－1区・9－2区・11－2区東，令和2年度は4区西・8－2区・9－1区・9－3区・10－1区・10－2区・10－3区・11－1区・11－2区西・11－3区の発掘調査を行った。

第2節　発掘調査体制

平成30年度(8－1区)

吉成承三(調査課長兼第一班長)

坂本憲昭(調査第二班長)，久家隆芳(専門調査員)，下木千佳(調査員)

坂本憲彦・大賀幸子・岡林真史・野崎益範(調査補助員)

令和元年度(4区東・9－1区・9－2区・11－2区東)

吉成承三(調査課長兼第一班長)

坂本憲昭(調査第二班長)

西村豊史・久家隆芳(専門調査員)

大賀幸子・岡林真史・田上修造(調査補助員)

図1　南国市位置図

令和2年度

（4区西・8－2区・9－1区・9－3区・10－1区・10－2区・10－3区・11－1区・11－2区西・11－3区）

吉成承三（調査課長兼第一班長）

坂本憲昭（調査第二班長）

綾部侑真（調査員）

大賀幸子・岡林真史・幾野雄也（調査補助員）

図2　各報告書所収範囲及び本報告書所収調査区位置図

第Ⅱ章　調査成果

第1節　調査の方法と基本層序

1.調査の方法

試掘確認調査の結果をもとに表土は重機で掘削し，遺構検出及び遺構掘削については人力により掘削した。遺構完掘後，高所作業車により全景写真を撮影し，空中写真測量によって平面図を作成した。その他，必要に応じて断面図，遺物出土状態図を任意の縮尺で作成した。

グリッドの設定は世界測地系に基づく公共座標により100m四方の大グリッド，20m四方の中グリッド，4m四方の小グリッドを設定した。測量は世界測地系第４座標系(Ⅳ系)の基準点を使用し，X=64,300m，Y=11,700m(北緯33°34′47″，東経133°37′33″，真北方向角－0°04′10″)を原点とし，A1(100mグリッド:大グリッド)を組んだ。大中小グリッドの間は「－」で区切って表記している。このグリッドと座標を使用して遺構の平面図，遺物出土状態等の実測，出土遺物の取り上げを行った。

遺構名は，基本的には検出及び調査順に大調査区毎に連番を付し，調査時に付した遺構名で報告した。そのために欠番，重複しているものもある。重複しているものについては小調査区名を付した。また，竪穴建物跡をST，掘立柱建物跡をSB，柵列跡をSA，土坑をSK，土器棺墓をSG，溝跡をSD，井戸跡をSE，性格不明遺構をSX，屋敷地をSH，ピット・柱穴をPの略号をそれぞれ使用した。SB・SAは整理作業時に付した。なお，掘立柱建物跡については復元できそうなものを積極的に取り上げたため，同じ柱穴を複数の掘立柱建物跡の復元に使用したものもある。

2.基本層序

⑴4区

4区は令和元年度(4区東)と令和2年度(4区西)に分けて発掘調査を実施した。

発掘調査前の状況は宅地及び水田であり，調査前の標高は約7.6～7.4mであった。東から西へ向かって標高は低くなるものの，宅地であった部分は高く，水田であった部分は低い。

基本層序については調査区の北壁を図示した。水田部分の耕作土は約10㎝，宅地部分の表土は20～30㎝を測る。遺物包含層は4区の西部の一部で確認したのみであり，基本的には表土及び盛土を除去すると遺構検出面である。遺構検出面の標高は概ね7.4mであり，西端付近は約7.1mと低い。遺構検出面は細粒砂質シルトの部分と砂礫部分である。

⑵8区

8区は8－1区を平成30年度に，8－2区を令和2年度に発掘調査を実施した。

発掘調査前は宅地・果樹園・水田であり，調査前の標高は約7.8～7.2mであった。

基本層序については8－1区の南壁・西壁，8－2区の南壁を図示した。8－1区東部(宅地部分)は約50㎝の盛土を除去すると旧耕作土が認められたものの，遺物包含層は認められなかった。盛土・耕作土・床土を除去すると遺構検出面である。8－1区西部(水田部分)は耕作土・床土を除去すると遺物包含層(溝跡の埋土の可能性有り)が約10㎝認められた。8－2区は遺物包含層は認められなかった。遺構検出面の標高は約7.1～7.0mである。遺構検出面は細粒砂質シルトの部分と砂礫部分が認められる。

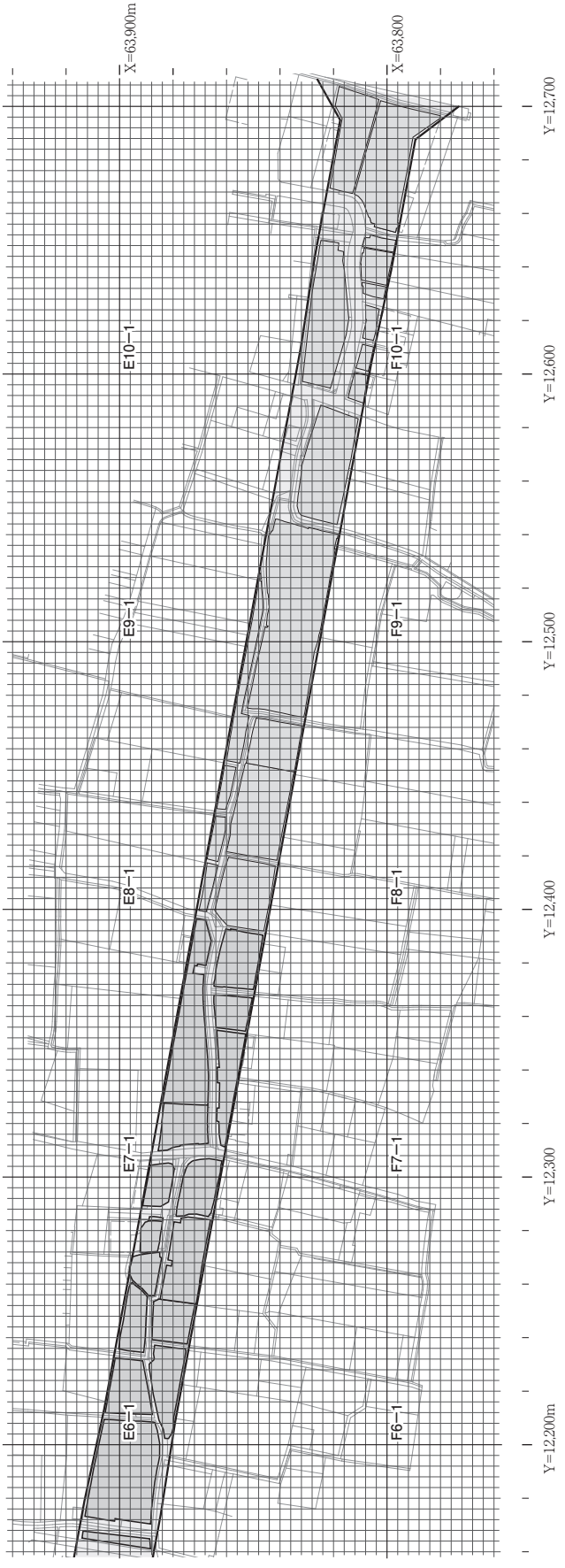


図3　グリッド設定図(S=1/2,500)

⑶9区

9－1区は令和元年度と令和2年度に，9－2区を令和元年度に，9－3区を令和2年度に発掘調査を実施した。発掘調査前は水田であり，調査前の標高は約6.7mであった。

基本層序は9－1区・9－2区の北壁を図示した。9－1区は厚い場所で約30㎝の遺物包含層が認められた。遺物包含層は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。色調の濃淡で細分可能な部分もみられたこと，包含層中から残存率の良好な遺物が出土することから包含層中に遺構面の存在を考えたものの，認定するまでには至らなかった。9－2区は厚い場所で約30㎝の遺物包含層が認められたものの，東に向かうにつれ層厚は減じ，調査区の東端部では認められなかった。遺物包含層は褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトである。遺構検出面の標高は6.5～6.2mで東方向から西方向へ標高が下がる。9－1区の遺構検出面は細粒砂質シルトであり，9－2区・9－3区は砂礫部分である。

⑷10区

10区は令和2年度に発掘調査を実施した。発掘調査前は宅地他であり，調査前の標高は7.8～6.9mであった。

基本層序は10－2区・10－3区の北壁を図示した。10－2区では約20㎝の遺物包含層が認められた。遺物包含層が確認できたのは10－2区のみである。約10㎝ずつの2層に分層でき，上層は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質粘性シルトであり，下層は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。10－2区・10－3区は表土・盛土等を除去すると遺構検出面である。10－1区の遺構検出面は砂礫層，10－2区は細粒砂質粘性シルト，10－3区は細粒砂質シルトおよび砂礫層である。遺構検出面の標高は10－1区は6.5～6.4m，10－2区は6.7～6.6m，10－3区は7.1～6.9mであり，東から西に向かって低くな

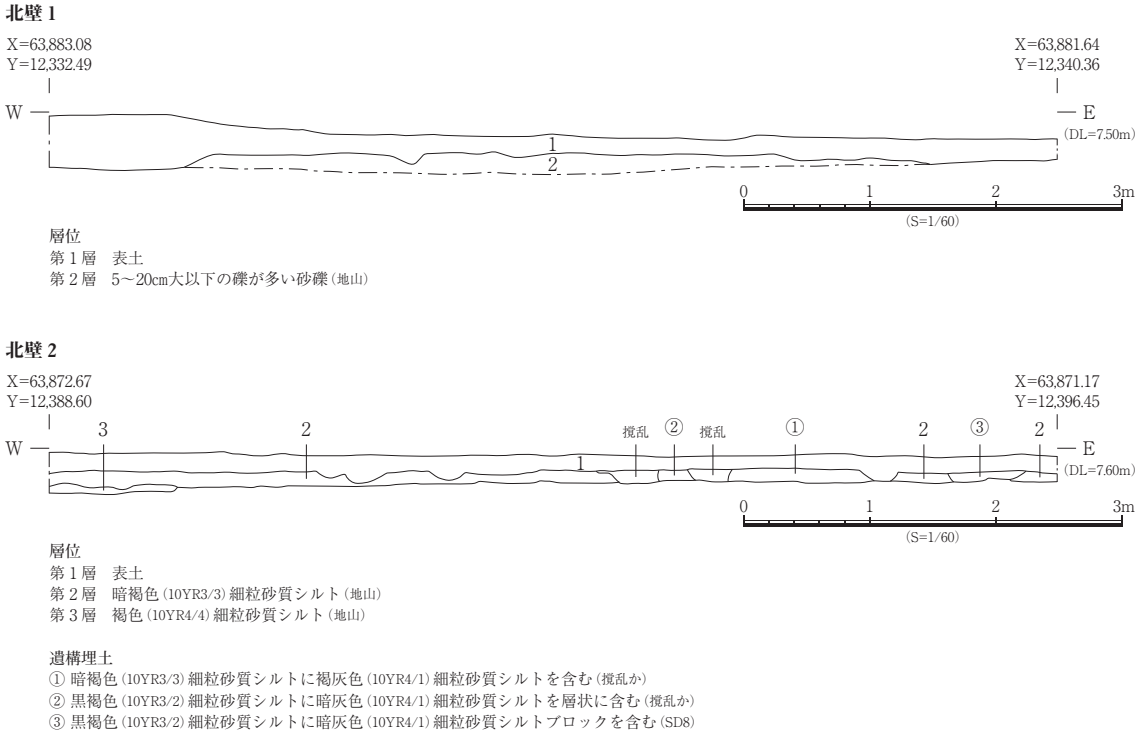
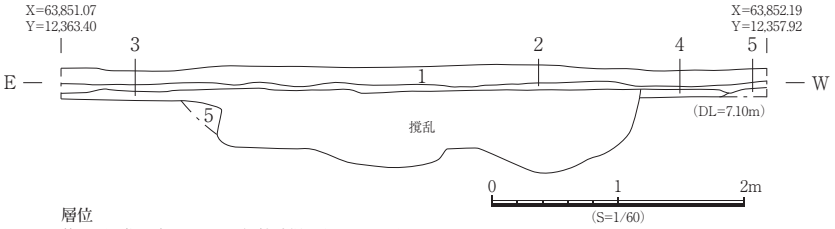


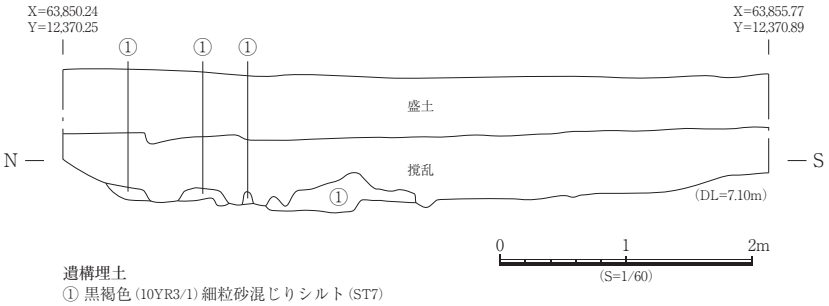
図4　4区　調査区壁断面図

8－1区　南壁



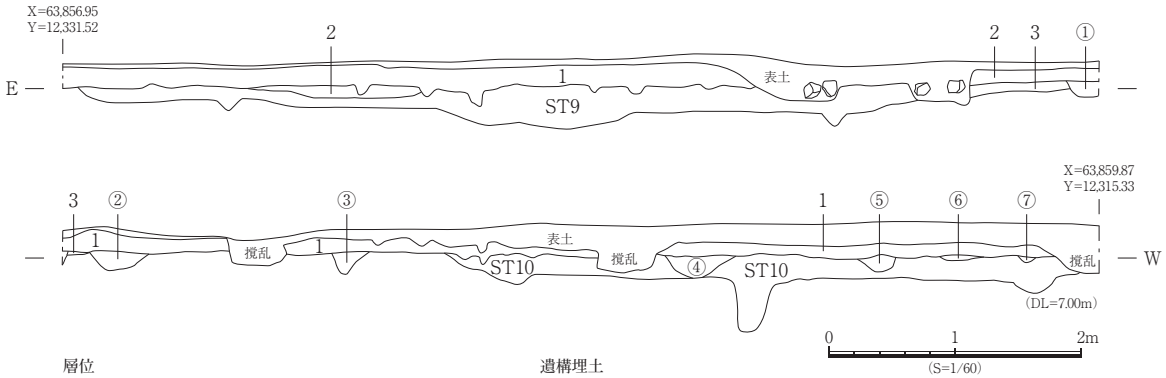
層位
第１層　褐灰色(10YR4/1)細粒砂混じりシルト層(耕作土)
第２層　黒褐色(10YR3/1)細粒砂混じりシルト層(床土)
第３層　黒褐色(10YR3/1)細粒砂混じりシルト層(遺物包含層又はSDか)
第４層　床土(第2層)と灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂混じりシルト層
第５層　明黄褐色(10YR6/6)細粒砂混じりシルト層

8－1区　西壁



遺構埋土
① 黒褐色(10YR3/1)細粒砂混じりシルト(ST7)

8－2区　南壁



層位
第１層　暗褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂層(床土)
第２層　黒褐色(10YR3/2)シルト質極細粒砂層
第３層　黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂層に直径1cm大以下の礫を含む

遺構埋土
① 暗褐色(10YR3/2)細粒砂
② 暗褐色(10YR3/2)細粒砂
③ 暗褐色(10YR3/4)細粒砂
④ 暗褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂
⑤ 暗褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂
⑥ 暗褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂
⑦ 暗褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂

図5　8区　調査区壁断面図

る傾向が認められる。

⑸11区

11－1区・11－2区西・11－3区は令和2年度に，11－2区東は令和元年度に発掘調査を実施した。発掘調査前は宅地・水田他であり，調査前の標高は7.3～6.6mであった。11－1区は祠があり，その周囲には植栽がされていた。近現代の撹乱を取り除いた地山直上が遺構検出面である。調査区全体が木の根による影響を大きく受ける。地山に礫を多く含むこともあり，遺構の輪郭は不鮮明なものが多い。11－2区は耕作土・床土を除去すると遺構検出面である。11－3区は上面を近現代の撹乱によって大きく削平を受ける。地山は調査区南東部へ向かって傾斜しており，削平を受けていない南側中央付近では，古代の遺物包含層と考えられる黒褐色細粒砂質粘性シルトが堆積する。黒褐色細粒砂質粘性シルトの下面，地山直上で遺構検出を実施した。遺構検出面は大部分が砂礫層で一部は細粒砂質シルトである。遺構検出面の標高は11－1区は6.5～6.0m，11－2区は6.3～6.2m，11－3区は6.8～6.5mであり，東から西に向かって低くなる傾向が認められる。

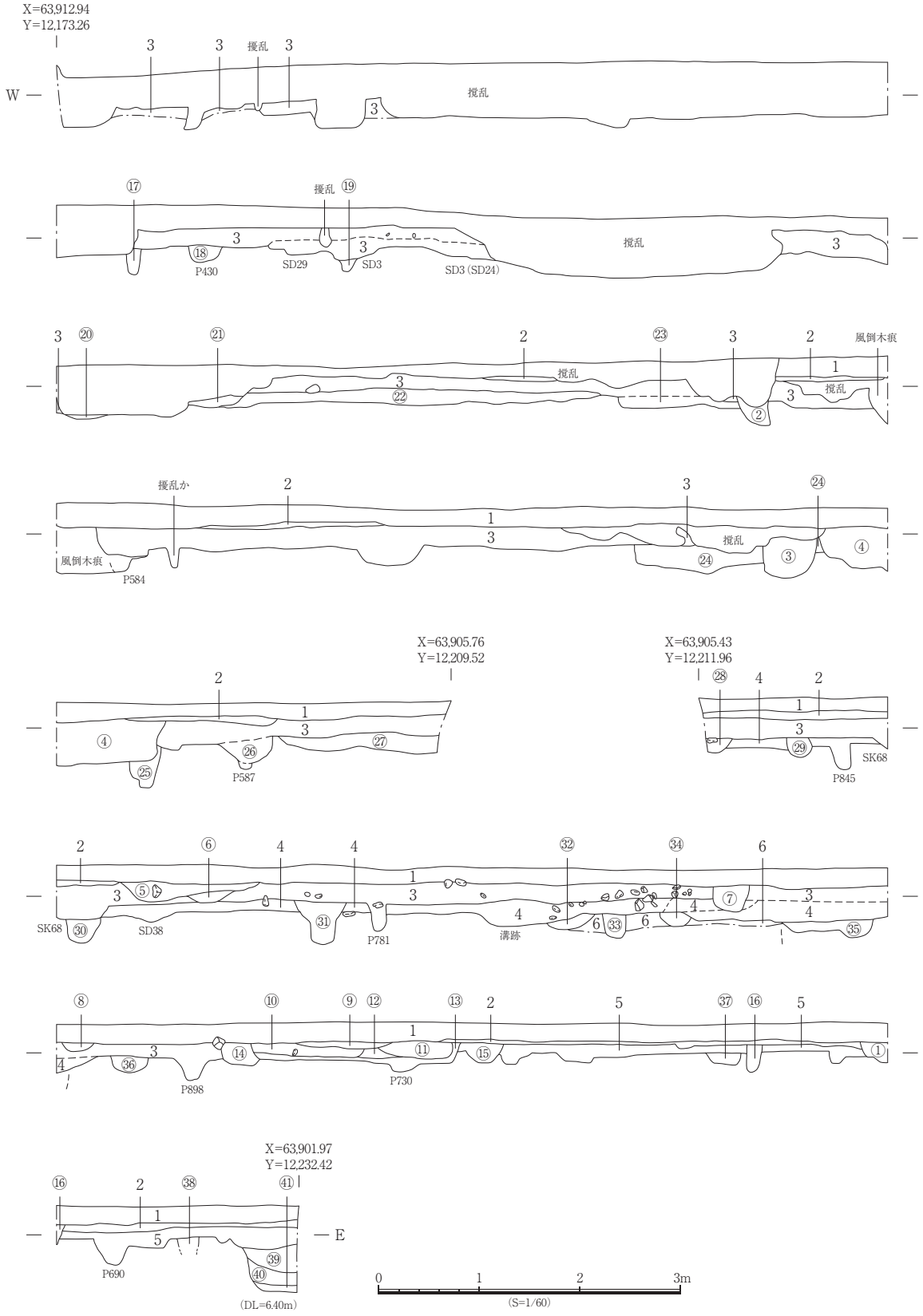
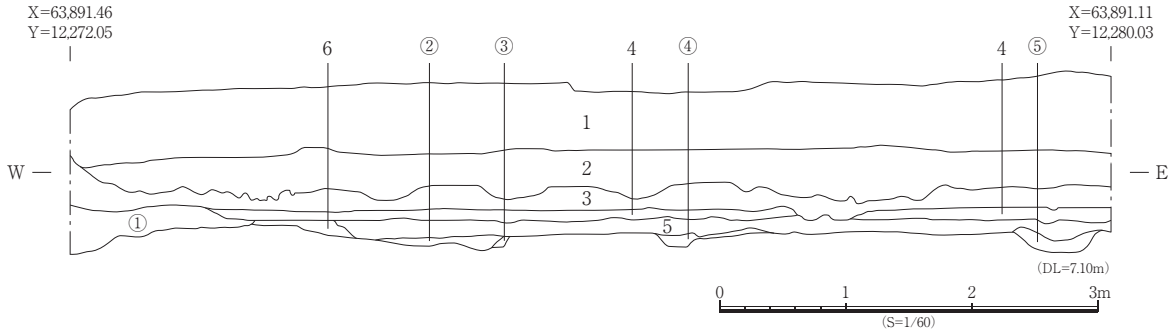


図6　9－1・2区調査区北壁断面図

層位
第１層　褐灰色（10YR4/1）細粒砂質シルト（旧耕作土）
第２層　床土
第３層　黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト（遺物包含層）
第４層　褐灰色（10YR4/1）細粒砂質シルト・黒色（10YR2/1）細粒砂質シルト・明褐色（7.5YR5/6）細粒砂質シルト
第５層　黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト～褐灰色（10YR4/1）細粒砂質シルトに黒色（10YR2/1）細粒砂質シルトブロックを少量含む
第６層　暗褐色（10YR3/3）細粒砂質シルト（地山か）

遺構埋土
① 褐灰色（10YR5/1）細粒砂質シルト・黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトに地山（褐色（7.5YR4/3）細粒砂質シルト）ブロックを少量含む（遺構か）
② 褐灰色（10YR4/1）細粒砂質シルトに地山（明黄褐色（10YR6/6）細粒砂質シルト）粒～ブロックを少量含む（SB21ピット）
③ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト（P471）
④ 黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルトにハンダ粒を多く含む（SK31）
⑤ 褐灰色（10YR5/1）細粒砂質シルトに褐灰色（10YR4/1）細粒砂質シルトが下層に混ざる（遺構か）
⑥ 褐灰色（10YR4/1）細粒砂質シルトに褐灰色（10YR5/1）細粒砂質シルトブロックを少量含む（遺構か）
⑦ 黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルト・褐灰色（10YR4/1）細粒砂質シルト（遺構か）
⑧ 灰黄褐色（10YR5/2）細粒砂質シルト（遺構か）
⑨ 褐灰色（10YR5/1）細粒砂質シルトブロックと黒色（10YR2/1）細粒砂質シルトブロックが混ざる（遺構か）
⑩ にぶい黄橙色（10YR7/4）細粒砂質シルトに褐灰色（10YR5/1）細粒砂質シルトブロックと黒色（10YR2/1）細粒砂質シルトブロックを少量含む（遺構か）
⑪ にぶい黄橙色（10YR7/4）細粒砂質シルトに褐灰色（10YR5/1）細粒砂質シルトブロックと黒色（10YR2/1）細粒砂質シルトブロックを少量含む（遺構か）
⑫ 褐灰色（10YR4/1）細粒砂質シルトブロックと黒色（10YR2/1）細粒砂質シルトブロックが混ざる（遺構か）
⑬ 黒灰色（10YR3/1）細粒砂質シルトに褐灰色（10YR5/1）細粒砂質シルトを含む（SK55か）
⑭ 褐灰色（10YR5/1）細粒砂質シルトに地山（にぶい黄橙色（10YR6/4）細粒砂質シルト）ブロックと褐灰色（10YR4/1）細粒砂質シルトブロックを少量含む（P662）
⑮ 褐灰色（10YR5/1）細粒砂質シルトに地山（にぶい黄橙色（10YR6/4）細粒砂質シルト）ブロックと褐灰色（10YR4/1）細粒砂質シルトブロックを少量含む（ピット）
⑯ 褐灰色（10YR5/1）細粒砂質シルト・黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトに地山（褐色（7.5YR4/3）細粒砂質シルト）ブロックを少量含む（P691）
⑰（P429）
⑱ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトに地山（明黄褐色（10YR6/6）細粒砂質シルト）ブロックを少量含む（P430）
⑲ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト・地山（明黄褐色（10YR6/6）細粒砂質シルト）（ピット）
⑳ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト（SD4）
㉑ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトに地山（明黄褐色（10YR6/6）細粒砂質シルト）ブロックと褐灰色（10YR5/1）細粒砂質シルトのブロックを少量含む（撹乱か）
㉒ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトに直径3cm大以下の地山（明黄褐色（10YR6/6）細粒砂質シルト）ブロックを少量含む（SD26）
㉓ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト・地山（明黄褐色（10YR6/6）細粒砂質シルト）（SD23）
㉔ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト（SD22）
㉕ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトに地山（明黄褐色（10YR6/6）細粒砂質シルト）ブロックを少量含む（ピット）
㉖ 黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルトに直径2cm大以下の地山（黄褐色（10YR5/6）細粒砂質シルト）ブロックと黒色（10YR2/1）細粒砂質シルトブロックを少量含む（SD17）
㉗ 黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルトに黒色（10YR2/1）細粒砂質シルトブロックを少量含む（SK42・SD39）
㉘ 褐灰色（10YR4/1）細粒砂質シルト・黒色（10YR2/1）細粒砂質シルト・明褐色（7.5YR5/6）細粒砂質シルト（SD37）
㉙ 黒灰色（10YR3/1）細粒砂質シルト（遺構か）
㉚ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト（P827）
㉛ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト（P780）
㉜ 黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルトに直径2cm大以下の礫を少量含む（ピット）
㉝ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトに地山（明黄褐色（10YR6/6）細粒砂質シルト）ブロックを少量含む（遺構か）
㉞ 黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルトに直径2cm大以下の礫を少量含む（遺構か）
㉟ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト（SE2）
㊱ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト（ピット）
㊲ 黒褐色（10YR3/1）～褐灰色（10YR4/1）細粒砂質シルトに黒色（10YR2/1）細粒砂質シルトブロックと直径2cm大以下の褐色（7.5YR4/3）細粒砂質シルトブロックを少量含む（ピット）
㊳ 褐灰色（10YR5/1）細粒砂質シルトに黒色（10YR2/1）細粒砂質シルトブロックと橙色（7.5YR6/6）細粒砂質シルトブロックを少量含む（遺構か）
㊴ 黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルトに地山（にぶい黄褐色（10YR5/4）細粒砂質シルト）ブロックを少量含む（SD32）
㊵ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト（SD32）
㊶ 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトに直径2cm大以下の明黄褐色（10YR7/6）細粒砂質シルトブロックを少量含む（SD32）

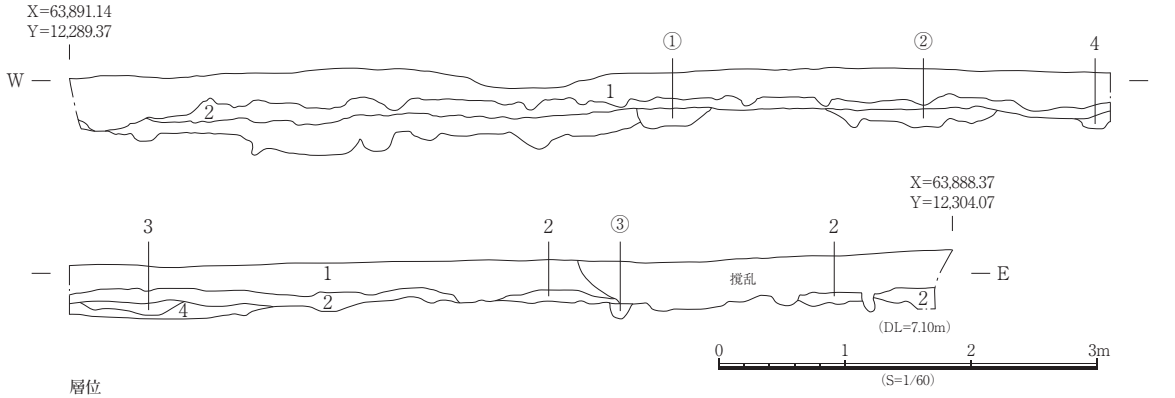
10－2区　北壁



層位
第1層　表土(盛土)
第2層　客土(整地層)
第3層　旧表土(耕作土)
第4層　黒褐色(10YR3/2)細粒砂質粘性シルトに地山ブロックを含む
第5層　黒褐色(10YR3/2)細粒砂質粘性シルト(遺物包含層)
第6層　黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト(遺物包含層)

遺構埋土
① 褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルト(SD8)
② 黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト(SD5)
③ 地山(黄褐色(10YR5/6)細粒砂質粘性シルト)に黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトを少量含む(SD5)
④ 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質粘性シルト(SD6)
⑤ 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質粘性シルト(SD4)

10－3区　北壁



層位
第1層　表土・床土
第2層　黒褐色(10YR2/3)シルト質極細粒砂に直径1cm大以下の礫を含む
第3層　暗褐色(10YR3/4)極細粒砂
第4層　黒褐色(10YR3/2)極細粒砂

遺構埋土
① 暗褐色(10YR3/3)極細粒砂に細礫を含む(ピット)
② 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂に細礫を含む
③ 暗褐色(10YR3/4)極細粒砂

図7　10区調査区北壁断面図

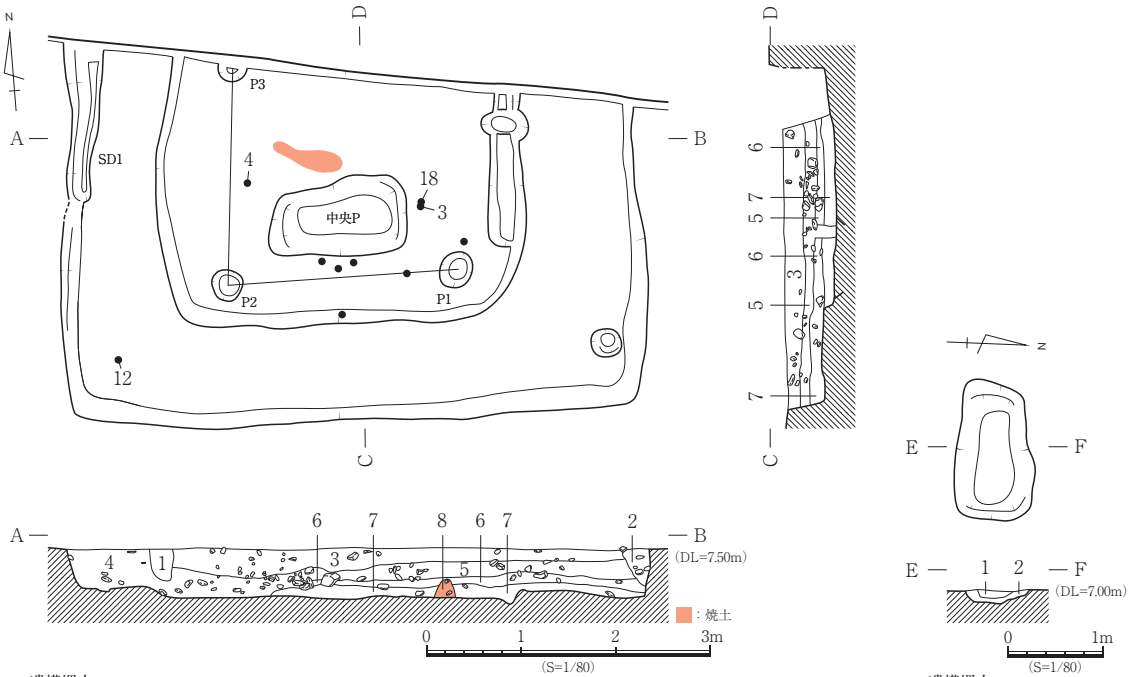
第2節　4区

1.ST

ST1

ST1は調査区中央部で検出した平面形が方形の竪穴建物跡であり，北半は調査区外である。東西約6.12m，南北の検出長は約4.05mを測り，床面積は約37.5㎡と推定される。主軸方向はN－2°－Eである。検出面から低床部までの深さは約50cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

床面では中央ピット(ST1_中央P)，主柱穴(ST1_P1～3)，ベッド状遺構，壁溝(ST1_SD1)等を検出した。中央ピット(ST1_中央P)は床面中央南よりで検出した。長軸約1.42m，短軸約0.82mの不整隅丸長方形を呈する。低床部からの深さは約25cmであり，埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。中央ピットの北西で幅約23cm，長さ約76cmの不整形の焼土跡を検出した。主柱穴は低床部の四隅に配置されている。直径30～40cmの円形から不整円形を呈し，低床部からの深さは17～26cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。ベッド状遺構は四周に巡ると推測される。幅約90cm，低床部との比高差は約14cmである。壁溝(ST1_SD1)は西辺で検出した。幅約24cm，ベッド状遺構上面からの深さは約3cmを測る。検出長は約1.50mである。埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。また，低床部の東辺で小溝を検出した。幅約32cm，低床部からの深さは約4cmを測る。検出長は約1.62mである。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトである。



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む(P117)
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト・地山(にぶい黄橙色(10YR7/4～6/4)細粒砂質シルト)
3. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト
4. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに直径3cm大以下の礫をやや多く含む
5. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト
6. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを含む
7. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む
8. 焼土(明褐色(7.5YR5/6)細粒砂質シルト)

遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト
2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト

ST1_中央ピット

図8　4区　ST1　平面図・断面図

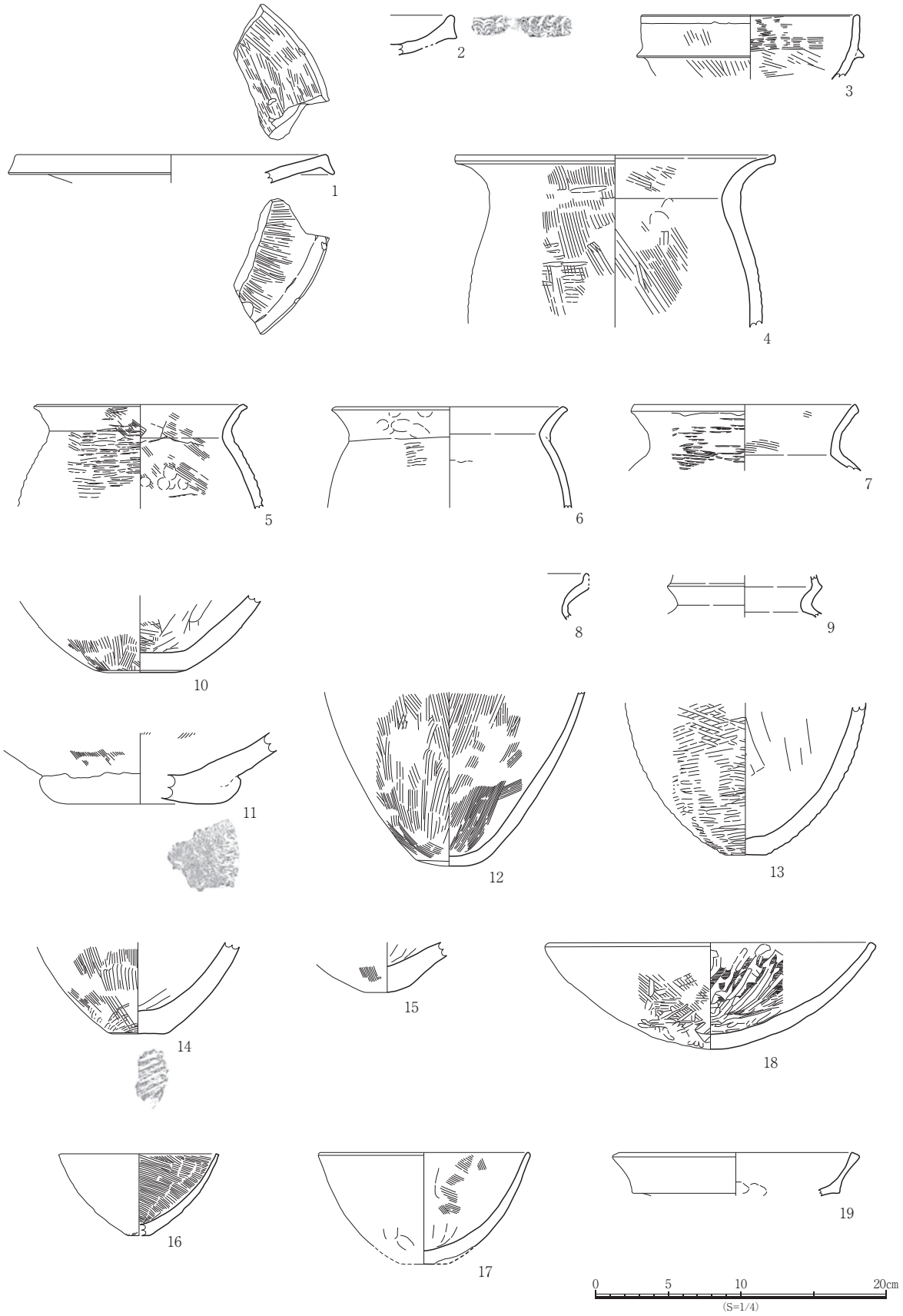


図9　4区　ST1　出土遺物実測図_1

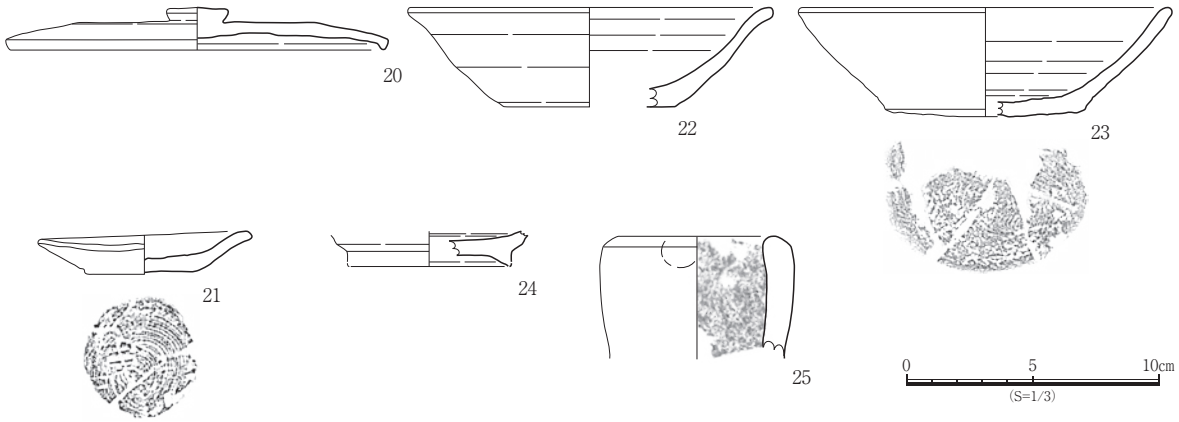


図10　4区　ST1　出土遺物実測図_2

図示した出土遺物は，弥生土器の壺(1～3)・甕(4～9)・底部(10～15)・鉢(16～18)・高杯(19)，須恵器の蓋(20)，土師質土器の皿(21)・杯(22・23)，緑釉陶器の皿(24)，製塩土器(25)である。

1は壺である。口唇部を下方に拡張し，面取りを施す。口縁部は内外面ともにハケ調整を施す。2は壺である。口縁部は内湾気味にひらき，口唇部に4条1単位の櫛描波状文を施す。3は壺である。口縁部は内湾気味に立ち上がる。突帯を貼付する。口縁部外面は粗いハケ調整，内面はヘラナデ調整・粗いハケ調整を施す。4は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈する。口縁部外面は叩き調整後ハケ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はナデ調整・ハケ調整を施す。5は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はハケ調整を施す。体部外面は叩き調整，内面はハケ調整である。6は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともにナデ調整である。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し，内面はナデ調整を施す。外面は口縁部と頸部の境，内面は肩部に粘土接合痕跡がみられる。7は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はナデ調整を施す。8は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し，上方へ拡張させる。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はヨコナデ調整・ナデ調整を施す。9は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。上方へ拡張し，内傾させる。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整を施す。肩部内面にはヘラケズリ調整を施す。山陰系の搬入品か。10は角の取れた平底の底部であり，外底面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整を施し，内面はハケ調整後ナデ調整およびヘラナデ調整を施す。11は角の取れた平底の底部であり，円盤状を呈する。外底面にはハケ調整を施す。体部外面はハケ調整，内面はハケ調整後ナデ調整を施す。12は丸底の底部である。外底面は叩き調整後ハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整を施し，内面はハケ調整を施す。13は角の取れた平底の底部である。外底面は叩き調整後ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。14は平底の底部である。外底面は叩き調整後ナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はナデ調整である。15は丸底の底部である。外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。16は鉢である。平底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整，内面はハケ調整である。外面にはキレツがみられる。17は鉢である。角の取れた平底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面にはナデ調整を施し，内面にはハケ調整

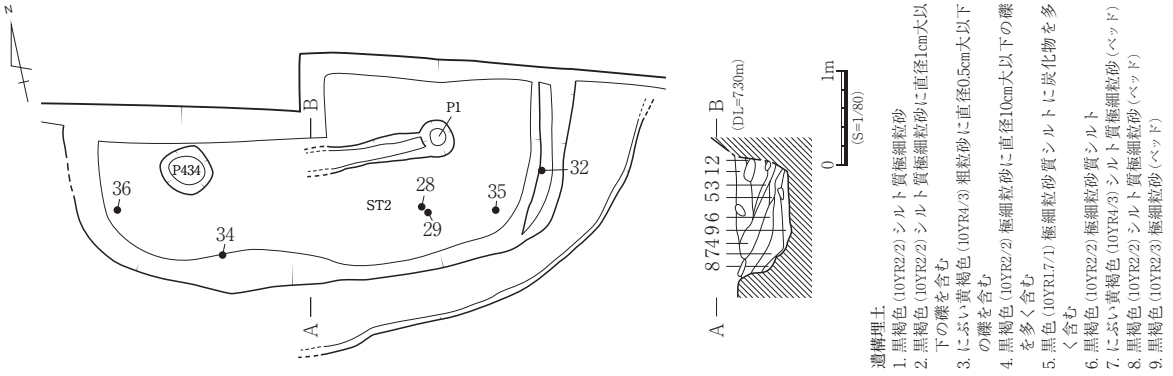


図11　4区　ST2　平面図・断面図

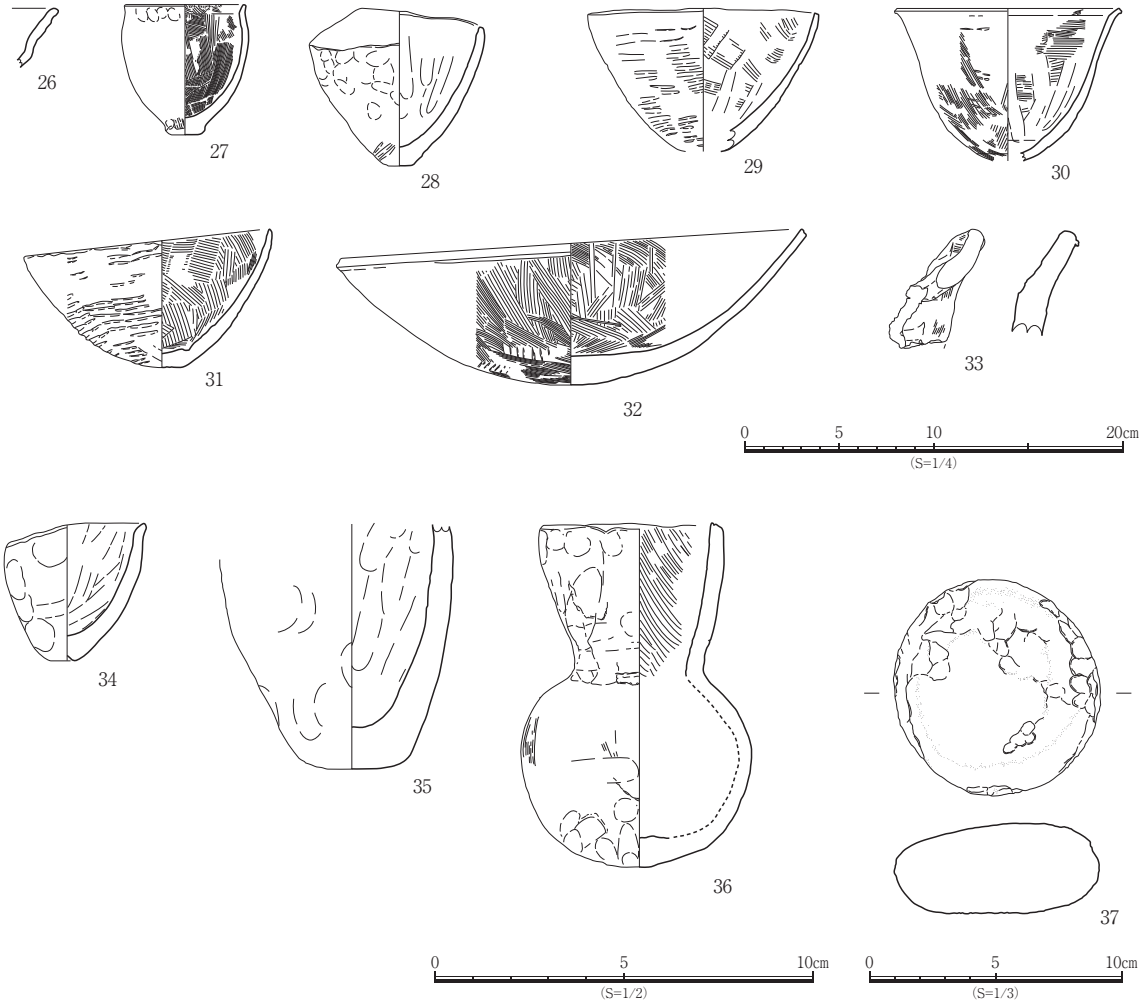


図12　4区　ST2　出土遺物実測図

後ナデ調整を施す。18は鉢である。丸底で外底面にはナデ調整後ミガキ調整を施す。体部外面は粗いハケ調整後ナデ調整・ミガキ調整を施し，内面にはハケ調整後ミガキ調整を施す。19は高杯である。口唇部には面取りを施す。摩耗のため調整等は不明瞭である。20は蓋である。扁平な擬宝珠様の摘みを付す。内外面ともに回転ナデ調整を施す。天井部外面には回転ヘラケズリ調整を施すか。天井部外面にヘラ記号か。自然釉が付着する。21は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底面にはナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。全体的に歪む。22・23は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。24は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底縁には弱い凹みが認められる。黄緑色の釉薬を全面に施す。25は製塩土器である。口縁部は直立し，端部は僅かに内傾する。口唇部は丸くおさめる。外面はナデ調整を施し，内面には布目の圧痕が認められる。

ST2

ST2は調査区西部で検出した平面形は隅丸方形を呈するとみられる竪穴建物跡であり，北半は調査区外である。東西約5.46m，南北の検出長は約2.18mを測り，床面積は約29.8㎡と推定される。主軸方向はＮ－0°である。検出面から低床部までの深さは約64cmであり，埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。低床部直上には2～8cmの炭化物層が認められる。

床面ではベッド状遺構，主柱穴(ST2_P1，P434)，小溝を検出した。ベッド状遺構は南西部のみで確認した。円礫を多く含む黒褐色(10YR2/2)シルトまたは極細粒砂質シルトで基盤を構築し，上層に比較的均質な暗褐色極細粒砂を敷く。規模は幅約0.90m，低床部との比高差は約25cmを測る。上面からはミニチュア土器(34・36)や炭化材が出土している。主柱穴(ST2_P1)は長軸約42cm，短軸約32cmの不整円形を呈し，床面からの深さは約20㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主柱穴(P434)はベッド状遺構の下層で検出した。直径約50㎝の不整円形を呈し，床面からの深さは約10㎝を測る。主柱穴は壁際から約1.00m内側の四隅に配置されていたと推測される。小溝は幅約24cm，床面からの深さは約5cmを測る。検出長は約1.00mである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主柱穴間を連結すると推測される。また，令和元年度の調査では竪穴建物跡の周囲に幅約50cm，検出面からの深さ約10cmのテラスが巡る。

図示した出土遺物は，弥生土器の壺(26)・鉢(27～32)，支脚(33)，ミニチュア土器(34～36)，叩石(37)である。

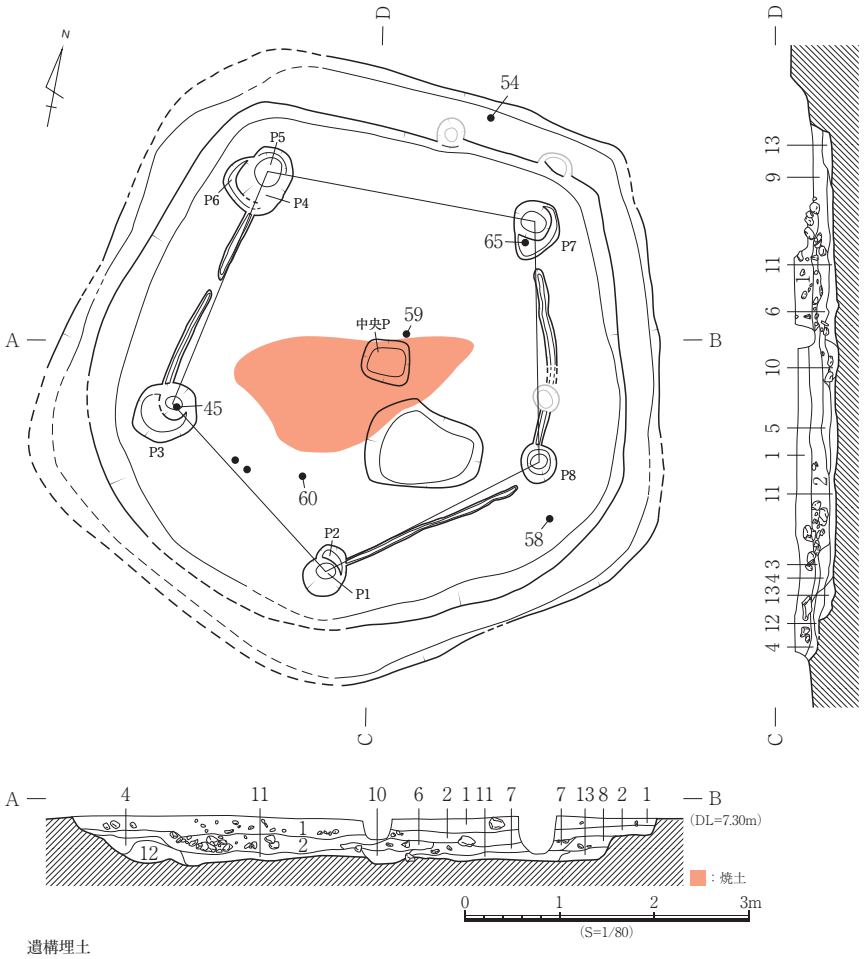
26は壺である。口縁部は外上方へ緩やかに屈曲しながらのびる。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整を施す。被熱により赤変する。搬入品か。27は鉢である。口縁部を外反させ口唇部を尖らせる。底部は丸みを帯びた平底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。搬入品か。28は鉢である。角の取れた平底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。外面にはキレツがみられる。全体的に歪む。29は鉢である。丸底か。体部外面には叩き調整後ナデ調整，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。外表面は被熱によりはじける。30は鉢である。口縁部を外反させ，外面には叩き調整後ナデ調整，内面にはハケ調整を施す。丸底で外底面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し，内面はハケ調整後ナデ調整である。31は鉢である。口唇部を尖らせる。角の取れた平底で外底面の片側を押し潰す。叩き調整を施すか。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハ

ケ調整を施す。外面にはキレツがみられる。ほぼ完存する。32は鉢である。口唇部を摘み上げる。丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整，内面にはハケ調整を施す。33は支脚である。体部は中空で上端をひらき受け部とする。外面はハケ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。被熱変色する。34は鉢形をモデルとしたミニチュア土器である。手捏ねによる成形で口縁部を僅かに外反させる。口縁部内面にはヘラナデ調整を施す。35はミニチュア土器である。モデルは甕形か。体部は内外面ともにナデ調整を施す。角の取れた平底で外底面にはナデ調整を施す。外面にはキレツがみられる。36は壺形をモデルとしたミニチュア土器である。頸部は直立気味で体部は球形を呈し丸底である。ナデ調整およびハケ調整を施す。37は礫岩製の叩石である。扁平な河原石を利用し，周縁を使用する。

ST3

ST3は調査区西部で検出した平面形が五角形の竪穴建物跡である。一辺約3.52mを測り，床面積は約21.3㎡と推定される。主軸方向はN－35°－Wである。検出面から低床部までの深さは約44㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

床面では中央ピット(ST3_中央P)，主柱穴(ST3_P1～5・7・8)，ベッド状遺構，小溝等を検出した。中央ピット(ST3_中央P)は床面中央で検出した。一辺約50㎝の隅丸方形で低床部からの深さは約7㎝を測り，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。また，中央ピットの南東では長軸約1.23m，短軸約0.83mの不整隅丸



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに直径1㎝大以下の礫を少量含む
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに焼土(橙色(7.5YR6/8))ブロックを少量含む
3. 明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト・にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルト
4. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックをやや多く含む
5. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む
6. にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトに焼土(明黄褐色(10YR6/8))を含む
7. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに焼土ブロックを少量含む
8. 明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト・灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む
9. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む
10. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト(中央ピット)
11. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む
12. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルト)を含む
13. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む

図13　4区　ST3　平面図・断面図

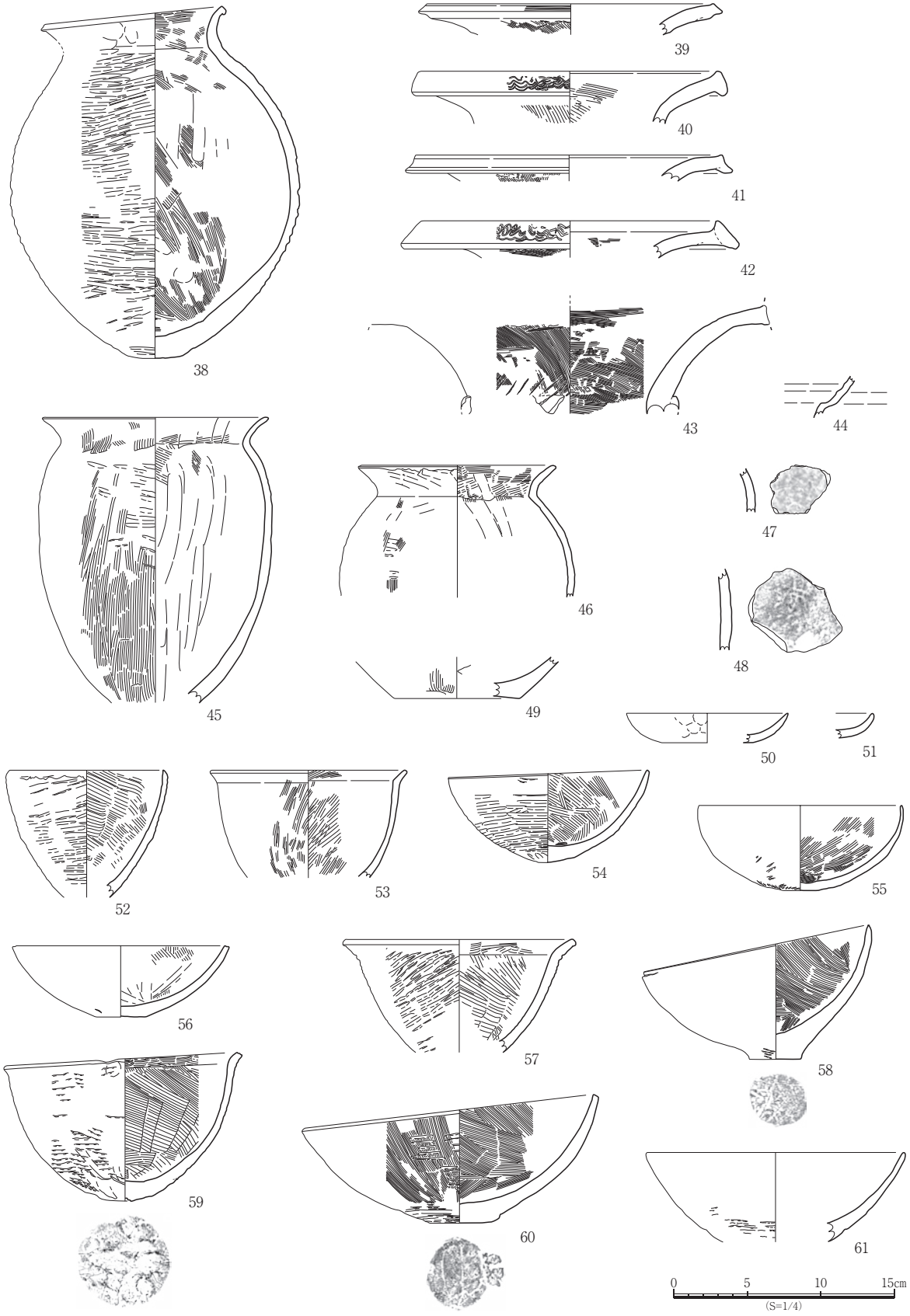


図14　4区　ST3　出土遺物実測図_1

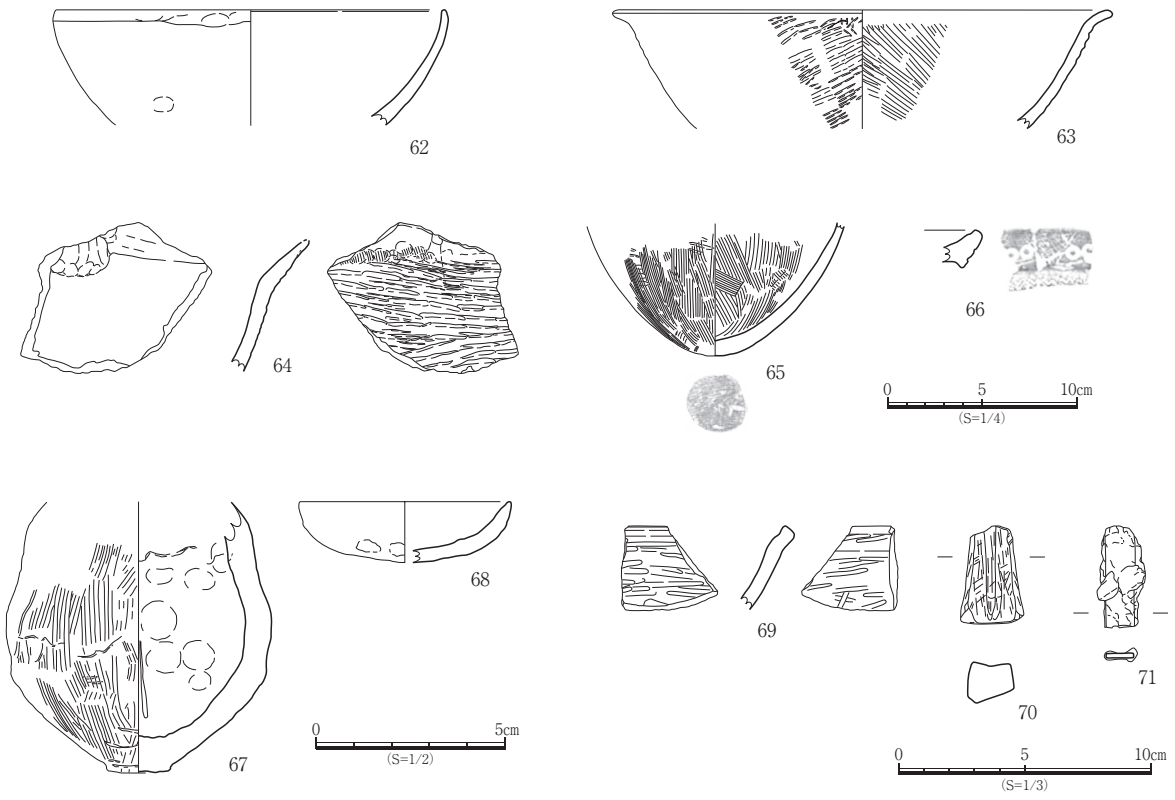
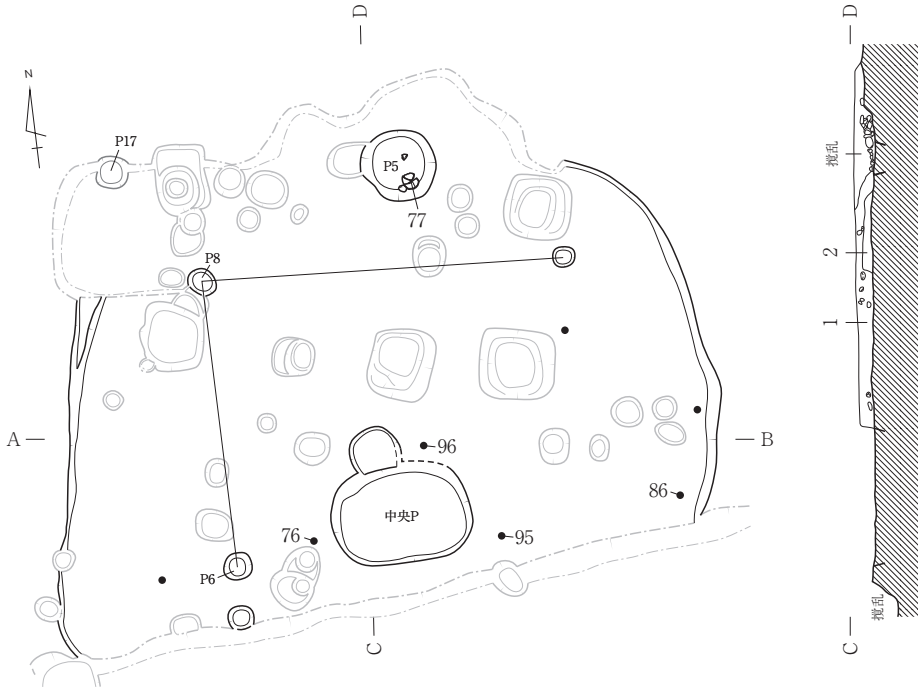


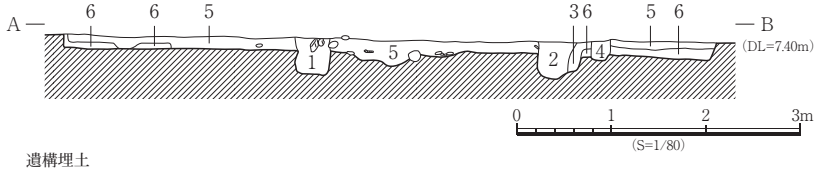
図15　4区　ST3　出土遺物実測図_2

長方形を呈する土坑を検出した。低床部からの深さは約 6 ㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。中央ピットとともに複合型の燃焼施設を構成する可能性がある。主柱穴(ST3_P1 ～ 5・7・8)は低床部の角頂点に配置されている。柱を抜き取った際に生じたものか，一回り大きなピットと重複する。これらのピットは建て替えによる可能性もある。直径約 40 ㎝の円形から不整円形を呈し，低床部からの深さは 17 ～ 26㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。これらの主柱穴間を連結する小溝を検出した。幅 8 ～ 11㎝，低床部からの深さは約 3㎝を測る。検出長は約 4.38m である。ST3_P1 と P8 を連結する小溝の断面形は「V」の字を呈していた。ベッド状遺構は全周で確認した。幅約 46㎝の地山を残し，さらに地山土を多く含む土を用いて拡張していた。低床部との比高差は約 15 ㎝を測る。地山ブロックを含んだ黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトで貼り床が認められた。

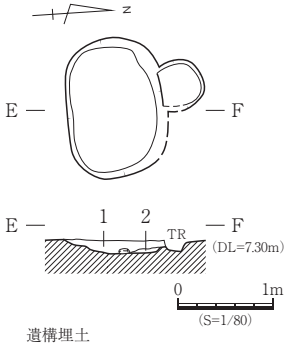
図示した出土遺物は，弥生土器の壺(38 ～ 44)・甕(45・46)・体部片(47・48)・底部(49)・鉢(50 ～ 65)・器台(66)，ミニチュア土器(67・68)，土師器の皿(69)，砥石(70)，鉇(71)である。

38 は壺である。口縁部を短く外反させ，口唇部には面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。底部は丸みを帯びた平底で，外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。39 は壺である。口縁部は大きくひらき，口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。40 は壺である。口縁部は大きくひらき，口唇部には面取りを施す。下方に拡張させ 7 ～ 8 条 1 単位の櫛描波状文を施す。41 は壺である。口縁部は大きくひらき，口唇部下方を摘み出す。口縁部外面はハケ調整，内面はナデ調整である。42 は壺である。口縁部は大きくひらく。口唇部には面取りを施し，上下に拡張させ櫛描波状文を上下に配置



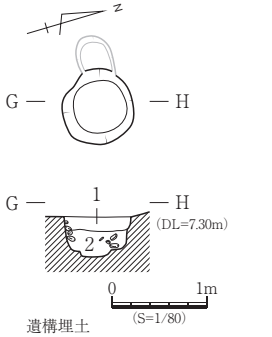


遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む(P184)
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含み直径20cm大以下の礫をやや多く含む(P185)
3. にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルト(P185)
4. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む(ピット)
5. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む(ST4)
6. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む(ST4)



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに炭化物粒と焼土を極少量含む
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト

ST4_中央ピット



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに焼土を少量含む

ST4_P5

図16　4区　ST4　平面図・断面図

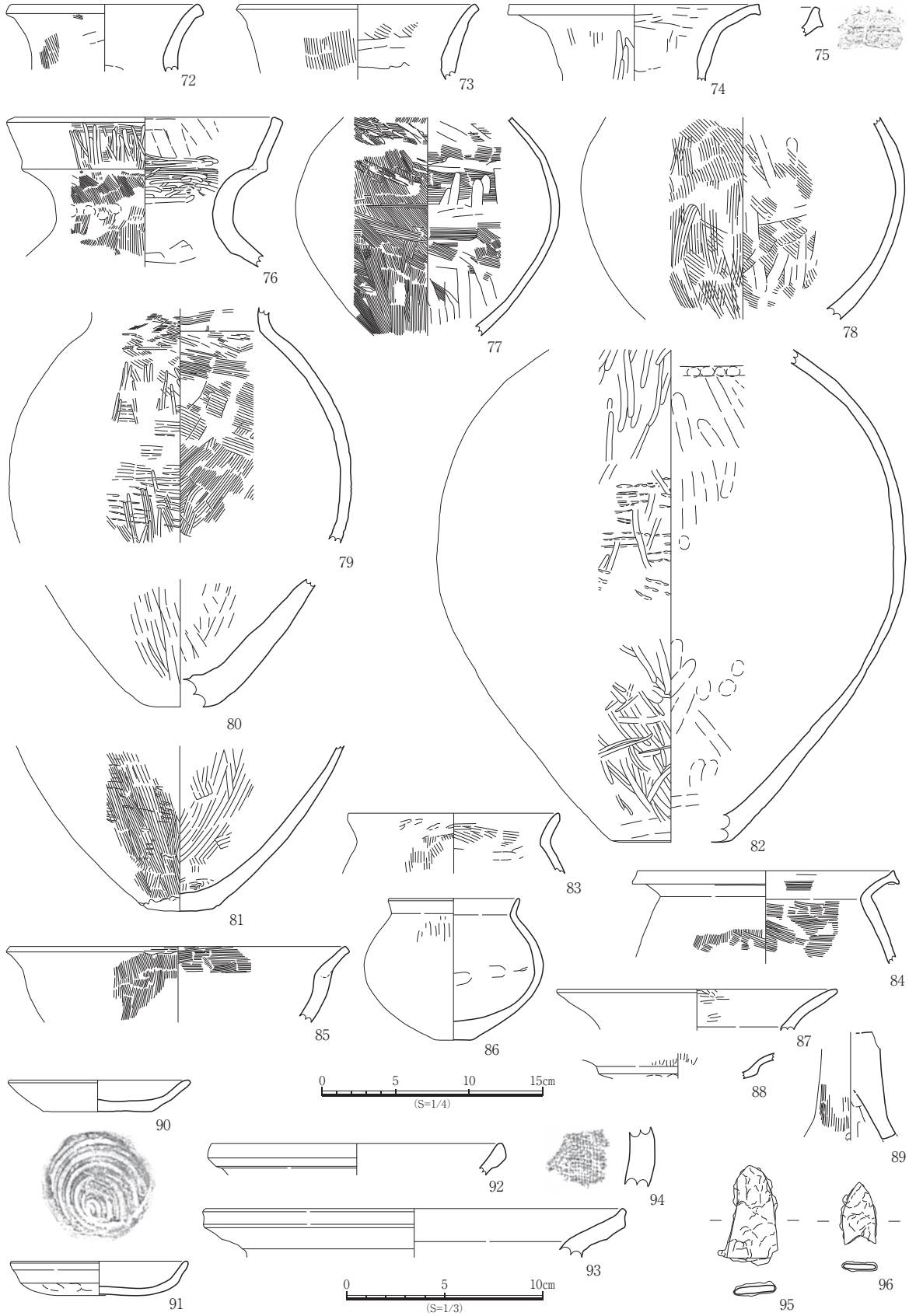


図17　4区　ST4　出土遺物実測図

する。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整･ハケ調整を施す。43は壺である。口縁部は大きくひらく。口唇部には剥離痕跡がみられる。口縁部は内外面ともにハケ調整を施す。突帯の貼付後，刻み目を施す。44は壺である。口縁部は屈曲部を持ち外上方にのびる。外面には凹線文が巡り，凹凸がみられる。高杯の杯部か。45は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面にはハケ調整・ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し，内面にはハケ調整後ナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡がみられる。46は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整・ナデ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。47は体部片である。内外面ともにナデ調整を施す。線刻か。48は体部片である。内外面ともにナデ調整を施す。線刻か。49は平底の底部である。外底面にはナデ調整を施す。体部外面にはハケ調整，内面にはヘラナデ調整を施す。50は皿状の鉢である。口唇部を尖らせる。体部は内外面ともにナデ調整を施す。外面には弱い指頭圧痕が認められる。51は鉢である。体部は内外面ともにヨコナデ調整を施す。52は深めの鉢である。口唇部を尖らせる。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整後ナデ調整である。53は鉢である。口縁部を短く外反させる。口縁部外面はナデ調整，内面はハケ調整を施す。体部は内外面ともにハケ調整を施す。54は鉢である。体部は半球形を呈する。丸底で外底面にナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。55は鉢である。内湾した体部を持つ。ほぼ丸底で，外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。56は鉢である。角の取れた平底で，外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。57は外反口縁の鉢である。口唇部はハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ヨコナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。58は鉢である。内湾気味の体部を持つ。円盤状の平底で，外底面には何かの圧痕がみられる。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整である。全体的に歪む。59は鉢である。口縁部を短く外反させる。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。丸底で，外底面には強いナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。外面にはキレツがみられる。60は杯状の鉢である。丸みを帯びた平底で，外底面にはナデ調整を施す。また，葉脈痕がみられる。体部外面には叩き調整後ハケ調整・ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。外面にキレツがみられる。全体的に歪む。61は鉢である。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はナデ調整か。63は外反口縁の鉢である。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはヨコナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整である。64は外反口縁の鉢である。口唇部を尖らせ，注口を付す。口縁部外面は叩き調整後ハケ調整・ナデ調整，内面はナデ調整か。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはナデ調整を施すか。65は鉢である。丸底の底部で，外底面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はハケ調整である。66は器台である。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整を施す。沈線文・竹管文・櫛描波状文を施す。67はミニチュア土器である。甕形がモデルか。体部外面はハケ調整，内面はナデ調整である。平底で外底面にはナデ調整を施す。肩部内面に接合痕跡がみられる。68は鉢形をモデルとしたミニチュア土器である。手捏ね成形である。69は皿である。口縁部内面は凹む。内外面ともに回転ナデ調整後ヘラミガキ調整を施す。70は泥岩の砥石である。断面形は五角形を呈する。そのうち一面には溝状の使用痕がみられる。

ST4

ST4 は調査区中央部で検出した竪穴建物跡である。竪穴建物跡を含む複数の遺構が重複している可能性がある。東西約 5.46m，南北の検出長は約 2.18m を測る。主軸方向はＮ－ 3°－Ｗである。検出面から床面までの深さは約 13㎝であり，埋土は黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルト他である。

床面では中央ピット（ST4_中央P），主柱穴（ST4_P6・8）等を検出した。中央ピット（ST4_中央P）は長軸約 1.48m，短軸約 1.02m の不整隅丸長方形を呈する。低床部からの深さは約 14 ㎝であり，埋土は

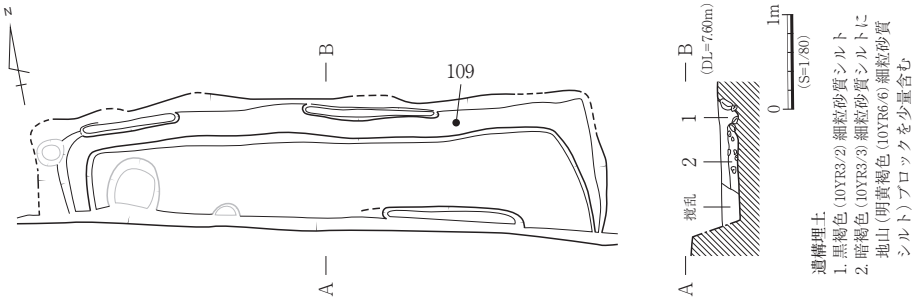


図18　4区　ST5　平面図・断面図

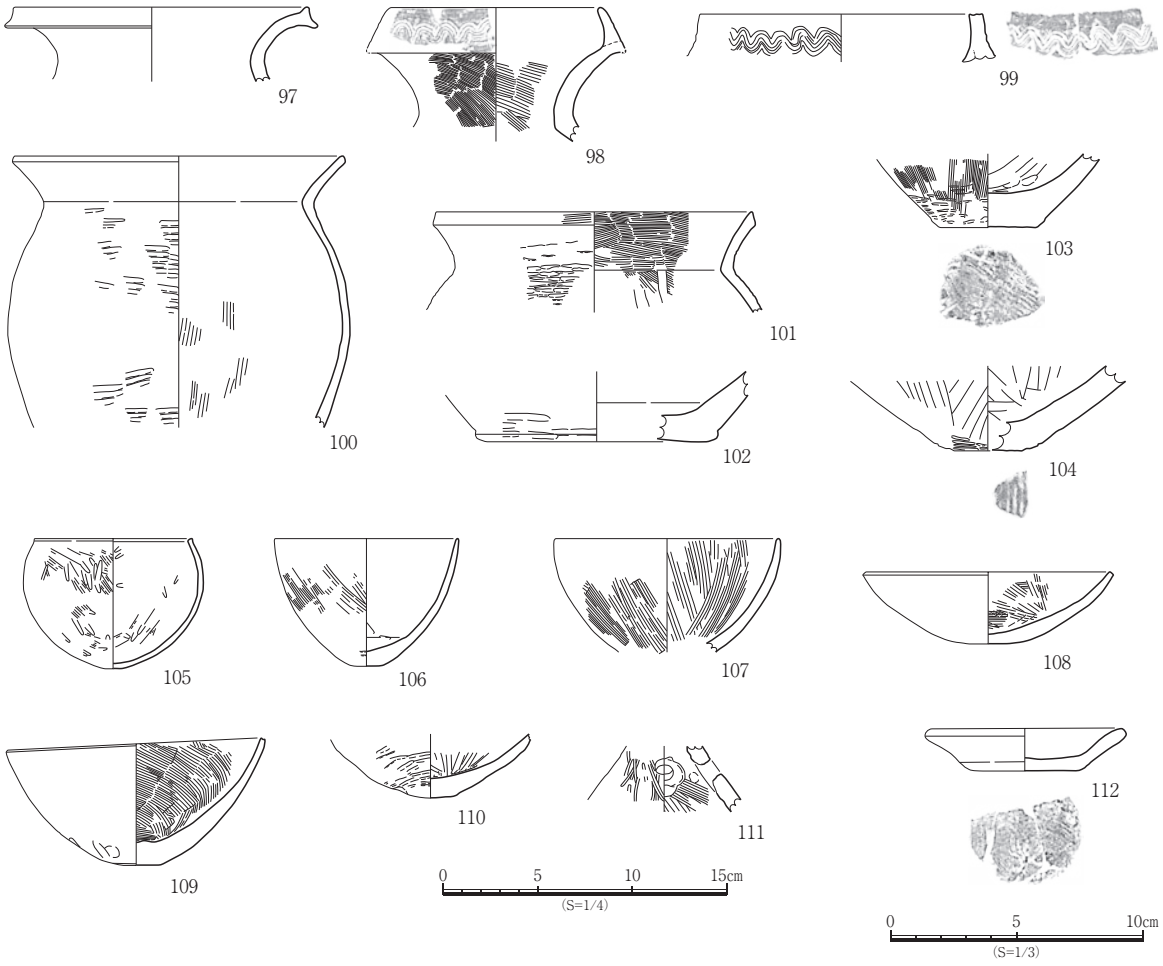


図19　4区　ST5　出土遺物実測図

黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。また，中央ピットの北辺に接してピットを検出した。直径約54㎝の円形を呈する。床面からの深さは約9㎝を測り，埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。中央ピットに付随する可能性がある。ST4_P6・P8は中央ピットの位置関係から主柱穴の可能性がある。ST4_P6は直径約30㎝の円形を呈し，床面からの深さは約54㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。ST4_P8は直径約30㎝の不整円形を呈し，床面からの深さは約20㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。これら以外にも主柱穴となり得るピットを検出している。

図示した出土遺物は，弥生土器の壺(72～79・82)・底部(80・81)・甕(83・84)・鉢(85・86)・高杯(87～89)，土師質土器の皿(90)，瓦器の皿(91)，白磁の碗(92)，土師器の甕(93)，製塩土器(94)，鉄鏃(95・96)である。

72は壺である。口縁部は緩やかに外反し，口唇部には面取りを施す。頸部外面はタテハケ調整，内面はナデ調整である。接合面で剥離する。73は壺である。口縁部は緩やかに外反し，口唇部には面取りを施す。頸部外面にはタテハケ調整，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。74は壺である。口縁部は大きく外反し，口唇部は凹面状を呈する。口縁部外面はナデ調整，内面はヘラナデ調整である。頸部外面にはタテミガキ調整，内面にはナデ調整を施す。75は壺である。口縁部を三角形状に拡張し，上面と下面に5条1単位の櫛描波状文をそれぞれ1単位配置する。外面はヘラミガキ調整，内面はヨコナデ調整後ヘラミガキ調整である。76は二重口縁壺である。一次口縁部の外面にはタテハケ調整，内面にはヘラミガキ調整・ハケ調整・ナデ調整を施す。二次口縁部外面にはヨコハケ調整後タテミガキ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。体部外面はタテハケ調整，内面はヘラケズリ調整である。77は壺である。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。内面に接合痕跡がみられる。78は壺である。体部は球形を呈し，外面にはハケ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。79は壺である。体部は球形を呈し，外面には叩き調整後ハケ調整・ミガキ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。80は角の取れた平底の底部である。外底面にはナデ調整を施す。体部外面はヘラナデ調整，内面はナデ調整である。内底面には指頭圧痕が認められる。接合面で剥離する。81はほぼ丸底の底部である。外底面には叩き調整後ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後

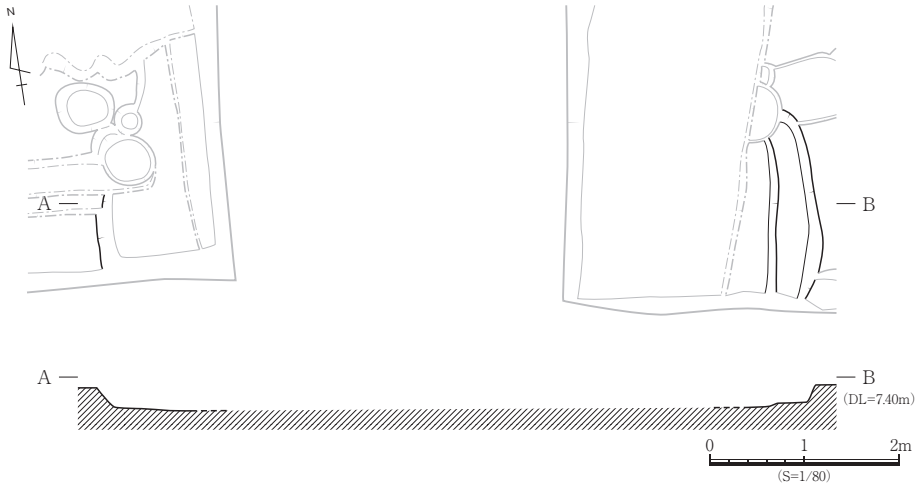
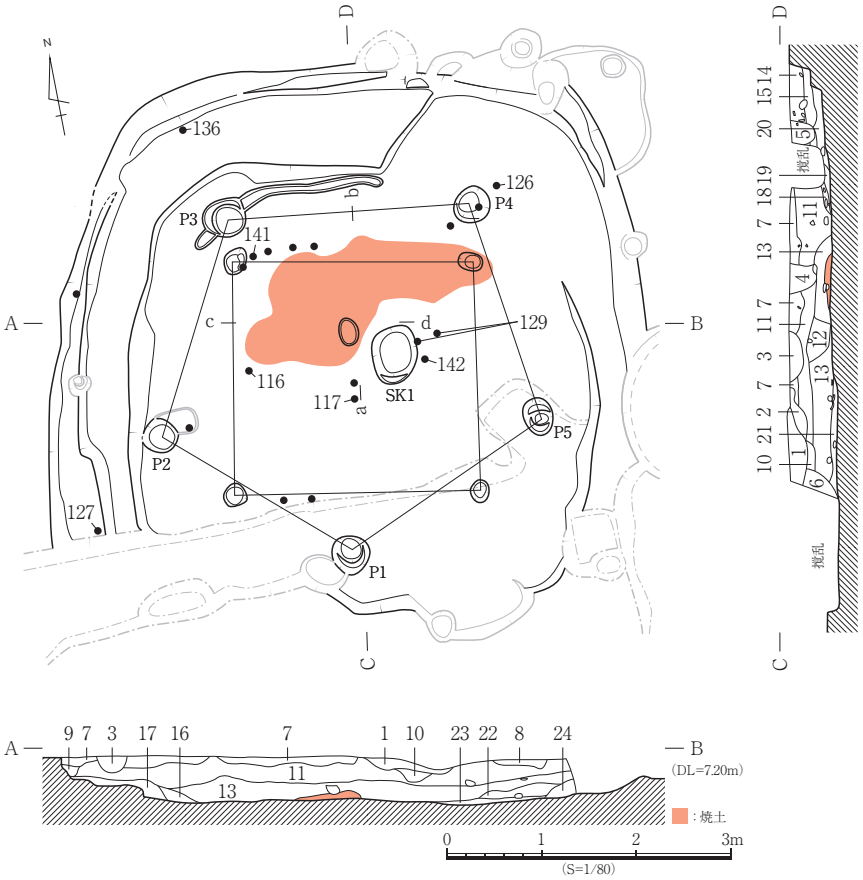
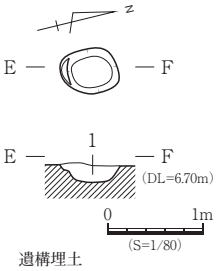


図20　4区　ST6　平面図・エレベーション図



遺構埋土

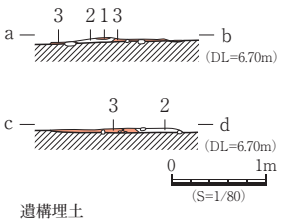
1. 黒色 (10YR2/1) 極細粒砂に炭化物を多く含む (SD9)
2. 黒色 (10YR2/1) 極細粒砂に炭化物を多く含む (SD9) (1層よりも炭化物を多く含む)
3. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質極細粒砂に炭化物を多く含む (ピット)
4. 黒褐色 (10YR2/2) 極細粒砂に炭化物粒を多く含む (P413)
5. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質極細粒砂 (P391)
6. 黒色 (10YR2/1) 極細粒砂 (ピット)
7. 黒褐色 (10YR2/2) 極細粒砂に細礫を含む
8. 黒褐色 (10YR3/2) シルト質極細粒砂
9. 黒褐色 (10YR2/3) 極細粒砂
10. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質極細粒砂
11. 黒褐色 (10YR2/3) 極細粒砂に褐色 (10YR4/6) シルト粒を含む
12. 黒色 (10YR2/1) 極細粒砂に炭化物を多く含む
13. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質極細粒砂に褐色 (10YR4/6) シルトブロックを多く含む
14. 暗褐色 (10YR3/3) 極細粒砂に直径10cm大以下の礫を含む
15. 褐色 (10YR4/4) 極細粒砂に細礫と直径5cm大以下の礫を含む
16. 黒褐色 (10YR2/2) 極細粒砂質シルトに褐色 (10YR4/6) シルトブロックを含む
17. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質極細粒砂に褐色 (10YR4/6) シルトブロックを含む (ベッド)
18. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質極細粒砂に直径10cm大以下の礫を含む
19. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質極細粒砂
20. 暗褐色 (10YR3/3) シルト質細粒砂に褐色 (10YR4/4) シルト粒を含む (ベッド)
21. 黒褐色 (10YR2/2) 極細粒砂質シルトに炭化物を多く含む
22. 黒褐色 (10YR2/2) 極細粒砂質シルト
23. 黒色 (10YR2/1) シルトに炭化物を多く含む
24. 暗褐色 (10YR3/4) 極細粒砂に細礫と褐色(10YR4/4) シルトブロックを含む



遺構埋土

1. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質極細粒砂に直径1cm大以下の礫を少し含む

ST7_SK1



遺構埋土

1. 褐色 (10YR4/6) シルト (焼土)
2. 黒褐色 (10YR2/3) シルトに炭化物を多く含む
3. 褐色 (10YR4/6) シルトに細礫を含む (焼土)

焼土

図21　4区　ST7　平面図・断面図

タテハケ調整を施し，内面にはヘラナデ調整を施す。また，内底面にはナデ調整を施し，僅かな凹凸がみられる。82は壺である。平底で底部と体部の境には比較的明瞭な稜が立つ。外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整・ミガキ調整，内面はナデ調整である。83は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面には粗いヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後粗いハケ調整，内面はナデ調整である。84は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部上端を摘み上げ，下端を摘み出す。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はヨコハケ調整である。体部外面にはハケ調整，内面にはヨコハケ調整を施す。85は外反口縁の鉢である。口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面にはタテハケ調整，内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面はタテハケ調整，内面はナデ調整である。また，内面の一部はミガキ状を呈する部分がある。86は外反口縁の鉢である。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はナデ調整である。角の取れた平底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面はミガキ調整・ナデ調整を施すか。内面にはナデ調整を施す。87は高杯である。口縁部は大きく外反し，外面はナデ調整，内面はヘラミガキ調整である。88は高杯である。口縁部は大きく外反する。杯部は内外面ともにヘラミガキ調整で仕上げる。89は高杯である。脚部上半は中実となる。脚部外面にはナデ調整・タテハケ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。脚部と裾部の境に直径約６㎜の円孔を穿つ。杯部は接合面で剥離する。90は皿である。口縁部は浅く斜め上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。内底面にはロクロ目がみられる。91は皿である。口縁部は浅く斜め上方へひらき，口唇部は丸くおさめる。口縁部にはヨコナデ調整を施す。内底面・外底面には指頭圧痕が認められる。93は甕である。口縁部は大きくひらき，口唇部は摘み上げ，凹面状を呈する。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整を施す。94は製塩土器である。外面はナデ調整を施し，内面には布目の圧痕がみられる。95は鉄鏃か。鏃身の平面形は縦長の五角形を呈する。茎部は欠損する。96は無茎鏃である。断面形は扁平な長方形を呈する。完存する。

ST5

ST5は調査区東部で検出した竪穴建物跡である。竪穴建物跡の大部分は調査区外である。東西約5.48m，南北の検出長は約1.26mを測る。主軸方向はＮ－10°－Ｅである。検出面から床面までの深さは約31㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。幅約30㎝，低床部との比高差約14㎝のベッド状遺構が巡る。ベッド状遺構は幅0.72～1.14m，低床部との比高差は約10㎝を測る。

図示した出土遺物は，弥生土器の壺(97～99)・甕(100・101)・底部(102～104)・鉢(105～110)・高杯(111)，土師質土器の皿(112)である。

98は複合口縁壺である。二次口縁部は内傾し，外面には４条１単位の櫛描波状文を施す。99は複合口縁壺である。口唇部はハケ状原体による面取りを施す。二次口縁部はヨコナデ調整で仕上げ，外面には５条１単位の櫛描波状文を施す。二次口縁部は一次口縁部の上面に付しており，接合面で剥離している。100は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはナデ調整・ハケ調整を施す。101は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部にはハケ状原体による面取りを施し，上端を摘み上げる。口縁部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し，内面はハケ調整・ナデ調整を施す。102は角の取れた平底の底部である。外底面はナデ調整か。103は平底の底部である。外底面は叩き調整後ナデ調

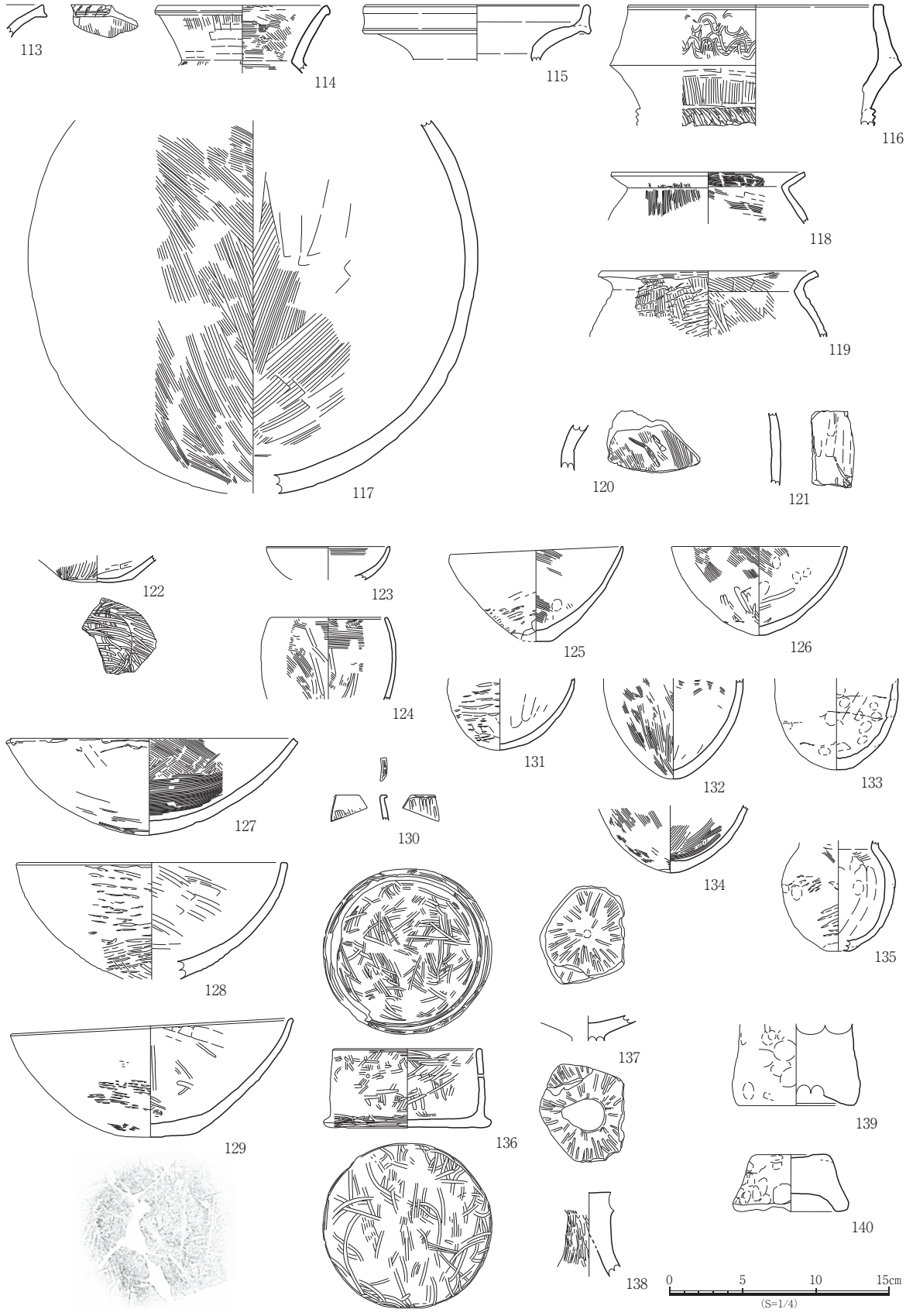


図22　4区　ST7　出土遺物実測図_1

整である。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。104 は角の取れた平底の底部である。外底面には叩き調整後ナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ヘラナデ調整，内面はナデ調整である。105 は鉢である。口唇部を摘み出し，面取りを施す。底部はほぼ丸底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面にはハケ調整後ミガキ調整を施し，内面にはミガキ調整・ヘラナデ調整を施す。精製品である。106 は鉢である。底部は角の取れた平底である。外底面はナデ調整か。体部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はナデ調整である。また，内底面にはヘラナデ調整を施す。107 は鉢である。体部外面にはナデ調整後ハケ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。108 は鉢である。口唇部には面取りを施す。底部はほぼ丸底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。外面にはキレツがみられる。109 は鉢である。体部は半球形，底部は角の取れた平底である。外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整，内面はハケ調整である。外面にはキレツがみられる。全体的にやや歪む。ほぼ完存する。110 は鉢である。丸底の底部であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し，内面には粗いハケ調整を施す。111 は高杯である。焼成前に円孔を穿つ。裾部外面はミガキ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。112 は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。内底面にはナデ調整を加え，ヘソ状を呈する。

ST6

ST6 は調査区東部で検出した竪穴建物跡である。竪穴建物跡の大部分は調査区外である。撹乱等を挟んで検出した遺構を同一の竪穴建物跡としたものの東西約 7.68m となる。若宮ノ東遺跡で検出されているものの中でも特大型に区分されることからそれぞれ別の竪穴建物跡である可能性がある。主軸方向はＮ－８°－Ｅである。検出面から床面までの深さは約 22 ㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

ST7A

ST7A は調査区西部で検出した平面形が五角形を呈するとみられる竪穴建物跡である。SD9，SK6・27 に切られており，南側を現代撹乱やSE1によって削平される。規模は一辺約4.10m，検出面から床面までの深さは約 45 ㎝を測る。埋土は褐色シルト混じる黒褐色極細砂他である。主軸方向はＮ－9°－Ｅである。

床面ではベッド状遺構，中央ピット(ST7A_SK1)，主柱穴(ST7A_P1～5)，周溝を検出した。ベッド状遺構は削平を受ける箇所を除き全周する。幅は約80㎝で，低床部からの比高差は約 15 ㎝である。中央ピット(ST7A_

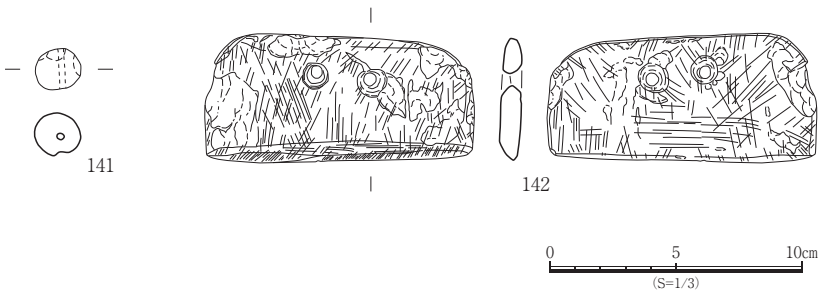


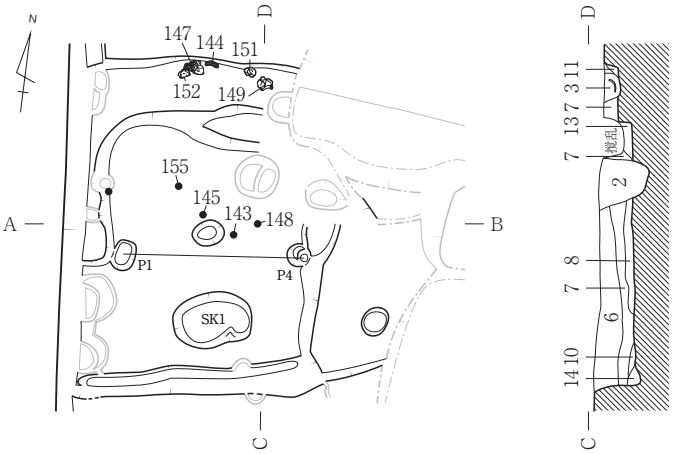
図23　4区　ST7　出土遺物実測図_2

SK1)は床面中央やや東寄りに位置する。平面形は不整方形を呈し，規模は長軸約 0.62m，短軸約 0.48m，深さ約 17㎝を測る。埋土は黒褐色シルト質極細粒砂である。中央ピット(ST7A_SK1)の北西部には焼土が厚さ 2 ～ 4 ㎝で不整形にひろがる。主柱穴は 5 基(ST7A_P1 ～ P5)を確認した。五角形に配される。柱間寸法は P3 － P4 間が約 2.60m，その他は約 2.40m を測る。直径 40 ～ 50㎝の円形から不整円形を呈し，低床部からの深さは35 ～ 43㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質極細粒砂他である。小溝は低床部北辺の一部で検出し，P3 と重なる。幅約 12㎝，深さ約 2 ㎝を測る。検出長は約 2.20m である。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質極細粒砂である。

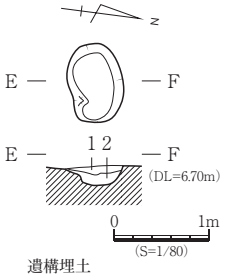
ST7B

ST7B は ST7A の下層に位置する竪穴建物跡である。一辺約 6.20m を測り，床面積は約 38.4 ㎡と推定される。主軸方向はＮ－ 28° －Ｗである。ST7A 床面で主柱穴を確認した。主柱穴は方形に配される。柱間寸法は 2.40m ～ 2.60m を測る。平面形は直径 20 ～ 30 ㎝の楕円形または不整円形を呈し，床面からの深さは 20 ～ 35 ㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質極細粒砂他である。

図示した出土遺物は，弥生土器の壺(113 ～ 117)・甕(118・119)・体部片(120・121)・底部(122)・鉢(123 ～ 135)・合子(136)・高杯(137・138)，支脚(139・140)，土玉(141)，石包丁(142)である。



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/3)極細粒砂に直径2㎝大以下の礫を含む(SK47)
2. 黒褐色(10YR2/2)極細粒砂に細礫と直径20㎝大以下の礫を含み炭化物粒を多く含む(P423)
3. 暗褐色(10YR3/4)極細粒砂質シルト(別遺構か)
4. 黒褐色(10YR2/3)極細粒砂質シルト
5. 暗褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂に褐色(10YR4/4)シルトを多く含む
6. 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂に直径5㎝大以下の礫を含む
7. 黒褐色(10YR2/3)極細粒砂に褐色(10YR4/4)シルトを含む
8. 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂
9. 黒褐色(10YR2/3)シルト質極細粒砂
10. 黒褐色(10YR2/3)極細粒砂に細礫を含む
11. 暗褐色(10YR3/3)シルトに黒褐色(10YR2/2)シルトを含む
12. 褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂に褐色(10YR4/4)シルトを含む
13. にぶい黄褐色(10YR5/4)シルト質極細粒砂に暗褐色(10YR3/3)極細粒砂を含む(ベッドか)
14. 黒褐色(10YR2/2)極細粒砂に細礫を含み直径3㎝大以下の礫を多く含む



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂
2. 黒色(10YR2/1)シルトに直径0.5㎝大以下の礫を含む

ST8_SK1

図24　4区　ST8　平面図・断面図

113は壺である。口縁部を大きく外反させる。口唇部は凹面状を呈し，刻み目を入れる。114は壺である。口縁部は外反し，口唇部は丸みを持った面をなす。口縁部外面にはタテハケ調整後ヨコナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。115は複合口縁壺である。二次口縁部は直立する。内外面ともにヨコナデ調整を施す。116は複合口縁壺である。二次口縁部は僅かに内傾する。一次口縁部外面はハケ調整，内面はナデ調整を施す。二次口縁部は内外面ともにヨコナデ調整を施す。口唇部には面取りを施し，双線による波状文を描く。さらにハケ状原体による刻み目を入れる。117は壺である。体部は球形を呈し，外面には叩き調整後ハケ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。118は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整，内面はハケ調整である。体部外面にはタテハケ調整，内面にはハケ調整を施す。119は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はハケ調整である。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。120は体部片である。焼成後線刻か。121は体部片である。焼成後に線刻か。122は丸底の底部であり，外底面にはミガキ調整を施す。体部外面にはミガキ調整，内面にはヘラケズリ調整後ナデ調整を施す。讃岐からの搬入品と考えられる。123は皿状を呈した鉢である。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はヨコハケ調整である。体部は内外面ともにナデ調整を施す。124は鉢である。体部は内湾し，口唇部は尖らせ気味に仕上げる。体部外面にはハケ調整・ナデ調整を施し，一部はミガキ状を呈する。内面はハケ調整後ミガキ調整である。125は鉢である。深めの体部であり平底である。体部外面には叩き調整後ナデ調整・ヘラケズリ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。126は鉢である。体部は半球形を呈し，底部はほぼ丸底である。外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともにハケ調整・ナデ調整である。127は鉢である。体部は杯状を呈し，口唇部にはルーズな面取りを施す。底部は丸底であり，外底面にはハケ調整を施す。体部外面はハケ調整・ナデ調整，内面はハケ調整である。128は鉢である。体部は半球形を呈し，口唇部にはルーズな面取りを施す。底部は丸底であり，外底面には叩き調整後ハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。129は鉢である。体部は杯状を呈し，口唇部は丸くおさめる。底部は角の取れた平底であり，外底面にはナデ調整を施す。また，葉脈痕がみられる。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはナデ調整を施し，一部はヘラミガキ状を呈する。130は鉢である。口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。体部外面はミガキ調整，内面はヨコナデ調整・ハケ調整である。131は鉢である。体部は半球形を呈する。底部は丸底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。132は鉢である。深い体部を持ち，底部は丸底である。外底面はナデ調整である。体部外面にはハケ調整，内面にはハケ調整後ナデ調整を施す。133は鉢である。深い体部を持ち，底部は丸底である。内外面ともにナデ調整を施し，内面には指頭圧痕が認められる。幅1.3㎝の接合痕跡がみられる。134は鉢である。体部は半球形を呈し，底部は丸底である。外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はハケ調整である。135は鉢である。体部は球形を呈する。外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。136は合子である。器高の低い円柱状を呈し，底端部には粘土紐を加え突出させる。体部外面はハケ調整後ミガキ調整，内面にはミガキ調整を施す。底部は安定した平底で，外底面にはハケ調整後ミガキ調整を施す。また，口縁部よりもやや下がった位置に直径2㎜の円孔を穿つ。丁寧なつくりである。137は高杯である。杯部は内外面ともに放射状のミガキ調整を施す。丁寧なつくりである。138は高杯で

ある。分割成形である。脚部外面はミガキ調整，内面はナデ調整である。139は支脚である。指頭により成形する。上げ底となる。140は器高の低いタイプの支脚である。指頭により成形する。上げ底となり，上面は凹む。141は土玉である。直径2㎜の円孔を穿つ。ほぼ完存する。142は粘板岩製の磨製石包丁である。片刃である。円孔は両面から穿孔する。ほぼ完存する。

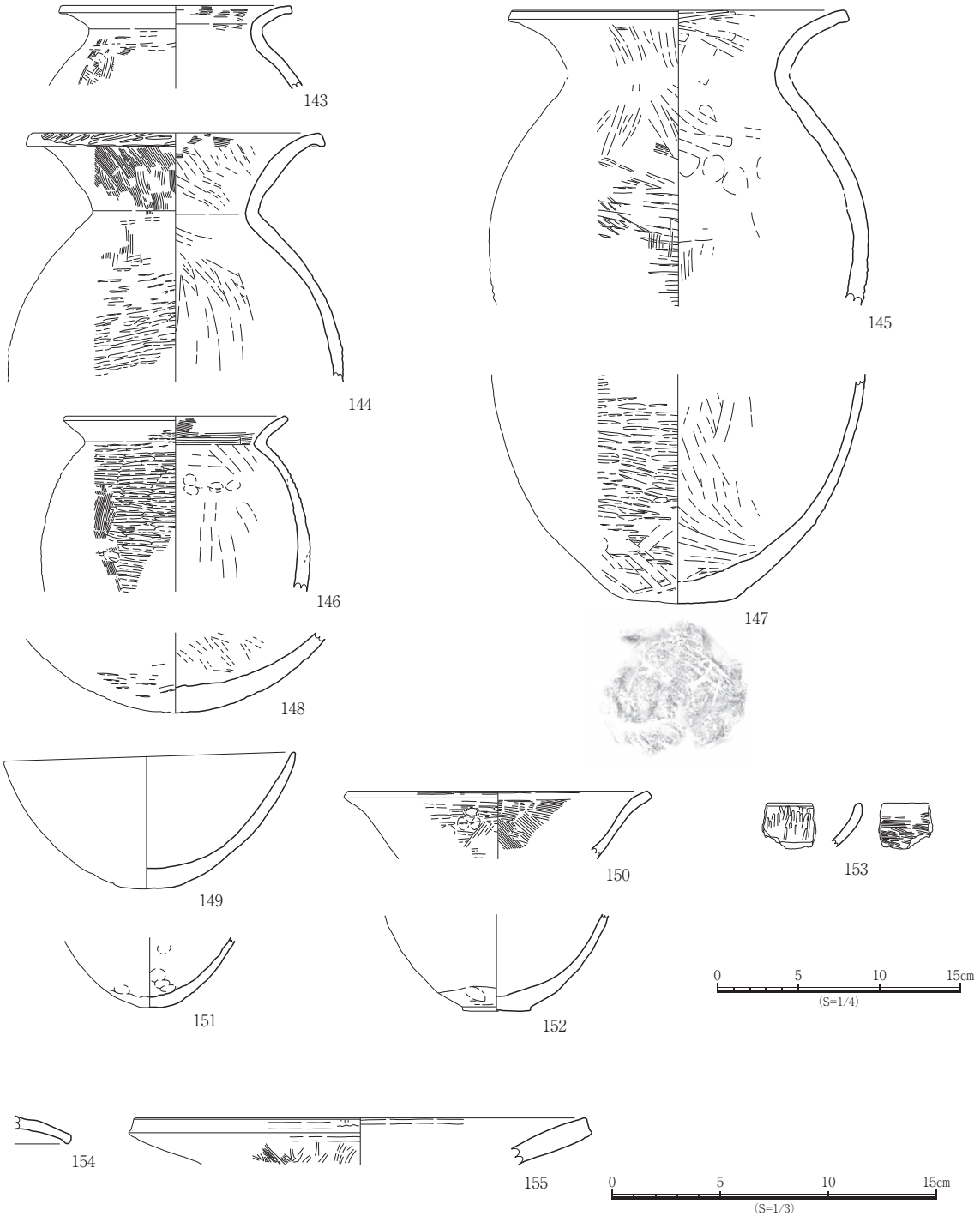


図25　4区　ST8　出土遺物実測図

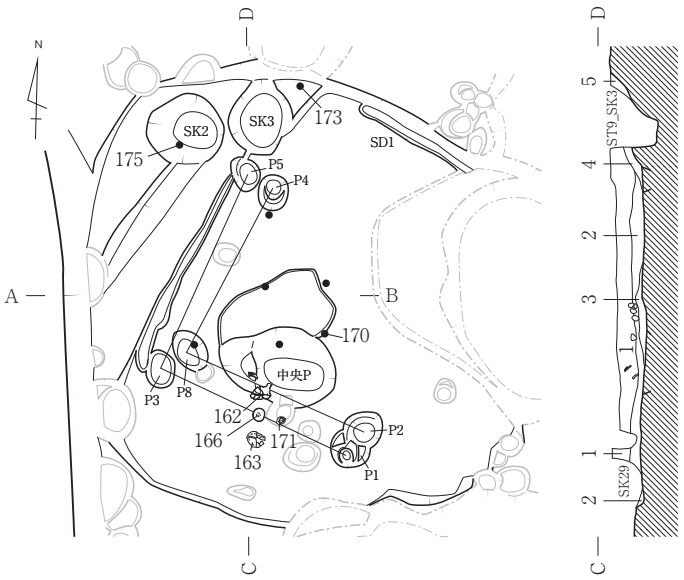
ST8

ST8 は調査区西部で検出した竪穴建物跡である。東側を後世の撹乱によって削平され，西側は調査区外となる。平面形は方形を呈するとみられ，規模は南北約 3.56m，東西の検出長は約 3.06m を測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)極細粒砂他である。北辺から西辺にかけて地山削り出しによるベッド状遺構が存在する。幅約 52 ㎝で低床部との比高差は約 10 ㎝を測る。また，建物東肩部は後世の削平により明確ではないが，東部にも低床部との比高差約21㎝のテラス部が存在しており，ST8に伴うベッド状遺構と考えられる。

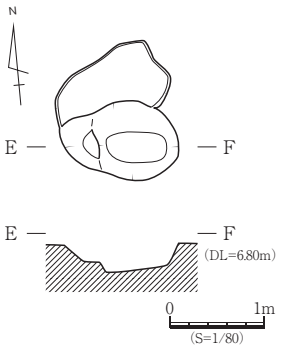
低床部では，中央ピット(ST8_SK1)，主柱穴(ST8_P1・4)，壁溝を確認した。中央ピットは床面中央南壁付近に位置しており，平面形は楕円形を呈する。規模は長軸約0.83m，短軸約0.58m，低床部からの深さ約 19 ㎝を測る。埋土は黒色(10YR2/1)シルト他である。主柱穴はP1・P4 と考えられ，2 本柱で上屋構造を支える建物と考えられる。主柱穴の心々距離は約 2.30m を測る。P1 は平面楕円形を呈し，長軸約 32 ㎝，短軸約 24㎝，低床部からの深さ約 12㎝を測る。P4 は平面円形を呈し，直径約 26 ㎝，低床部からの深さ約 25 ㎝を測る。壁溝は南辺でのみ確認した。規模は幅約 14 ㎝，低床部からの深さ約 3 ㎝を測る。検出長は約 2.58m である。埋土は黒褐色(10YR2/2)極細粒砂である。

図示した出土遺物は，弥生土器の壺(143～145)・甕(146)・底部(147・148)・鉢(149 ～ 152)・高杯(153)，須恵器の蓋(154)，土師器の甕(155)である。

143 は壺である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はヨコハケ調整である。体部外面にはハケ調整後ミガキ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。144 は壺である。口縁部を外反させ，口唇部を下方へ僅かに拡張させ，雑な刻み目を施す。頸部外面にはタテハケ調整，内面



遺構埋土
1. 黒褐色 (10YR2/3) 極細粒砂に直径10cm大以下の礫を含む
2. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質極細粒砂に直径5cm大以下の礫を含む
3. 黒色 (10YR1.7/1) 極細粒砂に炭化物を多く含む
4. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質極細粒砂に直径3cm大以下の礫を含む
5. 暗褐色 (7.5YR2/3) シルト質極細粒砂に直径5cm大以下の礫を含む
6. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質極細粒砂に直径0.5cm大以下の礫を含む
7. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質極細粒砂



ST9_中央ピット

図26　4区　ST9　平面図・断面図

にはハケ調整・ナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整・ナデ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。145は壺である。口縁部を外反させ，口唇部には面取りを施す。頸部外面には叩き調整後ヘラナデ調整を施し，内面にはヘラナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ヘラナデ調整・ナデ調整，内面はヘラナデ調整・ナデ調整である。146は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部は丸くおさめる。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはヨコナデ調整・ヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後タテハケ調整，内面はナデ調整である。147は角の取れた平底の底部であ

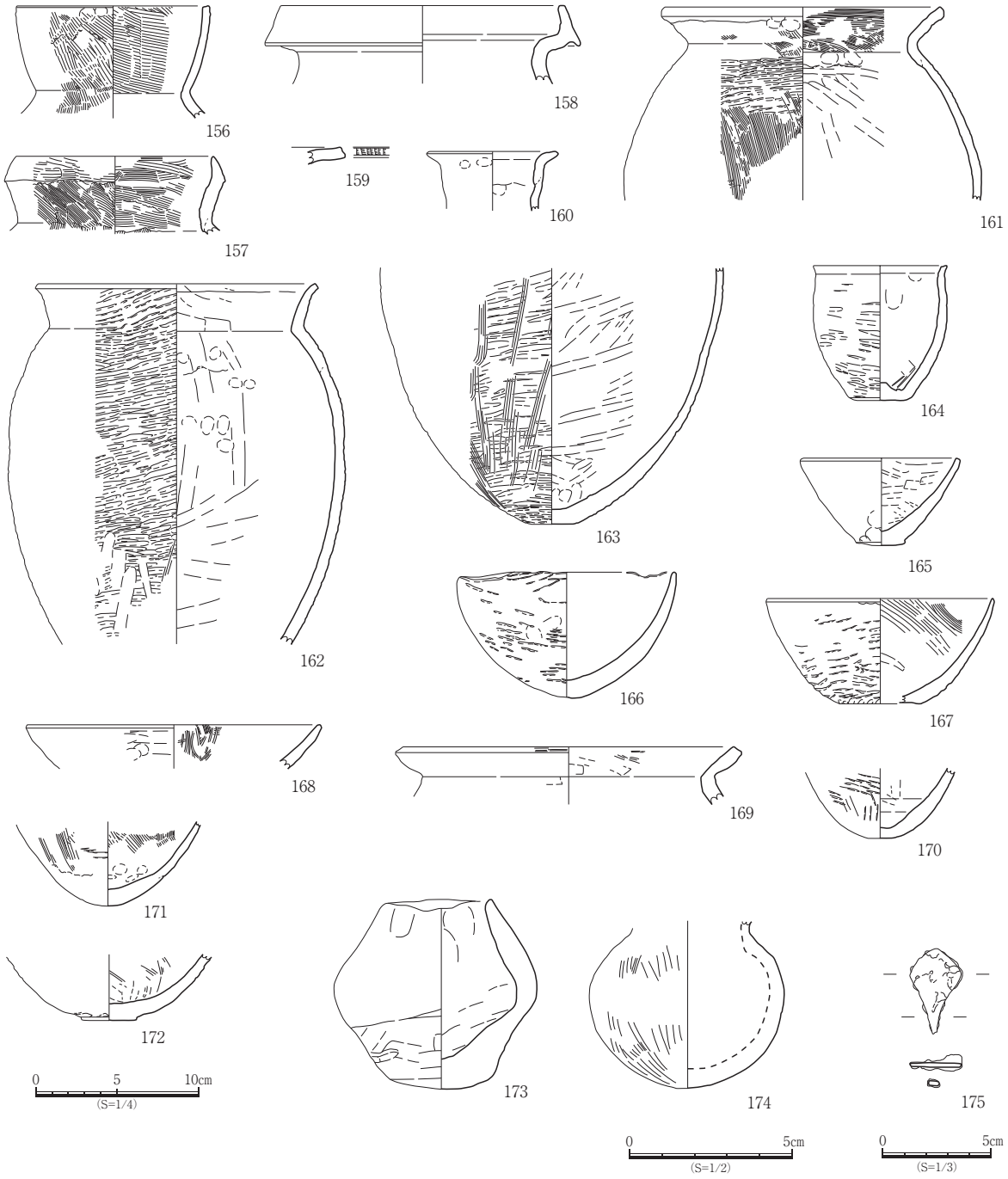


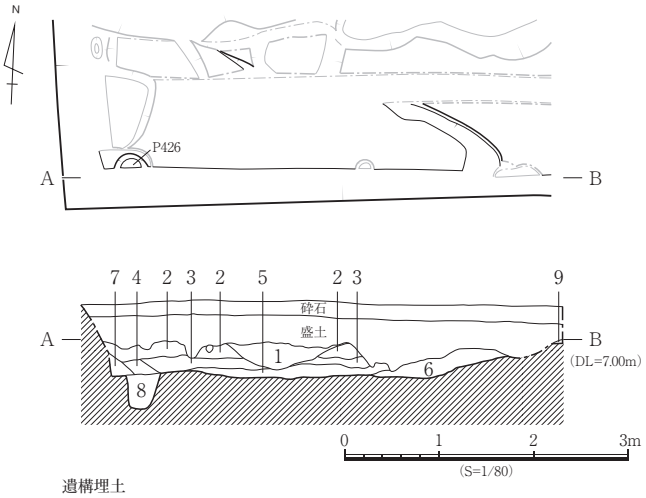
図27　4区　ST9　出土遺物実測図

る。外底面には叩き調整後ナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面にはナデ調整を施す。148は丸底の底部であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められる。149は鉢である。体部は半球形を呈し，底部はほぼ丸底である。外底面および内外面ともにナデ調整を施す。また，外面にはキレツがみられる。150は鉢である。口縁部を外反させ，口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整で仕上げる。体部外面は叩き調整後ナデ調整を施し，一部にハケ調整を施す。内面はハケ調整である。151は鉢である。体部は半球形を呈し，底部は丸底である。外底面はナデ調整か。152は鉢である。底部は平底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともにナデ調整を施す。外面にはキレツがみられる。153は低脚高杯か。口縁部は内湾気味である。口縁部外面にはヨコナデ調整・ヨコハケ調整を施し，内面にはヨコナデ調整・ナデ調整後ミガキ調整を施す。154は蓋である。口縁端部は僅かに下垂する。内外面ともに回転ナデ調整を施す。焼成は不良である。155は甕である。口縁部は直線的に外反し，口唇部は僅かに凹面状を呈する。口縁部外面にはタテハケ調整を施し，一部はミガキ状を呈する。内面はヨコナデ調整である。

ST9

ST9は調査区西部で検出した竪穴建物跡である。SD10に切られる。後世の削平により，平面形は不整形である。規模は長軸約5.20m，短軸の検出長は約4.70m，検出面からの深さは約33㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)極細粒砂他であり，埋土中から赤色顔料(ベンガラ)が出土した。

床面で，中央ピット(ST9_中央P)，主柱穴(ST9_P1･3･5，ST9_P2･4･8)，土坑(ST9_SK2･3)，壁溝(ST9_SD1)，小溝，ピットを検出した。P1・3・5，P2・4・8がそれぞれ方形に配され，北東隅の主柱穴を近現代の撹乱によって削平され欠損する。本来4本柱の建物跡で，P1がP2を切ることから，P1・3・5が新しく，建て替えに伴うものと考えられる。主軸方向はいずれもN－22°－E他である。柱間寸法は，P2・4・8間が約2.00m，P1・3・5間が約2.20mを測る。主柱穴(ST9_P1)は直径約44㎝の円形を呈し，床面からの深さは約28㎝である。主柱穴(ST9_P3)は長軸約42㎝，短軸約30㎝の楕円形を呈し，床面からの深さは約25㎝である。主柱穴(ST9_P5)は長軸約36㎝，短軸約29㎝の不整形を呈し，床面からの深さは約25㎝である。主柱穴(ST9_P2)は直径約40㎝の円形を呈し，床面からの深さは約34㎝である。主柱穴(ST9_P8)は長軸約48㎝，短軸約33㎝の不整形を呈し，床面からの深さは約29㎝である。主柱穴(ST9_P4)は長軸約38㎝，短軸約31㎝の



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR1.7/1)シルトに炭化物を多く含む(SD11)
2. 黒褐色(10YR2/2)シルト(ST10)
3. 黒褐色(10YR2/2)シルトに褐色(10YR4/4)シルトを多く含む(ST10)
4. 黒褐色(10YR2/2)シルト(ST10)
6. 黒褐色(10YR2/2)シルトに炭化物を含む(ST10)
7. 黒褐色(10YR2/3)シルトににぶい黄褐色(10YR5/4)シルトブロックを含む(ST10)
5. 黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルト(ST10)
8. 黒褐色(10YR2/2)シルト(P426)
9. 黒褐色(10YR2/3)シルト質極細粒砂(包含層)

図28　4区　ST10　平面図・断面図

不整形を呈し，床面からの深さは約33㎝である。中央ピット（ST9_中央P）はP2 － P8間の中央よりやや北東に位置し，平面形は不整楕円形を呈する。西側にテラスを持つ。規模は長軸約 1.22m，短軸約 0.80m，床面からの深さ約28㎝を測る。小溝はP3 － P5間を繋ぐ形で検出した。規模は幅約12㎝，深さ約3㎝である。検出長は約2.50mである。壁溝（ST9_SD1）は北東部で検出した。規模は幅約12㎝，深さ約2㎝，検出長は約1.36mである。

図示した出土遺物は，弥生土器の壺（156～160）・甕（161～163）・鉢（164～172），ミニチュア土器（173・174），鉄鏃（175）である。

156は壺である。口縁部は内湾し，口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともにハケ調整を施す。体部外面はハケ調整，内面はナデ調整である。157は複合口縁壺である。二次口縁部は僅かに内傾する。一次口縁部の外面にはハケ調整を施し，内面にはヨコハケ調整を施す。二次口縁部は内外面ともにヨコハケ調整である。搬入品か。158は複合口縁壺である。僅かに内傾する二次口縁部を付す。159は壺である。口縁部は大きくひらく。押し引きによる列点文を施す。160は壺である。直立気味の頸部から口縁部は短く外反する。161は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部にはルーズな面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後ハケ調整・ナデ調整，内面はハケ調整である。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。162は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはヘラナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はナデ調整である。肩部内面には接合痕跡が認められる。163は甕である。底部はほぼ丸底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後タテハケ調整を施し，内面にはヘラナデ調整・ハケ調整を施す。また，内底面には指頭圧痕が認められる。164は鉢である。深い体部を持つ。口縁部は短く外反し尖らせる。底部は角の取れた平底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。また，内底面には工具の静止痕がみられる。外面にはキレツが認められる。165は鉢である。体部は直線的にひろがる。底部は角の取れた平底である。外底面は未調整か。体部外面はナデ調整，内面はヘラナデ調整である。外面にはキレツがみられる。166は鉢である。体部は半球形を呈し，底部は丸底である。外底面はナデ調整である。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはナ

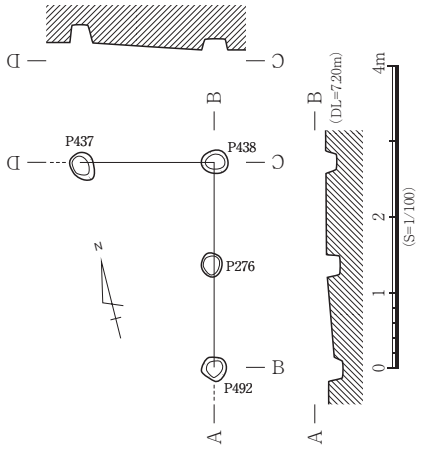


図29　4区　SB1　平面図・エレベーション図

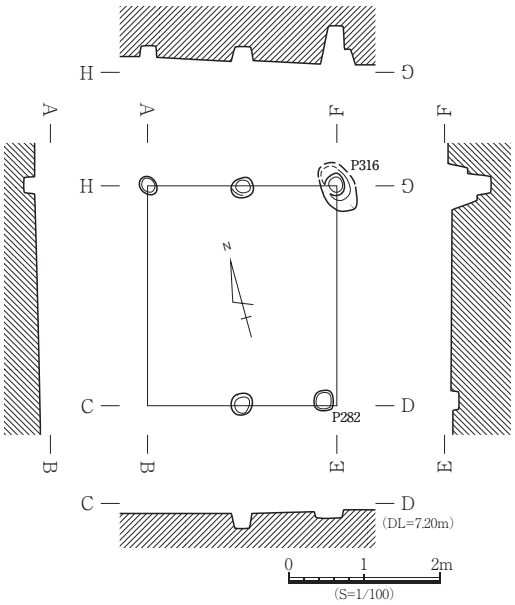


図30　4区　SB2　平面図・エレベーション図

デ調整を施す。167は鉢である。体部は半球形を呈し，口唇部は尖らせる。底部はやや上げ底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。外面にはキレツがみられる。168は鉢である。浅い体部を持つ。体部外面にはヘラナデ調整を施し，内面はハケ調整後ミガキ調整か。外面にはキレツがみられる。169は鉢である。口縁部を外反させ注口を付す。口唇部はハケ状原体による面取りか。口縁部外面はナデ調整，内面はハケ調整である。体部は内外面ともにナデ調整を施す。170は鉢である。底部はほぼ丸底であり，外底面はナデ調整か。体部外面には叩き調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。171は鉢である。底部は丸底であり，外底面には粗いハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。172は鉢である。底部は角の取れた平底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともにナデ調整を施す。外面にはキレツがみられる。173は壺形をモデルにしたミニチュア土器である。体部は

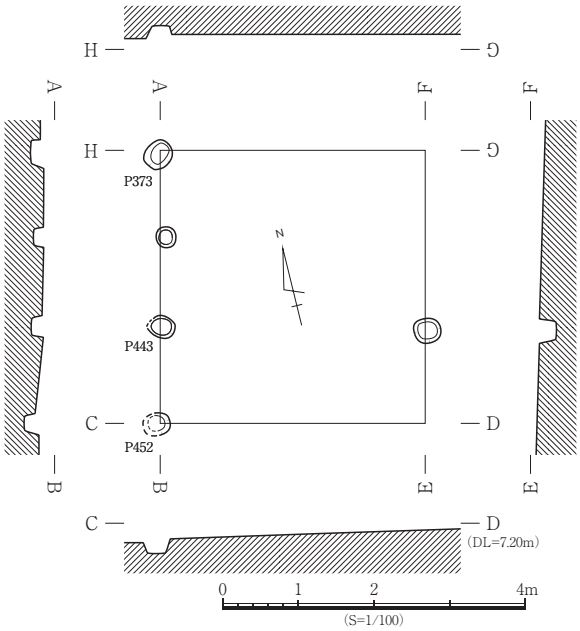


図31　4区　SB3　平面図・エレベーション図

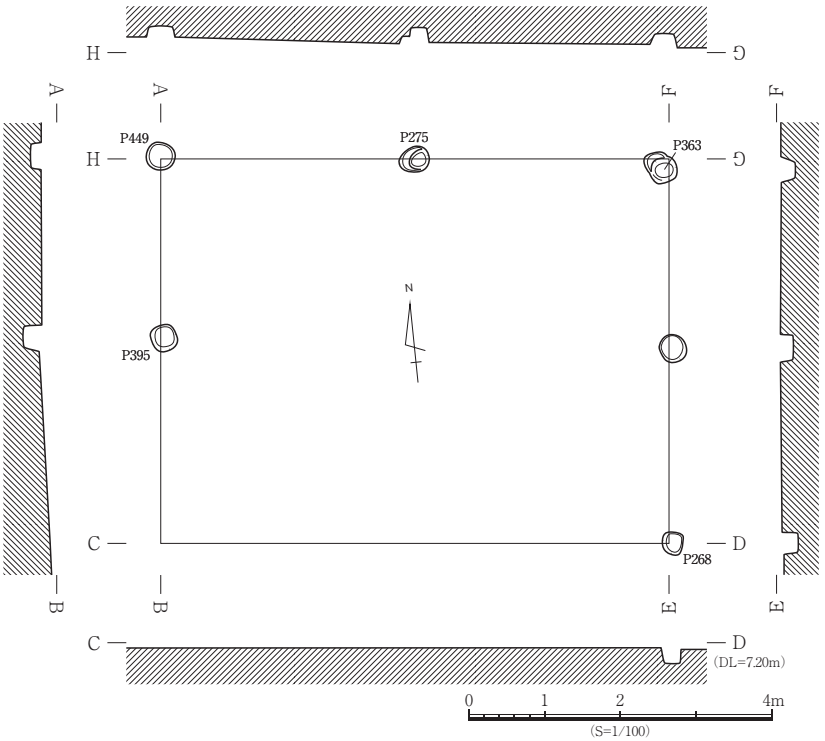


図32　4区　SB4　平面図・エレベーション図

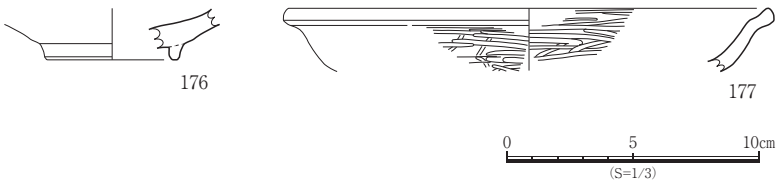


図33　4区　SB4　出土遺物実測図

扁球形を呈する。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。174 は壺形をモデルにしたミニチュア土器である。体部は球形を呈し，底部は丸底である。外底面にはナデ調整を施す。体部外面はハケ調整，内面はナデ調整である。175 は圭頭式の鉄鏃である。左右非対称である。鏃身から基部まで厚さは同じである。基部の先端は欠損するものの，ほぼ完存する。

ST10

ST10 は調査区西部で検出した竪穴建物跡である。SK48，SD11 に切られる。大部分が調査区外へとひろがり，北東の一部を確認した。北側は現代の撹乱によって削平され，平面形および規模等は不明である。東側で確認した壁面は緩やかな傾斜で立ち上がる。検出面からの深さは約21cmを測る。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂質シルト他である。床面では主柱穴と考えられるピット(P426)を検出した。直径約35cm，床面からの深さは約47cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルトである。

図示した出土遺物はない。

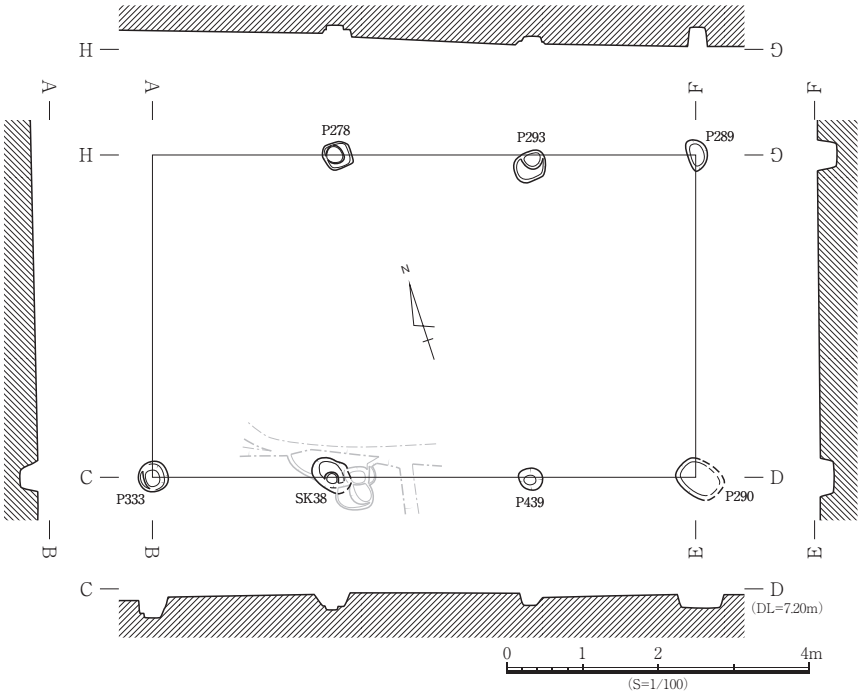


図34　4区　SB5　平面図・エレベーション図

図35　4区　SB5　出土遺物実測図

2.SB

SB1

SB1は調査区西部で検出した掘立柱建物跡である。桁行1間(約1.75m)以上，梁行2間(約2.70m)以上を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN－14°51′－Eである。P276・P437・P438・P492で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整形であり，検出面からの深さは13～32cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)極細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

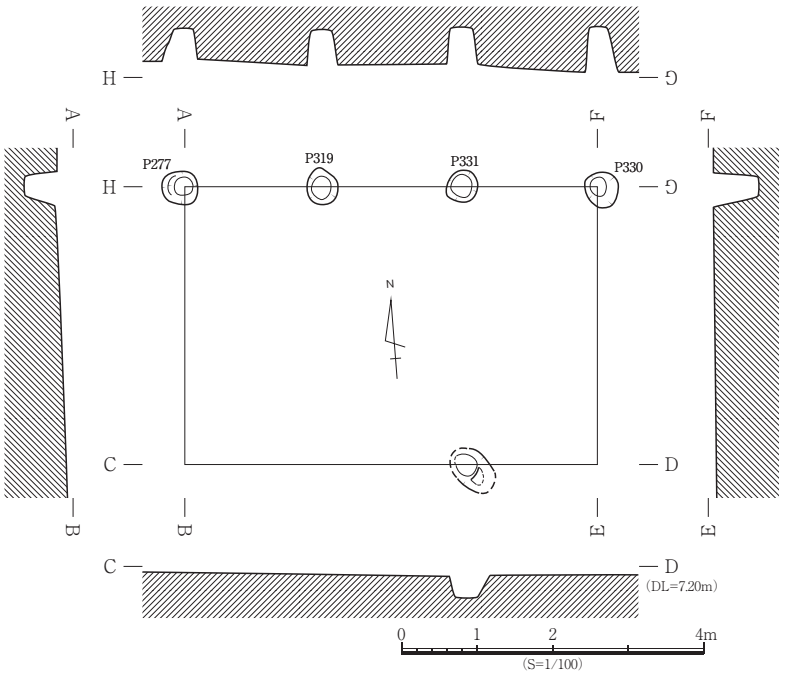


図36　4区　SB6　平面図・エレベーション図

SB2

SB2は調査区西部で検出した桁行1間(約2.90m)，梁行2間(約2.50m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約7.2㎡である。主軸方向はN－15°17′－Eである。P282・P316で構成される。柱穴は直径約30cmの不整形であり，検出面からの深さは10～50cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)極細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB3

SB3は調査区西部で検出した桁行3間(約3.61m)，梁行1間(約3.50m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約12.6㎡である。主軸方向はN－13°45′－Eである。P373・P443・P452で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整形であり，検出面からの深さは12～21cmである。

図示した出土遺物はない。

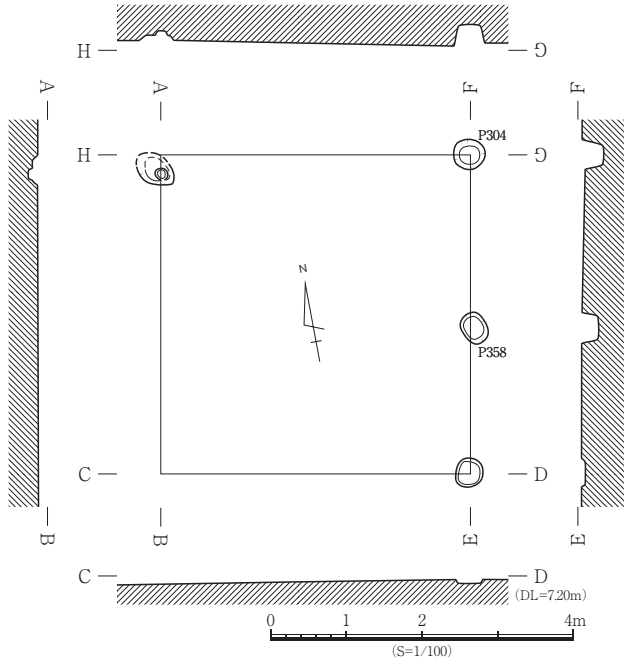


図37　4区　SB7　平面図・エレベーション図

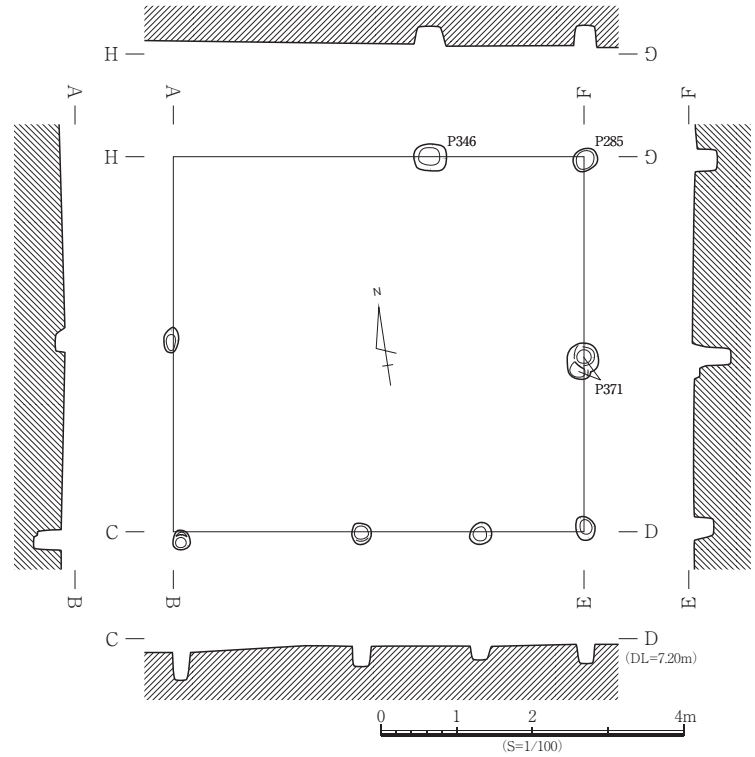


図38　4区　SB8　平面図・エレベーション図

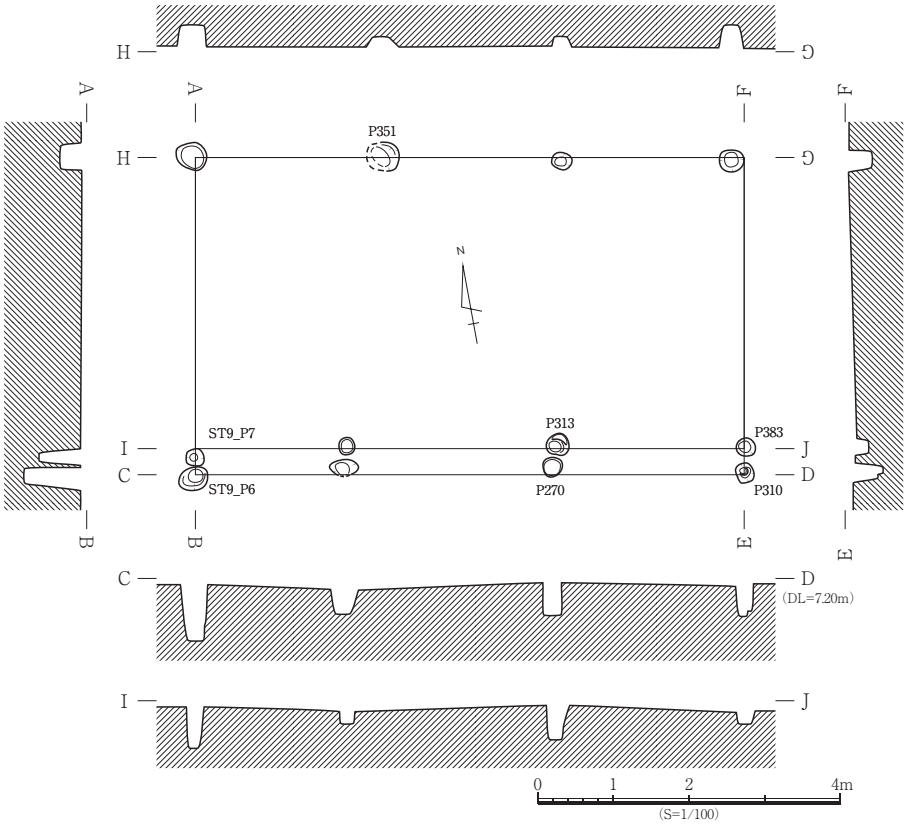


図39　4区　SB9　平面図・エレベーション図

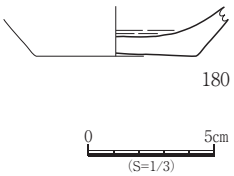


図40　4区　SB9
出土遺物実測図

SB4

SB4は調査区西部で検出した桁行2間(約6.72m)，梁行2間(約5.08m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約34.1㎡である。主軸方向はN－84°11′－Wである。P268・P275・P363・P395・P449で構成される。柱穴は直径30～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは13～19㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)極細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，土師質土器の椀(176)，土師器の皿(177)である。

176は椀である。外底面に高台を付す。外面，ヘラケズリ調整を施す。177は皿である。口縁部は丸みを持って外上方へのび，端部を屈曲させる。内外面ともにヘラミガキ調整を施す。

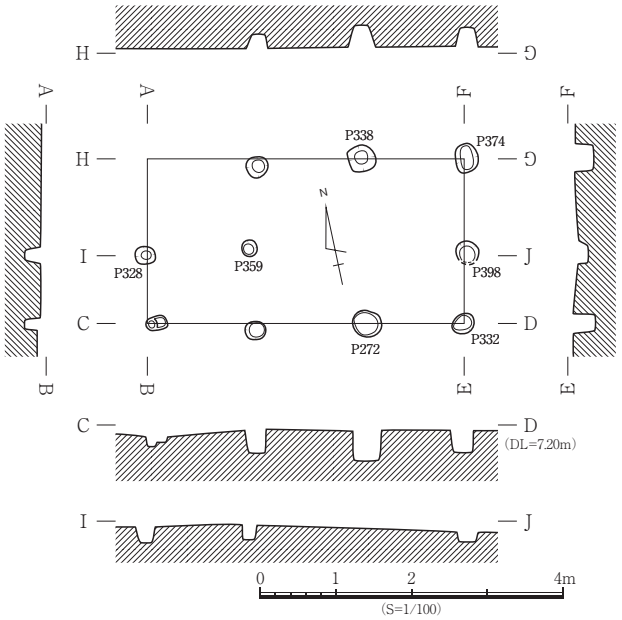


図41　4区　SB10　平面図・エレベーション図

SB5

SB5は調査区西部で検出した桁行3間(約7.18m)，梁行1間(約4.26m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約30.5㎡である。主軸方向はN－71°57′－Wである。P278・P289・P290・P293・P333・P439・SK38で構成される。柱穴は直径30～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは10～24㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)極細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，瓦器の椀(178)，須恵器の甕(179)である。

178は椀である。体部は内湾気味に立ち上がる。内外面ともにヘラミガキ調整を施す。外面は凹む部分にはヘラミガキ調整は及ばない。179は甕である。外面には叩き調整，内面には粗いハケ調整を施す。自然釉が付着する。

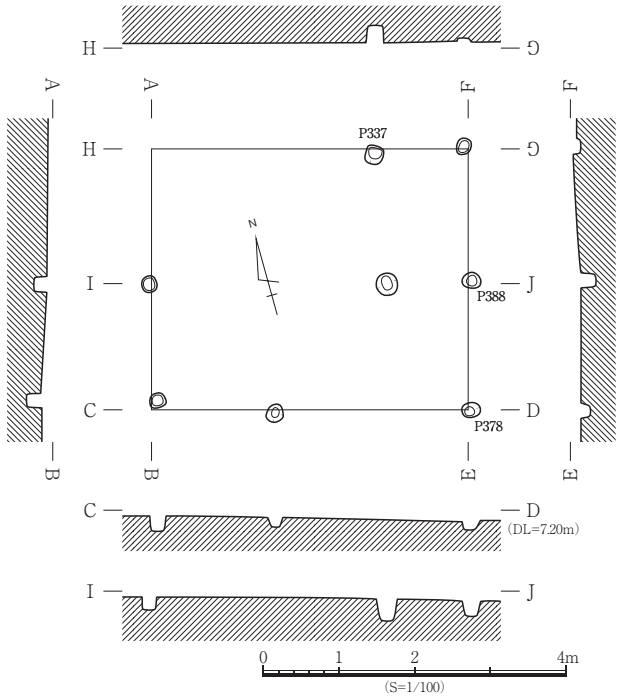


図42　4区　SB11　平面図・エレベーション図

SB6

SB6は調査区西部で検出した桁行3間(約5.45m)，梁行1間(約3.67m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約20.0㎡である。主軸方向はN－85°32′－Wである。P277・P319・P330・P331で構成される。柱

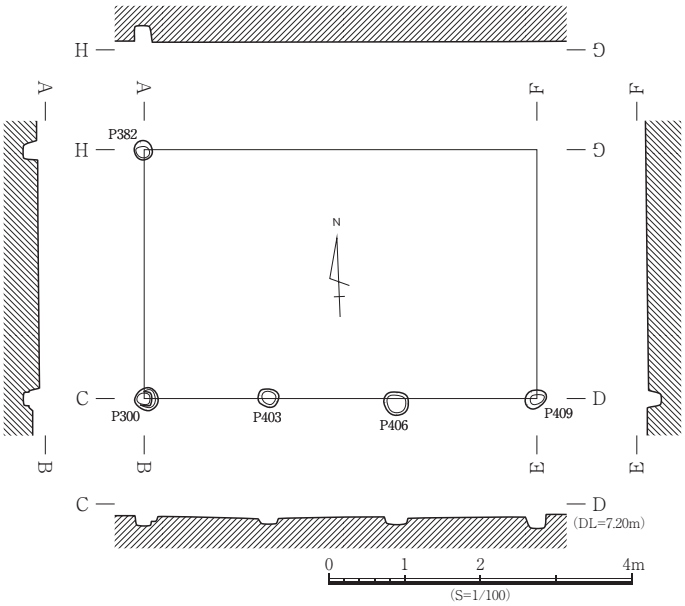


図43　4区　SB12　平面図・エレベーション図

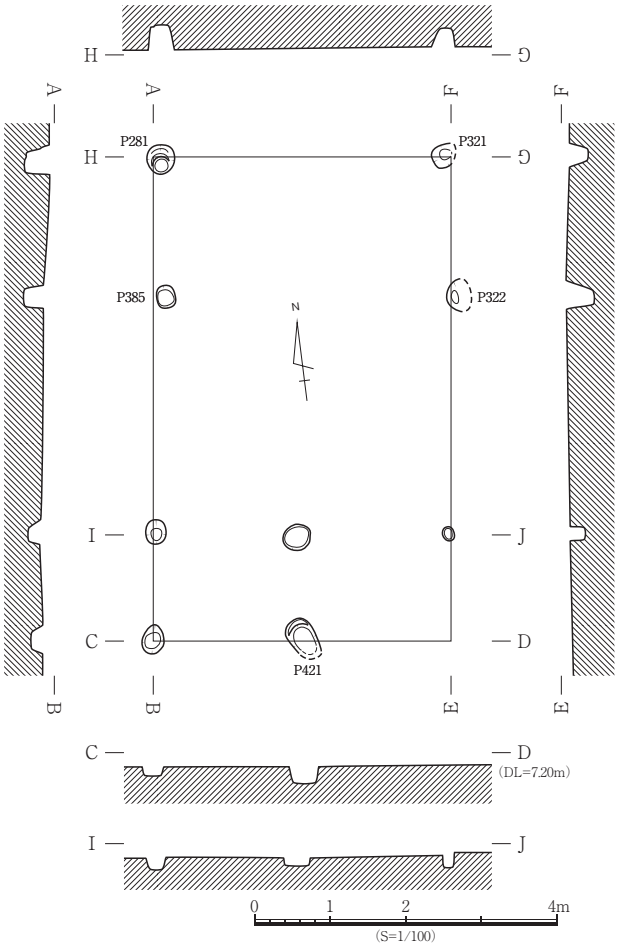


図44　4区　SB13　平面図・エレベーション図

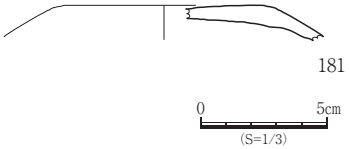


図45　4区　SB13　出土遺物実測図

穴は直径約40㎝の不整形であり，検出面からの深さは29～58㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)極細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB7

SB7は調査区西部で検出した桁行2間(約4.21m)，梁行1間(約4.09m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約17.2㎡である。主軸方向はN－10°31′－Eである。P304・P358で構成される。柱穴は直径約40㎝の不整形であり，検出面からの深さは4～27㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB8

SB8は調査区西部で検出した桁行3間(約5.43m)，梁行2間(約4.95m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約26.8㎡である。主軸方向はN－81°25′－Wである。P285・P346・P371で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは18～50㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)極細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB9

SB9は調査区西部で検出した桁行3間(約7.25m)，梁行1間(約3.84m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約27.8㎡である。主軸方向はN－79°38′－Wである。P270・P310・P313・P351・P383・ST9_P6・ST9_P7で構成される。柱穴は直径30～

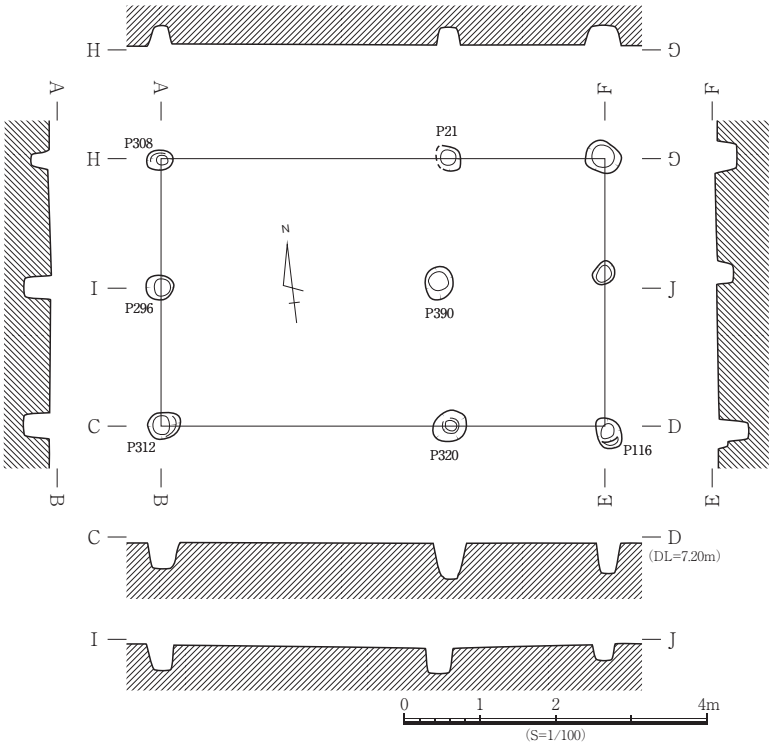


図46　4区　SB14　平面図・エレベーション図

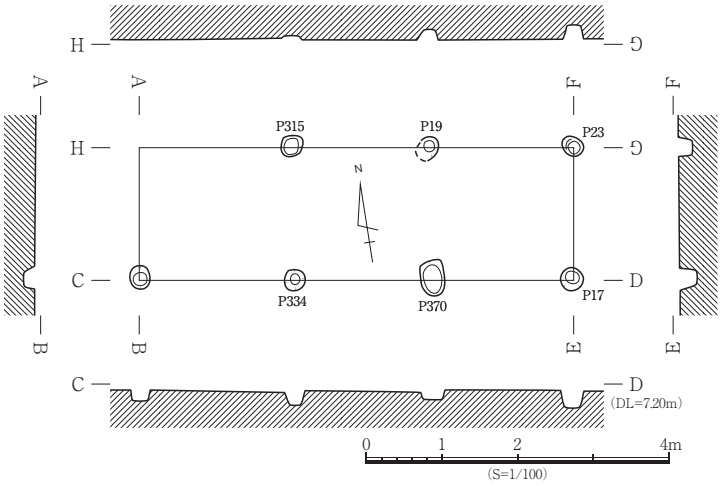


図47　4区　SB15　平面図・エレベーション図

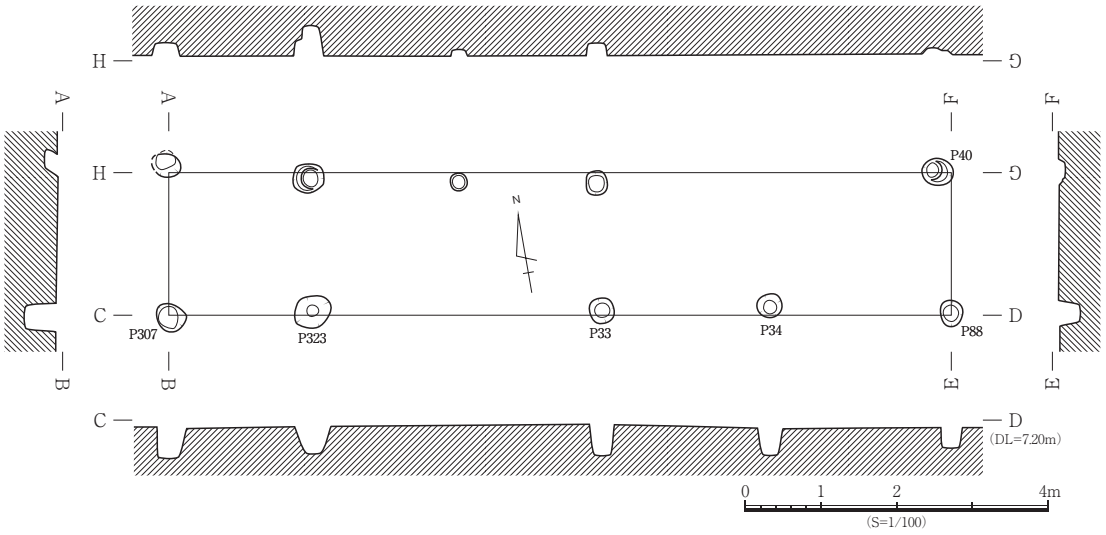


図48　4区　SB16　平面図・エレベーション図

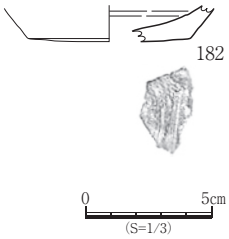


図49　4区　SB16
出土遺物実測図

40cmの不整形であり，検出面からの深さは12～32cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)極細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，土師質土器の杯(180)である。内外面ともに回転ナデ調整か。切離し手法は不明である。

SB10

SB10は調査区西部で検出した桁行3間(約4.18m)，梁行2間(約2.17m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約9.0㎡である。主軸方向はN－77°58′－Wである。P272・P328・P332・P338・P359・P374・P398で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整形であり，検出面からの深さは12～39cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB11

SB11は調査区西部で検出した桁行3間(約4.18m)，梁行2間(約3.45m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約14.4㎡であ

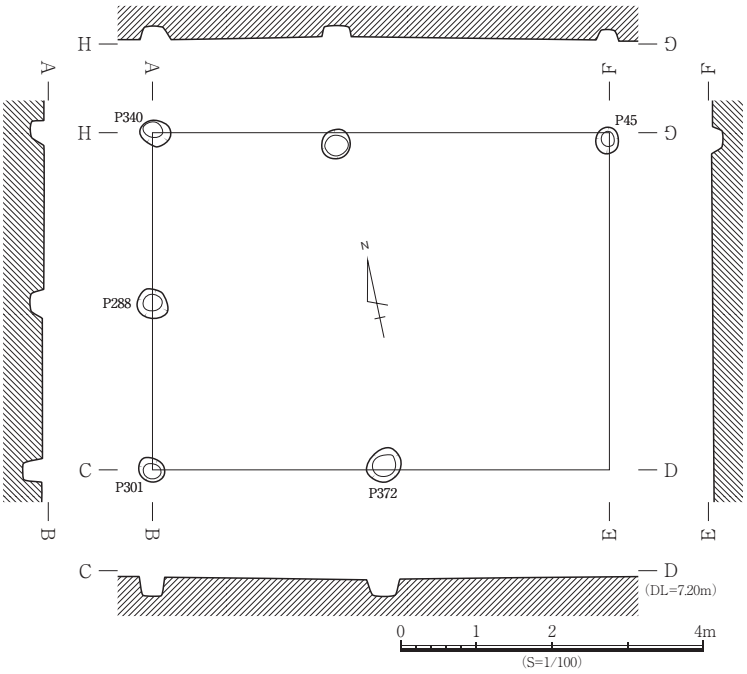


図50　4区　SB17　平面図・エレベーション図

る。主軸方向はN－74°30′－Wである。P337・P378・P388で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは5～32cmである。

図示した出土遺物はない。

SB12

SB12は調査区西部で検出した桁行3間（約5.19m），梁行1間（約3.29m）の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約17.0㎡である。主軸方向はN－87°39′－Wである。P300・P382・P403・P406・P409で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは7～19cmである。埋土は暗褐色（10YR3/4）極細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SB13

SB13は調査区西部で検出した桁行3間（約6.40m），梁行2間（約3.93m）の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約25.1㎡である。主軸方向はN－7°09′－Eである。P281・P321・P322・P385・P421で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整形であり，検出面からの深さは7～33cmである。埋土は黒褐色（10YR2/2）極細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は須恵器の蓋（181）である。内外面ともに回転ナデ調整か。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデ調整か。自然釉が付着する。器面は荒れる。

SB14

SB14は調査区西部で検出した桁行2間（約5.86m），梁行2間（約3.53m）の東西棟の掘立柱建物跡であり，床

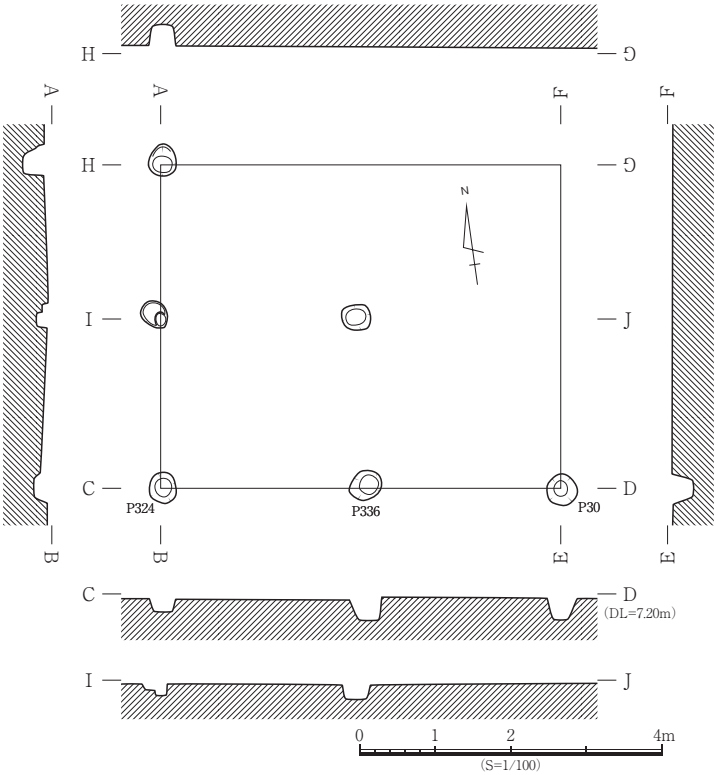


図51　4区　SB18　平面図・エレベーション図

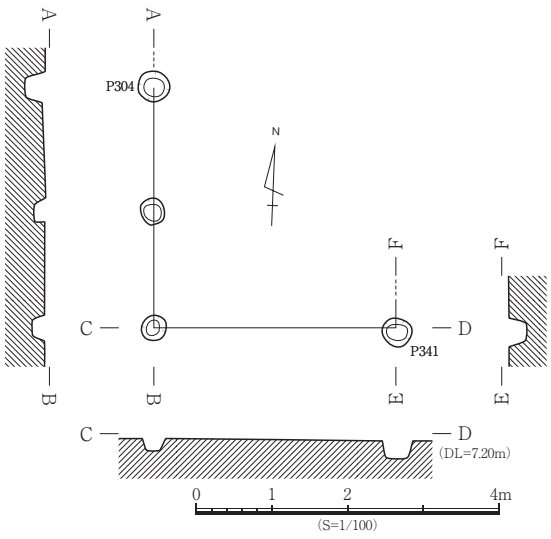


図52　4区　SB19　平面図・エレベーション図

面積は約20.6㎡である。主軸方向はN－83°09′－Wである。P21・P116・P296・P308・P312・P320・P390で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整形であり，検出面からの深さは22～47cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

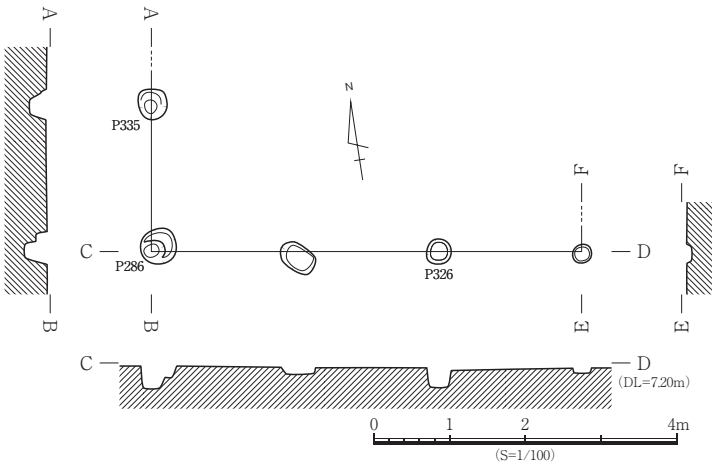


図53　4区　SB20　平面図・エレベーション図

SB15

SB15は調査区西部で検出した桁行3間(約5.74m)，梁行1間(約1.75m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約10.0㎡である。主軸方向はN－81°14′－Wである。P17・P19・P23・P315・P334・P370で構成される。柱穴は直径約30cmの不整形であり，検出面からの深さは5～23cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SB16

SB16は調査区西部で検出した桁行5間(約10.34m)，梁行1間(約1.88m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約19.4㎡である。主軸方向はN－80°09′－Wである。P33・P34・P40・P88・P307・P323で構成される。柱穴は直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは9～41cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(182)である。P88から出土し

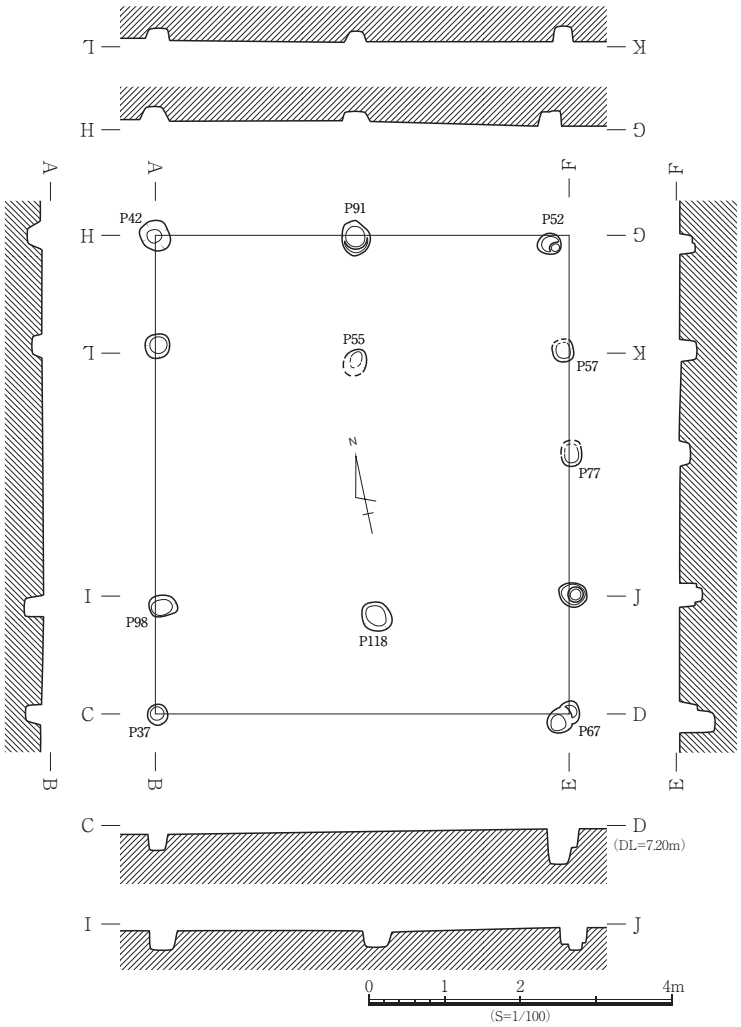


図54　4区　SB21　平面図・エレベーション図

た。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められ，さらに簀状圧痕か。

SB17

SB17は調査区西部で検出した桁行2間(約6.04m)，梁行2間(約4.45m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約26.8㎡である。主軸方向はN－78°02′－Wである。P45・P288・P301・P340・P372で構成される。柱穴は直径30～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは15～28㎝である。埋土は黒色(10YR1.7/1)シルト質極細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SB18

SB18は調査区西部で検出した桁行2間(約5.29m)，梁行2間(約4.27m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約22.5㎡である。主軸方向はN－82°02′－Wである。P30・P324・P336で構成される。柱穴は直径約40㎝の不整形であり，検出面からの深さは15～29㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂～極細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SB19

SB19は調査区西部で検出した掘立柱建物跡である。桁行1間(約3.20m)，梁行2間(約3.17m)

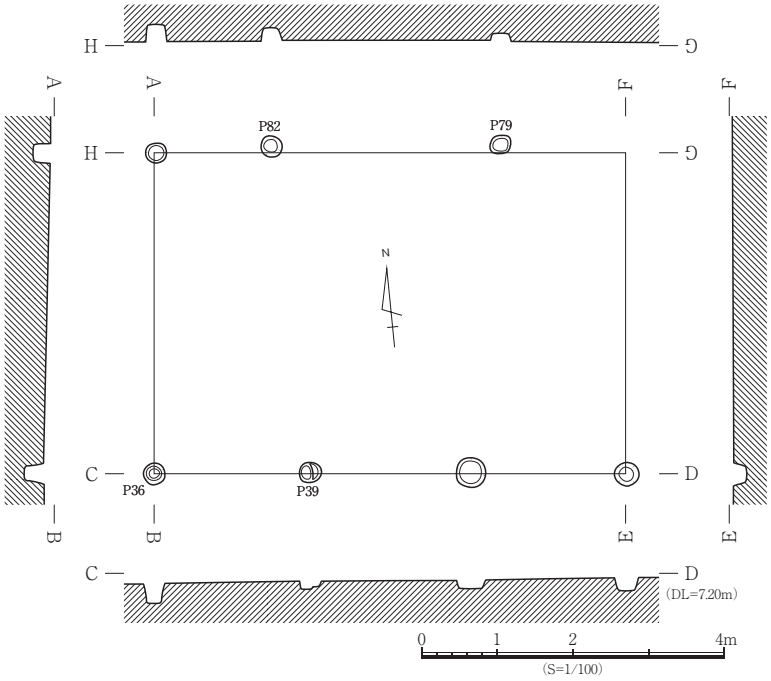


図55　4区　SB22　平面図・エレベーション図

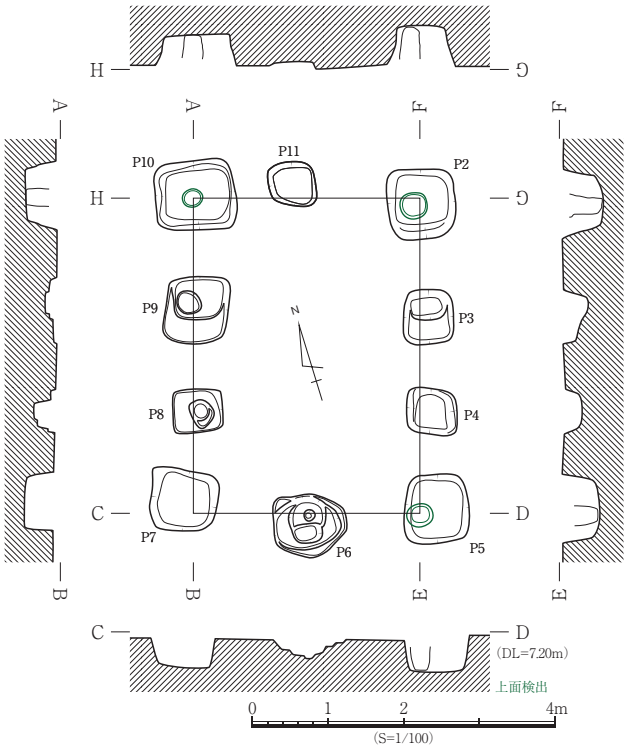


図56　4区　SB23　平面図・エレベーション図

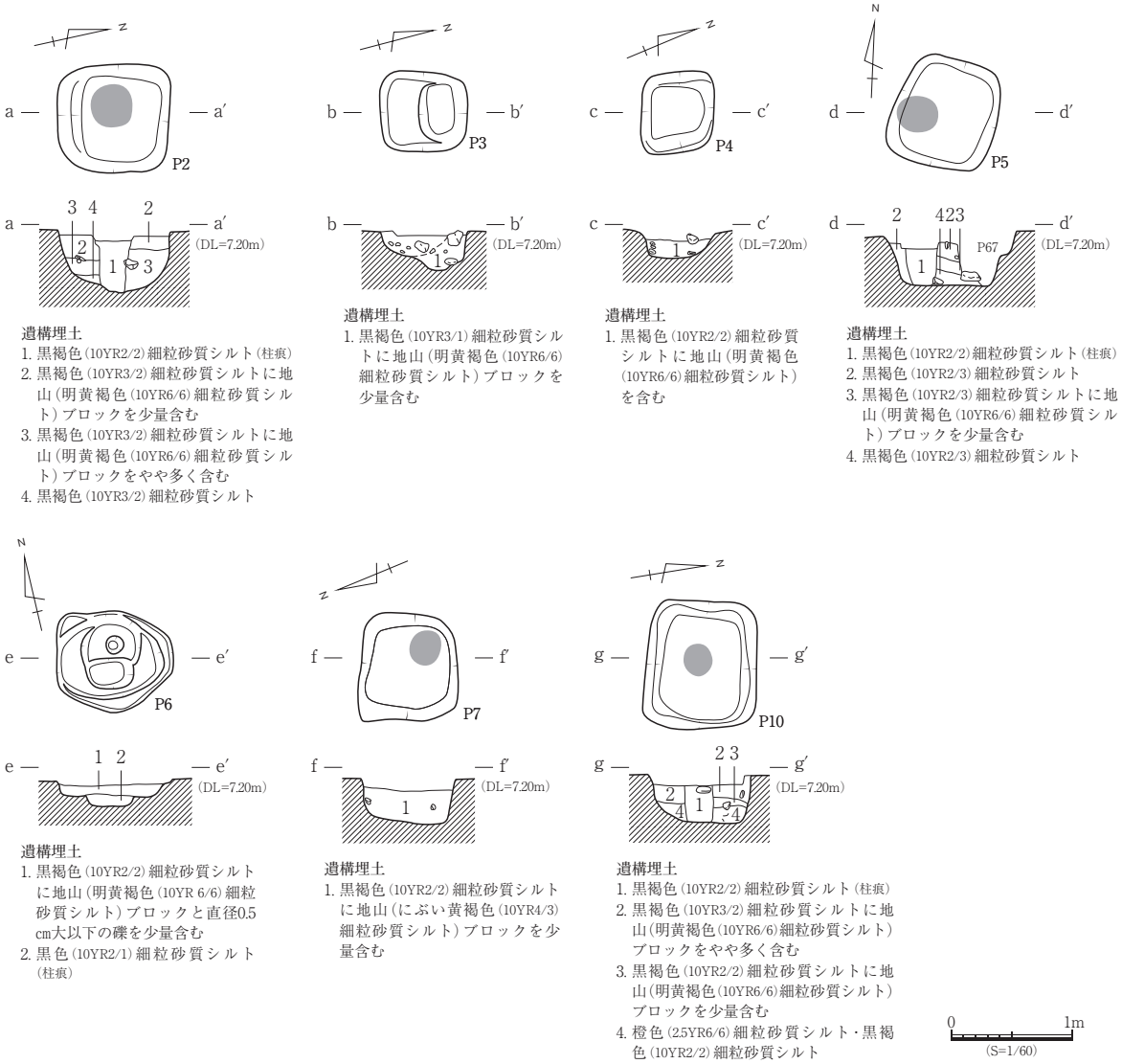


図57　4区　SB23　断面図

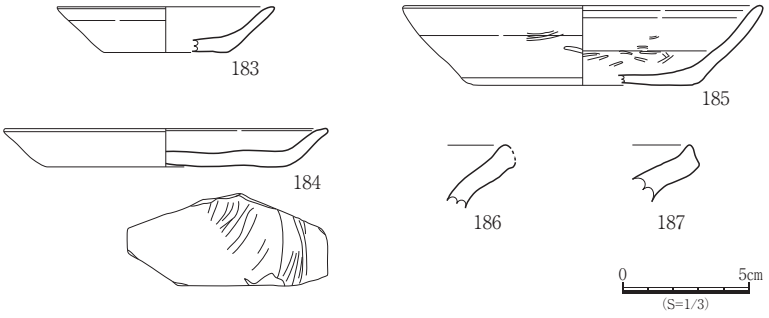


図58　4区　SB23　出土遺物実測図

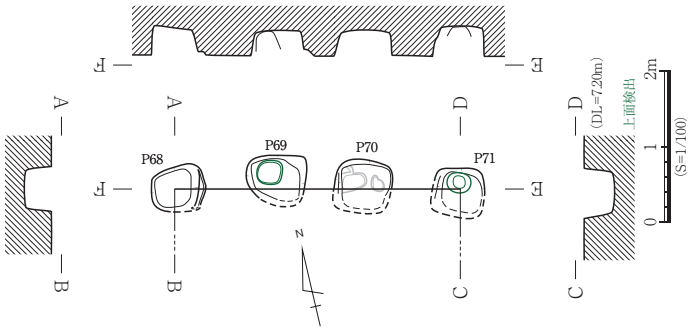


図59　4区　SB24　平面図・エレベーション図

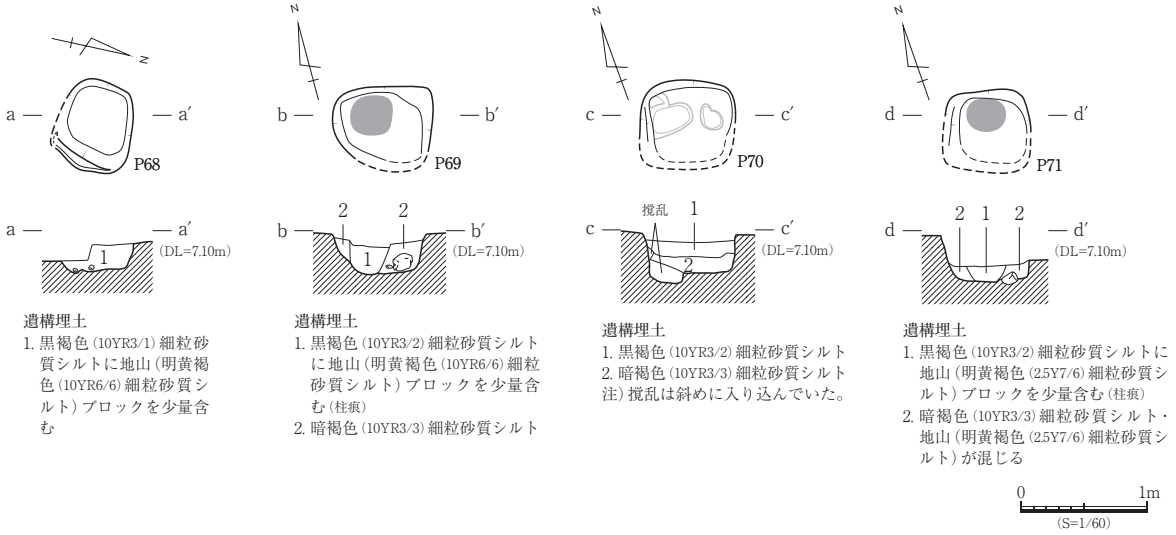


図60　4区　SB24　断面図

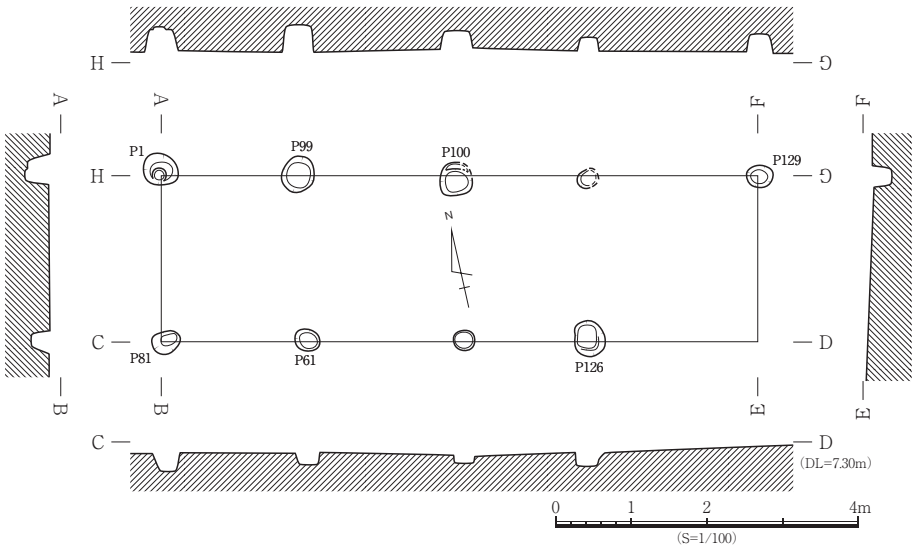


図61　4区　SB25　平面図・エレベーション図

以上を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN－2°17′－Wである。P304・P341で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整円形であり，検出面からの深さは15～26cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)極細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

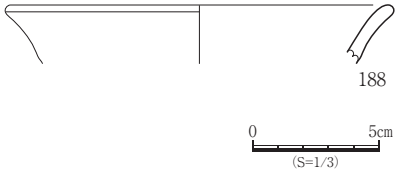


図62　4区　SB25　出土遺物実測図

SB20

SB20は調査区西部で検出した掘立柱建物跡である。桁行3間(約5.68m)，梁行1間(約1.91m)以上を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN－81°18′－Wである。P286･P326･P335で構成される。柱穴は直径20～50cmの不整形であり，検出面からの深さは7～30cmである。埋土は黒色(10YR1.7/1)シルト質極細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SB21

SB21は調査区西部で検出した桁行4間(約6.32m)，梁行2間(約5.47m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約34.5㎡である。主軸方向はN－11°57′－Eである。P37・P42・P52・P55・P57・P67・P77・P91・P98・P118で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整形であり，検出面からの深さは11～47cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

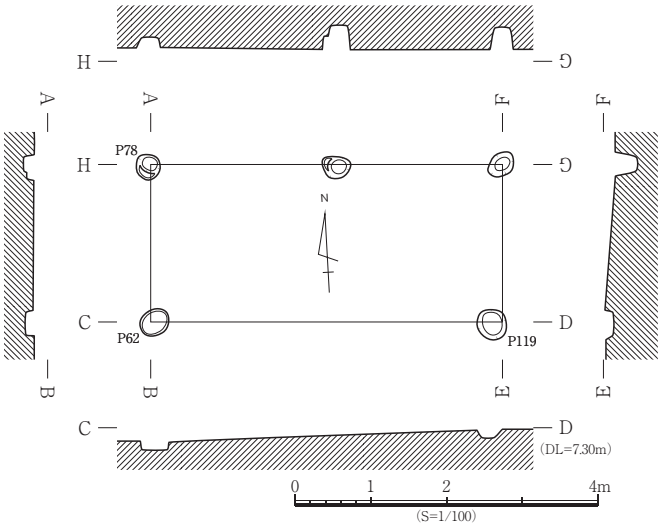


図63　4区　SB26　平面図・エレベーション図

SB22

SB22は調査区西部で検出した桁行3間(約6.23m)，梁行1間(約4.24m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約26.4㎡である。主軸方向はN－84°20′－Wである。P36・P39・P79・P82で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整円形であり，検出面からの深さは10～26cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

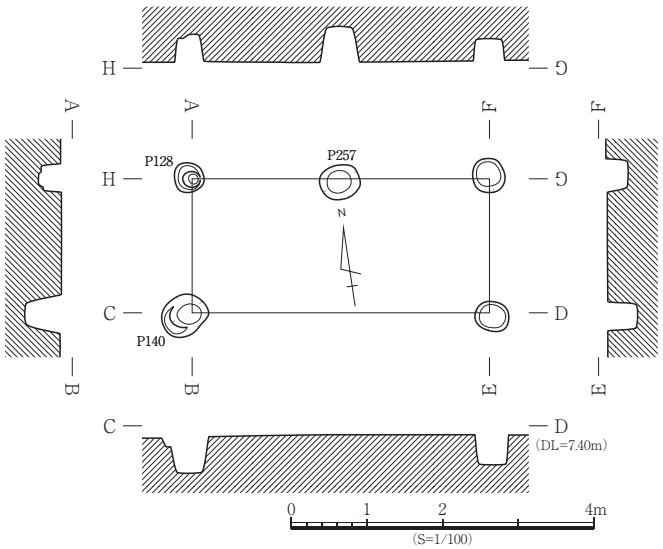


図64　4区　SB27　平面図・エレベーション図

SB23

SB23は調査区西部で検出した桁行3間(約4.16m)，梁行2間(約2.99m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約12.4㎡である。主軸方向はN－16°59′－Eである。P2～P11で構成される。柱穴は直径約60・90㎝の隅丸方形であり，検出面からの深さは9～54㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

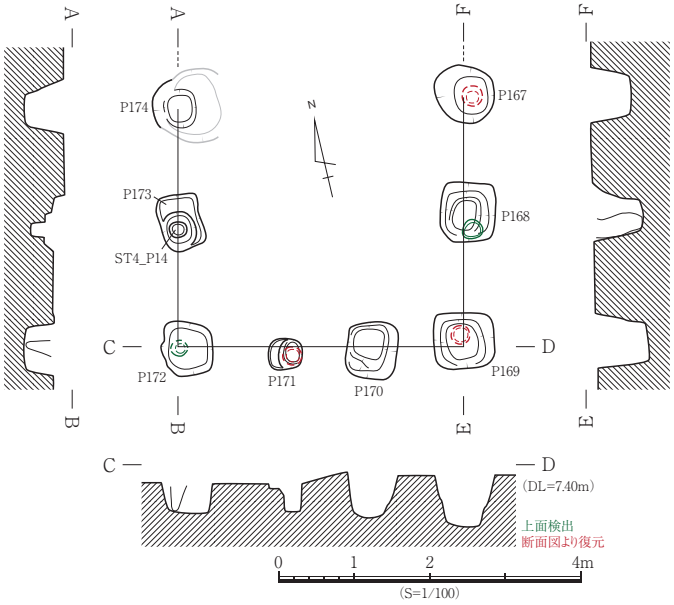


図65　4区　SB28　平面図・エレベーション図

図示した出土遺物は土師質土器の皿(183)，土師器の皿(184)・杯(185)・甕(186・187)である。

183は皿である。P2の柱痕跡から出土した。口縁部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。被熱しており灯明皿として使用か。184は皿である。P2から出土した。口縁部は外上方へ立ち上がり，端部内面は凹む。外面は回転ナデ調整後ミガキ調整を施す。内面には回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整，さらにミガキ調整を施す。185は杯である。P2から出土した。口縁部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整後ミガキ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。186は甕である。P2から出土した。口縁部外面にはヨコナデ調整を施し，内面にはヨコハケ調整を施す。187は甕である。P7から出土した。口縁端部を摘み上げる。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はヨコハケ調整である。

SB24

SB24は調査区西部で検出した掘立柱建物跡である。桁行3間(約3.77m)を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN－13°06′－Eである。P68～P71で構成される。柱穴は一辺約70㎝の隅丸方形であり，検出面からの深さは34～40㎝である。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂他である。

図示した出土遺物はない。

SB25

SB25は調査区中央部で検出した桁行4間(約7.88m)，梁行1間(約2.19m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約17.2㎡である。主軸方向はN－77°26′－Wである。P1・P61・P81・P99・P100・P126・P129で構成される。柱穴は直径30～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは8～36㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物は土師器の杯(188)である。P99から出土した。摩耗のため調整等は不明である。

SB26

SB26は調査区中央部で検出した桁行2間(約4.65m)，梁行1間(約2.08m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約9.6㎡である。主軸方向はN－86°50′－Wである。P62・P78・P119で構成される。柱穴は直径30～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは11～32㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SB27

SB27は調査区中央部で検出した桁行2間(約3.93m)，梁行1間(約1.77m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約6.9㎡である。主軸方向はN－81°34′－Wである。P128・P140・P257で構成される。柱穴は直径40～50㎝の不整形であり，検出面からの深さは約26～48㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB28

SB28は調査区中央部で検出した掘立柱建物跡である。桁行2間(約3.29m)以上，梁行3間(約3.77m)を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN－13°06′－Eである。P167～P174・ST4_P14で構成される。柱穴は直径約70㎝の隅丸方形

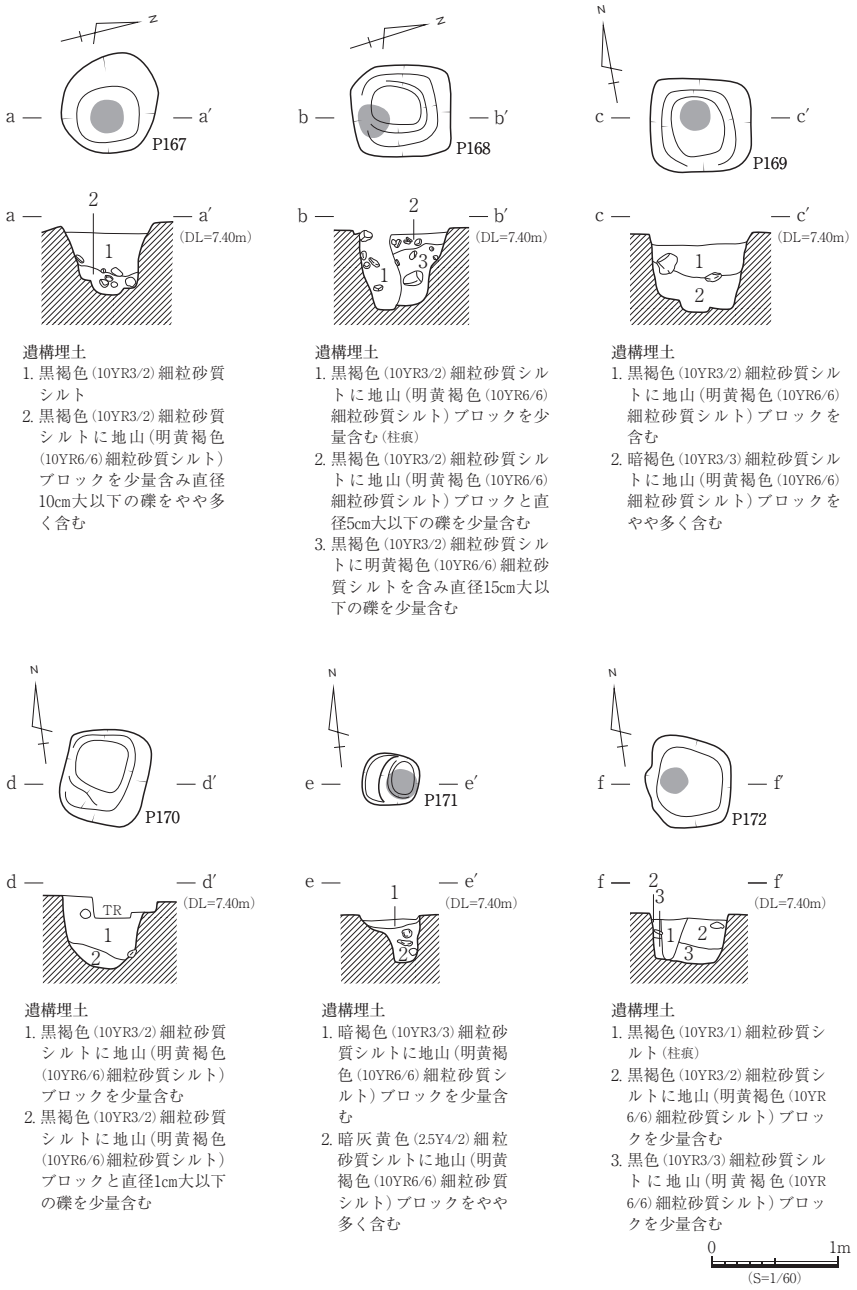


図66　4区　SB28　断面図

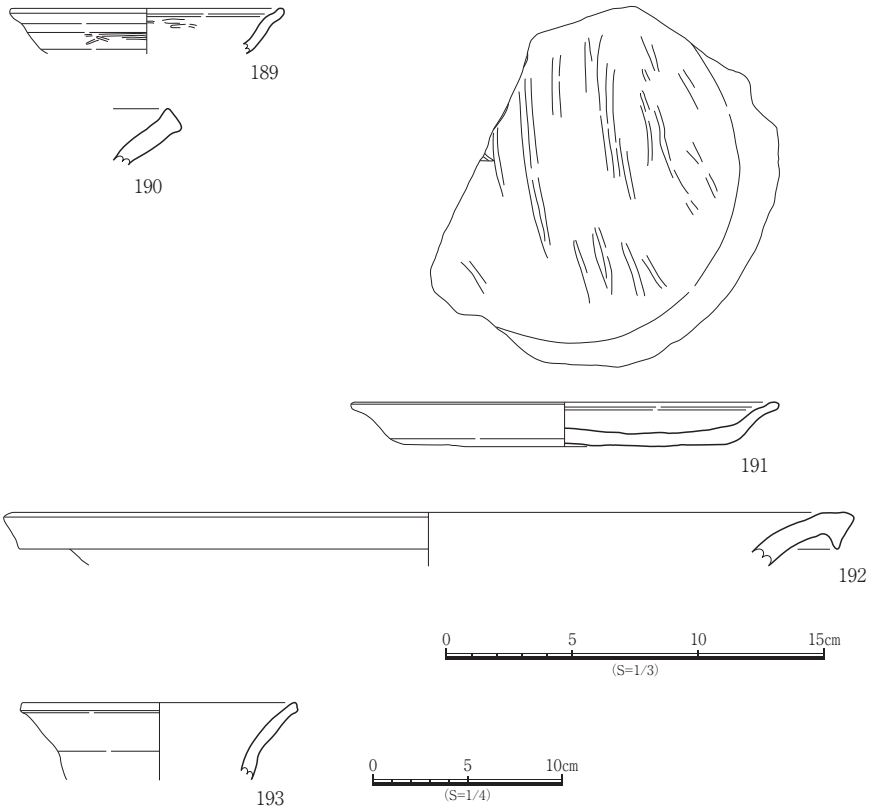


図67　4区　SB28　出土遺物実測図

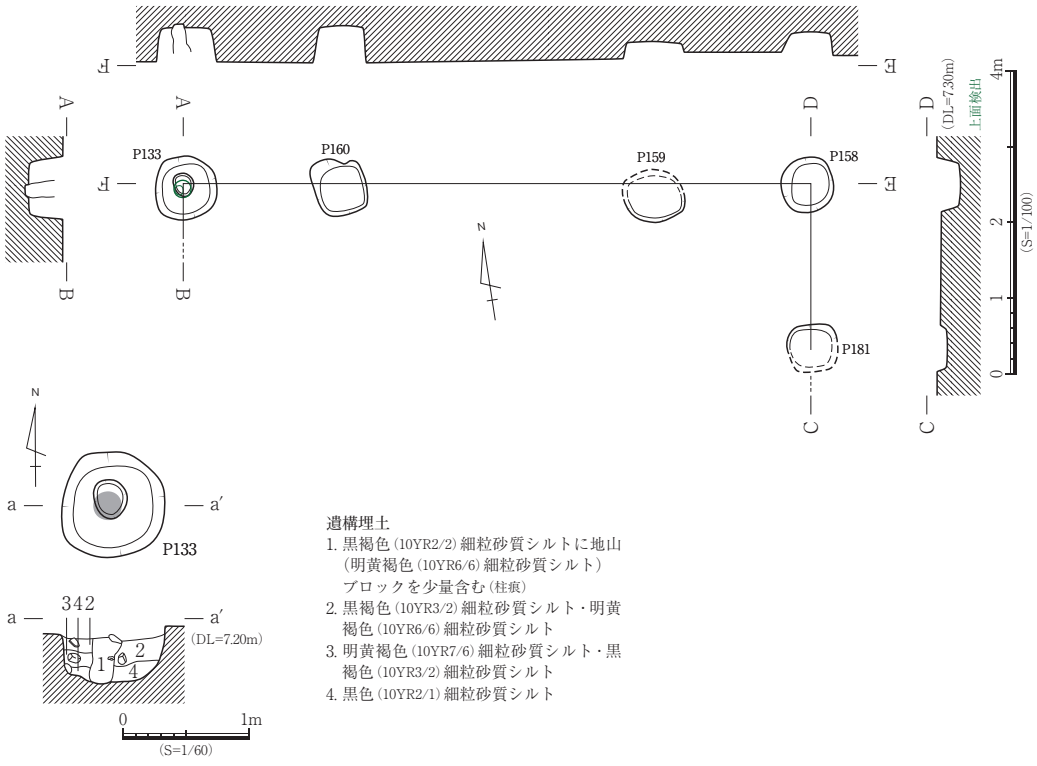


図68　4区　SB29　平面図・エレベーション図・断面図

であり，検出面からの深さは36～71㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は土師器の皿(189・191)・甕(190)，須恵器の甕(192)，弥生土器の壺(193)である。

189は皿である。P170から出土した。口縁部は内湾気味に外上方へ立ち上がり，端部内面は凹む。内外面ともに回転ナデ調整後ミガキ調整を施す。190は甕である。P168から出土した。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整を施す。191は皿である。P168から出土した。口縁部は外上方へ立ち上がり，口縁部内面は凹む。外底面は回転ヘラ切り後ミガキ調整を施す。192は甕である。P169から出土した。口縁端部を下方へ拡張する。口縁部は内外面ともに回転ナデ調整を施す。193は壺である。P168から出土した。口縁部は緩やかに外反させ，外面にはヨコナデ調整を施す。内面はナデ調整か。

SB29

SB29は調査区中央部で検出した掘立柱建物跡である。桁行3間(約8.29m)，梁行1間(約2.20m)以上を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN－81°16′－Wである。P133・P158～P160・P181で構成される。柱穴は直径約70㎝の隅丸方形であり，検出面からの深さは9～50㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

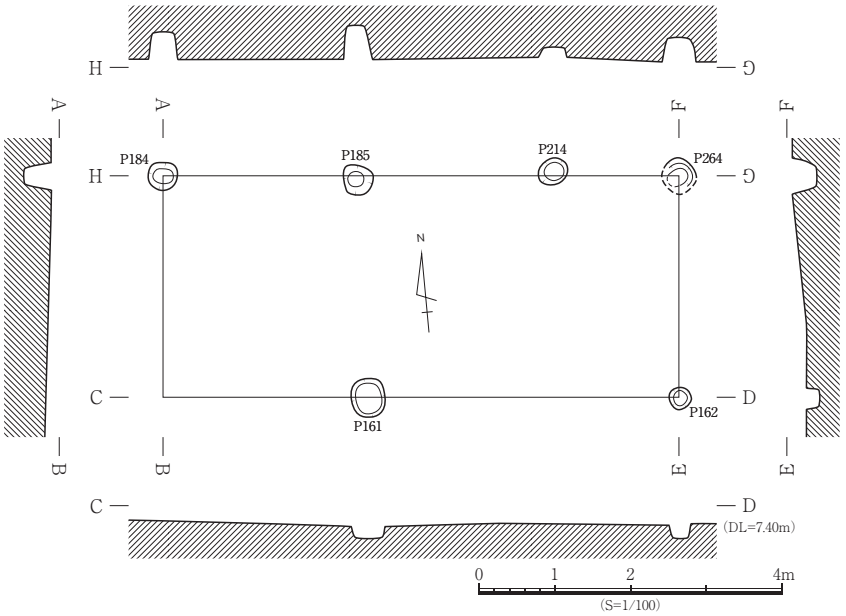


図69　4区　SB30　平面図・エレベーション図

SB30

SB30は調査区中央部で検出した桁行3間(約6.82m)，梁行1間(約2.92m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約19.9㎡である。主軸方向はN－84°40′－Wである。P161・P162・P184・P185・P214・P264で構成される。柱穴は直径30～

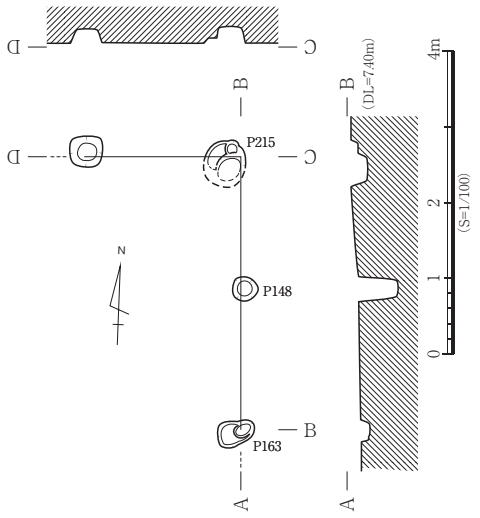


図70　4区　SB31　平面図・エレベーション図

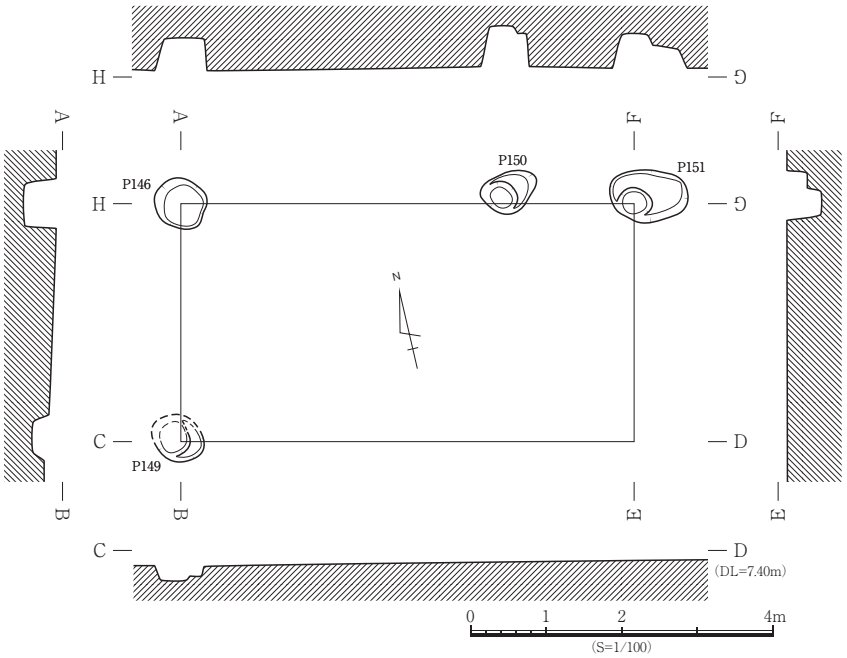


図71　4区　SB32　平面図・エレベーション図

図72　4区　SB32
出土遺物実測図

50㎝の不整形であり，検出面からの深さは23～45㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB31

SB31は調査区中央部で検出した掘立柱建物跡である。桁行1間(約2.02m)以上，梁行2間(約3.61m)以上を検出した。主軸方向は南北方向とした場合はN－2°10′－Wである。P148・P163・P215で構成される。柱穴は直径30～50㎝の不整形であり，検出面からの深さは12～35㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB32

SB32は調査区東部で検出した桁行2間(約5.99m)，梁行1間(約3.14m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約18.8㎡である。主軸方向はN－77°00′－Wである。P146・P149～P151で構成される。柱穴は直径約60㎝の不整形であり，検出面からの深さは20～41㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はP151から出土した鉄鏃(194)とみられる鉄製品である。

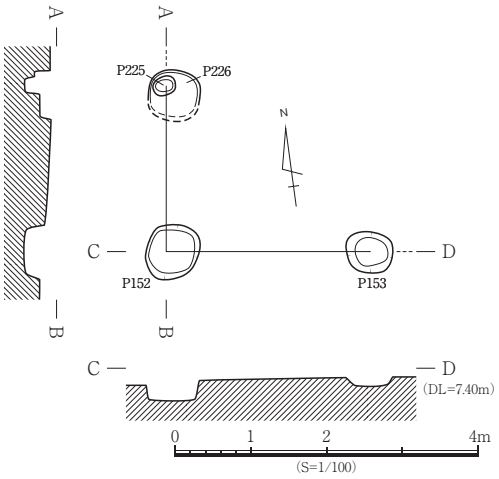


図73　4区　SB33　平面図・エレベーション図

SB33

SB33は調査区東部で検出した掘立柱建物跡である。桁行1間(約2.67m)以上，梁行1間(約2.17m)以上を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN－82°19′－Wである。P152・P153・P225・P226で構成される。柱穴は直径約70㎝の隅丸方形であり，検出面からの深さは12～33㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

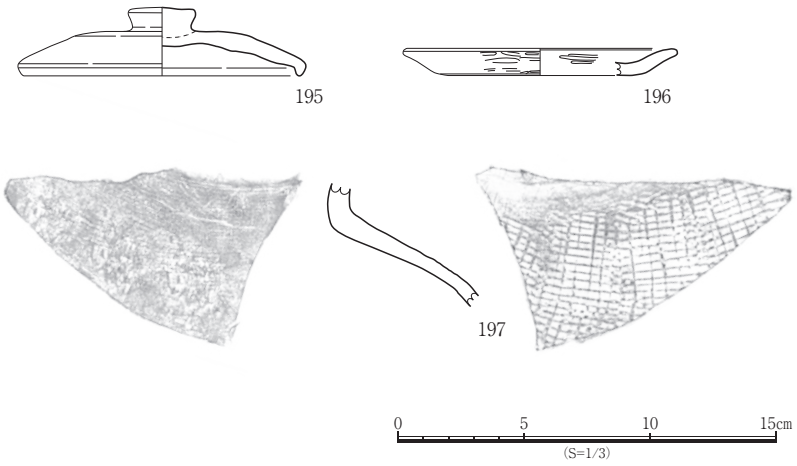


図74　4区　SB33　出土遺物実測図

図示した出土遺物は須恵器の蓋(195)・壺(197)，土師質土器の皿(196)である。

195は蓋である。P152から出土した。天井部外面には扁平な擬宝珠様の摘みを付す。口縁部を短く折り曲げる。内外面ともに回転ナデ調整か。焼成は不良である。196は皿である。P152から出土した。口縁部は浅く斜め上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整後ミガキ調整を施す。197は壺である。P152から出土した。体部外面には格子叩き調整，内面にはナデ調整を施す。また，内面には布目圧痕か。

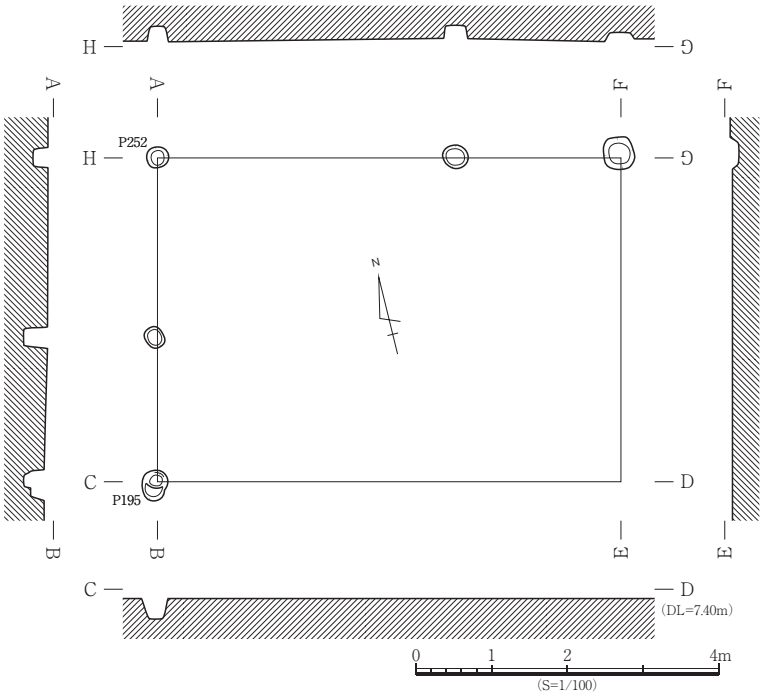


図75　4区　SB34　平面図・エレベーション図

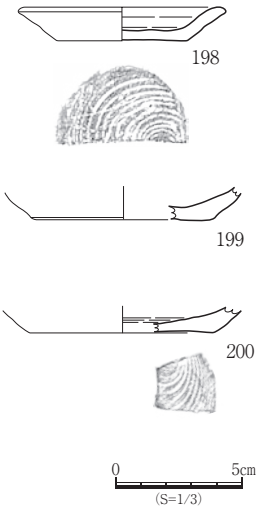


図76　4区　SB34
出土遺物実測図

SB34

SB34は調査区東部で検出した桁行2間(約6.12m)，梁行2間(約4.28m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約26.2㎡である。主軸方向はN－76°14′－Wである。P195・P252で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整形であり，検出面からの深さは12～31cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(198)・杯(199・200)である。

198は皿である。P195から出土した。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。199は杯である。P252から出土した。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。200は杯である。P195から出土した。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面には弱いロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SB35

SB35は調査区東部で

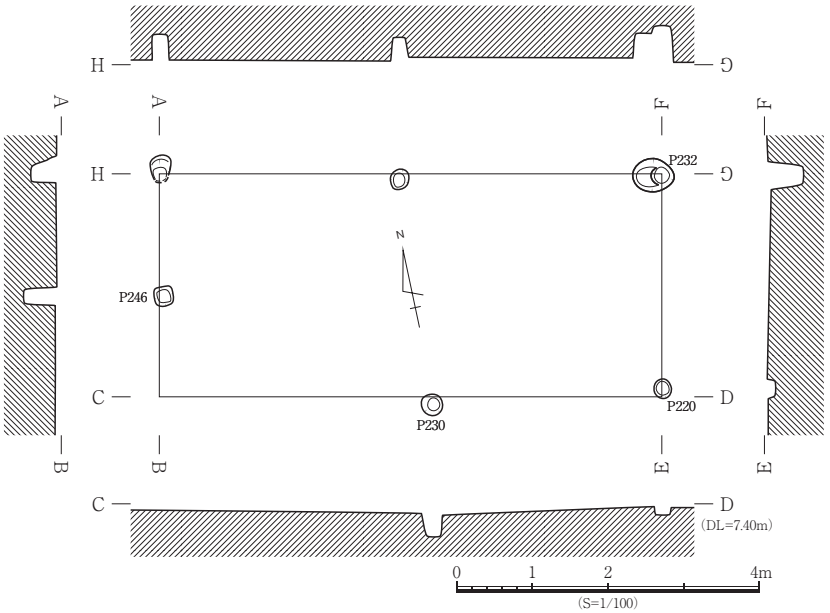


図77　4区　SB35　平面図・エレベーション図

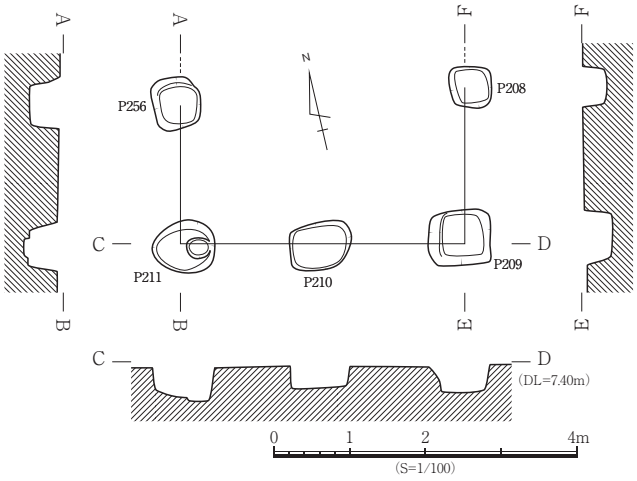


図78　4区　SB36　平面図・エレベーション図

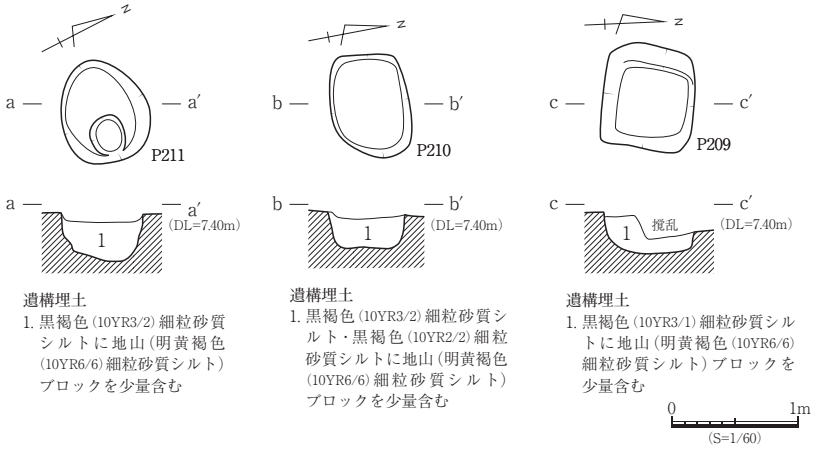


図79　4区　SB36　断面図

検出した桁行2間(約6.64m)，梁行2間(約2.94m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約19.5㎡である。主軸方向はN－78°12′－Wである。P220・P230・P232・P246で構成される。柱穴は直径約30㎝の不整形であり，検出面からの深さは11～42㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB36

SB36は調査区東部で検出した掘立柱建物跡である。桁行1間(約2.06m)以上，梁行2間(約3.76m)を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN－13°00′－Eである。P208～P211・P256で構成される。柱穴は直径約60・70㎝の隅丸方形であり，検出面からの深さは29～44㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師器の皿(201)，平瓦(202)である。

201は皿である。P210から出土した。内面は回転ナデ調整後ミガキ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ミガキ調整を施す。202は平瓦である。P208から出土した。凸面の調整は不明である。凹面には布目圧痕がみられる。端部はヘラナデ調整か。

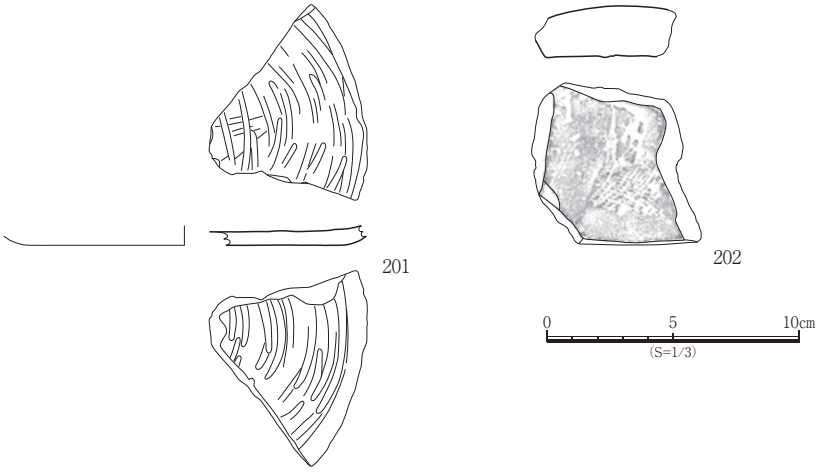


図80　4区　SB36　出土遺物実測図

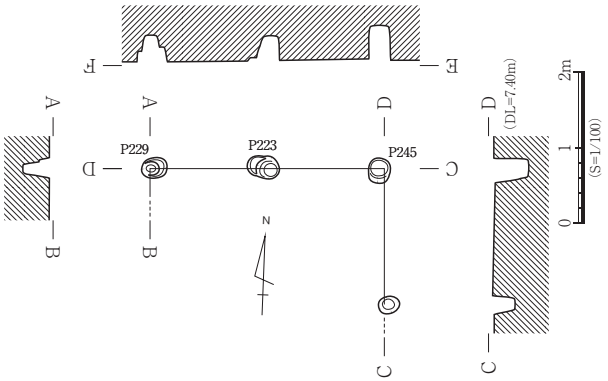


図81　4区　SB37　平面図・エレベーション図

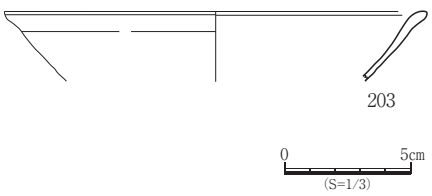


図82　4区　SB37　出土遺物実測図

SB37

SB37は調査区東部で検出した掘立柱建物跡である。桁行1間(約1.79m)以上，梁行2間(約3.09m)を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN－2°11′－Wである。P223・P229・P245で構成される。柱穴は直径約30㎝の不整形であり，検出面からの深さは29～46㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の椀(203)である。P223から出土した。摩耗のため調整等は不明である。

3.SA

SA1

SA1は調査区東部で検出した柵跡である。P224・P242・P248・P250で構成され，検出長は約6.87mである。主軸方向はN－83°45′－Wである。柱間寸法は1.90～3.10mを測る。柱穴は直径約30㎝の円形を呈し，検出面からの深さは19～30㎝を測り，埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(204)である。P248から出土した。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底面にはナデ調整を施す。また，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

4.SK

SK1

SK1は調査区中央部で検出した平面形が円形の土坑であり，撹乱に切られる。少なくとも2基の土坑が重複している。直径約1.49mの土坑を掘削し，周囲に礫を並べる。にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂質粘性シルト他で埋め，内側に規模を縮小して土坑を構築している。この土坑はいわゆるハンダ土坑であり，底面には幅4㎝のリング状の小溝がみられた。

図示した出土遺物はない。

SK2

SK2は調査区中央部で検出した平面形が隅丸長方形のハンダ土坑である。長軸は約1.52m，短軸は1.17mを測り，検出面からの深さは約14㎝である。埋土は黄橙色(7.5YR8/8)粘土である。主軸方向はN－8°－Eである。床面・壁にハンダが貼られている。床面のハンダの厚みは約10㎝である。

図示した出土遺物はない。

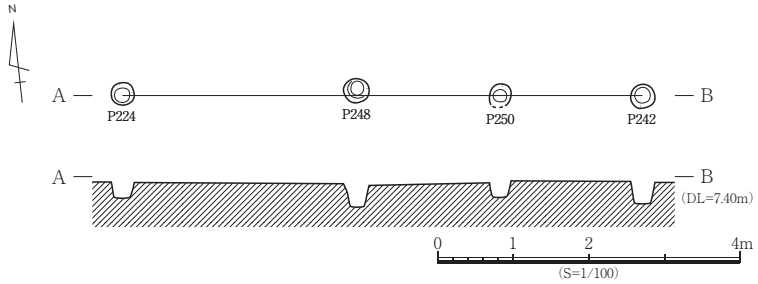


図83　4区　SA1　平面図・エレベーション図

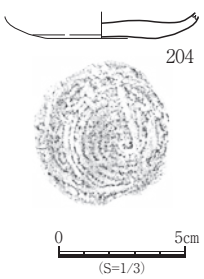


図84　4区　SA1
出土遺物実測図

SK3

SK3は調査区中央部で検出した土坑である。SK4を切り，一部は調査区外へひろがる。ほぼ同じ場所に繰り返し土坑を構築している。新旧が判明しているものでは古い順に素掘りの土坑，ハンダ土坑，礫を周囲に巡らせた土坑である。素掘りの土坑は長軸の検出長は約2.52m，短軸の検出長は1.83mを測り，検出面からの深さは約66㎝である。埋土はにぶい黄褐色(10YR5/4)粘土である。礫を周囲に巡らせた土坑の内法は直径約1.6mの円形を呈する。また，ハンダ土坑は長軸の検出長は約1.70m，短軸の検出長は約1.65mの隅丸長方形か。埋土は灰色(5Y4/1)粘土質シルトである。主軸方向はN－3°－Eである。壁・床面にハンダを貼る。

図示した出土遺物は磁器の碗(205)，陶器の鍋(206)・サナ(207)である。

205は碗である。ロクロ成形である。見込みにはコンニャク印判による五弁花，外面には染付がみられる。206は鍋である。内外面ともに施釉し，外面底部付近は無釉となる。施釉部はにぶい黄色，無釉部はにぶい黄橙色を呈する。207はサナである。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面にはナデ調整を施す。直径約1.8㎝の円孔を穿つ。

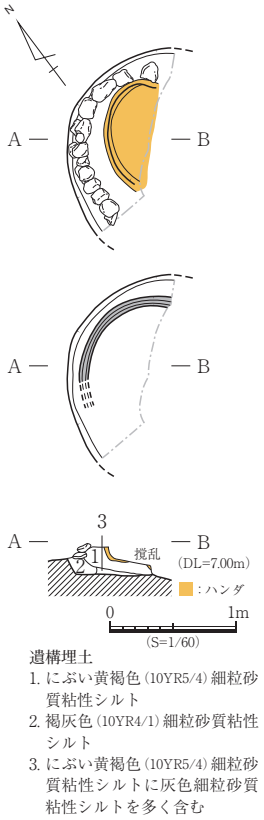


図85　4区　SK1　平面図・断面図

SK4

SK4は調査区中央部で検出した平面形が楕円形の土坑である。SK3に切られる。長軸の検出長は約1.25m，短軸の検出長は約0.57mを測り，検出面からの深さは約23㎝である。埋土は灰色(5Y4/1)粘土質シルトである。主軸方向はN－2°－Wである。

図示した出土遺物はない。

SK5

SK5は調査区中央部で検出した平面形が不整円形の土坑である。複数の土坑が重複する。長軸は約1.92m，短軸は約1.67mを測り，検出面からの深さは約15㎝である。底面に幅約24㎝，底面からの深さ約8㎝の溝がリング状に巡る。

図示した出土遺物はない。

SK6

SK6は調査区西部で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。複数の土坑が重複か。長軸は約2.13m，短軸は約1.47mを

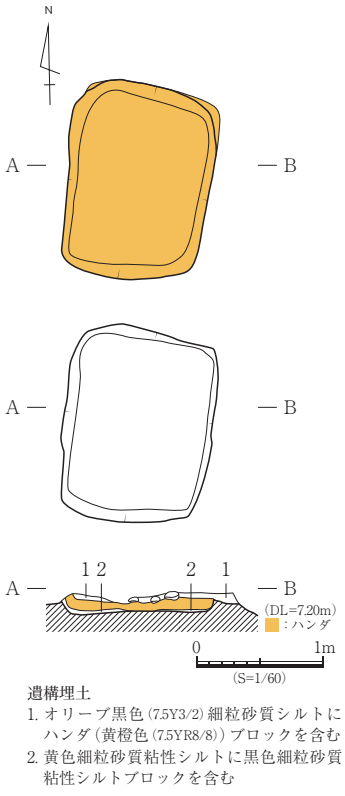


図86　4区　SK2　平面図・断面図

測り，検出面からの深さは約18㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主軸方向はN－86°－Eである。

図示した出土遺物はない。

SK10

SK10は調査区東部で検出した平面形が方形の土坑である。長軸は約2.18m，短軸の検出長は約1.21mを測り，検出面からの深さは約19㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－75°－Wである。

図示した出土遺物は土師器の杯(208)，土師質土器の杯(209)である。

208は杯である。口縁端部内面は凹む。内外面ともに回転ナデ調整を施す。209は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。皿か。

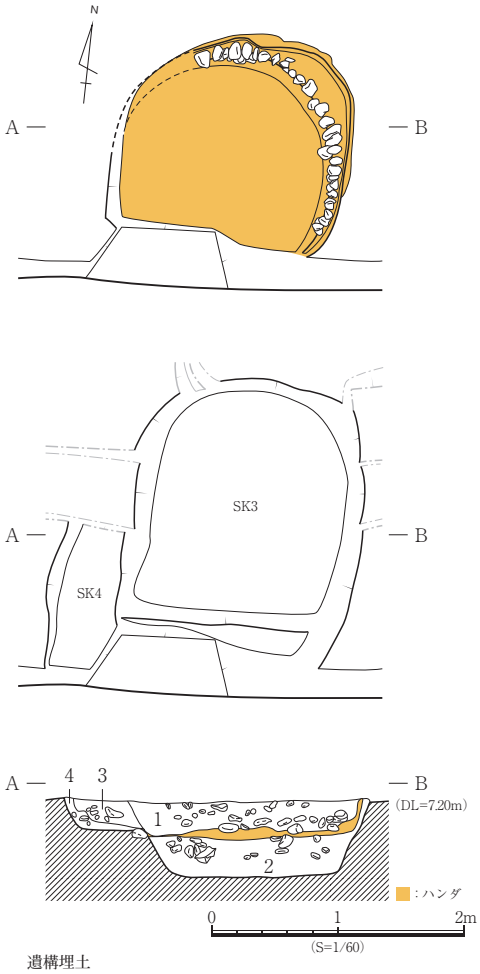


図87　4区　SK3・4　平面図・断面図

SK11

SK11は調査区東部で検出した平面形が方形の土坑である。長軸は約5.61m，短軸の検出長は約0.82mを測り，検出面からの深さは約16㎝である。主軸方向はN－0°である。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(210)である。体部

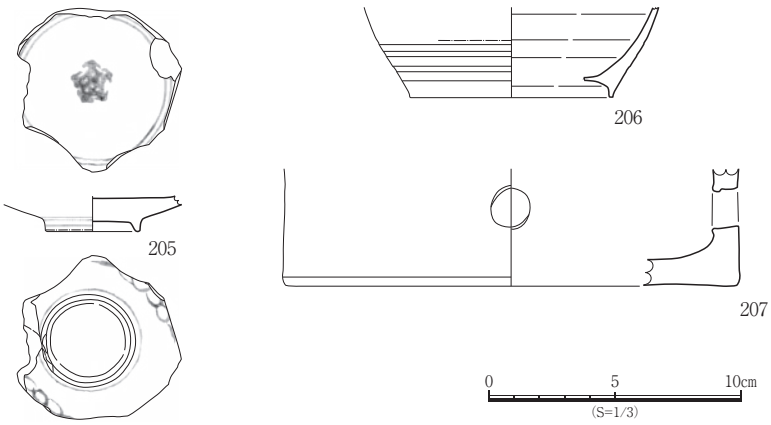


図88　4区　SK3　出土遺物実測図

は直線的にのびる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。内外面ともにロクロ目がみられる。

SK12

SK12は調査区東部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸は約1.05m，短軸は0.98mを測り，検出面からの深さは約11㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－39°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(211)・椀(212)である。

211は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。212は椀である。外底面には断面形が台形の輪高台を「ハ」の字状に付す。内面はミガキ調整か。

SK13

SK13は調査区東部で検出した平面形が溝状の土坑である。長軸の検出長は約2.24m，短軸は約1.09mを測り，検出面からの深さは約11㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

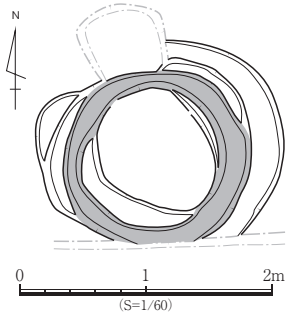


図89　4区　SK5　平面図

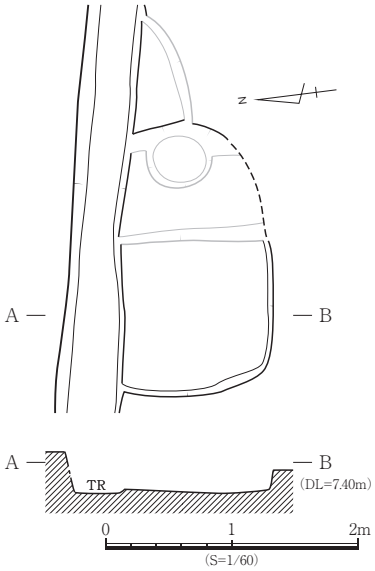


図90　4区　SK10　平面図・エレベーション図

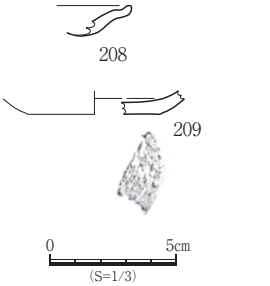


図91　4区　SK10
出土遺物実測図

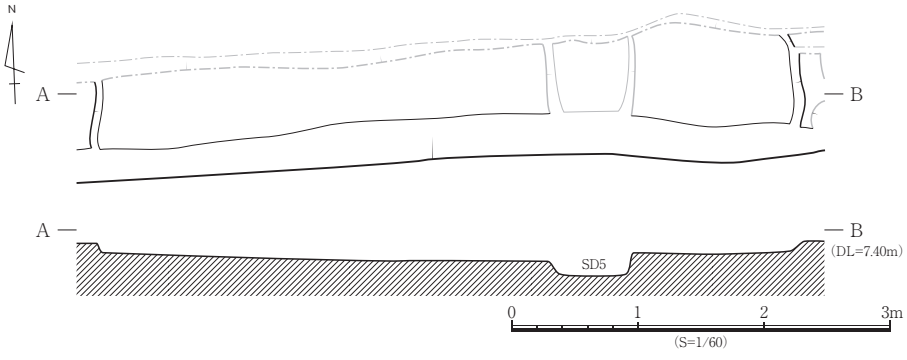


図92　4区　SK11　平面図・エレベーション図

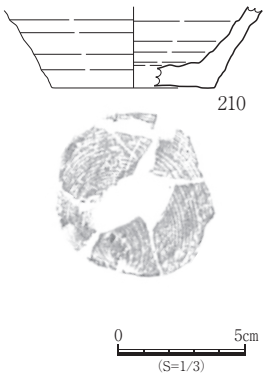


図93　4区　SK11
出土遺物実測図

主軸方向はＮ－6°－Ｗである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(213)である。口縁部は浅く斜め上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SK14

SK14は調査区東部で検出した平面形が方形の土坑である。長軸は約1.10m，短軸の検出長は約0.60mを測り，検出面からの深さは約10㎝である。主軸方向はＮ－73°－Ｗである。

図示した出土遺物は土師質土器の椀(214)，土師器の甕(215)である。

214は椀である。内外面ともにヘラミガキ調整を施す。215は甕である。口縁部は大きくひらき，口唇部には面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整・粗いハケ調整か。内面にはヨコナデ調整・ヘラナデ調整を施す。

SK15

SK15は調査区東部で検出した平面形が方形の土坑である。長軸の検出長は約0.71m，短軸は約0.69mを測り，検出面からの深さは約4㎝である。主軸方向はＮ－82°－Ｅである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(216)である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。

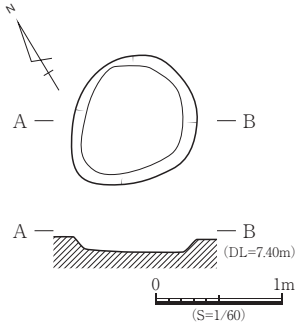


図94　4区　SK12
平面図・エレベーション図

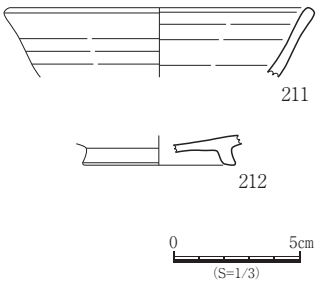


図95　4区　SK12
出土遺物実測図

図96　4区　SK13
出土遺物実測図

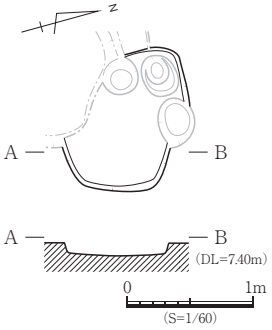


図97　4区　SK14
平面図・エレベーション図

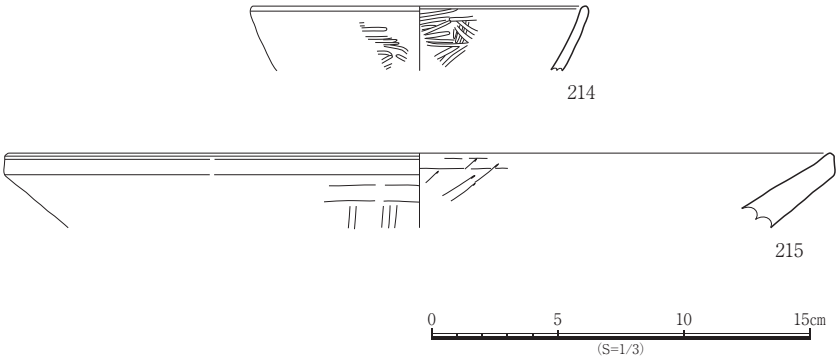


図98　4区　SK14　出土遺物実測図

SK16

SK16 は調査区東部で検出した平面形が方形の土坑である。長軸は約 1.02m，短軸は約 0.84m を測り，検出面からの深さは約 4 ㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－0°である。

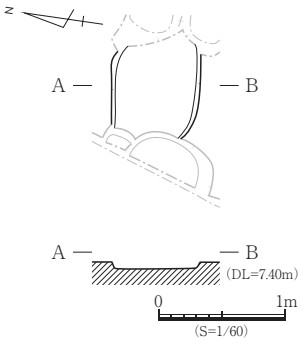


図99　4区　SK15　平面図・エレベーション図

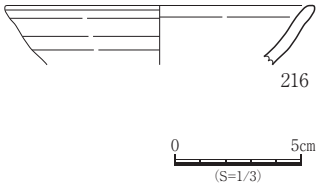


図100　4区　SK15 出土遺物実測図

図示した出土遺物は土師質土器の杯(217)である。外面には回転ナデ調整を施し，内面にはミガキ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。

SK18

SK18 は調査区東部で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸は約 1.85m，短軸は約 1.43m を測り，検出面からの深さは約 11 ㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－17°－Eである。

図示した出土遺物は須恵器の杯(218)，土師器の皿(219)・甕(220)，製塩土器(221)，弥生土器の底部(222)である。

218 は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底面にはナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。219 は皿である。内外面ともにヘラミガキ調整を施す。220 は甕である。口唇部を摘み上げ，凹面状を呈する。外面にはヨコナデ調整を施し，弱い指頭圧痕が認められる。内面はヨコハケ調整である。221 は製塩土器である。口唇部は外傾し，内外面ともにナデ調整を施す。222 は底部である。上げ底となり外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。

SK21

SK21 は調査区西部で検出した土坑で，いわゆるハンダ土坑である。東側を現代の撹乱によって削

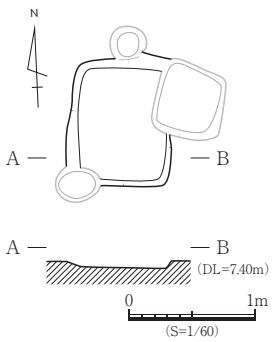


図101　4区　SK16　平面図・エレベーション図

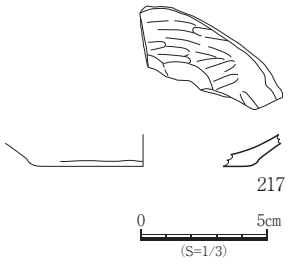
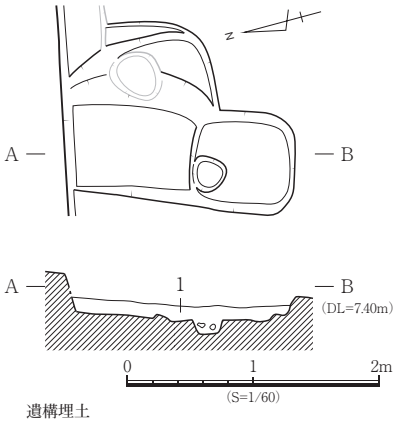


図102　4区　SK16　出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルトに地山（明黄褐色（10YR6/6）細粒砂質シルト）ブロックを含む

図103　4区　SK18　平面図・断面図

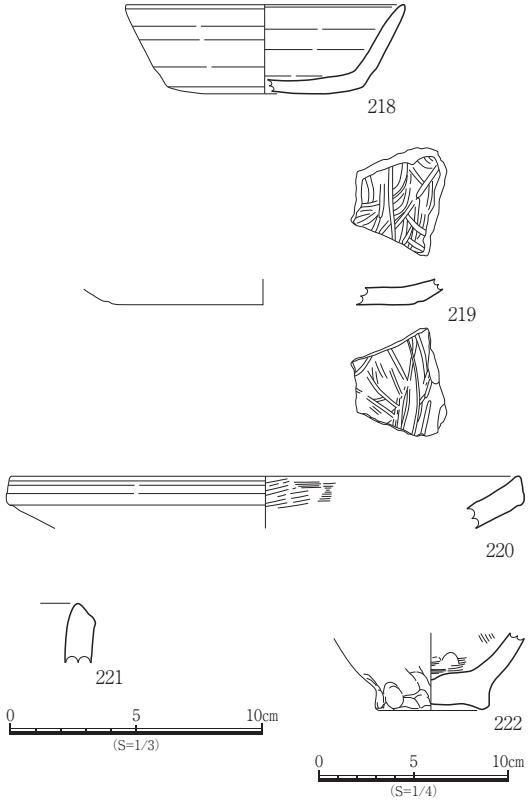
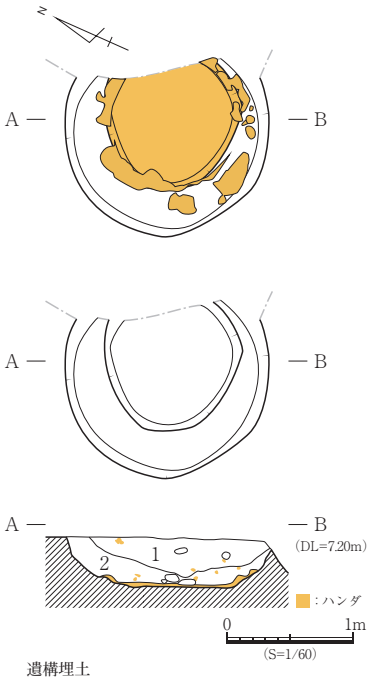


図104　4区　SK18　出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色（10YR2/2）シルト質極細粒砂に直径4cm大以下のハンダブロックを含む
2. 黒褐色（10YR2/2）極細粒砂に黒褐色（10YR3/2）極細粒砂と直径4cm大以下のハンダブロックを含む

図105　4区　SK21　平面図・断面図

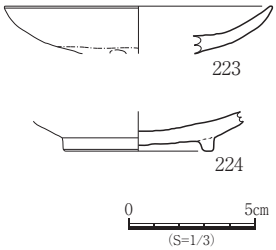


図106　4区　SK21　出土遺物実測図

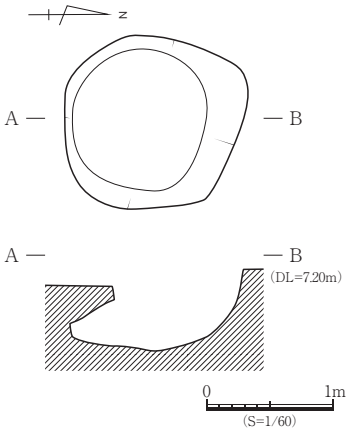


図107　4区　SK22　平面図・エレベーション図

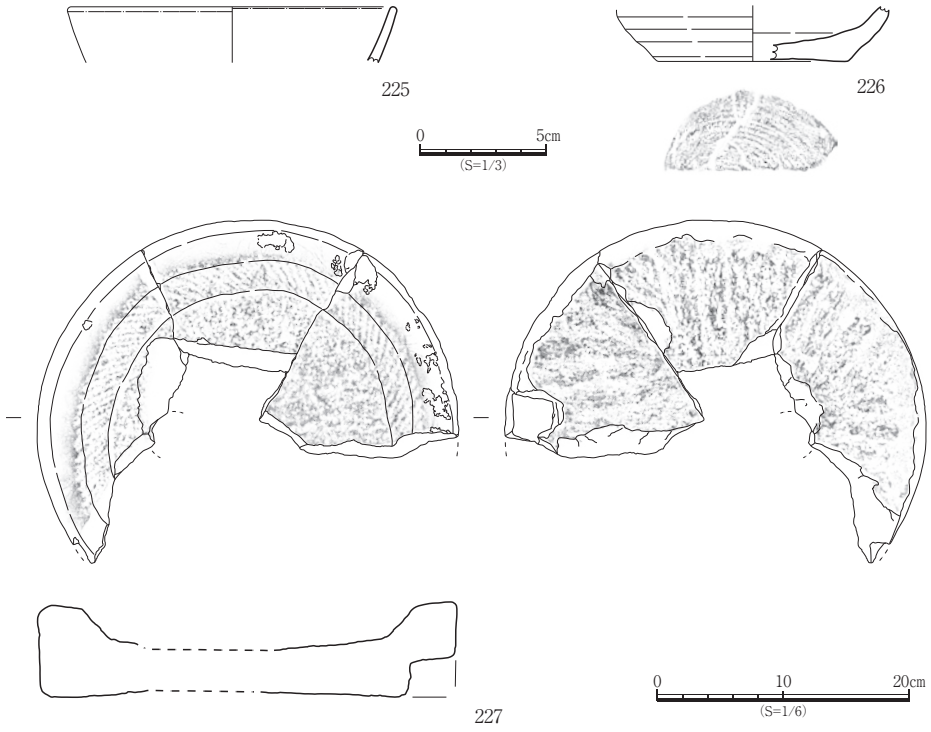


図108　4区　SK22　出土遺物実測図

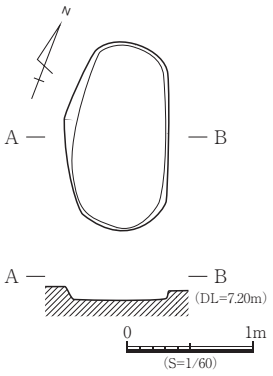


図109　4区　SK23　平面図・エレベーション図

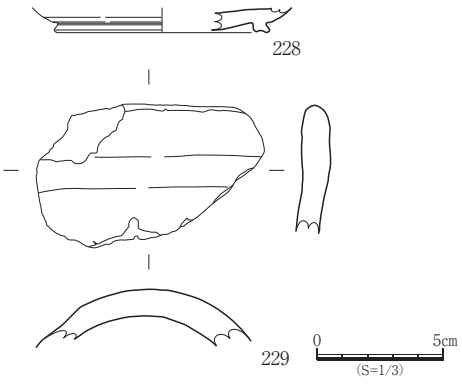


図110　4区　SK23　出土遺物実測図

平される。掘方の平面形は円形を呈する。規模は直径約 1.64m，検出面からの深さは約 38 ㎝を測る。土坑底面に厚さ 2 ～ 4 ㎝程度にハンダを搗き固める。桶を設置していた痕跡が認められた。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂で上層にはハンダ片が多く含まれる。(綾部)

図示した出土遺物は陶器の皿(223)，土師器の杯(224)である。

223は皿である。ロクロ成形である。外面の腰部以下は無釉となる。内面には胎土目跡か。唐津焼か。224 は杯である。外底面には断面形が方形の高台を付す。椀か。

SK22

SK22 は調査区の西部で検出した土坑である。中央を現代の撹乱によって削平される。掘方の平面形は不整円形で，規模は直径約 1.39m，深さ約 62 ㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/1)極細粒砂質シルトやシルトで，埋土下半には径 10 ～ 15 ㎝大の石が多く含まれる。断面は袋状を呈する。南壁では特に顕著であり，30 ㎝ほど外側へ掘り込まれる。土坑周辺の地山は礫をほとんど含まない褐色シルト質極細粒砂が堆積しており，粘土採掘坑の可能性が考えられる。(綾部)

図示した出土遺物は陶器の碗(225)，土師質土器の杯(226)，石臼(227)である。

225 は碗である。ロクロ成形である。口縁端部の釉薬は剥げるか，あるいはうすくなっている。226 は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面・内底面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。227 は砂岩製の石臼である。粉挽き用の上臼である。上面には供給口，側面には挽手孔が認められる。下面の臼目は摩滅する。約半分は欠損する。

SK23

SK23 は調査区の西部で検出した土坑である。SD10 の上層に位置する。平面形はやや歪んだ隅丸長方形を呈し，長軸約 1.52m，短軸約 0.81m，深さ約 10㎝を測る。埋土は黒色(10YR2/1)極細粒砂である。主軸方向はＮ－ 19° －Ｗである。(綾部)

図示した出土遺物は須恵器の杯(228)，器形が不明の土師質土器(229)である。

228 は杯である。外底面には端部を外方へ引っ張り出した高台を付す。体部外面は回転ナデ調整である。内底面･外底面にはナデ調整を施す。焼成は不良である。229は筒状あるいは割り竹状を呈する。端部は丸くおさめる。内外面ともに様々な圧痕がみられる。ナデ調整か。瓦の可能性がある。

SK24

SK24 は包含層の残りか。

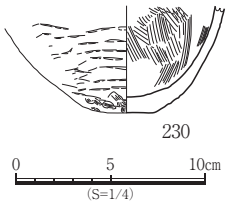


図 111　4 区　SK24　出土遺物実測図

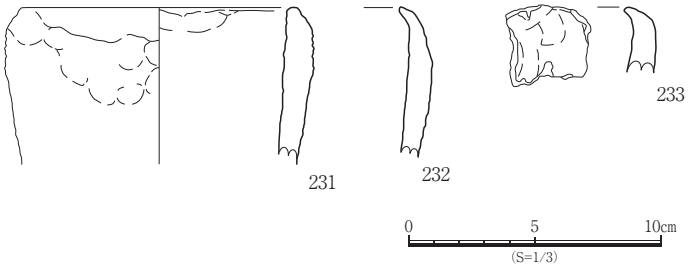


図 112　4 区　SK25　出土遺物実測図

図示した出土遺物は弥生土器の鉢(230)である。体部は半球形を呈し，底部は角の取れた平底である。内面から押し付けている。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。外面にはキレツがみられる。

SK25

SK25 は調査区西部で検出した土坑である。後世によって上面を大きく削平され，平面形状は不明である。深さは約 9㎝を測る。製塩土器が破片点数で約 140 点出土した。(綾部)

図示した出土遺物は製塩土器(231～233)である。

231は製塩土器である。口縁部は内傾し，口唇部は尖らせる。内外面ともにナデ調整である。内面にはしぼり目が認められる。232 は製塩土器である。口縁部を内側に曲げ，口唇部は尖らせる。内外面ともにナデ調整を施す。内面はヘラナデ調整か。233 は製塩土器である。口縁部は内側に曲げ，口唇部は尖らせる。内外面ともにナデ調整を施す。

SK29

SK29 は調査区西部で検出した土坑である。SK42，ST9 を削平して掘削された

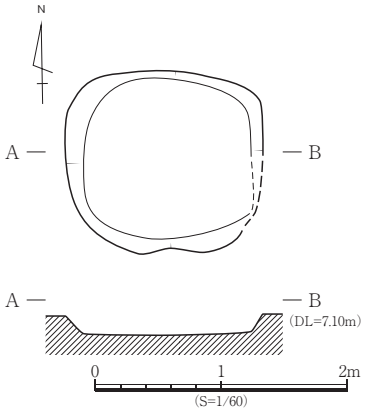


図113　4区　SK29　平面図・エレベーション図

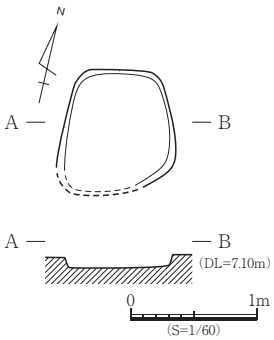


図115　4区　SK31
平面図・エレベーション図

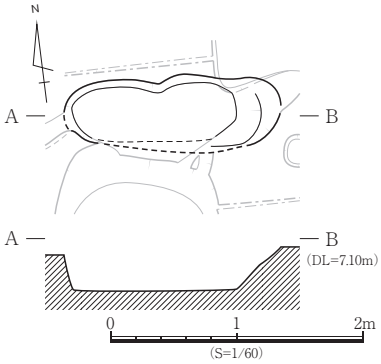


図117　4区　SK34
平面図・エレベーション図

図114　4区　SK29
出土遺物実測図

図116　4区　SK31
出土遺物実測図

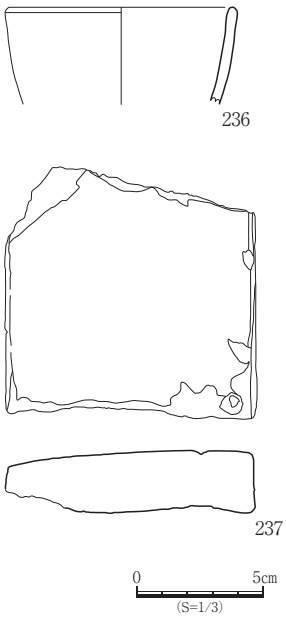


図118　4区　SK34
出土遺物実測図

土坑である。平面形状は方形を呈し，長軸は約 1.56m，短軸は 1.42m を測り，検出面からの深さは約 22㎝である。埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂～極細粒砂である。主軸方向はN－88°－Wである。(綾部)

図示した出土遺物は鉄製の刀子(234)である。羽子板形を呈する。鏃身部の断面形は扁平な長方形を呈し，茎部の断面形は長方形を呈する。両端は欠損する。

SK31

SK31 は調査区の西部，ST9 の上層で検出した土坑である。平面形は不整方形を呈し，長軸の検出長は約 0.90m，短軸約 0.98m を測る。検出面からの深さは約 11㎝で埋土は黒褐色(10YR2/3)シルト質極細粒砂である。主軸方向はＮ－13°－Ｗである。(綾部)

図示した出土遺物は管状土錘(235)である。寸胴な紡錘形を呈し，両端面は平坦となる。断面形は扁円形を呈する。円孔の直径は約6㎜である。縦方向に割れる。

SK34

SK34 は調査区西部，SK22 の北側で検出した土坑である。北側を現代の撹乱，南側はSK22 によって削平される。平面形は不整楕円形を呈し，長軸は約 1.72m，短軸の検出長は約 0.70m を測り，検出面からの深さは約 36 ㎝である。埋土は黒色(10YR1.7/1)シルト質細粒砂である。主軸方向はＮ－ 83°－Ｗである。土坑壁面はオーバーハングして立ち上がり，粘土採掘坑とみられる。(綾部)

図示した出土遺物は磁器の碗(236)，道具瓦(237)である。

236 は碗である。ロクロ成形である。口縁部の外面には褐色の釉薬，内面には灰オリーブ色の釉薬を施釉し，体部の外面には黒褐色の釉薬，内面にはやや青みがかった灰白色の釉薬を施釉する。口唇部の釉薬はうすい。237 は道具瓦である。幅約 10㎝，厚さ 2.5㎝の長方形であり，長辺の下端には剥離痕がみられ，断面形は「L」の字状となる。両端面には面取りを施し，上面にはヘラナデ調整を施す。焼成は不良である。

SK35

SK35 は調査区の西部で検出した土坑である。土坑北側を現代の撹乱によって大きく削平される。

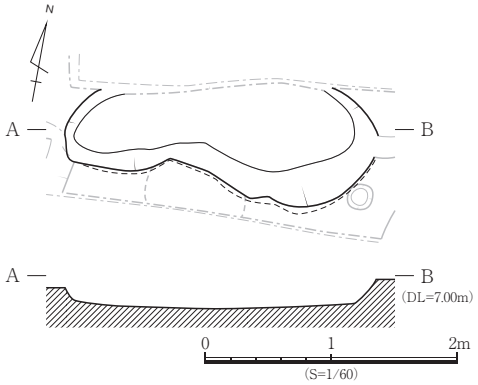


図119　4区　SK35
平面図・エレベーション図

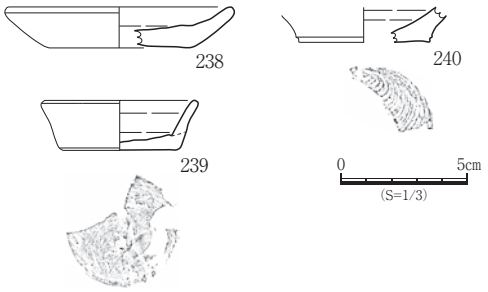


図120　4区　SK35
出土遺物実測図

平面形は不整形で，長軸は約2.47m，短軸の検出長は約0.97mを測り，検出面からの深さは約18㎝である。埋土は黒色(10YR1.7/1)シルト質細粒砂である。主軸方向はN－80°－Eである。粘土採掘坑とみられる。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(238)・杯(239・240)である。

238は皿である。体部は浅く外反気味にひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。切離し手法は不明である。239は杯である。体部は僅かに外方に直線的にのびる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。240は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SK42

SK42は調査区西部で検出した土坑である。北東部をSK21・29によって削平され，西側は調査区外となる。平面形は不整形を呈するとみられ，長軸は約3.85m，短軸の検出長は約1.97mを測り，検出面からの深さは約60㎝である。埋土は黒色～黒褐色のシルトやシルト質極細粒砂で，近似の埋土が堆積する。北側底面付近には固く締まるにぶい黄褐色細礫が混じるシ

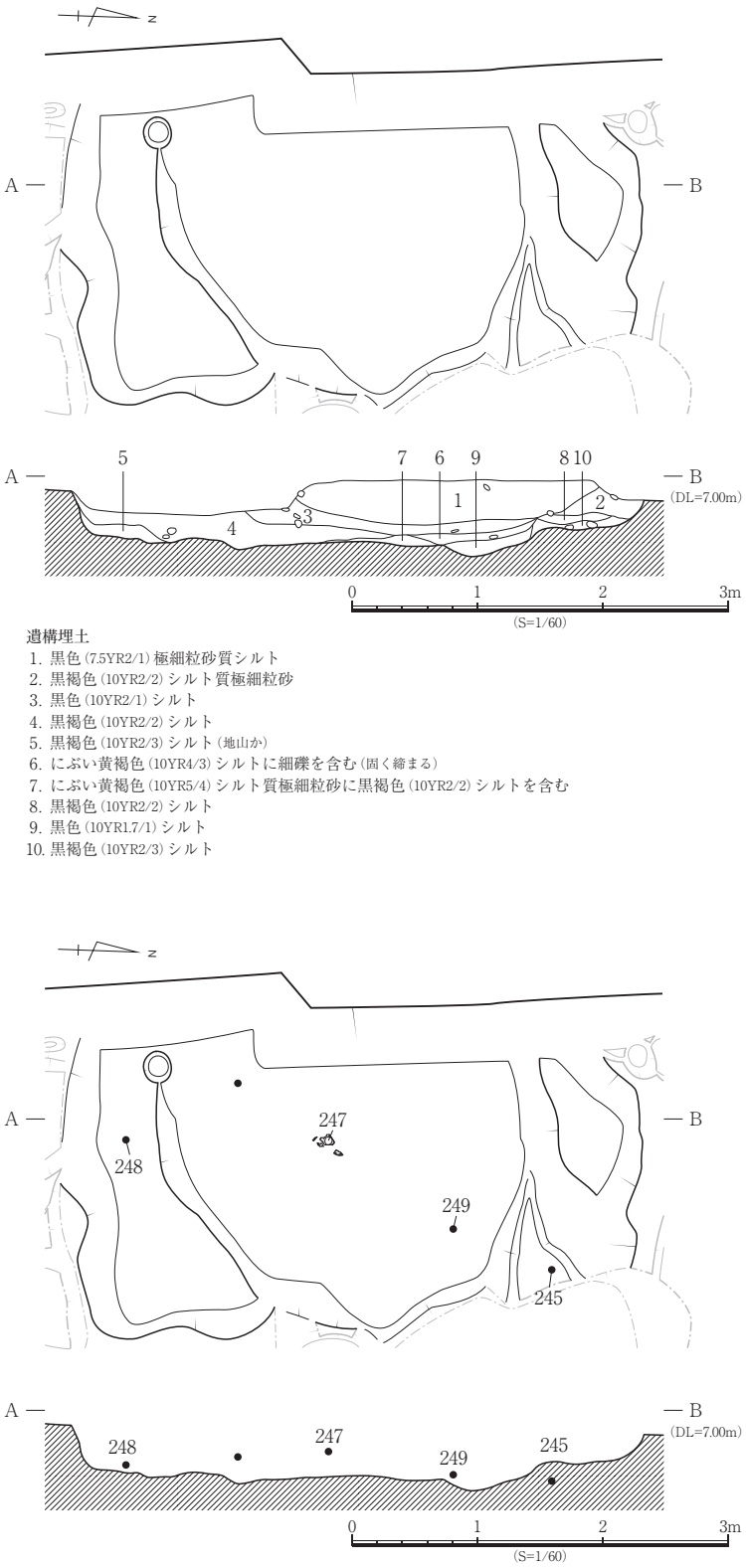


図121　4区　SK42　平面図・断面図・エレベーション図

ルト(第6層)が堆積しており，これより上層が別遺構となる可能性がある。第1層より緑釉陶器の皿が出土している。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(241・242)，土師器の皿(243・244)・杯(245)，須恵器の杯(246)，緑釉陶器の皿(247)，土錘(248)，石包丁(249)である。

241は皿である。体部は丸みを帯びる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。242は皿である。体部は斜め上方へひらき，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。243は皿である。口縁部は外上方へのび，口縁部内面は凹む。内外面ともにミガキ調整を施す。244は皿である。底部は丸みを帯びる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。245は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。246は杯である。外底面には高台を付す。焼成は不良である。247は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。断面形が台形の削り出し高台を持つ。外底面は無釉となる。釉調はオリーブ黄色～灰白色を呈する。248は円筒形の管状土錘である。断面形は歪な円形を呈する。円孔の直径は約5㎜である。249は砂岩製の打製石包丁である。片刃である。一面は表皮であり，他面は主要剥離面を残す。両端には紐掛け用の抉りを穿ち，摩滅が認められる。完存する。

5.SG

SG1

SG1は調査区中央部で検出した土器棺墓である。SG2と近接している。調査区の北端部に位置していることから調査区外にも土器棺墓が構築され，群を成している可能性がある。掘方は不整円形を呈し，規模は長軸約0.73m，短軸の検出長は約0.34mを測る。検出面からの深さは約29㎝である。

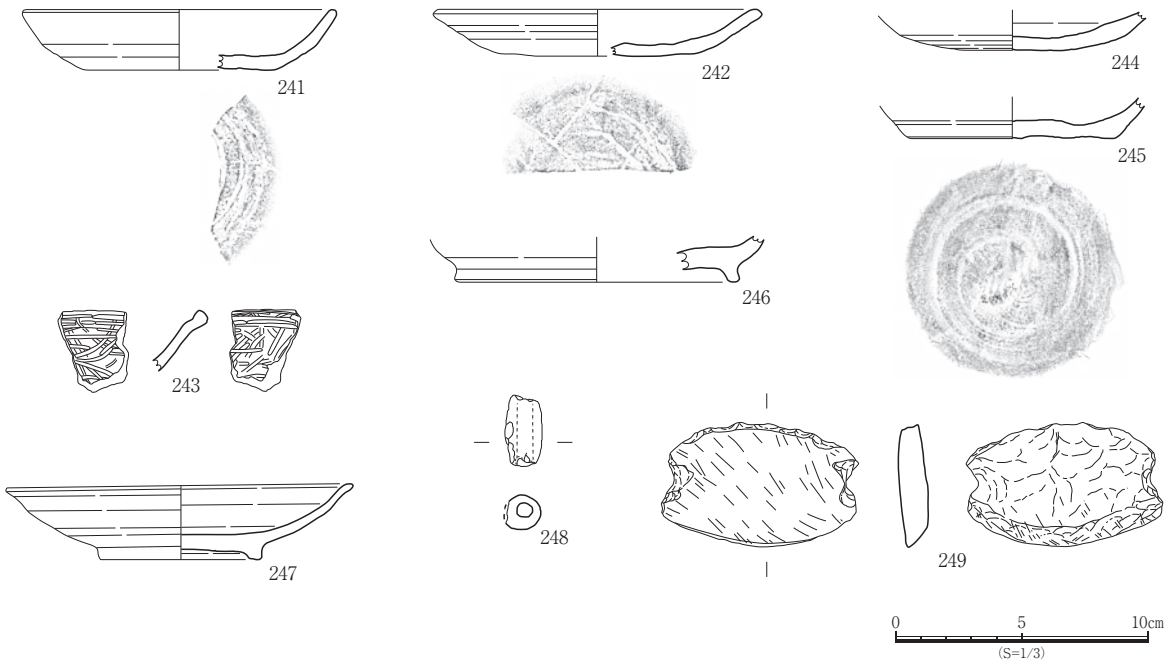


図122　4区　SK42　出土遺物実測図

埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－1°－Eである。大型壺を棺として利用，蓋としていたと推測される破片を半裁の際に確認している。土器は約26°の角度で埋置されていた。検出面のレベルで土器棺を固定していたと推測される礫を数個確認したものの，他の深度では確認できなかったことから地山に含まれている礫が固定しているように見えた可能性も否定できない。底部付近は掘方の壁と土器との間隔は5cmほど存在する。土器の復元から少なくとも約20cmは削平されていると推測される。土器の天端と当時の地表面との差をどれくらい見積もるかにもよるが概ね約7.8mと推定される。

図示した出土遺物は弥生土器の壺(250)である。底部は平底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整・ミガキ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整，さらにミガキ調整を施す。赤色顔料塗布か。

SG2

SG2は調査区中央部で検出した土器棺墓である。掘方は不整円形を呈し，規模は長軸約0.67m，短軸の検出長は約0.61mを測る。検出面からの深さは約19cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－62°－Eである。大型壺を棺として利用している。土器は約44°の角度で埋置されていた。掘方と土器棺の間に隙間は認められなかった。SG1と同様，検出面のレベルで土器棺を固定していたと推測される礫を数個確認したものの，地山に含まれている礫の可能性がある。

図示した出土遺物は弥生土器の壺(251・252)である。

251は壺である。底部

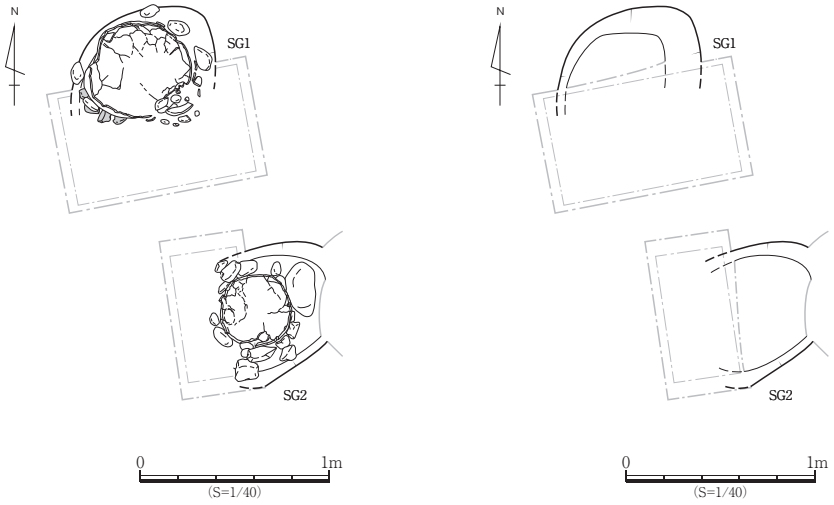
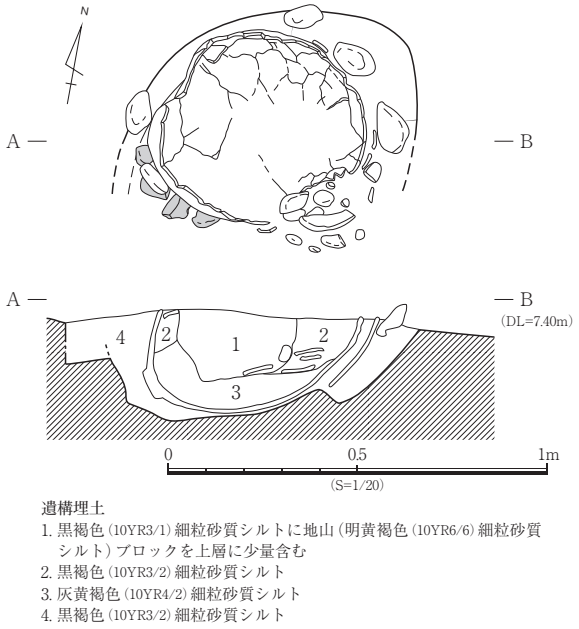


図123　4区　SG1・2_土器棺位置図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを上層に少量含む
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト
3. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト
4. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト

図124　4区　SG1　平面図・断面図

は丸底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともにハケ調整を施す。内底面は荒れる。体部に焼成後穿孔か。252 は壺である。底部は角の取れた平底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面にはハケ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。内面には敲打痕状の剥離痕跡がみられる。

6.SD

SD1

SD1 は調査区中央部で検出した「C」の字状の溝跡である。幅約 0.47m で，検出長は約 7.57m である。検出面からの深さは 3 ～ 10cm であり，埋土は暗褐色（10YR3/3）細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師器の杯（253）である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。

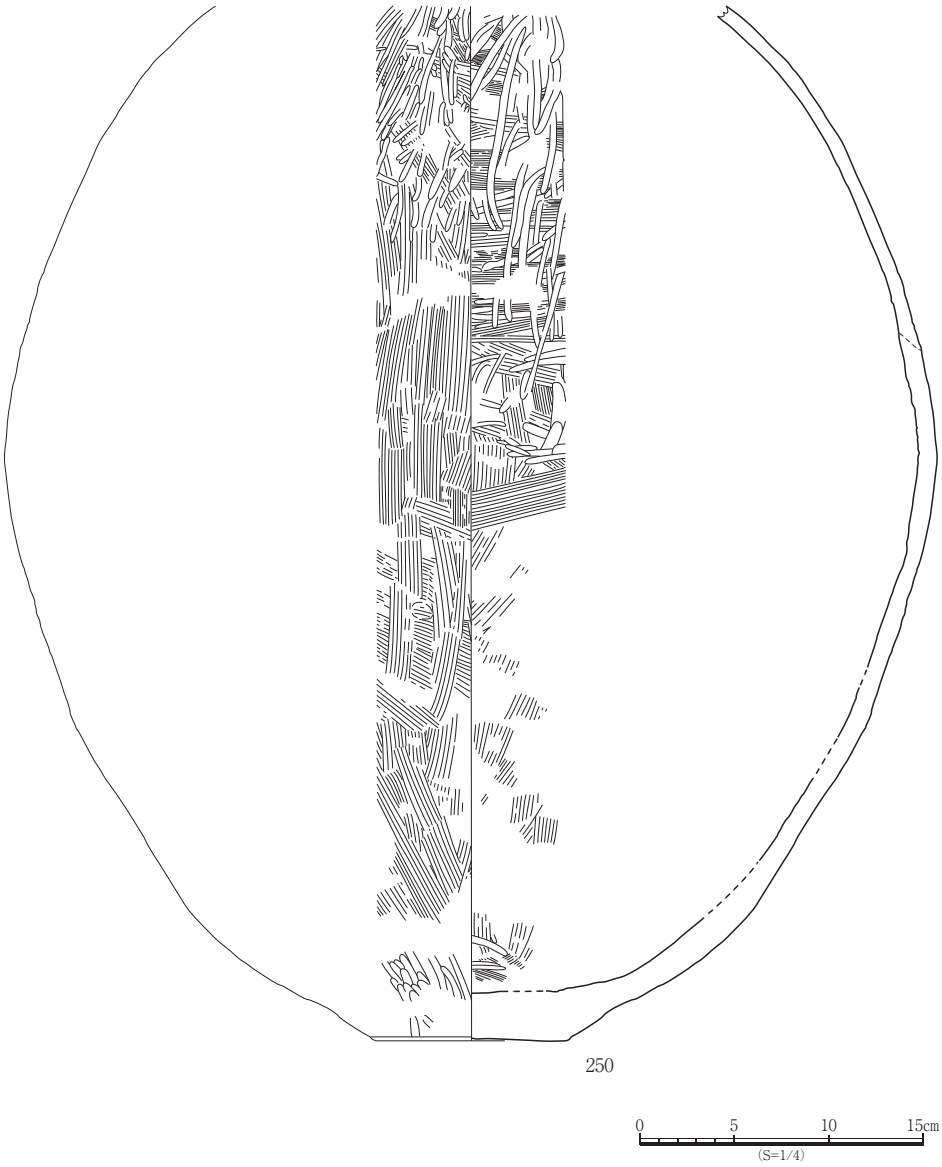


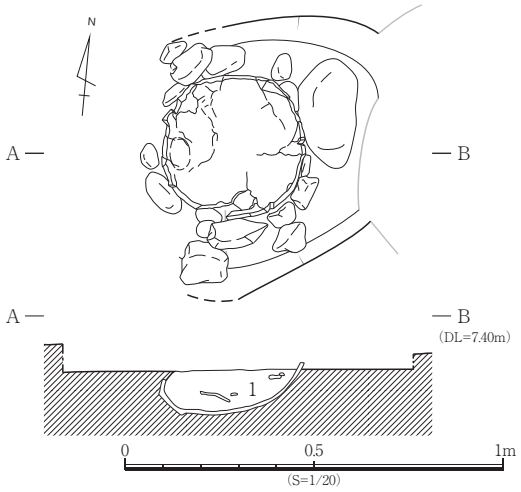
図 125　4 区　SG1　出土遺物実測図

SD2

SD2は調査区中央部で検出した南北方向の溝跡である。最大幅は約5.08m，検出長は約9.02mである。検出面からの深さは3～14㎝と浅く，削平を受けていることから西肩は検出できていない部分がある。また，南部分は撹乱を受けており，南北方向ともに調査区外へのびていると推測される。主軸方向はN－8°－Eである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師器の杯(254)・甕(260)，須恵器の皿(255)・杯(258)・壺(259)，土師質土器の皿(256)・杯(257)，移動式カマド(261)，瓦質土器の羽釜(262)，平瓦(263)である。

255は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。切離し手法は不明である。256は皿である。口縁部は斜め上方へひらく。底部は外傾する円盤状高台である。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。257は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。258は杯である。外底面には断面形が方形の高台を貼付。体部には回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。内底面にはナデ調整を施す。259は壺である。口縁部は緩やかに外反し，口唇部を摘み上げる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。260は甕である。口縁部は



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに褐色(7.5YR4/3)細粒砂質シルトの直径5㎝大以下のブロックを極少量含む

図126　4区　SG2　平面図・断面図

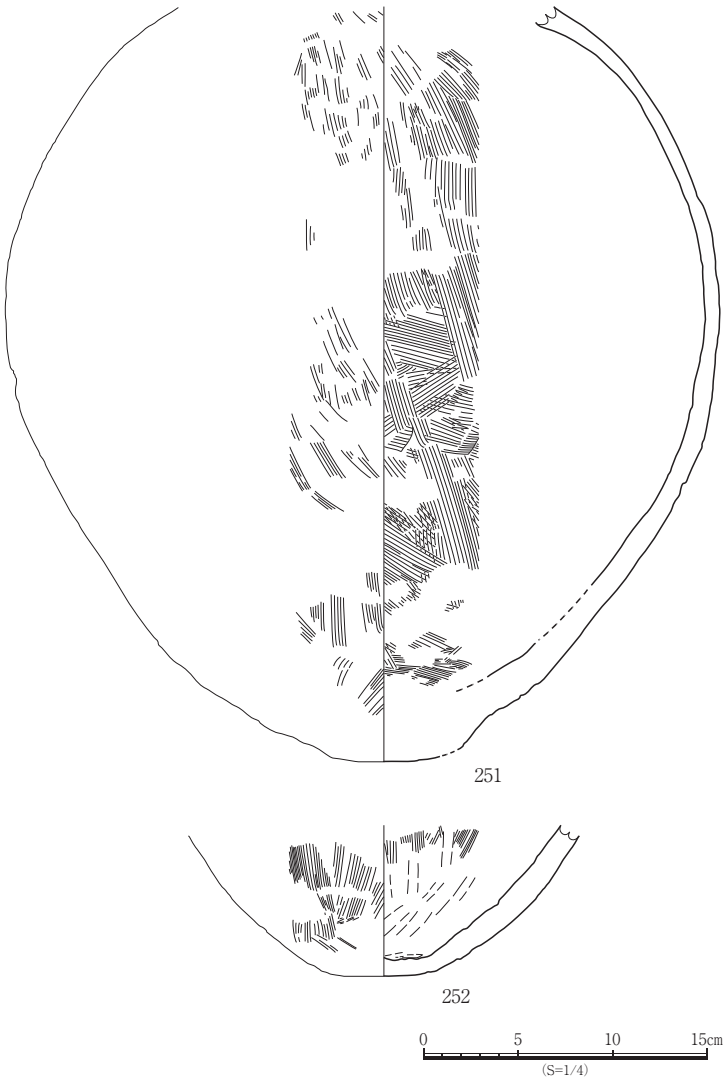
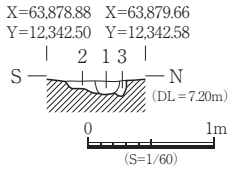


図127　4区　SG2　出土遺物実測図

緩やかに外反し，ヨコナデ調整で仕上げる。体部外面は粗いハケ調整，内面はヘラナデ調整である。261 は移動式カマドである。端部には面取りを施す。内面はナデ調整後ハケ調整を施す。262 は羽釜である。口縁部は内湾気味であり，口唇部には面取りを施す。口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。体部外面にはナデ調整を施し，指頭圧痕が認められる。内面にはヘラナデ調整を施す。263 は平瓦であ



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む(ビット)
2. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)を含む(SD1)
3. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む(別遺構)

図128　4区　SD1　断面図

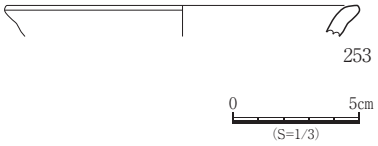
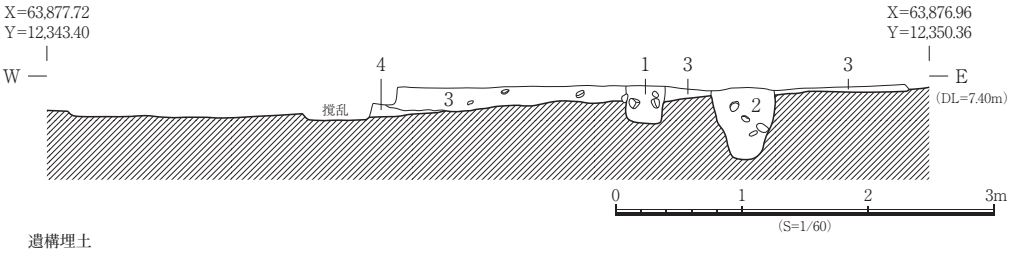


図129　4区　SD1　出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトの地山ブロックを少量含む(P141)
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトを含む(P140)
3. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト(SD2)
4. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト・明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト(SD2)

図130　4区　SD2　断面図

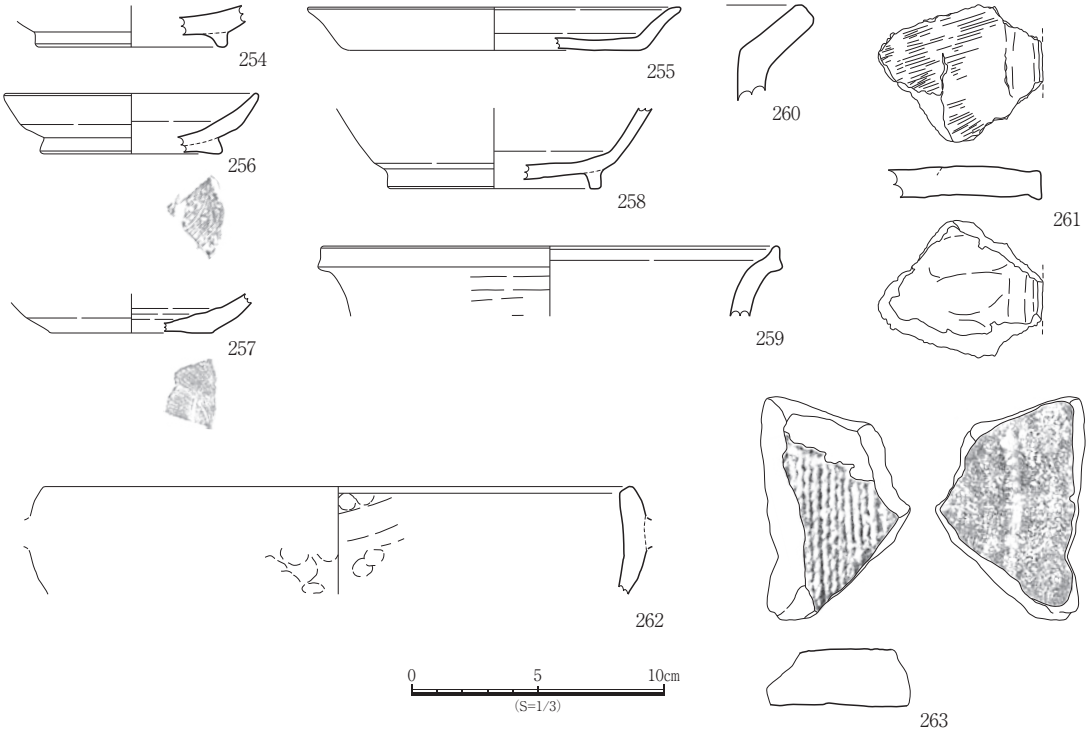


図131　4区　SD2　出土遺物実測図

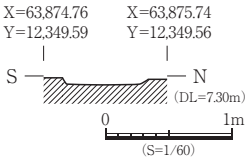


図132　4区　SD3
エレベーション図

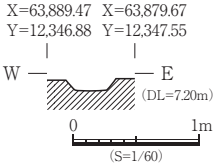


図133　4区　SD4
エレベーション図

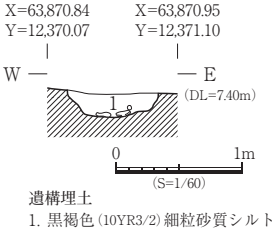


図134　4区　SD5
断面図

る。凸面には縄目痕がみられる。凹面はナデ調整か。焼成は不良である。

SD3

SD3は調査区中央部で検出した「L」の字状の溝跡である。幅0.45～0.64mである。検出長は約3.84mである。主軸方向は東西方向でN－86°－Wである。検出面からの深さは3～8㎝であり，埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD4

SD4は調査区中央部で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.36m，検出長は約1.22mである。主軸方向はN－17°－Wである。検出面からの深さは7～9㎝であり，埋土は褐色(10YR4/4)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD5

SD5は調査区東部で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.72m，検出長は約5.29mであり，南北方向ともに調査区外へのびる。主軸方向はN－8°－Eである。検出面からの深さは9～22㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

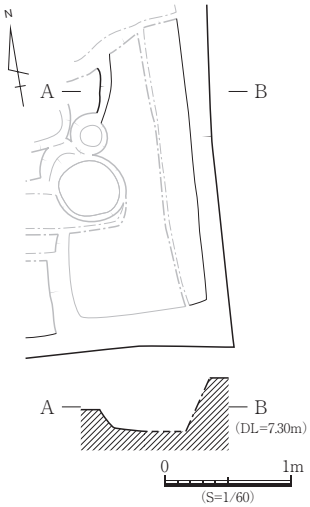


図135　4区　SD6
平面図・エレベーション図

図136　4区　SD6
出土遺物実測図

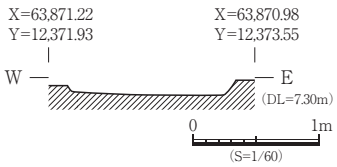


図137　4区　SD7　エレベーション図

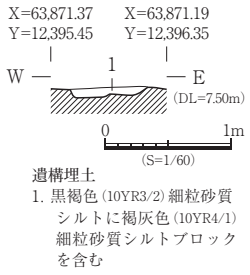


図138　4区　SD8　断面図

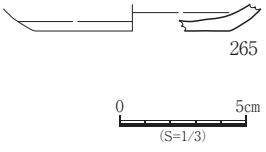


図139　4区　SD8
出土遺物実測図

SD6

SD6 は調査区東部で検出した南北方向の溝跡である。幅約 0.44m 以上，検出長は約 0.62m であり，南北方向ともに調査区外へのびる。主軸方向はＮ－８°－Ｅである。検出面からの深さは 14 ～ 17 ㎝であり，埋土は黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿（264）である。口縁部は浅く斜め上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SD7

SD7 は調査区東部で検出した南北方向の溝跡である。幅 0.77 ～ 1.38m，検出長は約 1.74m である。主軸方向はＮ－５°－Ｅである。検出面からの深さは８～ 11㎝である。

図示した出土遺物はない。

SD8

SD8 は調査区東部で検出した南北方向の溝跡で緩やかに蛇行する。幅約 0.33m，検出長は約 3.49m である。主軸方向はＮ－７°－Ｅである。検出面からの深さは３～５㎝であり，埋土は黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は須恵器の杯（265）である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。

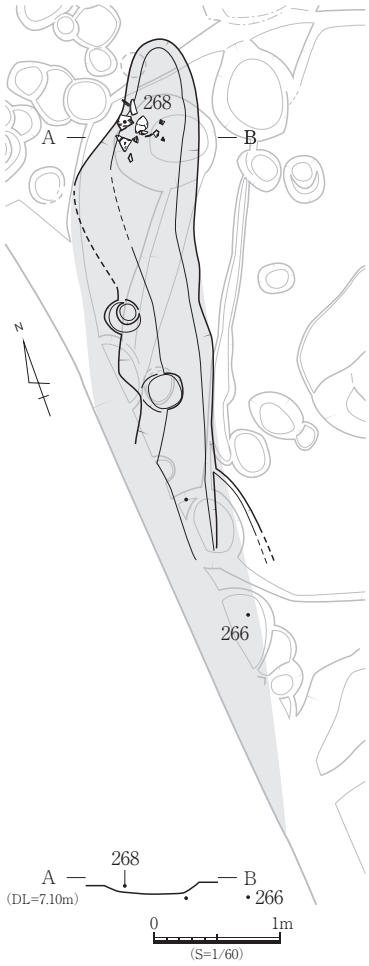


図140　4区　SD10
平面図・エレベーション図

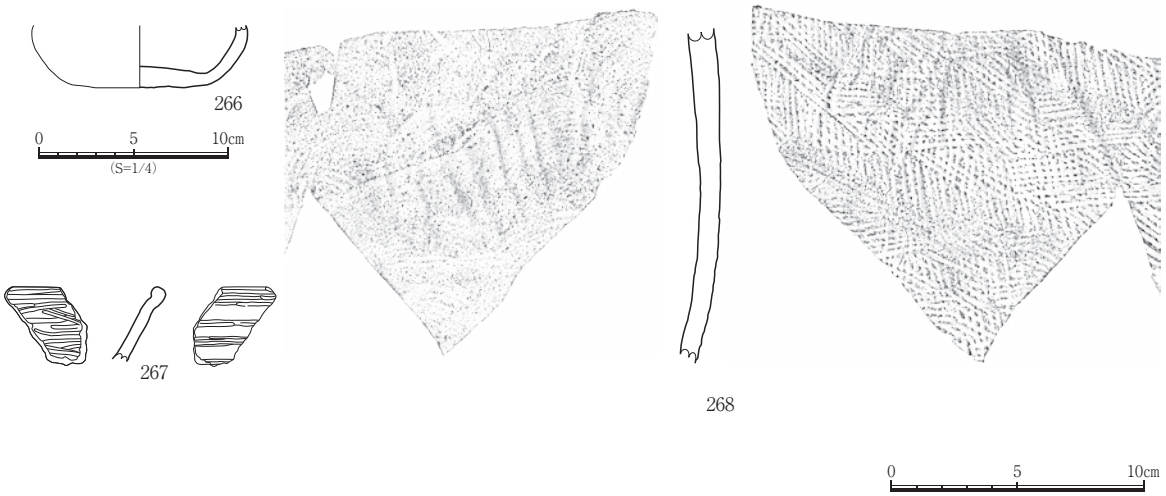


図141　4区　SD10　出土遺物実測図

SD9

SD9は調査区西部，ST7の上面で検出した溝跡である。北東から南西へ向かってやや斜行する南北溝で，主軸方向はN－18°－Eである。南側は現代の撹乱によって削平される。撹乱より南では検出されなかったため，撹乱内で止まる可能性が考えられる。規模は幅約0.82m，検出面からの深さは8～15cm，検出長は約4.61mを測る。(綾部)

図示した出土遺物はない。

SD10

SD10は調査区の西端中央で検出した溝跡である。ST9の上層に位置し，SK23によって中央部を削平される。北東から南西へ向かって斜行する南北方向の溝跡で，南側は調査区外へとのびる。主軸方向はN－17°－Eである。北側はSK23の北側で緩やかに立ち上がり止まる。規模は幅約0.61m，検出面からの深さは12～15cmで，検出長は約4.29mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)極細粒砂である。(綾部)

図示した出土遺物は弥生土器の鉢(266)，土師器の皿(267)，須恵器の甕(268)である。

266は鉢である。底部はほぼ丸底であり，外底面には指頭圧痕が認められる。体部は内外面ともにナデ調整か。土師質土器の杯か。267は皿である。口縁部は直線的にひろがる。口縁部内面は凹む。内外面ともにヘラミガキ調整を施す。268は甕である。外面は叩き調整後叩き板によるナデ調整を施す。内面には同心円状の当て具痕跡がみられ，ナデ調整を施す。

SD11

SD11は調査区西部で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.81mである。検出長は約1.38mで，主軸方向はN－6°－Eである。検出面からの深さは21～23cmであり，埋土は黒色(10YR1.7/1)シルトで

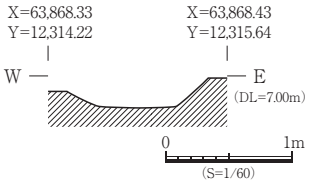


図142　4区　SD11　エレベーション図

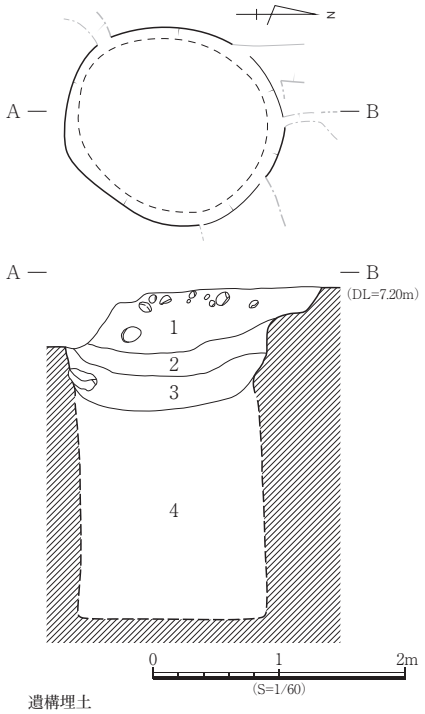


図143　4区　SE1　平面図・断面図

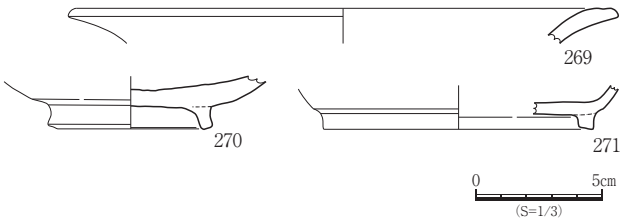


図144　4区　SE1　出土遺物実測図

ある。

図示した出土遺物はない。

7.SE

SE1

SE1 は調査区西部で検出した井戸跡である。平面形は長軸約 1.75m，短軸約 1.58m の不整円形を呈する。検出面からの深さは約 2.61m であり，検出面から約 90 ㎝以下は重機により底を確認した。埋土は黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は須恵器の壺（269）・杯（271），土師質土器の椀（270）である。

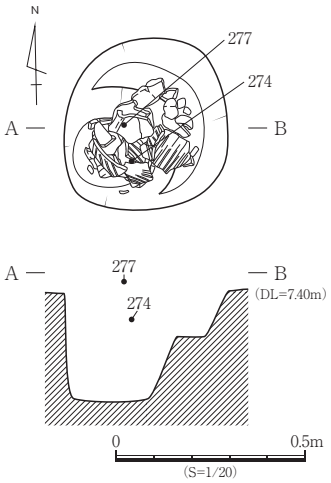


図145　4区　P222
平面図・エレベーション図

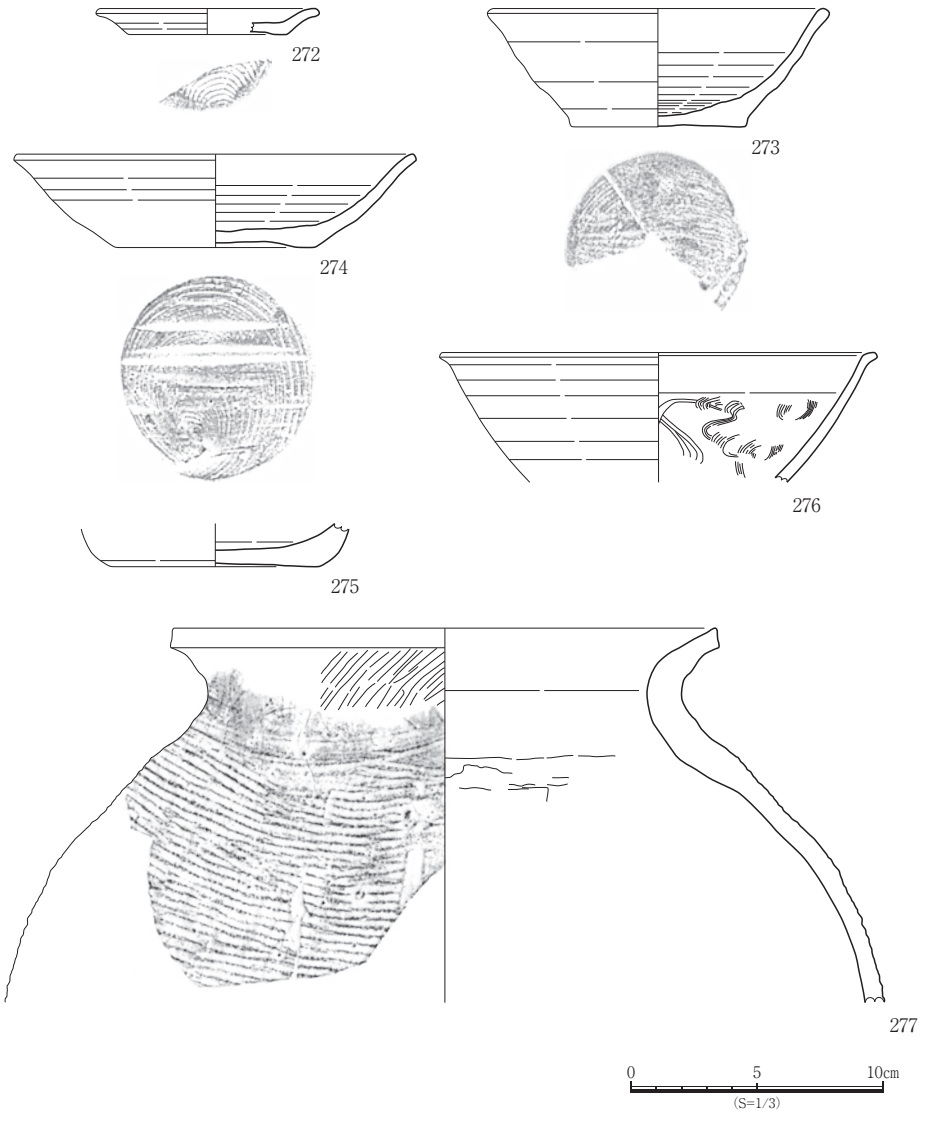


図146　4区　P222　出土遺物実測図

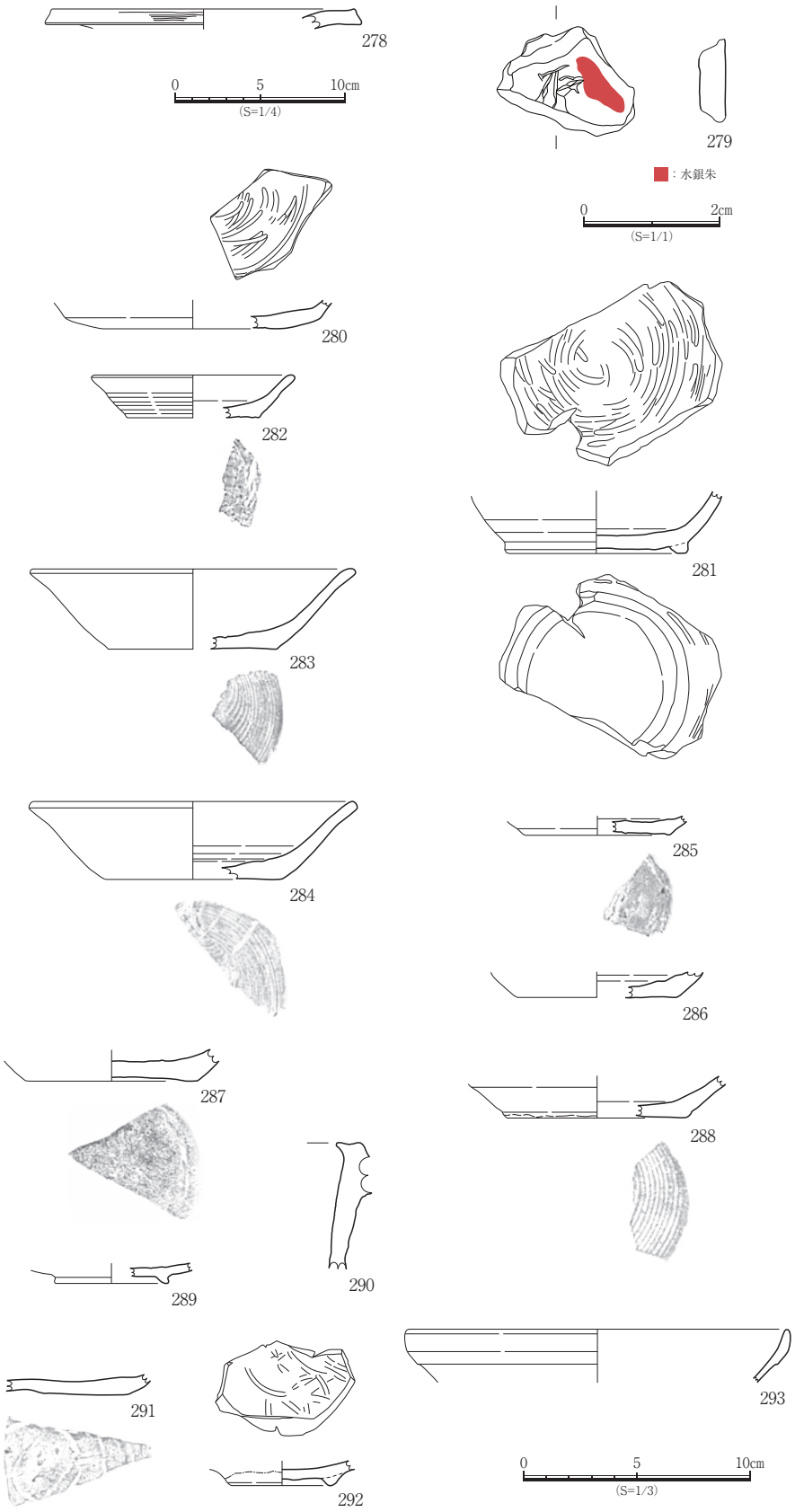


図147　4区　ピット　出土遺物実測図

269 は壺である。口縁部は大きく外反させ，内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部上面は強い回転ナデ調整により凹む。自然釉が付着する。270 は椀である。外底面に断面形が方形の高台を「ハ」の字に付す。外底面はナデ調整である。体部外面は回転ヘラケズリ調整後ミガキ調整か。内面はミガキ調整か。271 は杯である。外底面には断面形が方形の高台を付す。体部には回転ナデ調整を施す。外底面・内底面にはナデ調整を施す。

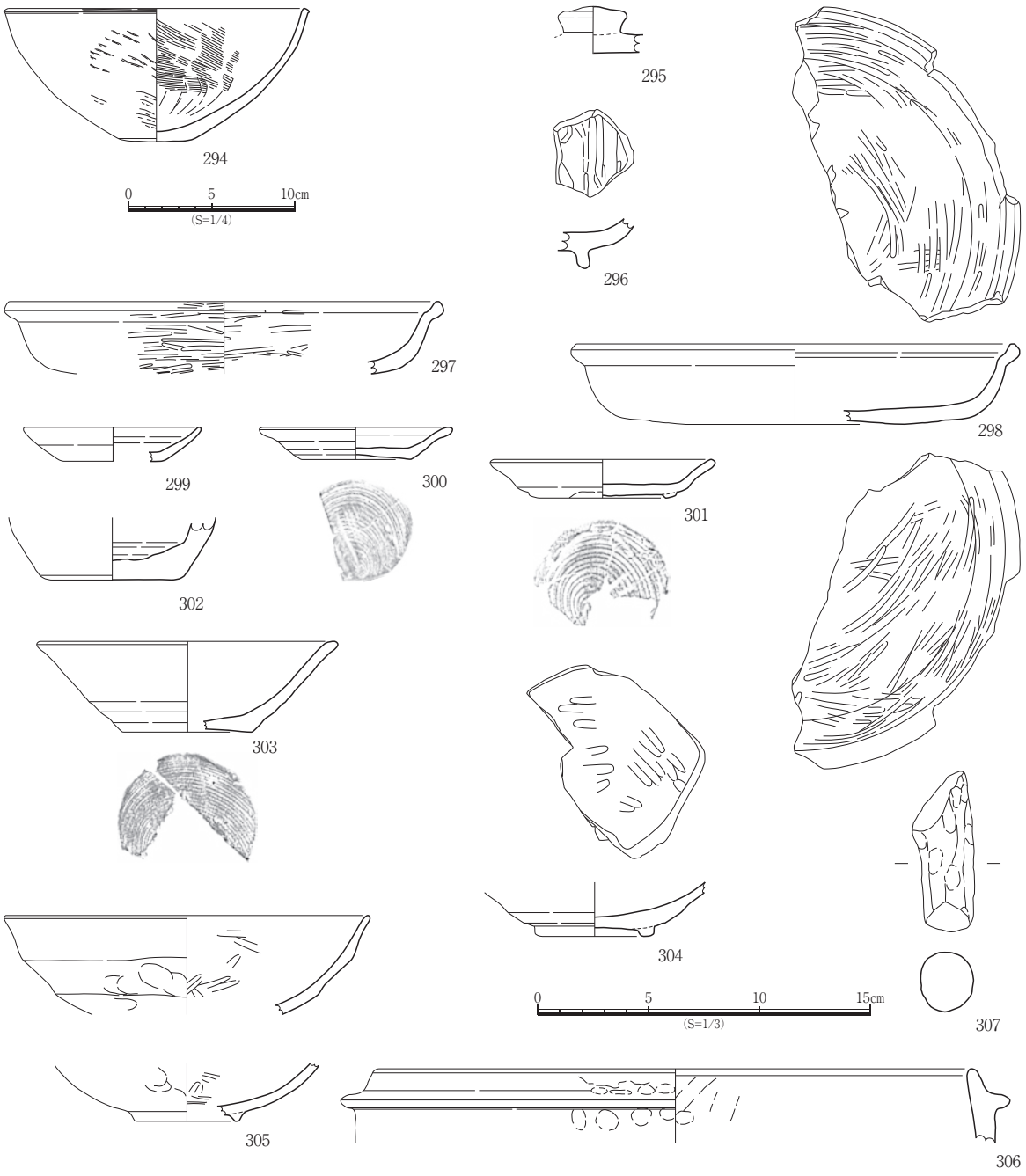


図148　4区　遺構外出土遺物実測図_1

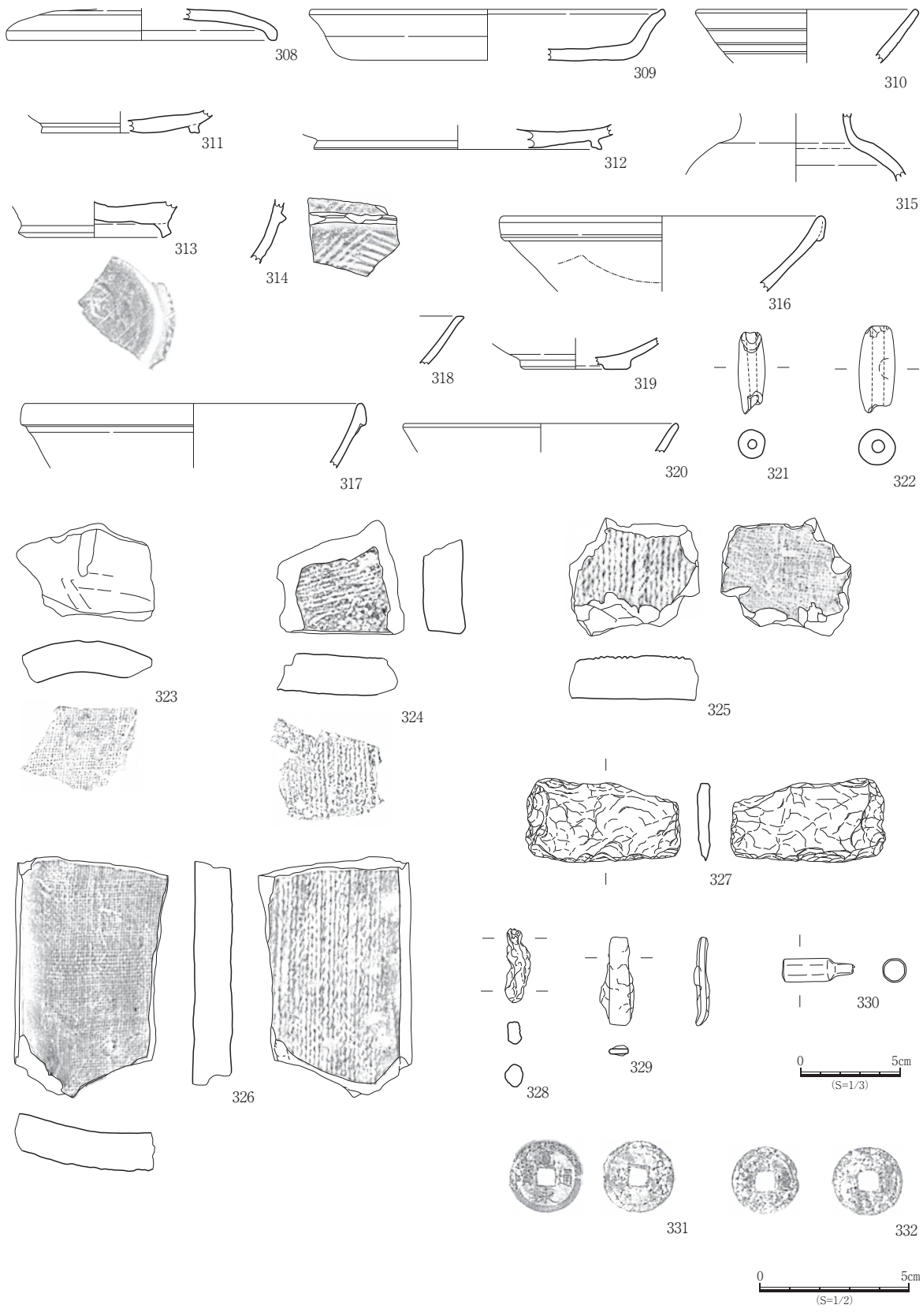


図149　4区　遺構外出土遺物実測図_2

8. ピット

P222

P222 は調査区東部で検出したピットである。平面形は一辺約 40 ㎝の隅丸方形を呈する。検出面からの深さは約 11㎝を測り，埋土は黒褐色（10YR2/3）細粒砂質シルトである。検出面から故意に破砕した土器片が敷き詰められていた。上層の土器片は外面を上に向けたものが多く，下層の土師質土器の杯は内面を上に向けていた。他のピットと組み合うことなく単独で存在する。

図示した出土遺物は土師質土器の皿（272）・杯（273～275），白磁の碗（276），炻器の甕（277）である。

272 は皿である。口縁部は浅く斜め上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。273 は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。底部は扁平な円盤状高台を呈する。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には静止糸切り痕跡がみられる。274 は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底面にはナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡・簀状圧痕が認められる。全体的に歪む。275 は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底面にはナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡・簀状圧痕が認められる。276 は碗である。口縁端部を屈折させ，上端部は面を成す。内面には櫛目文を施す。Ⅴ類である。277 は甕である。口唇部は凹面状を呈する。口縁部外面はナデ調整後ヨコナデ調整，内面はヨコナデ調整である。体部外面には叩き調整，内面にはヘラナデ調整を施す。外面には化粧土を塗布か。

その他のピット出土遺物

図示した出土遺物は弥生土器の壺（278）・体部片（279），土師器の皿（280）・杯（281）・甕（290），土師質土器の杯（282～288）・椀（289），須恵器の皿（291），瓦器の椀（292），白磁の碗（293）である。

278 は壺である。P361 から出土した。口縁部は大きくひらき，口唇部にはハケ状原体による面取りを施す。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整を施す。279 は体部片である。P207 から出土した。内面には水銀朱の付着がみられる。また，刻書か。280 は皿である。P240 から出土した。内面は回転ナデ調整後ミガキ調整を施し，外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。281 は杯である。P147 から出土した。外底面端部に断面形が台形の低い高台を付す。内外面ともに回転ナデ調整後ミガキ調整を施す。また，外底面には回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。282 は杯である。P234 から出土した。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り後ナデ調整を施す。外面にはロクロ目が認められる。被熱しており灯明皿として使用か。283 は杯である。P179 から出土した。体部は外上方へのびる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。284 は杯である。P179 から出土した。体部は外上方へのびる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。285 は杯である。P205 から出土した。内面には回転ナデ調整を施し，内底面には弱いロクロ目が認められる。また，外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。286 は杯である。P274 から出土した。内外面ともに回転ナデ調整か。切離し手法は不明である。287 は杯である。P410 から出土した。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。288 は杯である。P203 から出土した。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。289 は椀である。P295 から出土した。外底面には高台を付す。290 は甕である。P306 から出土した。口縁端部を摘み出す。口唇部は凹面状を呈する。外面はナデ調整か。内面にはナデ調整を施す。鍔は剥離する。291 は皿である。P80 から出土した。内面には回転ナデ調整・ナデ調整を施

す。外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。292 は椀である。P238 から出土した。断面形が台形の高台を付す。内底面には暗文がみられる。外底面は未調整である。293 は碗である。P180 から出土した。口縁部は僅かに肥厚する。透明感のある釉薬を施す。

9. 遺構外出土遺物

図示した出土遺物は弥生土器の鉢，土師器の蓋・杯・皿，土師質土器の皿・杯・椀・羽釜他，瓦器の椀，瓦質土器の鍋，須恵器の蓋・皿・杯・壺・甕，白磁の碗，青磁の碗，土錘，丸瓦・平瓦，石包丁，鉇，煙管，銭貨である。

295 は土師器の蓋である。天井部に扁平な擬宝珠様の摘みを付す。外面には回転ナデ調整を施す。内面はミガキ調整か。298 は土師器の皿である。口縁部内面は凹む。内外面ともに回転ナデ調整後，ヨコミガキ調整を施す。全体的にシャープなつくりである。300 は土師質土器の皿であり，強い被熱により口縁端部は発泡する。305 は瓦器の椀である。外底面には断面形が逆三角形の輪高台を付す。内面にはミガキ調整を施す。306 は土師質土器の羽釜である。口縁部は内傾気味で口唇部は丸くおさめる。鍔を付す。内外面ともにナデ調整を施し，外面には指頭圧痕が認められる。鍔以下には煤が付着する。312 は須恵器の杯である。外底面には端部を外方へ引っ張り出した高台を付す。外底面には高台貼付時の3条の沈線がみられる。体部は内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラケズリ調整を施す。焼成不良である。313 は須恵器の壺である。外底面には焼成前に施された線刻がみられる。315 は須恵器の壺である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面および頸部内面までうすく施釉している可能性がある。323 は丸瓦である。凸面にはヘラナデ調整を施し，凹面には布目圧痕がみられナデ調整を施す。胎土は精良である。324は平瓦である。端部には面取り。凸面には縄目痕，凹面には布目圧痕がみられる。被熱し，煤が付着する。325 は須恵質の平瓦である。凸面には縄目痕，凹面には布目圧痕がみられる。329 は鉇である。先端部にむかって反る。断面形は扁平な長方形を呈する。先端部および基部は欠損する。

第3節　8区

1.ST

ST1

ST1は8－1区で検出した平面形が多角形の竪穴建物跡である。直径約6.40m，床面積は約32.2m²を測る。南半分が撹乱の影響を受ける。検出面から床面までの深さは約8㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

床面では中央ピット(中央P)，主柱穴(P112・113・117・121・131・138・140)等の遺構を検出した。主柱穴の組み合わせとしてP112・131・138・140とP113・117・121の二組の組み合わせが考えられる。両者とも五角形を呈する。中央ピットは床面中央南寄りで検出した。長軸約0.84m，短軸の検出長は約0.72mの楕円形である。床面からの深さは約20㎝であり，埋土は細礫を含む黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主柱穴について，前者の組み合わせを構成する主柱穴(P112)は長軸約46㎝，短軸約32㎝の楕円形を呈し，床面からの深さは約21㎝を測る。埋土は細礫を含む暗褐色(10YR3/4)細粒砂

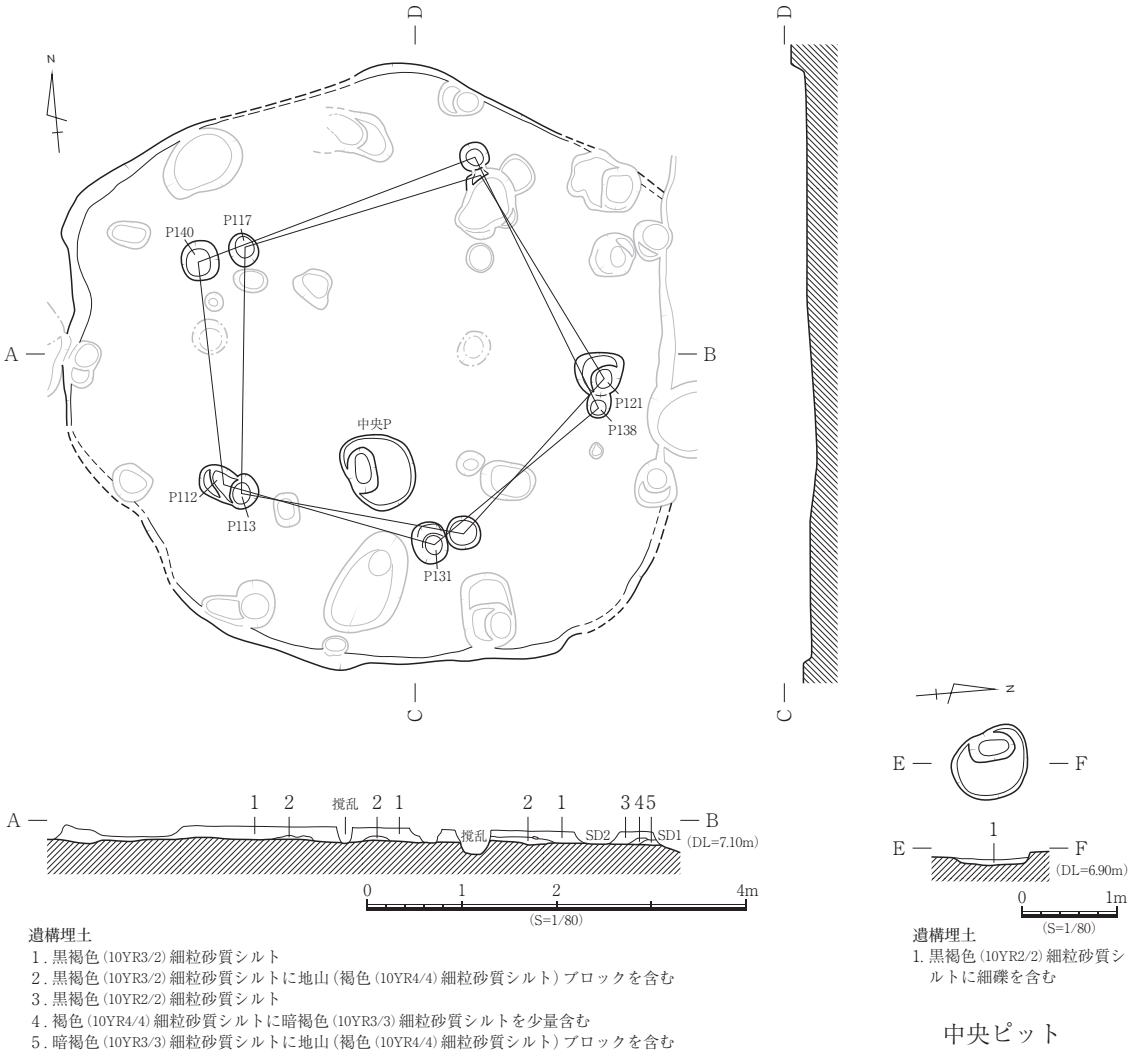


図150　8－1区　ST1　平面図・断面図

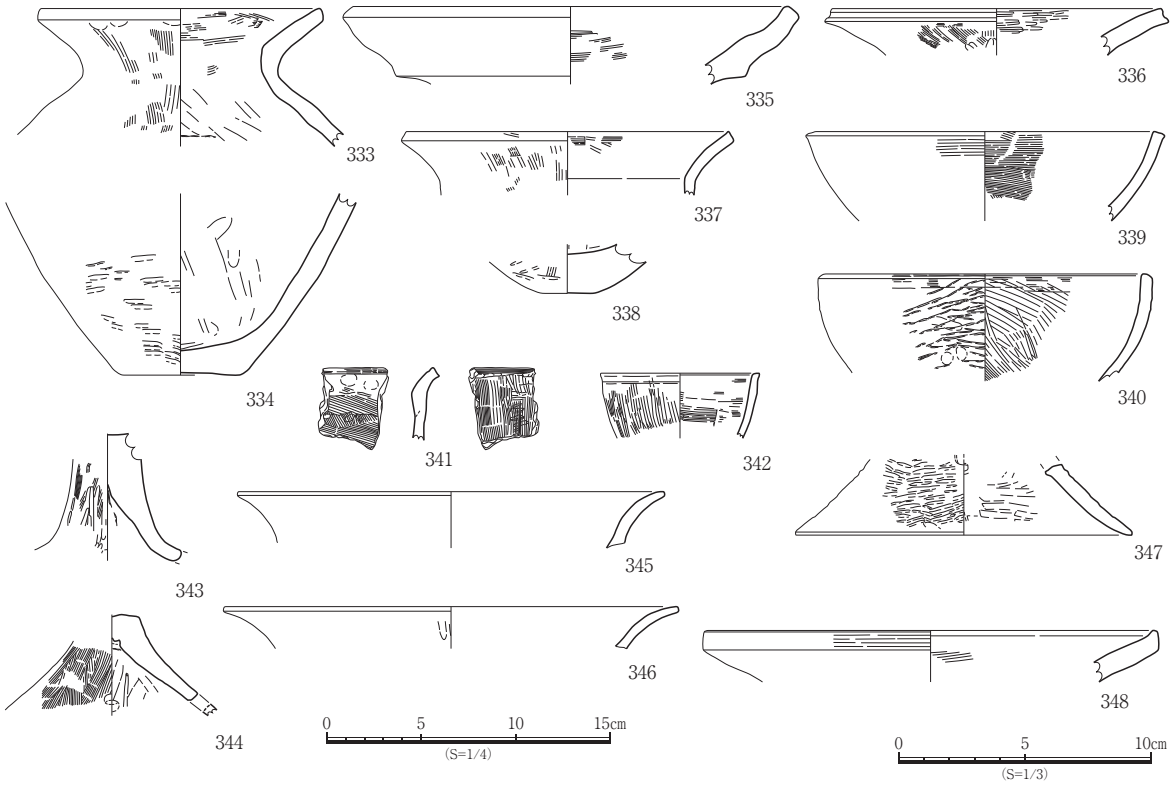


図151　8－1区　ST1　出土遺物実測図

質シルト，黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト，褐色(10YR4/4)細粒砂質シルト他である。主柱穴(P131)は径31cm，床面からの深さは約39cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主柱穴(P140)は直径約22cm，床面からの深さは約35cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。主柱穴(P138)は径約28cm，床面からの深さは約23cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。後者については，主柱穴(P113)は径約31cm，床面からの深さは約33cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主柱穴(P117)は径36cm，床面からの深さは約24cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主柱穴(P121)は不整円形を呈し，直径約30cm，床面からの深さは約20cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，弥生土器壺(333～338)・鉢(339～342)・高杯(343～346)，支脚か(347)，土師器甕(348)である。

333は弥生土器壺である。口唇部に面取りを施し，頸部はタテハケ後ヨコナデ調整である。内面に接合痕がみられる。334は弥生土器壺である。角の取れた平底を呈し，底部はタタキ後ナデ調整である。335は弥生土器壺である。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はヨコハケ後ヨコミガキ調整である。被熱痕跡がみられる。336は弥生土器壺である。口唇部は凹面状を呈する。口縁部外面はヨコナデ，タテハケ後ミガキ調整，内面はヨコハケ後ヨコミガキ調整である。337は弥生土器壺である。口唇部に面取りを施す。口縁部外面はタテハケ調整，内面はヨコもしくはナナメハケ調整である。搬入品の可能性が考えられる。338は弥生土器壺である。ほぼ丸底である。外底面はタタキ後タテハケ，もしくはナデ調整，内底はナデ調整である。339は弥生土器鉢である。口唇部に面取りを施す。口縁端部はヨコハケ調整である。体部外面はナデ調整，内面はヨコハケ調整である。340は弥生土器鉢である。

口縁部はヨコナデ調整，体部外面はタタキ後ナデ調整，内面はナナメハケ調整である。被熱痕跡がみられる。341 は弥生土器鉢である。中央ピットから出土している。口縁部外面はタタキ後タテハケ調整，内面はナデ調整である。体部内面はナナメハケ調整である。342 は弥生土器鉢である。口唇部は面取りされる。口縁部はヨコナデ調整である。体部外面はタテハケ調整，内面はヨコハケ，もしくはヨコナデ調整である。343 は弥生土器高杯である。杯部は底面ナデ調整である。脚部は外面タテハケ後タテミガキ調整，内面にはしぼり目が残り，その後ヘラミガキ調整がみられる。焼成前穿孔による円孔がみられる。344 は弥生土器高杯である。杯部は底面ナデ調整である。脚部外面にはタテハケ調整，内面にはしぼり目の上からタテナデ調整がみられる。焼成前穿孔による円孔がみられる。345 は弥生土器高杯の杯部である。内外面は摩耗しており，調整は不明である。擬口縁状に剥離する。346 は弥生土器高杯の杯部である。内外面は摩耗する。口縁部外面はナデ調整か。擬口縁状に剥離する。347 は支脚か。外面はタタキ後ナデ調整，内面はヨコハケ調整である。焼成前穿孔による円孔がみられる。内面に帯状に煤が付着する。348 は土師器甕である。口唇部はヨコハケ，ヨコナデ調整である。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はナナメハケ調整である。

ST2

ST2 は 8 － 1 区で検出した竪穴建物跡である。北部は調査区外になり，上面は削平され，所々深く掘り込まれる。平面形は隅丸方形か。長軸は検出長約 3.12m，短軸は検出長約 2.15m である。検出面から床面までの深さは約 25 ㎝であり，埋土は黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルトである。

床面では壁溝（ST2_SD1・2）を確認した。壁溝（ST2_SD1）は北東で確認した。幅約15㎝，深さ約2㎝，約2.10m を検出した。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト質細粒砂である。壁溝（ST2_SD2）は幅約12㎝，深さ約5㎝，約0.9m を検出した。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物は，弥生土器壺（349）・鉢（350）・底部（351）である。

349 は弥生土器壺である。口唇部に面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はナデ調整である。350 は弥生土器鉢である。口縁部全体にヨコナデ調整，体部外面はタタキ後ナデ調整，内面はハケ調整である。底部はナデ調整である。角の取れた平底を呈する。希少な器形である。351 は弥生土器底部である。角の取れた平底を呈し，外面はヘラナデ調整，内面は指頭圧痕，ナデ調整である。

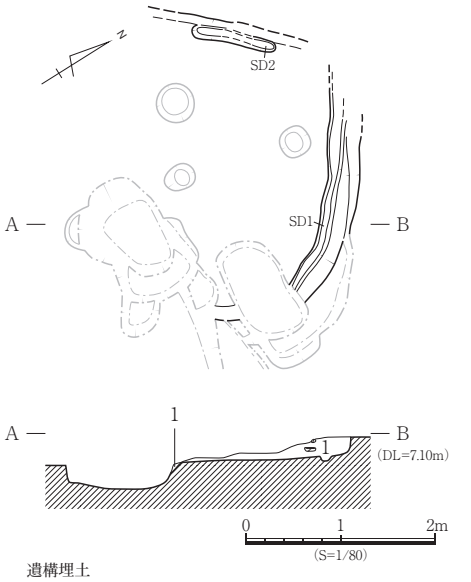


図152　8－1区　ST2　平面図・断面図

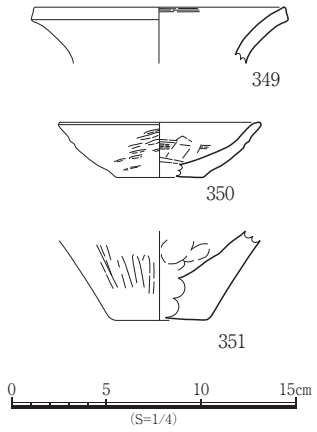
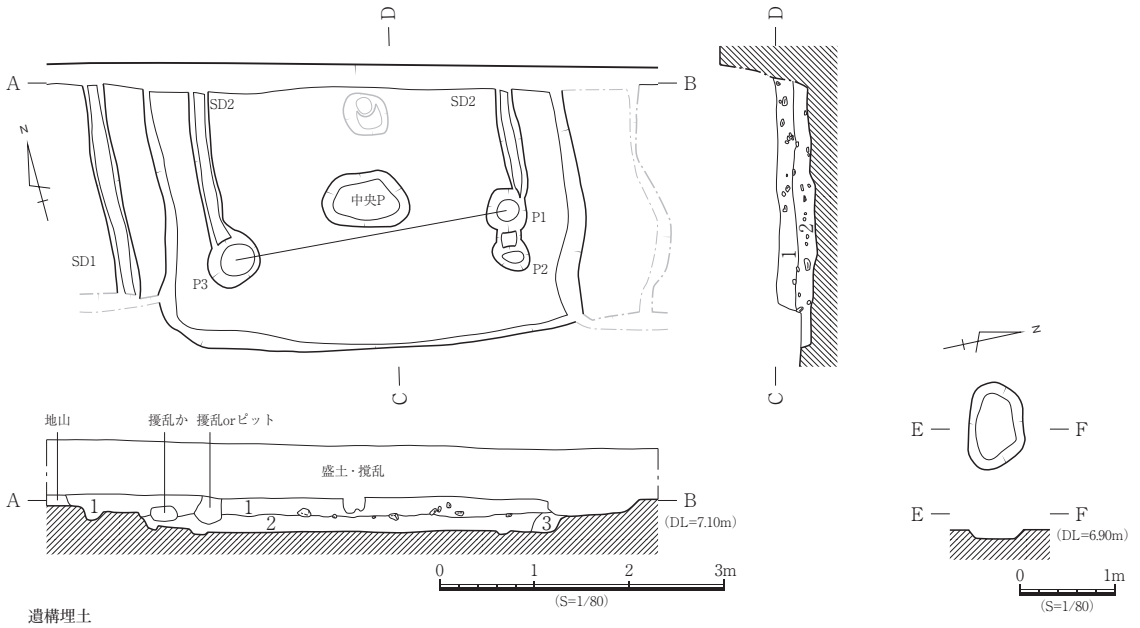


図153　8－1区　ST2　出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに直径10cm大以下の礫を少量含む
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに直径10cm大以下の礫を少量含む
3. 明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトに直径10cm大以下の礫をやや多く含む(地山か)

図154　8－1区　ST3　平面図・断面図

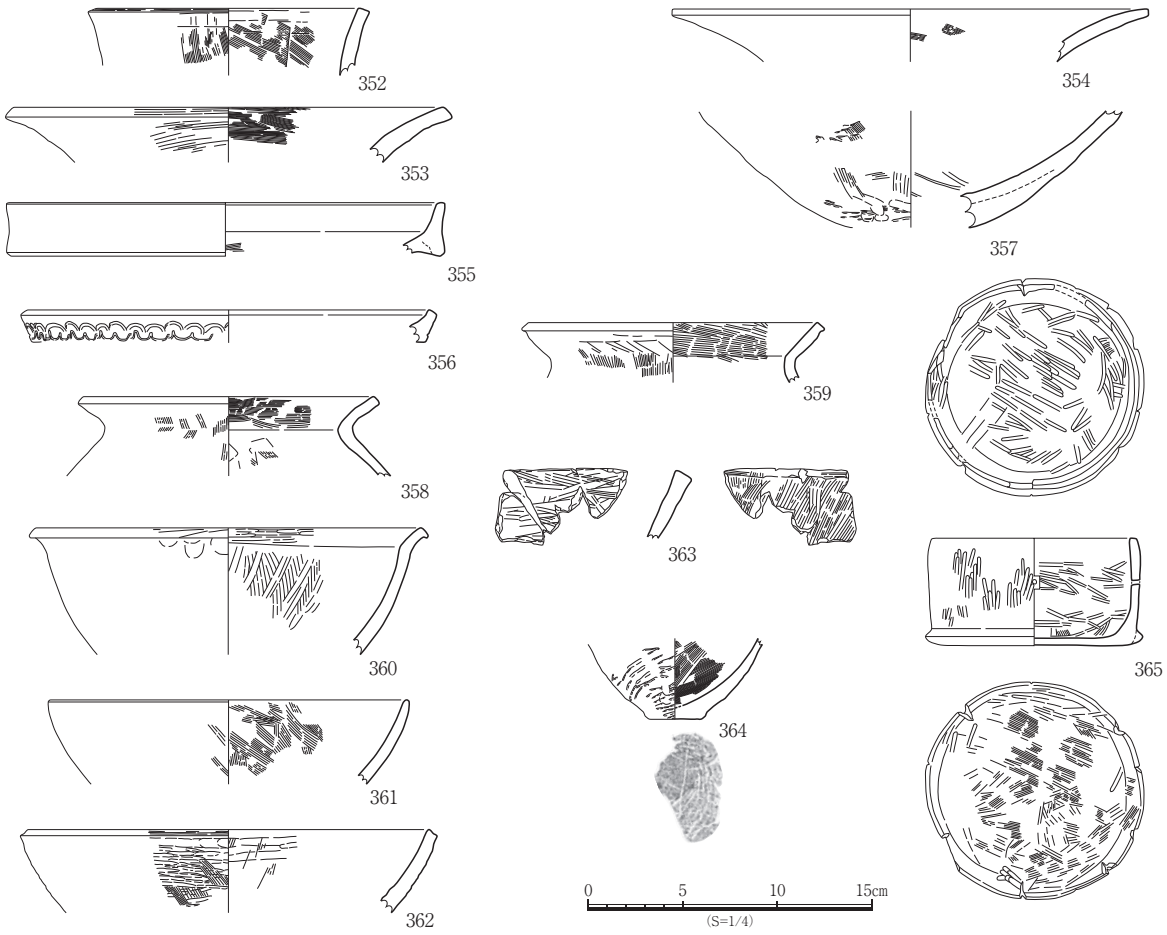


図155　8－1区　ST3　出土遺物実測図

ST3

ST3は8－1区で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡と考えられる。東西は撹乱され，北部は調査区外に続く。長軸の検出長は約5.08m，短軸の検出長は約2.80mを測る。主軸方向はN－12°－Eである。床面積は約25.8m²を測る。検出面から床面までの深さは約27cmであり，埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト，円礫を含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

床面では中央ピット(中央P)，主柱穴(ST3_P1・2・3)，壁溝(ST3_SD1・2)，ベッド状遺構を検出した。壁溝(ST3_SD1)を西に検出し，幅約26cm，深さ約10cm，検出長約2.24mを検出した。埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。壁溝(ST3_SD2)は壁溝(ST3_SD1)の内側の東西に1条ずつ検出し，幅約21cm，深さ2～6cmを測る。壁溝(ST3_SD2)は西辺と東辺で1.68mと1.32mを検出した。埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。中央ピット(中央P)は床面中央，僅かに南寄りで検出した。長軸の検出長約0.94m，短軸の検出長約0.58mの楕円形を呈していたと推測される。床面からの深さは約8cmであり，埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST3_P1)は直径約47cmの楕円形を呈し，床面からの深さは約44cmを測る。埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST3_P2)は直径約36cmの楕円形を呈し，床面からの深さは約12cmを測る。埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST3_P3)は直径約56cmの楕円形を呈し，床面からの深さは約10cmを測る。埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。ベッド状遺構を西部で確認しており，西側は幅約0.40m，床面との比高差は約16cmである。

図示した出土遺物は，弥生土器壺(352～357)・甕(358・359)・鉢(360～364)・合子(365)である。

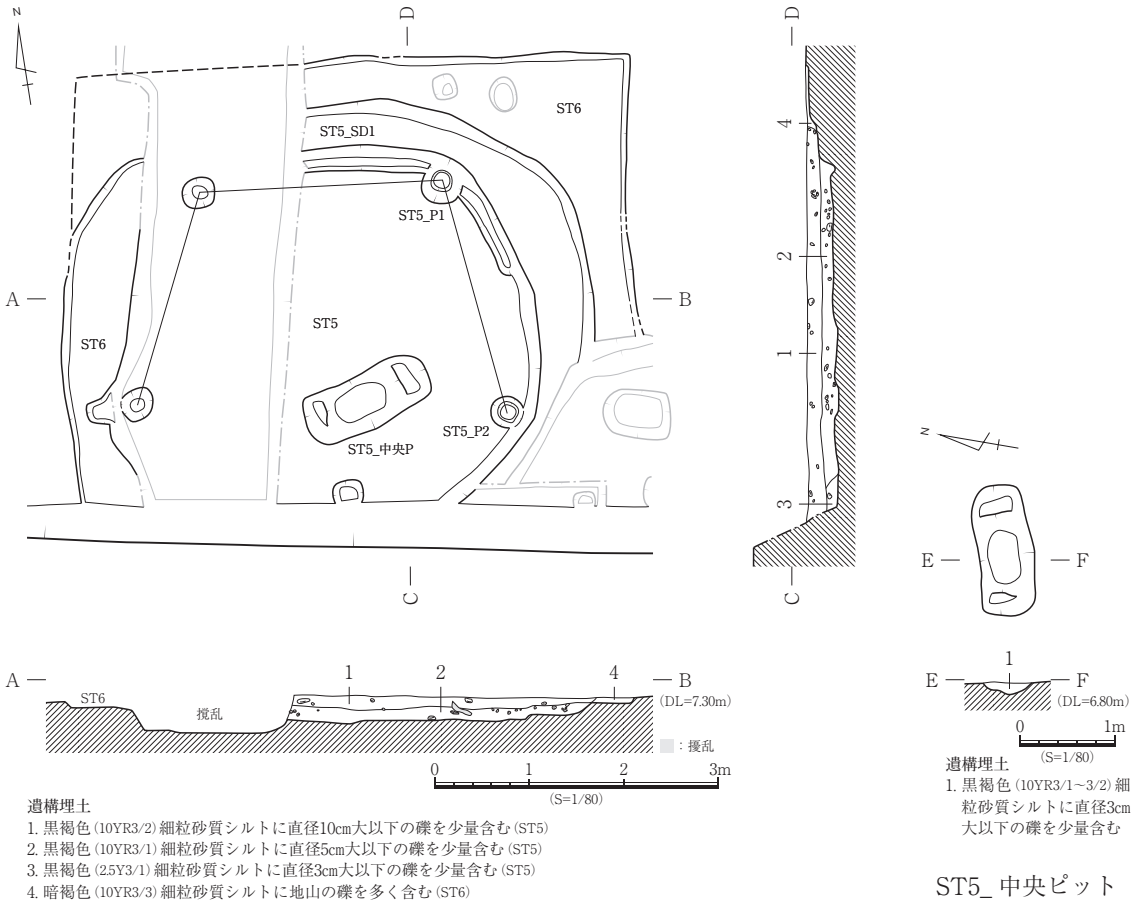
352は弥生土器壺である。口唇部はハケ状原体により面取りされる。口縁部外面はヨコナデ調整である。頸部外面はタテハケ調整，内面はナナメハケ調整である。353は弥生土器壺である。口唇部に面取りを施す。口縁部外面はタタキ後ナデ調整，内面はヨコハケ調整である。煤が付着する。354は弥生土器壺である。口唇部は面取りが施される。口縁部は摩耗し，内面にはナナメハケ調整が僅かに残る。355は弥生土器壺である。口唇部は面取りが施される。二次口縁部はヨコナデされ，一次口縁部外面はヨコハケ後タテハケ調整され，内面はヨコハケ調整される。356は弥生土器壺である。口唇部は面取りが施され，口縁部外面は双線による波状文が施される。全体はヨコナデ調整される。357は弥生土器壺である。中央ピットから出土している。角の取れた平底か。底部はタタキ後ハケ，ナデ調整され，外面は一部指頭圧痕が残る。被熱痕跡がみられる。358は弥生土器甕である。口唇部は面取りが施される。頸部外面はタテハケ，一部ヨコナデ調整され，内面はヨコハケ調整である。359は弥生土器甕である。口唇部はナデ調整による面取りが施される。口縁部外面はナナメハケ後ヨコナデ調整され，内面はヨコハケ調整される。頸部外面はタテハケ調整され，内面はナデ調整される。外面にキレツがみられる。煤が付着する。360は弥生土器鉢である。口唇部はハケ状原体による面取りが施される。口縁部の外面はナデ調整，内面はヨコハケ後ヨコミガキ調整される。体部外面はナデ調整，内面はタテハケ後ナナメミガキ調整である。361は弥生土器鉢である。口唇部はヨコナデ調整，体部内外面はナナメハケ調整である。362は弥生土器鉢である。P2から出土している。口唇部はハケ状原体により凹面状に調整される。口縁部はヨコナデ調整である。体部外面はタタキ後ナナメハケ調整され，内面はハケ後ナデ調整される。363は弥生土器鉢である。口唇部はハケ状原体により面取りされ，口縁部外面はナナメハケ調整，内面はヨコハケ後ヨコミガキ調整が施される。364は弥生

土器鉢である。角の取れた平底を呈し，底部に葉脈痕がみられる。体部は外面にタタキ後ナデ調整，内面はナナメハケ調整がみられ，種子圧痕が残る。365は弥生土器合子である。口唇部は面取りされ，口縁部はやや内湾し，体部に穿孔がみられる。底部は粘土紐が側面に貼り付けられ，突出部が成形される。体部外面はタテミガキ，もしくはヨコナデ調整，内面はヨコミガキ調整される。側面は焼成前穿孔がみられる。底部はハケ後ミガキ調整である。

ST5

ST5は8－1区で検出した平面形が多角形の竪穴建物跡である。中心が撹乱され，南は調査区外に続く。長軸約5.90m，短軸は検出長約4.20mを測り，床面積は約27.3m^{2}である。検出面から床面までの深さは約27㎝であり，埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

床面では中央ピット(中央P)，主柱穴(ST5_P1・2)，壁溝(ST5_SD1)，ベッド状遺構を検出した。中央ピットは隅丸長方形を呈し，長軸約1.40m，短軸約0.58m，床面からの深さは約18㎝である。埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST5_P1)は直径約44㎝の円形を呈し，床面からの深さは約32㎝を測る。埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST5_P2)は直径約33㎝の円形を呈し，床面からの深さは約20㎝を測る。埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。壁溝(ST5_SD1)は北辺の一部で検出した。幅約22㎝，床面からの



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに直径10㎝大以下の礫を少量含む(ST5)
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに直径5㎝大以下の礫を少量含む(ST5)
3. 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂質シルトに直径3㎝大以下の礫を少量含む(ST5)
4. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに地山の礫を多く含む(ST6)

遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1～3/2)細粒砂質シルトに直径3㎝大以下の礫を少量含む

ST5_ 中央ピット

図156　8－1区　ST5・6　平面図・断面図

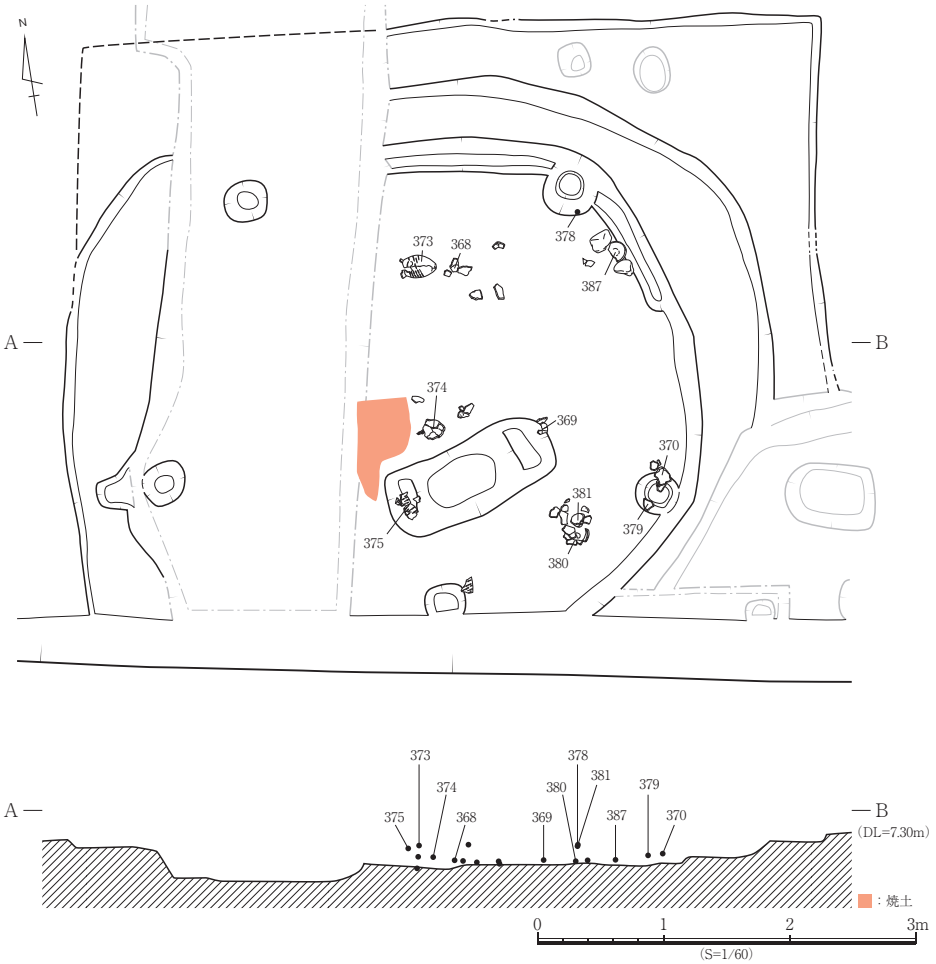


図157　8－1区　ST5・6　遺物出土状態図

深さは約1㎝である。埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。検出長は約2.30mである。ベッド状遺構を北東で確認しており，東側は幅約52㎝，床面との比高差は約14㎝である。

図示した出土遺物は，弥生土器壺(366～368)・甕(369～380)・鉢(381～390)・底部(391～395)，瓦器椀(396)，砥石(397)である。

366は弥生土器壺である。口唇部に面取りを施す。頸部外面に指頭圧痕と接合痕がみられ，内面はタテハケ調整である。体部は外面にタタキ調整，内面はタテハケ調整である。367は弥生土器壺である。口唇部に面取りを施す。外面はタタキ後タテハケ調整であり，内面はヨコハケ調整である。368は弥生土器壺である。外面はタタキ後タテハケ調整である。内面については肩部がヨコハケ調整，体部はタテハケ調整である。被熱痕跡がみられる。369は弥生土器甕である。丸底を呈する。口唇部は凹面状である。口縁部は外面がタタキ後ナデ調整，内面はナナメハケ調整である。体部外面はタタキ調整，内面はタテハケ後ナデ調整である。底部の内外面はナデ調整され，一部に指頭圧痕が残る。煤が付着する。370は弥生土器甕である。口唇部は凹面状である。角の取れた平底を呈する。口縁部外面はタタキ調整，内面はナナメハケ調整である。外面全体タタキで一部タテハケ調整される。内面はタテハケに一部ナデ調整である。被熱痕跡がみられる。煤が付着する。371は弥生土器甕である。ほぼ丸底を呈する。口縁部は外面がタタキ調整後指頭圧痕，内面はナナメハケ調整である。体部外面は

タタキ後タテハケ調整，内面はハケ・ナデ調整される。372は弥生土器甕である。角の取れた平底を呈する。外面はタタキ後タテハケ調整，内面はタテハケ調整である。内底に指頭圧痕が残る。373は弥生土器甕である。角の取れた平底を呈する。口唇部は丸く収まる。口縁部外面は粗いタテハケ後ヨコナデ調整，内面はナナメハケ後ヨコハケ調整される。肩部に接合痕がみられる。体部外面はタタキ

図158　8－1区　ST5　出土遺物実測図_1

調整，底部付近はタテハケ調整である。内面はナナメハケ調整が主であるが，下半はナデ調整が顕著である。被熱痕跡がみられる。煤が付着する。374 は弥生土器甕である。角の取れた平底を呈する。口唇部は凹面状を呈する。口縁部外面はタタキ後ナデ調整，内面はヨコハケ後ナナメハケ調整される。体部外面はタタキ後ナデ調整され，内面はナナメハケ調整である。底部外面はタタキ調整，内面はナデ調整され指頭圧痕が残る。被熱痕跡がみられ，煤が付着する。375 は弥生土器甕である。口唇部はゆるい面取りが施される。口縁部は外面にタテハケ後ヨコハケ調整，内面はヨコハケ調整である。体部外面はタタキ調整，内面はタテもしくはナナメハケ調整である。底部外面はタタキ後タテハケ調整である。被熱痕跡がみられる。376 は弥生土器甕である。中央ピットから出土している。口唇部は

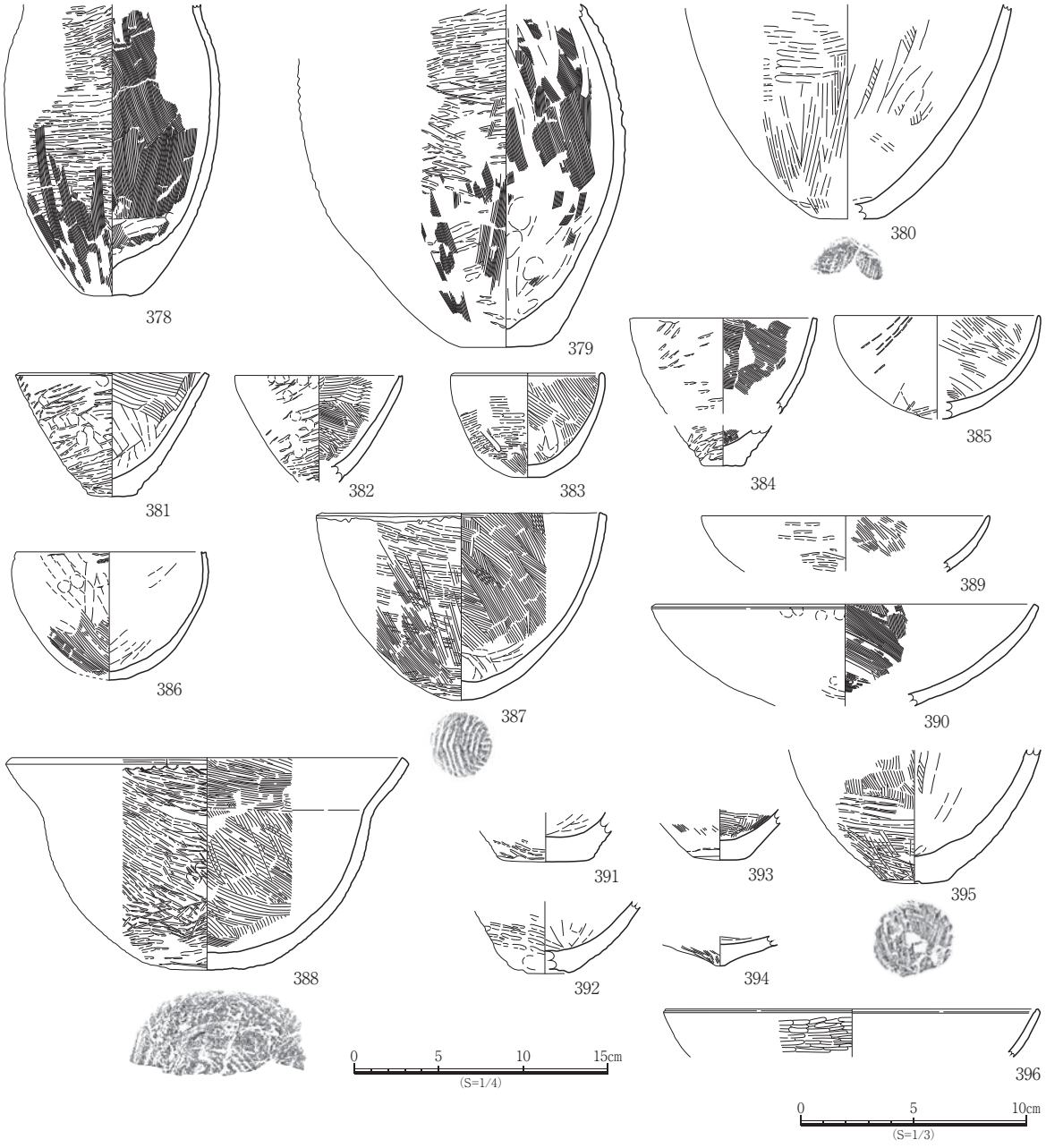


図159　8－1区　ST5　出土遺物実測図_2

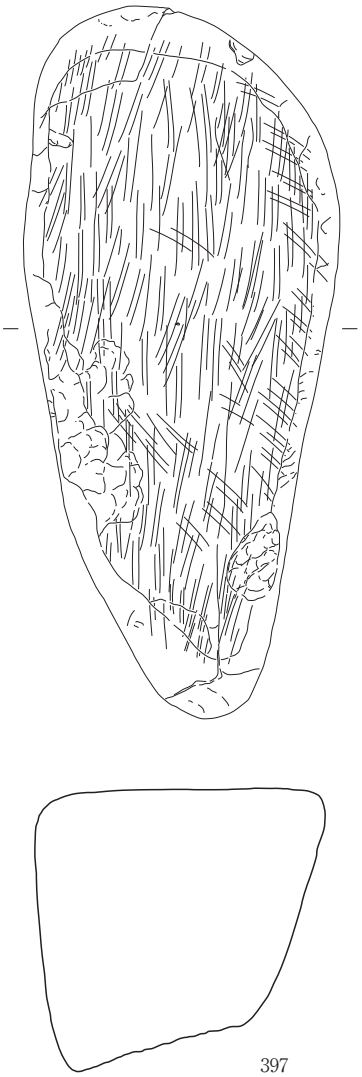


図160　8－1区　ST5　出土遺物実測図_3

面取りされる。口縁部外面はタタキ後ナデ調整，内面はナナメハケ調整される。被熱痕跡がみられる。377は弥生土器甕である。中央ピットから出土した。口唇部は面取りされる。口縁部外面はタタキ後ナデ調整，内面はナナメハケ調整される。378は弥生土器甕である。角の取れた平底を呈する。肩部外面はタタキ後ナデ調整，内面はタテハケ調整である。体部外面下半はタタキ後にタテハケ調整，内面はナデ調整される。内底面に指頭圧痕が残る。被熱し変色する。379は弥生土器甕である。角の取れた平底を呈する。外面はタタキ後に下半のタテハケ調整が顕著である。内面はハケ後ナデ調整である。内底に指頭圧痕がみられる。全体的に歪む。380は弥生土器甕である。角の取れた平底を呈する。体部の外面はタタキ後タテハケ調整，内面はナナメハケ後タテナデ調整である。内底はナデ調整される。被熱痕跡がみられる。381は弥生土器鉢である。角の取れた平底を呈する。口唇部は雑な処理が施される。外面はタタキ後指頭圧痕，内面は粗いハケ後ナデ調整である。382は弥生土器鉢である。口唇部は尖る。体部外面はタタキ後ナデ調整，内面はヨコハケ調整である。底部にタタキ目残る。煤が付着する。383は弥生土器鉢である。ハケにより平底化し角の取れた平底を呈する。体部外面はタタキ後ナデ調整，内面はナナメハケ後ナデ調整である。煤が付着する。384は弥生土器鉢である。角の取れた平底を呈する。口唇部は「M」の字状を呈する。外面はタタキ後ナデ調整。内面はハケ調整である。385は弥生土器鉢である。外面はタタキ後ナデ調整，内面は粗いヨコハケ調整である。被熱痕跡がみられる。386は弥生土器鉢である。ナデにより丸底化する。口唇部は「M」の字状を呈する。体部外面はナデ後ナナメハケ調整である。僅かにタタキ目残る。内面はナデ調整である。387は弥生土器鉢である。口唇部にルーズな面取りを施す。丸底を呈する。外面はタタキ後タテハケ調整である。内面はナナメハケ後ナデ調整である。388は弥生土器鉢である。平らな部分がナデにより丸底に近くなる。口唇部はハケ状原体により面取りされる。外面の体部から口縁部はタタキ後ナデ調整である。内面はナナメハケ調整，口縁部はヨコハケ調整である。内底は蜘蛛の巣状にハケが施され，その後一方向のハケ調整である。389は弥生土器鉢である。口唇部は尖る。体部外面はタタキ後ナデ調整，内面はナナメハケ調整である。390は弥生土器鉢である。口唇部は面取りされる。外面はナデ調整，内面はナナメハケ調整，一部不定方向ハケ調整である。391は弥生土器底部である。角の取れた平底を呈する。体部外面はタタキ後ナデ調整，内面は不定方向ナデ調整である。392は弥生土器底部である。角の取れた平底を呈する。外面はタタ

キ調整後ナデ成形，内面はナデ，もしくは弱いハケ調整である。393 は弥生土器底部である。丁寧にナデ調整され，角の取れた平底とする。底部外面はナデあるいはハケ調整，内面は蜘蛛の巣状にハケ調整される。394 は弥生土器底部である。底部は尖る。体部外面はタテハケ調整，内面はハケ調整である。395 は弥生土器底部である。角の取れた平底を呈する。底部外面はタタキ調整，内面は不定方向のナデ調整である。体部外面はタタキ後タテハケ調整，内面はナナメハケ後タテナデ調整される。396 は瓦器椀である。楠葉型。外面はヨコミガキ調整である。口縁部内面に沈線が巡る。397 は砥石である。砂岩。煤が付着する。

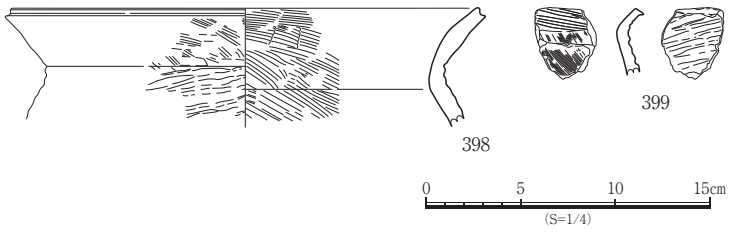


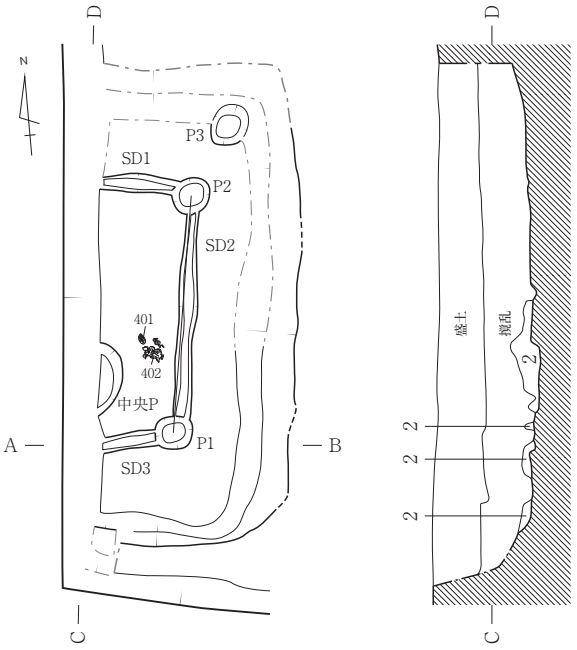
図161　8－1区　ST6　出土遺物実測図

ST6

ST6 は 8 － 1 区で検出した平面形が方形の竪穴建物跡である。中心が撹乱され，ST5 に切られる。長軸約 6.12m，短軸は検出長約 4.74m を測り，床面積は約 37.4m² である。検出面から床面までの深さは約 6 ㎝であり，埋土は円礫を含む暗褐色（10YR3/3）細粒砂質シルトである。床面遺構は検出できなかった。

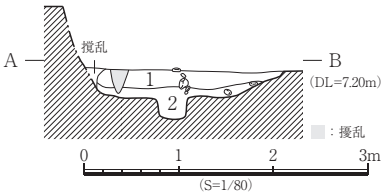
図示した出土遺物は，弥生土器甕（398・399）である。

398 は弥生土器甕である。口唇部は「M」の字状に収まる。内面はナナメハケ調整である。外面の頸部はタタキ後ナナメハケ調整，体部はタタキ後ナデ調整である。被熱痕跡がみられる。399 は弥生土器甕である。口唇部は面取りし，外面はタタキ調整，内面口縁部は粗いヨコハケ調整，体部はナナメハケ調整が施される。



ST7

ST7 は 8 － 1 区で検出した平面形が隅丸方形の竪穴建物跡である。上面と北半分は撹乱され，西は調査区外に続く。長軸の検出長約 4.62m，短軸は検出長約 2.12m を測る。検出面から床面までの深さは約 23㎝であり，埋土は黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトである。



遺構埋土
1. 黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルト
2. 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルト

図162　8－1区　ST7　平面図・断面図

床面では中央ピット(中央P)，主柱穴(ST7_P1・2)，壁溝(ST7_SD1・2・3)を検出した。中央ピット(中央P)は調査区外に続く。楕円形を呈し，検出長は長軸約0.78m，短軸約0.24m，深さ約7cmである。主柱穴(ST7_P1)は直径約34cmの円形を呈し，床面からの深さは約25cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主柱穴(ST7_P2)は直径約40cmの円形を呈し，床面からの深さは約36cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。壁溝(ST7_SD1)は幅約21cm，床面からの深さは約2cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。検出長は約0.73mである。壁溝(ST7_SD2)は幅約19cm，床面からの深さは約3cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。検出長は約2.15mである。P1とP2を結ぶ。壁溝(ST7_SD3)は幅約17cm，床面からの深さは約3cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。検出長は約0.56mである。

図示した出土遺物は，弥生土器壺(400)・甕(401・402)・鉢(403)・高杯(404)・底部(405～408)，叩石(409)である。

400は弥生土器壺である。頸部外面はタタキ後粗いハケ調整，内面はナナメハケ調整がみられ，肩部については外面がタタキ後ハケ調整，内面は粗いナナメハケ調整である。体部は内面が粗いナナメハケ後ナデ調整が施される。401は弥生土器甕である。角の取れた平底を呈し，口縁部外面はタタキ調整後指頭成形，内面は粗いナナメハケ調整である。肩部については外面がタタキ調整，内面はナナメハケ調整である。体部は外面がタタキ後ナデ調整，内面はハケ後ナデ調整である。底部外面は

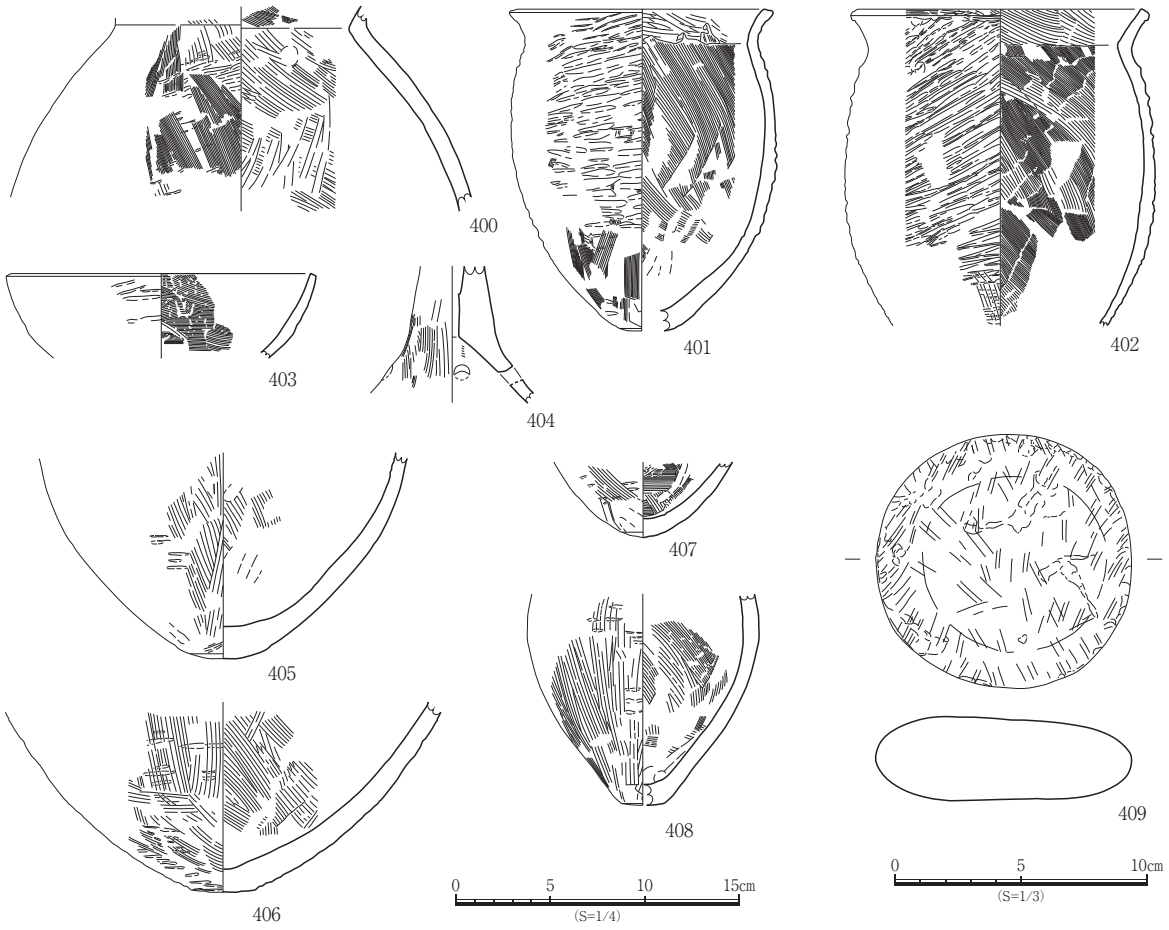


図163　8－1区　ST7　出土遺物実測図

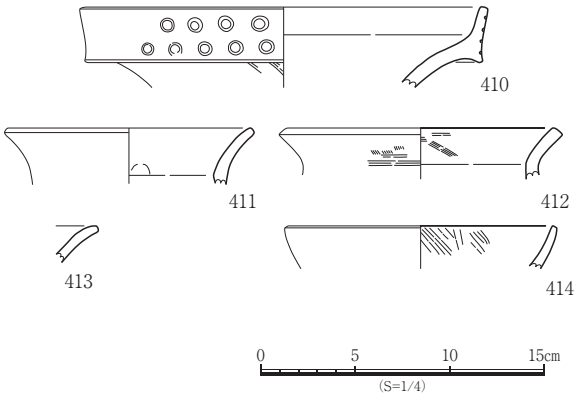


図164　8－1区　ST8　出土遺物実測図

タタキ後タテハケ調整，内面はハケ後ナデ調整である。煤が付着しており，被熱する。402は弥生土器甕である。口唇部はハケ状原体による面取りが施される。口縁部外面はタタキ調整後指頭成形，内面は粗いナナメハケ調整である。体部外面はタタキ調整，内面はナナメハケ調整である。底部外面はタタキ後タテハケ調整である。煤が付着しており，被熱する。403は弥生土器鉢である。口縁部は内面ヨコハケ調整である。体部外面はタタキ後ナデ調整，内面はヨコハケ後ナナメナデ調整である。404は弥生土器高杯である。脚部外面はタテハケ調整が施され，一部はその後ナデ調整，内面はハケ後ナデ調整がみられる。円孔は3箇所みられる。405は弥生土器底部である。丸底を呈し，底部外面はタテハケ調整，内面はナデ調整である。体部外面はタタキ後タテハケ調整，内面はナナメハケ後ナデ調整である。406は弥生土器底部である。タタキ調整によりほぼ丸底となり，内底はナデ調整である。体部外面はタタキ後ハケ調整，内面はナナメハケ調整である。407はP1より出土した弥生土器底部である。ナデ調整により丸底を呈する。体部外面はタタキ後ハケ調整，内面はナナメハケ調整もしくはヨコハケ後ナデ調整である。408は弥生土器底部である。角の取れた平底を呈し，体部外面はタタキ後タテハケ調整，内面はナデ調整，もしくはナナメハケ調整である。409は叩石である。砂岩。扁平な不整円形の自然石である。側面を主に使用する。敲打痕は不明瞭である。

ST8

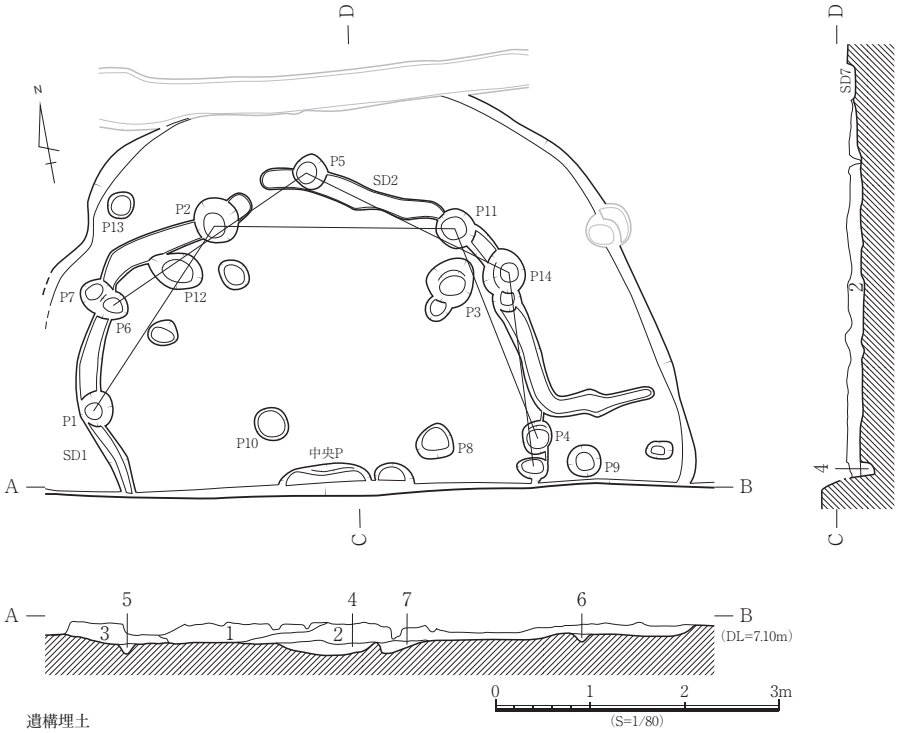
ST8は8－1区で検出した竪穴建物跡である。撹乱され，ST5・6およびSE1に切られているため，平面形は不明である。検出長は長軸約2.45m，短軸約1.72mを測る。検出面から床面までの深さは約20㎝であり，埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。床面では本STに伴う遺構を検出できなかった。

図示した出土遺物は，弥生土器壺(410)・甕(411～413)・鉢(414)である。

410は弥生土器壺である。口唇部は面取りされ，二次口縁部は竹管文が施される。411は弥生土器甕である。口唇部は面取りされ，口縁部はナデ調整である。煤が付着する。412は弥生土器甕である。口唇部は面取りされ，口縁部外面はタテハケ後ヨコナデ調整，内面はヨコナデ調整される。413は弥生土器甕である。口縁部外面はヨコナデ調整，一部指頭圧痕が残る。内面はヨコハケ調整，もしくはナデ調整である。414は弥生土器鉢である。口唇部は凹面状を呈する。口縁部外面はナデ調整，内面はナナメハケ調整，もしくはナナメミガキ調整である。

ST9

ST9は8－2区で検出した竪穴建物跡である。北側をSD7に切られ，南側は調査区外となる。平面形は不整円形もしくは多角形を呈するとみられる。検出規模は長軸約7.20m，短軸の検出長は約3.93m，深さは約11㎝を測る。床面積は約40.7㎡である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂に直径5cm大以下の礫を少量含む
2. 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂
3. 黒色(10YR2/1)シルト質極細粒砂に炭化物を多く含む
4. 黒褐色(10YR2/3)シルト質細粒砂(中央ピット)
5. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂にシルトを含む(SD1)
6. 黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂(壁溝か)
7. 黒色(10YR2/1))細粒砂にシルトを含む(ピット)

図165　8－2区　ST9　平面図・断面図

他である。

床面で壁溝(ST9_SD1・2)，中央ピット(中央P)，ピットを検出した。壁溝は壁面より約1.20m内側に位置する。円状に掘られ，南東部で壁側へ向かって折れる。南半は調査区外となり確認できていないが，東側へ開口すると考えられる。床面の周溝内外で部分的に2～5cmの高低差があり，ベッド状遺構が存在した可能性がある。壁溝の規模は幅15～24cm，深さ3～5cmを測り，埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトである。中央ピットは建物中央南寄りに位置し，南半は調査区外となる。平面形は楕円形を呈するとみられ，規模は長軸の検出長約0.97m，短軸の検出長約0.20m，深さ約19cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。ピットは18基を検出した。壁溝上に位置するST9_P1・2・4～7・11・14が主柱穴と考えられる。柱穴掘方は径30～53cm，深さ18～35cmの平面不整円形を呈する。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。

図示した出土遺物は，弥生土器の壺(415・416)・甕(417～419)・高杯(420)，ミニチュア土器(421)，鉄鏃(422)である。

415は弥生土器壺である。口唇部はナデ調整である。口縁部はタテハケ後ヨコナデ調整される。416は弥生土器壺である。外面はヘラミガキ後ヘラによる線刻が施される。内面は摩耗している。417は弥生土器甕である。口唇部は面取りされ，口縁上端は摘み上げられる。基本的にナデ調整である。418は弥生土器甕である。口唇部は凹面状を呈する。口縁部はナデ調整される。419は弥生土器甕である。角の取れた平底を呈し，外面全体はタタキ調整である。内面はヘラケズリ調整，内底は指頭圧痕であ

る。420 は弥生土器高杯である。口唇部は丸くおさまる。口縁部はヨコナデ調整，杯部はヘラミガキ調整，脚部は外面についてはヘラミガキ調整，内面はユビナデ調整に爪痕が残り，接合痕がみられる。421 はミニチュア土器である。手捏ね成形であり，指頭圧痕が残る。キレツがみられる。皮袋型土製品がモデルか。422 は鉄鏃である。圭頭式か。

ST10

ST10 は 8 － 2 区で検出した竪穴建物跡である。建物南側の大半は調査区外となる。平面形は円形を呈し，長軸は検出長約 5.04m，短軸は検出長約 1.40m，深さ約 18㎝を測る。埋土は黒褐色（10YR2/3）極細粒砂シルトである。

床面で壁溝（ST10_SD1），ピット（ST10_P1）を検出した。壁溝（ST10_SD1）は検出範囲内で全周し，幅約 13㎝，深さ約 8㎝，検出長約 5.21m を測る。埋土は黒褐色（10YR2/3）極細粒砂に細礫を含む。ST10_P1 の平面形は楕円形を呈し，規模は長軸約 0.49m，短軸約 0.38m，深さは約 47㎝を測る。埋土は黒褐色（10YR2/3）極細粒砂に細礫を含む。

図示した出土遺物は，弥生土器の鉢（423），土製紡錘車（424）である。

423 は弥生土器鉢である。口唇部は丸くおさまり，口縁部はやや外反する。ヘラミガキ調整である。424 は土製紡錘車である。孔径は約 0.6㎝である。ナデ調整が施され，中央にかけて厚く，端部は緩く面取りされる。

ST11

ST11 は 8 － 2 区で検出した竪穴建物跡である。建物東半は調査区外となる。上部を近現代の撹乱，SK29 によって大きく削平を受け，残存状態は悪い。平面形は方形を呈し，長軸は検出長約 3.54m，短軸は検出長約 1.70m，深さ約 11 ㎝を測る。埋土は黒褐色（10YR2/3）極細粒砂質シルトである。床面でピットを検出した。

図示した出土遺物は，弥生土器甕（425・426）・高杯（427・428）である。

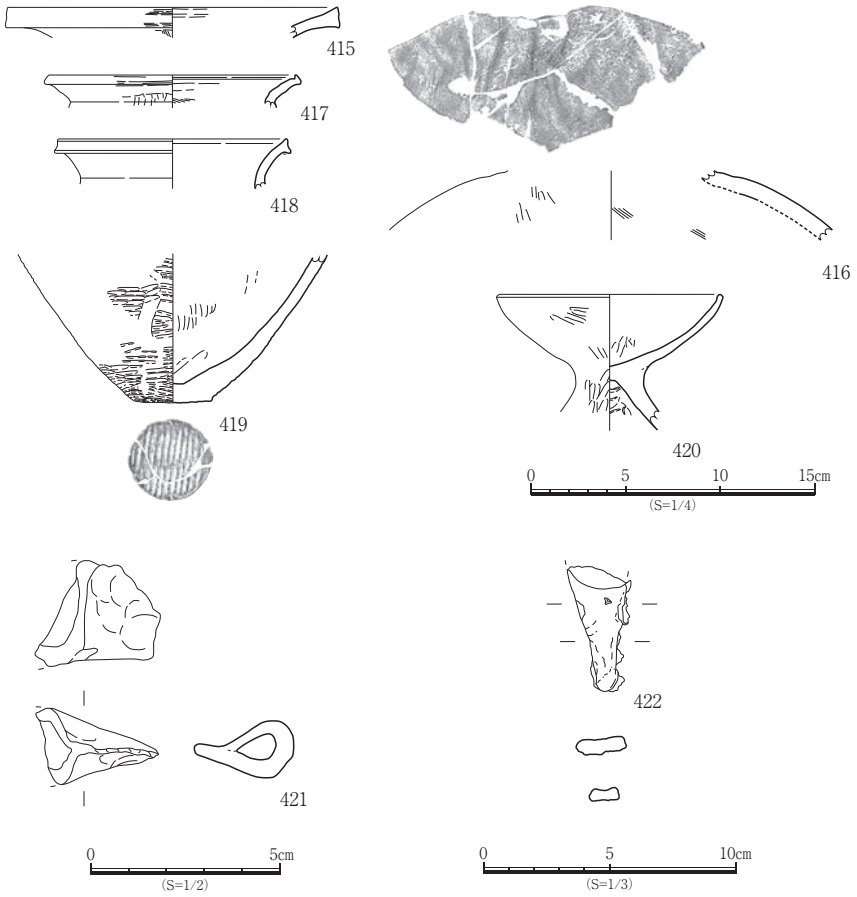
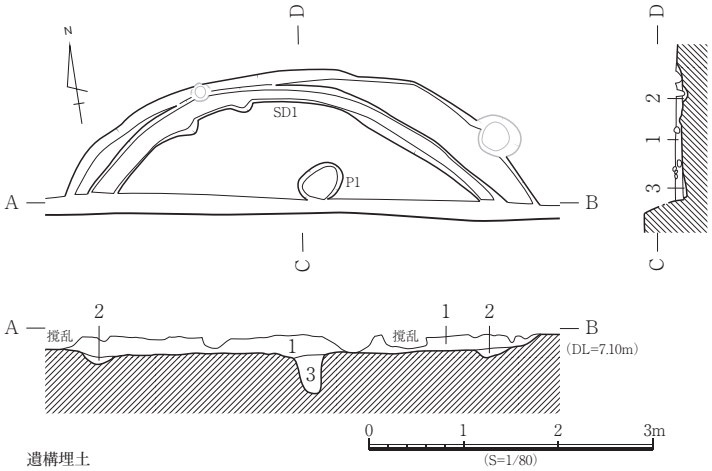


図166　8－2区　ST9　出土遺物実測図

425は弥生土器甕である。口唇部はやや凹面状を呈し，口縁部は外面についてはタタキ後タテハケ調整，内面はナナメハケ調整，体部外面はタタキ後タテハケ調整，内面はナデ調整である。426は弥生土器甕である。口唇部は面取りされる。外面は全体にタタキ調整である。内面について，口縁部はナナメハケ調整，体部はタテハケ後ナデ調整される。427は弥生土器高杯である。杯部が残存し，内外面はハケ調整される。428は弥生土器高杯である。焼成前穿孔がみられるが，調整は不明瞭である。



遺構埋土
1．黒褐色(10YR2/3)極細粒砂にシルトを含む
2．黒褐色(10YR2/3)極細粒砂に細礫を含む(SD1)
3．黒褐色(10YR2/3)極細粒砂に細礫を含む(P1)

図167　8－2区　ST10　平面図・断面図

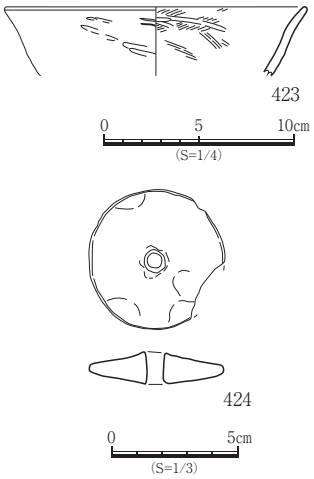
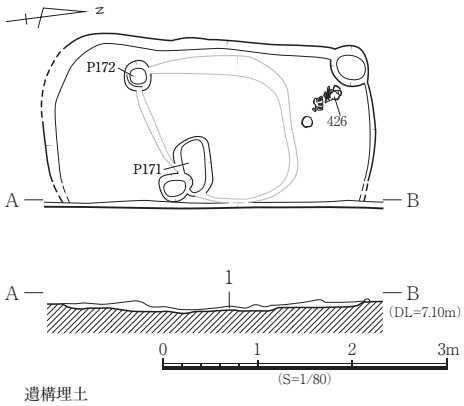


図168　8－2区　ST10
出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/3)シルト質極細粒砂

図169　8－2区　ST11　平面図・断面図

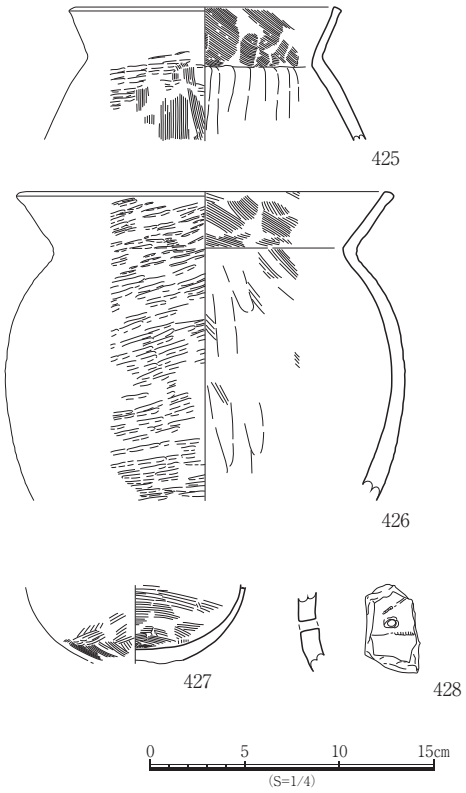
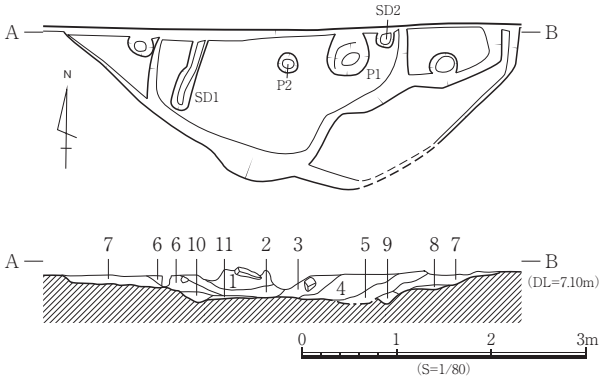


図170　8－2区　ST11　出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2) シルト質細粒砂
2. 黒褐色(10YR2/2) 極細粒砂質シルトに直径3cm大以下の礫を含む
3. 黒褐色(7.5YR2/2) シルト質細粒砂
4. 黒褐色(10YR2/2) 極細粒砂に炭化物を多く含む
5. 黒褐色(10YR2/3) 細粒砂に細礫を含み鉄分を多く含む
6. 極暗褐色(7.5YR2/3) 細粒砂に細礫を含み鉄分を多く含む
7. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂
8. 黒褐色(10YR2/2) シルト質極細粒砂に直径0.5cm大以下の礫を含む
9. 黒褐色(10YR2/3) 極細粒砂(SD2)
10. 黒褐色(10YR2/2) 細粒砂にシルトを含み鉄分を多く含む(SD1)
11. 黒褐色(10YR2/3) シルト質細粒砂に細礫を含む

図171　8－2区　ST12　平面図・断面図

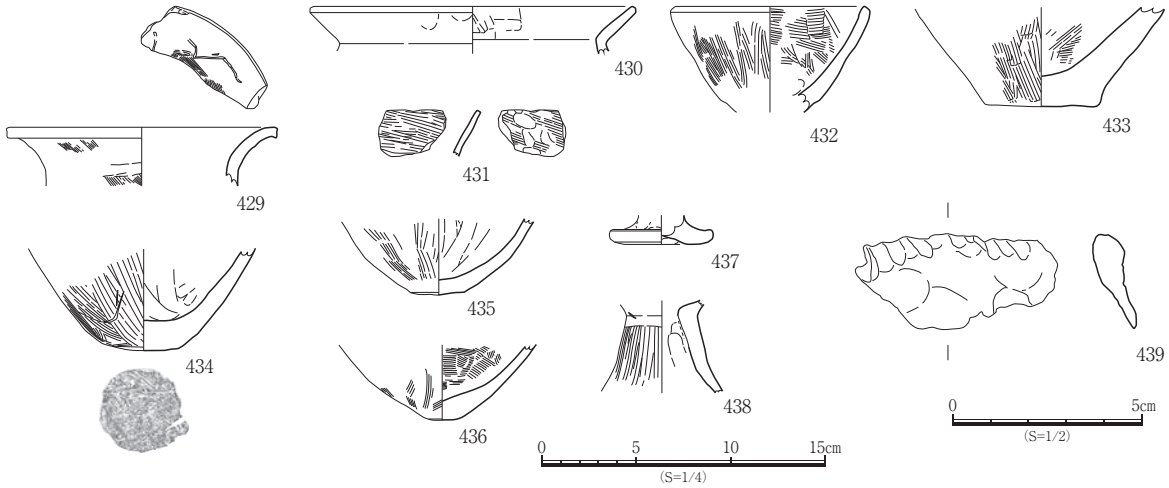
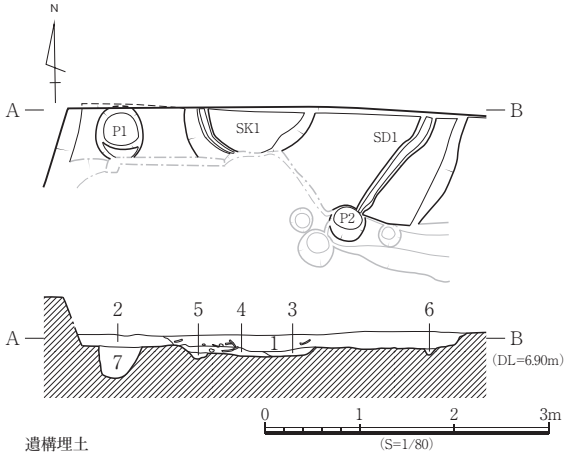


図172　8－2区　ST12　出土遺物実測図

ST12

ST12は8－2区で検出した竪穴建物跡である。南東をSK28に削平され，北側は調査区外となる。上面は撹乱されており，平面形は判然としない。長軸の検出長は約4.80m，短軸の検出長は約2.40m，深さは約12㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂他である。

床面でベッド状遺構，主柱穴(ST12_P1・2)，壁溝(ST12_SD1・2)等の遺構を検出した。東側と西側に削り出しのベッド状遺構が存在する。低床部との比高差は約10㎝で，幅は東側で約0.30m，西側で約1.00mを測る。主柱穴(ST12_P1)の平面形は不整円形で，規模は



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2) 極細粒砂
2. 黒褐色(10YR2/3) 極細粒砂に炭化材を多く含む
3. 黒褐色(10YR2/2) 極細粒砂に細礫を含む(SK1)
4. 黒褐色(10YR2/2) 極細粒砂に褐色(10YR4/4)極細粒砂ブロック少量含む(SK1)
5. 暗褐色(10YR3/3) 極細粒砂に褐色(10YR4/4)極細粒砂ブロック少量含む(壁溝)
6. 暗褐色(10YR3/3) 極細粒砂に細礫を含む(壁溝)
7. 黒褐色(10YR2/3) 細粒砂～極細粒砂(P1)

図173　8－2区　ST13　平面図・断面図

直径約45㎝，深さ約38㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂他である。主柱穴(ST12_P2)の平面形は円形で，規模は直径約22㎝，深さ約7㎝を測る。埋土は黒褐色(7.5YR2/2)シルト質細粒砂他である。壁溝(ST12_SD1)は西側に位置し，幅約14cm，深さ約4cm，検出長約0.79mを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)極細粒砂である。壁溝(ST12_SD2)は東側に位置し，幅約18cm，深さ約9cm，検出長は約0.16mを測る。検出長がやや短いが，北側に続くことや，断面形，遺構と

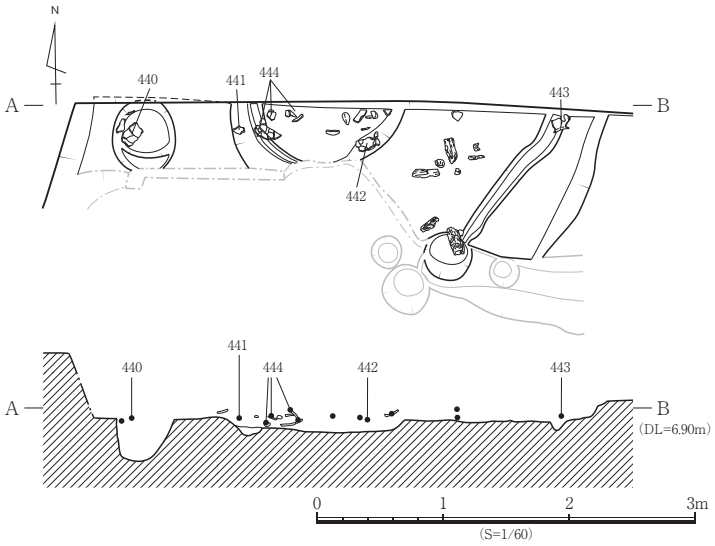


図174　8－2区　ST13　遺物出土状態図

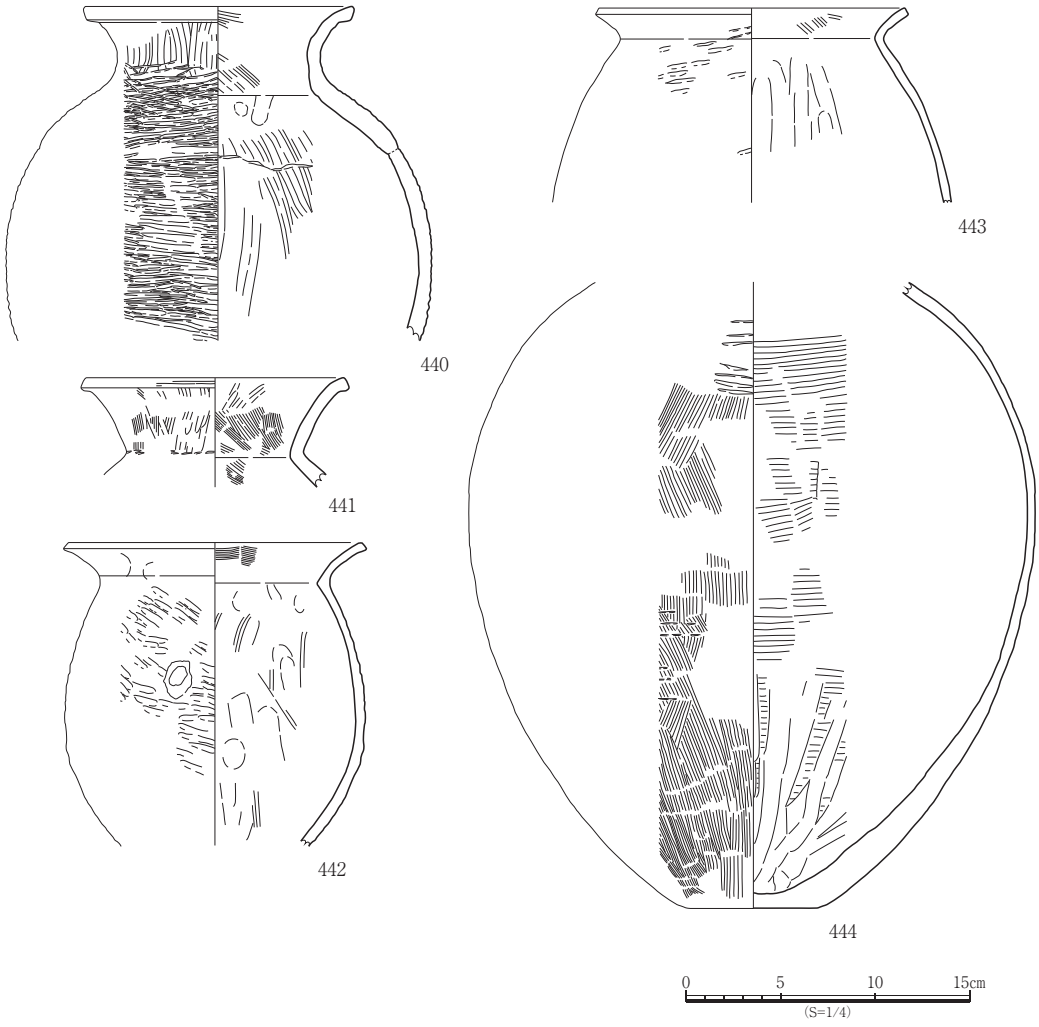


図175　8－2区　ST13　出土遺物実測図

の位置関係から壁溝の可能性がある。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，弥生土器壺(429)・甕(430・431)・鉢(432)・底部(433～436)・脚部(437・438)，ミニチュア土器(439)である。

429は弥生土器壺である。口唇部は凹面状を呈し，口縁部外面はタテハケ調整，もしくはヨコナデ調整である。内面はヨコハケ調整され，その後ヘラによる線刻が施される。430は弥生土器甕である。口唇部は丸くおさまる。口縁部は外面に指頭圧痕が残り，内面はナデ調整もしくはヘラナデ調整である。431は弥生土器甕である。口唇部は面取りが施される。口縁部は外面がヨコハケ調整後指頭による成形，内面はヨコハケ後ナデ調整である。432は弥生土器鉢である。口唇部は面取りが施される。体部について外面はナデ後タテハケ調整であり，内面は粗いヨコハケ調整である。内底に指頭圧痕が残る。433は弥生土器底部である。角の取れた平底を呈する。体部外面は粗いタテハケ調整，内面はナナメハケ調整である。内底に指頭圧痕が残る。434は弥生土器底部である。角の取れた平底を呈する。体部は粗いタテハケ調整後ヘラ状工具による線刻が施される。内面はナデ調整，もしくはハケ調整である。435は弥生土器底部である。角の取れた平底を呈す

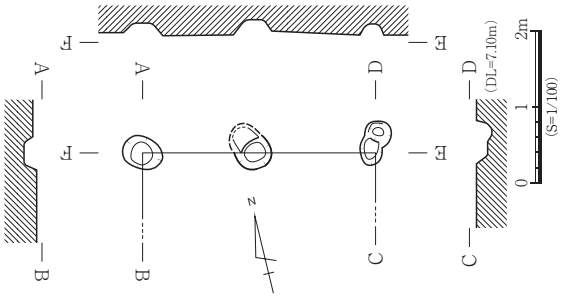


図176　8－2区　SB1　平面図・エレベーション図

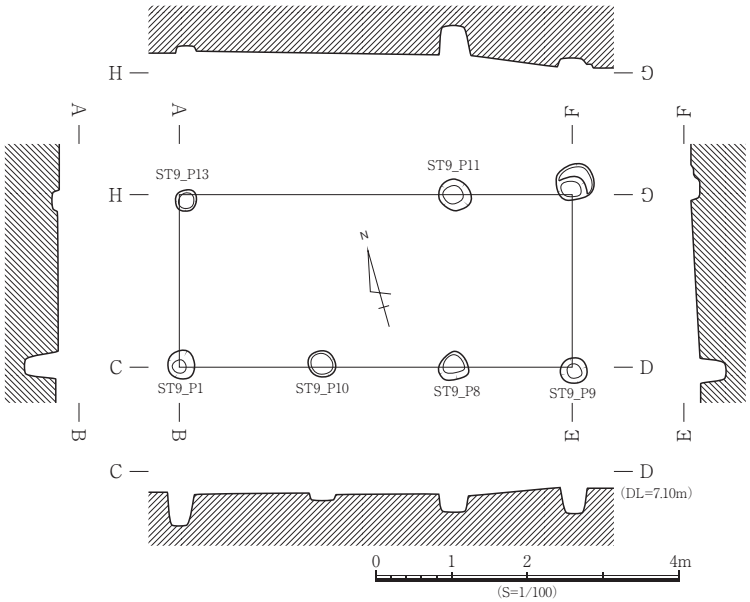


図177　8－2区　SB2　平面図・エレベーション図

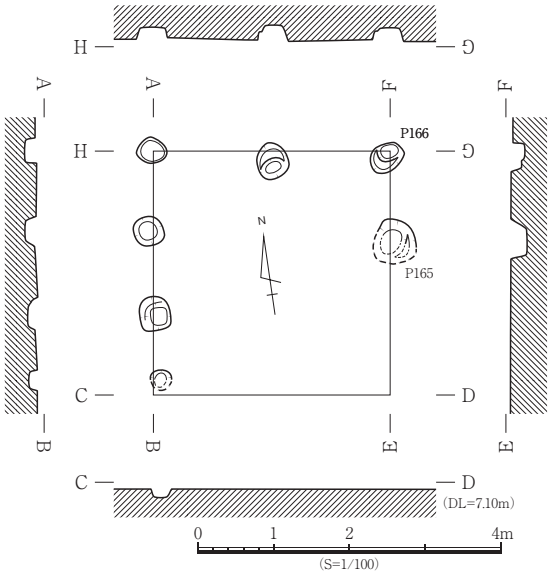


図178　8－2区　SB3　平面図・エレベーション図

る。体部は外面が粗いタテハケ調整，内面はタテハケ調整である。胎土に中礫を含む。436は弥生土器底部である。丸みを帯びた平底を呈する。体部外面はやや粗いタテハケ調整，内面はヨコハケ調整である。437は弥生土器脚部である。脚端部は摘み上げられ，指頭圧痕が残る。438はST12_SK1から出土した弥生土器脚部である。外面はヨコナデ・タテハケ調整である。内面はナデ調整である。439はST12_SK1から出土したミニチュア土器である。端部は棒状工具による圧痕が施される。側面に指頭圧痕が残る。

ST13

ST13は8－2区で検出した竪穴建物跡である。南側を現代の撹乱に削平され，北側・西側は調査区外となる。平面形は円形もしくは方形か。規模は東西約4.28m以上，南北約1.23m以上，深さ約31cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)極細粒砂で，多くの炭化木材を含む。焼失住居と考えられる。

床面でピット(ST13_P1・2)，壁溝(ST13_SD1)を検出した。ST13_P1の平面形は楕円形を呈する。長軸の検出長は約55cm，短軸約49cm，深さは約36㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)極細粒砂質シルトである。ST13_P2の平面形はやや円形を呈する。長軸は約40cm，短軸は約38cm，深さは約30㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)極細粒砂である。壁溝(ST13_SD1)は東側で検出した。幅約15cm，深さ約7cm，検出長は約1.28mを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)細礫混じる極細粒砂である。

図示した出土遺物は，弥生土器甕(440～444)である。

440は弥生土器甕である。口唇部は面取りが施される。頸部の外面は粗いタテハケ調整，内面はナナメハケ調整である。肩部，体部の外面はタタキ調整，内面はタテハケ調整で

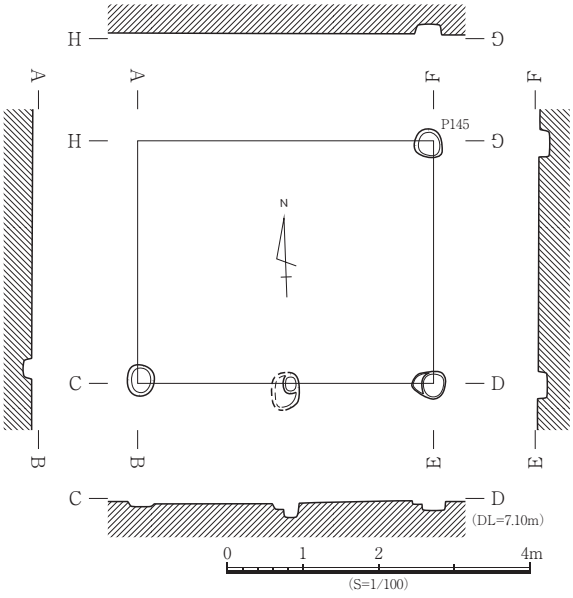


図179　8－2区　SB4　平面図・エレベーション図

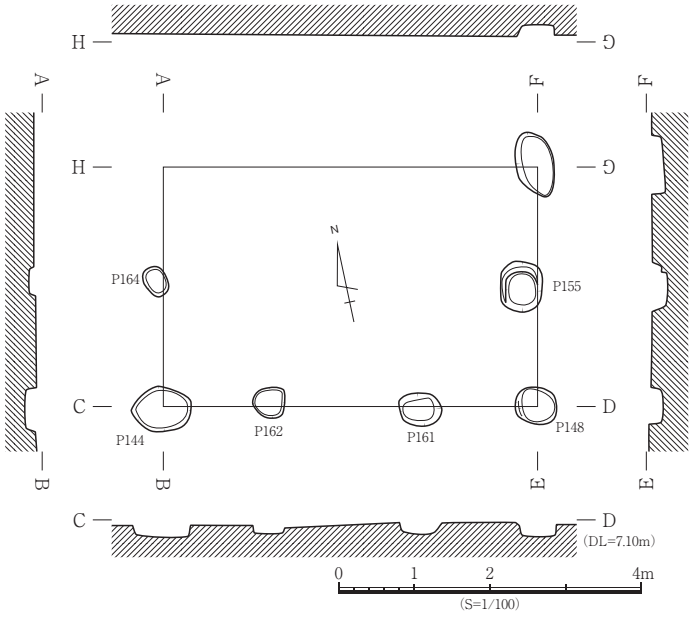


図180　8－2区　SB5　平面図・エレベーション図

あり指頭圧痕と接合痕が残る。441 は弥生土器甕である。口唇部は面取りが施される。頸部は外面にタテハケ後ヨコナデ調整，内面にヘラミガキ調整，もしくはタテハケ調整である。外面頸部にヘラ状工具による施文がみられる。体部内面はナナメハケ調整である。442 は弥生土器甕である。口唇部は面取りが施される。口縁部外面はナデ調整，内面はヨコハケ調整である。体部は外面がタタキ調整，内面がナデ調整もしくはタテハケ調整である。443は弥生土器甕である。口唇部は面取りが施される。外面全体はタタキ調整される。内面について，口縁部はナナメハケ調整，体部はナデ調整である。444はST13_SK1 から出土した弥生土器甕である。角の取れた平底を呈し，体部外面はタタキ後タテハケ調整，内面はヨコハケ調整が施される。内底はナデ調整と指頭圧痕が残る。

2.SB

SB1

SB1 は 8 － 2 区で検出した桁行 2 間（3.09m）の南北棟の掘立柱建物跡であり，調査区外に続くとみられる。柱間寸法は，桁行約1.50m・約1.59mである。主軸方向はN － 13° 30′ － Eである。柱穴は直径約 60 ㎝の円形から不整円形であり，検出面からの深さは16 ～ 20㎝である。埋土は黒褐色（10YR2/3）細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

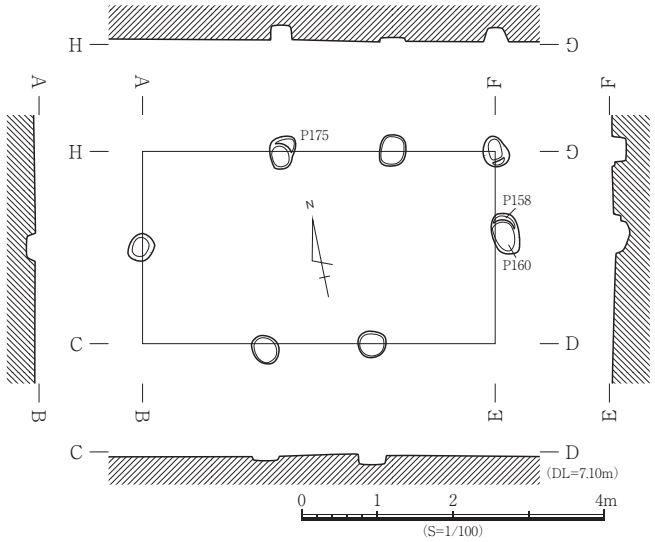


図181　8－2区　SB6　平面図・エレベーション図

SB2

SB2は8－2区で検出した桁行3間（約5.19m），梁行 1 間（約 2.28m）の東西棟の掘立柱建物跡である。床面積は約 11.8㎡である。主軸方向はN － 74° 23′ － Wである。ST9_P1・ST9_P8 ～ P11・ST9_P13 他で構成される。柱穴は直径約 20 ～ 50 ㎝の円形から不整円形であり，検出面からの深さは 9 ～ 44 ㎝である。埋土は黒褐色（10YR2/3）細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

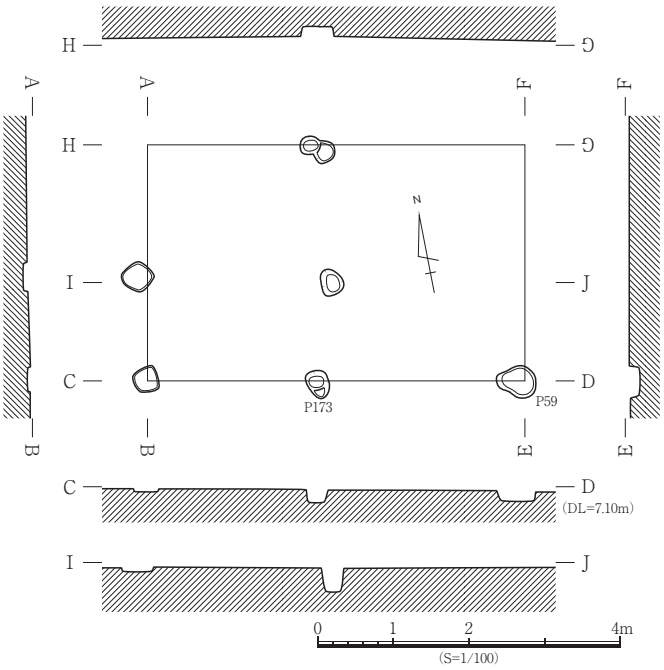


図182　8－1・2区　SB7　平面図・エレベーション図

SB3

SB3は8－2区で検出した桁行3間（約3.22m），梁行 2 間（約 3.13m）の南北棟の

掘立柱建物跡である。床面積は約10.1㎡である。主軸方向はN－8°13′－Eである。P165・166他で構成される。柱穴は直径35～65㎝の円形から不整円形であり，検出面からの深さは11～21㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB4

SB4は8－2区で検出した桁行2間(約3.91m)，梁行1間(約3.20m)の東西棟の掘立柱建物跡である。床面積は約12.5㎡である。主軸方向はN－87°54′－Wである。P145他で構成される。柱穴は直径約50㎝の円形から不整円形であり，検出面からの深さは6～19㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

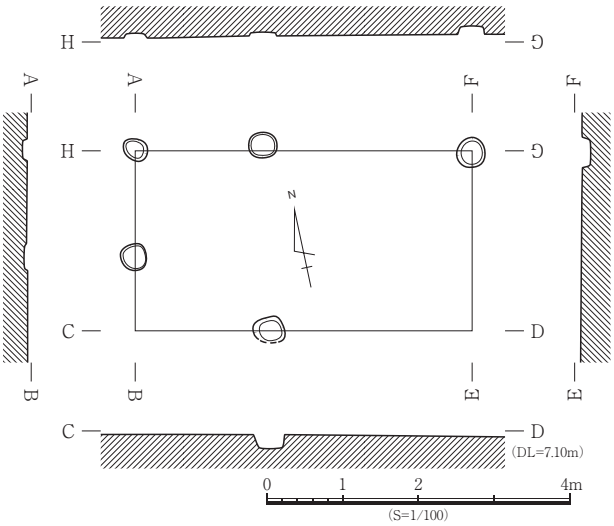


図183　8－1・2区　SB8　平面図・エレベーション図

SB5

SB5は8－2区で検出した桁行3間(約4.94m)，梁行2間(約3.16m)の東西棟の掘立柱建物跡である。床面積は約15.6㎡である。主軸方向はN－78°01′－Wである。P144・148・155・161・162・164他で構成される。柱穴は直径40～70㎝の円形から不整円形であり，検出面からの深さは3～14㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB6

SB6は8－2区で検出した桁行3間(約4.66m)，梁行2間(約2.54m)の東西棟の掘立柱建物跡である。床面積は約11.8㎡である。主軸方向はN－78°27′－Wである。P158・160・175他で構成される。柱穴は直径約40㎝

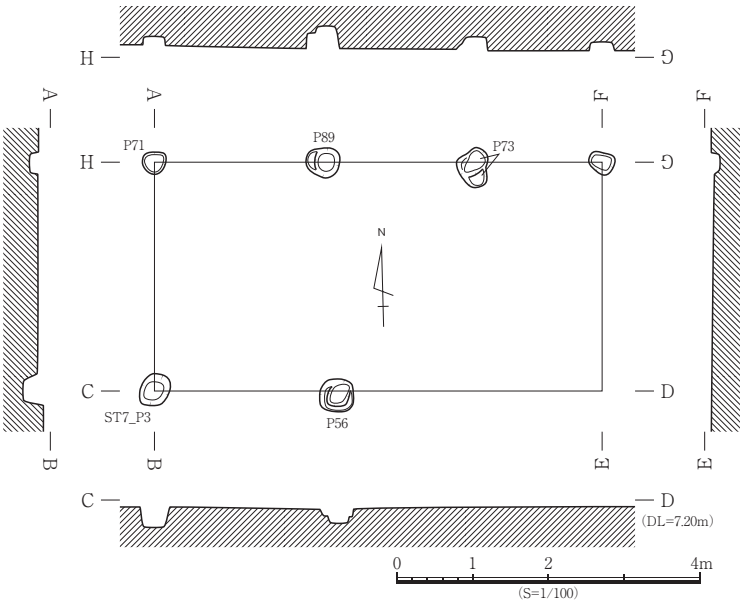


図184　8－1区　SB9　平面図・エレベーション図

の円形から不整円形であり，検出面からの深さは5～19cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB7

SB7は8－1区，8－2区で検出した桁行2間(約4.99m)，梁行2間(約3.12m)の東西棟の掘立柱建物跡である。床面積は約15.6㎡である。主軸方向はN－79°00′－Wである。P59・173他で構成される。柱穴は直径30～40cmの円形から不整円形であり，検出面からの深さは3～18cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB8

SB8は8－1区，8－2区で検出した桁行2間(約4.45m)，梁行2間(約2.38m)の東西棟の掘立柱建物跡である。床面積は10.6㎡である。主軸方向はN－77°59′－Wである。柱穴は直径30～40cmの円形から不整円形であり，検出面からの深さは3～18cmである。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルト他である。調査区を跨いでいるため，桁行が3間になる可能性がある。

図示した出土遺物はない。

SB9

SB9は8－1区で検出した桁行3間(約5.91m)，梁行1間(約

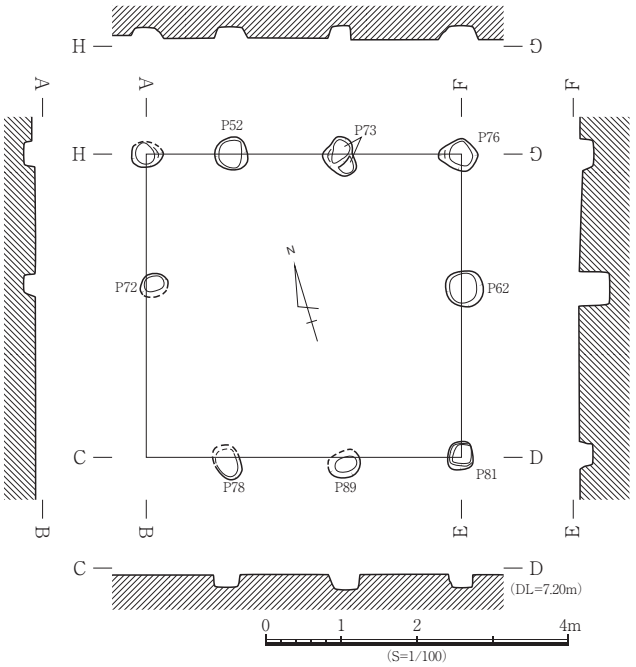


図185　8－1区　SB10　平面図・エレベーション図

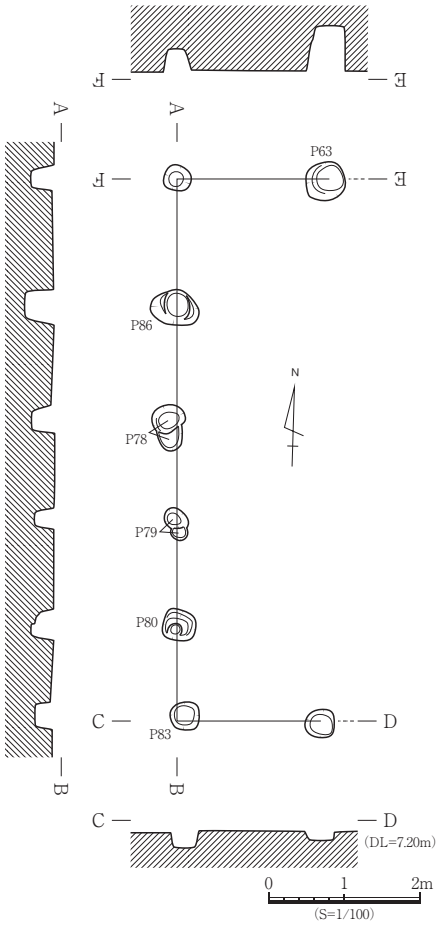


図186　8－1区　SB11
平面図・エレベーション図

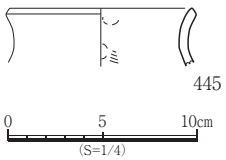


図187　8－1区　SB10
出土遺物実測図

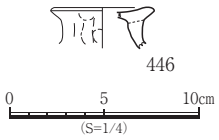


図188　8－1区　SB11
出土遺物実測図

3.02m)の東西棟の掘立柱建物跡である。床面積は約17.8㎡である。主軸方向はN－　88°31′－Wである。P56・71・73・89・ST7_P3他で構成される。柱穴は直径40～50㎝の円形から不整円形であり，検出面からの深さは11～29㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB10

SB10は8－1区で検出した桁行3間(約4.16m)，梁行2間(約4.00m)の東西棟の掘立柱建物跡である。床面積は約16.6㎡である。主軸方向はN－73°16′－Wである。P52・62・72・73・76・78・81・89他で構成される。柱穴は直径40～50㎝の円形から不整円形であり，検出面からの深さは17～40㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は，弥生土器甕(445)である。P78から出土した。口縁部内面は指頭圧痕が残り，一部はヨコハケ調整である。被熱し，煤が付着する。

SB11

SB11は8－1区で検出した桁行5間(約7.16m)，梁行1間(約1.90m)の南北棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN－1°43′－Wである。P63・78～80・83・86他で構成される。柱穴は直径25～75㎝の円形から不整円形であり，検出面からの深さは12～59㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は，弥生土器脚部(446)である。P80から出土した。外面はハケ調整後指頭により成形，内面はナデ調整である。

SB12

SB12は8－1区で検出した桁行3間(約5.82m)，梁行1間(約2.88m)の南北棟の掘立柱建物跡である。床面積は約16.8㎡である。主軸方向はN－10°22′－Eである。P53・57・64・87他で構成される。柱穴は直径40～50㎝の円形から不整円形であり，検出面からの深さは13～29㎝である。

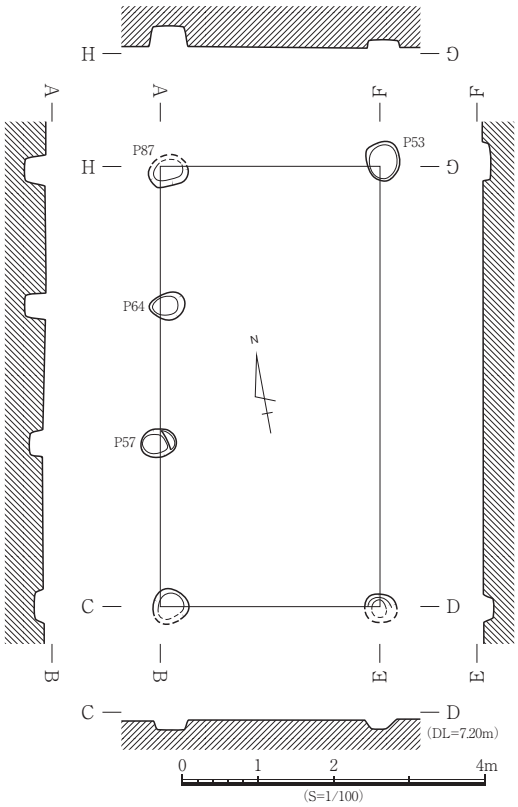


図189　8－1区　SB12　平面図・エレベーション図

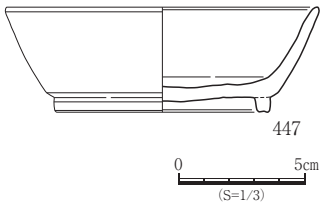


図190　8－1区　SB12　出土遺物実測図

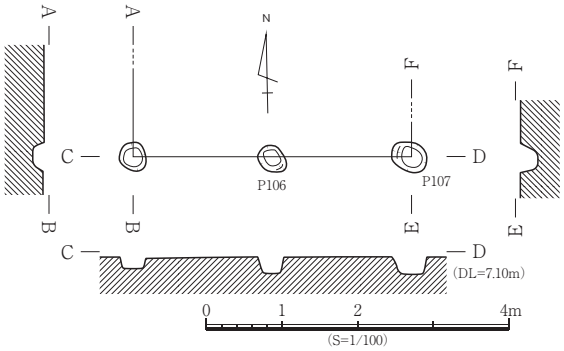


図191　8－1区　SB13　平面図・エレベーション図

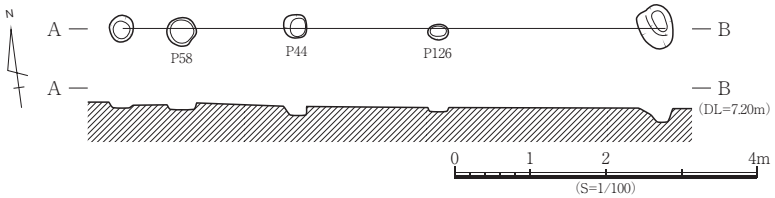


図192　8－1区　SA1　平面図・エレベーション図

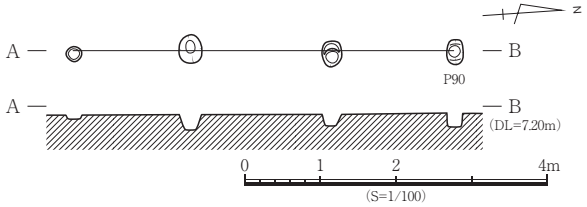
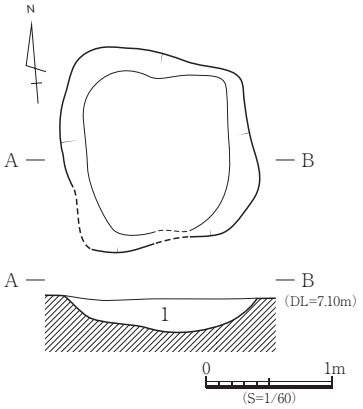


図193　8－1区　SA2　平面図・エレベーション図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに直径15cm大以下の礫を多く含む

図194　8－1区　SK1　平面図・断面図

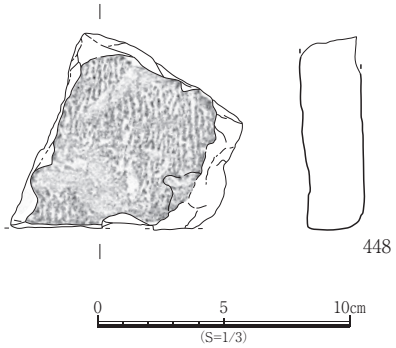
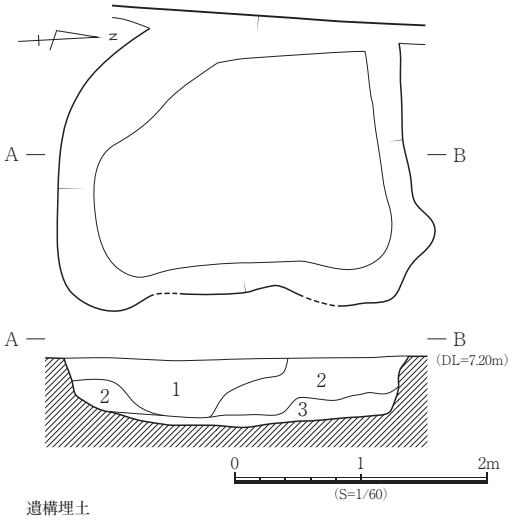


図195　8－1区　SK1　出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに直径3cm大以下の礫を少量含む
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに直径3cm大以下の礫を少量含む
3. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに礫を含む

図196　8－1区　SK2　平面図・断面図

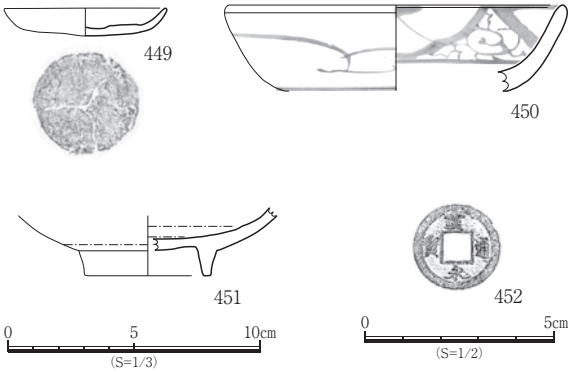


図197　8－1区　SK2　出土遺物実測図

埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂他である。

図示した出土遺物は，須恵器杯(447)である。P64から出土した。回転ナデ調整である。底部はヘラ切り後ナデ調整，見込みは一部仕上げにナデ調整がされる。

SB13

SB13は8－1区で検出した梁行2間(約3.68m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，調査区外に続くとみられる。主軸方向はN－1°12′－Eである。P106・107他で構成される。柱穴は直径約40cmの円形から不整円形であり，検出面からの深さは14～23cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂他である。

図示した出土遺物はない。

3.SA

SA1

SA1は8－1区で検出した東西方向の柵跡である。主軸方向はN－82°20′－Wであり，約7.17mにわたり検出した。P44・58・126他2基のピットで構成される。柱間寸法は0.80～3.00mとばらつきがみられるが，中軸からは大きくずれない。検出面からの深さは4～18cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SA2

SA2は8－1区で検出した南北方向の柵跡である。主軸方向はN－3°53′－Eであり，約5.04mにわたり検出した。P90他3基のピットで構成される。柱間寸法は1.54～1.87mとばらつきがみられるとともに中軸からずれるものもある。検出面からの深さは6～14cmである。埋土は褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

4.SK

SK1

SK1は8－1区で検出した土坑である。平面形は隅丸方形を指向する。規模は長軸約1.63m，短軸約1.49m，深さ約29cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，平瓦(448)である。凸面に縄目痕跡，凹面にケズリ，切り離し痕が残る。

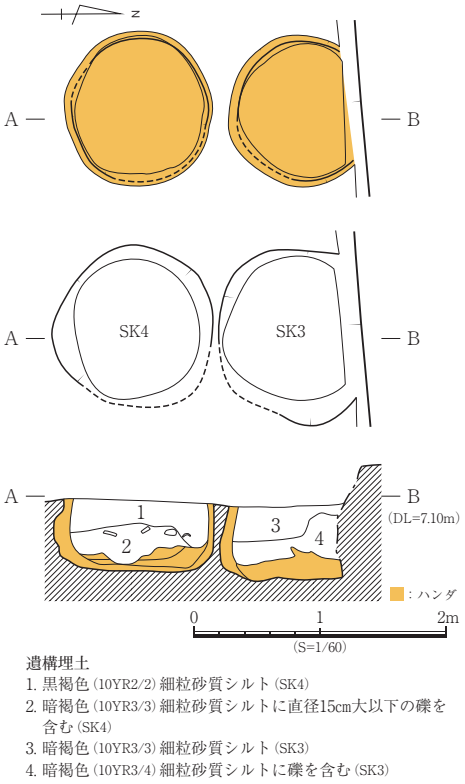


図198　8－1区　SK3・4　平面図・断面図

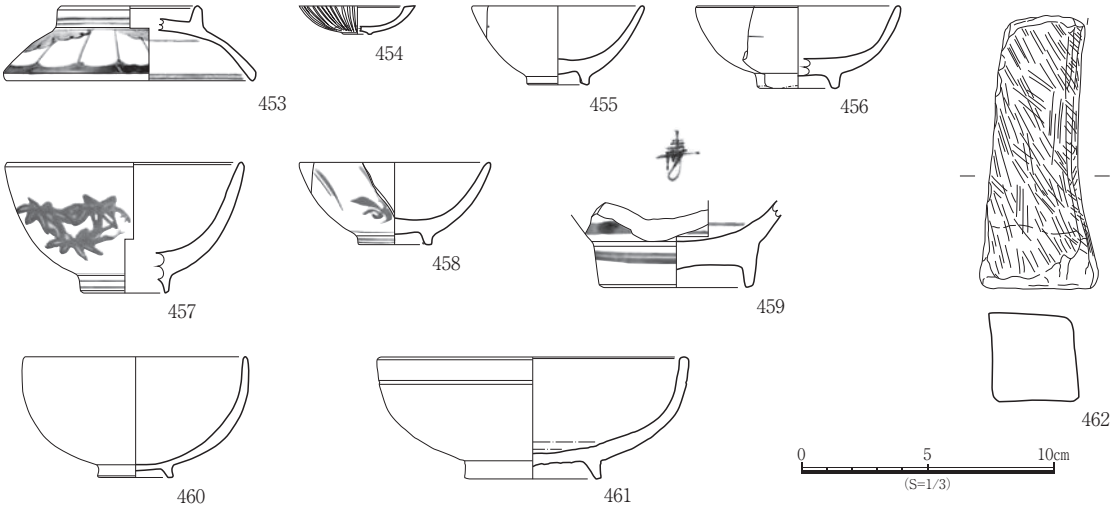


図199　8－1区　SK3　出土遺物実測図

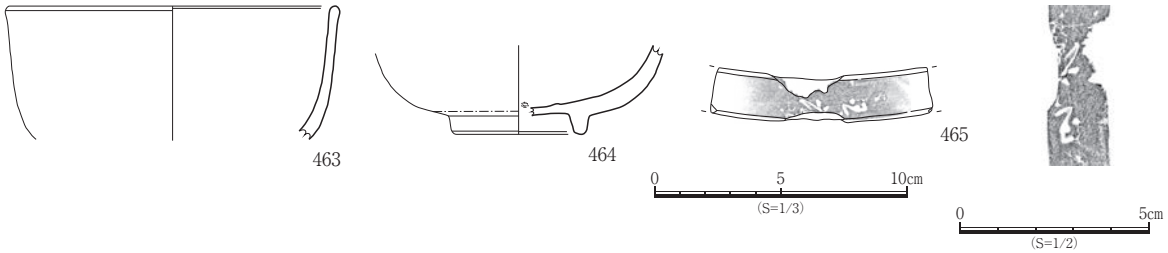
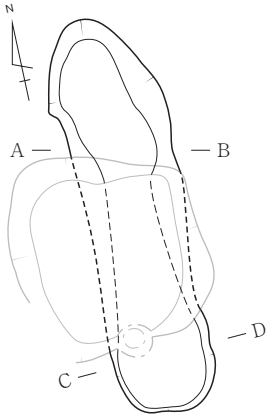


図200　8－1区　SK4　出土遺物実測図



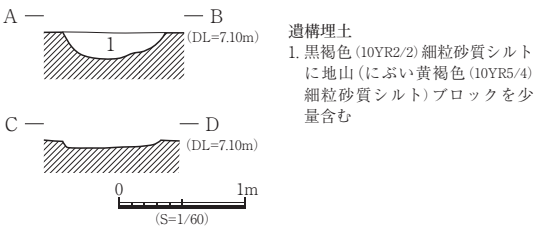


図201　8－1区　SK6
平面図・断面図・エレベーション図

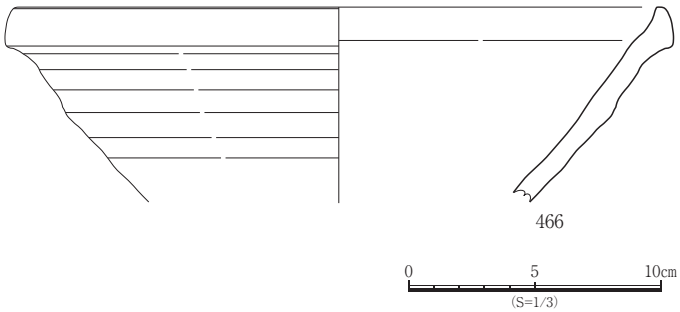


図202　8－1区　SK6　出土遺物実測図

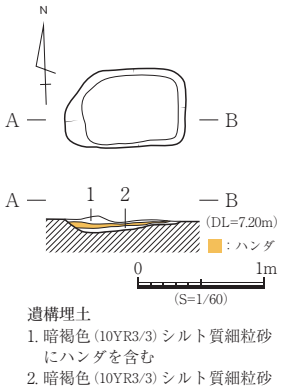


図203　8－1区　SK7　平面図・断面図

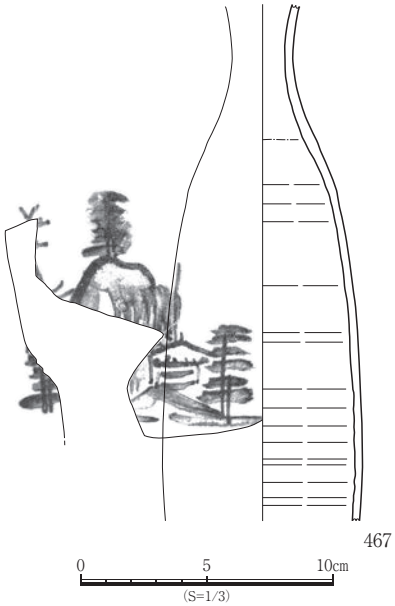


図204　8－1区　SK7　出土遺物実測図

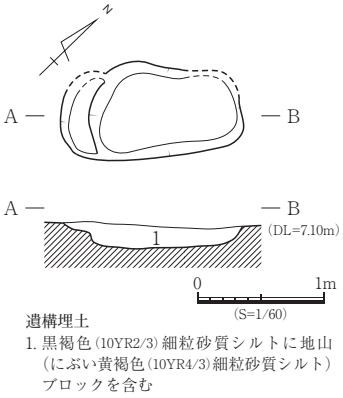


図205　8－1区　SK9
平面図・断面図

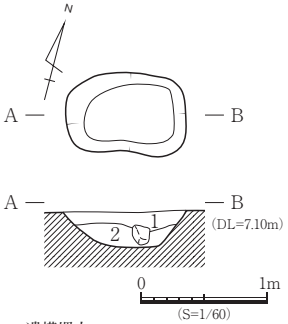


図206　8－1区　SK11
平面図・断面図

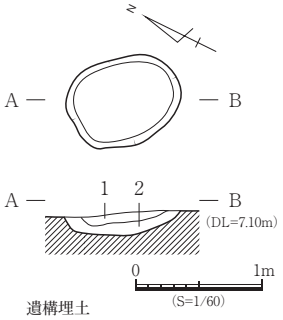


図207　8－1区　SK12
平面図・断面図

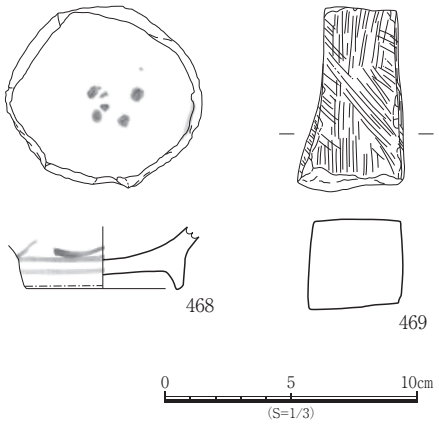


図208　8－1区　SK17　出土遺物実測図

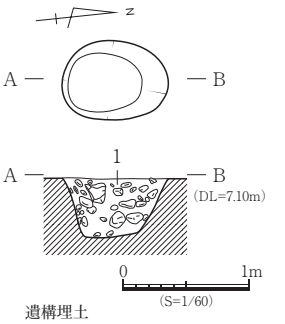


図209　8－1区　SK18
平面図・断面図

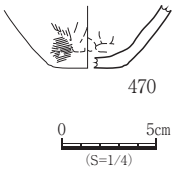


図210　8－1区　SK18
出土遺物実測図

SK2

SK2は8－1区で検出した土坑である。西側は調査区外に続く。平面形は長方形を呈し，規模は長軸約2.86m，短軸の検出長約2.12m，深さ約53cmを測る。埋土は灰黄褐色(10YR3/1)粘土質シルト他である。

図示した出土遺物は，土師質土器皿(449)，磁器皿(450)，陶器皿(451)，銭貨(452)である。

449は土師質土器皿である。ロクロナデ成形，底部は回転糸切りである。被熱している。450は磁器皿である。透明釉が施される。体部外面に唐草文，内面に草文・唐草文，見込みに一重圏線の染付がみられる。451は陶器皿である。灰釉が施され，見込みは蛇ノ目釉剥される。高台付近は露胎であり，所謂土見せである。被熱している。452は寛永通寶である。

SK3

SK3は8－1区で検出したハンダ土坑である。SK4と隣接する。南側は撹乱され，北は調査区外にのびる。平面形は円形を呈し，規模は長軸の検出長が約1.33m，短軸約1.18m，深さ約60cmを測る。

図示した出土遺物は，磁器蓋(453)・紅皿(454)・杯(455・456)・碗(457～459)，陶器碗(460)・皿(461)，砥石(462)である。

453は磁器蓋である。透明釉が施され，摘みは端部が釉剥され，外面に二重圏線・菊弁文，天井部に一重圏線，内面端部に二重圏線の染付がみられる。454は磁器紅皿白磁である。型打

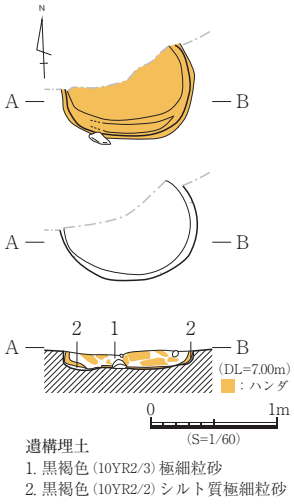


図211　8－2区　SK21
平面図・断面図

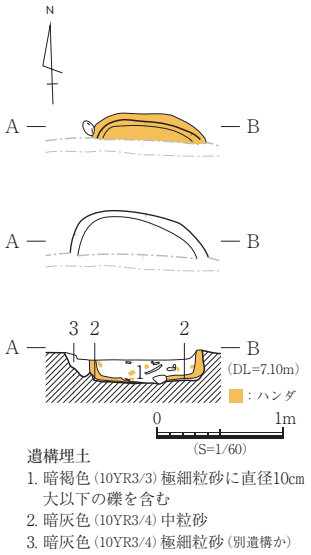


図212　8－2区　SK22
平面図・断面図

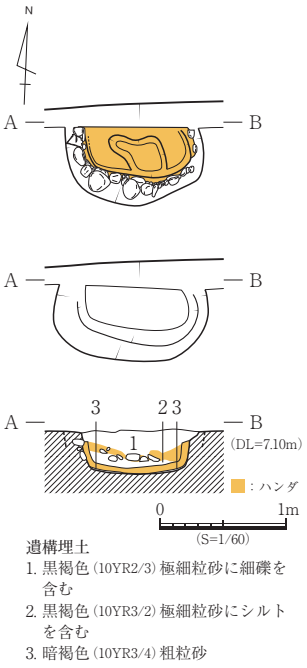


図213　8－2区　SK23
平面図・断面図

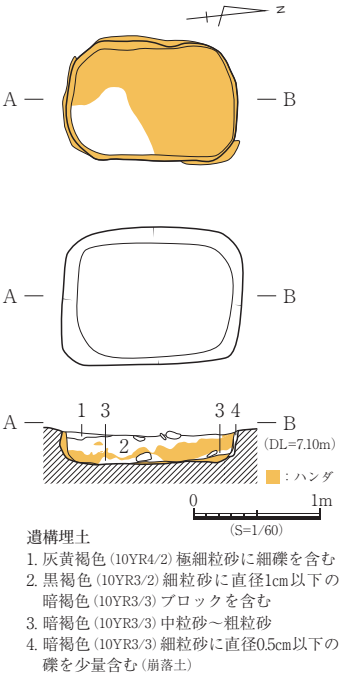


図214　8－2区　SK24
平面図・断面図

成形であり，高台付近は無釉である。陰刻による菊弁文が施される。455は磁器杯である。外面に染付がみられるが残存状態が悪い。畳付は釉剥され，離れ砂が付着する。456は磁器碗である。外面に染付がみられるが残存状態が悪い。畳付は釉剥され，被熱する。457は磁器碗である。外面に笹文，外高台付近に三重圏線の染付がみられる。畳付は釉剥される。458は磁器碗である。外面に草文，外高台付近に三重圏線の染付がみられる。畳付は釉剥される。離れ砂が付着する。459は磁器碗である。見込みに一重圏線・「寿」文，外高台付近に三重圏線の染付がみられる。畳付は釉剥される。460は陶器碗である。灰釉が施されるが高台内から畳付にかけて露胎である。461は陶器皿である。見込みは蛇ノ目釉剥され，畳付は釉剥される。

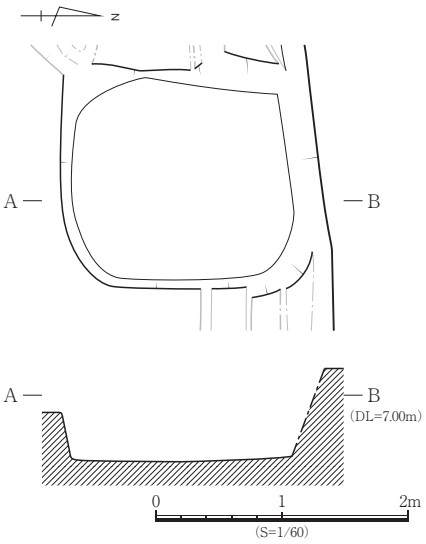


図215　8－2区　SK25
平面図・エレベーション図

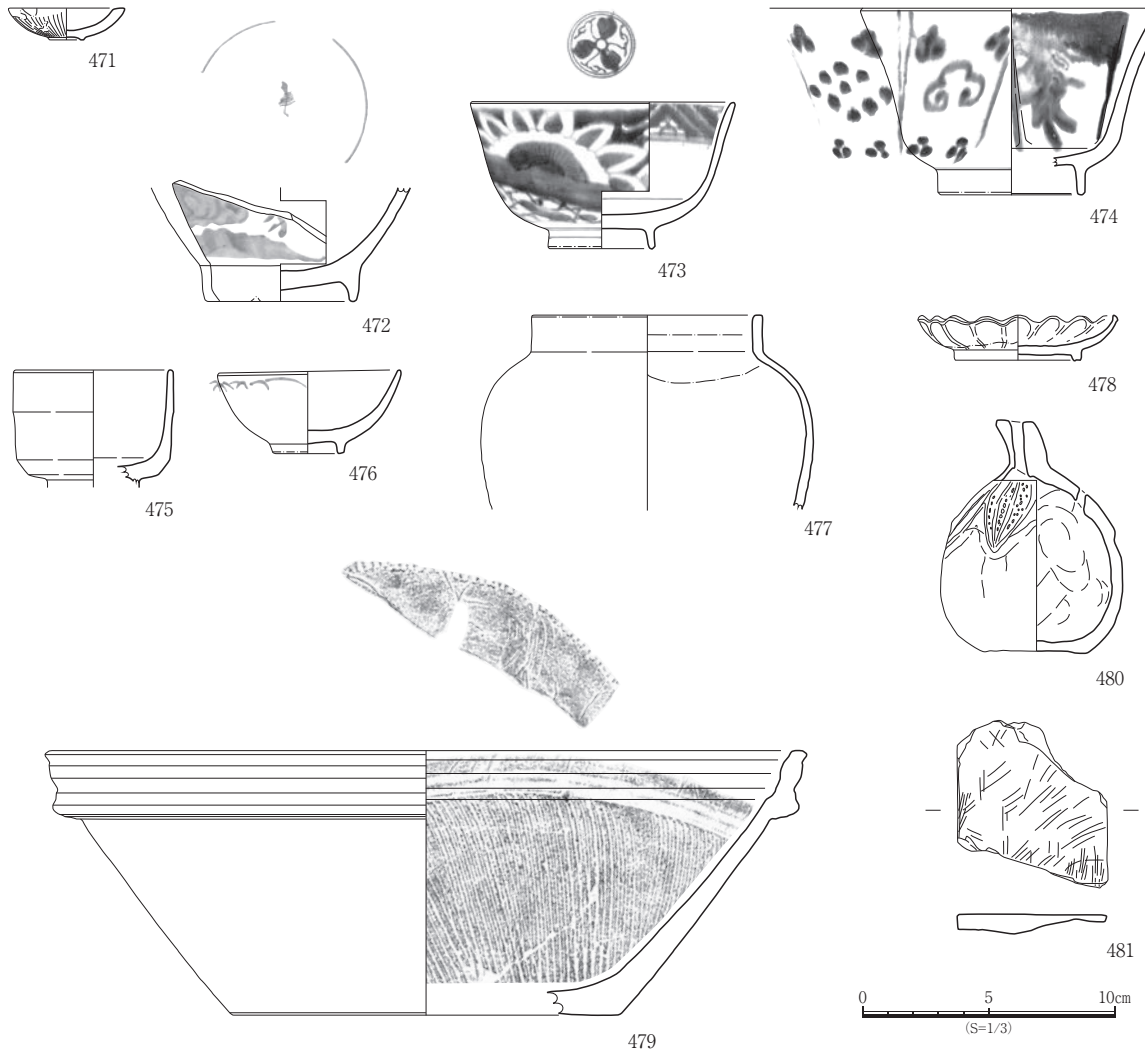


図216　8－2区　SK25　出土遺物実測図

462は砥石である。欠損があり，抉られるような使用痕が残る。

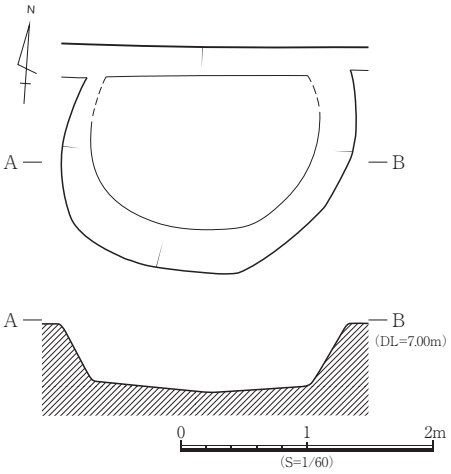


図217　8－2区　SK26
平面図・エレベーション図

SK4

SK4は8－1区で検出したハンダ土坑である。SK3と隣接する。一部撹乱される。平面形は円形を呈し，規模は長軸約1.29m，短軸約1.28m，深さ約54cmを測る。

図示した出土遺物は，陶器碗(463・464)，平瓦(465)である。

463は陶器碗である。灰釉が施され，口縁部は肥厚する。464は陶器碗である。灰釉が施され，貫入は顕著である。土見せであり，目跡が残る。465は平瓦である。キラ粉が付着する。

SK6

SK6は8－1区で検出した土坑である。SK1によって削平される。平面形は不整楕円形を呈し，規模は長軸約3.22m，短軸約0.85m，深さ約18cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトににぶい黄褐色ブロックが混じる。

図示した出土遺物は，須恵器鉢(466)である。回転ナデ調整である。

SK7

SK7は8－1区で検出した土坑である。平面形は隅丸長方形を呈し，規模は長軸約0.95m，短軸約0.62m，深さ約11cmを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂他である。

図示した出土遺物は，陶器燈徳利(467)である。灰釉が内頸部から外面に施され，鉄錆による山文

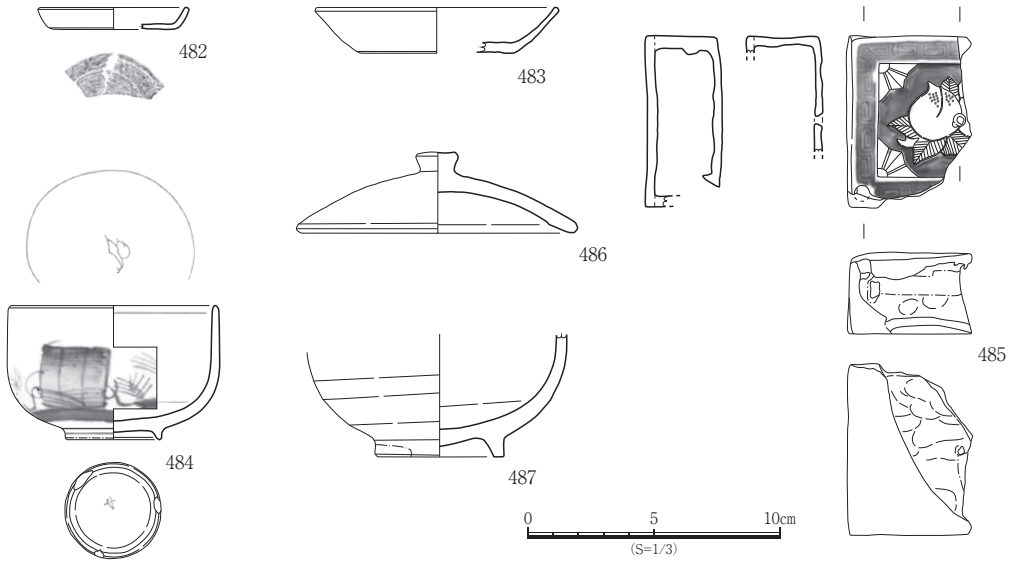


図218　8－2区　SK26　出土遺物実測図

がみられる。

SK17

SK17は8－1区で検出した土坑である。西側をSK20によって削平され，北部と東部は調査区外へのびる。平面形はやや円形を呈し，検出規模は長軸2.04m，短軸1.68m，深さ40㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトにハンダ片を含む。

図示した出土遺物は，陶器碗(468)，砥石(469)である。

468は陶器碗である。透明釉が施され，貫入は顕著である。見込みに五弁花文か。外高台に圏線の染付がみられる。畳付は釉剥される。469は砥石である。欠損があり，切断痕が残る。

SK18

SK18は8－1区で検出した土坑である。平面形は楕円形を呈し，規模は長軸約0.83m，短軸約0.63m，深さ約48㎝を測る。埋土は暗褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，弥生土器底部(470)である。ナデによる平底を呈する。体部外面はハケ後ナデ調整，内面はナデ調整である。

SK21

SK21は8－2区で検出したハンダ土坑である。北側を現代の撹乱によって削平される。平面形は楕円形を呈するとみられ，長軸は検出長約1.07m，短軸約0.64m，深さは約19㎝を測る。土坑内面に4㎝程度の厚さでハンダを貼り付ける。ハンダ内部の埋土は，黒褐色(10YR2/3)極細粒砂に1辺10～20㎝大のハンダ片が多く含まれる。土坑廃棄時に上部のハンダが崩落，もしくは意図的に破壊されたと考えられる。

図示した出土遺物はない。

SK22

SK22は8－2区，SK21の北側で検出したハンダ土坑である。北側をSD4に切られ，南側を現代の撹乱によって削平される。平面形は楕円形を呈するとみられ，検出規模は長軸約1.09m，短軸の検出長は約0.34m，深さ約25㎝を測る。土坑内面に3～10㎝の厚さでハンダを貼り付ける。ハンダ内部の埋土は1～10㎝大の礫を含む暗褐色(10YR3/3)極細粒砂で，1辺5㎝大のハンダ片を含む。

図示した出土遺物はない。

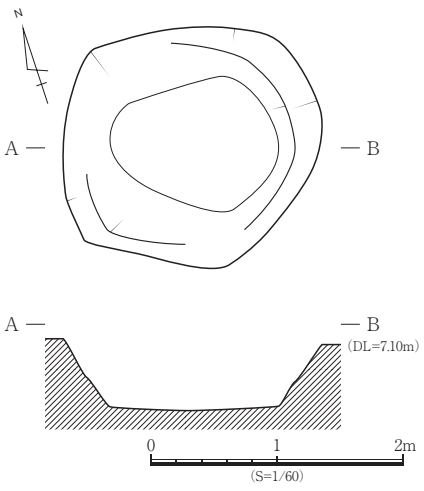


図219　8－2区　SK28
平面図・エレベーション図

SK23

SK23は8－2区，SK22の北側で検出したハンダ土坑である。南側をSD4に切られ，北側は調査区外とな

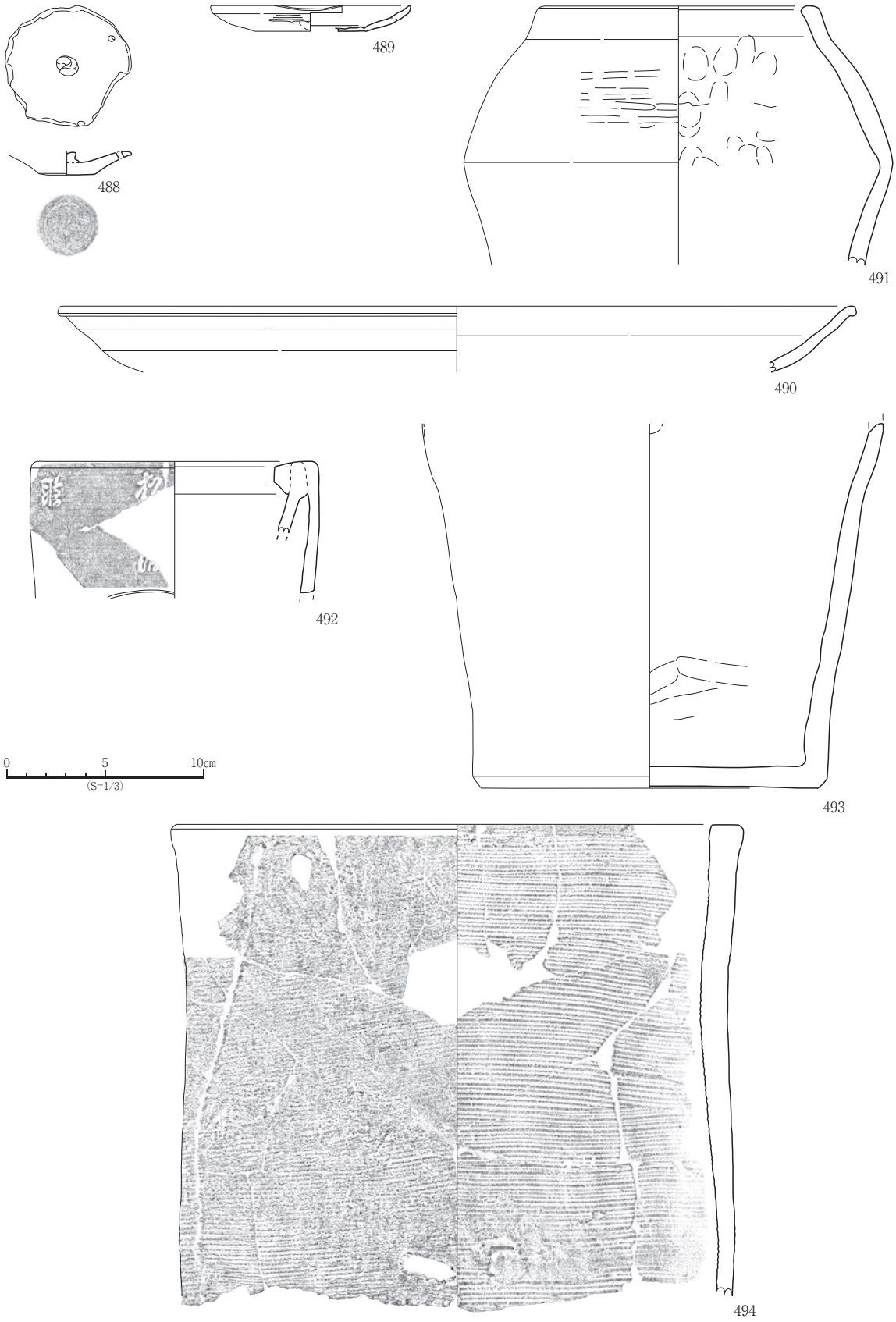


図220　8－2区　SK28　出土遺物実測図_1

る。平面形は楕円形を呈するとみられ，長軸約1.22m，短軸の検出長は約0.55m，深さ約33cmを測る。壁面に沿って，直径5～30cm大の自然石を1～3段積み重ねたのちに，厚さ約10cm程度にハンダを貼り付ける。ハンダ内部の埋土は，黒褐色(10YR2/3)極細粒砂他である。

図示した出土遺物はない。

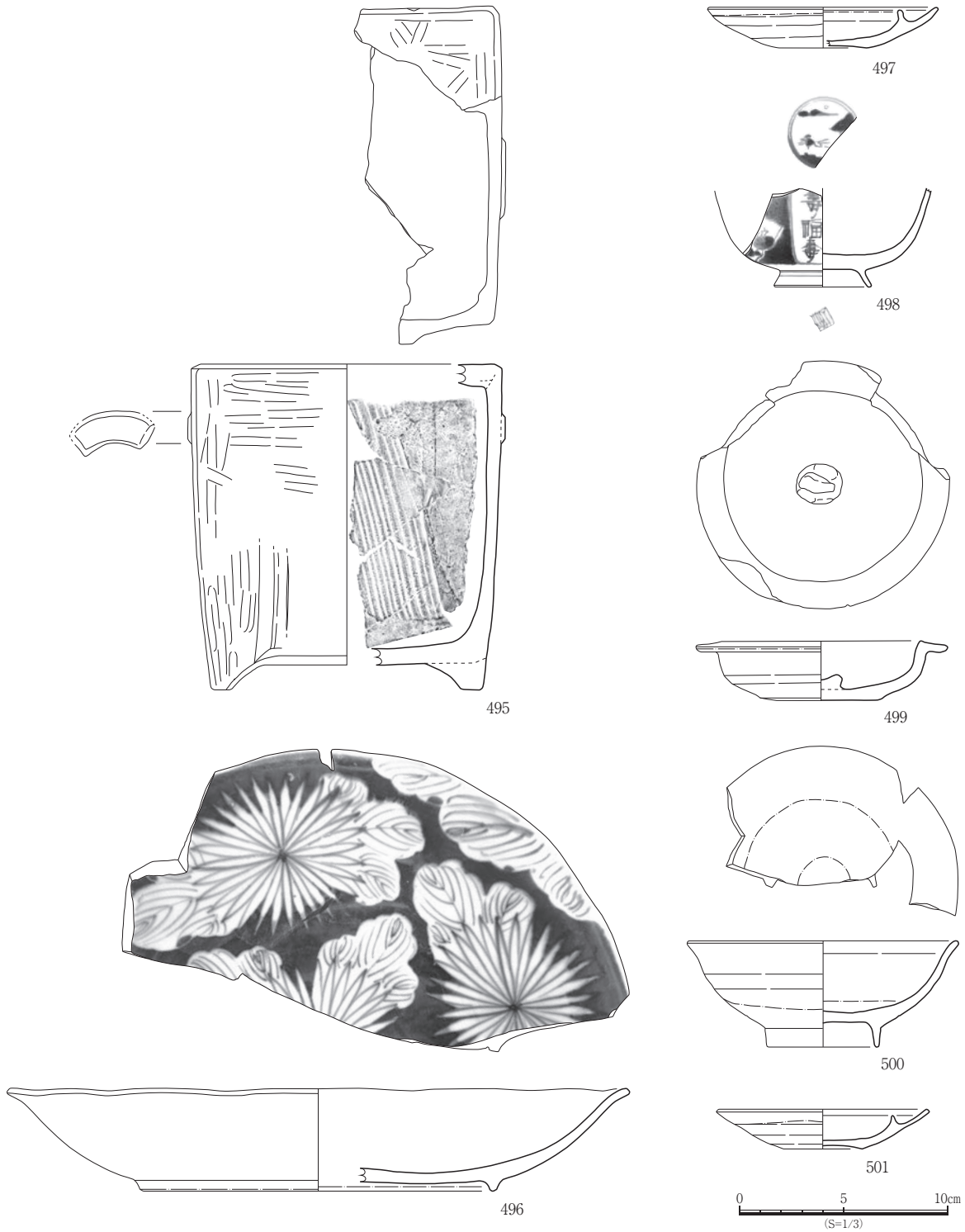


図221　8－2区　SK28　出土遺物実測図_2

SK24

SK24は8－2区，SK21の西側で検出したハンダ土坑である。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸約1.41m，短軸約1.08m，深さ約33cmを測る。土坑内面に厚さ約5cm程度にハンダを搗き固める。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂他で，間にハンダ片を多く含む明褐色シルト混じる細粒砂が堆積する。

図示した出土遺物はない。

SK25

SK25は8－2区で検出した土坑である。西側をSD3によって削平される。平面形は長方形を呈し，

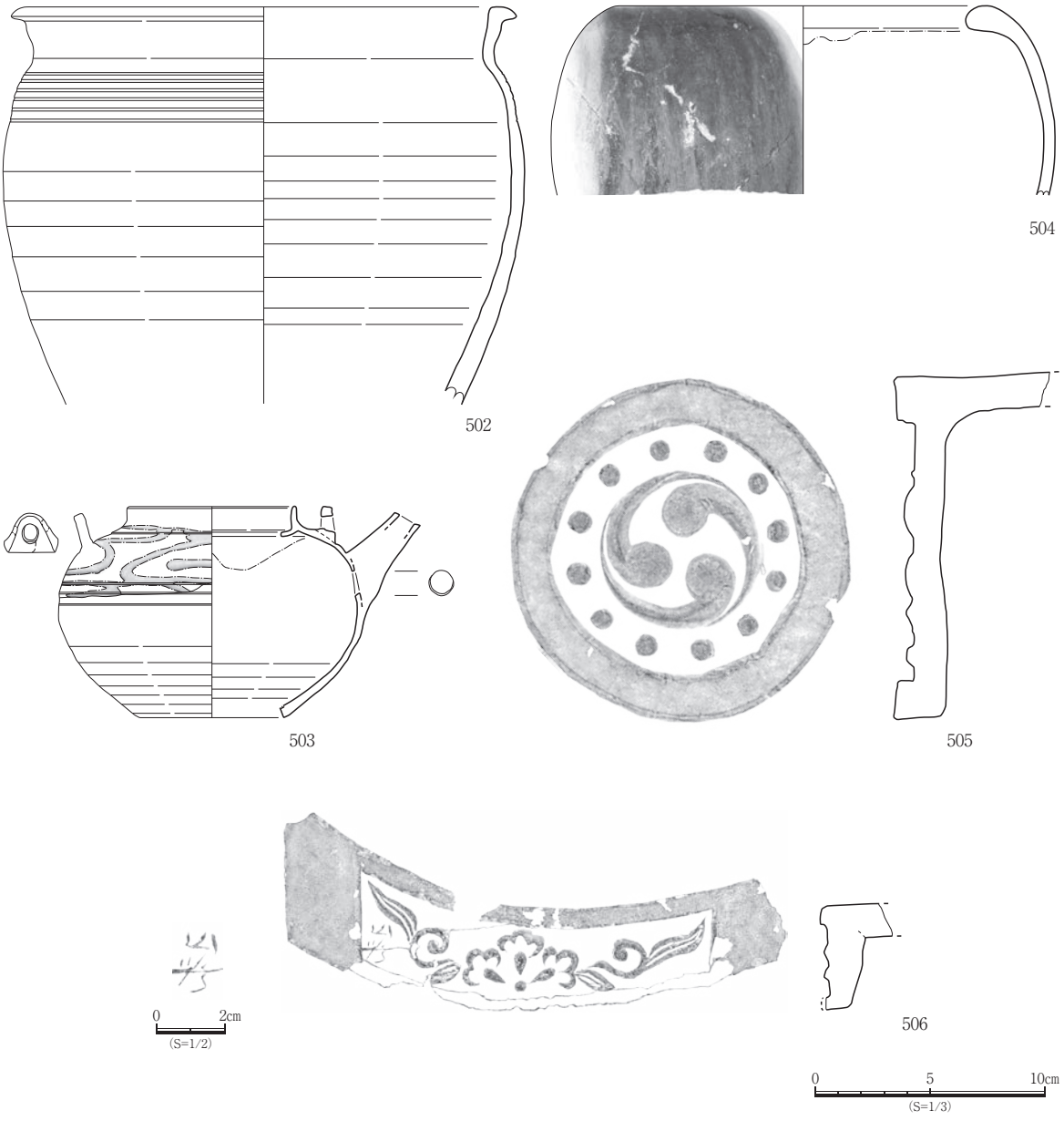


図222　8－2区　SK28　出土遺物実測図_3

規模は長軸約1.98m以上，短軸約1.87m，深さ約55cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，磁器紅皿(471)・碗(472・473)・鉢(474)・杯(475・476)・壺(477)，陶器菊皿(478)・摺鉢(479)・水滴(480)，砥石(481)である。

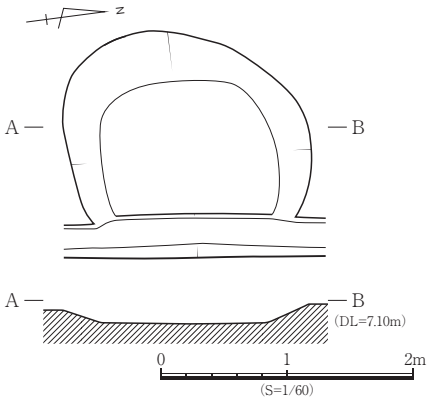


図223　8－2区　SK29
平面図・エレベーション図

471は磁器紅皿である。白磁釉が施され，型打成形である。472は磁器広東碗である。透明釉が施される。外面に風景文か。見込みに一重圏線，「寿」文の染付がみられる。473は磁器碗である。透明釉が施される。外面に花文・唐草文，腰に二重圏線，外高台に一重圏線，内口縁に梅文，内腰部に一重圏線，見込みに二重圏線・花菱・唐草文の染付がみられる。474は磁器八角鉢である。透明釉が施される。外面に雲文・宝文，外高台に一重圏線。内面に藤文・一重圏線。475は磁器杯である。透明釉が施され，外面に砂が付着する。476は磁器杯である。透明釉が施され，外面に笹文の染付がみられる。内面に砂が付着する。477は磁器壺である。白磁釉が施される。肩部は被熱する。478は陶器菊皿である。灰釉が施される。型打成形である。479は陶器摺鉢である。11条単位のスリ目が施される。480は陶器水滴である。茄子を模している。ヘタに緑釉，体部には暗赤褐釉が施される。型打成形である。481は砥石である。砂岩。

SK26

SK26は8－2区で検出した土坑である。上面はやや削平され，北側は調査区外へ続く。平面形はやや円形を呈し，規模は直径約2.21m，深さ約57㎝を測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，土師質土器小皿(482・483)，磁器碗(484)・水滴(485)，陶器蓋(486)・碗(487)である。

482・483は土師質土器小皿である。ロクロ成形である。483はタールが付着し，内底は被熱する。灯

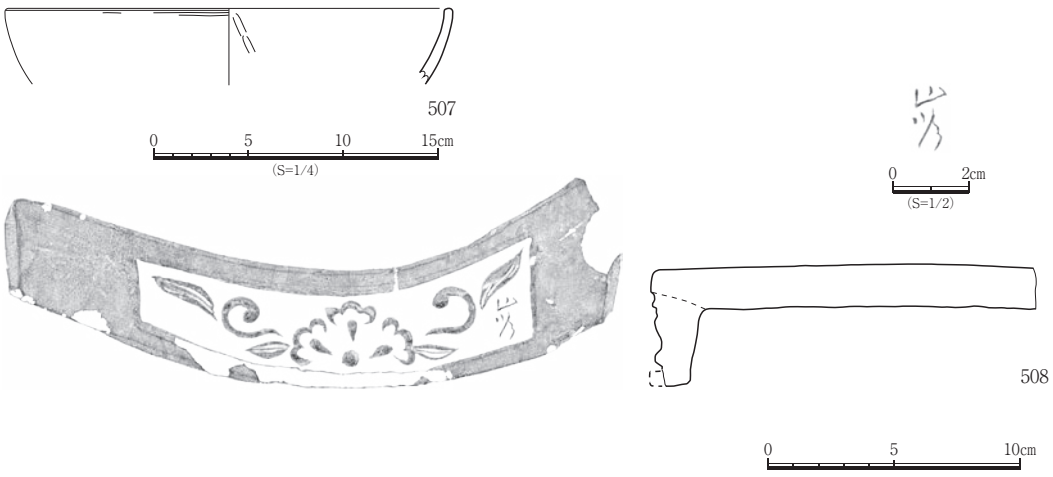


図224　8－2区　SK29　出土遺物実測図

明皿として使用されたと考えられる。484は磁器碗である。透明釉が施され，貫入は顕著である。外面には宝文・芭蕉文，外高台に二重圏線，高台内に「サ」銘，内面口縁に一重圏線，見込みに一重圏線と雁金文の染付がみられる。485は磁器水滴である。透明釉が施される。型打ちによる陽刻の麻の葉文・桃文，染付による雷文がみられる。焼成前に2箇所穿孔がみられる。486は陶器蓋である。外面に灰釉が施され，内面は釉剥される。487は陶器碗である。内面から外面高台付近に鉄釉が施される。削り出し高台である。

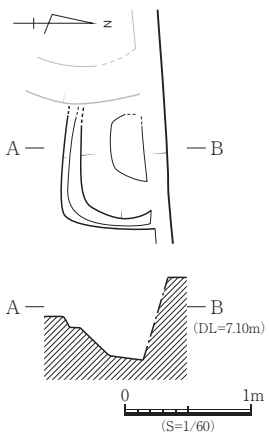


図225　8－2区　SK31
平面図・エレベーション図

SK28

SK28は8－2区で検出した土坑である。ST12を切る。平面形は不整円形を呈し，規模は直径約2.15m，深さ約48cmを測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトにハンダブロックを含む。

図示した出土遺物は，土師質土器蓋(488)・皿(489)・焙烙(490)・火消壺(491)・焜炉(492)・火鉢(493・494)，瓦質土器焜炉(495)，磁器稜花皿(496)・灯明受皿(497)・碗(498)，陶器蓋(499)・皿(500)・灯明受皿(501)・甕(502)・土瓶(503)・火鉢(504)，軒丸瓦(505)・軒桟瓦(506)である。

488は土師質土器蓋である。摘みは貼り付けられる。天井部回転糸切り。489は土師質土器皿であ

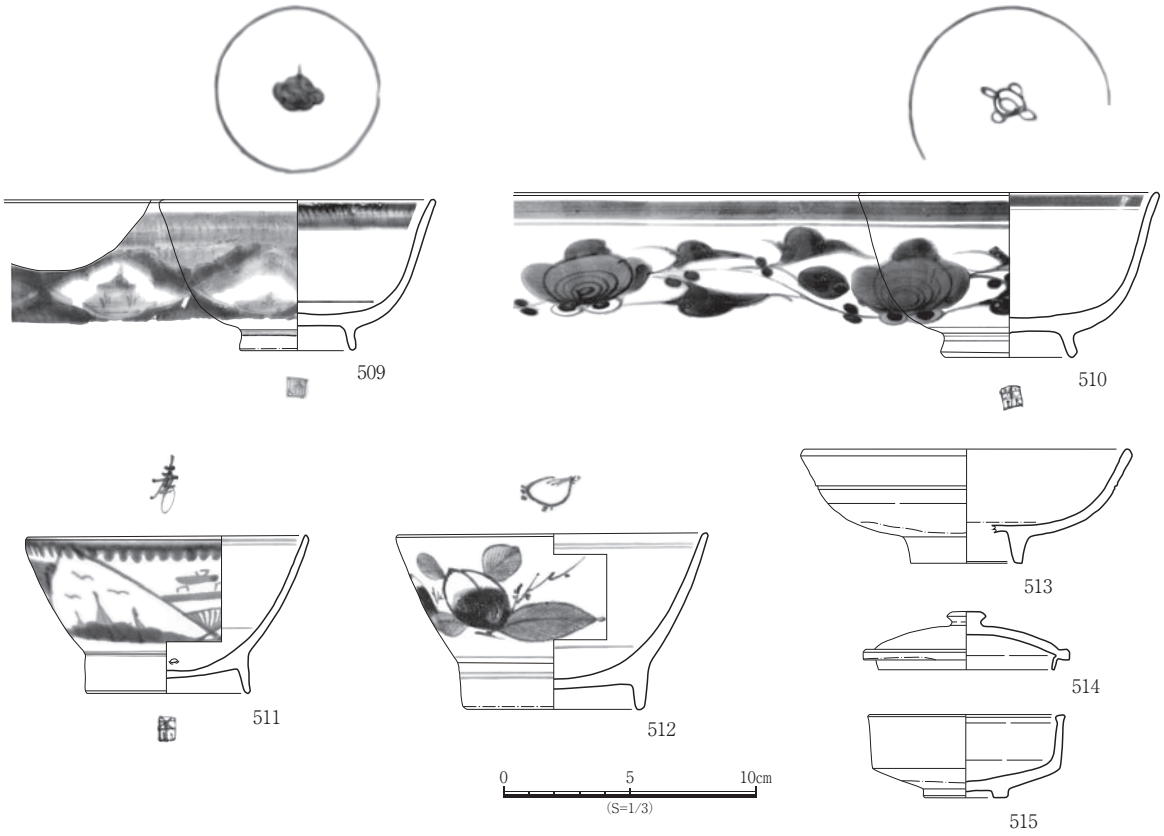


図226　8－2区　SK31　出土遺物実測図

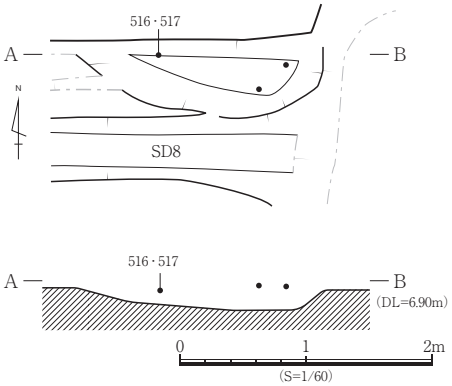


図227　8－2区　SK40
平面図・エレベーション図

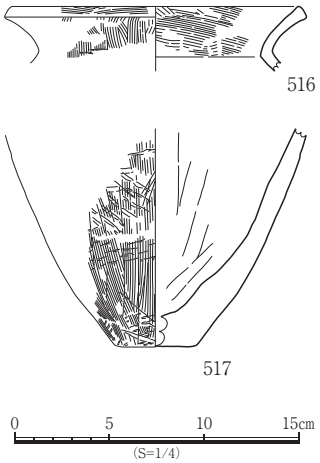
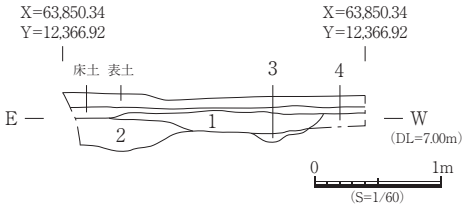


図228　8－2区　SK40　出土遺物実測図



遺構埋土
1. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト(溝跡か)
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト(SD1)
3. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに
明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトの地山ブロックを
少量含む(SD2)
4. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト(遺物包含層または溝跡)

図229　8－1区　SD1・2　断面図

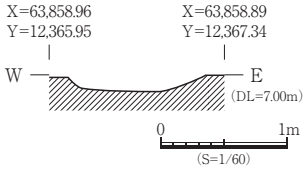


図230　8－1区　SD1
エレベーション図

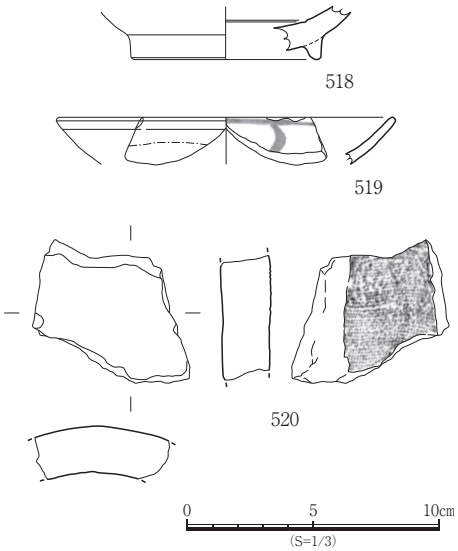


図231　8－1区　SD1　出土遺物実測図

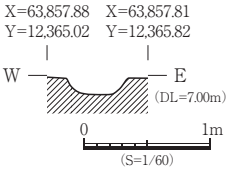


図232　8－1区　SD2　エレベーション図

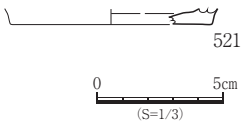


図233　8－1区　SD2　出土遺物実測図

る。口縁部が歪む。精選された胎土である。490 は土師質土器焙烙である。口縁部にタールが付着する。491 は土師質土器火消壺である。円筒形を呈し，外面はナデ調整である。内面に指頭圧痕が残り，ナデ調整である。492 は京都系白色系土師質土器焜炉である。円筒形を呈し，二重構造になる。窓上部に印刻が残る。493 は土師質土器火鉢である。円筒形を呈し，内外面はナデ調整である。494 は土師質土器火鉢である。外面はナデ調整，内面はハケ状工具による調整である。内面に煤が付着する。495 は瓦質土器焜炉である。窓部分が肥厚する。外面はミガキが顕著であり，側面に扇状突起が，底部には脚が貼り付けられる。内面はタテハケによる調整が顕著である。496 は磁器稜花皿である。見込みは菊文の染付がみられる。高台内にハリ痕が残る。497 は磁器灯明受皿である。白磁釉が施され，受部は釉剥される。498 は磁器碗である。透明釉が施され，外面に「寿福寿」文・窓絵に船文，外高台に二重圏線，高台内に「茶山」銘，見込みは二重圏線に山水文の染付がみられる。499 は陶器蓋である。橙釉に一部緑釉が施される。摘みは貼り付けられ，天井部は回転糸切りである。500 は陶器皿である。内面から外面高台付近にかけて鉄釉が施され，見込みは蛇ノ目釉剥され，そこに重ね焼き痕が残る。削り出し高台である。501 は陶器灯明受皿である。白磁釉が施され，底部は露胎である。見込みから外口縁にかけてタールが付着し，灯明皿として使用されたと考えられる。502 は陶器甕である。柿釉に鉄釉を掛け流す。肩部に 6 条の沈線が施される。503 は陶器土瓶である。外面に灰釉掛け流し。内面に鉄釉が施される。504 は陶器火鉢である。瀬戸・美濃焼である。外面に灰釉後緑釉が施され，内面は露胎である。505は軒丸瓦である。瓦当に右巻三ツ巴，珠文12個がみられる。瓦当裏はナデ調整である。506 は軒桟瓦である。瓦当に三子葉文，唐草文がみられる。銘あり。

SK29

SK29 は 8 － 2 区で検出した土坑である。ST11 を削平して掘られる。平面形は不整円形を呈し，検出規模は長軸約 1.45m，短軸約 1.92m，深さ約 23 ㎝を測る。埋土は暗褐色（10YR3/3）細粒砂質シルト

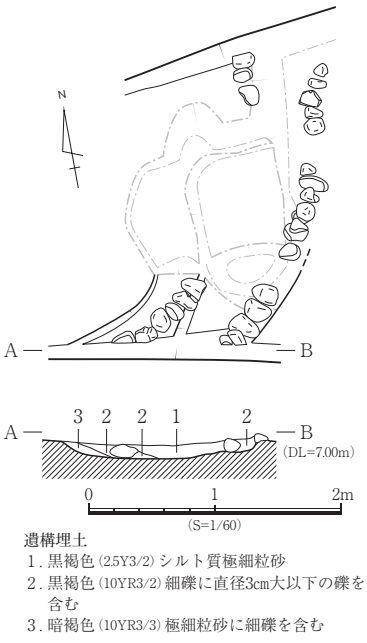


図234　8 － 2区　SD3　平面図・断面図

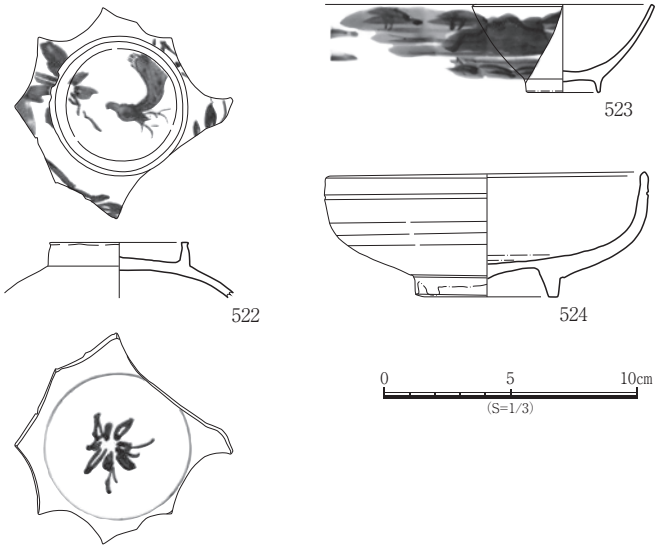


図235　8 － 2区　SD3　出土遺物実測図

である。

図示した出土遺物は，弥生土器鉢(507)，軒桟瓦(508)である。

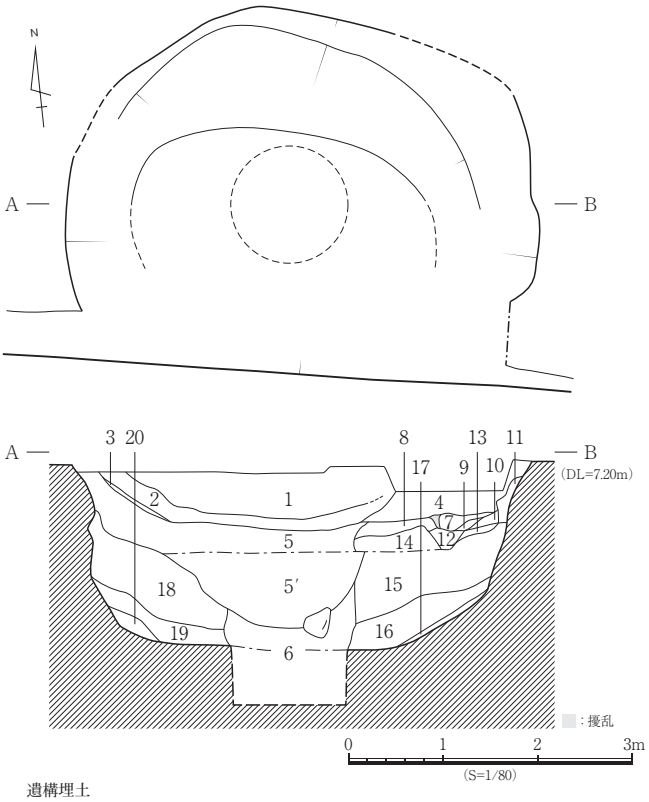
507は弥生土器鉢である。内面にヘラ状工具によるミガキ調整が施される。508は軒桟瓦である。瓦当に三子葉文，唐草文。銘あり。

SK31

SK31は8－2区で検出した土坑である。北側は調査区外に続き，SD4を切る。平面形は不整円形を呈し，検出規模は長軸の検出長は約0.95m，短軸約0.80m，深さ約38㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は，磁器碗(509～512)，陶器皿(513)・合子(514･515)である。

509は磁器碗である。透明釉が施される。外面は帯文・蓮弁文・窓に山水文・船文，外高台に二重圏線，内面口縁に帯文・蓮弁文，見込みに一重圏線に雲文，高台内枠に「茶」銘の染付がみられる。510は磁器碗である。透明釉が施される。外面に帯文・一重圏線・草花文，腰に一重圏線，外高台に二重圏線，内面口縁に帯文・一重圏線，見込みに宝文と一重圏線，高台内枠に「茶」銘の染付がみられる。内面は被熱する。511は磁器広東碗である。透明釉が施される。外面に波文，扇の窓絵に船文・網干文，腰折に二重圏線，内面は口縁に二重圏線，腰折に一重圏線，見込みに一重圏線と「寿」文，高台内枠に「茶」銘の染付がみられる。ハリ痕が3箇所残る。512は磁器広東碗である。透明釉が施される。外面に桃文，腰折に一重圏線，外高台に二重圏線。内面口縁に二重圏線，腰折に一重圏線。見込みに一重圏



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに直径10cm大の河原石を少し含み，直径2cm大以下の河原石をやや多く含む
2. 褐褐色(10YR4/1)細粒砂質シルトに直径10cm大の河原石を少し含み，直径2cm大以下の河原石をやや多く含む
3. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト
4. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト・にぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂質シルトが層状・ブロック状に混じる
5. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト・黄褐色(2.5Y5/3)粗粒砂質シルトに直径3cm大以下の河原石を多く含む
5′. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに直径20cm大の河原石を少し含み，直径10cm大の河原石をやや多く含み，直径3cm大以下の河原石を多く含み，直径10cm大の割れ石を極少含む
6. 褐灰色(10YR4/1)粗粒砂質シルトに直径10cm大の河原石を極少含み，直径3cm大の河原石を少し含み，直径1cm大の河原石をやや多く含む
7. 黒色(2.5Y4/2)中粒砂質シルトに直径1cm大の河原石を少し含み，にぶい黄褐色(10YR5/4)粗粒砂質シルトブロックを少し含む
8. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR5/4)細粒砂質シルトのブロックを少し含む
9. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに黄褐色(2.5Y5/3)細～中粒砂質シルトを含み，直径1cm大以下の河原石をやや多く含む
10. 明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト
11. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR5/4)地山ブロックを少し含む
12. 黄褐色(2.5Y5/3)細～中粒砂質シルト
13. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトと灰黄褐色(10YR4/2)粗粒砂質シルトがやや層状に混じる
14. 暗灰黄褐色(2.5Y5/2)中粒砂質シルトににぶい黄褐色(10YR6/4)細粒砂質シルトブロックと直径3cm大の河原石を少し含み，直径1cm大以下の河原石をやや多く含む
15. 明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト
16. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトと黄灰色(2.5Y5/1)細粒砂質シルトが互層状に堆積し直径2cm大の明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトのブロックを少し含む
17. 暗灰黄褐色(2.5Y5/2)中粒砂質シルトに直径1cm大の河原石を多く含む
18. 黄褐色(2.5Y5/3)細～中粒砂質シルトに直径10cm大以下の河原石を多く含み，直径3cm大の黒色(10YR2/1)～黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトブロックを少し含む
19. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトと黄褐色(2.5Y5/3)細～中粒砂質シルトがブロック状に混じる部分と層状に入る(互層的に)部分があり，直径2cm大以下の河原石を少し含む
20. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに直径1cm大の明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト

図236　8－1区　SE1　平面図・断面図

線，貝文。513は陶器皿である。内面から外面高台付近に鉄釉が施され，見込みは蛇ノ目釉剥され，重ね焼き痕が残る。外面に1条の沈線がみられる。削り出し高台である。514は陶器合子蓋である。灰白釉が施され，内面は釉剥される。515は陶器合子身である。灰白釉が施され，口縁は釉剥される。高台付近は無釉である。

SK40

SK40は8－2区で検出した土坑である。ST13の南西で検出した。北側は調査区外に続き，南はSD8に切られ，東は撹乱に切られる。平面形はやや楕円形である。検出規模は長軸約1.98m，短軸は検出長約0.57m，深さは約36cmを測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂である。

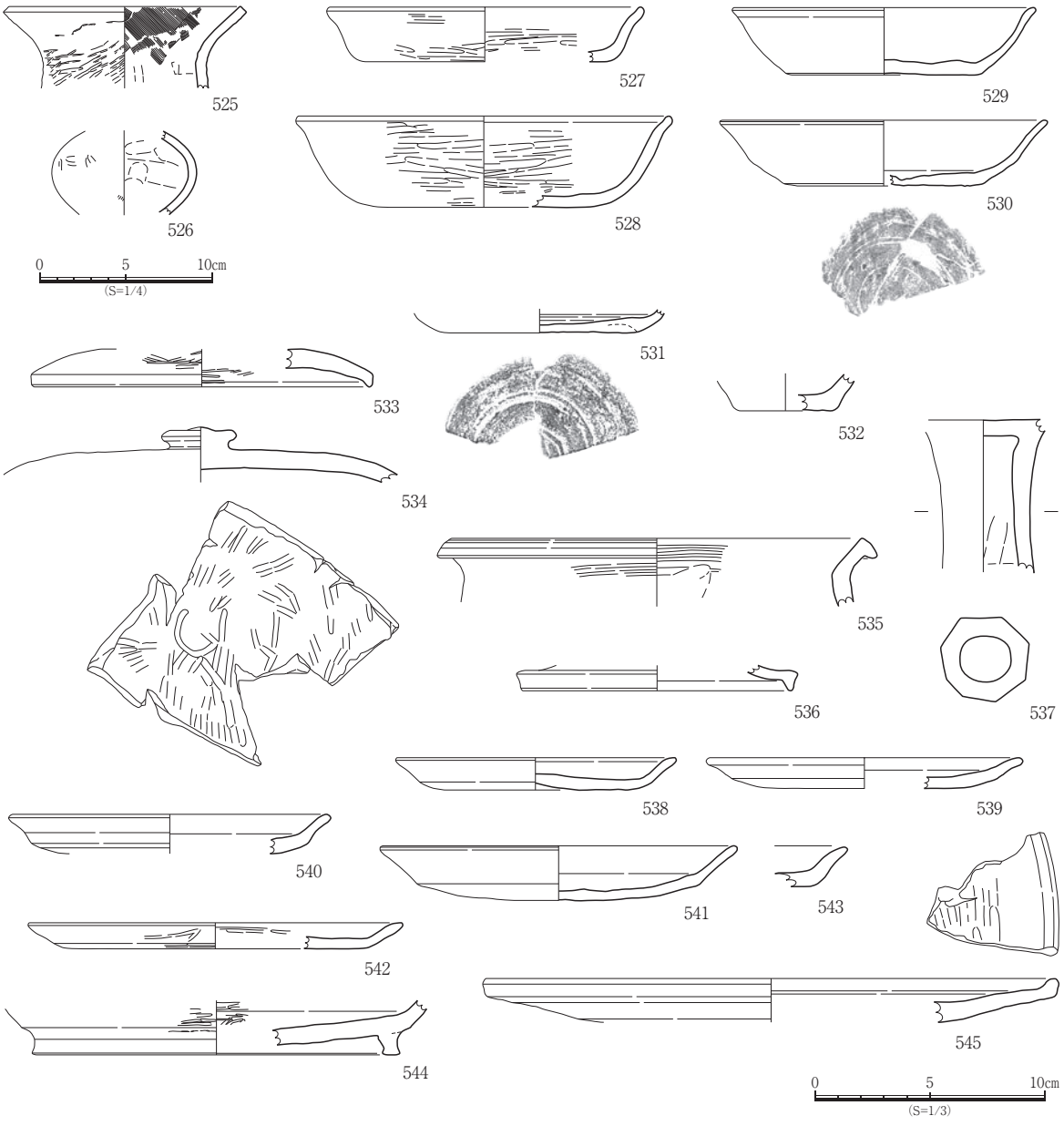


図237　8－1区　SE1　出土遺物実測図_1

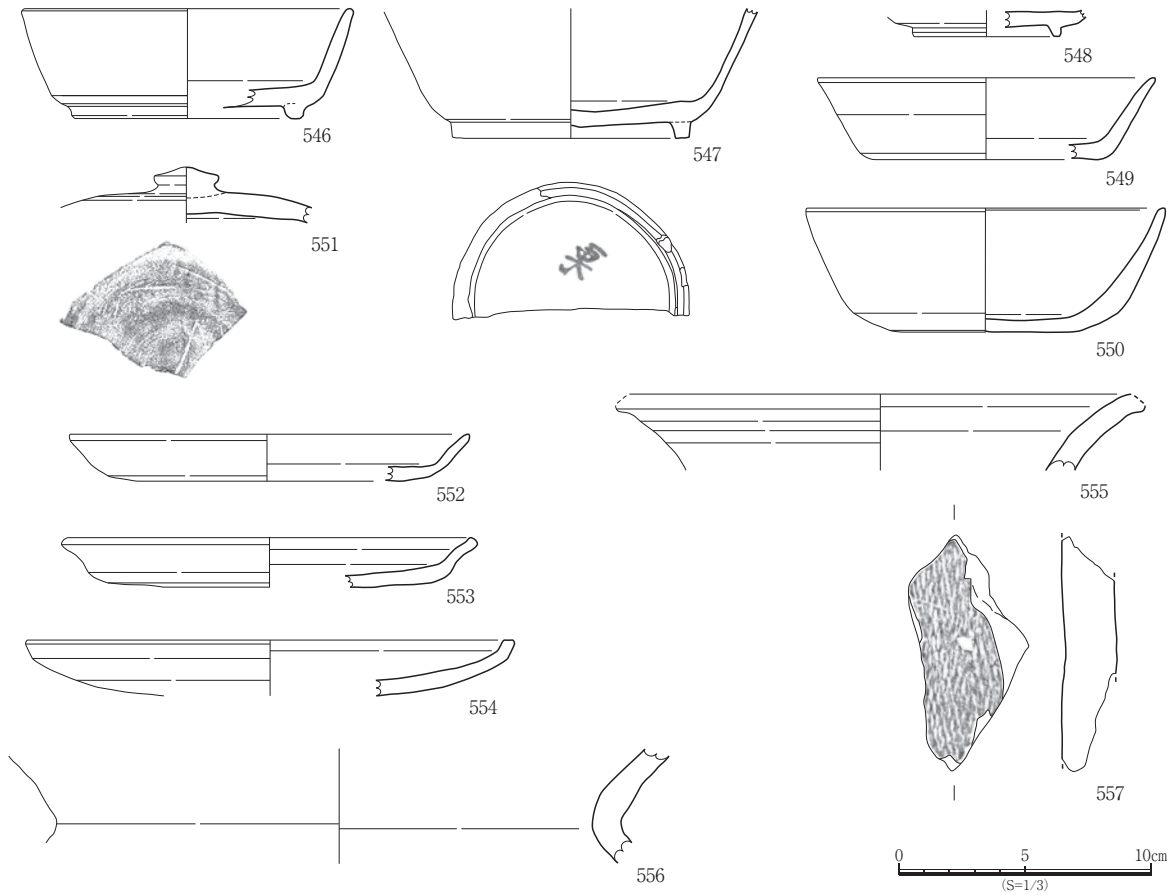
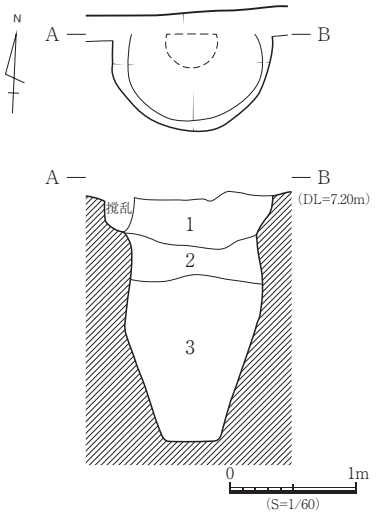


図238　8－1区　SE1　出土遺物実測図_2



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに直径10cm以下の礫を少量含み直径1cm前後の礫を多く含む
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに直径10cm以下の礫を多く含む
3. 暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂に直径10cm以下の礫を少量含む

図239　8－1区　SE2　平面図・断面図

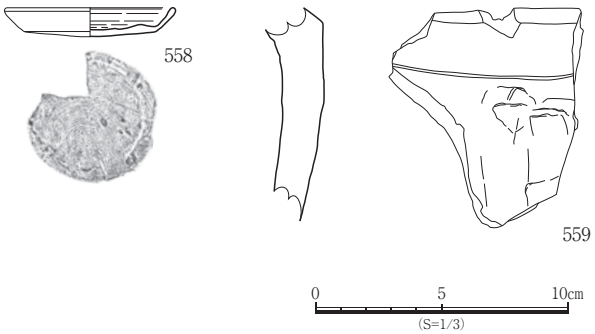


図240　8－1区　SE2　出土遺物実測図

図示した出土遺物は，弥生土器甕(516・517)である。

516は弥生土器甕である。口唇部はハケによる面取りが施される。口縁部外面はタタキ後タテハケ調整，内面はヨコハケ調整である。517は弥生土器甕である。角の取れた平底を呈し，体部外面はタタキ後タテハケ調整，内面はナデ調整される。内底に指頭圧痕が残る。

5.SD

SD1

SD1は8－1区で検出した溝跡である。SD2と並行し，ST1を切り，南方向は調査区外へのびる。幅0.91～1.25m，検出面からの深さは15～21cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。検出長は約11.71mである。主軸方向はN－1°－Eである。

図示した出土遺物は，緑釉陶器(518)，陶器皿(519)，丸瓦(520)である。

518は緑釉陶器である。見込みに沈線がみられるが，摩耗が顕著である。519は陶器皿である。内面から外面口縁にかけて施釉される。520は丸瓦である。凸面に切り離し痕，凹面に布目圧痕が残る。

SD2

SD2は8－1区で検出した溝跡である。SD1と並行し，ST1を切り，南方向は調査区外へのびる。幅35～66cm，検出面からの深さは4～11cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。検出長は約10.83mである。主軸方向はN－1°－Eである。

図示した出土遺物は，土師質土器皿(521)である。ロクロ成形であり，底部は回転糸切りである。

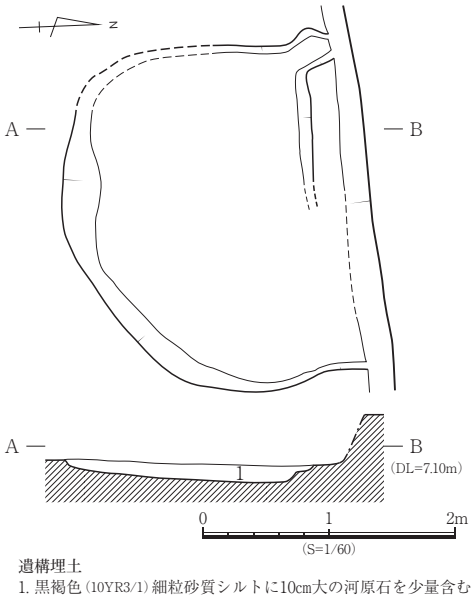


図241　8－1区　SX1　平面図・断面図

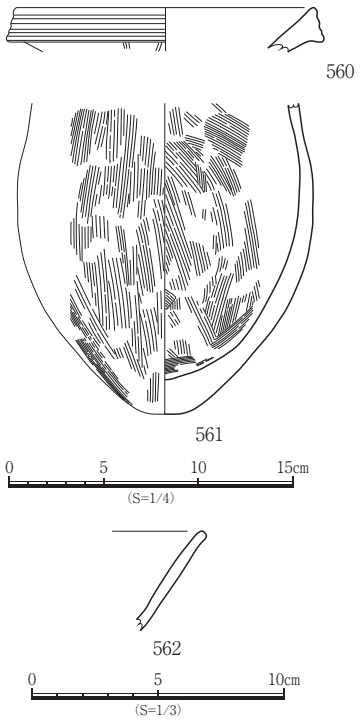


図242　8－1区　SX1　出土遺物実測図

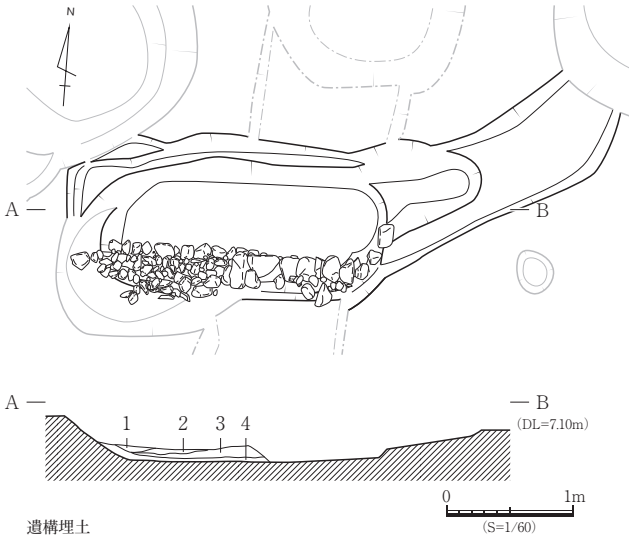


図243　8－2区　SX2　平面図・断面図

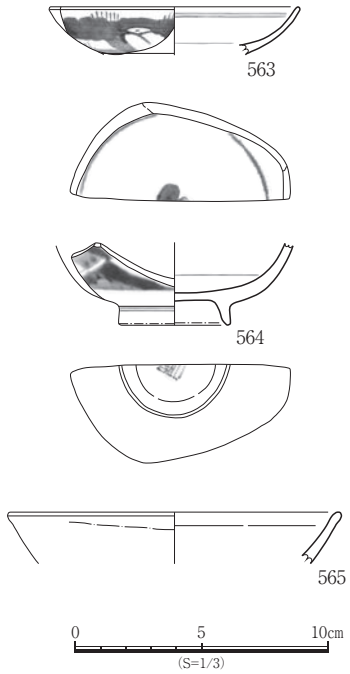


図244　8－2区　SX2　出土遺物実測図

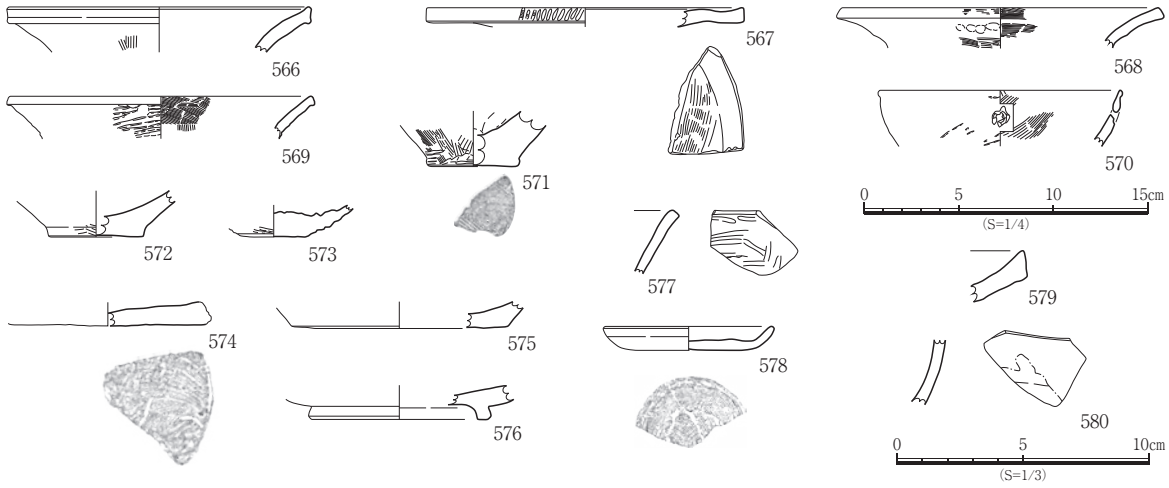


図245　8区　ピット　出土遺物実測図

SD3・9

SD9は8－2区で検出した石組を伴う溝跡である。西側中央を現代の撹乱によって削平される。僅かに蛇行する南北方向の溝で，規模は幅約1.12m，深さ約12㎝，検出長は約2.34mを測る。主軸方向はN－27°－Eである。石組はチャートの円礫で構築される。1段分を確認したが，東側中央では2段に重なる箇所があり，造営時は2段以上であったと考えられる。石組は，東側は溝壁面に沿うが，西側では壁面より約0.40m内側に位置しており，当初は素掘り溝(SD3)埋没後に石組を付設(SD9)したと考えられる。掘方の埋土は暗褐色(10YR3/3)極細粒砂，石列に伴う埋土は黒褐色(2.5Y3/2)シルト含む極細粒砂である。石組の裏込め土は黒褐色(10YR3/2)細礫で径1～3㎝大の礫を含む。

図示した出土遺物は，磁器蓋(522)・杯(523)，陶器皿(524)である。

522は磁器蓋である。透明釉が施される。外面鹿文・草文，天井部に一重圏線・草文の染付がみられる。523は磁器杯である。透明釉が施される。外面に山水文の染付がみられる。524は陶器皿である。内面から外面高台付近にかけて鉄釉が施され，見込みは蛇ノ目釉剥される。外面に1条の沈線がみられる。

6.SE

SE1

SE1は8－1区で検出した井戸跡である。SK14，撹乱に切られ，ST8を切る。南側は調査区外へのびる。検出面での規模は長軸約5.01m，短軸の検出長は約3.44mを測り，不整円形を呈すると推測される。検出面から約2.00mまではこの規模で掘られる。ほぼ中央には直径約1.20mの円形で一段深く，検出面から約2.62mまで掘削されており集水部であったと推測される。井戸枠等の部材は残っていなかった。掘削深度が深くなることから小段を設けて掘削し，埋土の観察および断面図の作成を行った。そのため断面図として整合がとれなかった部分がある。埋土は図236に示した通りであり，18～20，14～17は井筒の設置時の掘方埋土であり，これらより上層は廃絶後の埋土と考えられる。西側を掘削して井戸枠等を抜き取ったと考えられる。東部分はやや複雑な堆積を示しているものの，井筒の設置時状況がより残されている可能性がある。

図示した出土遺物は，弥生土器壺(525・526)，土師器杯(527～532)・蓋(533・534)・甕(535)・高杯(536・537)・皿(538～544)・盤(545)，須恵器杯(546～550)・蓋(551)・皿(552・553)・盤(554)・甕(555・556)，平瓦(557)である。

525は弥生土器壺である。口唇部は面取りされる。口縁部と頸部の外面はタタキ調整後指頭成形，内面はナナメハケ調整，もしくはナデ調整である。526は弥生土器壺である。外面は丁寧なナデ調整，内面はナデ調整に一部指頭圧痕が残る。527は土師器杯である。ヨコミガキが顕著である。528は土師器杯である。内外面はミガキ調整である。底部はヘラ切り後ミガキ調整である。529は土師器杯である。回転ナデ調整である。底部は回転ヘラ切りされる。530は土師器杯である。回転ナデ調整である。底部は回転ヘラ切り後ナデ調整，見込みは仕上げナデ調整される。531は土師器杯である。底部は回転ヘラ切り痕跡がみられる。全体は摩耗する。532は土師器杯である。底部はヘラ切りされる。533は土師器蓋である。端部はルーズな面取りが施される。外面はヨコナデ調整とミガキ調整である。534は土師器蓋である。体部は回転ナデ調整である。摘みが貼り付けられ，接着点は棒状の工具により調整される。535は土師器甕である。口唇部に2条の凹面がみられる。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はヨコハケ調整である。頸部外面はヨコハケ調整，内面はヨコナデ調整である。煤が付着する。536は土師器高杯である。回転ナデ調整である。537は土師器高杯である。杯部の底面はミガキ調整，脚部は八角形に面取りされ，内面にねじり痕が残る。538は土師器皿である。外底部はヘラ切り後ナデ調整が施される。539は土師器皿である。回転ナデ調整である。540は土師器皿である。回転ナデ調整である。見込みはナデ後ミガキ調整が施される。底部はナデ調整である。541は土師器皿である。外底部はヘラ切り後ナデ調整が施される。542は土師器皿である。回転ナデ後ミガキ調整が施される。見込みに暗文が残る。底部はヘラ切り後ナデ調整である。544は土師器皿である。底部はヨコミガキ調整が顕著であり，高台周辺はヨコナデ調整される。545は土師器盤である。口唇部は回転ナデ後ミガキ調整される。546は須恵器杯である。回転ナデ調整である。高台内はナデ調整される。547は須恵

器杯である。回転ナデ調整である。底部はヘラ切り後高台が貼り付けられる。畳付は凹面状に凹む。高台内に「東」の墨書がみられる。548 は須恵器杯である。回転ナデ調整である。見込みに仕上げナデ調整が残る。549 は須恵器杯である。回転ナデ調整である。底部はヘラ切り後ナデ調整される。火襷が残る。550 は須恵器杯である。口唇部は軽く面取りされる。回転ナデ調整である。底部外面はヘラ切り後ナデ調整，見込みはナデ調整である。煤が付着する。551 は須恵器蓋である。天井部は回転ナデ調整後にヘラ記号が刻まれる。552 は須恵器皿である。回転ナデ調整である。底部外面はヘラ切り後ナデ調整，見込みはナデ調整である。553 は須恵器皿である。回転ナデ調整である。底部は回転ヘラ切りされる。554 は須恵器盤か。回転ナデ調整である。555 は須恵器甕である。口唇部は荒れる。回

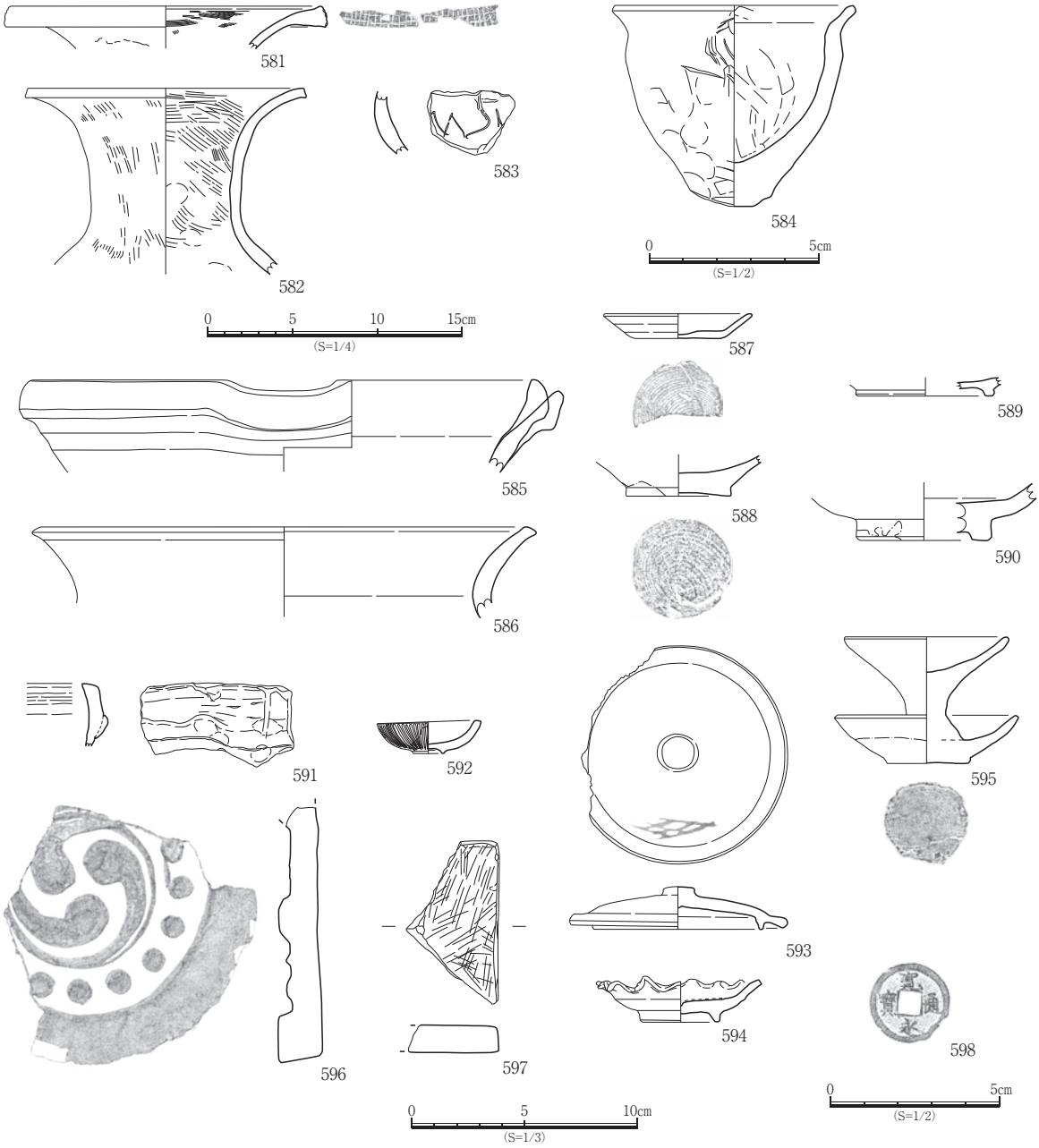


図246　8区　遺構外出土遺物実測図

転ナデ調整である。556は須恵器甕である。ヨコナデ調整である。557は平瓦である。凸面に縄タタキ調整痕跡，凹面に布目圧痕が残る。

SE2

SE2は8－1区で検出した井戸跡である。SX1を切り，北側は調査区外へのびる。直径約1.21mの円形を呈する。検出面からの深さは約2.02mであった。埋土は円礫を含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト，粗礫を含む暗褐色(10YR3/3)シルト質細粒砂他である。

図示した出土遺物は，土師質土器皿(558)，陶器壺あるいは甕(559)である。

558は土師質土器皿である。ロクロ成形である。底部は回転糸切りされる。559は陶器壺あるいは甕である。口唇部は面取りされ，口縁部はヨコナデ調整，体部はケズリ調整である。

7.SX

SX1

SX1は8－1区で検出した土坑である。SE2と撹乱に切られる。長軸は約2.76m，短軸の検出長は約2.25mを測り，検出面からの深さは約19㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は，弥生土器壺(560)・甕(561)，須恵器杯(562)である。

560は弥生土器壺である。口唇部に3条の凹線が残る。口縁部外面はタテハケ後ヨコナデ調整である。561は弥生土器甕である。丸底を呈する。体部外面はタテハケ調整，内面はナナメハケ調整である。562は須恵器杯である。回転ナデ調整である。

SX2

SX2は8－2区で検出した土坑である。SK28に北西の一部を削平される。平面形は溝状を呈するとみられ，規模は長軸の検出長4.42m，短軸の検出長0.71～1.32m，深さ7～42㎝である。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂他である。土坑南壁面に沿って北側に面をもつ幅約2.37mの石組を検出した。土坑床面から2段分は拳大のチャートを使用し，南側へ階段状に積み上げる。3段目は東半にのみ残存するが，人頭大のチャートが用いられる。2段目より北側へ突き出し，1段目に面を揃える。

図示した出土遺物は，磁器皿(563)・碗(564)，陶器皿(565)である。

563は磁器皿である。透明釉が施され，外面に鷺文，内口縁に二重圏線，見込みに一重圏線の染付がみられる。564は磁器碗である。透明釉が施され，外面に窓絵に雲文，外高台に二重圏線，高台内に「茶山」銘，見込みに一重圏線の染付がみられる。565は陶器皿である。内面から外面口縁部にかけて白磁釉が施される。

8.ピット

図示した出土遺物は，弥生土器壺・甕・鉢・底部，土師質土器杯・椀・皿，須恵器鉢，青磁碗である。

566はP36から出土した弥生土器壺である。口縁部外面はタテハケ後ヨコナデ調整，内面はナデ調整される。被熱する。567はP110から出土した弥生土器壺である。口唇部はハケ状原体による刻みが

施される。口縁部外面はヨコナデ調整もしくはナナメハケ調整，内面はヨコナデ調整である。568はP115から出土した弥生土器甕である。口唇部は面取りされる。口縁部はナデ調整，ヘラナデ調整される。内面はヨコハケ調整される。被熱する。569はP130から出土した弥生土器甕である。口唇部はルーズな面取りが施される。口縁部外面はタタキ調整後指頭成形され，内面はナナメハケ調整である。煤が付着する。570はP127から出土した弥生土器鉢である。口縁部外面はタタキ後ナデ調整，内面はナナメハケ調整である。穿孔がみられる。571はP99から出土した弥生土器底部である。平底を呈し，ハケ調整・ナデ調整により平滑になる。572はP129から出土した弥生土器底部である。平底を呈し，角は突出している。内外面ともにナデ調整である。内面にはハケメが残る。573はP125・130から出土した弥生土器底部である。角の取れた平底を呈し，外面はタタキ後ナデ調整される。擬口縁状になる。574はP27から出土した土師質土器杯である。回転糸切りである。575はP40から出土した土師質土器杯である。回転ナデ調整である。底部は回転糸切りか。576はP96から出土した土師質土器椀である。回転ナデ調整である。577はP136から出土した土師質土器椀である。口唇部は面取りされる。外面はミガキ調整である。578はP34から出土した土師質土器皿である。ロクロ成形である。底部は回転糸切りされる。579はP110から出土した須恵器鉢である。口縁部は回転ナデ調整である。外面に黒色物が塗布される。580はP49・51から出土した青磁碗である。貫入は細かい。

9.遺構外出土遺物

図示した出土遺物は，弥生土器壺･体部，ミニチュア土器，須恵器鉢･壺，土師質土器皿，緑釉陶器皿，瓦器椀，青磁碗，瓦質土器鍋，磁器紅皿，陶器蓋・稜花皿・台付灯明皿，軒丸瓦，砥石，銭貨である。

583は弥生土器体部である。タテハケ調整後ヘラによる線刻がみられる。587は土師質土器皿である。ロクロ成形である。底部は回転糸切りされる。歪む。灯明皿である。588は緑釉陶器皿である。外面は緑釉が施されるが一部剥離，退色する。底部は回転糸切りである。594は陶器稜花皿である。見込み中央は焼成前穿孔がみられる。高台付近は釉剥される。灯芯立か。

第4節　9区

1.SB

SB1

SB1は9－1区で検出した桁行3間(約5.07m)，梁行2間(約4.05m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約20.5㎡である。主軸方向はN－80°31′－Wである。P324・P331・P334・P366・P371・P379他で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整円形であり，検出面からの深さは4～43cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB2

SB2は9－1区で検出した掘立柱建物跡である。桁行2間(約3.95m)，梁行1間(約1.42m)以上を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN－84°40′－Wである。P343・P370他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整円形であり，検出面からの深さは5～22㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

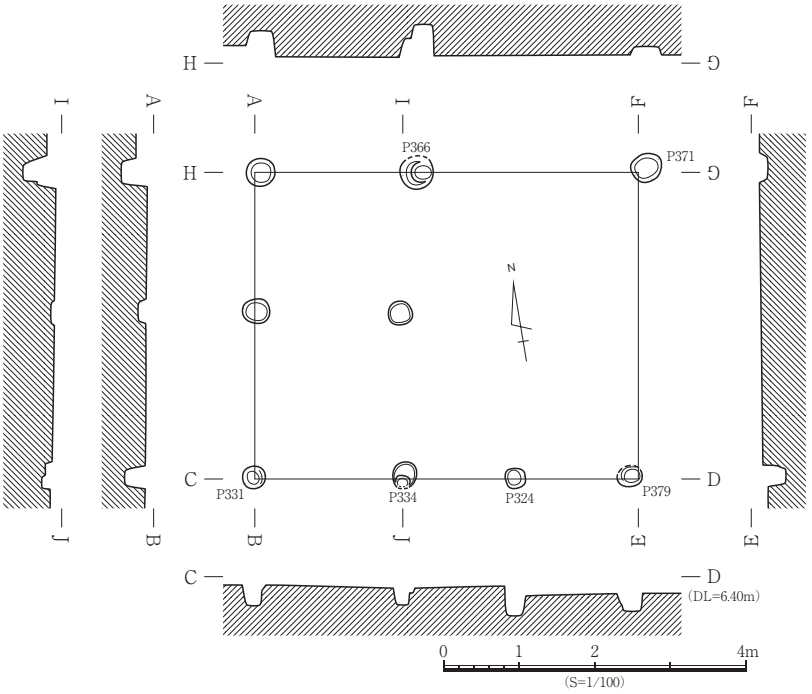


図247　9－1区　SB1　平面図・エレベーション図

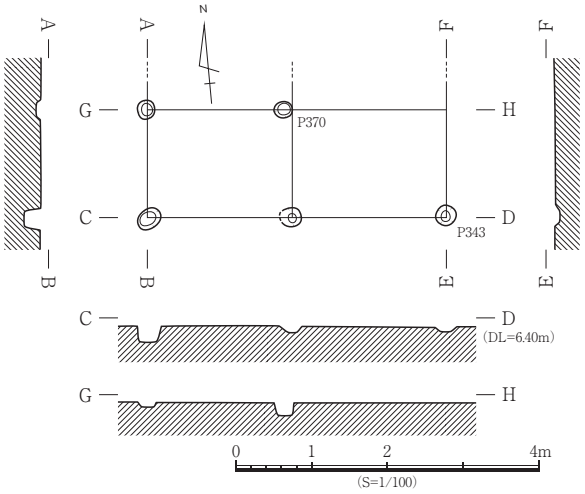


図248　9－1区　SB2　平面図・エレベーション図

SB3

SB3は9－1区で検出した掘立柱建物跡である。桁行2間(約4.73m)，梁行1間(約1.60m)以上を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN－84°12′－Wである。P367・P418・P579他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは13～29㎝で

ある。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

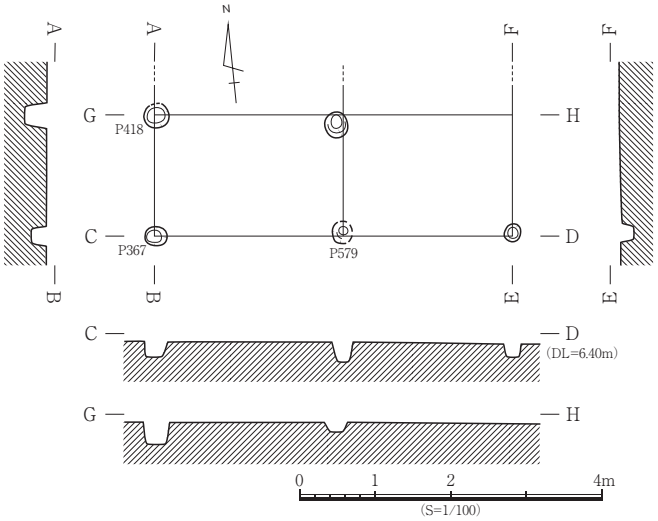


図249　9－1区　SB3　平面図・エレベーション図

SB4

SB4は9－1区で検出した桁行2間(約4.94m)，梁行2間(約3.24m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約16.0㎡である。主軸方向はN－80°36′－Wである。P438・P465・P564・P583他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは16～35cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

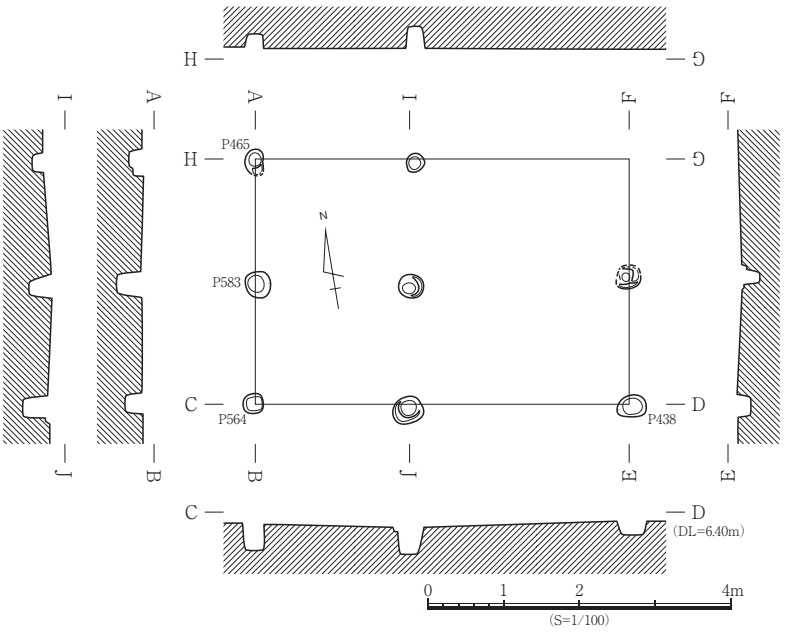


図250　9－1区　SB4　平面図・エレベーション図

SB5

SB5は9－1区で検出した桁行3間(約5.87m)，梁行2間(約4.14m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約24.3㎡である。主軸方向はN－88°20′－Wである。P344・P375・P378他で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは11～46cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB6

SB6は9－1区で検出した桁行2間(約4.94m)，梁行2間(約4.09m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約20.2㎡である。主軸方向はN－87°25′－Eである。P79・P382・P447他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは13～32cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB7

SB7は9－1区で検出した桁行2間(約4.70m)，梁行2間(約3.70m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約17.4㎡である。主軸方向はN－85° 29′ －Wである。P18あるいはP86・P26・P50・P175他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは9～70㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB8

SB8は9－1区で検出した桁行2間(約3.89m)，梁行2間(約3.89m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約15.1㎡である。主軸方向はN－2° 20′ －Eである。P21・P37・P52・P61・P90他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは11～18㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB9

SB9は9－1区で検出した桁行4間(約5.54m)，梁行2間(約3.07m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約17.0㎡である。主軸方向はN－78° 23′ －Eである。P11・P69・P74他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは7～30㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

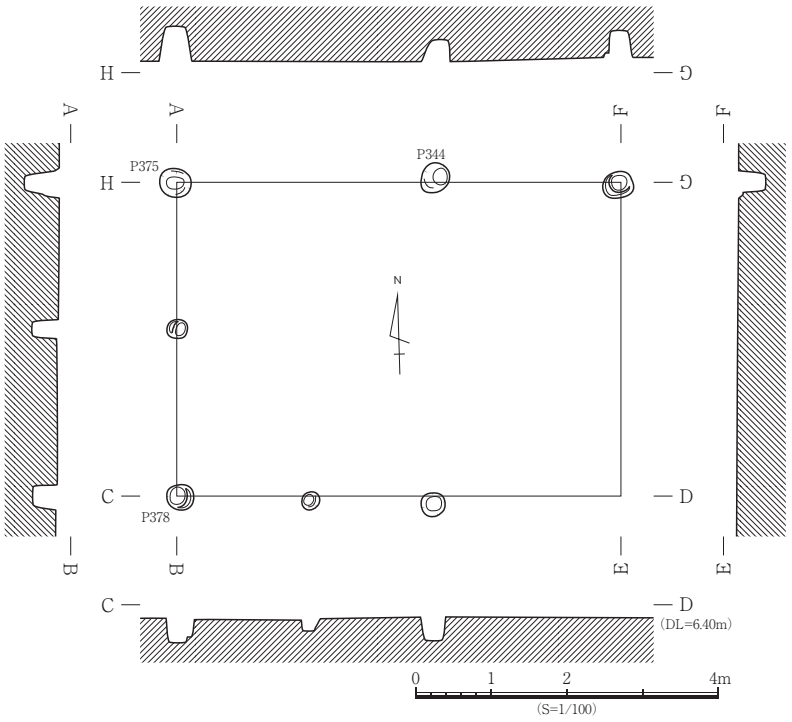


図251　9－1区　SB5　平面図・エレベーション図

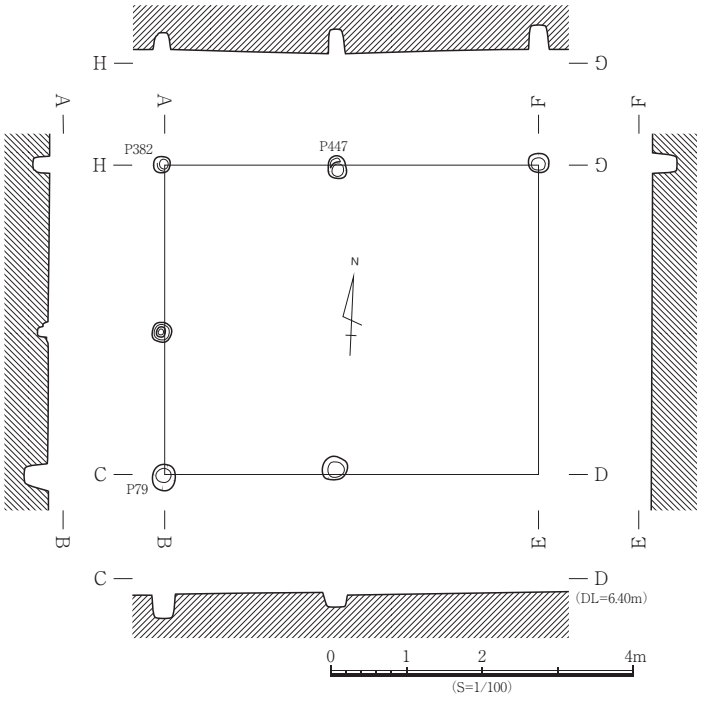


図252　9－1区　SB6　平面図・エレベーション図

SB10

SB10は9－1区で検出した桁行3間(約3.24m)，梁行1間(約3.07m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約9.9㎡である。主軸方向はN－75°49′－Wである。P41他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは10～19㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB11

SB11は9－1区で検出した桁行3間(約6.04m)，梁行2間(約3.50m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約21.1㎡である。主軸方向はN－88°10′－Wである。P2・P10・P12・P16・P62・P87・P120・P288他で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは11～31㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

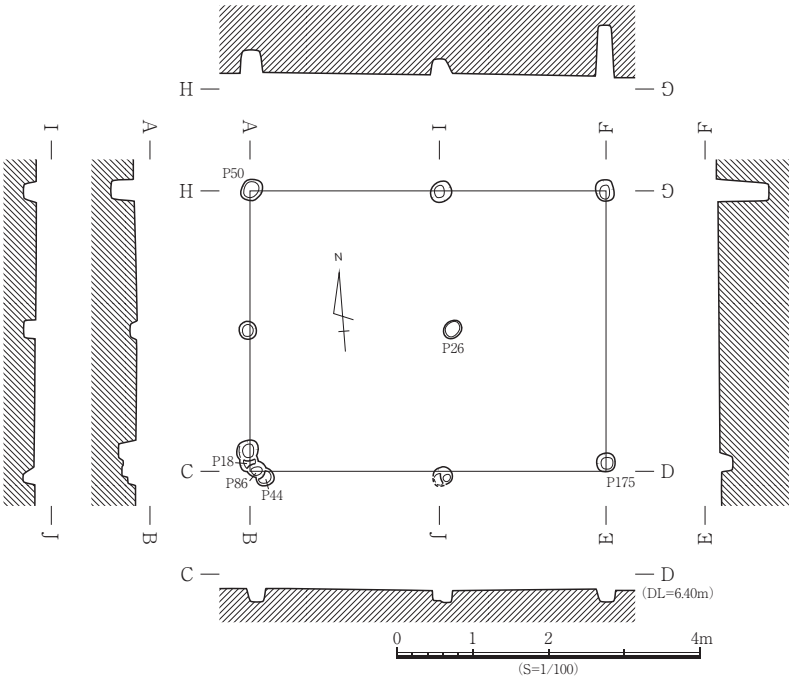


図253　9－1区　SB7　平面図・エレベーション図

SB12

SB12は9－1区で検出した桁行2間(約4.75m)，梁行2間(約3.71m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約17.6㎡である。主軸方向はN－81°57′－Wである。P19・P28・P46・P75・P89他で構成される。柱穴は直径約30㎝の不整形であり，検出面からの深さは11～23㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

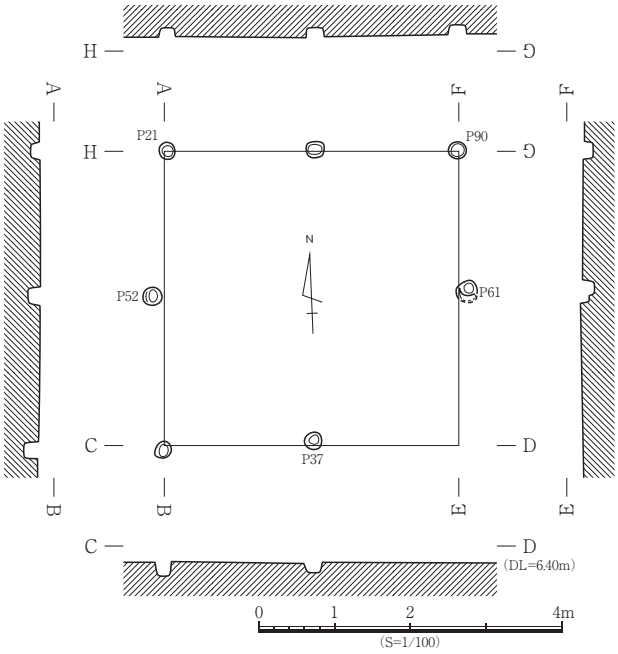


図254　9－1区　SB8　平面図・エレベーション図

SB13

SB13は9－1区で検出した桁行2間(約4.52m)，梁行2間(約4.06m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約18.3㎡である。主軸方向はN－2°47′－Eである。P46・P51・P60・P85他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは8～24cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB14

SB14は9－1区で検出した桁行2間(約3.85m)，梁行2間(約2.86m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約11.0㎡である。主軸方向はN－77°04′－Wである。P15・P23・P81・P118他で構成される。柱穴は直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは7～34cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。P118は柱を抜き取り後，土師質土器の杯が重ねて埋置されていた。601に600で蓋をするように口縁部どうしを合わせていた。なお，両者の空間からは何も出土しなかった。さらにこれらの土師質土器の下には2点の土師質土器が出土した。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(599)・杯(600～602)である。

599は皿である。口縁部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。ほぼ完存である。600は杯である。体部は斜め外方へ大きくひらき，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目がみられ，内底面は渦状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

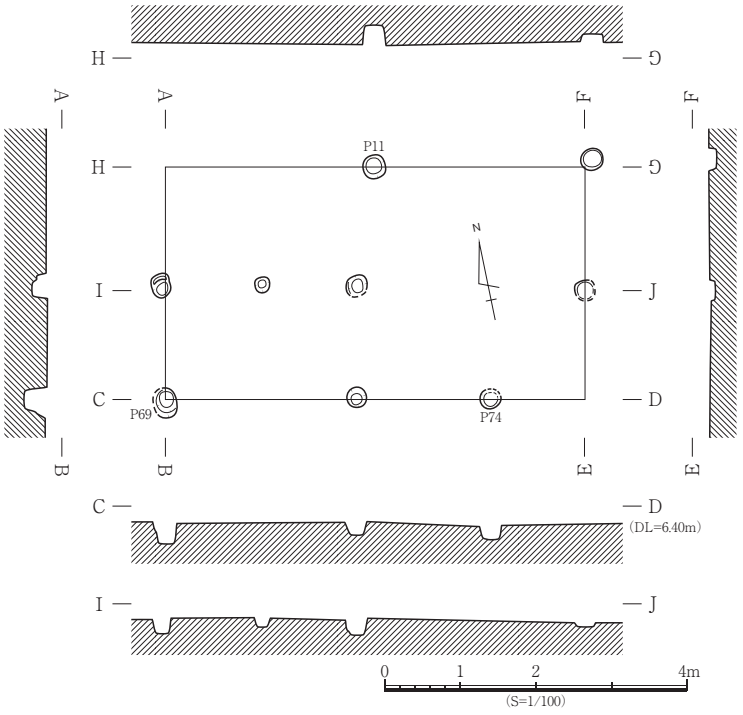


図255　9－1区　SB9　平面図・エレベーション図

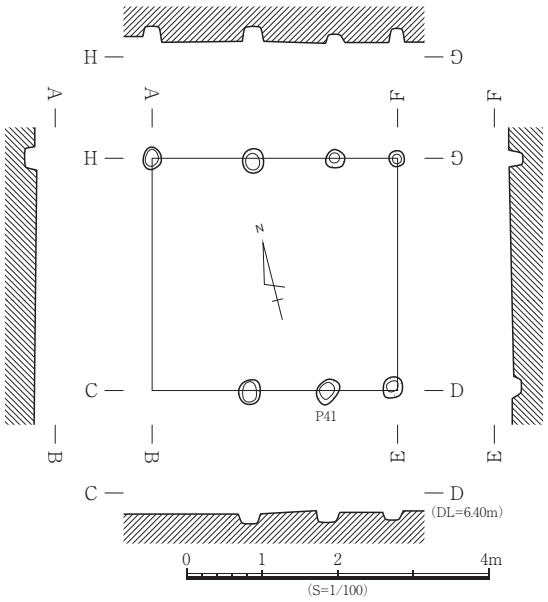


図256　9－1区　SB10　平面図・エレベーション図

器壁はうすい。全体的に歪む。601は杯である。体部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目がみられ，内底面は渦状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。ほぼ完存する。602は杯である。体部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目が認められる。外底面及び内底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受けるか。

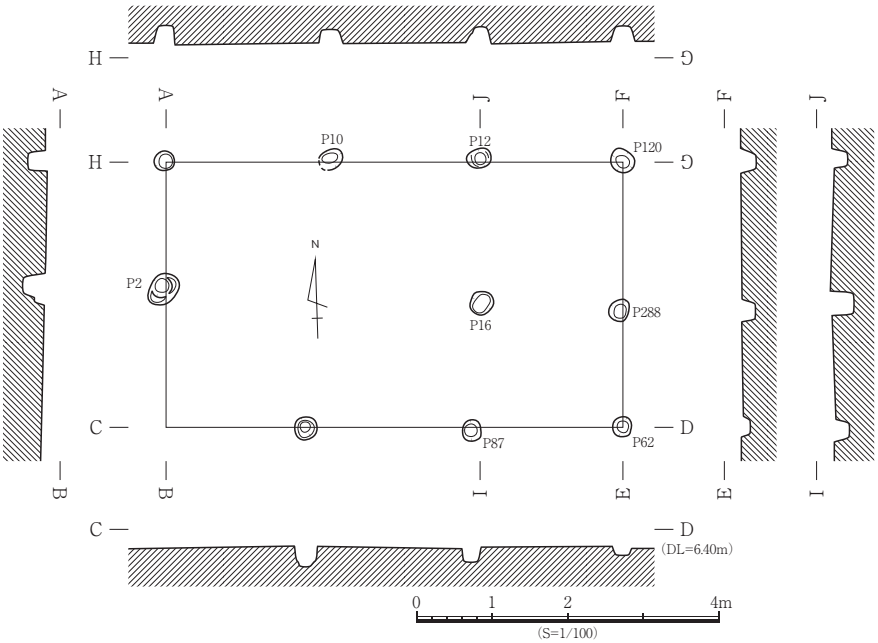


図257　9－1区　SB11　平面図・エレベーション図

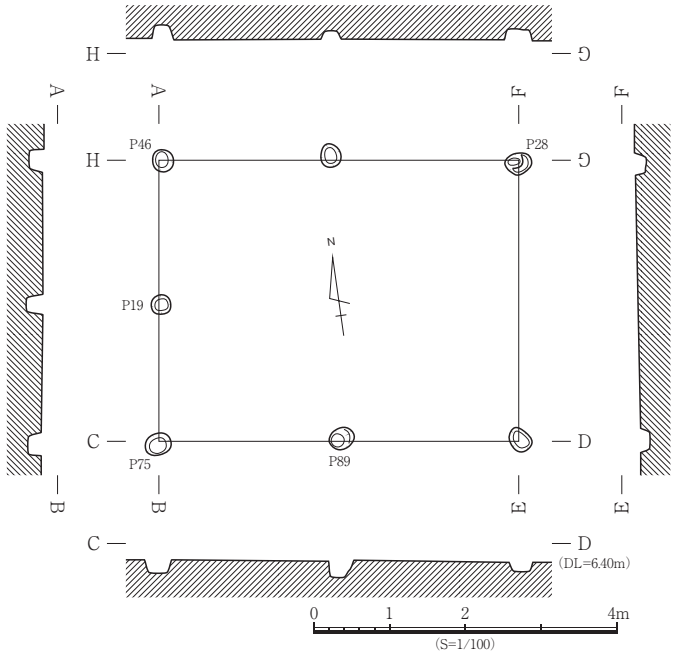


図258　9－1区　SB12　平面図・エレベーション図

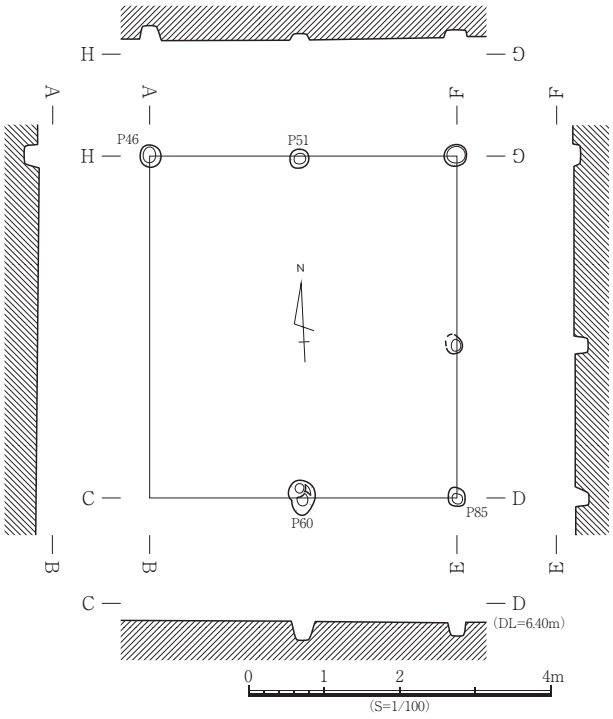


図259　9－1区　SB13　平面図・エレベーション図

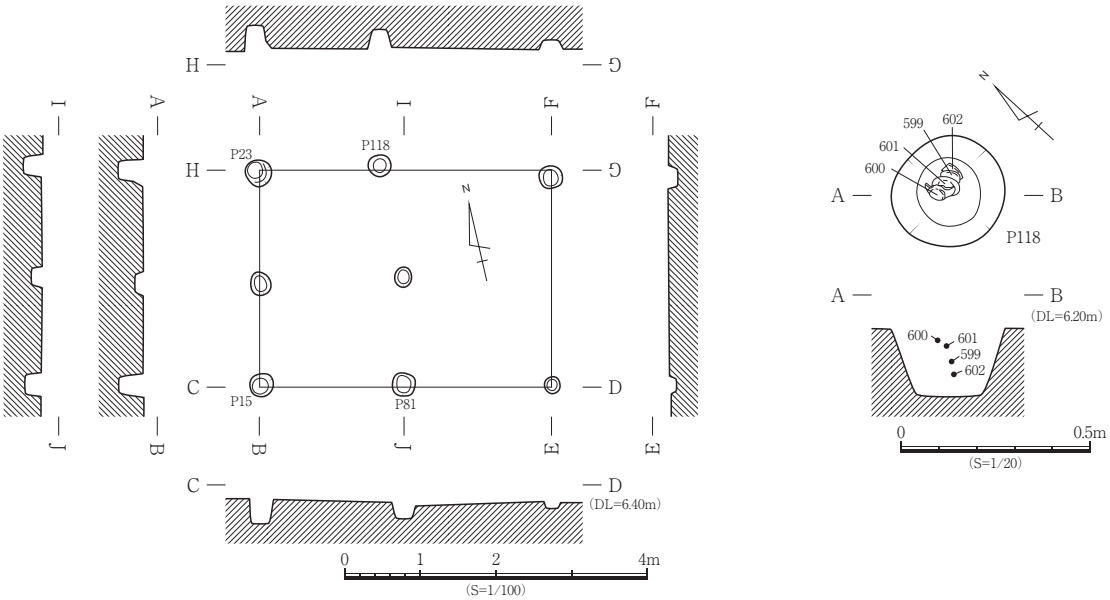


図260　9－1区　SB14　平面図・遺物出土状態図・エレベーション図

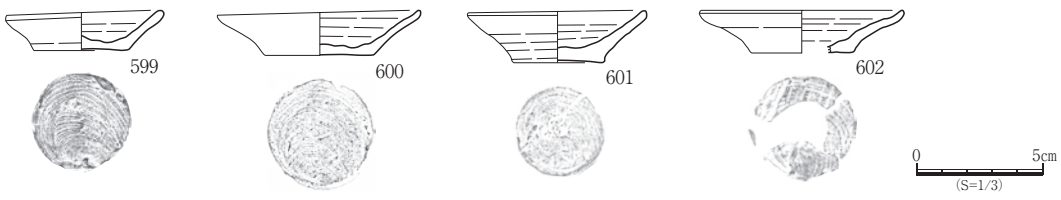


図261　9－1区　SB14　出土遺物実測図

SB15

SB15は9－1区で検出した桁行3間(約6.37m)，梁行1間(約2.41m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約15.3㎡である。主軸方向はN－86°20′－Wである。P14・P23・P78・P93他で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは8～39㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

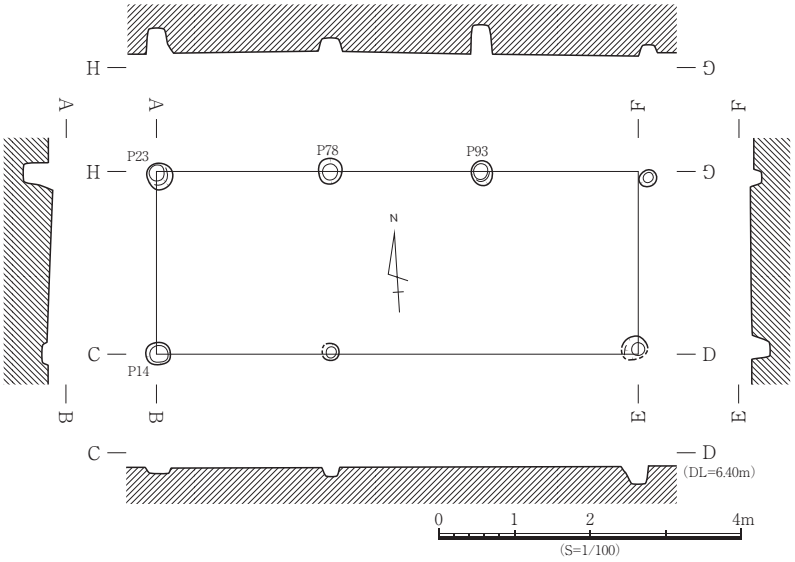


図262　9－1区　SB15　平面図・エレベーション図

SB16

SB16は9－1区で検出した桁行2間(約3.82m)，梁行1間(約3.05m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約11.6㎡である。主軸方向はN－74°11′－Wである。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは7～21㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

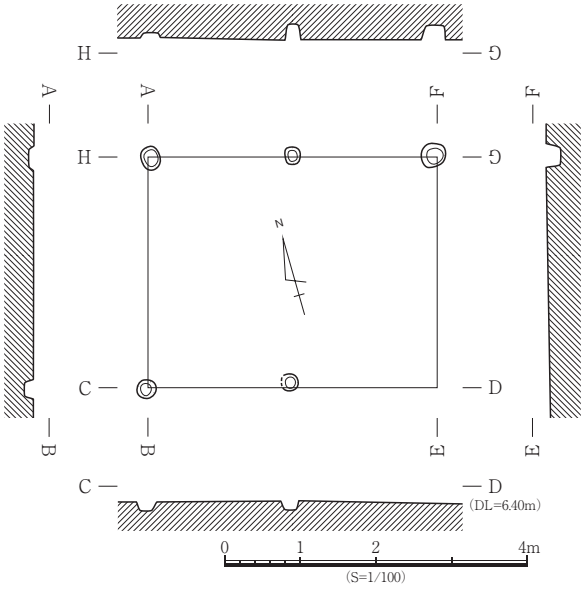


図263　9－1区　SB16　平面図・エレベーション図

SB17

SB17は9－1区で検出した桁行4間(約6.98m)，梁行2間(約4.13m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約28.9㎡である。主軸方向はN－14°02′－Eである。P30・P49・P63・P83・P95・P98・P381他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは4～22㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(603)である。体部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。

SB18

SB18は9－1区で検出した桁行3間(約5.94m)，梁行1間(約3.46m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，

床面積は約20.6㎡である。主軸方向はＮ－12°54′－Ｅである。P109他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは8～24cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB19

SB19は9－1区で検出した桁行2間(約4.13m)，梁行1間(約3.19m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約13.2㎡である。主軸方向はＮ－8°17′－Ｅである。P84・P167他で構成される。柱穴は直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは7～32cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB20

SB20は9－1区で検出した桁行3間(約6.67m)，梁行2間(約3.88m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約25.9㎡である。主軸方向はＮ－81°09′－Ｗである。P130・P136・P176・P520他で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整形であり，検出面からの深さは9～30cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB21

SB21は9－1区で検出した桁行3間(約7.02m)，梁行2間(約3.56m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約25.0㎡である。主軸方向はＮ－76°12′－Ｗである。P357・P558・P577・P591他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは10～34cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB22

SB22は9－1区で検出した桁行3間(約

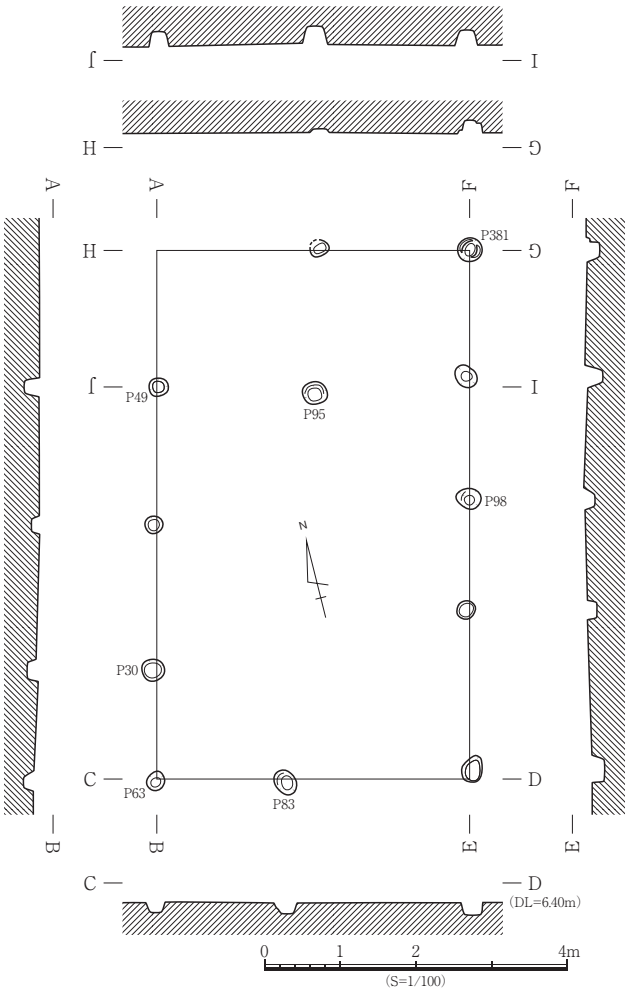


図264　9－1区　SB17　平面図・エレベーション図

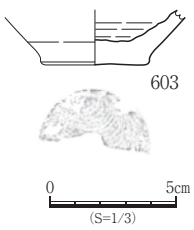


図265　9－1区　SB17　出土遺物実測図

6.31m)，梁行2間(約3.80m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約24.0㎡である。主軸方向はN－80°57′－Wである。P362・P363・P434・P464・P467・P468・P494他で構成される。柱穴は直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは23～35cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB23

SB23は9－1区で検出した桁行5間(約6.67m)，梁行1間(約3.65m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約24.3㎡である。主軸方向はN－13°10′－Eである。P112・P121・P162・P502他で構成される。柱穴は直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは12～31㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(604)，平瓦(605)である。

604は杯である。底部は扁平なベタ高台状を呈する。体部は外上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面および内底面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。廃棄後に二次被熱を受ける。605は平瓦である。凸面には縄目叩き後ナデ調整を施す。凹面には布目圧痕がみられ，ナデ調整を施す。また，端部にはヘラナデ調整を施す。二次被熱を受ける。

SB24

SB24は9－1区で検出した桁行3間(約5.97m)，梁行1間(約4.33m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約25.8㎡である。主軸方向はN－9°46′－Eである。P132他で構成される。柱穴は直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは7～27㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

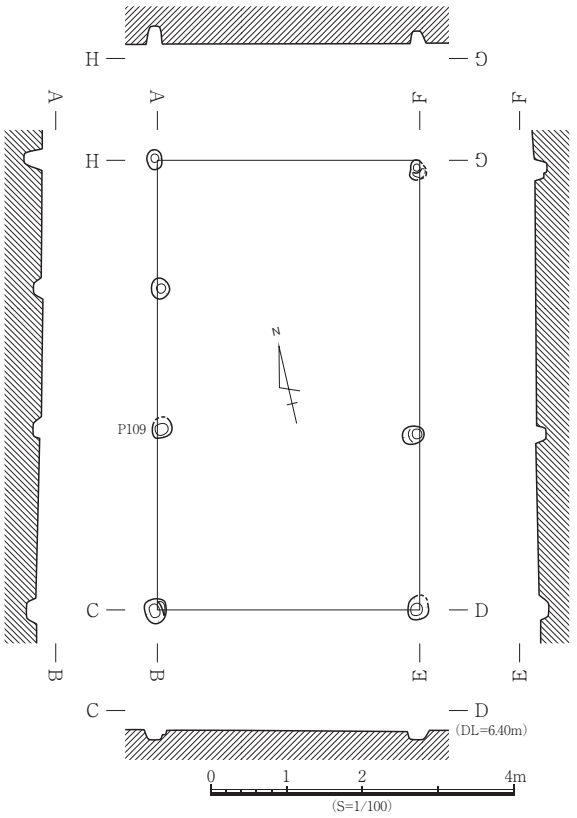


図266　9－1区　SB18　平面図・エレベーション図

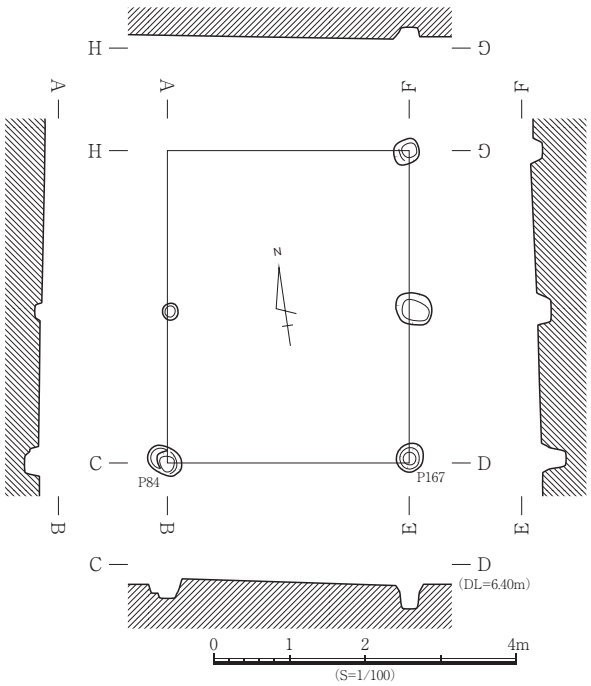


図267　9－1区　SB19　平面図・エレベーション図

図示した出土遺物はない。

SB25

SB25は9－1区で検出した桁行2間(約4.44m)，梁行2間(約3.58m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約15.9㎡である。主軸方向はN－82° 59′－Wである。P125・P289他で構成される。柱穴は

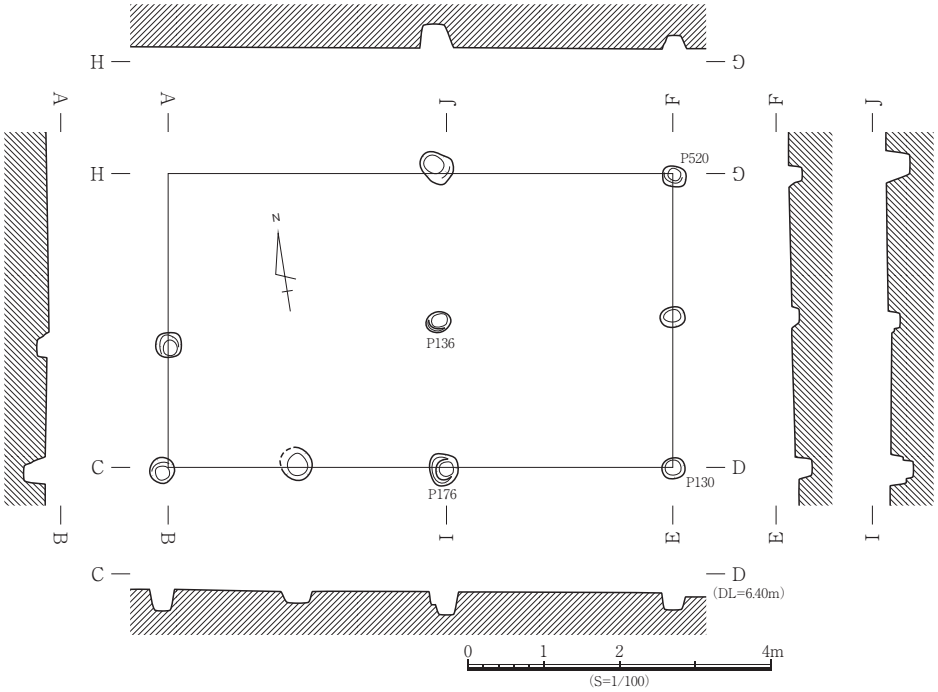


図268　9－1区　SB20　平面図・エレベーション図

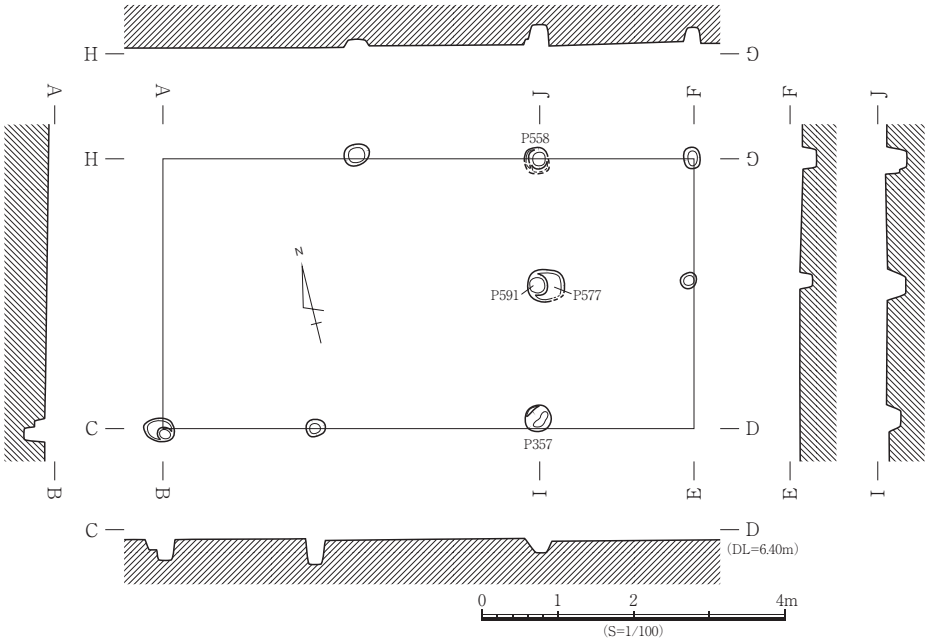


図269　9－1区　SB21　平面図・エレベーション図

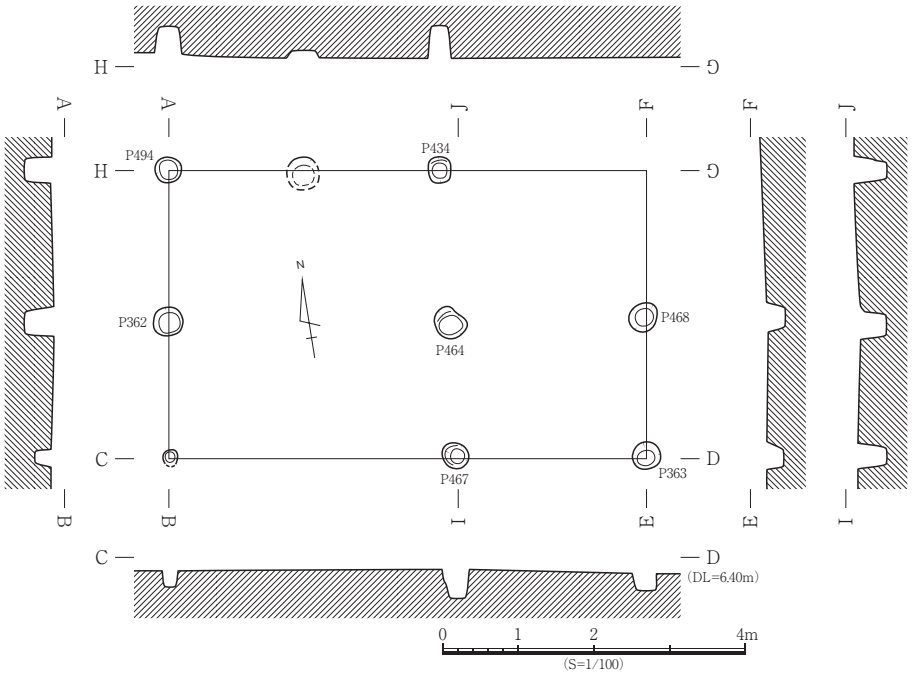


図270　9－1区　SB22　平面図・エレベーション図

直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは16～35cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB26

SB26は9－1区で検出した桁行3間(約6.04m)，梁行2間(約3.67m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約22.2㎡である。主軸方向はN－82°59′－Wである。P127・P138・P177・P196・P222・P265・P314他で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整形であり，検出面からの深さは21～38cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB27

SB27は9－1区で検出した桁行4間(約7.51m)，梁行2間(約4.25m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約31.9㎡である。主軸方向はN－78°47′－Wである。P283・P466・P501・P604他で構成される。柱穴は直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは8～35cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB28

SB28は9－1区で検出した桁行3間(約5.76m)，梁行3間(約5.45m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約31.4㎡である。主軸方向はN－83°01′－Wである。P137・P160・P179・P204・P212・

P213・P221・P222・P318・P322(P525)・P508他で構成される。柱穴は直径30～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは15～42㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)極細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(606・607)・羽釜(608)である。

606は皿である。口縁部は外上方へ短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底縁は凹む。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。607は皿である。口縁部は斜め上方へ短くひろがる。内面は回転ナデ調整後ナデ調整を施し，内底縁は凹む。外面には回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。全体的に歪む。二次被熱を受けるか。ほぼ完存である。608は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下に断面形が三角形の鍔を付す。口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。鍔上面は強いヨコナデ調整により凹む。

SB29

SB29は9－1区で検出した桁行2間(約4.45m)，梁行2間(約3.23m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約14.4㎡である。主軸方向はN－89°26′－Eである。P199・P265・P303・P512・P517他で構成される。柱穴は直径30～40cmの不整形であり，検出面からの深さは23～30cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(609)である。体部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面にはロクロ目が認められる。

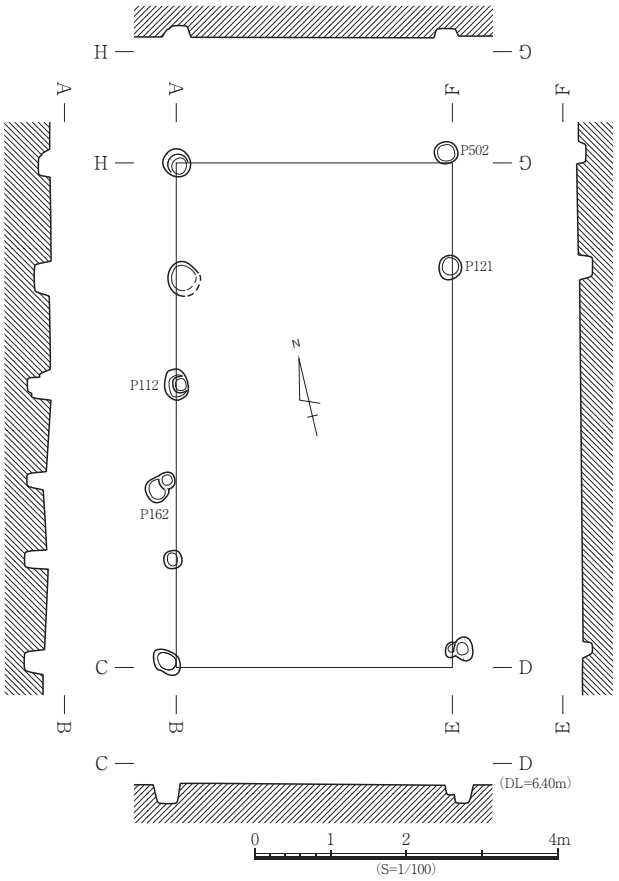


図271　9－1区　SB23　平面図・エレベーション図

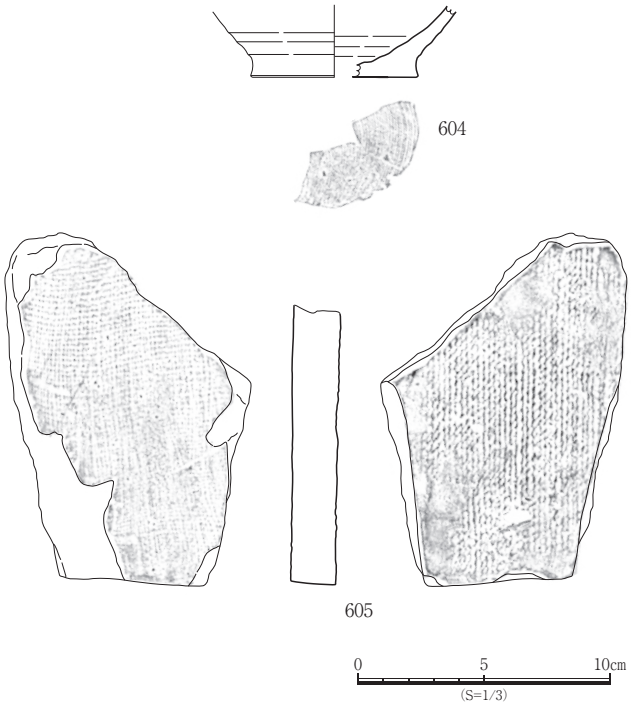


図272　9－1区　SB23　出土遺物実測図

SB30

SB30は9－1区で検出した桁行5間（約9.34m），梁行4間（約7.06m）の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約66.0㎡である。主軸方向はN－82°57′－Wである。P142・P182・P202・P209・P214・P217・P221・P226・P229・P260・P280・P282・P294・P303・P349・P352・P394・P425・P456・P513・P526他で構成される。柱穴は直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは10～31cmである。埋土は黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿（610）・杯（611～613）である。

610は皿である。口縁部は外上方へ短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底中央は凹む。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。被熱か。ほぼ完存する。611は杯である。体部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。612は杯である。体部は外上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。二次被熱を受ける。613は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面下半・内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。二次被熱を受け，煤が付着する。

SB31

SB31は9－1区で検出した桁行3間

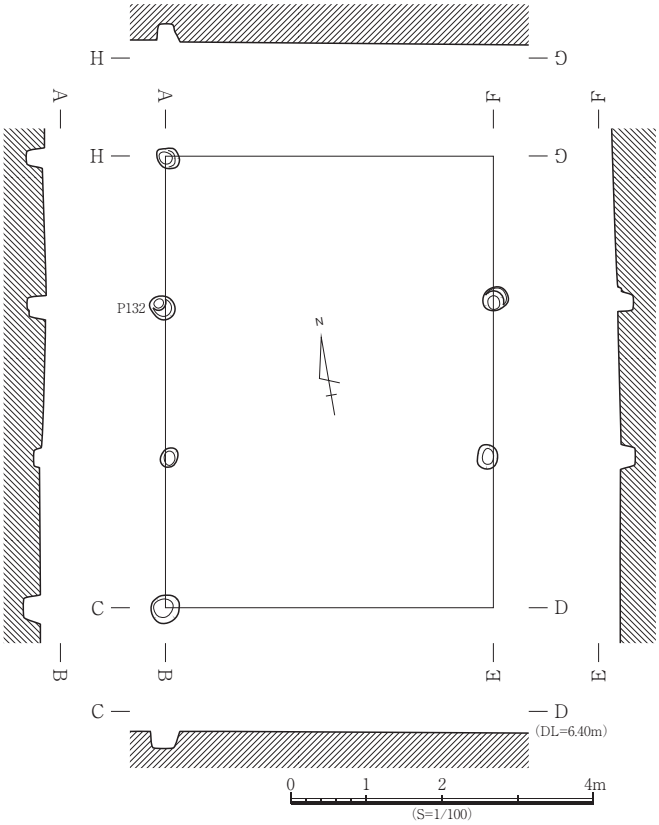


図273　9－1区　SB24　平面図・エレベーション図

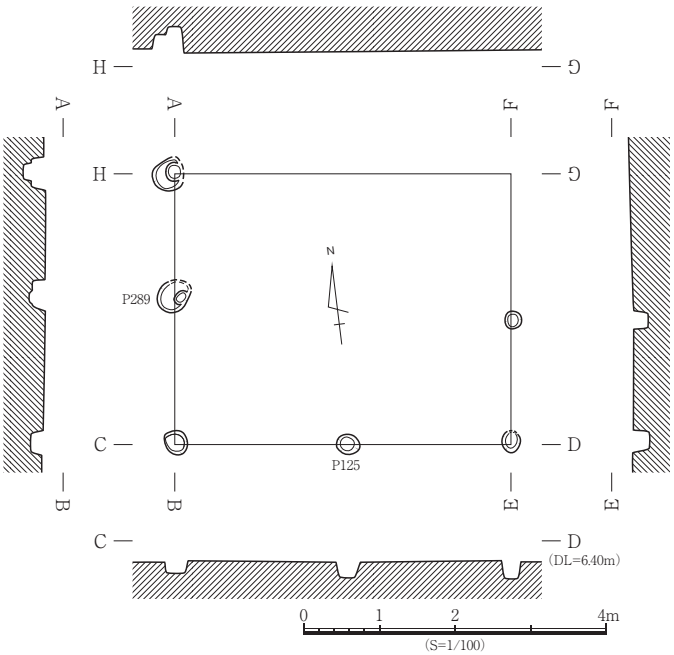


図274　9－1区　SB25　平面図・エレベーション図

（約5.80m），梁行2間（約3.62m）の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約21.0㎡である。主軸方向はN－81°46′－Wである。P195・P229・P260・P282・P349・P413・P417・P425・P456他で構成される。柱穴は直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは14～34cmである。埋土は黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

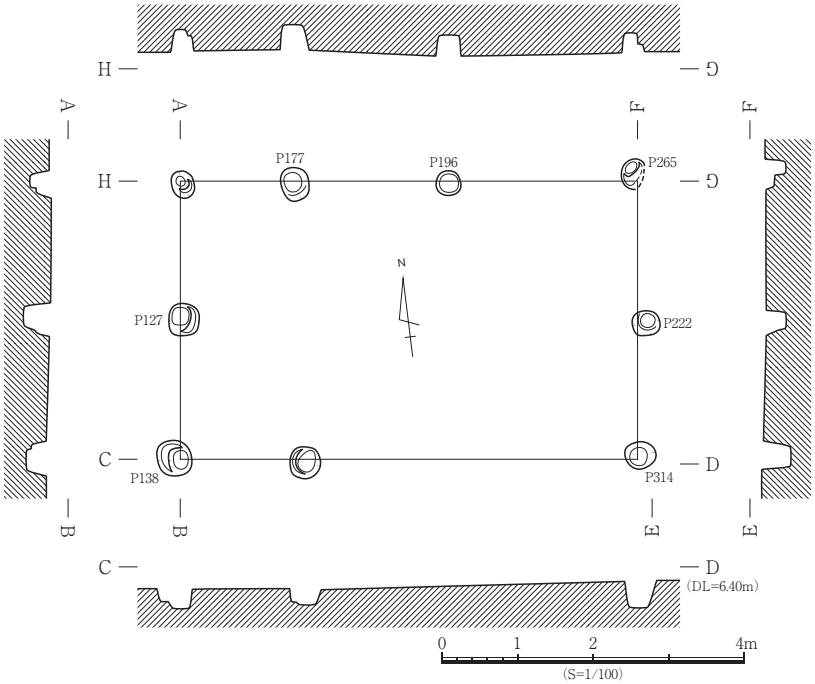


図275　9－1区　SB26　平面図・エレベーション図

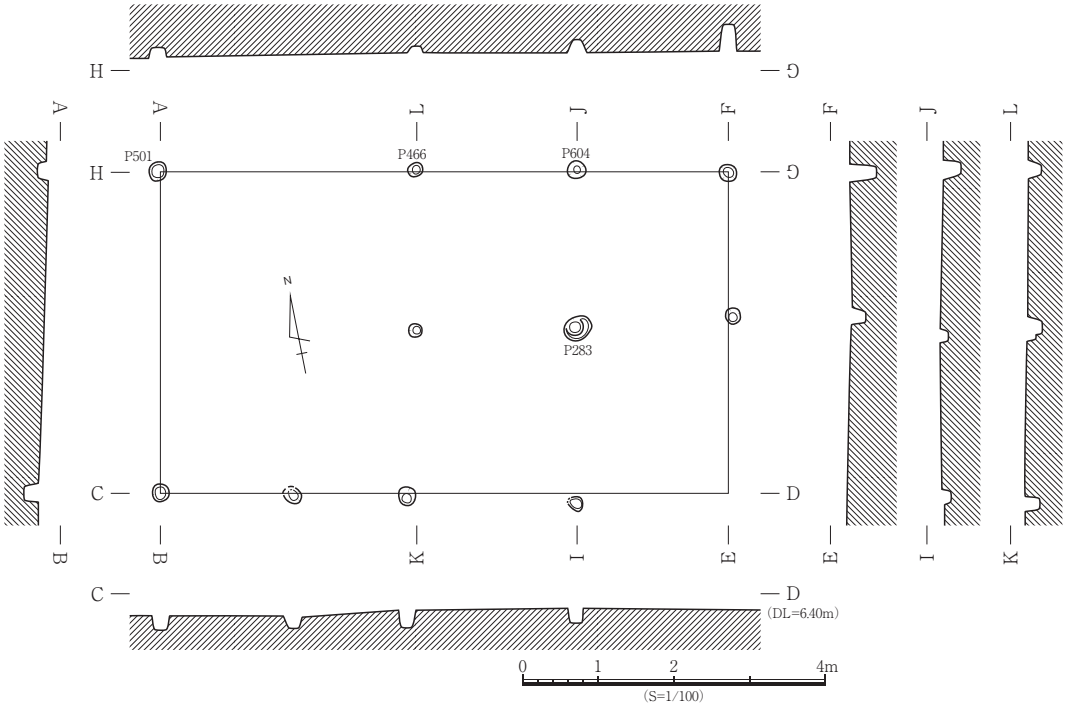


図276　9－1区　SB27　平面図・エレベーション図

SB32

SB32は9－1区で検出した桁行2間(約4.03m)，梁行2間(約3.44m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約13.8㎡である。主軸方向はN－80°04′－Wである。P388・P391・P453・P469・P523・P569・P593他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは8～29cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB33

SB33は9－1区で検出した桁行3間(約6.10m)，梁行2間(約4.08m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，

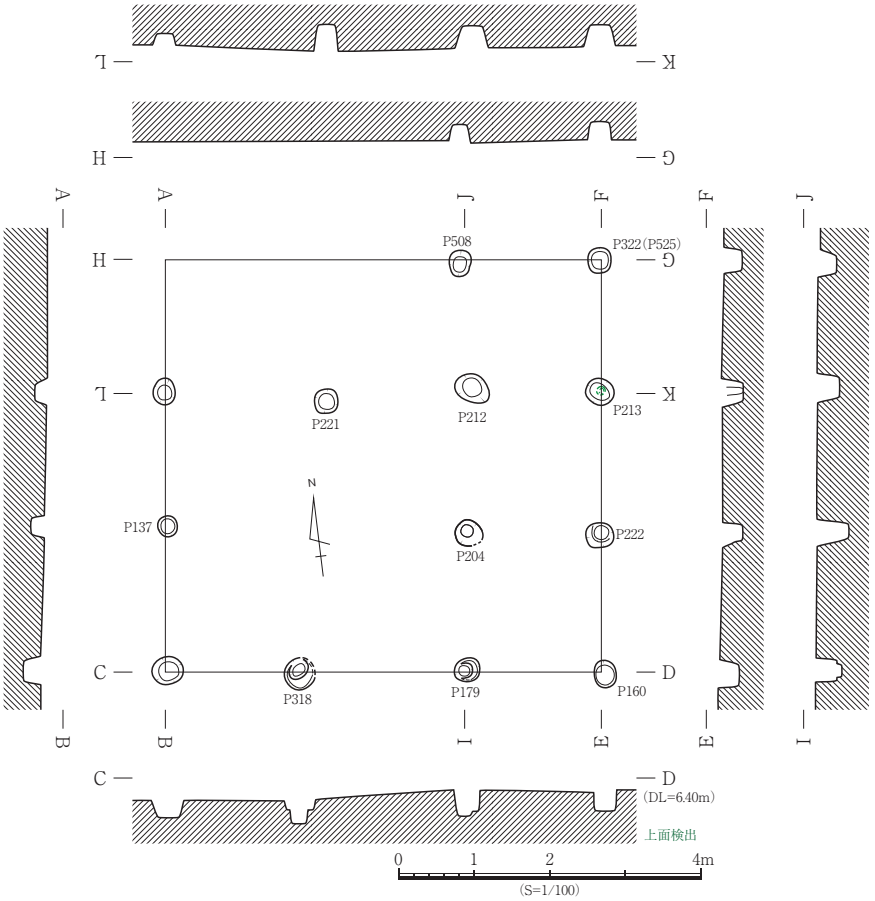


図277　9－1区　SB28　平面図・エレベーション図

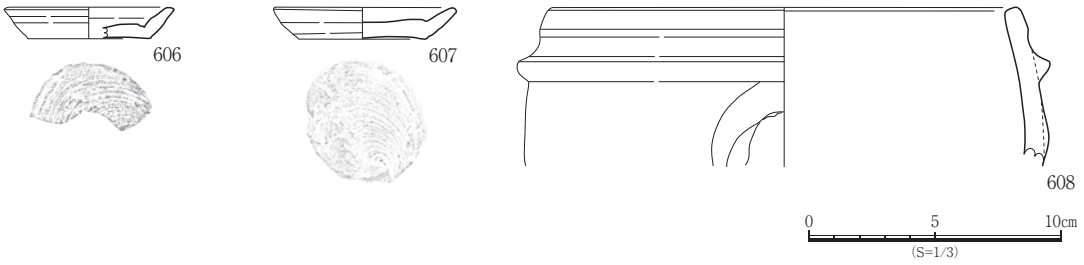


図278　9－1区　SB28　出土遺物実測図

床面積は約24.9㎡である。主軸方向はN－3°34′－Wである。P269・P401・P442他で構成される。柱穴は直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは12～32cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB34

SB34は9－1区で検出した桁行3間(約5.32m)，梁行2間(約3.41m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約18.1㎡である。主軸方向はN－8°35′－Eである。P279・P454・P480他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは14～42cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB35

SB35は9－1区で検出した桁行2間(約4.28m)，梁行2間(約2.96m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約12.7㎡である。主軸方向はN－6°16′－Eである。P218・P439・P457他で構成される。柱穴は直径約30cmの不整円形であり，検出面からの深さは6～30cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB36

SB36は9－1区で検出した桁行2間(約3.88m)，梁行2間(約2.56m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約9.9㎡である。主軸方向はN－87°38′－Wである。P384・P423・P440・P510・P511他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは11～38cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB37

SB37は9－1区で検出した桁行3間(約5.32m)，梁行2間(約4.14m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約22.0㎡である。主軸方向はN－88°31′－Wである。P209・P280・P294・P387・P522他で構成される。柱穴は直

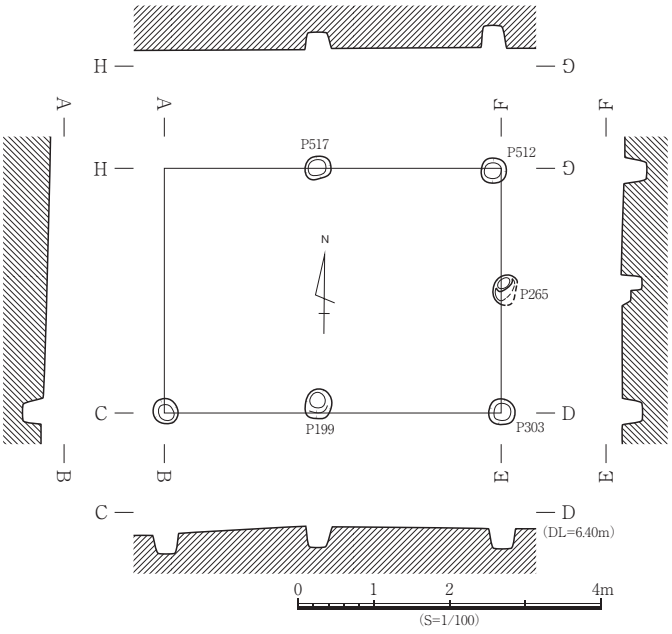


図279　9－1区　SB29　平面図・エレベーション図

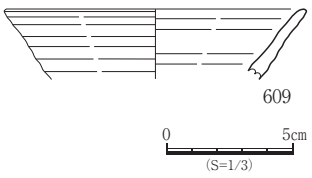


図280　9－1区　SB29　出土遺物実測図

径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは5～33cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB38

SB38は9－1区で検出した桁行3間(約5.54m)，梁行3間(約4.90m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，

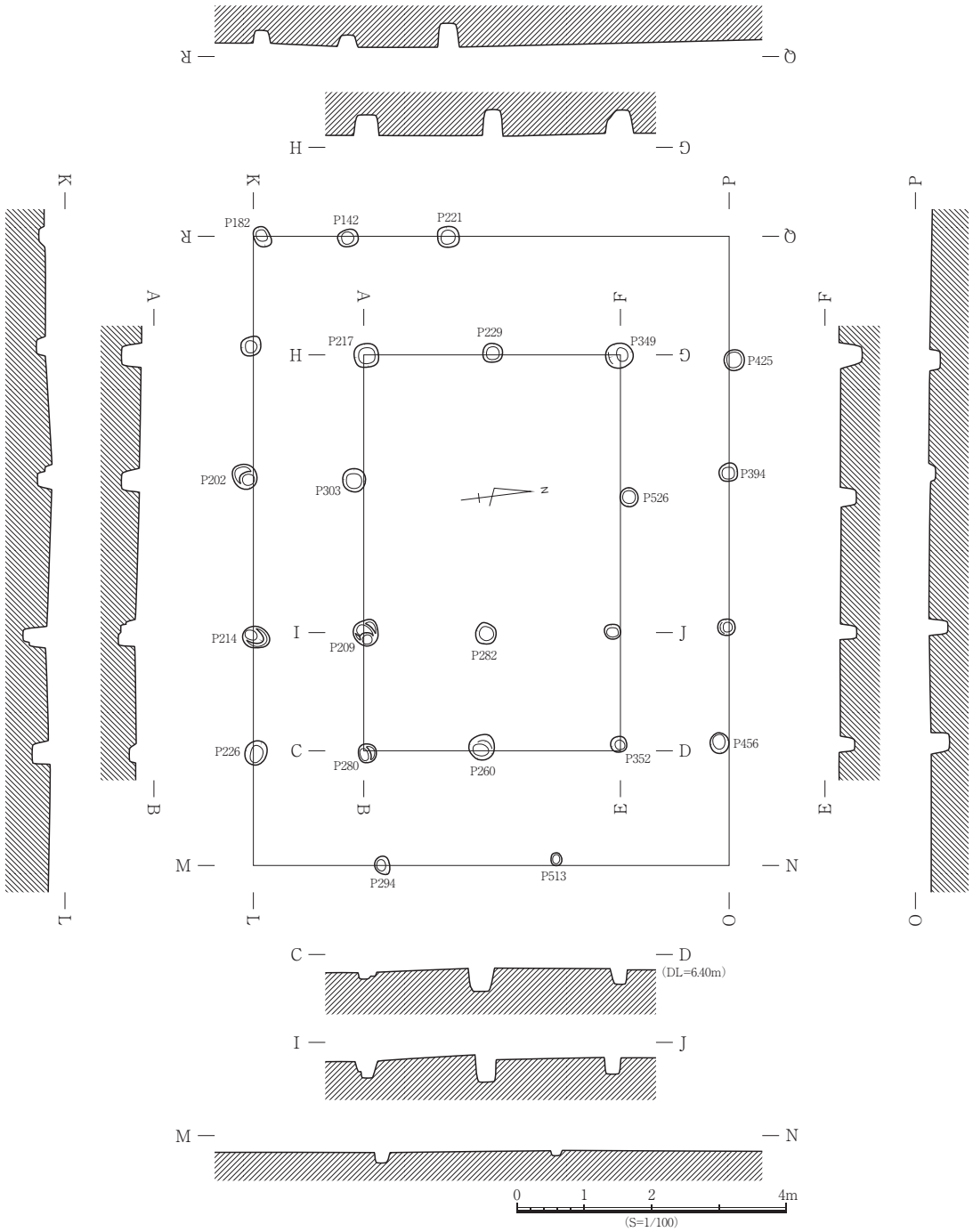


図281　9－1区　SB30　平面図・エレベーション図

床面積は約 27.2 ㎡である。主軸方向はN－6° 50′－Eである。P218・P267・P278・P297・P388・P391・P549・P551・P566他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは4～18cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(614)である。体部は外上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。二次被熱を受けるか。

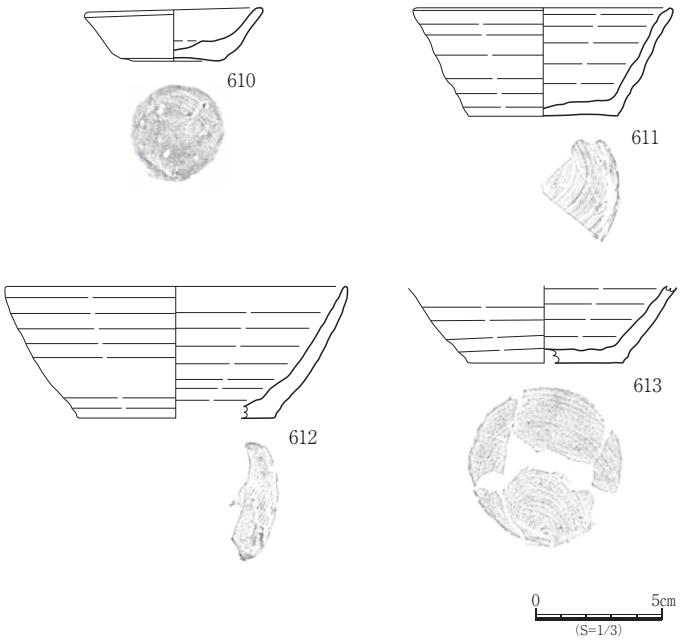


図282　9－1区　SB30　出土遺物実測図

SB39

SB39は9－1区で検出した桁行4間(約6.97m)，梁行2間(約4.03m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約28.1㎡である。主軸方向はN－14° 28′－Eである。P214・P290・P414他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは6～10cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(615)である。体部は斜め外方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。煤が付着する。底部は接合面で剥離する。

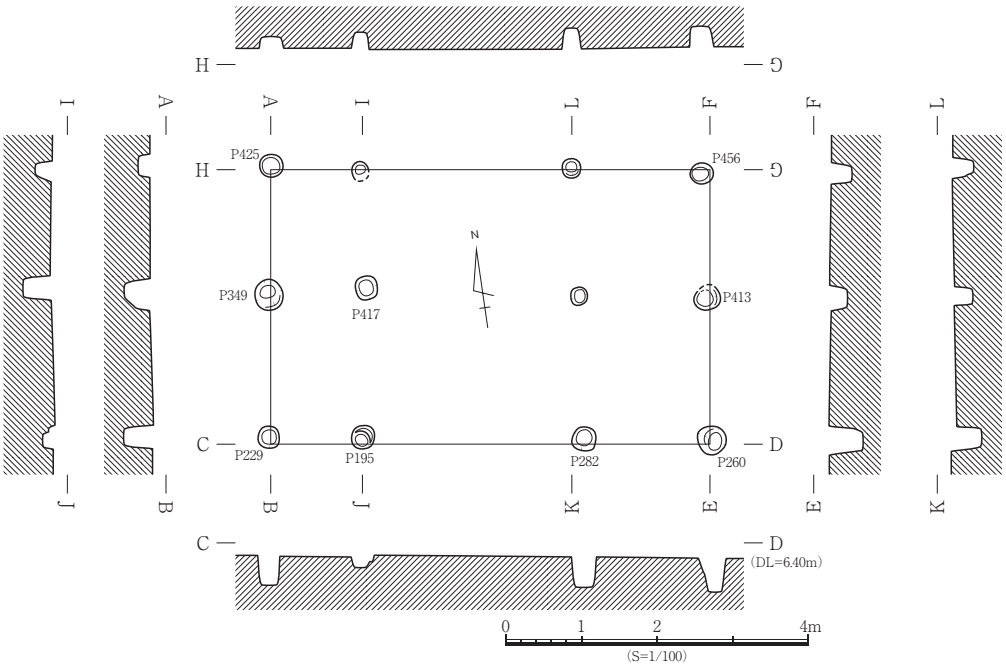


図283　9－1区　SB31　平面図・エレベーション図

SB40

SB40は9－1区で検出した桁行3間(約6.30m)，梁行2間(約4.26m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約26.9㎡である。主軸方向はN－83°29′－Wである。P306・P401・P410・P512他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは11～35㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

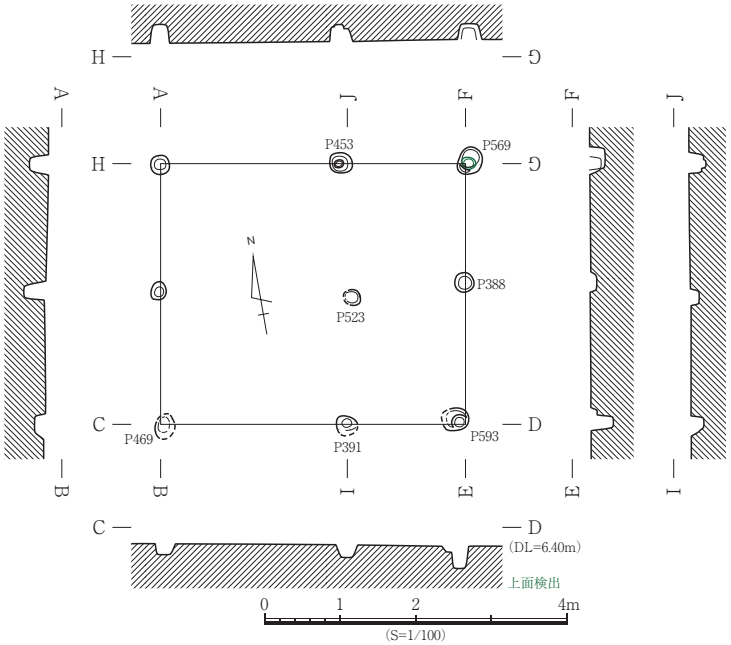


図284　9－1区　SB32　平面図・エレベーション図

SB41

SB41は9－1区で検出した桁行4間(約6.39m)，梁行3間(約5.18m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約33.1㎡である。主軸方向はN－9°31′－Eである。P195・P240・P273・P296・P302・P417・P506他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは8～37㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(616)である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

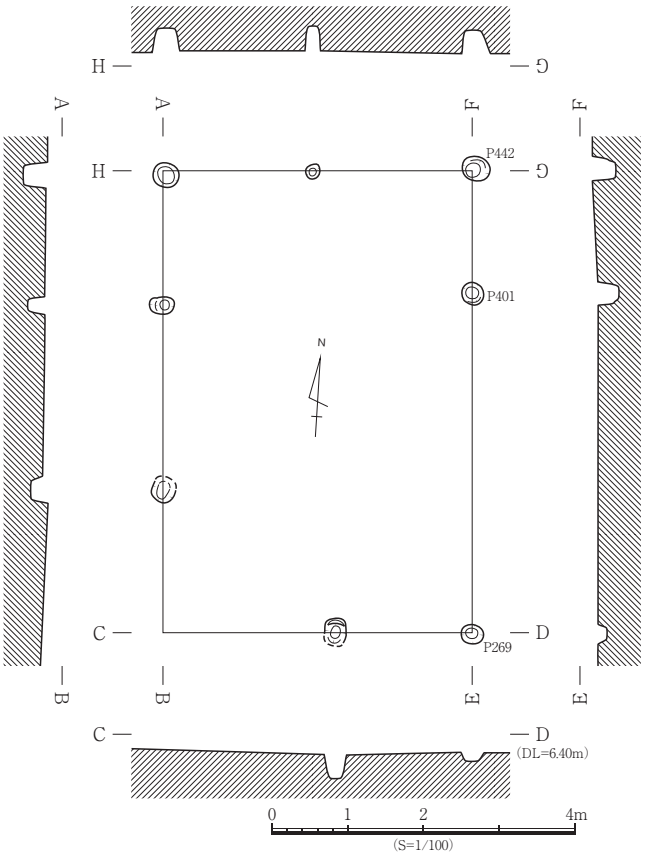


図285　9－1区　SB33　平面図・エレベーション図

SB42

SB42は9－1区で検出した桁行3間(約7.97m)，梁行3間(約5.54m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約44.2㎡である。主軸方向はN－78°07′－Wで

ある。P202・P225・P257・P287・P292・P416・P444他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは12～26㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(617)である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。二次被熱を受けるか。

SB43

SB43は9－1区で検出した桁行3間(約6.24m)，梁行2間(約4.58m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約28.6㎡である。主軸方向はN－78°01′－Wである。P194・P237・P319・P392・P411他で構成される。柱穴は直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは5～31㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB44

SB44は9－1区で検出した桁行3間(約5.54m)，梁行2間(約3.92m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約21.7㎡である。主軸方向はN－6°58′－Eである。P234・P238・P239・P256・P259・P351・P409他で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは5～29㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(618)である。底部は扁平なベタ高台状を呈する。体部は外上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面

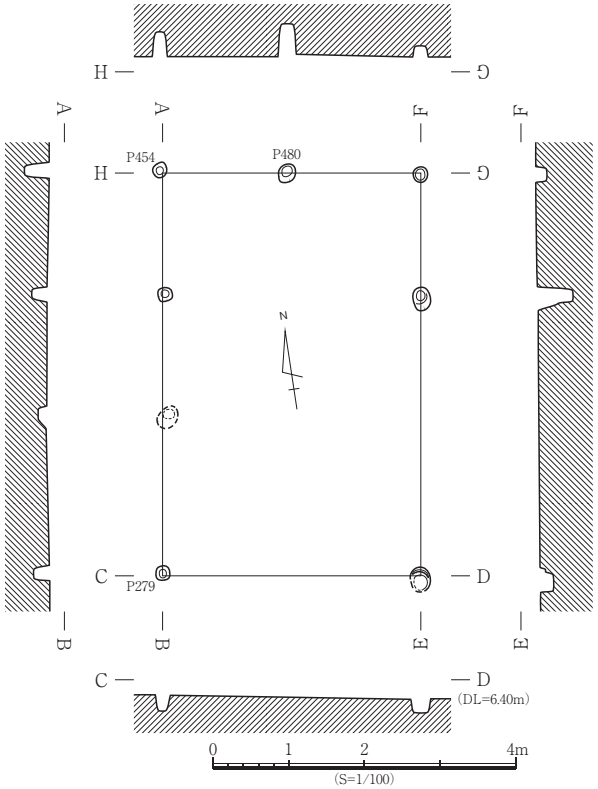


図286　9－1区　SB34　平面図・エレベーション図

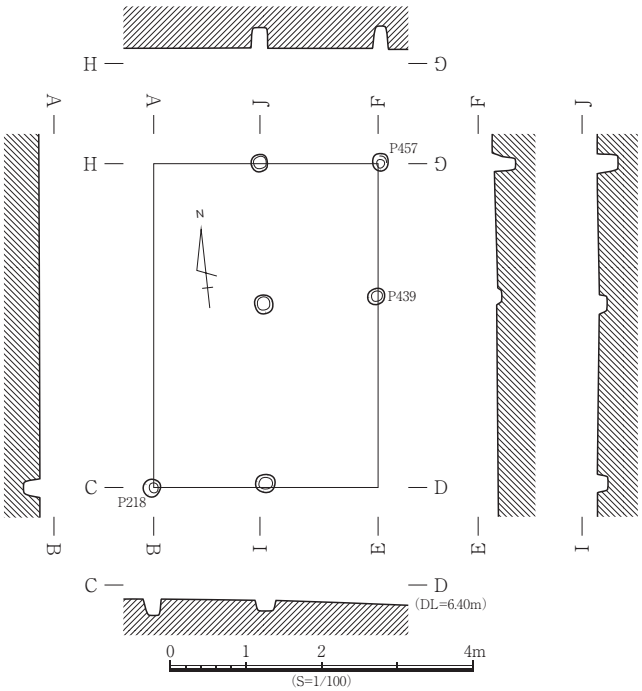


図287　9－1区　SB35　平面図・エレベーション図

ともにロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SB45

SB45は9－1区で検出した桁行3間(約6.56m)，梁行2間(約3.41m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約20.6㎡である。主軸方向はN－83°09′－Wである。P194・P198・P223・P274・P285・P320・P412・P482・P507他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは5～33㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

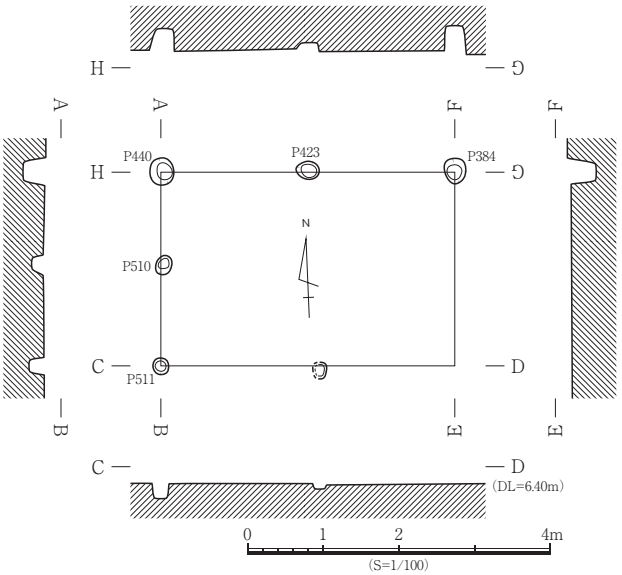


図288　9－1区　SB36　平面図・エレベーション図

SB46

SB46は9－1区で検出した桁行2間(約4.12m)，梁行2間(約3.28m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約13.5㎡である。主軸方向はN－85°12′－Wである。P202・P209・P214・P226・P260・P265・P280・P303他で構成される。柱穴は直径30～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは10～31㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

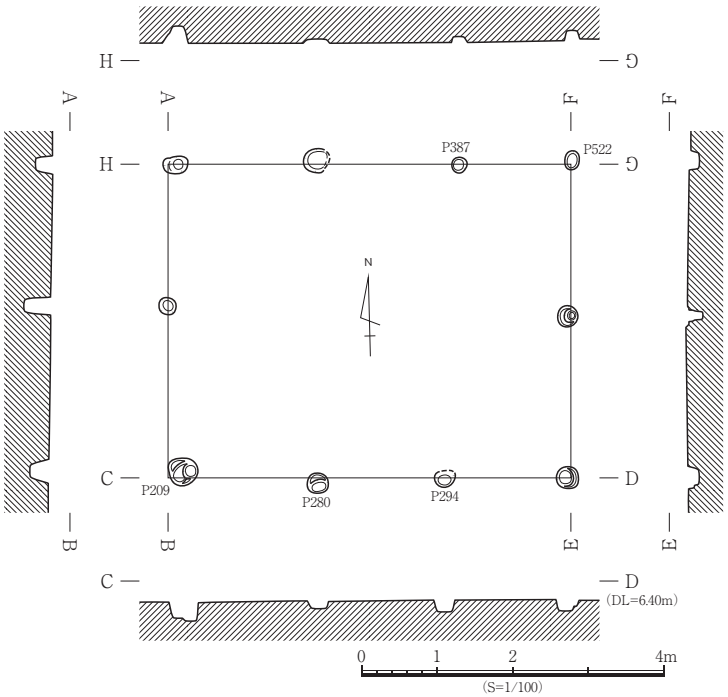


図289　9－1区　SB37　平面図・エレベーション図

SB47

SB47は9－1区で検出した桁行2間(約5.37m)，梁行2間(約3.63m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約19.5㎡である。主軸方向はN－81°28′－Wである。P219・P227・P229他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは16～39㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB48

SB48は9－1区で検出した桁行2間(約5.13m)，梁行2間(約3.68m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約18.9㎡である。主軸方向はN－88°42′－Wである。P142・P145・P195・P202・P263他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは10～20㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB49

SB49は9－1区で検出した桁行2間(約4.58m)，梁行2間(約2.99m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約13.7㎡である。主軸方向はN－76°39′－Wである。P147・P203・P286他で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは12～35㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB50

SB50は9－1区で検出した桁行4間(約10.02m)，梁行2間(約3.11m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約31.2㎡である。主軸方向はN－76°00′－Wである。P151・P180・P188・P189・P243・P253他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは3～42㎝である。

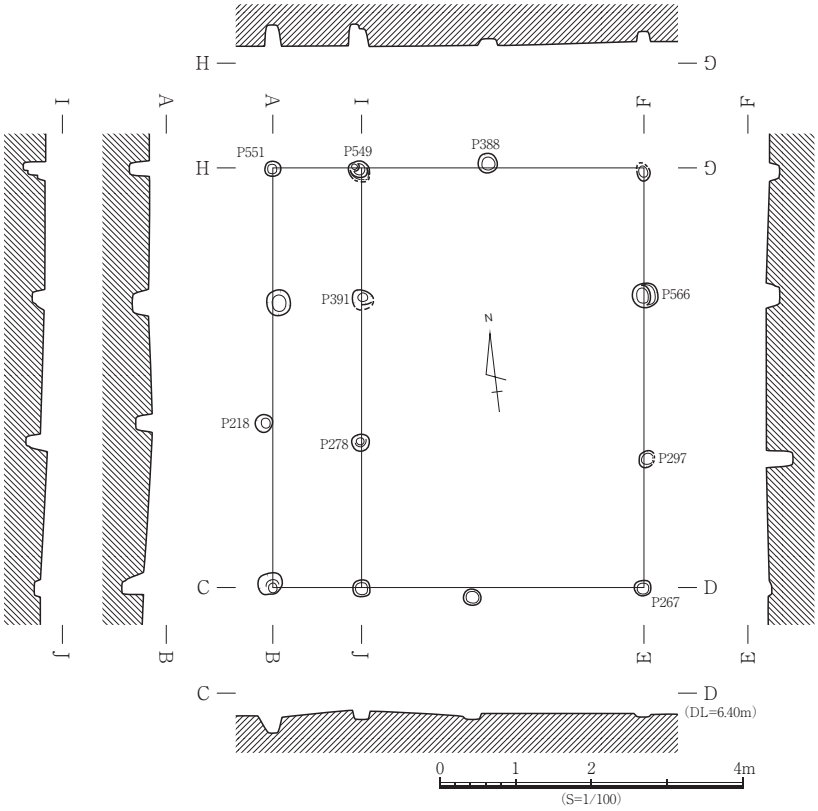


図290　9－1区　SB38　平面図・エレベーション図

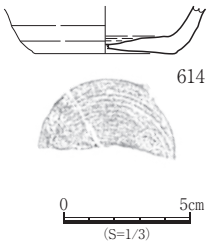


図291　9－1区　SB38
出土遺物実測図

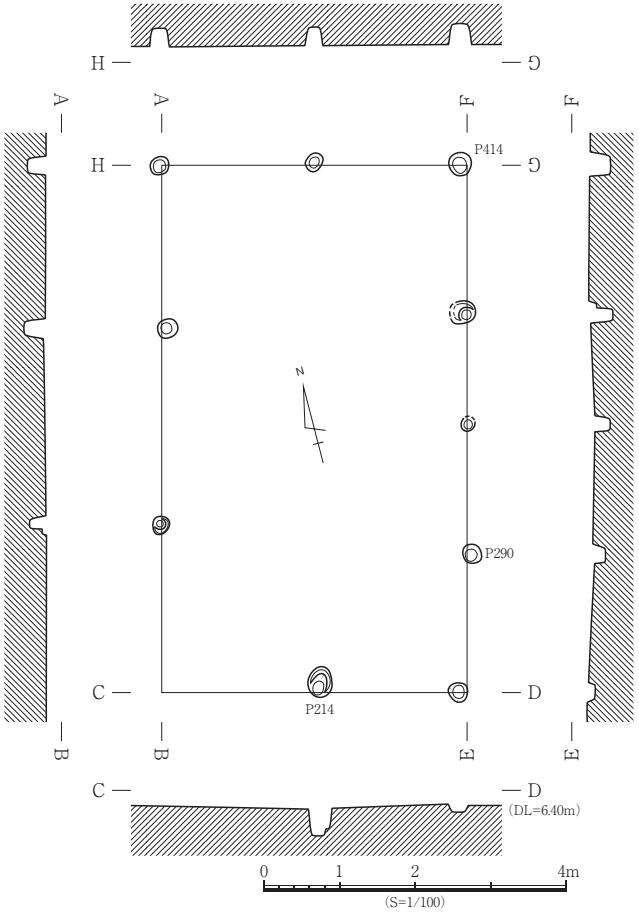


図292　9－1区　SB39　平面図・エレベーション図

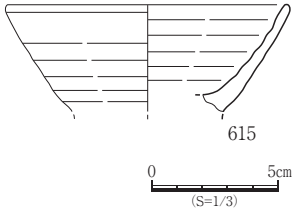


図293　9－1区　SB39　出土遺物実測図

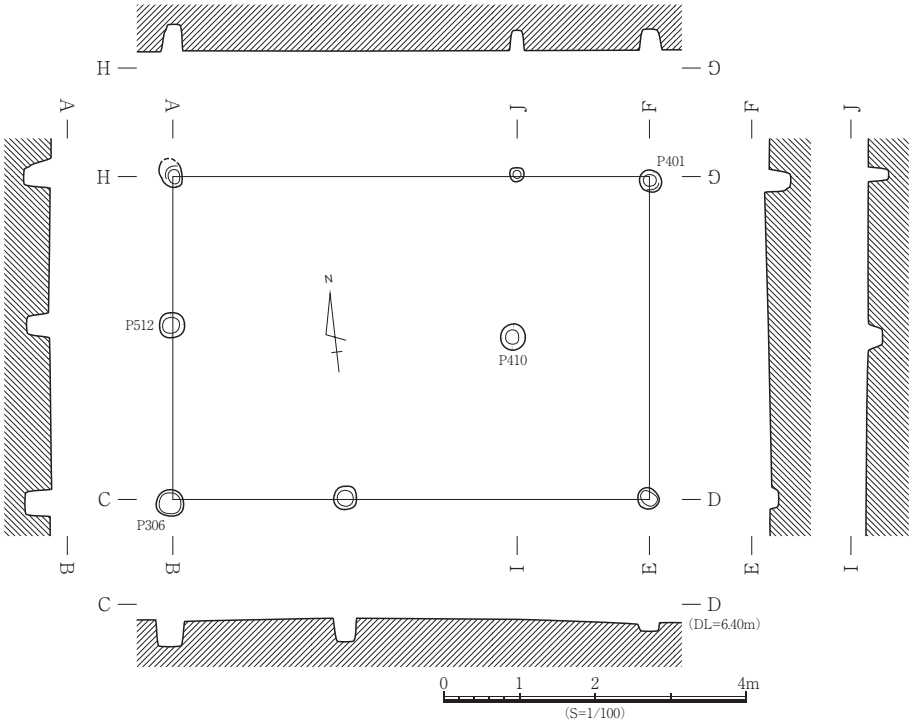


図294　9－1区　SB40　平面図・エレベーション図

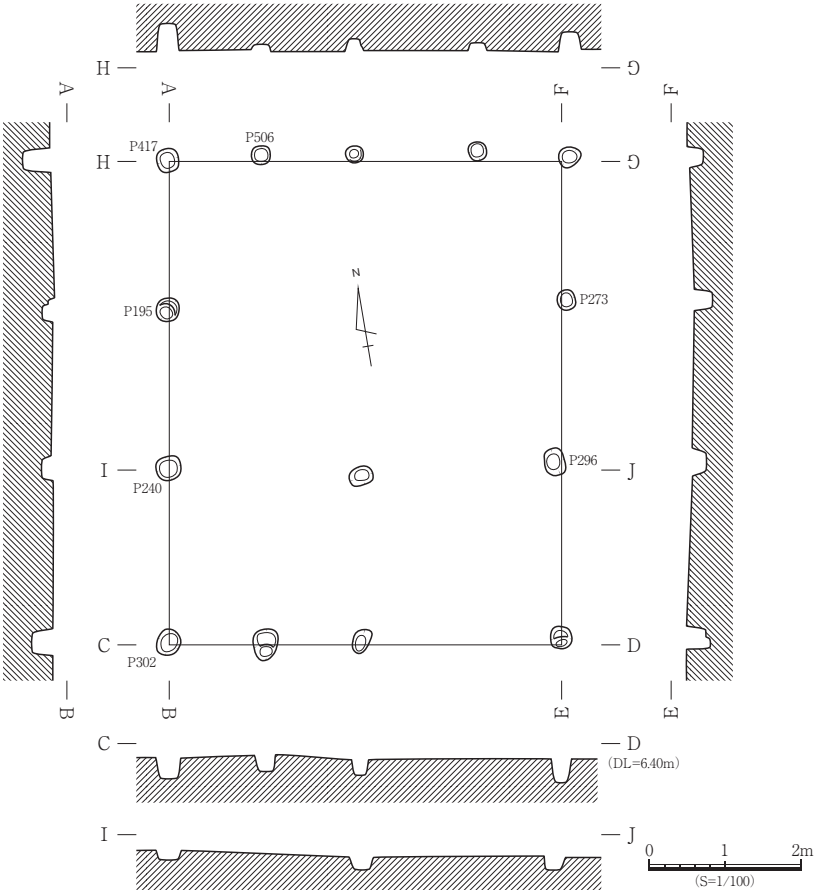


図295　9－1区　SB41　平面図・エレベーション図

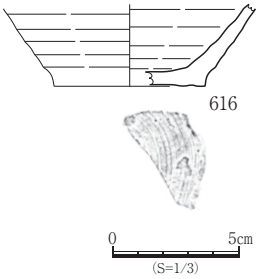


図296　9－1区　SB41
出土遺物実測図

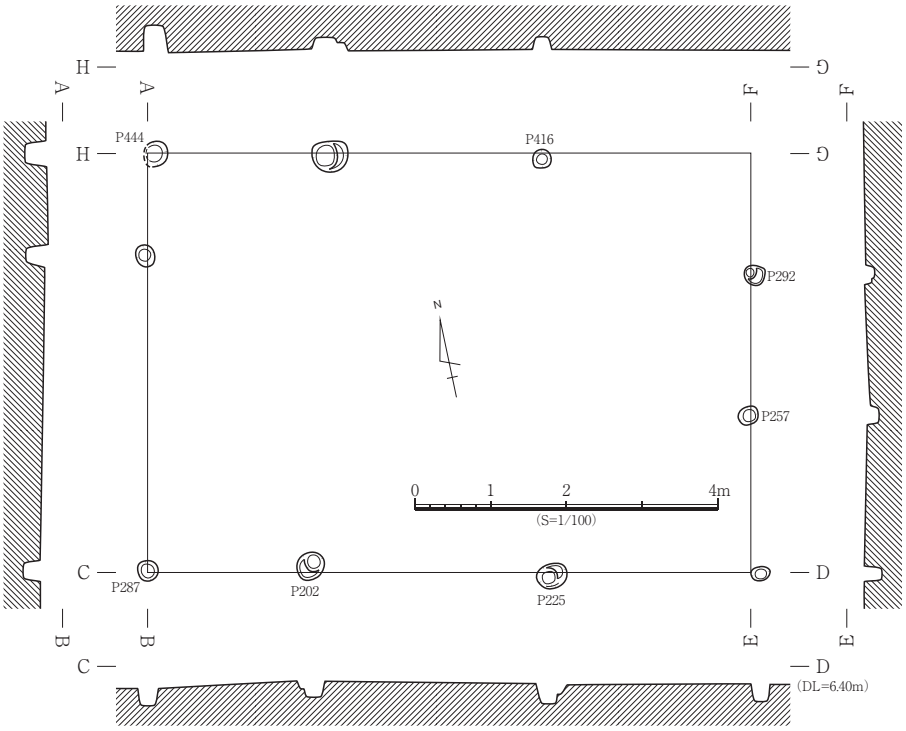


図297　9－1区　SB42　平面図・エレベーション図

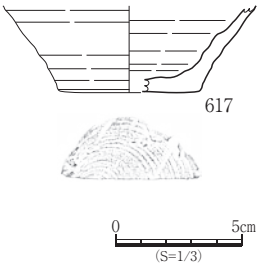


図298　9－1区　SB42
出土遺物実測図

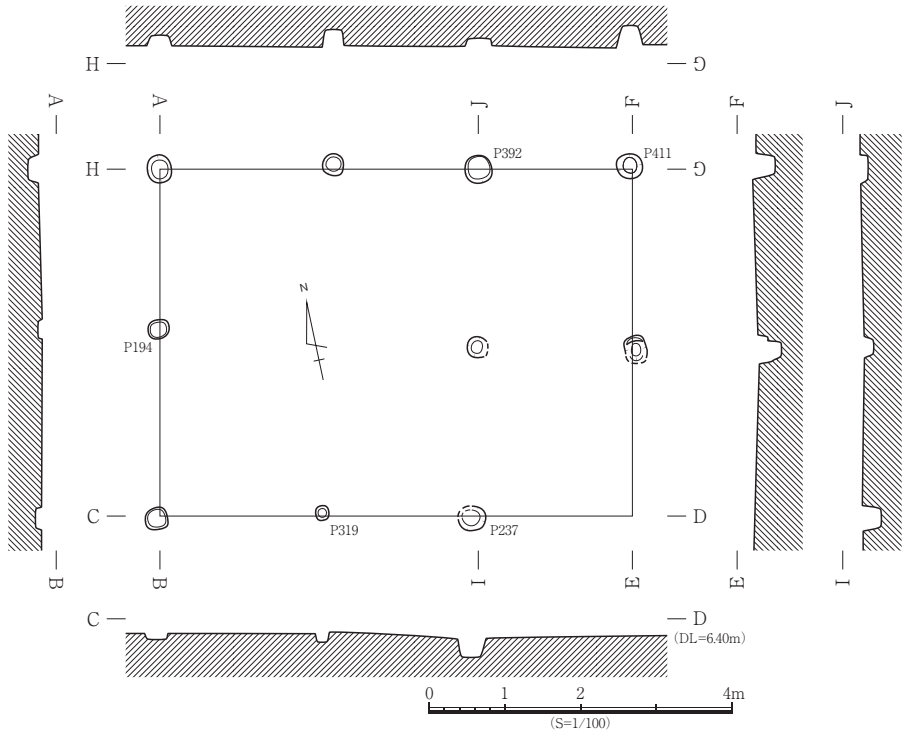


図299　9－1区　SB43　平面図・エレベーション図

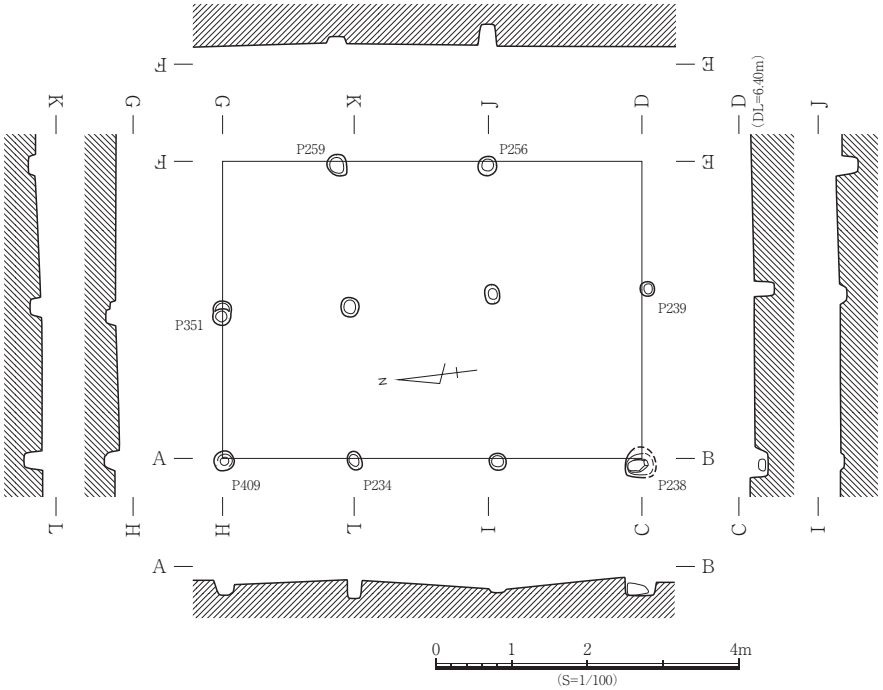


図300　9－1区　SB44　平面図・エレベーション図

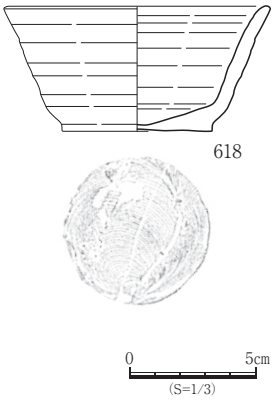


図301　9－1区　SB44
出土遺物実測図

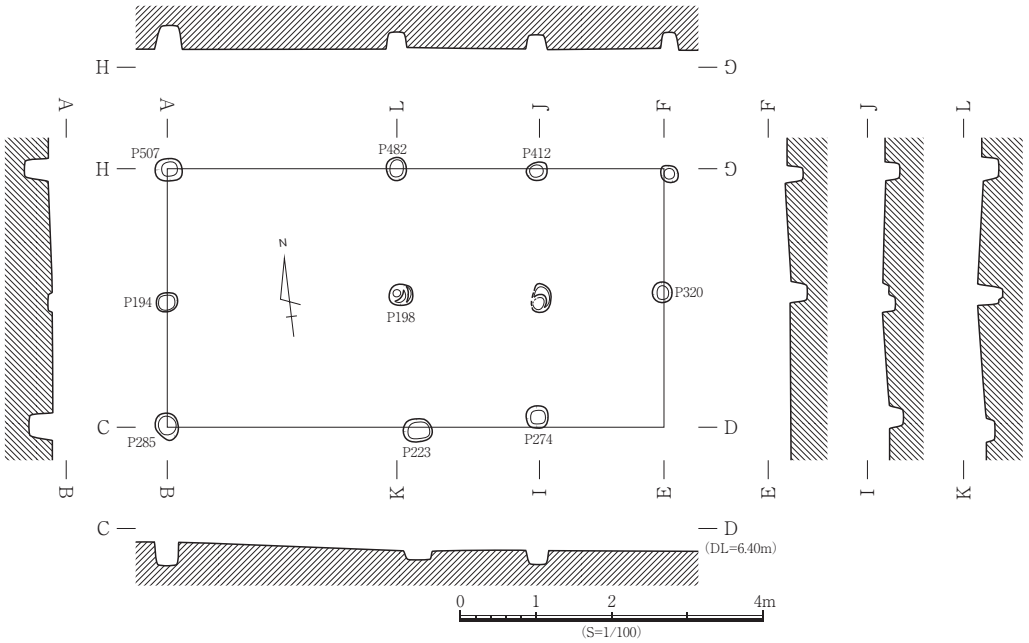


図302　9－1区　SB45　平面図・エレベーション図

埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB51

SB51は9－1・9－2区で検出した桁行3間(約5.40m)，梁行1間(約3.73m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約20.1㎡である。主軸方向はN－1°13′－Eである。P384・P472・P554・P567・P858・P862他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは18～52㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

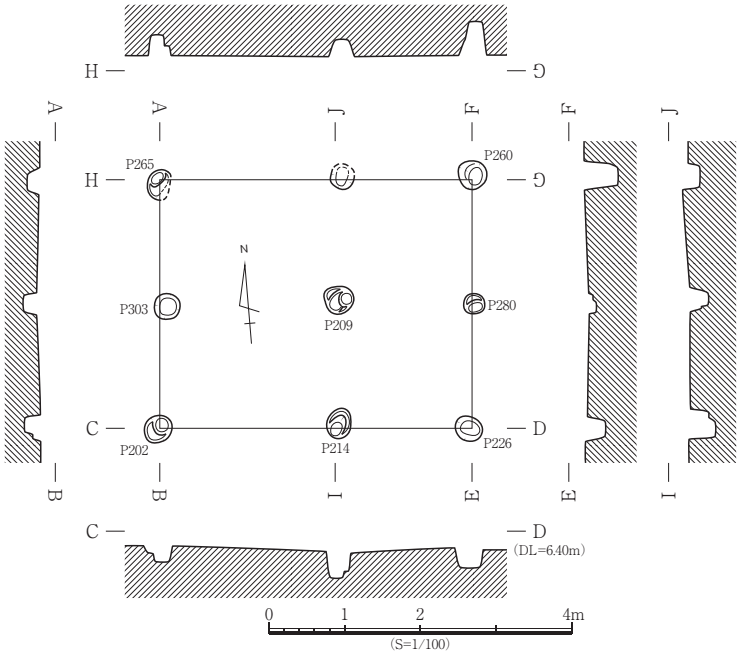


図303　9－1区　SB46　平面図・エレベーション図

図示した出土遺物は土師質土器の杯(619)，銭貨(620)である。

619は杯である。体部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。620は嘉定通寶あるいは景定通寶である。

SB52

SB52は9－1・9－2区で検出した桁行3間(約5.30m)，梁行1間(約3.51m)の南北棟の掘立柱建物

跡であり，床面積は約18.6㎡である。主軸方向はＮ－3°02′－Ｅである。P484・P538・P539・P542・P851・P853・P858他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは18～35㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(621)，青磁の碗(622)，陶器の瓶子(623)である。

621は杯である。体部は内湾気味に立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。二次被熱を受ける。622は碗である。見込みに界線と文様がみられる。内外面ともに透明感のある釉薬を施す。623は瓶子である。肩部に4条1単位の櫛描文を2単位描く。外面は全面施釉し，内面肩部にも施釉する。

SB53

SB53は9－2区で検出した桁行2間(約4.47m)，梁行2間(約2.67m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約11.9㎡である。主軸方向はＮ－1°54′－Ｅである。P733・P777・P826他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは9～31㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の捏鉢(624)である。口唇部を上方へ拡張させ，内外面ともに回転ナデ調整を施す。

SB54

SB54は9－2区で検出した桁行2間(約3.29m)，梁行2間(約2.93m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約9.6㎡である。主軸方向はＮ－85°07′－Ｗである。P800・P896他で構成される。柱穴は直径約20㎝の不整形であり，検出面

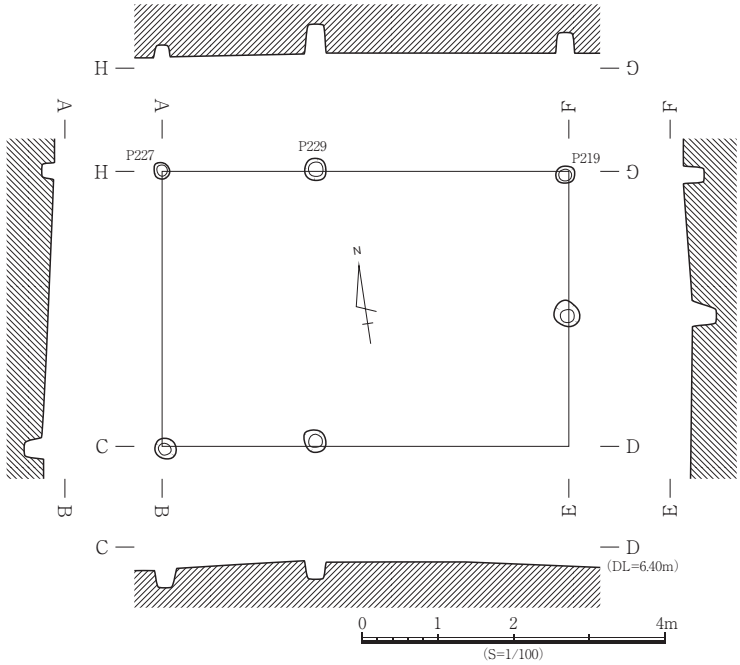


図304　9－1区　SB47　平面図・エレベーション図

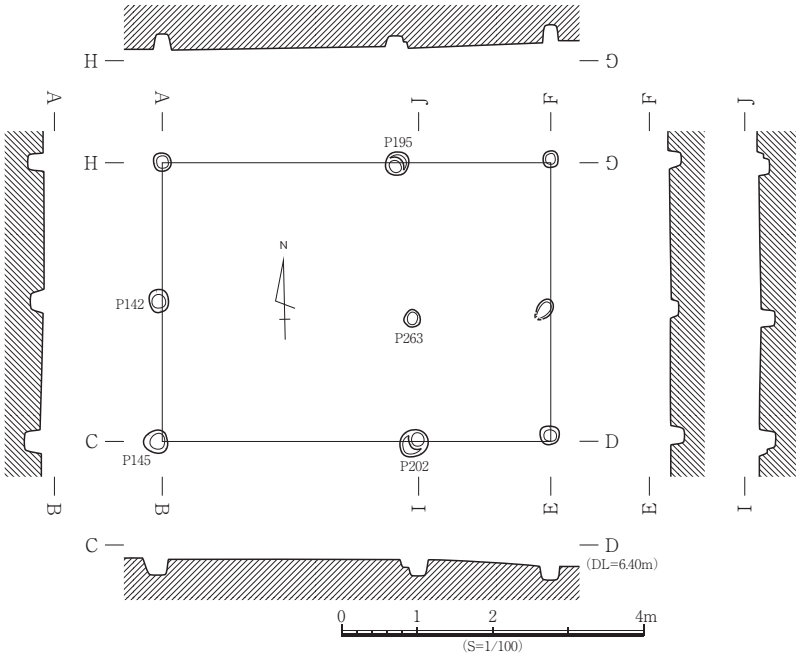


図305　9－1区　SB48　平面図・エレベーション図

からの深さは8～30cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB55

SB55は9－2区で検出した桁行3間(約4.43m)，梁行2間(約2.72m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約12.1㎡である。主軸方向はN－89°52′－Eである。P788・P819・P833・P882他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは8～41cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB56

SB56は9－2区で検出した桁行4間(約5.25m)，梁行2間(約3.47m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約18.2㎡である。主軸方向はN－8°50′－Wである。P796・P804・P832・P873・P875・P897他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは13～37cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿

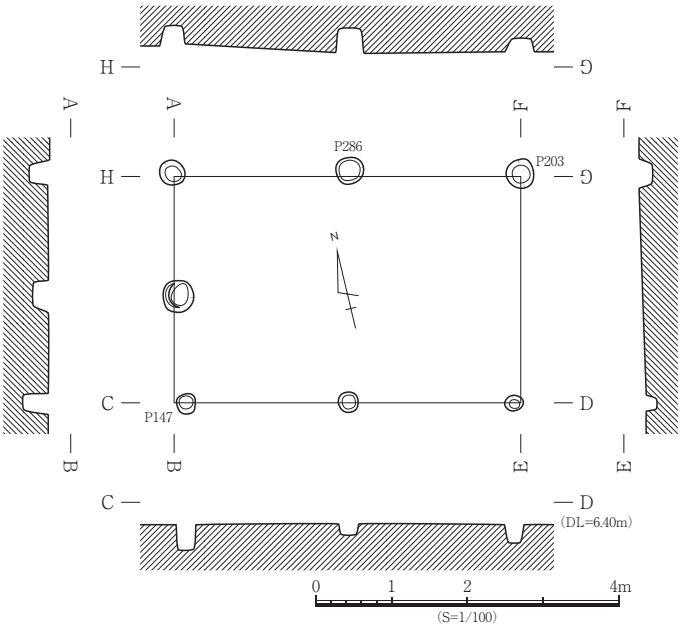


図306　9－1区　SB49　平面図・エレベーション図

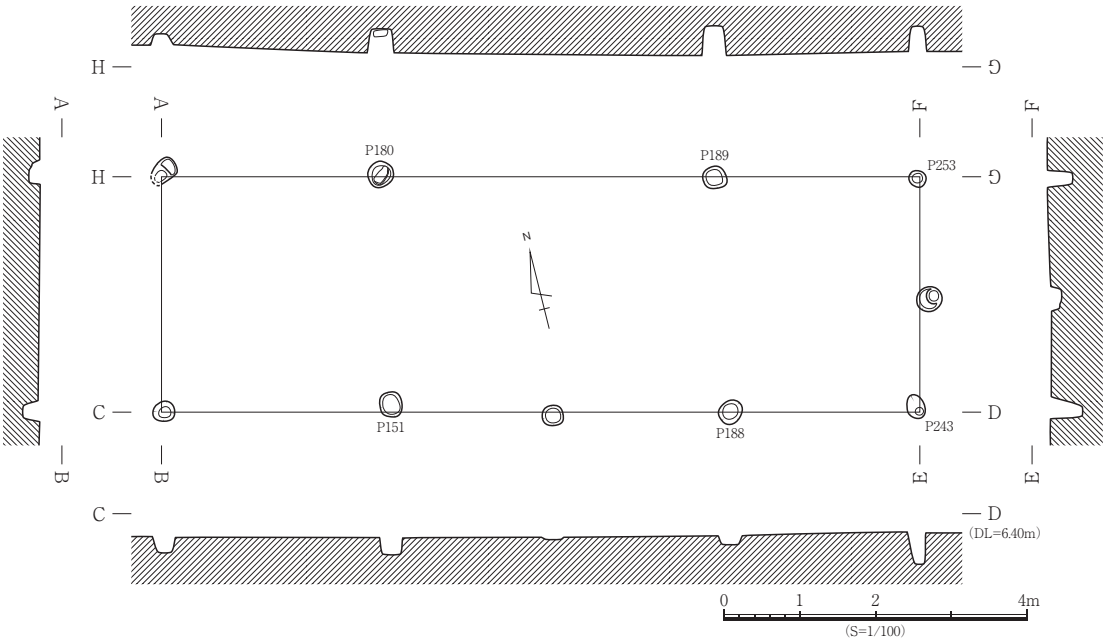


図307　9－1区　SB50　平面図・エレベーション図

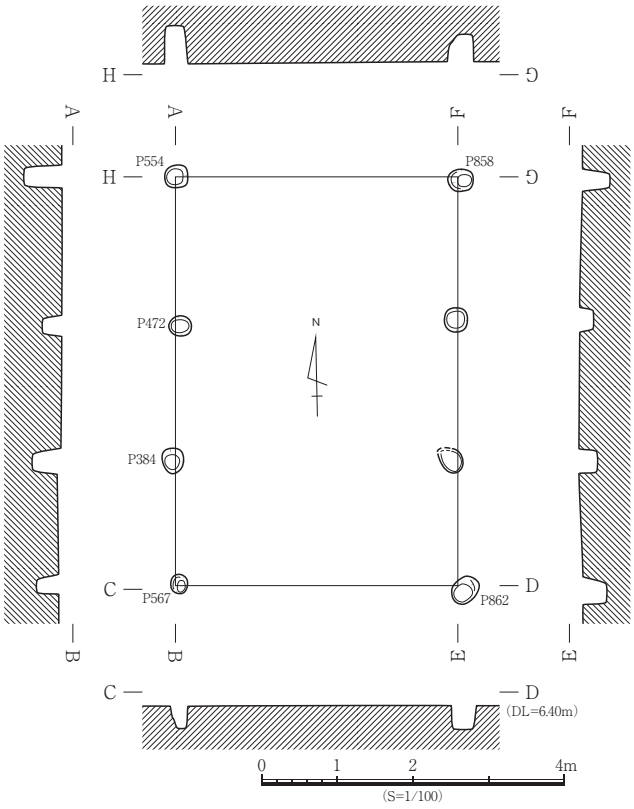


図308　9－1・2区　SB51
平面図・エレベーション図

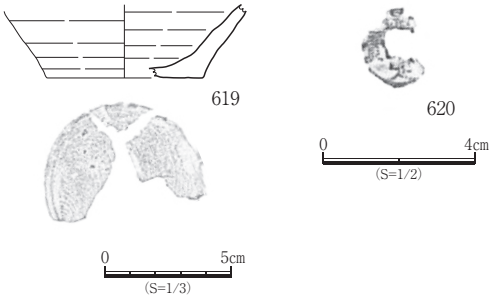


図309　9－1・2区　SB51　出土遺物実測図

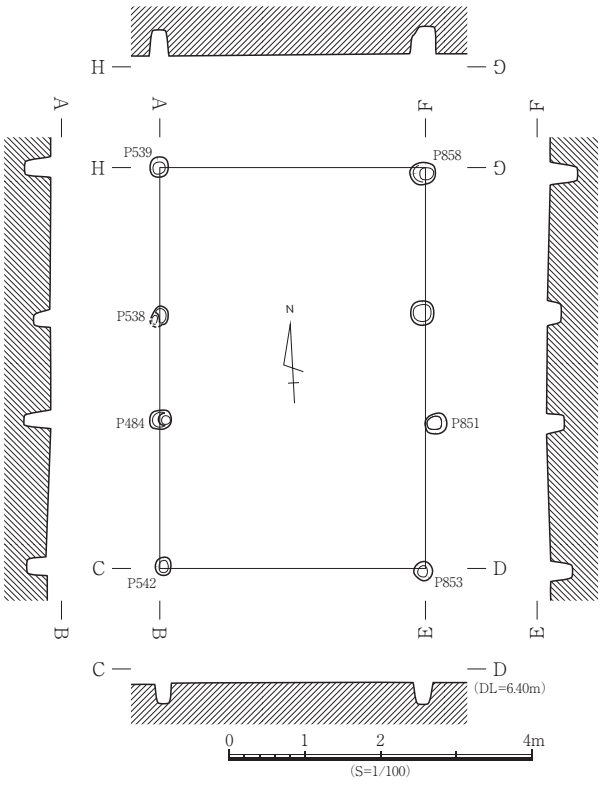


図310　9－1・2区　SB52
平面図・エレベーション図

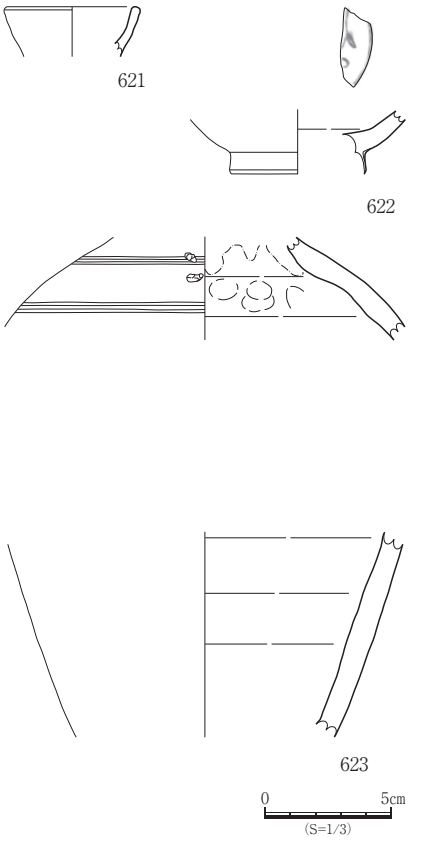


図311　9－1・2区　SB52　出土遺物実測図

(625)である。口縁部は斜め外方へ大きくひろがり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SB57

SB57は9－2区で検出した桁行2間(約3.74m)，梁行2間(約3.21m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約8.3㎡である。主軸方向はN－80° 05′－Eである。P801・P818・P829・P849・P899他で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは6～29㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の羽釜(626)である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下に断面形が三角形の鍔を付す。外面はヨコナデ調整，内面はヘラナデ調整を施す。

SB58

SB58は9－2区で検出した桁行2間(約4.67m)，梁行3間(約4.56m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約21.3㎡である。主軸方向はN－9° 28′－Eである。P793・P820・P839・P860・P870・P872・P895他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは6～34㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB59

SB59は9－2区で検出した桁行2間(約3.85m)，梁行2間(約3.00m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約11.5㎡である。主軸方向はN－85° 32′－Wである。P775・P789・P813他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは14～31㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

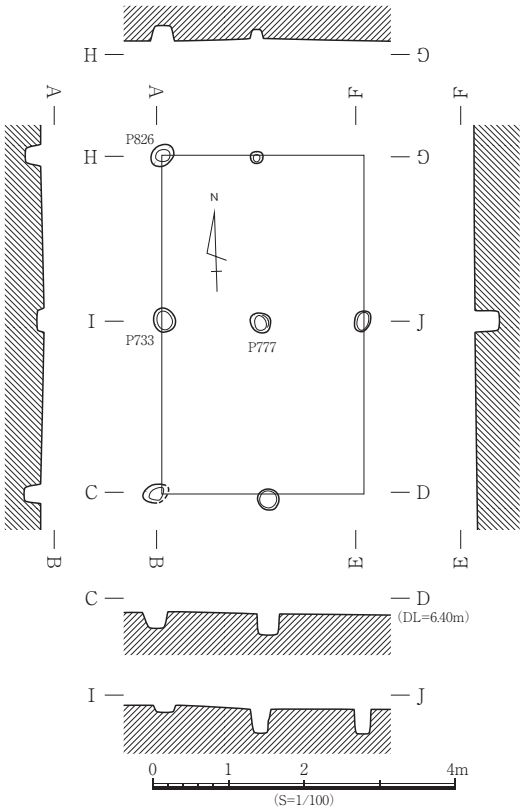


図312　9－2区　SB53　平面図・エレベーション図

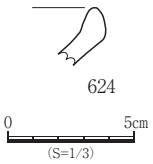


図313　9－2区　SB53　出土遺物実測図

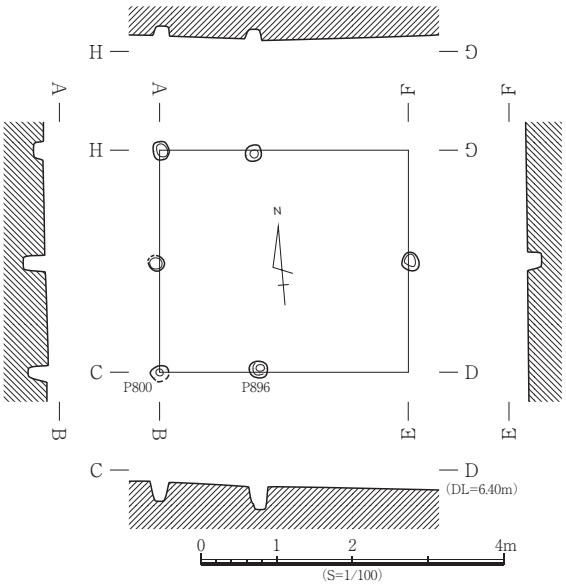


図314　9－2区　SB54　平面図・エレベーション図

SB60

SB60は9－2区で検出した桁行2間(約3.79m)，梁行2間(約2.39m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約9.0㎡である。主軸方向はN－86°51′－Wである。P768・P794・P842・P900他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは7～31㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB61

SB61は9－2区で検出した桁行2間(約4.84m)，梁行1間(約2.67m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約12.9㎡である。主軸方向はN－7°11′－Eである。P755・P787・P796・P825・P843・P862で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは19～43cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(627・628)である。

627は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。二次被熱を受ける。628は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。二次被熱を受ける。

SB62

SB62は9－2区で検出した桁行3間(約3.95m)，梁行2間(約2.51m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約9.9㎡である。主軸方向はN－9°07′－Wである。P734・P769・P803・P844他で構成される。柱穴は

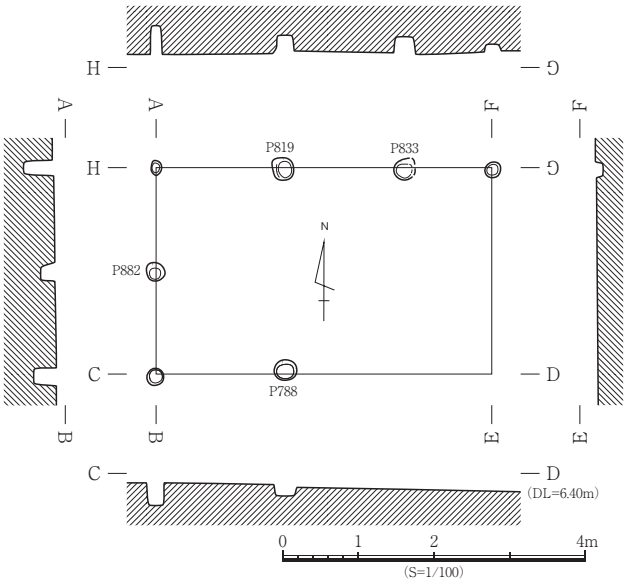


図315　9－2区　SB55　平面図・エレベーション図

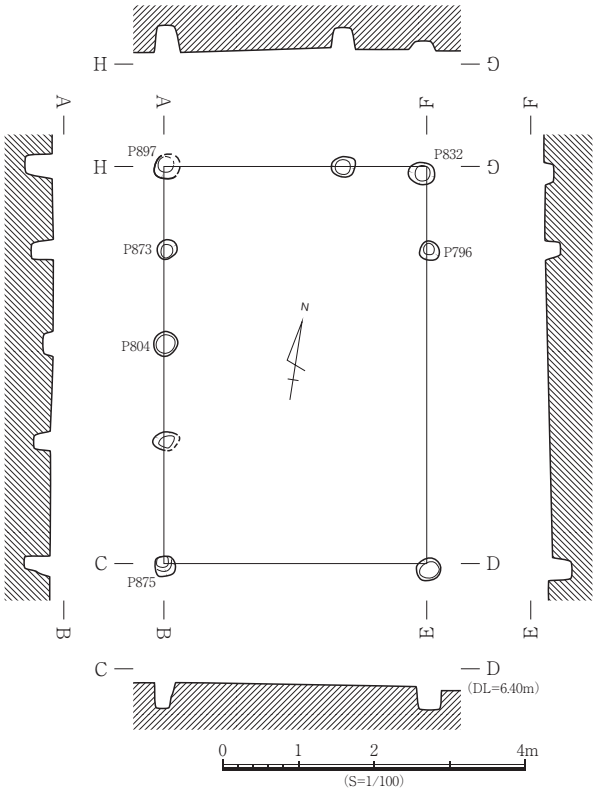


図316　9－2区　SB56　平面図・エレベーション図

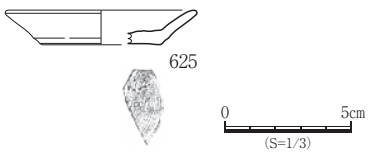


図317　9－2区　SB56　出土遺物実測図

直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは27～41㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(629・630)である。

629は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受ける。630は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。二次被熱を受ける。

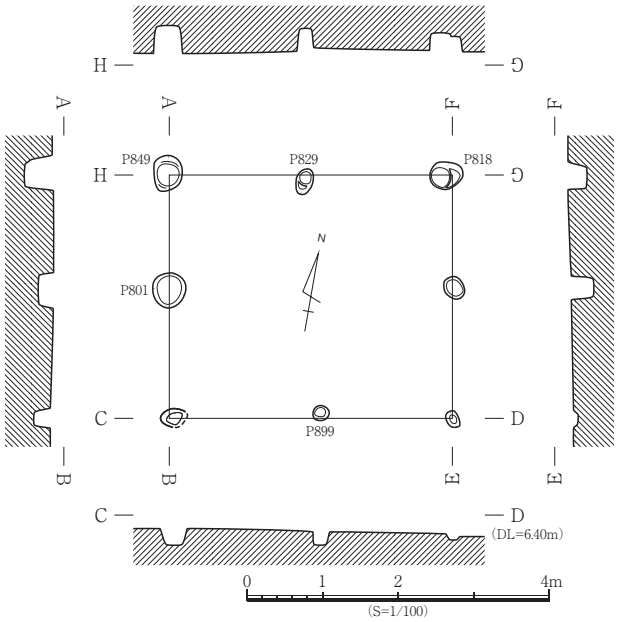


図318　9－2区　SB57　平面図・エレベーション図

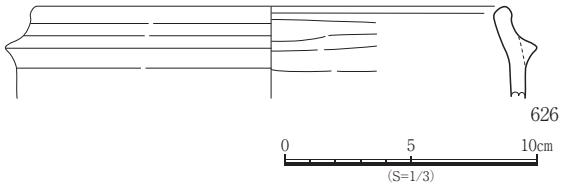


図319　9－2区　SB57　出土遺物実測図

SB63

SB63は9－2区で検出した桁行2間(約4.29m)，梁行1間(約1.82m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約7.8㎡である。主軸方向はN－84°22′－Eである。P786・P807他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは11～49cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB64

SB64は9－2区で検出した桁行3間(約5.37m)，梁行1間(約2.51m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約13.5㎡で

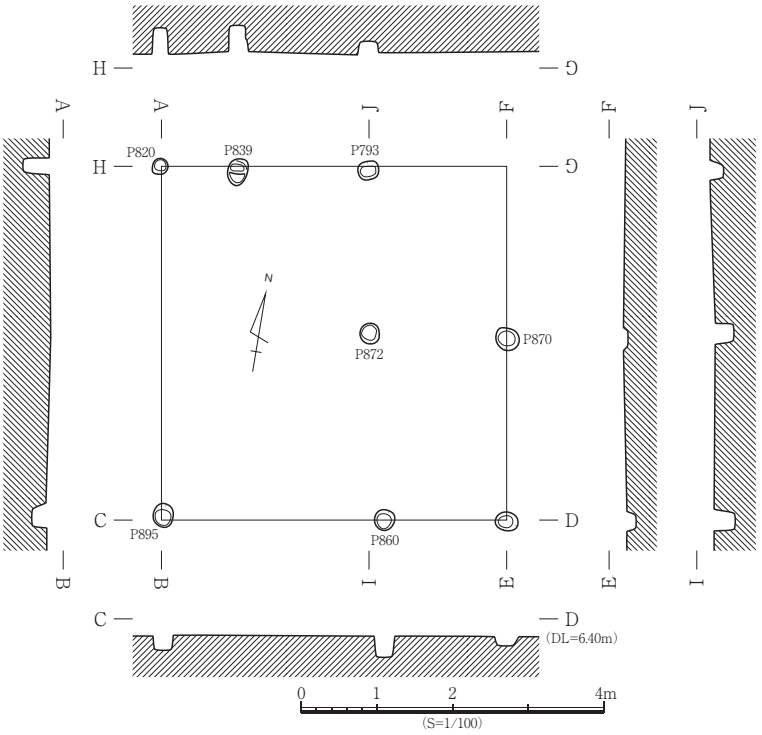


図320　9－2区　SB58　平面図・エレベーション図

ある。主軸方向はN－78°46′－Eである。P763・P901他で構成される。柱穴は直径約30㎝の不整形であり，検出面からの深さは14～37㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB65

SB65は9－2区で検出した桁行3間(約6.05m)，梁行2間(約3.58m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約21.6㎡である。主軸方向はN－84°35′－Wである。P757・P760・P762・P841・P869・P884他で構成される。柱穴は直径約30㎝の不整形であり，検出面からの深さは15～35㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(631)，瓦質土器の鍋(632)である。

631は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。底端部は突出する。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。二次被熱を受ける。632は鍋である。体部は扁球形を呈し，口縁部は僅かに外反させる。口唇部を摘み上げる。口縁部はヨコナデ調整，体部外面はナデ調整で指頭圧痕が認められる。内面にはヨコナデ調整を施す。

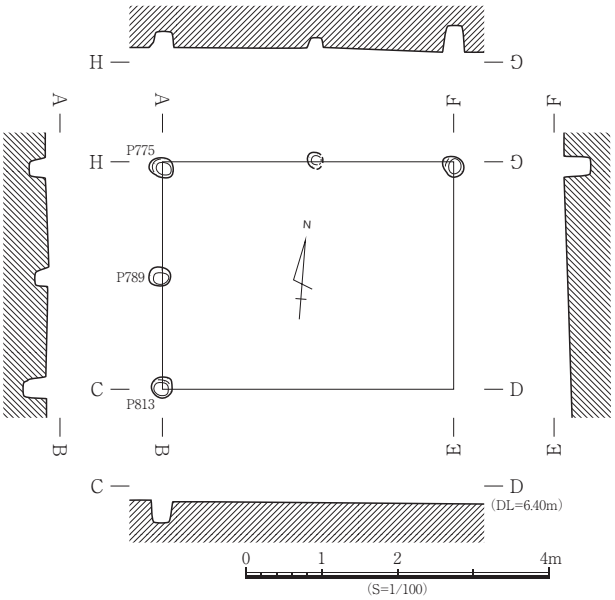


図321　9－2区　SB59　平面図・エレベーション図

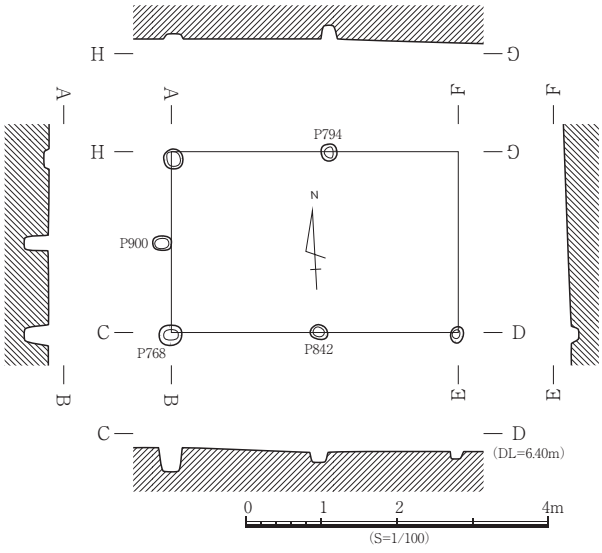


図322　9－2区　SB60　平面図・エレベーション図

SB66

SB66は9－2区で検出した桁行2間(約5.81m)，梁行2間(約3.68m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約21.4㎡である。主軸方向はN－85°55′－Wである。P750・P756・P806・P866・P893他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは7～43㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は瓦質土器の羽釜(633)である。口縁部は内傾し，口唇部は凹む。口縁部下には退化した鍔を付す。口縁部にはヨコナデ調整を施す。体部外面はナデ調整を施し，指頭圧痕が認められる。内面にはヨコナデ調整を施す。

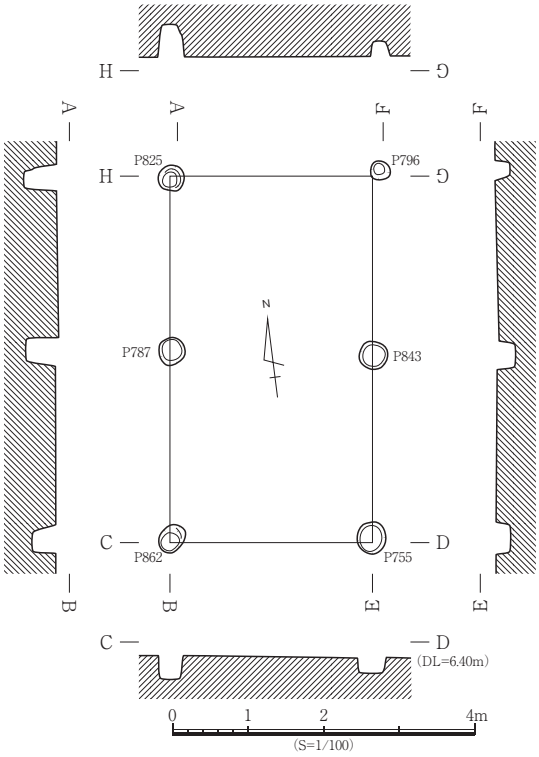


図323　9－2区　SB61
平面図・エレベーション図

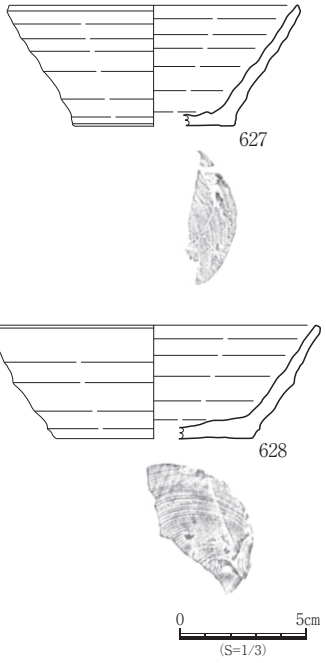


図324　9－2区　SB61　出土遺物実測図

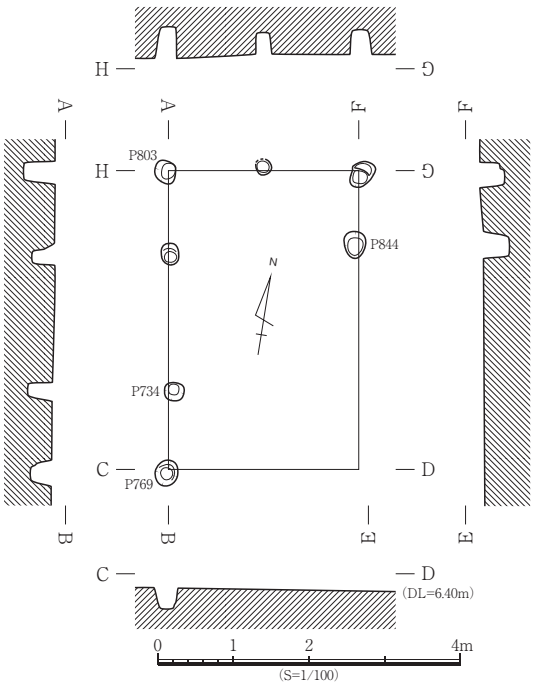


図325　9－2区　SB62
平面図・エレベーション図

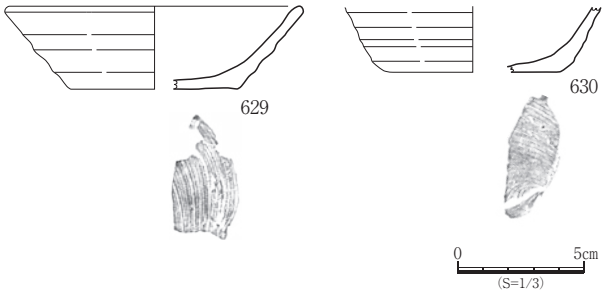


図326　9－2区　SB62　出土遺物実測図

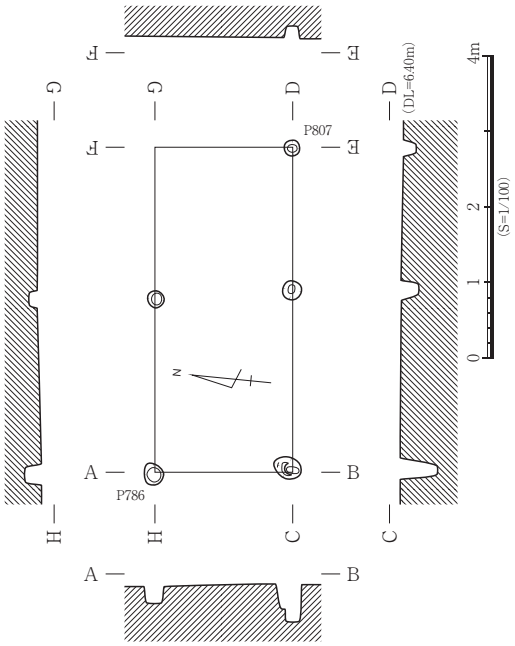


図327　9－2区　SB63
平面図・エレベーション図

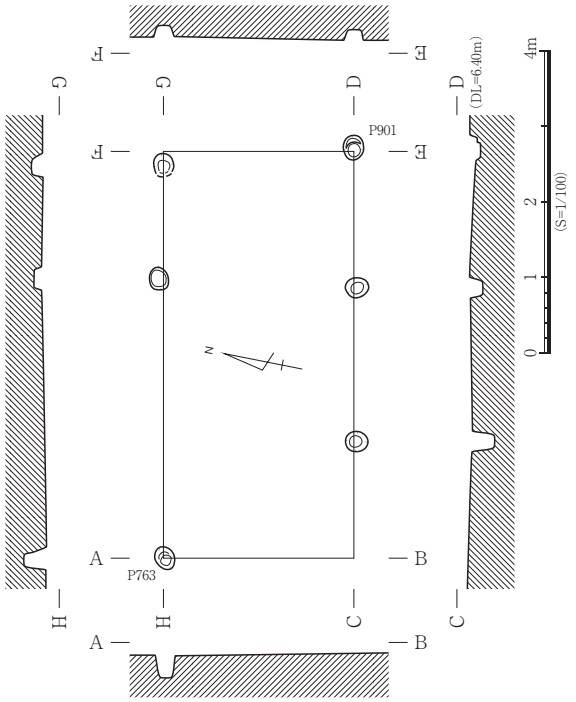


図328　9－2区　SB64　平面図・エレベーション図

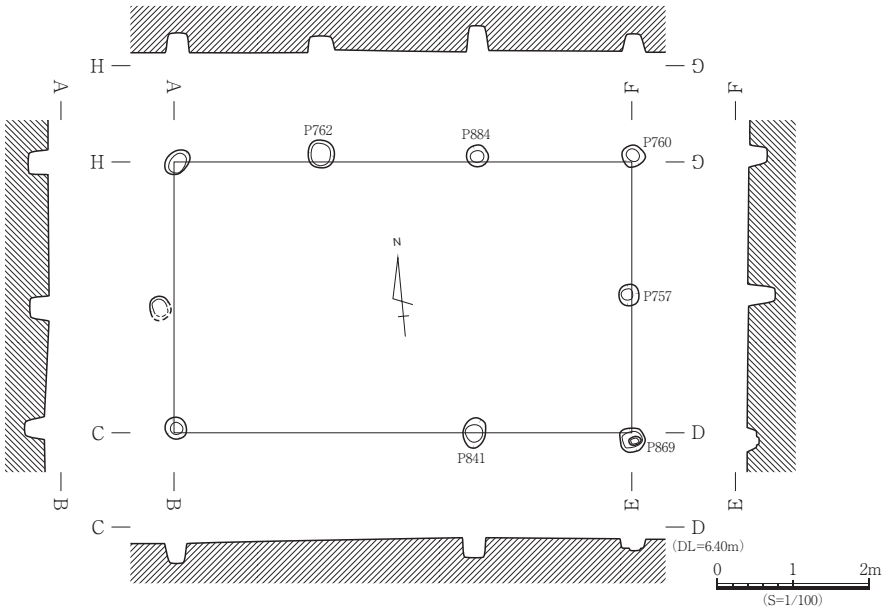


図329　9－2区　SB65　平面図・エレベーション図

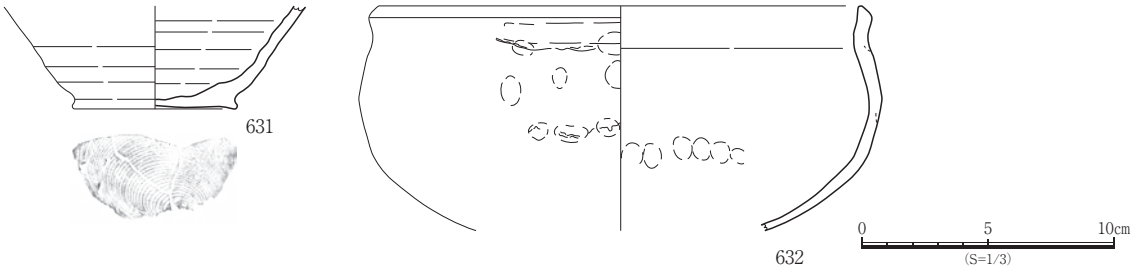


図330　9－2区　SB65　出土遺物実測図

SB67

SB67は9－2区で検出した桁行3間(約4.95m)，梁行2間(約2.89m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約14.3㎡である。主軸方向はN－80°01′－Eである。P742・P743・P751・P823・P885他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは15～40㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB68

SB68は9－2区で検出した桁行3間(約4.91m)，梁行2間(約3.21m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約15.8㎡である。主軸方向はN－78°29′－Eである。P758・P856・P869他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは11～30㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB69

SB69は9－2区・11－1区で検出した桁行3間(約7.43m)，梁行1間(約4.63m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約34.4㎡である。主軸方向はN－84°23′－W

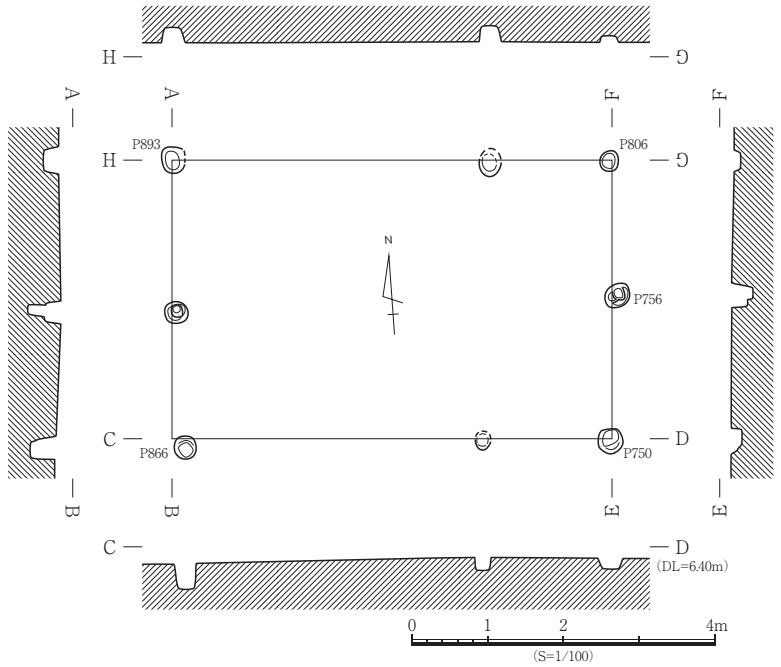


図331　9－2区　SB66　平面図・エレベーション図

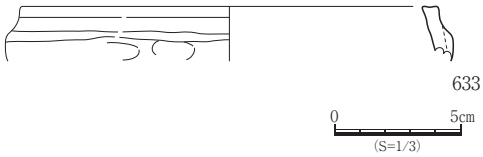


図332　9－2区　SB66　出土遺物実測図

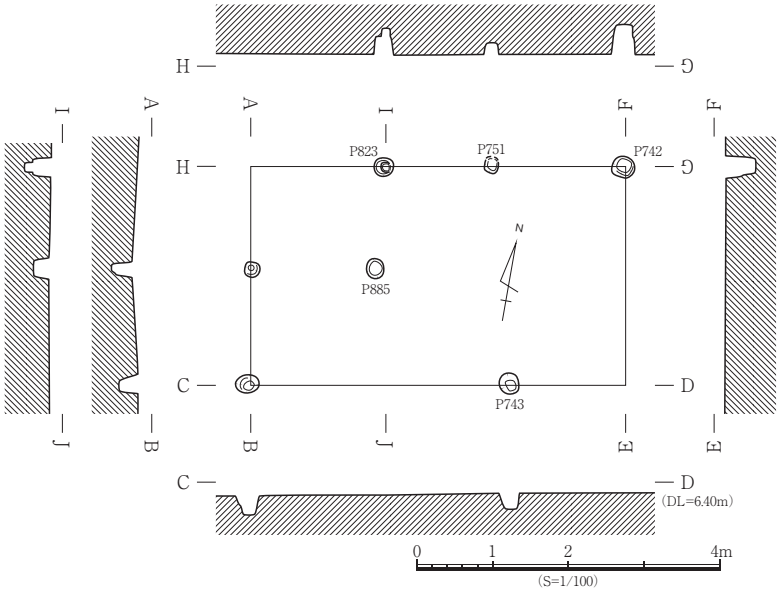


図333　9－2区　SB67　平面図・エレベーション図

である。P865他で構成される。柱穴は直径約40cmの不整形であり，検出面からの深さは11～26cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB70

SB70は9－2区で検出した桁行2間(約2.86m)，梁行1間(約0.80m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，

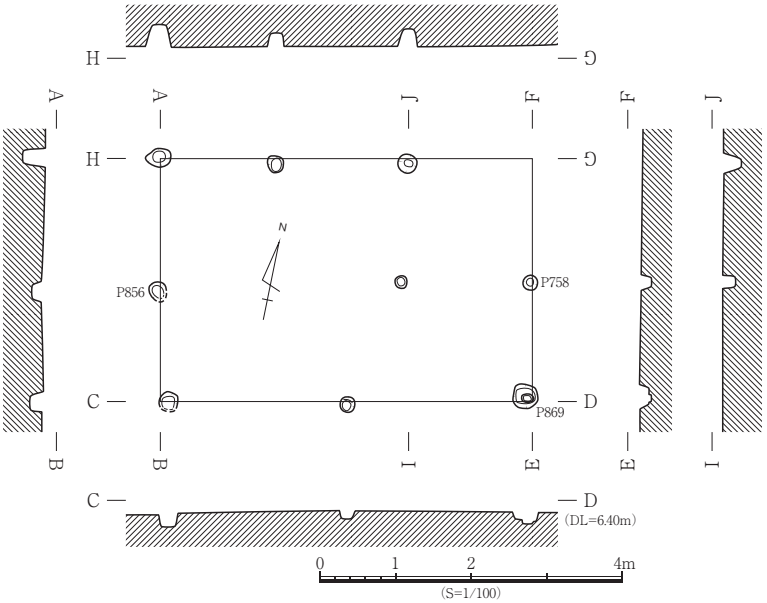


図334　9－2区　SB68　平面図・エレベーション図

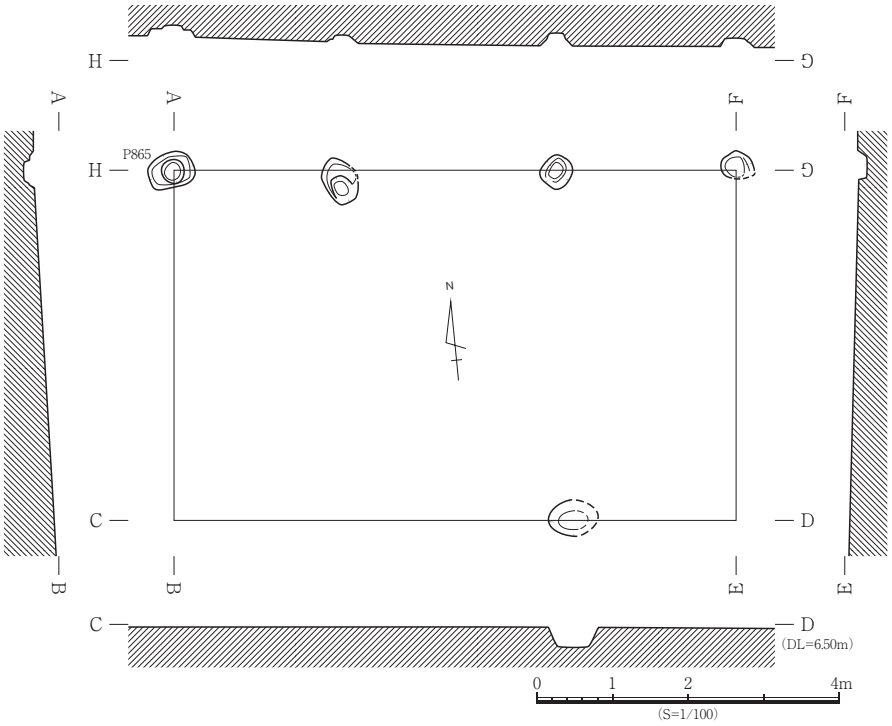


図335　9－2区・11－1区　SB69　平面図・エレベーション図

床面積は約 2.2 ㎡である。主軸方向はＮ－ 82° 59′ －Ｅである。P785 他で構成される。柱穴は直径約 40 ㎝の不整形であり，検出面からの深さは 18 ～ 42 ㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。門跡の可能性がある。

図示した出土遺物はない。

SB71

SB71 は 9 － 2 区で検出した桁行 2 間(約 3.23m)，梁行 1 間(約 3.12m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約 10.1 ㎡である。主軸方向はＮ－ 5° 55′ －Ｅである。P719・P732・P808 他で構成される。柱穴は直径 20 ～ 30㎝の不整円形であり，検出面からの深さは 3 ～ 16 ㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB72

SB72 は 9 － 2 区で検出した桁行 4 間(約 5.21m)，梁行 1 間(約 1.82m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約 9.5 ㎡である。主軸方向はＮ－ 87° 32′ －Ｗである。P658・P677・P684・P685・P689・P705・P717・P725 他で構成される。柱穴は直径 20 ～ 30 ㎝の不整形であり，検出面からの深さは 5 ～ 58 ㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB73

SB73 は 9 － 2 区で検出した桁行 2 間(約 3.83m)，梁行 2 間(約 1.93m)の東

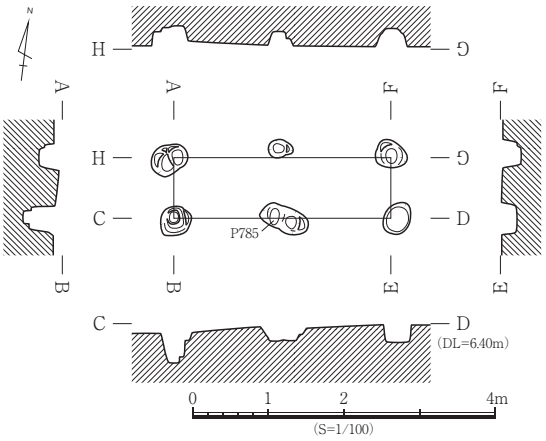


図336　9－2区　SB70　平面図・エレベーション図

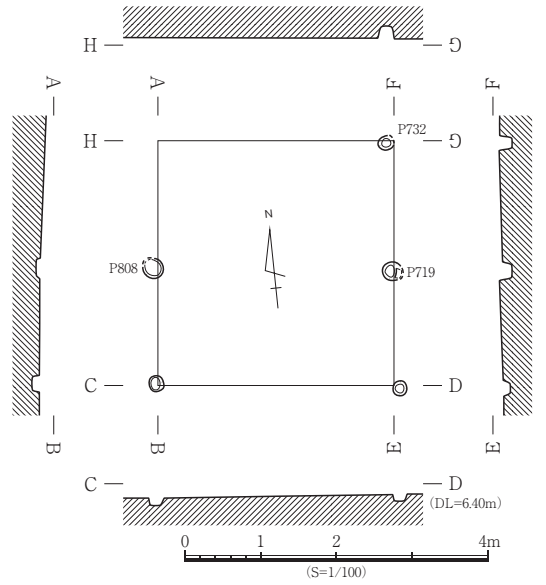


図337　9－2区　SB71　平面図・エレベーション図

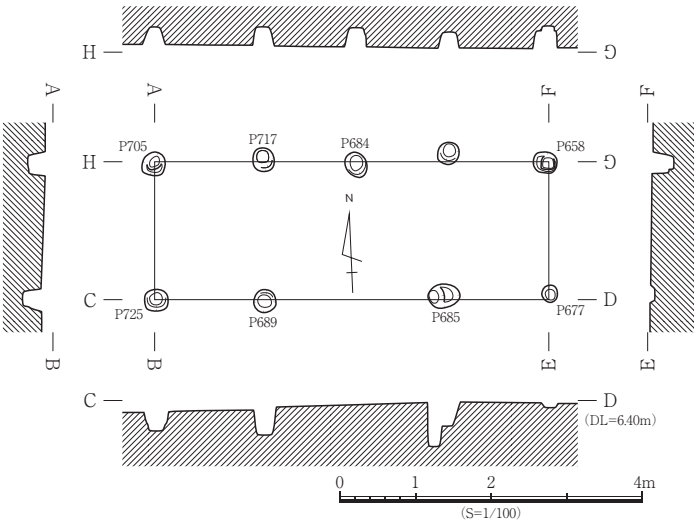


図338　9－2区　SB72　平面図・エレベーション図

西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約7.4㎡である。主軸方向はN－84°16′－Wである。P670・P702・P704・P708他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは7～32㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB74

SB74は9－2区で検出した桁行2間(約3.28m)，梁行2間(約3.19m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約10.4㎡である。主軸方向はN－12°30′－Eである。P696・P710・P711他で構成される。柱穴は直径約20㎝の不整形であり，検出面からの深さは12～24㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB75

SB75は9－2区で検出した桁行3間(約4.49m)，梁行2間(約3.15m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約14.1㎡である。主軸方向はN－6°10′－Wである。P659・P679・P682・P685・P687・P691・P700・766他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは10～58㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

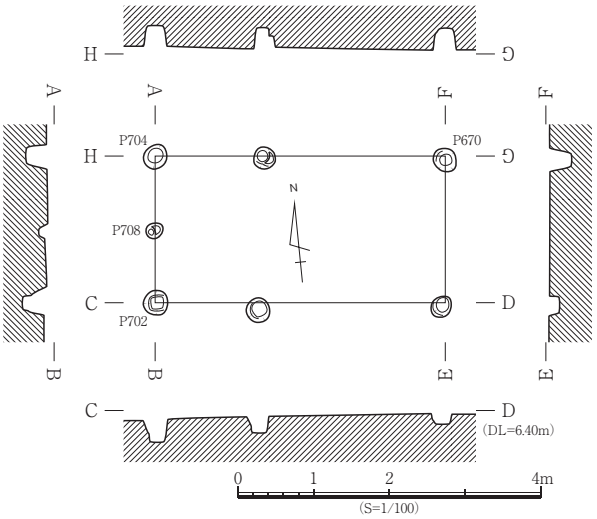


図339　9－2区　SB73　平面図・エレベーション図

SB76

SB76は9－2区で検出した桁行3間(約5.26m)，梁行1間(約2.39m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約12.5㎡である。主軸方向はN－77°18′－Eである。P671・P676・P677・P684他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整形であり，検出面からの深さは5～32㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

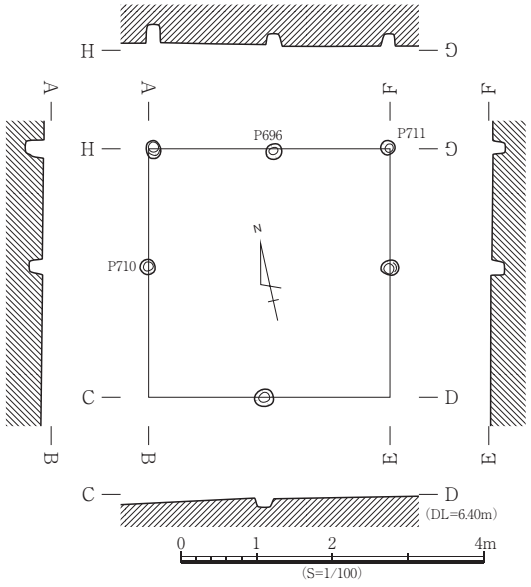


図340　9－2区　SB74　平面図・エレベーション図

SB77

SB77は9－2区で検出した桁行1間(約1.52m)，梁行1間(約1.01m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約1.5㎡である。主軸

方向はN－2°11′－Eである。P694・P747他で構成される。柱穴は直径約30cmの不整円形であり，検出面からの深さは20～25cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB78

SB78は9－2区で検出した桁行2間(約3.24m)，梁行2間(約2.26m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約7.3㎡である。主軸方向はN－78°52′－Eである。P656・P721・P904他で構成される。柱穴は直径約20cmの不整形であり，検出面からの深さは4～18cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SB79

SB79は9－2区で検出した桁行2間(約4.14m)，梁行2間(約3.30m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約13.6㎡である。主軸方向はN－1°38′－Wである。P655・P665・P666・P707他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは4～35cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(634)・杯(635)である。

634は皿である。口縁部は短く外上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。635は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目が認められ，内底面は渦状

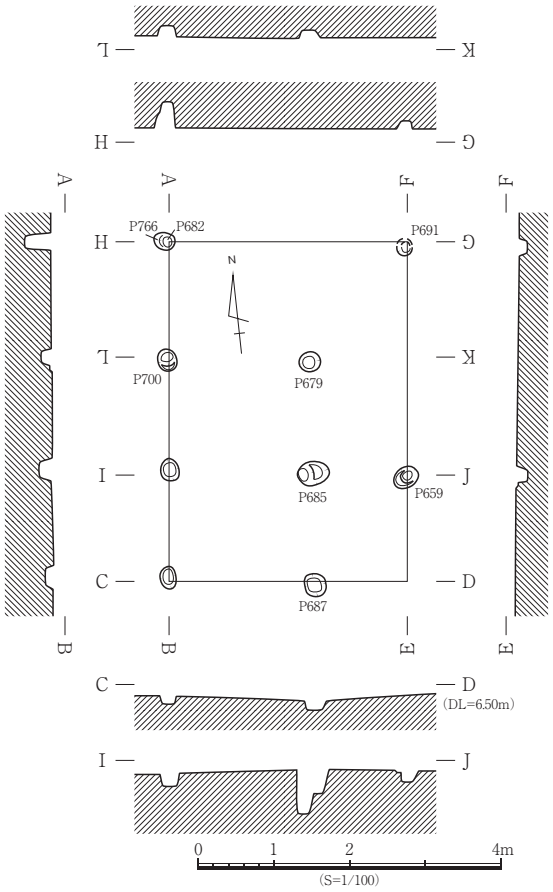


図341　9－2区　SB75　平面図・エレベーション図

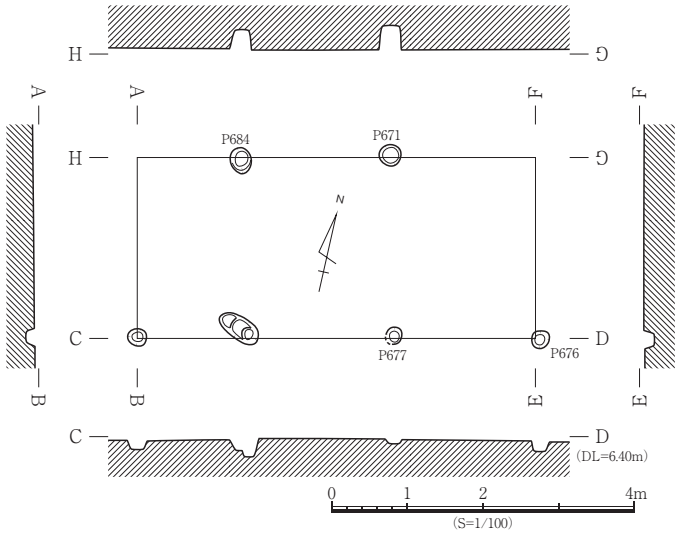


図342　9－2区　SB76　平面図・エレベーション図

を呈する。また，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受ける。

SB80

SB80は9－3区で検出した桁行2間（約1.91m），梁行2間（約1.83m）の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約3.5㎡である。主軸方向はN－88°15′－Wである。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは7～22cmである。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト質極細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

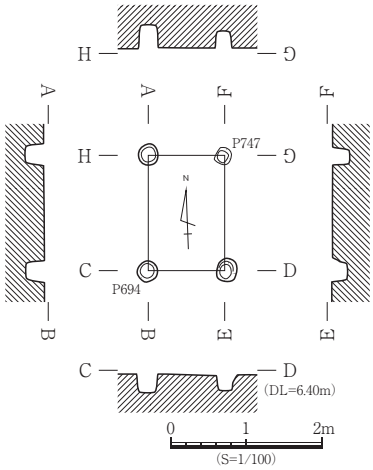


図343　9－2区　SB77
平面図・エレベーション図

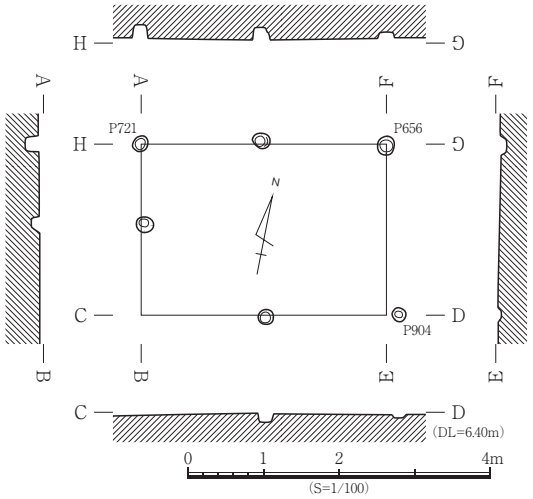


図344　9－2区　SB78　平面図・エレベーション図

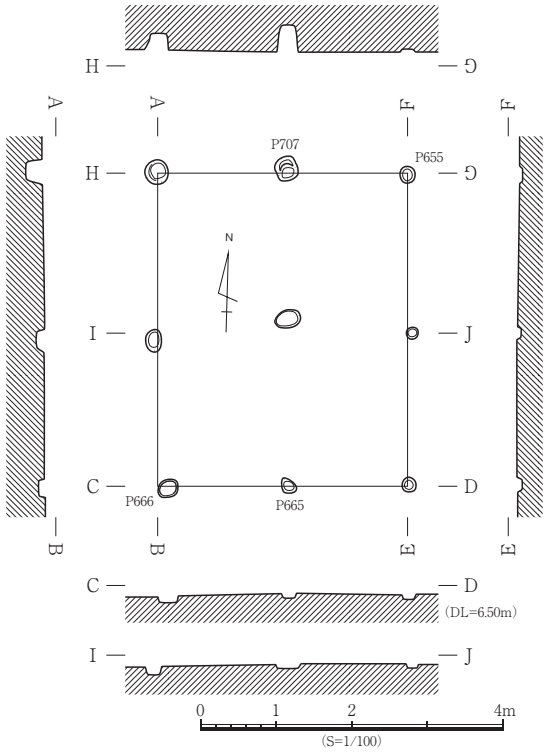


図345　9－2区　SB79　平面図・エレベーション図

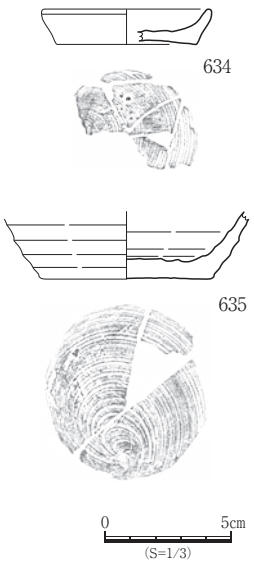


図346　9－2区　SB79
出土遺物実測図

SB81

SB81は9－3区で検出した桁行2間(約3.30m)，梁行1間(約1.12m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN－85°56′－Wである。P926・P930・P953他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは5～27㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SB82

SB82は9－3区で検出した桁行3間(約3.64m)，梁行2間(約2.13m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約7.7㎡である。主軸方向はN－88°31′－Eである。P915・P919・P928・P932・P934他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは9～24cmである。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SB83

SB83は9－3区で検出した桁行2間(約3.43m)，梁行1間(約1.84m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約6.3㎡である。主軸方向はN－10°54′－Eである。P912・P927・P933・SD43他で構成される。柱穴は直径50～70cmの不整形であり，検出面からの深さは27～48㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)極細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SB84

SB84は9－3区で検出した桁行1間(約1.99m)，梁行1間(約1.84m)の南北棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN－9°32′－Eである。P943・P945・P947他で構成される。柱穴は直径40～60cmの不整形であり，検出面か

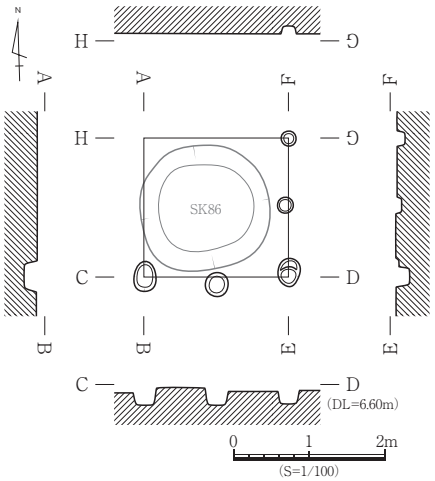


図347　9－3区　SB80　平面図・エレベーション図

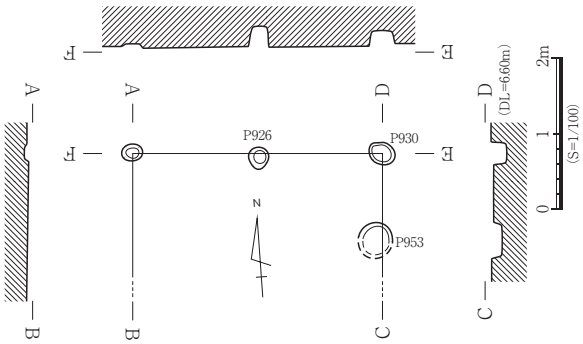


図348　9－3区　SB81　平面図・エレベーション図

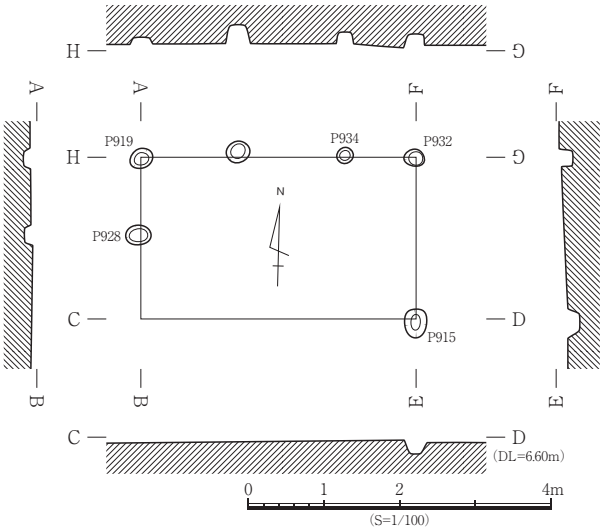


図349　9－3区　SB82　平面図・エレベーション図

らの深さは29～45㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SB85

SB85は9－3区で検出した桁行1間(約1.60m)，梁行2間(約2.82m)の南北棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN－15°58′－Eである。P914・P915・P940・P944他で構成される。柱穴は直径40～50㎝の不整形であり，検出面からの深さは11～56㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。

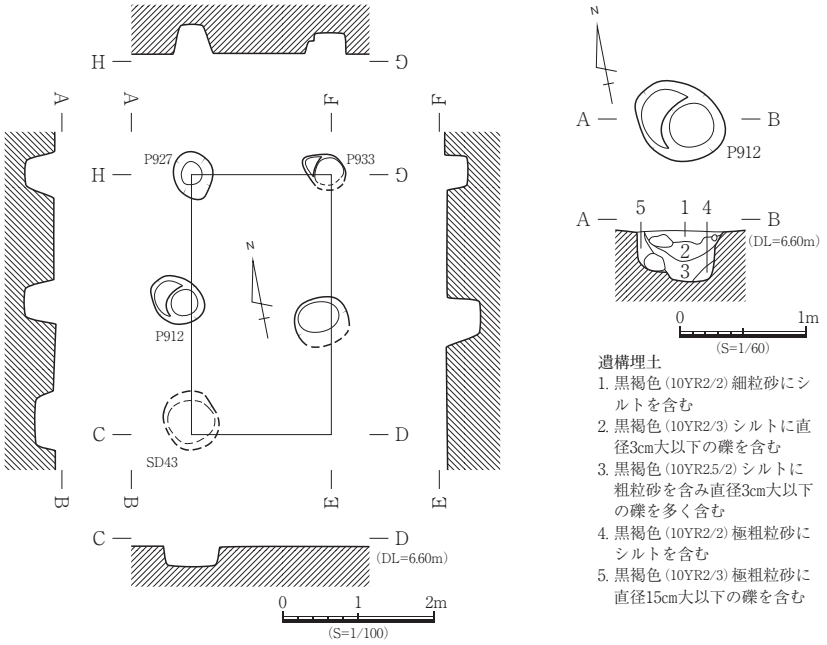


図350　9－3区　SB83　平面図・断面図・エレベーション図

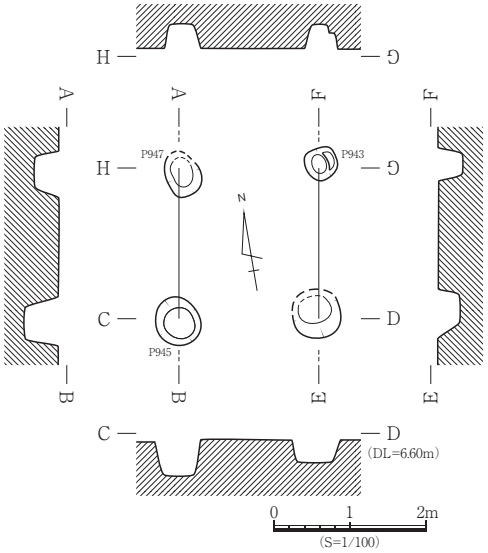


図351　9－3区　SB84
平面図・エレベーション図

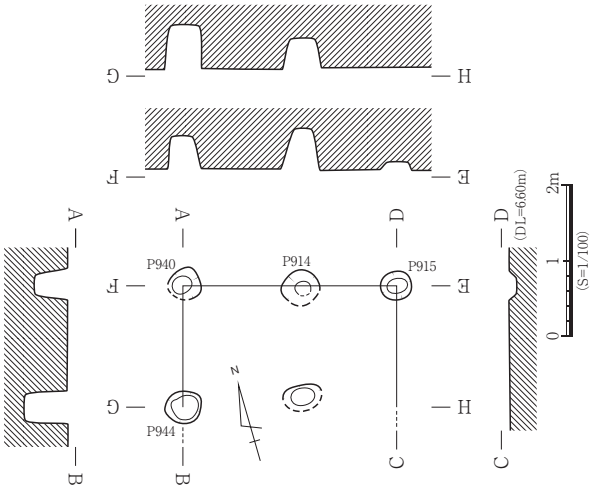


図352　9－3区　SB85　平面図・エレベーション図

図示した出土遺物はない。

SB86

SB86は9－1区で検出した桁行1間(約1.91m)，梁行1間(約1.15m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約2.2㎡である。主軸方向はN－89°14′－Eである。P405・P515・P536他で構成される。柱穴は直径20～40cmの不整形であり，検出面からの深さは24～33cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。橋の可能性がある。

図示した出土遺物はない。

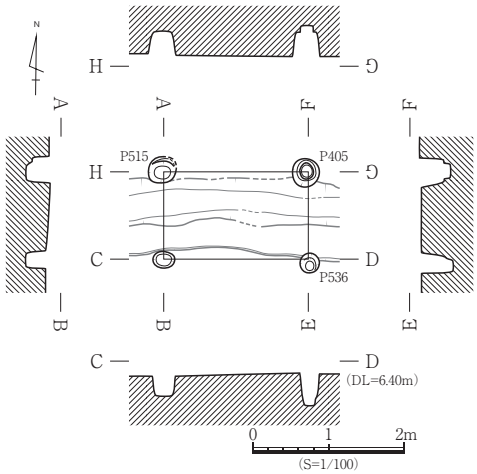


図353　9－1区　SB86
平面図・エレベーション図

2.SA

SA1

SA1は9－1区で検出した柵跡である。P90・P129・P288・P489・P509他で構成され，検出長は約16.47ｍである。主軸方向はN－14°15′－Eである。柱間寸法は1.95～3.80mを測る。柱穴は直径20～30㎝の不整円形を呈し，検出面からの深さは11～21㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA2

SA2は9－1区で検出した柵跡である。P29・P31・P79・P327・P383他で構成され，検出長は約15.13ｍである。主軸方向はN－14°11′－Eである。柱間寸法は1.65～2.05mを測る。柱穴は直径20～30cmの不整形を呈し，検出面からの深さは6～36cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA3

SA3は9－1区で検出した柵跡である。P30・P49・P63・P344・P465・P582他で構成され，検出長は約16.46ｍである。主軸方向はN－14°41′－Eである。柱間寸法は1.45～5.65mを測る。柱穴は直径20～40cmの不整形を呈し，検出面からの深さは10～39cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA4

SA4は9－1区で検出した柵跡である。P407他で構成され，検出長は約12.99ｍである。主軸方向はN－13°21′－Eである。柱間寸法は2.40～2.90ｍを測る。柱穴は直径20～30cmの不整形を呈し，検出面からの深さは10～31cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

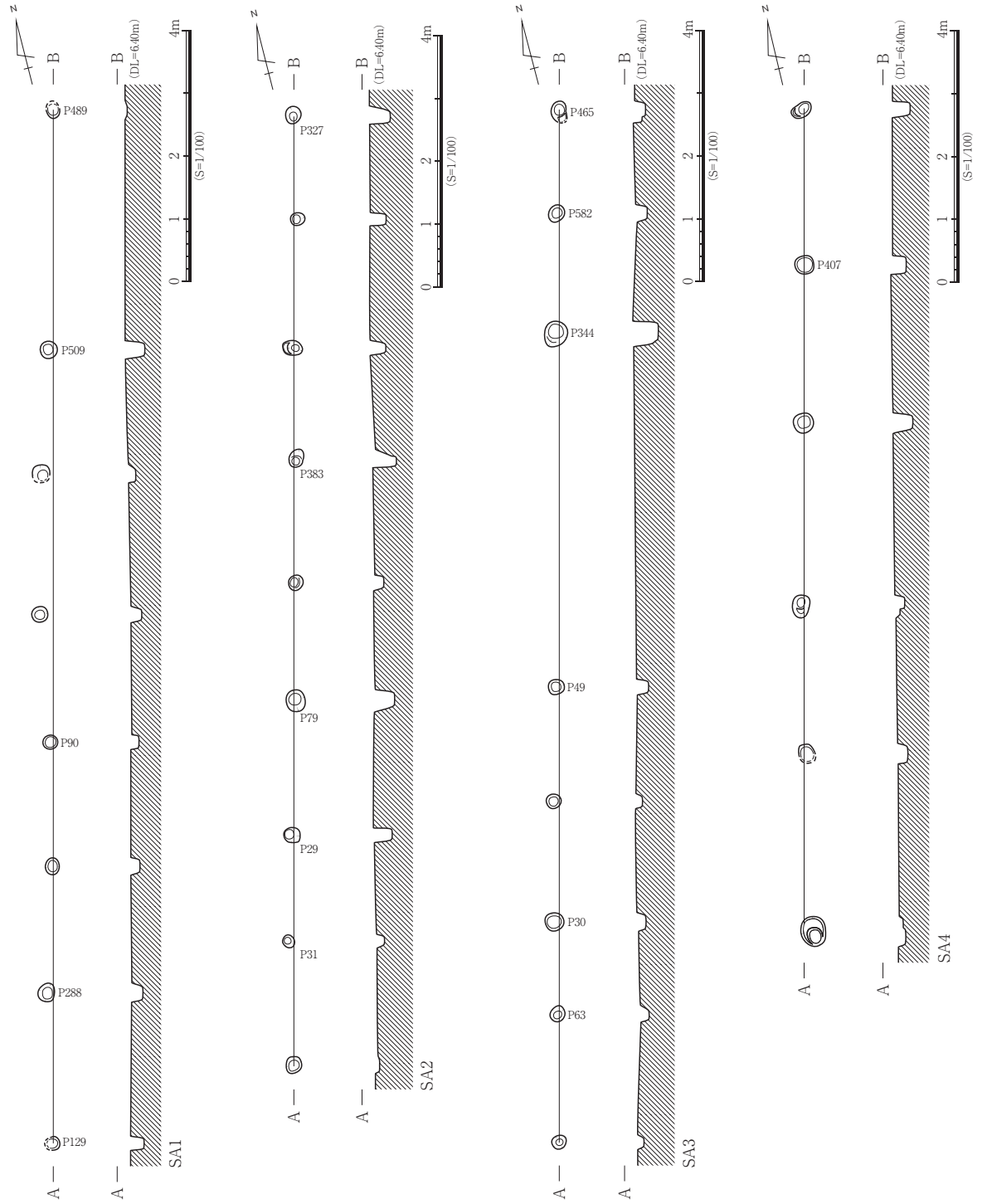


図354　9－1区　SA1～4　平面図・エレベーション図

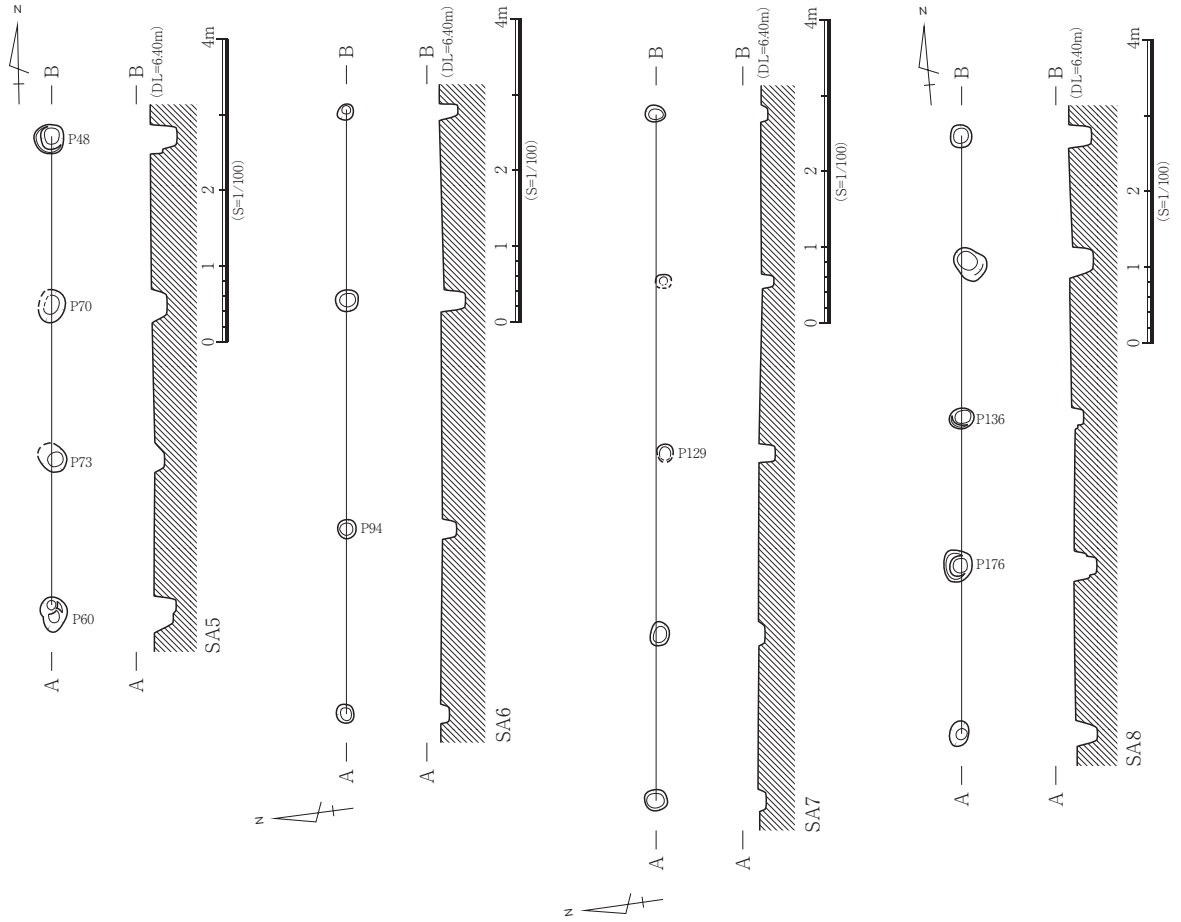


図355　9－1区　SA5～8　平面図・エレベーション図

図示した出土遺物はない。

SA5

SA5は9－1区で検出した柵跡である。P48・P60・P70・P73で構成され，検出長は約6.19ｍである。主軸方向はＮ－1° 09′ －Ｅである。柱間寸法は1.90～2.20ｍを測る。柱穴は直径30～40㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは12～36㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA6

SA6は9－1区で検出した柵跡である。P94他で構成され，検出長は約7.99ｍである。主軸方向はＮ－82° 31′ －Ｗである。柱間寸法は2.45～3.05ｍを測る。柱穴は直径20～30㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは11～33㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA7

SA7は9－1区で検出した柵跡である。P129他で構成され，検出長は約9.07ｍである。主軸方向は

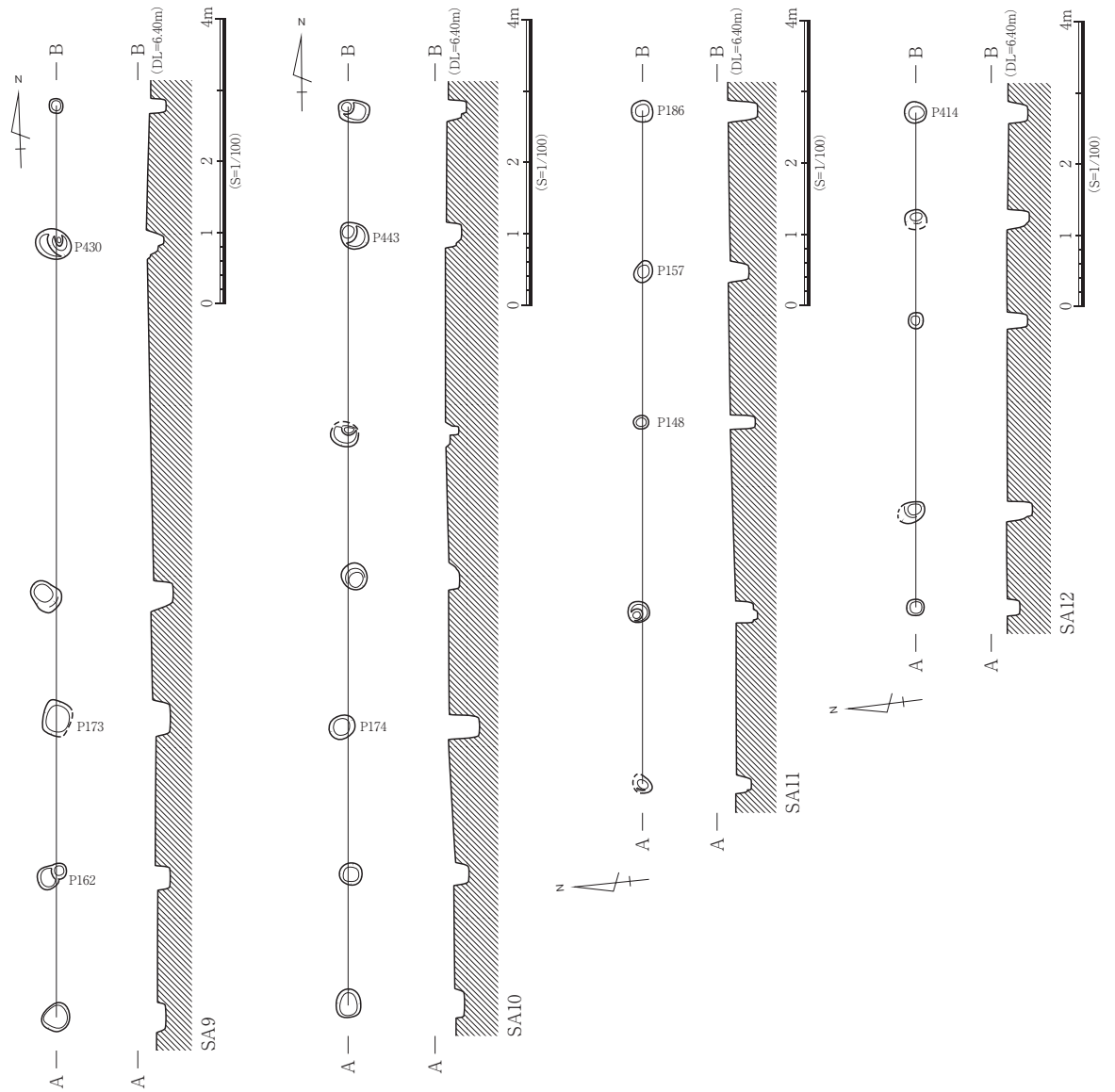


図356　9－1区　SA9～12　平面図・エレベーション図

N－81° 57′ －Wである。柱間寸法は2.20～2.40ｍを測る。柱穴は直径20～30㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは5～21㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA8

SA8は9－1区で検出した柵跡である。P136・P176他で構成され，検出長は約7.91ｍである。主軸方向はN－5° 09′ －Eである。柱間寸法は1.65～2.25ｍを測る。柱穴は直径30～40㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは11～30㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA9

SA9は9－1区で検出した柵跡である。P162・P173・P430他で構成され，検出長は約12.79ｍである。主軸方向はＮ－1° 57′－Ｅである。柱間寸法は1.75 ～ 4.95ｍを測る。柱穴は直径20 ～ 40㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは13 ～ 30㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

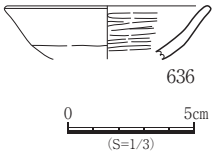


図357　9－1区　SA11
出土遺物実測図

SA10

SA10は9－1区で検出した柵跡である。P174・P443他で構成され，検出長は約12.61ｍである。主軸方向はＮ－0° 33′－Ｅである。柱間寸法は1.75～2.80ｍを測る。柱穴は直径30～40㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは11 ～ 43㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA11

SA11は9－1区で検出した柵跡である。P148･P157･P186他で構成され，検出長は約9.45ｍである。主軸方向はＮ－84° 10′－Ｗである。柱間寸法は2.15 ～ 2.75ｍを測る。柱穴は直径20 ～ 30㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは21 ～ 41㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は瓦器の皿(636)である。口縁部は斜め外方へ大きくひらく。外面にはヨコナデ調整を施す。内面には暗文がみられる。

SA12

SA12は9－1区で検出した柵跡である。P414他で構成され，検出長は約6.94ｍである。主軸方向はＮ－82° 56′－Ｗである。柱間寸法は1.45 ～ 2.65ｍを測る。柱穴は直径20 ～ 30㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは16 ～ 35㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA13

SA13は9－1区で検出した柵跡である。P589他で構成され，検出長は約11.01ｍである。主軸方向はＮ－75° 45′－Ｗである。柱間寸法は1.95～2.55ｍを測る。柱穴は直径20～30㎝の不整円形を呈し，検出面からの深さは15 ～ 37㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA14

SA14は9－1区で検出した柵跡である。P243・P253・P290・P414・P442・P535・P593他で構成され，検出長は約15.55ｍである。主軸方向はＮ－13° 50′－Ｅである。柱間寸法は1.45 ～ 2.05ｍを測る。柱穴は直径20～30㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは10～42㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

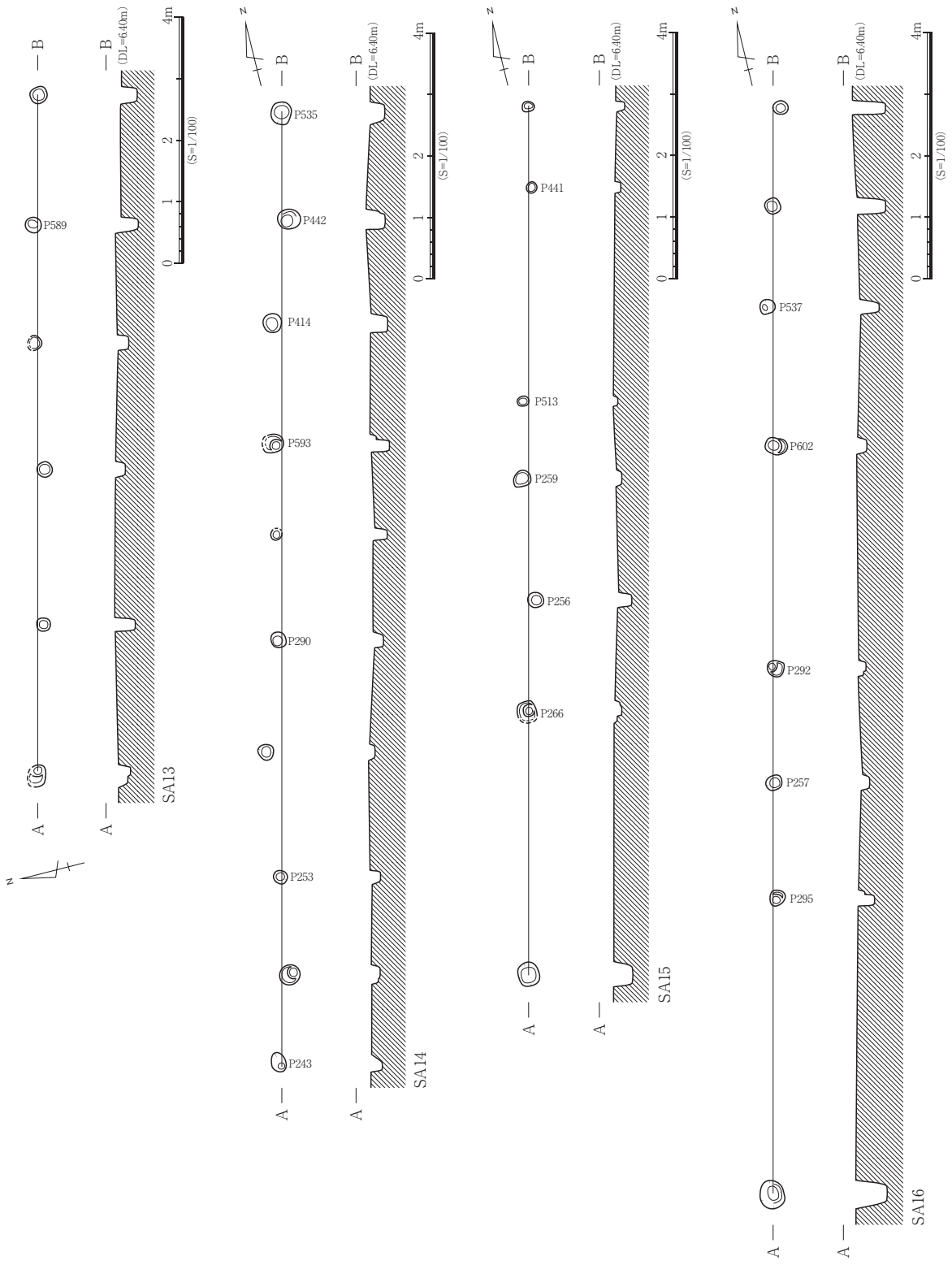


図358　9－1区　SA13～16　平面図・エレベーション図

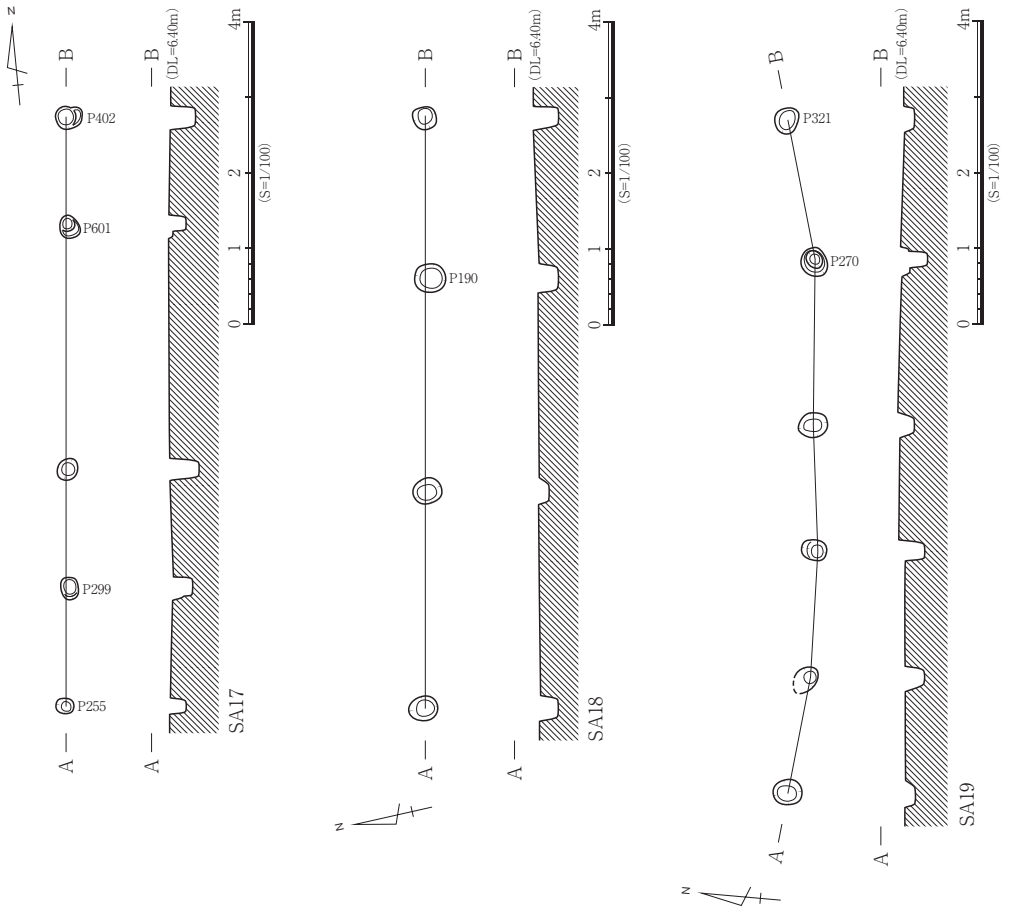


図359　9－1区　SA17～19　平面図・エレベーション図

図示した出土遺物はない。

SA15

SA15は9－1区で検出した柵跡である。P256・P259・P266・P441・P513他で構成され，検出長は約14.15ｍである。主軸方向はＮ－13°41′－Ｅである。柱間寸法は1.25～4.30mを測る。柱穴は直径20～30㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは7～29㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA16

SA16は9－1区で検出した柵跡である。P257・P292・P295・P537・P602他で構成され，検出長は約17.70ｍである。主軸方向はＮ－13°33′－Ｅである。柱間寸法は1.65～3.60mを測る。柱穴は直径20～40㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは12～50㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

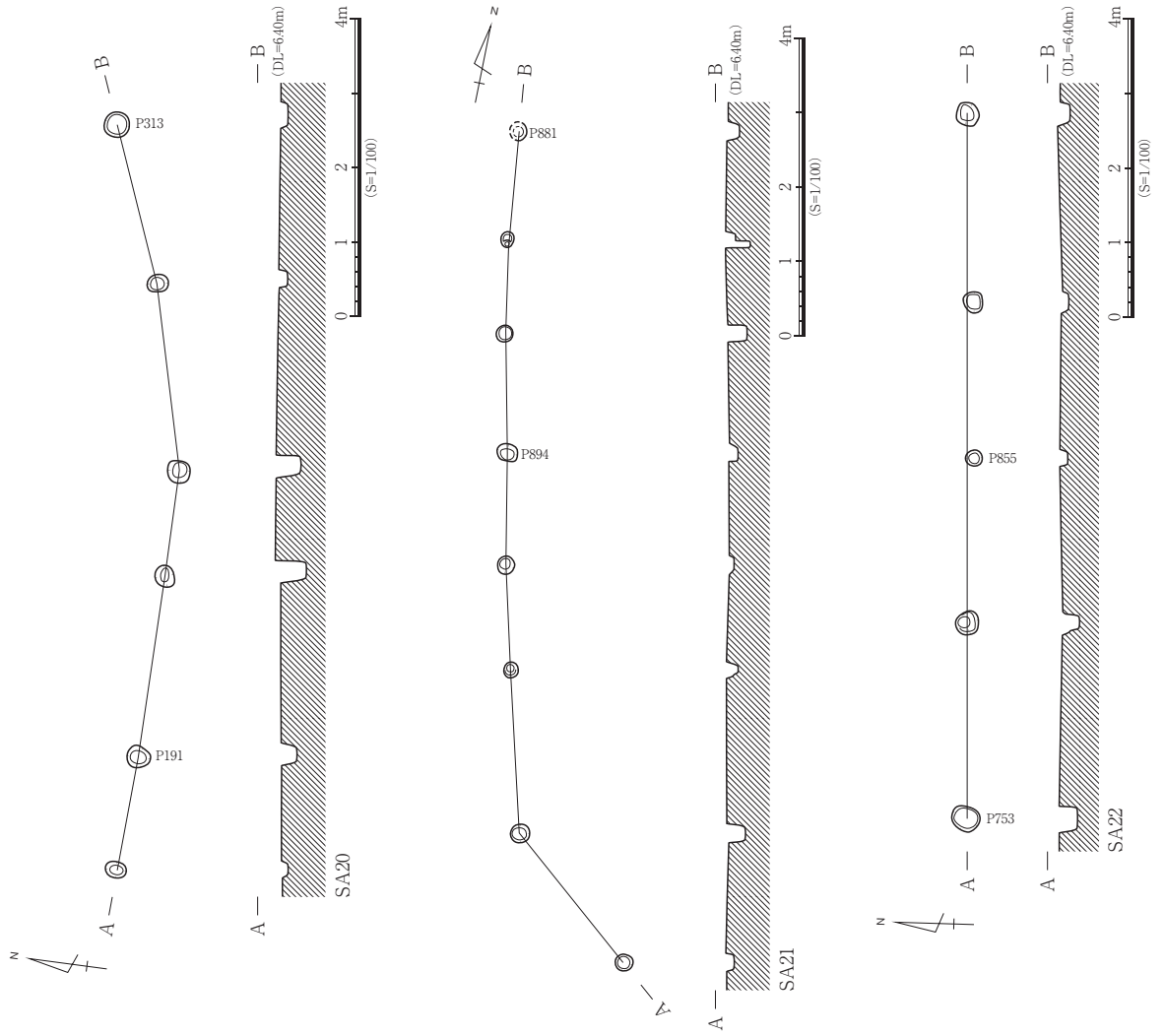


図360　9－1・2区　SA20～22　平面図・エレベーション図

SA17

SA17は9－1区で検出した柵跡である。P255・P299・P402・P601他で構成され，検出長は約7.79mである。主軸方向はN－5° 36′ －Eである。柱間寸法は1.40～3.25mを測る。柱穴は直径20～30cmの不整形を呈し，検出面からの深さは22～38cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA18

SA18は9－1区で検出した柵跡である。P190他で構成され，検出長は約7.84mである。主軸方向はN－77° 17′ －Wである。柱間寸法は2.15～2.85mを測る。柱穴は直径30～40cmの不整円形を呈し，検出面からの深さは14～34cmを測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA19

SA19は9－1区で検出した柵跡である。P270・P321他で構成され，検出長は約8.97ｍである。柱間寸法は1.55～2.20mを測る。柱穴は直径約30㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは14～58㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA20

SA20は9－1区で検出した柵跡である。P191・P313他で構成され，検出長は約10.16ｍである。柱間寸法は1.40～2.50mを測る。柱穴は直径20～30㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは9～34㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA21

SA21は9－1区で検出した柵跡である。P881・P894他で構成され，検出長は約11.66ｍである。柱間寸法は1.25～2.25mを測る。柱穴は直径20～30㎝の不整円形を呈し，検出面からの深さは7～27㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA22

SA22は9－1区で検出した柵跡である。P753・P855他で構成され，検出長は約9.47ｍである。主軸方向はN－88°16′－Eである。柱間寸法は2.10～2.65mを測る。柱穴は直径20～30㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは10～25㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

3.SK

SK3

SK3は9－1区で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。長軸は約1.59m，短軸は約0.78mを測り，検出面からの深さは約20㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－85°－Wである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(637)である。体部は斜め

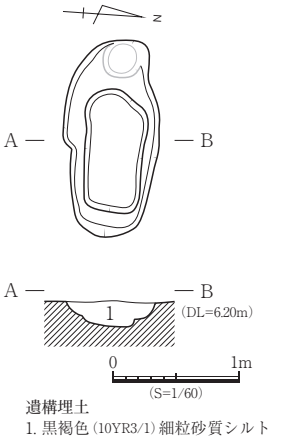


図361　9－1区　SK3
平面図・断面図

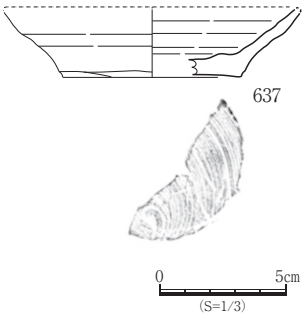


図362　9－1区　SK3
出土遺物実測図

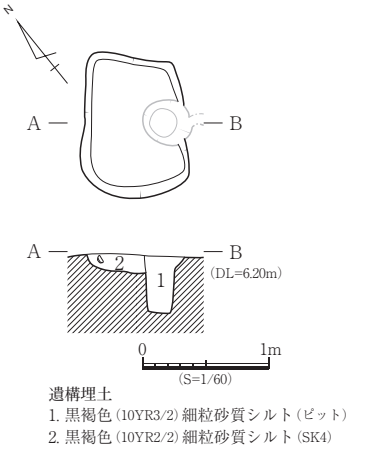


図363　9－1区　SK4
平面図・断面図

上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SK4

SK4は9－1区で検出した平面形が方形の土坑である。長軸は約1.12m，短軸は約0.79mを測り，検出面からの深さは約13㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－43°－Eである。

図示した出土遺物はない。

SK5

SK5は9－1区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。SK8・10を切る。長軸は約1.93m，短軸は約0.96mを測り，検出面からの深さは約25㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－10°－Wである。

図示した出土遺物はない。

SK7

SK7は9－1区で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸は約0.57m，短軸は約0.55mを測り，検出面からの深さは約12㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－33°－Eである。

図示した出土遺物はない。

SK8

SK8は9－1区で検出した平面

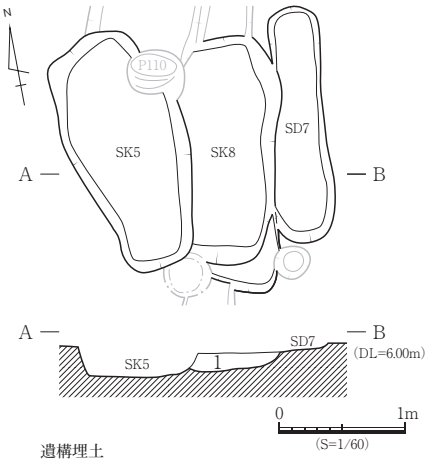


図364　9－1区　SK5・8，SD7
平面図・断面図・エレベーション図

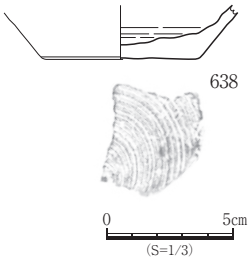


図365　9－1区　SK8
出土遺物実測図

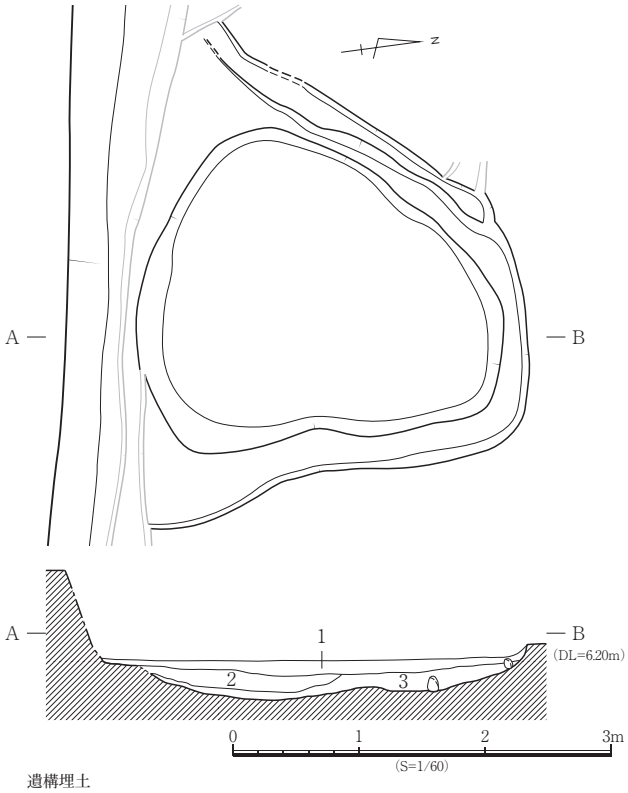


図366　9－1区　SK9　平面図・断面図

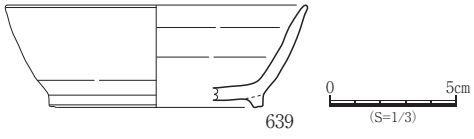


図367　9－1区　SK9　出土遺物実測図

形が隅丸長方形の土坑である。SK10，SD2・4を切り，SK5，SD7に切られる。長軸は約2.00m，短軸は0.75mを測り，検出面からの深さは約20㎝である。検出面では人頭大の河原石が集中していた。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はＮ－4°－Ｅである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(638)である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SK9

SK9は9－1区で検出した平面形が不整形の土坑である。SK12, SD9～11を切る。長軸は約3.20m，短軸は約3.02mを測り，検出面からの深さは約40㎝である。埋土は黒色(7.5YR2/1)粘土質シルト他である。主軸方向はＮ－6°－Ｅである。

図示した出土遺物は須恵器の高台付き杯(639)である。体部は外上方へ立ち上がる。高台は断面形が台形を呈し，端面は凹状となる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底面にはナデ調整を施す。

SK10

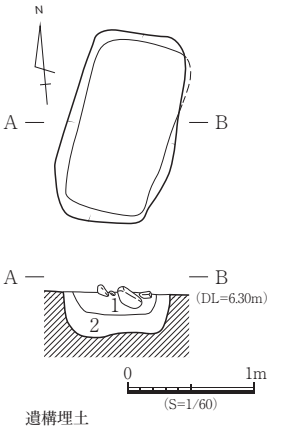
SK10は9－1区で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。SD2・4を切り，SK5・8に切られる。長軸は約1.54m，短軸は約0.86mを測り，検出面からの深さは約42㎝である。底面は平らで壁は垂直に立ち上がる。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はＮ－20°－Ｅである。検出面付近には直径約20㎝大の河原石が集中していた。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(640・641)である。

640は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。641は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SK13

SK13は9－1区で検出した平面形が楕円形の土坑であり，SK14と組み合う。長軸は約



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに直径10㎝大の礫を少量含む

図368　9－1区　SK10
平面図・断面図

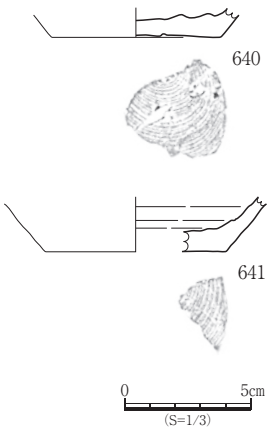
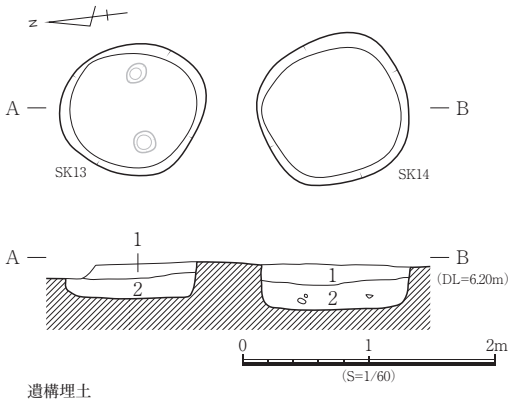


図369　9－1区　SK10
出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに褐灰色(10YR6/1)細粒砂質シルトブロックと地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む
2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに褐灰色(10YR6/1)細粒砂質シルトブロックと地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む

図370　9－1区　SK13・14　平面図・断面図

1.10m，短軸は約1.08mを測り，検出面からの深さは約28㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN－37°－Eである。

図示した出土遺物はない。

SK14

SK14は9－1区で検出した平面形が隅丸方形の土坑であり，SK13と組み合う。長軸は約1.20m，短軸は約1.15mを測り，検出面からの深さは約63㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN－22°－Wである。

図示した出土遺物はない。

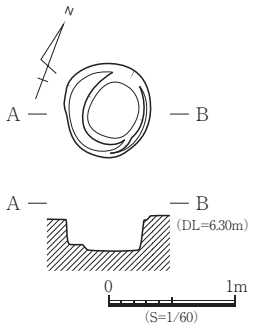


図371　9－1区　SK15　平面図・エレベーション図

SK15

SK15は9－1区で検出した平面形が円形の土坑である。長軸は約0.75m，短軸は約0.69mを測り，検出面からの深さは約26㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は東播系須恵器の捏鉢(642)である。口縁部は上方へ拡張する。内外面ともに回転ナデ調整を施す。焼成はやや不良である。

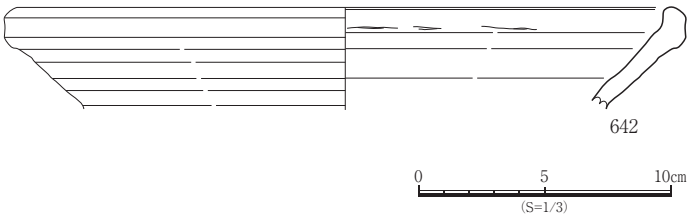


図372　9－1区　SK15　出土遺物実測図

SK17

SK17は9－1区で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸は約1.27m，短軸は約0.84mを測り，検出面からの深さは約21㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－10°－Wである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(643)である。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。

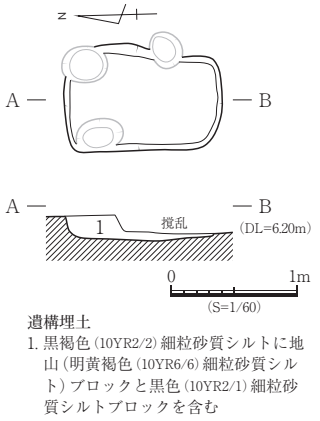


図373　9－1区　SK17　平面図・断面図

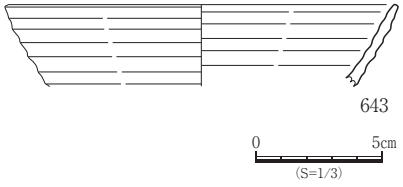


図374　9－1区　SK17　出土遺物実測図

SK18（SE1）

SK18は9－1区で検出した平面形が不整形の素掘りの井戸跡である。長軸は約1.98m，短軸の検出長は約0.86mを測り，検出面からの深さは約1.84mである。埋土は灰黄褐色（10YR4/2）粗粒砂他である。

図示した出土遺物は瓦質土器の羽釜（644・645）である。

644は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下に断面形が長方形の鍔を付す。口縁部にはヨコナデ調整を施す。645は羽釜である。口縁部は内湾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下に退化した鍔を付す。口縁部にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整，内面はヨコナデ調整を施す。

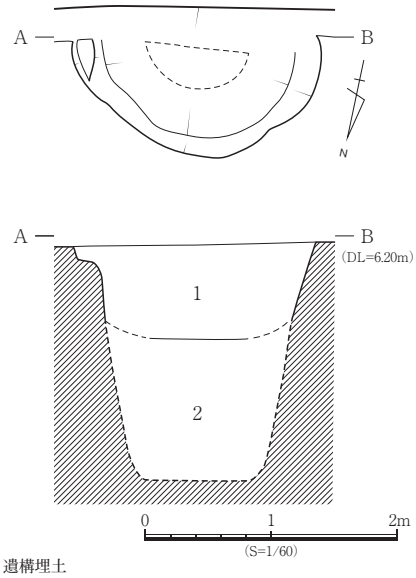


図375　9－1区　SK18（SE1）
平面図・断面図

SK20

SK20は9－1区で検出した平面形が不整長方形の土坑である。長軸は約1.71m，短軸は約1.03mを測り，検出面からの深さは約11㎝である。埋土は黒褐色（10YR3/2）細粒砂質シルトである。主軸方向はN－23°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯（646）である。体部は外上方へ立ち上がり，腰部に傾斜変換点を持つ。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

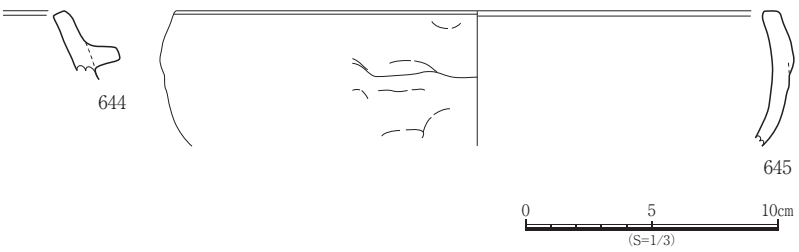


図376　9－1区　SK18（SE1）　出土遺物実測図

SK22

SK22は9－1区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸は約1.07m，短軸は約0.87mを測り，検出面からの深さは約23㎝である。埋土は黒褐色（10YR2/2）細粒砂質シルトである。主軸方向はN－71°－Wである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯（647・648）・鉢（649）・捏鉢（650）である。

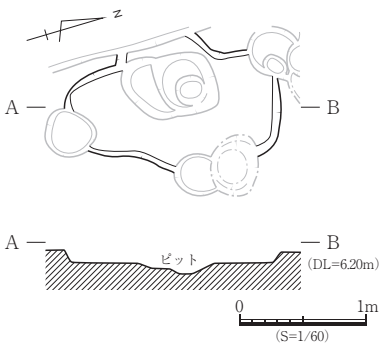


図377　9－1区　SK20
平面図・エレベーション図

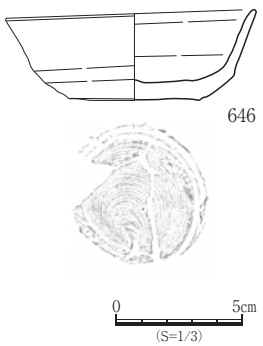


図378　9－1区　SK20
出土遺物実測図

647は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。648は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。649は鉢である。口縁部外面には強いヨコナデ調整，内面にはヘラナデ調整を施す。体部にはヘラナデ調整を施す。釉薬を施すか。二次被熱を受ける。650は捏鉢である。口縁部を上方へ拡張させ，注口を付す。内外面ともに回転ナデ調整を施す。須恵器の焼成不良か。二次被熱を受け，煤が付着する。

SK26

SK26は9－1区で検出した土坑である。平面形は楕円形か。長軸は約2.00m，短軸は約1.31mを測り，検出面からの深さは約21㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－79°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の椀(651)，弥生土器の鉢(652)である。

651は椀である。底部は円盤状高台である。体部は内湾気味に斜め上方へ立ち上がり，口縁部を外反させる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。652は鉢である。底部は平底で，外底面にはナデ調整を施す。体部外面にはナデ調整，内面にはヘラナデ調整およびナデ調整を施す。外面にはキレツがみられる。

SK27

SK27は9－1区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸は約0.67m，短軸は約0.40mを測り，検出面からの深さは約22㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－1°－Wである。

図示した出土遺物はない。

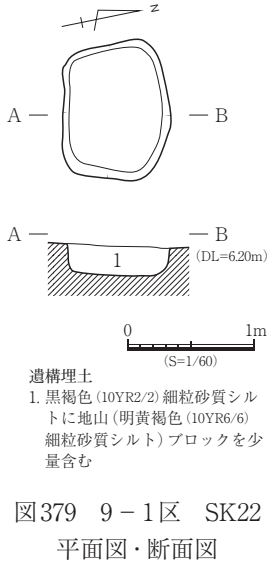


図379　9－1区　SK22
平面図・断面図

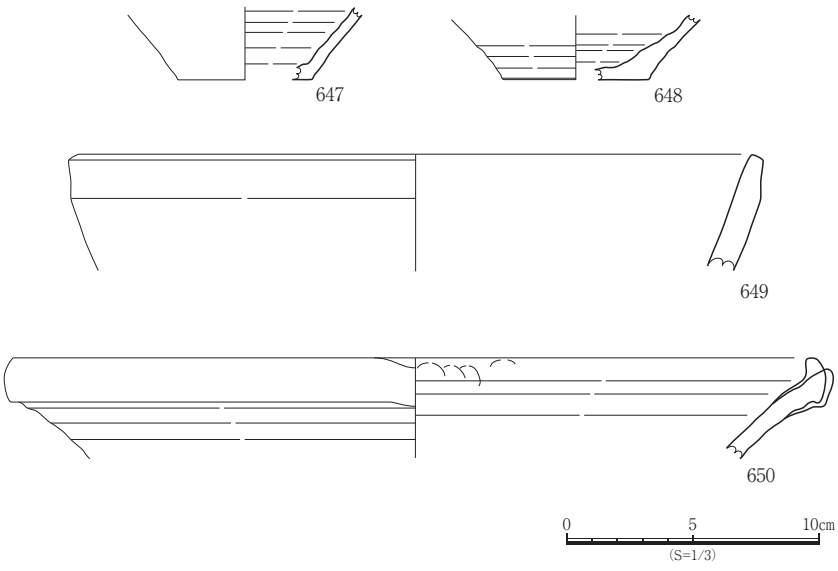


図380　9－1区　SK22　出土遺物実測図

SK28

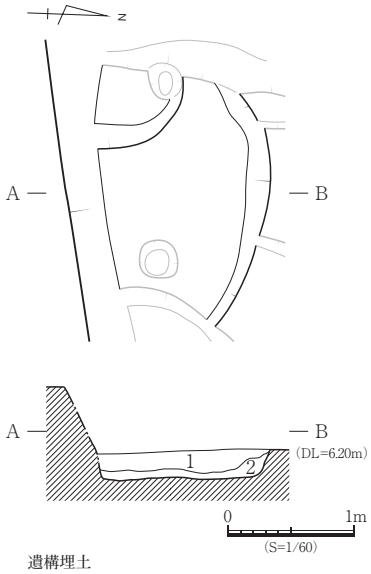
SK28は9－1区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸は約1.04m，短軸は約0.73mを測り，検出面からの深さは約10㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－73°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(653)・羽釜(654)である。

653は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目が認められる。外底面は回転糸切り後ナデ調整を施す。654は羽釜である。断面形が台形の鍔を付す。体部にはヨコナデ調整を施す。

SK29

SK29は9－1区で検出した平面形が隅丸長方形または溝状を呈する土坑である。長軸の検出長は約2.64m，短軸は約2.06mを測り，検出面からの深さは53～58㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN－2°－Wである。北壁のみに石積が認められた。土坑の底から5段分の石積を確認した。土坑底から持ち送りで積まれており，石材は角礫・角亜礫を含み，上面を平坦にする加工が施されたものも認



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト
2. 黒褐色(2.5Y3/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む

図381　9－1区　SK26
平面図・断面図

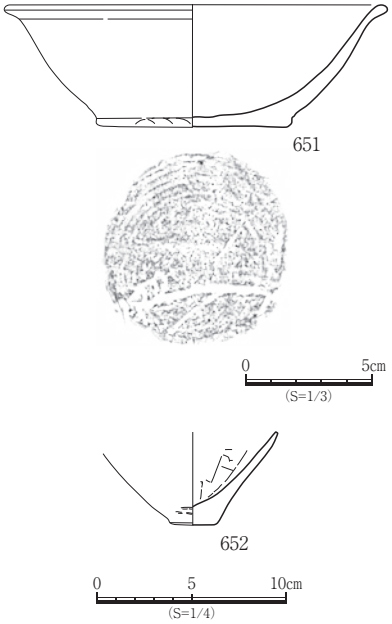
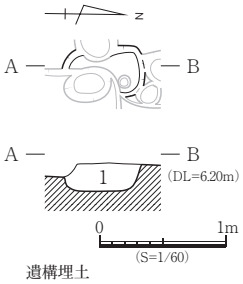


図382　9－1区　SK26
出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトと褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトと明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトブロックを少量含む

図383　9－1区　SK27
平面図・断面図

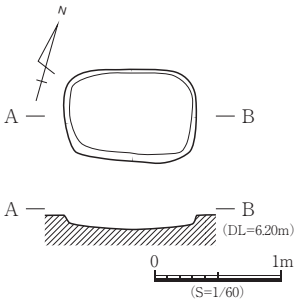


図384　9－1区　SK28
平面図・エレベーション図

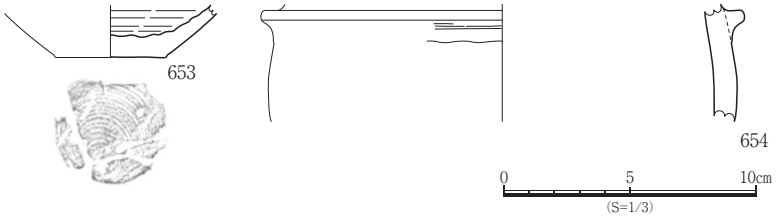
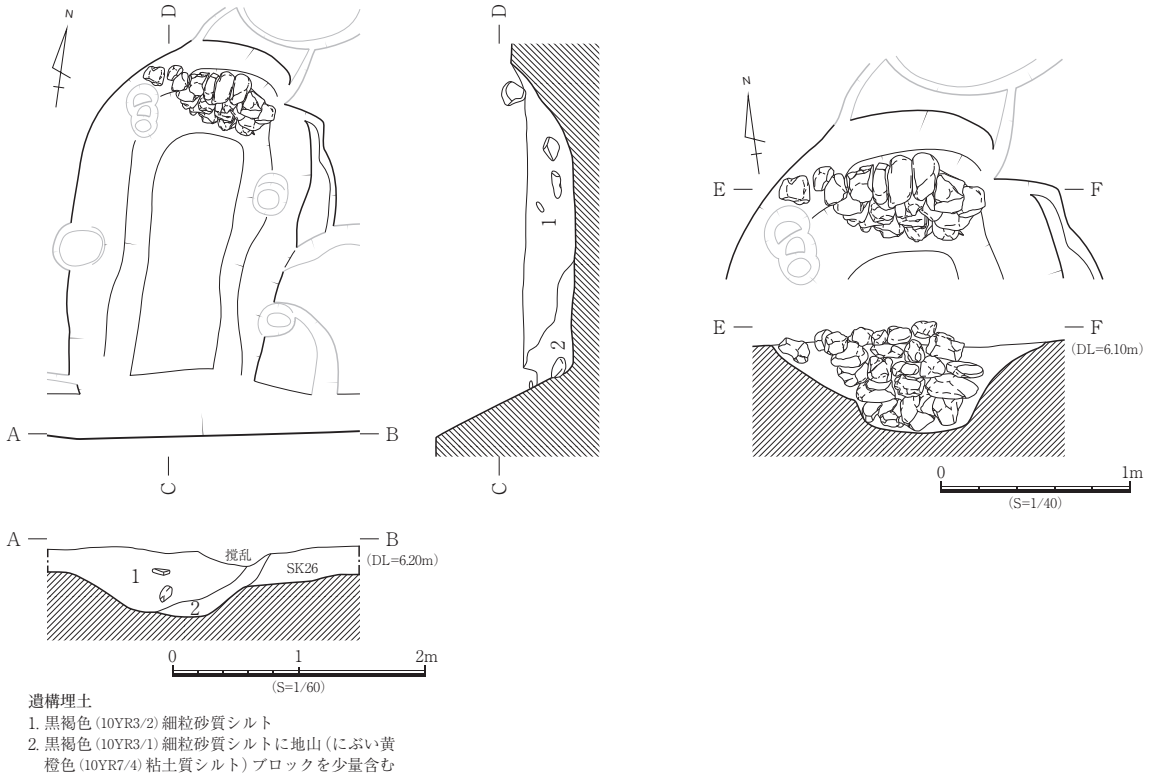


図385　9－1区　SK28　出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルト
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山(にぶい黄橙色(10YR7/4)粘土質シルト)ブロックを少量含む

図386　9－1区　SK29　平面図・石積検出状況図・断面図

められる。また，埋土には石積を構成していたと推測される礫が含まれており，本来はさらに数段積まれていたと推測される。

図示した出土遺物はない。

SK30

SK30は9－1区で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸は約0.58m，短軸は約0.82mを測り，検出面からの深さは約21㎝である。主軸方向はN－1°－Wである。

図示した出土遺物は歪な球形を呈した土玉(655)である。手捏ね成形である。

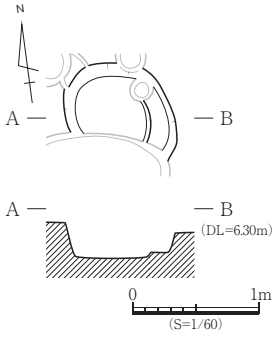


図387　9－1区　SK30
平面図・エレベーション図

SK31

SK31は9－1区で検出した土坑である。平面形は楕円形か。大部分は調査区外へひろがる。長軸の検出長は約1.12m，短軸の検出長は約0.26mを測り，検出面からの深さは約23㎝である。埋土はハンダ粒を多く含む黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－77°－Wである。土坑の周縁に直径20～30㎝大の河原石および角亜礫が1段のみ並べられていた。壁面および底面ともにハンダが貼られていた痕跡はなかった。

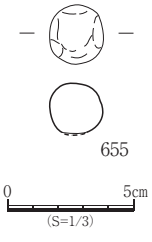
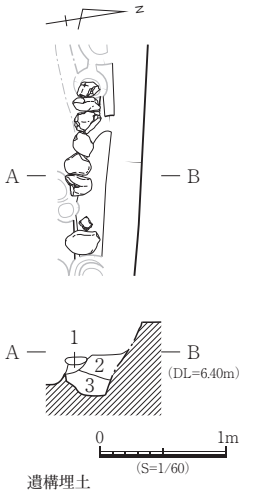


図388　9－1区　SK30
出土遺物実測図



遺構埋土
1. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトにハンダ粒を少量含む
2. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトにハンダ粒(橙色(2.5YR6/8)～明黄褐色(10YR7/6))を多く含む
3. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトにハンダ粒(橙色(7.5YR6/6)～明黄褐色(10YR7/6))を少量含む

図389　9－1区　SK31
平面図・礫出土状態図・断面図

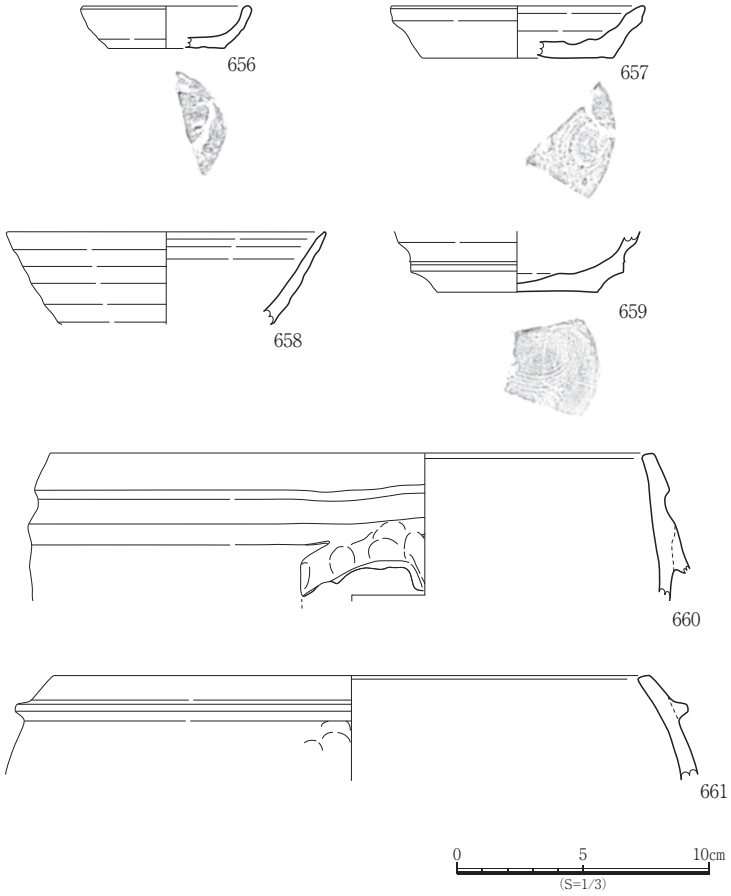
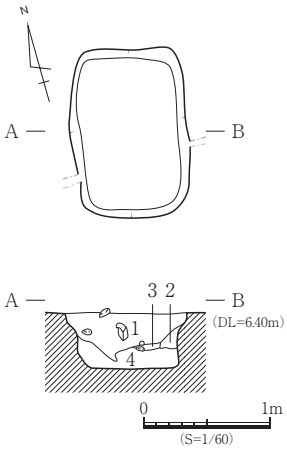


図390　9－1区　SK31　出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む
2. 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂質シルト・明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト・褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト
3. 黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを極少量含む
4. 暗灰黄色(2.5Y4/2)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト・に地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックと地山(にぶい黄色(2.5Y6/4)細粒砂質シルト)ブロックを極少量含む

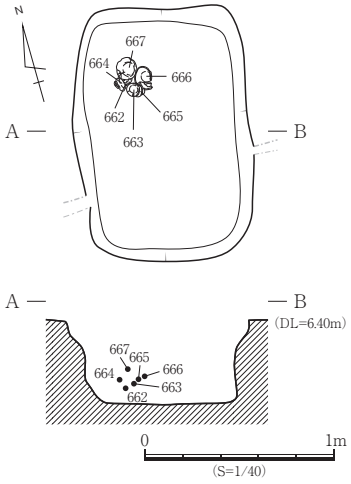


図391　9－1区　SK33　平面図・遺物出土状態図・断面図

図示した出土遺物は土師質土器の皿(656)・杯(657～659)・釜(660)，瓦質土器の羽釜(661)である。

656は皿である。口縁部は内湾気味に立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面は回転糸切り後ハケ調整を施す。657は杯である。体部は斜め上方へ短く立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。658は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外面にはロクロ目が認められる。659は杯である。体部は外上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面には強いロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。660は釜である。口縁部は僅かに内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下は強いヨコナデ調整により凹む。ヨコナデ調整で仕上げる。脚部は剥離する。被熱により赤変する。661は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下に断面形が台形の鍔を付す。口縁部はヨコナデ調整を施す。体部外面にはナデ調整を施し，指頭圧痕が認められる。内面にはヨコナデ調整を施す。

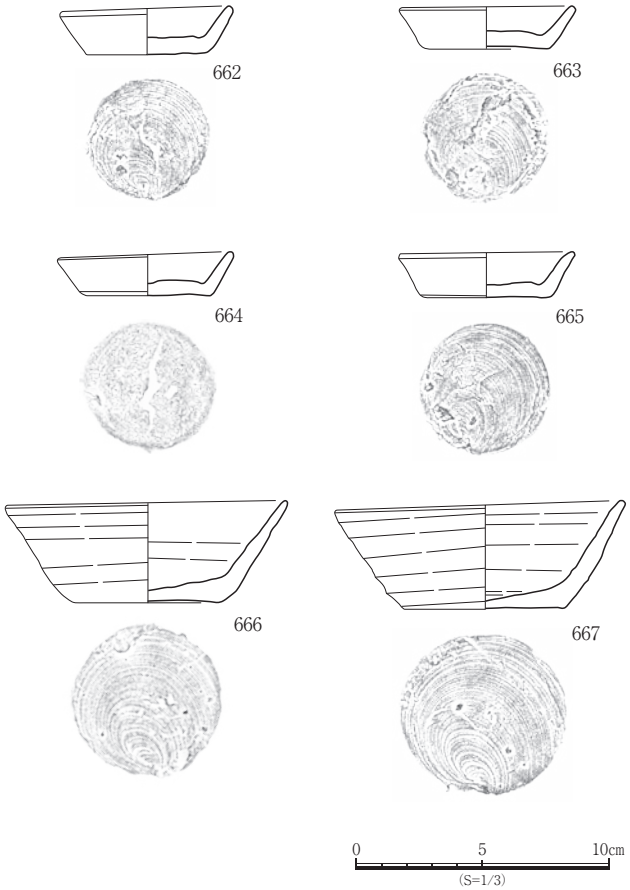


図392　9－1区　SK33　出土遺物実測図

SK33

SK33は9－1区で検出した平面形が隅丸方形の土坑墓である。長軸は約1.36m，短軸は約0.93mを測り，検出面からの深さは約44㎝である。底面は平らであり，壁はほぼ垂直に立ち上がり，西壁にはオーバーハング

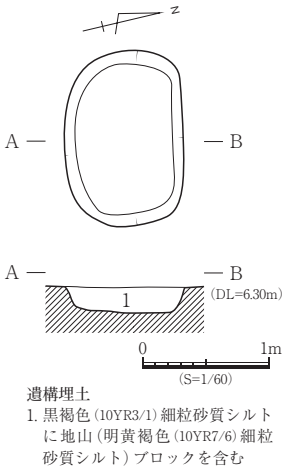


図393　9－1区　SK34
平面図・断面図

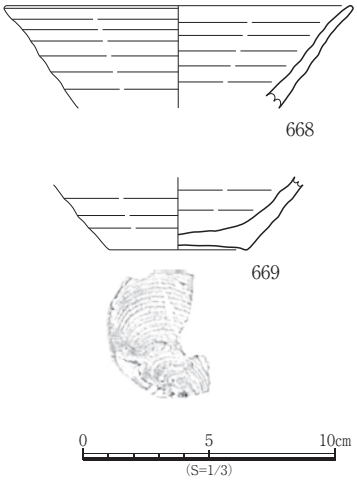


図394　9－1区　SK34
出土遺物実測図

されている部分がみられた。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はＮ－12°－Ｅである。土師質土器の杯が2点，皿が3点，北西部でまとまって出土した。底面から10㎝ほど浮いている。さらにその下から皿(662)が1点出土した。皿(664)はほぼ垂直で出土した以外は内面を上に向けていた。これらは副葬品と考えられる。また，周囲に溝(SD25)が巡ると推測され，類似した遺構は忠兵衛遺跡でも確認されている。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(662～665)・杯(666・667)である。

662は皿である。口縁部は外上方へ短く立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底縁は凹む。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。ほぼ完存する。663は皿である。口縁部は外上方へ短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底縁は凹む。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。ほぼ完存する。664は皿である。口縁部は外上方へ短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底縁は凹む。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。665は皿である。口縁部は外上方へ短く立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。ほぼ完存する。666は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。667は杯である。体部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。ほぼ完存する。

SK34

SK34は9－1区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸は約1.41m，短軸は約0.95mを測り，検出面からの深さは約22㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はＮ－77°－Ｗである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(668・669)で

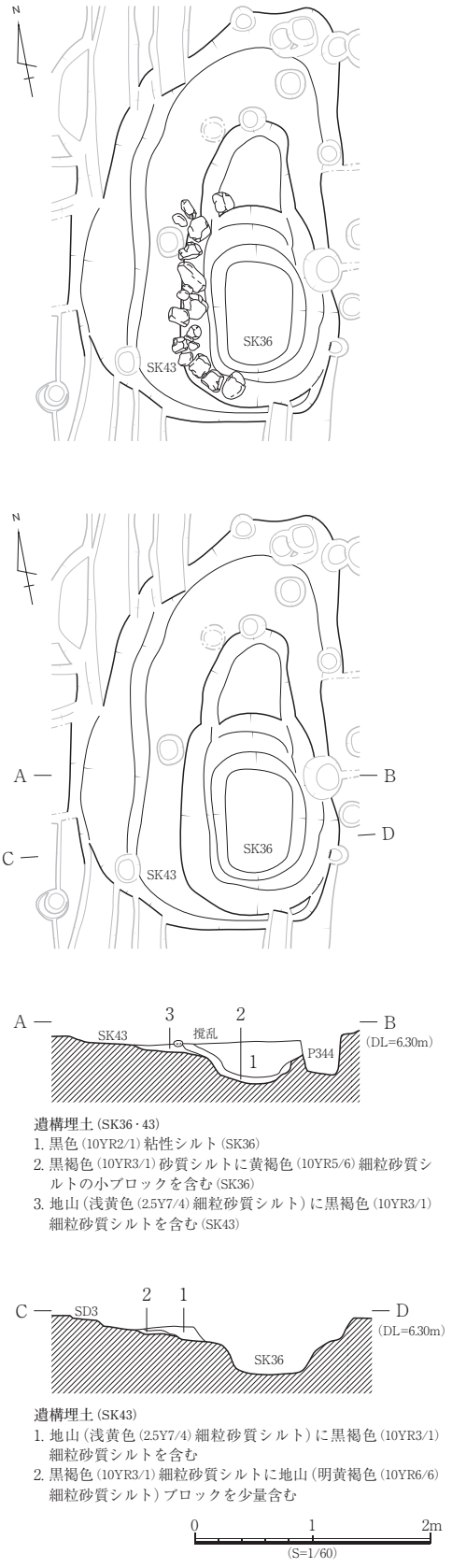


図395　9－1区　SK36・43
平面図・礫出土状態図・断面図

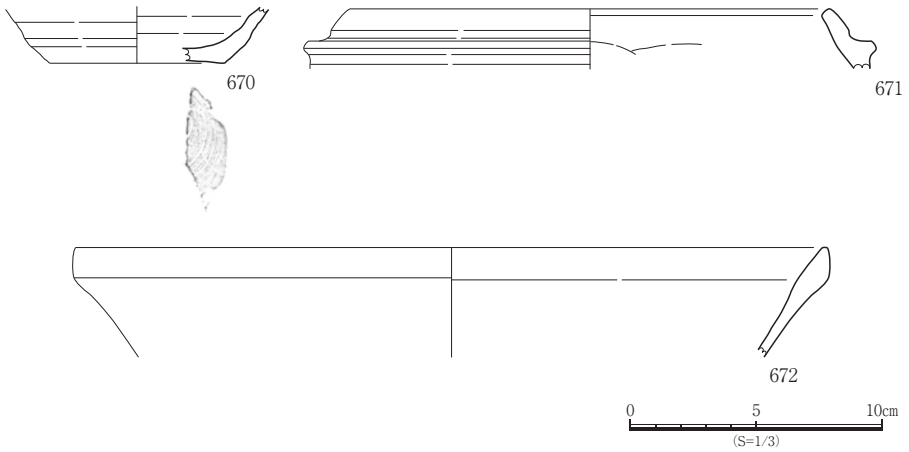


図396　9－1区　SK36　出土遺物実測図

ある。

668は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目が認められる。二次被熱を受けるか。669は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。

SK36

SK36は9－1区で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。SK43と一体のものの可能性がある。長軸は約2.43m，短軸は約1.27mを測り，検出面からの深さは約47㎝である。底面はレンズ状を呈し，壁は斜め上方に立ち上がる。周囲にはテラスが巡り，西辺には礫が置かれていた。本来は全周にわたって礫が置かれていたと推測される。また，北側のテラスは南北方向に長く，さらに稜を持ちつつ緩い傾斜でのびている。埋土は黒色(10YR2/1)粘土質シルト他である。主軸方向はN－15°－Eである。

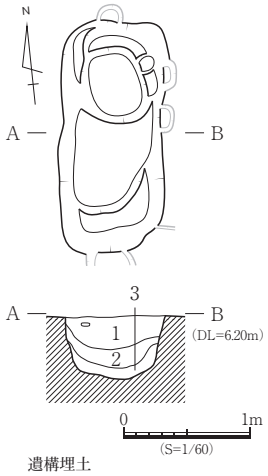


図397　9－1区　SK37
平面図・断面図

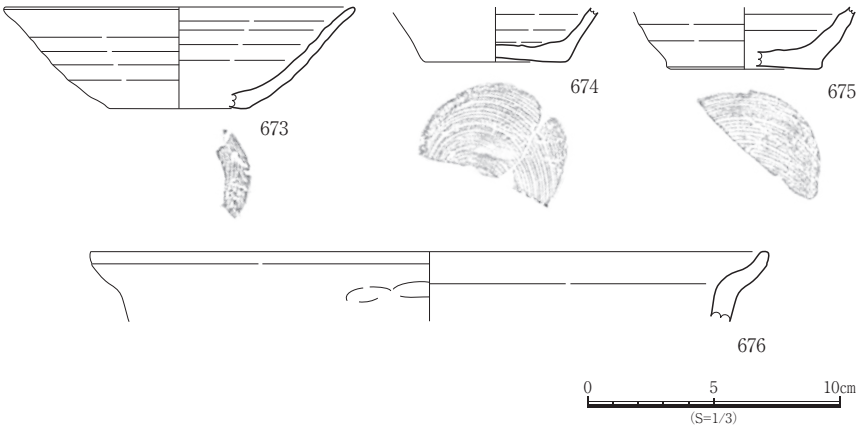


図398　9－1区　SK37　出土遺物実測図

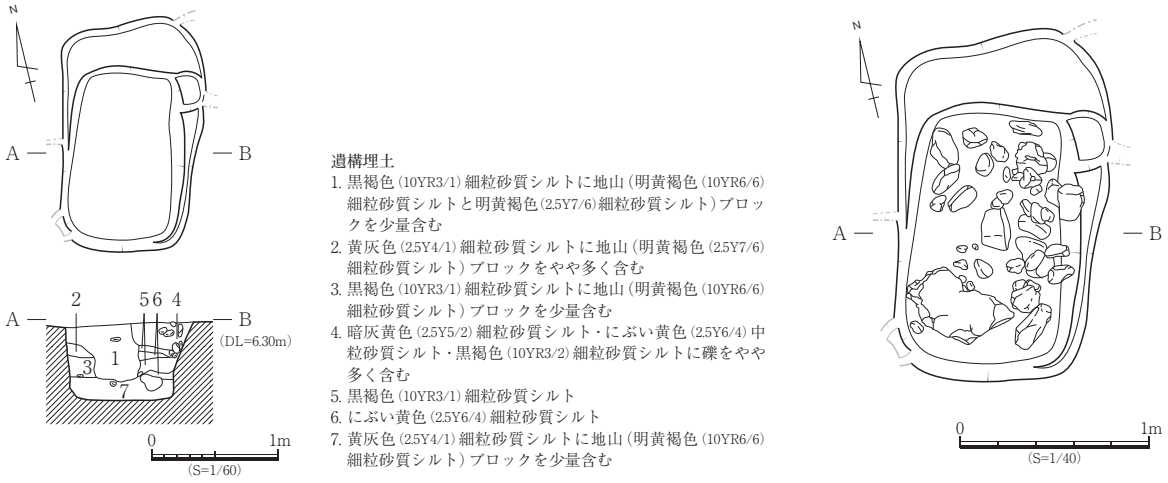


図399　9－1区　SK38　平面図・礫出土状態図・断面図

図示した出土遺物は土師質土器の杯(670)，瓦質土器の羽釜(671)，須恵器の捏鉢(672)である。

670は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。671は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下に断面形が台形の鍔を付す。口縁部にはヨコナデ調整を施す。鍔上面は強いヨコナデ調整により凹む。672は東播系の捏鉢である。口縁部を上方へ拡張する。内外面ともに回転ナデ調整を施す。体部の器壁はうすい。

SK37

SK37は9－1区で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸は約1.82m，短軸は約0.82mを測り，検出面からの深さは約58㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)粘土質シルト他である。主軸方向はN－8°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(673～675)，瓦質土器の鍋(676)である。

673は杯である。体部は斜め外方へ大きくひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。674は杯である。体部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。二次被熱を受ける。675は杯である。体部は外上方へ立

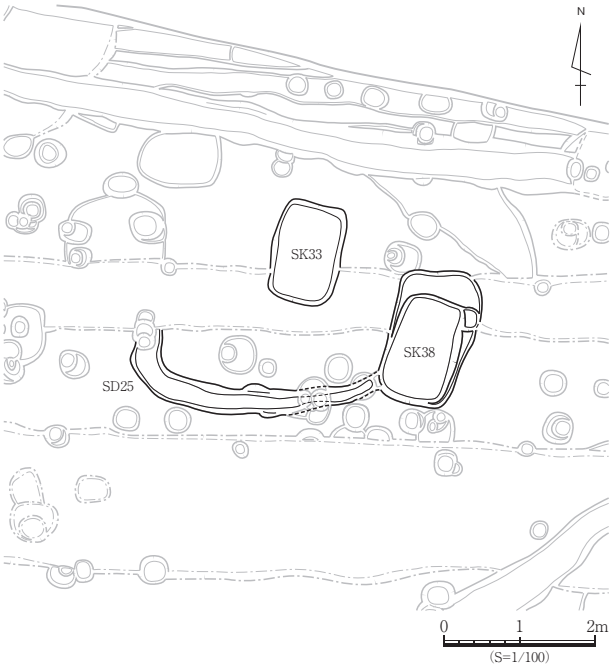
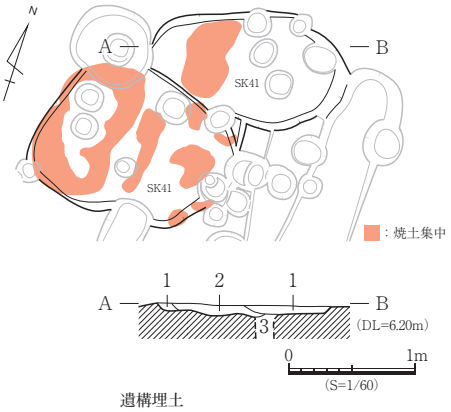


図400　9－1区　SK33・38，SD25　配置図



遺構埋土
1. 褐灰色(10YR4/1)砂質シルト(SK41)
2. 灰白色(10YR7/1)細粒砂質粘性シルト(SK41)
3. 黒褐色(10YR3/1)粘性シルト(ピット)

図401　9－1区　SK41　平面図・断面図

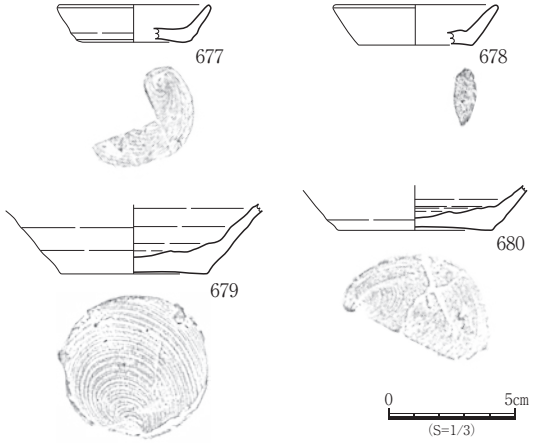
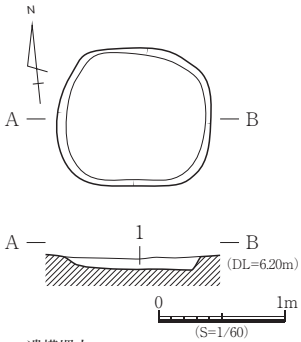
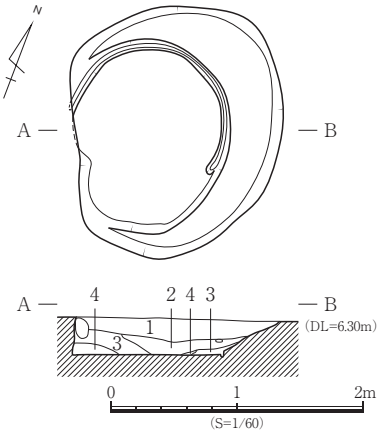


図402　9－1区　SK41　出土遺物実測図



遺構埋土
1. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂質粘性シルトに黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトを含む

図403　9－1区　SK44
平面図・断面図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質粘性シルト
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト
3. 黄褐色(10YR5/6)細粒砂質粘性シルトに黒褐色(10YR3/1)細粒砂質粘性シルトブロックを含む
4. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質粘性シルトに黄褐色(10YR5/6)細粒砂質粘性シルトを少量含む

図404　9－1区　SK45　平面図・断面図

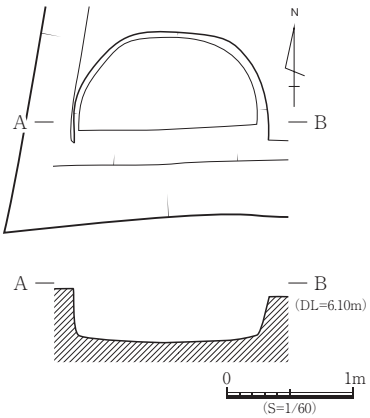


図405　9－1区　SK47
平面図・エレベーション図

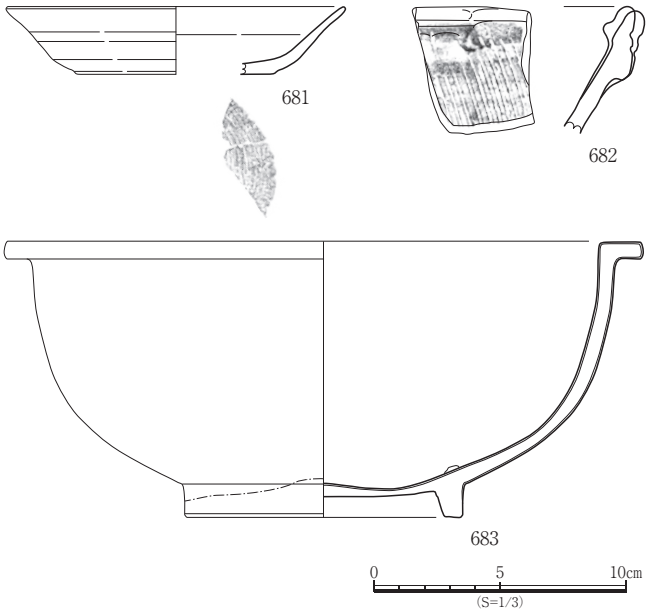


図406　9－1区　SK47　出土遺物実測図

ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。676は鍋である。口縁部は受け口状を呈し，ヨコナデ調整で仕上げる。

SK38

SK38は9－1区で検出した平面形が隅丸方形の土坑墓と考えられる。長軸は約1.81m，短軸は約1.05mを測り，検出面からの深さは約64㎝である。埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)細粒砂質シルト他である。多くの礫が埋土中から出土した。南西部からは上面を平坦に加工した長軸約50㎝，短軸約30㎝のチャートの礫が出土した。これらの礫は地表面に置かれていたものが落ち込んだものと推測される。主軸方向はN－14°－Eである。

図示した出土遺物はない。

SK41

SK41は9－1区で検出した平面形が不整形の土坑であり，焼土の分布範囲として検出した。長軸は約2.59m，短軸は約1.15mを測り，検出面からの深さは5～11㎝である。埋土は灰白色(10YR7/1)細粒砂質粘性シルト他である。掘削すると浅い2基の遺構となった。主軸方向はN－53°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(677・678)・杯(679・680)である。

677は皿である。口縁部は外上方へ短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。678は皿である。口縁部は外上方へ短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。679は杯である。体部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目が認められる。内底面は渦状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受けるか。680は杯である。体部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SK43

SK43は9－1区で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。長軸は約3.50m，短軸は約2.29mを測り，検出面からの深さは7～21㎝である。埋土は浅黄色(2.5Y7/4)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－16°－Eである。SK36と一体のものの可能性がある。

図示した出土遺物はない。

SK44

SK44は9－1区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸は約1.22m，短軸は約1.10mを測り，検出面からの深さは約12㎝である。埋土は褐灰色(10YR4/1)細粒砂質粘性シルトである。主軸方向はN－81°－Wである。

図示した出土遺物はない。

SK45

SK45は9－1区で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸は約2.00m，短軸は約1.68mを測り，

検出面からの深さは約28㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質粘性シルト他である。主軸方向はN－20°－Wである。

図示した出土遺物はない。

SK47

SK47は9－1区で検出した土坑である。平面形は円形か。長軸は約1.55m，短軸は約0.77mを測り，検出面からの深さは約42㎝である。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(681)，備前焼の擂鉢(682)，陶器の鉢(683)である。

681は杯である。体部は斜め外方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。682は擂鉢である。口縁部は上方へ拡張し，注口を付す。外面には2条の凹線を施す。内面には10条1単位の条線を全面に施す。あまり使用感がみられない。683は鉢である。鉄釉を施す。削り出し高台は無釉である。見込みには胎土目が認められる。

SK51

SK51は9－2区で検出した平面形が円形の土坑である。長軸は約1.82m，短軸は約1.69mを測り，検出面からの深さは約36㎝である。埋土は黒色(5Y2/1)細粒砂質シルトである。壁面と床面にはハンダが貼られていた。SK52・53とセットになる。

図示した出土遺物はない。

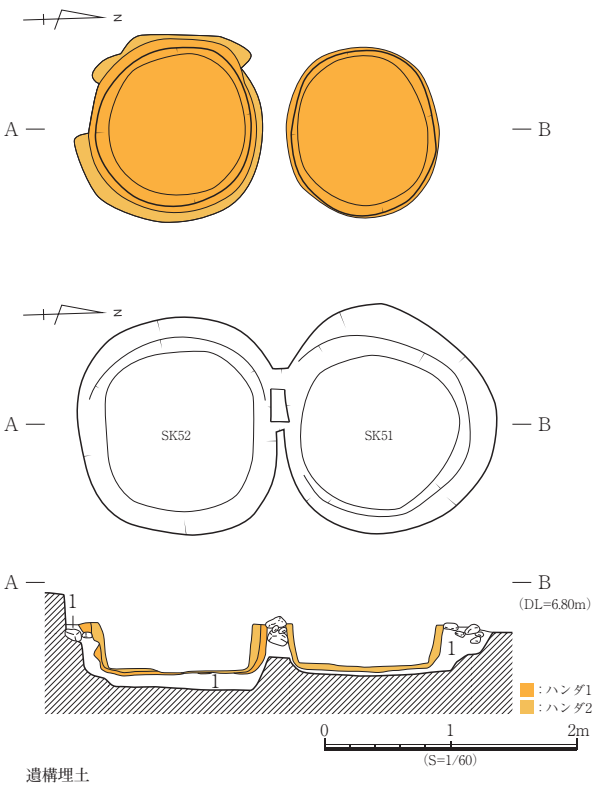


図407　9－2区　SK51・52　平面図・断面図

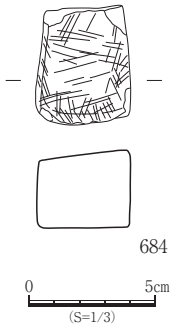


図408　9－2区　SK52　出土遺物実測図

SK52

SK52は9－2区で検出した平面形が円形の土坑である。長軸は約1.72m，短軸は約1.61mを測り，検出面からの深さは約56㎝である。埋土は黒色(5Y2/1)細粒砂質シルトである。壁面と床面にはハンダが貼られていた。SK51・53とセットになる。

図示した出土遺物は流紋岩製の砥石(684)である。直方体を呈し，四側面を砥石として使用する。各面には使用頻度に差がある。二次被熱を受ける。

SK53

SK53は9－2区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸は約1.81m，短軸は約1.67mを測り，検出面からの深さは約40㎝である。埋土は黒色(5Y2/1)細粒砂質粘性シルトである。主軸方向はN－11°－Wである。壁面と床面にはハンダが貼られていた。SK51・52とセットになる。

図示した出土遺物はない。

SK57

SK57は9－2区で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。長軸は約0.75m，短軸は約0.53mを測り，検出面からの深さは約8㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－86°－Wである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(685)である。口縁部は短く立ち上がり，内底縁は凹む。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SK61

SK61は9－2区で検出した平面形が不整方形の土坑である。長軸は約1.54m，短軸は約1.44mを測り，検出面からの深さは約9㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－20°－Wである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(686・687)，須恵器の捏鉢(688)である。

686は皿である。口縁部は斜め外方へ短く立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受ける。687は皿である。口縁部は外上方へ短く立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受ける。ほぼ完存する。688は東播系の捏鉢である。口縁部は上方へ拡張し，内外面ともに回転ナデ調整を施す。重ね焼き痕がみられる。

SK62

SK62は9－2区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸は約1.04m，短軸は約0.82mを測り，検出面からの深さは約16㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－53°－Eである。

図示した出土遺物はない。

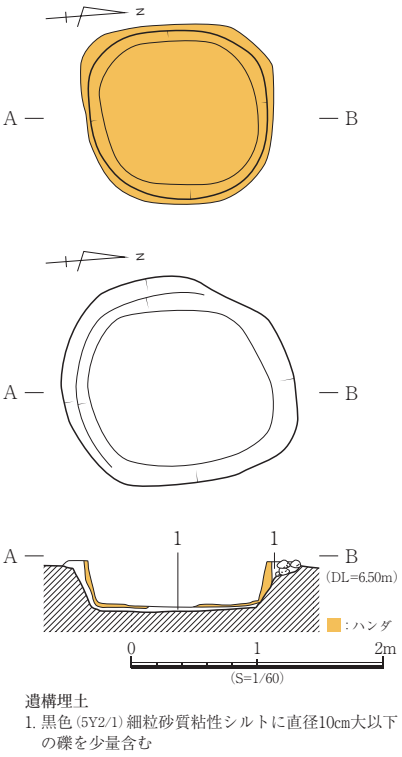


図409　9－2区　SK53
平面図・断面図

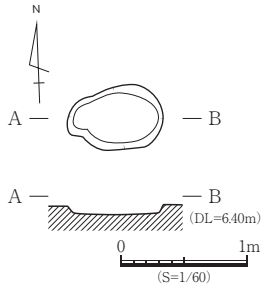


図410　9－2区　SK57
平面図・エレベーション図

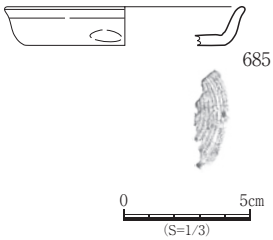


図411　9－2区　SK57
出土遺物実測図

SK64

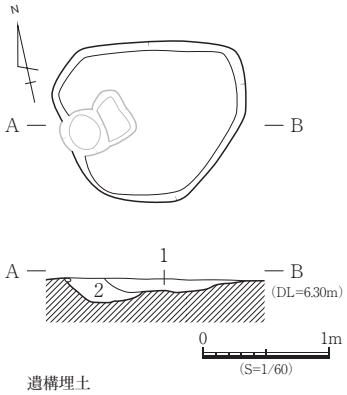
SK64は9－2区で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸は約0.75m，短軸は約0.61mを測り，検出面からの深さは約20cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－82°－Wである。

図示した出土遺物はない。

SK66

SK66は9－2区で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸は約1.02m，短軸は約0.74mを測り，検出面からの深さは約31cmである。埋土は黒色(7.5YR2/1)細粒砂質粘性シルト他である。主軸方向はN－41°－Wである。

図示した出土遺物はない。



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む(SK61)
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト・地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロック(ピット)

図412　9－2区　SK61
平面図・断面図

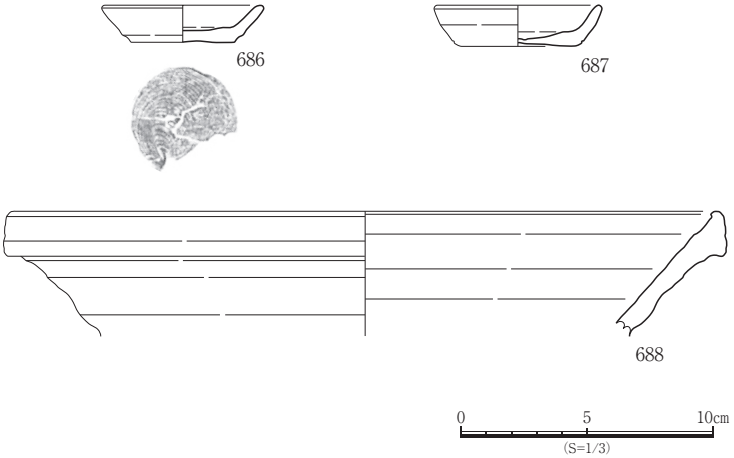
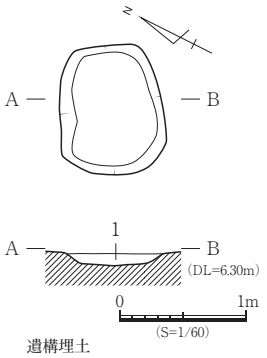
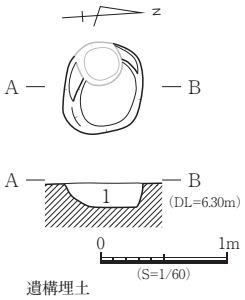


図413　9－2区　SK61　出土遺物実測図



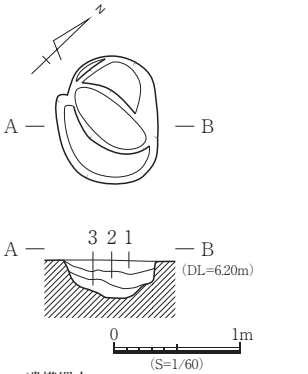
遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む

図414　9－2区　SK62
平面図・断面図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルト)ブロックを極少量含む

図415　9－2区　SK64
平面図・断面図



遺構埋土
1. 黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質粘性シルト
2. 黒色(7.5YR2/1)細粒砂質粘性シルト
3. 黒褐色(7.5YR2/2)細粒砂質粘性シルト

図416　9－2区　SK66
平面図・断面図

SK67

SK67は9－2区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸は約1.17m，短軸は約0.94mを測り，検出面からの深さは約20㎝である。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質粘性シルトである。主軸方向はN－26°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(689)である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。二次被熱を受ける。

SK68

SK68は9－2区で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長は約1.32m，短軸は約0.83mを測り，検出面からの深さは約8㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－5°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(690)である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り後ナデ調整を施し，簀状圧痕がみられる。二次被熱を受けるか。

SK71

SK71は9－2区で検出した土坑である。平面形は楕円形か。長軸は約3.69m，短軸の検出長は約1.54mを測り，検出面からの深さは33～54㎝である。埋土は黒色(10YR2/1)細粒砂質粘性シルトである。SE2の掘方の可能性がある。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(691)・杯(692)，土製の羽口(693)である。

691は皿である。口縁部は短く外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底縁は凹む。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。底部に焼成前穿孔がみられる。692は杯である。体部は斜め上方へ立上がり，口縁部を外反させる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。693は羽口である。断面および表面には発泡がみられ，焼結する。

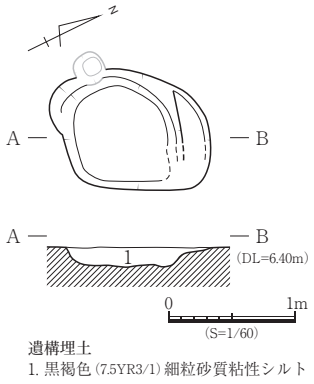


図417　9－2区　SK67
平面図・断面図

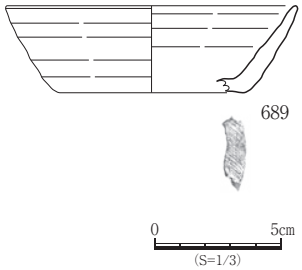


図418　9－2区　SK67
出土遺物実測図

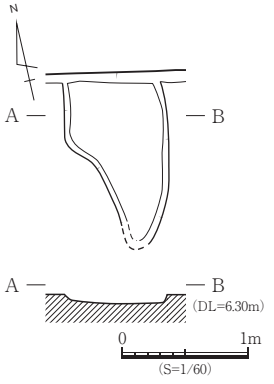


図419　9－2区　SK68
平面図・エレベーション図

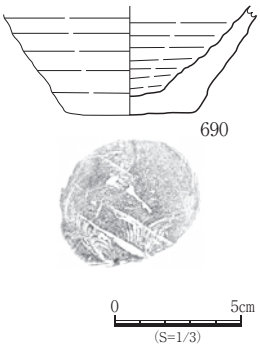


図420　9－2区　SK68
出土遺物実測図

SK72

SK72は9－2区で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸は約1.04m，短軸は約0.46mを測り，検出面からの深さは約23㎝である。埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－29°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(694)・杯(695)である。

694は皿である。口縁部は短く外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。695は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。二次被熱を受けるか。

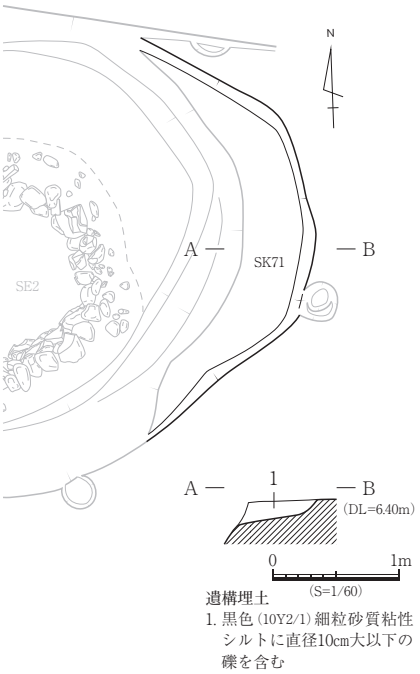


図421　9－2区　SK71　平面図・断面図

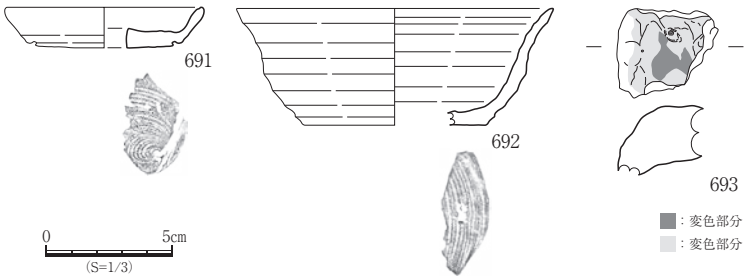


図422　9－2区　SK71　出土遺物実測図

SK74

SK74は9－2区で検出した土坑である。平面形は楕円形か。長軸は約1.46m，短軸は約0.37mを測り，検出面からの深さは11～21㎝である。主軸方向はN－13°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(696)・杯(697・698)である。

696は皿である。口縁部は短く外上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り

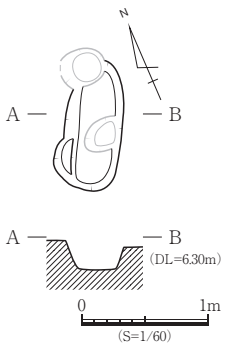


図423　9－2区　SK72
平面図・エレベーション図

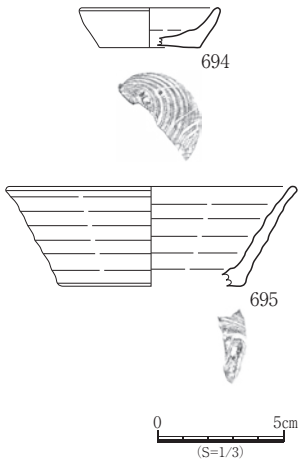


図424　9－2区　SK72
出土遺物実測図

痕跡が認められる。697 は杯である。体部は内湾気味に立ち上がり，口縁を外反させる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面下半および内面下半にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。被熱により赤変し，煤が付着する。698は杯である。体部は内湾気味に立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SK81

SK81は9－3区で検出した平面形が隅丸方形のいわゆるハンダ土坑である。北側をSK83aによって削平される。長軸は約1.60m，短軸は約1.53mを測り，検出面からの深さは約57㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)極細粒砂である。内面に黒褐色シルト，黒褐色細礫を敷いた後，ハンダを２～４㎝の厚さに搗き固める。埋土は底部にハンダ片を多く含む黒色シルトが堆積し，上層に拳大の礫を含む黒褐色細礫含む極細粒砂が堆積する。主軸方向はＮ－82°－Ｗである。(綾部)

図示した出土遺物はない。

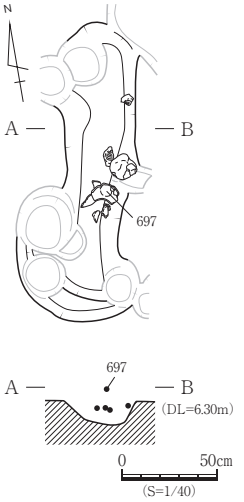


図425　9－2区　SK74　平面図・遺物出土状態図・エレベーション図

SK82

SK82は9－3区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。SD42の上層で検出した。長軸は約1.90m，短軸は約1.80mを測り，検出面からの深さは約18㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)極細粒砂である。主軸方向はＮ－14°－Ｅである。(綾部)

図示した出土遺物は頁岩製の打製石包丁(699)である。両面ともに主要剥離面を残す。ステップ状剥離がみられる。紐掛け用の抉りが入れられ，摩滅が認められる。

SK83

SK83aは９－３区で検出した土坑である。平面形は楕円形か。長軸は約1.80m，短軸の検出長は約1.68mを測り，検出面からの深さは約74㎝である。主軸方向はＮ－3°－Ｅである。SK83bはSK83aの底面で検出した土坑である。平面形は隅丸方形か。長軸の検出長は約1.41m，短軸の検出長は約1.17mを測り，検出面からの深さは約12㎝である。主軸方向はＮ－55°－Ｗである。

SK83a・SK83bともに図示した出土遺物はない。

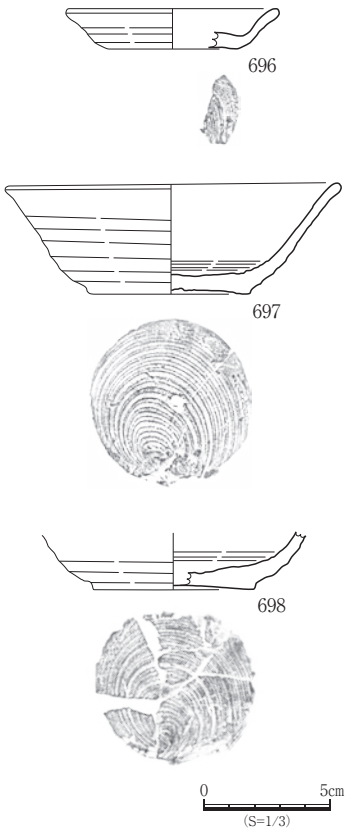


図426　9－2区　SK74　出土遺物実測図

SK84

SK84は9－3区で検出した平面形が隅丸方形のハンダ土坑である。長軸は約1.96m，短軸は約1.90mを測り，検出面からの深さは約45㎝である。主軸方向はN－82°－Wである。底面にはハンダが貼られ，幅約10㎝，底面からの深さ約1㎝の溝跡がリング状に巡る。SK87と隣接する。

図示した出土遺物はない。

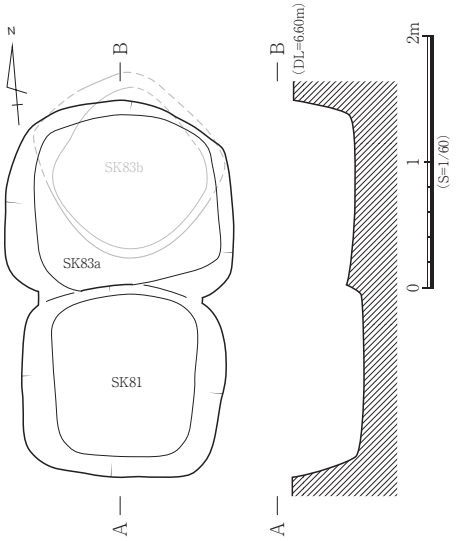


図427　9－3区　SK81・83
平面図・エレベーション図

SK85

SK85は9－3区で検出した土坑である。平面形は隅丸方形か。土坑の北側は調査区外となる。長軸は約3.69m，短軸の検出長は約1.05mを測り，検出面からの深さは約47㎝である。底部は未検出で，北側へ向かってさらに深くなると考えられる。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。主軸方向はN－81°－Wである。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(700)・羽釜(701)である。

700は皿である。口縁部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受ける。701は羽釜である。口縁部は内湾し，口唇部には面取りを施す。口縁部はヨコナデ調整を施し，体部はナデ調整を施すか。二次被熱を受ける。

SK86

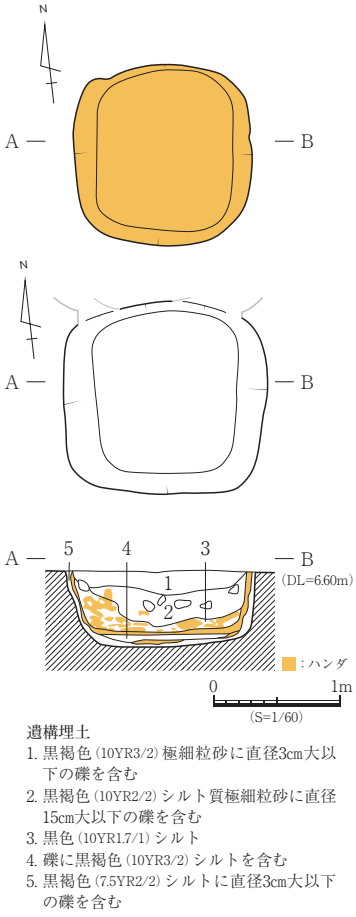
SK86は9－3区で検出した土坑である。平面形は円形か。長軸は約1.72m，短軸は約1.68mを測り，検出面からの深さは約69㎝である。SB80は当土坑の覆屋となる可能性がある。

図示した出土遺物はない。

SK87

SK87は9－3区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸は約1.86m，短軸は約1.78mを測り，検出面からの深さは約40㎝である。主軸方向はN－4°－Wである。SK84と隣接する。

図示した出土遺物はない。



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)極細粒砂に直径3㎝大以下の礫を含む
2. 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂に直径15㎝大以下の礫を含む
3. 黒色(10YR1.7/1)シルト
4. 礫に黒褐色(10YR3/2)シルトを含む
5. 黒褐色(7.5YR2/2)シルトに直径3㎝大以下の礫を含む

図428　9－3区　SK81
平面図・断面図

SK88

SK88は9－3区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸は約1.53m，短軸は約1.12mを測り，検出面からの深さは約17㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。主軸方向はN－85°－Wである。

図示した出土遺物はない。

SK90

SK90は9－3区で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸は約1.35m，短軸は約1.27mを測り，検出面からの深さは約10㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。主軸方向はN－8°－Eである。

図示した出土遺物は須恵器の捏鉢(702)である。口縁部は上方へ拡張し，内外面ともに回転ナデ調整を施す。重ね焼き痕が認められる。

SK95

SK95は9－3区で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。長軸は約0.96m，短軸は約0.79mを測り，検出面からの深さは約4㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。主軸方向はN－11°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(703)である。体部は斜め上方へ大きくひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SK96

SK96は9－3区で検出した平面形が隅丸方形のハンダ土坑である。長軸は約1.75m，短軸は約1.58mを測り，検出面からの深さは約35㎝である。主軸方向はN－88°－Wである。

図示した出土遺物はない。

SK98

SK98は9－3区で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸は約1.05m，短軸は約0.57mを測り，検出面からの深さは約53㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。主軸方向はN－87°－Eである。底部は平坦で，壁はややオーバーハングして立ち上がる。底部付近で配石を確認した。平らで細長い自然石を長方形に配し，内側に面を揃える。北側は角張った石を使用し，明確な面を持たずやや乱雑である。石は南側では底部より2㎝程度，東側では10㎝程度浮いた位置に存在する。埋土は黒色～黒褐色土で，下層へ向かって僅かに粒子が細かくなるもの

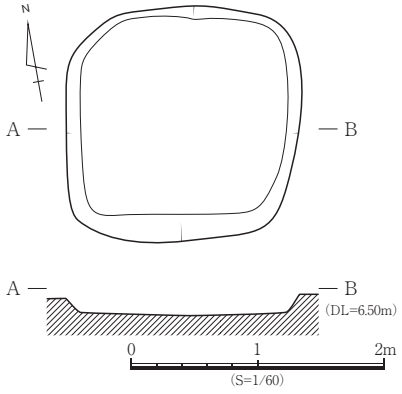


図429　9－3区　SK82
平面図・エレベーション図

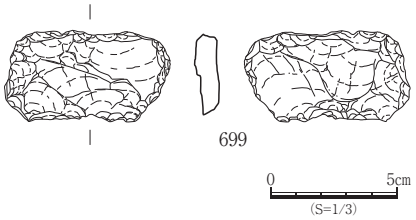


図430　9－3区　SK82
出土遺物実測図

の，おおむね均質である。石内外の埋土に差異はなく，土坑埋め戻し途中に石を並べたと考えられる。埋納物を固定する目的が考えられる。遺物は出土していない。(綾部)

SK100

SK100は9－3区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸の検出長は約1.12m，短軸の検出長は約0.74mを測り，検出面からの深さは約37㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。主軸方向はN－75°－Eである。

図示した出土遺物はない。

SK102

SK102は9－3区で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸は約0.75m，短軸は約0.57mを測り，検出面

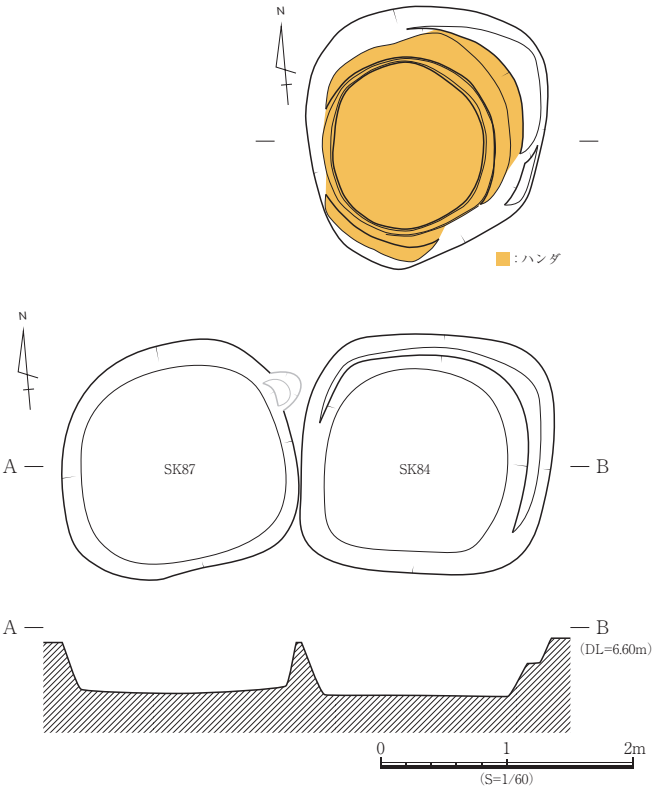
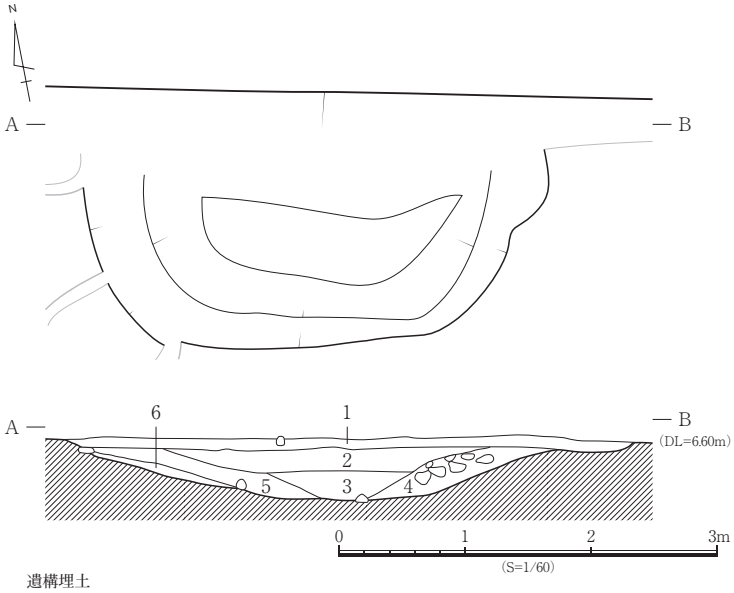


図431　9－3区　SK84・87　平面図・エレベーション図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂
2. 黒褐色(10YR2/2)極細粒砂に直径5㎝大以下の礫を多く含む
3. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂に細礫を含む
4. 黒褐色(10YR2/3)シルト質極細粒砂に直径5～10㎝大の礫を多く含む
5. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂～極細粒砂に細礫を含む
6. 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂

図432　9－3区　SK85　平面図・断面図

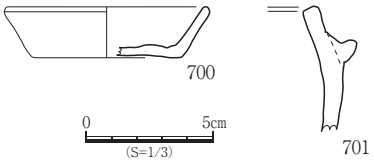


図433　9－3区　SK85
出土遺物実測図

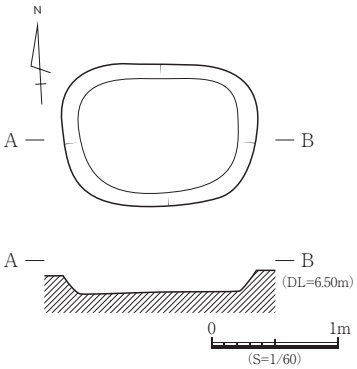


図434　9－3区　SK88
平面図・エレベーション図

からの深さは約60cmである。主軸方向はN－59°－Wである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(704)・杯(705)，瓦質土器の鍋(706)，器形不明の土製品(707)である。

704は皿である。口縁部には，斜め外方へ大きくひろがる。口縁部にはナデ調整を施す。手捏ねか。二次被熱を受ける。705は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。706は鍋である。体部は扁球形で口縁部は直立気味に立ち上がり，口唇部には面取りを施す。口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。体部外面はナデ調整で指頭圧痕が認められる。内面にはヘラナデ調整を施す。707は器形(用途)不明の土製品である。厚さ2.3cmの粘土板を僅かに湾曲させ，凹凸が認められる。二次被熱を受ける。

SK103

SK103は9－3区で検出したハンダ土坑である。SD41を切る。平面形は円形か。長軸は約1.30m，短軸の検出長は約0.52mを測り，検出面からの深さは約53cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)粘性シルト他である。底面および壁面にはハンダが貼られる。

図示した出土遺物はない。

4.SG

SG1

9－3区で検出した土器棺墓である。上部は後世の削平を受ける。棺には弥生土器の壺が用いられる。掘方の平面形は不整円形を呈し，規模は長軸約0.90m，短

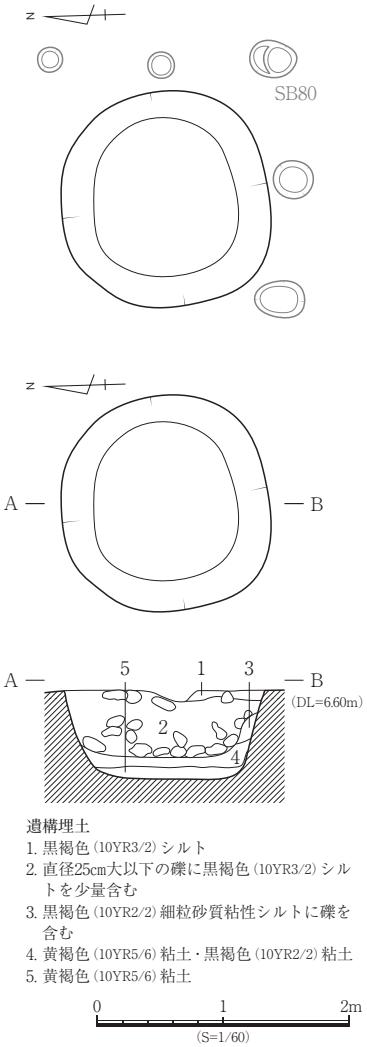


図435　9－3区　SK86　平面図・断面図

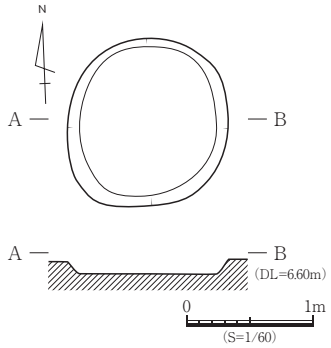


図436　9－3区　SK90
平面図・エレベーション図

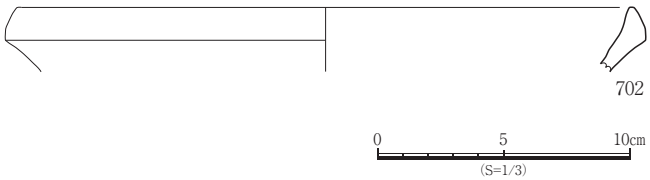


図437　9－3区　SK90　出土遺物実測図

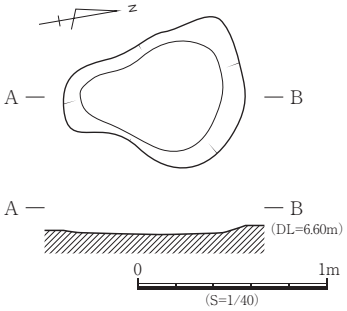


図438　9－3区　SK95　平面図・エレベーション図

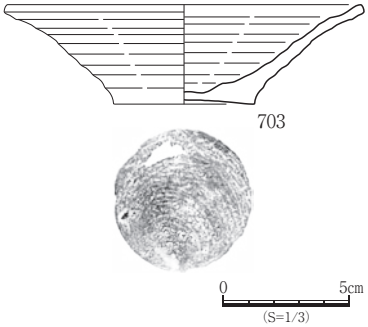


図439　9－3区　SK95　出土遺物実測図

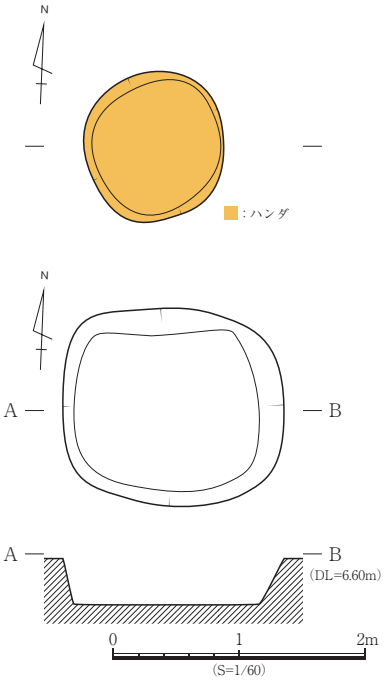


図440　9－3区　SK96
平面図・エレベーション図

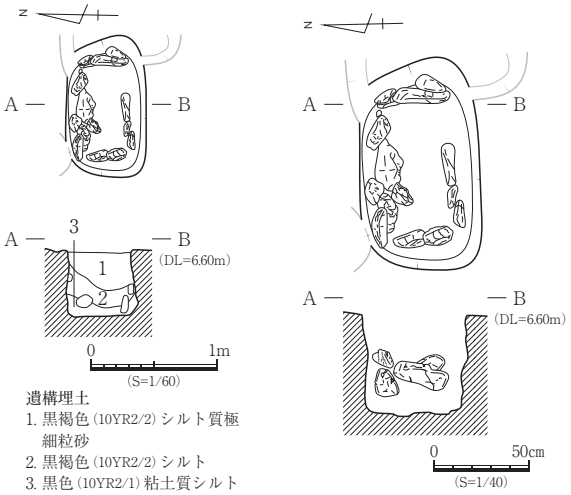


図441　9－3区　SK98　平面図・断面図

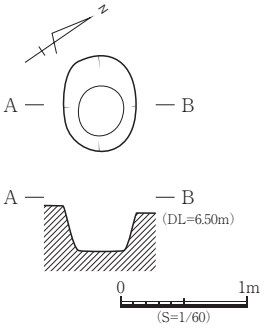


図442　9－3区　SK102
平面図・エレベーション図

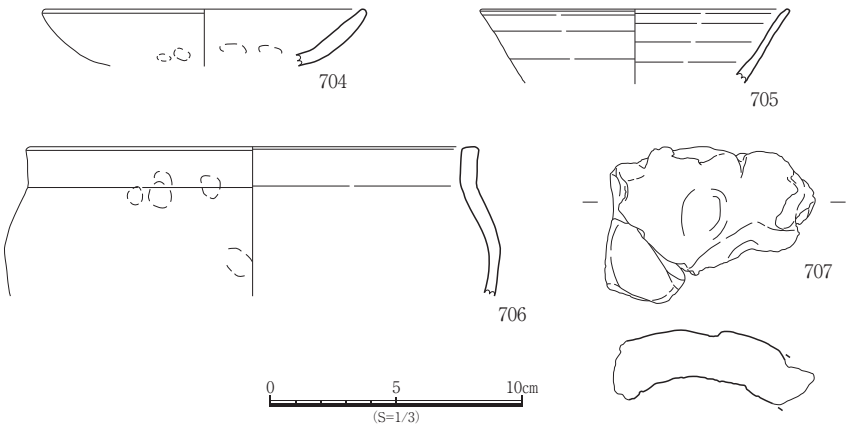


図443　9－3区　SK102　出土遺物実測図

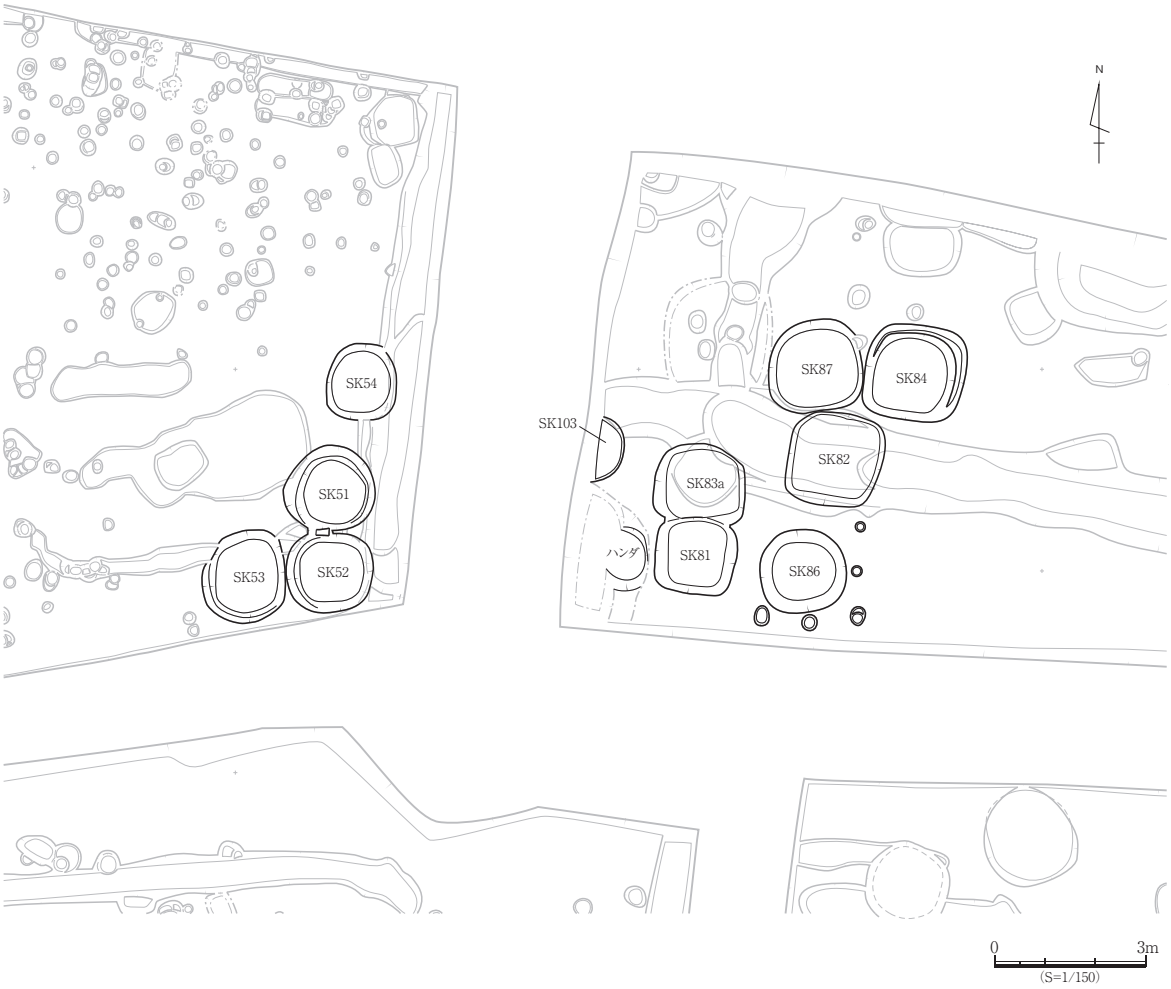
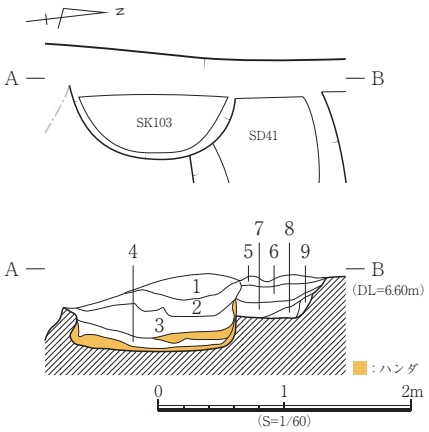


図444　9－2・3区　ハンダ土坑配置図



遺構埋土
1. 暗褐色（10YR3/3）砂質シルトに直径15cm大以下の礫を含む（SK103）
2. 直径15cm大以下の礫に黒褐色（10YR3/2）粘性シルトを含む（SK103）
3. 直径20cm大以下の礫に黒褐色（10YR3/2）粘性シルトを含む（SK103）
4. 黒褐色（10YR3/1）粘土（SK103）
5. 黒褐色（10YR3/2）粘性シルトに直径5cm大以下の礫を含む（SD41）
6. 暗褐色（10YR2/3）砂質シルト（SD41）
7. 黒褐色（10YR2/3）砂質シルトに直径15cm大以下の礫を含む（SD41）
8. 暗褐色（10YR3/3）砂質シルトに直径10cm大以下の礫を含む（SD41）
9. 褐色（10YR2/3）粘性シルト（SD41）

図445　9－3区　SK103，SD41　平面図・断面図

軸約 0.89m，検出面からの深さは約 53 ㎝を測る。棺は斜位に埋置する。掘方底面より 3 ㎝程度浮いた状態で出土しており，棺周囲には径 5 ～ 20 ㎝大の自然石を充填させ棺を固定させている。壺棺は頸部より上部を意図的に打ち欠く。棺方位はＮ－86°－Ｅで，ほぼ真東西を向く。蓋は残存しない。掘方埋土は黒褐色(10YR2/2)細礫混じるシルト質極細粒砂で，壺棺内部には均質な黒色や黒褐色のシルトが堆積する。人骨や歯牙は確認されていない。(綾部)

図示した出土遺物は弥生土器の壺(708)である。体部の中位付近に最大径部を持った卵倒形を呈する。底部は丸みを持った平底で底面と体部の境は比較的稜が立つ。外底面はナデ調整を施すものの凹凸がみられる。幅約 6 ㎝の粘土帯を用いている。体部外面は叩き調整後，ハケ調整さらにヘラミガキ調整を加える。ヘラミガキ調整は全体的に疎らであるが底部付近には密に施す部分がある。内面は肩部及び底部付近はナデ調整，中位付近は粗いハケ調整を施す。モミ圧痕がみられる。内外面ともに敲打痕跡状のものが認められる。

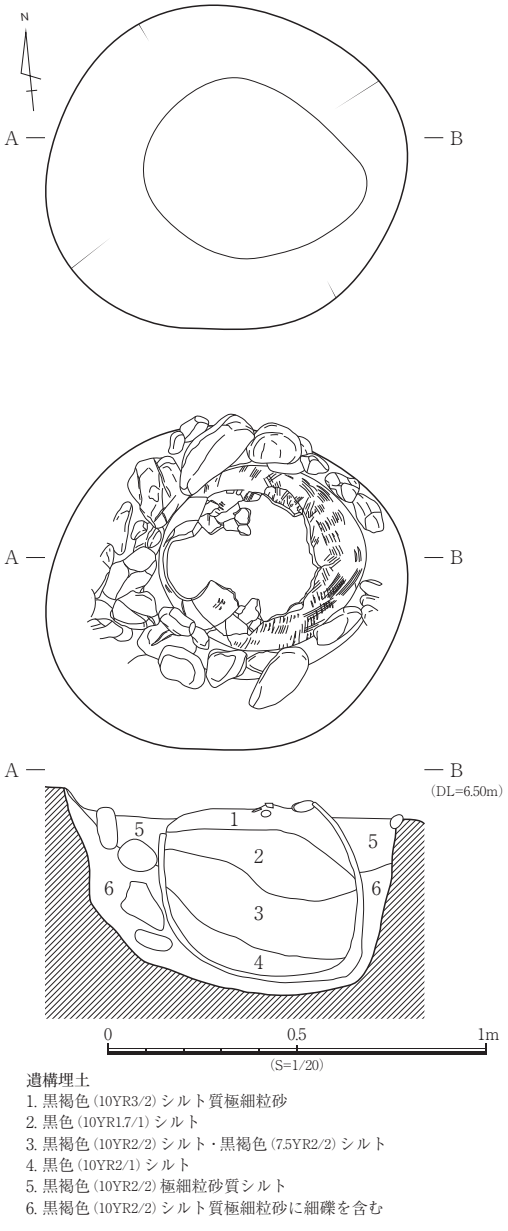


図446　9－3区　SG1　平面図・断面図

5.SD

SD1

SD1 は 9 － 1 区で検出した「L」の字状の溝跡である。幅0.30～0.71ｍで，検出長は約5.23ｍである。主軸方向は東西：Ｎ－87°－Ｗ，南北：Ｎ－27°－Ｅである。検出面からの深さは1～22㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD2

SD2 は 9 － 1 区で検出した「L」の字状の溝跡である。幅約 0.40 ｍで，検出長は約 24.76 ｍである。主軸方向は東西：Ｎ－79°－Ｗ，南北：Ｎ－9°－Ｅである。検出面からの深さは2～18㎝であり，西方向および北方向ともに調査区外へのびる。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。調査時は付図で図示したような軌跡と認識していたものの，SK5･8･10 を挟みSD5に接続すると考えられる。

図示した出土遺物は瓦質土器の鍋(709)，備前焼の壺(710)である。

709 は鍋である。口縁部はごく僅かに外反させる。口唇部にはハケ状原体による面取りを施し，内

端部を僅かに摘み上げる。口縁部にはヨコナデ調整を施す。体部外面はナデ調整で指頭圧痕が認められる。内面にはナデ調整を施す。710 は壺である。短い頸部から口縁部を外反させる。口縁部から頸部にかけてヨコナデ調整を施す。

SD3

SD3 は 9 － 1 区で検出した南北方向の溝跡である。検出時は 1 条の溝跡としていたが，2 条(SD3a・3b)の溝跡が重複していることが判明した。また，先後関係は不明瞭ではあるが，SD29 とも重複する。

SD3a は幅 0.33 ～ 0.90 m で，検出長は約 21.04 m である。南北方向ともに調査区外へのびる。主軸方向は N － 15° － E である。検出面からの深さは 3 ～ 14 ㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シ

図 447　9 － 3 区　SG1　出土遺物実測図

ルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(711)である。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SD3bは調査区の北端部でSD24と接続する。幅0.45～0.52 mで，検出長は約21.04 mである。主軸方向は東西：N－68°－E，南北：N－13°－Eである。検出面からの深さは7～9cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

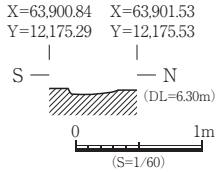
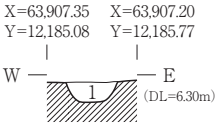


図448　9－1区　SD1
エレベーション図

SD4

SD4は9－1区で検出した南北方向の溝跡である。幅0.49～0.56 mで，検出長は約11.12 mである。主軸方向はN－22°－Eである。検出面からの深さは12～20cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。SD2に接続すると考えられる。

図示した出土遺物はない。



SD5

SD5は9－1区で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.38 mで，検出長は約2.21 mである。主軸方向はN－2°－Eである。検出面からの深さは2～5cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。SD2・6に接続すると考えられる。

図示した出土遺物はない。

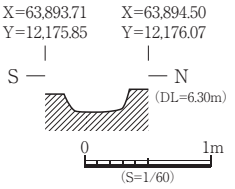


図449　9－1区　SD2
断面図・エレベーション図

SD6

SD6は9－1区で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.58 mで，検出長は約4.11 mである。主軸方向はN－21°－Eである。検出面からの深さは11～15cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。SD2・5に接続すると考えられる。

図示した出土遺物はない。

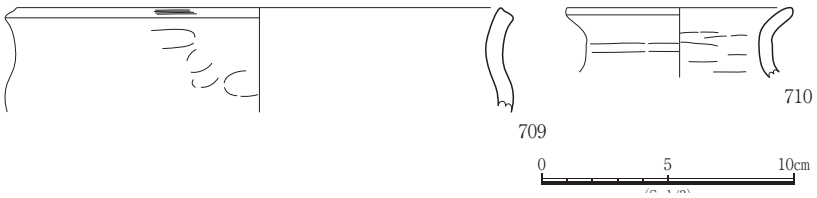


図450　9－1区　SD2　出土遺物実測図

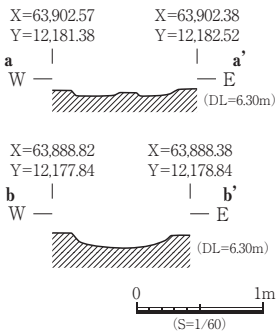


図451　9－1区　SD3
エレベーション図

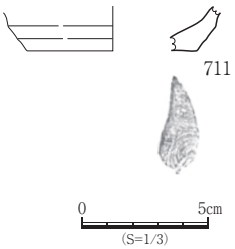


図452　9－1区　SD3
出土遺物実測図

SD7

SD7は9－1区で検出し

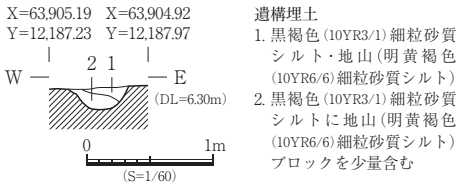


図453　9－1区　SD4　断面図

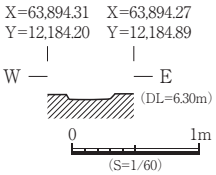


図454　9－1区　SD5
エレベーション図

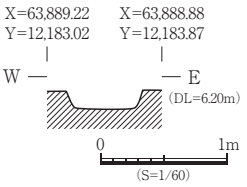


図455　9－1区　SD6
エレベーション図

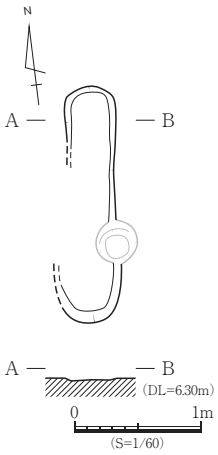


図456　9－1区　SD7
平面図・エレベーション図

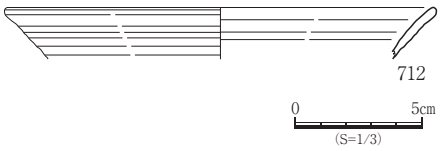


図457　9－1区　SD7　出土遺物実測図

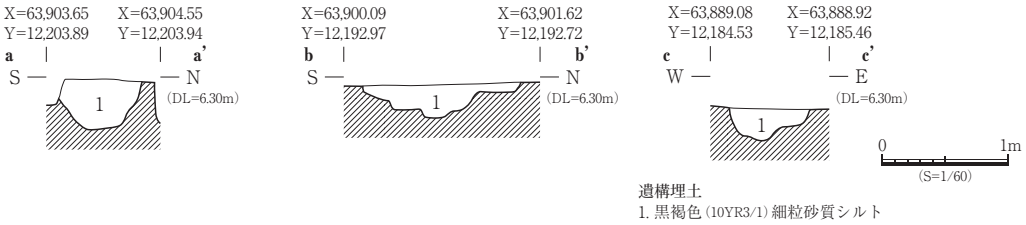


図458　9－1区　SD8　断面図

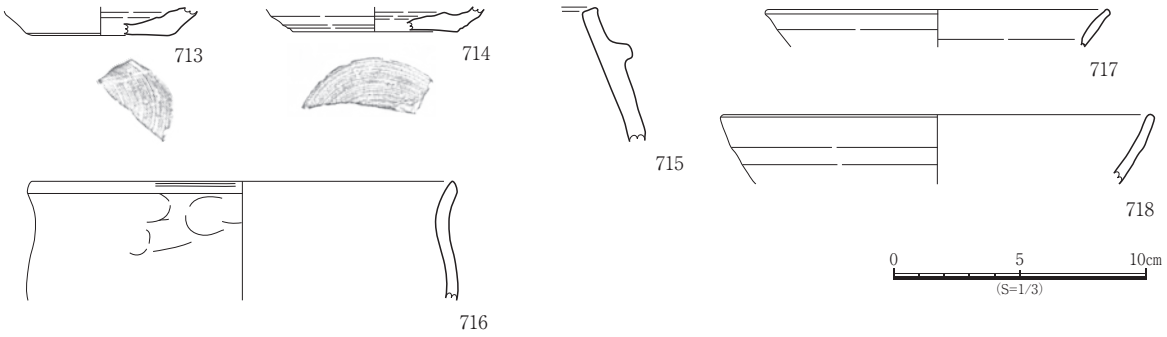
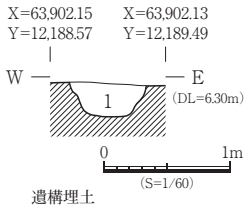


図459　9－1区　SD8　出土遺物実測図

た南北方向の溝跡である。幅約0.40ｍで，検出長は約1.90ｍである。主軸方向はＮ－5°－Ｅである。検出面からの深さは2～9㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(712)である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。煤が付着する。



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む

図460　9－1区　SD9 断面図

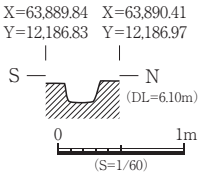
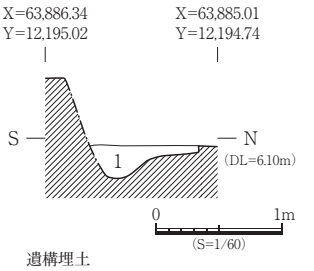


図461　9－1区　SD10 エレベーション図

SD8

SD8は9－1区で検出した溝跡である。幅0.38～0.64ｍである。検出長は約32.31ｍである。検出面からの深さは9～37㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。SD11・16と接続し，多角形に囲む。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(713・714)・羽釜(715)，瓦質土器の鍋(716)，白磁の皿(717)，青磁の碗(718)である。



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックと黄灰色(2.5Y6/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む

図462　9－1区　SD11 断面図

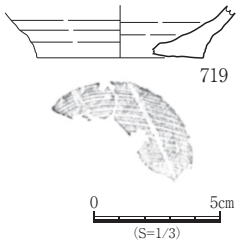


図463　9－1区　SD11 出土遺物実測図

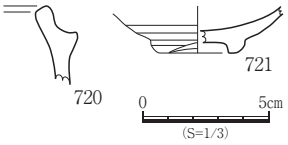


図464　9－1区　SK9，SD11　出土遺物実測図

713は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。714は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。715は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下には断面形が台形の鍔を付す。716は鍋である。口縁部はごく僅かに外反させる。口唇部はハケ状原体による面取りを施す。口縁部および体部にはナデ調整を施す。717は皿である。口縁部内面は僅かに凹む。透明感のある釉薬を施す。718は碗である。口唇部は丸くおさめる。外面には強いロクロ目がみられる。

SD9

SD9は9－1区で検出した南北方向の溝跡である。幅0.32～0.57ｍで，検出長は約19.44ｍである。主軸方向はＮ－3°－Ｅである。検出面からの深さは7～23㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

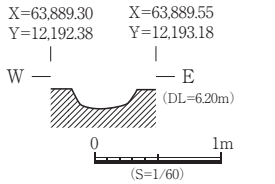


図465　9－1区　SD12 エレベーション図

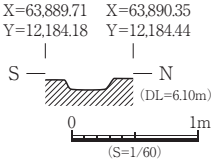


図466　9－1区　SD13 エレベーション図

SD10

SD10は9－1区で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.30ｍであり，検出長は約4.25ｍである。主軸方向はＮ－75°－Ｗである。検出面からの深さは5～8㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD11

SD11は9－1区で検出した東西方向の溝跡である。幅の検出長は0.40～1.45ｍであり，検出長は約

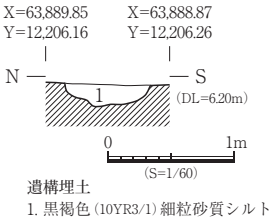


図467　9－1区　SD15　断面図

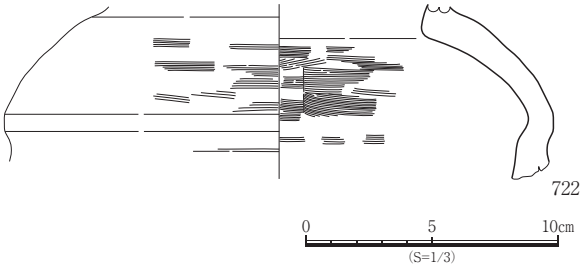
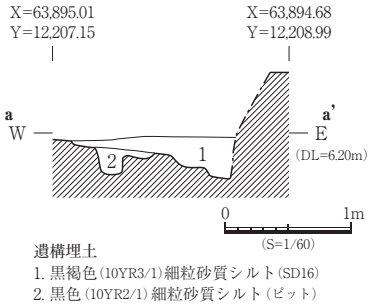


図468　9－1区　SD15　出土遺物実測図



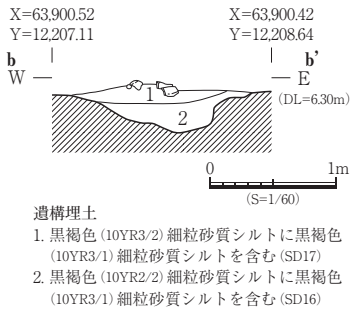


図469　9－1区　SD16・17　断面図

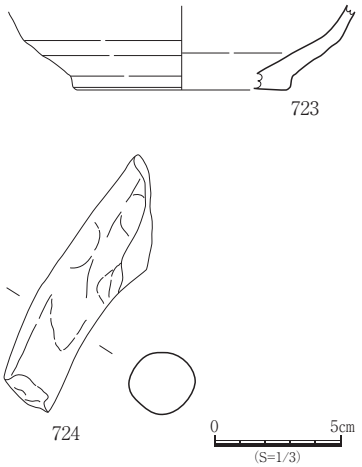


図470　9－1区　SD16
出土遺物実測図

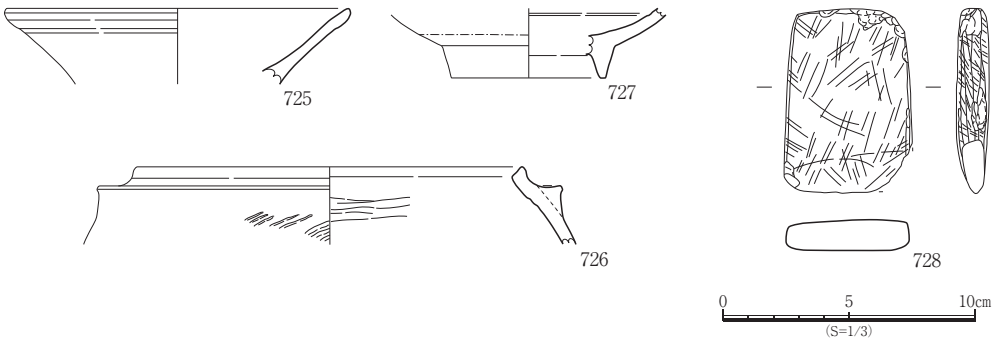


図471　9－1区　SD17　出土遺物実測図

15.90ｍである。主軸方向はＮ－77°－Ｗである。検出面からの深さは9～15cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。SD8・16と接続し，多角形に囲む。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(719)である。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。底部の切離し手法は静止糸切りか。

SK9・SD11出土遺物

図示した出土遺物は土師質土器の羽釜(720)，白磁の皿(721)である。

720は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下に断面形が三角形の鍔を付す。口縁部および体部にはヨコナデ調整を施す。721は皿である。アーチ状の高台を持つ。見込みには重ね焼き痕跡がみられる。

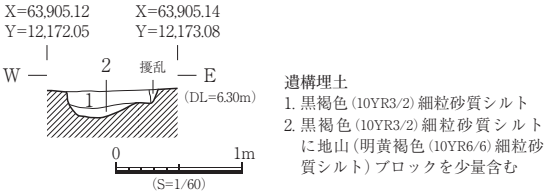


図472　9－1区　SD18　断面図

SD12

SD12は9－1区で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.54ｍで，検出長は約3.09ｍである。主軸方向はＮ－12°－Ｗである。検出面からの深さは5～15cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

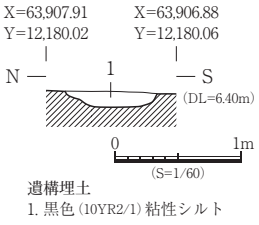


図473　9－1区　SD19
断面図

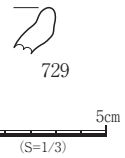


図474　9－1区　SD19
出土遺物実測図

SD13

SD13は9－1区で検出した東西方向の溝跡である。幅約38 cmで，検出長は約80 cmである。主軸方向はＮ－70°－Ｗである。検出面からの深さは約9cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

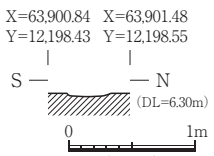


図475　9－1区　SD21
エレベーション図

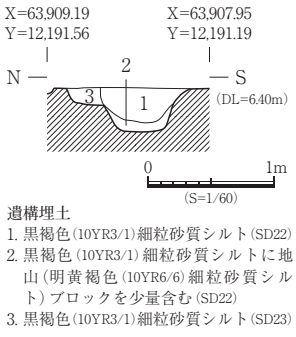


図476　9－1区　SD22・23
断面図

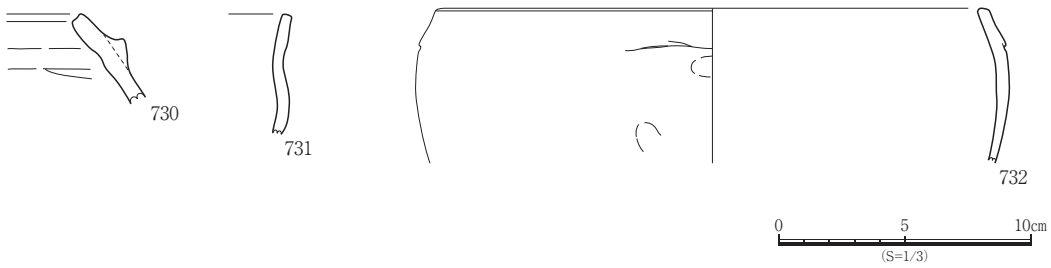


図477　9－1区　SD22　出土遺物実測図

SD15

SD15は9－1区で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.63ｍで，検出長は約4.13ｍである。主軸方向はＮ－82°－Ｅである。検出面からの深さは6～23㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の火鉢か(722)。体部はヨコハケ調整およびヨコナデ調整を施す。接合面で剥離する。

SD16

SD16は9－1区で検出した南北方向の溝跡である。SD17の底面で検出した。幅0.90～1.06ｍである。主軸方向はＮ－3°－Ｗである。検出面からの深さは28～34㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。SD8・11と接続する。

図示した出土遺物は土師質土器の椀(723)・三足釜(724)である。

723は椀である。底部は円盤状高台である。体部は外上方へ立ち上がり，腰部で屈曲する。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。724は三足釜の脚部である。ナデ調整を施す。接合面で剥離する。

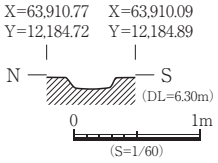


図478　9－1区　SD24
エレベーション図

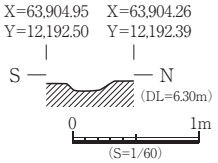


図479　9－1区　SD25
エレベーション図

SD17

SD17は9－1区で検出した南北方向の溝跡である。SD16の上面で検出した。検出面には人頭大以下の礫が集中していた。礫の種類に統一感はみられず，河原石および角礫等がみられた。幅0.60～1.28ｍで，検出長は約9.32ｍである。主軸方向はＮ－2°－Ｗである。検出面からの深さは10～13㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(725)・羽釜(726)，白磁の碗(727)，石斧(728)である。

725は杯である。口縁部は斜め外方へ大きくひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。

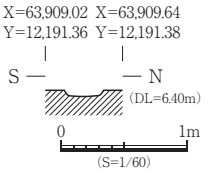


図480　9－1区　SD26
エレベーション図

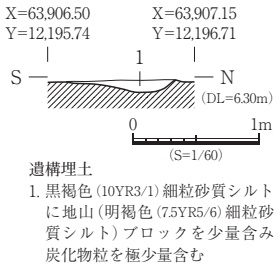


図481　9－1区　SD27　断面図

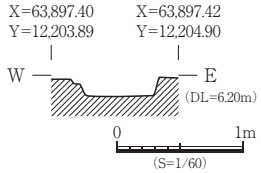


図482　9－1区　SD28
エレベーション図

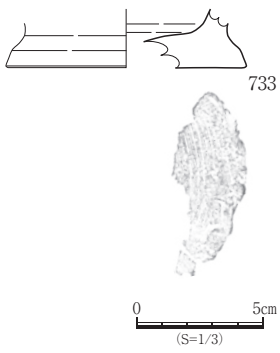


図483　9－1区　SD28
出土遺物実測図

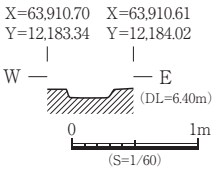
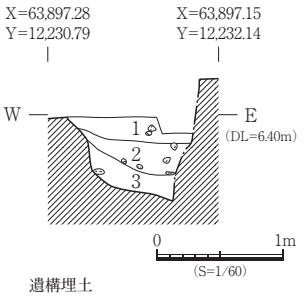


図484　9－1区　SD29
エレベーション図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質粘性シルト
2. 黒色(10YR2/1)細粒砂質粘性シルトに礫を含む
3. 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質粘性シルト

図485　9－2区　SD32　断面図

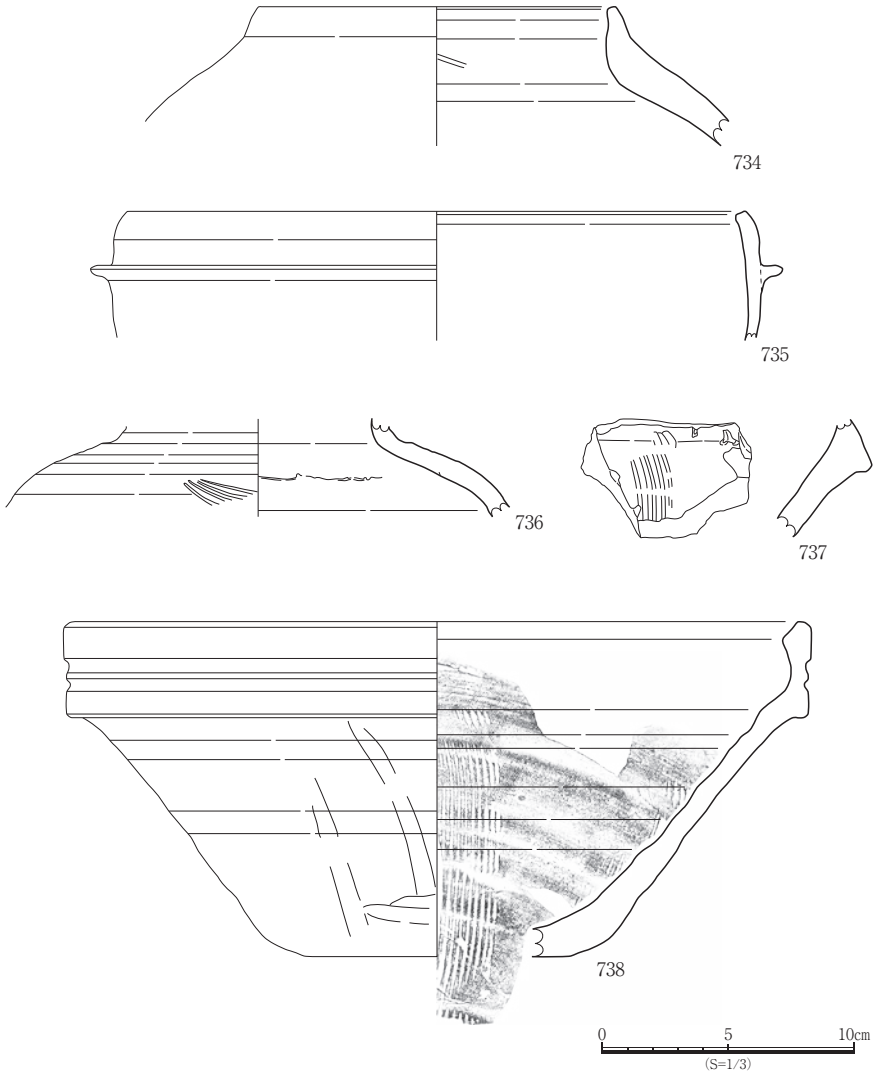


図486　9－2区　SD32　出土遺物実測図

726は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下に断面形が三角形の鍔を付す。口縁部にはヨコナデ調整を施す。体部外面は叩き調整，内面はヘラナデ調整およびヨコナデ調整である。727は碗である。見込みに1条の界線を巡らせる。高台から腰部にかけては無釉である。二次被熱を受ける。Ⅴ類である。728は蛇紋岩製の扁平片刃石斧である。刃部に向けて僅かにひろがる。基部は僅かに丸みを持つ。ほぼ完存する。

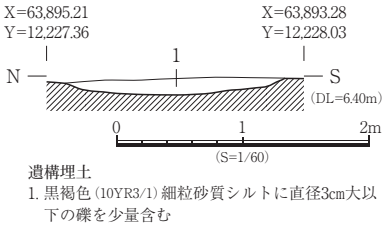


図487　9－2区　SD33　断面図

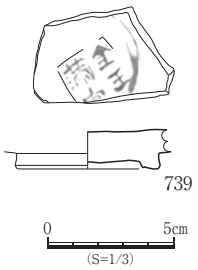


図488　9－2区　SD33
出土遺物実測図

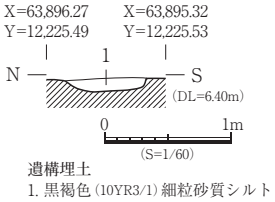


図489　9－2区　SD35
断面図

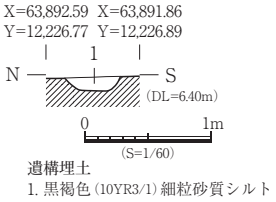


図490　9－2区　SD36
断面図

SD18

SD18は9－1区で検出した南北方向の溝跡である。幅の検出長は約0.80 mで，検出長は約10.60 mであり，北方向および南方向は調査区外へのびる。主軸方向はN－5°－Eである。検出面からの深さは7～31cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

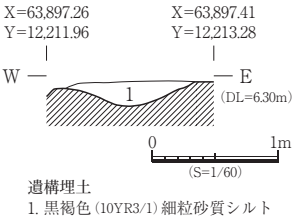


図491　9－2区　SD37　断面図

図492　9－2区　SD37
出土遺物実測図

SD19

SD19は9－1区で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.72 mであり，検出長は約9.24 mである。主軸方向はN－79°－Wである。検出面からの深さは10～15cmであり，埋土は黒色(10YR2/1)粘性シルトである。

図示した出土遺物は東播系須恵器の捏鉢(729)である。口縁部を上方へ拡張し，ヨコナデ調整で仕上げる。

SD21

SD21は9－1区で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.37 mで，検出長は約2.18 mである。主軸方向はN－72°－Wである。検出面からの深さは2～3cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

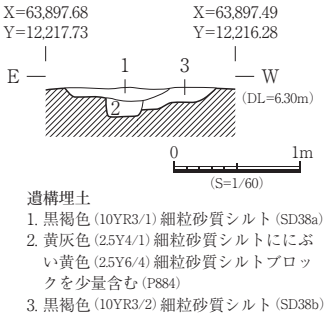


図493　9－2区　SD38　断面図

SD22

SD22は9－1区で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.57 mで，検出長は約17.42 mである。主軸方向はN－80°－Wである。検出面からの深さは14～31 cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の羽釜(730)・鍋(731)，瓦質土器の羽釜(732)である。

730は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下に断面形が三角形の鍔を付す。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整を施す。体部外面はヨコナデ調整，内面はヘラナデ調整およびヨコナデ調整を施す。731は鍋である。口縁部はごく僅かに外反し，口唇部には面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整であり，内面はナデ調整か。体部外面にはナデ調整を施し，内面はナデ調整か。二次被熱を受ける。732は羽釜である。口縁部は内湾する。口縁部下には鍔の痕跡がみられる。口縁部外面にはナデ調整を施し，内面にはヨコナデ調整を施す。体部外面にはナデ調整を施し，指頭圧痕が認められる。内面はナデ調整である。

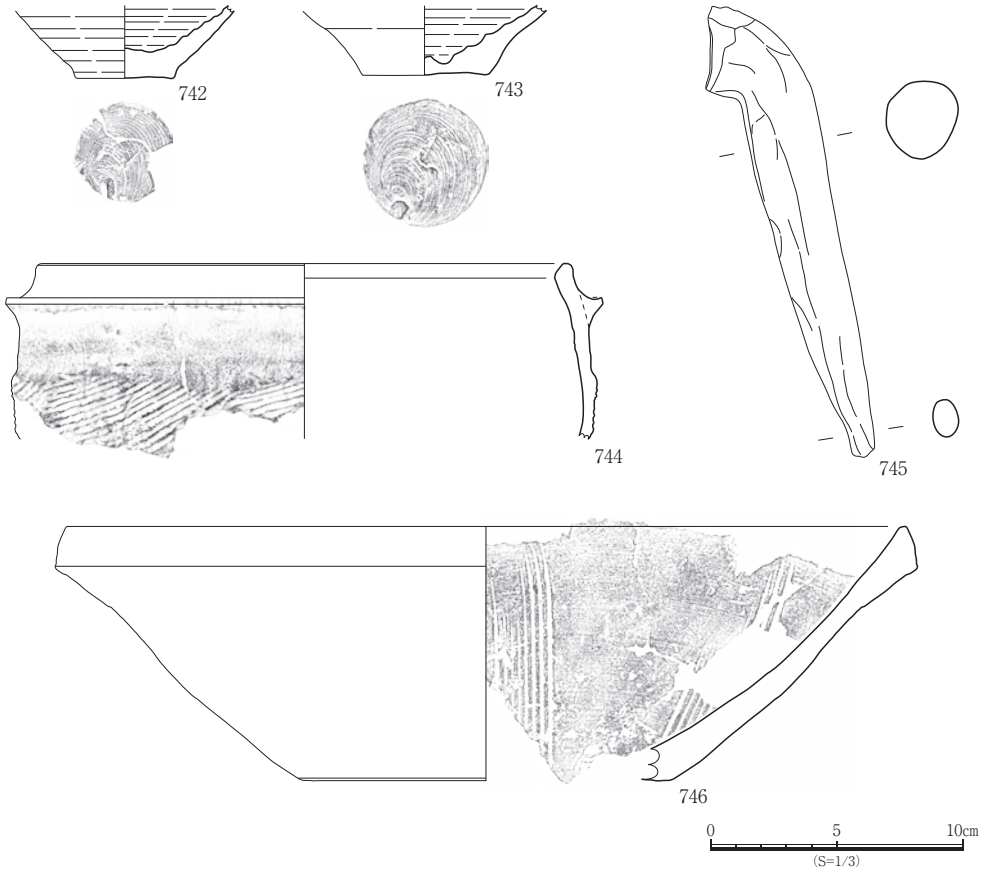


図494　9－2区　SD38b　出土遺物実測図

SD23

SD23は9－1区で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.37ｍで，検出長は約9.08ｍである。主軸方向はＮ－82°－Ｗである。検出面からの深さは5～14㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

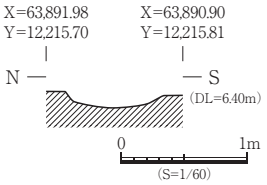


図495　9－2区　SD39
エレベーション図

SD25

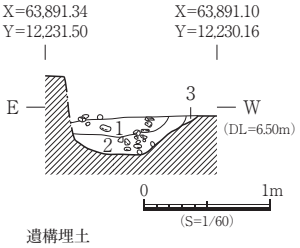
SD25は9－1区で検出した「L」の字状の溝跡である。幅約0.33ｍで，検出長は約3.36ｍである。主軸方向は東西：Ｎ－85°－Ｗ，南北：Ｎ－10°－Ｅである。検出面からの深さは7～15㎝であり，埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD26

SD26は9－1区で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.29ｍで，検出長は約2.56ｍである。主軸方向はＮ－84°－Ｗである。検出面からの深さは3～10㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルトブロックを含み直径10㎝大以下の礫を少量含む
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに直径10㎝大以下の礫を含む
3. 褐灰色(10YR5/1)細粒砂質シルト・黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト

図496　9－2区　SD40
断面図

SD27

SD27は9－1区で検出した溝跡である。幅約0.76ｍで，検出長は約2.32ｍである。主軸方向はＮ－37°－Ｗである。検出面からの深さは約22㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD28

SD28は9－1区で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.56ｍで，検出長は約4.37ｍである。主軸方向はＮ－3°－Ｅである。検出面からの深さは4～21㎝である。

図示した出土遺物は土師質土器の椀(733)である。断面形が台形のベタ高台を持つ。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

SD29

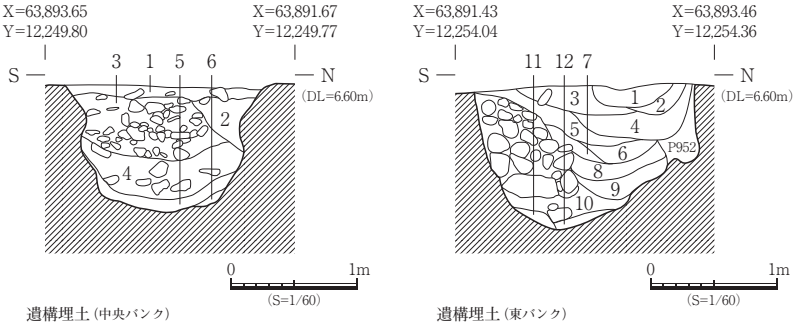
SD29は9－1区で検出した南北方向の溝跡である。幅約0.38ｍで，検出長は約1.04ｍである。北側は調査区外へのびる。SD3bと重複するかあるいはSD3bに接続すると推定される溝跡である。主軸方向はＮ－13°－Ｅである。検出面からの深さは約5㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD31

SD31は9－2区で検出した東西方向の溝跡である。幅0.26～0.56ｍで，検出長は約13.20ｍである。主軸方向はＮ－82°－Ｅである。検出面からの深さは5～10㎝である。

図示した出土遺物はない。



遺構埋土（中央バンク）
1. 黒褐色（10YR2/2）シルト質極細粒砂に直径1cm大以下の礫を含む
2. 直径15㎝大以下の礫に黒褐色（10YR2/2）極細粒砂を含む
3. 黒褐色（10YR2/2）シルト質極細粒砂
4. 黒褐色（10YR2/3）シルトに直径15㎝大以下の礫を含む
5. 黒褐色（10YR2/2）シルト
6. 黒褐色（10YR2/3）シルト質中粒砂を含む

遺構埋土（東バンク）
1．黒褐色（10YR2/2）シルト質極細粒砂
2．黒褐色（10YR2/2）極細粒砂に礫を含む
3．黒褐色（10YR2/3）シルトに直径5㎝大以下の礫を少量含む
4．黒褐色（10YR2/2）シルトに直径3㎝大以下の礫を含む
5．黒褐色（10YR2/2）シルトに直径5㎝大の礫を多く含む
6．黒褐色（10YR2/3）シルトに細礫を含む
7．黒褐色（10YR3/2）シルト
8．黒色（10YR1.7/1）～黒褐色（10YR2/2）シルト
9．黒褐色（10YR2/3）シルトに直径5㎝大以下の礫を少量含む
10. 直径30㎝大以下の礫に黒色（10YR1.7/1）粘土を含む
11. 黒色（10YR2/1）粘土
12. 黒褐色（10YR2/2）シルトに細礫を多く含む

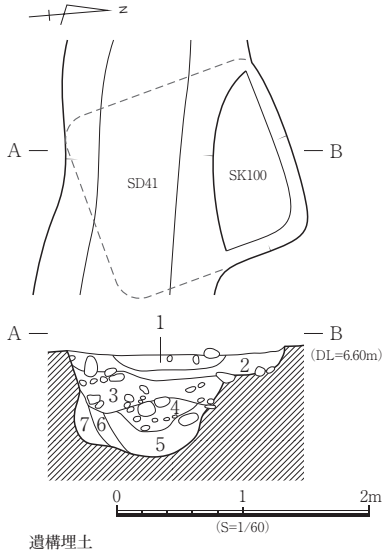
図497　9－3区　SD41　断面図

SD32

SD32は9－2区で検出した溝跡である。調査区の東壁に沿って南北方向に掘削され，調査区の南端部で東方向に曲がり，調査区外へのびる。また，北方向についても調査区外へとのびる。SD40と重複する。幅の検出長は約0.80ｍであり，南北方向の検出長は約10.04ｍである。主軸方向はＮ－7°－Ｅである。検出面からの深さは46～90㎝であり，埋土は黒褐色（10YR3/1）細粒砂質粘性シルト他である。西壁は垂直となる。

図示した出土遺物は土師質土器の釜（734），瓦質土器の羽釜（735），備前焼の壺（736）・擂鉢（737・738）である。

734は釜である。口縁部は短く内傾し，ヨコナデ調整で仕上げる。体部外面はナデ調整，内面はヘラナデ調整である。735は羽釜である。口縁端部は内傾し，口唇部は沈線状を成す。口縁部下に鍔を付す。口縁部はヨコナデ調整，体部はナデ調整を施す。736は壺である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。肩部には櫛描波状文を描く。肩部内面には接合痕跡がみられる。737は擂鉢である。口唇部は上下に拡張し，内傾させ，注口を付す。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面には8条1単位の条線を施す。重ね焼き痕がみられる。738は擂鉢である。口縁部は上方へ拡張し，2条の凹線を施す。内外面ともに回転ナデ調整である。内面には9～10条1単位の条線を施す。



遺構埋土
1. 黒褐色（10YR3/2）シルト（SK100）
2. 黒褐色（10YR2/2）シルト質極細粒砂に直径1cm大以下の礫を含む（SK100）
3. 黒褐色（10YR2/2）シルト質極細粒砂（SD41）
4. 黒褐色（10YR2/2.5）シルトに直径15㎝大以下の礫を含む（SD41）
5. 黒褐色（10YR2/2）砂質シルトに直径10㎝大以下の礫を含む（SD41）
6. 黒褐色（10YR2/2）シルト（SD41）
7. 黒褐色（10YR2/2）粘性シルト（SD41）

図498　9－3区　SD41，SK100
平面図・断面図

SD33

SD33は9－2区で検出した東西方向の溝跡である。幅約1.98ｍ，検出長は約4.63ｍである。主軸方向はＮ－76°－Ｅである。検出面からの深さは2～15㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は青磁の碗(739)である。高台は断面形が長方形で低い。外底面は無釉である。見込みには『金王満宮』の銘がみられる。

SD34

SD34は9－2区で検出した東西方向の溝跡である。SD37と重複する。幅の検出長は約0.78ｍであり，東西方向の検出長は約3.52ｍである。主軸方向はＮ－83°－Ｅである。検出面からの深さは4～8㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

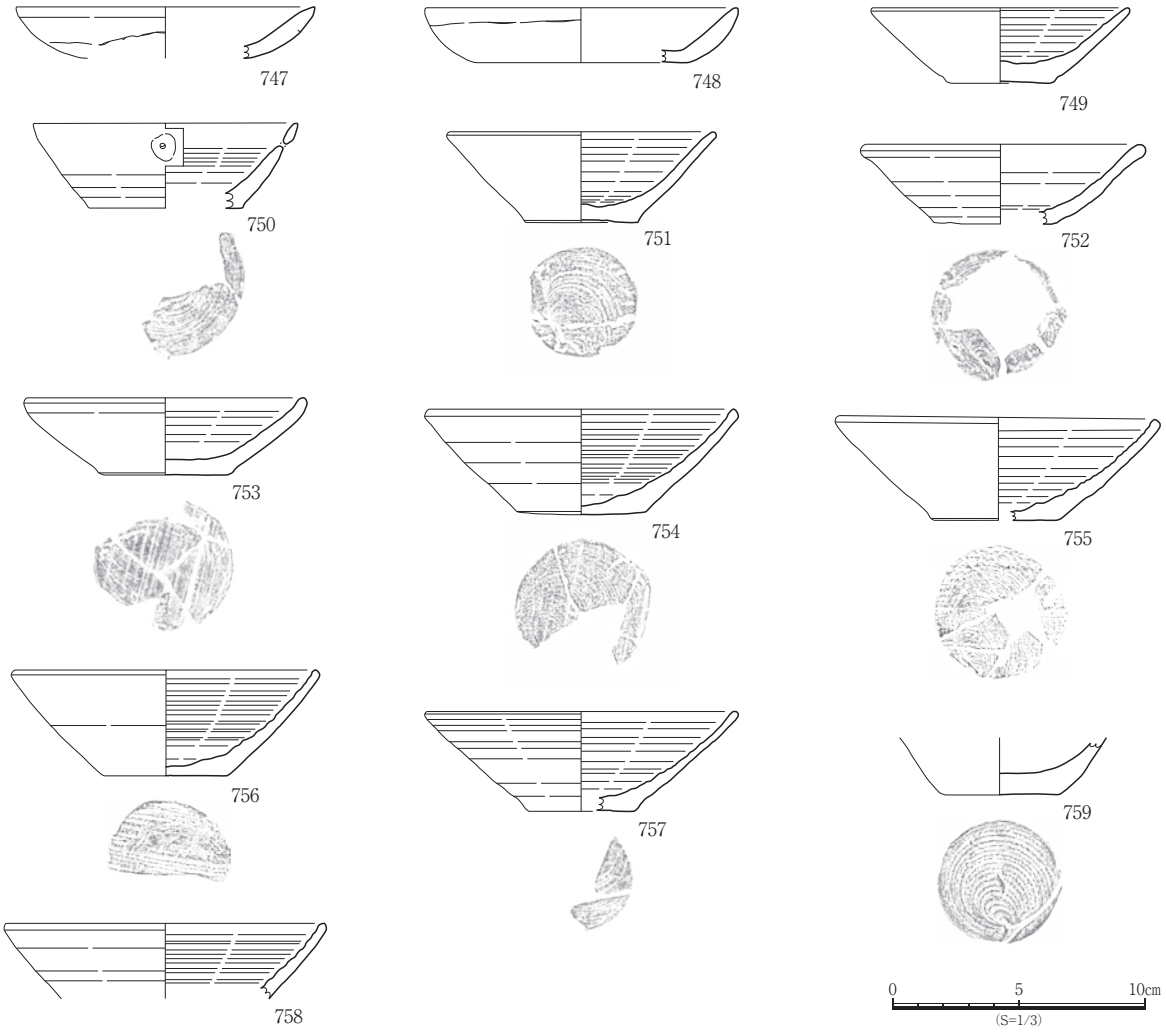


図499　9－3区　SD41　出土遺物実測図_1

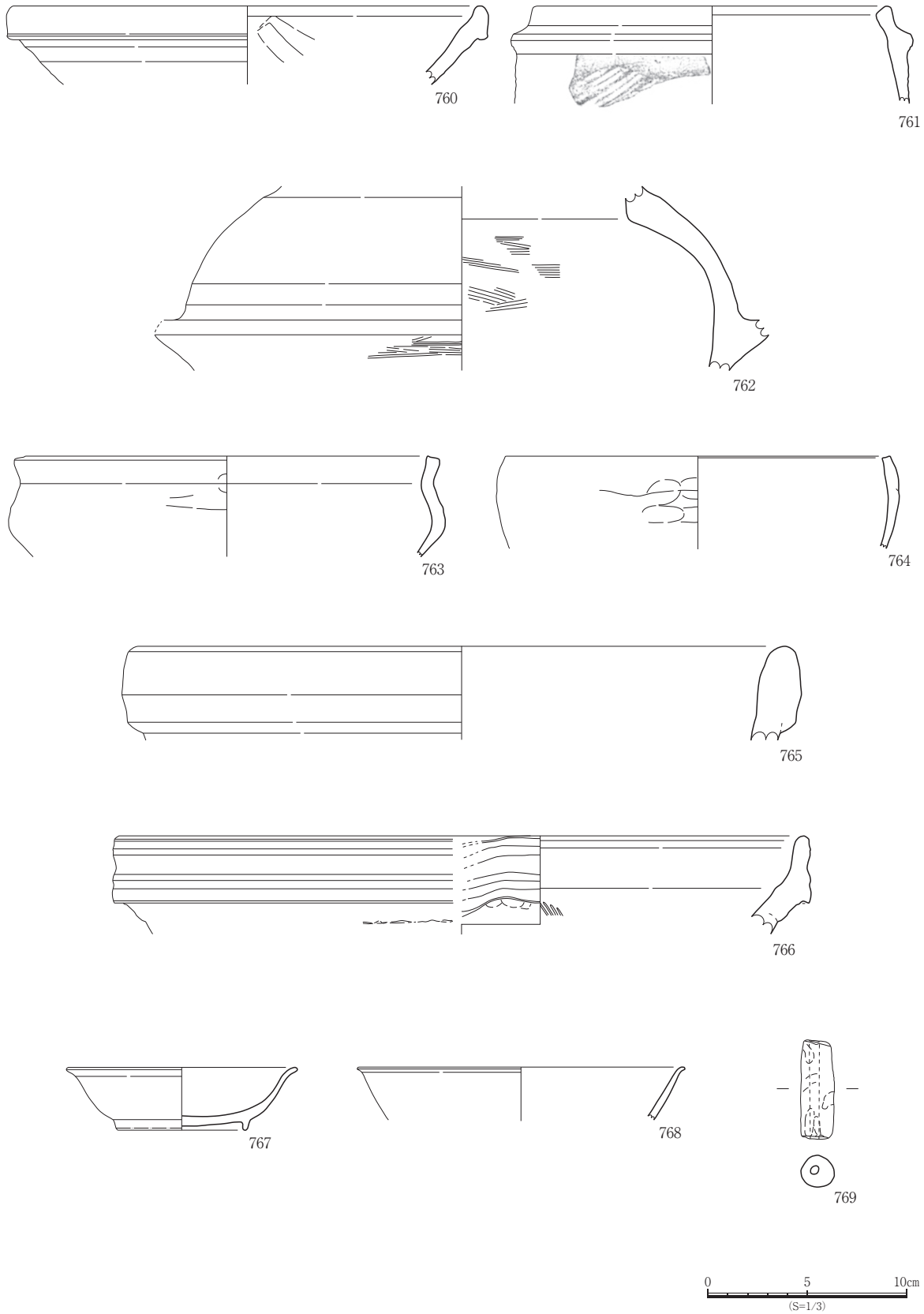


図500　9－3区　SD41　出土遺物実測図_2

SD35

SD35は9－2区で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.68ｍである。検出長は約 2.80 ｍである。主軸方向はＮ－ 84 °－Ｅである。検出面からの深さは４～８㎝であり，埋土は黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

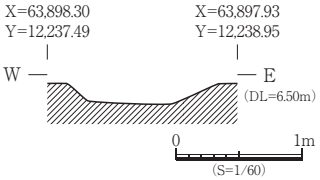


図501　9－3区　SD42
エレベーション図

SD36

SD36 は9 － 2区で検出した東西方向の溝跡であり，西端部は北方向に曲がる。幅約 0.51 ｍである。検出長は約4.56 ｍである。主軸方向は東西：Ｎ－ 86°－Ｅ，南北：Ｎ－ 9°－Ｗである。検出面からの深さは１～12㎝であり，埋土は黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD37

SD37は9 － 2区で検出した「L」の字状の溝跡である。SD34・39と重複する。幅0.29～0.80ｍで，検出長は約17.94ｍである。主軸方向はＮ－ 83°－Ｅ～Ｎ－ 4°－Ｗである。検出面からの深さは２～19㎝であり，埋土は黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿（740）・杯（741）である。

740 は皿である。口縁部は内湾気味に短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。被熱により赤変する。741 は杯である。体部は斜め上方へ短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。

SD38

SD38 は9 － 2区で検出した南北方向の溝跡である。SD38aがSD38bを切る。SD38aはやや北東方向にのび，SD38bは西方向に大きく曲がる。一方，南側はSD34・37，さらにSD39との関係は不明瞭である。幅約0.69ｍであり，検出長は約6.00ｍである。主軸方向はＮ－ 14°－Ｅである。検出面からの深さは9～17㎝であり，埋土は黒褐色（10YR3/1）細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

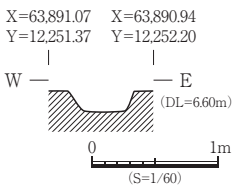


図502　9－3区　SD43
エレベーション図

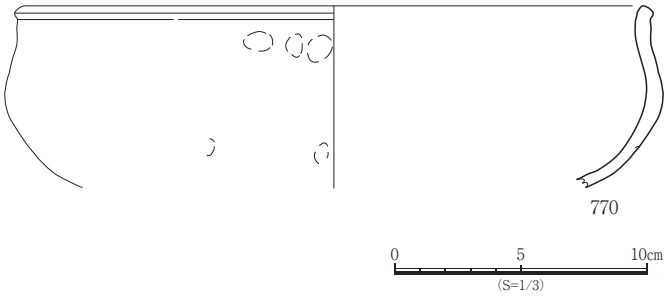


図503　9－3区　SD43　出土遺物実測図

SD38bは幅約0.85ｍであり，検出長は約11.95ｍである。主軸方向はＮ－13°－Ｗである。検出面からの深さは4～12㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(742・743)・羽釜(744)・三足釜(745)，備前焼の擂鉢(746)である。

742は杯である。体部は斜め外方へ大きくひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。二次被熱を受けるか。743は杯である。体部は斜め外方へ大きくひろがり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。744は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部は凹面状を呈する。口縁部下に断面形が台形の鍔を付す。口縁部にはヨコナデ調整を施す。体部外面は叩き調整，内面はヘラナデ調整である。745は三足釜の脚部である。ナデ調整で仕上げる。二次被熱を受ける。接合面で剥離する。746は擂鉢である。体部は斜め上方へのびる。口縁部は上方へ拡張させる。内面には8条1単位の条線を施す。また，使用により内面は平滑となる。

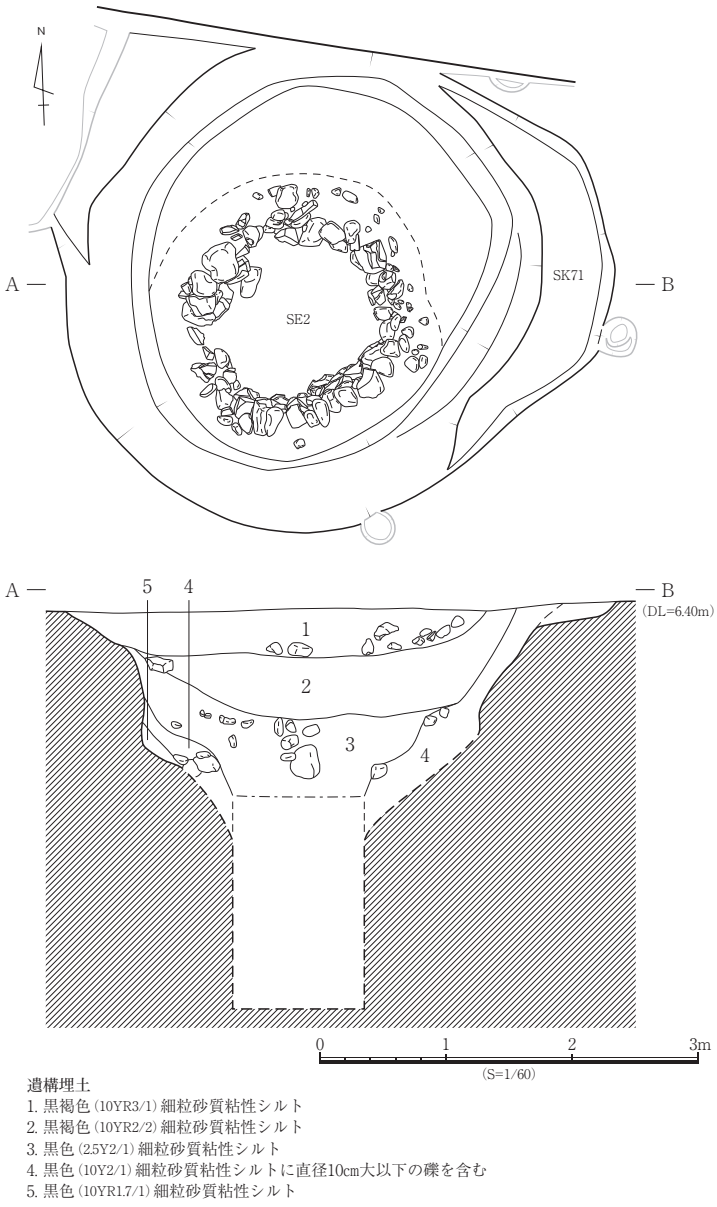


図504　9－2区　SE2　平面図・断面図

SD39

SD39は9－2区で検出した「L」の字状の溝跡であり，北方向は調査区外へとのびる。SD37と重複する。幅約0.78ｍであり，検出長は約12.88ｍである。主軸方向は東西：Ｎ－79°－Ｅ，南北：Ｎ－15°－Ｗである。検出面からの深さは5～15㎝である。

図示した出土遺物はない。

SD40

SD40は9－2区で検出した南北方向の溝跡である。SD32と重複する。幅の検出長は約0.62mであり，検出長は約0.29ｍである。検出面からの深さは約30㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD41

SD41は9－3区で検出した東西方向の溝跡である。調査区の西部から，10－1区SE11の南西まで直線的にのびる。断面形状は逆台形を呈する。幅約1.53ｍであり，検出長は約26.36ｍである。主軸方向はＮ－82°－Ｗである。検出面からの深さは32～103㎝であり，埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂他である。これまで検出した溝と比較しても規模が大きく，防御機能を備えた「堀」と考えられる。埋土は底部から５～10㎝程度に溝機能時に堆積した粘性の強いシルトや粘土が存在するが，葉理は見られず滞水はしていない。上層には拳大の礫を多く含有する黒色～黒褐色シルトや極細粒砂が堆積する。堆積状況から，溝の廃絶後一度に埋められたようである。溝の東部では，南側から人頭大の石がまとまって投棄されており，これらの石は堀に伴う構造物の一部である可能性が考えら

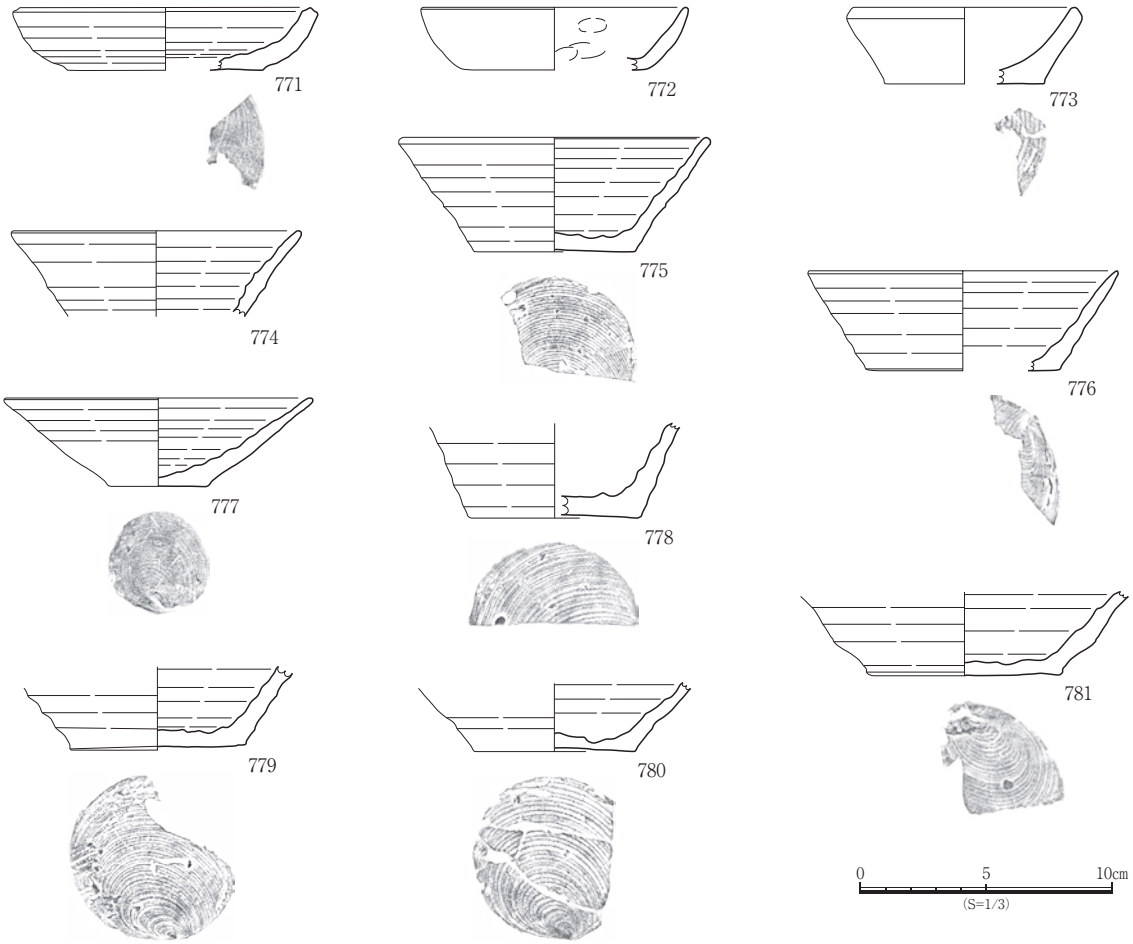


図505　9－2区　SE2　出土遺物実測図_1

れる。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(747・748)・杯(749～759)・捏鉢(760)・羽釜(761)・茶釜(762)，瓦質土器の鍋(763・764)，備前焼の甕(765)・擂鉢(766)，白磁の皿(767)・碗(768)，土錘(769)である。

747は皿である。口縁部は斜め外方へ大きくひろがり，口唇部は尖らせる。口縁部はナデ調整で仕上げる。手捏ね成形か。外面には接合痕跡がみられる。二次被熱を受ける。748と同一個体か。748は皿である。口縁部は斜め外方へ大きくひろがり，ナデ調整を施す。手捏ね成形か。外面には接合痕が認められる。二次被熱を受ける。747と同一個体か。749は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。750は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。口縁部下に直径0.2cmの円孔を穿つ。751は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底面には弱いロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受けるか。752は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切

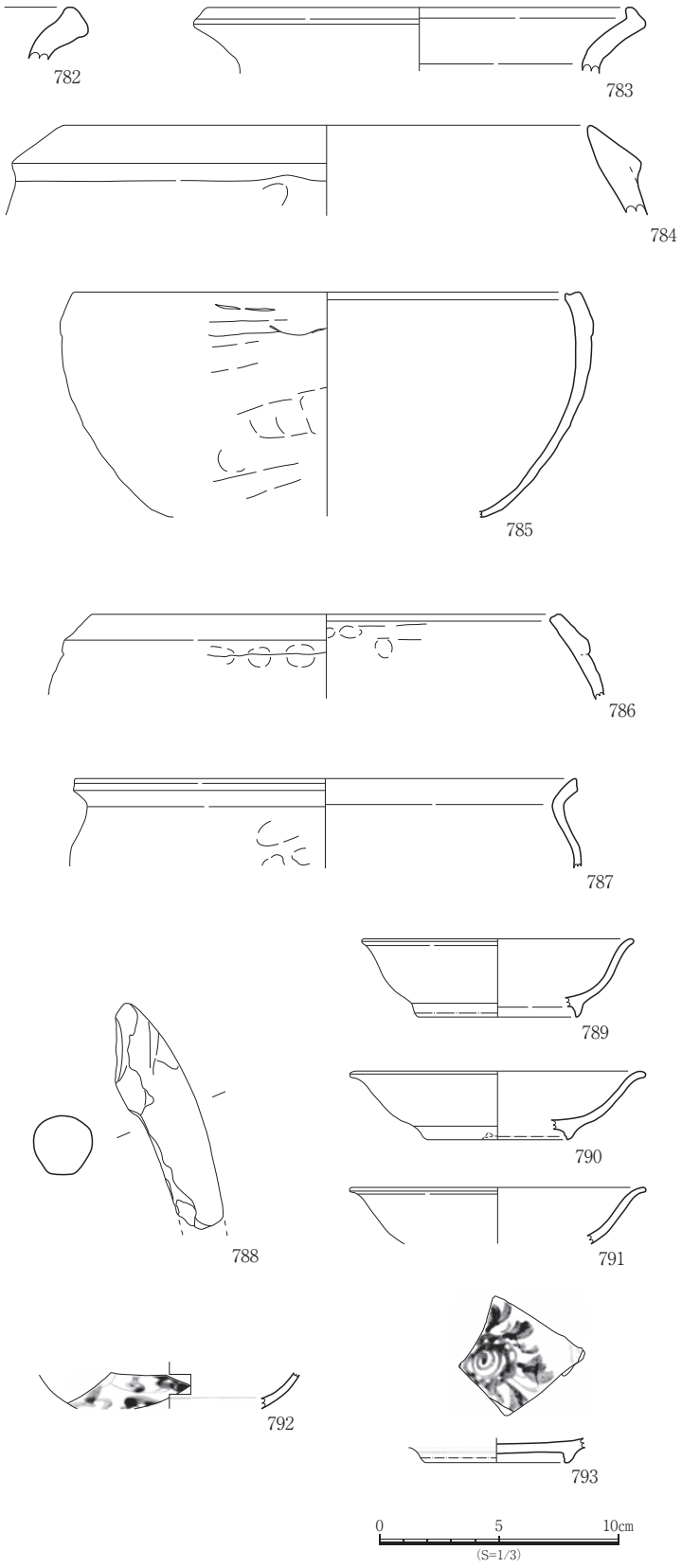


図506　9－2区　SE2　出土遺物実測図_2

り痕跡がみられる。753は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡および簀状圧痕がみられる。二次被熱を受ける。754は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡および簀状圧痕がみられる。全体的に歪む。二次被熱を受けるか。755は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目が認められる。底部の切離し手法は回転糸切りで，ハケ調整を施すかあるいは簀状圧痕がみられる。二次被熱を受けるか。756は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目が認められる。底部の切離し手法は回転糸切りで，ハケ調整を施すかあるいは簀状圧痕がみられる。757は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。758は杯

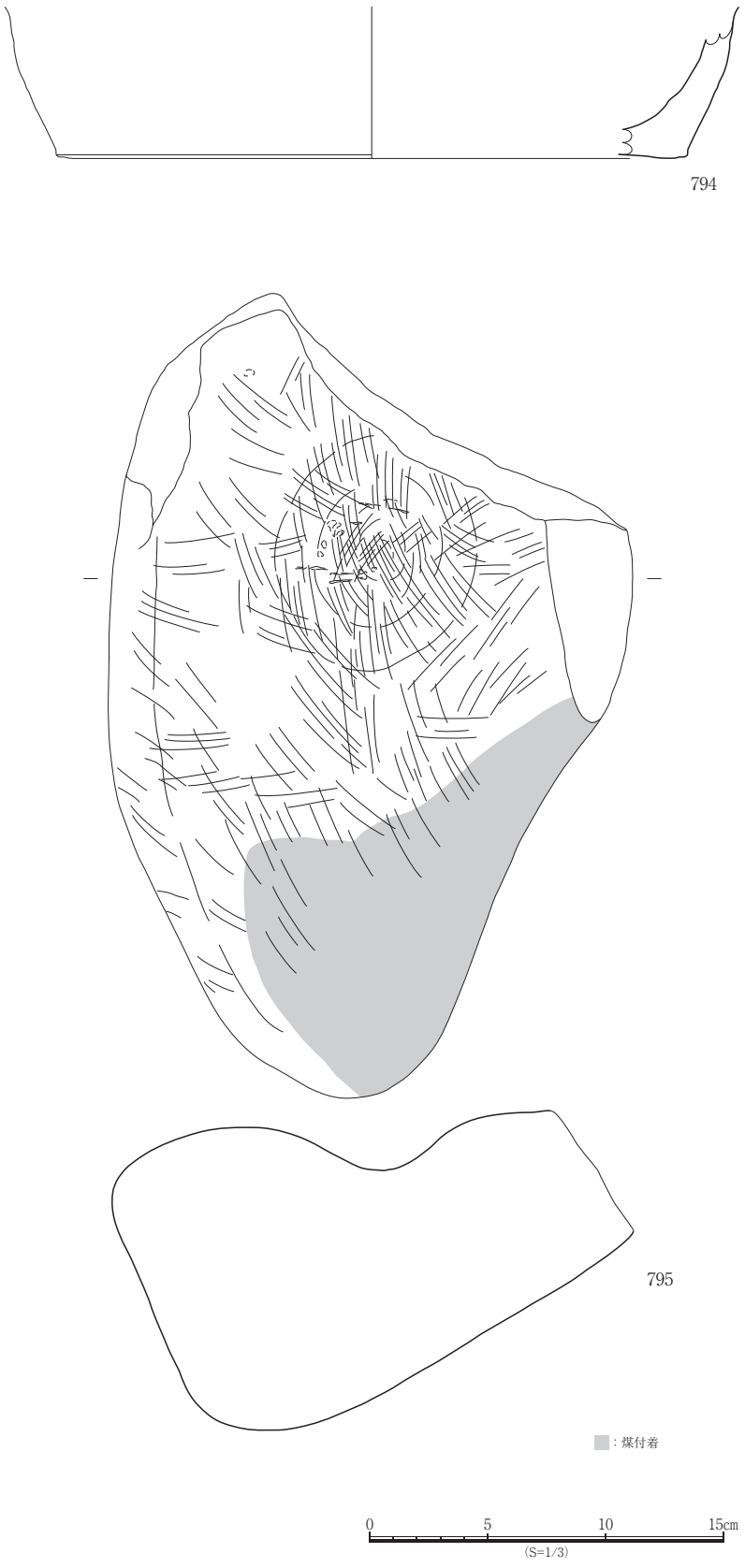


図507　9－2区　SE2　出土遺物実測図_3

図508　9－2区　SE2　出土遺物実測図_4

である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目が認められる。二次被熱を受けるか。759は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。760は捏鉢である。体部は斜め上方へのび，口縁部を拡張させる。外面は回転ナデ調整，内面は回転ナデ調整後ナデ調整を施す。761は羽釜である。口縁部下に断面形が台形の鍔を付す。口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。体部外面は叩き調整，内面はヨコナデ調整である。762は茶釜である。扁球形の体部から口縁部は直立する。体部に鍔を付し，肩部に把手が付く。外面はナデ調整およびハケ調整，内面はヨコハケ調整及びヨコナデ調整を施す。763は鍋である。口縁部はごく僅かに外反させ，口唇部には面取りを施す。口縁部はヨコナデ調整，体部はナデ調整である。764は鍋である。口縁部は内湾する。口唇部には面取りを施し，凹面状を呈する。765は甕である。口縁部は外側に折り曲げ，扁平な玉縁状を呈する。内外面ともに回転ナデ調整を施す。766は擂鉢である。口縁部を上方へ拡張し，2条の凹線を施す。注口を付す。口縁部は回転ナデ調整を施す。内面には4条以上1単位の条線を施す。767は皿である。畳付は釉を剥ぎ取る。E類である。768は端反り碗である。769は管状土錘である。円筒形を呈し，両端面は平坦となる。断面形は不整円形を呈する。孔径は直径約0.5cmである。二次被熱を受ける。完存する。

SD42

SD42は9－3区で検出した南北方向の溝跡である。南端がSD41の西端に接続するが，上層を現代の撹乱によって削平されており，先後関係は不明である。幅約1.03ｍであり，検出長は約4.16ｍである。主軸方向はＮ－18°－Ｅである。検出面からの深さは15～22㎝である。溝幅は安定せず，北側に行くほど広がる。

図示した出土遺物はない。(綾部)

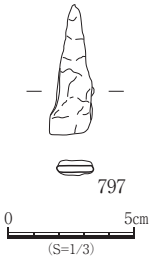


図509　9－2区　SE2
出土遺物実測図_5

SD43

SD43は9－3区で検出した南北方向の溝跡である。SD41に切られる。幅約0.51ｍであり，検出長は約2.66ｍである。主軸方向はＮ－21°－Ｅである。検出面からの深さは10～18㎝であり，埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂である。

図示した出土遺物は瓦質土器の鍋(770)である。体部は扁球形を呈

し，口縁部は直立気味に立ち上がる。口縁部にはヨコナデ調整を施す。体部外面はナデ調整で指頭圧痕が認められる。内面はナデ調整を施す。

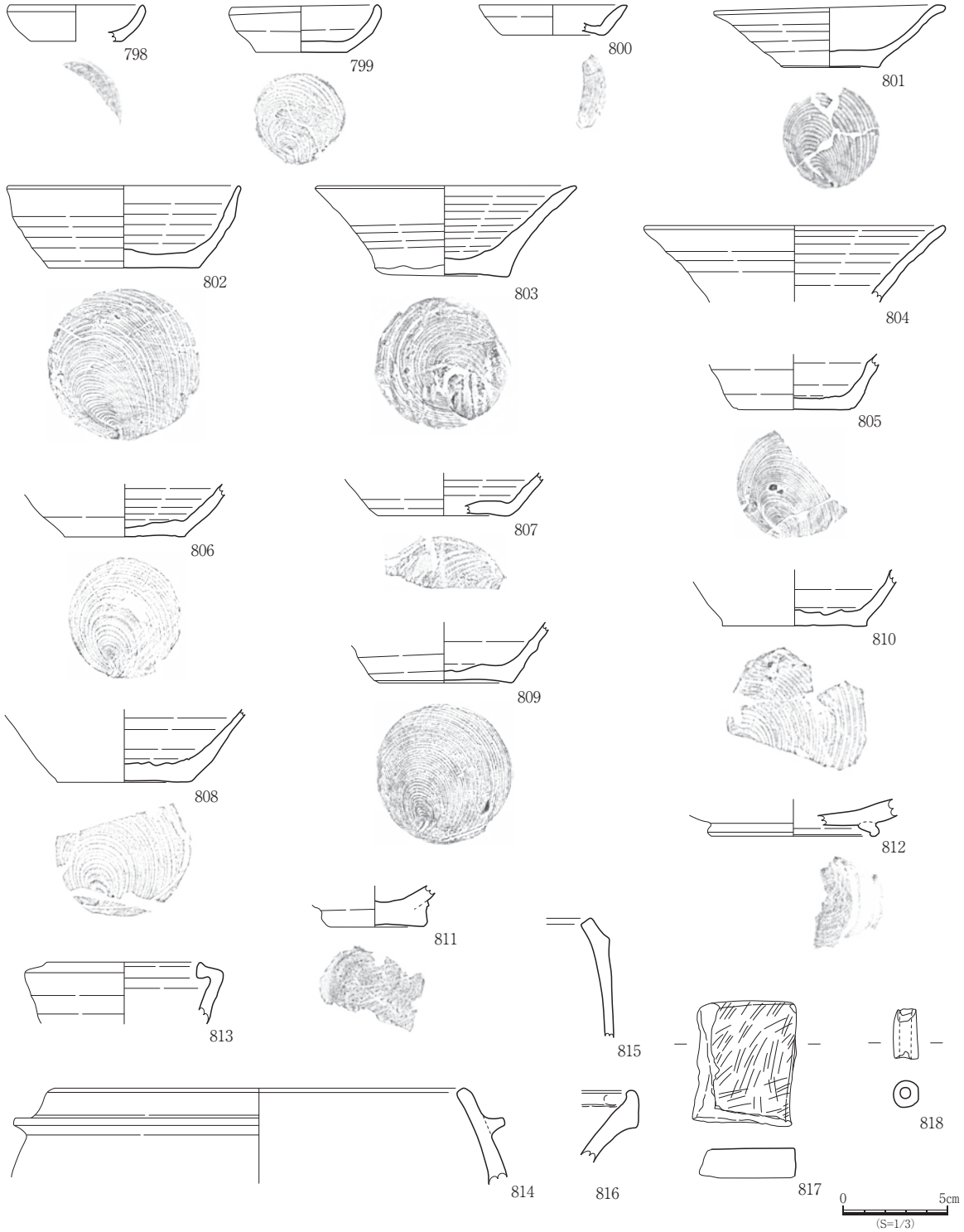


図510　9区　ピット　出土遺物実測図

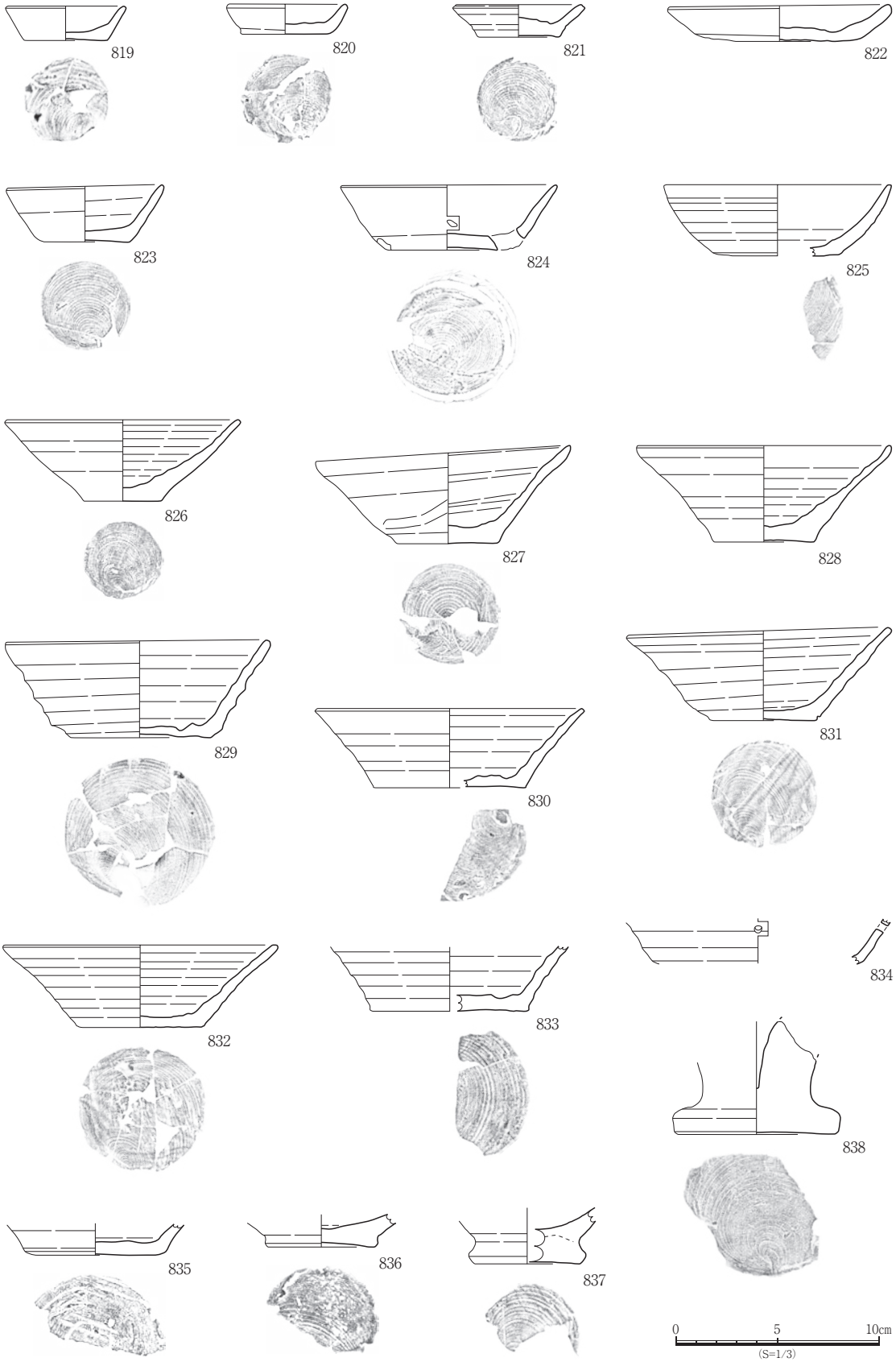


図511　9区　遺構外出土遺物実測図_1

6.SE

SE2

9－2区で検出した石積みの井戸跡である。掘方は長軸約4.07m，短軸約3.69mの不整円形を呈する。検出面から底までの深さは約 3.22m を測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質粘性シルト他である。検出面から約1.40mまでは人力で掘削し，それ以下については重機を使用して断ち割り調査を行い，底を確認した。掘方内に石積による井戸枠を組んでいる。石積は底部付近までで底面までは達していなかった。底面付近にはクスノキの井筒が設置されていたと推測される。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(771・772)・杯(773～781)，須恵器の甕(782)，土師器の甕(783)，土師質土器の羽釜(784)，瓦質土器の羽釜(785・786)・鍋(787)，三足鍋(788)，白磁の皿(789～791)，磁器の皿(792・793)，常滑焼の甕(794)，台石(795)，井筒(796)，鉄製の刀子(797)である。

771 は皿である。口縁部は内湾気味に短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。772 は皿である。口縁部は外上方へ立ち上がる。手捏ね成形か。773 は杯である。体部は斜め上方へ短く立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。774 は杯である。体部は斜め外方へ大きくひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。775 は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。全体的に歪む。776 は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目がみ

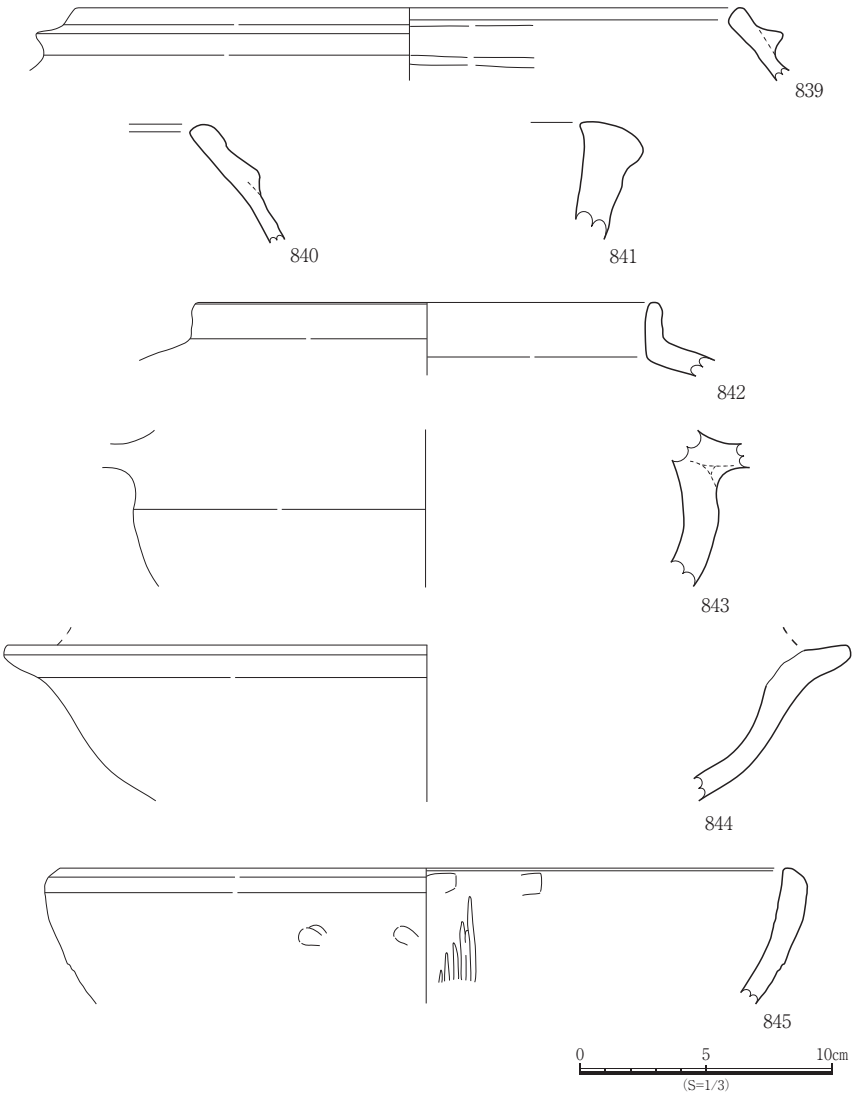


図512　9区　遺構外出土遺物実測図_2

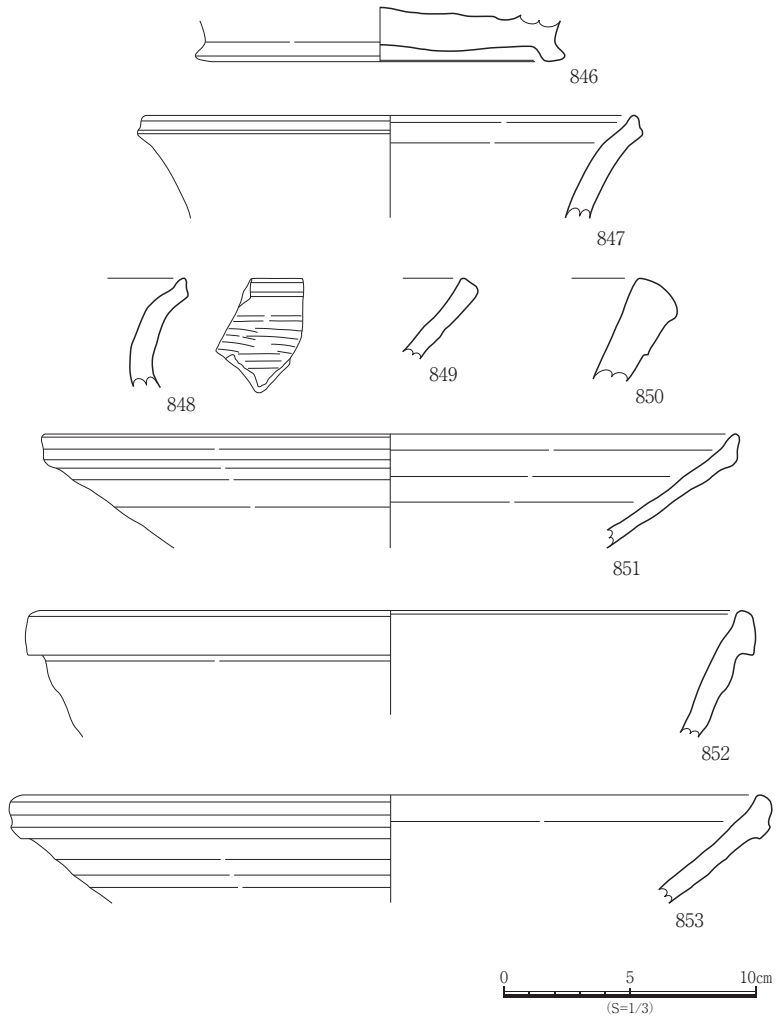


図513　9区　遺構外出土遺物実測図_3

られる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。被熱により赤変する。777は杯である。体部は斜め外方へ大きくひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。778は杯である。体部は外上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。779は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。780は杯である。体部は斜め上方へ短く立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面及び腰部外面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。781は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。782は甕である。口唇部を僅かに肥厚させる。口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。783は甕である。口縁部は「く」の字状に外反させ，上方へ拡張する。784は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部を尖らせる。口縁部下に断面形が三角形の鍔を付す。体部外面はナデ調整で指頭圧痕が認められる。内面にはヨコナデ調整を施す。785は羽釜である。体部から口縁部にかけて内湾する。口唇部は凹面状を呈する。口縁部には退化した鍔を付す。口縁部にはヨコナデ調整を施す。体部外面はナデ調整，内面はヨコナデ調整である。786は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部に退化した鍔を付す。口縁部にはヨコナデ調整を施す。体部外面はナデ調整で指頭圧痕が認められる。内面にはナデ調整を施す。787は鍋である。口縁部を外反させる。口唇部は凹線状を呈し，端部を摘み上げる。口縁部にはヨコナデ調整を施す。体部外面はナデ調整で指頭圧痕が認められる。内面にはヨコナデ調整を施す。788は三足鍋の脚部である。接合面で剥離する。789・790は端反りの皿である。高台の断面形は三角形を呈する。全面に施釉し，高台先端の釉を削り取る。畳付及び高台内に砂が付着する。E類である。791は端反りの皿である。残存部は全面に施釉する。E類である。792・

793は景徳鎮製の皿である。794は甕である。外底面および体部外面にはナデ調整を施す。795は砂岩製の台石である。不整形の河原石を利用し，ほぼ中央に使用により約2㎝凹み，その周囲を中心に使用痕跡が認められる。二次被熱を受け，煤が付着する。796はクスノキで作られた井筒である。本来は一木をくり抜いて作られたと推測される。節が抜けたものか，多くの孔が開く。手斧ではつった痕跡とみられるものがあるものの，明瞭な加工痕跡はない。また，図示していないがこれと同一個体とみられる破片が出土している。797は鉄製の刀子か。先端に向かってうすくなり，幅も狭くなっていく。断面形は扁平な長方形を呈する。

7.ピット

図示した出土遺物は土師質土器の皿(798～800)・杯(801～811)・碗(812)・蓋物(813)・羽釜(814)，瓦質土器の羽釜(815)，須恵器の捏鉢(816)，砥石(817)，土錘(818)である。

798は皿である。P1から出土した。口縁部は内湾気味に短く立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。799は皿である。P336から出土した。体部は内湾気味に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底面にはナデ調整を施す。外底面は回転糸切り後ハケ調整を施す。全体的に歪む，耳皿か。800は皿である。P421から出土した。口縁部は外上方へ短く立ち上がる。底部は上げ底となる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。801は杯である。P607から出土した。体部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受ける。ほぼ完存する。802は杯である。P861から出土した。体部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナ

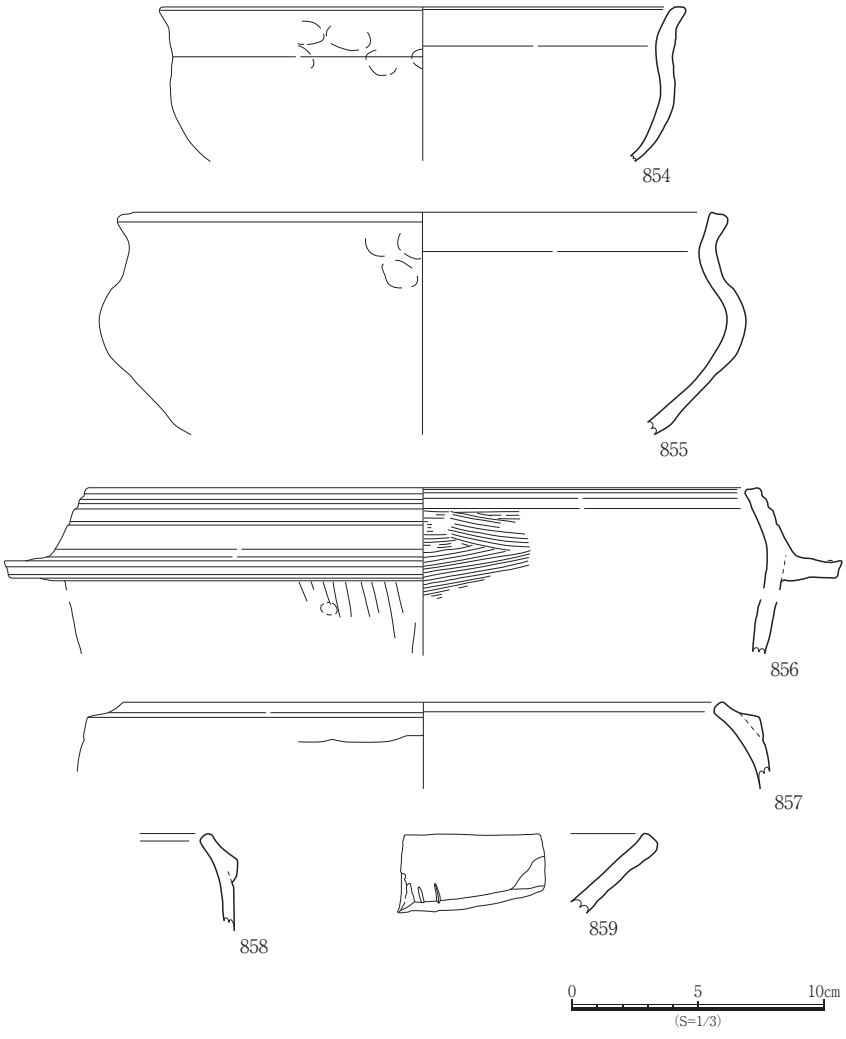


図514　9区　遺構外出土遺物実測図_4

デ調整を施し，外面にはロクロ目が認められる。内底央は渦状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。全体的に歪む。803は杯である。P809から出土した。体部は斜め外方へ大きくひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。804は杯である。P336から出土した。体部は斜め外方へ大きくひらき，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目が認められる。805は杯である。P692から出土した。体部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受ける。806は杯である。P336から出土した。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底面にはナデ調整を施す。内面にはロクロ目が認められる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。807は杯である。P71から出土した。体部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底縁および内底央は凹む。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。808は杯である。P339・340から出土した。体部は斜め外方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目がみられ，内底面は渦状を呈する。809は杯である。P672から出土した。体部は斜め上方へ立ち上がり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面にはロクロ目がみられ，内底面は渦状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受け，煤が付着する。810は杯である。P3から出土した。底部は扁平なベタ高台状を呈する。体部は外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目が認められ，内底面は渦状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。811は杯である。P477から出土した。内外面ともに回転ナデ調

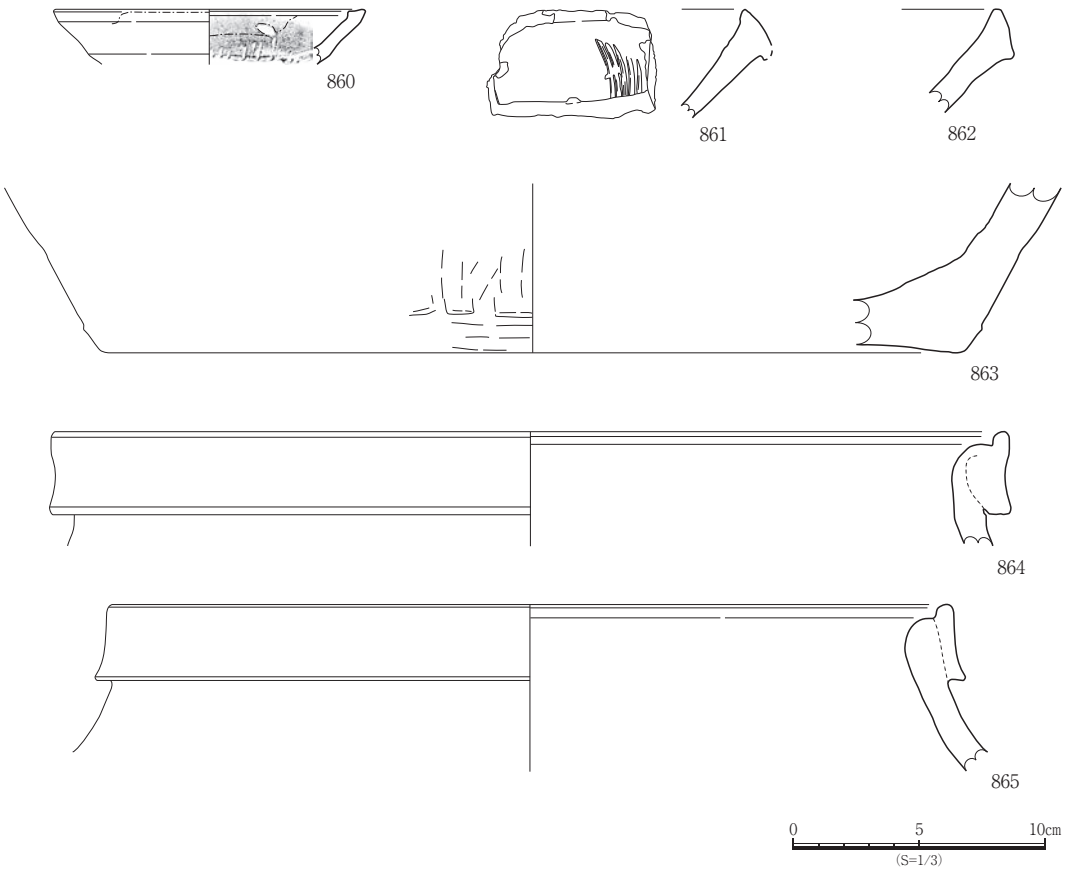


図515　9区　遺構外出土遺物実測図_5

整を施す。内底央はヘソ状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受ける。812 は椀である。P359 から出土した。外底面には輪高台を付す。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。813 は蓋物である。P235 から出土した。口縁部は内折し，端部を肥厚させ蓋受けとする。内外面ともに回転ナデ調整を施す。814 は羽釜である。P122 から出土した。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下に断面形が台形の鍔を付す。口縁部はヨコナデ調整を施す。体部外面はヨコナデ調整およびナデ調整，内面はヨコナデ調整である。815 は羽釜である。P692 から出土した。口縁部は内傾し，口唇部は凹面状を呈する。口縁部下に退化した鍔を付す。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はヘラナデ調整である。体部外面はナデ調整，内面はヘラナデ調整である。816 は東播系捏鉢である。P277 から出土した。口縁部を上方へ拡張させる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。817は砥石である。P246から出土した。小口は成形のため平滑となる。

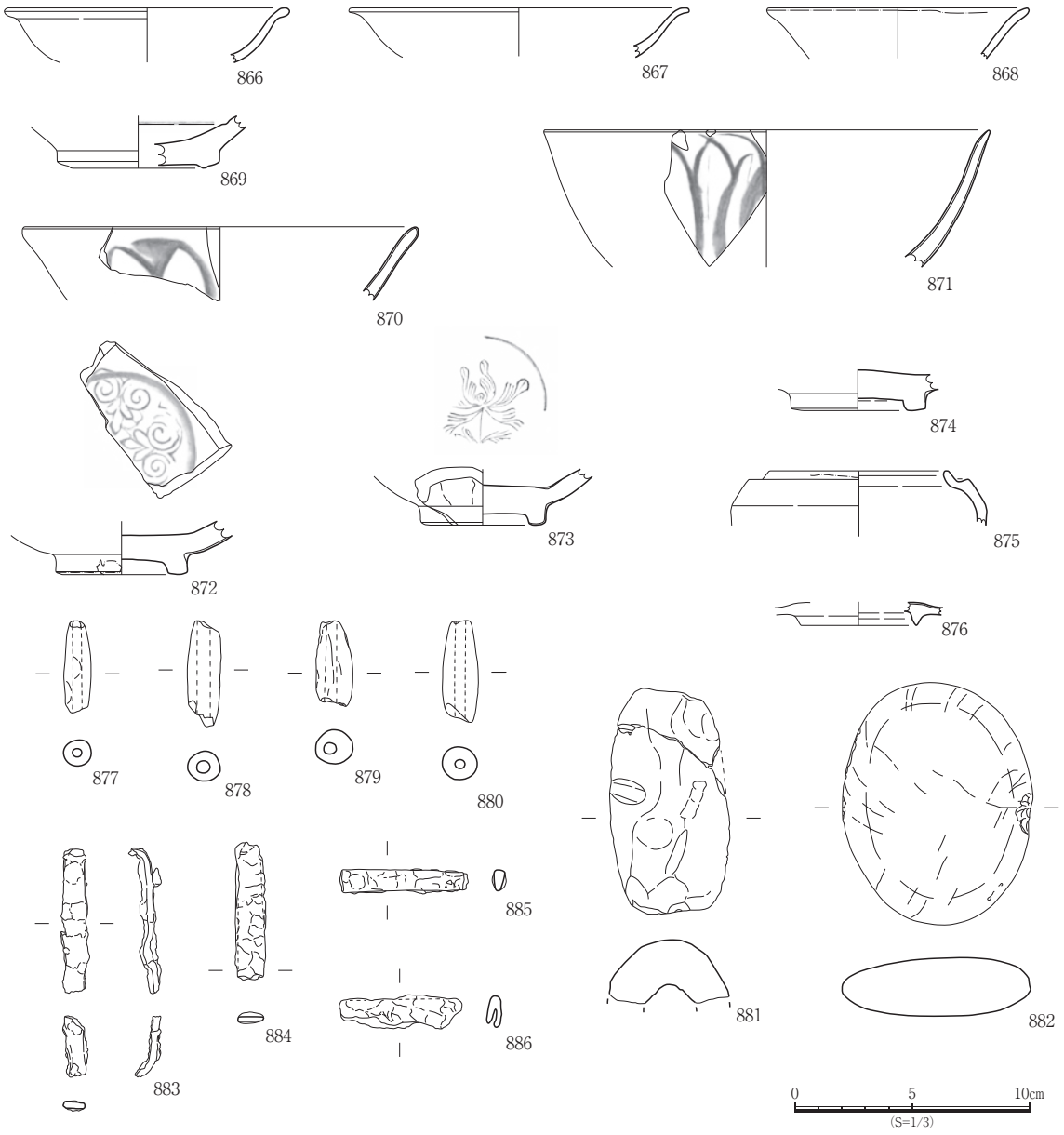


図516　9区　遺構外出土遺物実測図_6

上面を主に使用し，光沢を帯びる。側面も使用している。本来は四角柱であったものが割れたか。818は管状土錘である。P824から出土した。孔径は直径約0.5cmである。両端は欠損する。

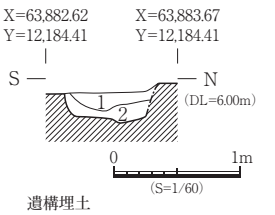


図517　9区　立会部
SD　断面図

8. 遺構外出土遺物

図示した出土遺物は土師質土器の皿・杯・椀・柱状高台・器形不明・羽釜・捏鉢・茶釜・擂鉢，須恵器の壺・甕・捏鉢，瓦質土器の鍋・羽釜・擂鉢，陶器のおろし皿，備前焼の擂鉢・甕，常滑焼の甕，白磁の皿・碗，青磁の碗，青白磁の合子，土錘，叩石，鉈・刀子・器形不明の鉄製品である。

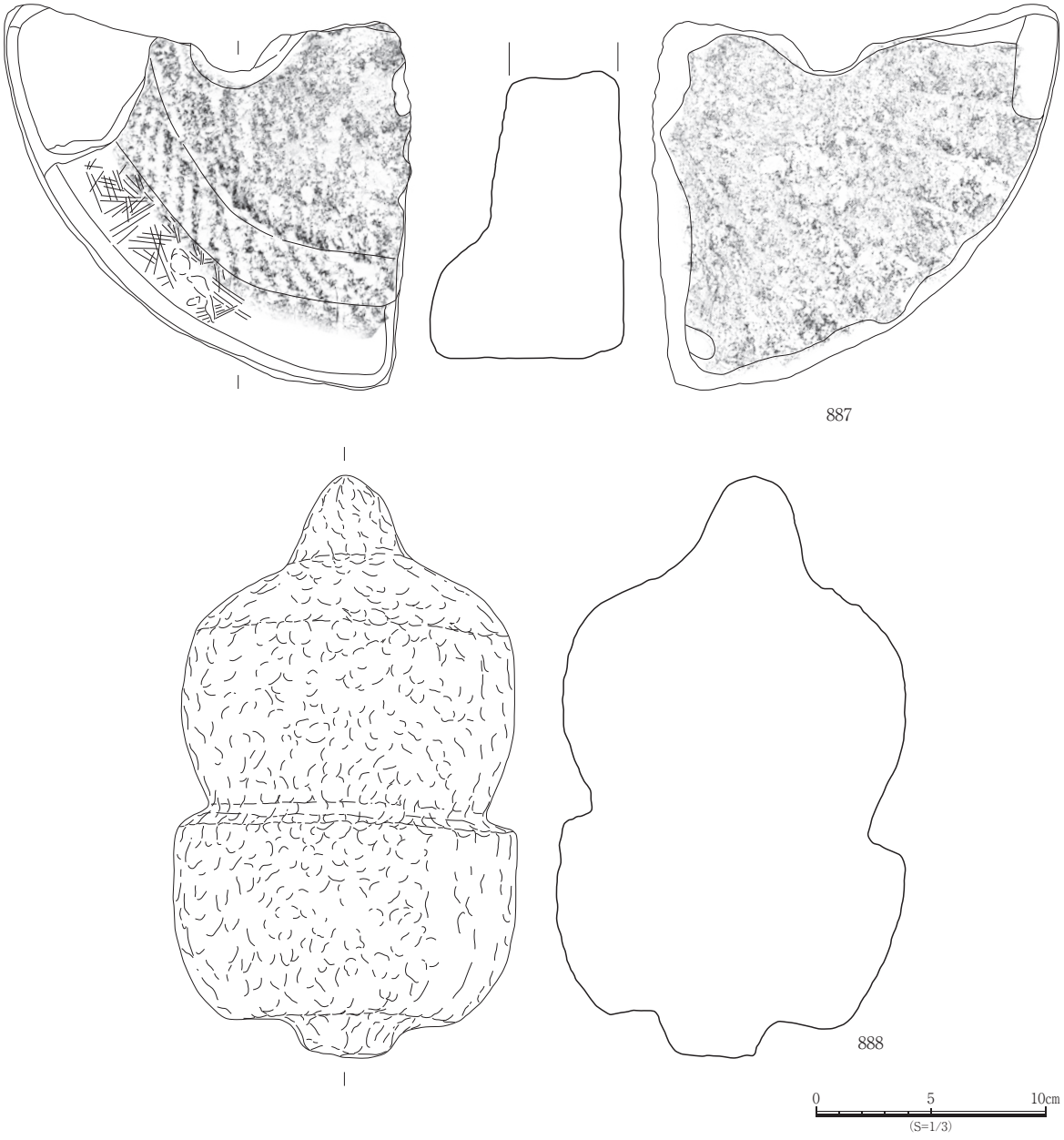


図518　9区　立会部　出土遺物実測図_1

824は土師質土器の杯で2箇所に焼成後の穿孔が認められる。837は土師質土器の柱状高台である。高台部は円盤状高台であり，内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。838は器形不明の土師質土器である。底部は円盤状高台となる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。粘土の巻き上げ痕がみられ，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。846は須恵器の壺である。底端部には下端が張り出した高台を付す。内外面ともにナデ調整を施し，内底縁は強いナデ調整により凹む。855は瓦質土器の鍋である。扁球形の体部から口縁部を僅かに外反させる。体部外面にはナデ調整を施し，指頭圧痕が認められる。内面にはナデ調整を施す。859は擂鉢である。口唇部には面取りを施す。内面の条線は鋭く深い。未使用にちかい。重ね焼き痕がみられる。864は甕である。縁帯部は口縁部に密着する。内外面ともに回転ナデ調整を施す。865は甕である。縁帯部は口縁部に密

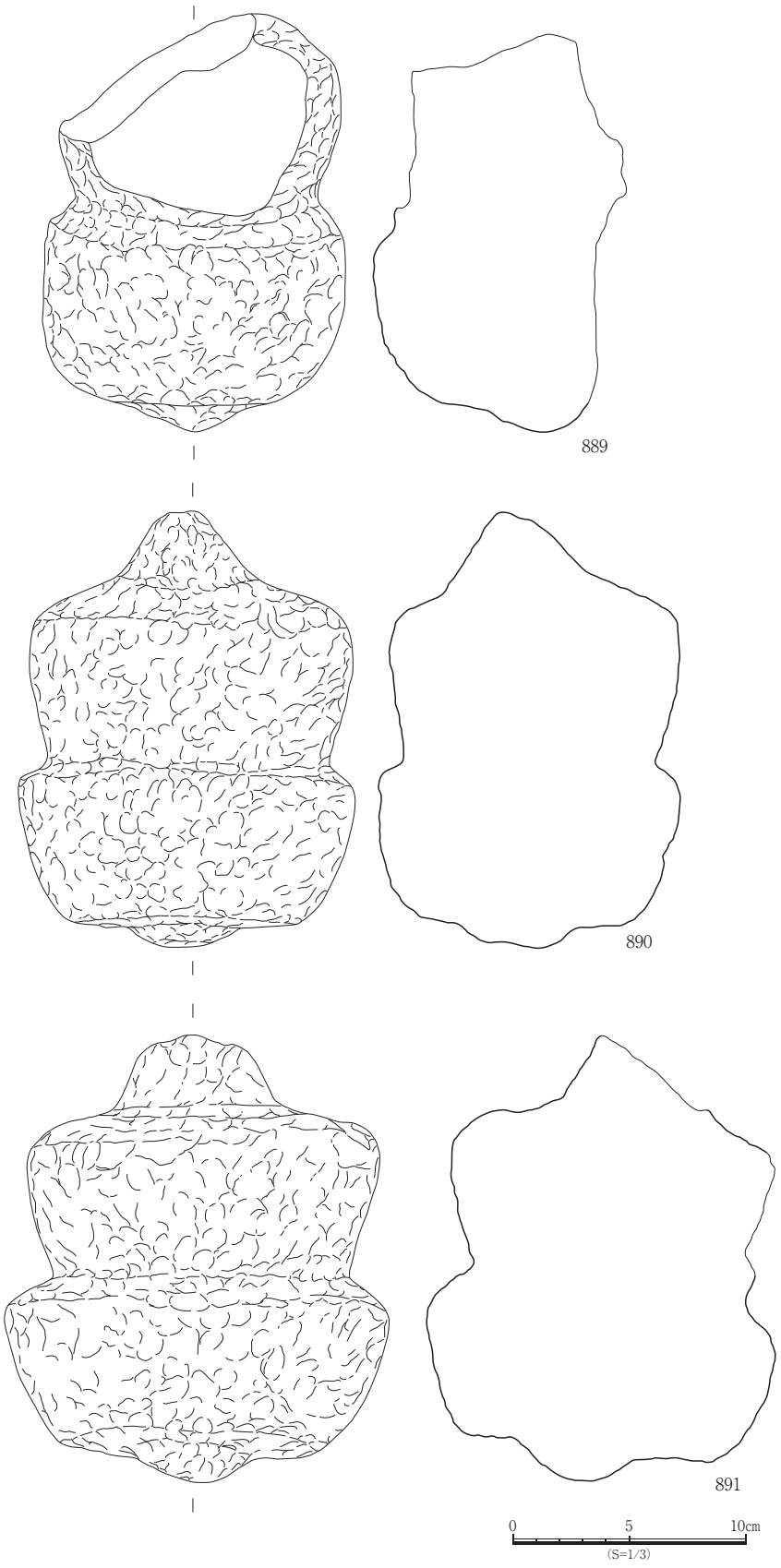


図519　9区　立会部　出土遺物実測図_2

着し，内外面ともに回転ナデ調整を施す。875は合子である。肩部から口縁部は内傾する。蓋受け部は無釉となる。外面の釉薬，ややくすむ。二次被熱を受けるか。876は合子蓋である。外面の釉薬を施すものの濃淡が認められる。内面は無釉である。881は大型の管状土錘である。僅かに紡錘形状を呈した円筒形である。両端面は丸みを帯びる。縦方向で割れている。883は用途不明の鉄製品である。断面形が長方形の棒状のものの両端を同じ方向に折り曲げる。885は鉄製の刀子である。断面形は三角形状を呈する。両端は欠損する。

9.立会部

9－1区の南に位置する。東西方向の溝跡を検出した。トレンチで断面形状および深さを確認したのみで掘削は行っていない。方向等から11－1区のSK55に接続する可能性がある。また，図示した出土遺物は石臼(887)・五輪塔(888～891)で表採したものである。

887は砂岩製の上臼である。臼目は使用により摩滅する。888は砂岩製である。頂部はやや長くのびる。空輪の側面は2箇所に傾斜変換点を持つ。風輪の底面には枘を穿つ。889は礫岩製である。頂部は欠損する。風輪の底面には枘を穿つ。890・891は砂岩製である。頂部は三角錐状を呈する。

第5節　10区

1.ST

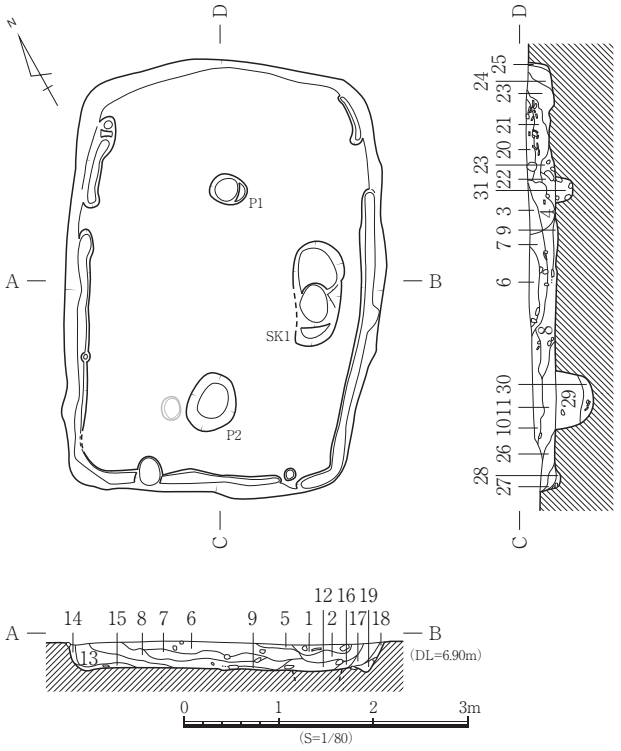
ST1

ST1は10－3区で検出した竪穴建物跡である。ST2・5を切り，SK14に切られる。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は，長辺約4.60m，短辺約3.40m，床面積は約15.6㎡である。検出面から床面までの深さは約29㎝を測る。主軸方向はN－33°－Eである。埋土は黒褐色細粒砂～極細粒砂他である。建物北側中央から北東部にかけて堆積する黒褐色極細粒砂（第7層，第21層）から土器がまとまって出土しており，建物埋没時の一括投棄と考えられる。

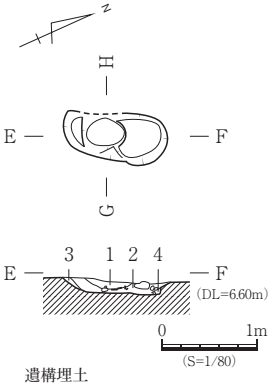
床面で中央ピット，主柱穴，壁溝を検出した。中央ピット（SK1）は床面中央東壁寄りに位置し，東壁からの距離は約70㎝を測る。平面形は楕円形を呈し，規模は長軸約1.16m，短軸約0.50m，深さ約15㎝を測る。埋土は上層に暗褐色細粒砂～極細粒砂が，下層に炭化物を含む黒褐色シルト混じる極細粒砂が堆積する。主柱穴は2基（P1・P2）を検出した。柱筋は建物主軸と向きを揃え，それぞれ床面北東部と南西部に配される。柱間距離は約2.30mを測る。掘方の平面形はいずれも楕円形を呈する。P1の規模は，長軸約39㎝，短軸約31㎝，深さ約36㎝を測り，埋土は暗褐色極細粒砂である。P2の規模は長軸約62㎝，短軸約51㎝，深さ約42㎝で，埋土は上層に細かな炭化物を含む黒褐色シルト，下層に暗褐色シルト混じる極細粒砂が堆積する。壁溝は部分的に途切れる箇所があるものの，北側を除く三方で検出した。規模は幅約10㎝，深さ約5㎝を測る。埋土は暗褐色細粒砂混じるシルトである。（綾部）

図示した出土遺物は弥生土器の壺（892～896）・甕（897～910）・鉢（911～919）・蓋（920）・高杯（921～923），土製紡錘車（924），須恵器の皿（925），製塩土器（926～929），台石（930）である。

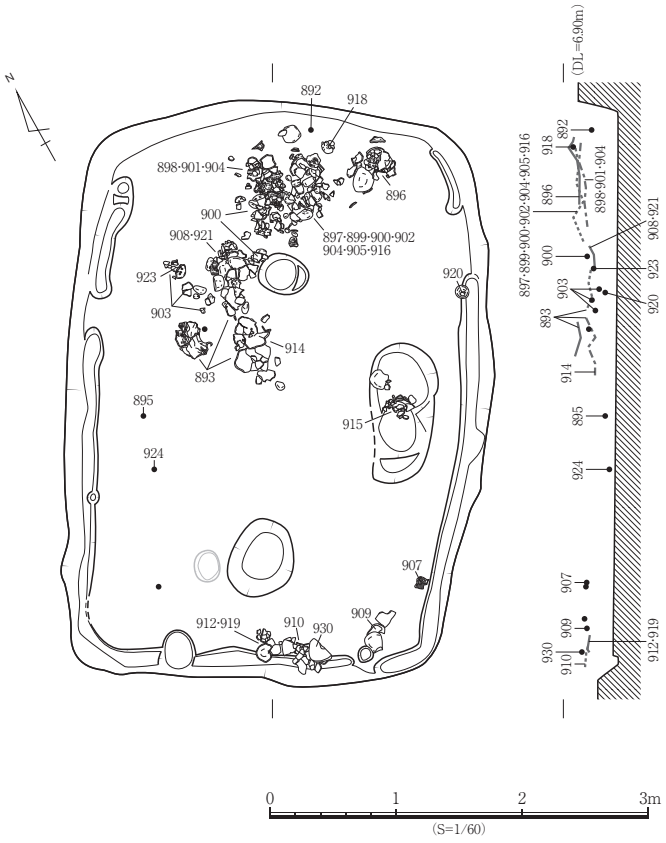
892は壺である。頸部は直立気味に立ち上がる。口唇部はハケ状原体による面取りを施し，上方へ摘み上げる。口縁部外面にはヨコナデ調整，内面にはヘラナデ調整あるいはハケ調整を施す。頸部外面はヨコナデ調整，内面はハケ調整である。体部外面は叩き調整後ハケ調整を施し，内面はハケ調整・ナデ調整である。893は壺である。口縁部は短く外反させ，口唇部はハケ状原体による面取りを施し，僅かに肥厚させる。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整・ハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整・ミガキ調整を施す。内面はハケ調整・ナデ調整を施す。底部は扁平な円盤状を呈する。894は複合口縁壺である。内外面ともヨコナデ調整を施す。895は壺である。頸部外面はタテハケ調整後ミガキ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。体部内面にはナデ調整を施す。頸部と胴部の境には刻み目と刺突文を施した突帯を貼付する。896は壺である。ほぼ丸底を呈する。外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整・ミガキ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。また，内底面には指頭圧痕が認められる。897は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，外面にはナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整・ハケ調整，内面はナデ調整・ハケ調整である。平底であり，外底面にはナデ調整を施す。また，頸部内面には接合痕跡がみられる。898は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部を摘み上げる。口縁部外面はナデ調整・ハケ調整，内面はハケ調整である。体部外面には叩き調整後ナデ調整・ハケ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。角の取れた平底を呈する。外底面には叩き目か。899は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部には面取りを施し凹面状を呈する。口縁部外面は叩き調整後ナデ調整・ハケ調整，内面はヨコハケ調整である。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハ



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/3)極細粒砂に炭化物を含む
2. 暗褐色(10YR3/4)極細粒砂に黒褐色(10YR2/2)極細粒砂を含む
3. 黒褐色(10YR2/2)極細粒砂
4. 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂
5. 黒褐色(10YR2/2)シルトに暗褐色(10YR3/4)極細粒砂を僅かに含む
6. 黒褐色(10YR2/2)極細粒砂に直径3.0cm大以下の礫を含む
7. 黒褐色(10YR2/2)極細粒砂
8. 黒褐色(10YR2/3)細粒砂～極細粒砂
9. 黒褐色(10YR2/3)極細粒砂に地山(褐色(10YR4/4)極細粒砂)のブロックを含む
10. 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂に炭化物を多く含む
11. 黒褐色(10YR2/3)シルト
12. 暗褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂に黒褐色(10YR2/2)極細粒砂を多く含む
13. 黒褐色(10YR2/3)シルト質極細粒砂
14. 黒褐色(10YR2/3)シルト質極細粒砂
15. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂～極細粒砂
16. 黒色(10YR1.7/1)シルトに炭化物を多く含む
17. 黒褐色(10YR2/2)極細粒砂に炭化物を多く含む
18. 黒褐色(10YR2/3)極細粒砂に地山(褐色(10YR4/4)極細粒砂)のブロックを含む
19. 黒褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂に直径1.0cm大以下の礫を含む
20. 黒褐色(10YR2/3)極細粒砂に細礫を含む
21. 黒褐色(10YR2/2)細粒砂～極細粒砂
22. 黒褐色(10YR2/2)極細粒砂
23. 黒褐色(10YR2/3)極細粒砂に細礫を含む
24. 黒褐色(10YR2/3)シルト質極細粒砂に直径0.5cm大以下の炭化物を含む
25. 暗褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂
26. 黒褐色(10YR3/2)シルトに褐色(10YR4/6)シルトブロックと炭化物を含む
27. 黒褐色(10YR2/3)シルトに炭化物を含む
28. 黒褐色(10YR3/3)シルトに細粒砂を含む
29. 黒褐色(10YR2/2)シルトに細かな炭化物を含む(ST1_P2)
30. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂にシルトを含む(ST1_P2)
31. 暗褐色(10YR3/3)極細粒砂(ST1_P1)



遺構埋土
1. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂～極細粒砂
2. 黒褐色(10YR2/3)極細粒砂にシルトと炭化物を含む
3. 黒褐色(10YR2/2)極細粒砂に細礫を含む
4. 黒褐色(10YR2/3)極細粒砂に地山(黄褐色(10YR5/6))ブロックを含む



ST1_SK1

図520　10－3区　ST1　平面図・遺物出土状態図・断面図

ケ調整・ナデ調整を施す。ほぼ丸底を呈し，外底面にはナデ調整を施す。また，頸部内面には接合痕跡が認められる。900 は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部はハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はヨコハケ調整である。体部外面は叩き調整後ハケ調整・ナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。平底を呈し，外底面には叩き目がみられる。901 は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面には叩き調整後ハケ調整・ナデ調整を施し，内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後タテハケ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。また，内底面には指頭圧痕が認められる。平底であり，外底面にはナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡が認められる。902 は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整である。肩部内面には接合痕跡がみられる。903 は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し，外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整あるいはヘラナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整，内面にはハケ調整あるいはヘラナデ調整を施す。904は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口唇部を摘み上げ，凹線状を呈する。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整・ハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整・ナデ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。肩部内面には接合痕跡がみられる。905 は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口

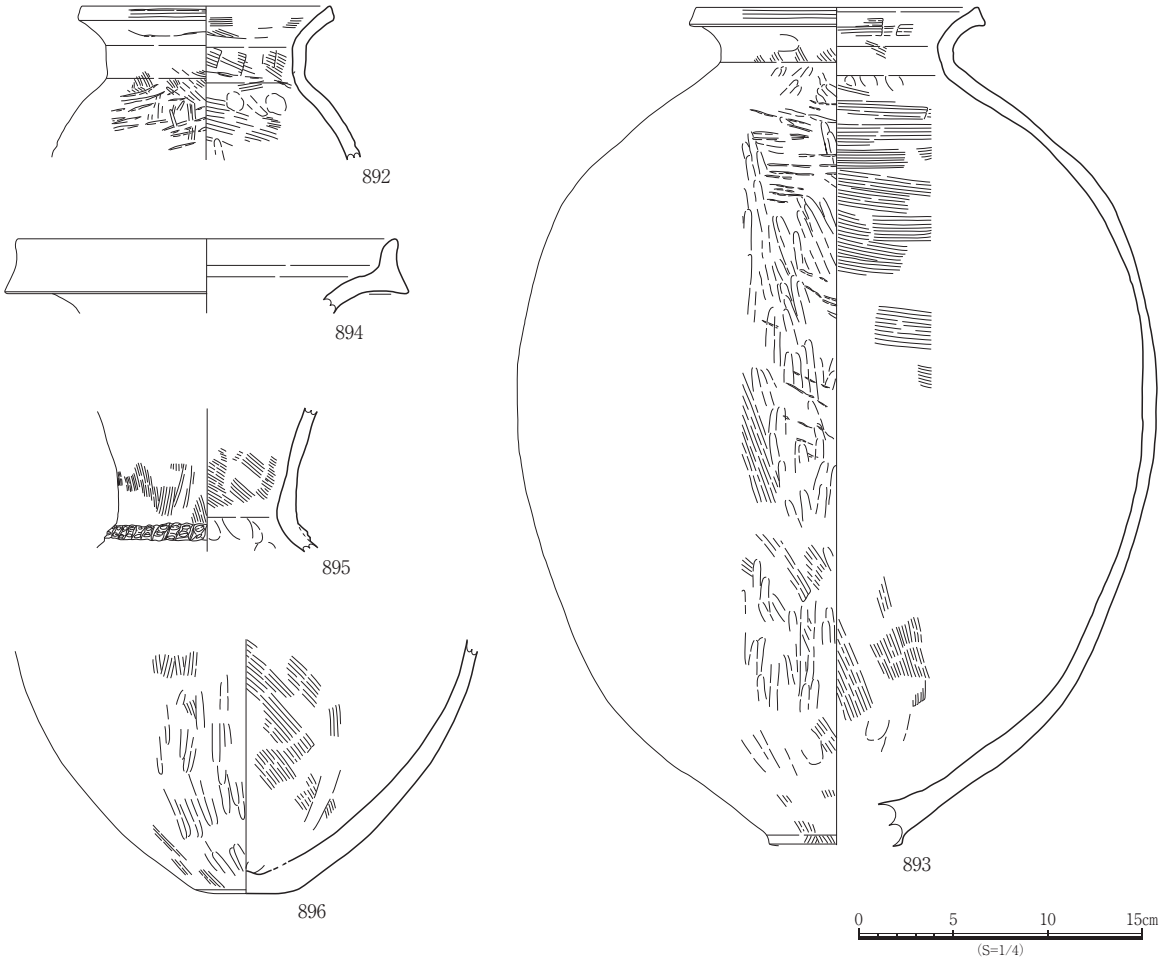


図521　10－3区　ST1　出土遺物実測図_1

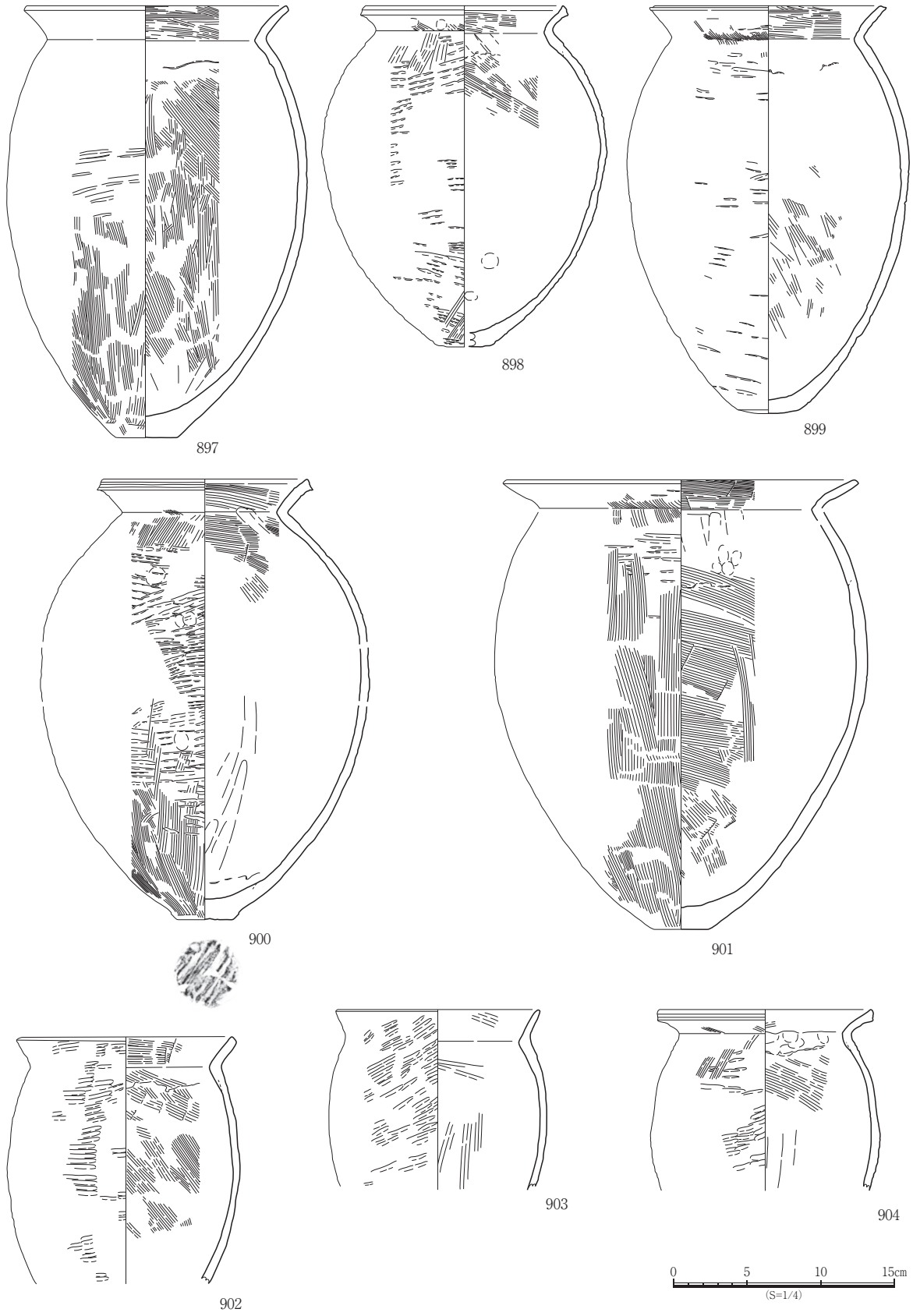


図522　10－3区　ST1　出土遺物実測図_2

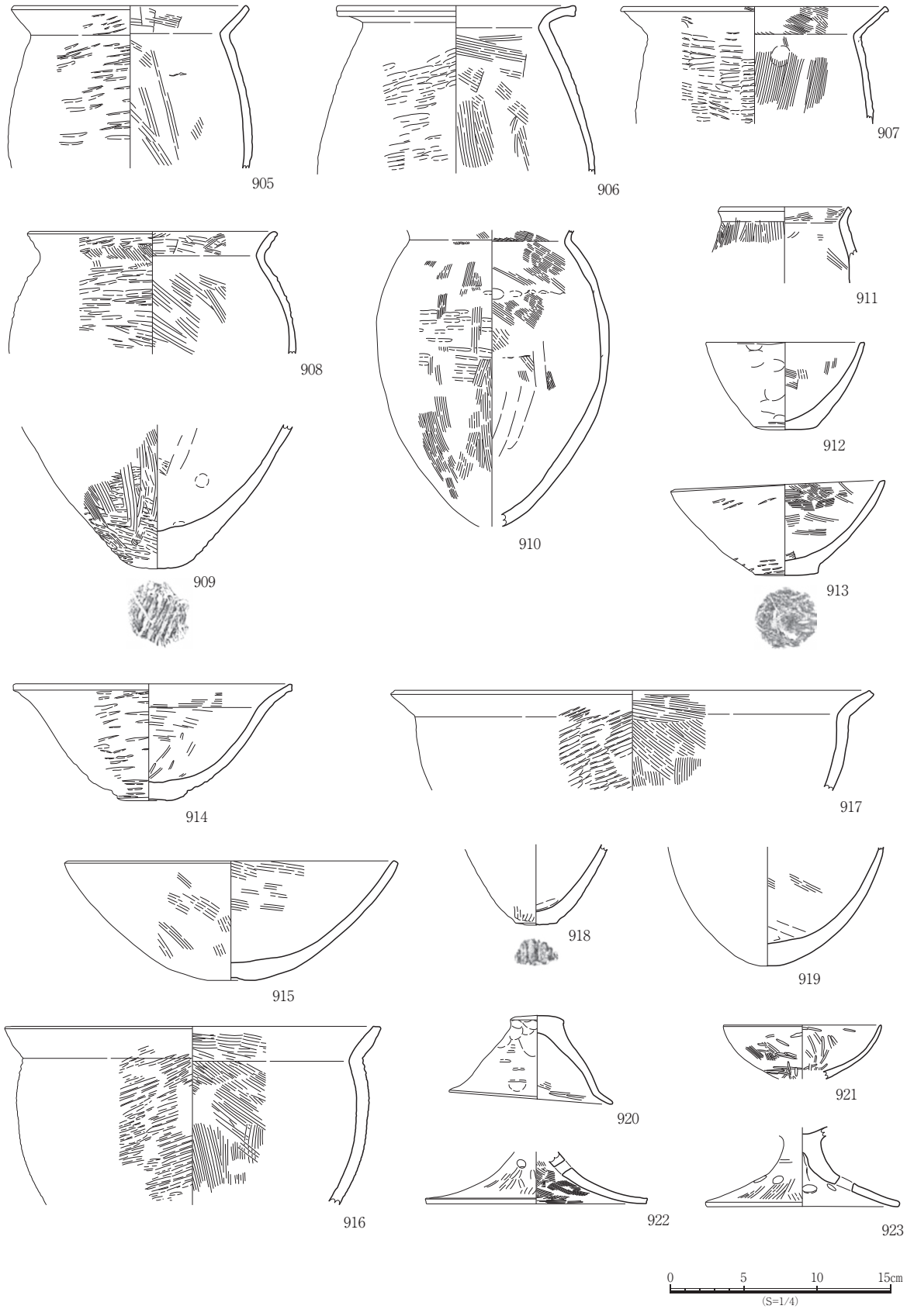


図523　10－3区　ST1　出土遺物実測図_3

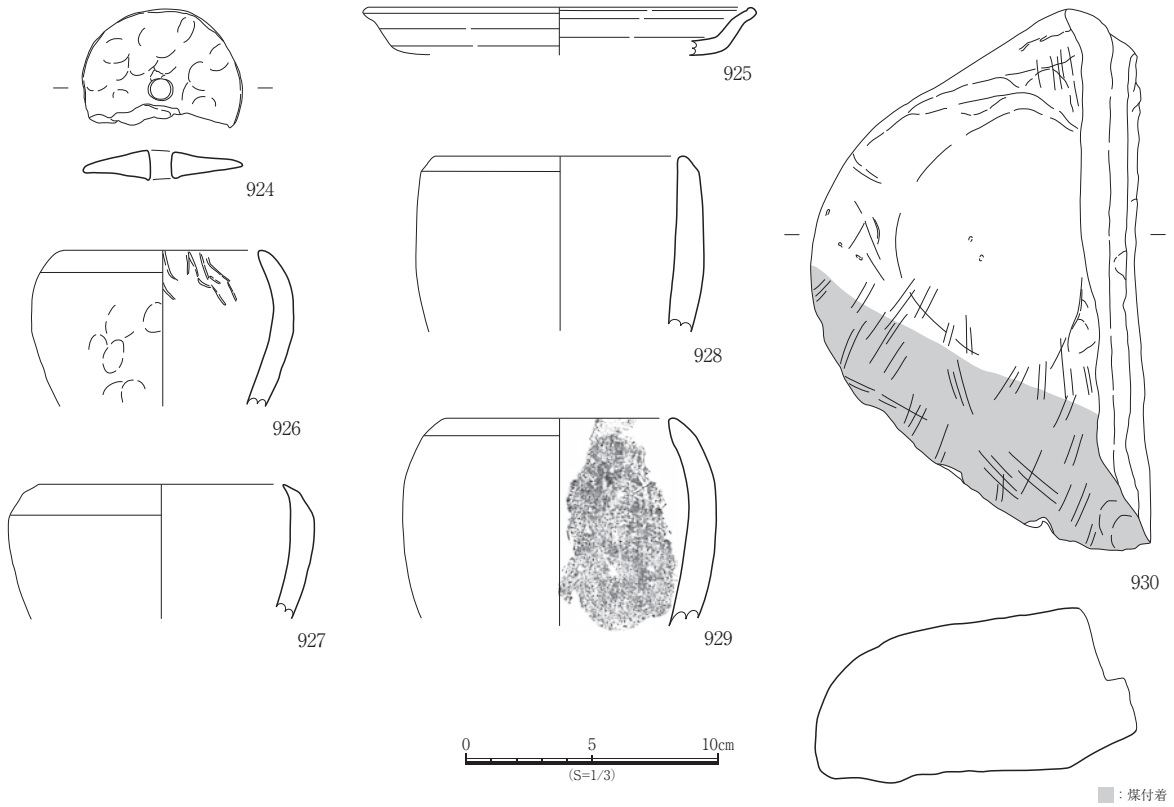


図524　10－3区　ST1　出土遺物実測図_4

唇部には面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整である。肩部内面には接合痕跡が認められる。906は甕である。口縁部は水平ちかくまで外反させる。口唇部には凹線文が認められる。口縁部は内外面ともヨコナデ調整か。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。907は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部はハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整である。908は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部はハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ハケ調整，内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。909は甕である。平らな部分の残る丸底を呈し，外底面には叩き目がみられる。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められる。腰部外面にモミ圧痕有り。910は甕である。口縁部は内外面ともハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められる。肩部内面には接合痕跡がみられる。廃棄後に被熱する。911は鉢である。口縁部外面はハケ調整・ナデ調整，内面はヨコハケ調整である。体部外面にはタテハケ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。廃棄後に被熱する。912は鉢である。体部は深めであり，底部は角の取れた平底を呈し，外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。913は鉢である。体部は浅めで，口唇部には面取りを施し凹面状を呈する。平底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整である。

914は鉢である。口縁部は外反させ，口唇部は凹面状を呈する。底部は平底で扁平な円盤状を呈する。外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施し，一部にはミガキ調整を施すか。915は鉢である。体部は浅めである。口唇部には面取りを施す。ほぼ丸底を呈し，外底面にはナデ調整を施す。体部外面はハケ調整・ナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整か。916は鉢である。口縁部は外反させ，口唇部には面取りを施し凹面状を呈する。口縁部外面にはヨコナデ調整，内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整である。917は鉢である。口縁部は外反させ，口唇部には面取りを施し凹面状を呈する。口縁部外面にはヨコナデ調整，内面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整である。918は鉢である。平底で外底面には叩き目がみられる。体部外面にはハケ調整，内面にはナデ調整を施す。また，内底面には指頭圧痕が認められる。919は鉢である。丸底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整であり，内面にはハケ調整およびナデ調整，あるいはヘラナデ調整を施す。また，内底面には指頭圧痕がみられる。920は蓋である。体部外面には叩き調整後ナデ調整，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。頂部外面はナデ調整である。921は低脚高杯である。杯部外面はハケ調整後ミガキ調整を施し，内面にはナデ調整後ミガキ調整を施す。922は高杯である。端部には面取りを施し凹面状を呈する。裾部外面はミガキ調整，内面はハケ調整である。また，4箇所に円孔を穿つ。923は高杯である。端部は丸くおさめる。脚裾部外面はハケ調整後ミガキ調整か。2孔1対の円孔を4箇所に穿つ。924は紡錘車である。平面形は円形，断面形は扁平な三角形を呈する。中央に直径約1.0cmの円孔を穿つ。手捏ね成形である。925は皿である。口縁部内面を凹ませる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。926は製塩土器である。口縁部は内湾する。外面にはナデ調整を施し，指頭圧痕が認められる。内面はナデ調整である。927は製塩土器である。口縁部は内湾させる。内外面ともにナデ調整である。928は製塩土器である。内外面ともにナデ調整を施す。929は製塩土器である。口縁は内湾させる。外面はナデ調整か。内面は布目圧痕か。調整等は不明瞭である。930は砂岩製の台石か。明瞭な使用痕はみられない。故意に打ち割った可能性がある。

ST2

ST2は10－3区で検出した竪穴建物跡である。南側は調査区外へひろがり，検出範囲の大半を

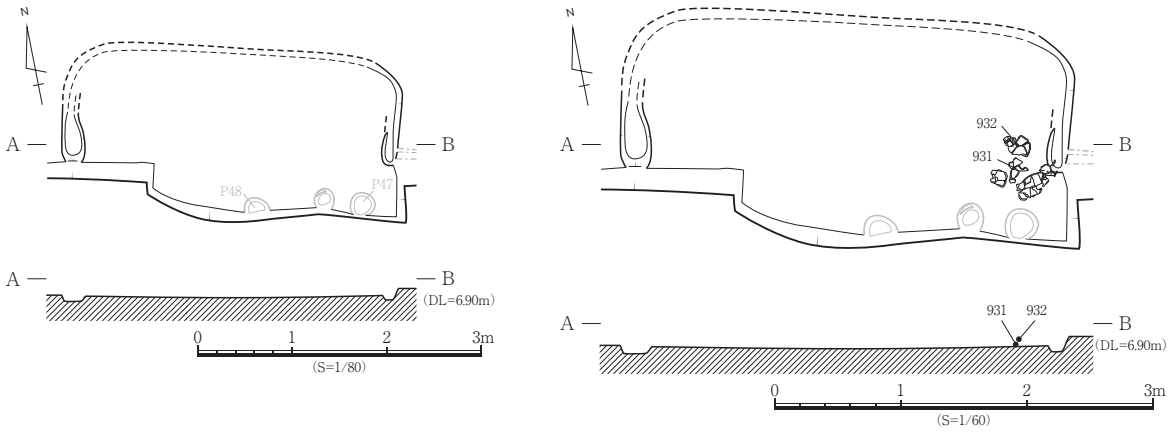


図525　10－3区　ST2　平面図・遺物出土状態図・エレベーション図

ST1によって切られる。平面形は隅丸長方形か。検出規模は，東西の検出長は約3.56m，南北の検出長は約1.64mである。検出面から床面までの深さは約10㎝を測る。主軸方向はＮ－18°－Ｅである。埋土は褐色シルト混じる暗褐色シルト質極細粒砂である。

床面で壁溝を検出した。壁溝の規模は，幅約10cm，深さ約5cmである。(綾部)

図示した出土遺物は弥生土器の壺(931)・鉢(932)である。

931は壺である。口縁部は外反させる。頸部は内外面ともハケ調整である。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。丸底であり，外底面は叩き調整後ナデ調整であり，内底面には指頭圧痕が認められる。頸部内面には接合痕跡がみられる。また，特筆すべきこととして断面に碁石状の粘土塊が埋め込まれている。932は鉢である。体部は半球形，底部は丸底を呈する。体部外面は叩き調整後ハケ調整・ナデ調整，内面はハケ調整である。外底面にはナデ調整を施す。

ST3

ST3は10－3区で検出した竪穴建物跡の可能性がある遺構である。遺構の大半は調査区外となる。規模は南北の検出長約4.90m，東西の検出長約0.58mである。検出面から床面までの深さは約15㎝を測る。主軸方向はＮ－1°－Ｅである。埋土は黒褐色シルト質極細粒砂やシルトである。底面は北側に対して南側が20㎝程度高くなる。

図示した出土遺物はない。(綾部)

ST4

ST4は10－3区で検出した竪穴建物跡である。西側をST3，南西隅をSB5_P26に切られ，北側は調査区外へとひろがる。平面形は隅丸方形を呈するとみられる。検出規模は一辺約4.04m，深さ約16㎝を測る。主軸方向はＮ－21°－Ｗである。埋土は黒褐色シルト質極細粒砂(第1層)で，床面直上では炭化物を多く含む。床面北西部で，焼土および炭化材を検出した。

床面で中央ピット，ピットを検出した。中央ピット(SK1)は底面中央付近に位置し，北側は調査区外となる。平面形は楕円形もしくは隅丸長方形を呈するとみられ，検出規模は最大幅82cm，深さ14cmを測る。埋土は炭化材や炭化物を含む黒色～黒褐色極細粒砂質シルトで，上層には明赤褐色の焼土が堆積する。主柱穴は南西部で検出したP3が考えられる。直径約30cm，深さ約36cmを測る。(綾部)

図示した出土遺物は弥生土器の甕(933)・鉢(934～937)，土師質土器の杯(938)・椀(939)である。

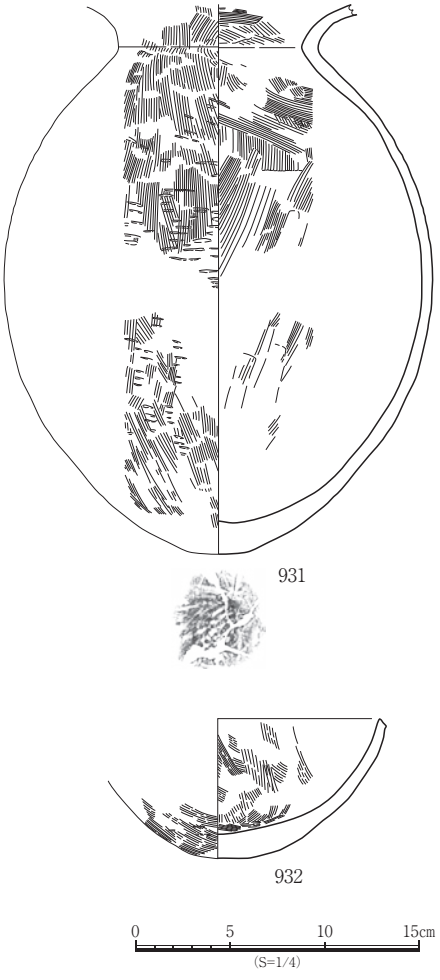
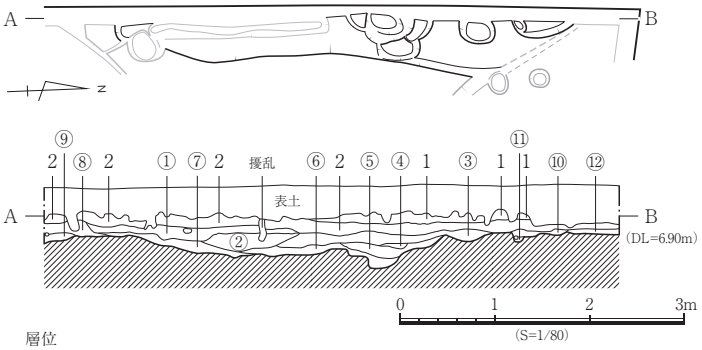


図526　10－3区　ST2
出土遺物実測図

933 は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施す。口縁部には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整あるいはヘラナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はナデ調整である。934 は鉢である。口唇部を摘み出す。体部外面は叩き調整後ハケ調整・ナデ調整，内面はヘラナデ調整である。内面には線刻か。935 は鉢である。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施しミガキ状を呈する部分がある。また，外面にはキレツがみられる。936は鉢である。平底を呈し，外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整，内面はハケ調整である。外面にはキレツがみられる。937 は鉢である。丸底を呈し，外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整か。内面にはハケ調整を施す。また，内底面には指頭圧痕が認められる。938 は杯である。扁平な円盤状の平底を呈する。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。939 は椀である。口縁部には内外面ともに回転ナデ調整，体部は内外面ともにミガキ調整を施す。

ST5

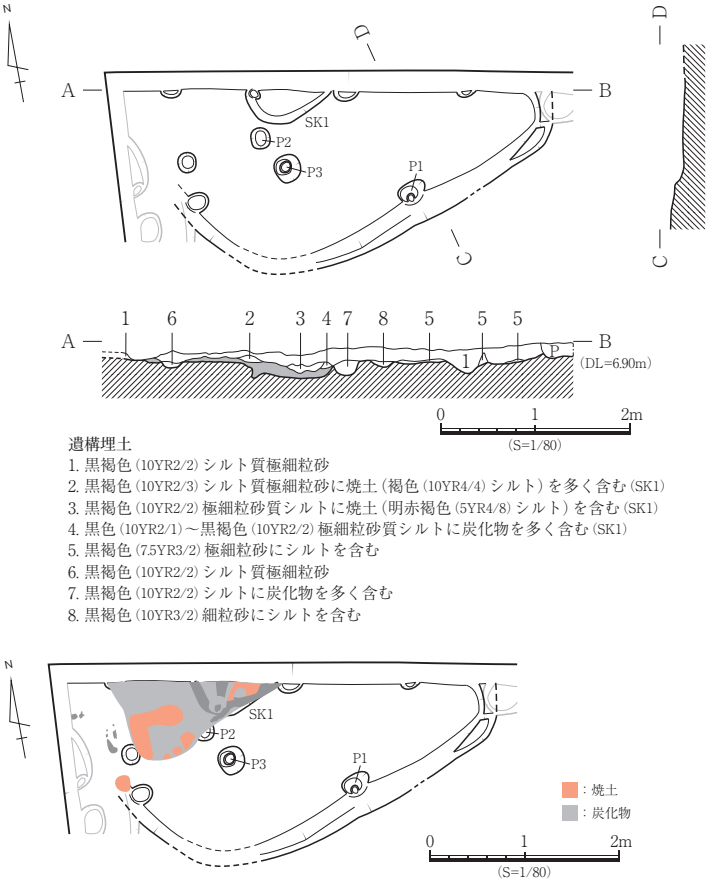
ST5 は 10 － 3 区で検出した竪穴建物跡である。南端隅を ST1 に切られる。平面形は隅丸方形を呈する。規模は東西約 4.00m，南北約 4.04m，深さは約 50 ㎝を測る。主



層位
第 1 層　黒褐色 (10YR2/3) シルトに細礫を含む
第 2 層　黒褐色 (10YR2/2) シルトに細礫を含む

遺構埋土
① 黒褐色 (10YR2/2) シルト質極細粒砂に褐色 (7.5YR4/6) シルトを含む (ST3)
② 黒褐色 (10YR2/2) シルト質極細粒砂 (ST3)
③ 黒褐色 (10YR2/2) 極細粒砂 (ST3)
④ 黒褐色 (10YR3/2) シルトに細礫を含む (ST3)
⑤ 黒褐色 (10YR2/3) シルト質極細粒砂 (ST3)
⑥ 黒褐色 (10YR2/3) シルト質極細粒砂に暗褐色 (10YR3/3) シルトを含む (ST3)
⑦ 黒褐色 (10YR2/2) シルト (ST3) (粘性強い)
⑧ 黒褐色 (10YR2/3) シルト
⑨ 暗褐色 (10YR3/4) シルト質極細粒砂に細礫を含む (SK19)
⑩ 黒褐色 (10YR2/2) シルトに細礫を含む (ピット)
⑪ 暗褐色 (10YR3/3) シルト質極細粒砂 (ピット)
⑫ 黒褐色 (10YR2/2) シルト質極細粒砂に炭化物を多く含む (ST4)

図527　10 － 3区　ST3　平面図・断面図



遺構埋土
1. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質極細粒砂
2. 黒褐色 (10YR2/3) シルト質極細粒砂に焼土 (褐色 (10YR4/4) シルト) を多く含む (SK1)
3. 黒褐色 (10YR2/2) 極細粒砂質シルトに焼土 (明赤褐色 (5YR4/8) シルト) を含む (SK1)
4. 黒色 (10YR2/1) ～黒褐色 (10YR2/2) 極細粒砂質シルトに炭化物を多く含む (SK1)
5. 黒褐色 (7.5YR3/2) 極細粒砂にシルトを含む
6. 黒褐色 (10YR2/2) シルト質極細粒砂
7. 黒褐色 (10YR2/2) シルトに炭化物を多く含む
8. 黒褐色 (10YR3/2) 細粒砂にシルトを含む

図528　10 － 3区　ST4
平面図・焼土及び炭化物出土状態図・断面図

軸方向はN－14°－Eである。埋土は黒褐色シルト含む極細粒砂が主に堆積し，中位付近は直径5～10㎝大の礫を含む。西側に地山削り出しによるベッド状遺構を有する。ベッド状遺構は四方に構築されていたと考えられるが，西側を除き不明瞭である。低床部との比高差は2㎝程度である。壁際には幅約13㎝，深さ約5㎝の規模の壁溝(SD1)が存在し，これも全周していたと考えられる。

低床部では中央ピット，主柱穴，周溝を検出した。中央ピット(SK1)は中央南寄りに位置する。平面形は中央の窄まった楕円形を呈し，規模は長軸約1.04m，短軸約0.48m，深さ約15㎝を測る。埋土は黒褐色砂質シルトで炭化物や焼土片が混じる。中央ピット北東部で円形に被熱による赤変部分を確認した。主柱穴はP3～P6の4基が該当する。平面形は円形または不整円形を呈し，規模は直径32～47㎝，深さは15～36㎝である。柱穴の心々距離はP3－P4・P5－P6間で約1.7m，P3－P6・P4－P5間で約1.6mを測る。南側を除く三方において各主柱穴を結ぶ形で周溝(SD2)が掘られる。溝の規模は幅18～30㎝，深さ3～9㎝を測る。埋土は黒褐色細粒砂質シルト他である。P1・P2はそれぞれ建物の北西隅部，南西隅部に位置するピットである。平面形は直径50㎝程度の円形を呈し，深さは約2㎝である。埋土は黒褐色細粒砂質シルト他である。(綾部)

図示した出土遺物は弥生土器の壺(940)・甕(941～945)・鉢(946～961)・底部(962～965)，ミニチュア土器(966～968)，須恵器の蓋(969)，鉄鏃(970)・鉄製の鋤先(971)である。

940は壺か。口縁部は僅かに内湾させ，口唇部には面取りを施す。頸部外面はハケ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。941は小型の甕である。口縁部は内外面ともにハケ調整である。底部は角の取れた平底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ナデ調整・ハケ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕がみられる。鉢の可能性がある。942は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部には面取りを施す。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整，内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整・ナデ調整，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められる。底部は丸底であり，外底面にはハケ調整を施す。943は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面はナデ調整，内面はハケ調整である。体部は内外面ともにハケ調整である。底部はほぼ丸底であり，外底面にはナデ調整を施す。ほぼ完存する。944は甕である。口縁部は

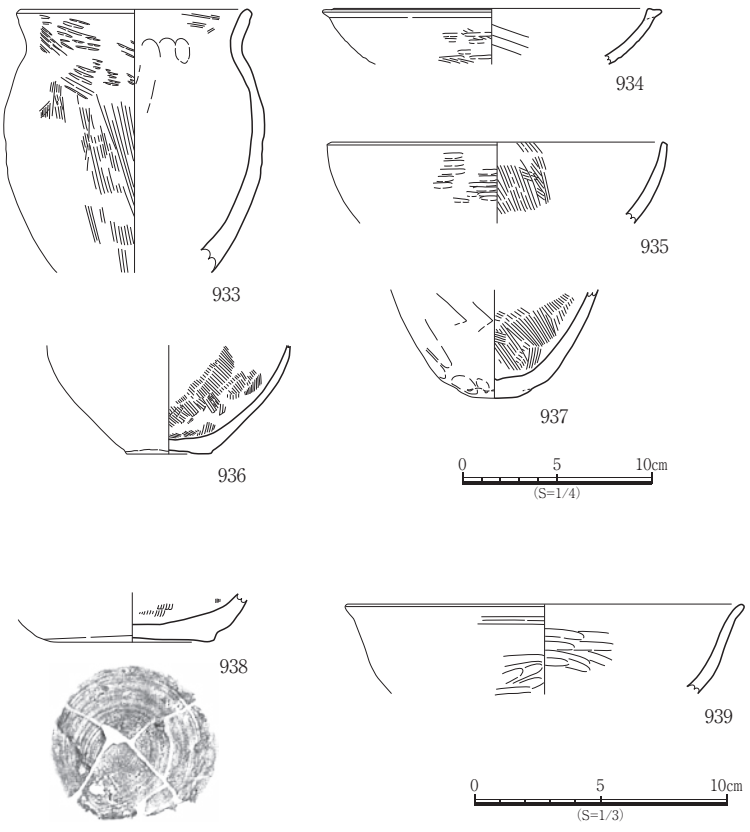
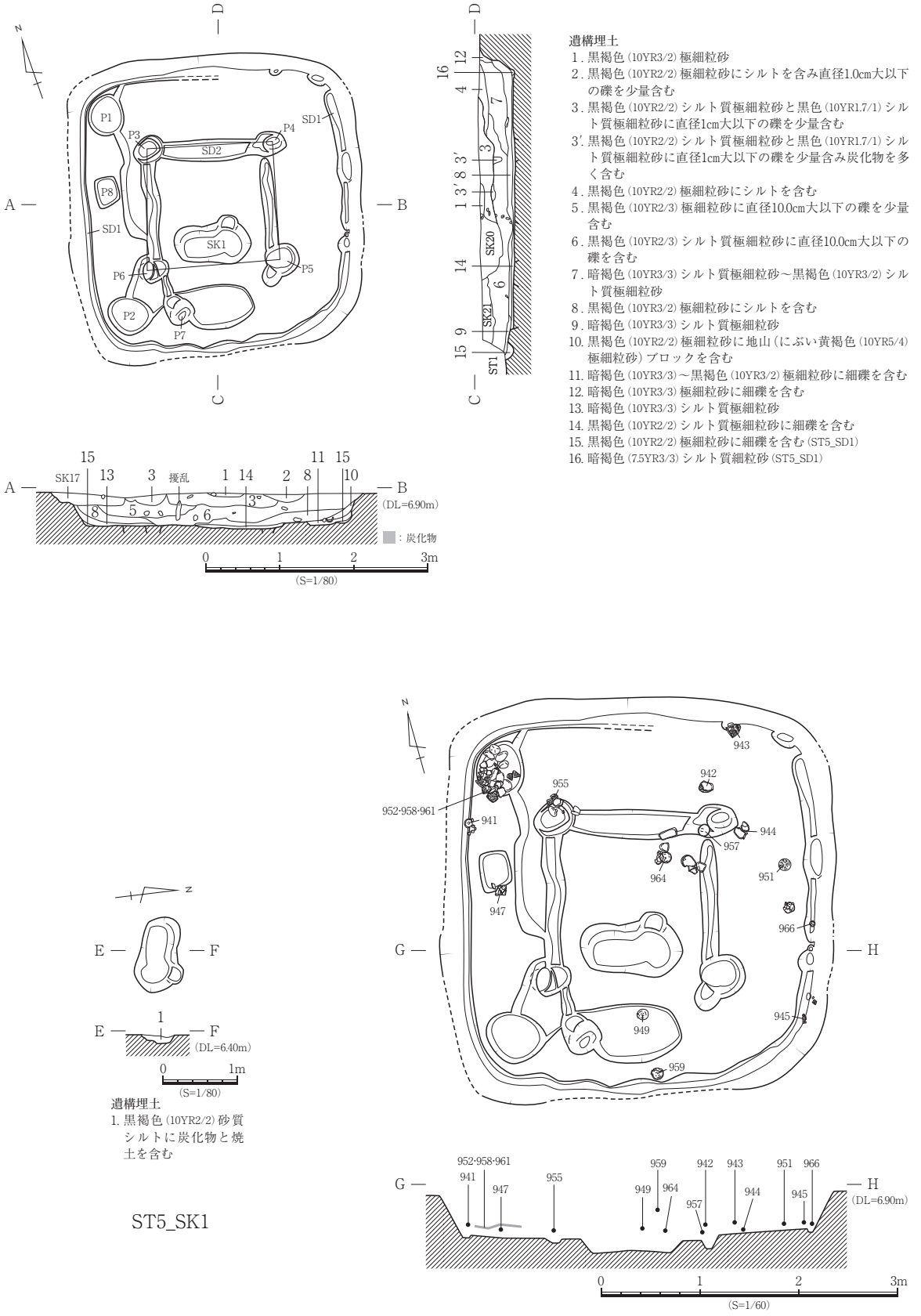


図529　10－3区　ST4　出土遺物実測図



ST5_SK1

図530　10－3区　ST5　平面図・遺物出土状態図・断面図

図531　10－3区　ST5　出土遺物実測図_1

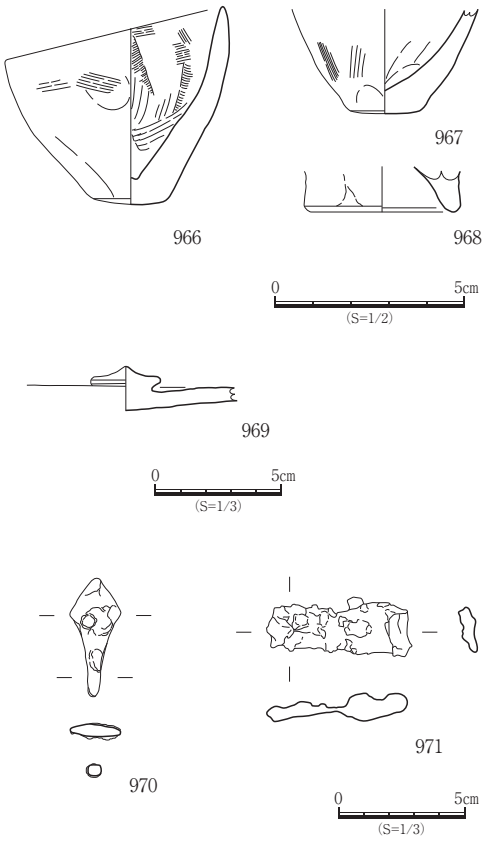
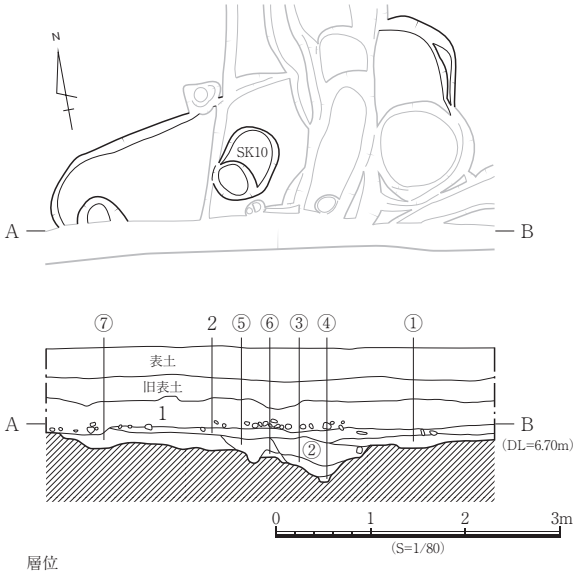


図532　10－3区　ST5
出土遺物実測図_2

「く」の字状を呈する。口縁部外面には叩き調整後ナデ調整，内面にはハケ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整・ナデ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。また，内底面には指頭圧痕が認められる。底部は角の取れた平底であり，外底面にはナデ調整を施す。口縁部内面には接合痕跡がみられる。945 は甕である。底部はほぼ丸底を呈し，外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ハケ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。また，内底面には指頭圧痕が認められる。946 は皿状を呈した鉢である。丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともにナデ調整で仕上げ，指頭圧痕が認められる。947 は皿状を呈した鉢である。丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部は内外面ともにナデ調整であり，指頭圧痕が認められる。948 は皿状を呈した鉢である。丸底を呈し，外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整・ヘラナデ調整で指頭圧痕が認められる。内面はナデ調整か。949 は皿状を呈した鉢である。丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。ほぼ完存する。950 は鉢である。口縁部を短く外反させる。底部は角の取れた平底であり，外底面にはハケ調整・ナデ調整を施す。体部外面はハケ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。951 は鉢である。体部は半球形，底部は丸底を呈する。体部外面は叩き調整，内面はハケ調整である。外底面にはナデ調整を施す。ほぼ完存する。952 は鉢である。体部は半球形，底部は丸底を呈する。体部外面には叩き調整後ハケ調整・ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。内底面・外底面ともにナデ調整を施す。953 は鉢である。体部は半球形，底部は丸底を呈する。体部外面には叩き調整後ナデ調整，内面にはハケ調整あるいはヘラナデ調整を施す。外底面にはナデ調整を施す。954 は鉢である。体部は半球形，底部は丸底を呈する。体部外面はナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。外底面にはナデ調整を施す。全体的に歪む。955 は鉢である。体部は半球形を呈し，口唇部にはルーズな面取りを施す。底部はほぼ丸底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整である。956 は鉢である。体部は半球形を呈する。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整である。957 は鉢である。体部は半球形を呈し，底部はほぼ丸底である。体部には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。内底面には指頭圧痕が認められる。外底面には叩き調整後ナデ調整を施す。全体的に歪む。958 は鉢である。体部は半球形を呈する。底部は角の取れた平底からほぼ丸底を呈し，外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。959 は鉢である。体部は半球形，底部は丸底を呈する。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整を施す。外底面にはヘラナデ調整を施す。960 は鉢である。口唇部は丸くおさめる。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面



層位
第1層　黒褐色(10YR3/2)細粒砂質粘性シルトに地山ブロックを含む
第2層　黒褐色(10YR2/2)細粒砂質粘性シルト(遺物包含層)

遺構埋土
① 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質粘性シルト(SK6)
② 黒色(10YR2/1)粘性シルト(SD7)
③ 黒色(10YR1/2)細粒砂質粘性シルト(SD7)
④ 黒色(10YR1/2)細粒砂質粘性シルトに地山ブロックを含む(SD7)
⑤ 黒色(10YR2/1)粘性シルト(SD7W)
⑥ 黒色(10YR1/2)細粒砂質粘性シルトに地山ブロックを含む(SD7W)
⑦ 黒色(10YR1.7/1)細粒砂質粘性シルト(ST11)

図533　10－2区　ST11　平面図・断面図

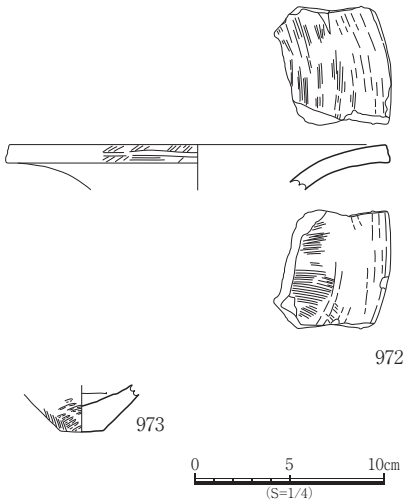


図534　10－2区　ST11　出土遺物実測図

はヘラナデ調整あるいはハケ調整である。961は鉢である。体部は半球形，底部は丸底を呈する。体部外面には叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはハケ調整・ナデ調整を施す。外底面には叩き調整後ナデ調整を施す。全体的に歪む。962は底部である。平底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面はハケ調整・ナデ調整，内面はハケ調整である。搬入品か。963は底部である。平底であり，外底面にはナデ調整を施し，葉脈痕跡がみられる。体部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はナデ調整である。964は底部である。平底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面はハケ調整・ナデ調整，内面はナデ調整である。965は底部である。平底を呈し，外底面にはナデ調整を施す。葉脈痕跡か。体部は内外面ともにナデ調整を施す。966は鉢形をモデルとするミニチュア土器である。全体的に歪む。967は鉢形をモデルとするミニチュア土器である。968はミニチュア土器である。内外面ともにナデ調整を施し，外面には指頭圧痕が認められる。969は蓋である。天井部に扁平な擬宝珠様の摘みを付す。外面は回転ヘラケズリか。内面には回転ナデ調整を施し，天井部内面にはナデ調整を施す。外面には自然釉が付着する。970は圭頭式の鉄鏃である。左右対称である。鏃身部の断面

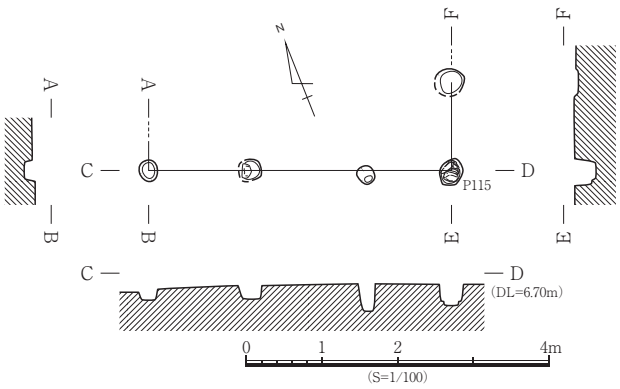


図535　10－1区　SB1　平面図・エレベーション図

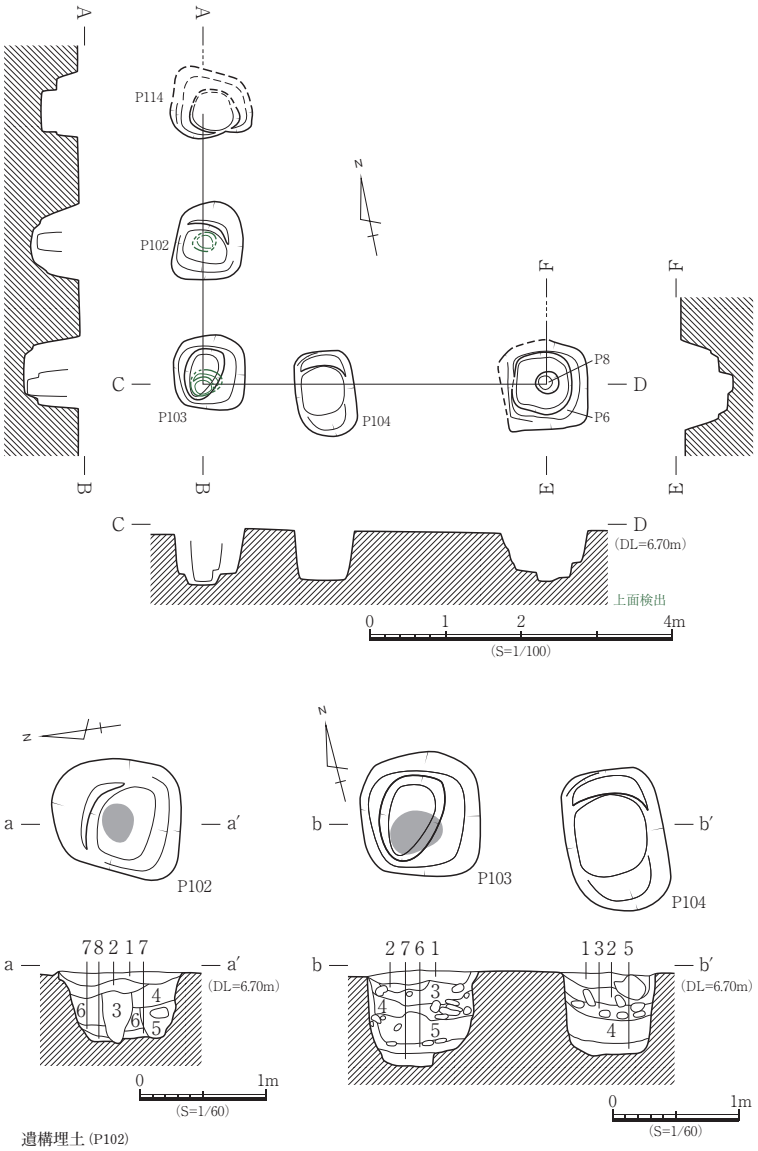
形は扁平な菱形を呈する。茎部の断面形は正方形を呈し，基部に向かって幅が狭くなる。基部の先端は欠損するもののほぼ完存する。971は鉄製の鋤先である。短辺を折り曲げ，装着する。先端（刃先）に向かって厚みを減じる。穂積具か。

ST11

ST11は10－2区で検出した竪穴建物跡である。土坑・溝跡等多くの遺構に切られる。南は調査区外へひろがる。一辺約4.60mの平面形は隅丸方形を呈すると推測される。東西の検出長は約4.62m，南北の検出長は約1.92m，検出面からの深さは約15㎝を測る。主軸方向はN－11°－Wである。埋土は黒色（10YR1.7/1）細粒砂質粘性シルト他である。

図示した出土遺物は弥生土器の壺（972）・底部（973）である。

972は壺である。口縁部は大きく外反させる。口唇部はハケ状原体による面取りを施し，沈線がみられる。口縁部外面はタテハケ調整，内面はヨコハケ調整を施す。また，口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。内面には種子の圧痕がみられる。973は底部である。平底を呈し，外底面にはハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はヘラナデ調整である。



遺構埋土（P102）
1. 黒褐色（10YR2/2）シルト質極細粒砂に細礫を含む
2. 黒色（10YR2/1）極細粒砂質シルト
3. 黒褐色（10YR2/3）シルト質極細粒砂（柱痕）
4. 黒褐色（10YR3/2）極細粒砂質シルトに黄褐色（10YR5/6）極細粒砂を含む
5. 黒褐色（10YR3/2）シルト質細粒砂に細礫を含む
6. 黒褐色（10YR3/2）シルト質細粒砂に明黄褐色（10YR6/6）シルトブロックと直径3.0cm大以下の礫を含む
7. 褐色（10YR4/4）細粒砂質シルトに細礫を含む
8. 黒褐色（10YR3/2）シルトに細粒砂を含む

遺構埋土（P103）
1. 黒褐色（10YR2/2）シルト質極細粒砂
2. 黒褐色（10YR2/2）シルトに褐色（10YR4/4）極細粒砂ブロックを含む
3. 黒褐色（7.5YR2/1）シルトに極細粒砂を含む
4. 黒褐色（10YR3/2）シルト質極細粒砂に中礫を含む
5. 黒褐色（10YR3/2）細粒砂にシルトを含み直径10.0cm大以下の礫を多く含む
6. 黒褐色（10YR2/2）シルト
7. 黒褐色（10YR2/2）シルトに地山（にぶい黄褐色（10YR4/3））ブロックと細礫を含む

遺構埋土（P104）
1. 黒褐色（10YR2/2）細粒砂にシルトを含む
2. 黒褐色（10YR2/2）シルト質極細粒砂に黄褐色（10YR5/6）シルトと細礫を含み直径10.0cm大以下の礫を多く含む
3. 黒褐色（10YR2/2）細粒砂質シルトに細礫を含み直径10.0cm大以下の礫を多く含む
4. 黒色（7.5YR2/1）シルト質細粒砂
5. 黒褐色（10YR3/1）極細粒砂質シルトに中礫を含む

図536　10－1・2区　SB2　平面図・断面図・エレベーション図

2.SB

SB1

SB1は10－1区で検出した掘立柱建物跡である。桁行3間(約4.00m)，梁行は1間(約1.16m)以上を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN－68°23′－Wである。P115他で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは5～23㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)極細粒砂他である。

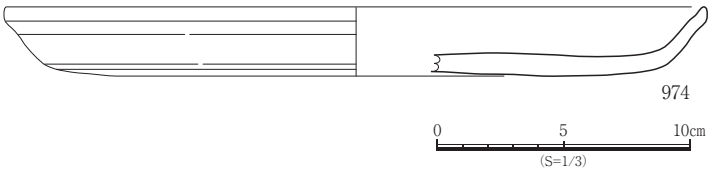


図537　10－1区　SB2　出土遺物実測図

図示した出土遺物はない。

SB2

SB2は10－1・2区で検出した掘立柱建物跡である。桁行2間(約3.57m)以上，梁行2間(約4.54m)を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN－11°30′－Eである。10－1区P102～P104・P114，10－2区P6・P8で構成される。柱穴は一辺0.80～1.15mの隅丸方形から隅丸長方形を指向する。検出面からの深さは20～74㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)極細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は，須恵器の皿(974)である。口縁端部を摘み上げる。内外面ともに回転ナデ調

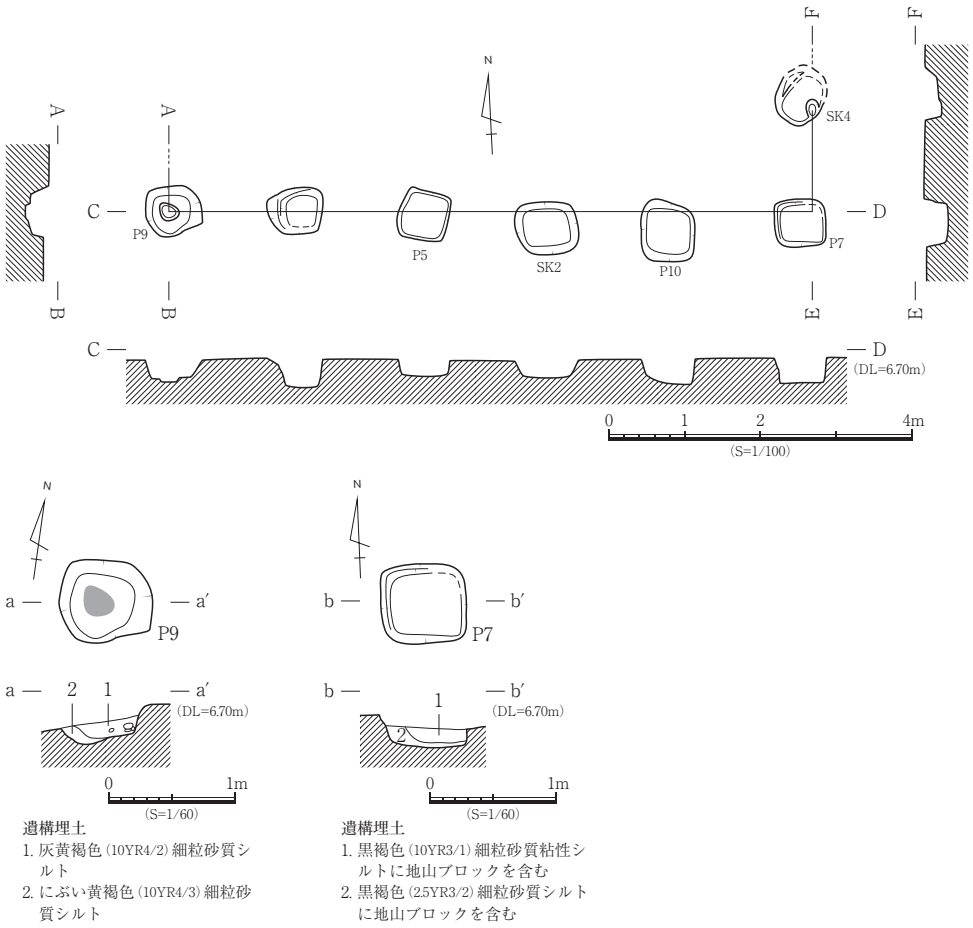


図538　10－2区　SB3　平面図・断面図・エレベーション図

整を施す。外底面には回転ヘラケズリ調整を施し，内底面にはナデ調整を施す。焼成不良である。

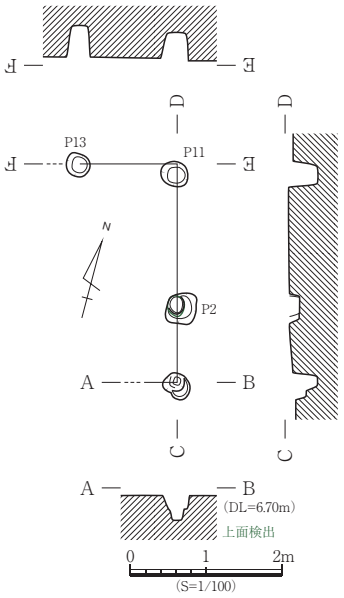


図539　10－2区　SB4
平面図・エレベーション図

SB3

SB3は10－2区で検出した掘立柱建物跡である。桁行5間(約8.50m)，梁行1間(約1.33m)以上を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN－87°07′－Wである。P5・P7・P9・P10・SK2・SK4他で構成される。柱穴は一辺0.60～0.80mの隅丸方形を指向する。検出面からの深さは12～37㎝である。埋土は黒褐色(2.5YR3/2)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB4

SB4は10－2区で検出した掘立柱建物跡である。桁行2間(約2.88m)，梁行1間(約1.28m)以上を検出した。主軸方向は南北棟とした場合はN－14°44′－Wである。P2・P11・P13他で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり,検出面からの深さは13～42㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)極細粒砂他である。

図示した出土遺物はない。

SB5

SB5は10－3区で検出した桁行2間(約7.02m)，梁行2間(約3.95m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約27.7㎡である。主軸方向はN－78°35′－Wである。P20～P22・P25・P26・P34・SK18で構成される。P25・26の柱穴掘方は一辺0.70～0.80mの隅丸方形を呈し，深さは30㎝程度である。その他の柱穴の掘方は一辺0.50～0.80mのややいびつな隅丸方形または楕円形を呈し，深さは10～25㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂他である。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の椀(975)である。口縁端部を外反させる。外面には回転ナデ調整を施し，内面には回転ナデ調整後ヘラミガキ調整を施す。口縁部は内外面ともに橙色を呈し，重ね焼きの痕跡か。

SB6

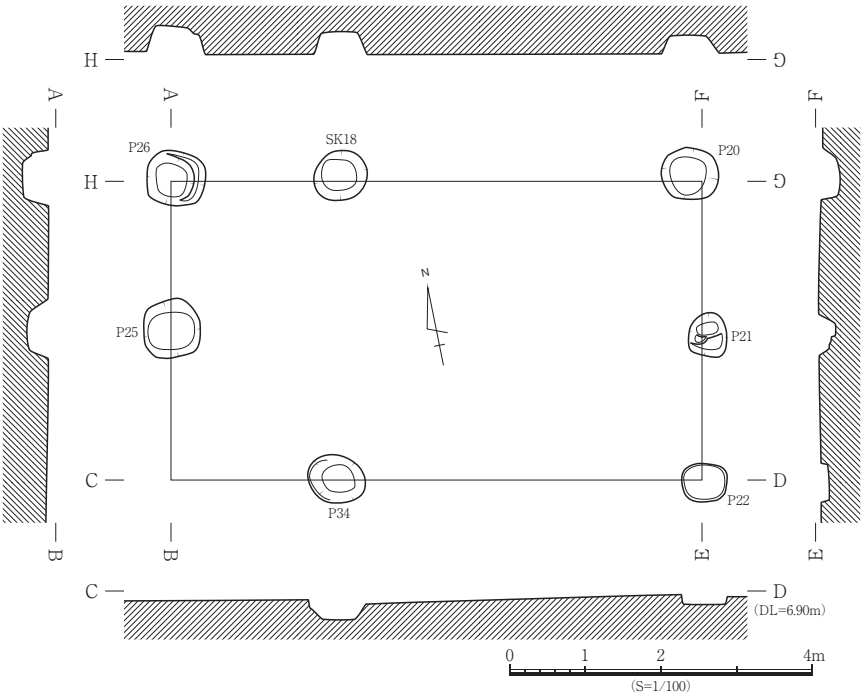
SB6は10－3区で検出した桁行3間(約7.02m)，梁行1間(約3.30m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約23.1㎡である。主軸方向はN－78°35′－Wである。P27・P29・P35・P44で構成される。柱穴の掘方は30～50㎝の円形または楕円形を呈する。埋土は黒褐色シルトを含む極細粒砂や暗褐色極細粒砂他である。P27・P29で柱痕を確認した。柱痕は径10～16㎝を測る。P44からは完形の土師器杯が出土した。掘方底面から10㎝の地点に正位で置かれており，地鎮の可能性が考えられる。

図示した出土遺物は土師器の杯(976)である。体部は内湾気味に外上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。ほぼ完存する。

SB7

SB7は10－3区で検出した掘立柱建物跡である。桁行2間(約3.37m)以上,梁行2間(約2.46m)を検出した。主軸方向は東西棟とした場合はN－79°09′－Eである。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり,検出面からの深さは5～17㎝である。埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。



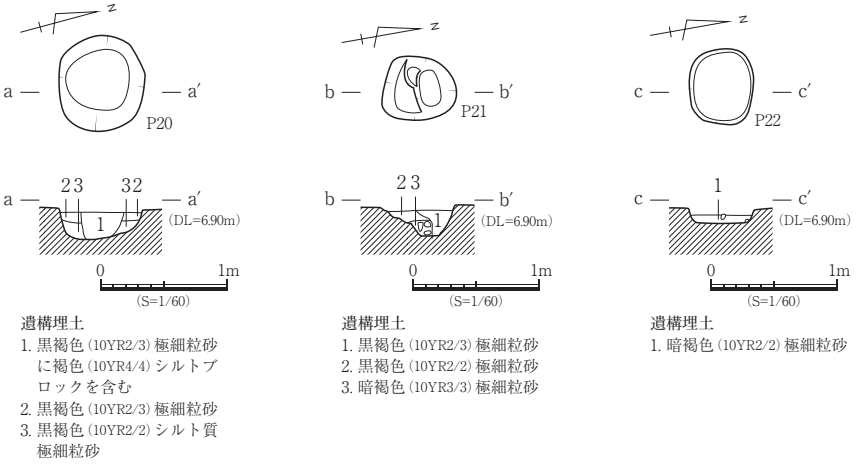


図540　10－3区　SB5　平面図・断面図・エレベーション図

3.SA

SA1

SA1は10－1区で検出した柵跡である。P108・P110・P112で構成され,検出長は約3.18mである。主軸方向はN－79°02′－Wである。柱間寸法は約1.50mを測る。柱穴は一辺1.20～1.50mの隅丸方形を呈し,検出面からの深さ25～35㎝を測り,埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト他である。

図示した出土遺物はない。

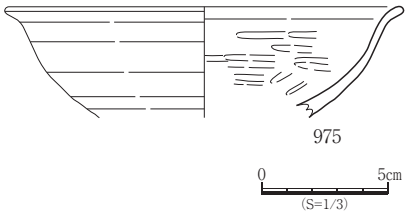
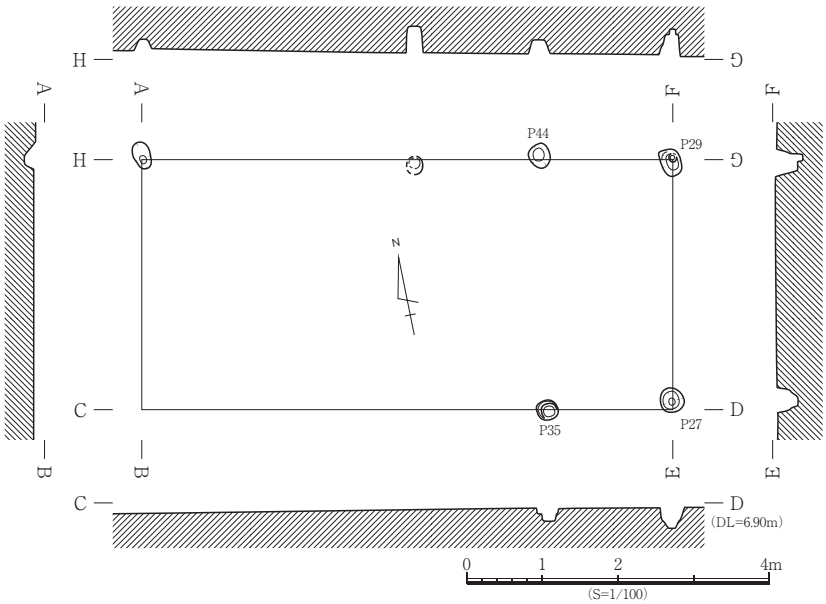


図541　10－3区　SB5
出土遺物実測図

4.SK

SK6

SK6は10－2区で検出した土坑である。SD2・3に切られ,ST11, SD7を切る。長軸の検出長は約2.98m, 短軸約0.73mであり,調査区外へひろがる。検出面からの深さは9～13㎝であり,埋土は灰褐色細粒砂質シルトである。



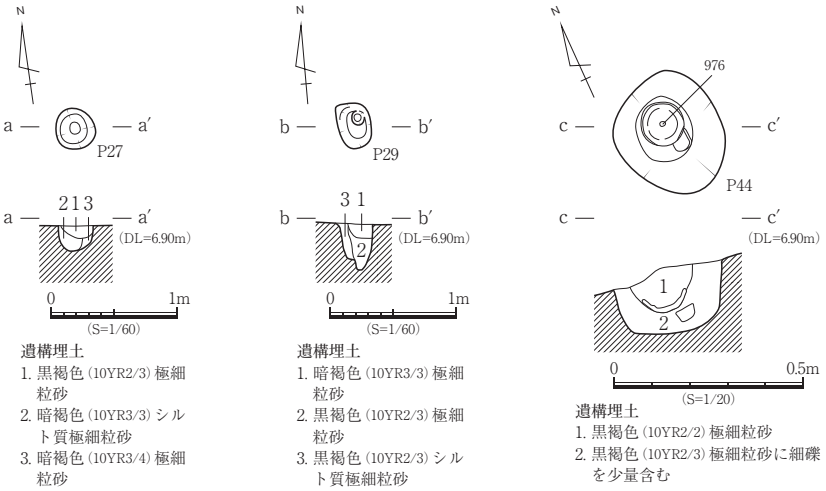


図542　10－3区　SB6　平面図・断面図・エレベーション図

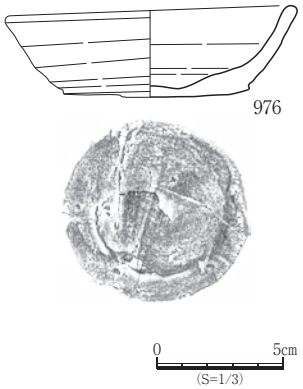


図543　10－3区　SB6
出土遺物実測図

図示した出土遺物はない。

SK11

SK11は10－2区で検出した土坑である。長軸の検出長は約4.68m，短軸の検出長は約2.98mであり，検出面からの深さは約57cmである。北側は調査区外へひろがり，平面形は不明である。

図示した出土遺物は陶器の皿(977・978)・擂鉢(979)，瓦質土器の羽釜(980)，石臼(981)である。

977は皿である。ロクロ成形で，低い削り

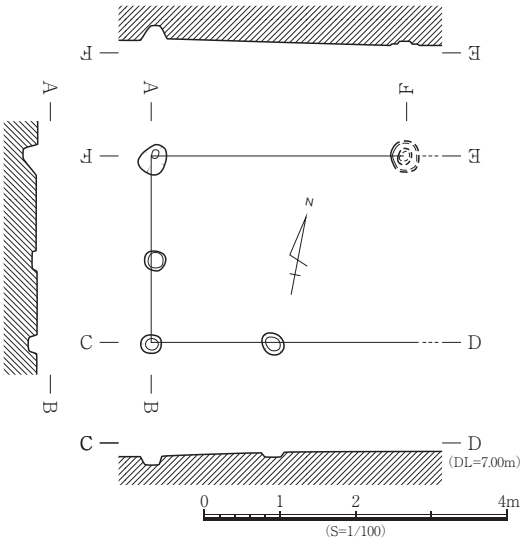


図544　10－3区　SB7　平面図・エレベーション図

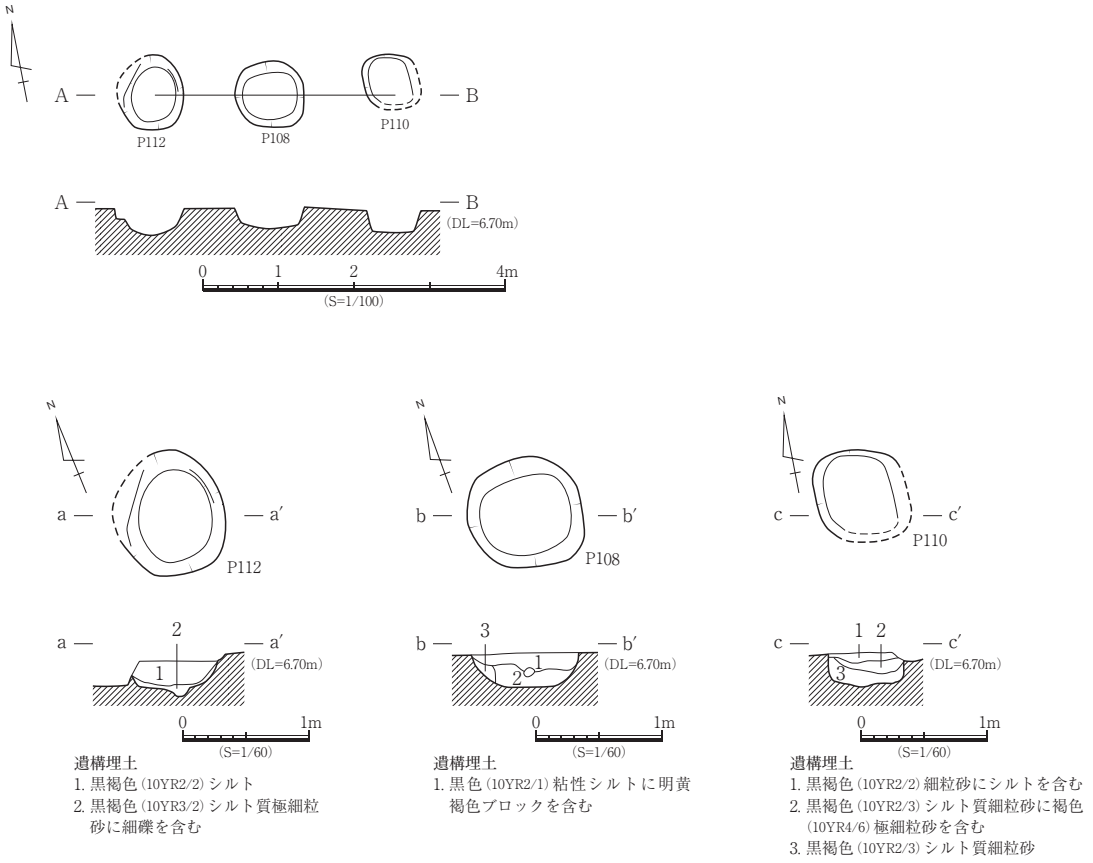


図545　10－1区　SA1　平面図・断面図・エレベーション図

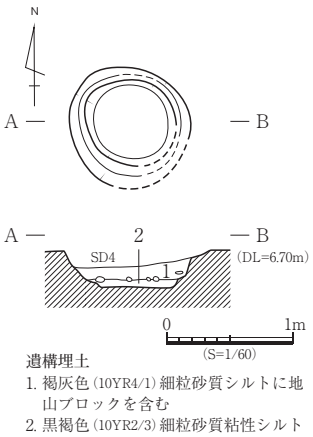


図546　10－2区　SK5
平面図・断面図

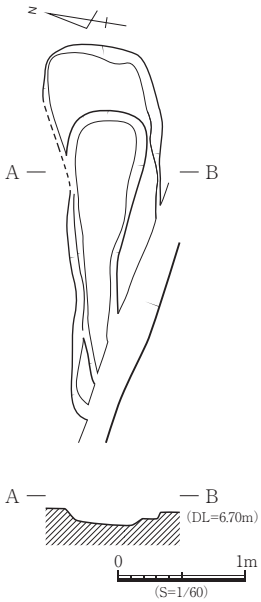


図547　10－2区　SK6
平面図・エレベーション図

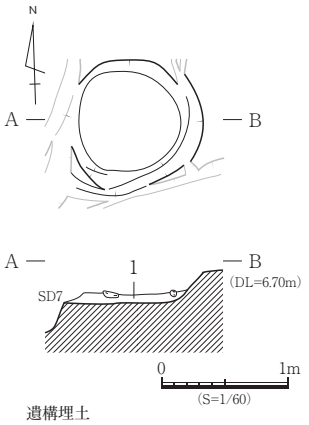


図548　10－2区　SK9
平面図・断面図

出し高台を持つ。残存部の外面は無釉である。見込みには砂目がみられる。978は皿である。ロクロ成形で，低い幅広の削り出し高台を持つ。残存部の外面は無釉である。見込みには3箇所の砂目が認められる。979は擂鉢である。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面にはナデ調整を施す。内面に8条以上1単位の条線を施す。また，使用により内面は平滑となる。980は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部からやや下がった位置に鍔を付す。口縁部は内外面ともに回転ナデ調整で仕上げる。981は砂岩製の粉挽き臼の上臼である。供給口，溝，挽き木孔，芯棒受けがみられる。臼目は5～7条1単位である。約半部が欠損する。

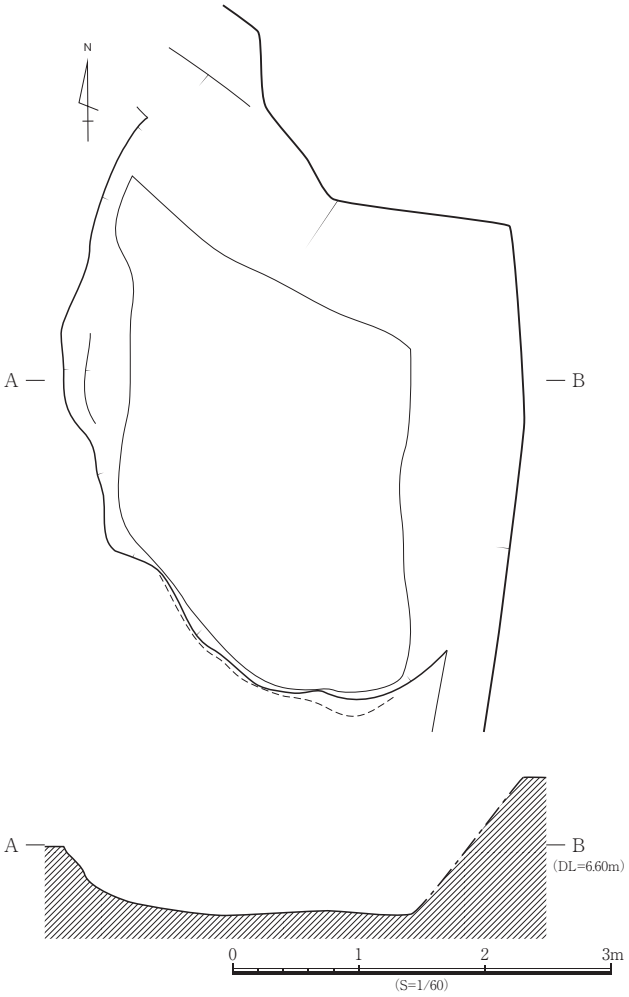


図549　10－2区　SK11　平面図・エレベーション図

SK12

SK12は10－3区で検出した土坑である。平面形は不整方形を呈する。規模は東西約0.75m，南北約0.82m，深さ約10cmを測る。埋土は黒褐色極細粒砂で，土坑底面にハンダ状のにぶい黄褐色シルト質極細粒砂が堆積する。

図示した出土遺物はない。

SK13

SK13は10－3区で検出した土坑である。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は東西約1.29m，南北約3.45m，深さ約40cmを測る。主軸方向はほぼ真北を向く。埋土は上層から黒褐色シルト質極細粒砂，褐色シルト含む暗褐色シルト，黒褐色極細粒砂質シルトが堆積する。(綾部)

図示した出土遺物は土師器の椀(982)，須恵器の皿(983)である。

982は椀である。摩耗のため調整等不明瞭である。983は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。焼成不良である。

SK14

SK14は10－3区で検出した土坑である。遺構の南側の大部分は調査区外へひろがる。ST1・2を切る土坑で，断面観察により判明した。ST1と切り合い関係にある北側の掘方は判然としない。検

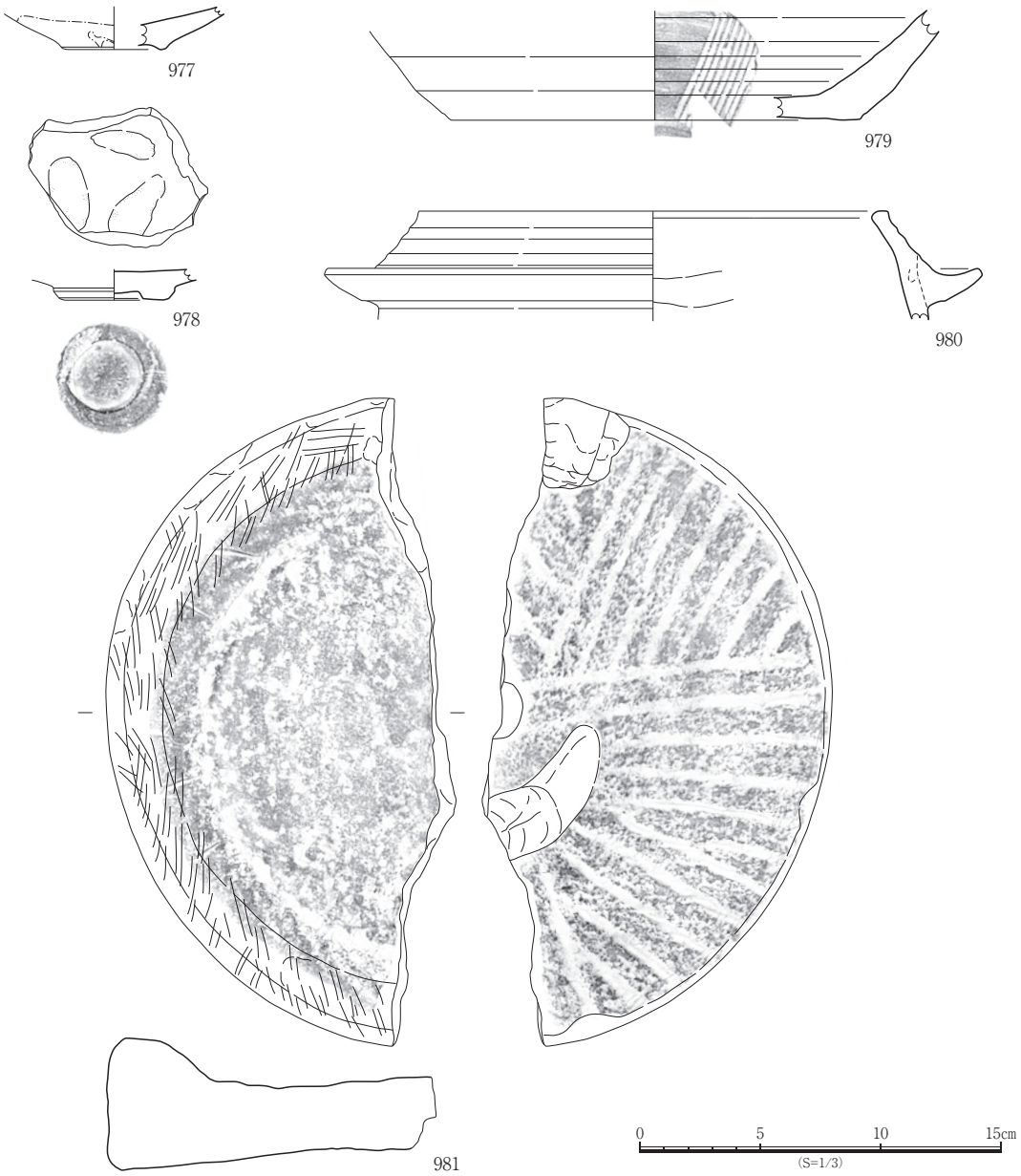


図550　10－2区　SK11　出土遺物実測図

出規模は，東西幅約 2.77m，南北幅 1.13m 以上とみられる。深さは約10cmを測る。埋土は黒褐色シルト含む極細粒砂である。

図示した出土遺物は弥生土器の鉢(984)，用途不明の土製品(985)である。

984 は鉢である。体部は直線的にのびる。底部は角の取れた平底であり，外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。985 は用途不明の土製品である。下半部はコップ状，上半部は傘形を呈する。両者の接合痕跡が内面に

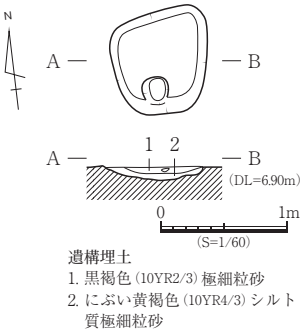


図551　10－3区　SK12
平面図・断面図

残っており，別々に作ったのちに接合している。下半部の外面は叩き調整後ナデ調整を施し，内面にはナデ調整を施す。上半部は内外面ともにナデ調整を施す。握りやすい形状である。

SK15

SK15は10－3区で検出した土坑である。掘方の平面形は南辺が短い台形状を呈する。規模は北辺約0.64m，南辺約0.30m，南北長約1.00m，深さ約10cmを測る。埋土は，上層から黒褐色シルト質極細粒砂，褐色シルトブロック含む黒褐色シルト含む極細粒砂である。南端から弥生土器が出土した。

図示した出土遺物は弥生土器の底部(986・987)・高杯(988)である。

986はほぼ丸底の底部である。外底面にはナデ調整を施す。体部外面には叩き調整後ヘラナデ調整

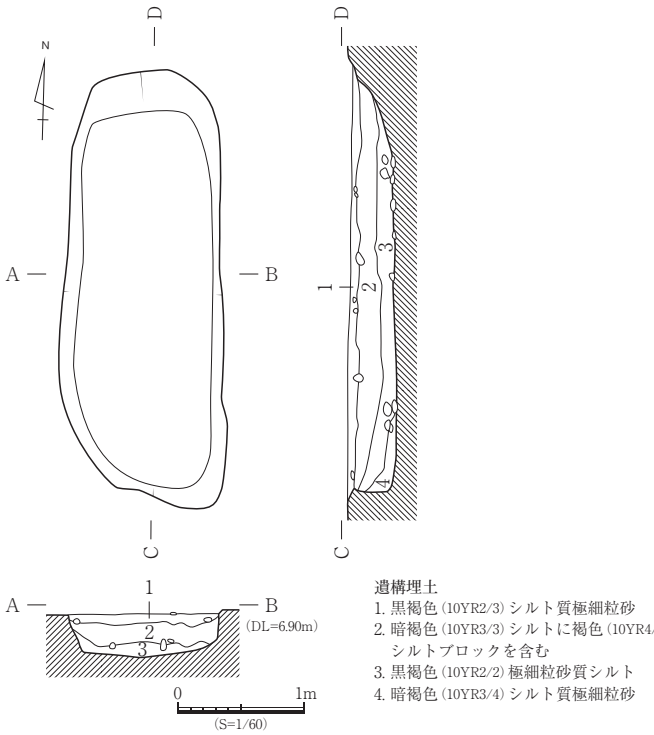


図552　10－3区　SK13　平面図・断面図

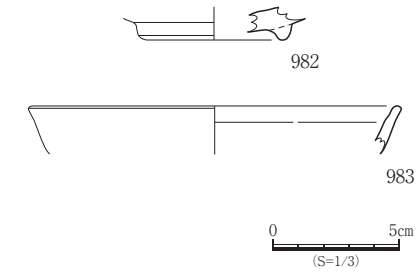


図553　10－3区　SK13　出土遺物実測図

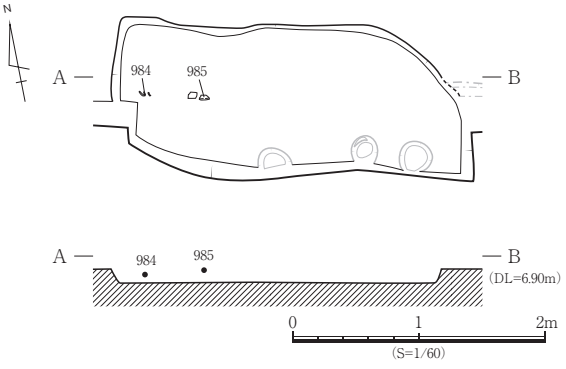


図554　10－3区　SK14
平面図・遺物出土状態図・エレベーション図

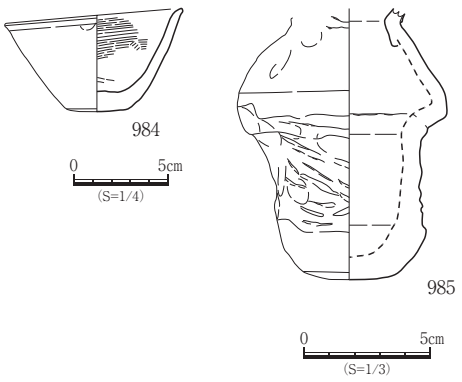


図555　10－3区　SK14　出土遺物実測図

あるいはハケ調整を施す。内面はハケ調整・ナデ調整である。987は平底の底部であり，外底面にはヘラナデ調整を施す。体部外面はハケ調整，内面はヘラケズリ調整・ナデ調整である。988は高杯である。脚部外面はハケ調整後ヘラミガキ調整，内面はヘラケズリ調整である。杯部は接合面で剥離する。

SK16

SK16は10 － 3区で検出した土坑である。東側をSK13によって削平される。掘方の平面形は方形を呈し，規模は一辺約1.35m，深さ約13㎝を測る。埋土は地山ブロックを含む黒褐色細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SK17

SK17は10 － 3区で検出した不整隅丸方形の土坑である。ST5を切る。規模は，南北約1.39m，東西約1.57m，深さ約16㎝を測る。埋土は黒色シルト質極細粒砂である。土師器の皿，製塩土器の破片が出土している。

図示した出土遺物はない。

SK19

SK19は10－3区で検出した土坑である。平面形は楕円形を呈し，南西部は調査区外となる。規模は，長軸2.50m以上，短軸約1.22m，深さ約25㎝を測る。主軸方向はN － 43° － Eである。埋土は主に黒褐色極細粒砂質シルトが堆積する。

図示した出土遺物はない。

SK22

SK22は10 － 3区で検出した土坑である。東側をST5によって削平される。平面形は方形を呈するとみられる。規模は，東西1.00m以上，南北約1.23m，深さ約13㎝を測る。埋土は黒褐色砂質シルトである。

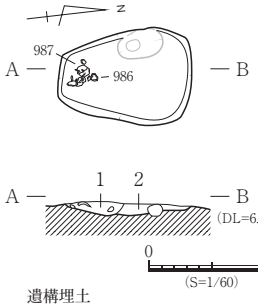
図示した出土遺物はない。

SK101

SK101は10－1区で検出した土坑である。掘方の平面形は不整円形を呈する。規模は長軸約1.33m，短軸約1.10m，深さ約26㎝を測る。埋土は上層に拳大の礫を多く含む黒褐色細礫混じるシルト層が，下層に褐色シルト混じる暗褐色細礫混じる細粒砂が堆積する。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(989～991)，砥石(992)である。

989は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面にはナデ調整を加えるか。990は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。991は手捏ね皿である。992は泥岩製の砥石の破片である。



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂
2. 黒褐色(10YR2/2)シルト質極細粒砂に褐色(10YR2/4)シルトブロックを含む

図556　10－3区　SK15
平面図・遺物出土状態図・断面図

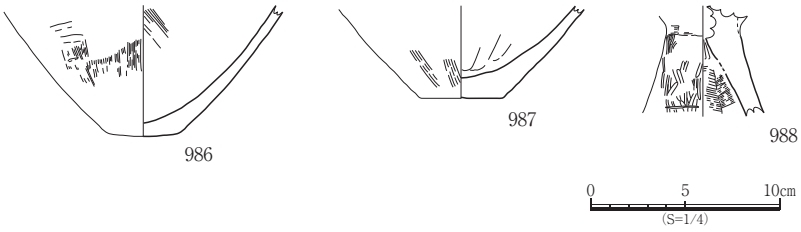


図557　10－3区　SK15　出土遺物実測図

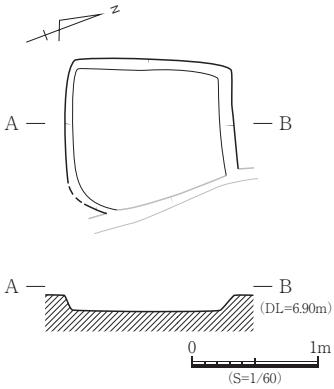


図558　10－3区　SK16
平面図・エレベーション図

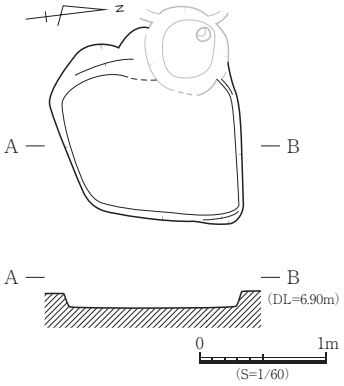
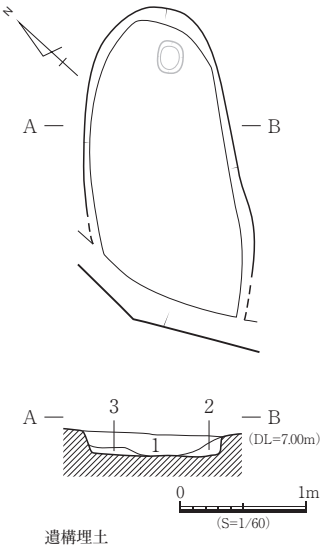
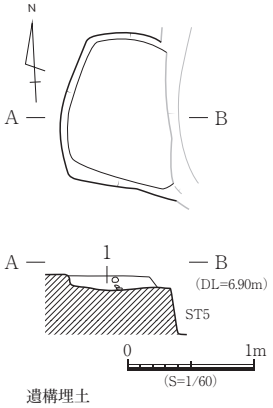


図559　10－3区　SK17
平面図・エレベーション図



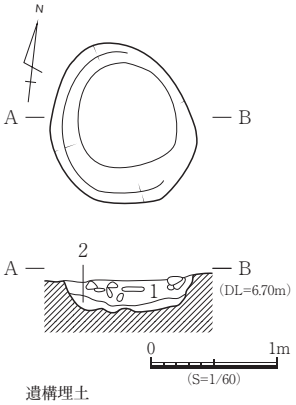
遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/3)極細粒砂質シルト
2. 黒褐色(10YR2/3)シルトに褐色(10YR4/6)シルトブロックを含む
3. 暗褐色(10YR3/3)極細粒砂に細礫を含み褐色(10YR4/6)シルトブロックを多く含む

図560　10－3区　SK19
平面図・断面図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR2/3)砂質シルト

図561　10－3区　SK22
平面図・断面図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)シルトに細礫を含み直径10cm大以下の礫を多く含む
2. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂に細礫と地山(褐色(10YR4/4))を含む

図562　10－1区　SK101
平面図・断面図

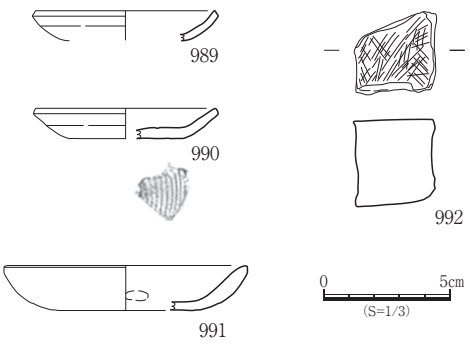


図563　10－1区　SK101　出土遺物実測図

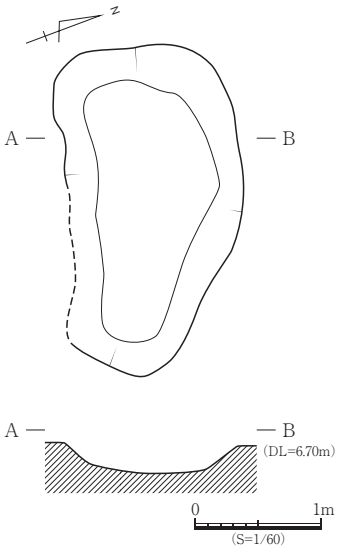


図564　10－1区　SK103
平面図・エレベーション図

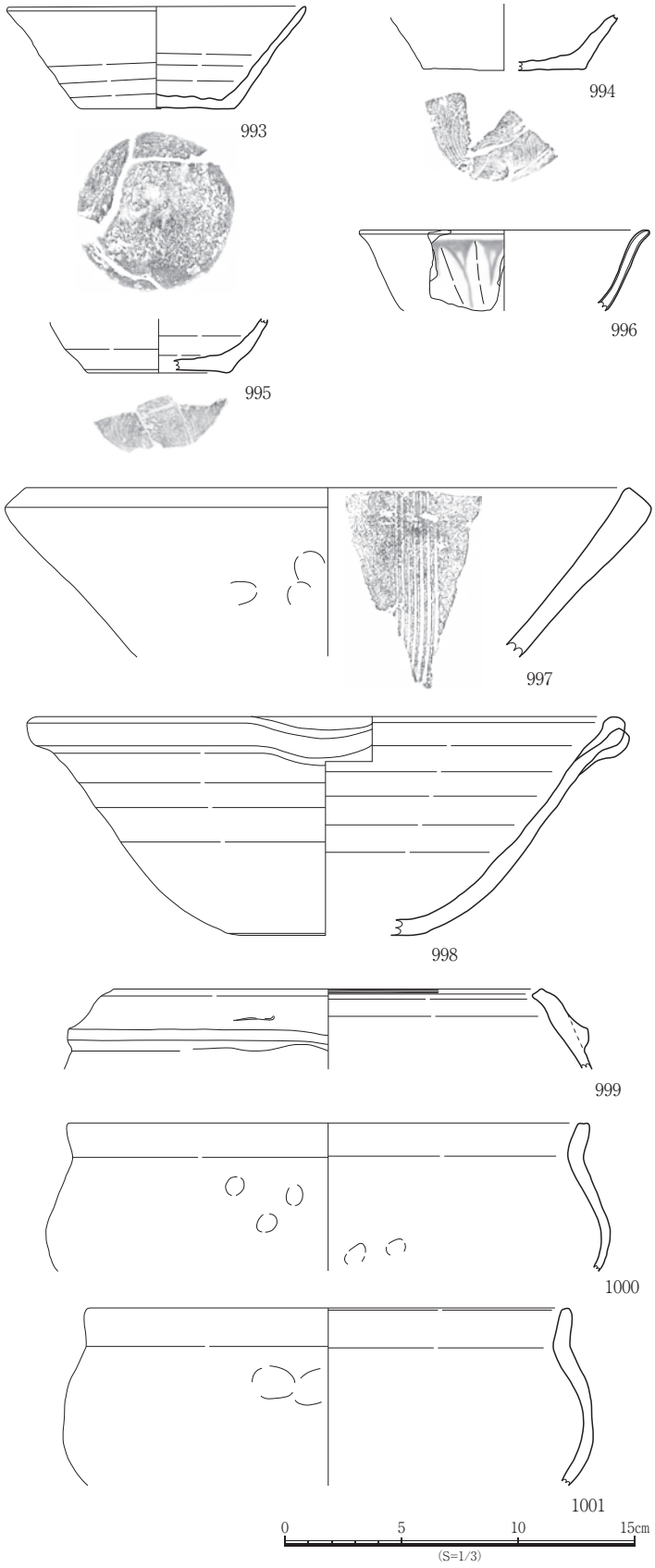


図565　10－1区　SK103　出土遺物実測図

SK103

SK103は10－1区で検出した土坑である。SK101によって南側を削平される。掘方の平面形は不整長方形を呈する。規模は，長軸約2.61m，短軸約1.44m，深さ約30cmを測る。埋土は黒褐色シルト質極細粒砂である。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(993～995)・擂鉢(997)，青磁の碗(996)，須恵器の捏鉢(998)，瓦質土器の羽釜(999)・鍋(1000・1001)である。

993は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目がみられ，内底面には渦状のロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。994は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。995は杯である。体部は内湾気味に斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。996は端反り碗である。外面には鎬蓮弁文が認められる。997は擂鉢である。体部は斜め上方へのびる。口縁部を肥厚させ，口唇部には面取りを施す。外面はナデ調整，内面はヨコナデ調整である。内面には7条1単位の条線を

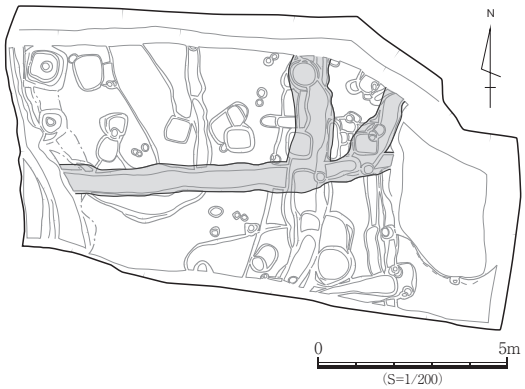


図569　10－2区　SD4として調査した範囲

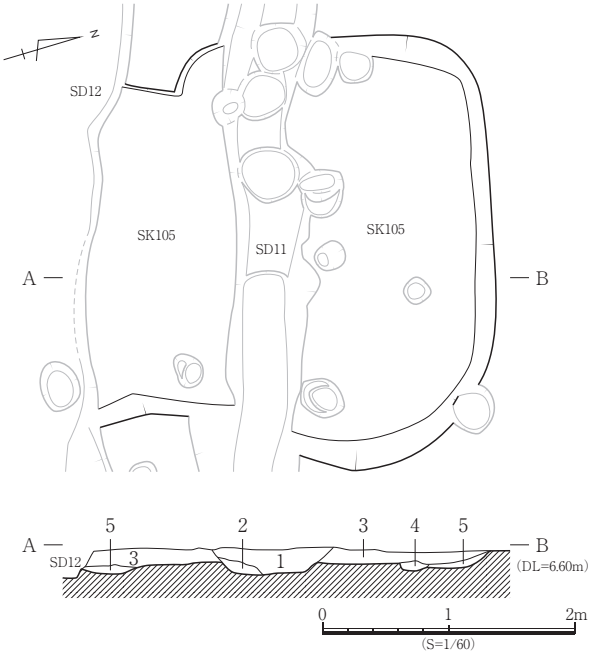


図566　10－1区　SK105，SD11　平面図・断面図

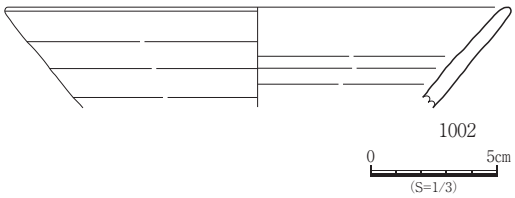


図567　10－1区　SK105　出土遺物実測図

図568　10－2区　SD2・3　断面図

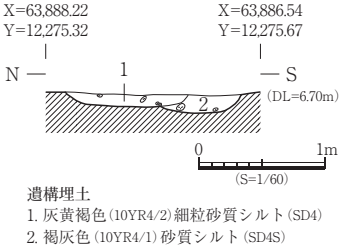


図570　10－2区　SD4　断面図

施す。998は東播系須恵器の捏鉢である。口縁部は肥厚させ，注口を付す。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面にはナデ調整を施す。内底面は荒れる。999は羽釜である。口縁部は内傾させ，口唇部には面取りを施す。口縁部下に断面形が台形の鍔を付す。口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。体部外面はナデ調整を施し，指頭圧痕が認められる。内面にはヨコナデ調整を施す。1000は鍋である。口縁部をごく僅かに外反させ，口唇部には面取りを施す。口縁部外面はヨコナデ調整，内面はヘラナデ調整である。体部外面にはナデ調整を施し指頭圧痕が認められる。内面はナデ調整である。1001は鍋である。口縁部はほぼ直立する。口唇部には面取りを施す。調整等不明瞭である。体部外面には指頭圧痕がみられる。

SK105

SK105は10－1区で検出した土坑である。掘方の平面形は不整長方形か。規模は，長軸の検出長は約3.27m，短軸は2.58～3.45m，深さは10～20cmを測る。埋土は暗褐色シルトを含む細粒砂である。

図示した出土遺物は須恵

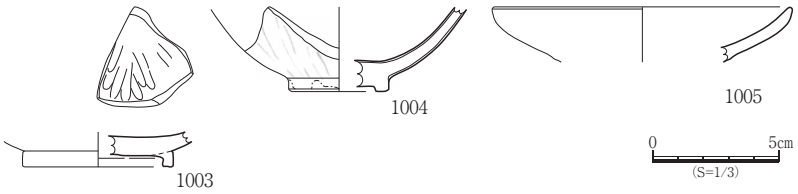


図571　10－2区　SD4　出土遺物実測図

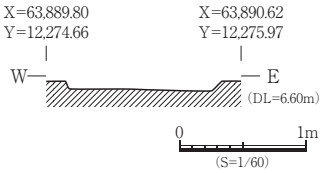


図572　10－2区　SD5
エレベーション図

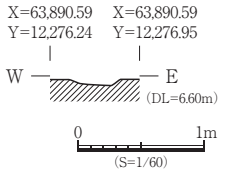


図573　10－2区　SD6
エレベーション図

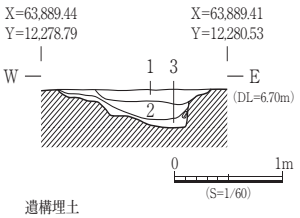


図574　10－2区　SD7　断面図

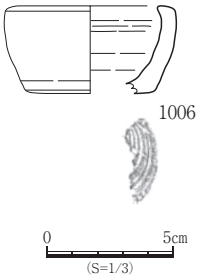


図575　10－2区　SD7
出土遺物実測図

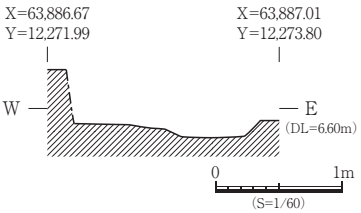


図576　10－2区　SD8　エレベーション図

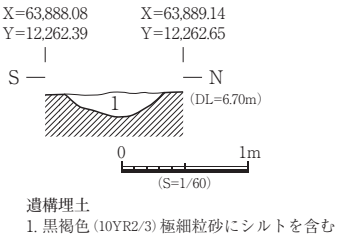


図577　10－1区　SD11　断面図

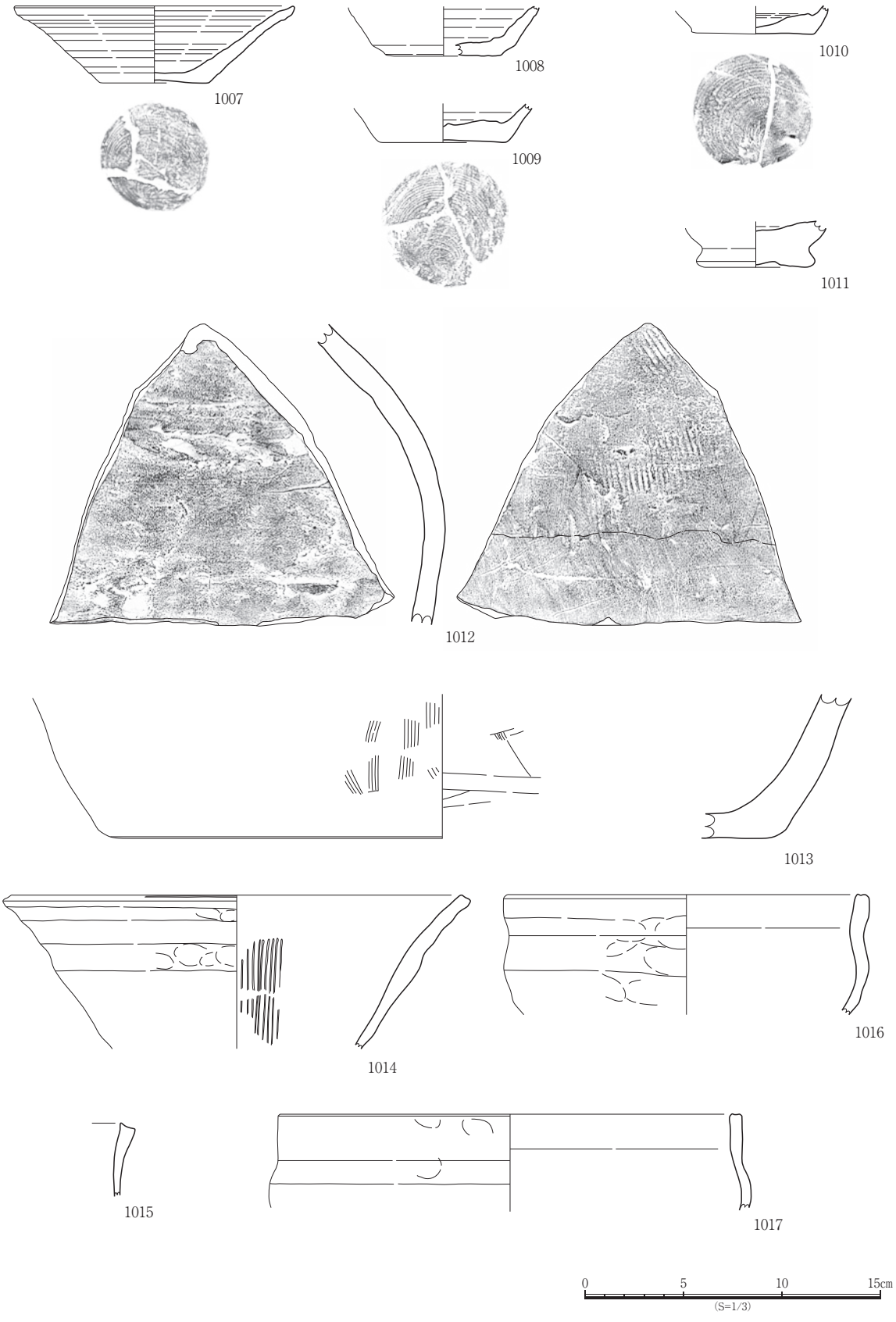


図578　10－1区　SD11　出土遺物実測図

器の杯(1002)である。体部は斜め外方へ大きくひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。

5.SD

SD1

SD1は10－2区で検出した東西方向の溝跡である。SD4・7を切る。幅0.25～0.43mであり，検出長は約3.46mである。主軸方向はN－85°－Wである。検出面からの深さは6～12cmであり，埋土は暗褐色細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD2

SD2は10－2区で検出した南北方向の溝跡である。SD4に切られる。SD3と合流する。幅0.26～0.35mであり，検出長は約3.26mである。南北方向ともに調査区外へのびる。主軸方向はN－10°－Wである。検出面からの深さは4～6cmであり，埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD3

SD3は10－2区で検出した南北方向の溝跡である。SD2と合流する。幅0.34～0.39mであり，検出長は約3.62mである。南北方向ともに調査区外へのびる。主軸方向はN－2°－Wである。検出面からの深さは3～5cmであり，埋土は黒褐色(10YR3/2)粘性シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD4

SD4は10－2区で検出した溝跡である。東西方向から南北方向へ方向を変え，両端とも調査

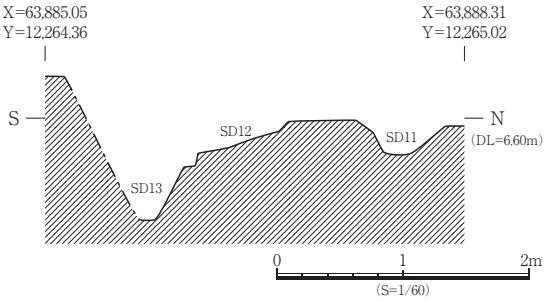


図579　10－1区　SD11～13　エレベーション図

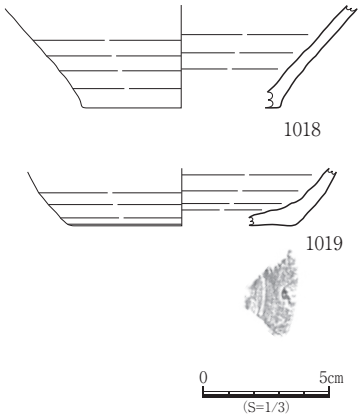


図580　10－1区　SD12　出土遺物実測図

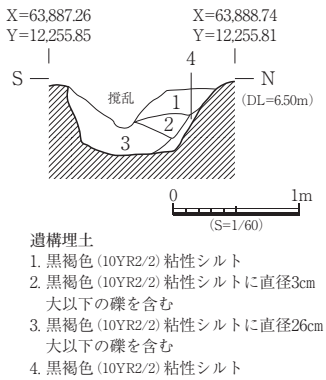


図581　10－1区　SD13　断面図

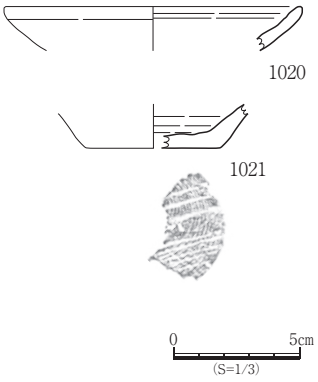


図582　10－1区　SD13
出土遺物実測図

区外へのびると推測される。SD5 ～ SD7 を切り，SD1 に切られる。重複しているものと推測され，詳細については後述する。

図示した出土遺物は土師器の椀(1003)，青磁の碗(1004)，陶器の皿(1005)である。

1003は椀である。外底面には断面形が方形の輪高台を貼り付ける。高台面には段を持つ。外面には回転ナデ調整，内面にはミガキ調整を施す。外底面は回転糸切り痕跡か。1004 は碗である。断面形が方形の低い削り出し高台を持つ。高台は無釉である。外面には鎬蓮弁文がみられる。見込み縁辺部の削り込みは甘い。

SD4S

SD4Sは 10 － 2 区で検出した溝跡である。SD4 と重複する。幅約 0.75m であり，検出長は約 3.12m である。検出面からの深さは10～13㎝であり，埋土は褐灰色(10YR4/1)砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD5

SD5 は 10 － 2 区で検出した南北方向の溝跡である。SD4 に切られる。新旧関係は不明ながらSD6とも一部で重複する。幅1.00～1.25m であり，検出長は約3.96m である。北方向は調査区外へのびる。主軸方向はN－25°－Wである。検出面からの深さは5～9㎝であり，埋土は褐灰色砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

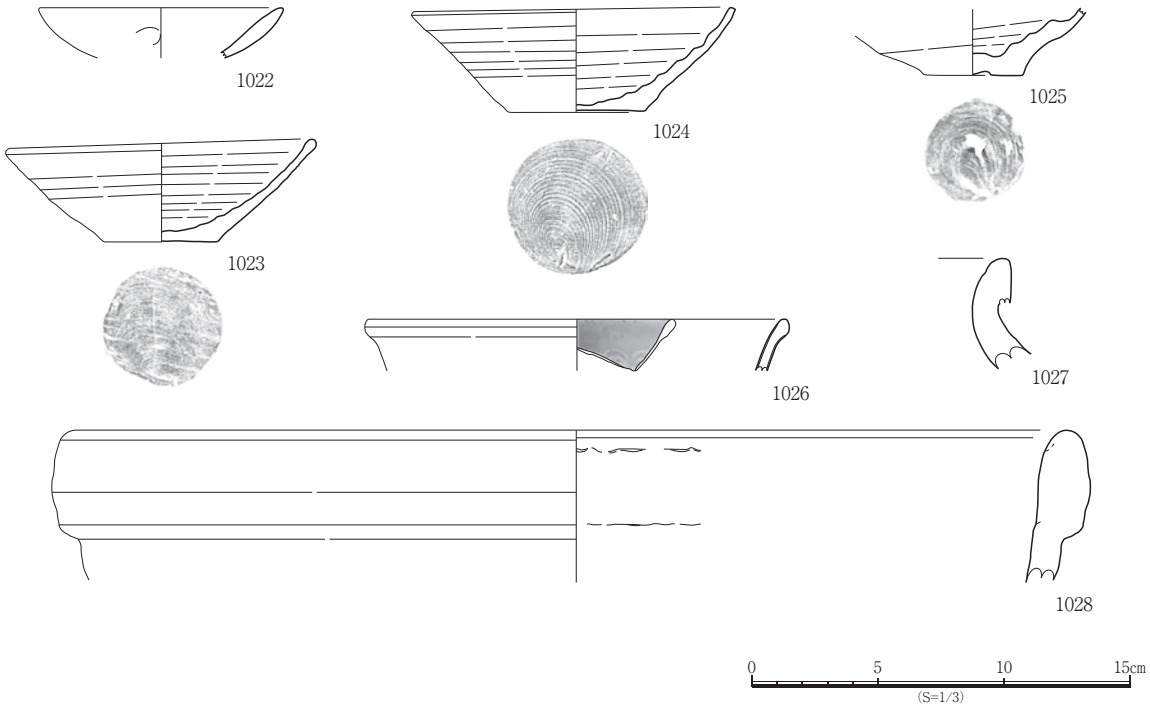


図583　10－1区　SD41　出土遺物実測図

SD6

SD6は10－2区で検出した南北方向の溝跡である。SD4に切られる。新旧関係は不明ながらSD5とも一部で重複する。幅0.33～0.48mであり，検出長は約3.30mである。北方向は調査区外へのびる。主軸方向はN－3°－Wである。検出面からの深さは4～12cmであり，埋土は褐灰色砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD7

SD7は10－2区で検出した南北方向の溝跡である。SD1･4に切られ，SD7Wを切る。幅0.96～1.71mであり，検出長は約6.15mである。南北方向ともに調査区外へのびる。主軸方向はN－6°－Eである。検出面からの深さは9～50cmであり，埋土は黒褐色(7.5YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は用途不明の土師質土器(1006)である。口縁端部は内傾し，口唇部には面取りを施す。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面は回転糸切り痕跡か。

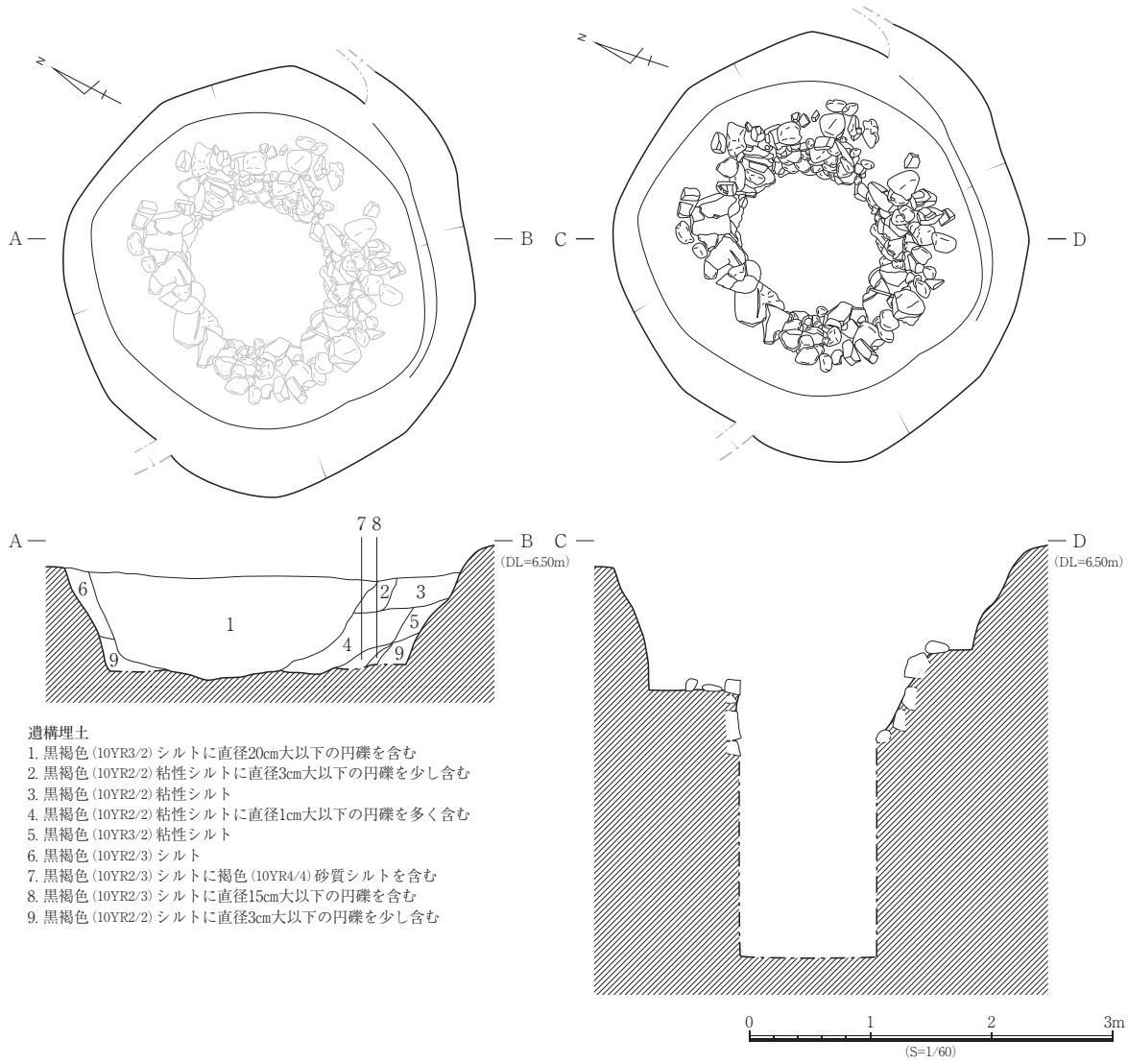


図584　10－1区　SE11，SX11　平面図・断面図・エレベーション図

SD7W

SD7Wは10－2区で検出した南北方向の溝跡である。SD1・4・7に切られる。検出幅は約0.48mであり，検出長は約5.17mである。南北方向ともに調査区外へのびる。主軸方向はN－10°－Eである。検出面からの深さは3～20㎝であり，埋土は黒色(10YR2/1)粘性シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SD8

SD8は10－2区で検出した南北方向の溝跡である。SD4を切る。幅1.09～1.32mであり，検出長は約13.79mである。南北方向ともに調査区外へのび，北方向は10－1区の北辺に沿うと推測される。

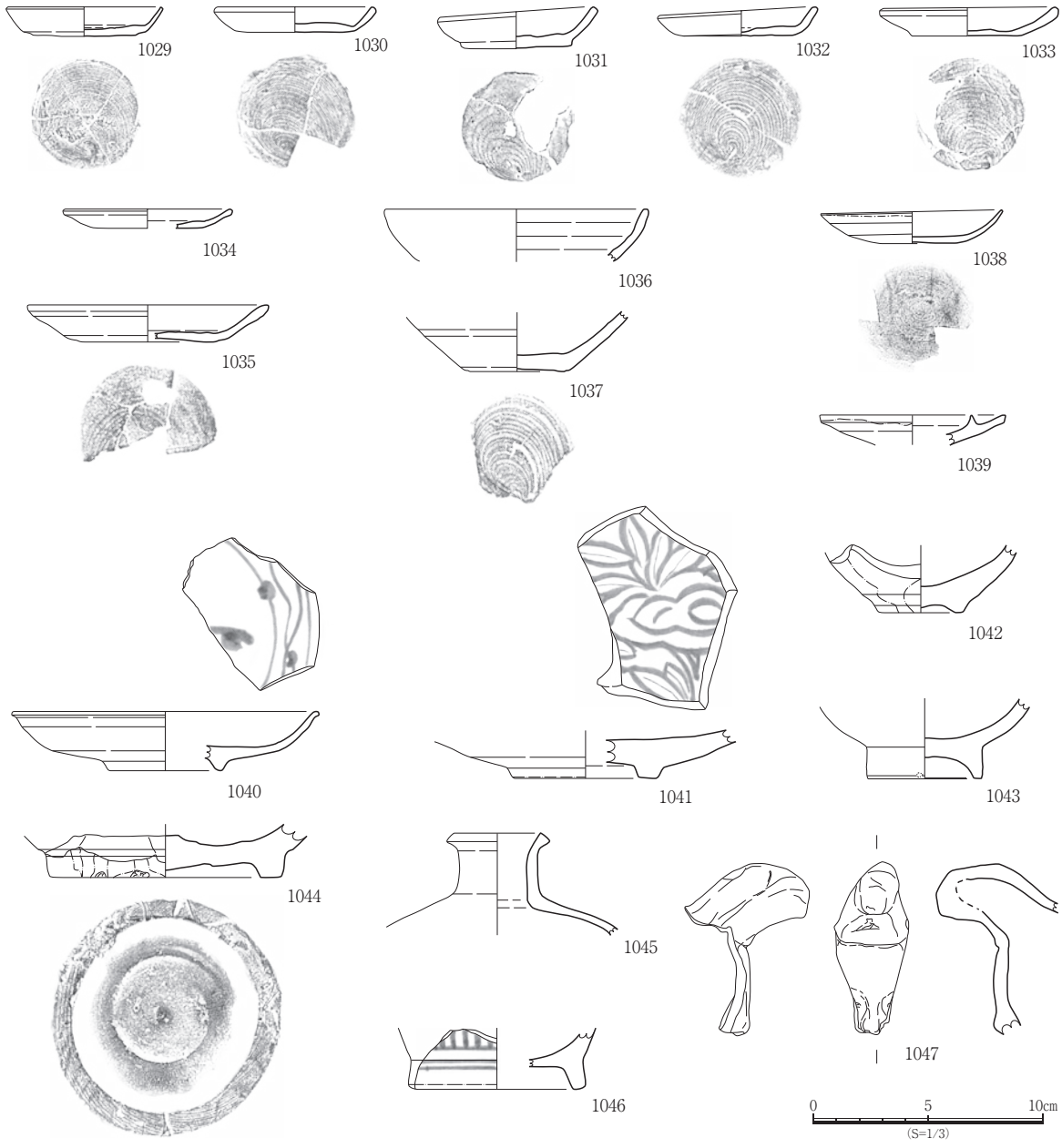


図585　10－1区　SX11　出土遺物実測図_1

主軸方向はN－21°－Wである。検出面からの深さは14～31㎝である。

図示した出土遺物はない。

SD11

SD11は10－1区で検出した東西方向の溝跡である。SK105・SK106を切り，東側は調査区外へのびる。規模は幅0.64～1.03m，検出長は約14.14mを測る。検出面からの深さは8～31㎝であり，埋土はシルト混じる黒褐色極細粒砂である。主軸方向はN－72°－Wである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(1007～1010)・柱状高台(1011)，須恵器の甕(1012)，炻器の甕(1013)，瓦質土器の擂鉢(1014)・鍋(1015～1017)である。

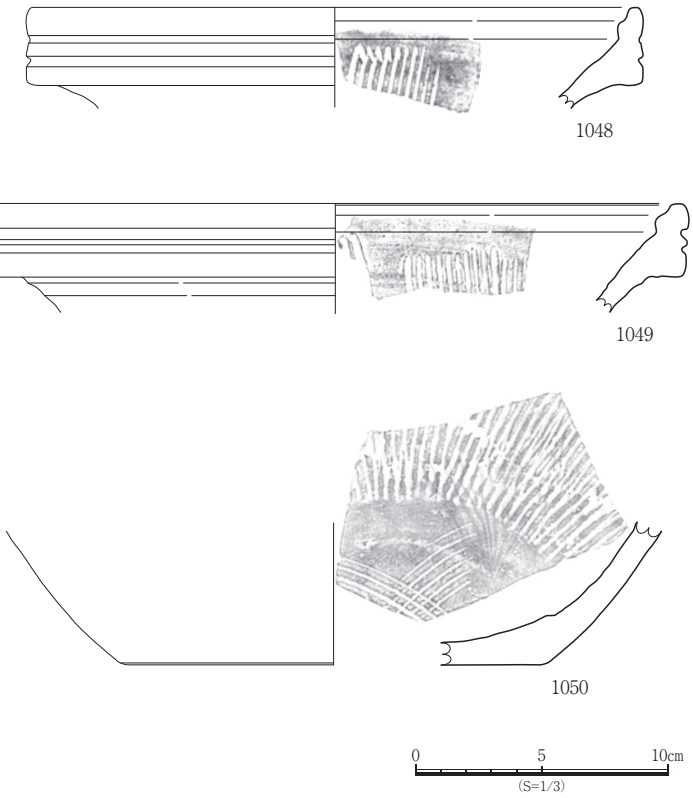


図586　10－1区　SX11　出土遺物実測図_2

1007は杯である。体部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1008は杯である。体部は外上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目が認められる。切離し手法は摩耗のため不明である。1009は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底縁は凹む。外底面は回転糸切り痕跡か。1010は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底央は大きく凹み，内底縁は凹む。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1011は柱状高台である。台部は断面形が台形の低い円柱状を呈し，内面には回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1012は甕である。外面は叩き調整・ヘラナデ調整を施す。内面にはナデ調整を施し，凹凸がみられる。外面には施釉する。1013は甕である。外面はヘラナデ調整，内面はナデ調整である。外底面にはナデ調整を施す。焼成不良か。1014は擂鉢である。体部は斜め上方へのびる。口唇部には面取りを施す。内外面ともに回転ナデ調整・ナデ調整を施す。内面には9条1単位の条線を施す。1015は鍋である。口縁部をごく僅かに外反させる。口唇部には面取りを施し，内端部を僅かに摘み上げる。内外面ともにヨコナデ調整・ナデ調整を施す。シャープな作りである。1016は鍋である。口縁部は直立気味であり，口唇部には面取りを施す。内外面ともにナデ調整である。体部外面には指頭圧痕が認められる。1017は鍋である。口縁部は直立気味である。口唇部には面取りを施し，僅かに凹面状となる。外面にはナデ調整を施し，指頭圧痕が認められる。内面はナデ調整である。

SD12

SD12 は 10 － 1 区で検出した東西方向の溝跡である。SD13 を切る。東側は調査区外へのびる。規模は幅0.77 ～ 0.84m , 深さ 4 ～ 25cm, 検出長は約 12.12m を測る。主軸方向はＮ － 70° － Ｗである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(1018・1019)である。

1018は杯である。体部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施し, 内外面ともにロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1019は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。

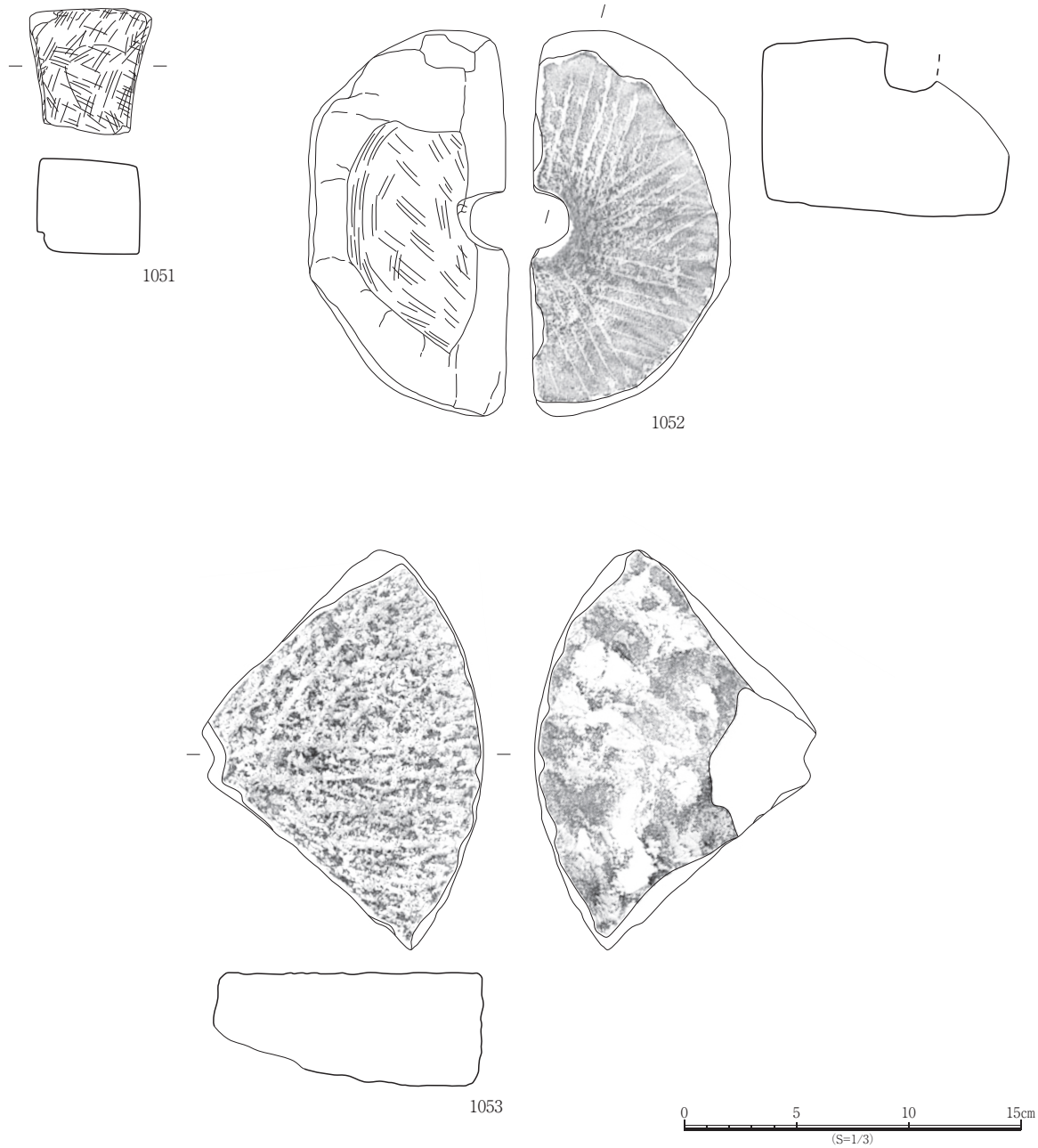


図587　10－1区　SX11　出土遺物実測図_3

SD13

SD13は10－1区で検出した東西方向の溝跡である。両端は調査区外となり確認できていない。上層は現代の撹乱によって大きく削平を受ける。規模は幅1.09～1.32m，深さ53～69㎝，検出長は約13.79mを測る。埋土は直径26㎝大以下の礫を含む黒褐色(10YR2/2)粘性シルト他である。主軸方向はN－74°－Wである。断面形は逆台形を呈する。SD41に次ぐ規模の溝であり，SD41と同様に「堀」と考えられる。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1020)・杯(1021)である。

1020は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。1021は杯である。体部は外上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡・簀状圧痕が認められる。

SD41

SD41は9－3区で検出した溝跡の続きである。規模等については第4節を参照されたい。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1022)・杯(1023～1025)，青磁の碗(1026)，炻器の甕(1027)，備前焼の甕(1028)である。

1022は皿である。口唇部を尖らせる。外面にはヨコナデ調整・ナデ調整を施し，指頭圧痕が認められる。内面にはヨコナデ調整・ナデ調整を施す。1023は杯である。体部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目がみられ，内底面には渦状のロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1024は杯である。体部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内外面ともにロクロ目が

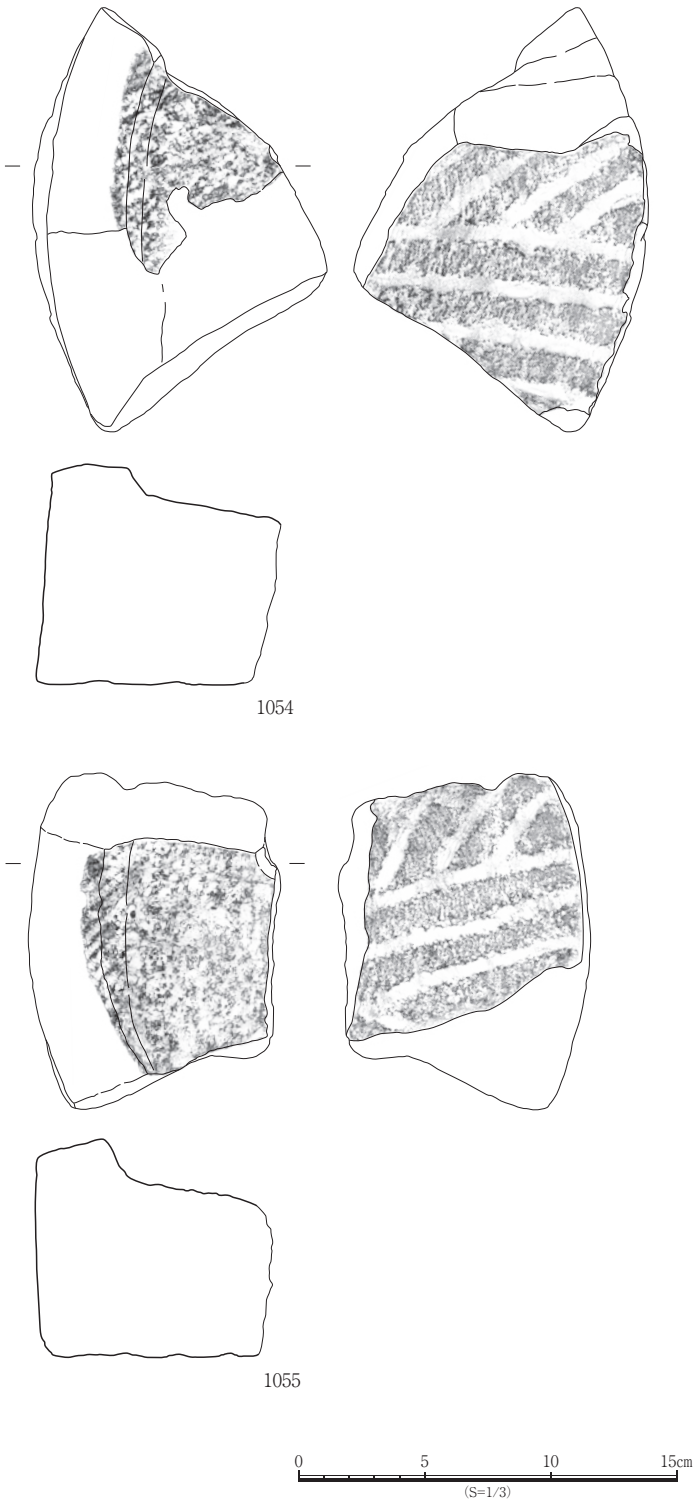


図588　10－1区　SX11　出土遺物実測図_4

みられ，内底面には渦状のロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1025は杯である。体部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面にはロクロ目，内底面には渦状のロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1026は碗である。小さな玉縁状を呈する。内面には文様が認められる。1027は甕である。内外面ともにヘラナデ調整を施す。口縁部内面に1条の凹線がみられる。1028は甕である。口縁部は楕円形の玉縁である。内外面ともにヨコナデ調整を施す。口縁部内面には接合痕跡が認められる。

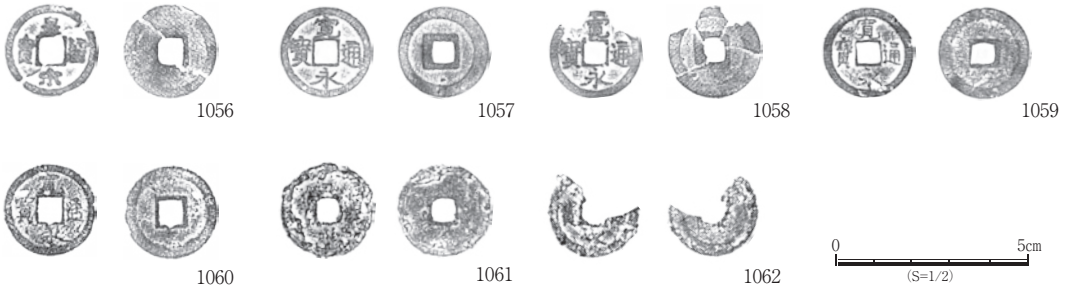
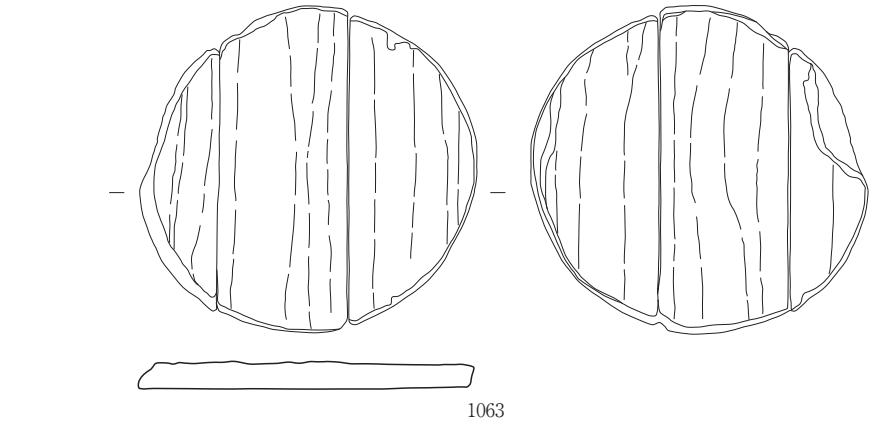


図589　10－1区　SX11　出土遺物実測図_5



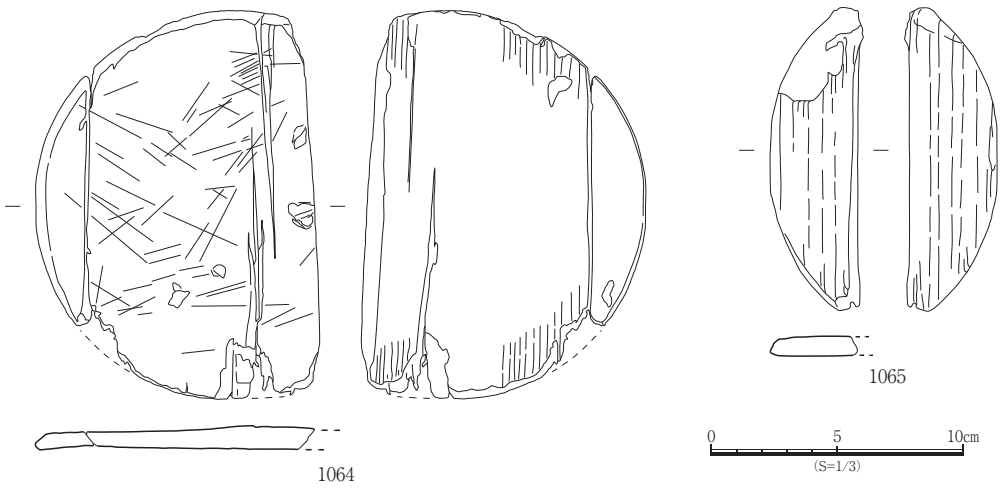


図590　10－1区　SX11　出土遺物実測図_6

6.SE

SE11

SE11は10－1区で検出した石組の井戸跡である。上部をSX11によって削平される。掘方の平面形は不整円形を呈し，直径約3.40mを測る。遺構検出面より約1mまで人力で掘削を行い，その後重機を使用して下層を確認した。湧水により掘方底面まで確認することはかなわなかった。掘方底部

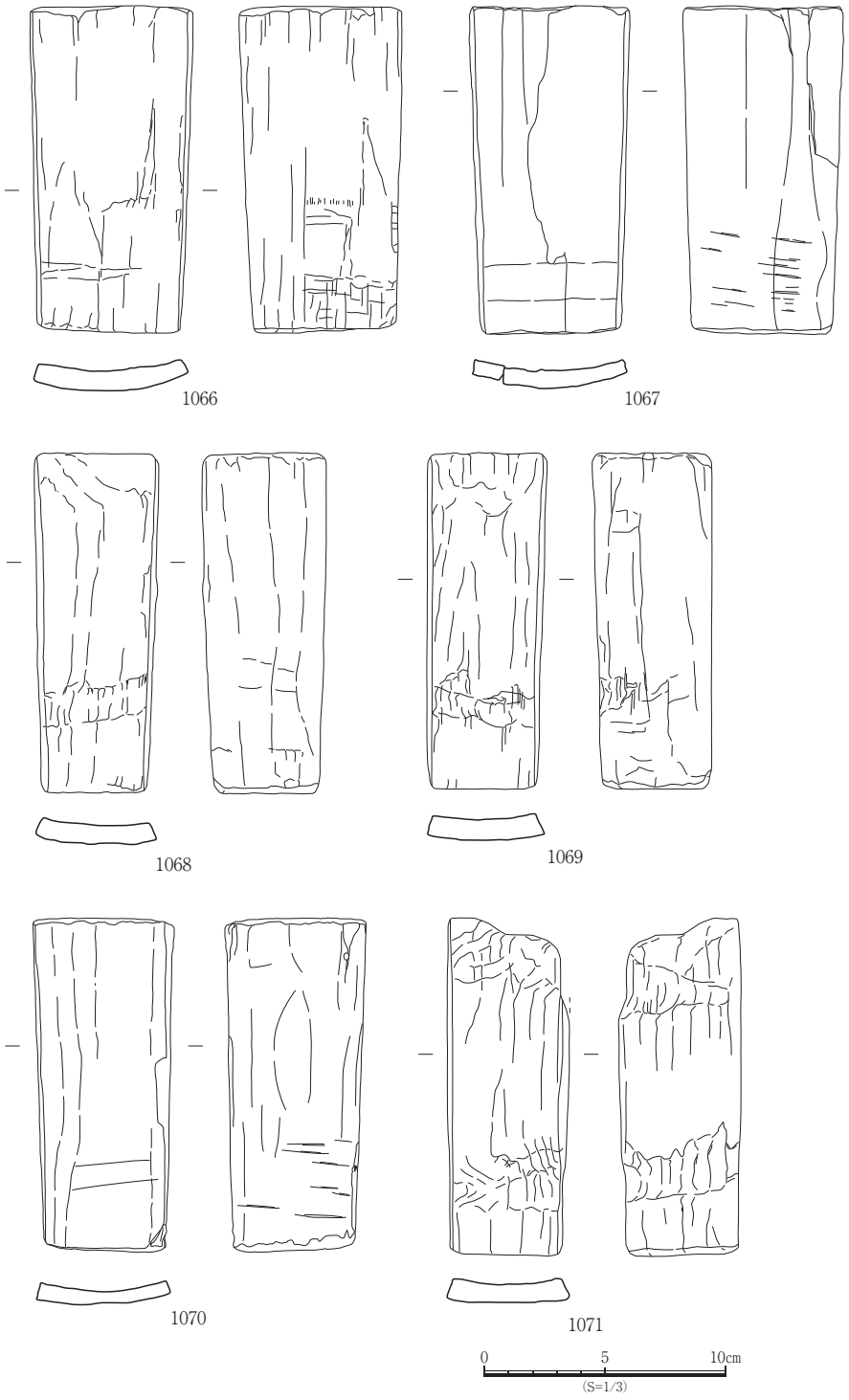


図591　10－1区　SX11　出土遺物実測図_7

付近には有機質を多く含有する黒褐色シルトが堆積し，その上面から石組を組み上げる。底部埋土中からは曲物の部材が出土しているが，井戸に付属するものかは不明である。

石組の石材には自然石が用いられる。石の種類は凝灰岩の円礫とチャートかの角礫で構成される。石の積み方に規則性は認められず，下方から上方へひらくように緩やかな傾斜をつけて積み上げる。検出した石組の高さは約1.00mである。石組の上面は検出面下約0.80mにあり，上部を大きく欠損すると考えられる。残存する最上段の平面形はやや歪んだ長方形を呈し，内法は長軸約1.20m，短軸約1.00mを測る。石組内には黒褐色シルトが堆積する。(綾部)

7.SX

SX11

10－1区で検出した遺構である。SE11の上層に位置する遺構で，SE11の廃絶に伴う廃棄土坑と考えられる。土坑掘方は円形を呈し，井戸掘方とその輪郭をおおよそ揃える。規模は直径約3.60m，深さ約0.85mを測る。埋土は円礫が混じる黒褐色シルトが主に堆積し，下層は粘性が強くなる。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1029～1036)・杯(1037)，陶器の皿(1038・1039)・擂鉢(1050)，磁器の皿(1040・1041)，陶器の碗(1042・1043)・鉢(1044)・瓶(1045)，磁器の瓶(1046)，土製の人形(1047)，備前焼の擂鉢(1048・1049)，砥石(1051)，石臼(1052～1055)，銭貨(1056～1062)，底板(1063～1065)，側板(1066～1071)である。

1029は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1030は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底縁は僅かに凹む。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1031は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部は扁平な円盤状を呈し，外底面は回転糸切り後ナデ調整を施す。灯明皿として使用する。1032は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。灯明皿として使用する。1033は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。灯明皿として使用か。ほぼ完存する。1034は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。灯明皿として使用か。1035は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1036は皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面ロクロ目が認められる。灯明皿として使用か。1037は杯である。体部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1038は皿である。内面は回転ナデ調整，外面は回転ヘラケズリ調整である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。器壁はうすい。灯明皿として使用か。1039は灯明受皿である。ロクロ成形である。外面は無釉である。1040は端反り皿である。ロクロ成形である。畳付には釉ハギを

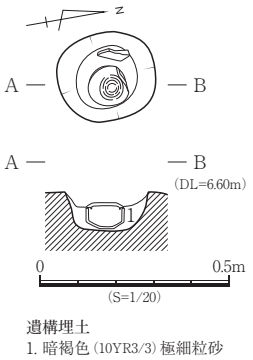


図592　10－1区　P101
平面図・出土遺物状態図・断面図

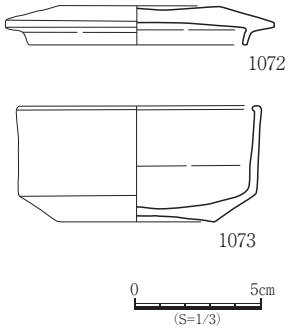


図593　10－1区　P101
出土遺物実測図

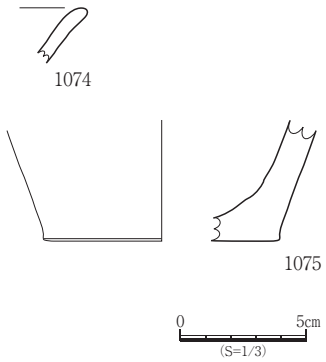


図594　10区　ピット
出土遺物実測図

施す。砂が付着する。内面には染付を施す。1041は皿である。ロクロ成形である。断面形が台形の低い削り出し高台である。畳付には釉ハギを施し，高台内には砂が付着する。内面には片彫りの文様を施す。1042は碗である。ロクロ成形である。断面形が台形の低い削り出し高台である。外面は腰部以下無釉とし，釉垂れが認められる。内面は施釉か。1043は碗である。ロクロ成形である。幅の狭い高い削り出し高台で，畳付には釉ハギを施す。砂が付着する。畳付以外は施釉する。1044は鉢である。ロクロ成形である。断面形が方形の低い削り出し高台であり，畳付には回転糸切り痕跡が認められる。砂が付着する。高台外面には釉垂れがみられる。1046は瓶である。ロクロ成形である。断面形が長方形の削り出し高台が「ハ」の字状を呈する。畳付には釉ハギを施す。外面には染付がみられる。1047は人形の顔の部分である。型押成形である。内面にはナデ調整を施し，指頭圧痕がみられる。烏帽子，目，鼻が認められる。1048は擂鉢である。ロクロ成形である。口縁部は上方へ拡張し，外面には2条の凹線を施す。内面には10条1単位の条線を施す。1049は擂鉢である。ロクロ成形である。口縁部は上方へ拡張し，外面には2条の深い凹線を施す。内面には条線を密に施す。使用頻度は低いか。1050は擂鉢である。ロクロ成形である。内面には条線を密に施す。また，内底面には6条1単位の条線を施す。外面には透明釉を施す。1051は流紋岩製の砥石である。直方体を呈し，断面形は正方形に近い。側面3面を使用しており，使用頻度は高い。1052は砂岩製の茶臼の上臼である。孔，挽き木孔がみられる。臼目10条1単位で8分割か。周縁を故意に破損か。1053は砂岩製の粉挽き臼の下臼の破片である。芯棒孔が認められる。臼目は6条以上1単位か。1054は砂岩製の粉挽き臼であり，上臼の破片である。臼目は幅5㎜とやや太い。1055は砂岩製の粉挽き臼であり，上臼の破片である。供給口がみられる。臼目は幅5㎜とやや太い。1056は皇宋通寶，1062は寛永通寶である。1063は底板である。直径約13㎝の円形であり，3つの板材を組み合わせている。各部材の側面に2箇所ずつ楔を打ち込んで留めている。ほぼ完存する。1064は底板である。直径約16㎝の円形であり，1枚の板材から作られていると推測される。周縁には面取りが施されている。表面には刃物が当たったような痕跡が認められる。半分ちかくは欠損する。1066は側板である。全長約13.7㎝，上端幅約6.7㎝，下端幅約6.0㎝である。内面の下端を削り，厚みを減じている。ほぼ完存する。1067は側板である。全長約13.8㎝，上端幅約6.6㎝，下端幅約5.8㎝である。内面の下端を削り厚みを減じるか，あるいは底板をはめ込んだ時の圧力により凹んでいる。ほぼ完存する。1068は側板である。全長約14.2㎝，上端幅約5.2㎝，下端幅約4.5㎝である。外面は縦方向の加工痕跡がみられる。内面の上端を削る。下端から約4.0㎝上には幅約1.3㎝の帯状に凹みが認められ，下端には幅約1.0㎝の帯状に変色する。ほぼ完存する。1069は側板である。全長約14.1㎝，上端幅約5.0㎝，下端幅約4.5㎝である。内面の上端を削る。下端から約3.5㎝上には幅0.8～10㎝の帯状に凹みが認められる。ほぼ完存する。1070は側板である。全長約14.0㎝，上端幅約5.9㎝，下端幅約5.0㎝である。内面の下端を削る。ほぼ完存する。1071は側板である。全長約14.1㎝，下端幅約4.7㎝である。内面の下端を削る。外面の下端から約3.0㎝上と約11.5㎝上には幅1.5～2.5㎝の帯状に器面が荒れており，タガの痕跡か。

8. ピット

P101

P101 は 10 － 1 区で検出した土器埋納ピットである。掘方の平面形は円形を呈する。規模は直径約 40cm, 深さ約 20cmを測る。ピット中央に蓋物が蓋を伴い正位で据え置かれる。遺構検出作業時に取り除いてしまい確認できなかったが, ピット上部には人頭大の石が据え置かれていたようである。埋

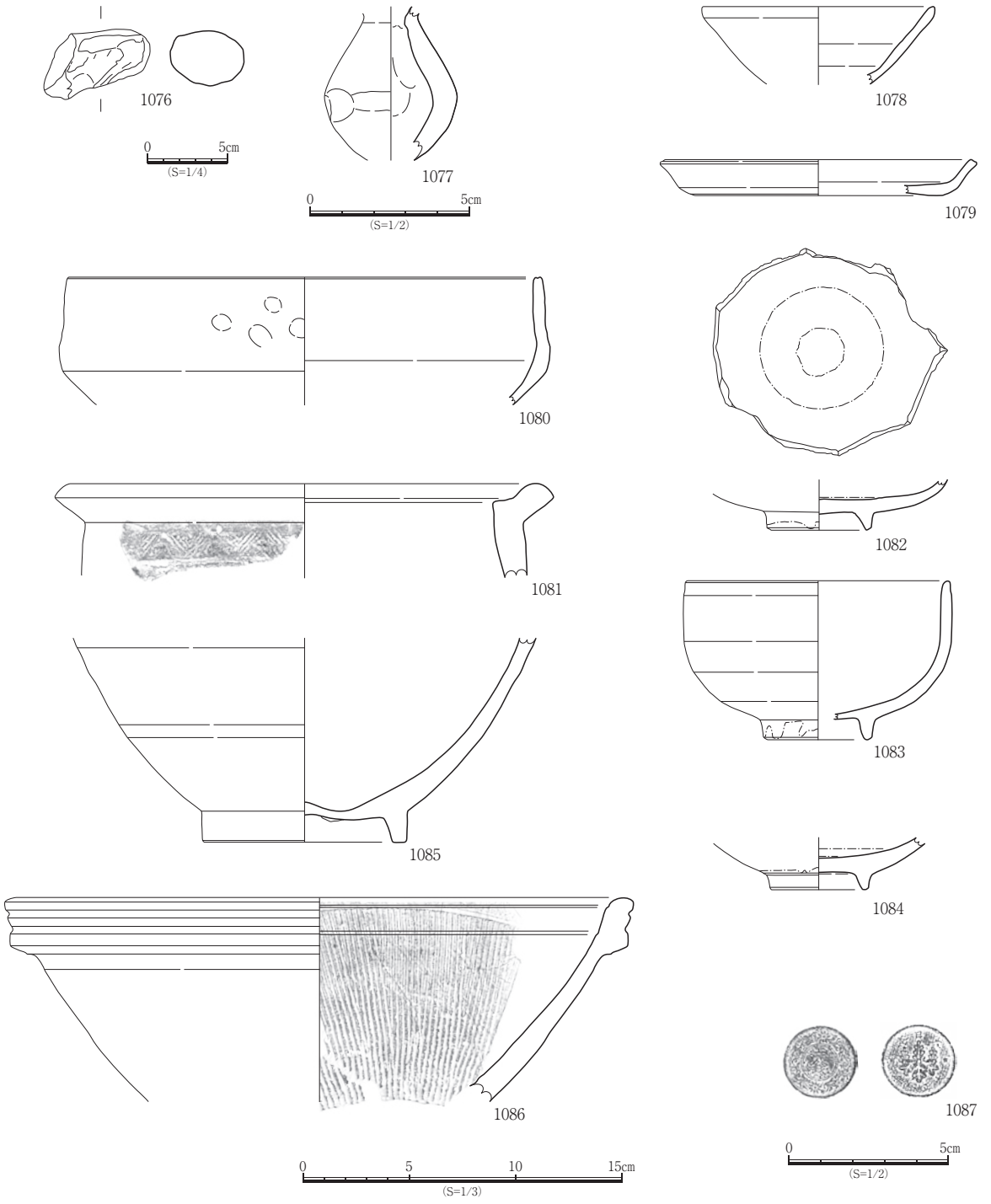


図595　10区　遺構外出土遺物実測図

土は暗褐色極細粒砂である。内容物は確認できなかった。胞衣壺と考えられる。

図示した出土遺物は土師質土器の合子(1072・1073)である。

1072は合子の蓋である。内側にカエリを付す。外面は回転ヘラケズリ，内面は回転ナデ調整である。ほぼ完存する。1073は合子の身である。外面体部は回転ナデ調整を施し，腰部以下には回転ヘラケズリ調整を施す。内面は回転ナデ調整である。ほぼ完存する。1072とセットである。

その他のピット出土遺物

図示した出土遺物は土師質土器の椀(1074)，須恵器の壺(1075)である。

1074は椀である。P33から出土した。摩耗のため，調整等は不明瞭である。1075は壺である。P23から出土した。外面は回転ナデ調整，内面はナデ調整である。外底面にはナデ調整を施す。

9.遺構外出土遺物

図示した出土遺物は土製支脚，ミニチュア土器，土師質土器の杯，須恵器の皿，瓦質土器の鍋・火鉢か，陶器の皿・碗・鉢・擂鉢，銭貨である。

1077は壺形をモデルとしたミニチュア土器である。内外面ともにナデ調整を施し，内面にはしぼり目がみられる。1081は火鉢か。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面には菊花文他のスタンプを施す。1082は鉄釉の皿である。ロクロ成形である。見込みには蛇ノ目釉ハギを施す。高台は無釉である。1086は擂鉢である。ロクロ成形である。口縁部を上方へ拡張し，内外面ともにそれぞれ2条ずつの凹線を施す。内面には条線を密に施す。

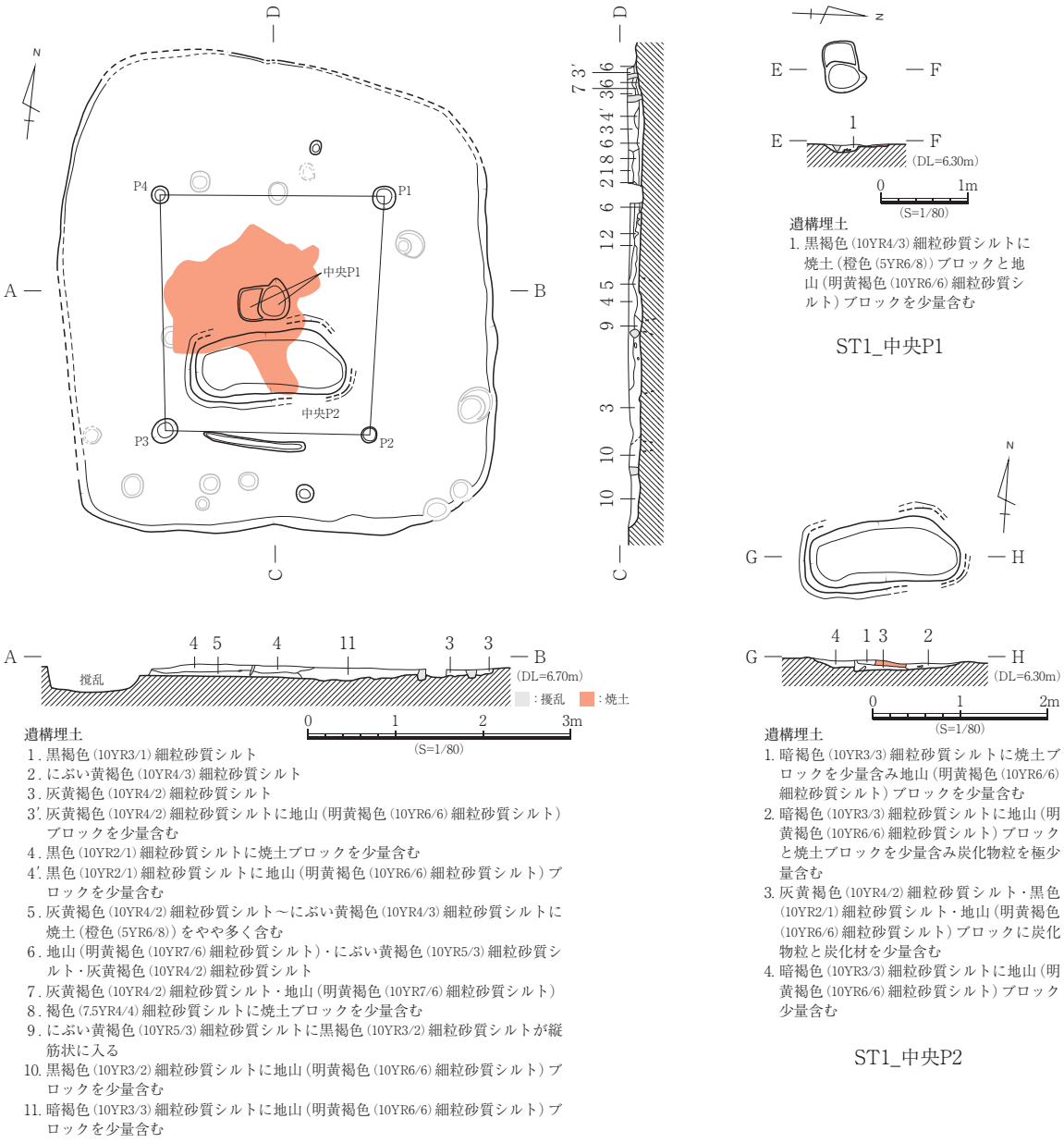
第6節　11区

1.ST

ST1

ST1は11－2区東部で検出した平面形が隅丸長方形の竪穴建物跡である。SD1および撹乱に切られる。長軸約5.34m，短軸約4.90mを測り，床面積は約26.1㎡である。主軸方向はN－9°－Wである。検出面から床面までの深さは約14cmを測り，埋土は灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト他である。

床面では中央ピット(ST1_中央P1・2)，主柱穴(ST1_P1～4)，小溝等を検出した。中央ピット(ST1_中央P1)は床面中央部で検出した。長軸約0.46m，短軸約0.35mの不整楕円形を呈する。床面からの深さは約9㎝であり，埋土は黒褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトである。中央ピット(ST1_中央P2)は



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト
2. にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルト
3. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト
3′. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む
4. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに焼土ブロックを少量含む
4′. 黒色(10YR2/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む
5. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト～にぶい黄褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトに焼土(橙色(5YR6/8))をやや多く含む
6. 地山(明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルト)・にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂質シルト・灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト
7. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト・地山(明黄褐色(10YR7/6)細粒砂質シルト)
8. 褐色(7.5YR4/4)細粒砂質シルトに焼土ブロックを少量含む
9. にぶい黄褐色(10YR5/3)細粒砂質シルトに黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトが縦筋状に入る
10. 黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む
11. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む

遺構埋土
1. 黒褐色(10YR4/3)細粒砂質シルトに焼土(橙色(5YR6/8))ブロックと地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む

遺構埋土
1. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに焼土ブロックを少量含み地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む
2. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックと焼土ブロックを少量含み炭化物粒を極少量含む
3. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト・黒色(10YR2/1)細粒砂質シルト・地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックに炭化物粒と炭化材を少量含む
4. 暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロック少量含む

図596　11－2区　ST1　平面図・断面図

床面中央南よりで検出した。長軸約 1.72m，短軸約 0.70m の不整隅丸長方形を呈する。周囲には高さ約 1 ㎝の土手状の高まりがみられた部分がある。床面からの深さは約 15 ㎝であり，埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト他である。床面中央には焼土が分布していた。主柱穴(ST1_P1 ～ 4)は壁から約 1.00m 内側の四隅に配置されている。直径 20 ～ 40 ㎝の円形から不整円形を呈し，床面からの深さは 19 ～ 36㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。小溝は幅約 10㎝，床面からの深さは約 1 ㎝を測る。検出長は約 1.18m である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。主柱穴ST1_P2 とST1_P3 を連結するものと推測される。

図示した出土遺物は弥生土器の壺(1088)・甕(1089 ～ 1091)・鉢(1092・1093)・底部(1094 ～ 1096)，ミニチュア土器(1097・1098)，叩石(1099・1100)である。

1088 は壺である。口縁部は大きく外反し，口唇部は凹面状を呈する。口縁部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はハケ調整である。1089 は甕である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はヨコナデ調整・ヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はナデ調整である。搬入品と考えられる。1090 は甕である。口縁部は「く」の字状を呈し，口唇部はハケ状原体による面取りを施す。口縁部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はヨコハケ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はナデ調整である。1091 は甕である。口縁部は緩やかな「く」の字状を

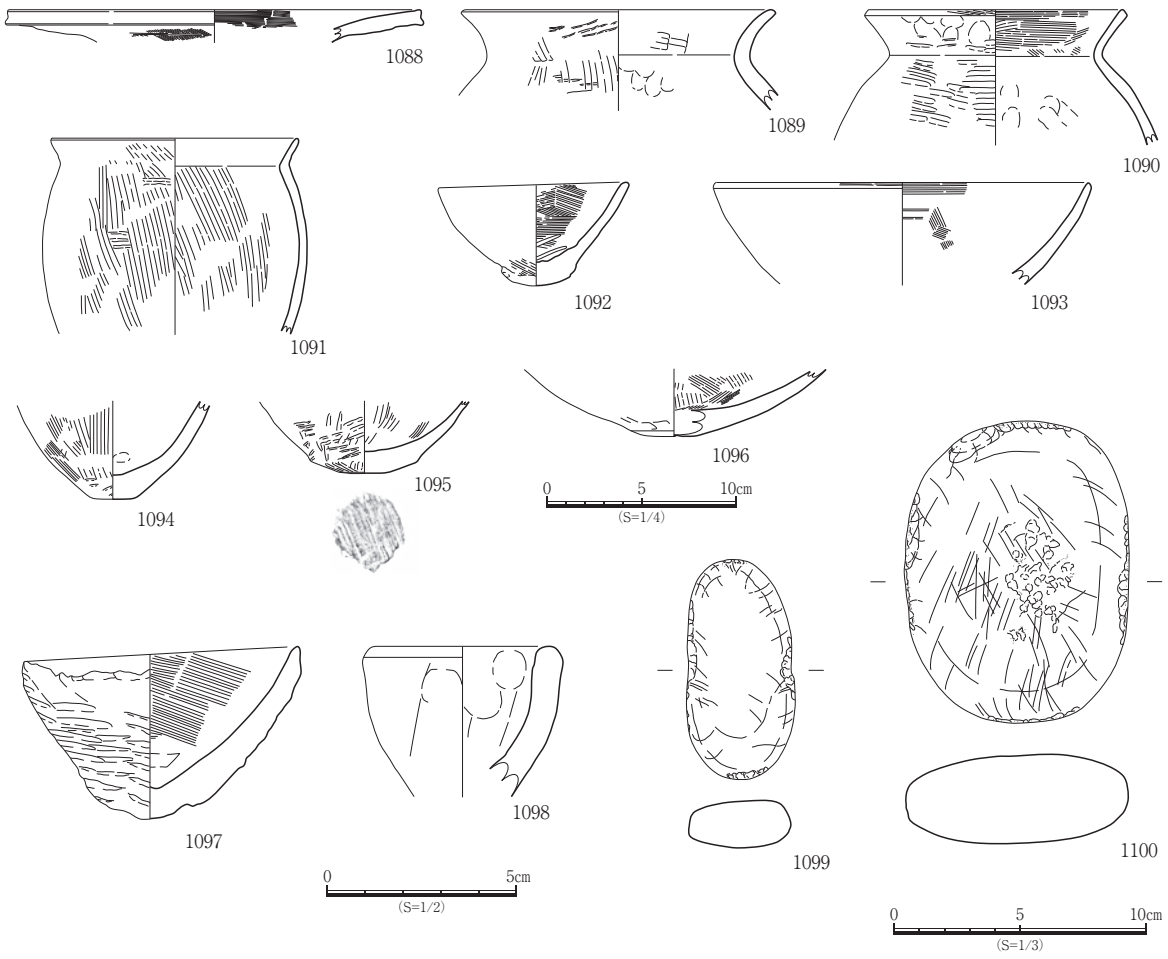


図597　11－2区　ST1　出土遺物実測図

呈する。口縁部外面はハケ調整後ヨコナデ調整を施し，内面はヨコナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ハケ調整，内面はハケ調整である。1092は鉢である。体部は半球形を呈する。丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整・ヘラナデ調整である。全体的に雑なつくりで歪む。1093は鉢である。口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。体部外面はナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整・ヘラナデ調整である。1094 は角の取れた平底の底部である。外底面はナデ調整である。体部外面は叩き調整後タテハケ調整，内面はナデ調整である。また，内底面には指頭圧痕がみられる。1095は丸底の底部である。外底面には叩き調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整であり，内底面には指頭圧痕がみられる。1096 は丸底の底部である。外底面にはナデ調整を施す。体部外面はナデ調整，内面はハケ調整である。1097 は鉢形をモデルとしたミニチュア土器である。丸底で外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はヘラナデ調整・ハケ調整である。外面にはキレツがみられる。ほぼ完存する。1098 は鉢形をモデルとしたミニチュア土器である。手捏ね成形である。廃棄後に二次被熱を受ける。1099は砂岩製の叩石である。扁平な長楕円形の礫を利用する。短辺側および長辺側に敲打痕がみられる。完存する。1100 は砂岩製の叩石である。扁平な楕円形の礫を利用する。両面の中央部，短辺側，長辺側に敲打痕がみられる。完存する。

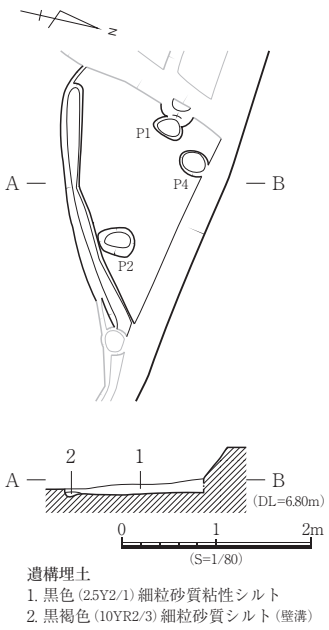


図598　11－3区　ST11
平面図・断面図

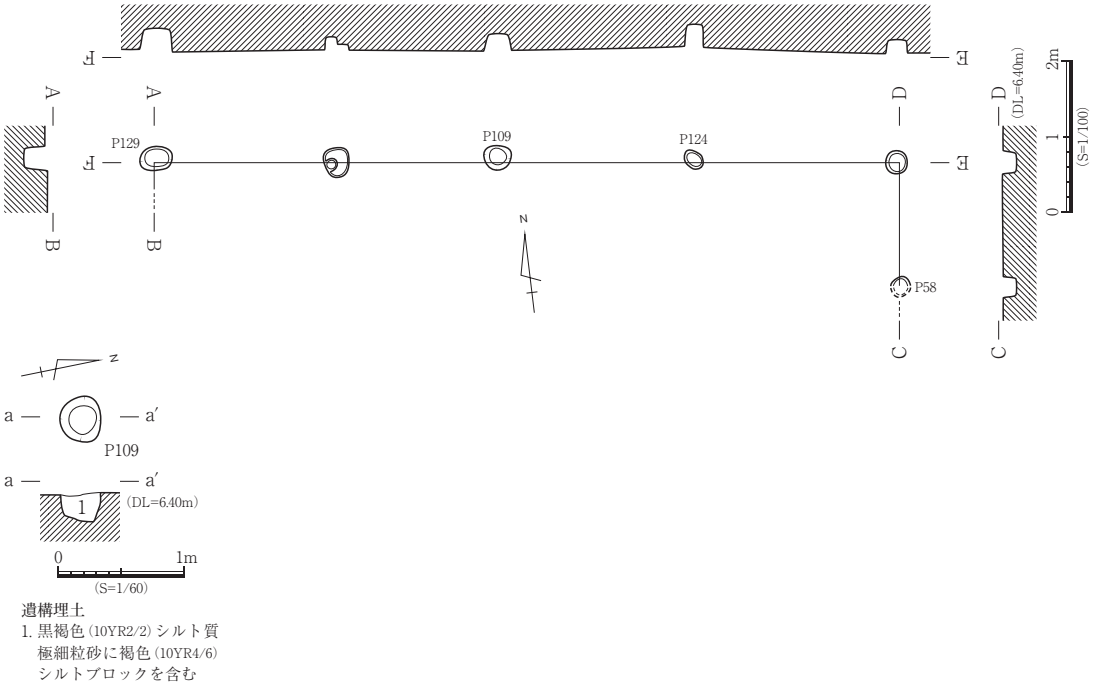


図599　11－2区　SB1　平面図・断面図・エレベーション図

ST11

ST11は11－3区で検出した竪穴建物跡である。西側をSK43・49によって削平され，建物北側の大部分は調査区外となる。検出した規模は東西約2.36m，南北約1.66m，深さ約11㎝を測る。埋土は黒色(2.5Y2/1)細粒砂質粘性シルトである。

床面で壁溝，ピットを検出した。壁溝は幅約16㎝，深さ約3㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。ピットは3基(P1・2・4)を検出した。ST11_P1は長軸約33㎝，短軸約22㎝の不整形を呈する。床面からの深さは約13㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質粘性シルトである。ST11_P2は長軸約38㎝，短軸約30㎝の不整形を呈する。床面からの深さは約15㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂質粘性シルトである。ST11_P4は長軸約30㎝，短軸約26㎝の楕円形を呈する。床面からの深さは約9㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/3)細粒砂質シルトである。いずれのピットも主柱穴であるかどうかは不明である。

図示した出土遺物はない。(綾部)

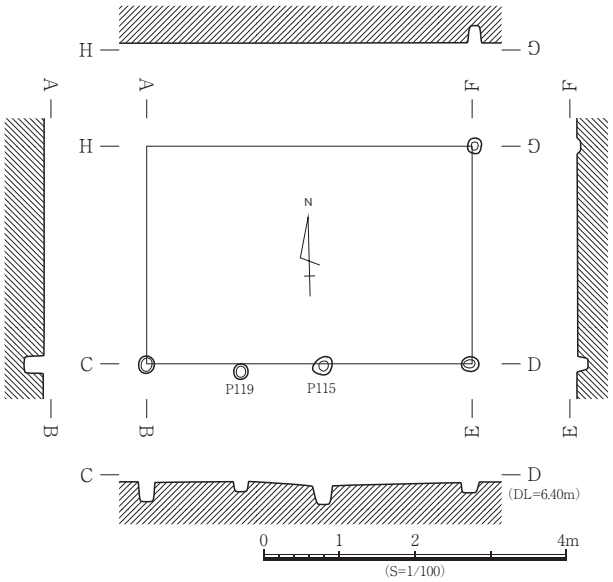


図600　11－2区　SB2　平面図・エレベーション図

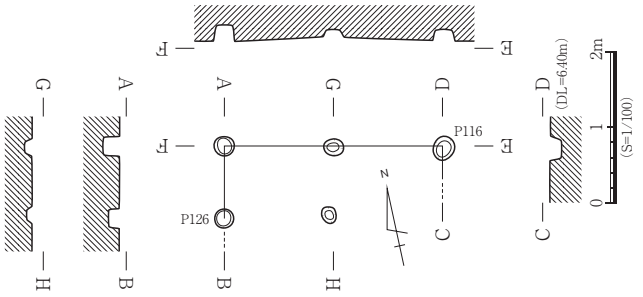


図601　11－2区　SB3　平面図・エレベーション図

2.SB

SB1

SB1は11－2区西部で検出した掘立柱建物跡である。桁行4間(約9.85m)，梁行1間(約1.62m)以上を検出した。主軸方向を東西棟とした場合はN－83°08′－Wである。P58・P109・P124・P129他で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは8～31㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/2)シルト質細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SB2

SB2は11－2区西部で検出した桁行3間(約4.30m)，梁行1間(約2.87m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約12.3㎡である。主軸方向はN－88°31′－Wである。P115・P119他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整円形であり，検出面からの深さは4～29㎝である。

図示した出土遺物はない。

SB3

SB3は11－2区西部で検出した桁行2間(約2.88m)，梁行1間以上(約0.95m)の東西棟の掘立柱建物跡である。主軸方向はN－77°48′－Wである。P116・P126他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整円形であり，検出面からの深さは11～21cmである。

図示した出土遺物はない。

SB4

SB4は11－2区西部で検出した桁行2間(約4.63m)，梁行2間(約4.49m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約20.7㎡である。主軸方向はN－83°40′－Wである。P3他で構成される。柱穴は直径30～50cmの不整形であり，検出面からの深さは4～41cmである。埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

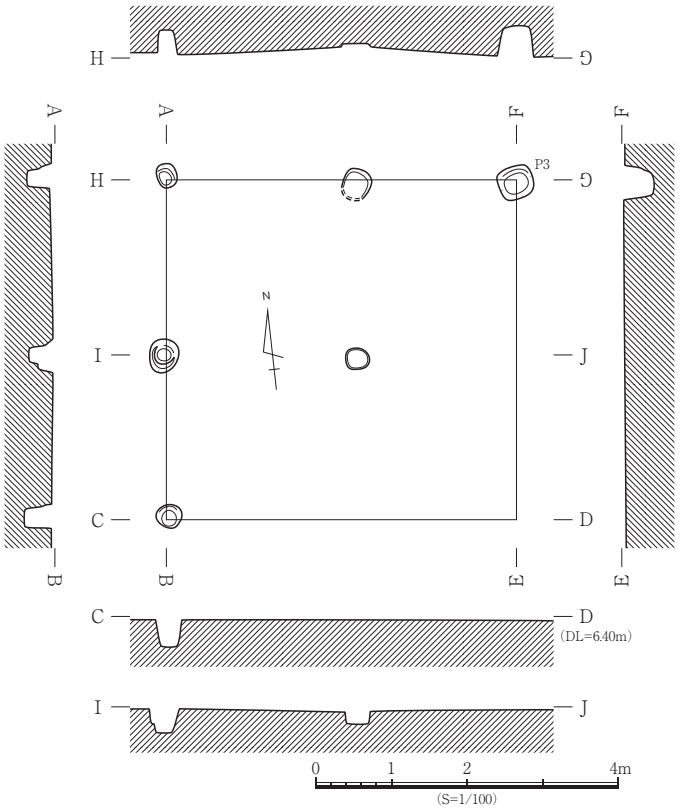


図602　11－2区　SB4　平面図・エレベーション図

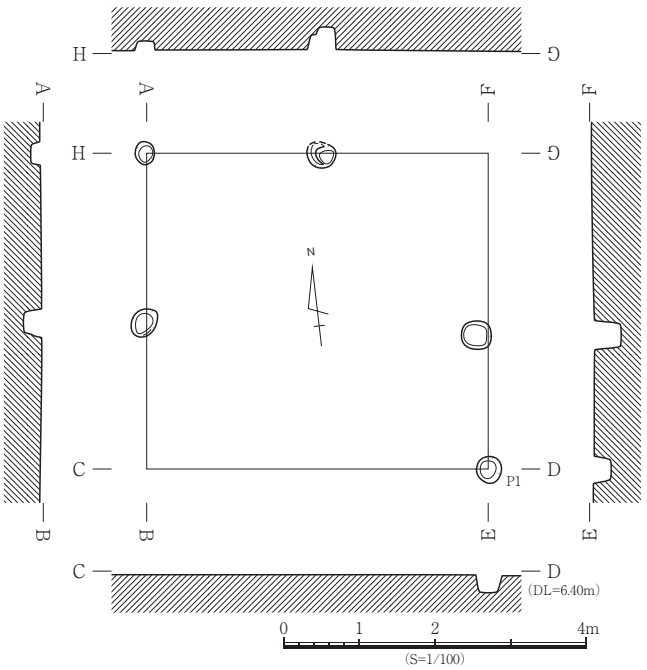


図603　11－2区　SB5　平面図・エレベーション図

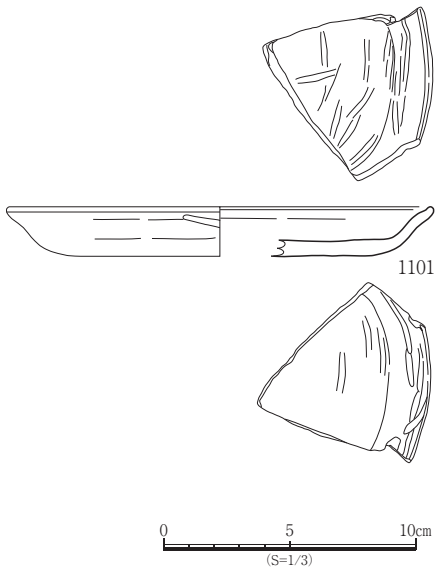


図604　11－2区　SB5　出土遺物実測図

SB5

SB5は11－2区西部で検出した桁行2間(約4.51m)，梁行2間(約4.17m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約18.8㎡である。主軸方向はN－83°23′－Wである。P1他で構成される。柱穴は直径30～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは12～34㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物は土師器の皿(1101)であり，P1から出土した。口縁部は外上方へ緩やかに屈曲してのびる。口縁部内面は僅かに凹む。内外面ともに回転ナデ調整後ヘラミガキ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ヘラミガキ調整を施す。

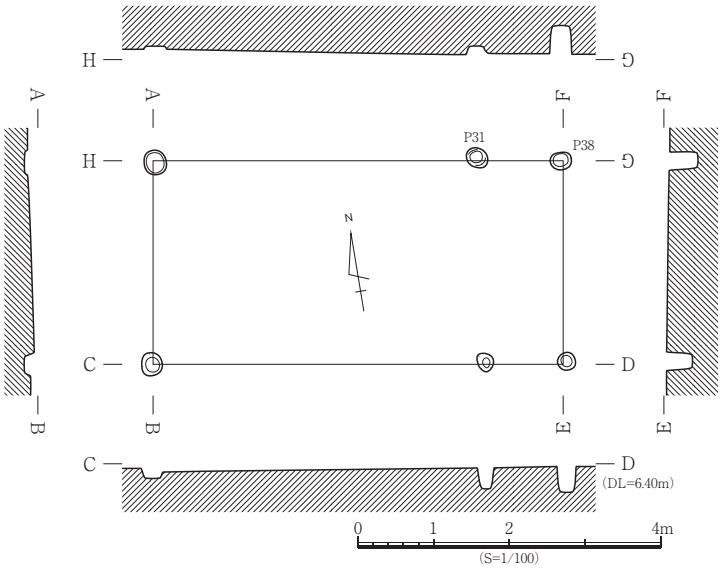


図605　11－2区　SB6　平面図・エレベーション図

図606　11－2区　SB7　平面図・エレベーション図

SB6

SB6は11－2区西部で検出した桁行2間(約5.42m)，梁行1間(約2.69m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約14.5㎡である。主軸方向はN－80°35′－Wである。P31・P38他で構成される。柱穴は直径約30㎝の不整円形であり，検出面からの深さは4～38㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB7

SB7は11－2区で検出した桁行4間(約8.17m)，梁行2間(約2.87m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約23.4㎡である。主軸方向はN－78° 24′－Wである。P13・P24・P39・P54・P67他で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは6～17㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB8

SB8は11－2区で検出した桁行2間(約4.50m)，梁行1間(約1.82m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，

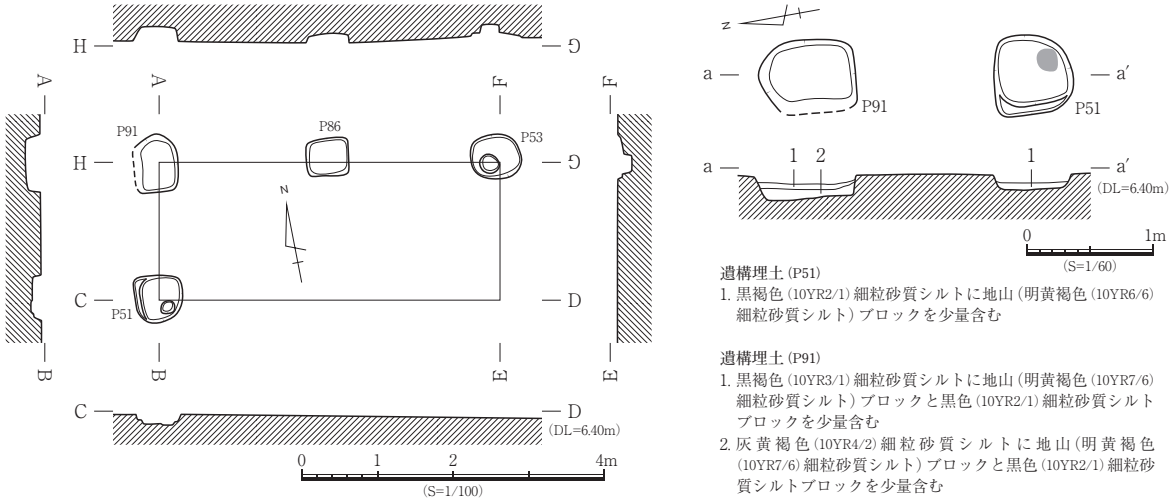


図607　11－2区　SB8　平面図・断面図・エレベーション図

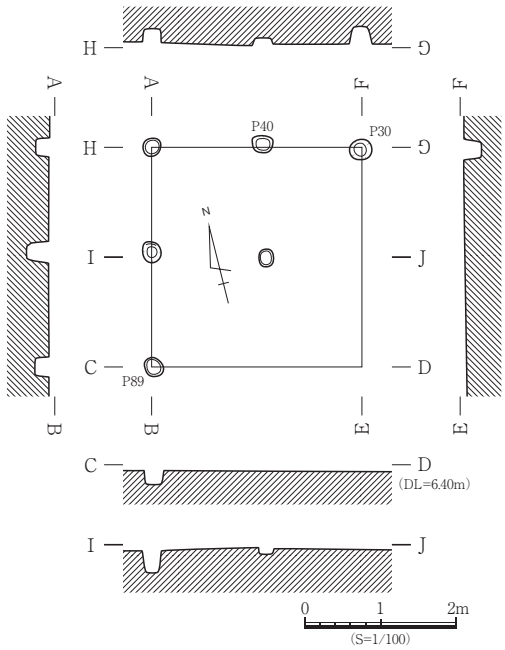


図608　11－2区　SB9
平面図・エレベーション図

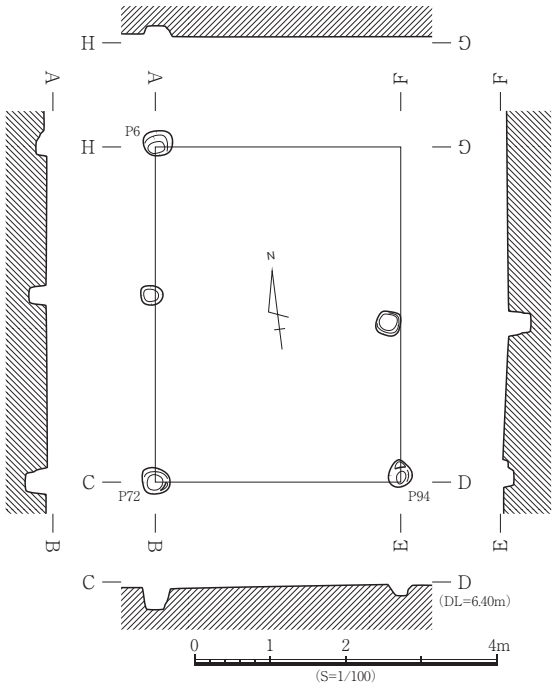


図609　11－2区　SB10　平面図・エレベーション図

床面積は約8.1㎡である。主軸方向はN－79°00′－Wである。P51・P53・P86・P91で構成される。柱穴は一辺60～70㎝の隅丸方形を指向し，検出面からの深さは10～19㎝である。埋土は黒褐色(10YR2/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB9

SB9は11－2区西部で検出した桁行2間(約2.90m)，梁行2間(約2.78m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約8.0㎡である。主軸方向はN－14°01′－Eである。P30・P40・P89他で構成される。柱穴は直径20～30㎝の不整円形であり，検出面からの深さは10～29㎝である。埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB10

SB10は11－2区東部で検出した桁行2間(約4.43m)，梁行1間(約3.24m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約14.3㎡である。主軸方向はN－7°12′－Eである。P6・P72・P94他で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは13～30㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

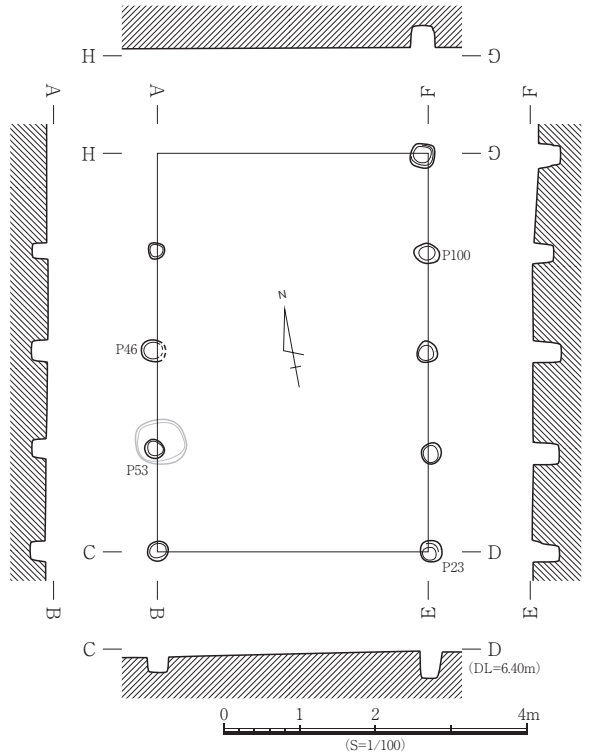


図610　11－2区　SB11　平面図・エレベーション図

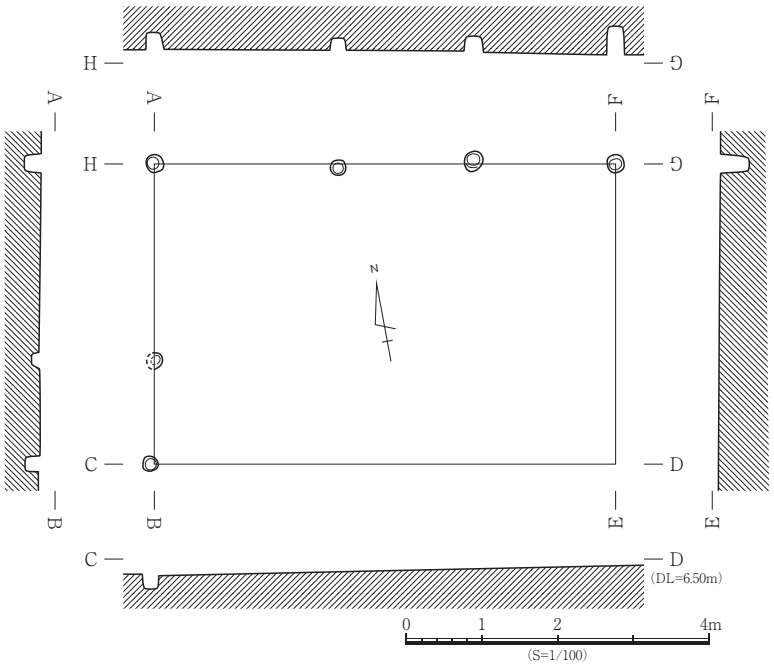


図611　11－2区　SB12　平面図・エレベーション図

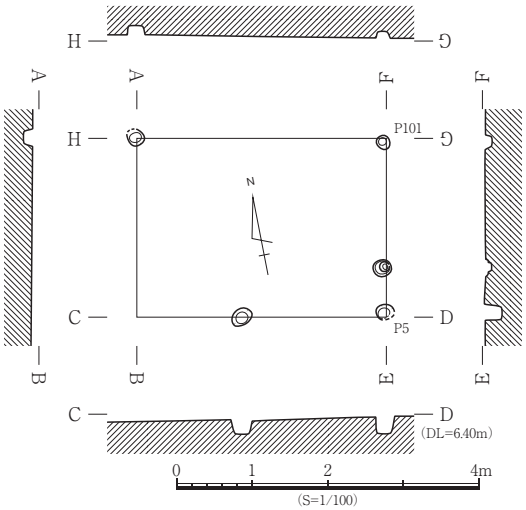


図612　11－2区　SB13
平面図・エレベーション図

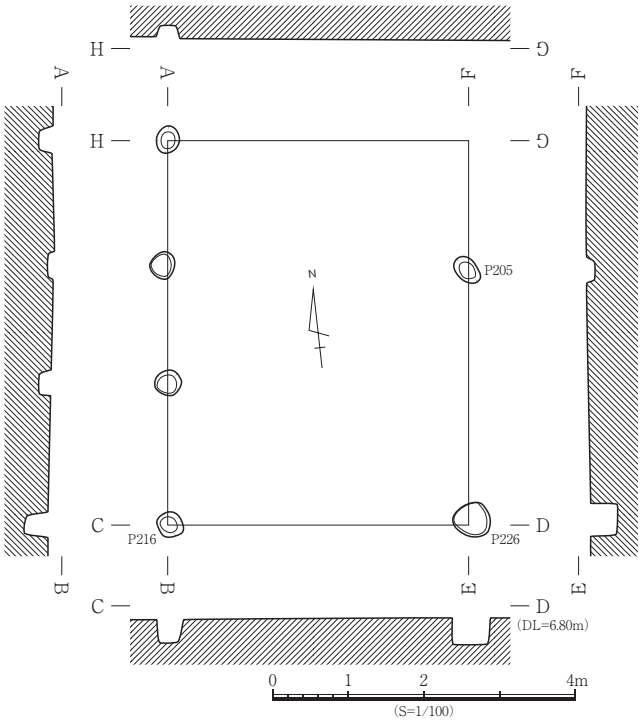


図613　11－3区　SB14　平面図・エレベーション図

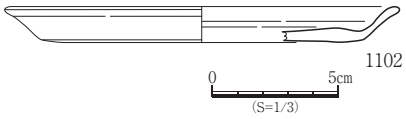


図614　11－3区　SB14　出土遺物実測図

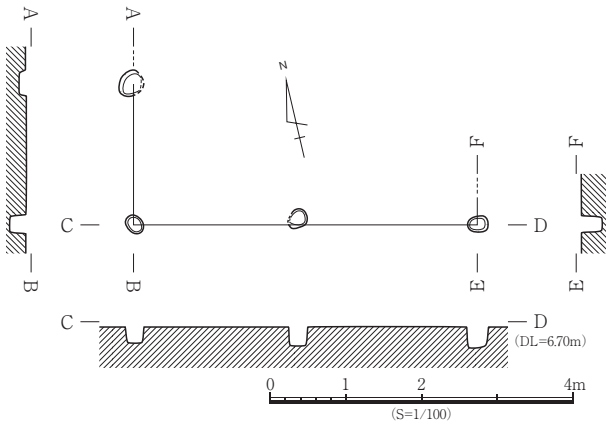


図615　11－3区　SB15　平面図・エレベーション図

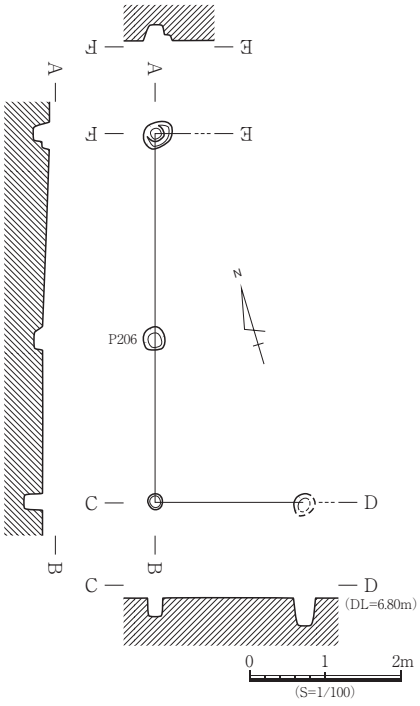


図616　11－3区　SB16
平面図・エレベーション図

図示した出土遺物はない。

SB11

SB11は11－2区東部で検出した桁行4間(約5.27m)，梁行1間(約3.58m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約18.8㎡である。主軸方向はN－10°34′－Eである。P23・P46・P53・P100他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは18～37cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

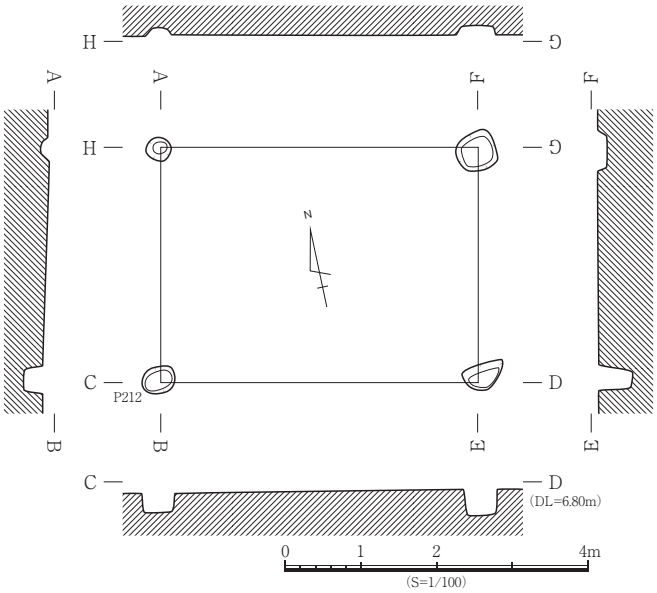


図617　11－3区　SB17　平面図・エレベーション図

SB12

SB12は11－2区東部で検出した桁行3間(約6.10m)，梁行2間(約3.96m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約24.1㎡である。主軸方向はN－79°30′－Wである。柱穴は直径20～30cmの不整円形であり，検出面からの深さは10～38cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB13

SB13は11－2区東部で検出した桁行2間(約3.29m)，梁行2間(約2.36m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約7.7㎡である。主軸方向はN－78°59′－Wである。P5・P101他で構成される。柱穴は直径20～30cmの不整形であり，検出面からの深さは5～20cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB14

SB14は11－3区で検出した桁行3間(約5.08m)，梁行1間(約3.97m)の南北棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約20.1㎡である。主軸方向はN－6°22′－Eである。P205・P216・P226他で構成される。柱穴は直径30～50cmの不整形であり，検出面からの深さは9～42cmである。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質粘性シルト他である。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1102)であり，P226から出土した。口縁部は外上方へのびる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面はナデ調整である。切離し手法は回転ヘラ切りか。

SB15

SB15は11－3区で検出した掘立柱建物跡である。桁行1間以上(約1.86m)，梁行2間(約4.54m)を検出した。主軸方向を南北棟とした場合はN－13°06′－Eである。柱穴は直径20～30cmの不整形であ

り，検出面からの深さは17～35㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質粘性シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB16

SB16は11－3区で検出した掘立柱建物跡である。桁行2間(約4.87m)，梁行1間以上(約1.95m)を検出した。主軸方向を南北棟とした場合はN－16°34′－Eである。P206他で構成される。柱穴は直径20～40㎝の不整形であり，検出面からの深さは19～45㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質粘性シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SB17

SB17は11－3区で検出した桁行1間(約4.19m)，梁行1間(約3.11m)の東西棟の掘立柱建物跡であり，床面積は約13.0㎡である。主軸方向はN－78°01′－Wである。P212他で構成される。柱穴は直径30～50㎝の不整形であり，検出面からの深さは13～20㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質

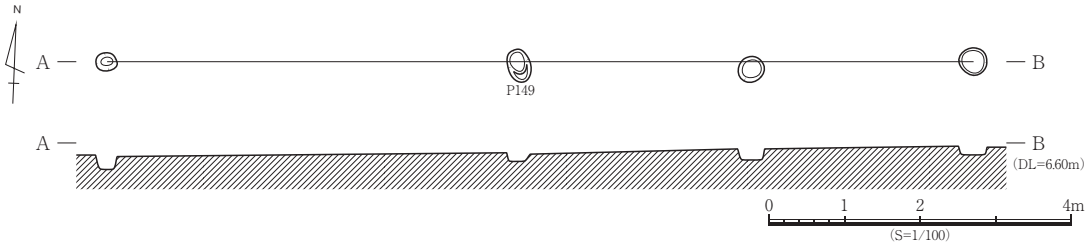


図618　11－1区　SA1　平面図・エレベーション図

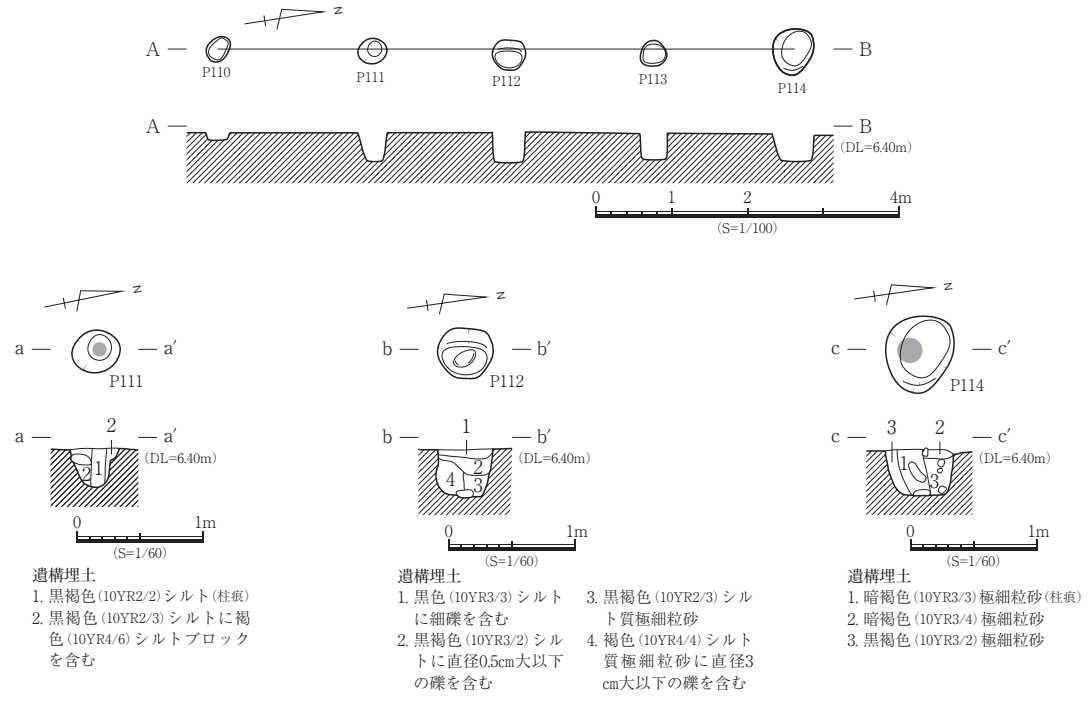


図619　11－2区　SA2　平面図・断面図・エレベーション図

粘性シルト他である。

図示した出土遺物はない。

3.SA

SA1

SA1は11－1区で検出した柵跡である。P149他で構成され，検出長は約11.45mである。主軸方向はN－87°40′－Eである。柱間寸法は2.95～5.40mを測る。柱穴は直径20～40㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは9～14㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR2/2)細粒砂である。

図示した出土遺物はない。

SA2

SA2は11－2区西部で検出した柵跡である。P110～P114で構成され，検出長は約7.63mである。主軸方向はN－8°46′－Eである。柱間寸法は1.80～2.05mを測る。柱穴は直径30～50㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは10～39㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト他である。

図示した出土遺物はない。

SA3

SA3は11－2区東部で検出した柵跡である。P27他で構成され，検出長は約7.99mである。主軸方向はN－9°43′－Eである。柱間寸法は約1.95mを測る。柱穴は直径20～30㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは31～36㎝を測る。埋土は灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA4

SA4は11－2区で検出した柵跡である。P41他で構成され，検出長は約11.79mである。主軸方向はN－77°49′－Wである。柱間寸法は1.80～3.95mを測る。柱穴は直径20～30㎝の不整形を呈し，検出面からの深さは11～32㎝を測る。埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA5

SA5は11－2区東部で検出した柵跡である。P22・P24他で構成され，検出長は約5.87mである。主軸方向はN－81°35′－Wである。柱間寸法は1.85～2.20mを測る。柱穴は直径約20㎝の円形を呈し，検出面からの深さは6～28㎝を測る。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SA6

SA6は11－2区東部で検出した柵跡である。P32・P79・P80他で構成され，検出長は約9.94mである。主軸方向はN－84°06′－Eである。柱間寸法は1.85～2.10mを測る。柱穴は直径9～27㎝の不整形を呈し，検出面からの深さ3～26㎝を測り，埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

4.SK

SK1

SK1 は 11 － 2 区西部で検出した土坑で，いわゆるハンダ土坑である。掘方の平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸約 1.00m，短軸約 0.56m，深さ約 15 ㎝を測る。土坑内面に厚さ 2 ㎝程度にハンダを掲き固める。埋土はハンダ片を含む褐色（10YR4/6）細粒砂質シルト他である。

図示した出土遺物はない。（綾部）

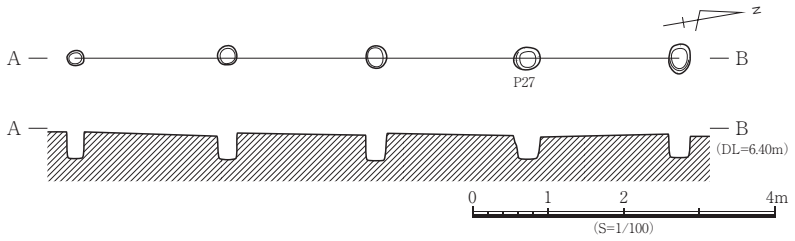


図620　11－2区　SA3　平面図・エレベーション図

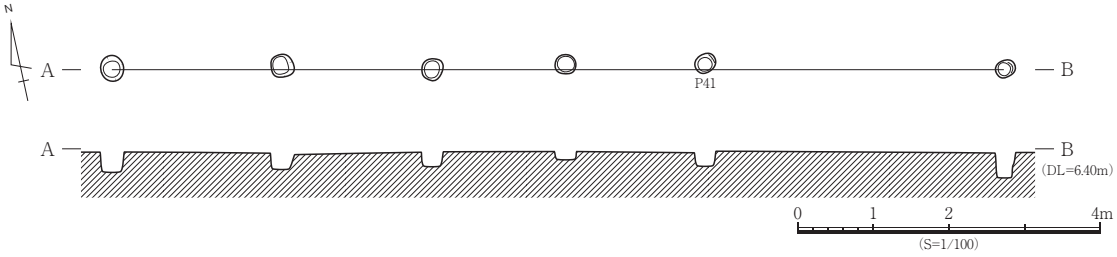


図621　11－2区　SA4　平面図・エレベーション図

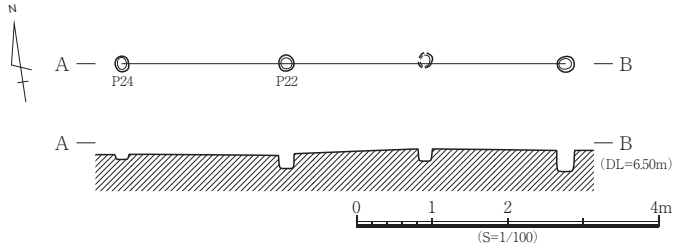


図622　11－2区　SA5　平面図・エレベーション図

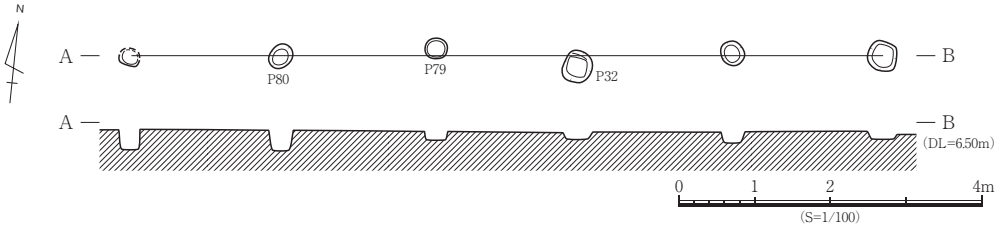


図623　11－2区　SA6　平面図・エレベーション図

SK2

SK2は11－2区東部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸約1.41m，短軸約0.67mを測り，検出面からの深さは約27㎝である。埋土は暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－51°－Wである。

図示した出土遺物はない。

SK6

SK6は11－2区西部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長は約1.28m，短軸約1.08mを測り，検出面からの深さは約8㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－6°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(1103・1104)である。

1103・1104ともに体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受けるか。

SK7

SK7は11－2区西部で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸の検出長約1.75m，短軸約1.92mを測り，検出面からの深さは約33㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はN－6°－Eである。

図示した出土遺物はない。

SK8

SK8は11－2区西部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長約0.59m，短軸の検出長約0.49m

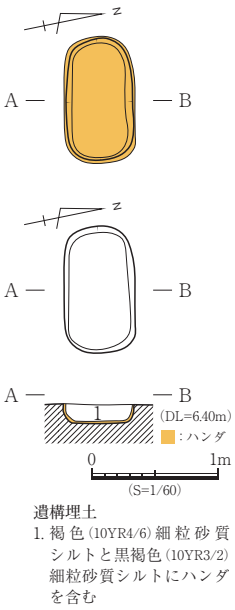


図624　11－2区　SK1
平面図・断面図

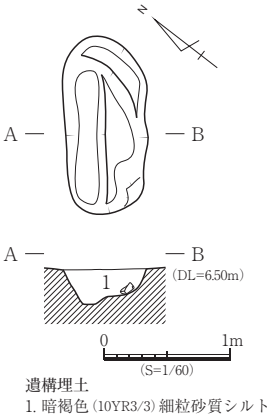


図625　11－2区　SK2
平面図・断面図

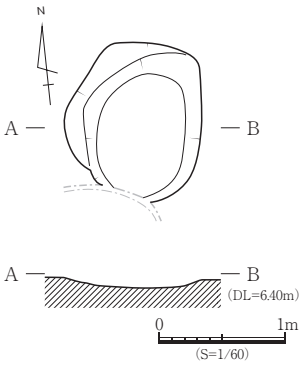


図626　11－2区　SK6
平面図・エレベーション図

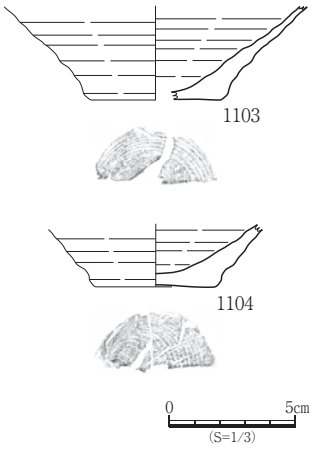
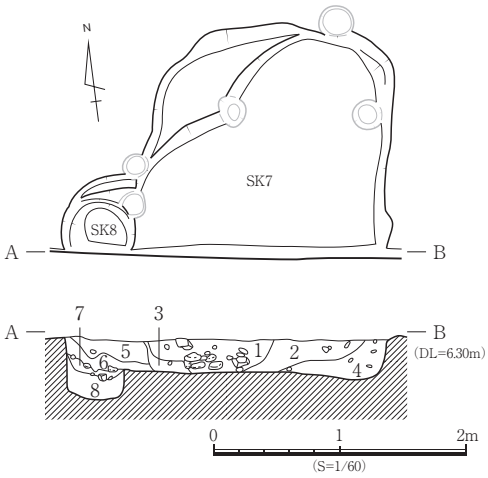
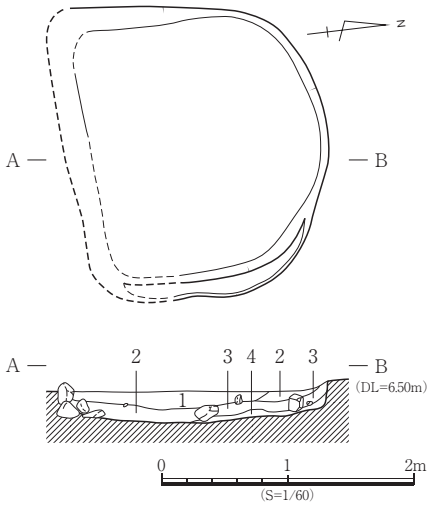


図627　11－2区　SK6
出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト・褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに直径15cm大以下の礫をやや多く含む(SK7)
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトブロックを少量含む(SK7)
3. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト・褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む(SK7)
4. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト・褐灰色(10YR4/1)細粒砂質シルト(SK7)
5. 褐灰色(10YR4/1)細粒砂混じりに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトを含み明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトが層状に入る(SK7)
6. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに暗褐色(10YR3/3)細粒砂質シルトと地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む(SK7)
7. 明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトに直径10cm大以下の礫をやや多く含む(SK8)
8. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトと明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルトが互層となる(SK8)

図628　11－2区　SK7・8　平面図・断面図



遺構埋土
1. 灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト
2. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト
3. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山(明黄褐色(10YR6/6)細粒砂質シルト)ブロックを少量含む
4. 黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトに地山(浅黄色(2.5Y7/4)細粒砂)ブロックを少量含む

図629　11－2区　SK9　平面図・断面図

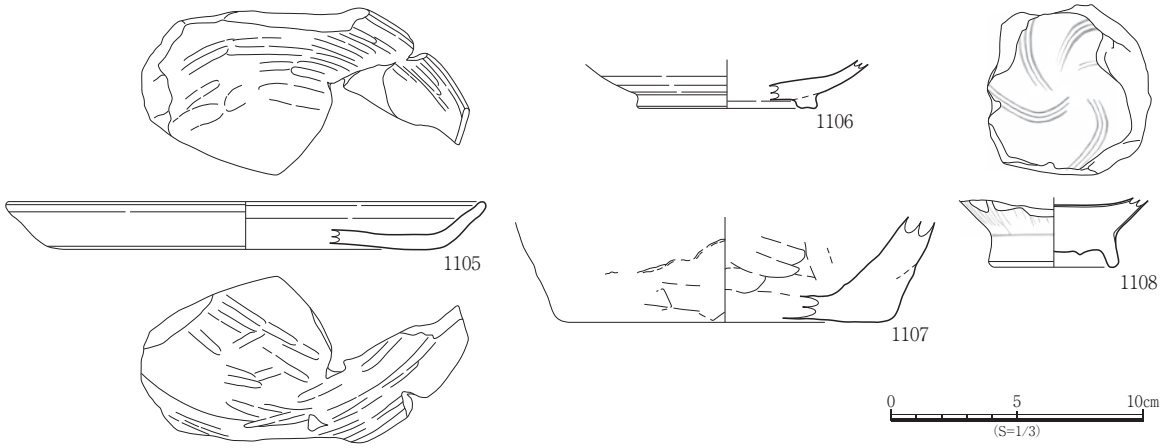


図630　11－2区　SK9　出土遺物実測図_1

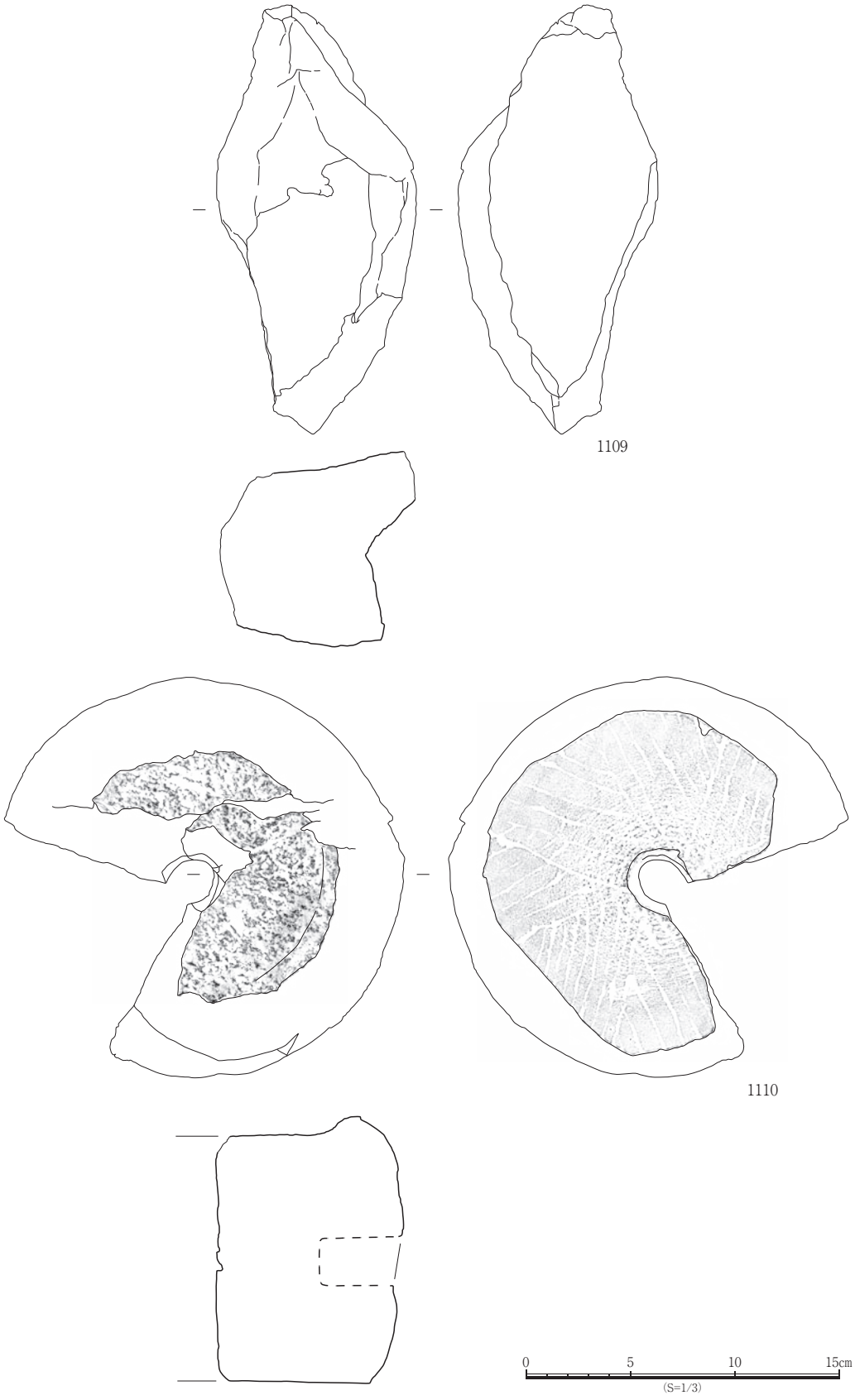


図631　11－2区　SK9　出土遺物実測図_2

を測り，検出面からの深さは約 51 ㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルト他である。主軸方向はＮ－1°－Ｅである。

図示した出土遺物はない。

SK9

SK9 は 11 － 2 区東部で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸約 2.31m，短軸の検出長約 1.90m を測り，検出面からの深さは約 33㎝である。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)細粒砂質シルト他である。主軸方向はＮ－ 89°－Ｗである。

図示した出土遺物は土師器の皿(1105)，土師質土器の椀(1106)，炻器の壺(1107)，青磁の碗(1108)，石臼(1109・1110)である。

1105 は皿である。口縁部は直線的にひろがり，口縁内面は凹む。内外面ともに回転ナデ調整後ヘラミガキ調整を施す。内底面・外底面ともにヘラミガキ調整を施す。1106 は椀である。外底面に断面形が台形で端面が凹面状を呈する輪高台を付す。体部外面は回転ヘラナデ調整・ヘラケズリ調整，内面は回転ナデ調整を施す。1107 は壺である。体部外面はナデ調整・ヘラナデ調整，内面はナデ調整である。また，外底面にはナデ調整を施す。1108 は碗である。外面には細蓮弁文，見込みには捻花か。高台内には蛇ノ目釉ハギを施す。1109 は砂製の茶臼の下臼である。二次被熱を受け，煤が付着する。1110 は砂製の茶臼の上臼である。芯棒孔，挽き木孔を穿つ。臼目は 10 条 1 単位で 8 分割か。また，臼目は使用により摩滅する。二次被熱を受ける。周縁は故意に破損か。

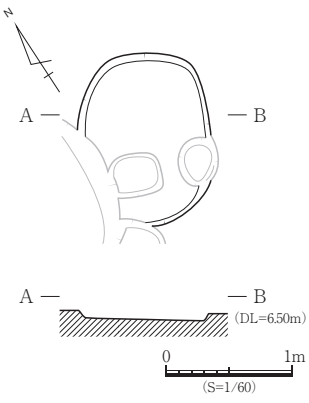


図632　11－2区　SK10
平面図・エレベーション図

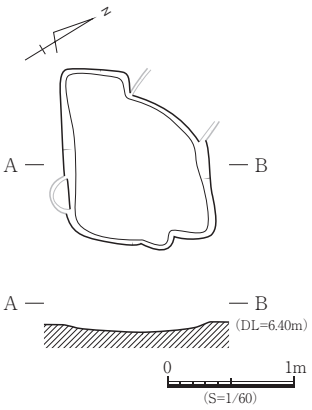


図633　11－2区　SK12
平面図・エレベーション図

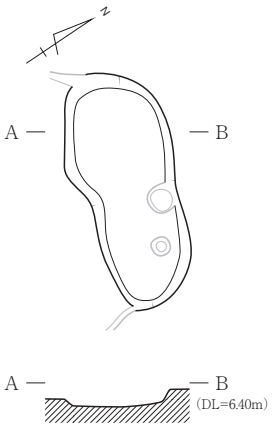


図634　11－2区　SK15
平面図・エレベーション図

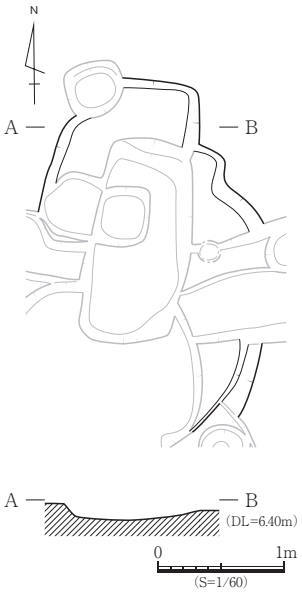


図635　11－2区　SK18
平面図・エレベーション図

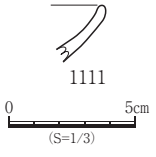


図636　11－2区　SK18，SD11
出土遺物実測図

SK10

SK10は11－2区西部で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸約1.38m，短軸約1.02mを測り，検出面からの深さは約10㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/1)細粒砂質シルトである。主軸方向はN－28°－Eである。

図示した出土遺物はない。

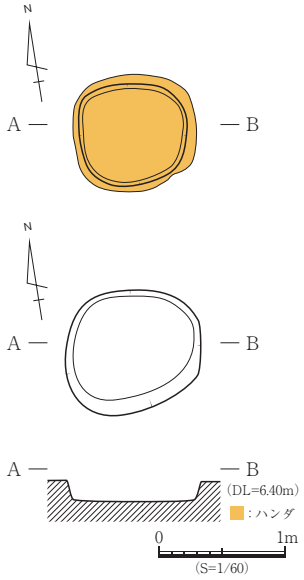


図637　11－2区　SK20
平面図・エレベーション図

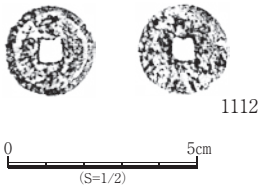
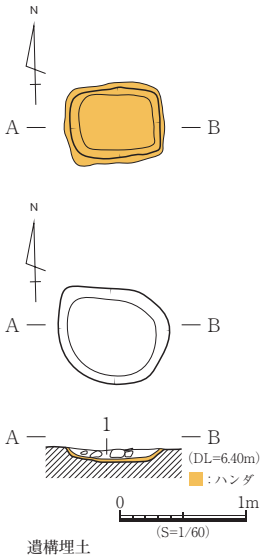
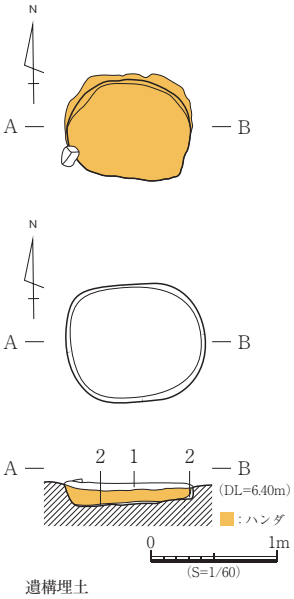


図638　11－2区　SK20
出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色(10YR3/2)極細粒砂質シルトにハンダ(黄褐色(10YR5/6))ブロックを含む

図639　11－2区　SK21
平面図・断面図



遺構埋土
1. 暗褐色(10YR3/3)シルト質極細粒砂にハンダ(黄褐色(10YR5/8))を含む
2. 黒褐色(10YR2/2)シルト(掘方)

図640　11－2区　SK22
平面図・断面図

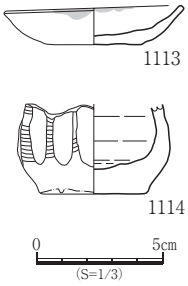
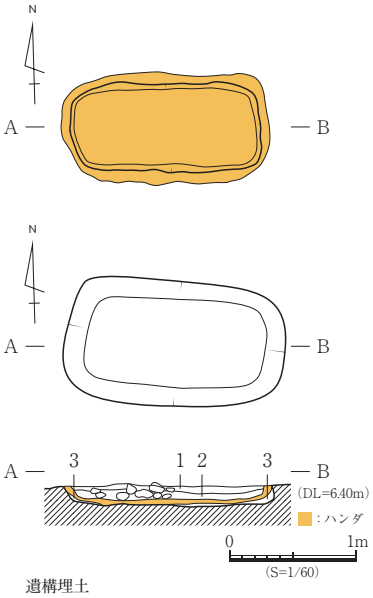


図641　11－2区　SK22
出土遺物実測図



遺構埋土
1. 暗褐色(7.5YR3/4)シルト質極細粒砂
2. 黒褐色(10YR3/2)粗粒砂にシルトと直径10㎝大以下の礫を含む
3. 黒褐色(10YR2/3)極粗粒砂にシルトを含む(掘方)

図642　11－2区　SK23
平面図・断面図

SK12

SK12は11－2区西部で検出した平面形が不整隅丸方形の土坑である。長軸約1.36m，短軸約1.16mを測り，検出面からの深さは約9㎝である。埋土は黒色(10YR2/1)シルト質細粒砂である。主軸方向はN－60°－Wである。

図示した出土遺物はない。

SK15

SK15は11－2区西部で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸約1.90m，短軸約0.87mを測り，検出面からの深さは約16㎝である。主軸方向はN－68°－Wである。

図示した出土遺物はない。

SK18

SK18は11－2区西部で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸の検出長約2.68m，短軸の検出長約1.78mを測り，検出面からの深さは約13㎝である。主軸方向はN－11°－Eである。

図示した出土遺物はSK18，SD11から出土した陶器の皿(1111)である。ロクロ成形である。残存部は無釉である。

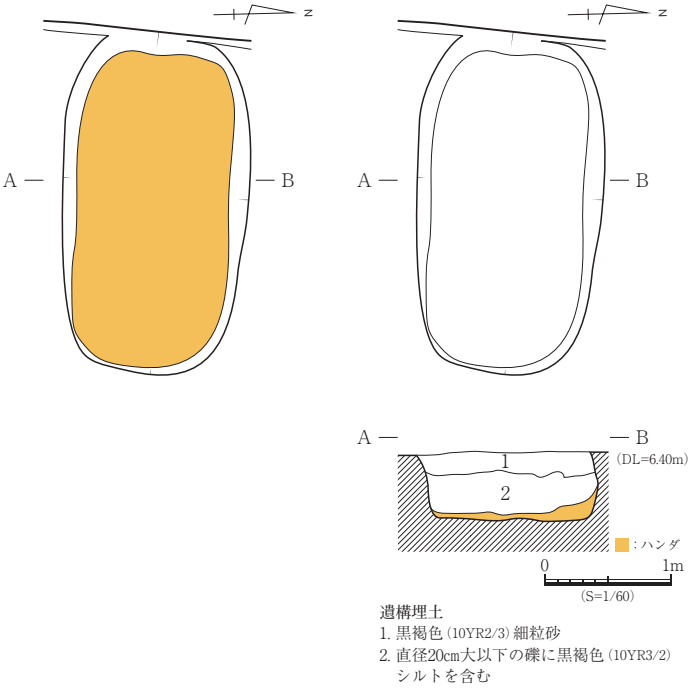


図643　11－2区　SK24　平面図・断面図

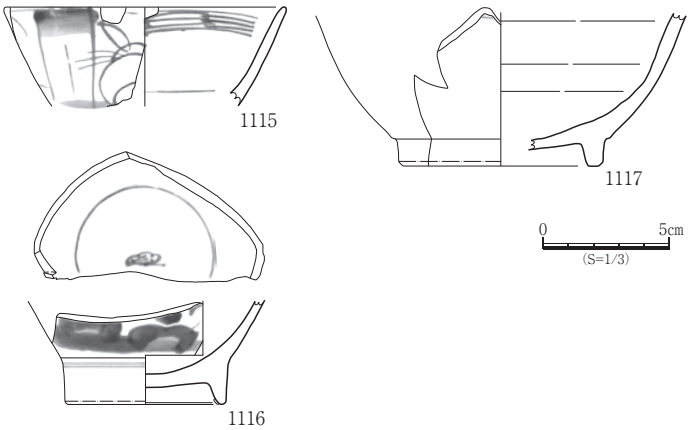


図644　11－2区　SK24　出土遺物実測図

SK20

SK20は11－2区西部で検出した土坑で，いわゆるハンダ土坑である。上部は近現代の削平により消失しており，底部付近のみが残存する。掘方の平面形は隅丸方形を呈する。規模は長軸約1.07m，短軸約0.97m，深さ約16㎝を測る。土坑内面に厚さ約3㎝にハンダを搗き固める。(綾部)

図示した出土遺物は寛永通宝(1112)である。

SK21

SK21は11－2区西部で検出した土坑で，SK20の北西に位置する。いわゆるハンダ土坑である。

掘方の平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸約 0.90m，短軸約0.78m，深さ約10㎝を測る。土坑内面に厚さ約2㎝程度にハンダを搗き固める。埋土はハンダ片を含む黒褐色極細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。(綾部)

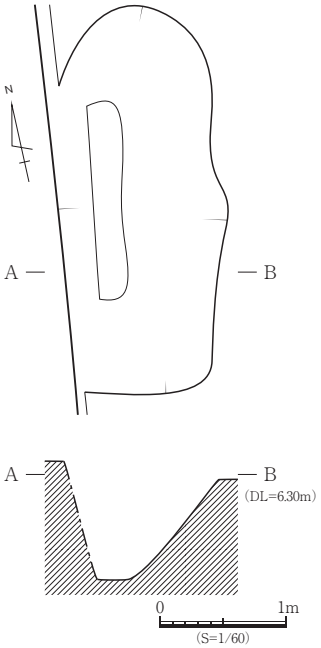


図645　11－2区　SK27
平面図・エレベーション図

SK22

SK22 は 11 － 2 区西部で検出した土坑で，いわゆるハンダ土坑である。土坑上部は近現代の削平により消失しており，底部のみ残存する。確認した掘方の平面形は楕円形を呈する。規模は長軸約1.11m，短軸約0.93m，深さ約18㎝を測る。底部に黒褐色シルトを約 2㎝程度に薄く敷いた後に，厚さ約 10㎝にハンダを搗き固める。埋土はハンダ片を含む暗褐色シルト質極細粒砂である。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1113)，陶器の茶入れか(1114)である。

1113 は皿である。口縁部は外上方へ短く立ち上がる。内外面には回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。煤が付着し，灯明皿として使用されたと推測される。1114 は茶入れか。ロクロ成形である。外面にはハケメがみられ，ナデによってひだ状にする。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。外底面は無釉となる。

SK23

SK23 は 11 － 2 区西部で検出した土坑で，SK22 の東に位置する。いわゆるハンダ土坑である。掘方の平面形は隅丸長方形を呈する。規模は，長軸約 1.75m，短軸約 0.98m，深さ約 18 ㎝を測る。土坑内面に黒褐色シルト混じる極細粒砂を薄く敷いた後に，厚さ4㎝にハンダを搗き固める。埋土は暗褐色シルト含む極細粒砂，径5～10㎝大の礫を含む黒褐色シルト混じる粗粒砂である。

図示した出土遺物はない。(綾部)

SK24

SK24 は 11 － 2 区西部で検出した土坑で，いわゆるハンダ土坑である。掘方の平面形は隅丸長方形を呈し，西端は調査区外となる。規模は，長軸約2.62m，短軸約1.47m，深さ約55㎝を測る。土坑底部に厚さ 5 ～ 10 ㎝にハンダを搗き固める。壁面にもハンダが部分的に残存しており，土坑内面全体にハンダを施していたと考えられる。埋土は下層に径 5 ～ 20 ㎝大の円礫が堆積し，上層に黒褐色細粒砂が堆積する。(綾部)

図示した出土遺物は磁器の碗(1115・1116)・壺あるいは瓶(1117)である。

1115 は碗である。ロクロ成形である。内外面に染付がみられる。1116 は広東碗である。ロクロ成形である。畳付には釉ハギを施す。内外面に染付がみられる。1117 は壺あるいは瓶である。ロクロ成形

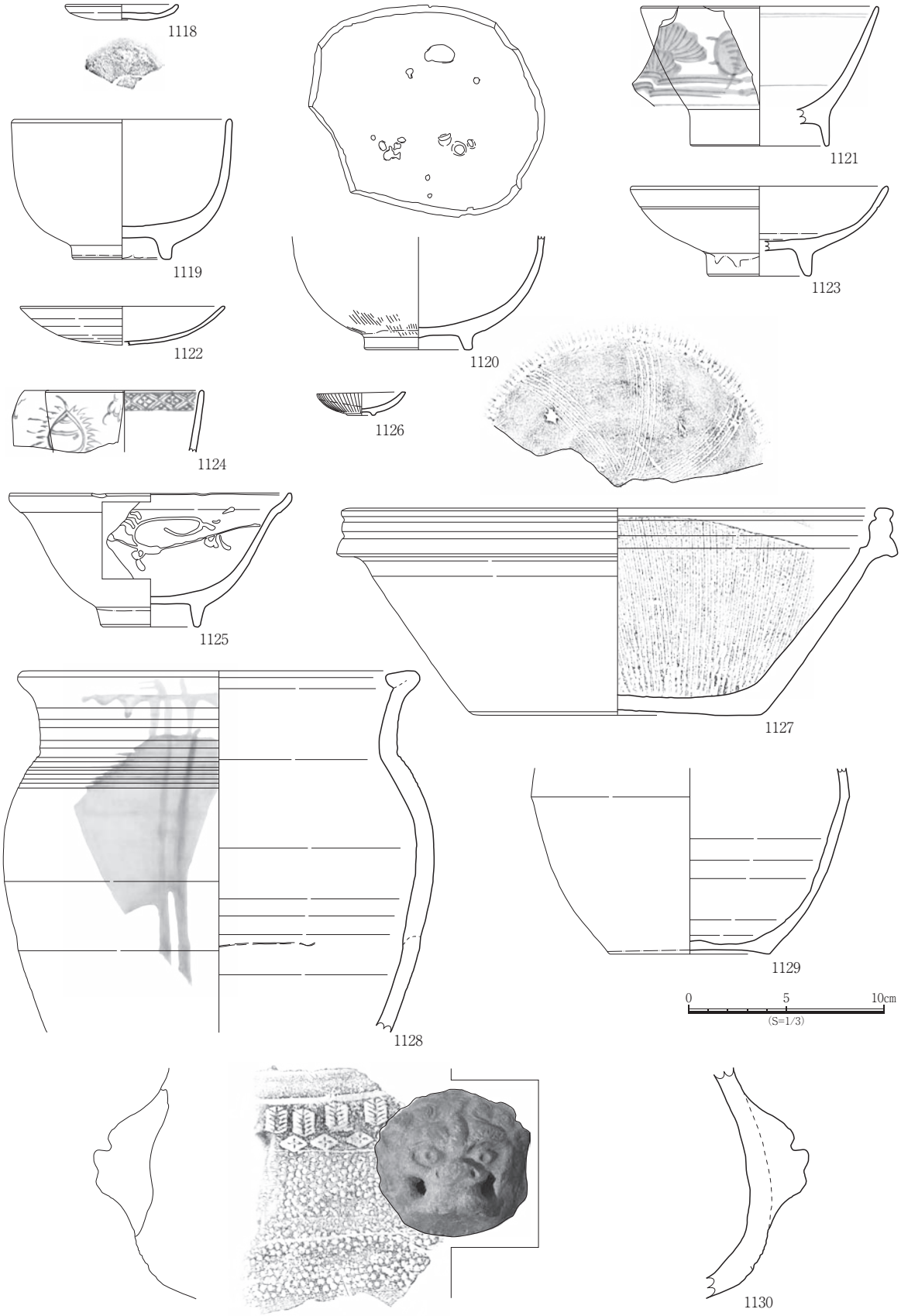


図646　11－2区　SK27　出土遺物実測図

である。内面は無釉である。畳付には釉ハギを施す。

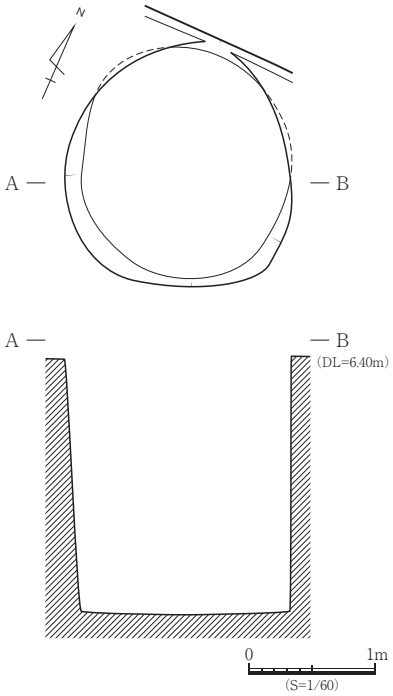


図647　11－2区　SK28
平面図・エレベーション図

SK27

SK27は11－2区西部で検出した土坑である。西側は調査区外となる。平面形は北辺が丸みを帯びる不整長方形を呈する。規模は長軸約3.11m，短軸の検出長約1.32m，深さ約79cmを測る。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1118)，陶器の碗(1119・1120)，磁器の碗(1121)，陶器の皿(1122・1123)，磁器の猪口(1124)，陶器の鉢(1125)，磁器の紅皿(1126)，陶器の擂鉢(1127)・甕(1128)・壺(1129)，瓦質土器の火鉢(1130)である。

1118は皿である。口縁部は外上方へ短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡が認められる。煤が付着し，灯明皿と推測される。1119は碗である。ロクロ成形である。全面に施釉し，畳付には釉ハギを施す。1120は碗である。ロクロ成形である。腰部以下は無釉となる。見込みには目跡がみられる。1121は広東碗である。ロクロ成形である。畳付には釉ハギを施し，外面には亀・花の染付，内面には圏線を入れる。1122は皿である。ロクロ成形で外面にはヘラケズリ調整を施す。1123は鉄釉の皿である。ロクロ成形である。高台は無釉となる。白化粧土を刷毛塗りする。見込みには蛇ノ目釉ハギを施す。1124は猪口である。ロクロ成形である。口縁部内面には四方襷文を施す。1125は鉄釉の鉢である。ロクロ成形である。高台は無釉である。見込みには目跡がみられる。内面にはイッチン描きで唐草文を描く。1126は白磁の紅皿である。型押成形である。菊弁で外面は無釉となる。完存する。1127は擂鉢である。ロクロ成形である。口縁部を上方へ拡張し，外面に2条の凹線を入れる。内面には10条1単位の条線を全面に施す。また，見込みには7条1単位の条線を施す。重ね焼き痕跡がみられる。1128は甕である。ロクロ成形である。口縁端部を折り曲げる。頸部に7条の沈線を入れる。鉄釉を施し，黒色の釉薬が流れる。1129は壺である。ロクロ成形である。外底面・内面上半部は無釉となる。1130は火鉢である。獅子頭の把手を貼付する。花菱文・五弁花をモチーフとした押型による文様を施す。外面はヨコナデ調整・ヘラナデ調整を施し，内面にはヨコナデ調整を施す。

SK28

SK28は11－2区西部で検出した土坑である。平面形は楕円形を呈し，規模は長軸約1.91m，短軸1.77m，深さ約2.00mを測る。安全上検出面より約0.6mまで人力にて掘削を行い，その後重機掘削により下層確認を実施した。井戸枠の痕跡は確認されず，素掘りの井戸と考えられる。(綾部)

図示した出土遺物は磁器の蓋(1131)，陶器の碗(1132)・皿(1133)，磁器の壺(1134)，陶器の壺(1135)，磁器の瓶(1136)，陶器の鍋(1137)，軒平瓦(1138)，砥石(1139)である。特筆すべき遺物として羅宇が挿入された状態の煙管が出土している。

1131は蓋である。ロクロ成形である。外面には草花文，天井部内面には圏線・宝文か。また，天井部

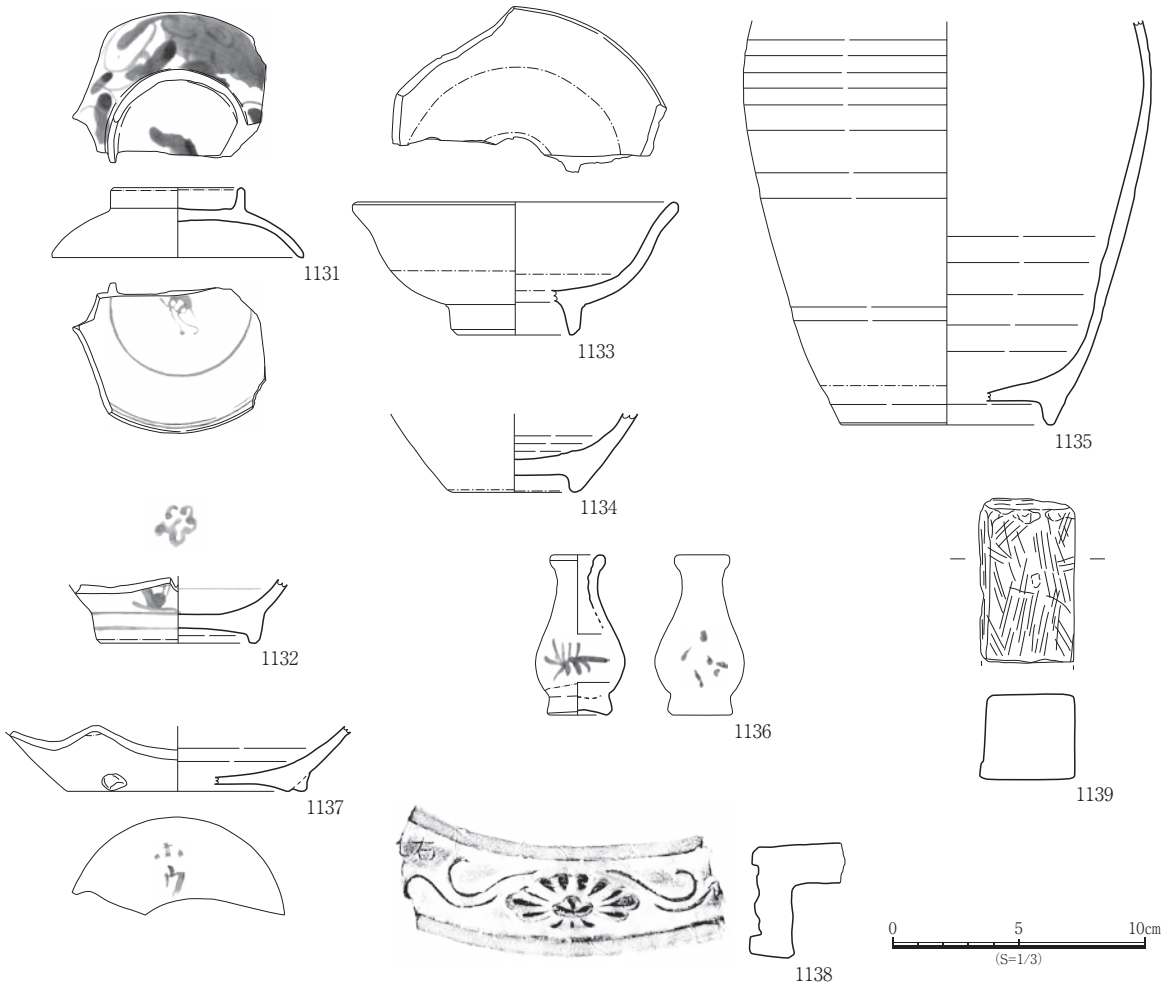


図648　11－2区　SK28　出土遺物実測図

外面にも染付を施す。1132は碗である。ロクロ成形である。見込みには五弁花の染付，外面には圏線を入れる。高台脇を削り込み，畳付には釉ハギを施す。1133は皿である。ロクロ成形である。腰部から高台にかけては無釉である。高台には面取りを施す。また，見込みには蛇ノ目釉ハギを施す。1134は白磁の壺である。ロクロ成形である。内面は無釉である。畳付には釉ハギを施す。1135は壺である。ロクロ成形である。外底面から腰部外面にはヘラケズリ調整を施す。内面・外面腰部までは無釉となる。1136は瓶である。ロクロ成形である。笹と梅の染付を対面に配置する。高台・内面は無釉となる。1137は鍋か。ロクロ成形である。外面には白化粧土を刷毛塗りする。内面には鉄釉を刷毛塗りする。また，外底面には「ホウ」の墨書が認められる。1138は軒平瓦である。瓦当に「右」が陽刻される。1139は流紋岩製の砥石である。直方体で断面形は正方形に近い。側面3面を使用する。小口には製作時の痕跡がみられる。

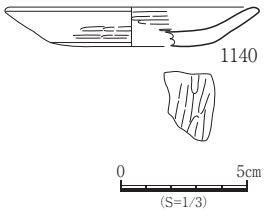
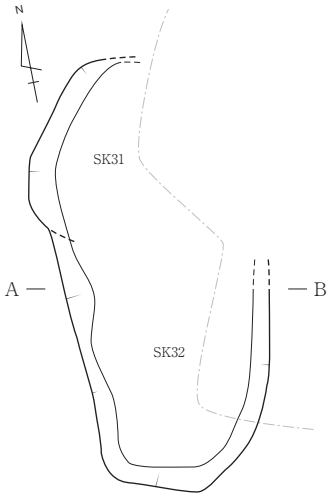
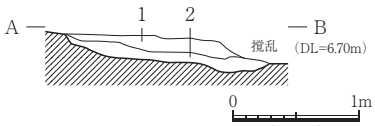


図649　11－3区　SK31
出土遺物実測図

SK31

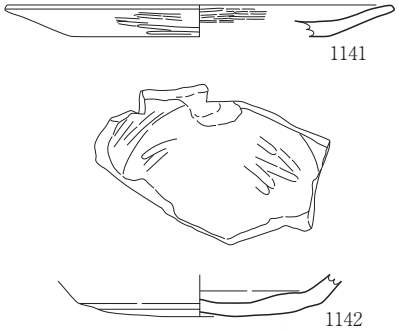
SK31は11－3区で検出した土坑である。平面プラン，規模等は不明である。包含層の残りか。





遺構埋土
1. 黒褐色(5YR2/1)細粒砂質シルトに直径10cm大以下の礫を含む
2. 黒褐色(5YR2/2)細粒砂質シルト・褐色(10YR4/6)細粒砂質シルト

図650　11－3区　SK32
平面図・断面図



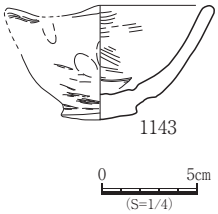


図651　11－3区　SK32
出土遺物実測図

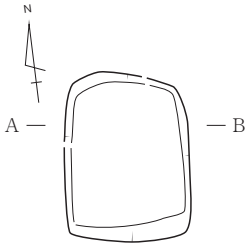


図652　11－3区　SK33
平面図・エレベーション図

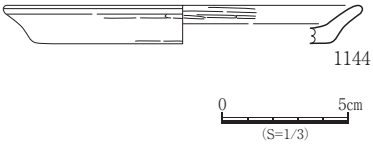


図653　11－3区　SK33
出土遺物実測図

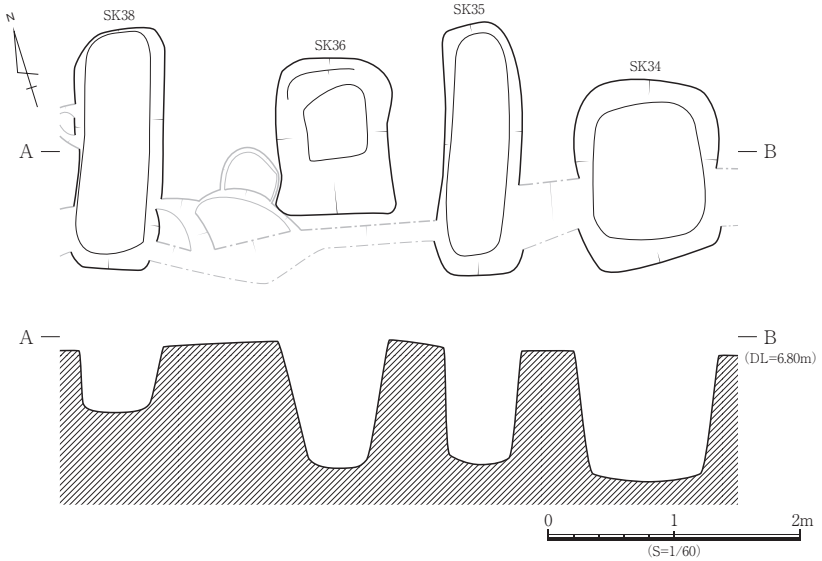


図654　11－3区　SK34～36・38　平面図・エレベーション図

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1140)である。口縁部は浅く斜め上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整後ヘラミガキ調整を施す。

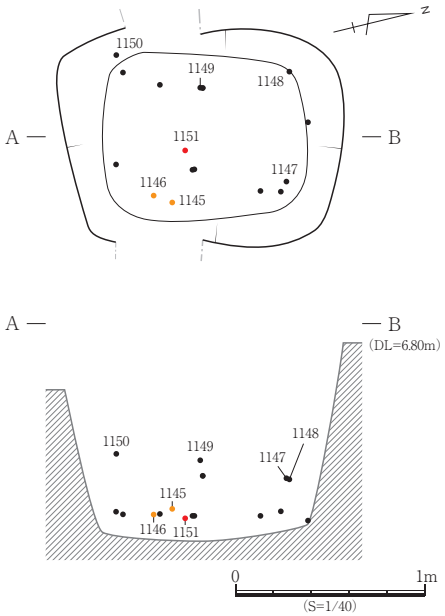


図655　11－3区　SK34　遺物出土状態図

SK32

SK32は11－3区で検出した土坑である。平面プラン，規模等は不明である。包含層の残りか。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1141)，土師器の皿(1142)，弥生土器の鉢(1143)である。

1141は皿である。口縁部は浅く斜め上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整後ヘラミガキ調整を施す。外底面には簀状圧痕か。1142は皿である。底部は丸みを帯びる。内外面ともに回転ナデ調整後ヘラミガキ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。1143は鉢である。体部は半球形を呈し，底部は円盤状である。外底面にはナデ調整を施す。体部外面は叩き調整後ナデ調整，内面はハケ調整・ヘラナデ調整である。外面にはキレツがみられる。

SK33

SK33は11－3区で検出した平面形が隅丸方形のハンダ土坑である。土坑の周囲には河原石を構築し，全面にハンダがみられた。長軸約1.34m，短軸約1.00mを測り，検出面からの深さは約21㎝である。主軸方向はN－6°－Eである。

図示した出土遺物は土師器の皿(1144)である。口縁部は浅く斜め上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整後ヘラミガキ調整を施す。また，外底面にはナデ調整を施す。

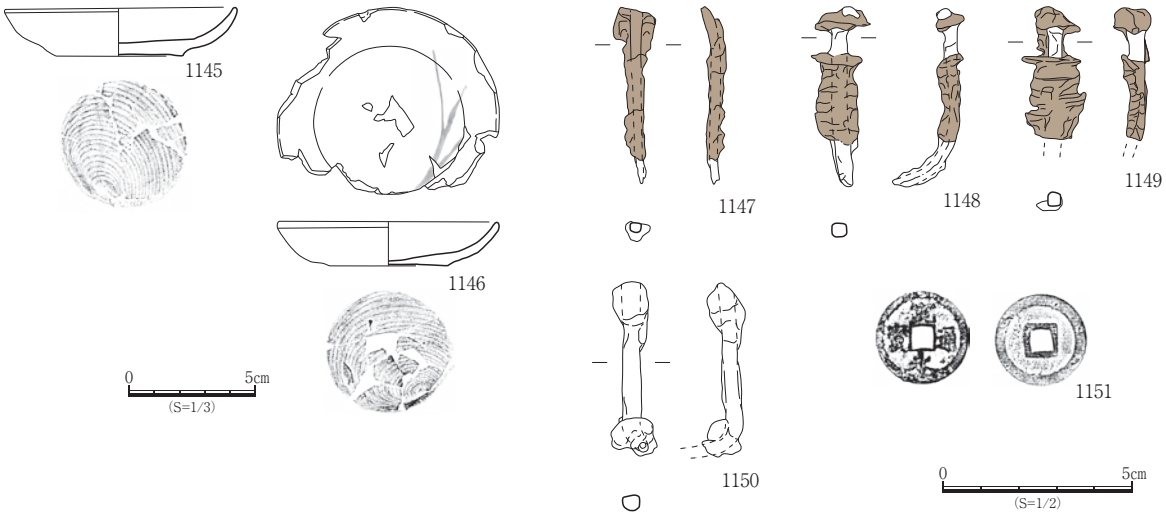


図656　11－3区　SK34　出土遺物実測図

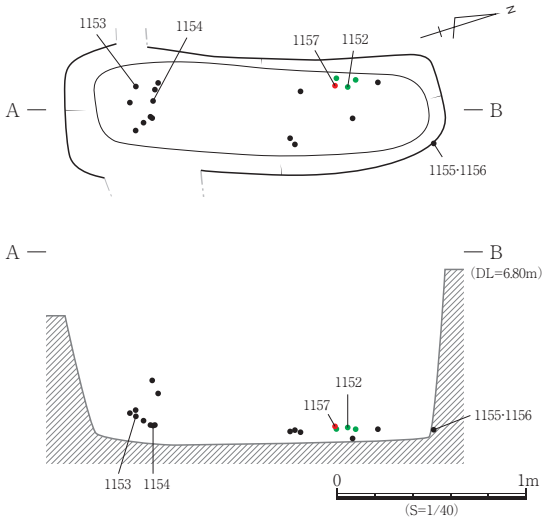


図657　11－3区　SK35　遺物出土状態図

SK34

SK34は11－3区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸約1.49m，短軸約1.15mを測り，検出面からの深さは約1.13mである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質粘性シルトである。主軸方向はN－18°－Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1145・1146)，鉄釘(1147～1150)，銭貨(1151)である。

1145は皿である。口縁部は内湾気味に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1146は皿である。口縁部は内湾気味に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整である。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。また，内面には火襷が認められる。1147は釘である。頭部は不明瞭である。体部の断面形は長方形を呈する。木質が付着する。僅かに曲がる。完存である。1148は釘である。頭部は不明瞭であり，体部の断面形は正方形を呈する。木質が付着し，鍔状を呈する部分がある。先端部は曲がる。完存する。1149は釘である。頭部の形状は不明である。体部の断面形は正方形を呈する。木質が付着し，鍔状を呈する部分がある。先端部はやや曲がるか。1150は釘である。錆ぶくれのため，形状等不明瞭である。先端部は大きく曲がるか。1151は寛永通寶である。

SK35

SK35は11－3区で検出した平面形が隅丸長方形の土

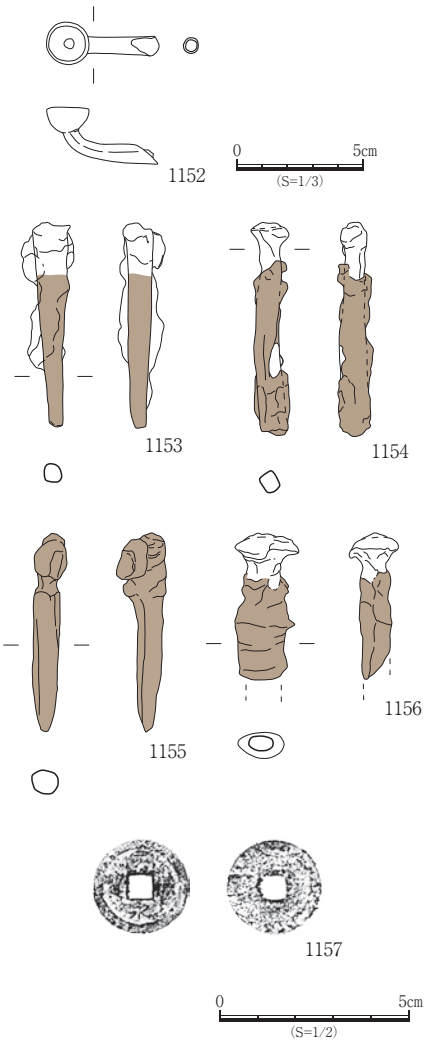


図658　11－3区　SK35
出土遺物実測図

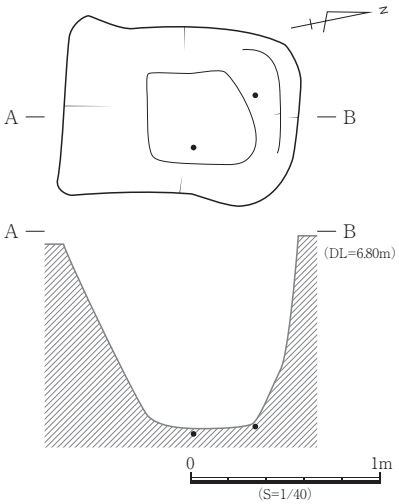


図659　11－3区　SK36
遺物出土状態図

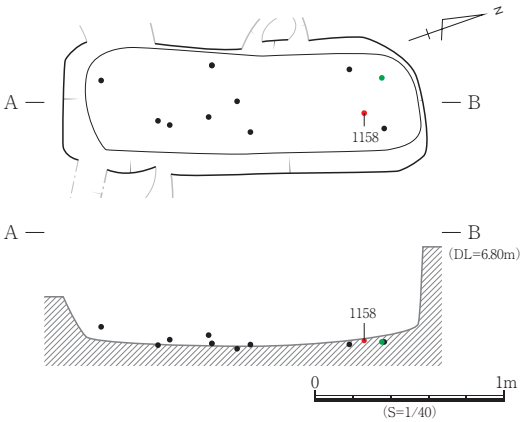


図660　11－3区　SK38　遺物出土状態図

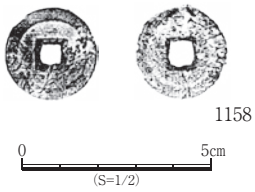


図661　11－3区　SK38　出土遺物実測図

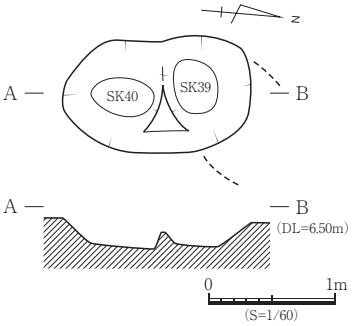


図662　11－3区　SK39・40
平面図・エレベーション図

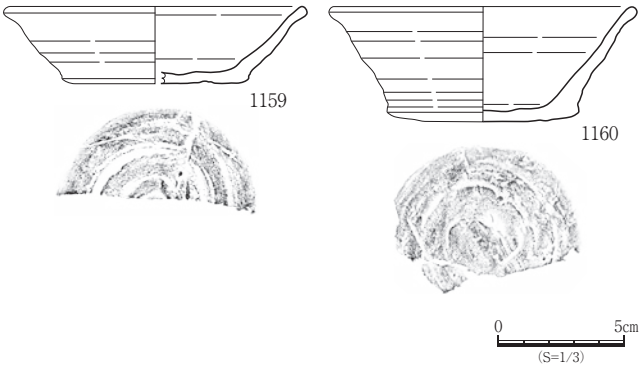


図663　11－3区　SK39　出土遺物実測図

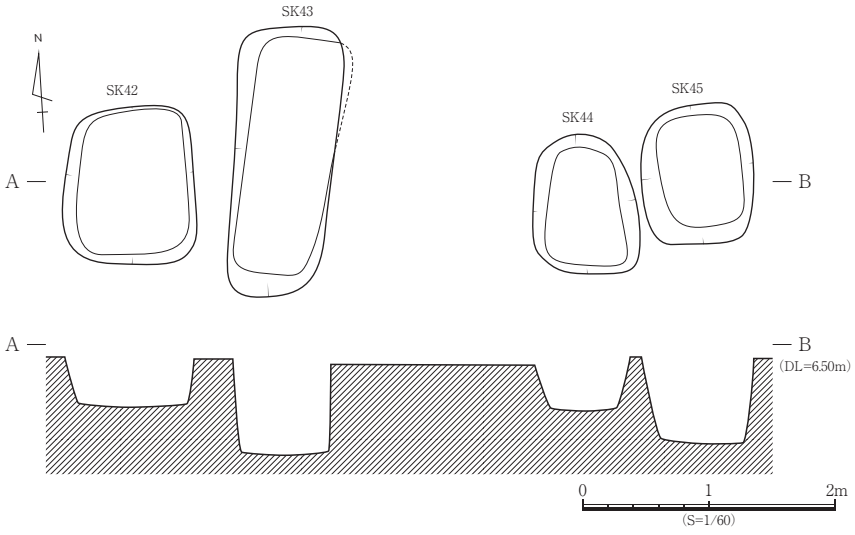


図664　11－1区　SK42～45　平面図・エレベーション図

坑である。長軸約 2.01m，短軸約 0.61m を測り，検出面からの深さは約 0.95m である。埋土は黒褐色（10YR3/2）細粒砂質粘性シルトである。主軸方向はＮ－17°－Ｅである。

図示した出土遺物は煙管（1152），鉄釘（1153～1156），銭貨（1157）である。

1152 は煙管の雁首である。火皿は半球形を呈し，火皿と脂返しの境を補強する。断面形は円形，湾曲部分は楕円形を呈する。1153 は釘である。錆ぶくれのため，頭部の形状等不明瞭である。木質が付着する。完存か。1154 は釘である。頭部は「T」の字形を呈する。体部の断面形は長方形を呈する。木質が付着し，鍔状を呈する部分がある。完存か。1155 は釘である。木質に全体が覆われているため形状等不明である。完存か。1156 は釘である。頭部は不明瞭である。体部の断面形は長方形か。木質が付着する。

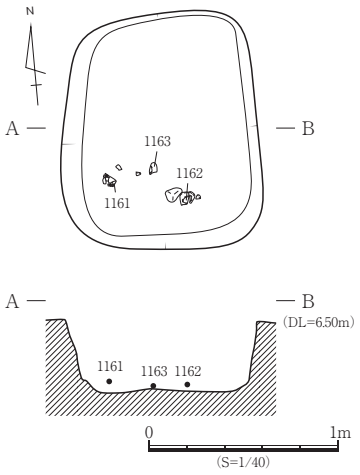


図665　11－1区　SK42
平面図・エレベーション図・遺物出土状態図

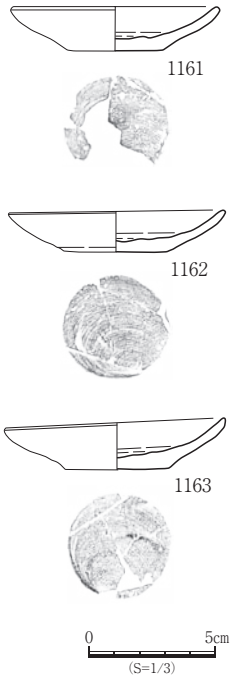
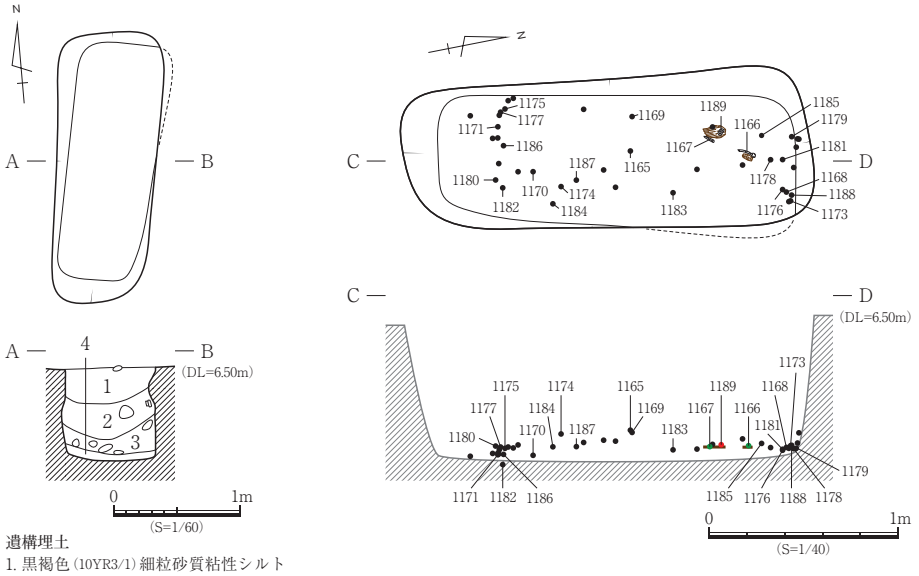


図666　11－1区　SK42
出土遺物実測図



遺構埋土
1. 黒褐色（10YR3/1）細粒砂質粘性シルト
　に直径20cm大以下の礫を含む
2. 黒褐色（10YR2/2）細粒砂質粘性シルト
　に直径15cm大以下の礫を少量含む
3. 黒褐色（10YR2/2）細粒砂質粘性シルト
　に直径20cm大以下の礫を含む
4. 黒色（10YR1.7/1）細粒砂質粘性シルト

図667　11－1区　SK43　平面図・遺物出土状態図・断面図

1157は寛永通寶である。

SK36

SK36は11－3区で検出した平面形が隅丸方形の土坑である。長軸約1.25m，短軸約0.89mを測り，検出面からの深さは約1.04mである。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質粘性シルトである。主軸方向はN－12°－Eである。

図示した出土遺物はない。

SK38

SK38は11－3区で検出した平面形が隅丸長方形の土坑である。長軸約1.92m，短軸約0.67mを測り，検出面からの深さは約54㎝である。埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質粘性シルトである。主軸方向はN－18°－Eである。

図示した出土遺物は六文銭(1158)である。6枚の銭貨が重ねられ付着している。両面とも裏面であるため銭種は不明である。

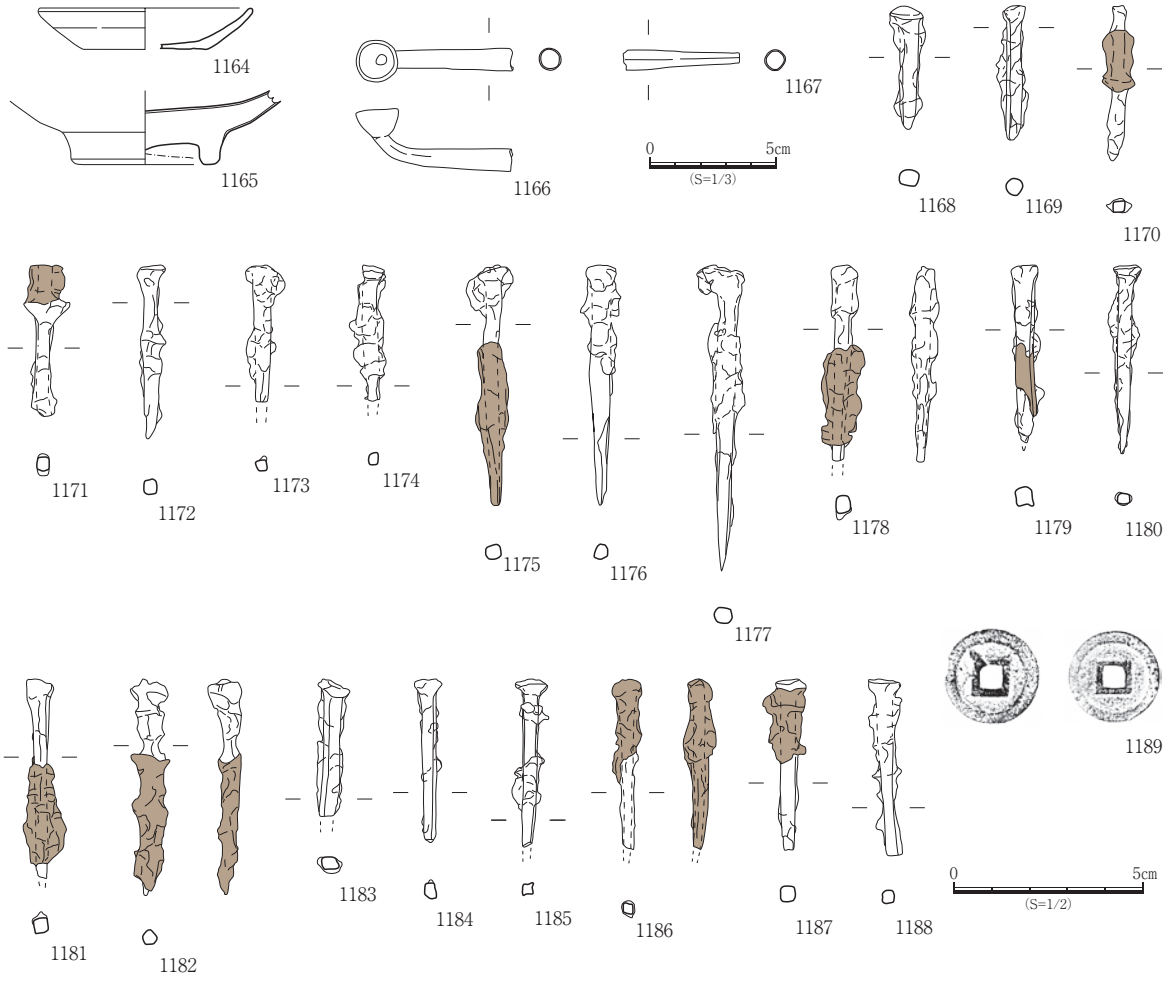


図668　11－1区　SK43　出土遺物実測図

SK39

SK39は11－3区で検出した平面形が楕円形の土坑である。長軸の検出長約0.92m，短軸約0.91mを測り，検出面からの深さは約21cmである。埋土は黒褐色(2.5Y3/2)細粒砂質粘性シルトである。主軸方向はN－12°－Wである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯(1159・1160)である。

1159は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転ヘラ切り痕跡がみられる。1160は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外面にはロクロ目がみられる。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整である。

SK42～45(綾部)

SK42～45は11－1区で検出した土坑である。いずれも方形もしくは長方形の掘方をもつ土坑墓で，葬法は土葬と考えられる。4基が東西方向に並んで掘られ，SK42・43は心々間で約1.20m，SK44・

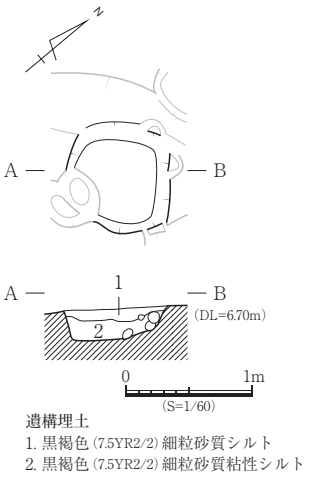


図669　11－3区　SK42
平面図・断面図

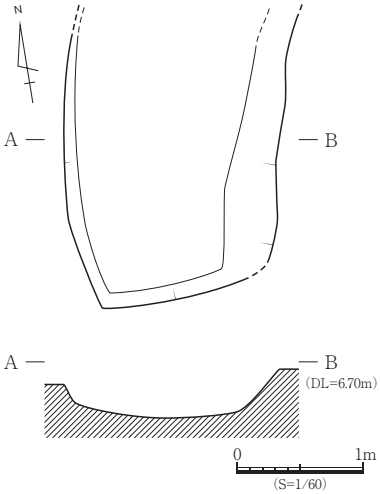


図670　11－3区　SK43
平面図・エレベーション図

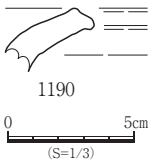
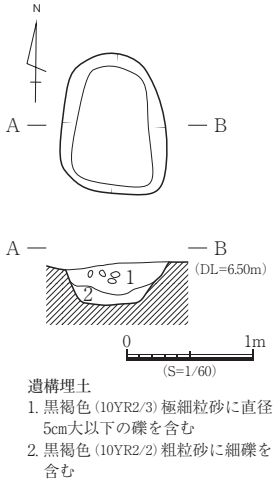


図671　11－3区　SK43
出土遺物実測図



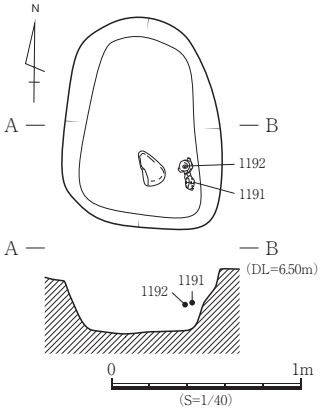


図672　11－1区　SK44　平面図・遺物出土状態図・断面図

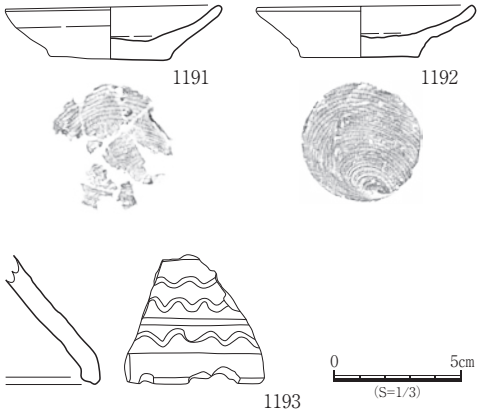


図673　11－1区　SK44　出土遺物実測図

45は約0.90mの間隔で隣接する。SK43・44間はやや間隔が広く，約2.30mを測る。

SK42

SK42は11－1区で検出した土坑である。掘方の平面形は方形を呈する。規模は東西約1.25m，南北約1.02m，深さ約42㎝を測る。底部は平坦で，壁はやや傾斜して立ち上がる。主軸方向はN－3°－Eである。底部南半から土師質土器の皿3点が出土した。人骨や歯牙は確認されなかった。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1161～1163)である。

1161は皿である。口縁部は内湾気味に短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡がみられる。1162・1163は皿である。口縁部は斜め外方へ大きくひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底面は渦状となる。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。

SK43

SK43は11－1区で検出した土坑である。SK42の東側に位置する。掘方の平面形は長方形を呈す

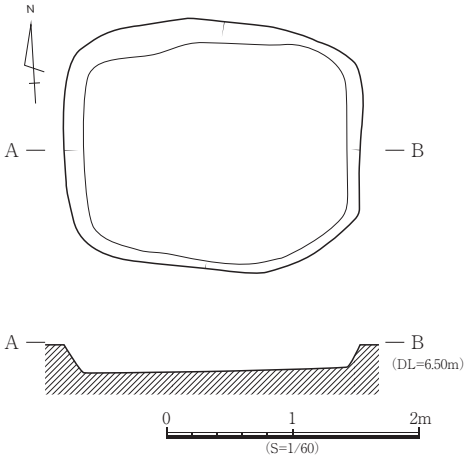


図674　11－3区　SK44
平面図・エレベーション図

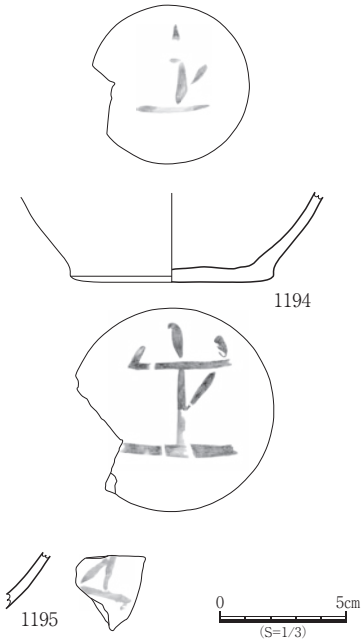


図675　11－3区　SK44　出土遺物実測図

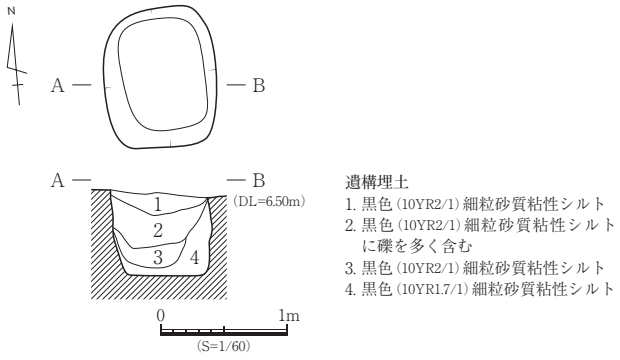


図676　11－1区　SK45　平面図・断面図

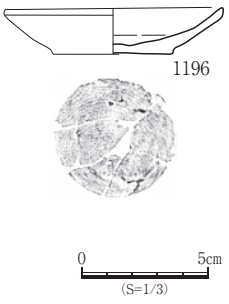


図677　11－1区　SK45
出土遺物実測図

る。規模は長軸約2.16m，短軸約0.80m，深さ約74cmを測る。主軸方向はN－11°－Eである。底部は平坦で，壁はややオーバーハング気味に立ち上がる。埋土は拳大の円礫を多く含む黒褐色粘質土で，床面から5cm程は黒色粘質土が堆積する。埋土中から青磁の碗，底部から鉄釘，煙管雁首・吸口，銭貨6枚が出土した。青磁の碗は床面より約20cmの位置で出土しており，埋没時の流入と考えられる。そのほかの遺物は，床部付近にあまりレベル差を持たずに存在する。鉄釘は42点が出土している。木質が付着するものがあり，木棺に使用されたと考えられる。鉄釘は長方形に並んで出土しており，これから想定される木棺の規模は長軸約1.50m，短軸約0.40mである。鉄釘，煙管は木棺内部の北西に位置する。煙管は羅宇を欠損するものの，雁首と吸口が約20cm離れ主軸を揃えて出土しており，元位置を留める可能性が高い。銭貨および雁首の下側からは木棺底板と考えられる木片が出土している。人骨や歯牙は確認されなかった。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1164)，青磁の碗(1165)，煙管(1166・1167)，鉄釘(1168～1188)，銭貨(1189)である。

1164は皿である。口縁部は斜め外方へ大きくひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面は回転糸切り後ナデ調整である。1165は碗である。削り出し高台で両端を面取りする。高台は無釉となる。畳付には溶解した釉薬と砂が付着する。1166は煙管の雁首である。火皿は逆台形状を呈し，火皿に向かって僅かに細くなる。断面形は円形，湾曲部分は楕円形を呈する。羅宇側は欠損する。1167は煙管の吸口である。銅板の継ぎ目が見られる。羅宇側は欠損する。1168は釘である。頂面は平坦である。僅かに錆ぶくれする。身部分の錆の付着は少ない。木質が付着か。頭部付近で僅かに曲がる。完存する。1169は釘である。頭部は僅かに肥厚する。僅かに錆ぶくれする。体部の断面形は概ね方形を呈する。僅かに曲がる。完存する。1170は釘

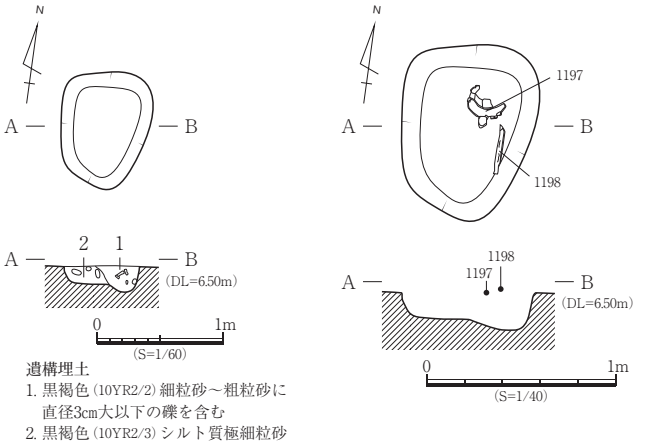


図678　11－1区　SK47　平面図・遺物出土状態図・断面図

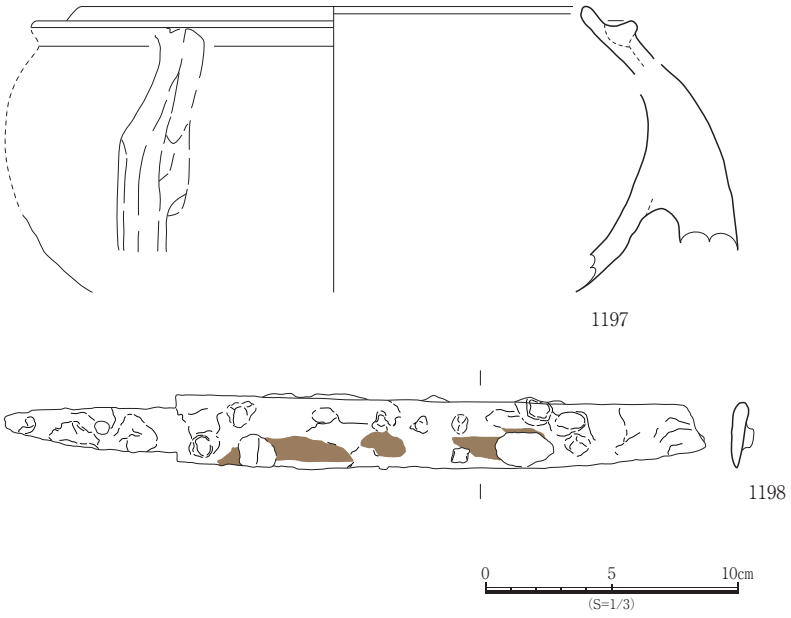


図679　11－1区　SK47　出土遺物実測図

である。頭部は不明瞭である。体部の断面形は正方形を呈する。木質が付着し，鍔状を呈する部分がある。先端部は僅かに曲がる。完存する。1171 は釘である。頭部は不明瞭である。体部の断面形は正方形を呈する。木質が付着し，鍔状を呈する部分がある。先端部が欠損か。1172 は釘である。頭部は「L」の字状を呈する。体部の断面形は正方形を呈する。木質が付着か。完存する。1173 は釘である。頭部は「L」の字状か。頂面は平坦である。体部の断面形は正方形を呈する。先端部は欠損する。1174 は釘である。頭部は「T」の字状を呈する。体部の断面形は長方形から正方形を呈する。錆ぶくれする。僅かに曲がる。先端部は欠損する。1175 は釘である。頭部は「T」の字状を呈し，頂面は長方形を呈する。錆ぶくれし，木質が付着する。完存する。1176 は釘である。頭部は不明瞭で，頂面は平坦である。錆ぶくれする。木質が付着か。完存する。1177 は釘である。頭部は「T」の字状を呈する。体部の断面形は多角形を呈する。錆ぶくれする。先端部は鋭く尖る。完存する。1178 は釘である。頭部は錆ぶくれで形状等不明瞭である。木質が付着する。先端部は欠損する。1179 は釘である。頭部は錆ぶくれで形状等不明瞭である。体部の断面形は長方形か。木質が付着か。先端部が欠損する。1180 は釘である。頭部は「T」の字状を呈し，頂面は長方形を呈し平坦である。体部の断面形は正方形を呈する。錆ぶくれする。僅かに蛇行する。完存である。1181 は釘である。頭部は「T」の字状を呈し，頂面は長方形を呈する。体部の断面形は正方形を呈する。木質が付着する。僅かに曲がる。先端部は欠損する。1182 は釘である。頭部は「L」の字状か。木質が付着し，鍔状を呈する部分がある。完存する。1183 は釘である。体部の断面形は長方形から正方形を呈する。先端部は欠損する。1184 は釘である。頭部は「T」の字状を呈し，頂面は長方形を呈する。僅かに曲がる。完存する。1185 は釘である。頭部，「T」の字状か。体部の断面形は長方形から正方形を呈する。先端部は欠損する。1186 は釘である。頭部は「T」の字状か。頂面は長方形を呈

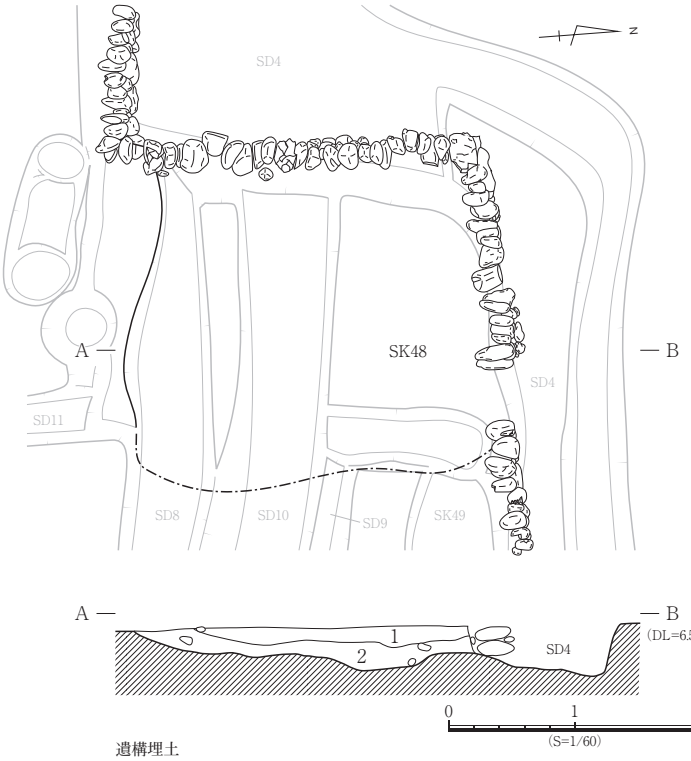


図680　11－1区　SK48　平面図・断面図

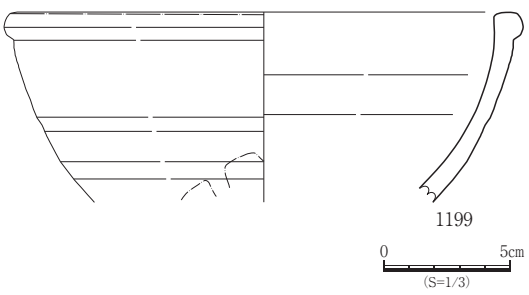


図681　11－1区　SK48・49　出土遺物実測図

する。木質が付着し，鍔状を呈する部分がある。先端部は欠損する。1187は釘である。頭部は「T」の字状か。体部の断面形は正方形を呈する。先端部は欠損する。1188は釘である。頭部は「T」の字状を呈し，頂面は長方形を呈する。体部の断面形は正方形を呈する。ほぼ完存する。1189は六文銭である。6枚の銭貨が重ねられ付着している。両面とも裏面であるため銭種は不明である。

SK43（11－3区）

SK43は11 － 3区で検出した土坑である。長軸の検出長約2.11m，短軸約1.71mを測り，検出面からの深さは約24㎝である。平面形は長方形か。主軸方向はN － 8° － Eである。

図示した出土遺物は土師器の甕（1190）である。内外面ともにヨコナデ調整を施す。

SK44

SK44は11 － 1区の中央付近で検出した土坑である。SK45の西側に位置する。掘方の平面形は方形を呈する。規模は，長軸約1.10m，短軸約0.81m，深さ約42㎝を測る。主軸方向はN－1° － Wである。底部は平坦で，壁は傾斜して立ち上がる。埋土は黒褐色土で上層に径5㎝大以下の礫を含む極細粒砂，下層に細礫含む粗粒砂が堆積する。底部付近の南東壁際から土師質土器の皿が2点出土した。そのうち1点は壁に沿って傾いた状態で出土している。人骨や歯牙は確認されなかった。（綾部）

図示した出土遺物は土師質土器の皿（1191・1192），須恵器の脚部（1193）である。

1191は皿である。口縁部は斜め外方へひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡がみられる。1192は皿である。口縁部は斜め外方へひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底面は渦状を呈する。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1193は脚部である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。ヘラ描き波状文と凹線を交互に配置する。

SK44（11－3区）

SK44は11－3区で検出した平面形が不整楕円形の土坑である。長軸約2.36m，短軸約1.98mを測り，検出面からの深さは約25㎝である。埋土は黒褐色（10YR2/3）細粒砂質粘性シルトである。主軸方向はN － 83° － Eである。

図示した出土遺物は土師質土器の杯（1194・1195）である。

1194は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。見込みおよび外底面に墨書がみられる。1195は杯である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外面に墨書がみられる。

SK45

SK45は11 － 1区で検出した土坑である。SK44の東側に位置する。掘方の平面形は方形を呈する。規模は長軸約1.11m，短軸約0.89m，深さ約73㎝を測る。主軸方向はN－2° － Wである。底部は平坦で，壁はほぼ直立する。埋土は径3～5㎝大の円礫を多く含む黒褐色粘砂土である。葬送に伴う遺物は出土していないが，掘方形状やSK42 ～ SK44との位置関係から近世墓と考えられる。人骨や歯牙は確認されなかった。（綾部）

図示した出土遺物は土師質土器の皿（1196）である。口縁部は斜め外方へひろがる。内外面ともに回転

ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡がみられる。

SK47

SK47は11 － 1区で検出した土坑である。掘方の平面形は北側が広がる不整長方形を呈する。規模は長軸約0.93m，短軸約0.73m，深さ約16㎝を測る。埋土は黒褐色土で，西側に細～粗粒砂，東側にシルト質極細粒砂が堆積する。土坑上面で刀子(1198)，底部付近で瓦質土器の鍋(1197)が出土した。刀子は東壁際で刃先を北に向け出土した。(綾部)

図示した出土遺物は瓦質土器の鍋(1197)，鉄製の刀子(1198)である。

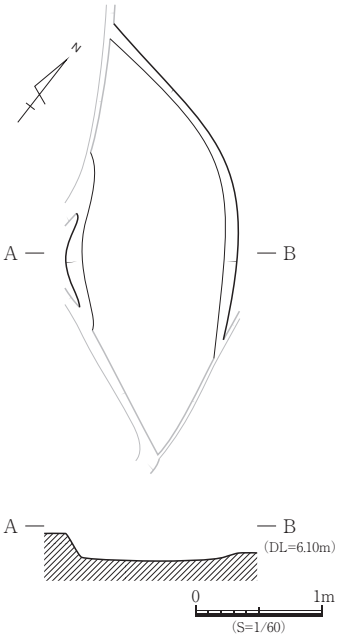


図682　11－1区　SK51
平面図・エレベーション図

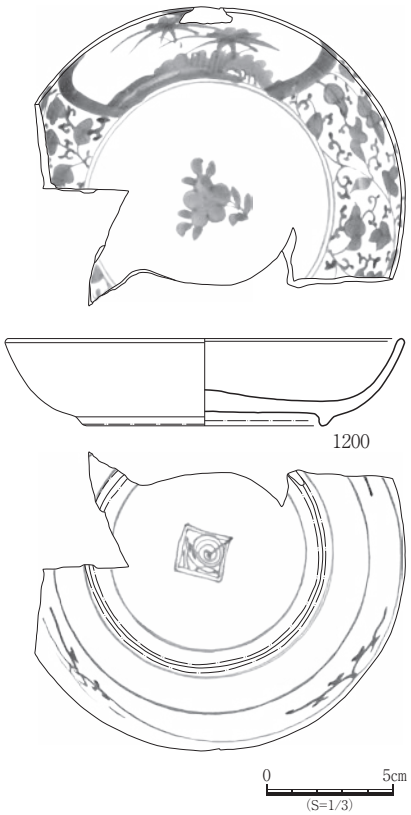


図683　11－1区　SK51
出土遺物実測図

1197は鍋である。体部は扁球形を呈し，口縁部は内湾する。口縁部はヨコナデ調整で仕上げる。体部外面はナデ調整，内面はヨコナデ調整である。三脚を付す。1198は刀子である。鞘とみられる木質が残る。孔径5㎜×4㎜の目釘穴を茎の中央に穿つ。切先は欠損する。

SK48

SK48は11 － 1区で検出した土坑である。SD8・9の上層に位置し，SD4に切られる。規模は南北の検出長約3.25m，東西の検出長約2.13m，深さ約8㎝を測る。埋土は黒褐色細礫含む中粒砂や極細粒砂である。(綾部)

図示した出土遺物はSK48・49から出土した陶器の鉢(1199)である。口唇部には釉ハギを施す。腰部外面に釉垂れがみられる。化粧土か。

SK51

SK51は11 － 1区で検出した平面形が不整形の土坑である。長軸の検出長約2.65m，短軸約1.36mを測り，検出面からの深さは約58㎝である。主軸方向はN － 27° － Wである。

図示した出土遺物は磁器の皿(1200)である。畳付には釉ハギを施す。外面には唐草文・圏線，内面には唐草文・竹，見込みには花文の染付を施す。

SK52

SK52は11－1区で検出した土坑である。上層をSD6によって削平される。掘方の平面形は長方形を呈する。規模は長辺約0.91m，短辺の検出長約0.70m，深さ約21cmを測る。底部から土師質土器の皿・杯が出土した。中世墓の可能性が考えられる。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1201・1202)・杯(1203)である。

1201は皿である。口縁部は内湾気味に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡がみられる。完存する。1202は皿である。口縁部は斜め外方へひろがる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡がみられる。1203は杯である。体部は内湾気味に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底面は渦状を呈する。切離し手法は回転糸切りか。

SK54

SK54は11－1区で検出した土坑である。掘方の平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸約1.85m，短軸の検出長約1.28m，深さ約51cmを測る。埋土は黒褐色シルト質極細粒砂他で，底部付近は径10～15cm大の円礫を多く含む。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の杯(1204・1205)である。

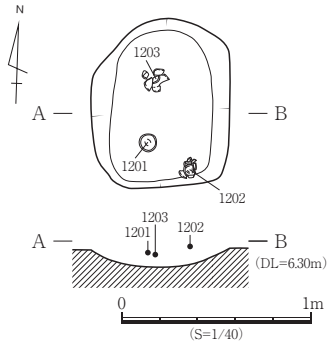


図684　11－1区　SK52
平面図・遺物出土状態図・
エレベーション図

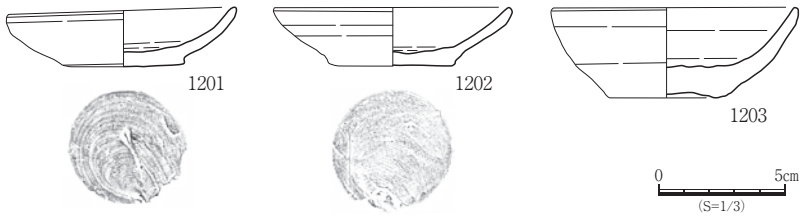


図685　11－1区　SK52　出土遺物実測図

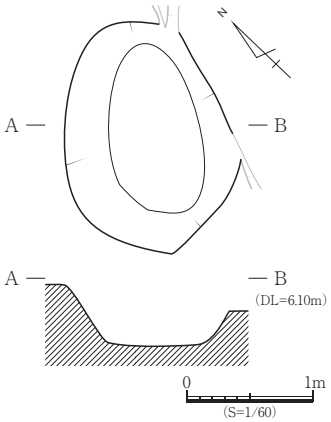


図686　11－1区　SK54
平面図・エレベーション図

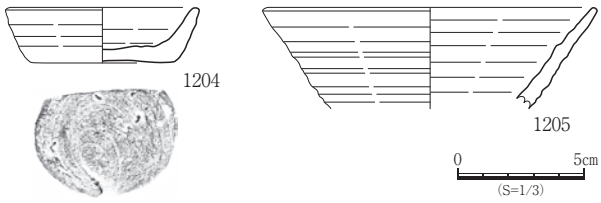


図687　11－1区　SK54　出土遺物実測図

1204は杯である。口縁部は直立気味に短く立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面ともにロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1205は杯である。体部は外上方に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面にロクロ目がみられる。

5.SD

SD1（SD4）

SD1は11 － 2区で検出した溝跡である。方形に囲繞する溝跡の一部と推測される。東西方向のほぼ中央付近が内側（南側）に凹む。幅約0.93 ～ 1.59mであり，検出長は約51.9mを測る。主軸方向はN － 10° － E・N － 88° － Wである。検出面からの深さは15 ～ 44cmであり，埋土は黒褐色（10YR3/1）細粒

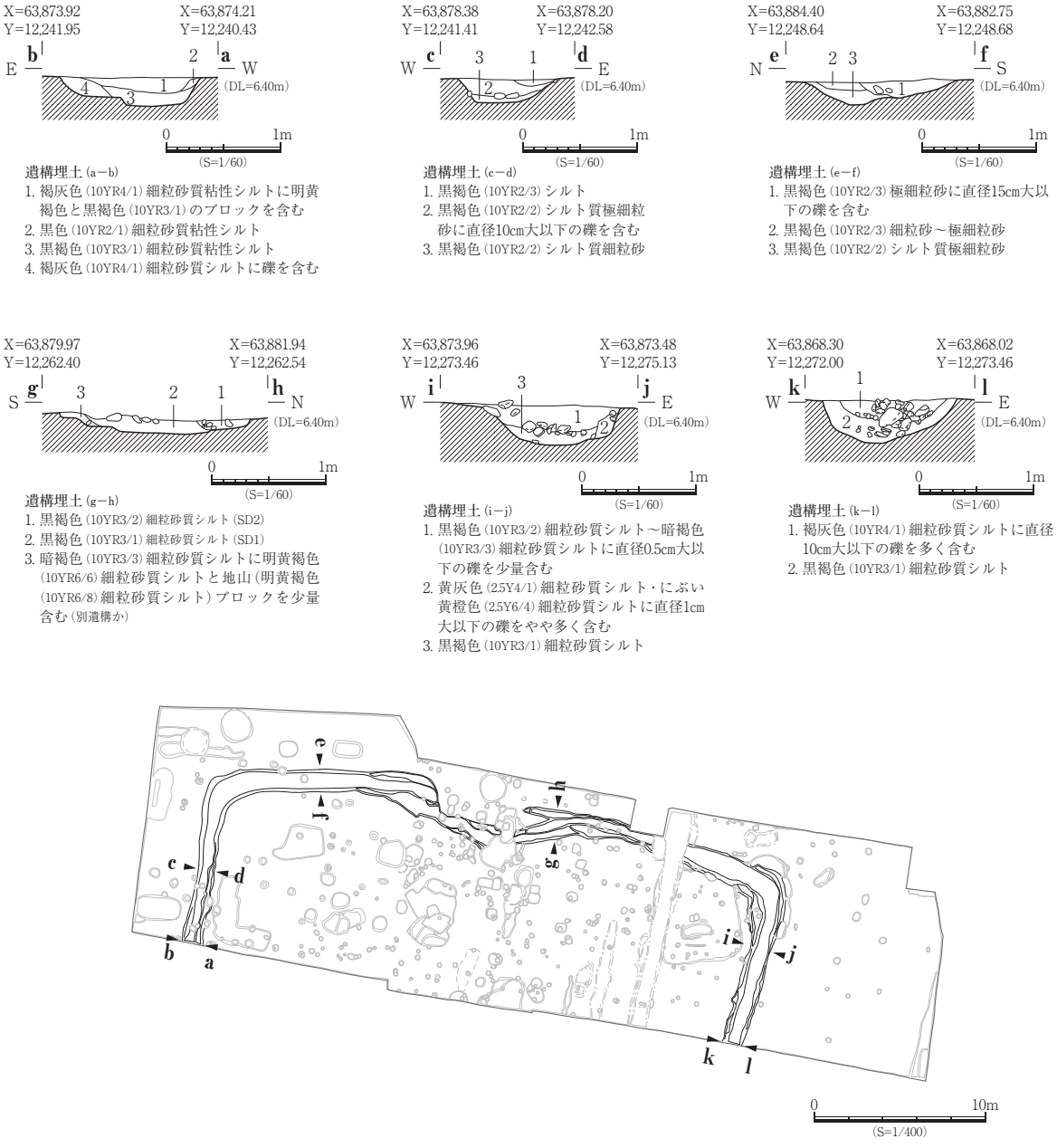


図688　11 － 2区　SD1　断面図

砂質シルト他である。埋土には礫を多量に含んでおり，溝跡に沿って石積みを伴う土塁が構築されていた可能性がある。

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1206)・杯(1207～1210)・焜炉(1220)，須恵器の皿(1211)・杯(1212～1214)，青磁の皿(1215)，陶器の皿(1216)，青花の碗(1217)，炻器の壺(1218)，備前焼の甕(1219)，土錘

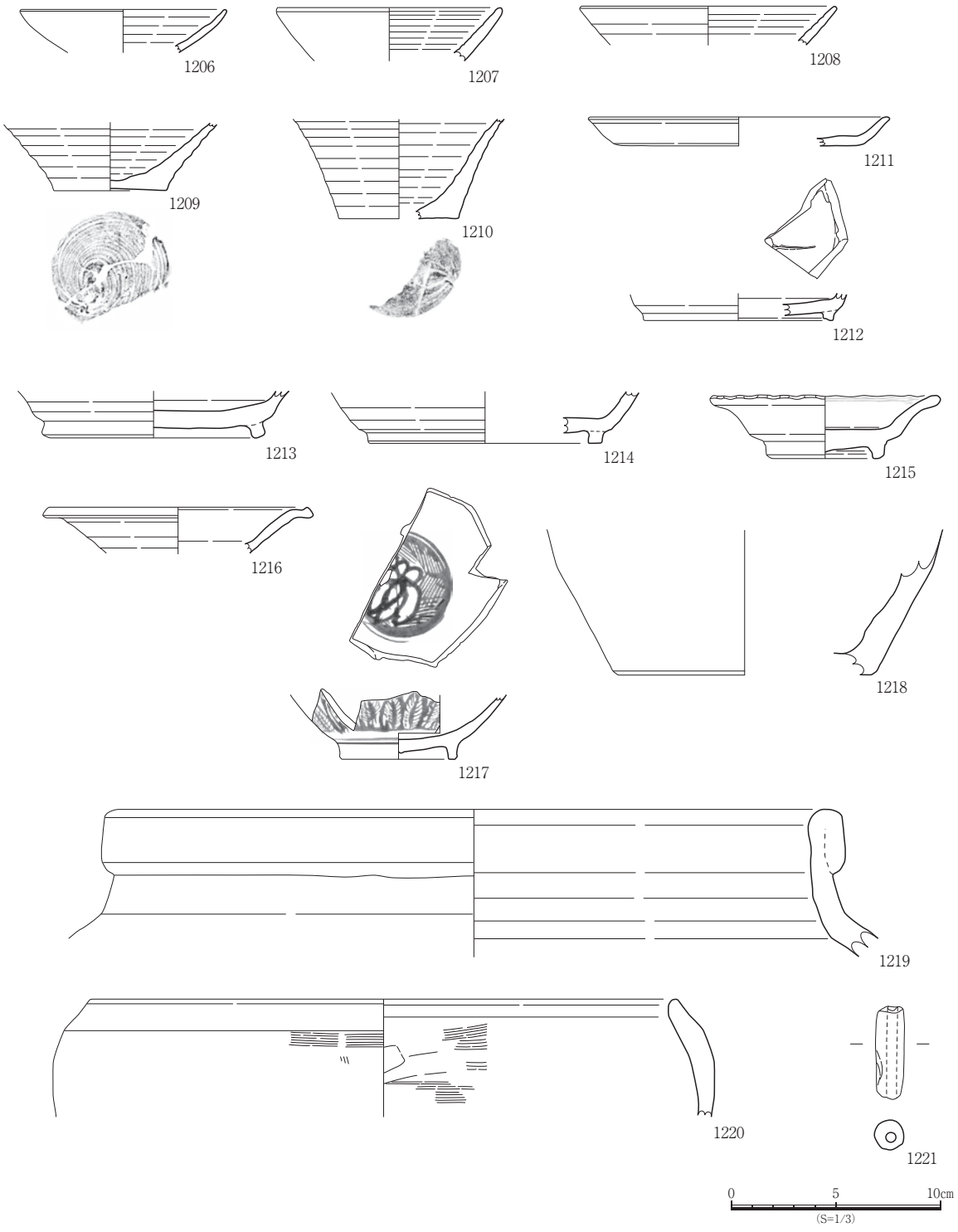


図689　11－2区　SD1　出土遺物実測図_1

(1221), 叩石(1222)・砥石(1223・1224)・五輪塔(1225・1226), 鉄製の鉇(1227)である。特筆すべき遺物としてスラグが1点出土している。

1206は皿である。口縁部は内湾気味に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。1207・1208は杯である。体部は外上方に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し, 内面には沈線状のロクロ目がみられる。1209は杯である。体部は外上方に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し, 内外面にロクロ目がみられる。外底面に回転糸切り痕跡がみられる。1210は杯である。体部はやや外

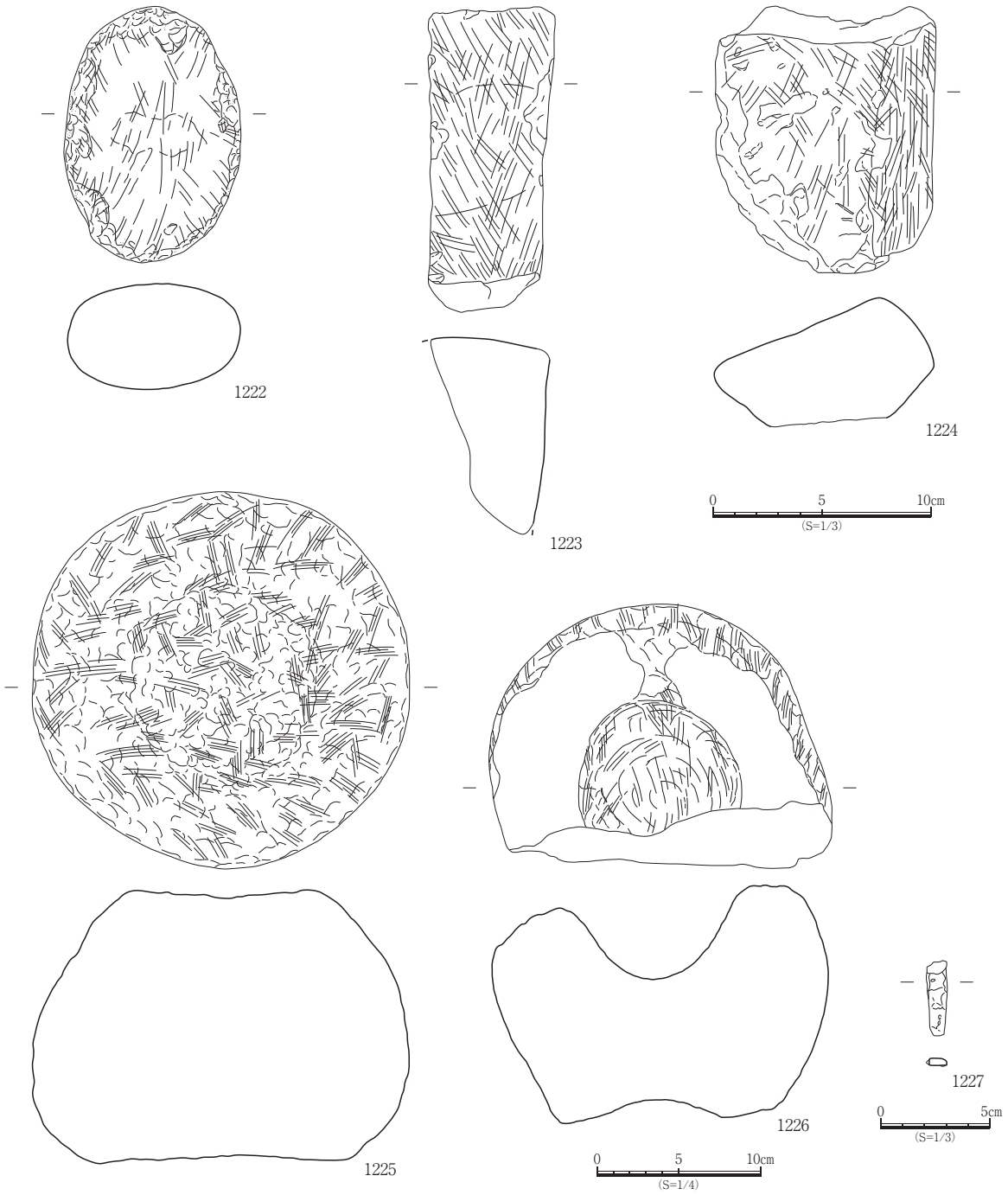


図690　11－2区　SD1　出土遺物実測図_2

上方に立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内外面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1211は皿である。口縁部は斜め外方へ短く立ち上がる。底部と口縁部の境は比較的明瞭な稜が巡る。1212は高台付き杯である。外面端部に断面形が台形の低い高台を付す。高台の外端部で接地し弱いステップがみられる。内外面とも回転ナデ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。内底面にヘラ記号がみられる。1213は高台付き杯である。外面端部に断面形が方形の高台を「ハ」の字状に付す。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。1214は高台付き杯である。外面端部に断面形が方形の高台を付す。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底面・外底面ともにナデ調整を施す。1215は稜花皿である。口縁部内面に2条の波状文を入れる。畳付に釉ハギを施す。外底面は無釉である。1216は端折れ皿である。1217は碗である。外面には芭蕉葉文・圏線，内面には蓮華文を描く。畳付には釉ハギを施し，砂が付着する。1218は壺である。外面は叩き調整後回転ナデ調整を施し，内面は回転ナデ調整を施す。1220は焜炉である。口縁端部はヨコナデ調整で仕上げる。口縁部外面はヨコハケ調整・ナデ調整，内面はハケ調整・ナデ調整である。1221は管状土錘である。円孔は直径約0.4cmである。1222は砂岩製の叩石である。扁平な河原石を利用する。周縁を激しく使用する。完存である。1223は砂岩製の大型砥石である。一面以外は欠損する。二次被熱を受け，煤が付着する。1224は砂岩製の砥石である。断面形は多角形を呈し，各面によって使用痕は異なる。深い線状痕跡がみられる面，使用により光沢を帯び断面形が蒲鉾状を呈する面等がある。1225は砂岩製の水輪である。下部に最大径部を持ち，上下面とも僅かに凹む。全体的に加工痕跡がみられる。ほぼ完存する。1226は花崗岩製の水輪である。上部に最大径部を持つ。上面を大きく凹ませ，孔壁は平滑となる。また，下面も凹む。1227は鉈である。先端部は反る。断面形は扁平な長形を呈する。

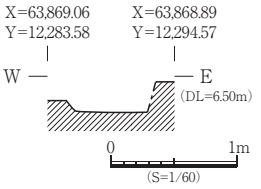


図691　11－2区　SD3 エレベーション図

SD2

SD2は11－2区で検出した溝跡である。SD1を切ると考えられるものの新旧関係は判然とせず，SD1と関連する遺構の可能性がある。幅約0.39～0.56m

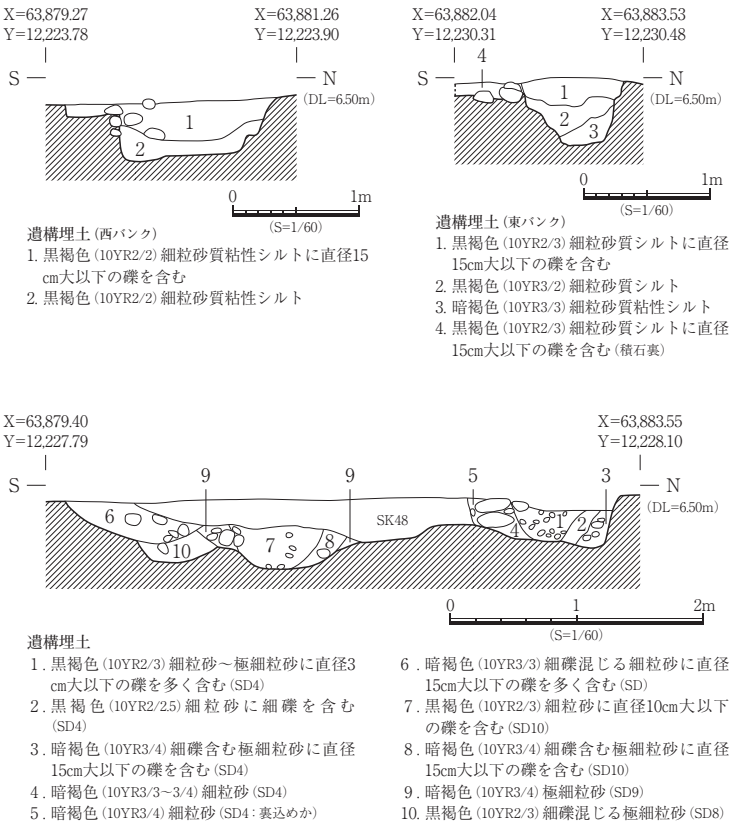


図692　11－1区　SD4　断面図

図693　11－1区　SD4　出土遺物実測図

であり，検出長は約2.97mを測る。主軸方向はN－83°－Wである。検出面からの深さは9～17㎝であり，埋土は黒褐色(10YR3/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD3

SD3は11－2区東部で検出した南北方向の溝跡である。11－3区で検出したSD11と接続する可能性がある。幅約0.90m以上あり，検出長は約6.33mを測る。主軸方向はN－13°－Eである。検出面からの深さは8～14㎝であり，埋土は灰黄褐色(10YR5/2)細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物はない。

SD4

SD4は11－1区で検出した溝跡である。鍵状に折れる溝で，片側に石積を伴う。溝幅は東側で約0.92m，西側で南北約1.30mを測る。検出長は約20.13mである。主軸方向はN－25°－E・N－85°－W・N－7°－Wである。深さは43～64㎝である。埋土は黒褐色や暗褐色の細礫含む細粒砂～極細粒砂で，拳大の礫を含む。石積は溝の南壁側に構築され，検出長は約11.90mになる。石材には自然石の円礫を使用し，コーナー部や基底石の一部に石灰岩が用いられる。基底石として比較的大きな石を並べ，

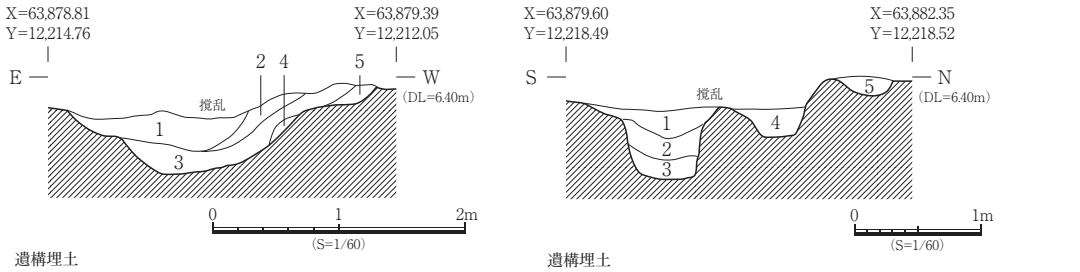


図694　11－1区　SD5・6　断面図

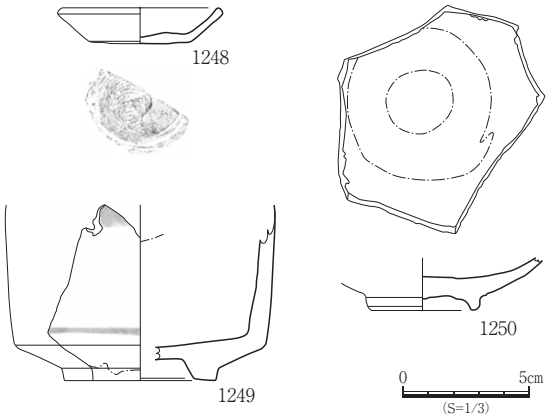


図695　11－1区　SD5A　出土遺物実測図

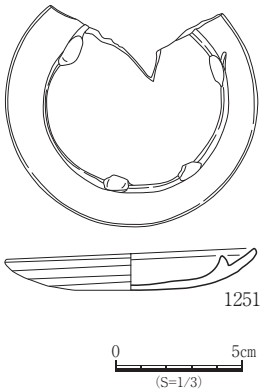


図696　11－1区　SD5B　出土遺物実測図

その上に小ぶりな石を積み上げる。背面には暗褐色粗粒砂が堆積する。石積の高さは約50㎝で3～4段確認した。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1228～1233)，磁器の碗(1234)，陶器の碗(1235)・皿(1236)・灯明受皿(1237)・仏飯具(1238)，磁器の仏飯具(1239)，備前焼の壺(1240)・擂鉢(1244)，磁器の壺(1241)・瓶(1242・1243)，丸瓦(1245)，砥石(1246)，銭貨(1247)である。

1228は皿である。口縁部は浅く斜め上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡がみられる。1229は皿である。口縁部は浅く斜め上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡がみられる。口縁部にタールが激しく付着し，灯明皿として使用されたと考えられる。1230は皿である。口縁部は浅く斜め上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。1231は皿である。口縁部は外上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡がみられる。口縁部にタールが激しく付着し，灯明皿として使用されたと考えられる。1232は皿である。口縁部は外上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。1233は皿である。口縁部は外上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。口縁部にタールが激しく付着し，灯明皿として使用されたと考えられる。1234は碗である。ロクロ成形である。外面に花文・圏線の染付がみられる。畳付には釉ハギを施す。見込みには目跡が認められる。1235は碗である。ロクロ成形である。灰黄色から暗灰黄色の釉薬を施す。1236は皿である。ロクロ成形である。僅かに上げ底状となる。外面にはヘラケズリ調整を施す。1237は灯明受皿である。ロクロ成形である。外面にはヘラケズリ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。油溝を付す。1238は仏飯具である。ロクロ成形である。脚部以下は無釉となる。1239は仏飯具である。ロクロ成形である。外面には唐草文・松の染付を施す。外底面は無釉となる。1241は壺である。外面の釉薬は不均質であり，文様か。内面頸部以下は無釉である。1242は瓶である。ロクロ成形である。畳付には釉ハギを施す。外面には草花文を描く。1243は瓶である。畳付には釉ハギを施す。高台内には砂が付着する。外面には蛸唐草文・草花文を描く。1244は擂鉢である。口縁部を上方へ拡張し，外面に弱い2条の凹線を入れる。内面には9条1単位の条線を密に施す。体部外面にはヘラケズリ調整を施す。1246は流紋岩製の砥石である。1面のみ使用する。側面には加工痕がみられる。1247は寛永通宝である。

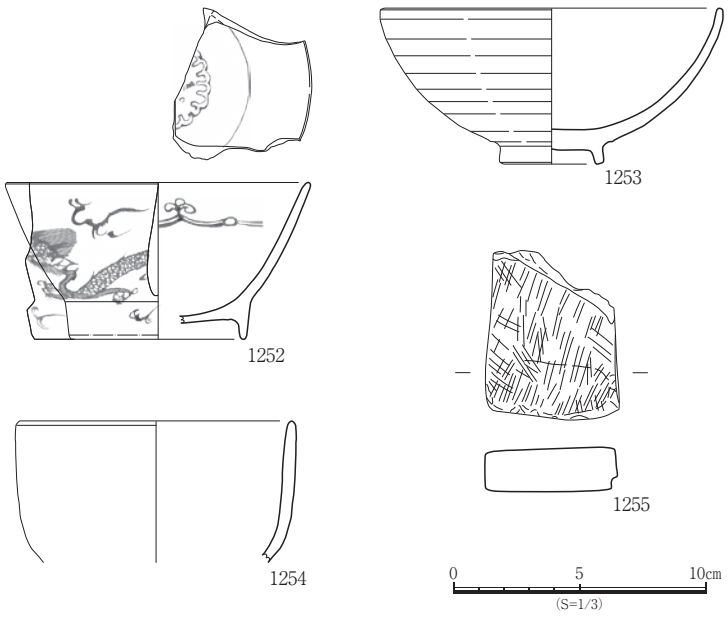


図697　11－1区　SD6　出土遺物実測図

SD5A

SD5Aは11－1区で検出した溝跡である。SD5Bの南側に位置する。西側で南へ向かって緩やかに湾曲する東西方向の溝である。規

模は，幅1.06～1.30m，深さ69～81㎝を測る。検出長は約8.50mである。主軸方向はN－62°－E・N－89°－Eである。埋土は暗褐色粗粒砂や黒褐色シルト混じる中粒砂他である。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1248)，陶器の碗(1249)・皿(1250)である。

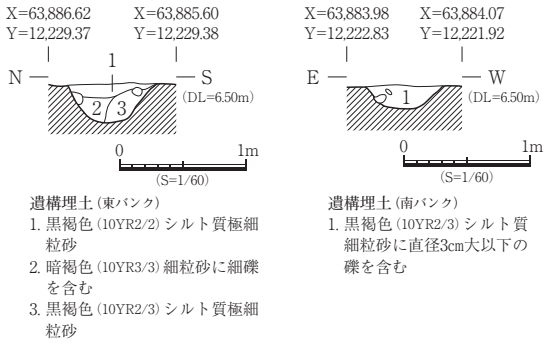


図698　11－1区　SD7　断面図

1248は皿である。口縁部は外上方へひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転糸切り痕跡がみられる。1249は筒形碗である。ロクロ成形である。外面は線状あるいは帯状に釉薬が濃い部分がみられる。高台は無釉となる。1250は皿である。ロクロ成形である。内面にはオリーブ灰色の釉薬を施し，見込みには蛇ノ目釉ハギを施す。外面には灰白色の化粧土を塗布する。高台は無釉となる。

SD5B

SD5Bは11－1区で検出した溝跡である。東西方向の溝跡で，西端で南側に直角に折れる。規模は東西方向で幅0.65～0.84m，深さ43～59㎝，南北方向で幅約0.96m，深さ約65㎝を測る。埋土は暗褐色粗粒砂である。検出長は約14.90mである。主軸方向はN－14°－E・N－85°－Wである。(綾部)

図示した出土遺物は陶器の灯明受皿(1251)である。ロクロ成形で外面にはヘラケズリを施す。3箇所の油溝がみられる。

SD6

SD6は11－1区で検出した東西方向の溝跡である。西側で南へ緩やかに湾曲する。SK42・43らの近世墓群，SD5Bによって削平される。規模は幅の検出長0.33～0.64m，深さ4～25㎝を測る。埋土は黒褐色細礫混じるシルト質極細粒砂である。検出長は約15.65mである。主軸方向はN－22°－E・N－89°－Eである。(綾部)

図示した出土遺物は磁器の碗(1252)，陶器の碗(1253・1254)，砥石(1255)である。

1252は広東碗である。ロクロ成形である。畳付には釉ハギを施す。外面には龍の染付を施す。また，見込みには目跡がみられる。1253は碗である。ロクロ成形である。色調が浅黄色とオリーブ黄色の釉薬が互層状となる。高台は無釉となる。1255は砂岩製の砥石である。扁平で3面を使用する。

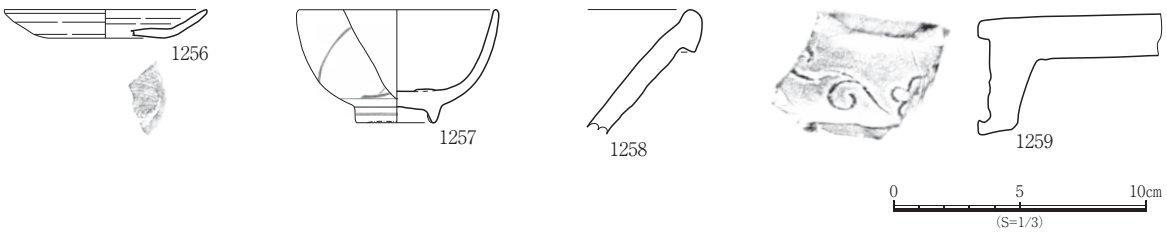


図699　11－1区　SD8　出土遺物実測図

SD7

SD7は11－1区で検出した溝跡である。SD4に切られる。SD4から北へ約4.58mのび，SK57付近で東に折れる。規模は，幅0.40～0.78m，深さ14～30㎝，検出長は約13.85mを測る。主軸方向はN－9°－E・N－85°－Eである。埋土は黒褐色シルト質細粒砂他である。(綾部)

図示した出土遺物はない。

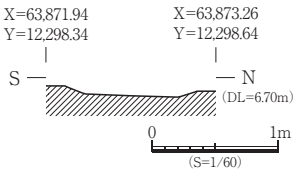


図700　11－3区　SD11
エレベーション図

SD8

SD8は11－1区で検出した溝跡である。SD4・9・10によって上部を削平される。規模は，幅0.32～0.65m，深さ50～59㎝，検出長約4.35mを測る。主軸方向はN－82°－Wである。埋土は黒褐色細礫混じる極細粒砂である。(綾部)

図示した出土遺物は土師質土器の皿(1256)，磁器の碗(1257)，須恵器の捏鉢(1258)，軒平瓦(1259)である。

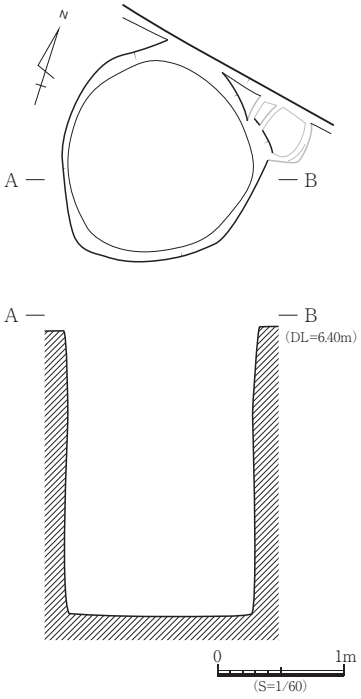


図701　11－2区(R1)　SE1
平面図・エレベーション図

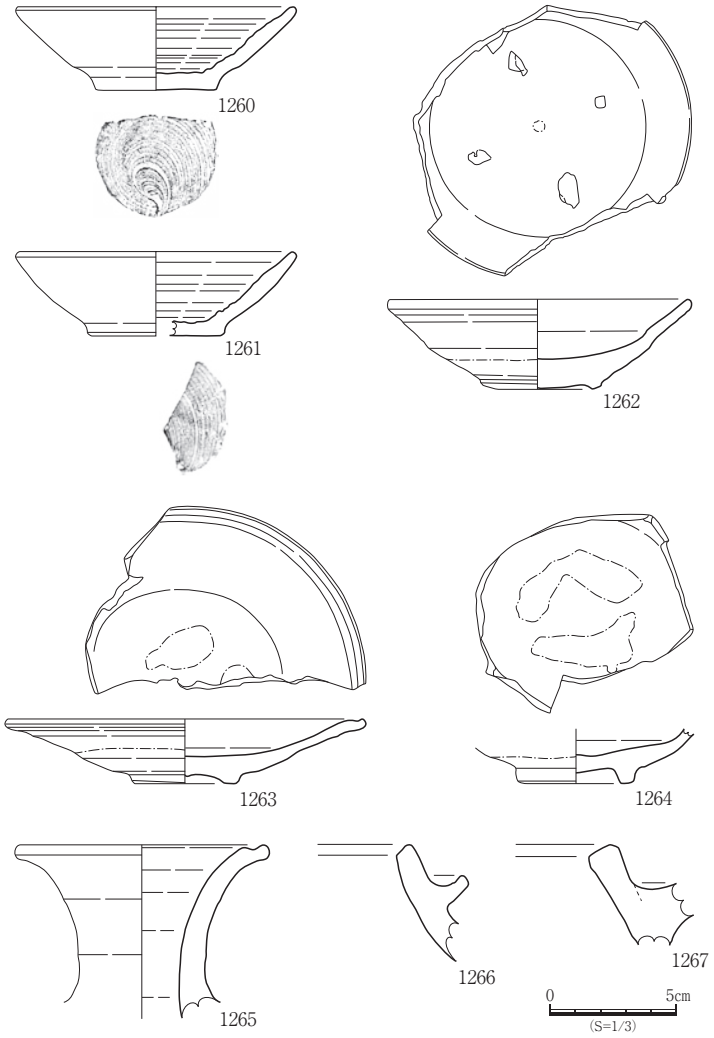


図702　11－2区(R1)　SE1　出土遺物実測図

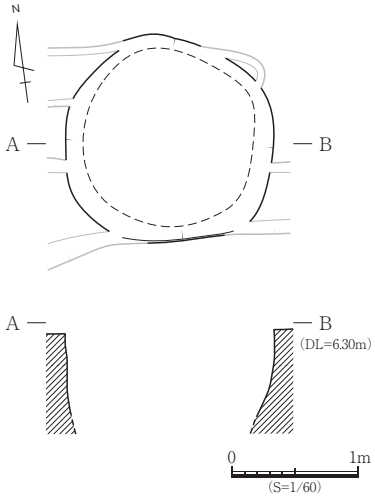


図703　11－2区　SE1
平面図・エレベーション図

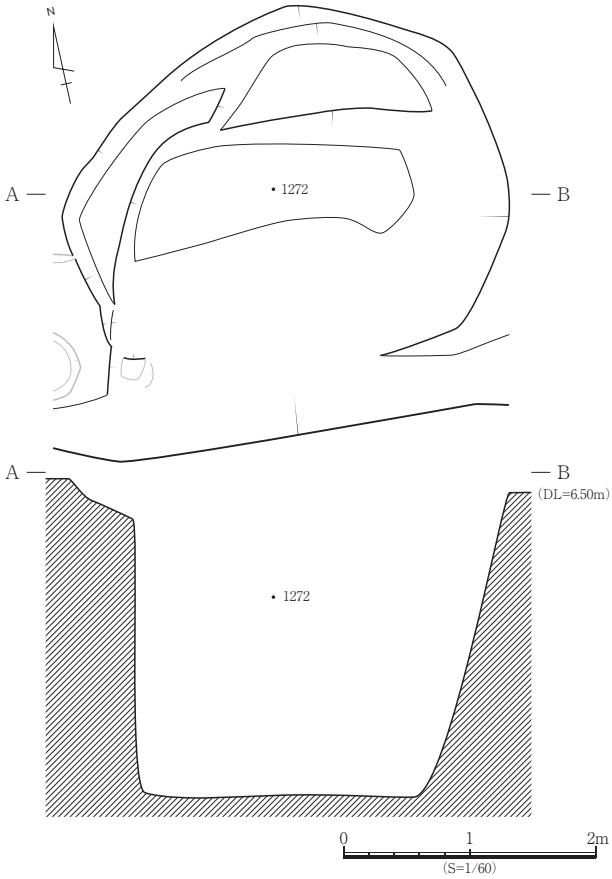


図704　11－3区　SE1
平面図・遺物出土状態図・エレベーション図

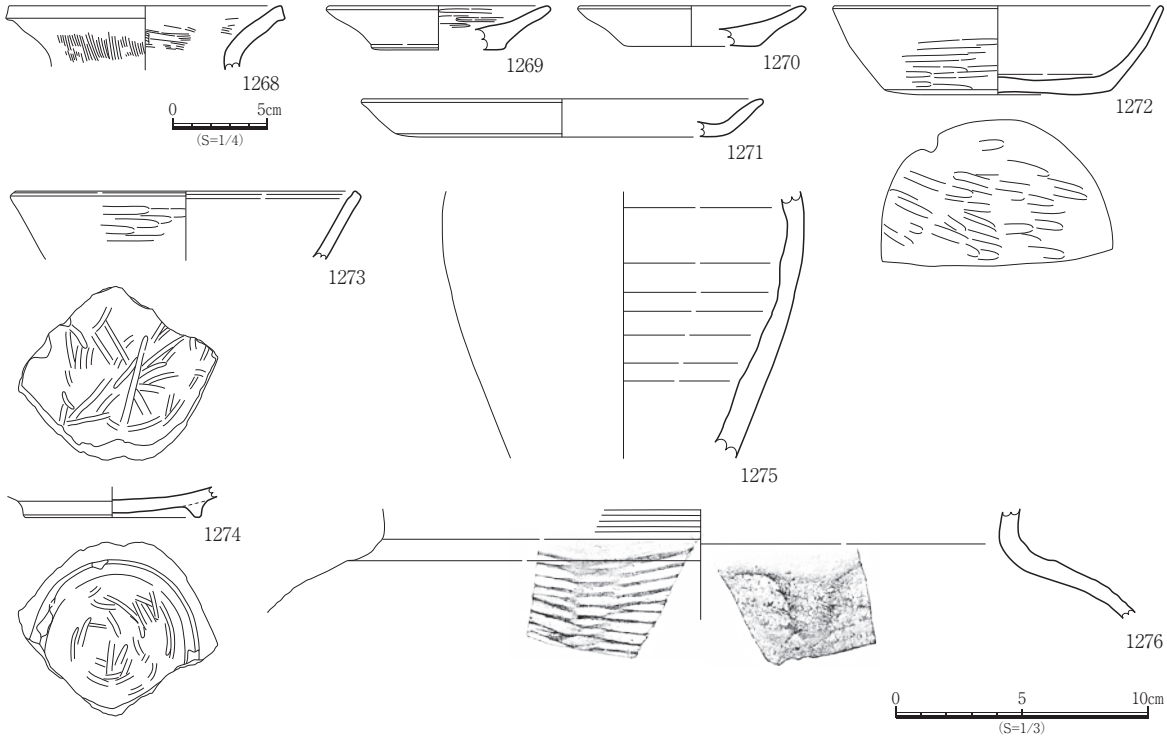


図705　11－3区　SE1　出土遺物実測図

1256は皿である。口縁部は外上方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。1257は碗である。ロクロ成形である。畳付には釉ハギを施し，高台内には砂が付着する。外面には染付を施す。1258は捏鉢である。東播系か。口縁部を上下方へ拡張させ，下端部は三角形状を呈する。内外面ともに回転ナデ調整を施す。重ね焼き痕跡がみられる。1259は軒平瓦である。中心飾りは三花文であり，唐草文を配置する。

6.SE

SE1（11－2区R1）

SE1は11－2区東部で検出した井戸跡である。平面形は直径約1.68mの円形を呈する。検出面からの深さ約2.25mを測る。埋土は検出面から約40㎝は黒色（10YR2/1）細粒砂質シルトであり，それ以下は砂礫層である。

図示した出土遺物は土師質土器の杯（1260・1261），陶器の皿（1262～1264），須恵器の壺（1265），土師質土器の羽釜（1266・1267）である。

1260は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内面にはロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。1261は杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内面から内底面にかけてロクロ目がみられる。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。二次被熱を受け，煤が付着

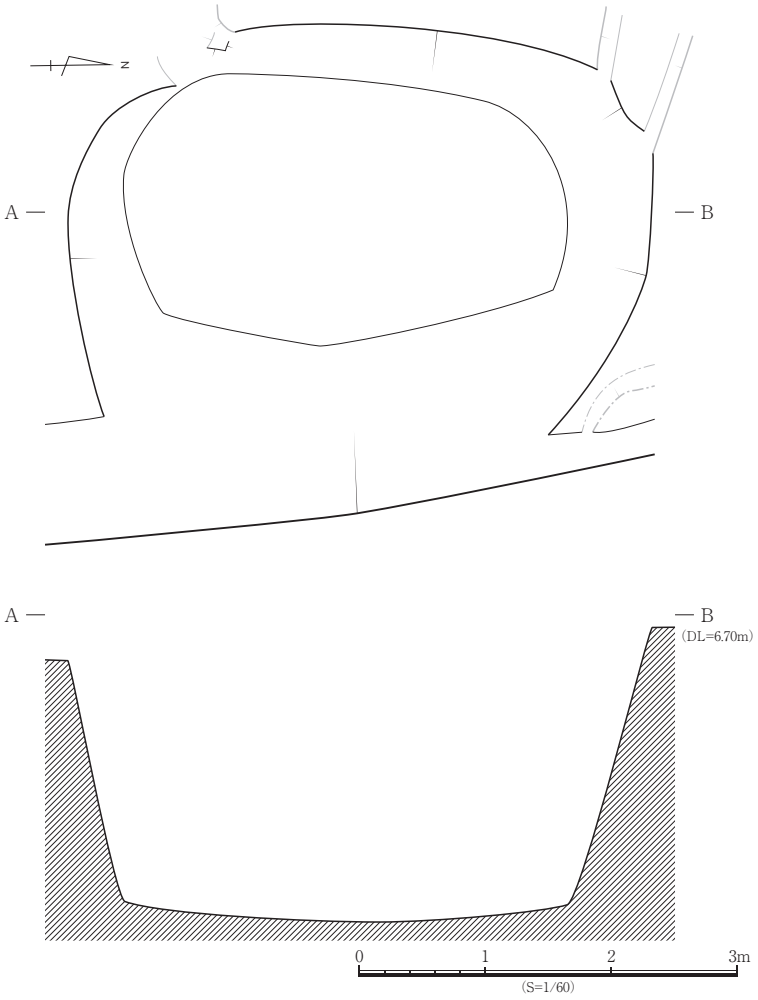


図706　11－3区　SE2　平面図・エレベーション図

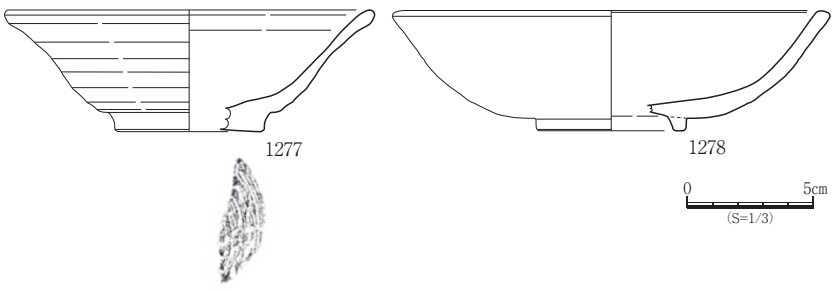


図707　11－3区　SE2　出土遺物実測図

する。1262は皿である。ロクロ成形である。扁平な削り出し高台を持つ。腰部以下は無釉となる。見込みには目跡がみられる。1263は折縁皿である。ロクロ成形である。扁平な削り出し高台を持つ。腰部以下は無釉となる。見込みには目跡がみられる。被熱により釉薬が溶解する。1264は皿である。ロクロ成形である。高台は無釉である。見込みには目跡がみられる。1265は壺である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。自然釉が付着する。脚か。1266は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下に断面形が長方形の鍔を付す。内外面ともにヨコナデ調整およびナデ調整か。1267は羽釜である。口縁部は内傾し，口唇部には面取りを施す。口縁部下に鍔を付す。内外面ともにヨコナデ調整を施す。

SE1（11－2区）

SE1は11－2区西部で検出した井戸跡で，SK28の南西に位置する。平面形は不整方形を呈する。規模は長軸約1.62m，短軸約1.61mを測る。埋土はにぶい黄褐色極細粒砂や黒褐色シルト混じる極粗粒砂などで，径3～20㎝大の礫を多く含む。

図示した出土遺物はない。（綾部）

SE1（11－3区）

SE1は11－3区で検出した井戸跡である。平面形は不整円形を呈する。長軸約3.44m，短軸の検出長約2.83m，検出面からの深さ約2.50mを測る。

図示した出土遺物は弥生土器の壺（1268），土師質土器の皿（1269～1271），土師器の杯（1272・1273），黒色土器の椀（1274），炻器の壺（1275），須恵器の甕（1276）である。

1268は壺である。口唇部には面取りを施す。口縁部は内外面ともにヨコナデ調整で仕上げる。頸部外面はタテハケ調整，内面はヨコハケ調整である。1269は皿である。口縁部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。内底面は回転ナデ調整後ヘラミガキ調整か。外底面はナデ調整である。1270は皿である。口縁部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。切離し手法は不明である。1271は皿である。口縁部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施す。1272は杯である。体部は外上方へ立ち上がる。外面は回転ナデ調整後ヘラミガキ調整を施す。内面は摩耗のため調整等は不明瞭である。また，外底面には回転ヘラ切り後ヘラミガキ調整を施す。1273は杯である。体部は外上方へ立ち上がり，口縁端部内面は凹む。外面は回転ナデ調整後

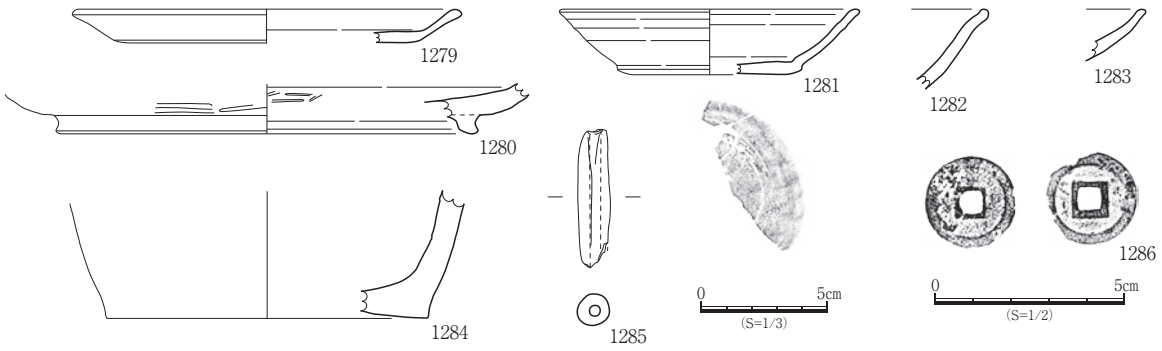


図708　11区　ピット　出土遺物実測図

ヘラミガキ調整，内面は回転ナデ調整である。1274 は内黒の椀である。外底面に輪高台を付す。内底面および外底面にはヘラミガキ調整を施す。1276 は甕である。頸部外面は回転ナデ調整あるいはヘラナデ調整か。内面は回転ナデ調整である。体部外面は平行叩き調整を施し，内面には当て具痕跡がみられる。

SE2（11－3区）

SE2 は 11 － 3 区で検出した井戸跡である。平面形は楕円形を呈する。長軸約 4.61m，短軸の検出長約 3.57m，検出面からの深さ約 2.35m を測る。埋土は黒色細粒砂質シルトである。

図示した出土遺物は土師質土器の椀（1277・1278）である。

1277 は円盤状高台椀である。体部は内湾気味に斜め上方へ立ち上がり，口縁部は外反する。内外面ともに回転ナデ調整を施す。外底面には回転糸切り痕跡がみられる。1278 は杯部が浅い椀である。外底面に断面形が方形の輪高台を付す。内外面ともに回転ナデ調整か。外底面は回転糸切り痕跡か。

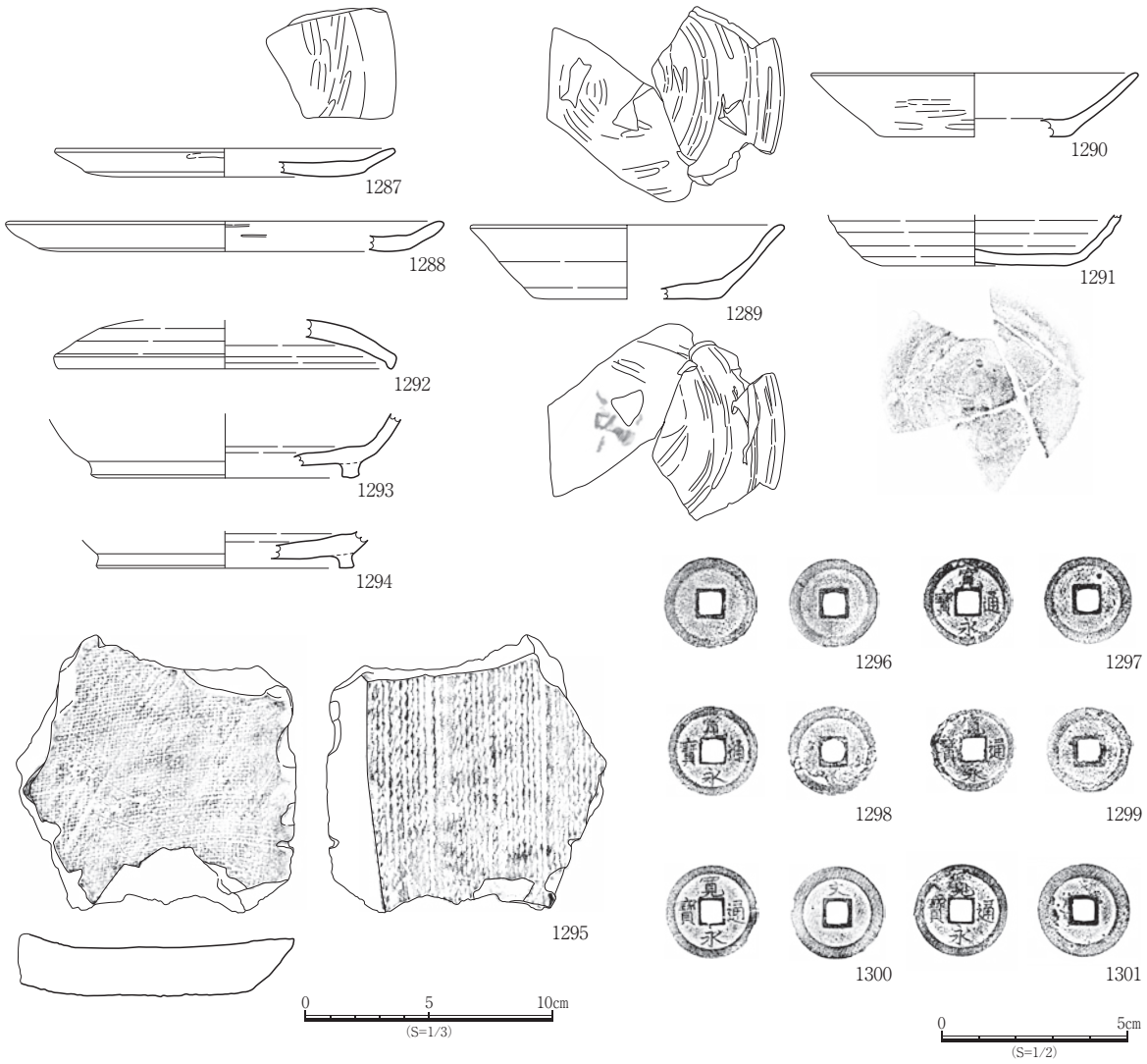


図709　11区　遺構外出土遺物実測図

7. ピット

P105

11 － 2区の西部で検出したピットである。掘方の平面形は円形を呈する。規模は直径約0.90m，深さ20cmを測る。埋土は黒褐色シルト質細粒砂並びに極細粒砂で，径5～10cm大の礫を多く含む。（綾部）

P106

11 － 2区の西部，P105の西側で検出したピットである。掘方の平面形は円形を呈する。規模は直径約0.80m，深さ約37cmを測る。埋土は黒褐色シルト含む粗粒砂で，上層には径5～15cm大の礫が堆積する。P105と規模および埋土が近似しており，同じ性格の遺構と考えられる。P105との距離は心々間で約4.00mを測る。（綾部）

ピット出土遺物

1279はP214から出土した土師質土器の皿である。口縁部は斜め外方へ大きくひらく。内外面ともに回転ナデ調整を施し，内底面はナデ調整を施す。また，外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整である。1280はP125から出土した土師器の皿である。外底面に輪高台を付す。高台端部を摘み出す。内外面ともに回転ナデ調整後ヘラミガキ調整か。盤か。1281はP201から出土した土師質土器の杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整を施し，外底面には回転ヘラ切り後ナデ調整を施す。1282はP8から出土した土師器の杯である。体部は外上方へ立ち上がり，口縁端部内面は凹む。内外面ともに回転ナデ調整を施す。1283はP95から出土した須恵質の緑釉陶器の皿である。内外面ともに回転ナデ調整を施す。1284はP148から出土した炻器の壺である。外面には回転ヘラケズリ調整，内面にはナデ調整を施す。また，外底面にはナデ調整を施す。1285はP106から出土した管状土錘である。円筒形を呈し，両端は丸みを帯びる。断面形は歪な円形を呈する。円孔の直径約0.4cmである。ナデ調整である。1286はP203から出土した銭貨である。5枚の銭貨が重ねられ付着している。両面とも裏面であるため銭種は不明である。これらの他に寛永通寶が1枚出土している。本来は六文銭を構成していたと考えられる。

8. 遺構外出土遺物

図示した出土遺物は土師器の杯，土師質土器の皿・杯，須恵器の蓋・杯，平瓦，銭貨である。

1289は土師器の杯である。体部は斜め上方へ立ち上がる。内外面ともに回転ナデ調整後ヘラミガキ調整を施す。外底面には回転ヘラ切り後ヘラミガキ調整を施し，墨書する。1292は須恵器の蓋である。口縁端部を僅かに下垂させる。内外面ともに回転ナデ調整を施す。天井部は内外面ともにナデ調整を施す。1293は須恵器の高台付き杯である。外底面に断面形が方形の高台を貼付する。体部には回転ナデ調整を施す。外底面は回転ヘラ切り後ナデ調整あるいはヘラケズリ調整を施す。1295は平瓦である。側面はヘラ状工具により面取りを施す。凸面には縄目痕，凹面には布目の圧痕がみられる。1296は銭貨である。3枚が重なり付着している。両面とも裏面のため銭種は不明である。

第7節　小結

1.古代の掘立柱建物群

本報告書に掲載している調査区(4・8・10・11区)においても古代の掘立柱建物群を検出している。柱掘方は隅丸方形を指向し，柱筋を揃える等の企画性が認められることから官衙に関連する建物群と考えられる(以下,「西部官衙群」と記す)。標高の比較的高い北側(4・10区)に掘立柱建物跡，低い南側(8・11区)に井戸跡が分布する。各建物跡の時期を決める遺物には乏しいものの，井戸跡等の出土遺物から8世紀後半～10世紀代にかけての建物群と推測できる。

さて,若宮ノ東遺跡の東側(1～3区･5～7区)においても官衙に関連する建物群を検出している(以下,「東部官衙群」と記す)。東部官衙群には長岡評衙跡と推定される施設，正倉別院と考えられる総柱の掘立柱建物群，その他にも企画性が認められる建物跡を多数復元できる(1)。また，国府域と直結する南北道が敷設される等，中枢的なエリアである。一方，西部官衙群は掘立柱建物跡，柱穴の規模は東部官衙群よりも小さい。また，井戸跡を伴う等，構造的にも東部官衙群とは異なり，東部官衙群を支える雑舎群と位置付けることができる。

主軸方向はN－3°－E，N－9°－E，N－11°－E，N－13°－E，N－16°－Eの5類に分類できる。N－3°－Eを取るものは10区のSB3のみであり，他の主軸方向とのひらきが大きく，やや異質である。N－9°－Eを取るものは4区のSB29・33，SD5，N－11°－Eを取るものは10区のSB2，SA1，N－13°－Eを取るものは4区のSB24・28・32・36，10区のSB5，N－16°－Eを取るものは4区のSB23，SD2・9・10がそれぞれ該当する。10区のSB2と10区のSB3が一部で重複する以外は重複しない。若干のブレはあるものの，香長条里(N－12°－E)の方向を指向している。雑舎的な建物群であることから厳密な企画性に基づいた建て替えは行われず，個別に建て替え，あるいは増築・減築が行われたものと推測される。7棟が構築される4区と3棟が構築される10区の間には空間地が存在している。掘立柱建物跡の密度からは西部官衙群の中心は4区であり，8区SE1が伴う。8区SE1から出土している遺物から8世紀後半を中心とした段階の掘立柱建物跡と推測される。一方,10区の掘立柱建物跡は11区SE1・2から出土している遺物から10世紀代を中心とした段階の掘立柱建物跡と推測される。未調査範囲を考慮する必要があるものの,8世紀後半段階をピークとして10世紀代になると規模が縮小されたか，あるいはこの機能を担っていた施設が他の場所に移転した可能性がある。

2.溝で囲まれた屋敷地群

(1)概要

4区から9区，さらに忠兵衛遺跡の東端部にかけて中世後期(14～15世紀代)～近世の溝で囲まれた屋敷地跡が連続し，SH1～SH15の屋敷跡を復元した(2)。他にも区画溝となり得る溝跡を検出しているものの明確な区画を復元できなかったものもあるため，調査対象地内にはさらに多くの屋敷地が存在している。10区では調査前の畦道が直線ではなくクランク状となる部分がみられることから区画溝を反映している可能性がある。また，10－3区についても東西・南側の道部分と溝が重複し，調査区が区画溝の内側に位置していることも考えられる。以上のことも考慮に入れると東西方向の畦道の北側(9･10区)と南側(11区)にそれぞれ東西方向に連続して屋敷地が展開していたと推測される。SH13の北側の溝跡(9区SD22・23・26)は北側に屋敷地がひろがっていることを示唆する。

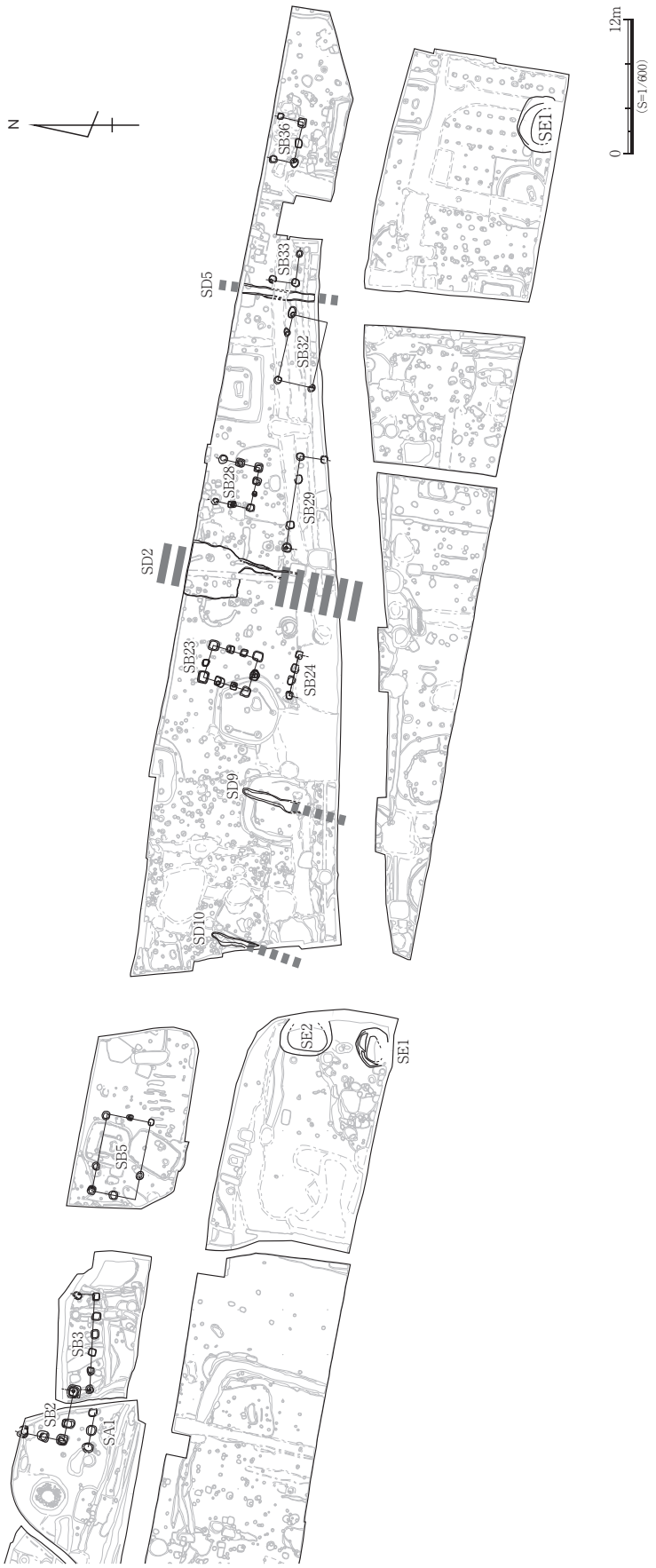


図710　西部官衙群掘立柱建物跡等配置図

8－2区では不連続ながら屋敷地の北辺及び東辺を区画するとみられる溝跡を検出した。北辺溝の中央付近には後述するように出入口部と推測される凹みを確認していることから屋敷地(SH1)とした。しかしながら，撹乱等により連続して溝跡を検出できなかったこと，他の屋敷地と比較して規模が格段に大きいこと，北に隣接する4区では屋敷地を復元できなかったこと等から屋敷地ではないことも考えられる。ただし，別格の規模を有し，東端に位置していることには注意したい。SH1を屋敷地と認定するかどうかで屋敷地群の分布範囲が異なることとなる。屋敷地と認定した場合は忠兵衛遺跡まで含めると東西約223mにわたって屋敷地群が分布し，認定しなければ東西約166mに分布することとなる。4区と8区に挟まれた東西方向の畦道は10区と11区に挟まれた畦道には連続せず，4・8区と10・11区に挟まれた南北道でクランクとなっている。また，4・8区と10・11区の間の南北道が屋敷地群の東端を画する痕跡なのか，村落構造を検討するうえで重要である。

中世後期の中心は8～11区である。これより東側では当該期の遺構・遺物は希薄であり，時代による土地利用の一端が表れている。また，東西方向及び南北方向の畦道は屋敷地の区画溝と一致しているものが多く，現在の区画は中世後期段階にまで遡ると推測される。

⑵出入口部分の構造

上述のように屋敷地は東西方向の畦道を挟んで北側と南側に展開する。畦道を挟んで北側の屋敷地は南面に出入口を設け，南側の屋敷地は北面に出入口を設けていると推定される。SH1・4は道に面した北辺の中央付近の溝跡を内側に凹ませている。SH5・6・12については溝自体は断絶しているものの，畦道に面した溝跡の中央付近は内側に向かって「ハ」の字状を呈している。出入口部分の溝跡が他の場所に比べて浅く掘られていた場合，削平を受けると一見途切れているようにみえ，本来はSH1・4と同様に連続した溝跡であった可能性がある。また，SH4・5・6では門的な構造物が復元できる。SH4は凹んだ部分に2間×2間と推測される掘立柱建物跡が位置し，さらに溝の内側で柵あるいは塀の可能性があるピット列を検出した。SH5は凹んだ部分に2間×4間の掘立柱建物跡，SH6も同様に1間×2間の掘立柱建物跡が位置する。一方，SH7～10では畦道に面した溝跡に明瞭な凹みは確認できず，直線的な溝となることから異なった形態の出入口部であったと考えられる。また，SH4では途切れてはいるものの直線的にのびる溝跡の一部を検出している。

⑶SH7～12について

11－1区では区画溝を重複して検出した。西半部で検出したSD5A・5B・6と東半部で検出したSD4・8～10の接続関係は不明瞭な部分が残っているものの，本小文ではSH7～12の6屋敷地を復元した。溝跡の新旧関係を考慮し，SH7から12へ変遷するものと考えた。僅かに北側へ移動させつつ，ほぼ同じ場所に継続して屋敷地が営まれている。これほどの造り替えがみられる場所は若宮ノ東遺跡ではここだけである。上述のようにSH7から10までは直線的な溝跡で北辺を区画する。頂点が直角を呈するものや丸みを帯びるもの等，その形状に若干の違いが認められるものの，溝跡の規模・推定面積ともに大差はない。次の段階のSH13では北東部には方形の張り出し部を形成し，SD4の一部の壁面には石積が認められる。それまでとは形状的にも工法的にも大きく変化する。SD4が西半部のどの溝跡と接続するかは不明瞭であることから屋敷地全体の形状は不明である。SD4の西壁は石積によって西半部の溝跡を塞いでいる。また，この南北の石積ラインとSD7の南北方向の東

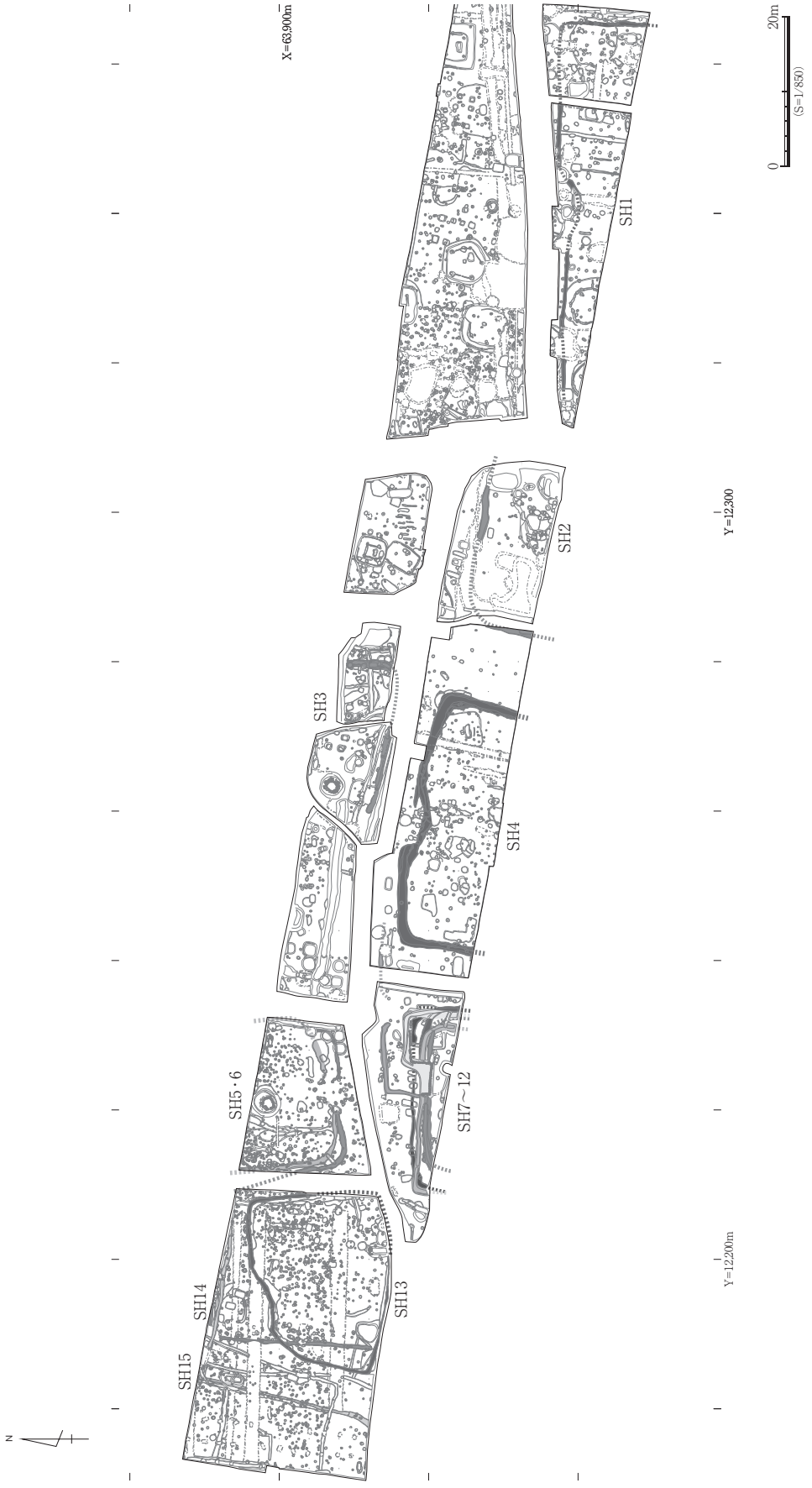


図711　屋敷地跡配置図

表 1　屋敷地跡一覧

屋敷地番号	調査区	遺構番号	溝幅	検出長	主軸方向	屋敷地幅	推定面積
SH1	8 − 1 区	SD2	0.35 ～ 0.66	10.83	N − 1° − E	−	2,641
	8 − 2 区	SD4	0.51 ～ 0.70	8.46	N − 87° − W		
	8 − 2 区	SD7	0.38 ～ 0.54	10.82	N − 84° − W		
	8 − 2 区	SD8	0.40 ～ 0.52	3.99	N − 89° − W		
	8 − 2 区	SX2	0.71 ～（1.32）	4.42	N − 87° − E ～ N − 61° − E		
SH2	11 − 2 区	SD3	（0.28 ～ 0.90）	6.33	N − 13° − E	−	−
	11 − 3 区	SD11	0.75 ～ 1.05	7.57	N − 81° − W		
SH3	10 − 2 区	SD7	0.96 ～ 1.71	6.15	N − 6° − E	−	−
	10 − 1 区	SD11	0.64 ～ 1.03	14.14	N − 72° − W		
SH4	11 − 2 区	SD1	0.93 ～ 1.59	51.90	N − 10° − E・N − 88° − W	32.6	1,062
	11 − 2 区	SD2	0.39 ～ 0.56	2.97	N − 83° − W		
	11 − 2 区	SD4	−	−	−		
SH5	9 − 2 区	SD33	0.64 ～ 1.98	4.63	N − 76° − E	−	−
	9 − 2 区	SD37	0.29 ～ 0.80	17.94	N − 83° − E ～ N − 4° − W		
SH6	9 − 2 区	SD36	0.33 ～ 0.51	4.56	N − 86° − E・N − 9° − W	18.2	331
	9 − 2 区	SD39	0.58 ～ 0.78	12.88	N − 79° − E・N − 15° − W		
SH7	11 − 1 区	SD5A	1.06 ～ 1.30	8.50	N − 62° − E・N − 89° − E	20.3	412
	11 − 1 区	SD8	0.32 ～ 0.65	4.35	N − 82° − W		
SH8	11 − 1 区	SD5B	0.65 ～ 0.96	14.90	N − 14° − E・N − 85° − W	24.6	605
	11 − 1 区	SD9	0.77 ～ 0.91	7.70	N − 81° − W・N − 4° − E		
SH9	11 − 1 区	SD5B	0.65 ～ 0.96	14.90	N − 14° − E・N − 85° − W	22.3	497
	11 − 1 区	SD10	0.78 ～（1.08）	7.83	N − 81° − W・N − 4° − E		
SH10	11 − 1 区	SD6	0.33 ～（0.64）	15.65	N − 22° − E ～ N − 89° − E	23.8	566
	11 − 1 区	SK49	（1.25）	7.12	N − 14° − E・N − 83° − W		
SH11	11 − 1 区	SD4	0.92 ～ 1.30	20.13	N − 25° − E・N − 85° − W・N − 7° − W	−	−
SH12	11 − 1 区	SD7	0.40 ～ 0.78	13.85	N − 9° − E・N − 85° − E	−	−
	11 − 2 区	SX2	0.49	2.97	N − 85° − W		
SH13	9 − 1 区	SD8	0.38 ～ 0.64	32.31	N − 13° − E ～ N − 84° − E	24.3	590
	9 − 1 区	SD11	（0.40 ～ 1.45）	15.90	N − 77° − W		
	9 − 1 区	SD16	0.90 ～ 1.06	8.60	N − 3° − W		
SH14	9 − 1 区	SD3a	0.39	21.04	N − 15° − E	−	−
	9 − 1 区	SD22	0.57	17.42	N − 80° − W		
SH15	9 − 1 区	SD9	0.32 ～ 0.57	19.44	N − 3° − E	−	−
	9 − 1 区	SD26	−	−	−		

注 1）単位は m・㎡

注 2）推定面積は正方形と仮定した場合の面積

注 3）8 − 2 区 SX2 は近世とした石積を伴う土坑以外を溝跡の一部とした。

壁のラインが一致している点に着目するとSD7 とともに「折れ」を持った出入口部を形成していた可能性もある。また，SD7 をSH12 の方形の張り出し部と捉えることも可能であるものの，復元案ではSD7 の東端部が僅かに南へ曲がることに着目し，11 − 2区のSX2に接続する案を提示した。

⑷屋敷地内の構造

復元した屋敷地は調査対象外へひろがるものがほとんどであり，建物配置等を具体的に検討できるものは少ない。これらのうちSH5・6・13は屋敷地内の多くが調査区対象地に含まれていることから建物等の配置案の提示を試みた。なお，各遺構の主軸方向，柱筋等を参考に復元した。

①SH5

溝跡(SD33・37)，門状遺構，掘立柱建物跡(SB59・63・78)，井戸跡(SK71)で構成される。また，SD37の内側に同様の軌跡を描くピット列(SA21)を検出している。北部ではSD37と重複していることから同時併存ではないと推測され，柵あるいは塀で囲んでいた時期と溝跡で囲んでいた2時期に細分可能である。南面した入口を入るとほぼ中央に井戸を配置し，東と西側に掘立柱建物跡を配置する。掘立柱建物跡は梁行1あるいは2間，桁行2間であり，母屋はさらに北(奥)に存在するか。

②SH6

溝跡(SD36・39)，門状遺構(SB70)，掘立柱建物跡(SB56・62・68・76)，井戸跡(SE2)で構成される。SH5よりも僅かに南側に位置する。掘立柱建物跡の規模，棟方向を異にするものの各施設の基本的な配置は踏襲する。SB56・62は第4節では2棟の掘立柱建物跡として報告しているが，庇付きの建物跡として別案を提示した。

なお，SH5と6の先後関係は不明瞭である。

③SH13

溝跡(SD8・11・16)，掘立柱建物跡(SB29・33)，柵あるいは塀(SA19・20)，橋(SB86)で構成される。溝跡は北辺よりも南辺が長い台形を呈し，北西隅部を内側に凹ませる。土坑墓(SK33・

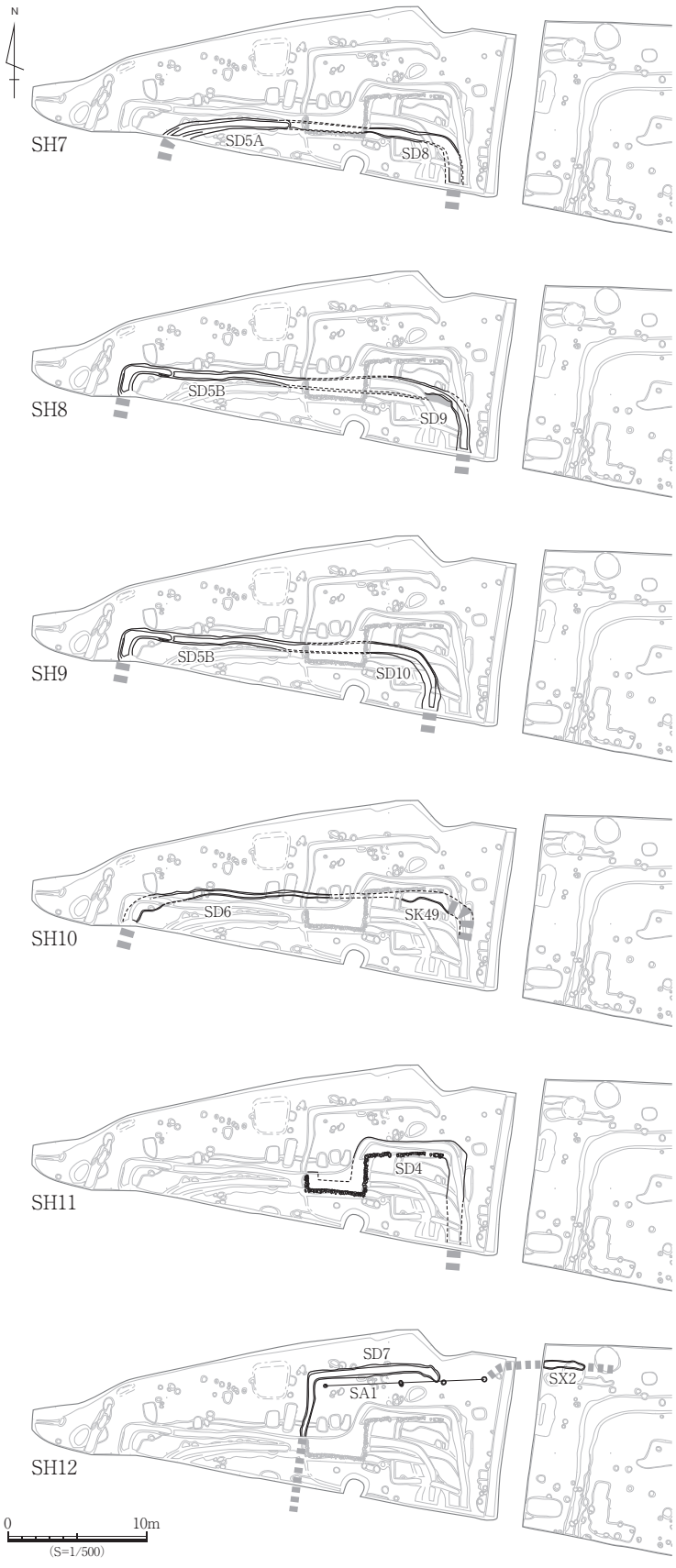


図712　SH7～12　変遷図

38)を意識している可能性がある。南東隅部は調査区外のため検出しておらず，溝跡(SD11・16)が接続するものと考えられる。溝跡の内側には柵あるいは塀が2条巡る。また，溝跡の北東部には橋状の遺構がみられる。屋敷地内の南半部には構築物はみられず空間地となり，2棟の掘立柱建物跡は屋敷地内の北東部に棟方向を直交させ配置する。溝跡の軌跡を意識している配置である。

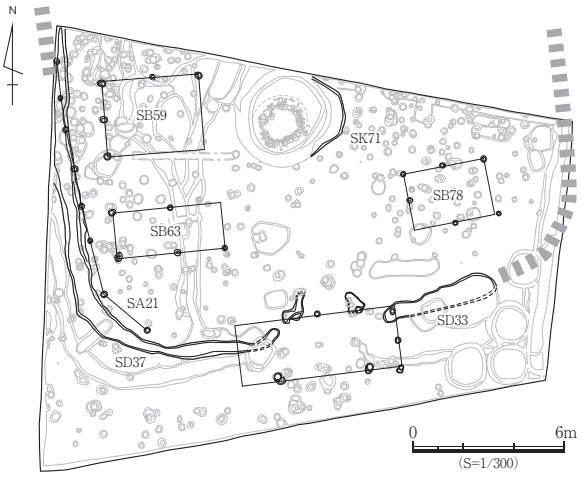


図713　SH5　復元案

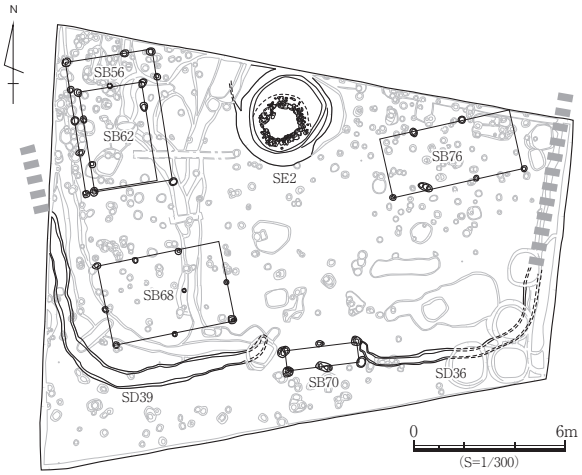


図714　SH6　復元案

(5)今後の課題

以下には検討しきれなかった点について列挙し，今後の課題としたい。

①田村遺跡群と東野土居遺跡で検出された屋敷地との比較検討

田村遺跡群と東野土居遺跡においても溝で囲まれた屋敷地群が検出されている。田村遺跡群については下村公彦氏・松田直則氏によって検討が加えられ[3]，東野土居遺跡については筒井三菜氏によって田村遺跡群を含めた県内の中世集落遺跡と比較して検討が加えられている[4]。これらの研究成果と比較検討したうえで位置付けを行うべきであるが，今回は行うことができなかった。

②9－3区・10－1区SD41について

SD41は9－3区・10－1区で検出した溝跡である。幅約1.5m，検出面からの深さは0.3～1.0mを測り，断面形は逆台形を指向する。出土遺物から14～15世紀代と考えられ，溝で囲まれた屋敷地群と同時期に機能していた溝跡である。これほどの規模を持つ溝跡は若宮ノ東遺跡では他になく，掘削には強い意志が感じられるものの，この場所に掘削された理由を推定できなかった。10－1区SD13と組み合う可能性はある。この場所で囲繞する溝跡として復元できなかったことはSD41の性格を考えるうえでヒントとなるであろう。

③土坑墓について

中世の土坑墓としては，9－1区SK5・SK8・SK10・SK33・SK36・SK38，11－1区SK47をあげることができる。9－1区SK33は周囲に溝(SD25)が巡る可能性があり，忠兵衛遺跡で検出しているものと類似する。近世の土坑墓としては11－1区SK42～45・11－3区SK34～36・38をあげることができる。

集落内での位置関係，屋敷地との位置関係など中世から近世にかけての村落構造の変化を読み取ることができる資料である。

④その他の掘立柱建物について

上記では溝で囲まれた中世後期の屋敷地について述べてきた。これら以外にも第２～６節で報告した通り，多くの掘立柱建物跡を復元できた。主軸方向と柱筋等を参考に掘立柱建物跡のグルーピングを行うと様々なまとまりを抽出することができる。特に掘立柱建物跡が集中する９－１区では顕著である。区画施設の有無，掘立柱建物群の配置パターンに違いを見出すことができる。柵あるいは塀で囲むもの，囲繞施設を持たないものがみられる。掘立柱建物群で囲まれた中央を空間地とするものと中央に空間地を持たないものに分類できる。これらは時期の違いによるものと推測されるものの，詳細な時期を決め得る遺物に恵まれていない。

図715　SH13　復元案

これらを整理し，どのような変遷を辿ってきたかを明らかにできれば，古代から中世，そして近世へと村落構造の変遷を明らかにできる。

注

⑴　2022年『若宮ノ東遺跡Ⅰ』高知県教育委員会・(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター，2023年『若宮ノ東遺跡Ⅱ』高知県・(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター，久家隆芳・矢野雅子・油利崇2024年「高知県南国市若宮ノ東遺跡・野中廃寺の調査」『条里制・古代都市研究第39号』条里制・古代都市研究会

⑵　溝跡の接続・軌跡については整理作業時に再検討し，復元案を提示した。そのため報告文とは異なっているものがある。SH11・12は近世と考えられる。

⑶　下村公彦・松田直則1986年「6.中～近世小結」『田村遺跡群第10分冊』高知県教育委員会

⑷　筒井三菜2018年「第Ⅵ章4.中世」『東野土居遺跡Ⅳ』高知県教育委員会・(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

3.若宮ノ東遺跡出土の刻書土器

⑴はじめに

若宮ノ東遺跡からは文字(漢字)が刻まれた可能性がある土器片が5点出土している。これらの土器片は後述するように概ね弥生時代後期後葉から古墳時代初頭にかけてのものとみられる。その重要性に鑑みて発見当初より平川南先生をはじめ多くの先生方に釈読を依頼してきたものの，類例が皆無のなかでの釈読は困難を極めた。検討会を継続的に開催し，釈読にあたり様々な視点からのアプローチを試みてきた。これらの検討を踏まえ，土器自体の観察所見とともに現時点での釈読案等の成果を本小文に記述するにあたり，平川南先生・李成市先生・川尻秋生先生・田中史生先生に改めて実見していただき，コメントを頂いた。

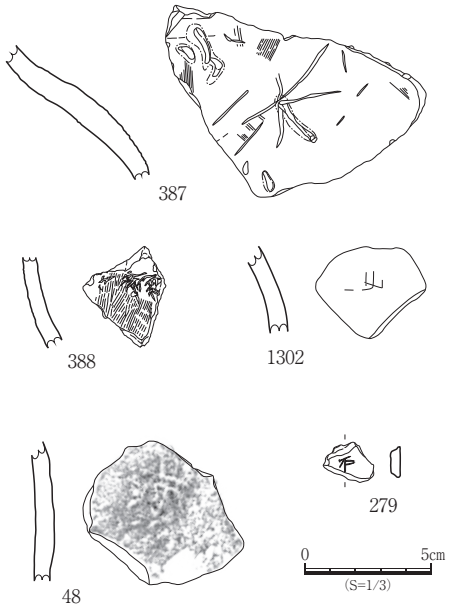
⑵刻書土器の観察所見

①『若宮ノ東遺跡Ⅱ』_387

5区SX2から出土したものである[(1)]。SX2は5棟の竪穴建物跡が重複している。どの竪穴建物跡に帰属していたものかは判然としないものの，ST8あるいはST9の可能性がある。土器片は弥生土器の壺の頸部から肩部にかけての破片である。外面はナデ調整あるいはヘラミガキ調整を丁寧に施されているからか，あるいは摩耗によるものか調整の観察は難しい。一方，内面の調整は明瞭に観察できる。断面はローリングを受けている。外面に二文字の刻書がみられる。両者では，線の太さや断面形状が異なっているものの，同一工具によるもので器面への当て方の違いによると考えられる。両者とも，払い・留めを意識しているように見受けられる。両者とも刻まれて凹んだ部分はミガキ状となっている。線のエッジに乱れがみられないことと線の縁が僅かに土手状に盛り上がっていること等から焼成前に刻書されたと判断できる。上の文字については全体は残存していない。ただ，刻書部位が頸部の屈曲が強く反りかえる部位であることから刻みづらく，文字の上端にちかいと推測される。また，文字自体は壺を正位に置いて右下がり斜めに刻まれており，左上には若干のスペースがある。左右にもスペースがあり，続く可能性もある。最大文字数を推定するため，土器片の形状・大きさから同タイプの壺とみられる実測図に当破片の傾きを調整して重ね合わせた(図717)。破片から推定した体部の大きさでは上述した2文字を含め，最大で7文字と推定できる。

②『若宮ノ東遺跡Ⅱ』_388

5区SX2の検出時に出土したものであり[(1)]，帰属遺構を特定することは387よりもさらに困難である。破片は弥生土器の壺の頸部の破片である。内外面，破断面ともにローリングは受けていない。刻まれているものが文字であると仮定すると複数文字が刻まれてい



図版出典（転載・一部加工）
387・388：『若宮ノ東遺跡Ⅱ』
1302・48・279：『若宮ノ東遺跡Ⅲ』

図716　若宮ノ東遺跡出土の
文字が刻まれた可能性のある土器片

るとみられる。土器片の形状・大きさから同タイプの壺とみられる実測図に当破片の傾きを調整して重ね合わせた(図717)。壺を正位に置いてほぼ水平に刻んでいること，縦約1㎝であることから本来何文字刻まれていたかは推定すらできない。刻書は刃物状の鋭利な工具で刻まれており，すべて同じ工具を使用していると推測される。エッジに乱れがないことから焼成前に刻書されたと考えられる。文字が集中する部分にはハケメはみられないことから刻書するにあたり，ハケメをナデ消し器面を平滑に調整し，刻みやすくしたとも考えられる。

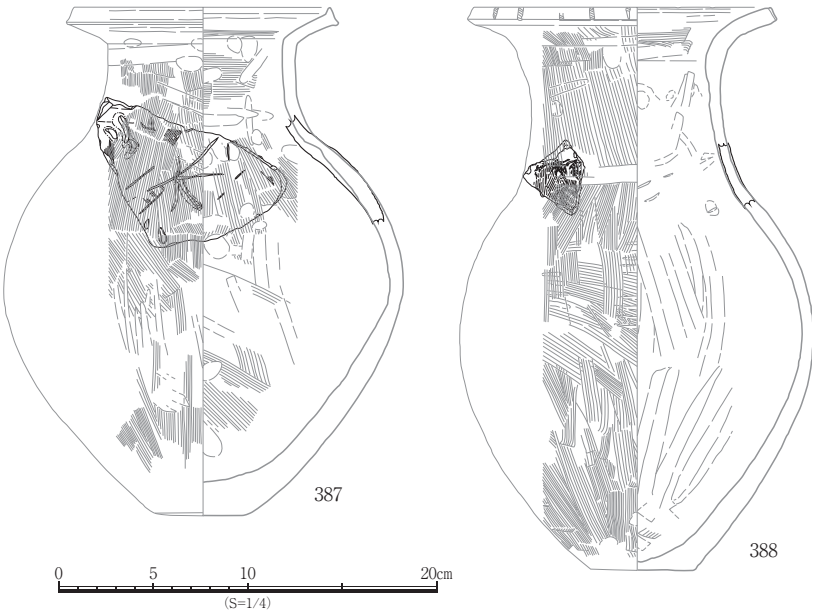


図717　387・388　土器片位置図

③『若宮ノ東遺跡Ⅲ』_1302

5区ST8から出土したものである[3]。細片の再確認中に新たにみつかったものである。弥生土器の壺の破片とみられる。内外面・破断面[4]ともにローリングを受けている。刻書は鋭利な刃物状，あるいは針状の工具で刻まれている。エッジに乱れがみられることから焼成後の刻書と推測される。

④『若宮ノ東遺跡Ⅲ』_48

4区ST3から出土したものである。弥生土器の壺の体部か。器面は弱いローリングを受ける。外面の調整は粗雑であり，器面を平滑にするという意識は乏しい。線刻がみられたことから拓本を取った結果，文字が刻まれているように見えた。ただ，拓本と実物を比べて観察しても判然とせず，器面の凹凸が拓本により際立ったものか。焼成前にヘラ状工具を器面に対して寝かせて施している。

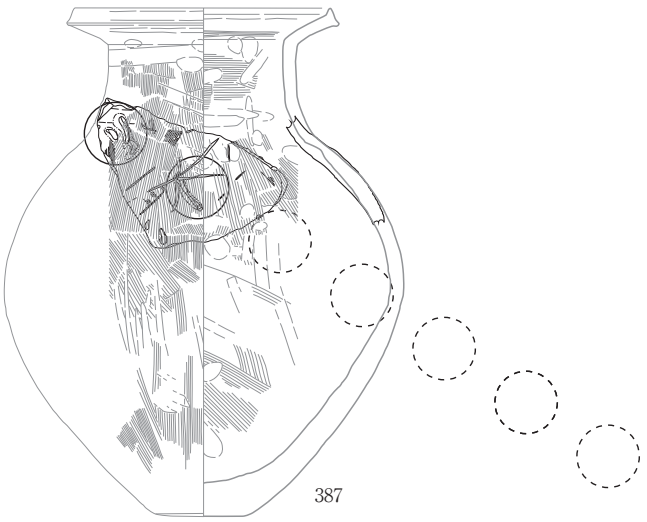


図718　387　文字数の推定図

⑤『若宮ノ東遺跡Ⅲ』_279

4区P207(ピット)から出土したものである。弥生土器の鉢の体部の破片か。ローリングは受けていない。内面に水銀朱が付着し，同じく内面に刻書されている。鋭利な刃物状の工具で刻書されている。エッジに乱れがないことから焼成前に線刻され

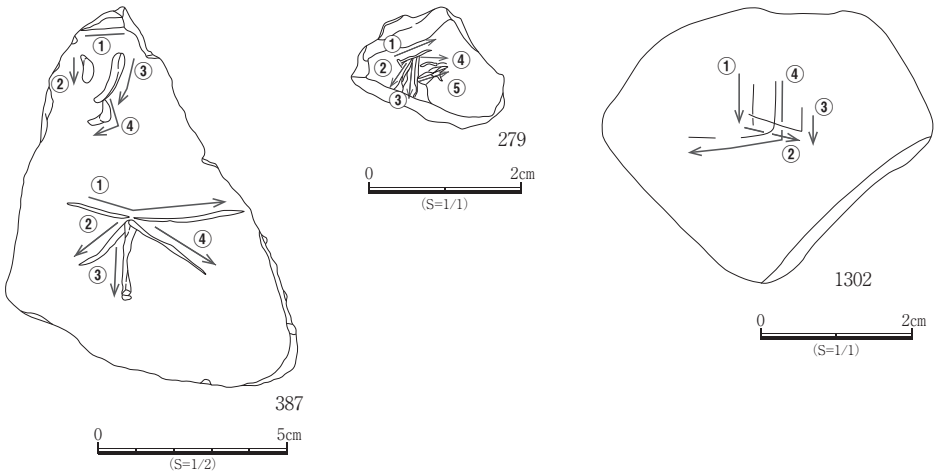


図719　279・387・1302　筆順案

たと考えられる。刻書自体は小さいものの，入り・払いのような部分がみられる。土器の破片自体が小さく他にも刻まれていたかは不明である。また，刻書内には水銀朱は付着していない。水銀朱は内面全面に塗られたものではなく付着したものと考えられる。P207からは図示した279以外に弥生土器片が27点出土している(5)。これらの土器片は概ね弥生時代後期後葉から古墳時代初頭にかけてのものとみられる。

(3)コメント

釈読案を提示できたものは①『若宮ノ東遺跡Ⅱ』_387と③『若宮ノ東遺跡Ⅲ』_1302である。これら以外のものは現段階では保留とせざるを得ない。①『若宮ノ東遺跡Ⅱ』_387は二文字が刻書されたものとみられ，上から一文字目は『何』か，二文字目は『不』か。図示したように『不』かの書き順には矛盾は認められない。③『若宮ノ東遺跡Ⅲ』_1302は『屮』（草）か。図示したように『屮』かの書き順には矛盾は認められない。

(4)土器の胎土について

図示した土器片の胎土は肉眼で観察する限り，在地のものとよく似ているものの，それぞれの土器片は発色（色調），素地，混和材の種類・量に違いがみられる。これらの土器片が在地の土器か，搬入品かで評価・位置付けが大きく変わることから，その判断は慎重に行わなければならず，本小文では断定は避けたい。

(5)相対年代について

弥生時代後期後葉（Ⅴ－5様式）から古墳時代初頭（古式土師器Ⅰ期）にかけての高知県の弥生土器の変遷は緩慢である。特に弥生時代後期末（第Ⅵ期）から古墳時代初頭（古式土師器Ⅰ期）にかけてはその傾向が強く，たとえ完形土器であっても詳細な時期を決定することが難しいものもある。刻書された土器片はいずれも破片であり，土器片自体では詳細な時期を比定できないため，共伴遺物を考慮して，概ね弥生時代後期後葉から古墳時代初頭とした。

注

⑴　2023『若宮ノ東遺跡Ⅱ』高知県・(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

⑵　出原恵三 2000 年「5 土佐地域」『弥生土器の様式と編年　四国編』木耳社, 出原恵三 1990「第Ⅴ章考察 3 古墳時代」『西分増井遺跡群発掘調査報告書』春野町教育委員会

⑶　ST8はSX2内の竪穴建物跡の1棟である。

⑷　破断面はブラシ痕か。

⑸　土器片は最大で約7㎝四方のもので, 産地不明の搬入土器が1点含まれている。

第Ⅲ章　自然科学分析

第1節　放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤　茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・辻　康男

1. はじめに

高知県南国市に位置する若宮ノ東遺跡より検出された試料について，加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料の情報，調製データは表2のとおりである。また，試料状況を図720に示す。

No.1のSK13は，土坑である。年代試料は，土坑の埋土から採取された炭化材片（コナラ属アカガシ亜属）である。出土土器からは，弥生時代後期末の埋没と考えられている。

No.5のST1は，竪穴建物跡である。年代試料は，建物跡に伴う主柱穴のP1埋土から採取された炭化材片（コナラ属アカガシ亜属）である。出土土器からは，弥生時代後期末～古墳時代初頭の埋没と考えられている。

No.6のST2は，竪穴建物跡である。年代試料は，建物跡の床面直上で検出された焼土に含まれる炭

表2　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-39387	調査区：18-1NW　8区 遺構：SK13 層位：床直 試料No.1	種類：炭化材（コナラ属アカガシ亜属） 試料の性状：最終形成年輪　以外部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L，水酸化ナトリウム：1.0 mol/L，塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39388	調査区：19-1NW　4区 遺構：ST1-P1 試料No.5	種類：炭化材（コナラ属アカガシ亜属） 試料の性状：最終形成年輪　以外部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L，水酸化ナトリウム：1.0 mol/L，塩酸：1.2 mol/L）
PLD-39389	調査区：19-1NW　4区 遺構：ST2焼土 試料No.6	種類：炭化材（クスノキ科） 試料の性状：最終形成年輪　以外部位不明 状態：dry	超音波洗浄 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2 mol/L，水酸化ナトリウム：1.0 mol/L，塩酸：1.2 mol/L）

試料 No.1

試料 No.5

試料 No.6

図720　試料写真

化材片（クスノキ科）である。出土土器からは，弥生時代後期末～古墳時代初頭の埋没と考えられている。

試料は調製後，加速器質量分析計（パレオ・ラボ，コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後，^{14}C年代，暦年代を算出した。

3．結果

表3に，同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（δ^{13}C），同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲，慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代，暦年較正結果を，図721に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり，今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

表３　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	δ^{13}C (‰)	暦年較正用年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C 年代 (yrBP ± 1 σ)	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
PLD-39387 試料No.No.1	-27.18 ± 0.22	2055 ± 19	2055 ± 20	99-40 cal BC (68.2%)	161-132 cal BC (8.3%) 117 cal BC-2 cal AD (87.1%)
PLD-39388 試料No.No.5	-28.21 ± 0.27	1869 ± 21	1870 ± 20	84-142 cal AD (52.0%) 155-168 cal AD (7.4%) 195-209 cal AD (8.8%)	80-217 cal AD (95.4%)
PLD-39389 試料No.No.6	-31.04 ± 0.25	1939 ± 20	1940 ± 20	28-40 cal AD (13.3%) 49-82 cal AD (54.9%)	18-125 cal AD (95.4%)

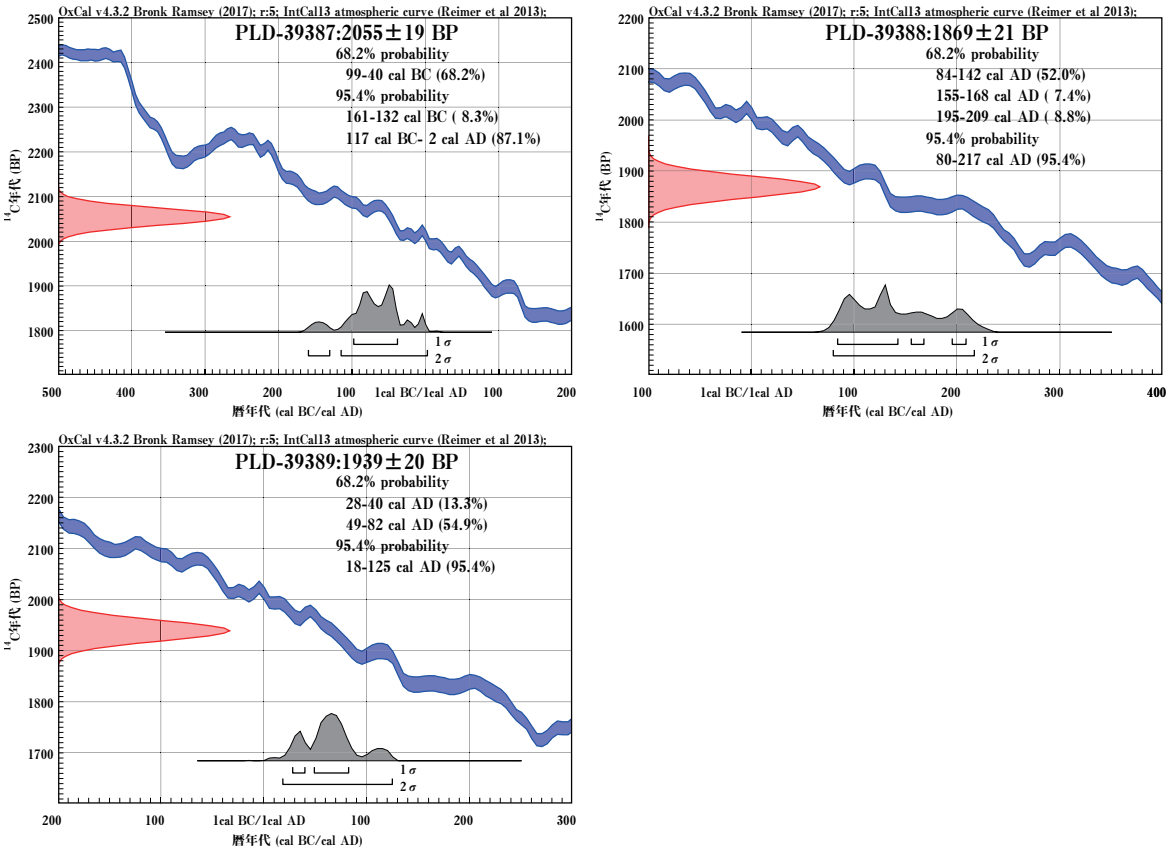


図721　暦年較正結果

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代(yrBP)の算出には，^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また，付記した^{14}C年代誤差(±1σ)は，測定の統計誤差，標準偏差等に基づいて算出され，試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示す。

なお，暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは，大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し，過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動，および半減期の違い(^{14}Cの半減期5730±40年)を較正して，より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.3(較正曲線データ：IntCal13)を使用した。なお，1σ暦年代範囲は，OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2％信頼限界の暦年代範囲であり，同様に2σ暦年代範囲は95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は，その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し，二重曲線は暦年較正曲線を示す。

4．考察

2σの暦年較正値は，No.1で161-132 cal BC及び117 cal BC-2 cal AD，No.2で80-217 cal AD，No.3で18-125 cal ADであった。

若林(2018)で示された近畿地方の土器様式の暦年代観を参照すると，上記の暦年較正値は，No.1が弥生時代中期後半～後期前半，No.2が弥生時代後期前半～古墳時代初頭(庄内式期)，No.3が弥生時代後期前半～後半に相当する。

なお，木材の場合，最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが，内側の年輪を測定すると，最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。今回試料とした炭化材は，すべて最終形成年輪が確認できない部位不明の木片である。したがって，測定結果は古木効果の影響を受けている可能性があり，その場合，木が実際に枯死もしくは伐採されたのは測定結果よりも新しい年代であったと考えられる。

参考文献

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51 (1), 337-360.

中村俊夫(2000)放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編「日本先史時代の^{14}C年代」: 3-20, 日本第四紀学会.

Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55 (4), 1869-1887.

若林邦彦(2018)近畿地方弥生時代諸土器様式の暦年代－石川県八日市地方遺跡の研究成果との対比－. 同志社大学考古学研究室編「同志社大学考古学シリーズⅩⅡ　実証の考古学　松藤和人先生退職記念論文集」: 119-129, 同志社大学考古学研究室.

第2節　若宮ノ東遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

1. はじめに

高知県南国市の若宮ノ東遺跡で出土した炭化材の樹種同定を行なった。なお，同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の節参照）。

2. 試料と方法

試料は，SK13（試料No.1），ST1（試料No.5），ST2（試料No.6）から出土した炭化材の計3点である。試料の詳細は，年代の報告で示している。

樹種同定では，まず試料を乾燥させ，材の横断面（木口），接線断面（板目），放射断面（柾目）について，カミソリと手で割断面を作製し，整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し，走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果，SK13の試料No.1とST1の試料No.5が広葉樹のコナラ属アカガシ亜属（以下，アカガシ亜属），ST2の試料No.6がクスノキ科であった。同定結果を表4に示す。

以下に，同定された材の特徴を記載し，図版に走査型電子顕微鏡写真を示す。

（1）クスノキ科　Lauraceae　図722　1a-1c（No.6）

小型の道管が単独ないし2～3個複合し，やや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で，1～2列となる。木部繊維内には，油細胞が認められる。

クスノキ科にはニッケイ属やタブノキ属，クロモジ属などがあり，暖帯を中心に分布する，主に常緑性の高木または低木である。

（2）コナラ属アカガシ亜属　Quercus subgen. Cyclobalanopsis　ブナ科

図722　2a-2c（No.1），3a-3c（No.5）

厚壁で丸い大型の道管が，放射方向に配列する放射孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で，単列のものと広放射組織がみられる。

アカガシ亜属にはアカガシやツクバネガシなどがあり，暖帯に分布する常緑高木の広葉樹である。材は重硬かつ強靭で，耐水性があり，切削加工は困難である。

表4　炭化材の樹種同定結果

試料No.	調査区	出土遺構	種　類	樹　種	年代測定番号
1	8区	SK13	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	PLD-39387
5	4区	ST1	炭化材	コナラ属アカガシ亜属	PLD-39388
6	4区	ST2	炭化材	クスノキ科	PLD-39389

4．考察

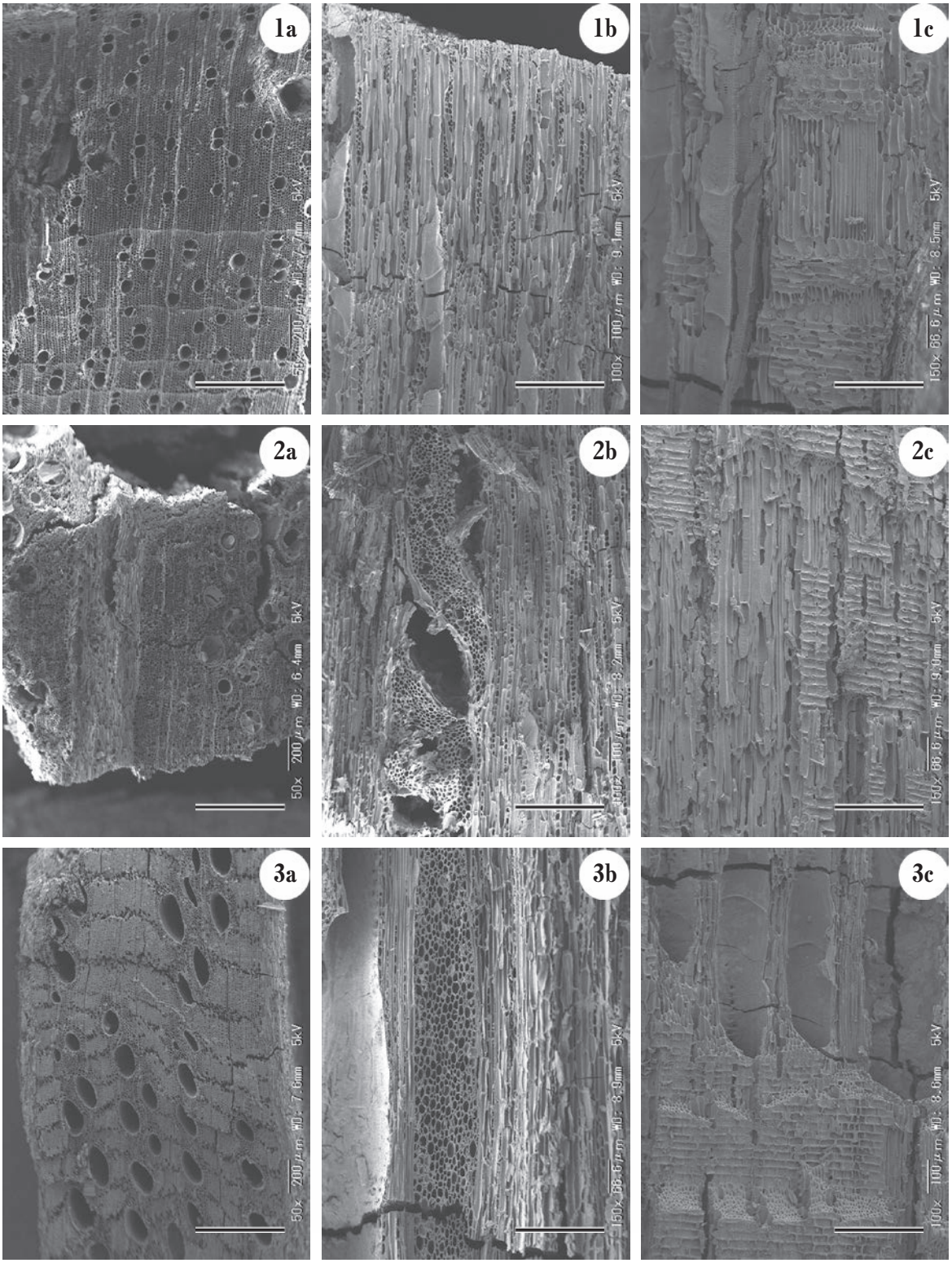
SK13から出土した炭化材はアカガシ亜属であった。用途は不明である。

ST1とST2からは，クスノキ科とアカガシ亜属がみられた。ST1とST2の試料は，焼けた建築材などの可能性が考えられるが，用途は不明である。クスノキ科とアカガシ亜属は堅硬な部類に属する樹種である（伊東ほか，2011）。いずれも遺跡周辺において生育が可能な樹種であり，各遺構の機能時に遺跡周辺に生育していた可能性が考えられる。

引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌. 238p , 海青社.

伊東隆夫・山田昌久編（2012）木の考古学―出土木製品用材データベース―. 449p , 海青社.



1a-1c.クスノキ科（No.6）,2a-2c.コナラ属アカガシ亜属（No.1）,3a-3c.コナラ属アカガシ亜属（No.5）
a:横断面,b:接線断面,c:放射断面

図722　炭化材の走査型電子顕微鏡写真

第3節　若宮ノ東遺跡の花粉分析

森　将志(パレオ・ラボ)

1. はじめに

高知県南国市篠原に所在する若宮ノ東遺跡では，遺跡周辺の古環境を検討するために，遺構から試料が採取された。以下では，採取された試料について行った花粉分析の結果を示し，考察した。なお，同一試料を用いて珪藻分析も行われている。

2. 試料と方法

分析試料は，8－1区のSE1から採取された3点と，9－1区のSD16から採取された1点の計4点である(表5)。

試料番号No.2，3，4が採取されたSE1は，8世紀後半に埋没した井戸跡である。埋土の主要な堆積物は，周囲の地表に存在していた黒ボク土と推定される黒色土である。この黒色土には，粗大な礫が多く含まれる。SE1の分析試料は，埋土底部付近のNo.4，埋土中部付近のNo.2，埋土上部付近のNo.3と層位的に採取された。

試料番号No.7が採取されたSD16は，14～15世紀に埋没した屋敷地を囲む溝跡である。埋土の主要な堆積物は，周囲の地表に存在していた黒ボク土と推定される黒色土で礫を含む。これらの試料について，以下の手順で分析を行った。

試料(湿重量約3～4g)を遠沈管にとり，10%水酸化カリウム溶液を加え，10分間湯煎する。水洗後，46%フッ化水素酸溶液を加え，1時間放置する。水洗後，比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い，浮遊物を回収し，水洗する。水洗後，酢酸処理を行い，続いてアセトリシス処理(無水酢酸9：濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後，残渣にグリセリンを滴下し，保存用とする。検鏡は，この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。いずれの試料も十分な量の花粉が含まれていなかったため，検鏡はプレパラート1枚の全面を検鏡するにとどめた。

表5　分析試料一覧

試料No.	調査区	遺　構	岩　質
2	8－1区	SE1⑤'	黒色(10YR 1.7/1)礫混じりシルト～粘土
3		SE1⑫	黒色(10YR 2/1)礫混じり粘土
4		SE1⑯	黒色(10YR 1.7/1)礫混じり粘土
7	9－1区	SD16	黒色(10YR 1.7/1)礫混じり粘土

3. 結果

検鏡の結果，SD16からわずかに花粉が得られているものの，4試料には十分な量の花粉化石は含まれていなかった。花粉の一覧を表6に，プレパラートの状況を図723に示す。なお，花粉化石が得られていないため，花粉分布図は作成していない。

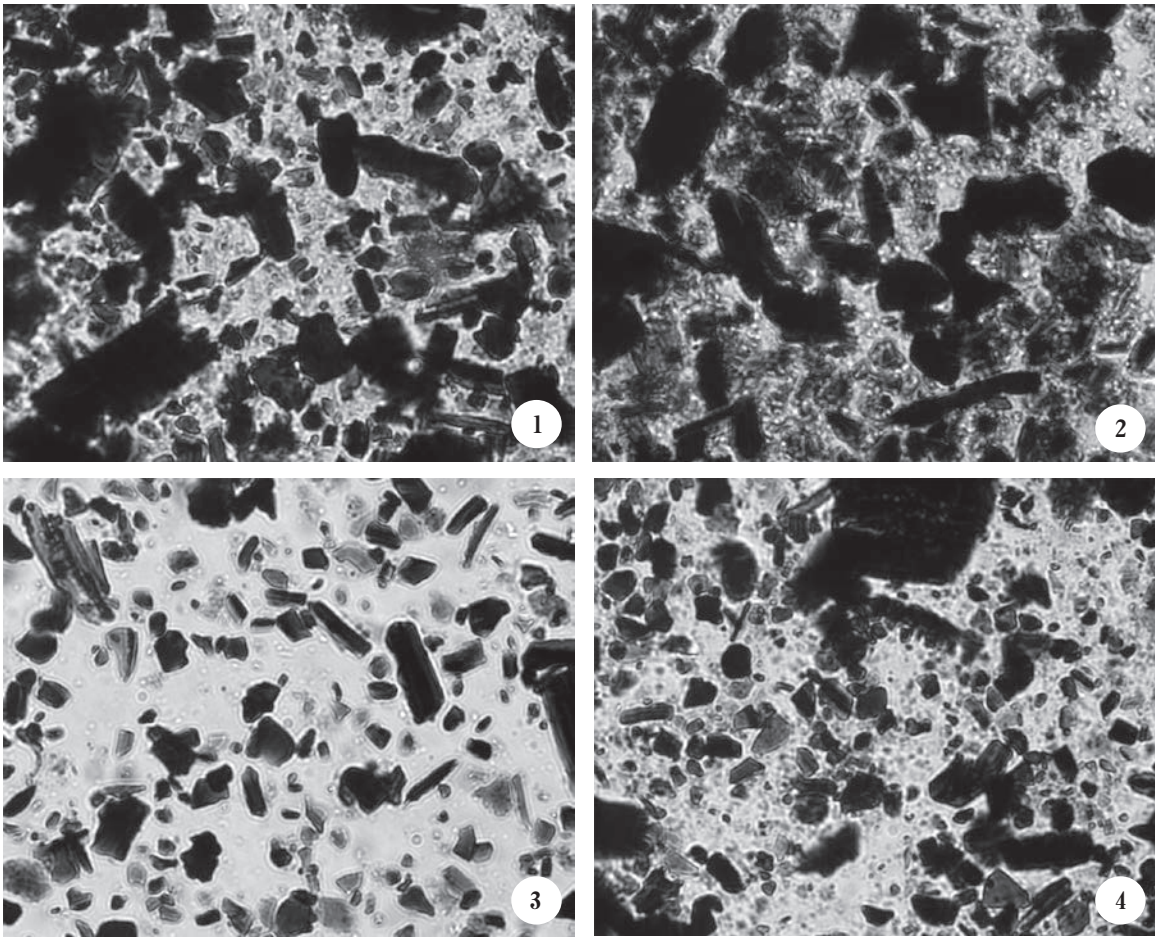
4. 考察

検鏡の結果，4試料には十分な量の花粉が含まれていなかった。一般的に，花粉は湿乾を繰り返す

環境に弱く，酸化的環境に堆積すると，紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され消失してしまう。そのため，堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では花粉化石が残りにくい。遺跡は台地上に位置し，試料は土壌化しており，さらには珪藻分析の結果においても，絶えず水を湛えたような堆積環境ではなかったと推測されているため，いずれの状況からも花粉化石が良好に保存される環境ではなかったと考えられる。今回の分析試料には花粉化石が含まれていないため，古植生について言及するのが難しい。

表６　産出花粉胞子一覧

学　名	和　名	SE1			SD16
		④'	⑯	⑱	
樹木					
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属	-	-	-	1
Cryptomeria	スギ属	-	-	-	1
Ulmus − Zelkova	ニレ属－ケヤキ属	-	-	-	1
草本					
Artemisia	ヨモギ属	-	-	-	1
Tubuliflorae	キク亜科	-	-	-	1
Arboreal pollen	樹木花粉	-	-	-	3
Nonarboreal pollen	草本花粉	-	-	-	2
Total Pollen & Spores	花粉総数	-	-	-	5



1.SE1 ⑤'　2.SE1 ⑯　3.SE1 ⑫　4.SD16

0. 02mm

図723　プレパラートの状況

第4節　堆積物中の珪藻化石群集

野口真利江・辻　康男（パレオ・ラボ）

1. はじめに

珪藻は，10 ～ 500 μｍほどの珪酸質殻を持つ単細胞藻類で，殻の形や刻まれた模様などから多くの珪藻種が調べられ，現生の生態から特定環境を指標する珪藻種群が設定されている（小杉，1988；安藤，1990）。一般的に，珪藻の生育域は海水域から淡水域まで広範囲に及び，中には河川や沼地などの水成環境以外の陸地においても，わずかな水分が供給されるジメジメとした陸域環境（例えばコケの表面や湿った岩石の表面など）に生育する珪藻種が知られている。こうした珪藻群集の性質を利用して，堆積物中の珪藻化石群集の解析から，過去の堆積物の堆積環境について知ることができる。

ここでは，高知県の若宮ノ東遺跡において採取された堆積物試料中の珪藻化石群集を調べ，堆積環境について検討した。

2. 試料と方法

試料は，8区の古代の井戸SE1の埋土であるNo.2（⑤'），No.3（⑫），No.4（⑯）と，9－1区の中世の屋敷地を囲む溝SD16の埋土であるNo.7の，計4点で，いずれも花粉分析と同一試料である。試料の詳細は，花粉分析の報告に示されている。

各試料について以下の処理を行い，珪藻分析用プレパラートを作製した。

(1)湿潤重量約1.0gを取り出し，秤量した後ビーカーに移して30%過酸化水素水を加え，加熱・反応させ，有機物の分解と粒子の分散を行った。

(2)反応終了後，水を加え，1時間程してから上澄み液を除去し，細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。

(3)懸濁残渣を遠心管に回収し，マイクロピペットで適量取り，カバーガラスに滴下し，乾燥させた。乾燥後は，マウントメディアで封入し，プレパラートを作製した。

作製したプレパラートは顕微鏡下600 ～ 1000倍で観察し，珪藻化石200個体以上について同定・計数した。珪藻殻は，完形と非完形（原則として半分程度残っている殻）に分けて計数し，完形殻の出現率として示した。さらに，試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物1g当たりの殻数を計算した。また，保存状態の良好な珪藻化石を選び，写真を図725に載せた。なお，珪藻化石の少ない試料については，プレパラートの面積の2/3以上について同定・計数した。

3. 珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は，主に小杉(1988)および安藤(1990)が設定し，千葉・澤井(2014)により再検討された環境指標種群に基づいた。なお，環境指標種群以外の珪藻種については，汽水種は汽水不定・不明種(?)として，淡水種は広布種(W)として，その他の種はまとめて不明種(?)として扱った。また，破片のため属レベルの同定にとどめた分類群は，その種群を不明(?)として扱った。以下に，小杉(1988)が設定した海水域における環境指標種群と，安藤(1990)が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

[外洋指標種群(A)]：塩分濃度が35ﾊﾟｰﾐﾙ以上の外洋水中を浮遊生活する種群である。
[内湾指標種群(B)]：塩分濃度が26～35ﾊﾟｰﾐﾙの内湾水中を浮遊生活する種群である。
[海水藻場指標種群(C1)]：塩分濃度が12～35ﾊﾟｰﾐﾙの水域の海藻や海草(アマモなど)に付着生活する種群である。
[海水砂質干潟指標種群(D1)]：塩分濃度が26～35ﾊﾟｰﾐﾙの水域の砂底(砂の表面や砂粒間)に付着生活する種群である。この生育場所には，ウミニナ類，キサゴ類，アサリ，ハマグリ類などの貝類が生活する。
[海水泥質干潟指標種群(E1)]：塩分濃度が12～30ﾊﾟｰﾐﾙの水域の泥底に付着生活する種群である。この生育場所には，イボウミニナ主体の貝類相やカニなどの甲殻類相が見られる。
[上流性河川指標種群(J)]：河川上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは，殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため，流れによってはぎ取られてしまうことがない。
[中～下流性河川指標種群(K)]：河川の中～下流部，すなわち河川沿いで河成段丘，扇状地および自然堤防，後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種には，柄またはさやで基物に付着し，体を水中に伸ばして生活する種が多い。
[最下流性河川指標種群(L)]：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種には，水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは，河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり，浮遊生の種でも生育できるようになるためである。
[湖沼浮遊生指標種群(M)]：水深が約1.5m以上で，岸では水生植物が見られるが，水底には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。
[湖沼沼沢湿地指標種群(N)]：湖沼における浮遊生種としても，沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ，湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群である。
[沼沢湿地付着生指標種群(O)]：水深1m内外で，一面に植物が繁殖している所および湿地において，付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。
[高層湿原指標種群(P)]：尾瀬ケ原湿原や霧ケ峰湿原などのように，ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。
[陸域指標種群(Q)]：上述の水域に対して，陸域を生息地として生活している種群である(陸生珪藻と呼ばれている)。
[陸生珪藻A群(Qa)]：耐乾性の強い特定のグループである。
[陸生珪藻B群(Qb)]：A群に随伴し，湿った環境や水中にも生育する種群である。

4．結果

堆積物から検出された珪藻化石は，海水種が1分類群1属1種，汽水種が1分類群1属1種，淡水種が37分類群22属23種2変種であった(表7)。これらの珪藻化石は，海水域における1環境指標種群(C1)と，淡水域における7環境指標種群(J，L，M，O，P，Qa，Qb)に分類された(表7)。また，珪藻分布図を図724に示した。以下では，各試料における珪藻化石の特徴とその堆積環境について述べる。

・SE1 (No.2)

堆積物1g中の珪藻殻数は7.3×10^5個，完形殻の出現率は48.6%である。主に淡水種からなり，海水種と汽水種をわずかに伴う。堆積物中の珪藻殻数は多い。環境指標種群では，陸生珪藻A群(Qa)が多

表７　堆積物中の珪藻化石産出表（種群は，千葉・澤井（2014）による）

No.	分類群		種群	No.2	No.3	No.4	No.7
1	Cocconeis	scutellum	C1	1			
2	Navicula	veneta	?	2			
3	Achnanthes	spp.	?	1			5
4	Achnanthidium	convergens	J				3
5	Amphora	montana	Qa	9			1
6	Caloneis	aerophila	Qa	1			2
7	C.	spp.	?	2			1
8	Cocconeis	placentula	W	3	1		
9	Cyclotella	stelligera	M				1
10	C.	spp.	?				1
11	Cymbella	spp.	?		1		3
12	Diadesmis	confervacea	Qb				1
13	D.	contenta	Qa	15	1		4
14	Eunotia	pectinalis var. minor	O		4		
15	E.	spp.	?	1	8		8
16	Frustulia	spp.	?				1
17	Gomphonema	gracile	O		2		
18	G.	spp.	?	4	9	2	9
19	Hantzschia	amphioxys	Qa	39	23	9	13
20	Luticola	mutica	Qa	54	127	26	34
21	L.	saxophila	Qb				24
22	Navicula	elginensis	O				11
23	N.	spp.	?	19	2	3	10
24	Neidium	alpinum	Qa				1
25	N.	spp.	?	1			3
26	Nitzschia	frustulum	L				4
27	N.	nana	Qb				2
28	N.	spp.	?	4	1	1	22
29	Orthosira	roeseana	Qa	1			2
30	Pinnularia	borealis	Qa	6	17	9	10
31	P.	gibba	O	2			
32	P.	subcapitata	Qb	27		1	15
33	P.	subcapitata var. elongata	P	5	1		4
34	P.	spp.	?	7	2	1	8
35	Rhopalodia	gibba	W				1
36	Sellaphora	pupula	W				3
37	Stauroneis	obtusa	Qb	2		2	4
38	S.	spp.	?	1			
39	Tabellaria	ventricosa	W		5		
40	Unknown		?	1	2	2	6
	海水藻場		C1	1			
	汽水不定・不明種		?	2			
	上流性河川		J				3
	最下流性河川		L				4
	湖沼浮遊生		M				1
	沼沢湿地付着生		O	2	6		11
	高層湿原		P	5	1		4
	陸生Ａ群		Qa	125	168	44	67
	陸生Ｂ群		Qb	29		3	46
	広布種		W	3	6		4
	淡水不定・不明種		?	40	23	7	71
	その他不明種		?	1	2	2	6
	海水種			1			
	汽水種			2			
	淡水種			204	204	54	211
	合　計			208	206	56	217
	完形殻の出現率(%)			48.6	42.4	41.1	55.3
	堆積物1g中の殻数(個)			7.3E+5	7.7E+5	7.4E+4	1.1E+6

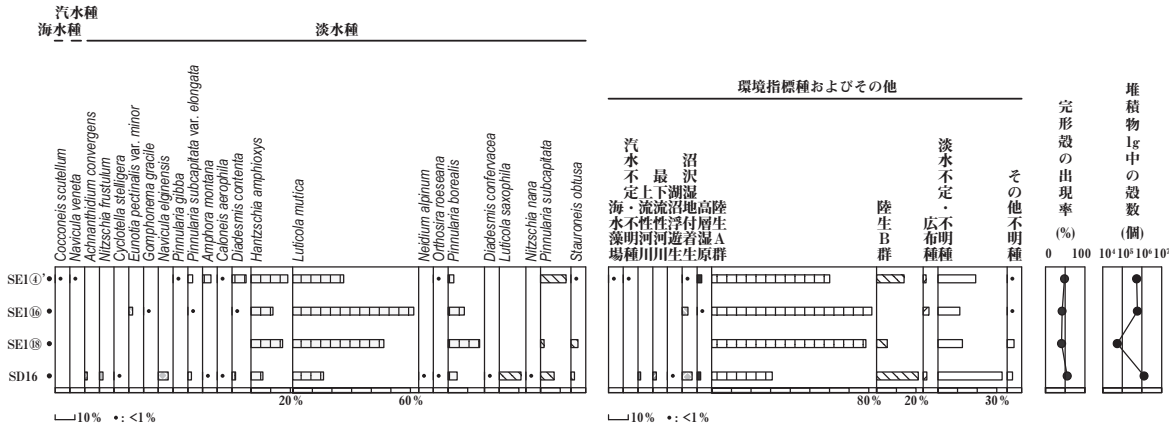


図724　堆積物中の珪藻化石分布図(主な分類群を表示)

く，陸生珪藻Ｂ群(Qb)，高層湿原指標種群(P)などをわずかに伴う。

・SE1 (No.3)

堆積物1g中の珪藻殻数は7.7×10^5個，完形殻の出現率は42.4%である。淡水種のみが検出された。堆積物中の珪藻殻数は多い。環境指標種群では，陸生珪藻Ａ群(Qa)が多く，沼沢湿地付着生指標種群(O)などをわずかに伴う。

・SE1 (No.4)

堆積物1g中の珪藻殻数は7.4×10^4個，完形殻の出現率は41.1%である。淡水種のみが検出された。堆積物中の珪藻殻数は少ない。環境指標種群では，陸生珪藻Ａ群(Qa)が多く，陸生珪藻Ｂ群(Qb)をわずかに伴う。

・SD16 (No.7)

堆積物1g中の珪藻殻数は1.1×10^6個，完形殻の出現率は55.3%である。淡水種のみが検出された。堆積物中の珪藻殻数は非常に多い。環境指標種群では，陸生珪藻Ａ群(Qa)と陸生珪藻Ｂ群(Qb)が多く，沼沢湿地付着生指標種群(O)，最下流性河川指標種群(L)，上流性河川指標種群(J)などをわずかに伴う。

5．考察

上記した環境指標種群の特徴から，各分析層準の堆積時期に，遺構内は以下のような堆積環境であったと推定される。

古代の井戸SE1の分析試料では，底部のNo.2(⑤')と中部のNo.3(⑫)で湿性な場所も伴うようなジメジメとした陸域環境であったと推定される。上部のNo.4 (⑯)の堆積時には，珪藻化石の検出数が少ないため，過大評価をしている可能性があるが，環境指標種群の特徴から，ジメジメとした陸域環境であったと推定される。

この井戸SE1は，地表面から比較的深く掘削されており，断面写真を参照すると，周囲から地表堆積物が流入しながら徐々に埋没した状況が推測される。このような埋没状況下では，局地的な凹地となる井戸内へ水が集まり，湿性の環境が維持されやすかったと考えられる。今回の珪藻分析の結果は，井戸埋土の層相から推測される埋没環境と調和的とみなされる。

なお，本遺跡は台地上に立地しており，地下水位が低く，埋没期間中の井戸内は常に滞水するよう

な状況ではなかったと考えられる。この点は，基本的に陸域環境を示す珪藻分析の結果からも支持できる。SE1 では，底部の中央付近に一段下がった人為的に掘削された凹地が存在する。遺跡の立地環境と今回の珪藻分析結果をふまえると，この凹地は，井戸の湧水を貯留する水溜の可能性が考えられるとともに，当時，この深度で台地構成層中の浅層部分に地下水位が存在していたと考えられる。この水溜の可能性のある層準については，今回は分析を行っておらず，埋没時の層準と群集組成が異なるかどうか確認できていない。

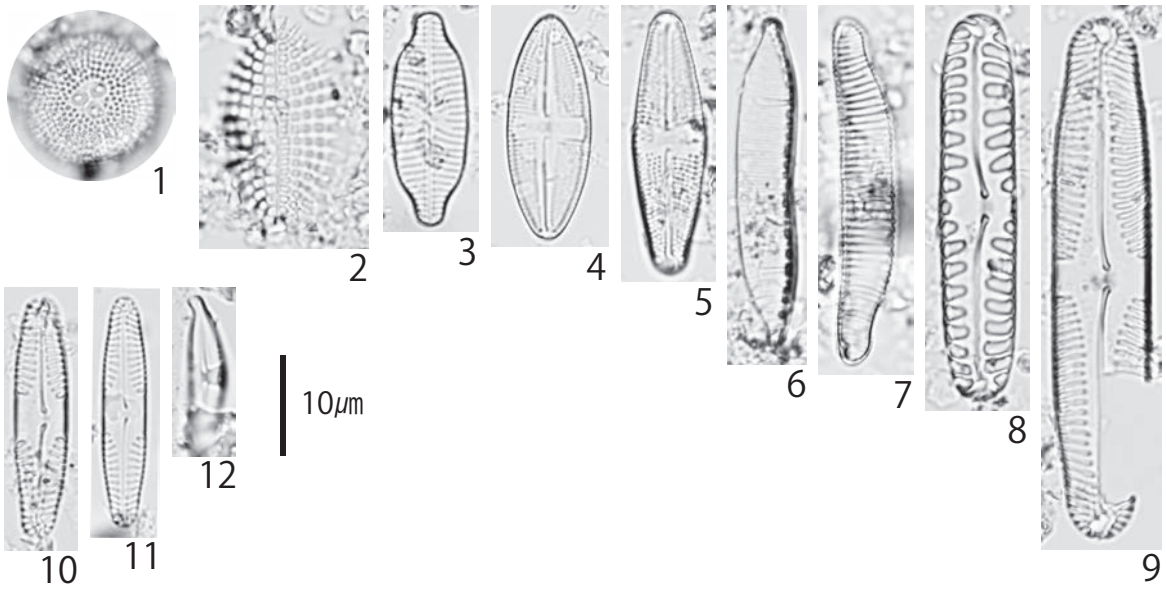
中世の屋敷地周囲の溝SD16 のNo.7 は，河川堆積物の流れ込みを伴うようなジメジメとした陸域環境が推定される。溝内は，基本的に湿った陸域環境下にあったものの，降雨時などなんらかの要因で，水が流れていた時期が存在したと推測される。

引用・参考文献

安藤一男(1990)淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 東北地理, 42, 73-88.

千葉　崇・澤井裕紀(2014)環境指標種群の再検討と更新. Diatom , 30, 7-30.

小杉正人(1988)珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用. 第四紀研究, 27, 1-20.



1.Orthosira roeseana (No.7) 2.Cocconeis scutellum (No.2) 3.Navicula elginensis (No.7)
4.Luticola saxophila (No.7) 5.Luticola mutica (No.4) 6.Hantzschia amphioxys (No.2)
7.Eunotia pectinalis var. minor (No.3) 8.Pinnularia borealis (No.3) 9.Pinnularia gibba (No.2)
10.Pinnularia subcapitata (No.2) 11.Pinnularia subcapitata var. elongata (No.2)
12.Amphora montana (No.2)

図725　堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真

第5節　若宮ノ東遺跡出土井戸枠の樹種同定

小林克也(パレオ・ラボ)

1. はじめに

高知県南国市の若宮ノ東遺跡から出土した井戸枠の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は，9－2区の井戸跡SE2から出土した井戸枠1点である。発掘調査所見による推定時期は，中世後半である。

樹種同定は，材の横断面(木口)，接線断面(板目)，放射断面(柾目)について，カミソリで薄い切片を切り出し，ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ，光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行なった。

表8　木製品の樹種同定結果

試料No.	調査区	遺構	器種	樹　種	時　期
3	9－2区	SE2	井戸枠	クスノキ科	中世後半

3. 結果

同定の結果，試料は広葉樹のクスノキ科であった。同定結果を表8に示す。

以下に，同定された材の特徴を記載し，図版に光学顕微鏡写真を示す。

(1)クスノキ科　Lauraceae　図726　1a-1c(No.3)

小型の道管が単独ないし2～3個複合し，やや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で，1～2列となる。木部繊維内には，油細胞が認められる。

クスノキ科にはニッケイ属やタブノキ属，クロモジ属などがあり，暖帯を中心に分布する，主に常緑性の高木または低木である。

4. 考察

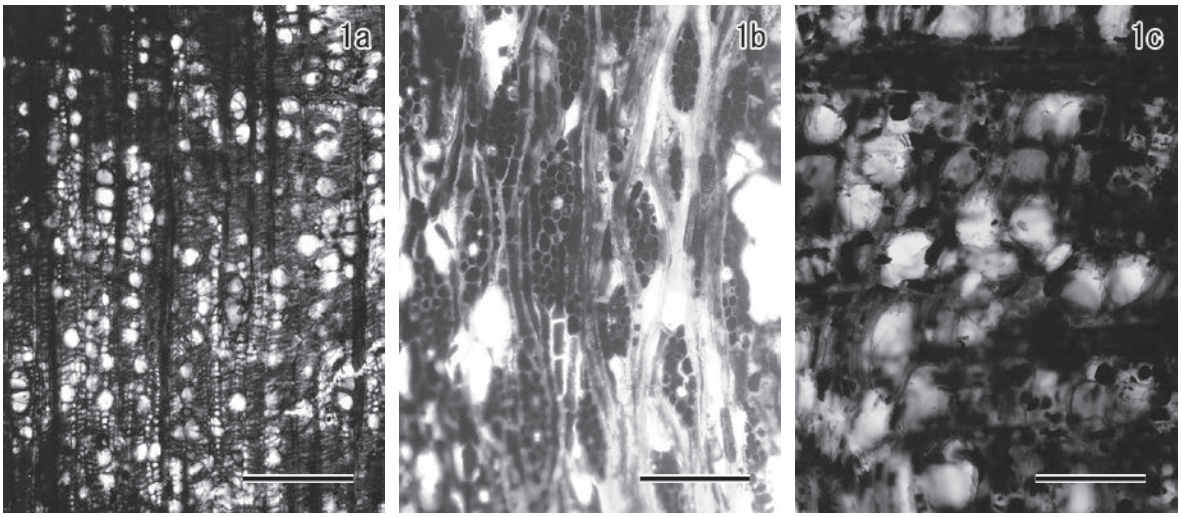
9－2区の井戸跡SE2の井戸枠は，クスノキ科であった。クスノキ科は比較的堅硬であり，耐朽性の高い樹種である(伊東ほか，2011)。

室町時代頃の四国地方の井戸枠をみると，多くはスギやヒノキなどの針葉樹が利用されているが，愛媛県の平田七反地遺跡の井戸枠ではクスノキの利用が確認されている(伊東・山田編，2012)。

引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部　久・内海泰弘・山口和穂　『日本有用樹木誌』　238頁　海青社　2011年

伊東隆夫・山田昌久編　『木の考古学―出土木製品用材データベース―』　449頁　海青社　2012年



1a-1c.クスノキ科（No.3）
a:横断面（スケール=500 μm）、b:接線断面（スケール=200 μm）、c:放射断面（スケール=200 μm）

図726　井戸枠の光学顕微鏡写真

遺構計測表

表9　ST計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規模				床面標高（m）	主軸方向	時期
				長軸（m）	短軸（m）	床面積（㎡）	規模			
4区	ST1	R1	方形	6.12	(4.05)	37.5	大型	6.8	N－2°－E	古式土師器Ⅰ
〃	ST2	R1・2	隅丸方形	5.46	(2.18)	29.8	標準	6.5	N－0°	古式土師器Ⅰ
〃	ST3	R1	五角形	3.52	－	21.3	標準	6.6	N－35°－W	古式土師器Ⅰ
〃	ST4	〃	－	5.46	(2.18)	－	－	7.1	N－3°－W	古式土師器Ⅰ
〃	ST5	〃	隅丸方形	5.48	(1.26)	30.0	大型	7.0	N－10°－E	古式土師器Ⅰ
〃	ST6	〃	隅丸方形か	7.68	(2.69)	58.9	特大型	7.0	N－8°－E	－
〃	ST7A	R2	五角形	4.10	－	28.9	標準	6.5	N－9°－E	古式土師器Ⅰ
〃	ST7B	〃	隅丸方形	6.20	－	38.4	大型	6.5	N－28°－W	古式土師器Ⅰ
〃	ST8	〃	方形	3.56	(3.06)	12.7	小型	6.5	N－11°－E	古式土師器Ⅰ
〃	ST9	〃	不整形	5.20	(4.70)	－	－	6.7	N－20°－E	後Ⅲ－3
〃	ST10	〃	－	(4.27)	(1.25)	－	－	6.6	N－21°－E	－
8－1区	ST1	H30	多角形	6.40	－	32.2	大型	6.8	N－8°－E	古式土師器Ⅰ
〃	ST2	〃	隅丸方形か	3.12	(2.15)	－	－	6.8	N－37°－E	後Ⅲ－2
〃	ST3	〃	隅丸方形	(5.08)	(2.80)	－	－	6.7	N－12°－E	古式土師器Ⅰ
〃	ST4	〃	－	－	－	－	－	－	－	SE1へ変更
〃	ST5	〃	多角形	5.90	(4.20)	27.3	標準	6.8	N－17°－W	古式土師器Ⅰ
〃	ST6	〃	方形	6.12	4.74	37.4	大型	7.0	N－7°－E	後期後半
〃	ST7	〃	隅丸方形	(4.62)	(2.12)	－	－	6.8	N－7°－E	古式土師器Ⅰ
〃	ST8	〃	不明	(2.45)	(1.72)	－	－	6.8	－	－
8－2区	ST9	R2	不整円形or多角形	7.20	(3.93)	40.7	大型	6.7	N－7°－E	後Ⅲ－2
〃	ST10	〃	円形	(5.04)	(1.40)	－	－	6.8	－	－
〃	ST11	〃	方形	(3.54)	(1.70)	－	－	6.8	N－10°－E	後期後半
〃	ST12	〃	－	(4.80)	(2.40)	－	－	6.7	N－37°－W	古式土師器Ⅰ
〃	ST13	〃	円形or方形	(4.28)	(1.23)	－	－	7.0	N－24°－E	後Ⅲ－3
10－3区	ST1	〃	隅丸長方形	4.60	3.40	15.6	小型	6.5	N－33°－E	古式土師器Ⅰ
〃	ST2	〃	隅丸長方形か	3.56	(1.64)	12.6	小型	6.6	N－18°－E	古式土師器Ⅰ
〃	ST3	〃	－	(4.90)	(0.58)	－	－	6.5	N－1°－E	－
〃	ST4	〃	隅丸方形	4.04	－	16.3	小型	6.6	N－21°－W	古式土師器Ⅰ
〃	ST5	〃	隅丸方形	4.04	4.00	16.1	小型	6.3	N－14°－E	古式土師器Ⅰ
10－2区	ST11	〃	隅丸方形	4.62	(1.92)	－	－	6.4	N－11°－W	－
11－2区	ST1	R1	隅丸長方形	5.34	4.90	26.1	標準	6.2	N－9°－W	古式土師器Ⅰ
11－3区	ST11	R2	隅丸方形か	(2.36)	(1.66)	－	－	6.6	－	－

表 10　SB 計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	規　模（m）		床面積（㎡）	主軸方向	棟方向	時　期
			桁行×梁行					
4区	SB1	R2	(1)×(2)	(1.75)×(2.70)	—	N－14°51′－E	南北棟	—
〃	SB2	〃	1×2	2.90×2.50	7.2	N－15°17′－E	南北棟	—
〃	SB3	〃	3×1	3.61×3.50	12.6	N－13°45′－E	南北棟	—
〃	SB4	〃	2×2	6.72×5.08	34.1	N－84°11′－W	東西棟	—
〃	SB5	〃	3×1	7.18×4.26	30.5	N－71°57′－W	東西棟	—
〃	SB6	〃	3×1	5.45×3.67	20.0	N－85°32′－W	東西棟	—
〃	SB7	〃	2×1	4.21×4.09	17.2	N－10°31′－E	南北棟	—
〃	SB8	〃	3×2	5.43×4.95	26.8	N－81°25′－W	東西棟	—
〃	SB9	〃	3×1	7.25×3.84	27.8	N－79°38′－W	東西棟	—
〃	SB10	〃	3×2	4.18×2.17	9.0	N－77°58′－W	東西棟	—
〃	SB11	〃	3×2	4.18×3.45	14.4	N－74°30′－W	東西棟	—
〃	SB12	〃	3×1	5.19×3.29	17.0	N－87°39′－W	東西棟	—
〃	SB13	〃	3×2	6.40×3.93	25.1	N－7°09′－E	南北棟	—
〃	SB14	R1・2	2×2	5.86×3.53	20.6	N－83°09′－W	東西棟	—
〃	SB15	〃	3×1	5.74×1.75	10.0	N－81°14′－W	東西棟	—
〃	SB16	〃	5×1	10.34×1.88	19.4	N－80°09′－W	東西棟	—
〃	SB17	〃	2×2	6.04×4.45	26.8	N－78°02′－W	東西棟	—
〃	SB18	〃	2×2	5.29×4.27	22.5	N－82°02′－W	東西棟	—
〃	SB19	R2	1×(2)	3.20×(3.17)	—	N－2°17′－W	南北棟	—
〃	SB20	R1・2	3×(1)	5.68×(1.91)	—	N－81°18′－W	東西棟	—
〃	SB21	R1	4×2	6.32×5.47	34.5	N－11°57′－E	南北棟	—
〃	SB22	〃	3×1	6.23×4.24	26.4	N－84°20′－W	東西棟	—
〃	SB23	〃	3×2	4.16×2.99	12.4	N－16°59′－E	南北棟	古　代
〃	SB24	〃	3×－	3.77×－	—	N－13°06′－E	南北棟	古　代
〃	SB25	〃	4×1	7.88×2.19	17.2	N－77°26′－W	東西棟	—
〃	SB26	〃	2×1	4.65×2.08	9.6	N－86°50′－W	東西棟	—
〃	SB27	〃	2×1	3.93×1.77	6.9	N－81°34′－W	東西棟	—
〃	SB28	〃	(2)×3	(3.29)×3.77	—	N－13°06′－E	南北棟	古　代

調査区名	遺構番号	調査年度	規　模（m）		床面積（㎡）	主軸方向	棟方向	時　期
			桁行×梁行					
4区	SB29	R1	3×(1)	8.29×(2.20)	—	N－81°16′－W	東西棟	古　代
〃	SB30	〃	3×1	6.82×2.92	19.9	N－84°40′－W	東西棟	—
〃	SB31	〃	(1)×(2)	(2.02)×(3.61)	—	N－2°10′－W	南北棟	—
〃	SB32	〃	2×1	5.99×3.14	18.8	N－77°00′－W	東西棟	古　代
〃	SB33	〃	(1)×(1)	(2.67)×(2.17)	—	N－82°19′－W	東西棟	古　代
〃	SB34	〃	2×2	6.12×4.28	26.2	N－76°14′－W	東西棟	—
〃	SB35	〃	2×2	6.64×2.94	19.5	N－78°12′－W	東西棟	—
〃	SB36	〃	(1)×2	(2.06)×3.76	—	N－13°00′－E	南北棟	古　代
〃	SB37	〃	(1)×2	(1.79)×3.09	—	N－2°11′－W	南北棟	—
8－2区	SB1	R2	2×—	3.09×—	—	N－13°30′－E	南北棟	—
〃	SB2	〃	3×1	5.19×2.28	11.8	N－74°23′－W	東西棟	—
〃	SB3	〃	3×2	3.22×3.13	10.1	N－8°13′－E	南北棟	—
〃	SB4	〃	2×1	3.91×3.20	12.5	N－87°54′－W	東西棟	—
〃	SB5	〃	3×2	4.94×3.16	15.6	N－78°01′－W	東西棟	—
〃	SB6	〃	3×2	4.66×2.54	11.8	N－78°27′－W	東西棟	—
8－1・2区	SB7	H30・R2	2×2	4.99×3.12	15.6	N－79°00′－W	東西棟	—
〃	SB8	〃	2×2	4.45×2.38	10.6	N－77°59′－W	東西棟	—
8－1区	SB9	H30	3×1	5.91×3.02	17.8	N－88°31′－W	東西棟	—
〃	SB10	〃	3×2	4.16×4.00	16.6	N－73°16′－W	東西棟	—
〃	SB11	〃	5×1	7.16×(1.90)	—	N－1°43′－W	南北棟	—
〃	SB12	〃	3×1	5.82×2.88	16.8	N－10°22′－E	南北棟	—
〃	SB13	〃	—×2	—×3.68	—	N－1°12′－E	南北棟	—
9－1区	SB1	R1	3×2	5.07×4.05	20.5	N－80°31′－W	東西棟	—
〃	SB2	〃	2×(1)	3.95×(1.42)	—	N－84°40′－W	東西棟	—
〃	SB3	〃	2×(1)	4.73×(1.60)	—	N－84°12′－W	東西棟	—
〃	SB4	〃	2×2	4.94×3.24	16.0	N－80°36′－W	東西棟	—
〃	SB5	〃	3×2	5.87×4.14	24.3	N－88°20′－W	東西棟	—
〃	SB6	〃	2×2	4.94×4.09	20.2	N－87°25′－E	東西棟	—

SB計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	規　模（m）		床面積（㎡）	主軸方向	棟方向	時　期
			桁行×梁行					
9－1区	SB7	R1	2×2	4.70×3.70	17.4	N－85°29′－W	東西棟	－
〃	SB8	〃	2×2	3.89×3.89	15.1	N－2°20′－E	南北棟	－
〃	SB9	〃	4×2	5.54×3.07	17.0	N－78°23′－W	東西棟	－
〃	SB10	〃	3×1	3.24×3.07	9.9	N－75°49′－W	東西棟	－
〃	SB11	〃	3×2	6.04×3.50	21.1	N－88°10′－W	東西棟	－
〃	SB12	〃	2×2	4.75×3.71	17.6	N－81°57′－W	東西棟	－
〃	SB13	〃	2×2	4.52×4.06	18.3	N－2°47′－E	南北棟	－
〃	SB14	〃	2×2	3.85×2.86	11.0	N－77°04′－W	東西棟	中世後期
〃	SB15	〃	3×1	6.37×2.41	15.3	N－86°20′－W	東西棟	－
〃	SB16	〃	2×1	3.82×3.05	11.6	N－74°11′－W	東西棟	－
〃	SB17	〃	4×2	6.98×4.13	28.9	N－14°02′－E	南北棟	－
〃	SB18	〃	3×1	5.94×3.46	20.6	N－12°54′－E	南北棟	－
〃	SB19	〃	2×1	4.13×3.19	13.2	N－8°17′－E	南北棟	－
〃	SB20	〃	3×2	6.67×3.88	25.9	N－81°09′－W	東西棟	－
〃	SB21	〃	3×2	7.02×3.56	25.0	N－76°12′－W	東西棟	－
〃	SB22	〃	3×2	6.31×3.80	24.0	N－80°57′－W	東西棟	－
〃	SB23	〃	5×1	6.67×3.65	24.3	N－13°10′－E	南北棟	－
〃	SB24	〃	3×1	5.97×4.33	25.8	N－9°46′－E	南北棟	－
〃	SB25	〃	2×2	4.44×3.58	15.9	N－82°59′－W	東西棟	－
〃	SB26	〃	3×2	6.04×3.67	22.2	N－82°59′－W	東西棟	－
〃	SB27	〃	4×2	7.51×4.25	31.9	N－78°47′－W	東西棟	－
〃	SB28	〃	3×3	5.76×5.45	31.4	N－83°01′－W	東西棟	中世後期
〃	SB29	〃	2×2	4.45×3.23	14.4	N－89°26′－E	東西棟	－
〃	SB30	〃	5×4	9.34×7.06	66.0	N－82°57′－W	東西棟	中世後期
〃	SB31	〃	3×2	5.80×3.62	21.0	N－81°46′－W	東西棟	－
〃	SB32	〃	2×2	4.03×3.44	13.8	N－80°04′－W	東西棟	－
〃	SB33	〃	3×2	6.10×4.08	24.9	N－3°34′－W	南北棟	－
〃	SB34	〃	3×2	5.32×3.41	18.1	N－8°35′－E	南北棟	－

調査区名	遺構番号	調査年度	規　模（m）		床面積（㎡）	主軸方向	棟方向	時　期
			桁行×梁行					
9－1区	SB35	R1	2×2	4.28×2.96	12.7	N－6° 16′－E	南北棟	—
〃	SB36	〃	2×2	3.88×2.56	9.9	N－87° 38′－W	東西棟	—
〃	SB37	〃	3×2	5.32×4.14	22.0	N－88° 31′－W	東西棟	—
〃	SB38	〃	3×3	5.54×4.90	27.2	N－6° 50′－E	南北棟	—
〃	SB39	〃	4×2	6.97×4.03	28.1	N－14° 28′－E	南北棟	—
〃	SB40	〃	3×2	6.30×4.26	26.9	N－83° 29′－W	東西棟	—
〃	SB41	〃	4×3	6.39×5.18	33.1	N－9° 31′－E	南北棟	—
〃	SB42	〃	3×3	7.97×5.54	44.2	N－78° 07′－W	東西棟	—
〃	SB43	〃	3×2	6.24×4.58	28.6	N－78° 01′－W	東西棟	—
〃	SB44	〃	3×2	5.54×3.92	21.7	N－6° 58′－E	南北棟	中世後期
〃	SB45	〃	3×2	6.56×3.41	20.6	N－83° 09′－W	東西棟	—
〃	SB46	〃	2×2	4.12×3.28	13.5	N－85° 12′－W	東西棟	—
〃	SB47	〃	2×2	5.37×3.63	19.5	N－81° 28′－W	東西棟	—
〃	SB48	〃	2×2	5.13×3.68	18.9	N－88° 42′－W	東西棟	—
〃	SB49	〃	2×2	4.58×2.99	13.7	N－76° 39′－W	東西棟	—
〃	SB50	〃	4×2	10.02×3.11	31.2	N－76° 00′－W	東西棟	—
9－1・2区	SB51	〃	3×1	5.40×3.73	20.1	N－1° 13′－E	南北棟	—
〃	SB52	〃	3×1	5.30×3.51	18.6	N－3° 02′－E	南北棟	中世後期か
9－2区	SB53	〃	2×2	4.47×2.67	11.9	N－1° 54′－E	南北棟	—
〃	SB54	〃	2×2	3.29×2.93	9.6	N－85° 07′－W	東西棟	—
〃	SB55	〃	3×2	4.43×2.72	12.1	N－89° 52′－E	東西棟	—
〃	SB56	〃	4×2	5.25×3.47	18.2	N－8° 50′－W	南北棟	—
〃	SB57	〃	2×2	3.74×3.21	8.3	N－80° 05′－E	東西棟	—
〃	SB58	〃	2×3	4.67×4.56	21.3	N－9° 28′－E	南北棟	—
〃	SB59	〃	2×2	3.85×3.00	11.5	N－85° 32′－W	東西棟	—
〃	SB60	〃	2×2	3.79×2.39	9.0	N－86° 51′－W	東西棟	—
〃	SB61	〃	2×1	4.84×2.67	12.9	N－7° 11′－E	南北棟	中世後期
〃	SB62	〃	3×2	3.95×2.51	9.9	N－9° 07′－W	南北棟	中世後期

SB計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	規　模（m）		床面積（㎡）	主軸方向	棟方向	時　期
			桁行×梁行					
9－2区	SB63	R1	2×1	4.29×1.82	7.8	N－84° 22′－E	東西棟	－
〃	SB64	〃	3×1	5.37×2.51	13.5	N－78° 46′－E	東西棟	－
〃	SB65	〃	3×2	6.05×3.58	21.6	N－84° 35′－W	東西棟	中世後期
〃	SB66	〃	2×2	5.81×3.68	21.4	N－85° 55′－W	東西棟	－
〃	SB67	〃	3×2	4.95×2.89	14.3	N－80° 01′－E	東西棟	－
〃	SB68	〃	3×2	4.91×3.21	15.8	N－78° 29′－E	東西棟	－
9－2区 11－1区	SB69	〃	3×1	7.43×4.63	34.4	N－84° 23′－W	東西棟	－
9－2区	SB70	〃	2×1	2.86×0.80	2.2	N－82° 59′－E	東西棟	－
〃	SB71	〃	2×1	3.23×3.12	10.1	N－5° 55′－E	南北棟	－
〃	SB72	〃	4×1	5.21×1.82	9.5	N－87° 32′－W	東西棟	－
〃	SB73	〃	2×2	3.83×1.93	7.4	N－84° 16′－W	東西棟	－
〃	SB74	〃	2×2	3.28×3.19	10.4	N－12° 30′－E	南北棟	－
〃	SB75	〃	3×2	4.49×3.15	14.1	N－6° 10′－W	南北棟	－
〃	SB76	〃	3×1	5.26×2.39	12.5	N－77° 18′－E	東西棟	－
〃	SB77	〃	1×1	1.52×1.01	1.5	N－2° 11′－E	南北棟	－
〃	SB78	〃	2×2	3.24×2.26	7.3	N－78° 52′－E	東西棟	－
〃	SB79	〃	2×2	4.14×3.30	13.6	N－1° 38′－W	南北棟	中世後期
9－3区	SB80	R2	2×2	1.91×1.83	3.5	N－88° 15′－W	東西棟	－
〃	SB81	〃	2×(1)	3.30×(1.12)	－	N－85° 56′－W	東西棟	－
〃	SB82	〃	3×2	3.64×2.13	7.7	N－88° 31′－E	東西棟	－
〃	SB83	〃	2×1	3.43×1.84	6.3	N－10° 54′－E	南北棟	－
〃	SB84	〃	(1)×1	(1.99)×1.84	－	N－9° 32′－E	南北棟	－
〃	SB85	〃	(1)×2	(1.60)×2.82	－	N－15° 58′－E	南北棟	－
9－1区	SB86	R1	1×1	1.91×1.15	2.2	N－89° 14′－E	東西棟	－
10－1区	SB1	R2	3×(1)	4.00×(1.16)	－	N－68° 23′－W	東西棟	－
10－1・2区	SB2	〃	(2)×2	(3.57)×4.54	－	N－11° 30′－E	南北棟	古　代
10－2区	SB3	〃	5×(1)	8.50×(1.33)	－	N－87° 07′－W	東西棟	古　代
〃	SB4	〃	2×(1)	2.88×(1.28)	－	N－14° 44′－W	南北棟	－

調査区名	遺構番号	調査年度	規　模（m）		床面積（㎡）	主軸方向	棟方向	時　期
			桁行×梁行					
10－3区	SB5	R2	2×2	7.02×3.95	27.7	N－78° 35′－W	東西棟	古代か
〃	SB6	〃	3×1	7.02×3.30	23.1	N－78° 35′－W	東西棟	－
〃	SB7	〃	(2)×2	(3.37)×2.46	－	N－79° 09′－E	東西棟	－
11－2区	SB1	R1・2	4×(1)	9.85×(1.62)	－	N－83° 08′－W	東西棟	－
〃	SB2	R2	3×1	4.30×2.87	12.3	N－88° 31′－W	東西棟	－
〃	SB3	〃	2×(1)	2.88×(0.95)	－	N－77° 48′－W	東西棟	－
〃	SB4	R1	2×2	4.63×4.49	20.7	N－83° 40′－W	東西棟	－
〃	SB5	〃	2×2	4.51×4.17	18.8	N－83° 23′－W	東西棟	－
〃	SB6	〃	2×1	5.42×2.69	14.5	N－80° 35′－W	東西棟	－
〃	SB7	〃	4×2	8.17×2.87	23.4	N－78° 24′－W	東西棟	－
〃	SB8	〃	2×1	4.50×1.82	8.1	N－79° 00′－W	東西棟	古　代
〃	SB9	〃	2×2	2.90×2.78	8.0	N－14° 01′－E	南北棟	－
〃	SB10	〃	2×1	4.43×3.24	14.3	N－7° 12′－E	南北棟	－
〃	SB11	〃	4×1	5.27×3.58	18.8	N－10° 34′－E	南北棟	－
〃	SB12	〃	3×2	6.10×3.96	24.1	N－79° 30′－W	東西棟	－
〃	SB13	〃	2×2	3.29×2.36	7.7	N－78° 59′－W	東西棟	－
11－3区	SB14	〃	3×1	5.08×3.97	20.1	N－6° 22′－E	南北棟	－
〃	SB15	〃	(1)×2	(1.86)×4.54	－	N－13° 06′－E	南北棟	－
〃	SB16	〃	2×(1)	4.87×(1.95)	－	N－16° 34′－E	南北棟	－
〃	SB17	〃	1×1	4.19×3.11	13.0	N－78° 01′－W	東西棟	－

表11　SA計測

調査区名	遺構番号	調査年度	構成ピット	規　模		主軸方向	時　期
				検出長（m）	柱間寸法（m）		
4区	SA1	R1	P224・P242・P248・P250	6.87	1.90～3.10	N－83° 45′－W	－
8－1区	SA1	H30	P44・P58・P126他	7.17	0.80～3.00	N－82° 20′－W	－
〃	SA2	〃	P90他	5.04	1.54～1.87	N－3° 53′－E	－
9－1区	SA1	R1	P90・P129・P288・P489・P509他	16.47	1.95～3.80	N－14° 15′－E	－
〃	SA2	〃	P29・P31・P79・P327・P383他	15.13	1.65～2.05	N－14° 11′－E	－

SA計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	構成ピット	規模		主軸方向	時期
				検出長（m）	柱間寸法（m）		
9－1区	SA3	R1	P30・P49・P63・P344・P465・P582他	16.46	1.45～5.65	N－14°41′－E	—
〃	SA4	〃	P407他	12.99	2.40～2.90	N－13°21′－E	—
〃	SA5	〃	P48・P60・P70・P73	6.19	1.90～2.20	N－1°09′－E	—
〃	SA6	〃	P94他	7.99	2.45～3.05	N－82°31′－W	—
〃	SA7	〃	P129他	9.07	2.20～2.40	N－81°57′－W	—
〃	SA8	〃	P136・P176他	7.91	1.65～2.25	N－5°09′－E	—
〃	SA9	〃	P162・P173・P430他	12.79	1.75～4.95	N－1°57′－E	—
〃	SA10	〃	P174・P443他	12.61	1.75～2.80	N－0°33′－E	—
〃	SA11	〃	P148・P157・P186他	9.45	2.15～2.75	N－84°10′－W	—
〃	SA12	〃	P414他	6.94	1.45～2.65	N－82°56′－W	—
〃	SA13	〃	P589他	11.01	1.95～2.55	N－75°45′－W	—
〃	SA14	〃	P243・P253・P290・P414・P442・P535・P593他	15.55	1.45～2.05	N－13°50′－E	—
〃	SA15	〃	P256・P259・P266・P441・P513他	14.15	1.25～4.30	N－13°41′－E	—
〃	SA16	〃	P257・P292・P295・P537・P602他	17.70	1.65～3.60	N－13°33′－E	—
〃	SA17	〃	P255・P299・P402・P601他	7.79	1.40～3.25	N－5°36′－E	—
〃	SA18	〃	P190他	7.84	2.15～2.85	N－77°17′－W	—
〃	SA19	〃	P270・P321他	8.97	1.55～2.20	—	—
〃	SA20	〃	P191・P313他	10.16	1.40～2.50	—	—
〃	SA21	〃	P881・P894他	11.66	1.25～2.25	—	—
〃	SA22	〃	P753・P855他	9.47	2.10～2.65	N－88°16′－E	—
10－1区	SA1	R2	P108・P110・P112	3.18	1.50	N－79°02′－W	古代
11－1区	SA1	〃	P149他	11.45	2.95～5.40	N－87°40′－E	—
11－2区	SA2	〃	P110～P114	7.63	1.80～2.05	N－8°46′－E	—
〃	SA3	〃	P27他	7.99	1.95	N－9°43′－E	—
〃	SA4	R1	P41他	11.79	1.80～3.95	N－77°49′－W	—
〃	SA5	〃	P22・P24他	5.87	1.85～2.20	N－81°35′－W	—
〃	SA6	〃	P32・P79・P80他	9.94	1.85～2.10	N－84°06′－E	—

表12　SK計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
4区	SK1	R1	円形	(1.49)	(0.80)	22	—	近　世
〃	SK2	〃	隅丸長方形	1.52	1.17	14	N－8°－E	近　世
〃	SK3	〃	楕円形	(2.52)	(1.83)	66	N－3°－E	近　世
〃	SK4	〃	楕円形	(1.25)	(0.57)	23	N－2°－W	近　世
〃	SK5	〃	不整円形	1.92	(1.67)	15	—	近　世
〃	SK6	〃	不整楕円形	2.13	1.47	18	N－86°－E	—
〃	SK7	〃	—	—	—	—	—	ST7の一部
〃	SK8	〃	楕円形	(0.98)	(0.17)	11	N－17°－E	—
〃	SK9	〃	方形	(1.69)	(0.78)	7	N－89°－E	—
〃	SK10	〃	方形	2.18	(1.21)	19	N－75°－W	—
〃	SK11	〃	方形	5.61	(0.82)	16	N－0°	—
〃	SK12	〃	楕円形	1.05	0.98	11	N－39°－E	—
〃	SK13	〃	溝状	(2.24)	1.09	11	N－6°－W	—
〃	SK14	〃	方形	1.10	(0.60)	10	N－73°－W	—
〃	SK15	〃	方形	(0.71)	0.69	4	N－82°－E	—
〃	SK16	〃	方形	1.02	0.84	4	N－0°	—
〃	SK17	〃	方形	(0.60)	(0.31)	18	N－86°－E	—
〃	SK18	〃	不整形	(1.85)	1.43	11	N－17°－E	古　代
〃	SK19	〃	隅丸方形	(1.81)	(0.52)	10	N－79°－W	—
〃	SK20	R2	楕円形か	(1.05)	1.04	8	N－32°－E	—
〃	SK21	〃	円形	1.64	(1.29)	38	—	近　世
〃	SK22	〃	不整円形	1.39	—	62	—	近　世
〃	SK23	〃	隅丸長方形	1.52	0.81	10	N－19°－W	—
〃	SK24	〃	—	—	—	—	—	—
〃	SK25	〃	—	(0.73)	(0.56)	9	N－9°－W	古　代
〃	SK26	—	—	—	—	—	—	欠　番
〃	SK27	R2	楕円形	1.12	0.81	14	N－88°－E	—
〃	SK28	〃	隅丸方形	1.07	(0.78)	28	N－81°－W	—

SK計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
4区	SK29	R2	方形	1.56	1.42	22	N－88°－W	－
〃	SK30	〃	円形か	(0.96)	(0.14)	7	－	－
〃	SK31	〃	不整方形	(0.90)	0.98	11	N－13°－W	－
〃	SK32	〃	方形か	(1.42)	(0.48)	25	N－19°－E	－
〃	SK33	〃	隅丸方形	1.57	1.19	39	N－86°－W	－
〃	SK34	〃	不整楕円形	1.72	(0.70)	36	N－83°－W	－
〃	SK35	〃	不整形	2.47	(0.97)	18	N－80°－E	古　代
〃	SK36	〃	楕円形	1.48	1.07	11	N－78°－E	－
〃	SK37	〃	円形か	(1.10)	(0.57)	9	－	－
〃	SK38	〃	楕円形か	(1.21)	(0.38)	14	N－71°－W	－
〃	SK39	〃	楕円形	(0.71)	0.62	19	N－42°－W	－
〃	SK40	〃	楕円形	(0.59)	0.82	19	N－7°－E	－
〃	SK41	〃	楕円形	(0.83)	0.74	17	N－1°－E	－
〃	SK42	〃	不整形	3.85	(1.97)	60	N－8°－W	古　代
〃	SK43	〃	楕円形か	0.79	(0.38)	8	N－86°－E	－
〃	SK44	〃	楕円形	(0.28)	0.32	11	N－32°－E	－
〃	SK45	〃	楕円形	(0.86)	(0.36)	43	N－87°－E	－
〃	SK46	〃	楕円形	(0.56)	0.62	9	N－86°－W	－
〃	SK47	〃	方形	(0.82)	0.31	7	N－14°－W	－
〃	SK48	〃	楕円形か	(0.95)	(0.39)	34	N－86°－E	－
8－1区	SK1	H30	隅丸方形	1.63	1.49	29	N－1°－W	－
〃	SK2	〃	長方形	2.86	(2.12)	53	N－4°－W	近　世
〃	SK3	〃	円形	1.33	(1.18)	60	－	近　世
〃	SK4	〃	円形	1.29	1.28	54	－	近　世
〃	SK5	〃	不整形	1.24	1.04	17	N－9°－W	－
〃	SK6	〃	不整楕円形	3.22	0.85	18	N－0°	－
〃	SK7	〃	隅丸長方形	0.95	0.62	11	N－89°－W	近　世
〃	SK8	〃	不整形	(0.76)	0.80	15	N－13°－E	－

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
8－1区	SK9	H30	隅丸方形	1.44	0.78	19	N－38°－E	―
〃	SK10	〃	楕円形	0.98	0.42	21	N－87°－E	―
〃	SK11	〃	隅丸方形	0.95	0.64	30	N－76°－E	―
〃	SK12	〃	楕円形	0.90	0.71	18	N－45°－W	―
〃	SK13	―	―	―	―	―	―	ST7
〃	SK14	H30	不整楕円形	1.05	0.86	14	N－79°－W	―
〃	SK15	〃	隅丸方形か	(0.37)	0.90	47	N－11°－E	―
〃	SK16	〃	方形	(2.08)	(0.12)	(10)	N－77°－W	―
〃	SK17	〃	やや円形	(2.04)	(1.68)	40	―	近　世
〃	SK18	〃	楕円形	0.83	0.63	48	N－14°－E	―
〃	SK19	〃	不整楕円形	1.18	0.70	20	N－33°－E	―
〃	SK20	〃	不整楕円形	(0.74)	0.42	22	N－52°－E	―
8－2区	SK21	R2	楕円形	1.07	(0.64)	19	―	近　世
〃	SK22	〃	楕円形	1.09	(0.34)	25	―	近　世
〃	SK23	〃	楕円形	1.22	(0.55)	33	N－83°－W	近　世
〃	SK24	〃	隅丸長方形	1.41	1.08	33	N－6°－E	近　世
〃	SK25	〃	長方形	(1.98)	1.87	55	N－0°	近　世
〃	SK26	〃	やや円形	2.21	(1.64)	57	―	近　世
〃	SK27	〃	楕円形	1.48	(1.09)	(65)	N－73°－E	―
〃	SK28	〃	不整円形	2.15	1.68	48	―	近　世
〃	SK29	〃	不整円形	(1.45)	1.92	23	―	近　世
〃	SK30	―	―	―	―	―	―	欠　番
〃	SK31	R2	不整円形	(0.95)	0.80	38	―	近　世
〃	SK32	〃	隅丸長方形	1.12	(0.48)	15	―	―
〃	SK33	〃	隅丸方形	(1.27)	(1.16)	26	N－84°－E	―
〃	SK34	〃	長方形	0.98	0.76	10	N－63°－W	―
〃	SK35	〃	長方形	(1.05)	0.90	19	N－60°－E	―
〃	SK36	〃	―	(2.05)	(0.57)	13	N－85°－E	―

SK計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
8－2区	SK37	R2	―	(0.53)	(0.35)	(19)	―	―
〃	SK38	〃	楕円形	(0.34)	0.42	18	N－6°－W	―
〃	SK39	〃	―	(0.93)	(0.18)	7	―	―
〃	SK40	〃	やや楕円形	(1.98)	(0.57)	36	N－73°－W	―
9－1区	SK1	R1	不整形か	(1.18)	(0.23)	14	N－6°－E	―
〃	SK2	〃	楕円形	2.00	(0.38)	11	N－6°－E	―
〃	SK3	〃	不整楕円形	1.59	0.78	20	N－85°－W	―
〃	SK4	〃	方形	1.12	0.79	13	N－43°－E	―
〃	SK5	〃	隅丸方形	1.93	0.96	25	N－10°－W	―
〃	SK6	〃	楕円形	0.99	0.52	9	N－21°－E	―
〃	SK7	〃	楕円形	(0.57)	(0.55)	12	N－33°－E	―
〃	SK8	〃	隅丸長方形	2.00	(0.75)	20	N－4°－E	―
〃	SK9	〃	不整形	(3.20)	3.02	40	N－6°－E	―
〃	SK10	〃	隅丸長方形	1.54	0.86	42	N－20°－E	―
〃	SK11	〃	隅丸長方形	(0.73)	0.42	9	N－42°－W	―
〃	SK12	〃	方形	(1.45)	(1.01)	5～10	N－16°－W	―
〃	SK13	〃	楕円形	1.10	1.08	28	N－37°－E	―
〃	SK14	〃	隅丸方形	1.20	1.15	63	N－22°－W	―
〃	SK15	〃	円形	0.75	0.69	26	―	―
〃	SK16	〃	隅丸方形	0.88	0.78	8	N－76°－W	―
〃	SK17	〃	隅丸長方形	1.27	0.84	21	N－10°－W	―
〃	SK18	〃	不整形	1.98	(0.86)	1.84m	―	SE1・中世後期か
〃	SK19	〃	楕円形	0.79	0.65	8	N－54°’－W	―
〃	SK20	〃	不整長方形	1.71	(1.03)	11	N－23°－E	中世後期
〃	SK21	〃	楕円形	0.65	0.58	33	N－24°－W	―
〃	SK22	〃	隅丸方形	1.07	0.87	23	N－71°－W	中世後期か
〃	SK23	〃	隅丸方形	1.18	0.86	27	N－81°－E	―
〃	SK24	〃	隅丸方形	(0.90)	0.72	15	N－20°－W	―

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
9－1区	SK25	R1	楕円形	0.98	0.56	14	N－54°－W	－
〃	SK26	〃	楕円形か	（2.00）	（1.31）	21	N－79°－E	中世後期か
〃	SK27	〃	隅丸方形	0.67	0.40	22	N－1°－W	－
〃	SK28	〃	隅丸方形	1.04	0.73	10	N－73°－E	－
〃	SK29	〃	隅丸長方形or溝状	（2.64）	2.06	53～58	N－2°－W	－
〃	SK30	〃	楕円形	（0.58）	0.82	21	N－1°－W	－
〃	SK31	〃	楕円形か	（1.12）	（0.26）	23	N－77°－W	近　世・中世後期か
〃	SK32	〃	楕円形	1.08	0.77	9	N－78°－W	－
〃	SK33	〃	隅丸方形	1.36	0.93	44	N－12°－E	中世後期
〃	SK34	〃	隅丸方形	1.41	0.95	22	N－77°－W	－
〃	SK35	〃	方形	0.81	0.80	24	N－56°－W	－
〃	SK36	〃	不整楕円形	2.43	1.27	47	N－15°－E	－
〃	SK37	〃	隅丸長方形	1.82	0.82	58	N－8°－E	中世後期か
〃	SK38	〃	隅丸方形	1.81	1.05	64	N－14°－E	－
〃	SK39	〃	不整形	（3.37）	（1.10）	3～13	N－55°－E	－
〃	SK40	〃	隅丸方形か	1.35	（0.89）	11	N－89°－E	－
〃	SK41	〃	不整形	2.59	1.15	5～11	N－53°－E	中世後期か
〃	SK42	〃	楕円形か	（0.92）	（0.47）	5	N－7°－E	－
〃	SK43	〃	不整楕円形	3.50	2.29	7～21	N－16°－E	－
〃	SK44	R2	隅丸方形	1.22	1.10	12	N－81°－W	－
〃	SK45	〃	楕円形	2.00	1.68	28	N－20°－W	－
〃	SK46	〃	楕円形	1.95	（0.61）	6	N－1°－E	－
〃	SK47	〃	円形か	1.55	（0.77）	42	－	近　世
〃	SK48	－	－	－	－	－	－	欠　番
〃	SK49	－	－	－	－	－	－	欠　番
〃	SK50	－	－	－	－	－	－	欠　番
9－2区	SK51	R1	円形	1.82	1.69	36	－	近　世
〃	SK52	〃	円形	1.72	1.61	56	－	近　世

SK計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
9－2区	SK53	R1	隅丸方形	1.81	1.67	40	N－11°－W	近　世
〃	SK54	〃	楕円形	1.38	1.51	45	N－2°－E	近　世
〃	SK55	〃	円形か	（0.93）	（0.40）	3	―	―
〃	SK56	〃	方形	0.89	0.79	9	N－38°－E	―
〃	SK57	〃	不整楕円形	0.75	0.53	8	N－86°－W	―
〃	SK58	〃	不整方形	（1.80）	1.54	20	N－18°－E	―
〃	SK59	〃	隅丸長方形	0.88	0.62	15	N－22°－W	―
〃	SK60	〃	隅丸方形	0.91	0.72	19	N－83°－E	―
〃	SK61	〃	不整方形	1.54	1.44	9	N－20°－W	中世後期
〃	SK62	〃	隅丸方形	1.04	0.82	16	N－53°－E	―
〃	SK63	〃	隅丸方形	0.74	0.66	10	N－24°－W	―
〃	SK64	〃	楕円形	0.75	0.61	20	N－82°－W	―
〃	SK65	〃	方形	1.06	0.94	14	N－2°－W	―
〃	SK66	〃	楕円形	1.02	0.74	31	N－41°－W	―
〃	SK67	〃	隅丸方形	1.17	0.94	20	N－26°－E	―
〃	SK68	〃	不整形	（1.32）	0.83	8	N－5°－E	―
〃	SK69	〃	楕円形	0.76	0.58	6	N－32°－W	―
〃	SK70	〃	隅丸長方形	1.36	1.03	45	N－33°－E	―
〃	SK71	〃	楕円形か	（3.69）	（1.54）	33～54	―	―
〃	SK72	〃	隅丸長方形	1.04	0.46	23	N－29°－E	―
〃	SK73	〃	隅丸長方形	1.83	0.56	21	N－48°－E	―
〃	SK74	〃	楕円形か	1.46	0.37	11～21	N－13°－E	中世後期
〃	SK75	〃	不整楕円形か	（1.47）	（0.42）	16	N－1°－E	―
〃	SK76	〃	隅丸方形	（0.81）	0.67	6	N－43°－E	―
9－3区	SK81	R2	隅丸方形	1.60	1.53	57	N－82°－W	近　世
〃	SK82	〃	隅丸方形	1.90	1.80	18	N－14°－E	―
〃	SK83a	〃	楕円形か	1.80	（1.68）	51	N－3°－E	―
〃	SK83b	〃	隅丸方形か	（1.41）	（1.17）	12	N－55°－W	―

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
9－3区	SK84	R2	隅丸方形	1.96	1.90	45	N－82°－W	近　世
〃	SK85	〃	隅丸方形か	3.69	（1.05）	47	N－81°－W	—
〃	SK86	〃	円形か	1.72	1.68	69	—	近　世
〃	SK87	〃	隅丸方形	1.86	1.78	40	N－4°－W	近　世
〃	SK88	〃	隅丸方形	1.53	1.12	17	N－85°－W	—
〃	SK89	〃	長方形	1.35	0.64	23	N－84°－E	—
〃	SK90	〃	楕円形	1.35	1.27	10	N－8°－E	—
〃	SK91	〃	隅丸方形	1.08	（0.77）	28	N－24°－W	—
〃	SK92	〃	隅丸方形	1.20	0.80	20	N－88°－E	—
〃	SK93	〃	隅丸方形か	（1.74）	（0.23）	18	N－80°－W	—
〃	SK94	〃	隅丸方形か	（1.51）	（0.27）	19	N－68°－W	—
〃	SK95	〃	不整楕円形	0.96	0.79	4	N－11°－E	中世後期
〃	SK96	〃	隅丸方形	1.75	1.58	35	N－88°－W	近　世
〃	SK97	〃	円形か	（1.55）	（1.04）	5	—	—
〃	SK98	〃	隅丸長方形	1.05	0.57	53	N－87°－E	—
〃	SK99	〃	隅丸長方形	（0.70）	0.78	5	N－23°－E	—
〃	SK100	〃	隅丸方形	（1.12）	（0.74）	37	N－75°－E	—
〃	SK101	〃	楕円形	（0.48）	0.66	29	N－11°－W	—
〃	SK102	〃	楕円形	0.75	0.57	60	N－59°－W	中世後期
〃	SK103	〃	円形か	1.30	（0.52）	53	—	近　世
〃	SK104	—	—	—	—	—	—	欠　番
〃	SK105	R2	隅丸方形	（1.34）	1.13	20	N－48°－E	—
10－2区	SK1	〃	楕円形	0.99	0.80	13	N－9°－W	—
〃	SK2	〃	隅丸方形	0.83	（0.72）	24	N－88°－E	—
〃	SK3	〃	楕円形	0.74	0.60	14	N－12°－E	—
〃	SK4	〃	不整形	（1.09）	（0.57）	15	N－56°－W	—
〃	SK5	〃	円形	（0.86）	—	24	—	—
〃	SK6	〃	隅丸長方形か	（2.98）	0.73	9～13	N－78°－E	—

SK計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
10－2区	SK7	R2	隅丸長方形	1.22	(0.58)	14	N－46°－E	－
〃	SK8	－	－	－	－	－	－	欠　番
〃	SK9	R2	楕円形	(1.01)	(1.09)	25	N－18°－W	－
〃	SK10	〃	楕円形	0.82	0.57	14	N－40°－E	－
〃	SK11	〃	－	(4.68)	(2.98)	57	－	中世後期
10－3区	SK12	〃	不整方形	0.82	0.75	10	N－1°－W	－
〃	SK13	〃	隅丸長方形	3.45	1.29	40	N－2°－E	－
〃	SK14	〃	隅丸方形か	(2.77)	(1.13)	10	N－85°－W	－
〃	SK15	〃	台形	1.00	0.30・0.64	10	N－7°－E	－
〃	SK16	〃	方形	1.35	－	13	N－21°－E	－
〃	SK17	〃	不整隅丸方形	1.57	1.39	16	N－5°－E	－
〃	SK18	〃	円形	0.70	0.66	30	－	－
〃	SK19	〃	楕円形	(2.50)	1.22	25	N－43°－E	－
〃	SK20	〃	楕円形	1.10	0.75	19	N－74°－W	－
〃	SK21	〃	楕円形か	(1.38)	(0.88)	15	N－16°－E	－
〃	SK22	〃	方形	1.23	(1.00)	13	N－16°－E	－
10－1区	SK101	〃	不整円形	1.33	1.10	26	N－29°－W	－
〃	SK102	〃	楕円形	(0.43)	(0.23)	3	N－81°－W	－
〃	SK103	〃	不整長方形	2.61	1.44	30	N－55°－W	中世後期
〃	SK104	〃	楕円形	(0.80)	(0.47)	16	N－79°－W	－
〃	SK105	〃	不整長方形か	(3.27)	2.58～3.45	10～20	N－70°－W	－
〃	SK106	〃	不整楕円形	2.42	2.27	15	N－64°－E	－
〃	SK107	〃	楕円形か	(0.61)	(0.58)	27	N－82°－W	－
〃	SK108	〃	不整形	(0.48)	0.31～(0.50)	10	N－71°－E	－
〃	SK109	〃	楕円形か	(0.54)	(0.52)	33	N－31°－W	－
〃	SK110	〃	楕円形か	(0.47)	(0.16)	28	N－26°－W	－
11－2区	SK1	R1	隅丸長方形	1.00	0.56	15	N－75°－W	－
〃	SK2	〃	楕円形	1.41	0.67	27	N－51°－W	－

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
11－2区	SK3	R1	楕円形	1.23	0.77	11	N－38°－W	—
〃	SK4	〃	楕円形	0.83	0.67	3	N－78°－W	—
〃	SK5	〃	楕円形	1.40	0.68	14	N－89°－W	—
〃	SK6	〃	楕円形	（1.28）	1.08	8	N－6°－E	—
〃	SK7	〃	隅丸方形	（1.75）	1.92	17～33	N－6°－E	—
〃	SK8	〃	楕円形	（0.59）	（0.49）	51	N－1°－E	—
〃	SK9	〃	隅丸方形	2.31	（1.90）	18～33	N－89°－W	—
〃	SK10	〃	隅丸方形	1.38	1.02	10	N－28°－E	—
〃	SK11	〃	楕円形	0.92	0.58	10	N－31°－E	—
〃	SK12	〃	不整隅丸方形	1.36	1.16	9	N－60°－W	—
〃	SK13	〃	隅丸方形	0.70	（0.55）	9	N－39°－W	—
〃	SK14	〃	楕円形か	（1.58）	（0.68）	15	N－35°－E	—
〃	SK15	〃	楕円形	1.90	0.70～0.87	16	N－68°－W	—
〃	SK16	〃	楕円形か	（1.33）	（0.39）	25	N－17°－W	—
〃	SK17	〃	不整隅丸方形か	（2.13）	1.69	10～15	N－37°－E	—
〃	SK18	〃	隅丸方形	（2.68）	1.17	13	N－11°－E	—
〃	SK19	—	—	—	—	—	—	欠　番
〃	SK20	R2	隅丸方形	1.07	0.97	16	N－79°－W	近　世
〃	SK21	〃	隅丸長方形	0.90	0.78	10	N－65°－W	近　世
〃	SK22	〃	楕円形	1.11	0.93	18	N－87°－E	近　世
〃	SK23	〃	隅丸長方形	1.75	0.98	18	N－85°－W	近　世
〃	SK24	〃	隅丸長方形	2.62	1.47	55	N－84°－W	近　世
〃	SK25	〃	楕円形	0.57	0.33	9	N－88°－W	—
〃	SK26	〃	不整楕円形	2.51	1.08	22	N－71°－E	—
〃	SK27	〃	不整長方形	3.11	（1.32）	79	N－11°－E	近　世
〃	SK28	〃	楕円形	1.91	1.77	2m	—	近　世
〃	SK29	〃	不整形	2.07	1.92	10	N－81°－W	—
〃	SK30	—	—	—	—	—	—	欠　番

SK計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
11－3区	SK31	R2	－	－	－	－	－	－
〃	SK32	〃	－	－	－	－	N－9°－E	－
〃	SK33	〃	隅丸方形	（1.34）	（1.00）	21	N－6°－E	－
〃	SK34	〃	隅丸方形	1.49	1.15	113	N－18°－E	近　世
〃	SK35	〃	隅丸長方形	2.01	0.61	95	N－17°－E	近　世
〃	SK36	〃	隅丸方形	1.25	0.89	104	N－12°－E	近　世
〃	SK37	〃	楕円形	0.45	（0.41）	11	N－45°－W	－
〃	SK38	〃	隅丸長方形	1.92	0.67	54	N－18°－E	近　世
〃	SK39	〃	楕円形	（0.92）	0.91	21	N－12°－W	古　代
11－1区	SK40	〃	不整形	1.62	（0.65）	16	N－0°	－
11－1区	SK41	〃	隅丸方形	1.04	0.89	51	N－80°－E	－
11－1区	SK42	〃	隅丸方形	1.25	1.02	42	N－3°－E	近　世
11－1区	SK43	〃	長方形	2.16	0.80	74	N－11°－E	近　世
11－1区	SK44	〃	隅丸方形	1.10	0.81	42	N－1°－W	近　世
11－1区	SK45	〃	隅丸方形	1.11	0.89	73	N－2°－W	近　世
11－1区	SK46	〃	楕円形か	（1.52）	1.63	23	N－13°－W	－
11－1区	SK47	〃	不整長方形	0.93	0.73	16	N－8°－E	中世後期
11－1区	SK48	〃	不整形	（3.25）	（2.13）	1～8	N－14°－E	－
11－1区	SK49	〃	溝状	－	－	6～11	N－83°－W N－14°－E	－
11－1区	SK50	〃	隅丸方形	1.52	0.98	9	N－15°－W	－
11－1区	SK51	〃	不整形	（2.65）	1.36	58	N－27°－W	－
11－1区	SK52	〃	長方形	0.91	0.70	21	N－6°－W	古　代
11－1区	SK53	〃	楕円形	0.58	0.48	20	N－88°－W	－
11－1区	SK54	〃	不整楕円形	1.85	（1.28）	36～51	N－36°－E	中世後期
11－1区	SK55	〃	溝状？	（2.21）	（0.41）	28	N－84°－W	－
11－1区	SK56	〃	溝状	（4.30）	0.85	29	N－23°－E	－
11－1区	SK57	〃	隅丸方形	0.70	（0.52）	12	N－73°－W	－
11－3区	SK40	〃	楕円形	0.89	0.74	26	N－74°－W	－

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
11－3区	SK41	R2	楕円形か	(0.83)	0.62	15	N－29°－E	－
11－3区	SK42	〃	隅丸方形	0.90	0.82	25	N－48°－W	－
11－3区	SK43	〃	長方形か	(2.11)	1.71	2～24	N－8°－E	－
11－3区	SK44	〃	不整楕円形	2.36	1.98	25	N－83°－E	－
11－3区	SK45	〃	不整楕円形	1.29	(0.59)	27	N－81°－E	－
11－3区	SK46	〃	楕円形	0.90	0.55	15	N－79°－E	－
11－3区	SK47	〃	楕円形	0.74	0.62	23	N－70°－E	－
11－3区	SK48	〃	不整隅丸方形	(1.48)	1.51	18	N－9°－E	－
11－3区	SK49	〃	方形か	(0.52)	(1.36)	35	N－24°－E	－
11－3区	SK50	〃	楕円形	1.05	0.60	14	N－81°－E	－
11－3区	SK51	〃	不整長方形	(1.43)	(0.41)	15	N－20°－E	－
11－3区	SK52	〃	隅丸方形か	(1.11)	(0.57)	25	N－78°－W	－
11－3区	SK53	〃	楕円形	0.95	(0.57)	27	N－72°－W	－
11－3区	SK54	〃	楕円形	1.32	1.21	47	N－48°－E	－
11－3区	SK55	〃	楕円形か	(0.66)	(0.55)	21	N－29°－E	－
11－3区	SK56	〃	隅丸方形	(0.93)	0.71	15	N－9°－W	－
11－3区	SK57	〃	楕円形	0.80	(0.63)	15	N－71°－W	－
11－3区	SK58	〃	楕円形	0.99	0.79	31	N－33°－E	－
11－3区	SK59	〃	隅丸方形か	0.58	(0.32)	8	N－1°－E	－
11－3区	SK60	〃	不整楕円形	(0.53)	0.45	11	N－62°－W	－
11－3区	ハンダ土杭	〃	隅丸長方形	1.34	0.80	22	N－72°－W	近　世

表13　SG計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
4区	SG1	R1	不整円形	0.73	(0.34)	29	N－1°－E	弥生時代後期後葉
〃	SG2	〃	不整円形	0.67	(0.61)	19	N－62°－E	弥生時代後期末
9－3区	SG1	R2	不整円形	0.90	0.89	53	N－86°－E	弥生時代後期末

SE・SX計測表

表14　SE計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（m）	
4区	SE1	R1	不整円形	1.75	1.58	2.61	古　代
8－1区	SE1	H30	不整円形	5.01	(3.44)	2.62	古　代
〃	SE2	〃	円形	1.21	(0.73)	2.02	近　世
9－2区	SE2	〃	不整円形	4.07	3.69	3.22	中世後期
10－1区	SE11	R2	不整円形	3.40	－	(2.55)	近　世
11－2区	SE1	R1	円形	1.68	1.67	2.25	近　世
〃	SE1	R2	不整方形	1.62	1.61	(0.80)	－
11－3区	SE1	〃	不整円形	3.44	(2.83)	2.50	古　代
〃	SE2	〃	楕円形	4.61	(3.57)	2.35	古　代

表15　SX計測表

調査区名	遺構番号	調査年度	平面形	規　模			主軸方向	時期等
				長軸（m）	短軸（m）	深さ（cm）		
4区	SX1	R2	隅丸方形	(3.46)	(1.84)	4～18	N－18°－E	－
8－1区	SX1	H30	不整形	2.76	(2.25)	19	N－87°－E	－
8－2区	SX2	R2	溝状	(4.42)	0.71～1.32	7～42	N－6°－E	近　世
10－3区	SX1	〃	溝状	1.12	0.25	2	N－4°－E	－
〃	SX2	〃	溝状	1.48	0.41	4	N－4°－E	－
〃	SX3	〃	溝状	1.99	0.13～0.22	1	N－4°－E	－
〃	SX4	－	－	－	－	－	－	欠　番
10－1区	SX11	R2	円形	3.60	－	85	－	近　世
〃	SX12	〃	不整形	(3.28)	(0.78)	7～11	N－16°－E	－
11－2区	SX1	R1	不整長方形	4.01	2.64	9	N－18°－E	－
〃	SX1	R2	溝状	3.95	1.48	2～10	N－76°－W N－8°－E	－
〃	SX2	〃	溝状	(2.97)	0.49	13	N－85°－W	－
〃	SX3	〃	溝状	5.07	0.58～0.95	4	N－85°－W	－

遺物観察表

凡例

器種：以下のように略記した。

弥生	弥生土器
ミニ	ミニチュア土器
土師	土師器
土質	土師質土器
須恵	須恵器
黒色	黒色土器
緑釉	緑釉陶器
瓦質	瓦質土器

器形：以下のように略記した。

柱高	柱状高台

法量：(　)内は残存値。

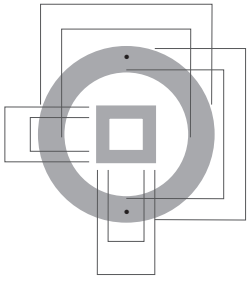
色調：標準土色帖を使用した。

調整：弥生土器については，部位：外面／内面で表記した。

特徴：

黒斑	黒斑あり。
被熱	被熱変色する。
キレツ	器面に亀裂がみられる。
煤	煤が付着する。
おこげ	おこげが付着する。
指圧	指頭圧痕がみられる。

銭貨の計測は以下の部位で行った。



図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図9 1	4区	ST1	弥生 壺	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	褐灰色 10YR4/1	21.2	(2.0)	−	−	口唇，下方に拡張，面取り。口縁：ハケ / ハケ。被熱。
2	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/8	灰黄褐色 10YR5/2	−	(2.7)	−	−	口縁，内湾気味にひらく。4条1単位の櫛描波状文。口縁：ナデか / ヨコナデ・ハケ。
3	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 7.5YR6/1	14.7	(4.4)	−	−	口縁，内湾気味に立ち上がる。口縁：粗いハケ / ヘラナデ・粗いハケ。突帯。
4	〃	〃	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	21.8	(11.9)	−	−	緩やかな「く」。口縁：叩き後ハケ / ハケ。体部：叩き後ハケ / ナデ・ハケ。黒斑。
5	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰白色 10YR8/1	14.1	(7.2)	−	−	「く」。口唇，面取り。口縁：叩き後ハケ / ハケ。体部：叩き / ハケ・指圧。被熱。
6	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	15.6	(7.0)	−	−	「く」。口縁：ナデ / ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。口頸部外面・肩部内面，接合痕。被熱。煤。
7	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	15.2	(4.6)	−	−	緩やかな「く」。口唇，面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ナデ / ナデ。
8	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR6/3	灰黄褐色 10YR5/2	黄灰色 2.5Y5/1	−	(3.2)	−	−	緩やかな「く」。上方へ拡張。口縁：ヨコナデ / ヨコナデ・ナデ。被熱。煤。
9	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	−	(3.0)	−	−	「く」。上方へ拡張，内傾。口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。肩：ヨコナデ / ケズリ。搬入品（山陰系か）。
10	〃	〃	〃 底部	褐灰色 10YR4/1	浅黄橙色 7.5YR8/4	褐灰色 10YR4/1	−	(5.4)	−	5.4	角の取れた平底。外底面，ハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ後ナデ・ヘラナデ。黒斑。
11	〃	〃	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	−	(5.0)	−	10.0	角の取れた平底，円盤状。外底面，ハケ。体部：ハケ / ハケ後ナデ。
12	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰黄褐色 10YR5/2	−	(12.0)	−	4.5	丸底。外底面，叩き後ハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ。黒斑。被熱。煤。
13	〃	〃	〃 〃	褐灰色 10YR6/1	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	−	(10.5)	−	2.8	角の取れた平底。外底面，叩き後ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。被熱。煤。
14	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	−	(6.3)	−	3.6	平底。外底面，叩き後ナデ。体部：叩き後ハケ / ナデ。黒斑。
15	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y7/1	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	−	(3.5)	−	−	丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ハケ / ナデ。黒斑。
16	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	10.7	5.6	−	1.4	平底。外底面，ナデ。体部：ナデ / ハケ。キレツ。
17	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	14.3	7.7	−	−	角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：ナデ / ハケ後ナデ。黒斑。被熱。煤。
18	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	22.1	7.3	−	−	丸底。外底面，ナデ後ミガキ。体部：粗いハケ後ナデ・ミガキ / ハケ後ミガキ。被熱。煤。
19	〃	〃	〃 高杯	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	16.0	(3.0)	−	−	口唇，面取り。摩耗，調整不明。
図10 20	〃	〃	須恵 蓋	褐灰色 10YR6/1	灰色 N6/0	灰黄褐色 10YR6/2	15.0	1.7	−	摘み径 2.6	内外面，回転ナデ。天井，回転ヘラケズリか。天井部外面にヘラ記号か。自然釉が付着。
21	〃	〃	土質 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	8.2	1.7	−	4.4	内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。外底面，回転糸切り痕。歪む。
22	〃	〃	〃 杯	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/4	黒色 N2/0	14.4	4.0	−	6.8	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
23	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	14.6	4.4	−	7.8	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
24	〃	〃	緑釉 皿	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	−	(1.4)	−	6.4	内外面，回転ナデ。内底縁，弱い凹み。黄緑色の釉薬。全面，施釉。ピンホール状。
25	〃	〃	製塩 土器	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	黄灰色 2.5Y5/1	6.2	(4.9)	−	−	口縁，直立し，端部は僅かに内傾。口唇，丸くおさめる。外面，ナデ。内面，布目圧痕。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図12 26	4区	ST2	弥生壺	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	－	(3.1)	－	－	口縁，外上方へ緩やかに屈曲しながらのびる。口縁：ヨコナデ／ヨコナデ。被熱赤変。搬入品か。
27	〃	〃	〃 鉢	褐灰色 10YR4/1	褐灰色 10YR4/1	にぶい黄橙色 10YR4/3	6.3	6.9	－	2.1	外反口縁。口唇，尖らせる。丸みを帯びた平底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ。被熱。搬入品か。
28	〃	〃	〃 〃	赤橙色 10R6/6	橙色 2.5YR6/6	赤橙色 10R6/6	9.2	8.4	－	1.3	角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ナデ。キレツ。歪む。
29	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.8	(7.6)	－	2.7	丸底か。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。外面，はじける。黒斑。被熱。
30	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR4/2	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	11.7	(8.1)	－	－	外反口縁。口縁：叩き後ナデ／ハケ。丸底。外底面，ハケ。体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。廃棄後被熱。
31	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	13.0	7.3	－	2.2	角の取れた平底。外底面，片側を押し潰す。叩きか。体部：叩き後ナデ／ハケ，ハケ後ナデ。キレツ。被熱。ほぼ完存。
32	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	24.4	8.3	－	3.4	口唇，摘み上げ。丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ハケ／ハケ。被熱。
34	〃	〃	ミニ	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	3.6	3.7	－	－	鉢形。口縁，僅かに外反。手捏ね成形。口縁内面，ヘラナデ。
35	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 5YR7/6	－	(6.5)	－	2.5	甕形か。体部：ナデ／ナデ。底部，角の取れた平底。外底面，ナデ。キレツ。被熱。煤。
36	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	4.5	9.1	－	1.1	壺形。頸部，直立気味。体部，球形。丸底。頸部：ナデ／ハケ。体部：ハケ後ナデ／ハケ。煤。
図14 38	〃	ST3	弥生壺	黄灰色 2.5Y5/1	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.1	24.0	19.7	3.9	口唇，面取り。丸みを帯びた平底。外底面，ナデ。口縁：叩き後ナデ／ハケ。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。煤。
39	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/8	19.4	(2.1)	－	－	口縁，大きくひらく。口唇，ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコナデ・ハケ／ヨコナデか。摩耗。
40	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	20.2	(3.6)	－	－	口唇，面取り，下方に拡張。7～8条1単位の櫛描波状文。口縁：ヨコナデ・ハケ／ハケ。
41	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 7.5YR5/1	20.8	(1.8)	－	－	口縁，大きくひらく。口唇，下方に摘み出す。口縁：ハケ／ナデ。やや摩耗。
42	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	黒色 7.5YR2/1	20.1	(2.5)	－	－	口唇，面取り，上下に拡張。櫛描波状文を上下に配置。口縁：ヨコナデ・ハケ／ヨコナデ・ハケ。
43	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR5/1	－	(7.4)	－	－	口縁，大きくひらく。口唇に剥離痕跡あり。口縁：ハケ／ハケ。刻み目・刻目突帯。黒斑。
44	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR7/4	橙色 7.5YR6/6	オリーブ黒色 5Y2/2	－	(2.8)	－	－	口縁，屈曲部を持ち外上方にのびる。口縁：ヨコナデ／ヨコナデ。高杯か。
45	〃	〃	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	15.0	(19.5)	15.9	－	「く」。口縁：ハケ・ナデ／ハケ。体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。肩内接合痕。被熱。煤。
46	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	明褐灰色 7.5YR7/2	12.9	(9.0)	－	－	「く」。口唇，ルーズな面取り。口縁：叩き後ナデ／ハケ。体部：叩き後ハケ・ナデ／ナデ。煤。
47	〃	〃	〃 体部片	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	－	(3.0)	－	－	体部：ナデ／ナデ。線刻か。
48	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	橙色 5YR7/8	浅黄橙色 7.5YR8/6	－	(5.6)	－	－	体部：ナデ／ナデ。線刻か。摩耗。
49	〃	ST3_P5	〃 底部	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	灰褐色 7.5YR4/2	－	(2.8)	－	8.6	平底。外底面，ナデ。体部：ハケ／ヘラナデ。黒斑。
50	〃	ST3	〃 鉢	浅黄橙色 10YR8/4	にぶい黄橙色 10YR6/3	褐灰色 10YR5/1	11.0	2.0	－	6.2	皿状。口唇，尖らせる。体部：ナデ／ナデ。外面，弱い指圧。
51	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰色 N4/0	－	1.7	－	－	体部：ナデ／ナデ。
52	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR5/2	10.4	(8.7)	－	－	深い器形。口唇，尖らせる。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。黒斑。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図14 53	4区	ST3	弥生鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y6/1	13.1	(7.4)	－	－	口縁，短く外反。口縁：ナデ／ハケ。体部：ハケ／ハケ。
54	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	13.6	6.8	－	－	体部，半球形。丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ。黒斑。
55	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	灰色 5Y5/1	13.8	5.8	－	2.6	体部，内湾。ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。
56	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	14.2	4.9	－	3.2	角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：ナデ／ハケ・ナデ。キレツ。被熱。
57	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	15.3	(7.7)	－	－	外反口縁。口唇，ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後ヨコナデ／ハケ。体部：叩き後ナデ／ハケ。黒斑。
58	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR5/1	15.6	9.2	－	3.4	体部，内湾気味。円盤状の平底。外底面，何かの圧痕。体部：叩き後ナデ／ハケ。歪む。黒斑。
59	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR5/1	15.8	10.2	－	－	外反口縁。口縁：叩き後ナデ／ハケ。丸底。外底面，強いナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ。キレツ。黒斑。
60	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	19.7	8.8	－	4.6	体部，杯状。丸みを帯びた平底。外底面，ナデ。葉脈痕。体部：叩き後ハケ・ナデ／ハケ。キレツ。歪む。黒斑。被熱。
61	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	17.5	(6.1)	－	－	体部：叩き後ナデ／ナデか。やや摩耗。
図15 62	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	20.6	(6.1)	－	－	体部，内湾気味。体部：ナデ／ナデ。
63	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	暗灰黄色 2.5Y5/2	25.8	(6.4)	－	－	外反口縁。口縁：叩き後ナデ／ヨコナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ。口縁外面，爪状圧痕。
64	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(7.0)	－	－	外反口縁。口唇，尖らせる。注口あり。口縁：叩き後ハケ・ナデ／ナデか。体部：叩き後ナデ／ナデか。
65	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	－	(7.1)	－	2.1	丸底。外底面，ハケ。体部：叩き後ハケ／ハケ。黒斑。
66	〃	〃	〃 器台	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	－	(2.0)	－	－	口縁：ヨコナデ／ヨコナデ。沈線文・竹管文・櫛描波状文。
67	〃	〃	ミニ	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	－	(7.2)	7.0	1.5	甕形か。体部：ハケ／ナデ。平底。外底面，ナデ。肩内接合痕。
68	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR7/4	褐灰色 10YR4/1	5.6	(1.6)	－	－	鉢形。手捏ね。黒斑。
69	〃	〃	土師皿	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(3.3)	－	－	折り曲げ口縁。内外面，回転ナデ後ミガキ。
図17 72	〃	ST4	弥生壺	橙色 5YR6/6	橙色 2.5YR6/8	灰色 7.5Y6/1	12.6	(4.6)	－	－	口縁，緩やかに外反。口唇，面取り。頸部：タテハケ／ナデ。接合面で剥離。
73	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	16.0	(5.1)	－	－	口縁，緩やかに外反。口唇，面取り。頸部：タテハケ／ハケ・ヨコナデ。
74	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	17.0	(5.2)	－	－	口縁，大きく外反。口唇，凹面状。口縁：ナデ／ヘラナデ。頸部：タテミガキ／ナデ。
75	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	褐灰色 7.5YR5/1	－	(2.0)	－	－	口縁，拡張し，上面と下面に５条１単位の櫛描波状文をそれぞれ１単位。ミガキ／ヨコナデ後ミガキ。
76	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 7.5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	17.7	(10.2)	－	－	二重口縁壺。一次口縁：ハケ／ミガキ・ハケ・ナデ。二次口縁：ハケ後ミガキ／ナデ。体部：ハケ／ケズリ。黒斑。
77	〃	ST4_P5	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	－	(14.9)	17.9	－	体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。内面接合痕。黒斑。
78	〃	〃	〃 〃	褐灰色 10YR4/1	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	－	(13.8)	22.0	－	体部，球形。体部：ハケ／ハケ・ナデ。黒斑。
79	〃	ST4	〃 〃	黄灰色 2.5Y5/1	橙色 7.5YR6/6	灰白色 10YR8/2	－	(16.1)	23.3	－	体部，球形。体部：叩き後ハケ・ミガキ／ハケ。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図17 80	4区	ST4	弥生 底部	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR5/1	－	(8.7)	－	4.0	角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：ヘラナデ／ナデ。内底面，指圧。接合面で剥離。
81	〃	〃	〃 〃	暗灰色 N3/0	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	－	(11.3)	－	5.0	ほぼ丸底。外底面，叩き後ナデ。体部：叩き後タテハケ／ヘラナデ。内底面，ナデ，僅かに凹凸あり。接合痕。煤。
82	〃	〃	〃 壺	にぶい黄橙色 10YR7/2	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(33.9)	32.1	8.4	平底。底部と体部の境，比較的明瞭な稜。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ・ミガキ／ナデ。黒斑。
83	〃	〃	〃 甕	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	明赤褐色 5YR5/6	14.2	(4.1)	－	－	「く」。口縁：叩き後ナデ／粗いヨコハケ。体部：叩き後粗いハケ／ナデ。
84	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	17.4	(6.3)	－	－	「く」。口唇上端，摘み上げ。口唇下端，摘み出し。口縁：ヨコナデ／ヨコハケ。体部：ハケ／ヨコハケ。煤。
85	〃	〃	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR5/1	22.8	(5.2)	－	－	外反口縁。口唇，面取り。口縁：タテハケ／ヨコハケ。体部：タテハケ／ナデ。内面の一部，ミガキ状。
86	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	8.8	9.7	12.2	2.7	外反口縁。口縁：ヨコナデ／ナデ。角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：ミガキ・ナデか／ナデ。黒斑。
87	〃	〃	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	19.0	(2.9)	－	－	口縁，大きく外反。杯部：ナデ／ミガキ。接合面で剥離。
88	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	－	(1.7)	－	－	口縁，大きく外反。杯部：ミガキ／タテミガキ。煤。
89	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	－	(7.4)	－	－	脚部上半，中実。脚部：ナデ・タテハケ／ナデ。脚部と裾部の境に直径約6㎜の円孔。杯部は接合面で剥離。
90	〃	〃	土質 皿	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	9.2	1.6	－	5.6	口縁，浅く斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。内底面，ナデ，ロクロ目。
91	〃	〃	瓦器 皿	暗灰色 N3/0	暗灰色 N3/0	灰白色 7.5Y8/1	9.0	1.8	－	－	口縁，浅く斜め上方へひらく。口唇，丸くおさめる。口縁，ヨコナデ。内底面，摩耗。外底面，指圧。胎土，精良。
92	〃	〃	白磁 碗	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 N8/0	15.0	(1.6)	－	－	口縁，玉縁。Ⅳ類。
93	〃	ST4_ P17	土師 甕	灰褐色 7.5YR5/2	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	21.4	(2.5)	－	－	口縁，大きくひらく。口唇，摘み上げ，凹面状。口縁，ヨコナデ。
94	〃	ST4	製塩 土器	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(3.1)	－	－	外面，ナデ。内面，布目圧痕。
図19 97	〃	ST5	弥生 壺	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	灰白色 2.5Y8/2	15.5	(3.9)	－	－	口唇，摘み上げ，摘み出し。口縁：ヨコナデ／ヨコナデ・ナデ。
98	〃	〃	〃 〃	褐灰色 10YR5/1	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR5/1	11.0	(7.1)	－	－	複合口縁壺。一次口縁：ハケ／ハケ。二次口縁：／ヨコナデ。4条1単位の櫛描波状文。
99	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y6/1	14.9	(2.5)	－	－	複合口縁壺。口唇，ハケ状原体による面取り。二次口縁：ヨコナデ／ヨコナデ。5条1単位の櫛描波状文。
100	〃	〃	〃 甕	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR6/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	17.4	(14.4)	18.1	－	「く」。口縁：ナデ／。体部：叩き後ナデ／ナデ・ハケ。煤。
101	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	16.8	(5.3)	－	－	「く」。口唇，面取り，摘み上げ。口縁：叩き後ナデ／ハケ。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。被熱。
102	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	淡黄色 2.5Y8/3	－	(3.8)	－	11.2	角の取れた平底。外底面，ナデか。体部：叩き後ナデか／ナデ。摩耗。
103	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/8	橙色 5YR7/8	－	(3.9)	－	5.2	平底。外底面，叩き後ナデ。体部：叩き後ハケ／ナデ。黒斑。
104	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	－	(4.5)	－	3.8	角の取れた平底。外底面，叩き後ナデ。体部：叩き後ヘラナデ／ナデ。被熱。
105	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/4	8.2	6.9	9.5	0.8	口唇，摘み出し，面取り。ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：ハケ後ミガキ／ミガキ・ヘラナデ。黒斑。精製品。
106	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	9.6	6.8	－	1.7	角の取れた平底。外底面，ナデか。体部：叩き後ハケ／ナデ。内底面，ヘラナデ。煤。摩耗。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 19 107	4 区	ST5	弥生 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	11.8	(5.1)	−	−	体部：ナデ後ハケ / ハケ。
108	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	黄灰色 2.5Y5/1	12.9	3.8	−	3.3	口唇，面取り。ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：ナデ / ハケ・ナデ。キレツ。
109	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	13.4	6.7	−	2.5	半球形。角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：ナデ / ハケ。キレツ。やや歪む。ほぼ完存。
110	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	−	(3.4)	−	2.2	丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ / 粗いハケ。
111	〃	〃	〃 高杯	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/8	にぶい黄橙色 10YR7/4	−	(3.5)	−	−	焼成前円孔。裾部：ミガキ / ハケ・ナデ。
112	〃	〃	土質 皿	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	7.6	1.7	−	4.5	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。内底面，ナデ，ヘソ状。被熱。煤。
図 22 113	〃	ST7	弥生 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	−	(2.3)	−	−	口縁，大きく外反。口唇，凹面状，刻み目。口縁：ヨコナデ・ハケ / ヨコナデ。
114	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	褐灰色 10YR5/1	11.6	(4.7)	−	−	口縁，外反。口唇，丸みを持った面をなす。口縁：タテハケ後ヨコナデ / ハケ。体部：/ ハケ。
115	〃	〃	〃 〃	褐灰色 7.5YR5/1	褐灰色 10YR4/1	黄灰色 2.5Y4/1	15.1	(3.9)	−	−	複合口縁壺。直立する二次口縁を付す。一次口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。二次口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。被熱。
116	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR5/1	17.2	(8.3)	−	−	複合口縁壺。一次口縁：ハケ / ナデ。二次口縁：ヨコナデ。口唇，面取り。波状文。刻み目突帯。煤。
117	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	明赤褐色 2.5YR5/6	褐灰色 10YR4/1	−	(19.1)	23.0	−	体部，球形。体部：叩き後ハケ / ハケ・ナデ。黒斑。
118	〃	ST7_ P1	〃 甕	橙色 5YR6/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	橙色 5YR6/6	13.1	(3.5)	−	−	「く」。口唇，面取り。口縁：タテハケ / ハケ。体部：タテハケ / ハケ。煤。
119	〃	ST7	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR4/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	14.6	(4.5)	−	−	「く」。口唇，ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後ハケ / ハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ。被熱。
120	〃	〃	〃 体部片	橙色 5YR7/8	橙色 5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	−	(3.1)	−	−	ハケ / ナデ。焼成後線刻か。
121	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y6/1	−	−	−	−	ナデ / ナデ。焼成前線刻あり。被熱か。
122	〃	〃	〃 底部	褐灰色 7.5YR4/1	黒褐色 7.5YR3/1	褐色 7.5YR4/3	−	(1.9)	−	4.8	丸底。外底面，ミガキ。体部：ミガキ / ケズリ後ナデ。おこげ。煤か。讃岐からの搬入品。
123	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/8	8.3	(2.3)	−	−	体部，皿状。口縁：ヨコナデ / ヨコハケ。体部：ナデ / ナデ。胎土，精良。
124	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR6/4	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR6/2	7.8	(5.6)	−	−	体部，内湾。口唇，尖らせ気味。体部：ハケ・ナデ，一部はミガキ状 / ハケ後ミガキ。
125	〃	ST7_ SK1	〃 〃	橙色 5YR7/8	黄橙色 7.5YR8/8	橙色 5YR7/6	11.7	6.5	−	2.2	体部，深め。平底。体部：叩き後ナデ・ケズリ / ハケ。黒斑。やや摩耗。
126	〃	ST7	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.0	6.1	−	0.7	体部，半球形。ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：ハケ後ナデ / ハケ・ナデ。黒斑。
127	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	19.2	6.6	−	−	体部，杯状。口唇，ルーズな面取り。丸底。外底面，ハケ。体部：ハケ・ナデ / ハケ。黒斑。
128	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	18.0	(8.0)	−	−	体部，半球形。口唇，ルーズな面取り。丸底。外底面，叩き後ハケ。体部：叩き後ナデ / ハケ。被熱。
129	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	19.1	8.1	−	5.7	体部，杯状。角の取れた平底。外底面，ナデ，葉脈痕。体部：叩き後ナデ / ナデ，一部はミガキ状。黒斑。煤。
130	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	−	(1.8)	−	−	口唇，ハケ状原体による面取り。体部：タテミガキ / ヨコナデ・ハケ。
131	〃	ST7_ P1	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	−	(4.9)	−	−	体部，半球形。丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。黒斑。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図22 132	4区	ST7	弥生 鉢	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR5/4	－	(6.9)	9.5	－	体部，深い。丸底。外底面，ナデ。体部：ハケ／ハケ後ナデ。被熱。
133	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	－	(6.3)	－	－	体部，深い。丸底。体部：ナデ／ナデ・指圧。内面，幅1.3cmの接合痕。被熱。
134	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR6/2	－	(4.6)	－	－	体部，半球形。丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ハケ／ハケ。
135	〃	ST7_ SK1	〃 〃	褐灰色 7.5YR5/1	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR6/1	－	(7.6)	7.7	1.5	体部，球形。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。被熱。
136	〃	ST7	〃 合子	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.8	5.4	－	11.2	器高の低い円柱状。平底。外底面，ハケ後ミガキ。体部：ハケ後ミガキ／ミガキ。体部，直径2mmの円孔。
137	〃	〃	〃 高杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	－	(1.8)	－	－	杯部：放射状のミガキ／放射状のミガキ。丁寧なつくり。
138	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	－	(5.8)	－	－	分割成形。杯部：／ミガキか。脚部：ミガキ／ナデ。摩耗。
図25 143	〃	ST8	〃 壺	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	オリーブ黒色 5Y3/1	14.0	(5.2)	－	－	緩やかな「く」。口唇，面取り。口縁：ヨコナデ／ヨコハケ。体部：ハケ後ミガキ／ナデ。
144	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	17.6	(15.4)	20.7	－	口縁，外反。口唇，下方へ拡張，雑な刻み目。頸部：タテハケ／ハケ・ナデ。体部：叩き後ハケ・ナデ／ナデ。
145	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	20.3	(18.3)	23.4	－	頸部：叩き後ヘラナデ／ヘラナデ。体部：叩き後ヘラナデ・ナデ／ヘラナデ・ナデ。内面，爪圧痕。
146	〃	〃	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR5/1	13.4	(10.9)	16.5	－	「く」。口縁：叩き後ナデ／ヨコナデ・ヨコハケ。体部：叩き後タテハケ／ナデ。被熱。煤。
147	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	褐灰色 7.5YR4/1	－	(14.2)	－	7.0	角の取れた平底。外底面，叩き後ナデ。体部：叩き後ナデ／ナデ。
148	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	－	(4.9)	－	－	丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ナデ。内底面，爪圧痕・指圧。
149	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/4	17.8	8.4	－	3.8	体部，半球形。ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：ナデ／ナデ。キレツ。内外面，爪圧痕。
150	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR7/8	褐灰色 5YR4/1	18.4	(4.2)	－	－	外反口縁。口唇，ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコナデ／ヨコナデ。体部：叩き後ナデ・一部ハケ／ハケ。
151	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	－	(4.3)	－	－	体部，半球形。丸底。外底面，ナデか。体部：ナデか／ナデか。内面，爪圧痕。摩耗。
152	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	橙色 7.5YR6/6	黄灰色 2.5Y5/1	－	(6.0)	－	4.2	平底。外底面，ナデ。体部：ナデ／ナデ。内面，爪圧痕。キレツ。黒斑。
153	〃	〃	〃 高杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	－	(2.7)	－	－	低脚高杯か。口縁，内湾気味。口縁：ヨコナデ・ヨコハケ／ヨコナデ・ナデ後タテミガキ。
154	〃	〃	須恵 蓋	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 10YR5/1	－	(1.3)	－	－	口縁端部，僅かに下垂。内外面，回転ナデ。焼成不良。
155	〃	〃	土師 甕	橙色 7.5YR6/8	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	20.9	(2.2)	－	－	口縁，直線的に外反。口唇，僅かに凹面状。口縁外面，タテハケ，一部はミガキ状，工具痕。内面，ヨコナデ。
図27 156	〃	ST9	弥生 壺	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	灰黄色 2.5Y6/2	11.7	(6.9)	－	－	口縁，内湾。口唇，面取り。口縁：ハケ／ハケ。体部：ハケ／ナデ。被熱。
157	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	橙色 5YR6/6	12.2	(4.8)	－	－	複合口縁壺。僅かに内傾する二次口縁を付す。一次口縁：ハケ／ヨコハケ。二次口縁：ヨコハケ。搬入品か。
158	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/4	灰色 N4/0	17.3	(4.8)	－	－	複合口縁壺。僅かに内傾する二次口縁を付す。二次口縁：／ヨコナデ。キレツ。摩耗。
159	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	褐灰色 7.5YR6/1	－	(1.0)	－	－	口縁，大きくひらく。口縁：ヨコナデ／ナデか。押し引きによる列点文。摩耗。
160	〃	〃	〃 〃	黄橙色 7.5YR8/8	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	7.7	(3.7)	－	－	直立気味の頸部から口縁部は短く外反。摩耗。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 27 161	4 区	ST9	弥生 甕	橙色 5YR7/8	橙色 5YR6/6	褐灰色 5YR5/1	16.9	(11.9)	22.0	−	「く」。口唇，ルーズな面取り。口縁：叩き後ハケ・ナデ / ハケ。体部：叩き後タテハケ / ナデ。煤。
162	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 7.5YR6/1	17.0	(22.2)	20.7	−	緩やかな「く」。口唇，面取り。口縁：叩き後ナデ / ヘラナデ。体部:叩き後ナデ/ナデ。肩内接合痕。被熱。煤。
163	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	暗灰色 N3/0	−	(15.8)	21.0	2.6	ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後タテハケ / ヘラナデ・ハケ。内底面，指圧。被熱。煤。
164	〃	〃	〃 鉢	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	灰白色 10YR8/2	8.2	8.3	8.2	3.8	体部，深い。外反口縁。角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。キレツ。黒斑。
165	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6	灰黄褐色 10YR6/2	9.3	5.4	−	3.0	体部は直線的にひろがる。角の取れた平底。外底面，未調整か。体部：ナデ / ヘラナデ。キレツ。黒斑。
166	〃	〃	〃 〃	黄橙色 7.5YR8/8	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	13.2	7.8	−	2.0	体部，半球形。丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ / ナデ。摩耗。
167	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 7.5YR6/6	褐灰色 7.5YR5/1	13.7	6.5	−	5.0	体部，半球形。口唇，尖らせる。やや上げ底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。
168	〃	ST9_ SK3	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	18.0	(2.7)	−	−	体部，浅い。体部：ヘラナデ / ハケ後ミガキか。キレツ。
169	〃	ST9	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰黄褐色 10YR6/2	橙色 5YR7/8	20.3	(3.6)	−	−	外反口縁。注口付き。口唇，ハケ状原体による面取りか。口縁：ナデ / ハケ。体部：ナデ / ナデ。被熱。
170	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	−	(4.3)	−	1.4	ほぼ丸底。外底面，ナデか。体部：叩き / ハケ・ナデ。被熱。やや摩耗。
171	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	−	(5.2)	−	−	丸底。外底面，粗いハケ。体部：叩き後ハケ / ハケ・ナデ。黒斑。
172	〃	〃	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	−	(4.1)	−	3.3	角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：ナデ / ナデ。キレツ。
173	〃	〃	ミニ	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	−	3.3	5.9	−	3.2	壺形。角の取れた平底。体部，扁球形。体部：叩き後ナデ / ナデ。
174	〃	〃	〃	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	−	(5.2)	6.0	−	壺形。体部，球形。丸底。外底面，ナデ。体部：ハケ / ナデ。被熱。摩耗。
図 33 176	〃	SB4	土質 椀	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	−	(2.1)	−	5.2	P395 出土。外底面に高台を貼付。外面，ケズリ。摩耗。
177	〃	〃	土師 皿	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	19.2	(2.5)	−	−	P395 出土。口縁，丸みを持って外上方へのびる。口縁端部，屈曲。内外面，ミガキ。胎土，精良。
図 35 178	〃	SB5	瓦器 椀	灰色 N4/0	灰色 N4/0	灰白色 2.5Y7/1	14.9	(3.5)	−	−	SK38 出土。体部，内湾気味。内外面，ミガキ。外面はヨコナデにより凹む部分にはミガキは及ばない。
179	〃	〃	須恵 甕	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	−	(12.0)	−	−	P333 出土。外面，叩き。内面，粗いハケ。自然釉，付着。
図 40 180	〃	SB9	土質 杯	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	−	(2.0)	−	6.4	P383 出土。内外面，回転ナデか。切離し手法，不明。胎土，精良。摩耗。
図 45 181	〃	SB13	須恵 蓋	灰黄褐色 10YR5/2	灰白色 10YR7/1	褐灰色 10YR6/1	−	(1.4)	−	8.0	P281 出土。内外面，回転ナデか。天井，回転ヘラ切り後ナデか。自然釉，付着。荒れる。
図 49 182	〃	SB16	土質 杯	浅黄橙色 10YR8/3	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	−	(1.4)	−	6.6	P88 出土。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕・簀状圧痕か。
図 58 183	〃	SB23	〃 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	灰白色 5Y7/1	8.8	1.8	−	5.0	P2 の柱痕跡から出土。口縁，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。被熱。灯明皿か。
184	〃	〃	土師 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	灰色 5Y6/1	12.9	1.5	−	9.6	P2 出土。口縁内面，凹む。外面，回転ナデ後ミガキ。内面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ・ミガキ。
185	〃	〃	〃 杯	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	14.3	3.2	−	8.8	P2 出土。口縁，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ後ミガキ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。摩耗。
186	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/6	赤褐色 5YR4/6	にぶい橙色 5YR7/4	−	(2.5)	−	−	P2 出土。口縁外面，ヨコナデ。内面，ヨコハケ。煤。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図58 187	4区	SB23	土師 甕	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	−	(2.3)	−	−	P7出土。口縁端部，摘み上げ。口縁外面，ヨコナデ。内面，ヨコハケ。
図62 188	〃	SB25	〃 杯	橙色 2.5YR6/6	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	橙色 2.5YR6/6	15.2	(2.3)	−	−	P99出土。摩耗のため，調整等不明。被熱。
図67 189	〃	SB28	〃 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	11.0	(1.8)	−	−	P170出土。口縁，内湾気味に外上方へ立ち上がり，端部内面，凹む。内外面，回転ナデ後ヨコミガキ。
190	〃	〃	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	−	(2.3)	−	−	P168出土。口縁内外面，ヨコナデ。
191	〃	〃	〃 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	16.9	1.8	−	13.6	P168出土。口縁内面，凹む。外面，回転ナデか。外底面，回転ヘラ切り後ミガキ。摩耗。
192	〃	〃	須恵 甕	灰色 N6/0	灰色 N6/0	黄灰色 2.5Y6/1	33.3	(2.1)	−	−	P169出土。口縁端部，下方へ拡張。口縁，内外面，回転ナデ。
193	〃	〃	弥生 壺	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y4/1	14.4	(4.1)	−	−	P168出土。口縁，緩やかに外反。口縁：ヨコナデ／ナデか。摩耗。
図74 195	〃	SB33	須恵 蓋	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 7.5YR7/6	11.2	2.8	−	摘み径 2.7	P152出土。扁平な擬宝珠様の摘み。口縁，短く折り曲げる。内外面，回転ナデか。焼成不良。摩耗。
196	〃	〃	土質 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.7	1.1	−	7.4	P152出土。口縁，浅く斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ後ミガキ。
197	〃	〃	須恵 壺	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	−	(5.0)	−	−	P152出土。頸部内外面，回転ナデ。体部外面，格子叩き。内面，ナデ。内面，布目圧痕か。頸内接合痕。
図76 198	〃	SB34	土質 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/3	7.8	1.4	−	5.2	P195出土。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
199	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	−	(1.3)	−	7.0	P252出土。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。やや摩耗。
200	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	黄灰色 2.5Y4/1	−	(1.0)	−	7.4	P195出土。内外面，回転ナデ。内面，弱いロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図80 201	〃	SB36	土師 皿	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/3	−	(0.8)	−	12.8	P210出土。内面，回転ナデ後ミガキ。外底面，回転ヘラ切り後ミガキ。
図82 203	〃	SB37	土質 椀	灰白色 10YR8/2	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	17.0	(2.8)	−	−	P223出土。摩耗のため調整不明。
図84 204	〃	SA1	〃 杯	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	−	(1.0)	−	4.5	P248出土。内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
図88 205	〃	SK3	磁器 碗	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	灰白色 5Y8/1	−	(1.4)	−	3.8	見込み，コンニャク印判による五弁花文。2条の圏線。外面，染付。高台，3条の圏線。
206	〃	〃	陶器 鍋	黒褐色 7.5YR3/2	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	−	(3.6)	−	8.1	内外面，施釉。外面底部付近，露胎。施釉部，にぶい黄色。無釉部，にぶい黄橙色。煤。
207	〃	〃	〃 サナ	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰白色 5Y8/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	−	(4.8)	−	18.0	内外面，回転ナデ。外底面，ナデ。直径約1.8cmの円孔。
図91 208	〃	SK10	土師 杯	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	−	(1.2)	−	−	口縁端部内面，凹む。内外面，回転ナデ。やや摩耗。
209	〃	〃	土質 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	−	(1.0)	−	5.4	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。皿か。
図93 210	〃	SK11	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	−	(3.2)	−	6.5	体部，直線的にのびる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。内外面，ロクロ目。
図95 211	〃	SK12	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.9	(2.7)	−	−	内外面，回転ナデ。
212	〃	〃	〃 椀	淡黄色 2.5Y8/3	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	−	(1.2)	−	5.8	外底面，断面台形の輪高台を「ハ」の字状に貼付。内面，ミガキか。
図96 213	〃	SK13	〃 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	淡橙色 5YR8/4	8.5	1.6	−	5.0	口縁，浅く斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図98 214	4区	SK14	土質 椀	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y4/1	灰黄色 2.5Y7/2	13.3	(2.6)	−	−	内外面，ミガキ。口縁外面，ヨコナデ。
215	〃	〃	土師 甕	褐灰色 10YR5/1	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄褐色 10YR5/3	32.9	(3.0)	−	−	口縁，大きくひらく。口唇，面取り。口縁外面，ヨコナデ・粗いハケか。内面，ヨコナデ・ヘラナデ。被熱。
図100 216	〃	SK15	土質 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.4	(2.4)	−	−	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。
図102 217	〃	SK16	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	−	(1.3)	−	8.6	外面，回転ナデ。内面，ミガキ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。
図104 218	〃	SK18	須恵 〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	11.1	3.6	−	7.8	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。
219	〃	〃	土師 皿	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	−	(1.0)	−	12.4	内外面，ミガキ。
220	〃	〃	〃 甕	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	赤褐色 5YR4/8	20.3	(2.1)	−	−	口唇，摘み上げ，凹面状。外面，ヨコナデ。弱い指圧。内面，ヨコハケ。
221	〃	〃	製塩 土器	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	橙色 5YR6/8	−	(2.4)	−	−	口唇，外傾。内外面，ナデ。
222	〃	〃	弥生 底部	褐灰色 7.5YR5/1	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR6/1	−	(4.1)	−	5.4	上げ底。外底面，ナデ・指圧。体部：ナデ・指圧／ハケ・ナデ。黒斑。
図106 223	〃	SK21	陶器 皿	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	にぶい黄橙色 10YR7/3	10.6	(1.9)	−	−	ロクロ成形。外面腰部以下，露胎。内面，胎土目跡か。被熱。唐津か。
224	〃	〃	土師 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	−	(1.6)	−	5.8	外底面に断面方形の高台を貼付。摩耗。土質の椀か。
図108 225	〃	SK22	陶器 碗	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰白色 10YR8/2	12.9	(2.2)	−	−	ロクロ成形。口縁端部の釉薬は剥げるか，うすくなる。
226	〃	〃	土質 杯	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	−	(2.2)	−	7.6	内外面，回転ナデ。外面・内底面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
図110 228	〃	SK23	須恵 〃	灰白色 10YR8/1	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	−	(1.0)	−	7.6	外底面に端部を外方へ引っ張り出した高台を貼付。体部外面，回転ナデ。内底面・外底面，ナデ。焼成不良。
229	〃	〃	土質 不明	にぶい黄橙色 10YR7/2	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	全長 (5.7)	全幅 (9.1)	全厚 (1.1)	−	瓦か。筒状あるいは割り竹状。端部は丸くおさめる。内外面，ナデか。内面，圧痕あり。被熱。摩耗。
図111 230	〃	SK24	弥生 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	−	(5.7)	−	2.6	体部，半球形。角の取れた平底。内面から押し付ける。体部：叩き後ナデ／ハケ。キレツ。黒斑。
図112 231	〃	SK25	製塩 土器	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y5/1	10.6	(6.3)	−	−	口縁，内傾。口唇，尖らせる。内外面，ナデ。内面，しぼり目。被熱。
232	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい褐色 7.5YR5/4	黒色 7.5YR2/1	−	(6.0)	−	−	口縁，内側に曲げる。口唇，尖らせる。内外面，ナデ。内面，ヘラナデか。
233	〃	〃	〃	褐色 7.5YR4/6	灰褐色 7.5YR4/2	黒褐色 10YR3/1	−	(3.3)	−	−	口縁，内側に曲げる。口唇，尖らせる。内外面，ナデ。被熱か。
図118 236	〃	SK34	磁器 碗	灰色 −	黒褐色 10YR3/2	灰白色 N8/0	9.0	(3.9)	−	−	ロクロ成形。外面，褐色・黒褐色の釉薬。内面，灰オリーブ色・やや青みがかった灰白色の釉薬。
図120 238	〃	SK35	土質 皿	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/4	9.0	1.6	−	5.6	体部，浅く外反気味にひらく。内外面，回転ナデ。切離し手法，不明。摩耗。
239	〃	〃	〃 杯	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	褐灰色 10YR6/1	6.0	2.0	−	4.5	体部，僅かに外方に直線的にのびる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。胎土，精良。
240	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	−	(1.4)	−	5.2	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
図122 241	〃	〃	〃 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	12.2	2.5	−	7.6	体部，丸みを帯びる。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。
242	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	12.8	1.9	−	7.8	体部，斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。胎土，精良。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 122 243	4 区	SK42	土師 皿	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	−	(2.4)	−	−	口縁，外上方へのびる。口縁内面，凹む。内外面，ミガキ。胎土，精良。
244	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	−	(1.6)	−	9.1	底部，丸みを帯びる。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り痕。摩耗。
245	〃	〃	〃 杯	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	橙色 7.5YR7/6	−	(1.7)	−	8.2	内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り痕。摩耗。
246	〃	〃	須恵 〃	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	−	(1.8)	−	11.2	外底面に高台を貼付。焼成不良。摩耗。
247	〃	〃	緑釉 皿	灰白色 5Y7/2	オリーブ黄色 5Y6/4	灰色 5Y6/1	13.7	3.0	−	6.3	内外面，回転ナデ。断面台形の削り出し高台。外底面，露胎。オリーブ黄色～灰白色の釉薬。
図 125 250	〃	SG1	弥生 壺	橙色 7.5YR7/6	橙色 2.5YR6/8	褐灰色 10YR4/1	−	(54.7)	49.4	10.3	平底。外底面，ナデ。体部：叩き後ハケ・ミガキ／ハケ・ナデ・ミガキ。赤色顔料塗布か。黒斑。
図 127 251	〃	SG2	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 N4/0	−	(40.0)	37.6	7.0	丸底。外底面，ナデ。体部：ハケ／ハケ。黒斑。体部，穿孔か。内底，荒れる。
252	〃	〃	〃 〃	灰白色 5Y7/1	浅黄橙色 10YR8/3	灰色 N5/0	−	(8.0)	−	5.7	角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：ハケ／ハケ・ナデ。内面，敲打痕状の剥離あり。被熱。
図 129 253	〃	SD1	土師 杯	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	浅黄橙色 10YR8/3	14.0	(1.2)	−	−	内外面，回転ナデ。
図 131 254	〃	SD2	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	−	(1.7)	−	7.4	摩耗のため，調整等不明。被熱。
255	〃	〃	須恵 皿	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	14.6	1.7	−	11.6	内外面，回転ナデ。切離し手法，不明。摩耗。
256	〃	〃	土質 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	褐灰色 7.5YR5/1	10.0	2.4	−	7.0	口縁，斜め上方へひらく。外傾する円盤状高台。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。煤。
257	〃	〃	〃 杯	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	−	(1.6)	−	6.6	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
258	〃	〃	須恵 〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	−	(3.3)	−	8.0	外底面に断面方形の高台を貼付。体部，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。内底面，ナデ。
259	〃	〃	〃 壺	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	18.2	(2.8)	−	−	口縁，緩やかに外反。口唇，摘み上げ。内外面，回転ナデ。
260	〃	〃	土師 甕	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	赤褐色 5YR4/6	−	(4.0)	−	−	口縁，緩やかに外反。口縁，ヨコナデ。体部外面，粗いハケ。内面，ヘラナデ。摩耗。
262	〃	〃	瓦質 羽釜	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	23.3	(4.3)	−	−	口縁，内湾気味。口唇，面取り。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ヘラナデ。煤。鍔，剥離。
図 136 264	〃	SD6	土質 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/2	7.8	1.5	−	5.2	口縁，浅く斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。被熱。摩耗。
図 139 265	〃	SD8	須恵 杯	灰色 7.5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	黄灰色 7.5Y6/1	−	(1.0)	−	7.4	内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。
図 141 266	〃	SD10	弥生 鉢	浅黄橙色 7.5YR8/6	黄橙色 7.5YR8/8	浅黄橙色 7.5YR8/6	−	(3.3)	−	7.0	ほぼ丸底。外底面，指圧。体部：ナデか／ナデか。黒斑。摩耗。土師質土器の杯か。
267	〃	〃	土師 皿	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	−	(3.0)	−	−	口縁，直線的にひろがる。口縁内面，凹む。内外面，ヨコミガキ。
268	〃	〃	須恵 甕	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	−	−	−	−	外面，叩き後叩き板によるナデ。内面，同心円状の当て具痕・ナデ。
図 144 269	〃	SE1	〃 壺	灰オリーブ色 5Y4/2	灰褐色 7.5YR4/2	褐灰色 7.5YR6/1	21.4	(1.4)	−	−	口縁，大きく外反。内外面，回転ナデ。口縁上面，強い回転ナデにより凹む。自然釉，付着。
270	〃	〃	土質 椀	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	−	(2.1)	−	5.9	断面方形の高台を貼付。外底面，ナデ。外面，回転ヘラケズリ後ミガキか。内底面，ミガキか。被熱。
271	〃	〃	須恵 杯	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	−	(1.8)	−	10.8	外底面に断面方形の高台を貼付。内外面，回転ナデ。外底面・内底面，ナデ。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図146 272	4区	P222	土質 皿	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	8.6	1.1	－	6.3	口縁，浅く斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
273	〃	〃	〃 杯	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR7/6	橙色 5YR7/6	13.3	4.8	－	7.0	体部，斜め上方へ立ち上がる。扁平な円盤状高台。内外面，回転ナデ。外底面，静止糸切り痕。被熱。煤。摩耗。
274	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 2.5Y8/1	15.9	3.8	－	8.0	内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。外底面，回転糸切り痕・簀状圧痕。歪む。被熱。煤。
275	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	－	(1.7)	－	8.0	内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。外底面，回転糸切り痕・簀状圧痕。黒斑。摩耗。
276	〃	〃	白磁 碗	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 2.5Y8/1	17.3	(5.2)	－	－	口縁端部，屈折。上端部は面を成す。内面，櫛目文。V類。
277	〃	〃	炻器 甕	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	淡黄色 2.5Y8/3	灰白色 2.5Y7/1	21.8	(15.0)	－	－	口唇，凹面状。口縁外面，ナデ後ヨコナデ。内面，ヨコナデ。体部外面，叩き。内面，ヘラナデ。外面，化粧土か。
図147 278	〃	P361	弥生 壺	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR5/1	17.7	(1.2)	－	－	口縁，大きくひらく。口唇，ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコナデ／ヨコナデ。
279	〃	P207	〃 体部片	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	－	－	－	－	体部：ナデ／ナデ。内面，水銀朱付着。内面，刻書か。
280	〃	P240	土師 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(1.3)	－	11.4	内面，回転ナデ後ミガキ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。
281	〃	P147	〃 杯	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	－	(2.8)	－	8.0	杯B。内外面，回転ナデ後ミガキ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。やや摩耗。
282	〃	P234	土質 〃	橙色 5YR7/8	浅黄橙色 10YR8/3	灰白色 10YR8/2	8.8	1.9	－	6.0	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り後ナデ。外面，ロクロ目顕著。被熱。灯明皿として使用か。
283	〃	P179	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	14.2	3.6	－	7.6	体部，外上方へのびる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
284	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰白色 10YR8/2	14.2	3.5	－	7.9	体部，外上方へのびる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
285	〃	P205	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	－	(0.8)	－	6.4	内外面，回転ナデ。内底面，弱いロクロ目。外底面，回転ヘラ切り痕。
286	〃	P274	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	－	(1.2)	－	7.2	内外面，回転ナデか。切離し手法，不明。胎土，精良。摩耗。
287	〃	P410	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰色 5Y6/1	－	(1.4)	－	7.6	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
288	〃	P203	〃 〃	浅黄色 2.5Y7/3	浅黄色 2.5Y7/3	灰白色 2.5Y8/2	－	(1.9)	－	8.0	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
289	〃	P295	〃 椀	にぶい橙色 7.5YR6/4	黒褐色 7.5YR3/1	橙色 5YR7/6	－	(0.9)	－	5.0	外底面に高台を貼付。摩耗。
290	〃	P306	土師 甕	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	橙色 5YR6/6	－	(5.6)	－	－	口縁端部，摘み出す。口唇，凹面状。外面，ナデか。内面，ナデ。鍔，剥離。
291	〃	P80	須恵 皿	灰色 N4/0	灰色 N4/0	灰色 N4/0	－	(1.0)	－	－	内面，回転ナデ・ナデ。外底面，回転ヘラ切り痕。
292	〃	P238	瓦器 椀	黒色 2.5Y2/1	黒色 2.5Y2/1	灰白色 2.5Y8/2	－	(1.1)	－	4.4	断面台形の高台。内底面，暗文。外底面，未調整。
293	〃	P180	白磁 碗	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y8/1	17.0	(2.4)	－	－	口縁部を僅かに肥厚させる。透明感のある釉薬。
図148 294	〃	トレンチ	弥生 鉢	浅黄橙色 10YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	17.8	8.1	－	4.5	口唇，ハケ状原体による面取り。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。角の取れた平底。外底面，ナデ。黒斑。
295	〃	撹乱	土師 蓋	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	－	(2.1)	－	摘み径 3.1	天井部に扁平な擬宝珠様の摘みを貼付。外面，回転ナデ。内面，ミガキか。胎土，精良。
296	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	明赤褐色 5YR5/6	にぶい橙色 5YR6/4	－	(2.3)	－	－	外底面に高台を貼付。内外面，ミガキ。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図148 297	4区	包含層	土師 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	19.6	(3.3)	－	－	口縁，丸みを持って上方へのびる。口縁端部，屈曲。内外面，ヨコミガキ。
298	〃	〃	〃 皿	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	20.0	3.6	－	15.0	体部，やや外方へ立ち上がる。口縁内面，凹む。内外面，回転ナデ後ヨコミガキ。全体的にシャープなつくり。
299	〃	撹乱	土質 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	8.0	1.5	－	4.8	口縁，浅く斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ。切離し手法，不明。口縁部にタール付着。灯明皿として使用。
300	〃	包含層	〃 〃	橙色 5YR7/6	赤橙色 10R6/6	橙色 2.5YR6/6	8.4	1.5	－	5.0	口縁，浅く斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。外底面，回転糸切り痕・簀状圧痕。被熱。発泡。
301	〃	撹乱	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	10.0	1.8	－	5.8	断面扁平な方形の高台を貼付か。内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。外底面，回転糸切り痕・簀状圧痕。内底面，煤。
302	〃	包含層	〃 杯	にぶい黄橙色 10YR7/2	浅黄橙色 10YR8/4	褐灰色 10YR6/1	－	(2.9)	－	5.6	内外面，回転ナデ。外底面，糸切り痕。器壁，厚い。
303	〃	〃	〃 杯	淡赤橙色 2.5YR7/4	淡赤橙色 2.5YR7/3	灰白色 2.5Y8/2	13.4	4.1	－	6.0	口唇，丸くおさめる。体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ・ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
304	〃	撹乱	〃 椀	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	－	(2.5)	－	5.0	断面扁平な方形の高台を貼付。外底面，回転ナデ。外面，回転ナデ・ヘラケズリ。内面，ミガキ。煤。
305	〃	包含層	瓦器 〃	黒褐色 2.5Y3/1	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい黄橙色 10YR7/3	16.5	－	－	4.4	外底面に短小な断面三角形状の輪高台を貼付。口縁外面，ヨコナデ。体部，ナデ・指圧。内面，ミガキ。
306	〃	〃	土質 羽釜	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	27.0	(3.4)	－	－	口縁，内傾気味。口唇，丸くおさめる。鍔を付す。内外面，ナデ。外面，指圧。鍔以下に煤。
307	〃	撹乱	瓦質 三足鍋	－	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y6/1	－	－	－	－	脚部。ナデ・指圧。摩耗。接合面で剥離。
図149 308	〃	包含層	須恵 蓋	浅黄色 2.5Y7/3	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	13.6	(1.6)	－	－	口縁端部，僅かに下垂。内外面，回転ナデ。天井部外面，回転ヘラケズリ・回転ナデ。天井部内面，ナデ。
309	〃	撹乱	〃 皿	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	17.8	2.6	－	14.0	口縁，斜め上方へ立ち上がる。口縁内面，凹む。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。内底面，ナデ。煤。
310	〃	包含層	〃 杯	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	11.0	(2.8)	－	－	体部，直線的に外上方へのびる。内外面，回転ナデ。外面腰部，回転ヘラケズリか。
311	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	－	(1.1)	－	8.0	外底面に断面方形の高台を貼付。端面，凹む。内面，回転ナデ・ナデ。焼成不良。摩耗。
312	〃	撹乱	〃 〃	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	－	(1.3)	－	14.6	杯B。外底面に3条の沈線。体部内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。外底面，回転ヘラケズリ。焼成不良。
313	〃	〃	〃 壺	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	－	(1.8)	－	7.0	断面方形の高台を「ハ」の字に貼付。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。外底面，焼成前線刻あり。
314	〃	包含層	〃 甕	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	－	(3.3)	－	－	断面三角形の突帯，貼付。外面，叩き。内面，ヨコナデ。
315	〃	〃	〃 壺	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 N7/0	灰黄褐色 10YR6/2	－	(3.5)	－	－	内外面，回転ナデ。外面・内面頸部までうすく施釉の可能性あり。胎土，精良。
316	〃	撹乱	白磁 碗	灰白色 5Y7/2	灰白色 5Y7/2	灰白色 5Y7/1	16.2	(3.9)	－	－	外面下半，露胎。ピンホール。Ⅳ類。
317	〃	包含層	〃 〃	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	17.0	(3.3)	－	－	ピンホール状。Ⅳ類。
318	〃	〃	〃 〃	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	－	(2.4)	－	－	ピンホール状。Ⅴ類。
319	〃	〃	〃 皿	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	－	(1.6)	－	5.1	扁平な削り出し高台。内面，施釉。外面，露胎。
320	〃	〃	青磁 碗	灰オリーブ色 7.5Y6/2	灰オリーブ色 7.5Y6/2	灰色 N6/0	13.8	(1.5)	－	－	龍泉窯系の劃花文の碗の口縁部か。
図151 333	8－1区	ST1	弥生 壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黒褐色 10YR3/1	14.7	(7.3)	－	－	口唇，面取り。頸部：タテハケ後ヨコナデ。上胴内接合痕。キレツ。黒斑。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図151 334	8－1区	ST1	弥生 壺	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	－	(9.6)	－	6.4	角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：タタキ後ナデ。/ ナデ。
335	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	23.0	(4.1)	－	－	口縁：ヨコナデ / ヨコハケ後ヨコミガキ。被熱。煤。
336	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	17.4	(2.5)	－	－	口唇，凹面状。口縁：端部ヨコナデ，タテハケ後ミガキ / ヨコハケ後ヨコミガキ。
337	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	17.0	(3.4)	－	－	口唇，面取り。口縁：タテハケ / ヨコ・ナナメハケ。搬入か。
338	〃	〃	〃 〃	オリーブ黒色 5Y3/1	にぶい黄橙色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	－	(2.6)	－	2.9	ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：タタキ後タテハケ・ナデ / ナデ。黒斑。
339	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	褐灰色 10YR5/1	17.8	(4.7)	－	－	口唇，面取り。口縁：端部ヨコハケ。体部：ナデ / ヨコハケ。キレツ。
340	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	16.7	(5.7)	－	－	口縁：ヨコナデ。体部：タタキ後ナデ / ナナメハケ。被熱。煤。
341	〃	ST1_ 中央P	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/2	－	－	－	－	口唇，面取り。口縁：タタキ後タテハケ / ナデ。体部：/ ナナメハケ。
342	〃	ST1	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y4/1	8.3	(3.4)	－	－	口唇，面取り。口縁：ヨコナデ。体部：タテハケ / ヨコハケ・ヨコナデ。
343	〃	〃	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N5/0	－	(6.8)	－	－	杯部：内底面ナデ。脚部：タテハケ後タテミガキ / しぼり目・ミガキ。焼成前円孔。
344	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(5.4)	－	－	杯部：内底面ナデ。脚部：タテハケ / しぼり目・タテナデ。焼成前円孔。
345	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄色 2.5Y6/2	22.4	(3.0)	－	－	内外面，摩耗。調整不明。擬口縁。
346	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/8	橙色 7.5YR7/6	24.0	(2.2)	－	－	内外面，摩耗。口縁：ナデか / 不明。擬口縁。
348	〃	〃	土師 甕	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	17.6	(2.1)	－	－	口唇，ヨコハケ・ヨコナデ。口縁外面，ヨコナデ。内面，ナナメハケ。
図153 349	〃	ST2	弥生 壺	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	13.2	(3.0)	－	－	口唇，面取り。口縁：ヨコナデ / ナデ痕跡。
350	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y4/1	10.6	2.9	－	4.6	角の取れた平底。口縁：ヨコナデ。体部：タタキ後ナデ / ハケ。底部：ナデ。希少器形。
351	〃	〃	〃 底部	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	－	(4.7)	－	5.0	角の取れた平底。底部：ナデ / ナデ。体部：ヘラナデ / 指圧・ナデ。黒斑。
図155 352	〃	ST3	〃 壺	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰色 5Y6/1	13.8	(3.6)	－	－	口唇，ハケ状原体による面取り。口縁：ヨコナデ。頸部：タテハケ / ナナメハケ。
353	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	浅黄色 2.5Y7/3	22.6	(3.0)	－	－	口唇，面取り。口縁：タタキ後ナデ / ヨコハケ。煤。
354	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/8	灰白色 5Y7/1	25.2	(2.8)	－	－	口唇，面取り。口縁：摩耗 / ナナメハケ。
355	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰色 5Y5/1	23.2	(2.8)	－	－	複合口縁壺。口唇，面取り。二次口縁：ヨコナデ。一次口縁：ヨコハケ後タテハケ / ヨコハケ。
356	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰色 5Y5/1	21.2	(1.7)	－	－	口唇，面取り。口縁外面，双線による波状文。口縁：ヨコナデ / ヨコナデ。
357	〃	ST3_ 中央P	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	浅黄橙色 10YR8/4	－	(6.2)	－	－	角の取れた平底か。体部：タタキ後ハケ・ナデ / ナデ。黒斑。被熱。
358	〃	ST3	〃 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y4/1	15.4	(4.2)	－	－	口唇，面取り。頸部：タテハケ，一部ヨコナデ / ヨコハケ。
359	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	15.2	(3.2)	－	－	口唇，面取り・ナデ。口縁：ナナメハケ後ヨコナデ / ヨコハケ。頸部：タテハケ / ナデ。キレツ。煤。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図155 360	8－1区	ST3	弥生 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	20.4	(6.7)	－	－	口唇，ハケ状原体による面取り。口縁：ナデ／ヨコハケ後ヨコミガキ。体部：ナデ／ハケ後ミガキ。黒斑。
361	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	18.8	(4.5)	－	－	口唇，ヨコナデ。体部：ナナメハケ／ナナメハケ。
362	〃	ST3_ P2	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	21.2	(4.4)	－	－	口唇，凹面状。ハケ状原体による。口縁：ヨコナデ。体部：タタキ後ナナメハケ／ハケ（ケズリ）後ナデ。
363	〃	ST3	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	－	(3.6)	－	－	口唇，ハケ状原体による面取り。口縁：ナナメハケ／ヨコハケ後ヨコミガキ。
364	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 5YR5/1	－	(4.3)	－	2.8	角の取れた平底，葉脈痕。体部：タタキ後ナデ／ナナメハケ。種子圧痕。黒斑。
365	〃	〃	〃 合子	橙色 5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.8	5.7	－	9.4	口唇，面取り。体部に円孔。底端部，突出。体部：ナデ・ミガキ／ミガキ。底部：ハケ後ミガキ。
図158 366	〃	ST5	〃 壺	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄橙色 10YR6/3	褐灰色 10YR5/1	13.8	(6.0)	－	－	口唇，面取り。頸部：指圧，接合痕／タテハケ。体部：タタキ／タテハケ。
367	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	14.4	(14.8)	－	－	口唇，面取り。タタキ後タテハケ／ヨコハケ。
368	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR5/1	－	(15.2)	26.2	－	体部：タタキ後タテハケ／ヨコハケ・タテハケ。被熱。
369	〃	〃	〃 甕	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	11.2	19.6	13.6	4.0	丸底。口唇，凹面状。口縁：タタキ後ナデ／ナナメハケ。体部：タタキ／タテハケ後ナデ。底部：ナデ／ナデ。煤。
370	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 2.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	浅黄橙色 10YR8/3	10.7	20.2	14.4	3.6	口唇，凹面状。角の取れた平底。口縁：タタキ／ハケ。体部：タタキ後ハケ／ハケ・ナデ。被熱。煤。
371	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい褐色 7.5YR5/3	11.9	15.3	12.7	－	ほぼ丸底。口縁：タタキ後指圧／ナナメハケ。体部：タタキ後タテハケ／ハケ・ナデ。黒斑。
372	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	11.9	18.2	－	2.7	角の取れた平底。タタキ後タテハケ／タテハケ。内底面，指圧。
373	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y4/1	13.2	26.1	18.4	3.6	角の取れた平底。口縁：ハケ後ナデ／ハケ。肩部粘土接合。体部：タタキ後ハケ／ハケ後ナデ。煤。被熱。
374	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	15.1	24.1	16.8	2.9	角の取れた平底。口縁・体部：タタキ後ナデ／ハケ。底部：タタキ／ナデ。キレツ。黒斑。被熱。煤。
375	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	17.0	(18.7)	16.7	－	口唇，ゆるい面取り。口縁：ハケ／ハケ。体部：タタキ／ハケ。底部：タタキ後タテハケ／。被熱。
376	〃	ST5_ 中央P	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	15.8	(2.3)	－	－	口唇，面取り。口縁：タタキ後ナデ／ナナメハケ。キレツ。被熱。
377	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(2.0)	－	－	口唇，面取り。口縁：タタキ後ナデ／ナナメハケ。
図159 378	〃	ST5	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(17.3)	12.6	3.1	角の取れた平底。肩部：タタキ後ナデ／ハケ。体部：タタキ後ハケ／ナデ。内底面，指圧。黒斑。被熱変色。
379	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(20.3)	19.0	5.4	角の取れた平底。体部：タタキ後下半タテハケ／ハケ後ナデ。内底面，指圧。全体的に歪む。黒斑。
380	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	－	(12.8)	－	3.6	角の取れた平底。体部：タタキ後タテハケ／ナナメハケ後タテナデ。内底面，ナデ。煤。被熱。
381	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 5YR7/4	灰白色 10YR8/1	10.9	7.3	－	3.0	角の取れた平底。口唇，雑。体部：タタキ後ナデ／粗いハケ後ナデ。
382	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	9.9	(6.3)	－	－	口唇，尖る。体部：タタキ後ナデ／ヨコハケ。底部，タタキ目残る。黒斑。煤。
383	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 7.5YR7/6	8.6	6.2	－	1.8	角の取れた平底。体部：タタキ後ナデ／ナナメハケ後ナデ。ハケにより平底化。煤。黒斑。
384	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰黄褐色 10YR5/2	橙色 7.5YR6/6	10.6	－	－	2.2	角の取れた平底。口唇，M字状。体部：タタキ後ナデ／ハケ。黒斑。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図159 385	8－1区	ST5	弥生 鉢	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 5Y7/1	12.0	(6.1)	－	－	体部：タタキ後ナデ／粗いヨコハケ。キレツ。被熱。
386	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.6	7.6	－	－	ナデによる丸底。口唇，M字状。体部：ナデ後ナナメハケ，僅かにタタキ目残る／ナデ。キレツ。
387	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 7.5Y5/1	16.6	11.1	－	－	丸底。口唇，ルーズな面取り。体部：タタキ後タテハケ／ナナメハケ後ナデ。黒斑。
388	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N4/0	23.0	12.5	－	6.8	平らな部分が残る丸底。ナデ。口唇，ハケ状原体による面取り。体部：タタキ後ナデ／ハケ。
389	〃	ST5_ 中央P	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	17.0	(3.3)	－	－	口唇，尖る。体部：タタキ後ナデ／ナナメハケ。キレツ。
390	〃	ST5	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 10YR8/2	22.3	(6.0)	－	－	口唇，面取り。体部：ナデ／ナナメハケ，不定方向ハケ。キレツ。
391	〃	ST5_ 中央P	〃 底部	褐灰色 10YR4/1	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	－	(3.0)	－	5.1	角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：タタキ後ナデ／不定方向ナデ。黒斑。
392	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	－	(4.3)	－	3.0	角の取れた平底。体部：タタキ後ナデ／ナデ・弱いハケ目。黒斑。キレツ。
393	〃	ST5	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y6/1	－	(3.0)	－	3.4	角の取れた平底。外底面，丁寧なナデ。体部：ナデ・ハケ／ハケ，蜘蛛の巣状。黒斑。
394	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 5Y6/1	－	(1.8)	－	－	尖底。体部：タテハケ／ハケ。
395	〃	ST5_ 中央P	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 2.5YR6/4	にぶい橙色 5YR7/3	－	(7.9)	－	3.6	角の取れた平底。底部：タタキ／不定方向のナデ。体部：タタキ後タテハケ／ナナメハケ後タテナデ。
396	〃	ST5	瓦器 椀	黒色 5Y2/1	黒色 5Y2/1	褐灰色 10YR4/1	16.5	(2.2)	－	－	楕葉型。体部，ヨコミガキ。口縁内面，沈線。
図161 398	〃	ST6	弥生 甕	にぶい黄橙色 10YR7/2	橙色 7.5YR7/6	黒色 7.5Y2/1	24.6	(6.3)	－	－	口唇，M字状。頸部：タタキ後ナナメハケ／ナナメハケ。体部：タタキ後ナデ／ナナメハケ。黒斑。被熱
399	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR5/3	橙色 7.5YR6/6	明褐色 7.5YR5/6	－	(3.5)	－	－	口唇，面取り。口縁：タタキ／粗いヨコハケ。体部：タタキ／ナナメハケ。
図163 400	〃	ST7	〃 壺	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/3	－	(10.9)	－	－	頸部：タタキ後ハケ／ナナメハケ。肩部：タタキ後ハケ／ナナメハケ。体部：／粗いナナメハケ後ナデ。
401	〃	〃	〃 甕	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰黄褐色 10YR4/2	橙色 7.5YR7/6	13.0	17.0	14.0	(2.9)	口縁：タタキ後ナデ／ハケ。体部：タタキ後ナデ／ハケ後ナデ。底部:タタキ後ハケ／ハケ後ナデ。煤。被熱。
402	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	14.9	(16.8)	16.4	－	口唇，面取り。口縁：タタキ後ナデ／ハケ。体部：タタキ／ハケ。外底面，タタキ後ハケ。煤。被熱。
403	〃	〃	〃 鉢	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	15.8	(4.5)	－	－	口縁：／ヨコハケ。体部：タタキ後ナデ／ヨコハケ後ナナメナデ。
404	〃	ST7_ P1	〃 高杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	－	(7.3)	－	－	脚部：タテハケ後ナデ／。裾部：タテハケ／ハケ後ナデ。円孔，3箇所。
405	〃	ST7	〃 底部	灰褐色 7.5YR5/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	－	(10.9)	－	3.5	丸底。ナデ。底部：タテハケ／ナデ。体部：タタキ後タテハケ／ナナメハケ後ナデ。黒斑。
406	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/3	－	(10.1)	－	3.4	タタキによりほぼ丸底。内底面，ナデ。体部：タタキ後ハケ／ナナメハケ。黒斑。
407	〃	ST7_ P1	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 7.5YR6/6	－	(4.0)	－	－	丸底。ナデ。体部：タタキ後ハケ／ナナメ・ヨコハケ後ナデ。
408	〃	ST7	〃 〃	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR6/2	－	(11.2)	－	2.2	角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：タタキ後タテハケ／ナデ・ナナメハケ。黒斑。
図164 410	〃	ST8	〃 壺	橙色 5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6	黄灰色 2.5Y5/1	20.8	(4.3)	－	－	口唇，面取り。二次口縁，竹管文。全体摩耗。
411	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.8	(3.0)	－	－	口唇，面取り。口縁：ナデ／ナデ。煤。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図164 412	8－1区	ST8	弥生 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y4/2	14.0	(2.7)	－	－	口唇，面取り。口縁：タテハケ後ヨコナデ／ヨコナデ。
413	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	灰黄色 2.5Y7/2	－	(1.9)	－	－	口縁：ヨコナデ・指圧／ヨコハケ・ナデ。
414	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	14.0	(2.3)	－	－	口唇，凹面状。口縁：ナデ／ナナメハケ・ナナメミガキ。
図166 415	8－2区	ST9	〃 壺	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/4	17.3	(1.6)	－	－	口唇ナデ。口縁：タテハケ後ヨコナデ／。
416	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	－	(3.6)	－	－	体部：ヘラミガキ後ヘラによる線刻／。内面，摩耗。
417	〃	〃	〃 甕	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	橙色 5YR6/6	13.0	(1.8)	－	－	口唇，面取り。口縁上端，摘み上げ。ナデ。
418	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	12.0	(2.6)	－	－	口唇，凹面状。口縁ナデ。
419	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(7.8)	－	4.2	角の取れた平底。体部：タタキ／ヘラケズリ。内底面，指圧。
420	〃	〃	〃 高杯	橙色 5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	11.7	(7.2)	－	－	口唇，丸くおさめる。杯部：ヘラミガキ／ヘラミガキ。脚部：ヘラミガキ／ナデ・爪痕。接合痕。
421	〃	〃	ミニ	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	－	全高 (2.8)	全幅 (3.3)	－	指圧。キレツ。皮袋形土製品か。
図168 423	〃	ST10	〃 鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	15.8	(3.6)	－	－	口唇，丸くおさめる。口縁，やや外反。体部：ヘラミガキ／ヘラミガキ。
図170 425	〃	ST11	〃 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	13.7	(7.1)	－	－	口唇，やや凹面状。口縁：ナデ／ナナメハケ。体部：タタキ後タテハケ／ナデ。
426	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	褐灰色 10YR4/1	19.0	(16.4)	21.2	－	口唇，面取り。口縁：タタキ／ナナメハケ。体部：タタキ／タテハケ後ナデ。
427	〃	〃	〃 高杯	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(4.0)	－	－	杯部：ハケ／ハケ。
428	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 10YR8/2	－	(4.2)	－	－	焼成前穿孔。調整不明瞭。直径6㎜の円孔。
図172 429	〃	ST12	〃 壺	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/4	14.0	(3.2)	－	－	口唇，凹面状。口縁：タテハケ・ヨコナデ／ヨコハケ。口縁内面にヘラによる線刻。
430	〃	〃	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR6/6	灰白色 10YR8/2	16.8	(2.5)	－	－	口唇，丸くおさめる。口縁：指圧／ナデ。
431	〃	ST12_SK1	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR5/4	黒褐色 10YR3/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	－	(2.5)	－	－	口唇，面取り。口縁：ヨコハケ後指圧／ヨコハケ。
432	〃	ST12	〃 鉢	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	10.0	(5.6)	－	－	口唇，面取り。体部：ナデ後タテハケ／粗いヨコハケ。内底面，指圧。
433	〃	〃	〃 底部	灰白色 10YR8/2	浅黄橙色 10YR8/4	灰色 N4/0	－	(5.3)	－	6.0	角の取れた平底。体部：粗いタテハケ／ナナメハケ。内底面，指圧。
434	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄褐色 10YR6/2	－	(5.5)	－	3.7	角の取れた平底。体部：粗いタテハケ後線刻／ナデ・ハケ。
435	〃	〃	〃 〃	暗灰色 N3/0	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/3	－	(4.0)	－	2.9	角の取れた平底。体部：粗いタテハケ／タテハケ。中礫含む。
436	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(4.0)	－	1.5	丸みを帯びた平底。体部：やや粗いタテハケ／ヨコハケ。
437	〃	〃	〃 脚部	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	－	(1.5)	－	5.0	台端部，摘み上げ。指圧。
438	〃	ST12_SK1	〃 〃	灰白色 2.5Y7/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	褐灰色 10YR5/1	－	(4.9)	－	－	脚部：ヨコナデ・タテハケ／ナデ。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図172 439	8－2区	ST12_SK1	ミニ	黒褐色 10YR3/1	にぶい黄橙色 10YR7/3	褐灰色 10YR4/1	－	全高 (2.5)	全幅 (5.4)	－	端部，棒状工具による圧痕。側面，指圧。
図175 440	〃	ST13	弥生甕	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	14.2	(17.8)	22.6	－	口唇，面取り。頸部：粗いタテハケ／ナナメハケ。肩部・体部：タタキ／タテハケ・指圧。内面接合痕。
441	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 5YR5/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	13.6	(5.8)	－	－	頸部：タテハケ後ヨコナデ／ヘラミガキ・タテハケ。頸部外面，ヘラ状工具施文。体部：／ナナメハケ。
442	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	褐灰色 10YR4/1	15.6	(16.1)	15.8	－	口唇，面取り。口縁：ナデ／ヨコハケ。体部：タタキ／ナデ・タテハケ。
443	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/6	橙色 7.5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	16.2	(10.3)	－	－	口唇，面取り。口縁：タタキ／ナナメハケ。体部：タタキ／ナデ。
444	〃	ST13_SK1	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR6/4	褐灰色 10YR4/1	－	(33.2)	30.0	7.6	角の取れた平底。体部：タタキ後タテハケ／ヨコハケ。内底面，ナデ・指圧。
図187 445	8－1区	SB10	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	9.6	(3.1)	－	－	P78出土。口縁：／指圧，一部ヨコハケ。被熱。煤。
図188 446	〃	SB11	〃 脚部	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	－	(2.2)	全幅 (5.5)	－	P80出土。外面，ハケ後ナデ。
図190 447	〃	SB12	須恵杯	灰白色 2.5Y7/1	褐灰色 5YR5/1	灰褐色 7.5YR6/2	12.3	4.2	－	8.4	P64出土。回転ナデ。底部，ヘラ切り後ナデ。見込み，一部仕上げナデ。
図197 449	〃	SK2	土質皿	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/8	6.4	1.1	－	3.8	ロクロナデ。底部，回転糸切り。被熱。
450	〃	〃	磁器 〃	明緑灰色 7.5GY8/1	灰白色 10Y7/1	灰白色 N8/0	13.2	(3.4)	－	－	透明釉。体部外面，唐草文。内面，草文・唐草文。見込み，一重圏線。
451	〃	〃	陶器 〃	褐色 10YR4/4	にぶい橙色 2.5YR6/4	にぶい橙色 2.5YR6/4	－	(2.7)	－	4.6	見込み，蛇ノ目釉剥。土見せ。被熱。
図199 453	〃	SK3	磁器 蓋	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	灰白色 N8/0	9.8	3.0	－	摘み径 5.4	透明釉。摘み端部，釉剥，外面，二重圏線。笠部外面，菊弁文。天井部，一重圏線。内面端部，二重圏線。
454	〃	〃	〃 紅皿	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	4.6	1.1	－	1.2	白磁。型打成形。高台付近，無釉。陰刻菊弁文。
455	〃	〃	〃 杯	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	6.7	3.1	－	2.3	外面，染付。畳付，釉剥。離れ砂付着。
456	〃	〃	〃 〃	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 N8/0	8.0	3.3	－	3.0	外面，染付。畳付，釉剥。被熱。
457	〃	〃	〃 〃	明緑灰色 7.5GY8/1	明緑灰色 7.5GY8/1	灰白色 2.5Y8/1	9.3	5.2	－	3.2	外面，笹文。外高台付近，三重圏線染付。畳付，釉剥。
458	〃	〃	〃 〃	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	7.5	3.3	－	2.9	外面，草文。外高台付近，三重圏線染付。畳付，釉剥。離れ砂付着。
459	〃	〃	〃 〃	明緑灰色 7.5GY8/1	明緑灰色 7.5GY8/1	灰白色 N8/0	－	(3.5)	－	5.6	見込み，一重圏線・「寿」文。外高台付近，三重圏線染付。畳付，釉剥。
460	〃	〃	陶器 〃	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/1	8.7	4.8	－	2.9	灰釉。高台内～畳付，露胎。
461	〃	〃	〃 皿	暗赤灰色 10R3/1	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	赤褐色 10R5/4	12.0	4.9	－	5.2	見込み，蛇ノ目釉剥。畳付，釉剥。
図200 463	〃	SK4	〃 碗	オリーブ黄色 5Y6/3	オリーブ黄色 5Y6/3	灰白色 10YR7/1	13.0	(5.3)	－	－	灰釉。口縁部，肥厚。近世。
464	〃	〃	〃 〃	灰白色 5Y7/2	灰白色 5Y7/2	灰白色 2.5Y7/1	－	(3.5)	－	5.0	灰釉。貫入顕著。土見せ。目跡あり。
図202 466	〃	SK6	須恵鉢	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	25.2	(7.8)	－	－	内外面，回転ナデ。
図204 467	〃	SK7	陶器 燗徳利	にぶい橙色 7.5YR7/3	灰黄色 2.5Y6/2	淡黄色 2.5Y8/3	－	(20.6)	8.0	－	内頸部～外面，灰釉。鉄錆による山文。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図208 468	8－1区	SK17	陶器 碗	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(2.5)	－	5.9	透明釉。貫入顕著。見込み，五弁花か。外高台に一重圏線。畳付，釉剥。
図210 470	〃	SK18	弥生 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR6/3	黄灰色 2.5Y6/1	－	(3.3)	－	4.2	ナデによる平底。体部：ハケ後ナデ／ナデ。黒斑。
図216 471	8－2区	SK25	磁器 紅皿	灰白色 10Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 N8/0	4.6	1.3	－	1.4	白磁釉。型打。
472	〃	〃	〃 碗	灰白色 N7/0	灰白色 N7/0	灰白色 N8/0	－	(4.5)	－	5.8	透明釉。広東碗。外面，風景文か。見込み，一重圏線，「寿」文。
473	〃	〃	〃 〃	明緑灰色 7.5GY8/1	明緑灰色 7.5GY8/1	灰白色 N8/0	10.4	5.9	－	4.1	外面，花文・唐草文，腰に圏線，外高台に圏線。内面，口縁梅文，腰に圏線。見込み，圏線・花菱・唐草文。
474	〃	〃	〃 鉢	灰白色 5GY8/1	灰白色 5GY8/1	灰白色 N8/0	11.8	7.5	－	5.6	透明釉。八角鉢。外面，雲文・宝文，外高台に一重圏線。内面，藤文・一重圏線。
475	〃	〃	〃 杯	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	6.2	(4.7)	－	－	透明釉。外面に砂付着。
476	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5GY8/1	灰白色 2.5GY8/1	灰白色 N8/0	7.1	3.3	－	2.9	透明釉。外面，笹文。内面，砂付着。
477	〃	〃	〃 壺	明緑灰色 7.5GY8/1	明緑灰色 7.5GY8/1	灰白色 7.5GY8/0	9.2	(7.7)	－	－	白磁釉。肩部，被熱。
478	〃	〃	陶器 菊皿	暗オリーブ色 7.5Y4/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	灰白色 10YR7/1	7.6	1.8	－	4.9	輪花皿。灰釉。型打。
479	〃	〃	備前焼 擂鉢	赤色 10R5/6	赤色 10R5/6	赤色 10R5/6	28.2	10.6	－	15.6	11条単位の条線。
480	〃	〃	〃 水滴	灰白色 10YR8/2	－	灰白色 10YR8/2	－	9.3	7.2	4.2	茄子を模した水滴。ヘタは緑釉，体部は暗赤褐釉。型打。
図218 482	〃	SK26	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	5.7	0.9	－	5.1	内外面，回転ナデ。精選された胎土。
483	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	9.4	1.8	－	6.4	内外面，回転ナデ。タール付着，内底面，被熱。精選された胎土。
484	〃	〃	磁器 碗	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	8.0	5.4	－	3.8	貫入顕著。外面，宝文・芭蕉文，外高台に二重圏線。高台内「サ」銘。口縁内面，圏線。見込み，圏線・雁金文。
485	〃	〃	〃 水滴	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	－	全高 3.1	全幅 6.8	－	透明釉。型打ち陽刻，麻の葉文・桃文。染付雷文。焼成前穿孔2箇所。
486	〃	〃	陶器 蓋	にぶい赤橙色 10R6/3	灰黄色 2.5Y7/2	－	10.7	3.2	－	摘み径 1.7	外面，灰釉。内面，釉剥。
487	〃	〃	〃 碗	黒褐色 5YR3/1	黒褐色 5YR3/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(4.9)	－	5.2	内面～外面高台付近に鉄釉。削り出し高台。
図220 488	〃	SK28	土質 蓋	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	－	1.2	－	2.9	摘み，貼り付け。天井部，糸切り。ロクロ成形。
489	〃	〃	〃 皿	灰白色 10YR8/2	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	10.2	1.3	－	5.7	口縁部歪む。精選された胎土。
490	〃	〃	〃 焙烙	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	40.4	(3.4)	－	－	ナデ。口縁，タール付着。
491	〃	〃	〃 火消壺	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	13.0	(13.2)	22.0	－	円筒形。外面，ナデ。内面，指圧・ナデ。
492	〃	〃	〃 焜炉	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	14.2	(7.0)	－	－	京都系白色系土師質土器焜炉。円筒形。二重構造。窓上部印刻あり。
493	〃	〃	〃 火鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(18.6)	－	17.2	円筒形。内外面，ナデ。
494	〃	〃	〃 〃	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい橙色 2.5YR6/4	27.0	(24.0)	－	－	外面，ナデ。内面，ハケ状工具による調整。内面，煤付着。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図221 495	8－2区	SK28	瓦質 焜炉	褐灰色 10YR4/1	黒色 10YR2/1	にぶい橙色 7.5YR6/4	14.2	15.7	15.4	12.6	窓部分肥厚。外面，ミガキ。側面，扇状突起貼り付け。脚貼り付け。内面，タテハケ。
496	〃	〃	磁器 大皿	－	明緑灰色 10GY8/1	灰白色 10Y8/1	29.7	4.9	－	16.8	稜花皿。見込み，菊文。高台内，ハリ痕。
497	〃	〃	〃 灯明受皿	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 N8/0	11.1	2.0	－	4.2	白磁釉。受部，釉剥。
498	〃	〃	〃 碗	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	－	(4.7)	－	4.6	外面，「寿福寿」文・窓絵に船文，外高台に二重圏線。高台内「茶山」銘。見込み，二重圏線に山水文。
499	〃	〃	陶器 蓋	橙色 5YR6/8	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	2.9	全幅 12.1	5.9	橙釉，一部緑釉。摘み，貼り付け。天井部，回転糸切り。
500	〃	〃	〃 皿	黒色 2.5Y2/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	13.0	5.1	－	5.4	内面～外面高台付近に鉄釉。削り出し高台。見込み，蛇ノ目釉剥。重ね焼き痕。
501	〃	〃	〃 灯明受皿	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	10.0	1.9	－	3.8	白磁釉。底部，露胎。見込み～外口縁，タール付着。
図222 502	〃	〃	〃 甕	にぶい赤褐色 5YR4/3	にぶい赤褐色 5YR4/3	灰褐色 5YR5/2	19.8	(17.4)	－	－	柿釉に鉄釉掛け流し。肩部外面に６条沈線。
503	〃	〃	〃 土瓶	暗赤灰色 2.5YR3/1	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	7.2	9.3	13.4	6.3	外面，灰釉掛け流し。内面，鉄釉。
504	〃	〃	〃 火鉢	灰褐色 5YR4/2	－	灰白色 2.5Y8/2	14.2	(8.2)	－	－	瀬戸・美濃。外面，灰釉後緑釉。内面，露胎。
図224 507	〃	SK29	弥生 鉢	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	17.6	(3.0)	－	－	内面，ヘラ状工具によるミガキ。キレツ。
図226 509	〃	SK31	磁器 碗	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	10.8	6.0	－	4.4	外面，帯文・蓮弁文・窓に山水文・船文。口縁内面，帯文・蓮弁文。見込み，圏線・雲文。高台内枠に「茶」銘。
510	〃	〃	〃 〃	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	11.7	6.6	－	5.0	外面，口縁帯文・圏線。草花文。内面口縁帯文・圏線。見込み，宝文・圏線。高台内枠に「茶」銘。内面，被熱。
511	〃	〃	〃 〃	灰白色 5GY8/1	灰白色 5GY8/1	灰白色 N8/0	11.0	6.3	－	6.4	広東碗。口縁，波文。扇の窓絵に船文・網干文。見込み圏線「寿」文，ハリ痕３箇所。高台内枠に「茶」銘。
512	〃	〃	〃 〃	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	12.2	7.0	－	6.9	広東碗。外面に桃文，腰折に一重圏線，外高台に二重圏線。
513	〃	〃	陶器 皿	暗赤灰色 2.5YR3/1	暗赤灰色 2.5YR3/1	褐灰色 10YR6/1	12.9	4.5	－	4.4	内面～外面高台付近に鉄釉。削り出し高台。見込み，蛇ノ目釉剥。外面に沈線。重ね焼き痕。
514	〃	〃	〃 合子	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	7.0	2.3	－	摘み径 1.5	蓋。灰白釉。内面，釉剥。
515	〃	〃	〃 〃	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 5Y8/1	7.7	3.3	－	3.3	身。灰白釉。口縁，釉剥。高台，無釉。
図228 516	〃	SK40	弥生 甕	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	15.2	(3.4)	－	－	口唇，ハケによる面取り。口縁：タタキ後タテハケ／ヨコハケ。
517	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR6/1	－	(11.6)	－	4.3	角の取れた平底。体部：タタキ後タテハケ／ナデ。内底面，指圧。
図231 518	8－1区	SD1	緑釉 －	灰オリーブ色 7.5Y5/3	灰オリーブ色 7.5Y5/3	灰色 7.5Y6/1	－	(2.1)	－	7.4	見込み，沈線。摩耗顕著。
519	〃	〃	陶器 皿	にぶい褐色 7.5YR6/3	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	13.2	(1.9)	－	－	唐津。内面から外面口縁にかけて施釉。
図233 521	〃	SD2	土質 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(0.6)	－	8.0	ロクロ成形。底部，回転糸切り。
図235 522	8－2区	SD9	磁器 蓋	灰白色 5GY8/1	灰白色 5GY8/1	灰白色 N8/0	－	(2.2)	－	摘み径 5.5	透明釉。外面，鹿文・草文。天井部，一重圏線・草文。
523	〃	〃	〃 杯	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	7.0	3.5	－	2.8	透明釉。外面，山水文。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図235 524	8－2区	SD9	陶器 皿	黒色 7.5YR2/1	黒色 7.5YR2/1	にぶい橙色 5YR7/3	12.5	5.0	－	5.6	内面～外面高台付近に鉄釉。削り出し高台。見込み，蛇ノ目釉剥。外面に沈線。
図237 525	8－1区	SE1	弥生 壺	にぶい黄橙色 10YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄橙色 10YR7/3	13.4	(4.8)	－	－	口唇，面取り。口縁・頸部：タタキ後指頭成形／ナナメハケ，ナデ。接合痕。
526	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y4/1	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	－	(4.8)	8.4	－	体部：丁寧なナデ／ナデ，指圧。
527	〃	〃	土師 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	13.6	2.4	－	10.8	内外面，ヨコミガキ。
528	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	16.2	4.0	－	11.0	内外面，ミガキ。底部，ヘラ切り後ミガキ。
529	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/3	13.0	3.0	－	7.9	内外面，回転ナデ。底部，回転ヘラ切り。
530	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	14.0	2.9	－	8.6	体部，回転ナデ。底部，回転ヘラ切り後ナデ。内底面，仕上げナデ。
531	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	－	(1.0)	－	8.5	底部，回転ヘラ切り痕。全体摩耗。黒斑。
532	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	灰色 5Y6/1	－	(1.6)	－	4.2	内外面，回転ナデ。底部，ヘラ切り。
533	〃	〃	〃 蓋	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	黄灰色 2.5Y6/1	14.6	(1.7)	－	－	端部，ルーズな面取り。外面，ヨコナデ・ミガキ。
534	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(2.4)	－	摘み径 3.3	体部，回転ナデ。摘み，貼り付け，接着点棒状工具による調整。
535	〃	〃	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	黒色 2.5Y2/1	にぶい橙色 7.5YR7/3	17.9	(3.0)	－	－	口唇，２条の凹面。口縁外面，ヨコナデ。内面，ヨコハケ。頸部外面，ヨコハケ。内面，ヨコナデ。煤。
536	〃	〃	〃 高杯	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	橙色 7.5YR7/6	11.6	(1.1)	－	－	内外面，回転ナデ。
537	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 5YR5/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	橙色 5YR6/6	－	(6.7)	－	－	杯部，底面ミガキ。脚部外面，八角形に面取り。内面，ねじり痕。
538	〃	〃	〃 皿	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	12.1	1.4	－	8.0	内外面，回転ナデ。底部，ヘラ切り後ナデ。
539	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR6/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	13.4	1.3	－	8.0	内外面，回転ナデ。底部，ナデ。
540	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	13.7	(1.7)	－	－	内外面，回転ナデ。見込み，ナデ後ミガキか。底部，ナデ。
541	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	15.3	2.4	－	8.2	内外面，回転ナデ。底部，ヘラ切り後ナデ。
542	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	16.2	1.1	－	13.2	内外面，回転ナデ後ミガキ。見込み，暗文。底部，ヘラ切り後ナデ。
543	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	－	(1.8)	－	－	全体摩耗。調整不明。
544	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	－	(2.4)	－	15.8	底部，ヨコミガキ。高台周辺，ヨコナデ。
545	〃	〃	〃 盤	橙色 2.5YR6/6	明赤褐色 5YR5/6	明赤褐色 5YR5/6	24.8	(1.9)	－	－	口唇，回転ナデ後ミガキか。摩耗。
図238 546	〃	〃	須恵 杯	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	12.9	4.4	－	8.9	杯B。体部，回転ナデ。高台内，ナデ。
547	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	－	(5.2)	－	9.4	体部，回転ナデ。底部，ヘラ切り，貼り付け高台。畳付，凹面状。高台内，墨書「東」。
548	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y5/1	灰褐色 7.5YR4/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	－	(1.0)	－	5.8	内外面，回転ナデ。見込み，仕上げナデ。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図238 549	8－1区	SE1	須恵杯	灰色 N6/0	黄灰色 2.5Y5/1	灰色 N6/0	13.4	3.2	－	9.2	内外面，回転ナデ。底部，ヘラ切り後ナデ。火襷あり。
550	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	14.2	5.0	－	7.5	口唇，軽い面取り。内外面，回転ナデ。底部，ヘラ切り後ナデ。見込み，ナデ。煤。
551	〃	〃	〃 蓋	灰黄褐色 10YR6/2	灰白色 2.5Y7/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(2.2)	－	摘み径 2.6	天井部，回転ナデ。ヘラ記号。
552	〃	〃	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	15.7	(1.9)	－	12.5	内外面，回転ナデ。底部，ヘラ切り後ナデ。見込み，ナデ。
553	〃	〃	〃 〃	にぶい黄褐色 10YR5/3	暗灰黄色 2.5Y5/2	黄灰色 2.5Y5/1	16.0	2.0	－	12.0	内外面，回転ナデ。底部，回転ヘラ切り後ナデ。
554	〃	〃	〃 盤か	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	19.3	(2.2)	－	－	内外面，回転ナデ。
555	〃	〃	〃 甕	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	20.0	(3.0)	－	－	口唇，荒れる。内外面，回転ナデ。
556	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 5Y7/1	－	(4.5)	－	－	内外面，ヨコナデ。
図240 558	〃	SE2	土質皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	6.6	1.2	－	5.2	ロクロ成形。底部，回転糸切り。精選された胎土。
559	〃	〃	陶器壺 or 甕	灰黄褐色 10YR5/2	黒褐色 10YR3/2	褐灰色 10YR5/1	－	(8.7)	－	－	口唇，面取り。口縁，ヨコナデ。体部，ケズリ。
図242 560	〃	SX1	弥生壺	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	灰色 5Y5/1	15.8	(2.3)	－	－	口唇，3条の凹線。口縁：タテハケ後ヨコナデ／摩耗。
561	〃	〃	〃 甕	黒褐色 2.5Y3/1	にぶい黄橙色 10YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	－	(16.5)	15.6	2.7	丸底。体部：タテハケ／ナナメハケ。
562	〃	〃	須恵杯	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	－	(4.0)	－	－	内外面，回転ナデ。
図244 563	8－2区	SX2	磁器皿	灰白色 7.5Y8/2	灰白色 7.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/1	9.8	(1.9)	－	－	透明釉。外面，鷺文。口縁内面，二重圏線。見込み，一重圏線。
564	〃	〃	〃 碗	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	－	(3.3)	－	4.2	透明釉。外面，窓絵に雲文，外高台，二重圏線。高台内，「茶山」銘。見込み，一重圏線。
565	〃	〃	陶器皿	灰白色 2.5Y8/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	13.2	(2.0)	－	－	白磁釉。内面～外面口縁，施釉。
図245 566	8－1区	P36	弥生壺	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰白色 5Y7/1	15.8	(2.4)	－	－	口縁：タテハケ後ヨコナデ／ヨコナデ・ナデ。被熱。
567	〃	P110	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/4	16.7	(1.0)	－	－	口唇，ハケ状原体による刻み。口縁：ヨコナデ・ナナメハケ／ヨコナデ。
568	〃	P115	〃 甕	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	16.7	(2.1)	－	－	口唇，面取り。ナデ痕。口縁：ナデ・ヘラナデ／ヨコハケ。キレツ。黒斑。被熱。
569	〃	P130	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	15.8	(2.3)	－	－	口唇，ルーズな面取り。口縁：タタキ後指頭成形／ナナメハケ。煤。
570	〃	P127	〃 鉢	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	12.6	(3.0)	－	－	口縁：タタキ後ナデ／ナナメハケ。穿孔あり。
571	〃	P99	〃 底部	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	浅黄橙色 10YR8/4	－	(2.9)	－	4.8	平底。外底面，ハケ・ナデにより平滑。体部：タテハケ／強いナデ。黒斑。
572	〃	P129	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	橙色 5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(2.5)	－	4.8	平底。角は突出しており，立ち上がりはナデ。内面ナデ。ハケメあり。黒斑。
573	8－2区	P125・130	〃 〃	－	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/3	－	(1.7)	－	3.9	角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：タタキ後ナデ／。擬口縁。
574	8－1区	P27	土質杯	灰白色 10YR7/1	褐灰色 7.5YR4/1	褐灰色 10YR6/1	－	(1.0)	－	7.9	底部，回転糸切り痕。精選された胎土。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図245 575	8－1区	P40	土質 杯	にぶい橙色 5YR6/4	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	－	(1.0)	－	8.6	内外面，ロクロナデか。底部，回転糸切りか。
576	〃	P96	〃 椀	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	－	(1.4)	－	7.0	外面，回転ナデ。内面，調整不明。
577	〃	P136	〃 〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	－	(2.6)	－	－	口唇，面取り。外面，ミガキ。
578	〃	P34	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	6.6	1.0	－	4.1	内外面，ロクロ成形。底部，回転糸切り。
579	〃	P110	須恵 鉢	黄灰色 2.5Y5/1	黒色 N2/0	黄灰色 2.5Y5/1	－	(2.1)	－	－	口縁，回転ナデ。外面，黒色物塗布。
580	〃	P49 ・51	青磁 碗	灰黄色 2.5Y6/2	釉　灰白色 10Y7/2	灰白色 2.5Y7/1	－	(2.6)	－	－	貫入細かい。
図246 581	〃	検出面	弥生 壺	明赤褐色 2.5YR5/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y4/2	18.4	(2.5)	－	－	口唇，横２条の沈線，縦キザミ。口縁：ヨコナデ／ヨコハケ。
582	〃	攪乱	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい橙色 5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	16.3	(11.0)	－	－	口縁：タテハケ後ヨコナデ／ヨコナデ。頸部：タテハケ／ヨコハケ後ナナメハケ・ナデ。煤。黒斑。
583	〃	検出面	〃 体部片	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	－	(3.7)	－	－	タテハケ後ヘラによる線刻。
584	〃	〃	ミニ	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N4/0	7.0	6.0	－	－	丸底。底部，指圧。口縁：指頭による作り出し。体部：タタキ後ナデ／ナデ。
585	〃	〃	須恵 片口鉢	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y8/2	22.0	(4.1)	－	－	内外面，ヨコナデ。
586	〃	〃	〃 壺	灰色 7.5Y5/1	灰白色 7.5Y7/1	黄灰色 2.5Y6/1	21.4	(4.0)	－	－	内外面，回転ナデ。
587	〃	撹乱	土質 皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	6.4	1.1	－	3.8	灯明皿。ロクロ成形。底部，回転糸切り。歪む。精選された胎土。
588	8－2区	表採	緑釉 〃	オリーブ灰色 10Y6/2	オリーブ灰色 10Y6/2	灰白色 2.5Y8/2	－	(1.8)	－	4.6	底部，糸切り。外面，緑釉。一部剥離，退色。
589	8－1区	検出面	瓦器 椀	灰色 7.5Y4/1	灰色 7.5Y4/1	灰白色 2.5Y8/2	－	(0.8)	－	5.9	高台周辺，ヨコナデ。精選された胎土。
590	〃	〃	青磁 碗	灰オリーブ色 5Y5/2	灰オリーブ色 5Y5/2	灰白色 N7/0	－	(2.6)	－	5.6	高台～畳付，露胎。
591	〃	〃	瓦質 鍋	灰色 N4/0	灰色 N4/0	灰白色 10Y8/1	－	(3.7)	－	－	内面，ヨコナデ
592	〃	攪乱	磁器 紅皿	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	4.6	1.5	－	1.4	白磁。型打成形。高台付近，無釉。
593	〃	〃	陶器 蓋	灰黄色 2.5Y6/2	灰オリーブ色 5Y6/2	灰白色 N7/0	7.3	1.9	－	摘み径 1.4	天井部，露胎。外面，染付。
594	8－2区	包含層	〃 皿	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 5Y8/1	7.1	1.9	－	3.3	稜花皿。見込み中央，焼成前穿孔。高台内外，釉剥。釉脆い。
595	8－1区	撹乱	〃 灯明皿	灰褐色 5YR4/2	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/3	7.2	5.7	－	3.6	底部，無釉。回転糸切り。
図261 599	9－1区	SB14	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	6.1	1.6	－	3.8	P118 出土。口縁，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。ほぼ完形。
600	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.0	1.8	－	4.4	P118 出土。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。内底面，渦状。外底面，回転糸切り痕。器壁，うすい。歪む。
601	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	7.1	2.1	－	3.6	P118 出土。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。内底面，渦状。外底面，回転糸切り痕。ほぼ完形。
602	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.1	1.7	－	4.1	P118 出土。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面・内底面，回転糸切り痕。外底面，簀状圧痕。被熱か。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図265 603	9－1区	SB17	土質杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(2.2)	－	4.4	P95 出土。体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。やや摩耗。
図272 604	〃	SB23	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	－	(2.9)	－	6.6	P121 出土。扁平なベタ高台状。内外面，回転ナデ。外面・内底面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
図278 606	〃	SB28	〃 皿	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	6.4	1.2	－	4.9	P318 出土。口縁，外上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底縁，凹む。外底面，回転糸切り痕。
607	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	7.2	1.3	－	5.1	P318 出土。内面，回転ナデ後ナデ。外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。歪む。被熱か。ほぼ完存。
608	〃	〃	〃 羽釜	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	橙色 5YR7/6	18.6	(6.4)	－	－	P322 出土。口縁下に断面三角形の鍔。口縁，ヨコナデ。鍔上面，強いヨコナデにより凹む。摩耗。調整不明瞭。
図280 609	〃	SB29	〃 杯	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	12.0	(2.8)	－	－	P303 出土。体部，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ。外面，ロクロ目。
図282 610	〃	SB30	〃 皿	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	－	6.9	2.1	－	3.5	P349 出土。内外面，回転ナデ。内底中央，凹む。外底面，回転糸切り痕。被熱か。摩耗。ほぼ完存。
611	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.1	4.3	－	5.9	P202 出土。体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
612	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 10YR5/1	13.5	5.3	－	8.0	P282 出土。体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。摩耗。
613	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(3.1)	－	6.2	P282 出土。内外面，回転ナデ。外面下半・内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。煤。
図291 614	〃	SB38	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	－	(1.9)	－	5.6	P278 出土。体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱か。
図293 615	〃	SB39	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	11.2	(4.3)	－	－	P414 出土。体部，斜め外方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。煤。底部，接合面で剥離。
図296 616	〃	SB41	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	－	(3.3)	－	6.0	P273 出土。体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図298 617	〃	SB42	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(3.5)	－	5.7	P287 出土。体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱か。
図301 618	〃	SB44	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/2	10.4	5.0	－	6.0	P409 出土。扁平なベタ高台状。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図309 619	〃	SB51	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	－	(2.9)	－	6.2	P567 出土。体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図311 621	9－2区	SB52	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	5.2	(2.0)	－	－	P853 出土。体部，内湾気味に立ち上がる。内外面，回転ナデ。被熱。
622	9－1区	〃	青磁碗	灰オリーブ色 5Y4/2	灰オリーブ色 5Y4/2	黄灰色 2.5Y6/1	－	(2.5)	－	5.3	P542 出土。見込みに界線と文様。内外面とも透明感のある釉薬。
623	〃	〃	陶器瓶子	灰白色 2.5Y8/1	オリーブ黄色 5Y6/3	灰白色 2.5Y8/1	－	－	－	－	P542 出土。肩部に4条1単位の櫛描文を2単位。外面，全面施釉。内面肩部にも施釉。貫入あり。
図313 624	9－2区	SB53	土質捏鉢	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	－	(2.3)	－	－	P777 出土。口唇，上方へ拡張。内外面，回転ナデ。摩耗。
図317 625	〃	SB56	〃 皿	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	灰白色 10YR8/1	7.4	1.4	－	4.7	P875 出土。口縁，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
図319 626	〃	SB57	〃 羽釜	赤褐色 5YR4/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	18.8	(3.7)	－	－	P849 出土。口縁下に鍔。口縁外面，ヨコナデ。内面，ヘラナデ。体部外面，ヨコナデ。内面，ヘラナデ。煤。
図324 627	〃	SB61	〃 杯	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	褐灰色 10YR4/1	11.6	4.9	－	6.4	P825 出土。体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
628	〃	〃	〃 〃	褐灰色 10YR6/1	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	13.0	4.5	－	7.9	P825 出土。体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
図326 629	〃	SB62	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	11.7	3.3	－	6.7	P844 出土。体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図326 630	9－2区	SB62	土質杯	灰白色 10YR8/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	灰白色 10YR8/2	－	(2.6)	－	7.0	P844 出土。体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
図330 631	〃	SB65	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(4.1)	－	6.5	P869 出土。底端部，突出。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
632	〃	〃	瓦質鍋	灰白色 10YR7/1	灰白色 10YR8/1	褐灰色 10YR5/1	19.4	(9.0)	－	－	P869 出土。扁球形の体部。口唇，摘み上げ。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ヨコナデ。煤。
図332 633	〃	SB66	〃 羽釜	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y4/1	灰色 5Y5/1	16.8	(2.2)	－	－	P756 出土。口縁，内傾。口唇，凹む。口縁下に鍔を付す。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ヨコナデ。
図346 634	〃	SB79	土質皿	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	6.6	1.4	－	5.6	P707 出土。口縁，短く外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
635	〃	〃	〃 杯	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	－	(2.7)	－	7.0	P707 出土。内外面，回転ナデ，ロクロ目。内底面，渦状。外底面，回転糸切り痕。被熱。
図357 636	9－1区	SA11	瓦器皿	灰色 N4/0	灰色 N4/0	灰黄色 2.5Y7/2	8.0	(2.2)	－	－	P186 出土。口縁，斜め外方へ大きくひらく。外面，ヨコナデ。内面，暗文。
図362 637	〃	SK3	土質杯	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	－	(2.7)	－	7.2	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図365 638	〃	SK8	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	黄灰色 2.5Y6/1	－	(2.2)	－	6.4	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図368 639	〃	SK9	須恵 〃	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1	12.0	4.1	－	7.8	杯B類。底端部に断面台形の貼付け高台。端面，凹状。内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。
図370 640	〃	SK10	土質 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(1.2)	－	6.8	内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
641	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(2.2)	－	7.3	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図373 642	〃	SK15	須恵 捏鉢	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1	26.1	(4.1)	－	－	東播系。口縁，上方へ拡張。内外面，回転ナデ。焼成，やや不良。
図375 643	〃	SK17	土質杯	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	15.4	(3.3)	－	－	内外面，回転ナデ，ロクロ目。
図377 644	〃	SK18	瓦質羽釜	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR5/1	灰白色 2.5Y7/1	－	(2.8)	－	－	口縁，内傾。口唇，面取り。口縁下に断面長方形の鍔。口縁，ヨコナデ。
645	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y8/1	灰色 5Y4/1	灰白色 2.5Y8/1	24.2	(5.4)	－	－	口縁，内湾。口唇，面取り。口縁下に退化した鍔。口縁，ナデ。体部外面，ナデ。内面，ヨコナデ。やや摩耗。
図379 646	〃	SK20	土質杯	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	9.9	3.6	－	5.2	体部，外上方へ立ち上がる。腰部に傾斜変換点を持つ。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
図381 647	〃	SK22	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	－	(2.9)	－	5.4	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
648	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	灰白色 10YR7/1	－	(2.6)	－	5.8	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
649	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR6/3	27.0	(4.7)	－	－	口縁外面，強いヨコナデ。内面，ヘラナデ。体部，ヘラナデ。施釉か。被熱。
650	〃	〃	〃 捏鉢	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	32.2	(4.0)	－	－	口縁，上方へ拡張。注口を付す。内外面，回転ナデ。須恵の焼成不良か。被熱。煤。
図383 651	〃	SK26	〃 椀	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	15.0	4.9	－	7.6	円盤状高台。口縁，外反。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
652	〃	〃	弥生鉢	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 7.5YR4/1	(8.6)	(4.9)	－	2.5	平底。外底面，ナデ。体部：ナデ／ヘラナデ・ナデ。キレツ。黒斑。
図386 653	〃	SK28	土質杯	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(2.1)	－	4.4	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り後ナデ。
654	〃	〃	〃 羽釜	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(4.7)	－	－	断面台形の鍔。体部，ヨコナデ。摩耗。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図391 656	9－1区	SK31	土質 皿	浅黄橙色 7.5YR8/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR6/1	6.6	1.7	－	4.6	口縁，内湾気味に立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り後ハケ。
657	〃	〃	〃 杯	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	10.1	2.1	－	7.6	体部，斜め上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
658	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	12.6	(3.7)	－	－	内外面，回転ナデ。外面，ロクロ目。
659	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(2.4)	－	6.4	体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外面，強いロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
660	〃	〃	〃 釜	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/3	24.2	(6.0)	－	－	口縁下，強いヨコナデにより凹む。口縁，ヨコナデ。体部，ヨコナデ。脚，剥離。被熱赤変。摩耗。
661	〃	〃	瓦質 羽釜	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰白色 2.5Y7/1	24.0	(4.5)	－	－	口唇，面取り。口縁下に断面台形の鍔。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ヨコナデ。摩耗。
図393 662	〃	SK33	土質 皿	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	6.6	1.9	－	4.8	口縁，外上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底縁，凹む。外底面，回転糸切り痕。ほぼ完存。やや摩耗。
663	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	6.7	1.7	－	5.0	口縁，外上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底縁，凹む。外底面，回転糸切り痕。ほぼ完存。やや摩耗。
664	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	6.8	1.7	－	4.9	口縁，外上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底縁，凹む。外底面，回転糸切り痕。やや摩耗。
665	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	6.8	1.8	－	5.2	口縁，外上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。ほぼ完存。
666	〃	〃	〃 杯	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	11.2	4.1	－	6.0	内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
667	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	11.4	4.3	－	6.4	体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。ほぼ完存。
図395 668	〃	SK34	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	13.8	(4.1)	－	－	体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。被熱か。
669	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(2.9)	－	5.5	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図397 670	〃	SK36	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(2.3)	－	7.0	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
671	〃	〃	瓦質 羽釜	黄灰色 2.5Y5/1	灰色 5Y5/1	灰白色 2.5Y7/1	19.2	(2.4)	－	－	口縁，内傾。口唇，面取り。口縁下に断面台形の鍔。口縁，ヨコナデ。鍔上面，強いヨコナデにより凹む。
672	〃	〃	須恵 捏鉢	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	30.2	(4.4)	－	－	東播系。口縁，上方へ拡張。内外面，回転ナデ。体部の器壁，うすい。
図399 673	〃	SK37	土質 杯	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	14.0	4.1	－	5.6	体部，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
674	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(2.2)	－	5.7	体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
675	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	－	(2.5)	－	5.9	体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
676	〃	〃	瓦質 鍋	灰色 N4/0	灰色 N4/0	灰白色 2.5Y7/1	27.2	(2.8)	－	－	口縁，受け口状。口縁，ヨコナデ。煤。
図403 677	〃	SK41	土質 皿	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	6.0	1.5	－	4.6	口縁，外上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
678	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	6.4	1.6	－	4.6	口縁，外上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
679	〃	〃	〃 杯	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	灰白色 10YR7/1	－	(2.8)	－	5.8	体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。内底面，渦状。外底面，回転糸切り痕。被熱か。
680	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	褐灰色 10YR5/1	灰黄褐色 10YR6/2	－	(1.8)	－	6.2	体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 407 681	9－1区	SK47	土質 杯	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	13.4	2.7	－	8.0	体部，斜め外方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
682	〃	〃	備前焼 擂鉢	にぶい赤褐色 5YR5/3	にぶい赤褐色 5YR5/3	橙色 2.5YR6/6	－	(5.1)	－	－	口縁，上方へ拡張。外面，2条の凹線。内面，10条1単位の条線を全面に施す。注口を付す。あまり使用感がみられない。
683	〃	〃	陶器 鉢	赤黒色 2.5YR1.7/1	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	黄灰色 2.5Y6/1	25.2	11.1	－	11.0	鉄釉を施す。削り出し高台，露胎。見込み，胎土目。
図 412 685	9－2区	SK57	土質 皿	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	9.4	1.6	－	8.0	口縁，短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。内底縁，凹む。
図 414 686	〃	SK61	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	6.2	1.5	－	4.2	口縁，斜め外方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。被熱。やや摩耗。
687	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/4	－	6.5	1.6	－	4.6	口縁，外上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。被熱。ほぼ完存。摩耗。
688	〃	〃	須恵 捏鉢	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR5/1	28.0	(5.0)	－	－	東播系。口縁，上方へ拡張。内外面，回転ナデ。重ね焼き痕。自然釉。内面，使用感あり。
図 419 689	〃	SK67	土質 杯	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	11.6	3.5	－	7.5	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。摩耗。
図 421 690	〃	SK68	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	－	(4.4)	－	5.2	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り後ナデ・簀状圧痕。被熱か。
図 423 691	〃	SK71	〃 皿	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	7.8	1.6	－	6.1	内外面，回転ナデ。内底縁，凹む。外底面，回転糸切り痕。底部，直径0.5㎝の焼成前穿孔。
692	〃	〃	〃 杯	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	12.6	4.7	－	7.4	体部，斜め上方へ立ち上がり，口縁部を外反させる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図 425 694	〃	SK72	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	5.4	1.6	－	4.0	口縁，短く外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
695	〃	〃	〃 杯	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	11.4	4.0	－	7.4	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱か。
図 427 696	〃	SK74	〃 皿	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	8.4	1.6	－	5.2	口縁，短く外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
697	〃	〃	〃 杯	灰白色 7.5YR8/2	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	13.2	4.4	－	6.5	内外面，回転ナデ。外面下半・内面下半，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱赤変。煤。
698	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	灰白色 10YR7/1	－	(2.3)	－	6.4	体部，内湾気味に立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。やや摩耗。
図 434 700	9－3区	SK85	〃 皿	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	8.0	2.0	－	6.0	口縁，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。被熱。摩耗。
701	〃	〃	〃 羽釜	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	にぶい橙色 7.5YR7/3	－	(5.0)	－	－	口縁，内湾。口唇，面取り。口縁，ヨコナデ。体部，ナデか。被熱。摩耗。
図 438 702	〃	SK90	須恵 捏鉢	灰色 N6/0	灰色 N6/0	灰色 N6/0	24.8	(2.6)	－	－	口縁，上方へ拡張。内外面，回転ナデ。重ね焼き痕。
図 440 703	〃	SK95	土質 杯	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	14.2	4.0	－	5.7	体部，斜め上方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。やや摩耗。
図 444 704	〃	SK102	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR5/1	12.8	(2.3)	－	－	口縁，斜め外方へ大きくひろがる。口縁，ナデ。手捏ねか。被熱。
705	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	12.1	(3.0)	－	－	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。
706	〃	〃	瓦質 鍋	灰色 5Y4/1	灰色 5Y4/1	灰色 5Y4/1	17.8	(6.0)	－	－	扁球形の体部，直立気味の口縁。口唇，面取り。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ヘラナデ。
図 448 708	〃	SG1	弥生 壺	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 7.5YR4/1	－	58.6	55.2	8.5	卵倒形。体部；叩き後ハケ・ミガキ／粗いハケ・ナデ。丸みを持った平底。外底面，ナデ。黒斑。
図 451 709	9－1区	SD2	瓦質 鍋	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰白色 2.5Y7/1	19.3	(4.2)	－	－	口唇，ハケ状原体による面取り。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ナデ。やや摩耗。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図451 710	9－1区	SD2	備前焼 壺	にぶい黄褐色 10YR5/3	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR6/2	9.0	(2.8)	－	－	短い頸部から口縁が外反する。口縁，ヨコナデ。頸部，ヨコナデ。
図453 711	〃	SD3	土質 杯	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(1.8)	－	6.8	内外面，回転ナデ。外面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図458 712	〃	SD7	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	17.2	(2.1)	－	－	内外面，回転ナデ。煤。
図460 713	〃	SD8	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	－	(1.1)	－	5.4	内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
714	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 5Y5/1	－	(1.0)	－	6.6	内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
715	〃	〃	〃 羽釜	にぶい黄橙色 10YR7/3	浅黄色 2.5Y7/3	浅黄色 2.5Y7/3	－	(5.7)	－	－	口縁，内傾。口唇，面取り。口縁下に断面台形の鍔。口縁，ヨコナデか。体部，ナデか。煤。摩耗。
716	〃	〃	瓦質 鍋	灰色 5Y4/1	灰色 5Y4/1	灰色 5Y5/1	16.8	(4.8)	－	－	口縁，ごく僅かに外反。口唇，ハケ状原体による面取り，尖らせる。口縁，ナデ。体部，ナデ。やや摩耗。
717	〃	〃	白磁 皿	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 2.5Y7/1	13.6	(1.5)	－	－	口縁内面，僅かに凹む。透明感のある釉薬。
718	〃	〃	青磁 碗	オリーブ灰色 2.5GY5/1	オリーブ灰色 2.5GY5/1	褐灰色 10YR6/1	17.0	(2.8)	－	－	口唇，丸くおさめる。残存部は無文。外面，強いロクロ目。貫入あり。
図464 719	〃	SD11	土質 杯	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	－	(2.1)	－	6.6	内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，糸切り痕，静止か。
図465 720	〃	SK9・SD11	〃 羽釜	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	－	(3.2)	－	－	口縁，内傾。口唇，面取り。口縁下に断面三角形の鍔。口縁，ヨコナデ。体部，ヨコナデ。煤。
721	〃	〃	白磁 皿	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	－	(1.9)	－	3.2	アーチ状高台。見込み，重ね焼き痕。貫入あり。
図469 722	〃	SD15	土質 火鉢か	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	黄灰色 2.5Y5/1	－	(7.0)	－	－	体部，ヨコハケ・ヨコナデ。煤。接合面で剥離。
図471 723	〃	SD16	〃 椀	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	－	(3.4)	－	8.4	円盤状高台。体部，外上方へ立ち上がり，腰部で屈曲する。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。煤。
724	〃	〃	〃 三足釜	－	灰白色 10YR8/2	灰色 5Y6/1	－	－	－	－	脚部。ナデ。煤。接合面で剥離。
図472 725	〃	SD17	〃 杯	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	13.7	(3.0)	－	－	口縁，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ。
726	〃	〃	〃 羽釜	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい橙色 5YR6/4	15.4	(3.2)	－	－	口唇，面取り。口縁下に断面三角形の鍔。口縁，ヨコナデ。体部外面，叩き。内面，ヘラナデ・ヨコナデ。煤。
727	〃	〃	白磁 碗	灰白色 5Y8/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(2.8)	－	6.2	見込みに1条の界線。高台から腰部，露胎。被熱。ピンホール状。V類。
図475 729	〃	SD19	須恵 捏鉢	灰色 N5/0	灰色 N5/0	黄灰色 2.5Y5/1	－	(1.8)	－	－	東播系。口縁，上方へ拡張。口縁，ヨコナデ。
図478 730	〃	SD22	土質 羽釜	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	－	(3.6)	－	－	口唇，面取り。口縁下に鍔。口縁，ヨコナデ。体部外面，ヨコナデ。内面，ヘラナデ・ヨコナデ。やや摩耗。
731	〃	〃	〃 鍋	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(4.8)	－	－	口唇，面取り。口縁外面，ヨコナデ。内面，ナデか。体部外面，ナデ。内面，ナデか。被熱。摩耗。
732	〃	〃	瓦質 羽釜	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰白色 2.5Y7/1	21.4	(6.2)	－	－	口縁，内湾。口縁下に鍔の痕跡。口縁外面，ナデ。内面，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ナデ。摩耗。
図484 733	〃	SD28	土質 椀	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	褐灰色 10YR6/1	－	(2.4)	－	9.5	断面台形のベタ高台。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
図487 734	9－2区	SD32	土質 釜	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	14.4	(5.6)	－	－	口縁，短く内傾する。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ。内面，ヘラナデ。煤。
735	〃	〃	瓦質 羽釜	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y4/1	灰黄色 2.5Y7/2	24.8	(5.4)	－	－	口縁端部，内傾。口唇，沈線状。口縁下に鍔を付す。口縁，ヨコナデ。体部，ナデ。摩耗。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 487 736	9－2区	SD32	備前焼 壺	灰赤色 10R4/2	灰黄色 2.5Y6/2	赤灰色 10R6/1	－	(3.9)	－	－	内外面，回転ナデ。肩部，櫛描波状文。肩内，接合痕。
737	〃	〃	〃 擂鉢	にぶい赤褐色 5YR4/3	灰褐色 7.5YR4/2	灰褐色 7.5YR5/2	－	(4.7)	－	－	口唇，上下に拡張し，内傾。注口を付す。内外面，回転ナデ。内面，８条１単位の条線。重ね焼き痕。
738	〃	〃	〃 〃	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	29.0	13.4	－	10.7	口縁，上方へ拡張，２条の凹線。内外面，回転ナデ。内面，９～10条１単位の条線。
図 489 739	〃	SD33	青磁 碗	灰オリーブ色 5Y5/3	灰黄色 2.5Y6/2	黄灰色 2.5Y6/1	－	(1.6)	－	5.6	見込みに『金王満宮』の銘あり。断面長方形の低い削り出し高台。外底面，露胎。
図 493 740	〃	SD37	土質 皿	橙色 2.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	5.8	1.3	－	4.0	口縁，内湾気味に短く立ち上がる。内外面，回転ナデか。外底面，回転糸切り痕。被熱赤変。摩耗。
741	〃	〃	〃 杯	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	－	(3.3)	－	6.4	体部，斜め上方へ短く立上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図 495 742	〃	SD38	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR6/1	－	(2.9)	－	3.8	体部，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱か。
743	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	－	(2.8)	－	5.1	体部，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
744	〃	〃	〃 羽釜	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	21.1	(7.1)	23.5	－	口縁，内傾。口唇，凹面状。口縁下に断面台形の鍔。口縁，ヨコナデ。体部外面，叩き。内面，ヘラナデ。煤。
745	〃	〃	〃 三足釜	－	にぶい褐色 7.5YR5/3	橙色 7.5YR6/6	－	－	－	－	脚部。ナデ。被熱。接合面で剥離。
746	〃	〃	備前焼 擂鉢	灰褐色 5YR5/2	にぶい赤褐色 5YR5/3	灰褐色 5YR5/2	33.6	10.2	－	15.1	口縁，上方へ拡張。外面，回転ナデ・ナデ。内面，回転ナデ。内面，８条１単位の条線。内面，摩滅。
図 499 747	9－3区	SD41	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	12.0	(2.1)	－	－	口唇，尖らせる。口縁，ナデ。手捏ねか。外面，接合痕。被熱。748と同一個体か。
748	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR5/1	12.5	2.2	－	8.0	口縁，斜め外方へ大きくひろがる。口縁，ナデ。手捏ねか。外面，接合痕。被熱。747と同一個体か。
749	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	10.2	3.0	－	4.0	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
750	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.6	3.4	－	6.2	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。口縁下，直径0.2cmの焼成後穿孔。
751	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.6	3.6	－	4.5	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底面，弱いロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱か。
752	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.0	3.2	－	5.0	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。煤。やや摩耗。
753	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.2	3.1	－	5.4	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕・簀状圧痕。被熱。
754	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	12.2	4.3	－	5.2	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕・簀状圧痕。歪む。被熱。
755	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.6	4.0	－	5.2	内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕・ハケ目あるいは簀状圧痕。被熱か。
756	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.0	4.3	－	5.0	内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕・ハケ目あるいは簀状圧痕。
757	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	12.4	4.0	－	4.2	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
758	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.8	(3.0)	－	－	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。被熱か。
759	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(2.3)	－	4.8	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
図 500 760	〃	〃	〃 捏鉢	にぶい黄橙色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	にぶい黄橙色 10YR7/3	23.4	(4.0)	－	－	体部，斜め上方へのびる。口縁部を拡張させる。外面，回転ナデ。内面，回転ナデ後ナデ。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図500 761	9－3区	SD41	土質 羽釜	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	17.8	(5.0)	－	－	口縁，内傾。口唇，内傾。口縁下に断面台形の鍔。口縁，ヨコナデ。体部外面，叩き。内面，ヨコナデ。煤。
762	〃	〃	〃 茶釜	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/3	－	(9.4)	－	－	扁球形の体部から口縁が直立する。体部に鍔。肩部に把手。外面，ナデ・ハケ。内面，ヨコハケ・ヨコナデ。煤。
763	〃	〃	瓦質 鍋	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 2.5Y8/1	黄灰色 2.5Y6/1	20.4	(5.1)	－	－	口縁，ごく僅かに外反。口唇，面取り，内端部，僅かに摘み上げ。口縁，ヨコナデ。体部，ナデ。
764	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 N4/0	黄灰色 2.5Y6/1	19.6	(4.7)	－	－	口縁，内湾。口唇，面取り，凹面状。口縁外面，ナデ。指圧。内面，ヨコナデ。
765	〃	〃	備前焼 甕	黒色 7.5YR2/1	黒褐色 7.5YR3/1	灰褐色 7.5YR6/2	33	(4.8)	－	－	口縁，外側に折り曲げ，扁平な玉縁状を呈する。内外面，回転ナデ。自然釉，付着。
766	〃	〃	〃 擂鉢	灰褐色 5YR4/2	灰褐色 5YR5/2	灰褐色 5YR4/2	34.8	(5.0)	－	－	口縁，上方へ拡張し，２条の凹線。注口を付す。口縁，回転ナデ。内面，４条以上１単位の条線。
767	〃	〃	白磁 皿	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y8/1	11.6	3.2	－	6.5	E類。畳付，釉剥ぎ。ピンホール状。
768	〃	〃	〃 碗	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y8/1	16.6	(2.7)	－	－	端反り。ピンホール状。
図503 770	〃	SD43	瓦質 鍋	灰白色 10YR7/1	褐灰色 10YR5/1	褐灰色 10YR6/1	24.8	(7.3)	－	－	扁球形の体部，直立気味の口縁。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ナデ。煤。
図505 771	9－2区	SE2	土質 皿	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	橙色 7.5YR7/6	11.6	2.5	－	7.8	口縁，内湾気味に短く立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
772	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.4	2.5	－	7.4	口縁，外上方へ立ち上がる。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ。内面，ヨコナデ。手捏ねか。
773	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄褐色 10YR5/2	8.8	3.1	－	6.3	体部，斜め上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
774	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR6/6	11.4	(3.4)	－	－	体部，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。
775	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	12.1	4.6	－	6.5	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。歪む。
776	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	12.3	4.0	－	7.8	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱赤変。
777	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	12.3	3.6	－	4.0	内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。やや摩耗。
778	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	－	(3.8)	－	6.7	体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
779	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	－	(3.3)	－	7.0	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
780	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	－	(2.8)	－	6.5	体部，斜め上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面・外面腰部，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
781	〃	〃	〃 〃	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	－	(3.4)	－	7.6	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図506 782	〃	〃	須恵 甕	灰白色 10YR7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 10YR7/1	－	(2.2)	－	－	口唇，僅かに肥厚。口縁，ヨコナデ。
783	〃	〃	土師 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/8	褐灰色 10YR5/1	18.0	(2.8)	－	－	口縁，「く」の字に外反させ上方へ拡張。口縁，ヨコナデ・ナデ。
784	〃	〃	土質 羽釜	明褐色 7.5YR5/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	22.2	(3.8)	－	－	口唇，尖らせる。口縁下に断面三角形の鍔。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ヨコナデ。摩耗。
785	〃	〃	瓦質 〃	灰黄色 2.5Y7/2	灰色 N5/0	灰黄色 2.5Y7/2	21.2	(9.5)	－	－	口唇，凹面状。口縁に退化した鍔を付す。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ。内面，ヨコナデ。煤。
786	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	19.5	(3.6)	－	－	口縁，内傾。口唇，面取り。口縁に退化した鍔を付す。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ナデ。摩耗。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図506 787	9－2区	SE2	瓦質 鍋	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰白色 2.5Y7/1	21.2	(3.8)	－	－	口縁，外反。口唇，凹線状。端部，摘み上げ。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ヨコナデ。煤。
788	〃	〃	〃 三足鍋	－	灰色 7.5Y4/1	灰白色 2.5Y7/1	－	－	－	－	脚部。ナデ。接合面で剥離。
789	〃	〃	白磁 皿	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	11.4	3.3	－	6.8	E類。端反り。断面三角形の高台。全面施釉。高台先端，釉を削り取る。畳付・高台内，砂付着。ピンホール状。
790	〃	〃	〃 〃	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	12.0	2.9	－	5.9	E類。端反り。断面三角形の高台。全面，施釉。高台，砂付着。
791	〃	〃	〃 〃	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	12.4	(2.4)	－	－	E類。端反り。残存部全面，施釉。
792	〃	〃	磁器 〃	灰白色 10Y7/1	灰白色 10Y7/1	灰白色 N8/0	－	(1.5)	－	－	景徳鎮製。
793	〃	〃	〃 〃	灰白色 5GY8/1	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y8/1	－	(1.0)	－	6.0	景徳鎮製。
図507 794	〃	〃	常滑焼 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	灰黄褐色 10YR6/2	－	(6.6)	－	27.0	外底面，ナデ。体部，ナデ。
図510 798	9－1区	P1	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	6.4	1.8	－	4.4	口縁，内湾気味に短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
799	〃	P336	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/3	7.1	2.3	－	4.4	体部，内湾気味に立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。外底面，回転糸切り後ハケ。歪む，耳皿を意識か。残存率良好。
800	〃	P421	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	7.1	1.4	－	4.8	口縁，外上方へ短く立ち上がる。上げ底。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
801	〃	P607	〃 杯	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	10.4	3.0	－	4.8	内外面，回転ナデ。外面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。ほぼ完存。
802	9－2区	P861	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	灰白色 10YR8/2	11.2	4.0	－	7.3	体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外面，ロクロ目。内底央，渦状。外底面，回転糸切り痕。歪む。
803	〃	P809	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.5	4.4	－	6.6	体部，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。やや摩耗。
804	9－1区	P336	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	14.4	(3.7)	－	－	体部，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ，ロクロ目。
805	9－2区	P692	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	－	(2.7)	－	5.5	体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
806	9－1区	P336	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	－	(2.6)	－	5.9	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
807	〃	P71	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(2.1)	－	6.4	体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底縁・内底央，凹む。外底面，回転糸切り痕。やや摩耗。
808	〃	P339 ・340	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	褐灰色 10YR5/1	－	(3.5)	－	6.5	体部，斜め外方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。内底面，渦状。
809	9－2区	P672	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	－	(2.9)	－	6.7	内外面，回転ナデ。外面，ロクロ目。内底面，渦状。外底面，回転糸切り痕。被熱。煤。
810	9－1区	P3	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	－	(2.7)	－	7.0	扁平なベタ高台状。体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
811	〃	P477	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(2.0)	－	4.6	円盤状高台。内外面，回転ナデ。内底央，ヘソ状。外底面，回転糸切り痕。被熱。摩耗。
812	〃	P359	〃 椀	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(1.8)	－	7.9	外底面に輪高台を貼付。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
813	〃	P235	〃 蓋物	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	7.5	(3.0)	－	－	口縁，内折し，端部を肥厚させ蓋受けとする。内外面，回転ナデ。
814	〃	P122	〃 羽釜	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	19.8	(4.7)	－	－	口唇，面取り。口縁下に断面台形の鍔。口縁，ヨコナデ。体部外面，ヨコナデ・ナデ。内面，ヨコナデ。摩耗。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図510 815	9－2区	P692	瓦質 羽釜	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y5/1	灰黄色 2.5Y7/2	－	(5.8)	－	－	口縁下に退化した鍔。口縁外面，ヨコナデ。内面，ヘラナデ。体部外面，ナデ。内面，ヘラナデ。やや摩耗。
816	9－1区	P277	須恵 捏鉢	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	－	(3.5)	－	－	東播系。口縁，上方へ拡張。内外面，回転ナデ。
図511 819	〃	包含層	土質 皿	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	5.8	1.7	－	4.2	口縁，斜め外方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。被熱。煤。
820	9－2区	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	5.7	1.5	－	4.4	口縁，斜め外方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
821	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	褐灰色 10YR6/1	6.2	1.6	－	4.1	口縁，斜め外方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底縁，凹む。外底面，回転糸切り痕。被熱。
822	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/8	明赤褐色 2.5YR5/8	橙色 2.5YR6/6	10.9	1.8	－	8.3	口縁，斜め外方へ短くひらく。内外面，回転ナデか。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
823	9－1区	〃	〃 杯	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	7.7	2.8	－	4.4	体部，斜め外方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
824	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	10.6	3.2	－	6.1	体部，斜め外方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。2箇所に穿孔。被熱か。
825	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	11.0	3.5	－	6.2	体部，内湾気味に立ち上がる。内外面，回転ナデ。外面・内底面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
826	9－2区	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	11.5	4.1	－	3.9	内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕・簀状圧痕。被熱。
827	9－1区	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	12.6	4.9	－	5.1	体部，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
828	9－3区	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	12.6	4.8	－	5.0	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。摩耗。
829	9－1区	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	12.9	4.9	－	7.0	体部，斜め外方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。歪む。ほぼ完存。
830	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	13.1	3.9	－	7.6	体部，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
831	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	12.9	4.6	－	5.3	体部，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱か。
832	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	13.6	4.1	－	6.4	体部，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
833	9－2区	〃	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	－	(3.2)	－	7.9	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
834	9－1区	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/3	－	(2.1)	－	－	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデか。孔径4㎜の焼成前穿孔。
835	9－2区	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	－	(1.5)	－	7.0	体部，外上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底面，回転ナデ後ナデ。外底面，回転糸切り後ナデ。
836	〃	〃	〃 椀	灰白色 5Y8/1	灰色 N5/0	灰白色 N7/0	－	(1.6)	－	5.6	円盤状高台。内外面，回転ナデか。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
837	9－1区	〃	〃 柱高	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	－	(2.8)	－	5.2	円盤状高台。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
838	〃	〃	〃 不明	にぶい橙色 7.5YR7/3	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	－	(5.6)	－	8.2	円盤状高台。内外面，回転ナデ。粘土の巻き上げ痕。外底面，回転糸切り痕。被熱か。
図512 839	〃	〃	〃 羽釜	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	26.4	(2.9)	－	－	口縁，内傾。口唇，面取り。口縁下に低い断面三角形の鍔を付す。口縁，ヨコナデ。
840	9－2区	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR5/2	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	－	(4.7)	－	－	口縁，内傾。口縁下に低い断面三角形の鍔を付す。口縁，ヨコナデ。体部，ナデ。煤。
841	9－1区	〃	〃 捏鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(4.7)	－	－	口唇，肥厚。内外面，ナデか。被熱。やや摩耗。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図512 842	9－3区	包含層	土質 茶釜	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	18.0	(3.0)	－	－	口縁，直立。口縁，ヨコナデ。煤。
843	9－2区	〃	〃 羽釜	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y6/1	－	(6.3)	－	－	鍔を付す。体部外面，ヨコナデ。内面，ヨコナデ・ヘラナデ。煤。
844	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/8	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	－	(6.3)	－	－	鍔から下半部，一体として作る。内外面，回転ナデ。煤。上半部，剥離。
845	〃	〃	〃 擂鉢	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	29.4	(5.4)	－	－	体部，内湾気味に立ち上がる。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ナデ。7条1単位の条線。やや摩耗。
図513 846	〃	〃	須恵 壺	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N5/0	－	(2.2)	－	13.5	底端部に下端が張り出した高台を付す。内外面，ナデ。内底縁，強いナデにより凹む。
847	9－1区	〃	〃 甕	灰色 N5/0	灰色 N5/0	黄灰色 2.5Y5/1	19.6	(4.1)	－	－	口唇，摘み上げる。口唇，凹む。内外面，ヨコナデ。
848	〃	〃	〃 〃	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N5/0	－	(4.4)	－	－	口唇，摘み上げる。口唇，凹む。外面，ヘラナデ。内面，ヨコナデ。
849	9－2区	〃	〃 捏鉢	暗灰色 N3/0	灰白色 N7/0	灰白色 N7/0	－	(3.2)	－	－	東播系。内外面，回転ナデ。自然釉。重ね焼き痕。
850	〃	〃	〃 〃	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N5/0	－	(4.1)	－	－	口縁，肥厚。内外面，回転ナデ。
851	9－1区	〃	〃 〃	灰色 N6/0	灰色 N6/0	黄灰色 2.5Y5/1	27.6	(4.6)	－	－	東播系。口唇，摘み上げる。口唇，凹む。内外面，回転ナデ。
852	9－2区	〃	〃 〃	灰色 N6/0	灰色 N6/0	灰色 N6/0	28.1	(4.1)	－	－	東播系。口縁，僅かに拡張。内外面，回転ナデ。
853	9－1区	〃	〃 〃	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1	灰色 5Y5/1	29.4	(4.4)	－	－	東播系。口縁，上下に拡張。内外面，ヨコナデ。重ね焼き痕。
図514 854	〃	〃	瓦質 鍋	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y5/1	20.9	(6.2)	20.2	－	口縁，緩やかに外反。口縁・内面，ヨコナデ。外面，ナデ。指圧。煤。
855	9－2区	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y7/1	灰色 N4/0	灰色 N5/0	23.1	(8.9)	26.0	－	扁球形の体部，僅かに外反させる口縁。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ナデ。煤。やや摩耗。
856	9－3区	〃	〃 羽釜	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	26.8	(6.7)	－	－	口縁，3条の凹線。口縁下，鍔。口縁外面，ヨコナデ。内面，ヨコナデ・ヨコハケ。体部外面，ヘラナデ。内面，ナデ。煤。
857	9－1区	〃	〃 〃	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y4/1	黄灰色 2.5Y6/1	24.0	(3.5)	－	－	口縁，内傾。口唇，面取り，沈線状。口縁下に断面三角形の鍔を付す。口縁，ヨコナデ。体部内外面，ナデ。煤。
858	9－2区	〃	〃 〃	灰色 N5/0	灰色 N4/0	灰色 N5/0	－	(3.9)	－	－	口縁，内傾。口唇，面取り。口縁下に断面三角形の鍔。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ナデ。煤。
859	9－1区	〃	〃 擂鉢	灰白色 2.5Y7/1	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y6/1	－	(3.2)	－	－	口唇，面取り。口縁内面，ヨコナデ。体部外面，ナデ。内面，条線，鋭く深い。未使用にちかい。重ね焼き痕。
図515 860	9－2区	〃	陶器 おろし皿	浅黄色 7.5Y7/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	灰白色 10YR7/1	12.4	(2.2)	－	－	瀬戸。口唇，四面状。内外面，回転ナデ。口縁内面のみ施釉。内面，おろし目。被熱か。
861	9－1区	〃	備前焼 擂鉢	灰褐色 7.5YR5/2	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	－	(4.4)	－	－	口唇，上下に拡張。内外面，ヨコナデ。内面，5条以上1単位の条線。
862	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR4/2	灰黄褐色 10YR4/2	にぶい橙色 5YR6/3	－	(4.1)	－	－	口唇，上下に拡張。内外面，ヨコナデ。重ね焼き痕。
863	9－2区	〃	〃 甕	灰赤色 2.5YR5/2	橙色 2.5YR6/6	明赤褐色 2.5YR5/6	－	(6.8)	－	34.8	外面，ヘラナデ・ナデ。内面，ヨコナデ。外底面，ナデ。
864	〃	〃	常滑焼 〃	褐色 7.5YR4/3	灰褐色 7.5YR4/2	褐灰色 7.5YR6/1	38.2	(4.6)	－	－	縁帯部，口縁に密着する。内外面，回転ナデ。
865	〃	〃	〃 〃	灰褐色 7.5YR5/2	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	明褐灰色 7.5YR7/1	33.6	(6.7)	－	－	縁帯部，口縁に密着する。内外面，回転ナデ。
図516 866	9－1区	〃	白磁 皿	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	11.8	(2.4)	－	－	端反り。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図516 867	9－1区	包含層	白磁 皿	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	14.6	(2.1)	－	－	端反り。
868	〃	〃	〃 〃	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰黄色 2.5Y7/2	11.2	(2.2)	－	－	口禿げ。貫入あり。
869	〃	〃	〃 碗	灰白色 2.5Y7/1	灰黄色 2.5Y7/2	灰白色 10YR8/1	－	(2.2)	－	5.7	低い削り出し高台。残存部外面，露胎。内面，界線。
870	9－2区	〃	青磁 〃	灰オリーブ色 7.5Y5/2	灰オリーブ色 7.5Y5/2	灰白色 N8/0	16.8	(3.2)	－	－	外面，鎬蓮弁文。灰オリーブ色の釉薬。
871	〃	〃	〃 〃	灰オリーブ色 5Y5/2	灰オリーブ色 5Y5/2	褐灰色 10YR6/1	19.2	(5.9)	－	－	口縁，僅かに外反。外面，鎬蓮弁文。灰オリーブ色の釉薬。
872	9－1区	〃	〃 〃	緑灰色 7.5GY6/1	緑灰色 7.5GY6/1	灰白色 N7/0	－	(2.3)	－	5.0	削り出し高台，外端部，面取り。外底面・高台，露胎。見込み，文様。外面の釉薬はまだら。
873	〃	〃	〃 〃	灰オリーブ色 5Y5/3	灰オリーブ色 5Y5/3	黄灰色 2.5Y6/1	－	(2.4)	－	4.8	削り出し高台。外底面，露胎。見込み，文様。煤。
874	〃	〃	〃 〃	灰色 10Y6/1	灰色 10Y6/1	灰白色 2.5Y7/1	－	(1.8)	－	5.4	低い削り出し高台，外端部，面取り。外底面，露胎。被熱。
875	〃	〃	青磁 合子	灰オリーブ色 7.5Y5/2	灰オリーブ色 7.5Y5/2	灰白色 2.5Y7/1	7.4	(2.4)	－	－	肩部から口縁，内傾。蓋受け部，露胎。外面の釉薬，ややくすむ。被熱か。
876	9－2区	〃	青白磁 〃	灰白色 2.5Y7/1	緑灰色 7.5GY6/1	灰白色 2.5Y7/1	5.0	(1.0)	－	－	蓋。外面の釉薬，濃淡あり。内面，露胎。
図521 892	10－3区	ST1	弥生 壺	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	13.0	(8.2)	－	－	口縁：ヨコナデ／ハケ。頸部：ヨコナデ／ハケ。体部：叩き後ハケ，ミガキ状／ハケ・ナデ。被熱。煤。
893	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/6	褐灰色 10YR5/1	14.9	44.5	33.8	7.0	口縁，短く外反。口縁：ヨコナデ・ハケ／ヨコナデ・ハケ。体部：叩き後ハケ・ミガキ／ハケ・ナデ。被熱。煤。
894	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	20.0	(4.0)	－	－	複合口縁壺。一次口縁：ヨコナデ／ヨコナデ。二次口縁：ヨコナデ／ヨコナデ。被熱。煤。
895	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰色 N4/0	－	(7.6)	－	－	頸部：タテハケ後ミガキ／ハケ・ナデ。体部：／ナデ。頸胴部境，刻みと刺突を施した貼付突帯。煤。
896	〃	〃	〃 〃	灰白色 10YR8/2	浅黄橙色 10YR8/3	褐灰色 10YR5/1	－	(13.5)	－	5.4	ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ハケ・ミガキ／ハケ・ナデ。内底面，指圧。
図522 897	〃	〃	〃 甕	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	17.7	29.3	20.5	4.2	「く」。口縁：ナデ／ハケ。体部：叩き後ナデ・ハケ／ナデ・ハケ。平底。外底面，ナデ。頸内，接合痕。被熱。煤。
898	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR6/1	13.4	23.2	19.4	4.0	「く」。口縁：ナデ・ハケ／ハケ。体部：叩き後ナデ・ハケ／ハケ・ナデ。角の取れた平底，叩き目か。被熱。煤。
899	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	15.4	27.6	19.2	4.2	「く」。口縁：叩き後ナデ・ハケ／ヨコハケ。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。ほぼ丸底。外底面，ナデ。被熱。煤。
900	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR6/4	褐灰色 5YR5/1	13.8	29.9	22.2	3.8	「く」。口縁：ヨコナデ／ヨコハケ。体部：叩き後ハケ・ナデ／ハケ・ナデ。平底。外底面，叩き目。被熱。煤。
901	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 5YR5/1	23.6	30.5	25.4	3.6	「く」。口縁：叩き後ハケ・ナデ／ヨコハケ。体部：叩き後タテハケ／ハケ・ナデ。平底，ナデ。被熱。煤。おこげ。
902	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	14.2	(16.8)	15.8	－	「く」。口唇，面取り。口縁：叩き後ナデ／ヨコハケ。体部：叩き後ナデ／ハケ。肩内接合痕。被熱。煤。
903	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	13.6	(12.3)	14.8	－	緩やかな「く」。口縁：叩き後ナデ／ハケ or ヘラナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ or ヘラナデ。被熱。
904	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	14.4	(12.3)	15.6	－	「く」。口縁：ヨコナデ・ハケ／ヨコナデ・ハケ。体部：叩き後ハケ・ナデ／ハケ・ナデ。肩内接合痕。黒斑。煤。
図523 905	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	15.8	(11.1)	16.7	－	「く」。口唇，面取り。口縁：叩き後ナデ／ハケ。体部：叩き後ナデ／ハケ。肩内接合痕。被熱。煤。
906	〃	〃	〃 〃	にぶい赤褐色 5YR5/4	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	16.2	(11.5)	19.0	－	口縁，水平ちかく外反。口唇，凹線。口縁：ヨコナデか／ヨコナデか。体部：叩き後ナデ／ハケ。やや摩耗。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図523 907	10－3区	ST1	弥生 甕	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	17.8	(8.0)	－	－	「く」。口唇，ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後ナデ／ハケ。体部：叩き後ナデ／ハケ。被熱。
908	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	16.6	(8.4)	19.6	－	「く」。口唇，ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後ハケ／ハケ。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。被熱。
909	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/3	灰褐色 7.5YR6/2	褐灰色 10YR4/1	－	(9.9)	－	4.2	平らな部分の残る丸底。外底面，叩き目。体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。内底面，指圧。モミ圧痕。被熱。煤。
910	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(20.3)	15.8	－	口縁：ハケ／ハケ。体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。内底面，指圧。肩内接合痕。廃棄後被熱。煤。
911	〃	〃	〃 鉢	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR6/4	浅黄橙色 7.5YR8/6	8.8	(5.2)	－	－	口縁：ハケ・ナデ／ヨコハケ。体部：タテハケ／ハケ・ナデ。廃棄後被熱。煤。
912	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい褐色 7.5YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	10.7	6.0	－	4.3	体部，深め。角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。被熱。
913	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	14.0	6.5	－	4.0	体部，浅め。口唇，面取り，凹面状。平底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ。黒斑。
914	〃	〃	〃 〃	黒色 2.5Y2/1	橙色 2.5YR6/6	灰赤色 2.5YR6/2	18.6	8.0	－	4.5	外反口縁。底部，扁平な円盤状。平底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ・ミガキか。被熱。煤。
915	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	22.2	8.2	－	3.3	体部，浅め。口唇，面取り。ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：ハケ・ナデ／ハケ・ナデか。被熱。
916	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	24.6	(12.2)	24.1	－	外反口縁。口唇，面取り。凹面状。口縁：ヨコナデ／ハケ。体部：叩き後ナデ／ハケ。被熱。
917	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 7.5YR4/1	32.4	(6.9)	－	－	外反口縁。口唇，面取り。凹面状。口縁：ヨコナデ／ハケ。体部：叩き後ナデ／ハケ。被熱。
918	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR5/1	－	(5.5)	－	2.8	平底。外底面，叩き目。体部：ハケ／ナデ。内底面，指圧。被熱。
919	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	－	(8.2)	－	－	丸底。外底面，ナデ。体部：ナデ／ハケ・ナデ or ヘラナデ。内底面，指圧。キレツ。被熱。
920	〃	〃	〃 蓋	橙色 5YR6/6	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	褐灰色 7.5YR4/1	11.1	6.1	－	－	体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。頂部外面，ナデ。被熱。煤。摩耗。
921	〃	〃	〃 高杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 7.5YR4/1	10.7	(3.7)	－	－	低脚高杯。杯部：ハケ後ミガキ／ナデ後ミガキ。黒斑。
922	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 10YR4/1	－	(3.6)	－	15.0	端部，面取り。凹面状。裾部：ミガキ／ハケ。4箇所，円孔。
923	〃	〃	〃 〃	褐色 7.5YR4/3	赤色 10R4/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	－	(5.5)	－	13.0	端部，丸くおさめる。脚裾部：ハケ後ミガキか／。2孔1対，4箇所，円孔。
図524 925	〃	〃	須恵器 皿	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	15.4	(1.9)	－	－	口縁内面，凹む。内外面，回転ナデ。
926	〃	〃	製塩 土器	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰黄色 2.5Y7/2	7.7	(6.3)	－	－	口縁，内湾。外面，ナデ・指圧。内面，ナデ。被熱。煤。
927	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	9.8	(5.4)	－	－	口縁，内湾。内外面，ナデ。
928	〃	〃	〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.0	(7.1)	－	－	内外面，ナデ。
929	〃	〃	〃	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄色 2.5Y7/2	9.0	(8.3)	－	－	口縁，内湾。外面，ナデか。内面，布目か。摩耗，調整不明瞭。
図526 931	〃	ST2	弥生 壺	明赤褐色 5YR5/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR4/1	－	(29.2)	22.7	3.0	頸部：ハケ／ハケ。体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。丸底，叩き後ナデ。被熱。碁石状の粘土塊を埋め込む。
932	〃	〃	〃 鉢	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	橙色 2.5YR6/6	－	7.4	－	3.6	体部，半球形。丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ハケ・ナデ／ハケ。キレツ。被熱。
図529 933	〃	ST4	〃 甕	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	12.0	(13.9)	13.8	－	緩やかな「く」。口唇，面取り。口縁：叩き後ナデ／ハケ or ヘラナデ。体部：叩き後ハケ／ナデ。被熱。煤。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図529 934	10－3区	ST4	弥生 鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	16.6	(3.0)	－	－	体部，浅め。口唇，摘み出し。体部：叩き後ハケ・ナデ／ヘラナデ。内面，線刻か。
935	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰黄色 2.5Y6/2	17.5	(4.3)	－	－	体部，浅め。体部：叩き後ナデ／ハケ，ミガキ状を呈する部分有り。キレツ。
936	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(5.7)	－	4.4	平底。外底面，ナデ。体部：ナデ／ハケ。キレツ。被熱。煤。
937	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 2.5YR7/6	－	(5.8)	－	－	丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデか／ハケ。内底面，指圧。被熱。
938	〃	〃	土質 杯	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(2.0)	－	6.6	扁平な円盤状の平底。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
939	〃	〃	〃 椀	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰白色 10YR8/2	15.8	(3.6)	－	－	口縁内外面，回転ナデ。体部内外面，ミガキ。
図531 940	〃	ST5	弥生 壺か	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/3	9.6	(6.9)	－	－	口縁，僅かに内湾する。口唇，面取り。頸部：ハケ／ハケ・ナデ。黒斑。
941	〃	〃	〃 甕	橙色 7.5YR6/6	明赤褐色 2.5YR5/6	橙色 5YR6/6	10.2	－	－	3.3	口縁：ハケ／ヨコハケ。角の取れた平底，ナデ。体部：叩き後ナデ・ハケ／ハケ・ナデ。内底面，指圧。キレツ。被熱。
942	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	10.2	12.6	11.3	－	「く」。口唇，面取り。口縁：叩き後ナデ／ハケ。体部：叩き後ハケ・ナデ／ハケ・ナデ。丸底。外底面，ハケ。被熱。
943	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 7.5YR5/1	11.4	12.9	11.7	1.8	「く」。口縁：ナデ／ハケ。体部：ハケ／ハケ。ほぼ丸底。外底面，ナデ。黒斑。ほぼ完存。
944	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR6/3	橙色 7.5YR6/6	褐灰色 10YR4/1	11.9	19.3	13.9	2.8	「く」。口縁：叩き後ナデ／ハケ。体部：叩き後ハケ・ナデ／ハケ・ナデ。角の取れた平底，ナデ。被熱。摩耗。
945	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(14.2)	－	2.6	ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ハケ／ハケ・ナデ。内底面，指圧。被熱。
946	〃	〃	〃 鉢	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	黒褐色 10YR3/1	8.4	4.0	－	－	皿状鉢。丸底。外底面，ナデ。体部：ナデ・指圧／ナデ・指圧。黒斑。
947	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/2	10.3	3.6	－	－	皿状鉢。丸底。外底面，ナデ。体部：ナデ・指圧／ナデ・指圧。被熱。
948	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	11.0	3.1	－	－	皿状鉢。丸底。外底面，ナデ。体部：ナデ・ヘラナデ／ナデか。外面，指圧。摩耗。
949	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	－	10.3	3.2	－	－	皿状鉢。丸底。外底面，ナデ。体部：ナデ／ハケ・ナデ。キレツ。被熱。ほぼ完存。
950	〃	〃	〃 〃	黄橙色 7.5YR7/8	黄橙色 7.5YR7/8	褐灰色 7.5YR6/1	9.7	8.0	－	2.3	口縁，短く外反。角の取れた平底。外底面，ハケ・ナデ。体部：ハケ／ハケ・ナデ。被熱。
951	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	－	11.3	7.4	－	－	体部，半球形。丸底。外底面，ナデ。体部：叩き／ハケ。黒斑。ほぼ完存。
952	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR4/1	11.3	8.3	－	2.3	体部，半球形。丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ハケ・ナデ／ハケ。内底面，ナデ。被熱。煤。
953	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR5/1	11.5	7.3	－	3.8	体部，半球形。丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ or ヘラナデ。キレツ。被熱。
954	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 5YR5/1	11.8	6.7	－	1.8	体部，半球形。丸底。外底面，ナデ。体部：ナデ／ハケ・ナデ。キレツ。黒斑。歪む。
955	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 5YR5/1	12.3	8.4	－	2.3	体部，半球形。口唇，ルーズな面取り。ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ。被熱。煤。
956	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	12.5	(8.5)	－	－	体部，半球形。体部：叩き後ナデ／ハケ。被熱。煤。
957	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	12.5	8.5	－	2.3	体部，半球形。ほぼ丸底。外底面，叩き後ナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。内底面，指圧。歪む。被熱。
958	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	黄灰色 2.5Y5/1	13.4	6.8	－	2.5	体部，半球形。角の取れた平底からほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ・ナデ。黒斑。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 531 959	10 － 3 区	ST5	弥生 鉢	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	13.5	7.0	－	－	体部，半球形。丸底。外底面，ヘラナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ。黒斑。被熱。やや摩耗。
960	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	黒褐色 7.5YR3/1	22.2	(8.0)	－	－	口唇，丸くおさめる。体部：叩き後ナデ / ヘラナデ or ハケ。被熱。煤。
961	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	灰褐色 7.5YR6/2	17.7	11.3	－	－	体部，半球形。丸底。外底面，叩き後ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ。被熱。歪む。
962	〃	〃	〃 底部	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(6.2)	－	4.8	平底。外底面，ナデ。体部：ハケ・ナデ / ハケ。黒斑。搬入品か。
963	〃	〃	〃 〃	明赤褐色 2.5YR5/6	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	－	(4.3)	－	2.7	平底。外底面，ナデ，葉脈痕か。体部：叩き後ハケ / ナデ。被熱。
964	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 10YR8/3	－	(4.6)	－	5.0	平底。外底面，ナデ。体部：ハケ・ナデ / ナデ。
965	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	－	(3.7)	－	2.3	平底。外底面，ナデ，葉脈痕か。体部：ナデ / ナデ。キレツ。
図 532 966	〃	〃	ミニ	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	5.8	5.3	－	2.0	鉢形。ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：ハケ・ナデ / ハケ。キレツ。歪む。被熱。
967	〃	〃	〃	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(2.8)	－	1.8	鉢形。角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：ハケ / ナデ。被熱。やや摩耗。
968	〃	〃	〃	灰黄褐色 10YR4/2	灰褐色 7.5YR5/2	明赤褐色 5YR5/6	－	(1.2)	－	3.7	内外面，ナデ。外面，指圧。被熱。
969	〃	〃	須恵 蓋	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 7.5Y6/1	灰色 7.5Y5/1	－	(1.8)	－	摘み径 2.8	扁平な擬宝珠様の摘み。外面，回転ヘラケズリか。内面，回転ナデ。天井部内面，ナデ。内面，平滑。外面，自然釉。
図 534 972	10 － 2 区	ST11	弥生 壺	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 2.5Y7/1	20.0	(2.4)	－	－	口唇，ハケ状原体による面取り，沈線。口縁：タテハケ・ヨコナデ / ヨコハケ・ヨコナデ。内面，種子圧痕。
973	〃	〃	〃 底部	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 7.5YR4/1	－	(2.5)	－	2.4	平底。外底面，ハケ。体部：叩き後ハケ / ヘラナデ。被熱。煤。
図 537 974	10 － 1 区	SB2	須恵 皿	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	28.0	2.8	－	24.0	P108 出土。口縁端部，摘み上げ。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラケズリ。内底面，ナデ。焼成，不良。摩耗。
図 541 975	10 － 3 区	SB5	土質 椀	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	灰白色 10YR8/2	15.6	(4.4)	－	－	P26 出土。外面，回転ナデ。内面，回転ナデ後ミガキ。口縁は内外面とも橙色を呈する。重ね焼き痕跡か。
図 543 976	〃	SB6	土師 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	－	11.4	3.7	－	7.5	P44 出土。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。被熱。煤。ほぼ完存。
図 550 977	10 － 2 区	SK11	陶器 皿	灰白色 5Y7/1	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/4	－	(1.8)	－	3.8	ロクロ成形。低い削り出し高台。残存部，外面，無釉。見込み，砂目。被熱。
978	〃	〃	〃 〃	灰オリーブ色 5Y6/2	にぶい赤褐色 2.5YR4/3	黄灰色 2.5Y5/1	－	(1.3)	－	4.1	ロクロ成形。低い幅広の削り出し高台。残存部，外面，無釉。見込み，3 箇所の砂目。被熱。
979	〃	〃	〃 擂鉢	灰褐色 5YR5/2	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	－	(4.6)	－	17.2	内外面，回転ナデ。外底面，ナデ。内面，8 条以上 1 単位の条線を施す。内面，使用により平滑となる。
980	〃	〃	瓦質 羽釜	浅黄色 2.5Y7/3	黄灰色 2.5Y5/1	にぶい橙色 7.5YR6/4	19.0	(4.6)	－	－	口縁，内傾。口唇，面取り。鍔を付す。口縁内外面，回転ナデ。煤。
図 553 982	10 － 3 区	SK13	土師 椀	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	－	(1.3)	－	6.0	摩耗のため調整等不明瞭。被熱。
983	〃	〃	須恵 皿	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	14.4	(1.9)	－	－	内外面，回転ナデ。焼成不良。
図 555 984	〃	SK14	弥生 鉢	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 5YR7/4	9.3	5.5	－	3.3	体部，直線的にのびる。角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：ナデ / ハケ・ナデ。被熱。煤。
図 557 986	〃	SK15	〃 底部	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR5/1	－	(7.0)	－	4.0	ほぼ丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ヘラナデ or ハケ / ハケ・ナデ。被熱。煤。
987	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	にぶい赤褐色 5YR5/4	橙色 5YR6/6	－	(4.9)	－	4.4	平底。外底面，ヘラナデ。体部：ハケ / ケズリ・ナデ。被熱。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図557 988	10－3区	SK15	弥生 高杯	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 7.5YR6/1	－	(5.8)	－	－	脚部：ハケ後ミガキ／ヘラケズリ。杯部，接合面で剥離。
図563 989	10－1区	SK101	土質 皿	灰褐色 7.5YR5/2	灰褐色 7.5YR5/2	灰褐色 7.5YR5/2	7.2	(1.2)	－	－	内外面，回転ナデ。外面はナデを加える。被熱か。
990	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	7.2	1.2	－	4.6	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
991	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	褐灰色 7.5YR5/1	9.8	1.8	－	5.4	手捏ね。摩耗。
図565 993	〃	SK103	〃 杯	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	12.9	4.5	－	6.8	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ・ロクロ目。内底面，渦状。外底面，回転糸切り痕。被熱。摩耗。
994	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	浅黄橙色 10YR8/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	－	(2.4)	－	7.0	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
995	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(2.3)	－	6.1	体部，内湾気味に斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。被熱。
996	〃	〃	青磁 碗	緑灰色 7.5GY6/1	緑灰色 7.5GY6/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	12.6	(3.5)	－	－	端反り。外面，鎬蓮弁文。貫入あり。
997	〃	〃	土質 擂鉢	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR6/2	26.2	(7.3)	－	－	体部，斜め上方へのびる。口縁部，肥厚。口唇，面取り。外面，ナデ。内面，ヨコナデ・ナデ。内面，7条1単位の条線。
998	〃	〃	須恵 捏鉢	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	24.8	9.5	－	8.6	東播系。口縁，肥厚。注口を付す。内外面，回転ナデ。外底面，ナデ。煤。内底面，荒れる。
999	〃	〃	瓦質 羽釜	灰色 5Y4/1	灰色 5Y4/1	灰黄色 2.5Y6/2	18.5	(3.5)	－	－	口縁，内傾。口唇，面取り。口縁下に断面台形の鍔。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ヨコナデ。煤。
1000	〃	〃	〃 鍋	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 N4/0	灰白色 2.5Y8/1	22.6	(6.4)	－	－	口縁，ごく僅かに外反。口唇，面取り。口縁外面，ヨコナデ。内面，ヘラナデ。体部外面，ナデ・指圧。内面，ナデ。
1001	〃	〃	〃 〃	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	21.0	(7.7)	－	－	口縁，ほぼ直立。口唇，面取り。摩耗，調整等不明瞭。体部外面，指圧。煤。
図567 1002	〃	SK105	須恵 杯	灰色 5Y5/1	灰色 7.5Y5/1	灰色 5Y5/1	20.2	(4.0)	－	－	体部，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ。
図571 1003	10－2区	SD4	土師 椀	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい褐色 7.5YR5/4	灰白色 2.5Y8/2	－	(1.4)	－	6.0	断面方形の輪高台を貼付。高台底面は段を持つ。外面，回転ナデ。内面，ミガキ。外底面，回転糸切り痕か。摩耗。
1004	〃	〃	青磁 碗	オリーブ灰色 10Y6/2	オリーブ灰色 10Y6/2	灰白色 10YR7/1	－	(3.4)	－	4.0	断面方形の低い削り出し高台。高台，無釉。外面，鎬蓮弁文。見込み縁辺部の削り込みは甘い。
1005	〃	〃	陶器 皿	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	11.8	(2.2)	－	－	ロクロ成形。
図575 1006	〃	SD7	土質 不明	黄灰色 2.5Y5/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	5.5	3.5	－	5.2	口縁端部，内傾。口唇，面取り。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。被熱か。
図578 1007	10－1区	SD11	〃 杯	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	褐灰色 10YR6/1	14.2	3.9	－	5.6	体部，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
1008	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(2.5)	－	5.3	体部，外上方へひらく。内外面，回転ナデ，ロクロ目。切離し手法，摩耗のため不明。
1009	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(2.0)	－	6.5	内外面，回転ナデ。内底縁，凹む。外底面，回転糸切り痕。被熱か。
1010	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(1.4)	－	6.3	内外面，回転ナデ。内底央，大きく凹み，内底縁，凹む。外底面，回転糸切り痕。
1011	〃	〃	〃 柱高	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(2.3)	－	6.0	台部，断面台形の低い円柱状。内面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
1012	〃	〃	須恵 甕	灰色 5Y4/1	灰色 5Y5/1	灰色 5Y6/1	－	(15.5)	－	－	外面，叩き・ヘラナデ。内面，ナデ，凹凸あり。外面，施釉。
1013	〃	〃	炻器 〃	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	－	(7.4)	－	34.2	外面，ヘラナデ。内面，ナデ。外底面，ナデ。焼成不良。被熱か。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図578 1014	10－1区	SD11	瓦質 擂鉢	淡黄色 2.5Y8/3	灰白色 2.5Y8/2	黄灰色 2.5Y6/1	23.0	(7.9)	－	－	体部，斜め上方へのびる。口唇，面取り。内外面，回転ナデ・ナデ。内面，９条１単位の条線。
1015	〃	〃	〃 鍋	にぶい黄橙色 10YR7/3	褐灰色 10YR4/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(3.7)	－	－	口縁，ごく僅かに外反。口唇，面取り，内端部，僅かに摘み上げ。内外面，ヨコナデ・ナデ。煤。
1016	〃	〃	〃 〃	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	18.4	(6.2)	－	－	口縁，直立気味。口唇，面取り。内外面，ナデ。体部外面，指圧。煤。
1017	〃	〃	〃 〃	灰色 N5/0	灰色 N4/0	灰白色 2.5Y7/1	23.6	(5.0)	－	－	口縁，直立気味。口唇，面取り，僅かに凹面状。外面，ナデ・指圧。内面，ナデ。
図580 1018	〃	SD12	土質 杯	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(4.1)	－	8.0	体部，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
1019	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	－	(2.3)	－	9.2	内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
図582 1020	〃	SD13	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.8	(1.8)	－	－	内外面，回転ナデ。
1021	〃	〃	〃 杯	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	－	(1.8)	－	5.4	体部，外上方へひらく。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕・簀状圧痕。
図583 1022	〃	SD41	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	9.8	(2.0)	－	－	口唇，尖らせる。外面，ヨコナデ・ナデ・指圧。内面，ヨコナデ・ナデ。煤。
1023	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	12.2	4.1	－	4.6	体部，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ，ロクロ目。内底面，渦状。外底面，回転糸切り痕。
1024	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	12.7	4.2	－	5.5	体部，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ，ロクロ目。内底面，渦状。外底面，回転糸切り痕。
1025	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	－	(2.7)	－	4.0	体部，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。内底面，渦状。外底面，回転糸切り痕。
1026	〃	〃	青磁 碗	オリーブ灰色 2.5GY6/1	オリーブ灰色 2.5GY6/1	黄灰色 2.5Y6/1	16.7	(2.1)	－	－	小さな玉縁。内面，文様あり。
1027	〃	〃	炻器 甕	浅黄橙色 10YR8/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(4.4)	－	－	内外面，ヘラナデ。口縁内面，１条の凹線。被熱。
1028	〃	〃	備前焼 〃	灰褐色 5YR4/2	灰色 N4/0	褐灰色 5YR5/1	39.4	(6.1)	－	－	楕円形の玉縁。内外面，ヨコナデ。口縁内面接合痕。
図585 1029	〃	SX11	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	6.7	1.3	－	4.6	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
1030	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	6.8	1.1	－	5.0	内外面，回転ナデ。内底縁，僅かに凹む。外底面，回転糸切り痕。
1031	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	6.8	1.8	－	4.9	内外面，回転ナデ。底部，扁平な円盤状。外底面，回転糸切り後ナデ。煤。灯明皿として使用。
1032	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	6.9	1.3	－	5.0	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。煤。灯明皿として使用。
1033	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	7.6	1.3	－	4.9	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。被熱。煤。灯明皿として使用か。ほぼ完存。
1034	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	7.2	0.8	－	4.8	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。灯明皿として使用か。
1035	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	10.6	1.6	－	6.0	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。被熱。煤。摩耗。
1036	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	11.6	(2.3)	－	－	内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。煤。灯明皿として使用か。
1037	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/3	－	(2.6)	－	4.2	体部，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。被熱。
1038	〃	〃	陶器 皿	にぶい赤褐色 5YR4/3	にぶい赤褐色 5YR4/3	褐灰色 7.5YR6/1	7.9	1.5	－	3.6	内面，回転ナデ。外面，回転ヘラケズリ。外底面，回転糸切り痕。器壁，うすい。灯明皿として使用か。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図585 1039	10－1区	SX11	陶器 灯明受皿	灰白色 2.5Y7/1	灰白色 2.5Y7/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	8.2	(1.3)	－	－	ロクロ成形。外面，無釉。貫入あり。煤。
1040	〃	〃	磁器 皿	明緑灰色 10GY8/1	明緑灰色 10GY8/1	灰白色 N8/0	13.4	2.6	－	5.0	ロクロ成形。端反り。畳付，釉ハギ。砂付着。内面，染付。
1041	〃	〃	青磁 〃	明緑灰色 10GY7/1	明緑灰色 10GY7/1	灰白色 7.5Y8/1	－	(2.1)	－	6.4	ロクロ成形。断面台形の低い削り出し高台。畳付，釉ハギ。高台内，砂付着。内面，片彫りの文様。
1042	〃	〃	陶器 碗	暗灰黄色 2.5Y4/2	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい橙色 5YR6/3	－	(3.0)	－	3.8	ロクロ成形。断面台形の低い削り出し高台。外面，腰部以下無釉。釉垂れ。内面，施釉。被熱か。
1043	〃	〃	〃 〃	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	灰白色 10YR8/2	－	(3.6)	－	5.0	ロクロ成形。幅の狭い高い削り出し高台。畳付，釉ハギ。砂付着。畳付以外，施釉。
1044	〃	〃	〃 鉢	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい褐色 7.5YR6/3	灰黄褐色 10YR6/2	－	(2.4)	－	10.2	ロクロ成形。断面方形の低い削り出し高台。畳付，回転糸切り痕。砂付着。高台外面，釉垂れ。
1045	〃	〃	〃 瓶	灰褐色 5YR5/2	にぶい黄褐色 10YR4/3	灰白色 N8/0	3.8	(4.5)	－	－	ロクロ成形。鉄釉。
1046	〃	〃	磁器 〃	灰白色 5Y8/1	灰白色 N8/0	灰白色 5Y8/1	－	(2.7)	－	7.4	ロクロ成形。断面長方形の削り出し高台が「ハ」の字状に付す。畳付，釉ハギ。外面，染付。
図586 1048	〃	〃	備前焼 擂鉢	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	褐灰色 10YR6/1	24.4	(4.0)	－	－	ロクロ成形。口縁，上方へ拡張。外面，２条の凹線。内面，10条１単位の条線を施す。
1049	〃	〃	〃 〃	暗赤褐色 2.5YR3/3	灰褐色 5YR5/2	褐灰色 10YR5/1	27.8	(4.4)	－	－	ロクロ成形。口縁，上方へ拡張。外面，２条の深い凹線。内面，条線を密に施す。使用頻度は低いか。
1050	〃	〃	陶器 〃	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	にぶい赤褐色 2.5YR4/3	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	－	(5.7)	－	17.2	ロクロ成形。内面，条線を密に施す。内底面，６条１単位の条線を施す。外面，透明釉。
図593 1072	10－1区	P101	土製 合子	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	8.8	1.6	－	笠部径 10.8	蓋。内側にカエリを付す。外面，回転ケズリ。内面，回転ナデ。ほぼ完存。
1073	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	灰白色 2.5Y8/1	9.6	4.7	－	6.3	身。外面体部，回転ナデ。腰部以下，回転ケズリ。内面，回転ナデ。ほぼ完存。
図594 1074	10－3区	P33	〃 椀	にぶい黄褐色 10YR5/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(2.2)	－	－	摩耗のため調整等不明瞭。煤。
1075	〃	P23	須恵 壺	黄灰色 2.5Y6/1	灰色 N5/0	黄灰色 2.5Y6/1	－	(4.9)	－	9.5	外面，回転ナデ。内面，ナデ。外底面，ナデ。
図595 1077	10－3区	包含層	ミニ	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	褐灰色 10YR5/1	－	(4.8)	4.2	－	壺形。下膨れ。内外面，ナデ。内面，しぼり目。
1078	10－1区	〃	土製 杯	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.9	(3.7)	－	－	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。
1079	〃	〃	須恵 皿	灰黄褐色 10YR5/2	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 10YR5/1	14.5	1.7	－	11.8	内外面，回転ナデ。
1080	〃	〃	瓦質 鍋	灰色 N5/0	灰色 N5/0	灰色 N5/0	22.4	(6.1)	－	－	口縁，やや内傾。口唇，凹面状。摩耗のため調整等不明瞭。内外面，ナデか。煤。
1081	〃	〃	〃 火鉢か	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y5/1	22.4	(4.5)	－	－	内外面，回転ナデ。外面，菊花文他のスタンプ。摩耗。
1082	〃	撹乱	陶器 皿	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 7.5YR6/4	褐灰色 10YR6/1	－	(2.4)	－	4.6	ロクロ成形。鉄釉。見込み，蛇ノ目釉ハギ。高台，無釉。
1083	〃	〃	〃 碗	灰白色 5Y7/2	灰白色 5Y7/2	灰白色 2.5Y7/1	12.4	7.6	－	5.2	ロクロ成形。高台，無釉。見込み，胎土目。
1084	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄色 2.5Y7/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(2.5)	－	4.7	ロクロ成形。見込み，蛇ノ目釉ハギ。高台，無釉。貫入あり。
1085	〃	〃	〃 鉢	暗赤褐色 5YR3/2	暗赤褐色 5YR3/2	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	－	(9.8)	－	9.6	ロクロ成形。断面長方形の削り出し高台。内外面，刷毛塗り。高台，無釉。
1086	〃	〃	〃 擂鉢	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	橙色 2.5YR6/6	29.4	(9.8)	－	－	ロクロ成形。口縁，上方へ拡張。内外面，それぞれ２条ずつの凹線。内面，条線を密に施す。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図 597 1088	11 － 2 区	ST1	弥生壺	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	褐灰色 10YR4/1	21.6	(1.8)	－	－	口縁，大きく外反。口唇，凹面状。口縁：叩き後ハケ / ハケ。
1089	〃	〃	〃 甕	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	暗灰黄色 2.5Y5/2	16.2	(5.3)	－	－	「く」。口縁：叩き後ナデ / ヨコナデ・ヨコハケ。体部：叩き後ハケ / ナデ。煤。搬入品。
1090	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	にぶい黄橙色 10YR7/4	13.4	(7.2)	－	－	「く」。口唇，ハケ状原体による面取り。口縁：叩き後ナデ / ヨコハケ。体部：叩き後ナデ / ナデ。被熱。
1091	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/8	橙色 5YR6/6	暗灰黄色 2.5Y5/2	12.8	(10.4)	14.0	－	緩やかな「く」。口縁：ハケ後ヨコナデ / ヨコナデ。体部：叩き後ハケ / ハケ。煤。
1092	〃	〃	〃 鉢	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	黒褐色 10YR3/1	10.0	5.5	－	－	体部，半球形。丸底。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ / ハケ・ナデ・ヘラナデ。歪む。雑なつくり。被熱。
1093	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR7/4	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 5YR7/4	19.6	(5.4)	－	－	体部：ヨコナデ・ナデ / ヨコナデ・ハケ・ナデ・ヘラナデ。
1094	〃	〃	〃 底部	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	褐灰色 7.5YR5/1	－	(5.2)	－	－	角の取れた平底。外底面，ナデ。体部：叩き後タテハケ / ナデ。内底面，指圧。被熱。
1095	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	褐灰色 10YR5/1	－	(3.8)	－	－	丸底。外底面，叩き。体部：叩き後ナデ / ハケ。内底面，指圧。被熱。
1096	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	褐灰色 10YR5/1	－	(3.6)	－	－	丸底。外底面，ナデ。体部：ナデ / ハケ。
1097	〃	〃	ミニ	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	灰色 N4/0	7.2	4.6	－	－	鉢形。丸底。外底面，ナデ・指圧。体部：叩き後ナデ / ヘラナデ・ハケ。キレツ。黒斑。ほぼ完存。
1098	〃	〃	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y5/1	4.6	(4.0)	－	－	鉢形。手捏ね。廃棄後被熱。
図 604 1101	〃	SB5	土師皿	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 10YR8/3	16.9	2.0	－	12.2	P1 出土。口縁内面，僅かに凹む。内外面，回転ナデ後ヘラミガキ。外底面，回転ヘラ切り後ヘラミガキ。やや摩耗。
図 614 1102	11 － 3 区	SB14	土質 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 5YR7/6	浅黄橙色 7.5YR8/3	15.4	1.4	－	13.0	P226 出土。口縁，外上方へのびる。内外面，回転ナデ。外底面，ナデ。ヘラ切りか。
図 627 1103	11 － 2 区	SK6	〃 杯	にぶい黄橙色 10YR7/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	－	(3.8)	－	5.2	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内外面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱か。
1104	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	黄灰色 2.5Y5/1	－	(2.5)	－	4.8	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内外面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
図 630 1105	〃	SK9	土師皿	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/3	19.0	2.0	－	16.0	口縁，直線的にひろがる。口縁内面，凹む。内外面，回転ナデ後ヘラミガキ。内底面・外底面，ヘラミガキ。
1106	〃	〃	土質 椀	灰白色 2.5Y8/2	黄灰色 2.5Y6/1	灰白色 2.5Y8/2	－	(1.9)	－	7.0	外底面に断面台形の輪高台を付す。端面，凹面状。外面，回転ヘラナデ・ヘラケズリ。内面，回転ナデ。摩耗。
1107	〃	〃	炻器 壺	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y8/1	灰白色 5Y8/1	－	(4.2)	－	13.8	外面，ナデ・ヘラナデ。内面，ナデ。外底面，ナデ。被熱。煤。
1108	〃	〃	青磁 碗	オリーブ灰色 10Y5/2	オリーブ灰色 10Y5/2	灰白色 N8/0	－	(2.8)	－	4.8	外面，細蓮弁文。見込み，捻花か。高台内，蛇ノ目釉ハギ。
図 636 1111	〃	SK18, SD1	陶器 皿	にぶい黄色 2.5Y6/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(2.3)	－	－	ロクロ成形。無釉。
図 641 1113	〃	SK22	土質 〃	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	7.0	1.6	－	3.8	口縁，外上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。やや摩耗。煤。灯明皿として使用。
1114	〃	〃	陶器 茶入れか	灰白色 2.5Y8/2	黒褐色 5YR2/1	灰白色 2.5Y8/2	－	(3.6)	－	4.3	ロクロ成形。外面，ハケ目，ナデ。外底面，回転糸切り痕。外底面，無釉。
図 644 1115	〃	SK24	磁器 碗	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	11.1	(4.0)	－	－	ロクロ成形。内外面，染付。
1116	〃	〃	〃 〃	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	－	(4.2)	－	6.2	広東碗。ロクロ成形。外面，染付・2 条の圏線。内面，1 条の圏線。畳付，釉ハギ。
1117	〃	〃	〃 壺 or 瓶	灰白色 7.5Y8/1	灰白色 10Y8/1	灰白色 7.5Y8/1	－	(6.1)	－	7.8	ロクロ成形。外面，施釉。内面，無釉。畳付，釉ハギ，面取り。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図646 1118	11－2区	SK27	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	5.8	0.8	－	3.0	口縁，外上方へ短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。やや摩耗。煤。灯明皿として使用。
1119	〃	〃	陶器 碗	灰オリーブ色 7.5Y6/2	灰オリーブ色 7.5Y6/2	灰色 N5/0	11.2	7.2	－	5.0	ロクロ成形。全面，施釉。畳付，釉ハギ，面取り。貫入あり。
1120	〃	〃	〃 〃	明褐灰色 7.5YR7/1	明褐灰色 7.5YR7/1	にぶい褐色 7.5YR6/3	－	(5.9)	－	5.4	ロクロ成形。腰部以下，無釉。見込み，目跡。
1121	〃	〃	磁器 〃	明緑灰色 7.5GY8/1	明緑灰色 7.5GY8/1	灰白色 N8/0	12.1	7.3	－	7.2	広東碗。ロクロ成形。外面，亀・花の染付。内面，圏線。畳付，釉ハギ。
1122	〃	〃	陶器 皿	灰赤色 2.5YR4/2	にぶい赤褐色 2.5YR4/3	灰白色 N7/0	10.6	2.0	－	－	ロクロ成形。外面，ヘラケズリ。
1123	〃	〃	〃 〃	灰赤色 2.5YR5/2	灰赤色 2.5YR5/2	褐灰色 10YR6/1	13.2	4.7	－	5.2	ロクロ成形。鉄釉。白化粧土を刷毛塗り。見込み，蛇ノ目釉ハギ。高台，無釉。
1124	〃	〃	磁器 猪口	灰白色 －	灰白色 －	灰白色 －	8.0	(3.2)	－	－	ロクロ成形。口縁内面，四方襷文。
1125	〃	〃	陶器 鉢	灰褐色 5YR4/2	灰褐色 7.5YR4/2	明褐灰色 7.5YR7/1	14.2	7.0	－	5.0	ロクロ成形。鉄釉。高台，無釉。見込み，目跡。内面，イッチン描きで唐草文を描く。
1126	〃	〃	磁器 紅皿	灰白色 7.5Y8/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	4.0	1.2	－	1.4	型押成形。菊弁。白磁。外面，無釉。完存。
1127	〃	〃	陶器 擂鉢	にぶい赤褐色 5YR5/3	灰褐色 5YR6/2	褐灰色 10YR4/1	26.9	10.8	－	14.8	ロクロ成形。口縁外面，2条の凹線。内面，10条1単位の条線を全面に施す。見込み，7条1単位の条線を施す。
1128	〃	〃	〃 甕	灰褐色 5YR4/2	にぶい赤褐色 5YR4/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	19.6	(18.7)	－	－	ロクロ成形。口縁端部を折り曲げる。頸部，7条の沈線。鉄釉。黒色の釉薬が流れる。
1129	〃	〃	〃 壺	赤褐色 10R4/3	赤黒色 10R1.7/1	赤褐色 10R4/3	－	(9.6)	－	8.3	ロクロ成形。外底面・内面上半部，無釉。
1130	〃	〃	瓦質 火鉢	灰色 N4/0	灰色 N5/0	灰黄色 2.5Y6/2	－	(12.0)	33.2	－	獅子頭の把手を貼付。押型による文様。外面，ヨコナデ・ヘラナデ。内面，ヨコナデ・指圧。
図648 1131	〃	SK28	磁器 蓋	明緑灰色 7.5GY8/1	明緑灰色 7.5GY8/1	灰白色 N8/0	10.0	2.8	－	摘み径 5.1	ロクロ成形。外面，草花文。天井部内面，圏線・宝文か。天井部外面，染付。
1132	〃	〃	陶器 碗	灰白色 2.5GY8/1	灰白色 2.5GY8/1	灰白色 2.5Y8/1	－	(2.6)	－	6.2	ロクロ成形。見込み，五弁花。外面，圏線。高台脇を削り込む。畳付，釉ハギ。
1133	〃	〃	〃 皿	にぶい橙色 2.5YR6/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/2	12.6	5.3	－	4.6	ロクロ成形。見込み，蛇ノ目釉ハギ。腰部から高台，無釉。高台，面取り。
1134	〃	〃	磁器 壺	灰白色 N8/0	灰白色 5Y8/1	灰白色 N8/0	－	(3.2)	－	5.0	ロクロ成形。白磁。畳付，釉ハギ。内面，無釉。外面，ピンホール状。
1135	〃	〃	陶器 壺	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい橙色 5YR7/4	－	(16.2)	－	8.5	ロクロ成形。外底面から腰部外面，ヘラケズリ。腰部外面以下，施釉。内面・外面腰部までは無釉。
1136	〃	〃	磁器 瓶	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	1.9	6.4	3.6	2.3	ロクロ成形。笹と梅の染付を対面に配置。高台・内面，無釉。
1137	〃	〃	陶器 鍋か	暗赤灰色 2.5YR3/1	灰白色 2.5Y8/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	－	(2.6)	－	8.8	ロクロ成形。外面，白化粧土を刷毛塗り。内面，鉄釉を刷毛塗り。外底面に「ホウ」の墨書あり。
図649 1140	11－3区	SK31	土質 皿	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	9.8	1.6	－	6.5	口縁，浅く斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ後ヘラミガキ。
図651 1141	〃	SK32	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	15.4	1.8	－	10.4	口縁，浅く斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ後ヘラミガキ。外底面，簀状圧痕か。
1142	〃	〃	土師 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	－	(1.7)	－	8.2	底部，丸みを帯びる。内外面，回転ナデ後ヘラミガキ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。
1143	〃	〃	弥生 鉢	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	黄灰色 2.5Y4/1	11.6	6.0	－	4.0	体部，半球形。円盤状の底部。外底面，ナデ。体部：叩き後ナデ／ハケ・ヘラナデ。キレツ。
図653 1144	〃	SK33	土師 皿	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR5/2	14.2	1.5	－	11.8	口縁，浅く斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ後ヘラミガキ。外底面，ナデ。切離し手法，不明。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図656 1145	11－3区	SK34	土質 皿	にぶい黄橙色 10YR7/2	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	9.2	1.9	－	5.1	口縁，内湾気味に立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
1146	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	8.7	1.8	－	4.7	口縁，内湾気味に立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。内面，火襷。
図663 1159	〃	SK39	〃 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	11.7	3.1	－	7.5	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り痕。
1160	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい黄橙色 10YR7/3	12.0	4.6	－	7.7	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外面，ロクロ目。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。
図666 1161	11－1区	SK42	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.2	1.8	－	3.9	口縁，内湾気味に短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
1162	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.6	1.7	－	4.2	口縁，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ。内底面，渦状。外底面，回転糸切り痕。
1163	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.8	2.1	－	4.2	口縁，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ。内底面，渦状。外底面，回転糸切り痕。
図668 1164	〃	SK43	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.4	1.6	－	5.0	口縁，斜め外方へ大きくひろがる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り後ナデ。
1165	〃	〃	青磁 碗	オリーブ灰色 －	オリーブ灰色 －	灰白色 10YR7/1	－	(3.0)	－	5.7	削り出し高台。高台両端，面取り。高台，無釉。畳付，溶解した釉薬と砂が付着。貫入あり。
図671 1190	11－3区	SK43	土師 甕	明褐色 7.5YR5/6	橙色 5YR6/6	橙色 7.5YR6/6	－	(2.6)	－	－	内外面，ヨコナデ。摩耗。
図673 1191	11－1区	SK44	土質 皿	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	8.5	2.2	－	4.8	口縁，斜め外方へひろがる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
1192	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	8.6	2.1	－	4.7	口縁，斜め外方へひろがる。内外面，回転ナデ。内底面，渦状。外底面，回転糸切り痕。被熱。
1193	〃	〃	須恵 脚部	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰黄褐色 10YR6/2	－	(5.2)	－	－	内外面，回転ナデ。ヘラ描き波状文と凹線を交互に配置。自然釉，付着。
図675 1194	11－3区	〃	土質 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 7.5YR8/3	－	(3.6)	－	8.2	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。見込み・外底面に墨書あり。
1195	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	－	(2.3)	－	－	内外面，回転ナデ。外面に墨書あり。
図677 1196	11－1区	SK45	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	8.7	1.9	－	4.8	口縁，斜め外方へひろがる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
図679 1197	〃	SK47	瓦質 鍋	暗灰色 N3/0	暗灰色 N3/0	灰白色 N8/0	20.2	(11.5)	－	－	扁球形の体部，内湾する口縁。口縁，ヨコナデ。体部外面，ナデ。内面，ヨコナデ。三脚を付す。煤。摩耗。
図681 1199	〃	SK48	陶器 鉢	灰白色 10YR7/1	明赤褐色 2.5YR5/6	明赤褐色 2.5YR5/6	19.8	(7.6)	－	－	ロクロ成形。口唇，平坦，釉ハギ。腰部外面，釉垂れ。化粧土か。
図683 1200	〃	SK51	磁器 皿	灰白色 10Y8/1	灰白色 10Y8/1	灰白色 5Y8/1	15.8	3.5	－	9.4	ロクロ成形。畳付，釉ハギ。外面，唐草文・圏線。内面，唐草文・竹。見込み，花文。
図685 1201	〃	SK52	土質 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	9.0	2.4	－	4.8	口縁，内湾気味に立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。完存。
1202	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	9.4	2.4	－	5.1	口縁，斜め外方へひろがる。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
1203	〃	〃	〃 杯	にぶい橙色 7.5YR7/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	9.6	3.6	－	4.4	体部，内湾気味に立ち上がる。内外面，回転ナデ。内底面，渦状。外底面，回転糸切りか。
図687 1204	〃	SK54	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/6	7.4	2.2	－	5.8	口縁，直立気味に短く立ち上がる。内外面，回転ナデ。内外面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
1205	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 5YR7/4	にぶい橙色 5YR7/4	淡橙色 5YR8/4	13.0	(4.1)	－	－	体部，外上方に立ち上がる。内外面，回転ナデ。内外面，ロクロ目。被熱赤変。
図689 1206	11－2区	SD1	〃 皿	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	9.8	(2.1)	－	－	口縁，内湾気味に立ち上がる。内外面，回転ナデ。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図689 1207	11－2区	SD1	土質 杯	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	にぶい黄橙色 10YR6/3	10.5	(2.6)	－	－	体部，外上方に立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，沈線状のロクロ目。
1208	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	12.2	(1.9)	－	－	体部，外上方に立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，沈線状のロクロ目。被熱。やや摩耗。
1209	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	－	(3.3)	－	5.5	体部，外上方に立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
1210	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	灰白色 10YR8/2	－	(4.8)	－	5.8	体部，やや外上方に立ち上がる。内外面，回転ナデ，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。
1211	〃	〃	須恵 皿	灰黄褐色 10YR6/2	灰黄褐色 10YR6/2	黄灰色 2.5Y6/1	14.1	1.4	－	11.4	口縁，斜め外方へ短く立ち上がる。内底面・外底面，ナデ。底部と口縁部の境は比較的明瞭な稜。
1212	〃	〃	〃 杯	暗灰黄色 2.5Y5/2	暗灰黄色 2.5Y5/2	黄灰色 2.5Y6/1	－	(1.3)	－	9.2	杯B。外面端部に高台を付す。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。内底面，ヘラ記号あり。
1213	〃	〃	〃 〃	灰黄褐色 10YR6/2	にぶい黄橙色 10YR6/4	黄灰色 2.5Y5/1	－	(2.3)	－	9.9	杯B。外面端部に高台を「ハ」の字状に付す。内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。
1214	〃	〃	〃 〃	灰色 N6/0	暗灰色 N3/0	灰色 N6/0	－	(2.5)	－	11.2	杯B。外面端部に断面方形の高台を付す。内外面，回転ナデ。内底面・外底面，ナデ。
1215	〃	〃	青磁 皿	緑灰色 10GY6/1	緑灰色 10GY6/1	黄灰色 2.5Y5/1	10.8	3.1	－	5.2	稜花皿。口縁内面，２条の波状文。畳付，釉ハギ。外底面，無釉。貫入あり。
1216	〃	〃	陶器 〃	オリーブ黄色 5Y6/3	オリーブ黄色 5Y6/3	灰色 5Y6/1	12.4	(2.2)	－	－	ロクロ成形。端折れ皿。
1217	〃	〃	青花 碗	明緑灰色 10GY8/1	明緑灰色 10GY8/1	灰黄色 2.5Y7/2	－	(3.2)	－	5.4	畳付，釉ハギ，砂付着。外面，芭蕉葉文・圏線。内面，蓮華文。C群。
1218	〃	〃	炻器 壺	灰白色 2.5Y7/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	－	(7.0)	－	12.2	外面，叩き後回転ナデ。内面，回転ナデ。
1219	〃	〃	備前焼 甕	にぶい赤褐色 2.5YR5/3	灰赤色 2.5YR4/2	灰赤色 2.5YR5/2	33.4	(7.1)	－	－	口縁，折り曲げ。内外面，回転ナデ。
1220	〃	〃	土質 焜炉	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	27.9	(5.7)	－	－	口縁，内湾。口縁端部，ヨコナデ。口縁外面，ヨコハケ・ナデ。内面，ハケ・ナデ。煤。
図693 1228	11－1区	SD4	〃 皿	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい橙色 5YR6/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	6.2	1.0	－	3.2	口縁，浅く斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。口縁部の一部，変色。
1229	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 7.5YR8/4	6.6	1.5	－	4.3	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。口縁部にタールが激しく付着。灯明皿として使用。
1230	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	6.7	0.9	－	4.1	口縁，浅く斜め上方へひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。摩耗。
1231	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	6.9	1.7	－	3.8	口縁，外上方へひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。口縁部にタールが付着。灯明皿として使用。
1232	〃	〃	〃 〃	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	7.0	1.4	－	5.4	口縁，外上方へひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
1233	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	7.6	1.3	－	4.8	内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。口縁部にタールが激しく付着。灯明皿として使用。
1234	〃	〃	磁器 碗	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/1	灰白色 2.5Y8/1	12.3	5.9	－	4.1	ロクロ成形。外面，花文・圏線。見込み，目跡。畳付，釉ハギ。
1235	〃	〃	陶器 〃	にぶい褐色 7.5YR5/3	にぶい赤褐色 5YR5/3	にぶい赤褐色 5YR5/3	－	(5.3)	－	4.7	ロクロ成形。灰黄色から暗灰黄色の釉薬。
1236	〃	〃	〃 皿	灰赤色 2.5YR4/2	にぶい褐色 7.5YR5/3	赤灰色 2.5YR5/1	9.2	1.3	－	4.2	ロクロ成形。僅かに上げ底。外面，ヘラケズリ。
1237	〃	〃	陶器 灯明受皿	にぶい赤褐色 5YR4/3	にぶい赤褐色 5YR4/3	褐灰色 7.5YR6/1	9.3	2.0	－	3.9	ロクロ成形。外面，ヘラケズリ。油溝。外底面，回転糸切り痕。
1238	〃	〃	〃 仏飯具	オリーブ黒色 5Y3/1	オリーブ黒色 5Y3/1	にぶい橙色 7.5YR6/4	－	(5.1)	－	4.1	ロクロ成形。脚部以下，無釉。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図693 1239	11－1区	SD4	磁器 仏飯具	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 7.5Y7/1	灰白色 2.5Y8/1	7.1	4.8	－	3.8	ロクロ成形。外面，唐草文・松。外底面，無釉。
1240	〃	〃	備前焼 壺	灰褐色 7.5YR4/2	にぶい赤褐色 2.5YR5/4	灰黄褐色 10YR6/2	－	(11.2)	－	－	ロクロ成形。内面，ロクロ目。
1241	〃	〃	磁器 壺	明オリーブ灰色 2.5GY7/1	明オリーブ灰色 2.5GY7/1	灰白色 5Y8/1	9.0	(4.9)	－	－	ロクロ成形。外面の釉薬は不均質。文様か。内面頸部以下，無釉。
1242	〃	〃	〃 瓶	灰白色 2.5Y8/1	明緑灰色 7.5GY8/1	灰白色 2.5Y8/1	1.8	10.9	5.4	4.0	ロクロ成形。畳付，釉ハギ。外面，草花文。内面，無釉。
1243	〃	〃	〃 〃	灰白色 2.5Y8/1	明緑灰色 7.5GY8/1	灰白色 2.5Y8/1	1.9	13.0	7.0	4.3	ロクロ成形。畳付，釉ハギ。高台内，砂付着。外面，蛸唐草文・草花文。高台，圏線。内面，無釉。
1244	〃	〃	備前焼 擂鉢	にぶい赤褐色 5YR5/3	暗赤褐色 2.5YR3/3	明赤褐色 2.5YR5/6	31.0	(6.5)	－	－	口縁，上方へ拡張。外面，弱い２条の凹線。内面，９条１単位の条線を密に施す。体部外面，ヘラケズリ。
図695 1248	〃	SD5A	土質 皿	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	6.2	1.4	－	4.2	口縁，外上方へひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
1249	〃	〃	陶器 碗	灰褐色 5YR5/2	オリーブ灰色 2.5GY6/1	黄灰色 2.5Y6/1	－	(7.0)	－	6.0	ロクロ成形。筒型。高台，無釉。外面，線状・帯状に釉薬が濃い部分がある。
1250	〃	〃	〃 皿	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	－	(2.1)	－	4.0	ロクロ成形。内面，オリーブ灰色の釉薬を施釉。見込み，蛇ノ目釉ハギ。外面，灰白色の化粧土。高台，無釉。
図696 1251	〃	SD5B	〃 灯明受皿	暗赤色 10R3/4	暗赤色 10R3/4	赤褐色 10R5/4	9.9	1.7	－	4.4	ロクロ成形。外面，ヘラケズリ。錆釉。３箇所の油溝。
図697 1252	〃	SD6	磁器 碗	灰白色 N8/0	灰白色 N8/0	白色 N9/0	12.1	6.3	－	7.0	広東碗。ロクロ成形。畳付，釉ハギ。外面，龍。見込み，目跡。
1253	〃	〃	陶器 〃	浅黄色 2.5Y7/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	13.4	6.2	－	3.8	ロクロ成形。色調が浅黄色とオリーブ黄色の釉薬が互層状となる。高台，無釉。
1254	〃	〃	〃 〃	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	灰白色 2.5Y7/1	10.8	(5.7)	－	－	ロクロ成形。釉調は灰黄色。
図699 1256	〃	SD8	土質 皿	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	8.1	1.1	－	4.6	口縁，外上方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。
1257	〃	〃	磁器 碗	灰白色 5Y7/1	灰白色 5Y7/2	灰白色 2.5Y7/1	7.8	4.5	－	3.1	ロクロ成形。畳付，釉ハギ。高台内，砂付着。外面，染付・圏線。ピンホール状。
1258	〃	SD7	須恵 捏鉢	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	－	(5.0)	－	－	東播系か。口縁，上下方へ拡張。下端部は三角形状。内外面とも回転ナデ。重ね焼き痕。煤。
図702 1260	11－2区	SE1	土質 杯	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	11.0	3.3	－	4.8	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。
1261	〃	〃	〃 〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	10.9	3.4	－	5.1	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。内面から内底面，ロクロ目。外底面，回転糸切り痕。被熱。煤。
1262	〃	〃	陶器 皿	灰褐色 7.5YR6/2	橙色 7.5YR6/6	橙色 5YR6/6	12.1	3.6	－	4.8	ロクロ成形。扁平な削り出し高台。腰部以下，無釉。見込み，目跡。
1263	〃	〃	〃 〃	灰白色 5Y7/1	灰黄色 2.5Y6/2	にぶい黄橙色 10YR6/4	14.2	2.6	－	4.0	ロクロ成形。口縁部，折縁状。扁平な削り出し高台。腰部以下，無釉。見込み，目跡。被熱により釉薬が溶解する。
1264	〃	〃	〃 〃	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	－	(2.2)	－	4.6	ロクロ成形。高台，無釉。見込み，目跡。
1265	〃	〃	須恵 壺	褐灰色 10YR6/1	黄灰色 2.5Y6/1	灰黄褐色 10YR6/2	9.8	(7.0)	－	－	内外面，回転ナデ。自然釉付着。脚か。
1266	〃	〃	土質 羽釜	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	－	(4.7)	－	－	口縁，内傾。口唇，面取り。口縁下に断面長方形の鍔を付す。内外面，ヨコナデ・ナデか。摩耗。
1267	〃	〃	〃 〃	暗赤褐色 5YR3/2	橙色 5YR6/6	褐灰色 5YR4/1	－	(4.0)	－	－	口縁，内傾。口唇，面取り。口縁下に鍔を付す。内外面，ヨコナデ。煤。
図705 1268	11－3区	〃	弥生 壺	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	14.6	(3.4)	－	－	口唇，面取り。口縁，ヨコナデ。頸部外面，タテハケ。内面，ヨコハケ。

図版番号	調査区	出土遺構	器種器形	色調			法量（cm）				特徴
				内面	外面	断面	口径	器高	胴径	底径	
図705 1269	11－3区	SE1	土質 皿	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	橙色 5YR6/8	8.8	1.8	－	5.2	口縁，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ。内底面，回転ナデ後ヘラミガキか。外底面，ナデ。
1270	〃	〃	〃 〃	橙色 2.5YR6/8	橙色 2.5YR6/8	橙色 5YR6/8	9.0	1.6	－	5.4	口縁，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ。切離し手法，不明。
1271	〃	〃	〃 〃	浅黄橙色 7.5YR8/6	浅黄橙色 7.5YR8/6	黄灰色 2.5Y6/1	16.0	1.5	－	13.4	口縁，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ。摩耗。
1272	〃	〃	土師 杯	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	橙色 5YR7/8	13.0	3.6	－	9.1	外面，回転ナデ後ヘラミガキ。内面，摩耗，調整不明瞭。外底面，回転ヘラ切り後ヘラミガキ。被熱。煤。
1273	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/8	13.6	(2.8)	－	－	体部，外上方へ立ち上がり，口縁端部内面，凹む。外面，回転ナデ後ヘラミガキ。内面，回転ナデ。やや摩耗。
1274	〃	〃	黒色 椀	暗灰色 N3/0	灰黄褐色 10YR5/2	褐灰色 10YR4/1	－	(1.2)	－	7.0	内黒。外底面に輪高台を付す。内底面，ヘラミガキ。外底面，ヘラミガキ。被熱。煤。
1275	〃	〃	炻器 壺	灰褐色 5YR4/2	にぶい褐色 7.5YR5/4	にぶい赤褐色 5YR5/3	－	(10.8)	14.5	－	内外面，回転ナデ。
1276	〃	〃	須恵 甕	灰色 N6/0	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	－	(4.4)	－	－	頸部外面，回転ナデ・ヘラナデか。内面，回転ナデ。体部外面，平行叩き。内面，当て具痕。
図707 1277	〃	SE2	土質 椀	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	14.6	4.9	－	5.8	円盤状高台。内外面，回転ナデ。外底面，回転糸切り痕。摩耗。被熱か。
1278	〃	〃	〃 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	16.8	4.8	－	5.8	浅い。外底面に断面方形の輪高台を付す。内外面，回転ナデか。外底面，回転糸切り痕か。摩耗。
図708 1279	〃	P214	〃 皿	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	15.2	1.4	－	12.4	内外面，回転ナデ。内底面，ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。
1280	11－2区	P125	土師 〃	橙色 5YR6/6	明赤褐色 2.5YR5/6	にぶい橙色 7.5YR7/4	－	(2.0)	－	16.4	盤か。外底面に輪高台を付す。高台，回転ナデ。高台端部を摘み出す。内外面，回転ナデ後ミガキ。
1281	11－3区	P201	土質 杯	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	11.8	2.6	－	7.4	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。
1282	11－2区	P8	土師 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	－	(3.2)	－	－	体部，外上方へ立ち上がり，口縁端部内面，凹む。内外面，回転ナデ。
1283	〃	P95	緑釉 皿	オリーブ灰色 2.5GY6/1	オリーブ灰色 2.5GY6/1	褐灰色 10YR6/1	－	(2.1)	－	－	須恵質。内外面，回転ナデ。
1284	11－1区	P148	炻器 壺	黄灰色 2.5Y5/1	灰色 5Y5/1	灰白色 2.5Y7/1	－	(5.1)	－	12.8	外面，回転ヘラケズリ。内面，ナデ。外底面，ナデ。
図709 1287	11－3区	包含層	土質 皿	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	13.8	1.2	－	11.4	口縁部外面，回転ナデ後ヘラミガキ。内面，回転ナデ。内底面，ヘラミガキ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。
1288	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	灰黄褐色 10YR6/2	17.7	1.2	－	15.2	口縁，斜め外方へ大きくひらく。内外面，回転ナデ後ヘラミガキ。切離し手法，不明。摩耗。
1289	〃	〃	土師 杯	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	12.6	(3.1)	－	7.1	内外面，回転ナデ後ヘラミガキ。外底面，回転ヘラ切り後ヘラミガキ。外底面に墨書あり。
1290	〃	〃	土質 〃	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	13.2	2.6	－	7.8	体部，斜め上方へ立ち上がる。外面，回転ナデ後ヘラミガキ。内面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。
1291	〃	〃	〃 〃	橙色 5YR7/6	橙色 7.5YR7/6	橙色 5YR7/6	－	(2.1)	－	7.5	体部，斜め上方へ立ち上がる。内外面，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り痕。摩耗。
1292	〃	〃	須恵 蓋	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	13.6	(2.0)	－	－	口縁端部，僅かに下垂。内外面，回転ナデ。天井部外面，ナデ。天井部内面，ナデ。
1293	〃	トレンチ	〃 杯	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	－	(2.6)	－	10.4	杯B。外底面に高台を貼付。体部，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ，ヘラケズリか。内底面，ナデ。
1294	〃	包含層	〃 〃	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	灰色 5Y6/1	－	(1.5)	－	10.6	杯B。外底面に断面方形の高台を貼付。体部，回転ナデ。外底面，回転ヘラ切り後ナデ。内底面，ナデ。
図716 1302	5区	ST8	弥生 壺	灰色 5Y4/1	橙色 5YR7/6	灰黄色 2.5Y6/2	－	(3.4)	－	－	体部：ナデ or ミガキ / ナデ。刻書あり。摩耗。

図版番号	調査区	出土遺構	器種	色調			法量（cm・g）				特徴
				内面	外面	断面	全長	全幅	全厚	重量	
図 12 33	4 区	ST2	支脚	にぶい褐色 7.5YR6/4	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	(6.3)	−	−	−	体部，中空。上端をひらき，受け部とする。外面，ハケ。内面，ハケ・ナデ。被熱。
図 22 139	〃	〃	〃	−	にぶい黄橙色 10YR7/4	灰黄褐色 10YR5/2	−	(5.6)	−	底径 7.6	指頭により成形。上げ底。被熱。
140	〃	〃	〃	灰黄褐色 10YR4/2	灰黄褐色 10YR4/2	にぶい黄褐色 10YR5/4	6.0	3.9	−	底径 7.5	器高の低いタイプ。指頭により成形。上げ底。上面，凹む。被熱。煤。
図 23 141	〃	ST7	土玉	−	橙色 7.5YR7/6	−	1.7	1.8	1.7	4	ナデ。直径 2mm の円孔。ほぼ完存。
図 80 202	〃	SB36	平瓦	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	(6.5)	(6.8)	2.0	−	P208 出土。凸面，摩耗，調整不明。凹面，布目圧痕。端部，ヘラナデか。
図 116 235	〃	SK31	土錘	褐灰色 7.5YR6/1	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい黄橙色 10YR6/4	3.7	2.2	−	9	管状土錘。寸胴な紡錘形の円筒形。両端，平坦面。断面形，扁円形。直径約 6㎜の円孔。ナデ。
図 118 237	〃	SK34	道具瓦	灰黄色 2.5Y6/2	灰黄色 2.5Y6/2	黒褐色 2.5Y3/1	(10.1)	10.0	2.4	−	両端，面取り。上面，ヘラナデ。下面は荒れる。ナデか。焼成不良。
図 122 248	〃	SK42	土錘	にぶい黄橙色 10YR6/4	にぶい黄橙色 10YR7/3	にぶい黄橙色 10YR7/3	(2.9)	1.5	1.4	(4)	管状土錘。円筒形。断面形，歪な円形。直径約 5㎜の円孔。ナデ。欠損。
図 131 261	〃	SD2	移動式カマド	灰褐色 7.5YR4/2	橙色 5YR6/6	橙色 5YR6/6	(5.5)	(6.6)	1.2	−	端部，面取り。外面，ヨコナデ・ナデ。内面，ヨコナデ・ナデ後ハケ。煤。
263	〃	〃	平瓦	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	淡黄色 2.5Y8/3	(8.9)	(5.7)	2.3	−	凸面，縄目痕。凹面，ナデか。焼成不良。被熱。摩耗。
図 149 321	〃	包含層	土錘	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 5YR7/6	灰色 N4/0	(4.2)	1.4	1.5	(5)	管状土錘。中位が僅かに膨らむ。断面形，円形。直径約 4㎜の円孔。両端から穿孔か。ナデ。両端，欠損。
322	〃	〃	〃	にぶい褐色 7.5YR6/3	にぶい橙色 7.5YR7/4	浅黄橙色 10YR8/3	(4.4)	1.9	1.8	(12)	管状土錘。中位が僅かに膨らむ。断面形，円形。直径約 6㎜の円孔。ナデ。端部，欠損。
323	〃	〃	丸瓦	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	(5.0)	(7.0)	1.6	−	凸面，ヘラナデ。凹面，布目圧痕・ナデ。胎土，精良。
324	〃	撹乱	平瓦	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR8/2	灰白色 10YR7/1	(5.8)	(6.5)	2.0	−	端部，面取り。凸面，縄目痕。凹面，布目圧痕，ハケか。被熱。煤。
325	〃	〃	〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	(6.0)	(6.6)	2.2	−	須恵質。凸面，縄目痕。凹面，布目圧痕・ナデ。
326	〃	〃	〃	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y5/1	(12.3)	(7.8)	1.9	−	側面，面取り。凸面，縄目痕。凹面，布目圧痕。
図 151 347	8 − 1 区	ST1	支脚か	明赤褐色 5YR5/6	橙色 5YR7/6	褐灰色 10YR6/1	−	(4.0)	−	底径 17.7	外面，タタキ後ナデ。内面，ヨコハケ。焼成前円孔。内面，帯状に煤付着。
図 168 424	8 − 2 区	ST10	紡錘車	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	オリーブ黒色 5Y3/1	5.6	5.4	1.3	26	孔径 6㎜。ナデ。中央にかけて厚く，端部はゆるく面取りされる。
図 195 448	8 − 1 区	SK1	平瓦	灰褐色 5YR5/2	灰褐色 5YR5/2	にぶい橙色 5YR6/3	(7.8)	(9.2)	2.5	−	凸面，縄目痕跡。凹面，ケズリ。切り離し痕。
図 200 465	〃	SK4	〃	黄灰色 2.5Y5/1	灰白色 2.5Y7/1	灰色 5Y6/1	(6.5)	(8.4)	1.8	−	キラ粉付着。銘あり。
図 222 505	8 − 2 区	SK28	軒丸瓦	−	灰白色 5Y7/1	灰色 5Y4/1	(6.8)	−	2.3	−	右巻三ツ巴。珠文 12 個。瓦当裏ナデ。
506	〃	〃	軒桟瓦	−	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y6/1	(3.1)	−	(1.2)	−	三子葉文，唐草文。銘あり。
図 224 508	〃	SK29	〃	灰色 N4/0	灰色 N4/0	灰白色 N7/0	(17.9)	−	2.0	−	三子葉文，唐草文。銘あり。
図 231 520	8 − 1 区	SD1	丸瓦	黄灰色 2.5Y6/1	黄灰色 2.5Y6/1	にぶい黄橙色 10YR7/2	(4.9)	(6.3)	−	−	凸面，切り離し痕。凹面，布目圧痕。近世。
図 238 557	〃	SE1	平瓦	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/1	(9.4)	(4.8)	2.1	−	凸面，縄叩き痕跡。凹面，布目圧痕。

図版番号	調査区	出土遺構	器種	色調			法量（cm・g）				特徴
				内面	外面	断面	全長	全幅	全厚	重量	
図246 596	8－1区	検出面	軒丸瓦	黄灰色 2.5Y5/1	黄灰色 2.5Y5/1	灰白色 5Y8/1	－	－	2.0	－	三ツ巴文。瓦当裏ナデ，ヘラによる面取り。キラ粉付着。
図272 605	9－1区	SB23	平瓦	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y8/2	灰白色 2.5Y7/1	(14.2)	(9.9)	1.7	－	P112出土。凸面，縄目痕，ナデ。凹面，布目圧痕，ナデ。端部，ヘラナデ。被熱。
図388 655	〃	SK30	土玉	－	浅黄橙色 7.5YR8/3	灰白色 10YR8/2	2.5	2.2	(2.1)	(8)	歪な球形。手捏ね成形。
図422 693	9－2区	SK71	羽口	橙色 5YR7/6	黒褐色 5YR2/1	にぶい赤褐色 5YR5/3	(3.6)	(4.0)	2.3	－	断面・表面に発泡がみられる。焼結する。
図443 707	9－3区	SK102	不明	橙色 5YR7/6	にぶい黄橙色 10YR7/4	橙色 5YR7/6	(6.3)	8.4	2.3	(92)	厚さ2.3cmの粘土板を僅かに湾曲させる。凹凸あり。一部，欠損。被熱。
図500 769	〃	SD41	土錘	－	橙色 2.5YR6/6	－	5.1	1.7	1.6	15	管状土錘。円筒形。両端面，平坦。断面形，不整円形。直径約5㎜の円孔。ナデ。被熱。完存。
図510 818	9－2区	P824	〃	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	にぶい橙色 7.5YR7/4	(2.4)	1.2	1.3	(3)	管状土錘。ナデ。直径約5㎜の円孔。両端，欠損。摩耗。
図516 877	〃	包含層	〃	浅黄橙色 7.5YR8/4	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 7.5YR8/4	(4.0)	1.2	1.2	(4)	管状土錘。僅かに紡錘形状を呈した円筒形。断面形，円形状。ナデ。直径約4㎜の円孔。上下で反対側が欠損。
878	9－1区	〃	〃	－	にぶい橙色 7.5YR7/4	橙色 7.5YR7/6	(4.6)	1.4	1.3	(6)	管状土錘。僅かに紡錘形状を呈した円筒形。断面形，円形状。ナデ。直径約5㎜の円孔。上下で反対側が欠損。
879	〃	〃	〃	－	赤橙色 10R6/6	赤橙色 10R6/6	(3.7)	1.6	1.5	(7)	管状土錘。紡錘形状。断面形，円形状。ナデ，僅かに凹凸あり。直径約5㎜の円孔。被熱。両端，欠損。
880	9－2区	〃	〃	－	橙色 5YR7/6	橙色 5YR7/6	(4.4)	1.5	1.4	(8)	管状土錘。僅かに紡錘形状を呈した円筒形。断面形，円形状。ナデか。直径約4㎜の円孔。端部，欠損。摩耗。
881	9－1区	〃	〃	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	浅黄橙色 10YR8/4	9.7	5.1	－	(108)	大型の管状土錘。僅かに紡錘形状を呈した円筒形。ナデ，指圧。縦方向で割れている。両端面，丸みを帯びる。
図524 924	10－3区	ST1	紡錘車	－	にぶい黄橙色 10YR7/2	にぶい黄橙色 10YR7/2	6.4	(4.8)	1.2	(18)	平面，円形。断面形，扁平な三角形。中央に直径約10㎜の円孔。手捏ね。黒斑。
図555 985	〃	SK14	不明	にぶい赤褐色 5YR5/4	にぶい橙色 7.5YR6/4	にぶい赤褐色 5YR5/4	(10.9)	8.4	3.8	－	平な部分の残る丸底。外底面，ナデ。下半部：叩き後ナデ／ナデ。上半部：ナデ／ナデ。キレツ。被熱。煤。
図585 1047	10－1区	SX11	人形	にぶい黄橙色 10YR7/3	橙色 7.5YR7/6	灰黄褐色 10YR5/2	－	－	－	－	型押成形。内面，ナデ・指圧。顔の部分。烏帽子，目，鼻が認められる。
図595 1076	〃	包含層	支脚	－	橙色 5YR6/6	にぶい褐色 7.5YR5/3	－	－	2.6	－	手捏ね。指圧。接合面で剥離。被熱。
図648 1138	11－2区	SK28	軒平瓦	灰色 N4/0	灰色 N4/0	黄灰色 2.5Y6/1	3.8	－	－	－	瓦当に「右」の陽刻。
図689 1221	〃	SD1	土錘	灰白色 2.5Y8/2	にぶい橙色 7.5YR7/4	灰白色 2.5Y8/2	(4.5)	1.4	1.5	(8)	管状土錘。円筒形。断面形，円形状。ナデか。直径約4㎜の円孔。一端，欠損。摩耗。
図693 1245	11－1区	SD4	丸瓦	灰色 N4/0	灰色 N4/0	灰黄褐色 10YR6/2	(16.5)	(10.0)	2.0	－	内外面，ヘラナデ。
図699 1259	〃	SD8	軒平瓦	灰黄色 2.5Y7/2	灰黄色 2.5Y7/2	黄灰色 2.5Y6/1	4.6	－	－	－	三花文の中心飾り。唐草文。摩耗。
図708 1285	11－2区	P106	土錘	褐灰色 10YR5/1	黒色 10YR1.7/1	灰白色 10YR8/2	(5.6)	1.3	1.3	(7)	管状土錘。両端は丸みを帯びる。直径約4㎜の円孔。ナデ。被熱。煤。一端は欠損。
図709 1295	11－3区	トレンチ	平瓦	浅黄橙色 10YR8/3	浅黄橙色 10YR8/3	灰白色 2.5Y8/2	(11.4)	(11.2)	2.0	－	側面，ヘラ状工具による面取り。凸面，縄目痕。凹面，布目圧痕。接合面で剥離。

遺物観察表　石製品

図版番号	調査区	出土遺構	器種	法　量（cm・g）				特　徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 12 37	4 区	ST2	叩石	8.7	8.2	3.6	349	礫岩製。扁平な河原石を利用。周縁を使用。
図 15 70	〃	ST3	砥石	(4.0)	2.6	1.7	(22)	泥岩。断面形は五角形を呈する。うち，1 面は溝状の使用痕がみられる。端面は未使用。欠損。
図 23 142	〃	ST7	石包丁	10.8	5.2	0.9	(89)	粘板岩製。磨製。片刃。両面からの穿孔の 2 穴あり。ほぼ完存。
図 108 227	〃	SK22	石臼	27.5	33.7	7.7	(5,958)	砂岩製。上臼。上面には供給口。側面には挽手孔。下面のスリ目は摩滅する。上縁は平滑となる。半分，欠損。
図 122 249	〃	SK42	石包丁	7.8	4.9	1.2	63	砂岩製。打製。片刃。両端に紐掛け用の弱い抉り。摩滅。完存。
図 149 327	〃	トレンチ	〃	7.9	4.3	0.6	36	頁岩製。打製。両刃。両面，主要剥離面を残す。両端に紐掛け用の弱い抉り。完存。
図 160 397	8 － 1 区	ST5	砥石	28.3	12.6	11.1	4,600	砂岩製。煤付着。
図 163 409	〃	ST7	叩石	10.2	10.1	3.3	501	砂岩製。扁平な不整円形の自然石。側面を主に使用する。敲打痕不明瞭。
図 199 462	〃	SK3	砥石	(10.9)	(4.7)	3.6	(273)	欠損あり。抉られるような使用痕。
図 208 469	〃	SK17	〃	(7.4)	(4.2)	3.6	(174)	欠損あり。切断痕。
図 216 481	8 － 2 区	SK25	〃	(6.7)	6.0	(0.8)	(30)	砂岩製。
図 246 597	8 － 1 区	攪乱	〃	(7.3)	(4.1)	1.3	(40)	砂岩製。両面とも砥石として使用。
図 408 684	9 － 2 区	SK52	〃	(4.8)	3.8	3.1	(82)	流紋岩製。直方体。4 側面，使用。使用頻度に差がある。被熱。欠損。
図 430 699	9 － 3 区	SK82	石包丁	(6.6)	3.7	1.0	(32)	頁岩製。打製。両面とも主要剥離面を残す。ステップ剥離。紐掛け用の抉り，摩滅あり。折損。
図 471 728	9 － 1 区	SD17	石斧	7.4	5.1	1.3	(106)	蛇紋岩製。扁平片刃石斧。刃部にむけて僅かにひろがる。基部は僅かに丸みを持つ。ほぼ完存。
図 507 795	9 － 2 区	SE2	台石	(34.4)	(22.5)	13.7	(11.0kg)	砂岩製。不整形の河原石を利用。ほぼ中央に使用により約 2cm凹み，その周囲を中心に使用痕あり。被熱。煤。欠損。
図 510 817	9 － 1 区	P246	砥石	(6.1)	(5.0)	1.5	(82)	砂岩製。扁平な直方体。小口は成形のため平滑となる。上面を主に使用し，光沢を帯びる。側面も使用。本来は四角柱で割れたか。
図 516 882	〃	包含層	叩石	10.4	8.2	2.5	320	砂岩製。扁平な円礫。長辺側の側縁に敲打痕。一側面は明瞭，他側縁は弱い。被熱。完存。
図 518 887	立会	表採	石臼	(17.0)	(18.0)	8.5	(3,272)	砂岩製。粉挽臼の上臼。上縁面，平滑。くぼみ，加工痕。廃棄後の敲打痕か。供給口，あり。臼目は使用により平滑となる。側面，凹凸あり。
888	〃	〃	五輪塔	25.7	15.2	－	7,200	砂岩製。空風輪。頂部はやや長くのびる。空輪の側面は 2 箇所に傾斜変換点を持つ。風輪の側面は扁平な円柱状。底面，枘。シャープなつくり。
図 519 889	〃	〃	〃	(18.2)	13.1	(11.0)	(3,208)	礫岩製。空風輪。頂部，欠損。空輪の側面は 2 箇所に傾斜変換点を持つ。風輪の側面は扁平な円柱状。底面，枘。
890	〃	〃	〃	19.0	14.6	13.1	(4,892)	砂岩製。空風輪。頂部は三角錐状。側面は直線的。底面，枘。ほぼ完存。
891	〃	〃	〃	19.5	16.7	－	(5,600)	砂岩製。空風輪。頂部は三角錐状。側面は直線的。底面，枘。
図 524 930	10 － 3 区	ST1	台石か	21.7	(13.6)	6.4	(2,344)	砂岩製。明瞭な使用痕はみられない。欠損する。故意か。被熱。煤。
図 550 981	10 － 2 区	SK11	石臼	27.2	(14.7)	5.5	(2,726)	砂岩製。粉挽き臼の上臼。供給口，溝。挽き木孔，芯棒受けがみられる。5 ～ 7 条 1 単位の臼目。被熱。約半部が欠損。

図版番号	調査区	出土遺構	器種	法　量（cm・g）				特　徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図563 992	10 － 1区	SK101	砥石	(3.3)	(3.3)	(3.5)	(50)	泥岩製。3面，欠損。砥石の破片。
図587 1051	〃	SX11	〃	(5.7)	5.5	4.3	(220)	流紋岩製。直方体。断面，正方形に近い。側面3面を使用。使いこまれる。被熱。欠損。
1052	〃	〃	石臼	(17.4)	(9.1)	(12.5)	(2,904)	砂岩製。茶臼の上臼。孔，挽き木孔。10条1単位の臼目，8分割か。被熱。周縁を故意に破損か。
1053	〃	〃	〃	(18.1)	(12.7)	(5.1)	(1,562)	砂岩製。粉挽き臼の下臼の破片。芯棒孔。6条以上1単位の臼目。被熱か。
図588 1054	〃	〃	〃	(17.0)	(11.6)	(8.8)	(1,826)	砂岩製。粉挽き臼の上臼の破片。臼目は幅5㎜とやや太い。被熱。
1055	〃	〃	〃	(13.5)	(10.1)	(8.8)	(1,647)	砂岩製。粉挽き臼の上臼の破片。供給口。臼目は幅5㎜とやや太い。被熱。
図597 1099	11 － 2区	ST1	叩石	8.8	4.4	1.9	113	砂岩製。扁平な長楕円形の礫。短辺側，長辺側に敲打痕。被熱。完存。
1100	〃	〃	〃	12.2	9.0	3.6	627	砂岩製。扁平な楕円形の礫。両面の中央部，短辺側，長辺側に敲打痕。完存。
図631 1109	〃	SK9	石臼	(20.8)	(9.7)	(9.5)	(1,388)	砂岩製。茶臼の下臼。煤。被熱。
1110	〃	〃	〃	(19.4)		12.9	(4,051)	砂岩製。茶臼の上臼。芯棒孔，挽き木孔。10条1単位の臼目，8分割か。臼目は使用により摩滅する。被熱。周縁を故意に破損か。
図648 1139	〃	SK28	砥石	(6.6)	3.9	3.4	(145)	流紋岩製。直方体。断面，正方形に近い。側面3面を使用。小口は製作時の痕跡がみられる。欠損。
図690 1222	〃	SD1	叩石	11.9	8.2	4.9	663	砂岩製。扁平な河原石を利用。周縁を激しく使用。完存。
1223	〃	〃	砥石	(14.1)	(5.8)	(9.1)	(896)	砂岩製。大型品。1面以外は欠損。被熱。煤。
1224	〃	〃	〃	(12.4)	10.2	(6.0)	(1,044)	砂岩製。断面，多角形。各面によって使用痕は異なる。深い線状痕跡がみられる面，使用により光沢を帯び，断面が蒲鉾状を呈する面がある。
1225	〃	〃	五輪塔	23.3	23.3	16.9	(13.6kg)	砂岩製。水輪。下部に最大径部を持つ。上下面とも僅かに凹む。全体的に加工痕跡がみられる。ほぼ完存。
1226	〃	〃	〃	21.2	(16.4)	14.8	(6,400)	花崗製。水輪。上部に最大径部を持つ。上面を大きく凹ませ，壁は平滑となる。下面は凹む。
図693 1246	11 － 1区	SD4	砥石	(6.6)	(5.0)	(0.9)	(44)	流紋岩製。扁平。1面のみ使用。側面には加工痕がみられる。裏面は破損後未使用。
図697 1255	〃	SD6B	〃	(6.8)	5.3	1.8	(91)	砂岩製。扁平。3面のみ使用。欠損する。

遺物観察表　木製品

図版番号	調査区	出土遺構	器種	法　量（cm）			特　徴
				全長	全幅	全厚	
図 508 796	9 － 2 区	SE2	井筒	（28.8）	（43.5）	3.0	樹種はクスノキ。本来は一木をくり抜いて製作されたと推測される。節が抜けたような痕跡が多数，みられる。明瞭な加工痕跡はみられない。
図 590 1063	10 － 1 区	SX11	底板	13.2	13.5	1.1	スギ科スギ属スギ。3 個のパーツを組み合わせる。各パーツの側面に楔を 2 箇所打ち込み接合する。
1064	〃	〃	〃	15.6	（11.2）	0.7	ヒノキ科ヒノキ属。1 枚の板材から作る。周縁を面取りする。表面に刃物が当たった痕跡か。
1065	〃	〃	〃	（12.2）	（3.7）	0.8	ヒノキ科ヒノキ属。周縁を面取りか。
図 591 1066	〃	〃	側板	13.7	6.7	1.3	スギ科スギ属スギ。上端幅 6.7cm，下端幅 6.0cm。内面下部を削る。
1067	〃	〃	〃	13.8	6.6	0.8	スギ科スギ属スギ。上端幅 6.6cm，下端幅 5.8cm。内面下部を削る。また，内面下部，帯状に凹む。
1068	〃	〃	〃	14.2	5.2	1.1	スギ科スギ属スギ。上端幅 5.2cm，下端幅 4.5cm。外面，縦方向の加工痕跡がみられる。内面上部を削る。内面下部に帯状の凹みがみられる。また，内面下端に帯状の変色部分がみられる。
1069	〃	〃	〃	14.1	5.0	1.1	スギ科スギ属スギ。上端幅 5.0cm，下端幅 4.5cm。内面上部を削る。内面下部に帯状の凹みがみられる。
1070	〃	〃	〃	14.0	5.9	0.7	スギ科スギ属スギ。上端幅 5.9cm，下端幅 5.0cm。内面下部を削る。
1071	〃	〃	〃	14.1	（5.1）	1.0	スギ科スギ属スギ。下端幅 4.7cm。内面上部及び下部を削る。外面に 2 列，帯状に器面が荒れる部分がある。タガの痕跡か。上端の一部，欠損する。

図版番号	調査区	出土遺構	器種	法　量（cm・g）				特　徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 15 71	4 区	ST3	鉇	(4.1)	1.2	0.2	(5)	先端部・基部，欠損。断面，扁平な長方形。
図 17 95	〃	ST4	鉄鏃	(4.8)	2.6	0.4	(13)	鏃身の平面，縦長の五角形。断面，扁平。歪む。茎部，欠損。
96	〃	〃	〃	3.2	1.7	0.3	3	無茎鏃。断面，扁平な長方形。完存。
図 27 175	〃	ST9	〃	(3.9)	2.3	0.2	(4)	圭頭式。左右非対称。鏃身から基部まで同じ厚さ。基部の端部，欠損。ほぼ完存。
図 72 194	〃	SB32	〃	(3.5)	(1.3)	(0.6)	(3)	P151 出土。鉄鏃か。
図 114 234	〃	SK29	刀子	(5.8)	1.7	0.2	7	羽子板形。両端，欠損。身部の断面，扁平な長方形。茎部の断面，長方形。
図 149 328	〃	包含層	鉇	3.8	1.1	1.5	6	両端，欠損。縦断面，クランク状。
329	〃	〃	〃	(4.5)	1.1	0.3	(6)	先端部・基部，欠損。先端部に向かって反る。断面，扁平な長方形。
330	〃	〃	煙管	(3.7)	1.2	1.2	(5)	煙管の吸口。長軸方向の継ぎ目あり。両端，欠損。
図 166 422	8 － 2 区	ST9	鉄鏃	(5.0)	(2.5)	0.4	(8)	圭頭式か。
図 509 797	9 － 2 区	SE2	刀子	5.3	1.8	0.6	8	先端に向かって厚さもうすく，幅も狭くなっていく。断面，扁平な長方形。
図 516 883	9 － 1 区	包含層	不明	(8.9)	0.8	0.2	(9)	断面長方形の棒状のものの両端を同じ方向に折り曲げる。
884	9 － 2 区	〃	鉇	(5.9)	1.1	0.2	(8)	刀子か。両端，欠損。断面，長方形。
885	〃	〃	刀子	(5.5)	(1.0)	0.5	(8)	両端，欠損。断面，三角形状。
886	9 － 1 区	〃	不明	(5.3)	(1.5)	(0.3)	(9)	刀子か。両端・下端，欠損。錆膨れ。断面形は本来，扁平な長方形か。
図 532 970	10 － 3 区	ST5	鉄鏃	(4.8)	2.0	0.6	(8)	圭頭式。左右対称。鏃身部の断面，扁平な菱形。茎部は基部に向かって幅が狭くなる。断面，方形。基部の先端，欠損。ほぼ完存。
971	〃	〃	鋤先	5.8	2.4	1.1	9	穂積具か。短辺を折り曲げる。先端（刃先）に向かって厚みを減じる。
図 656 1147	11 － 3 区	SK34	釘	4.7	1.0	0.2	1	頭部，不明瞭。体部の断面，長方形。木質，付着。僅かに曲がる。完存。
1148	〃	〃	〃	4.8	1.4	0.4	2	頭部，不明瞭。体部の断面，正方形。木質，付着。鍔状。先端部，曲がる。完存。
1149	〃	〃	釘	(3.5)	1.7	0.4	(2)	頭部の形状，不明。体部の断面，正方形。木質，付着。鍔状。先端部，やや曲がるか。先端部，欠損。
1150	〃	〃	〃	(4.6)	1.2	0.4	(2)	錆ぶくれのため，形状等不明瞭。木質，付着。先端部，大きく曲がるか。先端部，欠損。
図 658 1152	〃	SK35	煙管	(4.5)	火皿径 1.5	－	3	雁首。火皿，半球形。火皿と脂返しの境を補強する。断面は円形，湾曲部分は楕円形。
1153	〃	〃	釘	(5.4)	1.0	0.5	(3)	錆ぶくれのため，頭部の形状等不明瞭。木質，付着。完存か。
1154	〃	〃	〃	(5.7)	1.0	0.5	(3)	頭部，「T」の字形。体部の断面，長方形。木質，付着。鍔状。完存か。
1155	〃	〃	〃	(5.3)	1.3	0.7	(2)	木質に全体が覆われているため形状等不明。完存か。

図版番号	調査区	出土遺構	器種	法　量（cm・g）				特　徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 658 1156	11 － 3 区	SK35	釘	(3.8)	1.6	0.7	(2)	頭部，不明瞭。体部の断面，長方形か。木質，付着。先端部，欠損。
図 668 1166	11 － 1 区	SK43	煙管	(6.3)	火皿径 1.4	－	6	雁首。火皿，逆台形状。火皿に向かって僅かに細くなる。断面は円形，湾曲部分は楕円形。ラウ側は欠損する。
1167	〃	〃	〃	(4.7)	－	－	1	吸口。銅板の継ぎ目が見られる。ラウ側は欠損する。
1168	〃	〃	釘	3.3	0.9	0.4	1	長面は平坦。僅かに錆ぶくれ。身部分の錆の付着は少ない。木質，付着か。頭部付近で僅かに曲がる。完存。
1169	〃	〃	〃	3.6	0.9	0.5	1	頭部は僅かに肥厚。僅かに錆ぶくれ。体部の断面，概ね方形。僅かに曲がる。完存。
1170	〃	〃	〃	4.1	0.9	0.4	1	頭部，不明瞭。体部の断面，正方形。木質，付着。鍔状。先端部は僅かに曲がる。完存。
1171	〃	〃	〃	(4.0)	1.2	0.4	(2)	頭部，不明瞭。体部の断面，正方形。木質，付着。鍔状。先端部，欠損か。
1172	〃	〃	〃	4.6	0.7	0.4	1	頭部，「L」の字状。体部の断面，正方形。木質，付着か。鍔状か。完存。
1173	〃	〃	〃	(3.6)	0.8	0.3	(1)	頭部，「L」の字状か。頂面は平坦。体部の断面，正方形。先端部，欠損。
1174	〃	〃	〃	(3.6)	0.6	0.3	(1)	頭部，「T」の字状。体部の断面，長方形から正方形。錆ぶくれ。僅かに曲がる。先端部，欠損。
1175	〃	〃	〃	6.3	0.8	0.4	3	頭部，「T」の字状。頂面，長方形。錆ぶくれ。木質，付着。完存。
1176	〃	〃	〃	6.4	0.8	0.4	3	頭部，不明瞭。頂面，平坦。錆ぶくれ。木質，付着か。完存。
1177	〃	〃	〃	8.0	1.1	0.4	4	頭部，「T」の字状。体部の断面，多角形。錆ぶくれ。先端部，鋭く尖る。完存。
1178	〃	〃	〃	(5.2)	0.7	0.4	(3)	頭部，錆ぶくれのため形状等不明瞭。木質，付着。先端部，欠損。
1179	〃	〃	〃	(4.7)	0.7	0.5	(3)	頭部，錆ぶくれのため形状等不明瞭。体部の断面，長方形か。木質，付着か。先端部，欠損。
1180	〃	〃	〃	5.0	0.7	0.3	1	頭部，「T」の字状。頂面，長方形，平坦。体部の断面，正方形。錆ぶくれ。僅かに蛇行。完存。
1181	〃	〃	〃	(5.3)	0.7	0.4	(2)	頭部，「T」の字状。頂面，長方形。体部の断面，正方形。木質，付着。僅かに曲がる。先端部，欠損。
1182	〃	〃	〃	5.7	1.0	0.4	2	頭部，「L」の字状か。頂面は長方形か。錆ぶくれ。木質，付着。鍔状。完存。
1183	〃	〃	〃	(3.7)	0.8	0.3	(1)	錆ぶくれ。体部の断面，長方形から正方形。先端部，欠損。
1184	〃	〃	〃	4.3	0.7	0.4	1	頭部，「T」の字状。頂面，長方形。僅かに曲がる。完存。
1185	〃	〃	〃	(4.4)	0.8	0.3	(2)	頭部，「T」の字状か。鍔状。体部の断面，長方形から正方形。先端部，欠損。
1186	〃	〃	〃	(4.5)	0.8	0.3	(1)	頭部，「T」の字状か。頂面，長方形。木質，付着。鍔状。先端部，欠損。
1187	〃	〃	〃	(4.6)	0.8	0.4	(2)	頭部，「T」の字状か。木質，付着か。体部の断面，正方形。先端部，欠損。
1188	〃	〃	〃	(4.7)	0.8	0.4	(2)	頭部，「T」の字状。頂面，長方形。鍔状。体部の断面，正方形。ほぼ完存。
図 679 1198	〃	SK47	刀子	(28.1)	2.8	0.6	(153)	木質が残る，鞘か。目釘穴は茎の中央に穿つ。孔径，5㎜× 4㎜。切先，欠損。

図版番号	調査区	出土遺構	器種	法　量（cm・g）				特　徴
				全長	全幅	全厚	重量	
図 690 1227	11 － 2 区	SD1	鉈	(3.5)	1.0	0.3	(1)	先端部・基部，欠損。先端部，反る。断面，扁平な長方形。

図版番号	調査区	出土遺構	銭種	枚数	外縁外径（㎜）		外縁内径（㎜）		内郭外径（㎜）		内郭内径（㎜）		外縁厚（㎜）	
					タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	タテ	ヨコ
図 149 331	4 区	撹乱	寛永通寶	1	24.28	24.06	20.23	19.72	7.17	7.14	5.39	5.13	1.75	1.68
332	〃	〃	不　明	1	－	23.12	－	17.87	－	8.28	－	6.00	1.25	1.75
図 197 452	8 － 1 区	SK2	寛永通寶	1	－	－	－	－	－	9.32	－	6.81	－	0.90
図 246 598	〃	検出面	〃	1	23.38	23.09	19.61	19.60	8.42	7.90	6.98	6.76	0.97	0.94
図 309 620	9 － 1 区	SB51 P472	嘉定通寶か 景定通寶	1	－	－	－	－	－	－	6.96	－	－	－
図 589 1056	10 － 1 区	SX11	皇宋通寶	1	25.23	24.55	20.55	20.67	9.10	7.99	7.16	6.67	1.15	1.11
1057	〃	〃	寛永通寶	1	24.50	24.39	19.91	19.67	7.70	7.70	5.56	5.67	1.19	1.38
1058	〃	〃	〃	1	24.43	24.53	19.65	19.43	7.96	7.44	5.63	5.65	1.03	1.11
1059	〃	〃	〃	1	24.54	24.57	19.53	19.56	7.60	7.50	5.22	5.88	1.28	1.48
1060	〃	〃	〃	1	24.51	24.28	19.82	20.11	8.59	7.65	6.15	6.15	1.14	1.11
1061	〃	〃	不　明	1	25.32	24.96	－	－	8.25	8.91	6.01	5.66	1.24	1.21
1062	〃	〃	寛永通寶	1	－	－	－	18.87	－	8.37	4.88	6.24	－	1.34
図 595 1087	〃	表採	一銭硬貨	1	22.9	23.0	－	－	－	－	－	－	1.3	
図 638 1112	11 － 2 区	SK20	寛永通寶	1	24.18	23.93	－	20.02	－	7.54	5.68	5.63	1.09	2.03
図 656 1151	11 － 3 区	SK34	〃	1	24.75	24.53	19.75	20.59	7.76	7.55	5.59	5.53	1.33	1.34
図 658 1157	〃	SK35	〃	6	25.34	25.19	19.73	20.47	8.29	7.65	6.10	5.51	－	－
図 661 1158	〃	SK38	不　明	6	24.54	24.53	16.67	17.68	9.23	9.13	5.09	5.09	－	－
図 668 1189	11 － 1 区	SK43	〃	6	24.25	24.57	18.65	18.49	9.91	9.36	6.10	5.77	－	－
図 693 1247	〃	SD4	寛永通寶	1	－	－	19.51	19.33	8.07	8.34	6.09	6.10	1.58	1.49
図 708 1286	11 － 3 区	P203	〃	6	24.12	24.70	18.26	18.81	10.03	10.08	6.23	6.01	－	－
図 709 1296	11 － 1 区	包含層	不　明	3	24.15	24.00	18.03	18.91	8.62	8.61	5.48	5.68	－	－
1297	〃	〃	寛永通寶	1	23.78	23.88	19.37	19.15	7.90	8.73	5.53	6.03	1.16	1.17
1298	〃	〃	〃	1	24.26	24.15	18.97	18.98	8.06	8.07	5.65	6.18	1.37	1.29
1299	〃	〃	〃	1	23.17	23.13	18.93	19.14	8.85	8.17	5.94	5.84	1.27	1.18
1300	〃	〃	〃	1	25.43	25.04	20.84	20.24	8.50	7.43	5.70	5.45	1.32	1.34
1301	11 － 3 区	表採	〃	1	25.22	25.15	20.42	19.54	8.17	7.57	5.87	5.86	1.19	1.21

若宮ノ東遺跡出土の緑釉陶器・灰釉陶器集成

調査区	遺構番号	器種・器形	部位	備考
1区	SB1_SK150	緑釉陶器・皿	体部～底部	Ⅰ_363
〃	SK33	緑釉陶器	口縁部	
〃	SK66	緑釉陶器	口縁部	
〃	SK118	緑釉陶器	口縁部	
〃	SK140	緑釉陶器	口縁部	
〃	SD5	緑釉陶器	口縁部	
〃	P367	緑釉陶器	体部	
2区	包含層	緑釉陶器・皿	体部～底部	Ⅰ_846
〃	包含層	緑釉陶器・椀	体部～底部	Ⅰ_847
〃	SK19	緑釉陶器	体部	
〃	包含層	緑釉陶器	体部	
〃	包含層	緑釉陶器	底部	
〃	包含層	緑釉陶器	口縁部	
〃	ST25	緑釉陶器	体部	
〃	包含層	緑釉陶器	体部	
〃	撹乱	緑釉陶器	体部	
3区	P15	緑釉陶器・椀	口縁部～底部	Ⅰ_963
〃	包含層	緑釉陶器・皿	体部～底部	Ⅰ_990
〃	P591	緑釉陶器	体部	
〃	P627	緑釉陶器	口縁部	
〃	包含層	緑釉陶器	底部	
〃	包含層	緑釉陶器	不明	
〃	包含層	緑釉陶器	口縁部	
4区	ST1	緑釉陶器	底部	Ⅲ_24
〃	SK42	緑釉陶器・皿	口縁部～底部	Ⅲ_247
5区	検出面	緑釉陶器	底部	Ⅱ_710
6区	包含層	緑釉陶器	体部	
7区	SB38_P678	灰釉陶器	体部	Ⅱ_1422
〃	SK32	緑釉陶器・耳皿	口縁部～底部	Ⅱ_1615
〃	包含層	緑釉陶器	口縁部	Ⅱ_1902
〃	包含層	緑釉陶器	口縁部	Ⅱ_1903
〃	包含層	緑釉陶器	体部～底部	Ⅱ_1904
〃	包含層	灰釉陶器	体部	Ⅱ_1905
〃	包含層	緑釉陶器	底部	
〃	包含層	緑釉陶器	底部	
〃	包含層	緑釉陶器	体部	
8区	SD1	緑釉陶器	底部	Ⅲ_518
〃	表採	緑釉陶器	底部	Ⅲ_588
9区	包含層	緑釉陶器	体部	
〃	撹乱	緑釉陶器	体部	

写真図版

4区　空中写真(北東より)

4区　空中写真(南西より)

図版２

４区　遺構完掘状況（東より）

４区　遺構検出状況（東より）

４区　空中写真（北より）

４区　遺構検出状況（南より）

図版４

４区　遺構完掘状況（南より）

４区　調査前風景（東より）

４区　調査区北壁断面（南西より）

４区　調査区北壁断面（南西より）

図版6

4区　ST1　完掘状況(垂直)

4区　ST1　床面検出状況(西より)

4区　ST1　断面(西より)

4区　ST1　断面(南より)

4区　ST1_中央P　断面(西より)

4区　ST1　遺物(18)出土状態(東より)

4区　ST2　完掘状況(南より)

図版8

4区　ST2　断面(南より)

4区　ST2　遺物(28・29)出土状態(南東より)

4区　ST2　遺物(35)出土状態(南西より)

4区　ST2　焼土検出状況(南東より)

4区　ST2　焼土断面(南西より)

４区　ST3　完掘状況（垂直）

４区　ST3　完掘状況（東より）

図版10

4区　ST3　断面(西より)

4区　ST3　断面(西より)

4区　ST3　断面(南より)

4区　ST3　断面(南より)

4区　ST3　断面(南より)

4区　ST3　遺物(45)出土状態(南西より)

4区　ST3　遺物(59)出土状態(南西より)

4区　ST3　遺物(60)出土状態(南西より)

4区　ST3　遺物(65)出土状態(北東より)

4区　ST4　完掘状況(北東より)

図版12

4区　ST4　断面(西より)

4区　ST4_ 中央 P　断面(西より)

4区　ST4_P5　遺物(77)出土状態(西より)

4区　ST4　遺物(86)出土状態(北東より)

4区　ST5　完掘状況(垂直)

4区　ST7　完掘状況(垂直)

4区　ST7　断面(西より)

4区　ST7　断面(東より)

4区　ST7　断面(南より)

4区　ST7_SK1　断面(東より)

図版14

4区　ST7　遺物(126)出土状態(北より)

4区　ST7　遺物(116)出土状態(北より)

4区　ST7　遺物(136)出土状態(北より)

4区　ST7　遺物(142)出土状態(北より)

4区　ST7　焼土検出状態(北西より)

4区　ST8　完掘状況(東より)

4区　ST8　断面(南西より)

図版16

4区　ST9　完掘状況(垂直)

4区　ST9　断面(北より)

4区　ST9　断面(西より)

4区　ST9　断面(東より)

4区　ST9　断面(南東より)

4区　ST9　遺物(162・163・166・171)出土状態(北東より)

4区　ST9_ 中央Ｐ　断面(東より)

4区　ST9　遺物(173)出土状態(北より)

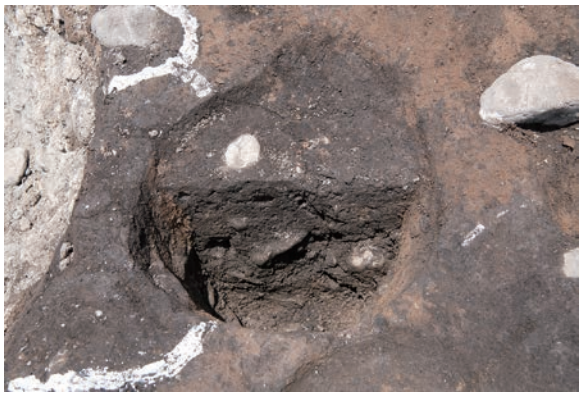
4区　ST9　赤色顔料検出状態(東より)

4区　ST9_SK2　遺物(174)出土状態(北より)

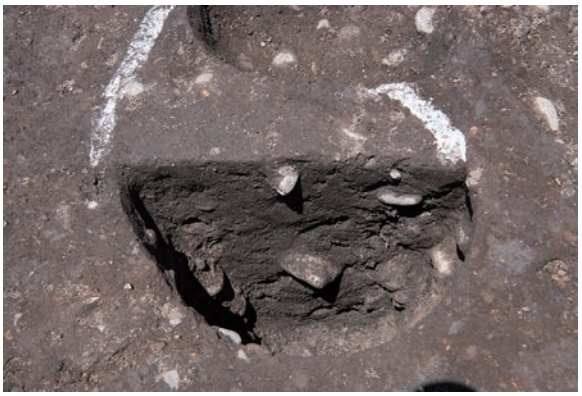
図版18

4区　ST10　完掘状況(垂直)

4区　ST10　断面(北より)



4区　SB6_P277　断面(東より)



4区　SB8_P371　断面(東より)

4区　SB13_P321　断面(東より)

4区　SB13_P322　断面(東より)

4区　SB14_P320　断面(東より)

4区　SB16_P323　断面(北より)

4区　SB23_P2　柱痕跡検出状況(北より)

4区　SB23_P9　柱痕跡検出状況(北より)

図版20

4区　SB23　完掘状況(西より)

4区　SB23　柱痕跡検出状況(北より)

4区　SB28　完掘状況（東より）

4区　SB28_P167　断面（西より）

4区　SB28_P168　断面（西より）

4区　SB29_P133　断面（南より）

4区　SB36_P209　断面（西より）

図版22

4区　SK1　検出状況(北より)

4区　SK1　断面(南より)

4区　SK3　完掘状況(北西より)

4区　SK3　断面(北より)

図版24

4区　SK21　完掘状況(北より)

4区　SK21　断面(南西より)

4区　SK27　礫出土状態(北西より)

4区　SK42　遺物(247)出土状態(北より)

図版26

4区　SG1　土器棺(250)完掘状態(南より)

4区　SG1　断面(南より)

4区　SG2　土器棺(251)完掘状態(西より)

4区　SG2　断面(南より)

図版28

4区　SD9　完掘状況（北より）

4区　SE1　断面（東より）

4区　P147　遺物(281)出土状態(東より)

4区　P222　遺物(274)出土状態(西より)

4区　P222　遺物(277)出土状態(西より)

4区　P294　礫出土状態(南より)

4区　P295　断面(北より)

4区　P329　断面(北より)

4区　P352　断面(北より)

4区　P396　断面(南東より)

図版30

8－1区　空中写真(北東より)

8－2区　空中写真(西より)

8－1区　遺構検出状況（東より）

8－1区　遺構完掘状況（東より）

図版32

8－1区　空中写真(垂直)

8－2区　遺構検出状況(東より)

8－2区　空中写真(垂直)

8－2区　調査前風景(南西より)

図版34

8－1区　調査区南壁断面(北より)

8－1区　調査区南壁断面(北東より)

8－1区　ST1　完掘状況(垂直)

8－1区　ST1　断面(北より)

図版36

8－1区　ST3　完掘状況(垂直)

8－1区　ST3　断面(南東より)

8－1区　ST5・6　完掘状況(北より)

8－1区　ST5　床面検出状況(北東より)

8－1区　ST5　遺物出土状態(北より)

8－1区　ST5　遺物(368･373)出土状態(北東より)

8－1区　ST5　遺物(374･375)出土状態(南西より)

8－1区　ST5　遺物(380･381)出土状態(南西より)

8－1区　ST5　遺物(387)出土状態(北東より)

8－1区　ST5　断面(南より)

8－1区　ST6　断面(東より)

図版40

8－1区　ST7　完掘状況(東より)

8－1区　ST7　遺物(401)出土状態(東より)

8－2区　ST9　完掘状況(北より)

8－2区　ST9　断面(東より)

図版42

8－2区　ST10　完掘状況(北より)

8－2区　ST10　断面(東より)

8－2区　ST10　遺物(424)出土状態(北より)

8－2区　ST12　完掘状況(南より)

図版44

8－2区　ST13　完掘状況(南より)

8－2区　ST13　遺物(440)出土状態(南より)

8－2区　ST13　遺物(441 ～ 443)出土状態(南より)

8－2区　ST13_P1　断面(南より)

8－2区　SB5_P148　断面(東より)

8－1区　SB11_P63　断面(東より)

8－1区　SK3・4　完掘状況(北より)

8－1区　SK3　断面(西より)

8－1区　SK4　断面(西より)

8－2区　SK21　完掘状況(東より)

8－2区　SK21　断面(北より)

図版48

8－2区　SK22　断面(南より)

8－2区　SK23　断面(南より)

8－2区　SK24　完掘状況(東より)

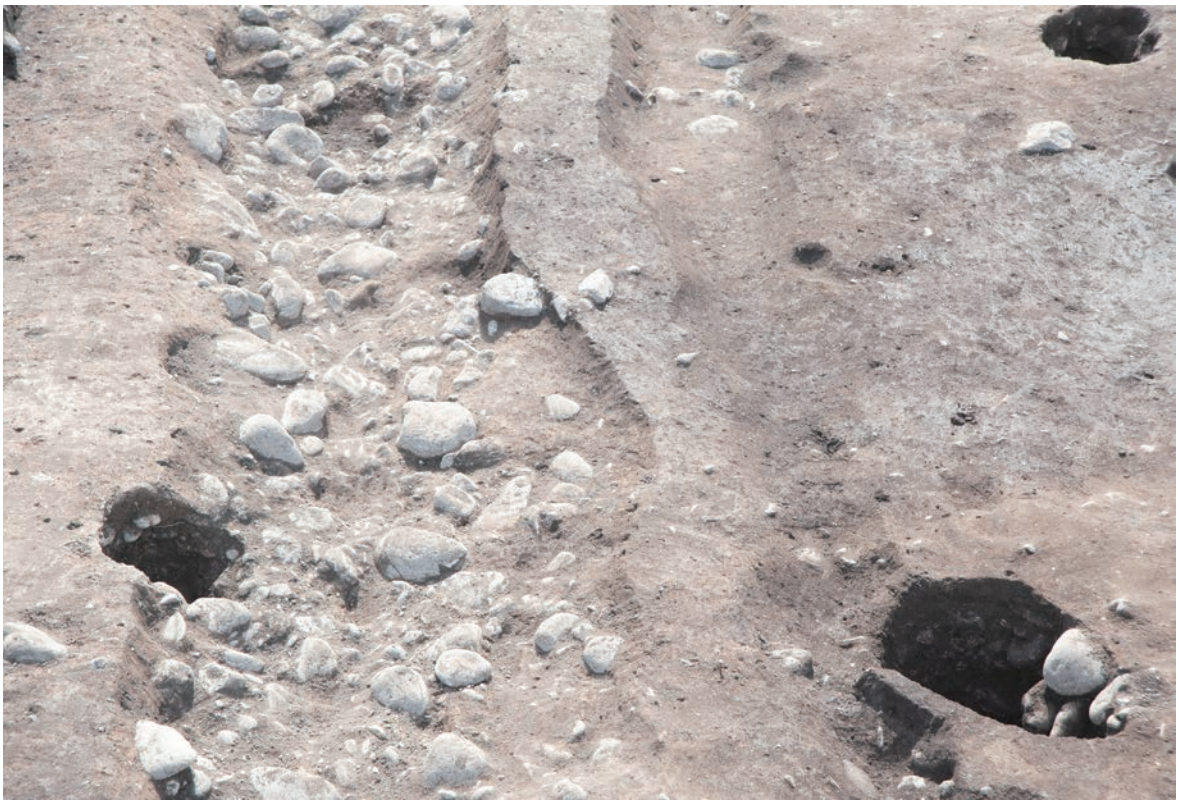
8－2区　SK24　断面(東より)

8－2区　SK25　遺物(473)出土状態(北より)

8－2区　SK26　断面(南より)

8－2区　SK27　断面(南より)

8－2区　SK28　断面(東より)



8－1区　SD1・2　完掘状況(北より)

8－1区　SE1　完掘状況(南東より)

8－1区　SE1　断面(北西より)

図版52

8－2区　SX2　石組検出状態(北より)

8－2区　SX2　断面(西より)

8－1区　柱穴列完掘状況（北より）

8－1区　柱穴列完掘状況（東より）

図版54

9－1区　空中写真(南東より)

9－1区　空中写真(東より)

9－1区　遺構完掘状況(西より)

9－1区　空中写真(垂直)

図版56

9－1区　遺構検出状況(西より)

9－2区　空中写真(北より)

9－2区　空中写真(垂直)

9－3区・10－1区　空中写真(垂直)

図版58

9－3区　遺構検出状況(東より)

9－3区　遺構完掘状況(東より)

9－2区　調査前風景(南西より)

9－1区　調査区北壁断面(南西より)

図版60

9－2区　調査区北壁断面(南より)

9－3区　調査区西壁断面(東より)

9－1区　SB14_P118　遺物(559 ～ 602)出土状態(北西より)

9－1区　SB28_P213　断面(南西より)

9－1区　SB28_P318　遺物(607)出土状態(北より)

9－1区　SB30_P349　遺物(610)出土状態(北より)

9－3区　SB83_P912　断面(北より)

図版62

9－1区　SK9　完掘状況(北東より)

9－1区　SK9　断面(西より)

9－1区　SK10　完掘状況(南東より)

9－1区　SK10　断面(南より)

9－1区　SK12　断面(東より)

9－1区　SK13　完掘状況(北より)

9－1区　SK14　礫出土状態(北より)

9－1区　SK15　礫出土状態(北より)

9－1区　SK22　断面(東より)

9－1区　SK23　完掘状況(北より)

9－1区　SK26　遺物(651)出土状態(北より)

9－1区　SK27　断面(東より)

9－1区　SK29　石積検出状態(東より)

9－1区　SK29　石積検出状態(南東より)

9－1区　SK29　石積検出状態(南より)

9－1区　SK29　断面(東より)

9－1区　SK29　断面(北より)

図版66

9－1区　SK33，SD25　完掘状況(垂直)

9－1区　SK33　遺物(663～667)出土状態(東より)

9－1区　SK33　遺物(663 ～ 667)出土状態(南東より)

9－1区　SK33　断面(南より)

9－1区　SK34　完掘状況(南より)

9－1区　SK36・43　完掘状況(西より)

9－1区　SK36　礫出土状態(南より)

9－1区　SK36　断面(南より)

図版70

9－1区　SK37　完掘状況(南より)

9－1区　SK37　断面(北より)

9－1区　SK38　完掘状況(西より)

9－1区　SK38　礫出土状態(南より)

図版72

9－1区　SK41　検出状況(南より)

9－1区　SK41　断面(南より)

9－1区　SK43　完掘状況(西より)

9－1区　SK43　断面(南より)

9－1区　SK45　完掘状況(西より)

9－1区　SK45　断面(北東より)

9－2区　SK51　完掘状況(西より)

9－2区　SK51　断面(西より)

9－2区　SK51　断面(南より)

9－2区　SK51　完掘状況(西より)

9－2区　SK52　完掘状況(北西より)

9－2区　SK52　断面(西より)

9－2区　SK52　断面(南より)

9－2区　SK52　完掘状況(西より)

9－2区　SK53　完掘状況(西より)

9－2区　SK53　断面(西より)

9－2区　SK53　断面(南より)

9－2区　SK61　遺物(686・687)出土状態

9－3区　SK81　完掘状況(北より)

9－3区　SK81　断面(北より)

9－3区　SK84　完掘状況(北より)

9－3区　SK85　断面(南より)

9－3区　SK86　断面(西より)

9－3区　SK87　断面(西より)

9－3区　SK95　遺物(703)出土状態(北東より)

9－3区　SK96　完掘状況(北東より)

9－3区　SK98　完掘状況(北より)

9－3区　SK98　礫出土状態(南より)

9－3区　SK98　断面(西より)

9－3区　SK103　断面(東より)

9－3区　SG1　土器棺(708)完掘状態(東より)

9－3区　SG1　土器棺(708)完掘状態(西より)

9－3区　SG1　検出状況(北より)

図版78

9－3区　SG1　断面(北より)

9－3区　SG1　断面(北より)

9－1区　SD2　断面(南より)

9－1区　SD4　断面(南西より)

9－1区　SD8　断面 a-a'（西より）

9－1区　SD9　断面(南より)

9－1区　SD11　断面(西より)

9－1区　SD15　断面(南西より)

9－1区　SD16・17　断面 a - a'（南より）

9－1区　SD16・17　断面 b - b'（南より）

9－1区　SD17　礫出土状態(南より)

9－1区　SD18　断面(南より)

9－1区　SD19　断面(西より)

9－1区　SD22・23　断面(西より)

9－2区　SD40　断面(北より)

9－2区　SD32　完掘状況(北より)

9－2区　SD32　断面(南より)

9－3区　SD41，SK100断面(東より)

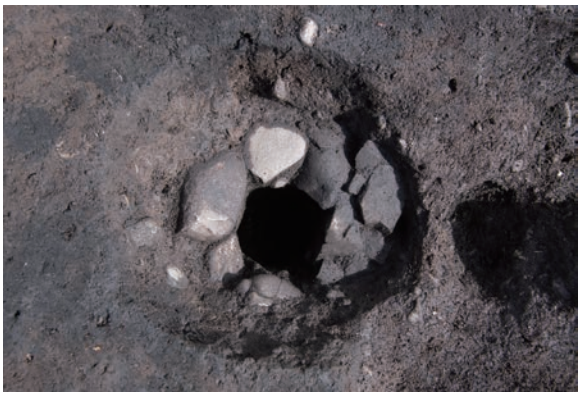
9－3区　SD41　中央バンク断面(西より)

9－3区　SD41　東バンク断面(東より)

9－2区　SE2　完掘状況(北東より)

9－2区　SE2　断面(南より)

9－1区　P323　遺物出土状態(北より)



9－1区　P435　礫出土状態(南より)

9－1区　P448　礫出土状態

9－1区　P607　遺物(801)出土状態(南より)

9－2区　P672　遺物(809)出土状態(北より)

9－2区　P723　根石出土状態(北より)

9－2区　P740　礫出土状態(北より)

9－2区　P861　遺物(802)出土状態

9－2区　包含層　遺物(821)出土状態

9－2区　包含層　遺物(826)出土状態

9－1区　包含層　遺物(829)出土状態

9－2区　包含層　遺物(831)出土状態

9－2区　包含層　遺物(833)出土状態

9－2区　包含層　遺物出土状態

9－2区　包含層　遺物出土状態

9－2区　包含層　遺物出土状態

10－1区　遺構検出状況（東より）

10－1区　遺構完掘状況（東より）

図版86

10－2区　遺構検出状況(北より)

10－2区　遺構完掘状況(北より)

10－3区　空中写真(垂直)

10－3区　遺構検出状況(西より)

図版88

10－3区　調査前風景(西より)

10－1区　調査区南壁断面(北西より)

10－2区　調査区南壁断面（北より）

10－3区　調査区北壁断面（南東より）

10－3区　ST1　完掘状況(南東より)

10－3区　ST1　断面(南西より)

10－3区　ST1　断面(北東より)

10－3区　ST1_SK1　断面(北西より)

10－3区　ST1_P2　断面(北西より)

10－3区　ST1　遺物(896・897・899・900・902・904・905・916・918)出土状態(北東より)

10－3区　ST1　遺物(898・901・904・906)出土状態(南東より)

10－3区　ST1　遺物(903・908・921・923)出土状態(北西より)

10－3区　ST1　遺物(910・912・919・930)出土状態(北より)

10－3区　ST2　完掘状況(北より)

10－3区　ST4　完掘状況(北西より)

図版94

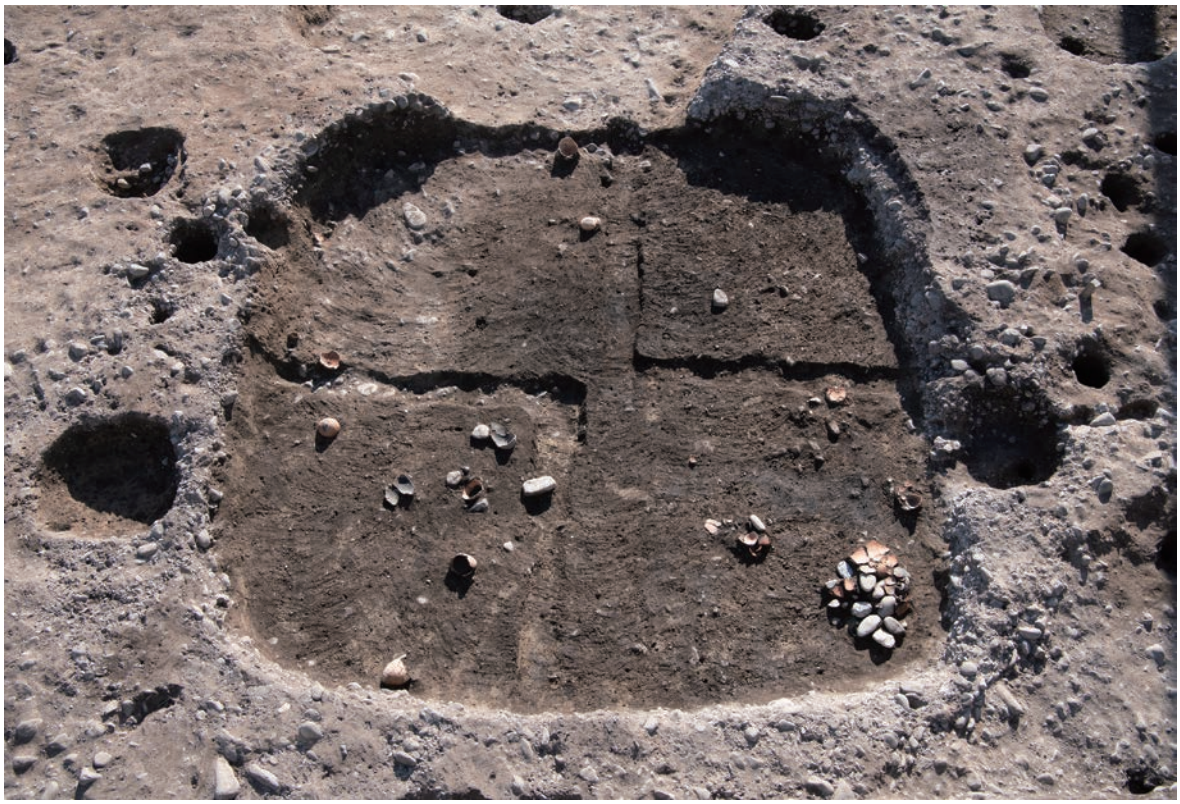
10－3区　ST5　完掘状況(北より)

10－3区　ST5　断面(北東より)

10－3区　ST5　断面(南東より)

10－3区　ST5　断面(南西より)

10－3区　ST5　断面(北西より)



10－3区　ST5　遺物(941 ～ 945・947・949・951・952・955・957 ～ 959・961・966)出土状態(北より)

10－3区　ST5　遺物(970)出土状態(北西より)

図版96

10－2区　ST11　完掘状況(北より)

10－2区　ST11　床面検出状況(南より)

10－1区　SB2　完掘状況(東より)

10－1区　SB2_P102　完掘状況(北より)

10－2区　SB3_P7　断面(北より)

10－3区　SB5_P20　断面(東より)

10－3区　SB5_P26　断面(東より)

10－3区　SB6_P44　遺物(976)出土状態(北より)

10－3区　SB6_P44　断面(北より)

10－2区　SK11　完掘状況(北西より)

10－3区　SK13　完掘状況(北より)

10－2区　SK5　断面(南より)

10－2区　SK10　断面(東より)

10－3区　SK13　断面(南より)

10－1区　SK101　断面(北より)

10－1区　SK103　遺物(993・998・1001)出土状態(北より)

10－1区　SD11 ～ 13　完掘状況(北東より)

10－1区　SD11，SK104　断面(東より)

10－1区　SE11・SX11　完掘状況(東より)

10－1区　SE11・SX11　完掘状況(北より)

10－1区　SX11　断面(北東より)

10－1区　P101　遺物(1072・1073)出土状態(北東より)

図版104

11－2区　空中写真(南東より)

11－3区　空中写真(南より)

11－1区　空中写真(垂直)

11－1区　遺構検出状況(東より)

11－2区　空中写真(垂直)

11－2区　遺構検出状況(東より)

11－2区　遺構検出状況（南より）

11－2区　遺構完掘状況（南より）

図版108

11－3区　下層遺構検出状況(南より)

11－3区　遺構完掘状況(南より)

11－1区　調査前風景(北東より)

11－2区　調査前風景(南東より)

図版110

11－1区　調査区南壁断面(北より)

11－3区　調査区南壁断面(北より)

11－2区　ST1　完掘状況(北より)

11－2区　ST1　床面検出状況(北より)

図版112

11－2区　ST1　断面(東より)

11－2区　ST1_中央P2　断面(南より)

11－2区　ST1　遺物・焼土出土状態(北より)

11－2区　ST1　遺物(1089)出土状態(西より)

11－2区　ST1　遺物(1094)出土状態(西より)

11－2区　ST1_ 中央 P1　断面(西より)

11－2区　ST1_ 中央 P1　遺物出土状態(東より)

図版114

11－3区　ST11　完掘状況(北より)

11－3区　ST11　断面(西より)

11－2区　SB8_P51　柱痕跡検出状況(東より)

11－2区　SB8_P51　断面(西より)

11－2区　SB8_P86　断面(南より)

11－2区　SB8_P91　断面(西より)

11－2区　SA4_P41　遺物出土状態(東より)

11－2区　SK9　遺物(1110)出土状態(西より)

11－2区　SK1　完掘状況(北より)

11－2区　SK1　断面(西より)

11－3区　SK34 ～ 36・38　遺構完掘状況(北より)

11－3区　SK34　完掘状況(北より)

11－3区　SK34　遺物(1145・1146)出土状態(南より)

11－3区　SK35　完掘状況(北より)

図版118

11－3区　SK36　完掘状況(北より)

11－3区　SK38　完掘状況(北より)

11－1区　SK42・43　完掘状況(北より)

11－1区　SK42　断面(北より)

11－1区　SK42　遺物(1161 ～ 1163)出土状態(北より)

11－1区　SK43　遺物(1166・1167・1178・1181・1189)出土状態(北より)

11－1区　SK43　遺物(1165)出土状態(北より)

11－1区　SK44・45　完掘状況(北より)

11－1区　SK44　遺物(1191・1192)出土状態(北より)

11－1区　SK45　断面(北より)

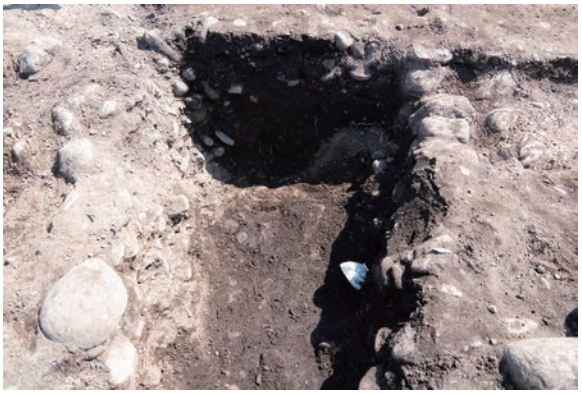
11－1区　SK47　遺物(1198)出土状態(北より)

11－1区　SK48，SD8～10　断面(東より)

11－1区　SK52　遺物(1201 ～ 1203)出土状態(北より)

11－1区　SD4　東バンク断面(西より)

11－1区　SD4　西バンク断面(西より)



11－1区　SD4　遺物(1234)出土状態(西より)

11－1区　SD7　断面(東より)

11－1区　SD4　石積検出状況(北西より)

11－1区　SD4　石積検出状況(北東より)

11－2区　SD1　完掘状況(南東より)

11－2区　SD1　断面 i-j（南より）

11－2区　SD1　断面 k-l（北より）

11－2区　SD1　礫出土状態(南東より)

11－2区 SD1 遺物(1225･1226)出土状態(北東より)

331
332
1056
1057
1112
1158

331
332
1056
1057
1112
1158

図版128

1296
1297
1298
1299
寛永通寶
1300
寛永通寶
1301

1296
1297
1298
1299
1300
1301

1147

1148

1149

1150

1063

1063

1064

1064

図版130

1066

1067

1068

1069

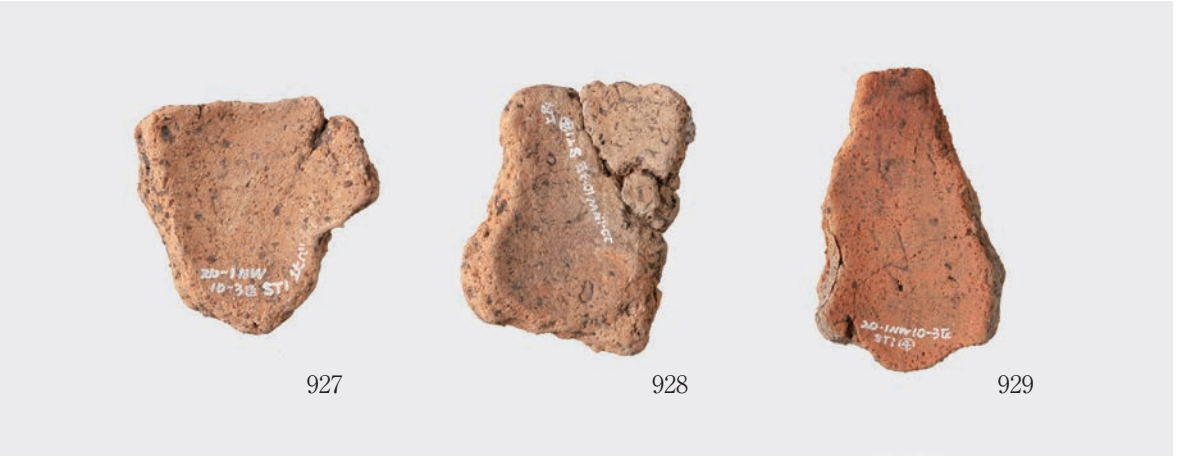
1070

1071

1152
1157
1153
1154
1155

1168
1169
1171
1172
1173
1174
1178
1179
1180
1181
1182
1184
1185
1186
1187

図版132



38

370

888

890

図版134

893

899

944

985

28

34

36

48

59

76

図版136

86

105

136

136

173

191

237

237

247

247

277

277

図版138

279

298

365

371

424

480

493

537

683

697

708

795

図版140

796

796

824

824

887

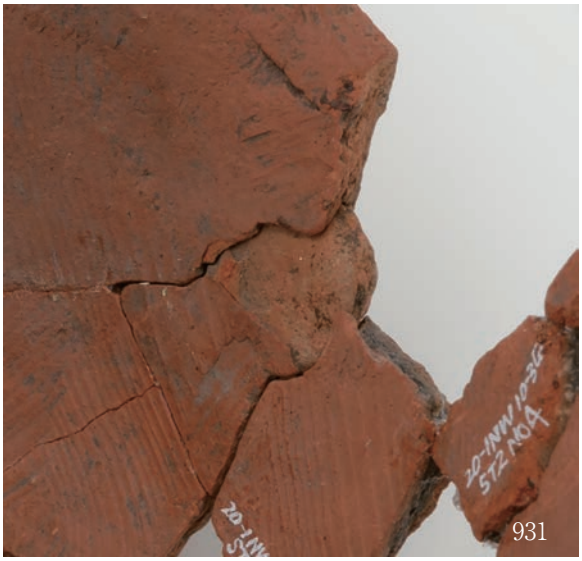
889

891

895

920

924


931

943

図版142

961

998

997

997

1012

1047

1055

1055

1052

1072

1054

1073

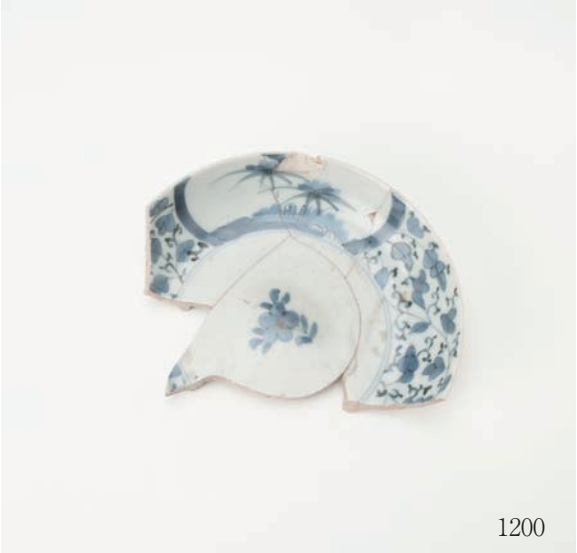
図版144

1109

1109

1110

1129



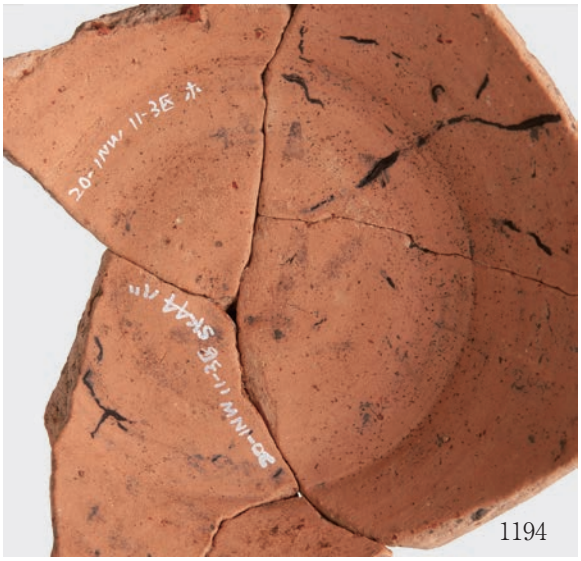
1200

1200

1130

1137

1194



1194

1195

1225

図版146

1242

1243

1289

1302

1295

1295

18

32

34

37

58

109

125

141

図版148

142

174

249

273

383

462

509

512

518

529

588

618

667

684

707

728

図版150

754

767

801

802

829

831

863

923

950

952

953

954

955

957

958

959

図版152

981

981

972

1041

1050

1051

1053

1081

1097

1108

1119

1120

1139

1189

1198

図版154

1222

1223

1224

1239

1253

1262

1263

鉄滓

21

23

90

127

264

274

600

601

610

646

図版156

662

663

664

665

666

687

752

799

820

822

946

948

993

1023

1033

1145

1146

1161

1162

1165

図版158

1191

1196

1201

1202

1203

1215

1237

1251

1289

1291

報告書抄録

ふりがな	わかみやのひがしいせきさん
書名	若宮ノ東遺跡Ⅲ
副書名	都市計画道路高知南国線建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅲ
シリーズ名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	第161集
編著者名	久家隆芳，綾部侑真，下木千佳，株式会社パレオラボ
編集機関	(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
所在地	高知県南国市篠原1437－1
発行年月日	2025年1月16日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
わかみやのひがしいせき 若宮ノ東遺跡	〒783-0006 こうちけん 高知県 なんこくし 南国市 しのはら 篠原	39204	040181	33° 57′ 59″	133° 63′ 23″	2018.9.25 ～ 2018.11.22 2019.5.7 ～ 2019.11.20 2020.5.7 ～ 2020.12.18	5,612㎡	記録保存調査

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
若宮ノ東遺跡	集落跡	弥生時代 古代 中世 近世	竪穴建物跡 31棟 掘立柱建物跡 160棟 柵列跡 32条 土坑 290基 土器棺墓 3基 溝跡 90条 井戸跡 9基 性格不明遺構 ピット	弥生土器 土製品 石製品 鉄製品 土師器 須恵器 緑釉陶器 瓦器 瓦質土器 土師質土器 青磁 陶磁器	弥生時代の集落跡，古代の官衙関連遺構，中世後期～近世の溝で囲まれた屋敷群，土坑墓等を検出した。

要約

弥生時代後期後半～古墳時代初頭にかけての大規模集落跡，飛鳥時代～平安時代にかけての官衙関連遺構，中世前期の屋敷跡群，中世後期の溝で囲まれた屋敷群，近世の土坑墓・ハンダ土坑を検出している。以上のように若宮ノ東遺跡は長期間にわたり当地域における拠点的な位置を保持している。

本書は，平成30年度・令和元年度・令和2年度にかけて調査を実施した調査成果である。

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第161集

若宮ノ東遺跡Ⅲ

都市計画道路高知南国線建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅲ

2025年1月16日

発行　(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
高知県南国市篠原1437－1
Tel. 088－864－0671

印刷　川北印刷株式会社

付図１　若宮ノ東遺跡　4・8～11区遺構平面図(S=1/200)

9−1区

9−1区

9−2区

11−1区

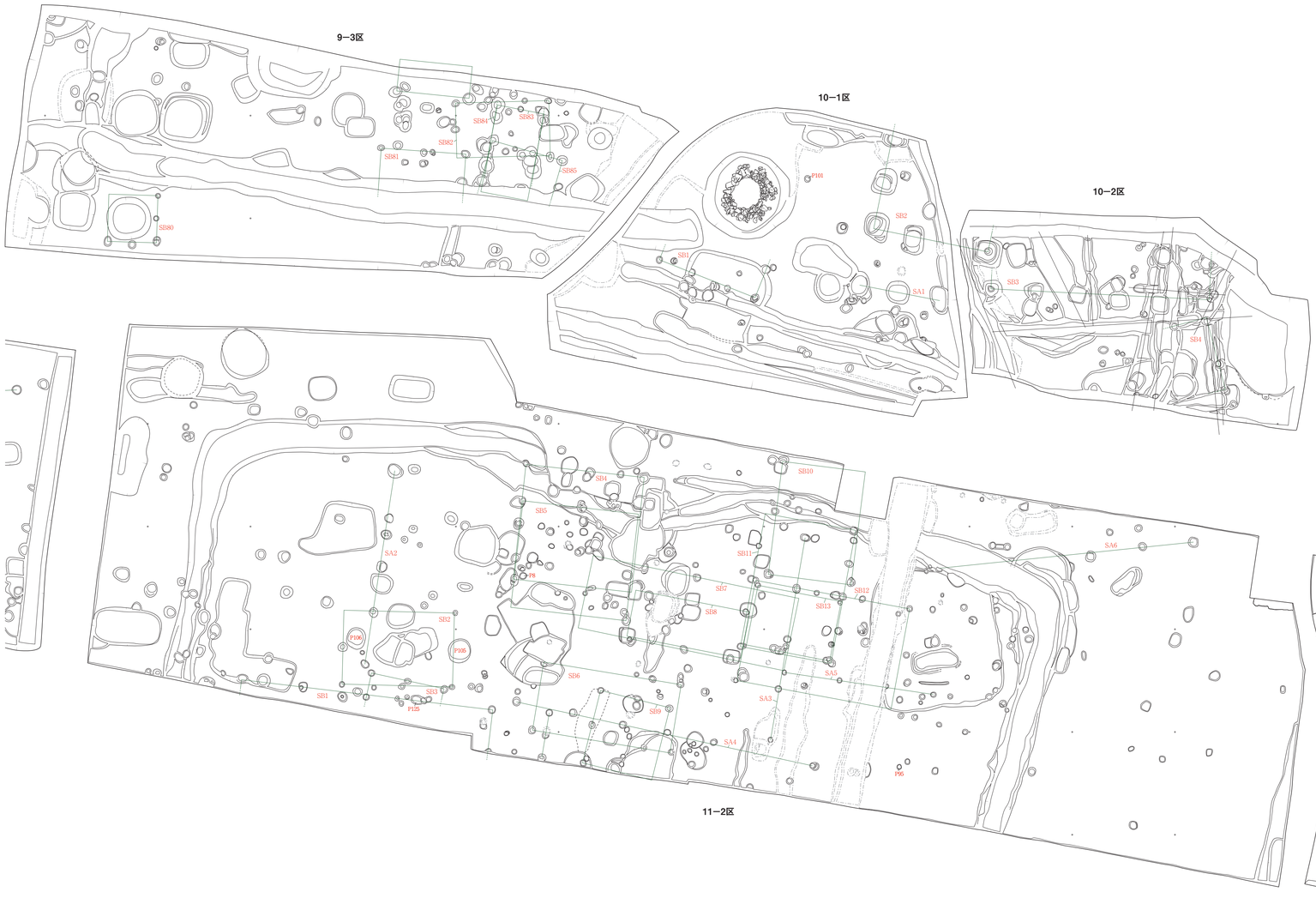
立会部

9−1区
9−2区
10−1区
10−2区
9−3区
10−3区
11−1区
11−2区
11−3区
4区
8−2区
8−1区
2本棒

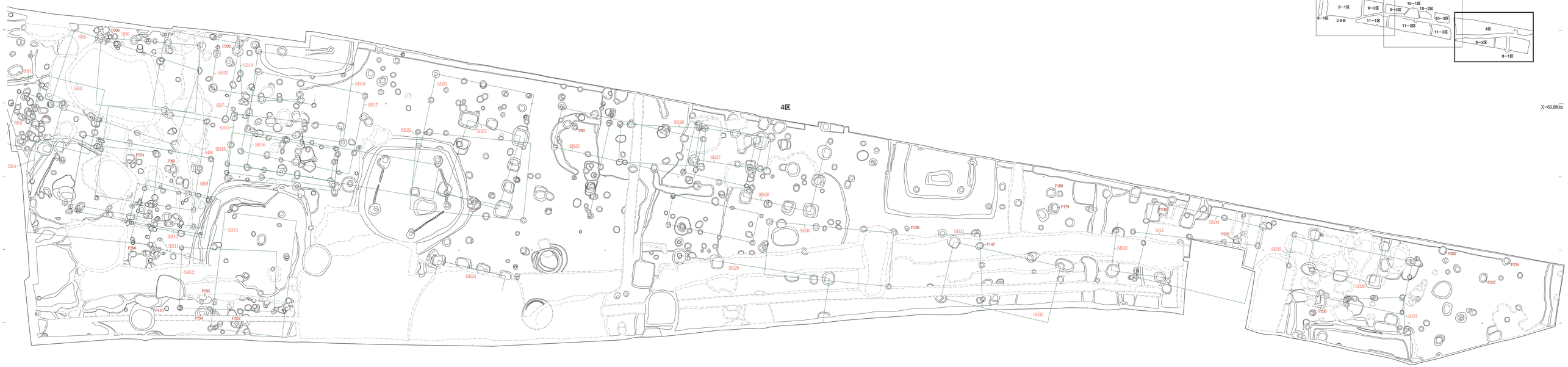
X=63,900m
X=63,880

Y=12,180m
Y=12,200
Y=12,220
Y=12,240

付図２　若宮ノ東遺跡　4・8～11区遺構平面図①(S=1/100)



付図３　若宮ノ東遺跡　4・8～11区遺構平面図②(S=1/100)



付図 4　若宮ノ東遺跡　4・8～11区遺構平面図③(S=1/100)

9−1区

9−1区

9−2区

9−3区

10−1区

10−2区

10−3区

11−1区

11−2区

11−3区

4区

8−2区

8−1区

8−1区

立会部

Y=12,160m

Y=12,180

Y=12,200

Y=12,220

Y=12,240

Y=12,260

Y=12,280

Y=12,300

Y=12,320m

Y=12,340

Y=12,360

Y=12,380

X=63,880m

X=63,860m

X=63,840

付図 5　若宮ノ東遺跡　4・8～11区上層遺構平面図(S=1/200)

付図 6　若宮ノ東遺跡　4・8～11区SB・SA遺構平面図①(S=1/300)

N－04°～06°－E
(N－86°～84°－W)

N－07°～08°－E ①
(N－83°～81°－W)

N－07°～08°－E ②
(N－83°～81°－W)

付図 7　若宮ノ東遺跡　4・8～11区SB・SA遺構平面図②(S=1/300)

N－09°～10°－E
(N－81°～80°－W)

N－11°～13°－E
(N－79°～77°－W)

N－14°～22°－E
(N－76°～68°－W)

付図 8　若宮ノ東遺跡　4・8～11区SB・SA遺構平面図③(S=1/300)